熊本県文化財調査報告第 305 集

花岡木崎遺跡

南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

March.2014
熊本県教育委員会

▼花岡木崎遺跡遠景

▲航空写真

▼航空写真

▲1区調査区全景

▼2区調査区全景

▲3 区調査区全景

▼4 区調査区全景

▲5 区調査区全景

▼6 区調査区全景

▲7区調査区全景

▼9区調査区全景

▲7区　SE35　井戸検出状況
▼7区　SE35　木簡検出状況

▼　木簡（保存処理後）表

▼　木簡（保存処理後）裏

▲7区　SE35　出土土器（墨書）
▼7区　SE35　出土土器（墨書）

▲箆書土器

▼7区　SB1　出土石器

▲7区　SB75　出土土器
▼9区　SB151　出土土器

▲9区　SB1591　出土土器

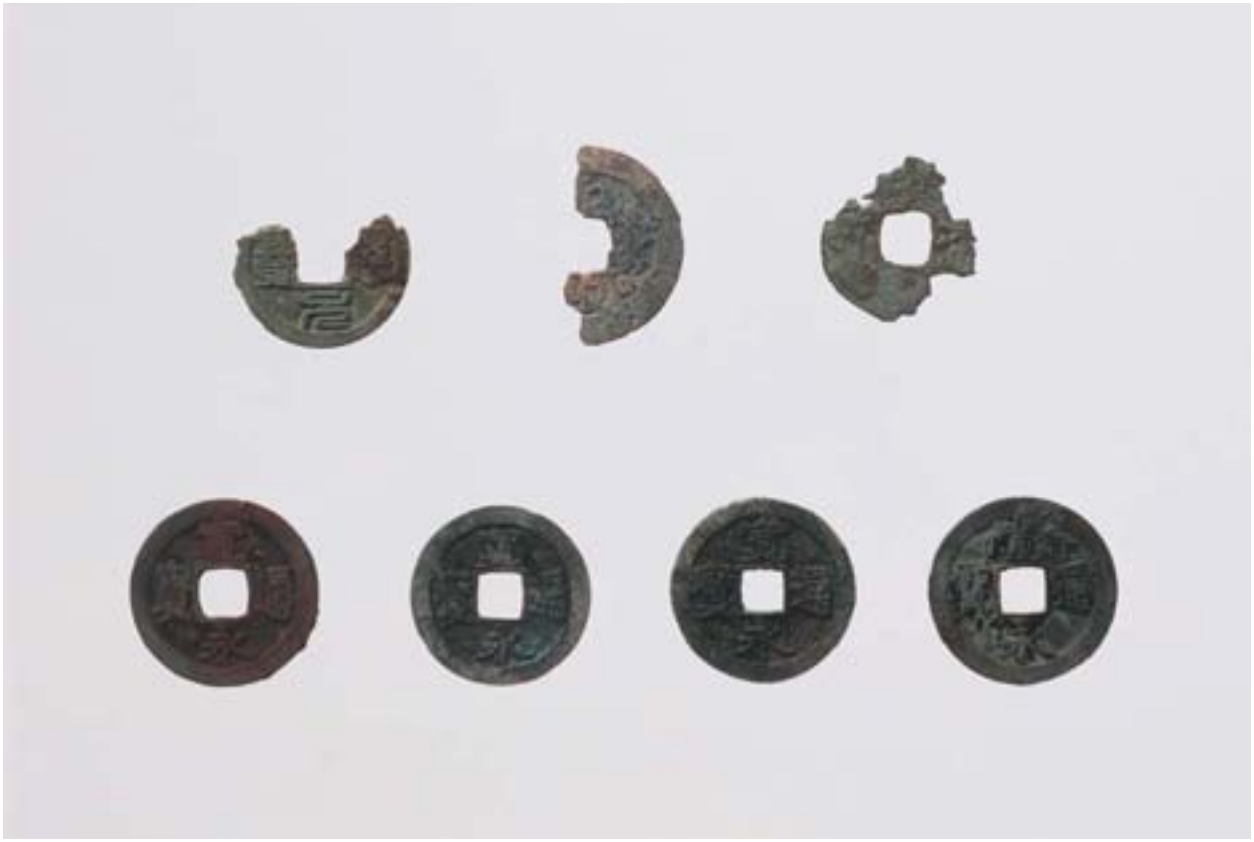
▼製塩土器

▲鉄器 -1

▼鉄器 -2

▲古銭 -1

▼古銭 -2



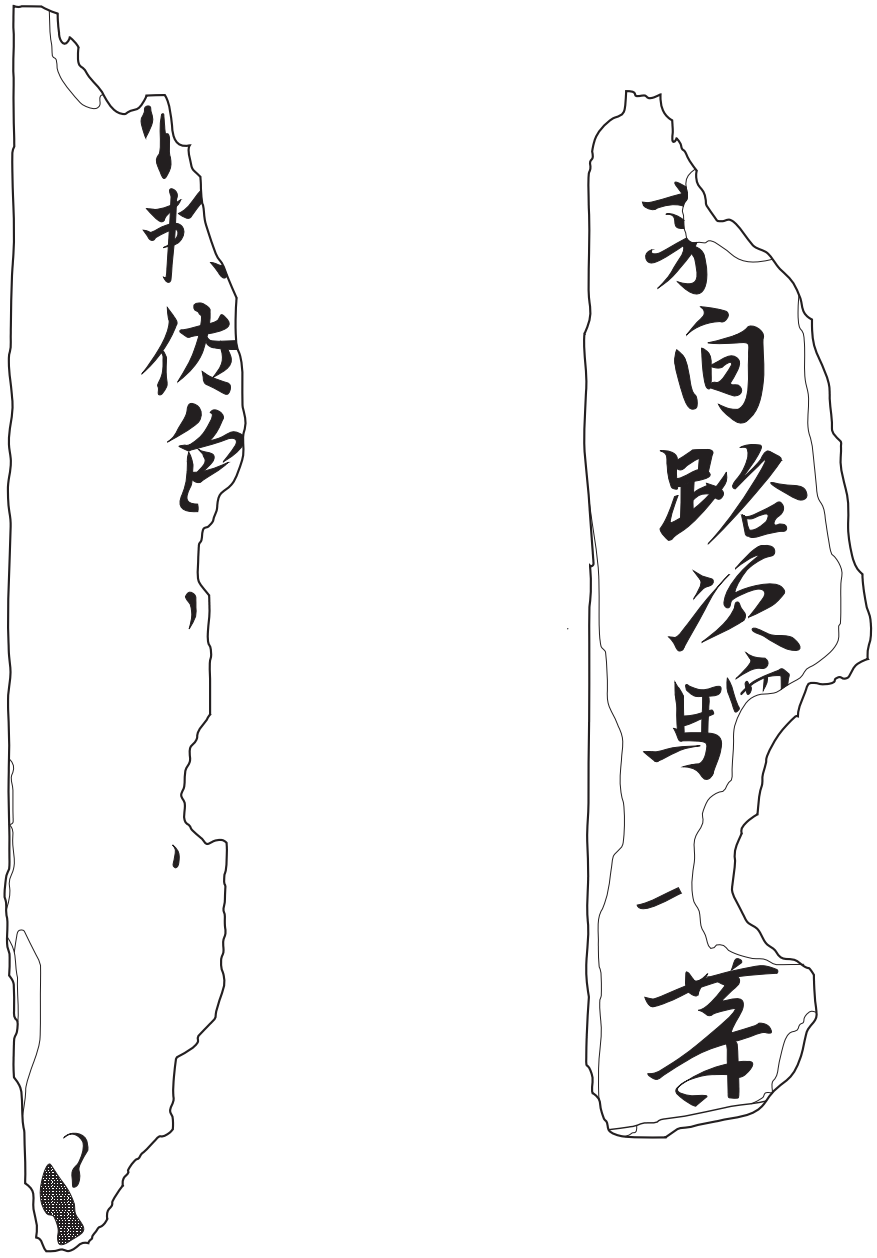
▲土錘 -1

▼土錘 -2

熊本県文化財調査報告第 305 集

花岡木崎遺跡

南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査



March.2014
熊本県教育委員会

序文

熊本県葦北郡芦北町の花岡木崎遺跡は、南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業用地内に所在した遺跡である。

国土交通省が自動車道建設事業を計画するにあたり、熊本県教育委員会が同地内の埋蔵文化財予備調査をおこなったところ、弥生時代から古代に至る有力な遺跡が存在することが判明した。このため、熊本県教育庁教育総務局文化課は、平成 15 年度から平成 20 年度まで現地での発掘調査を実施し、その調査成果を平成 21 年度から平成 24 年度まで整理した結果、各時代の遺構や遺物を発見している。

なかでも、「佐色駅」と書かれた木簡の発見は、古代駅伝制を現す県内最古の木簡例となったのみならず、芦北町「佐敷」のこの地が遠古より「さしき」と呼び続けられ、交通の要衝として熊本、そして東アジアの中に位置し続けていたことを指し示していた。

これらにつき、ここに報告書として刊行し、滅失した遺跡の記録としたい。

なお、調査の実施にあたっては、国土交通省八代河川国道事務所の協力はもとより、地元の芦北町・芦北町教育委員会、佐敷・花岡地区の皆さんの多大な協力と援助があった。心から厚く御礼申し上げる。

また、発掘現場を訪問され貴重な助言と励ましをいただいた全国の考古学研究者の皆さんに、深甚より感謝の誠を表したい。

平成 26 年 3 月 31 日

熊本県教育長　田崎　龍一

例言

1　本書は、南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴い記録保存を目的として実施した熊本県葦北郡芦北町大字花岡所在の花岡木崎遺跡（調査範囲は調査後に滅失）の発掘調査報告書である。

2　当該遺跡の調査は、熊本県教育委員会が調査主体となり、同教育総務局文化課が調査を担当した。

3　発掘資料の整理は、熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町）で実施した。なお、記録及び遺物は、熊本県文化財資料室が保管している。

4　本書の編集は、宮崎敬士（文化財調査第一係）が担当し、山口節子、末武希代子（嘱託）がこれを補佐した。

Table of CONTENTS

口絵　Frontispieces
序文　Introduction
例言　Preface
目次　Contents

1　調査の目的と方法
1-1　発掘調査の概要 …… 3
1-1-1　概要
1-1-2　調査の目的
1-1-3　調査の経緯
1-1-4　調査体制
1-1-5　調査経過
1-1-6　整理体制
1-1-7　整理経過
1-1-8　今後調査が必要な範囲
1-1-9　保存及び活用
1-1-10 調査協力者
1-2　遺跡の立地と構造 …… 11
1-2-1　遺跡の概要
1-2-2　自然
1-2-3　人文
1-2-4　文献資料
1-3　調査の方法 …… 19
1-3-1　調査手順の概要
1-3-2　発掘作業の方法
1-3-3　整理作業の方法

2　花岡木崎遺跡の調査
2-1　花岡木崎遺跡 1 区の調査 …… 27
2-1-1　調査区 1 区の概要
2-1-2　調査区 1 区のグリッド網
2-1-3　調査区 1 区の遺構と遺物
2-2　花岡木崎遺跡 2 区の調査 …… 74
2-2-1　調査区 2 区の概要
2-2-2　調査区 2 区のグリッド網
2-2-3　調査区 2 区の遺構と遺物
2-3　花岡木崎遺跡 3 区の調査 …… 86
2-3-1　調査区 3 区の概要
2-3-2　調査区 3 区のグリッド網
2-3-3　調査区 3 区の遺構と遺物
2-4　花岡木崎遺跡 4 区の調査 …… 93
2-4-1　調査区 4 区の概要
2-4-2　調査区 4 区のグリッド網
2-4-3　調査区 4 区の遺構と遺物
2-5　花岡木崎遺跡 5 区の調査 ……129
2-5-1　調査区 5 区の概要
2-5-2　調査区 5 区の遺構と遺物
2-6　花岡木崎遺跡 6 区の調査 ……184
2-6-1　調査区 6 区の概要
2-6-2　調査区 6 区の遺構と遺物
2-7　花岡木崎遺跡 7 区の調査 ……196
2-7-1　調査区 7 区の概要
2-7-2　調査区 7 区の遺構と遺物
2-8　花岡木崎遺跡 9 区の調査 ……302
2-8-1　調査区 9 区の概要
2-8-2　調査区 9 区の遺構と遺物

3　附表
3-1　土器（RP）一覧 ……369
3-2　石器（RQ）一覧 ……426

4　分析
4-1　花岡木崎遺跡の自然科学分析 ……430
4-2　金属製品（RM）について ……441
4-3　木製品（RW）について ……445
4-4　花岡木崎遺跡の調査成果 ……454

5　写真図版
5-1　遺構写真 ……458
5-2　遺物写真 ……470

抄録　Abstract

奥付　Colophon

1 調査の目的と方法

花岡木崎遺跡は、熊本県葦北郡芦北町大字花岡に所在する遺跡である。

南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴い、当該用地内の花岡木崎遺跡が滅失するため、当該遺跡の発掘調査を実施し、記録保存を行った。

葦北地域は、南北を河川、東西を山海によって区分されている。その南方は矢筈岳から発する境川が鹿児島県出水地域と分かち、北方は人吉盆地を抜けた球磨川によって八代地域と分かれている。西方には不知火海が天草島嶼部の間に位置し、東方には九州山地が球磨地域、鹿児島県大口地域、宮崎県えびの地域の間に構えている。

佐敷地区は、葦北地域沿岸部の南北中点に位置し、佐敷川によって沖積された平地である。北には佐敷太郎峠、南には津奈木太郎峠が津奈木、水俣地区との間に位置している。この佐敷太郎、津奈木太郎に、赤松太郎（峠）を加えて「三太郎峠」、「三太郎の嶮」と呼ぶが、不知火海沿岸部を南北に走る薩摩街道の難所として知られている。

佐敷川は、不知火海の手前に長さ 3km 幅 0.5km 程の狭隘な平地を沖積している。この佐敷平地は、不知火海から遡上すること約 1km、その西端では佐敷川が城山を回りこむように屈曲しているため、一見、盆地の様相を呈している。この佐敷平地の北側には 3 つの山塊が横たわるが、中央の山塊は佐敷平地に舌状に張り出し、細長い平地を二等分している。花岡木崎遺跡は、この突出部の西側に位置し、佐敷川の汽水域上限にあたる。

1-1　発掘調査の概要

1-1-1　概要

花岡木崎遺跡は、熊本県葦北郡芦北町大字花岡に所在する遺跡である。

花岡木崎遺跡の東には、佐敷川が西流し、その左岸に花岡木崎遺跡、右岸に花岡古町遺跡が位置する。

花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡の埋蔵文化財発掘調査は、南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴い実施された。その調査主体は熊本県教育委員会（以下、「熊本県教育庁」と記す。）及び芦北町教育委員会であり、現地における発掘調査は平成15年5月22日から平成20年11月17日まで行われ、発掘面積は花岡木崎遺跡17,450㎡、花岡古町遺跡6,750㎡、合計24,200㎡である。

なお、花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡が近接していること及び埋蔵文化財発掘調査の迅速化、合理化を図るため、両遺跡を一括した調査手順が計画され、実施された。このため、本節では花岡木崎遺跡、花岡古町遺跡、両遺跡に係る記述をおこなう。

1-1-2　調査の目的

南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴い、当該用地内の花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡が滅失するため、当該遺跡の発掘調査を実施し、記録保存を行うことを目的とした。

図1　芦北町の位置

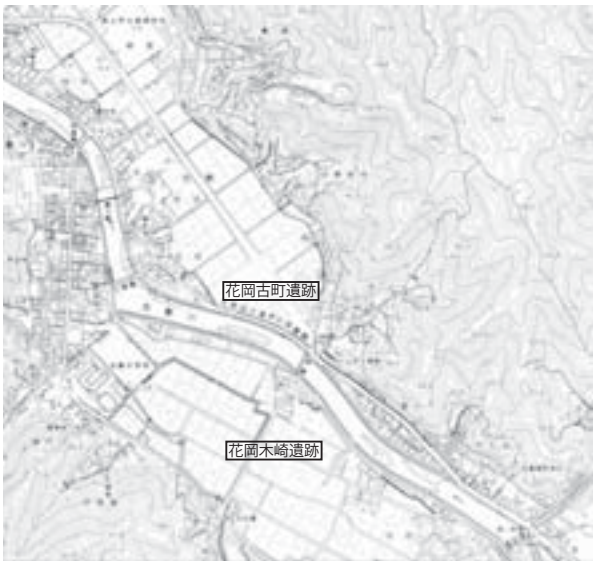


図2　花岡木崎遺跡の位置

1-1-3　調査の経緯

国土交通省は、熊本県八代市を起点として水俣市、鹿児島県川内市等を経由して鹿児島市に至る延長約140kmの南九州西回り自動車道を高規格幹線道路網の一環として計画した。熊本県内には北から八代日奈久道路（12.0km）、日奈久芦北道路（16.8km）及び芦北出水道路（約29km）が建設されることとなり、葦北郡芦北町大字花岡には芦北インター・チェンジ（以下、「I.C.」と記す。）が設置されることとなった。

当該事業予定地は長大であり、遺跡等、多くの文化財の存在が予想された。そのため、国土交通省九州地方整備局八代河川国道事務所（以下、「八代河川国道事務所」と記す。）と熊本県教育庁は、事業計画段階から公共工事の実施と文化財の保護との調整を図ってきた。その一環として、熊本県教育庁は八代河川国道事務所の依頼を受け、不時発見等を回避するとともに文化財の有無とその保護措置を検討するため、踏査、試掘、確認調査等、一連の予備調査を実施した。予備調査の結果、芦北I.C.予定地及びその近辺で花岡木崎遺跡を新たに発見し、花岡古町遺跡の存在を確認した。この結果を受け、八代河川国道事務所調査第二課及び熊本県教育庁教育総務局文化課が協議した結果、当該事業が九州南西部の地域経済の活性化、高速定時性の確保を目的として計画されていること、代替地も求め

ることができないことの理由により、当初の計画のとおり芦北 I.C. 等を建設する、との結論にいたった。そして、平成 15 年度から事業予定地内に所在する周知の埋蔵文化財包蔵地、花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡について記録保存を目的とした発掘調査を実施することとした。

上記の調整を経て、八代河川国道事務所長は、文化財保護法第 57 条の 3 第 1 項の規定により周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等のための発掘について、花岡木崎遺跡は平成 15 年度、花岡古町遺跡は平成 16 年度に文化庁長官あて通知している。また、熊本県教育長は、各通知に対し発掘調査が必要と八代河川国道事務所長あて通知している。

現地における発掘調査は、花岡木崎遺跡は平成 15 年度から平成 20 年度まで、花岡古町遺跡は平成 16 年度から平成 18 年度まで実施した。報告書作成のための整理は、両遺跡とも平成 20 年度から平成 24 年度まで実施した。

以下、発掘調査の実施に係る諸手続を記す。

予備調査

平成 5 年 10 月 1 日付け建九八二調第 826 号で建設省九州地方建設局八代工事事務所長から熊本県教育長あて南九州西回り自動車道日奈久芦北道路の埋蔵文化財の現地踏査について依頼があり、松本健郎文化財調査第一係長他が踏査し、その結果を平成 6 年 3 月 31 日付け教文第 1361 号で熊本県教育長から八代工事事務所長あて通知するとともに、内容を芦北町教育長あて通知した。以後、平成 11 年 12 月 7 日付け建九八二調第 43 号の踏査依頼及び平成 12 年 3 月 28 日付け教文第 1437 号の結果通知まで踏査が実施され、葦北郡芦北町大字花岡の事業予定地において試掘調査が必要との結論に至っている。

佐敷川左岸の事業予定地（花岡木崎遺跡）における試掘調査は、平成 14 年から 15 年まで実施された。平成 14 年 3 月 25 日付け国九整八二調第 25 号で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて南九州西回り自動車道日奈久芦北道路建設工事に伴う埋蔵文化財試掘調査について依頼があり、平成 14 年 5 月 20 日から 5 月 23 日まで水野哲郎文化財保護主事が調査し、その結果を平成 14 年 6 月 10 日付け教文第 661 号で熊本県教育長から八代河川国道事務所長あて通知するとともに、その内容を芦北町教育長あて通知したことから試掘調査は始まっている。以後、平成 15 年 4 月 10 日付け国九整八二調第 4 号で試掘依頼があり平成 15 年 5 月 1 日から 5 月 16 日まで宮部武典文化財保護主事が調査し平成 15 年 6 月 20 日付け教文第 881 号でその結果を通知した試掘調査、平成 15 年 11 月 11 日付け国九整八二調第 54 号で試掘依頼があり平成 15 年 11 月 13 日から 11 月 19 日まで岡本真也参事が調査し平成 15 年 12 月 19 日付け教文第 2690 号でその結果を通知した試掘調査、並びに平成 16 年 5 月 12 日付け国九整八二調第 13 号で試掘依頼があり平成 16 年 5 月 10 日から 7 月 1 日まで宮部武典文化財保護主事が調査し平成 16 年 7 月 16 日付け教文第 1156 号でその結果を通知した試掘調査が実施された。

佐敷川右岸の事業予定地（花岡古町遺跡）における試掘調査は、平成 15 年に実施された。平成 15 年 4 月 10 日付け国九整八二調第 4 号で試掘依頼があり平成 15 年 7 月 28 日から 8 月 6 日まで岡本真也参事が調査し平成 15 年 9 月 10 日付け教文第 197 号で結果を通知している。なお、花岡古町遺跡は、平成 14 年に熊本県教育庁が実施した芦北球磨線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財予備調査により発見された遺跡であり、平成 15 年の調査結果と併せて遺跡範囲等が確認されている。

土木工事等による発掘

八代河川国道事務所長は、文化財保護法第 57 条の 3 第 1 項の規定により周知の埋蔵文化財包蔵地における土木工事等のための発掘について、花岡木崎遺跡は平成 15 年 4 月 14 日付け国九整八二調第 7 号で、花岡古町遺跡は平成 16 年 4 月 15 日付け国九整八二調第 5 号で、文化庁長官あて通知した。この通知を受け、熊本県教育長は、花岡木崎遺跡については平成 15 年 4 月 30 日付け教文第 312 号で、花岡古町遺跡については平成 16 年 4 月 30 日付け教文第 307 号で、工事着手前に発掘調査を実施することと八代河川国道事務所長あて通知している。

埋蔵文化財の発掘調査

平成 15 年度は、花岡木崎遺跡の発掘調査について平成 15 年 5 月 6 日付け国九整八二調第 11 号で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 98 条の 2 第 1 項の規定により平成 15 年 5 月 21 日付け教文第 544 号で熊本県教育長から文化庁長官あて通知するとともに、その内容を八代河川国道事務所長及び芦北町教育長あて通知した。

平成 16 年度は、平成 16 年 4 月 15 日付け国九整八二調第 6 号（花岡木崎遺跡）及び平成 16 年 4 月 15 日付け国九整八二調第 7 号（花岡古町遺跡）で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 98 条の 2 第 1 項の規定により平成 16 年 9 月 17 日付け教文第 1709 号（花岡古町遺跡）で熊本県教育長から文化庁長官あて通知するとともに、その内容を八代河川国道事務所長及び芦北町教育長あて通知した。

平成 17 年度は、平成 17 年 4 月 1 日付け国九整八二調第 1-2 号（花岡木崎遺跡）及び平成 17 年 4 月 1 日付け国九整八二調第 1-1 号（花岡古町遺跡）で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定により平成 17 年 4 月 8 日付け教文第 58 号（花岡古町遺跡）で熊本県教育庁文化課長から熊本県教育長あて通知するとともに、その内容を八代河川国道事務所長及び芦北町教育長あて通知した。

平成 18 年度は、平成 18 年 3 月 22 日付け国九整八二調第 116 号（花岡木崎遺跡）及び平成 18 年 3 月 22 日付け国九整八二調第 115 号（花岡古町遺跡）で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定により平成 18 年 4 月 14 日付け教文第 69 号（花岡木崎遺跡）及び平成 18 年 4 月 14 日付け教文第 68 号（花岡古町遺跡）で熊本県教育庁文化課長から熊本県教育長あて通知するとともに、その内容を八代河川国道事務所長及び芦北町教育長あて通知した。

平成 19 年度は、花岡木崎遺跡の発掘調査について平成 19 年 3 月 26 日付け国九整八二調第 100 号及び平成 19 年 11 月 5 日付け国九整八二調第 76 号（追加分）で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定により平成 19 年 4 月 5 日付け教文第 1 号及び平成 20 年 2 月 13 日付け教文第 2568 号（追加分）で熊本県教育長から文化庁長官あて通知するとともに、その内容を八代河川国道事務所長及び芦北町教育長あて通知した。

平成 20 年度は、花岡木崎遺跡の発掘調査について平成 20 年 3 月 25 日付け国九整八二調第 99 号で八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼があり、文化財保護法第 99 条第 1 項の規定により平成 20 年 4 月 14 日付け教文第 109 号で熊本県教育庁文化課長から熊本県教育長あて通知するとともに、その内容を八代河川国道事務所長及び芦北町教育長あて通知した。

文化財の発見

平成 15 年度の発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第 98 条の 3 第 1 項で準用する第 59 条第 1 項の規定により平成 15 年 11 月 12 日付け教文第 2307 号で熊本県教育長から芦北警察署長あて通知した。

平成 16 年度の発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第 100 条第 2 項で準用する第 100 条第 1 項の規定により平成 17 年 4 月 4 日付け教文第 2 号（花岡木崎遺跡）及び平成 20 年 4 月 4 日付け教文第 3 号（花岡古町遺跡）で熊本県教育長から芦北警察署長あて通知した。

平成 17 年度の発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第 100 条第 2 項で準用する第 100 条第 1 項の規定により平成 18 年 3 月 31 日付け教文第 3226 号（花岡木崎遺跡）及び平成 17 年 9 月 5 日付け教文第 1475 号（花岡古町遺跡）で熊本県教育長から芦北警察署長あて通知した。

平成 18 年度の発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第 100 条第 2 項で準用する第 100 条第 1 項の規定により平成 19 年 3 月 26 日付け教文第 3154 号（花岡木崎遺跡）及び平成 19 年 2 月 15 日付け教文第 2797 号（花岡古町遺跡）で熊本県教育長から芦北警察署長あて通知した。

平成 19 年度の発掘調査で出土した文化財は、文化

財保護法第 100 条第 2 項で準用する第 100 条第 1 項の規定により平成 20 年 3 月 13 日付け教文第 2891 号及び平成 20 年 3 月 13 日付け教文第 2892 号（追加分）で熊本県教育長から芦北警察署長あて通知した。

平成 20 年度の発掘調査で出土した文化財は、文化財保護法第 100 条第 2 項で準用する第 100 条第 1 項の規定により平成 20 年 11 月 12 日付け教文第 1951 号で熊本県教育長から芦北警察署長あて通知した。

1-1-4　調査体制

この報告書に記載する花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡の発掘調査は、熊本県教育庁が調査主体となり、熊本県教育庁教育総務局文化課が調査を担当した。

なお、調査担当者等は以下のとおりである。

調査責任者

文化課長が担当した。

H15　成瀬烈大（文化課長）
H16　島津義昭（文化課長）
H17　梶野英二（文化課長）H17 ～ H19
H20　米岡正治（文化課長）

調査統括

課長補佐が担当した。

H15　島津義昭（教育審議員）
H16　倉岡　博（課長補佐）H16 ～ H17
H18　江本　直（課長補佐）H18 ～ H20

調査指導

文化財調査第一係長が担当した。

H15　高木正文（課長補佐、文化財調査第一係担当）H15 ～ H20

調査担当

文化財調査第一係職員が担当した。

H15　宮部武典（文化財保護主事）H15.4 ～ H17.3
H15　上高原聡（非常勤嘱託）H15.4 ～ H15.11
H16　川俣幸次（非常勤嘱託）H16.4 ～ H17.3
H17　江頭俊介（非常勤嘱託）H17.4 ～ H19.3
H17　村中智恵（非常勤嘱託）H17.11 ～ H19.3
H18　宮崎敬士（主任学芸員、参事）H18.4 ～ H20.11
H19　伊藤友美子（非常勤嘱託）H19.4 ～ H20.3
H19　横矢晋二郎（非常勤嘱託）H19.4 ～ H20.11
H20　米村俊治（非常勤嘱託）H20.4 ～ H20.11

調査作業員

池田進、池田マサ子、一川律子、出野重徳、稲葉貴子、内園寿勝、漆下寿美子、江邑稠、大嶋多恵子、大塚一広、唐木ひとみ、川口絹子、川野絹子、桑本美津子、才木久美子、板崎タミエ、坂寺実、坂本文子、坂本麻衣、坂本由香、佐竹直美、佐竹二三四、塩坂勝、塩森喬、下村はつみ、白石まり子、白坂明子、白坂衣里、白坂雪春、田口クミ子、田口敏巳、竹永照子、竹本ゆかり、立坂昭則、立坂春雄、立坂光、立作庄太郎、立作美智子、立作ヤス子、立古政治、立古フジ子、田中笑子、田中輝美、田畑ヒロ子、田畑道雄、鶴坂隆治、遠山征子、鳥居浜子、鳥江聡子、中村美枝子、農嶋千年、橋本司、平木孝幸、平松ユキエ、廣松益子、福田ケイ子、渕本ジツ子、渕本勝、牧原安義、松本松枝、丸山祐佳里、水口伊津子、溝上勝昭、宮嶋フサ子、村上明美、本山千代子、山口シヅ子、山口マサ子、山口雪子、山口義秀、山崎秀子、山崎康子、山田光徳、山本強、山本春美、吉田タエ子。（以上 76 名、順不同）

1-1-5　調査経過

現地における発掘調査は、平成 15 年 5 月 22 日から平成 20 年 11 月 17 日まで実施した。花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡の 2 遺跡を調査対象としたが、調査は 1 班体制を採り、各遺跡を調査区に分割して用地買収、本体工事等の事業計画と調整しつつ発掘調査を実施した。

なお、花岡古町遺跡の調査成果は、『花岡古町遺跡 2』熊本県文化財調査報告第 292 集に取りまとめ、平成 25 年 3 月 31 日付けで刊行している。

また、熊本教育庁教育総務局文化課は熊本県土木部の依頼を受け、芦北 I.C. に接続する県道芦北球磨線の改修工事に伴い花岡古町遺跡の発掘調査を実施し、その調査成果を『花岡古町遺跡』熊本県文化財調査報告第 273 集として平成 24 年 3 月 31 日付けで刊行して

表1 花岡木崎遺跡発掘進捗表

遺跡名	調査区	面積	遺構面	調査面積	年度	担当
花岡木崎	1	2,200	2	4,400	H15	熊本県
	2	1,450	2	2,900	H16	熊本県
	3	1,000	2	2,000	H17	熊本県
	4	1,500	2	3,000	H17	熊本県
	5	1,250	2	2,500	H18	熊本県
	6	1,450	2	2,900	H19	熊本県
	7	1,250	2	2,500	H19～20	熊本県
	8	2,500	2	5,000	H19	芦北町
	9	1,250	2	2,500	H19～20	熊本県
	10	1,400	2	2,800	H20	芦北町
	11	2,200	2	4,400	H17	芦北町
合計		17,450 ㎡		34,900 ㎡		

いる。当該調査は、文化財調査第二係が担当した。

おって、平成 17 年度から平成 20 年度まで芦北町教育委員会が花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡の調査を担当している。芦北町教育委員会は八代河川国道事務所の依頼を受け、平成 17 年度は花岡木崎遺跡、平成 18 年度は花岡古町遺跡、平成 19 年度は花岡木崎遺跡、及び平成 20 年度は花岡木崎遺跡の発掘調査を実施した。その調査成果は、『花岡木崎遺跡』他、芦北町文化財調査報告書第 3 ～ 6 集として平成 25 年 3 月 31 日付けで刊行されている。

いずれも同一遺跡を同時期に調査した例となるので、ここに記して参考に供した次第である。

〔書誌〕

西住欣一郎、廣田静学、木村元浩、2012、『花岡古町遺跡』熊本県文化財調査報告 273、熊本県教育委員会、熊本

深川裕二、石橋和久、森隆重、田上智也、2013、『花岡木崎遺跡』芦北町文化財調査報告書 3、芦北町教育委員会、熊本

深川裕二、石橋和久、森隆重、田上智也、2013、『花岡古町遺跡』芦北町文化財調査報告書 4、芦北町教育委員会、熊本

深川裕二、石橋和久、森隆重、田上智也、2013、『花岡木崎遺跡Ⅱ』芦北町文化財調査報告書 5、芦北町教育委員会、熊本

深川裕二、石橋和久、森隆重、田上智也、2013、『花岡木崎遺跡Ⅲ』芦北町文化財調査報告書 6、芦北町教育委員会、熊本

宮崎敬士、2013、『花岡古町遺跡 2』熊本県文化財調査報告 292、熊本県教育委員会、熊本

1-1-6 整理体制

整理作業は、平成 20 年度から平成 24 年度まで熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目）にて実施した。

なお、整理担当者は以下のとおりである。

整理責任者

文化課長が担当した。

H20　米岡正治（文化課長）H20 ～ H21

H22　小田信也（文化課長）H22 ～ H24

整理統括

課長補佐が担当した。

H20　江本　直（課長補佐）

H21　木崎康弘（課長補佐）H21 ～ H22

H24　西住欣一郎（課長補佐）

整理指導

文化財調査第一係長が担当した。

H20　高木正文（課長補佐、文化財調査第一係担当）

H21　村崎孝宏（文化財調査第一係長）H21 ～ H24

整理担当

文化財調査第一係職員が担当した。

H20　宮崎敬士（参事）H20 ～ H24

H20　橋口冬美（非常勤嘱託）H20
H21　横山明代（非常勤嘱託）H21
H21　山口節子（非常勤嘱託）H21 ～ H24
H22　末武希代子（非常勤嘱託）H22 ～ H24

整理作業員

吉岡直子、赤星忠光、和泉裕見子、上田典子、尾方マサミ、北里五男、栗崎香代子、河野陽子、興梠富貴子、境美恵子、園田尚子、園田美佐樹、高森祐子、田中知恵美、中川愛子、中島里香、浪床せい子、橋本英子、平岡春代、廣瀬恵子、渡邊いわ子。

高濱悦子、青木美代子、一野幸枝、嘉村光代、柴田久美子、白木はる乃、武内沙霧、中村正子、畑島文博、平畑順子、古荘隆、宮守富子。（順不同）

なお、遺物の保存処理に際しては谷川亜紀子、遺物写真の撮影に際しては村田百合子、蓮池千恵、松本智子の協力を得た。

1-1-7　整理経過

整理作業は、発掘調査期間中は発掘調査事務所で一部を実施し、平成 20 年 10 月から平成 24 年度までは熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目）で実施した。花岡木崎遺跡及び花岡古町遺跡の 2 遺跡を整理対象としているが、両遺跡を一括して整理作業の諸工程を経ることを基本として実施した。

整理作業は水洗、註記、接合、復元、実測、製図の各作業を経て、その成果が報告書に編集される。これらの作業を、水洗から復元までの作業を主に担当する一次整理と、実測、製図を主に担当する二次整理（田中知恵美、渡邊いわ子）とに分かち、平成 20 年度は橋口冬美、平成 21 年度は横山明代及び山口節子、平成 22 年度以降は山口節子及び末武希代子が中心となって実施した。

出土品の大半は現地調査の時に現地調査事務所で水洗し、註記作業の一部も実施している。したがって、文化財資料室における整理作業は、註記作業の一部及び土器等の接合作業から開始されている。接合から復元までの一次整理は平成 20 年度は高濱悦子、平成 21 年度以降は吉岡直子が中心となって実施した。実測から製図までの二次整理は、平成 21 年度まで遺構実測図の製図等、一次整理の成果を待つことなく実施できる作業から開始され、平成 22 年度に土器類の実

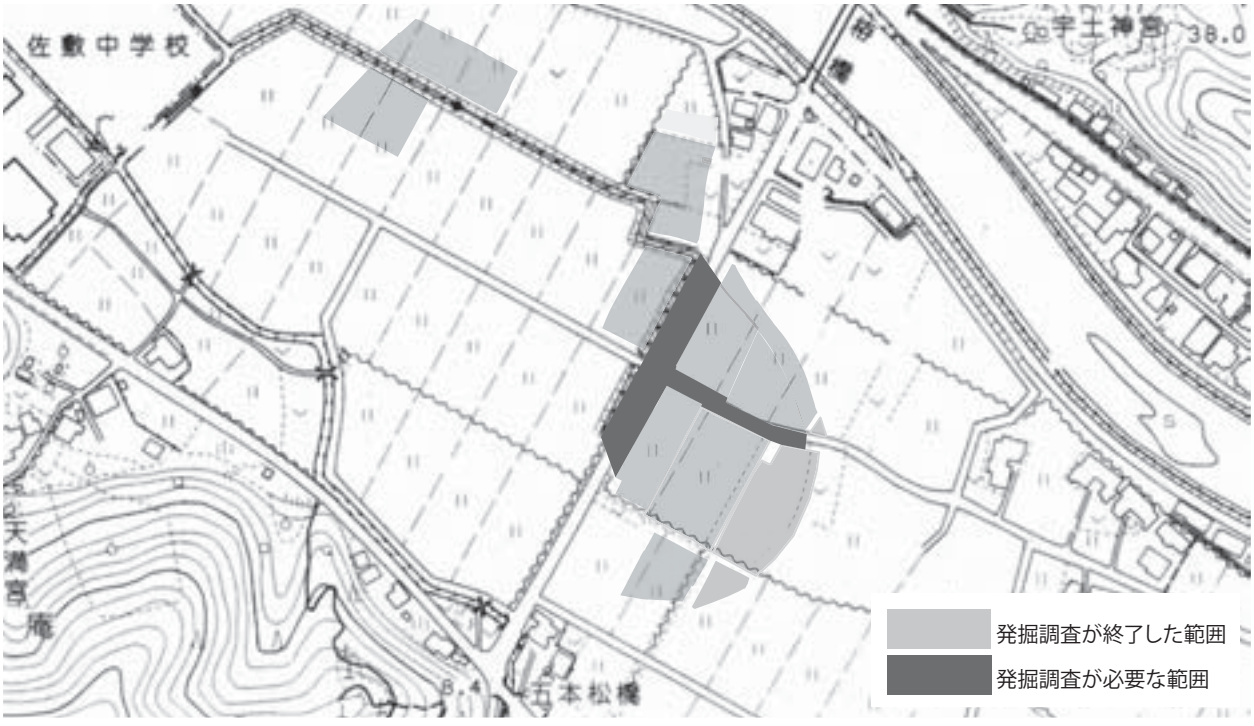


図 3　発掘調査が必要な範囲

測、製図に着手し、その一部を外部委託しながら平成24年度まで実施している。

1-1-8　今後調査が必要な範囲

花岡木崎遺跡には、今後調査が必要な範囲が図3に示したとおり存在する。これは、現道及び水道等設備の廃止後に発掘調査を実施する調整がなされていたが、用地買収の進捗により調査を実施できなかった範囲である。

なお、当該範囲は、面積は約1,600㎡、遺構面は弥生時代から古墳時代、及び古代から中世の合計2面となり、それぞれに、竪穴住居等の古墳時代の遺構、掘立柱建物等の古代の遺構が主体となる遺構群が存在する。

1-1-9　保存及び活用

花岡古町遺跡及び花岡木崎遺跡の調査は、現地における発掘調査の段階から埋蔵文化財の活用を図り、一定の成果を得た。

平成15年度は、湯浦小学校見学（児童75人、教員4名）をはじめとする見学会6回（大野中学校、佐敷中学校、湯浦小学校、町内社会科教員、芦北町文化財保護委員会、花岡親子会）、芦北町文化祭への出展を実施し、芦北町広報誌「広報あしきた」№263（芦北町内の全戸に配付）に紹介された。

平成16年度は、見学会2回（町内社会科教員、現地説明会）、体験発掘2回、芦北町文化祭への出展を実施した。

平成17年度は、見学会3回（八代高校、高森中学校、現地説明会）、体験発掘2回、芦北町文化祭への出展を実施した。

平成18年度は、11月2日から5日まで現場公開及び芦北町文化祭展示を実施し779名（現場39名、展示740名）の参加者を得た。現場公開は「体験発掘」「土器製作」「現地説明」、文化祭展示は「遺物展示」「拓本作成（天下泰平瓦、古銭）」の構成であった。また、8月22日に現場見学及び体験学習（古銭採拓）を国土交通省「親子現場見学会」の一環として芦北町と共同実施し36人の参加者を得た。

平成19年度は、芦北町内遺跡公開を芦北町教委と共催し8月9日芦北小学校30名、8月11日田浦小学校40名の参加を得ている。また、11月3日から4日まで現場公開及び芦北町文化祭展示を実施し964名（現場107名、展示857名）の参加者を得た。現場公開は「現地説明」「体験発掘」「土器製作」、文化祭展示は展示「ちょっと寄ってこ花岡木崎遺跡」体験学習「模擬発掘」の構成であった。この年、平成19年12月5日に花岡木崎遺跡の井戸跡から木簡が出土し、板楠和子先生、花岡興史先生のご指導と、奈良文化財研究所の御協力を得て、取り上げ、現況確認、保存処理等を実施した。

平成20年度は、7月に発掘調査現場広報紙「もぐらタイムリー」を作成し、芦北町内の小・中・高校計、12校に配付した。また、11月2日から3日まで現場公開及び芦北町文化祭展示を実施し、899名（現場4名、展示895名）の参加者を得た。現場公開は「現地説明」、文化祭展示は展示「1200年前にも駅があった」、体験学習「木簡を書いてみよう」の構成であった。平成21年2月20日には花岡木崎遺跡から木簡が出土したことが熊本日日新聞、読売新聞、朝日新聞等に掲載され、2月22日熊本県発掘調査速報会「熊本ば！発掘する（第1回）」で保存処理を終えた木簡が一般公開された。

平成21年度は、11月1日から3日まで芦北町文化祭展示を実施し、直接解説を受けた方々484名の参加を得た。展示内容は、保存処理を終えた花岡木崎遺跡出土木簡の展示及び解説であった。

この他、この発掘調査に関連する論考、報告等には、花岡古町遺跡の検出遺構をとりあげた論考「北条得宗家の領域支配についての考古学的考察」（永井2006）、出土資料を用いた報告「水洗選別法を用いた植物遺存体の分析」（江頭 ほか2008）、花岡木崎遺跡出土木簡の報告「熊本・花岡木崎遺跡」（宮崎2009）、「花岡木崎遺跡」（宮崎2011）、紹介「葦北出土の駅制関連の木簡」（笹山2010）、花岡木崎遺跡の紹介「肥後国」（木下2009）、「葦北郡」（美濃口2012）、花岡木崎遺跡出土製塩土器の紹介「九州における土器製塩の波及と製塩土器の運搬」（藤本2013）がある。

〔書誌〕
永井孝宏、2006、「北条得宗家の領域支配についての考古学的考察」、『肥後考古』14、肥後考古学会、熊本
江頭俊介、宮本千恵子、宮崎敬士、2008、「水洗選別法を用いた植物遺存体の分析」、『九州古代種子研究会資料』、九州古代種子研究会、宮崎
木下良、2009、「肥後国」、『事典日本古代の道と駅』吉川弘文館、東京
宮崎敬士、2009、「熊本・花岡木崎遺跡」、『木簡研究』31、木簡学会、奈良
笹山晴生 監修、2010、『古代山城 鞠智城を考える』、pp14-15、山川出版、東京
宮崎敬士、2011、「花岡木崎遺跡」、『古代交通研究会第 16 回大会資料集』、古代交通研究会、東京
美濃口紀子、2012、『西海道と肥後国』平成 23 年度企画展図録、p67、熊本市立博物館、熊本
藤本貴仁、2013、「九州における土器製塩の波及と製塩土器の運搬」、『古墳時代の地域間交流 1』九州前方後円墳研究会 16、九州前方後円墳研究会、熊本

1-1-10　調査協力者

現地調査、整理の過程において、次に記す方々から暖かな援助と指導をいただいた。衷心より感謝申し上げる。
木下良、板楠和子、花岡興史、島津義昭、村上恭通、岡本俊二、深川裕二、鶴嶋俊彦、和田好史、永井孝宏、藤本貴仁、谷川亜紀子、大森紘。
奈良文化財研究所、肥後考古学会、熊本県文化財保護協会、芦北町及び芦北町教育委員会。
（順不同、敬称略）

1-2　遺跡の立地と構造

1-2-1　遺跡の概要

花岡木崎遺跡は、平成 14 年に八代河川国道事務所長から熊本県教育長あて依頼のあった南九州西回り自動車道日奈久芦北道路建設工事に伴う埋蔵文化財試掘調査の結果、新たに発見された遺跡である。以後、平成 17 年まで南九州西回り自動車道日奈久芦北道路建設工事の事業用地内において確認調査がが実施され、これら複数の調査結果を受けて『熊本県遺跡地図』地図 87（佐敷）に熊本県（43）芦北町（482）の 039 花岡木崎遺跡として新規記載されている。なお、「花岡木崎」は、「はなおかきさき」と発する。

1-2-2　自然

日本列島は、ユーラシア大陸の東縁に位置する５つの島弧の集合である。九州は、列島の最も西側に位置する琉球弧の中では最大の島であり、かつ、琉球弧の北端に位置する。また、九州は対馬海峡を経て、韓半島から大陸に連なり、関門海峡、豊後水道を挟んで西南日本弧を構成する本州西半部及び四国に接している。

九州及び四国では中央構造線が東西に走向し、その南部には山地が連続して形成されている。九州においては臼杵―八代構造線の南側に急峻な九州山地が形成され、構造線の北側には別府―島原地溝が並走し、南側には九州脊梁山地が並び立って、九州の南北を地形的に画す結果となっている。

他方、九州は、九州脊梁山地を境として東西に区分することもできる。この九州を東西に画する区分は、平野部に主眼を置いた区分である。九州西半部では平野部が玄界灘または有明海に沿って連続､または山塊、丘陵等に断続されて広がる。この連続または断続する平野部の南限は、先の臼杵―八代構造線であり、球磨川に沖積された八代平野が最南の平野部にあたる。

葦北地域は、熊本県南部、八代平野の南に位置する。葦北地域の大部分は山地で占められ、不知火海沿岸部にはリアス式海岸が形成されている。山地から不知火海に向かう小河川は、沿岸部に狭隘な平地を形成しているが、各平地は山塊により寸断され、リアス式海岸と併せて平野部の伸展を許さぬ構造を採っている。

葦北地域は、南北を河川、東西を山海によって区分されている。その南方は矢筈岳から発する境川が鹿児島県出水地域と分かち、北方は人吉盆地を抜けた球磨川によって八代地域と分かれている。西方には不知火海が天草島嶼部の間に位置し、東方には九州山地が球磨地域、鹿児島県大口地域、宮崎県えびの地域の間に構えている。

佐敷地区は、葦北地域沿岸部の南北中点に位置し、葦北地域最高峰の大関山（標高 901.9m）を源流とした佐敷川によって沖積された平地である。北には佐敷太郎峠が田浦地区との間に、南には津奈木太郎峠が津奈木、水俣地区との間に位置している。この佐敷太郎、津奈木太郎に、八代地域と田浦地区を画す赤松太郎（峠）を加えて「三太郎峠」､「三太郎の嶮」と呼ぶが、不知火海沿岸部を南北に走る薩摩街道の難所として知られている。

大関山から塩浸、大野の平地を経て低山地を抜けた佐敷川は、不知火海の手前に長さ 3km 幅 0.5km 程の狭隘な平地を沖積している。この佐敷平地は、不知火海から遡上すること約 1km、その西端では佐敷川が城山を回りこむように屈曲しているため、一見、盆地の様相を呈している。この佐敷平地の北側には３つの山塊が横たわるが、中央の山塊は佐敷平地に舌状に張り出し、細長い平地を二等分している。花岡木崎遺跡は、この突出部の西側に位置している。

花岡木崎遺跡の位置は、佐敷川の汽水域上限にあたる。その下流側、中央山塊の北西麓には佐敷太郎峠への登坂口が在り､ここで佐敷平地は終焉する。さらに、急峻な城山を回りこんで佐敷川を 1km 程下れば、野坂の浦を経て、不知火海に至る。上流側、中央山塊の南東麓には宮浦川が緩やかな斜地を開き、佐敷川沿いの谷地を東に辿れば、中流域の大野で路を球磨川沿いに代え、人吉盆地へと至り、中央山塊から平地をはさんだ反対側、佐敷川支流の田川川あるいは五本松峠を経れば、湯浦川沿いの平地をとおり、大川内平地の津奈木太郎峠への登坂口に至る。

佐敷平地より上流では、川幅は細く、流れは早く、河川礫は大きくなり、平地を囲む山塊も切り立った裾野を並べている。山塊は、北方の球磨川流域でより急峻となり、南方では緩やかな高原の連なりをみせる。

佐敷川が注ぐ野坂の浦は、鶴木山御番所の鼻（岬）

a：沖積層　A4：阿蘇 -4 火砕流堆積物　aj：砂泥岩泥岩互層、砂岩を主とする層（箙瀬層、宮園層）　aKT：砂岩泥岩互層、砂岩を主とする層　AT：姶良火砕流堆積物　c：チャートあるはチャートを主とする層　cg：礫岩　（宮園層）　cm：苦鉄質火山岩類を含む複合岩類（流峰山変成岩類）　dM：中から珪長質貫入岩類　gP：花崗岩類（古生代）（黒瀬川古期岩類）　Ha：八竜山層　Ksa：袈裟堂層　Kwg：川口層　ls：石灰岩あるいは石灰岩を主とする層　mJ：整然層的泥質（宮園層）　mKT：泥岩および砂岩泥岩互層　mTr：整然層泥岩、砂岩泥岩互層を主とする層（スランプ層を含む）（河内ケ谷層位相層）　mv：苦鉄質火山岩類 oh：小原層　oJ：泥質岩を主とする層（オリストストローム層）　oKT：泥質岩を主とする層（オリストストローム層）　r KT：整然層的泥質ガンを主とする層（しばしば凝灰岩を挟む）　sJ：砂岩を主とする層（チャート砕層岩シークエンス）　sKT：砂岩を主とする層　t1：低位段丘堆積物　t2：中位段丘堆積物　tKT：泥岩優勢砂岩泥岩細互層　um：超苦鉄質岩類　vJk：苦鉄質火山岩類、石灰岩、チャート、泥質岩（オリストストローム層）（神瀬帯）

図 4　周辺の地質図　（熊本県地質図編纂委員会 2008 に基づき作成）

と女島京の崎に抱かれた湾口 0.7km、湾幅 2.5km、奥行 2.7km を測る湾であり、不知火海に接続している。不知火海は、北は宇土半島、西は天草島嶼、南は鹿児島県長島、出水半島で囲まれた内海であり、南北長 70km、東西幅約 15km を測る。不知火海は、北部では三角ノ瀬戸、柳ノ瀬戸、本渡ノ瀬戸で有明海に接続し、南部では長島海峡、黒之瀬戸で外洋の東シナ海に開けている。いずれも狭隘な湾口部であるが、長島海峡を主とする南湾口部の外洋水流入量、潮流速が最も大きく、他の湾口部では海水の交流、潮流速とも小さく、湾奥（北部）での干満差 4m を惹起している。なお､湾央部から湾奥部の潮汐流動は停溜傾向にあり、朝凪、夕凪には鏡面のような海となる。

不知火海には、海底断層が走っている。熊本地域には阿蘇から上益城郡甲佐町、葦北郡芦北町田浦を経て不知火海南部まで北東から南西方向に走る約 100km の布田川・日奈久断層帯が存在する。この布田川・日奈久断層帯は、八代から南に三角末端面が顕著な断層崖を連ね、芦北町田の浦御立岬から不知火海に没している。海底断層に姿を変えた布田川･日奈久断層帯は、御立岬から長島に走り、長島海峡、黒之瀬戸を抜け、鹿児島県甑島に向かっている。リアス式海岸が東西両岸とも直線的に連なることから、この布田川・日奈久断層帯の沈降が不知火海を形成したと考えられる。

花岡木崎遺跡は、九州を南北に二分する中央構造線から連なる断層帯に隣接し、東シナ海への接続湾口の手前、潮汐穏やかな最南地点であり、九州山地の急峻部と低山地との境界線最西端に位置している。

1-2-3　人文

葦北地域は、旧くは「葦北郡（あしきたぐん）」、さらには「葦分国（あしきたのくに）」として記述されている。

森本一瑞が著し、水島貫之、佐々豊水らが増補、後藤是山が刊行した肥後の地誌『肥後国誌』には、葦北地方の国造神話が引かれ､その発音が解説されている。

「旧事本記」同書葦分国造ノ下ニ纏向日代朝［人皇十二代景行命］御世吉備津彦命ノ兒三井根子命ヲ定賜国造云々

（補）事蹟通考郷荘沿革葦北郡ノ條ニ日置葦分国造云々註曰分興北通和名抄筑前郷名新分註爾比岐多豊後郡名大分為於保岐多也伊多附訓音便假名也書記爲碩田了知云々

（森本 1884『肥後国誌』九州日々新聞社）

上記のとおり、葦北地域は「葦分（あしきた）」と発され、阿蘇、天草とともに国造神話をもち、火国に編みこまれるまでは「国」であった。この葦北地方は、『肥後国誌』には次のように沿革が記述されている。

此郡往古ヨリ郷荘ノ名和名類聚抄ニ芦北郡桑原郷［今云佐敷ノ荘］水俣郷ノミ也其外有　日奈久郷湯浦郷等往古ハ芦北国ト云テ火ノ国トハ別也旧事本紀火国葦分国［註作芦北国］阿蘇国天草国トアリ後ニ火国ヲ分テ肥前肥後ト号シ阿蘇芦北天草ノ三国ヲ郡トシテ肥後国ニ加フ、同書芦北国ノ下ニ纏向日代朝ノ御世吉備津彦命児三井根子命ヲ定賜芦北国造トアリ是芦北ノ国司ノ始也。

（補）「事蹟通考編年考徴巻一」曰旧事記曰芦北国造纏向日代宮御宇天皇［景行天皇］吉備津彦命子三井根子命定賜国造

按ニ芦分ハ乃チ芦北郡ナリ註ニ郷荘沿革ニ辨ス此国造ノ末孫、敏達天皇一二年国造阿利斯登アリ此後正史ニ見ル所ナシ

同書曰、

敏達天皇一二年発卯詔而芦北国造阿利斯登子達率曰羅於百済曰羅乃帰朝。

日本書紀曰、

推古天皇一七年夏四月丁酉朔庚子筑紫太宰府奏上シテ言百済ノ僧道欣為首十人俗七五人泊肥後国芦北津云々又元享釈書曰推古帝一七年四月百済国遣使於呉国其船漂流而芦北津州史告太宰府以閏五月送舟人於本国干時沙門道欣恵弥等一一人観国光上表請留勅居道欣恵弥於元興寺［元興寺佐和州奈良］

按ニ芦北ニテ津ノ大ナルハ佐敷ナリ球磨及薩摩日向大隅ニ至ルノ街道輻輳ノ地ニシテ津口ヲ

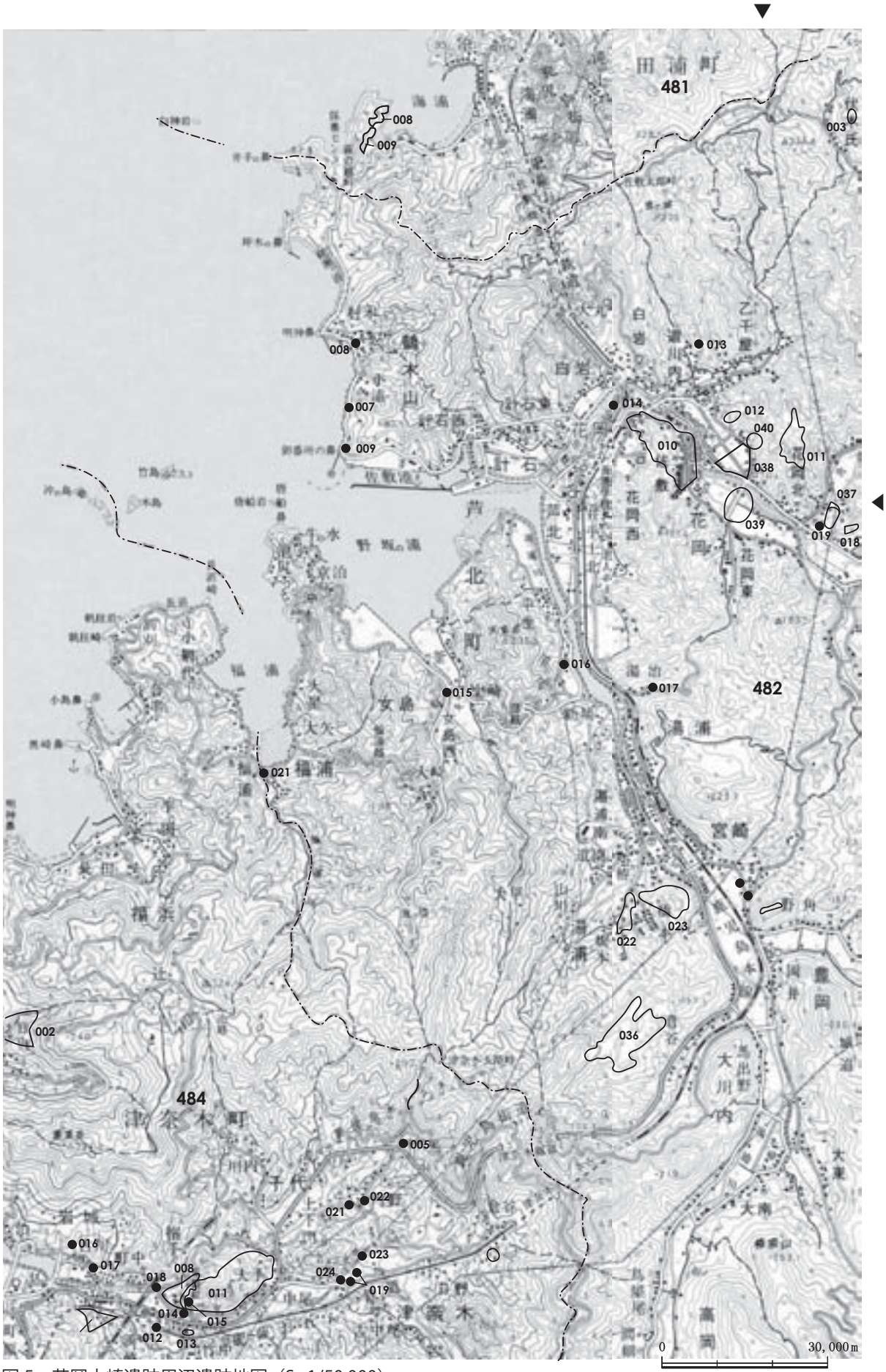


図 5　花岡木崎遺跡周辺遺跡地図（S=1/50,000）

京泊ト云

（森本 1971『肥後国誌』青潮社）

このように、火国から肥前、肥後への二分割、及び芦北、阿蘇、天草の編入を経て肥後国が成立した、との沿革観を『肥後国誌』は示している。そして、敏達天皇 12 年（A.D.573）に芦北国造である阿利斯登の子、百済の達率である日羅が帰朝した記事が引かれている。この記事にある日羅が就いた「達率」は、百済国の王族が就く官位「佐平」に次ぐ官位、二品官である。また、その父は「刑部」、「靫部」と大和政権の軍事部門を称え、「阿利斯登」は加羅王とその眷属の名に連している。すなわち、葦北地域は、複数世代にわたり、北方の百済、東方の大和の双方と要職に任じられるほどの交誼をむすんでいたのである。

しかしながら、葦北地域の既往発掘調査は、僅少である。

旧石器時代の遺跡は水俣市石飛遺跡、縄紋時代の遺跡は葦北郡芦北町大野遺跡（別称出葉山貝塚）、水俣市南福寺貝塚、草野貝塚、弥生時代の遺跡は芦北町横手遺跡、花岡木崎遺跡、水俣市初野貝塚、北園貝塚、古墳時代の遺跡は芦北町花岡木崎遺跡、宮浦地下式板石積石室古墳群、水俣市初野古墳群、北園上野古墳群、古代の遺跡は芦北町花岡木崎遺跡、花岡古町遺跡、水俣市湯の児製鉄跡、天草市御所浦町嵐口鞴製鉄跡が発掘調査または踏査等の報告を有する遺跡である。

葦北郡芦北町の横手遺跡は、弥生時代後期の集落跡である。平成 18 年度に熊本県教育庁文化課により発掘調査が実施され、平面プランが円形を呈しベッド状遺構を備えた住居から弥生時代後期の白川型口縁壺等が出土している。熊本平野の白川流域の土器様式が、葦北地域に分布していることが確認された初例調査である。後、花岡木崎遺跡でも同時期の方形プランの住居が複数調査されている。

横手遺跡に隣接した宮浦地下式板石積石室古墳群は、数十基の地下式板石積石室墓で構成された墓葬群である。佐敷川と宮浦川の合流点、佐敷平地の中央山塊南東麓に位置し、うち 4 基が昭和 45 年 2 月に芦北町史編纂事業の一環として九州大学西健一郎、熊本博物館富田紘一、芦北農林高校他により発掘調査された。

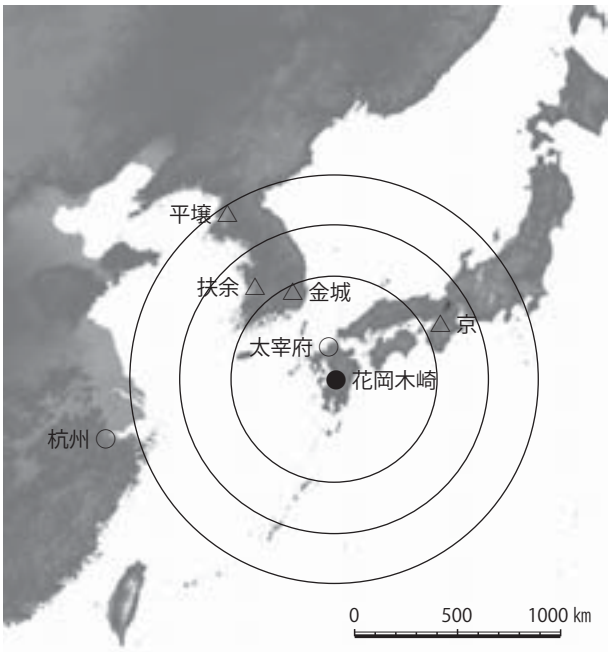


図 6　東夷世界における花岡木崎遺跡の位置

平成 18 年には芦北町水道事業の際に 1 基の地下式板石積石室墓が不時発見され、計画変更により現状保存がなされた。なお、地下式板石積石室墓は、地下 2m 程度まで墓壙を掘り下げ、その底面を平らに整え床とし、1m 未満の割り石を半分程埋め込んだ高さ 50cm 程の側石を方形、円形に設え、その上部に割り板石を持ち送りながら鱗状に積み重ね、亀甲状の石蓋とした墓葬である。石室の規模は 1.5m 程度の例が多いが、0.5m 程度の小型（鹿児島県出水郡長島町明神下岡遺跡、立神遺跡）、2.5m 近い大型もある。また、数十基単位で構成される墓群と、数基の墓群とに分類することができ、古墳時代前期から中期にかけて不知火海沿岸、球磨地域、鹿児島県大口地域、宮崎県えびの地域に分布する墓葬である。宮浦地下式板石積石室古墳群の調査 3 例は、いずれも 2.5m 程度の円形を呈する石室で鉄鏃、鉄剣を副葬していた。不時発見例も同規模であり、宮浦阿蘇神社横の微高地一帯に数十基の大型墓葬が群集して墓域を形成していると考えられる。

葦北郡芦北町の花岡木崎遺跡では古墳時代後期、古代の遺構が調査されている。また、中世の遺構も近在の花岡古町遺跡で多く調査された。

佐敷には中世城が 2 城存在する。一つは佐敷城で

あり、花岡城と別称する。他の一つは東の城であり、佐敷平地の中央山塊に位置し、栴の山城と別称される。佐敷城跡は、佐敷川が河口 1km 上流で巻くように流れる急峻な城山に位置し、東の城の後代に築城され、1615 年の一国一城令により破城となった。この佐敷城は平成 5 年から平成 13 年にかけて芦北町教育委員会によって調査が実施され、平成 9 年から城跡の整備を進め、平成 20 年には国史跡に指定された。史跡佐敷城跡では、中秋の名月の夜に能、狂言、演舞を中心とした観月会が催されている。芦北町、芦北町教育委員会が催すこの観月会の宵には、芦北鉄砲隊の火縄銃射撃も披露され、その号砲が月影冴かな野坂の浦に霏々として舞う。

〔参考文献〕

熊本県地質図編纂委員会、2008、『電子版 熊本県地質図』、社団法人熊本県地質調査業協会、熊本

森本一瑞、1884、『肥後国誌』上、後藤是山、九州日日新聞社、熊本

森本一瑞、1971、『肥後国誌』補遺・検索、荒木精之、青潮社、熊本

1-2-4　文献資料

葦北地域に関連する文献を、以下に掲載する。

万葉集には、肥後国の地名が詠いこまれた短歌は、2 首（水島、野坂浦）が収められているが、ともに長田王が慶雲年中に、肥後、薩摩と旅したときに詠ったものである（704 ～ 707）。水島は八代市の、野坂浦は葦北郡芦北町の不知火海に所在する。野坂浦から佐敷川を遡れば、花岡木崎遺跡に至る。

万葉集　巻三第二四六首　長田王

葦北乃野坂浦従船出為而水島爾謂去浪立莫勤

あしきたの　のさかうらゆ　ふなでして　みずしまにゆかむ　なみたつなゆめ

次は、日羅に関する記述である（A.D.573）。日羅は、任那覇権を再度画策する敏達天皇に百済から呼び戻され、対百済外交策と南進防衛策を奏上した後、謀殺される。

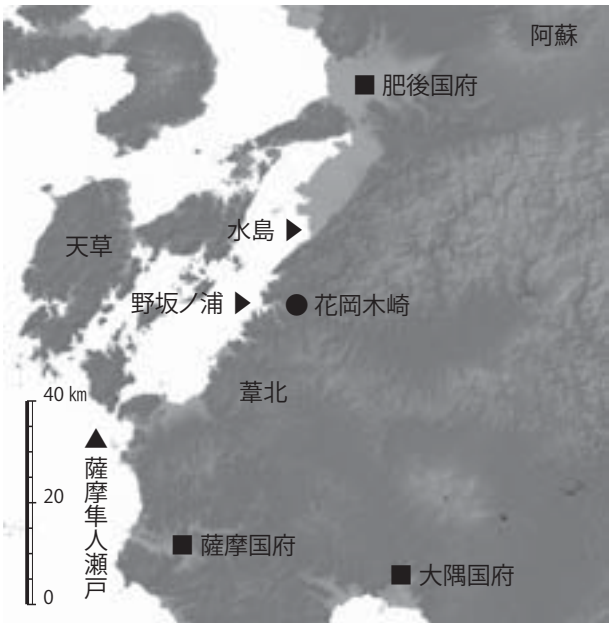


図 7　不知火海における花岡木崎遺跡の位置

日本書紀　巻第廿　敏達天皇一二年

十二年秋七月丁酉朔、詔曰「屬我先考天皇之世、新羅滅內官家之國。天國排開廣庭天皇廿三年、任那爲新羅所滅、故云新羅滅我內官家也。先考天皇謀復任那、不果而崩、不成其志。是以、朕當奉助神謀復興任那。今在百濟、火葦北國造阿利斯登子達率日羅、賢而有勇。故、朕欲與其人相計。」乃遣紀國造押勝與吉備海部直羽嶋、喚於百濟。冬十月、紀國造押勝等還自百濟、復命於朝曰「百濟國主、奉惜日羅、不肯聽上。」

是歲、復遣吉備海部直羽嶋、召日羅於百濟。羽嶋既之百濟、欲先私見日羅、獨自向家門底。俄而有家裏來韓婦、用韓語言「以汝之根、入我根內。」卽入家去。羽嶋便覺其意、隨後而入。於是、日羅迎來、把手使坐於座、密告之曰「僕竊聞之、百濟國主奉疑、天朝奉遣臣後留而弗還。所以、奉惜、不肯奉進。宜宣勅時、現嚴猛色、催急召焉。」羽嶋、乃依其計而召日羅。

於是、百濟國主、怖畏天朝不敢違勅、奉遣以日羅・恩率・德爾・余怒・奇奴知・參官・柁師德率次干德・水手等若干人。日羅等、行到吉備兒嶋屯倉。朝庭遣大伴糠手子連而慰勞焉、復遣大夫等於難波館使訪日羅。是時、日羅被甲乘馬到門底下、乃進

廳前、進退跪拜、歎恨而曰「於檜隈宮御⊠天皇之世、我君大伴金村大連、奉爲國家使於海表。火葦北國造刑部靫部阿利斯登之子・臣達率日羅、聞天皇召、恐畏來朝。」乃解其甲、奉於天皇。乃營館於阿斗桑市、使住日羅、供給隨欲。

復遣阿倍目臣・物部贄子連・大伴糠手子連而問國政於日羅、日羅對言「天皇所以治天下政、要須護養黎民、何遽興兵翻將失滅。故、今合議者、仕奉朝列臣連二造二造者國造伴造也下及百姓、悉皆饒富令無所乏。如此三年、足食足兵、以悅使民、不憚水火同恤國難。然後、多造船舶、每津列置、使觀客人令生恐懼。爾乃、以能使、使於百濟召其國王。若不來者、召其太佐平・王子等來。卽自然心生欽伏。後、應問罪。」

又奏言「百濟人謀言、有船三百、欲請筑紫。若其實請、宜陽賜予。然則百濟、欲新造國必先以女人・小子載船而至。國家望於此時、壹伎・對馬多置伏兵、候至而殺。莫翻被詐、每於要害之所堅築壘塞矣。」

於是、恩率・參官臨罷國時舊本、以恩率爲一人以參官爲一人也竊語德爾等、言「計吾過筑紫許、汝等偸殺日羅者、吾具白王當賜高爵身及妻子垂榮於後。」德爾・余奴、皆聽許焉。參官等遂發途於血鹿。於是、日羅、自桑市村遷難波館。德爾等、晝夜相計將欲殺。時、日羅、身光有如火焰、由是德爾等恐而不殺。遂於十二月晦、候失光、殺。日羅、更蘇生曰「此是、我駈使奴等所爲、非新羅也。」言畢而死。屬是時、有新羅使。故、云爾也。

天皇、詔贄子大連・糠手子連令收葬於小郡西畔丘前、以其妻子・水手等居于石川。於是、大伴糠手子連議曰「聚居一處、恐生其變。」乃以妻子居于石川百濟村、水手等居于石川大伴村。收縛德爾等、置於下百濟阿田村。遣數大夫推問其事、德爾等伏罪言「信是、恩率・參官教使爲也。僕等、爲人之下不敢違矣。」

由是、下獄、復命於朝庭。乃遣使於葦北、悉召日羅眷屬、賜德爾等任情決罪。是時、葦北君等、受而皆殺、投彌賣嶋。彌賣嶋、蓋姬嶋也。以日羅、移葬於葦北。於後、海畔者言「恩率之船、被風沒海。參官之船、漂泊津嶋、乃始得歸。」

第三は、百済僧 10 人、一般人 75 人が暴風により葦北に漂着した記事である（A.D.609）。

日本書紀　巻第廿二　推古天皇一七年

十七年夏四月丁酉朔庚子、筑紫大宰奏上言「百濟僧道欣・惠彌爲首一十人・俗七十五人、泊于肥後國葦北津。」是時、遣難波吉士德摩呂・船史龍、以問之曰、何來也。對曰「百濟王命以遣於吳國、其國有亂不得入。更返於本鄕、忽逢暴風、漂蕩海中。然、有大幸而泊于聖帝之邊境、以歡喜。」

五月丁卯朔壬午、德摩呂等復奏之。則返德摩呂・龍二人而副百濟人等、送本國。至于對馬、以道人等十一皆請之欲留、乃上表而留之、因令住元興寺。秋九月、小野臣妹子等至自大唐、唯通事福利不來。

第四は、災害記事である（A.D.744）。八代、天草、葦北という不知火海をとりまく地域が被災しており、不知火海の海底断層が動いた地震、と考えてよい。

続日本紀　巻第十五　天平一六年

五月庚戌。肥後国雷雨、地震。八代。天草。葦北三郡官舍。并田二百九十余町。民家四百七十余区。人千五百廿余口、被水漂没。山崩二百八十余所。有圧死人四十余人。並加賑恤。

第五は、瑞兆記事である（A.D.768）。赤目の白亀（albino）、白髪尾の青馬（優駿）を献じたことにより、国は庸、群は庸調を免ぜられ、献上者は従八位下に叙せられるとともに数多の恩典を得ている。

続日本紀　巻第廿九　神護景雲二年

（九月）辛巳。勅。今年七月八日。得参河国碧海郡人長谷部文選所献白烏。又同月十一日。得肥後国葦北郡人刑部広瀬女。日向国宮埼郡人大伴人益所献、白亀赤眼。青馬白髪尾。並付所司。令勘図諜。奏称。顧野王符瑞図曰。白烏者大陽之精也。孝経援神契曰。徳至鳥獣。則白烏下。史記曰。神亀者天下之宝也。与物変化。四時変色。居而自匿。伏而不食。春蒼夏赤。秋白冬黒。熊氏瑞応図曰。王者不偏不党。尊用耆老。不失故旧。徳沢流洽。

表2 葦北地域の史料変遷

時期	場所	官位等	施設	その他	出典
A.D.573	新羅、任那、百濟、火、葦北、紀、吉備、海部、韓、児島、阿斗桑市、筑紫、壹伎、對馬、血鹿、石川、彌賣嶋、姫嶋、津嶋	天皇、造、達率、直、国主、恩率、参官、柁師、德率、次干德、水手、大夫、刑部、靱部、黎民、連、臣、国造、伴造、百姓、兵、國王、太佐平、王子、王	屯倉,難波館、檜隈宮、廳、小郡	日羅、阿利斯登	日本書紀
A.D.609	筑紫、百済、肥後國、葦北津、呉国、對馬、大唐	大宰、僧、俗、百済王、聖帝、臣	元興寺	道欣、惠彌	日本書紀
A.D.704	野坂浦			長田王	万葉集
A.D.744	肥後国、八代、天草、葦北	人	官舎、民家		続日本紀
A.D.768	三河国、碧海郡、肥後国、葦北郡、日向国、宮埼郡	郡人、従八位下、少初位上			続日本紀
A.D.770	肥後国、葦北郡、益城郡	郡人			続日本紀
A.D.772	肥後国、葦北郡、八代郡、高分				続日本紀

則霊亀出。顧野王符瑞図曰。青馬白髪尾者神馬也。孝経援神契曰。徳協道行。政至山陵。則沢出神馬。仍勘瑞式。白烏是為中瑞。霊亀・神馬並合大瑞。朕以菲薄。頻荷鴻貺。思順先典式覃恵沢。宜免肥後。日向両国今年之庸。但瑞出郡者。特免調庸。大伴人益。刑部広瀬女。並授従八位下。賜絁各十疋。綿廿屯。貲布卅端。正税一千束。長谷部文選授少初位上。賜正税五百束。又父子之際。因心天性。恩賞所被、事須同沐。人益父村上者。恕以縁党。宜放入京。又先是勅。

第六は、瑞兆記事である（A.D.770）。白亀を献じたことが改元の契機となり、多くの人々が昇進、恩賜、減税等、数多の恩典に浴した。

続日本紀　巻第卅一　宝亀元年

宝亀元年冬十月己丑朔。即天皇位於大極殿。改元宝亀。（中略）今年八月五日、肥後国葦北郡人日奉部広主売献白亀。又同月十七日、同国益城郡人山稲主献白亀。此則並合大瑞。故天地貺大瑞者、受被賜歓、受被賜可貴物〈爾〉在。是以、改神護景雲四年為宝亀元年。又仕奉人等中〈爾〉、志〈何〉仕奉状随〈弖〉、一二人等冠位上賜〈比〉治賜〈布〉。又大赦天下。又天下六位已下有位人等給位一階。大神宮始〈弖〉諸社之禰宜等給位一階。又僧綱始〈弖〉諸寺師位僧尼等〈爾〉御物布施賜〈布〉。又高年人等養賜。又困乏人等恵賜〈布〉。又孝義有人等、其事免賜。又今年天下田租免賜〈久止〉宣天皇勅、衆聞食宣。」（後略）

最後は、同じく瑞兆記事である（A.D.772）。白亀を献じたが、恩典は繊維製品に限られた。

続日本紀　巻第卅二　宝亀三年

（十月）戊午。肥後国葦北郡家部嶋吉。八代郡高分部福那理。各献白亀。賜絁人十疋。綿廿屯。布卅端。

柳の下の泥鰌も三匹で尽きたことになるが、以上の記事７編は以下のように変遷している、と捉えてよい。

(1) 旧い記事は、国際性に富み、政治、軍事の側面を併せもつとともに、葦北地域を発信源とする起動性をそなえる。6 世紀。

(2) 次に、政治、軍事の双璧が、宗教、経済に代替し、台風等の自然現象により、偶然、外来の事項がもたらされる、受動性の内容となる。7 世紀。

(3) 新しい記事は、瑞兆という宗教的側面にのみ起因するようになり、経済的側面は献上に対する下賜といった従属性を帯びる。まず栄典要素が削がれ、次に賜物が減じられる。8 世紀。

以上の変遷は、その各過程においても同じ傾向を保持している。活動範囲を例にとれば、旧い時期に東アジアから九州管内へと縮減するのと同様、新しい時期においても、瑞兆献上の際に同期同調する相手は、日向国宮崎から肥後国益城、肥後国阿八代へと次第に近隣へ縮減し、全体の傾向は保持されている。記事主体を例にとれば、旧い時期に政治、軍事を背景として自ら得ていた財利が見いだせなくなった後、新しい時期には地域、個人の順に恩典の対象からはずされているため、国、地域、個人へと、より基層的な階層、集団へと主体が移っている。

すなわち、国家形成期における葦北地域はその主体性、栄誉財利の減衰を指向して遷移した、と捉えることができるのである。

1-3　調査の方法

1-3-1　調査手順の概要

花岡木崎遺跡の発掘調査は、発掘作業及び整理作業に大別される。発掘作業は現地（葦北郡芦北町大字花岡）で実施し、整理作業は熊本県文化財資料室（熊本市南区城南町沈目）で実施した。

発掘作業は、表土剥ぎ、包含層及び遺構の掘削、調査記録の作成の順で実施した。

(1)　表土剥ぎは、現代の耕作層等を重機を用いて除去した。

(2)　包含層及び遺構の掘削は、人力により精査した。また、遺構埋土の回収と水洗による微細遺物の検出及び分布の把握等、目的に応じた精査手法も採用した。

(3)　記録作成に際しては、実測用紙は 1mm 方眼紙、光波測距儀を用いた実測、中判カメラ及び 35mm カメラを用いた撮影、航空写真の撮影等の手法により実施した。

なお、出土遺物の水洗作業及び註記作業を発掘調査と併行して実施し、一部の土器類は現場で復元する等、見学者の便を図った。

整理作業は、遺物の洗浄、選別、註記、登録、接合、復元といった一次整理、並びに、観察、実測、拓本、撮影、トレース、版組、記述といった二次整理の工程により進めた。これら整理作業に際しても、デジタル手法の採用等により、作業の合理化、迅速化を図っている。

1-3-2　発掘作業の方法

発掘調査に際しては、グリッド法及び分層発掘法をもちいて、発掘作業をおこなった。

なお、発掘作業は担当調査員の異動により変化している。

グリッド

グリッドは、本来、調査対象範囲全体を包括するグリッド網を設定するべきである。しかし、花岡木崎遺跡の調査では、平面直角座標系に準じて 10m グリッドを設定した点は共通するものの、結果として 3 つの異なるグリッド網が設置されている。

調査区 1 区グリッド網

最初に設定されたグリッド網は、調査区 1 区を対象として設定された調査区 1 区グリッド網である。この調査区 1 区グリッド網は、平面直角座標第Ⅱ系における X=-78198.496、Y=-45867.500 を起点とする。南北軸においては、起点から座標北に向かい 10 m間隔で区分し、各区間には南から北に 1 から 8 まで数字の名称を付した。東西軸も同様に 10 m間隔で区分し、各区間には西から東に A から G までアルファベットの名称を付した。なお、グリッドは、南北軸及び東西軸の区分の直交部分に 10m グリッドが設営されることとなる。また、グリッド名は、「東西軸アルファベット名称＋南北軸数字名称」と定め、「E4 グリッド」のように記述している。おって、このグリッド名は、整理作業に際しても変更することなく用いた。したがって、遺物への註記、各種図面も上記グリッド名を用いて表記している。

調査区 2 ～ 4 区グリッド網

次に設定されたグリッド網は、調査区 2 区及び 3 区を対象として設定された調査区 2、3 区グリッド網である。この調査区 2 ～ 4 区グリッド網は、平面直角座標第Ⅱ系における X=-77910.000、Y=-46080.000 を起点とする。南北軸においては、起点から座標南に向かい 10 m間隔で区分し、各区間には北から南に A から R までアルファベットの名称を付した。東西軸も同様に 10 m間隔で区分し、各区間には西から東に 1 から 18 まで、東から西に 0 から -2 までの数字の名称を付した。なお、グリッドは、南北軸及び東西軸の区分の直交部分に 10m グリッドが設営されることとなる。また、グリッド名は、「南北軸アルファベット名称＋東西軸数字名称」と定め、「E4 グリッド」、「F-2 グリッド」のように記述している。おって、このグリッド名は、整理作業に際しても変更することなく用いた。したがって、遺物への註記、各種図面も上記グリッド名を用いて表記している。

グリッド網の問題

上記の 1 区及び 2、3 区グリッド網は、遺跡全体を包括する企図がなく、遺跡全体を包括する方途が枯渇

図 8　花岡木崎遺跡調査区位置図（S=1/2000）

していた。さらに、2 ～ 4 区グリッド網は「－（マイナス）」含み「‐（ハイフン）」との誤用が生じること、1 区グリッド網は平面直角座標系との整合性に欠くことが問題点となっていた。

併せて、平成 17 年度から芦北町と熊本県がとなりあって調査する状況が生じていた。

上記の状況を勘案し、同一遺跡としての統一性を損なうことなく適切に発掘調査を進めるため、平成 18 年度から芦北町と熊本県は調査方法を整理し、調査区名称、グリッド網、層序、遺構名について協議、確認し、平成 19 年 4 月 10 日に「花岡木崎遺跡発掘調査要領」を確定した。この要領は、遺跡全体を包括し、光波測距儀等、デジタル機器に馴染み易く、数学に疎い調査員にも耐え得る仕様、を目的として定めている。調査区 5 ～ 10 区は、各調査区の調査開始時からこのグリッド網を適用し、発掘作業をおこなった。また、調査区 1 区以外の調査区は、このグリッド網に変換することができる。

花岡木崎遺跡グリッド網

グリッドは、国土座標に準拠した 10m グリッドを基本単位とし、下記の要領に基づき設定する。

なお、小グリッド又は大グリッドを設定する場合も、これに準拠する。

ア　座標系　花岡木崎遺跡座標系を国土座標に基づき設定する。

花岡木崎遺跡座標系は、遺跡全体を第 1 小限に包括するために、国土座標（X=-78300、Y=-46200）を原点とする。

イ　基準杭　グリッド南西隅の座標杭を、基準杭とする。

ウ　グリッド名　基準杭の座標値（X ＝ 100a ＋ 10b、Y=100c+10d）を、「acbd」と変換し、グリッド名とする。

例：基準杭の座標値（X=350、Y=480）の場合、グリッド名は「3458」である。

分層

調査区 1 ～ 4 区の調査では分層の指針はなく、調査区毎に分層し、任意に層名を付している。例えば、圃場整備が行われたのちに形成された現代の水田を 10-1 ～ 10-5 までの 5 層に分層し水田①～⑤として記載する（調査区 2 区北壁）と同時に、2a ～ 2c までの 3 層に分層し各々床土として記載する（調査区 2 区西壁）といった具合である。

このような状況に鑑み、先述のグリッド網と同様、平成 19 年 4 月 10 日に「花岡木崎遺跡発掘調査要領」を確定し、爾後の作業適正化を図った。

花岡木崎遺跡分層法

層位は、遺構外の層序（以下「基本土層」という。）及び遺構内の層序（以下「遺構埋土」という。）とに分類し、各分類ごとに分層する。

ア　層位名　層位名は、上層から、算用数字を用い「χ層」と標記する。

なお、漸移層等、細分した層位については、上層から「a」、「b」、「c」…とアルファベット小文字を付加する。

例：基本土層第2層の場合、標記は「2層」となり、細分は、「2a 層」、「2b 層」…となる。

イ　註　記　註記は、次に示す項目を記す。

(ア) 土色（色彩） 黒褐色、赤褐色、黄灰色 等

(イ) 土種（粒度） 礫、砂、シルト、粘土 等

(ウ) 成分（混合物） 黄褐色パミス混、砂礫混、焼土混 等

(エ) その他　しまり、粘性、被熱等の強弱、その他

ウ　層序間の調整　基本土層と遺構埋土とは、遺構の生活面、堀込面又は確認面における相互の関係を記す。

エ　基本層序　基本層序は以下のとおり。

1 層：表土

2 層：旧耕作土

3 層：包含層

4 層：遺構確認面相当の地山

〔文献〕

小山正忠、竹原秀雄 1967『新版標準土色帖』2001 年版、日本色研事業株式会社

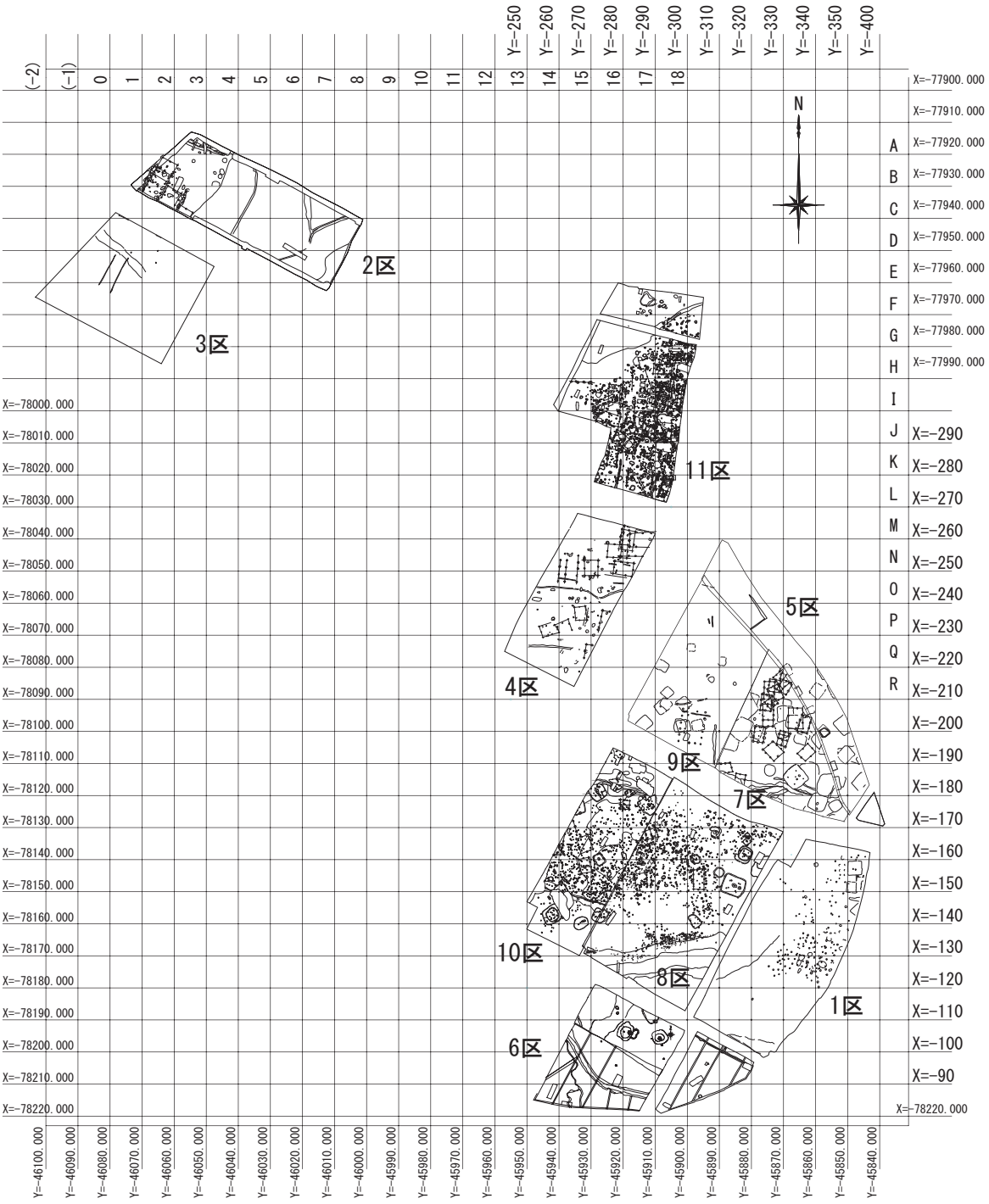


図 9　花岡木崎遺跡　グリット配置図（1/2,000）

遺構

当初から、検出遺構には各調査区ごとに遺構記号と遺構番号を合せ付した略号を附し、遺物の取り上げ、遺構実測、写真撮影、調査日誌への記述等、記録の作成にもちいてきた。

調査区 1 ～ 4 区の調査では、遺構記号として「S」を付し、遺構の種別を問わず 3 桁の連番「abc」を付し、例えば「S003」と表記して遺構略号としている。しかし、第一に遺構の種別が不明であり、第二に遺構数が最大 999 基と限る根拠はなく、第三に「0（数字）」は「O（アルファベット）」と誤解されやすい、といった不具合をもつ。

このような状況に鑑み、先述のグリッド網、層序と同様、平成 19 年 4 月 10 日に「花岡木崎遺跡発掘調査要領」を確定し、爾後の作業適正化を図った。

花岡木崎遺跡の遺構名

遺構は、主要な遺構（下表左列）と、その他の遺構（ピット群）とに分別する。

主要な遺構は、各調査区ごとに、その種類に関係なく連番（以下「遺構番号」という。）を附す。

その他の遺構は、各調査区ごとに、その種類に関係なく連番を附す。

遺構の種別は、その遺構番号の頭に次表に示す略号を附し、分類する。遺構番号を付した後に複数の遺構が一つの遺構を構成することが判明した場合は、最小の遺構番号をもって新たに判明した遺構の遺構番号とし、その他の番号は欠番とする。

遺物

遺物は、随時、各グリッド、各層位に分別して取り上げた。

出土位置の記録が必要な遺物には、各調査区において、その種類に関係なく連番（以下「遺物番号」という。）を附し、光波測距儀を用いて出土地点を計測した。なお、遺物番号の欠番は、原則的に有り得ない。

図面等

遺構実測図は、1/20 縮尺を用いた。

なお、実測に係る基点は、各遺構ごとにA－A'、B－B'と表記し、その位置が判るように適当な座標値を記入した。

また、一遺構につき原則 1 枚の用紙に各実測図を併載した。必要に応じ、複数の用紙に実測図を記載する場合は、平面図、断面図、特殊図面（一部拡大図等）の種別に応じて分類し、記載している。

おって、調査区名、遺構名、実測者名、実測日、遺構の規模に係る各種計測値（実測値）、観察所感 等を記載するように努めた。

表3　遺構と遺物の略号

遺構

記号	種類
SA	柵、土塁、塀
SB	建物
SC	廓
SD	溝
SE	井戸
SG	苑池
SH	広場
SK	土壙
SX	その他
P	ピット、柱穴

遺物

記号	種類
RM	金属製品
RN	自然遺物
RP	土製品
RQ	石製品
RU	繊維製品
RW	木製品

1-3-3　整理作業の方法

整理に際しては、作業の迅速化及び効率化を図るため、その機械化及び電子化を推進している。

現地調査事務所

出土品の大半は現地調査の時に現地調査事務所で水洗し、註記した。一部の土器は接合し、必要な復元を講じて芦北町文化祭等で公開している。

なお、炭化物等、微細遺物の検出を目的として遺構埋土等、土壌の水洗を実施している。炭化物の検出を目的とした土壌水洗は、熊本大学考古学研究室から水洗選別機を借用し、現地において実施した。

また、現地調査事務所においても、すべての水洗作業は水道水（簡易水道を含む）を使用して実施した。

文化財資料室

文化財資料室における一次整理は、土器等の接合作業から開始されている。

接合作業は、調査区を作業単位として展開し、まず、

遺構またはグリッド（10m グリッド）を単位として接合を実施し、後、遺構とグリッド、さらに隣接グリッドとの相互接合を実施した。なお、土器の接合には接着剤「セメダイン C」（セメダイン会社製）を用いた。

復元作業は、調査区を作業単位として実施した。なお、土器の復元には修復材「デンカ・キューテックス」（東郷化成株式会社製）を用いた。

文化財資料室における二次整理は、実測及び製図作業である。作業量が二次整理担当の処理能力を上回るため、その一部は外部に委託している。

実測作業は、小型の石器類等、一次整理の成果を待つことなく実測できる遺物から開始し、順次、復元作業が終了した土器の実測に移っている。なお、遺物の種類を問わず、実測はすべて縮尺 1/1 で実施し、実測用紙には 1mm 方眼紙を用いた。

製図作業は、電子トレース方式で実施した。電子トレースは、実測図をスキャンした後、電子トレースソフト「トレースくん」（株式会社 CUBIC 製）を用いた。

なお、土器等の整理作業に際しては、接合作業の後、順次、遺物に連番を付し（実測番号）、復元、実測、製図作業を実施した。このため、遺構等、出土単位内で実測番号が連続するとは限らない。この報告書では、読者の便を図るため、この実測番号を用いず、掲載図版の順に図版番号を付し、図版番号を用いて本文を記述している。

2 花岡木崎遺跡の調査

花岡木崎遺跡は、熊本県菊北郡芦北町大字花岡に所在する遺跡である。

花岡木崎遺跡の西には、佐敷川が西流し、その左岸には花岡木崎遺跡、右岸には花岡古町遺跡が位置する。遺跡が所在する佐敷には中世城が 2 城存在する。佐敷城（花岡城）と東の城（栴の山城）であり、東の城から佐敷城に遷移する。花岡古町遺跡は、東の城の城下町に相当する位置をとり、人吉往還の走向と同主軸をとる掘立柱建物等により構成された集落跡である。

既往調査には、平成 15 年度から 17 年度まで熊本県教育庁が熊本県土木部の依頼を受け実施した発掘調査（『花岡古町遺跡』熊本県文化財調査報告第 273 集）、平成 17 年度以降に芦北町教育委員会が国土交通省の依頼を受け実施した発掘調査（『花岡木崎遺跡』芦北町文化財調査報告 3 他）がある。

今次調査では遺跡の範囲のうちインターチェンジ等を構成する工事予定区を 11 の調査区に分割し、芦北町教育委員会が 8、10、11 区、熊本県教育庁が 1 ～ 7、9 区を調査している。

なお、墨書土器、箆書土器等、文字資料が多く出土している。

なかでも、古代駅伝制に係る「佐色駅」木簡が出土したことは、この地に駅家が存在していたこと、ひいては芦北町佐敷の地が交通の要衝として重要な位置を占めていたことを指し示している。

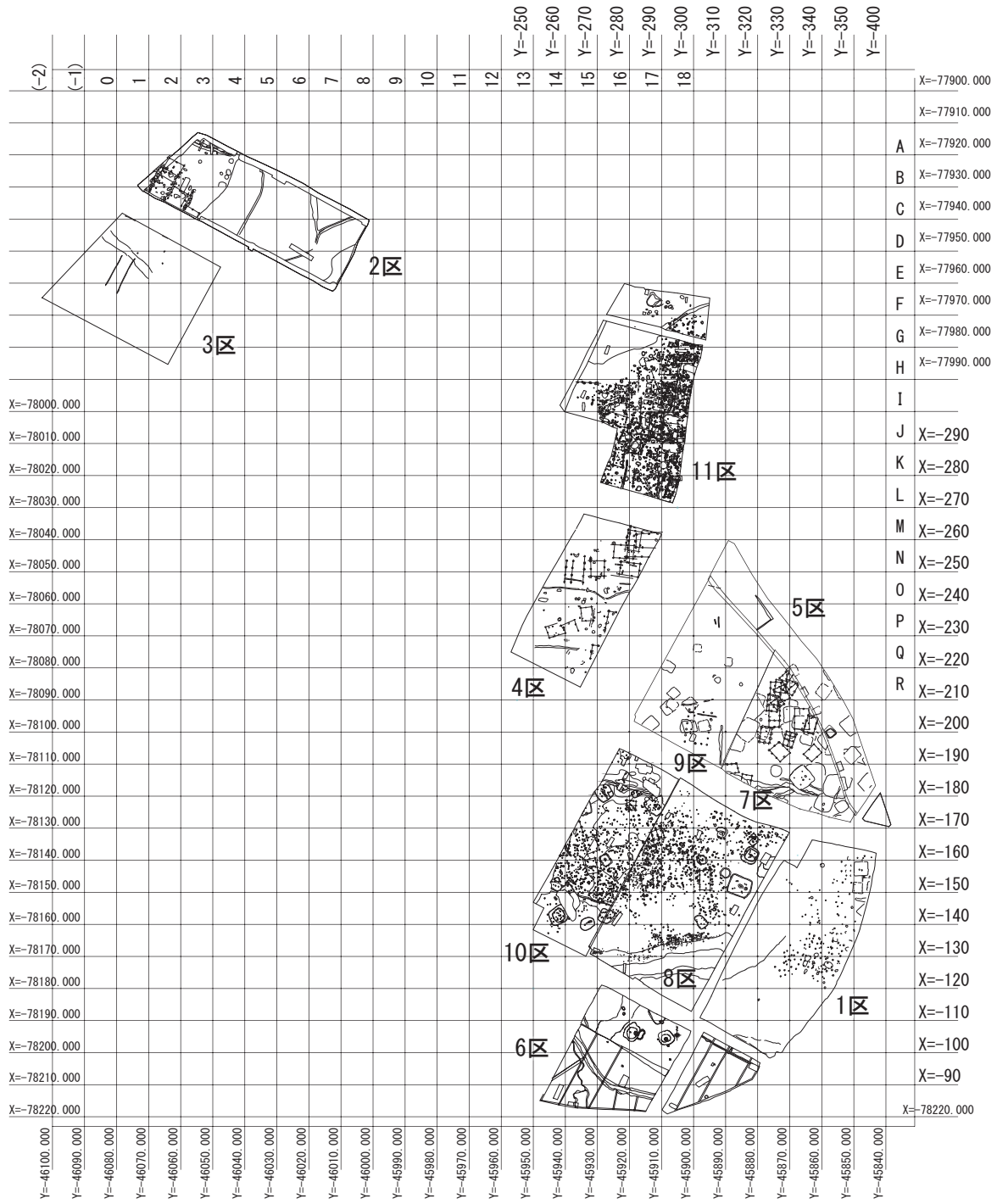


図９　花岡木崎遺跡　グリッド配置図（1/2,000）　※　再掲

2-1　花岡木崎遺跡 1 区の調査

2-1-1　調査区 1 区の概要

調査区 1 区は、花岡木崎遺跡の南東縁辺部に位置する。面積は約 2,200㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 4,400㎡である。調査区 1 区の発掘調査は、宮部武典（文化財保護主事）及び上高原聡（非常勤嘱託）が担当した。

2-1-2　調査区 1 区のグリッド網

調査区 1 区を対象として設定された調査区 1 区グリッド網は、平面直角座標第Ⅱ系における X=-78198.496、Y=-45867.500 を起点とし、10m グリッドを設定した。南北軸においては、起点から座標北に向かい 10 m間隔で区分し、各区間には南から北に 1 から 8 まで数字の名称を付した。東西軸も同様に 10 m間隔で区分し、各区間には西から東に A から G までアルファベットの名称を付した。なお､グリッドは､

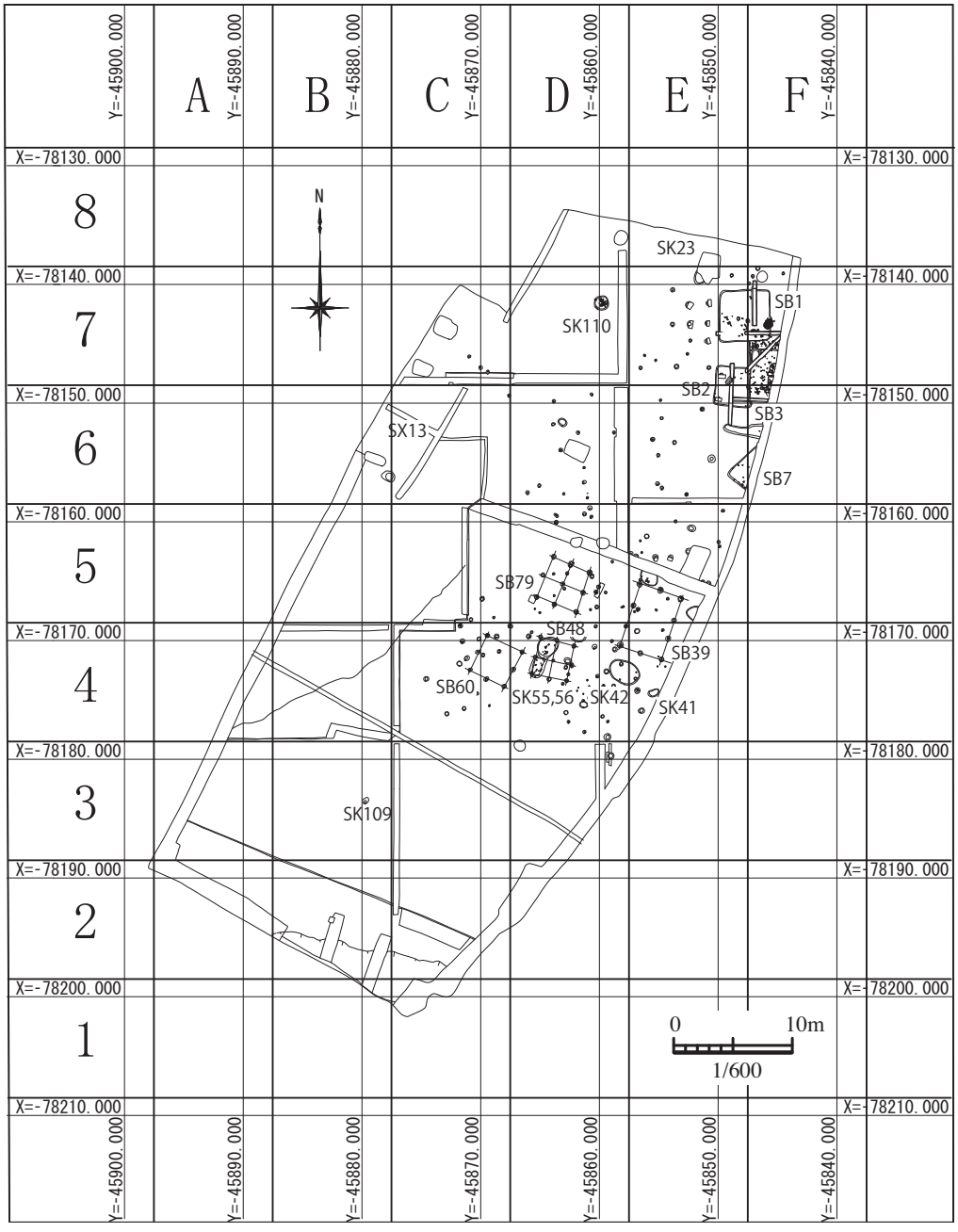
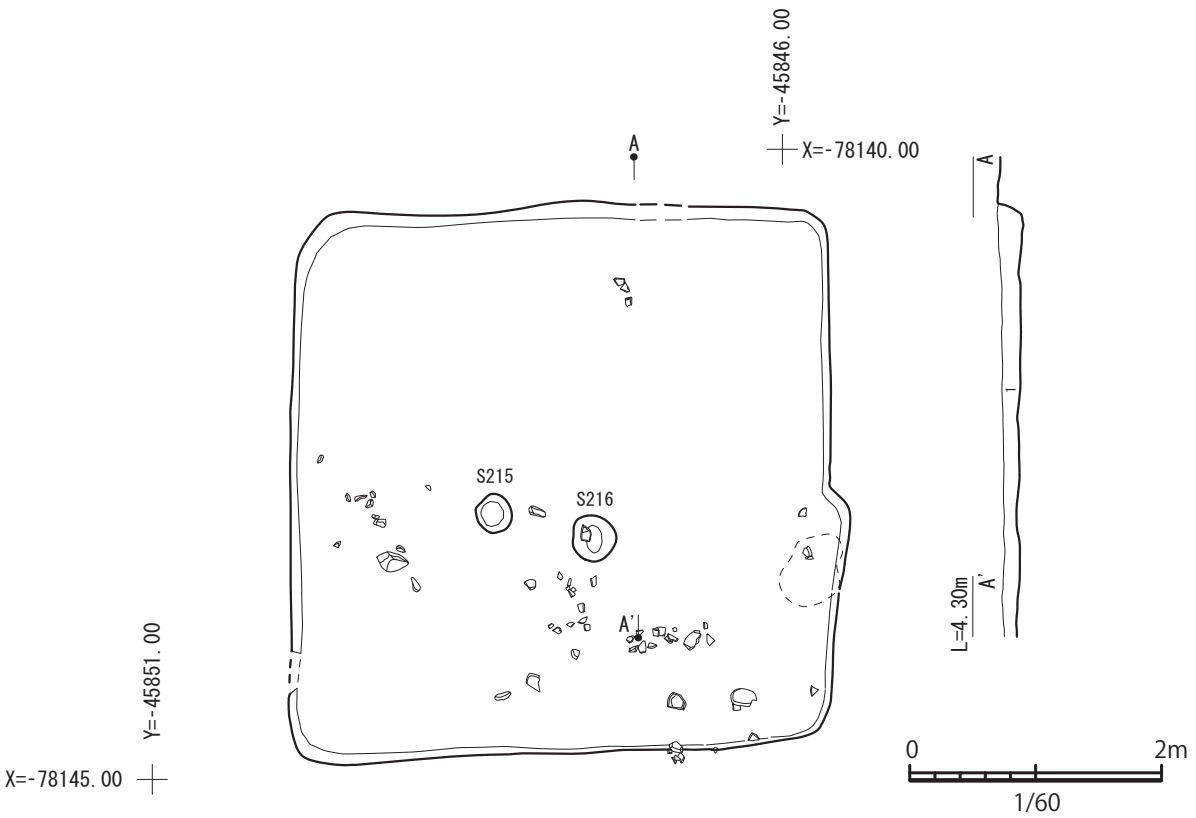


図 10　1 区遺構配置図



1　暗褐色土（10YR3/3）しまりあり、弱粘性、マンガンを含む。炭化物、遺物を多く含む。焼土粒あり。

図 11　SB1 実測図（1/60）

南北軸及び東西軸の区分の直交部分に 10m グリッドが設営されることとなる。また、グリッド名は、「東西軸アルファベット名称＋南北軸数字名称」と定め、「E4 グリッド」のように記述している。おって、このグリッド名は、整理作業に際しても変更することなく用いた。したがって、遺物への註記、各種図面も上記グリッド名を用いて表記している。

2-1-3　調査区 1 区の遺構と遺物

調査区 1 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

竪穴住居 1（SB1）

SB1 は、正方形を呈し、2 本柱を備えた竪穴住居である。炉等の付帯施設は、確認していない。E7 グリッドに位置する。

SB1 の法量は、南北 4.3 m、東西 4.4 mを測り、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

床面から柱穴 2 基を検出した。S215 は、SB1 の中央部に設けられ、直径 28 ～ 33cm の円形を呈し、床面から 15cm の深さを測る。S216 は直径 33 ～ 37cm の円形を呈し、床面からの深さ 23㎝を測る。いずれの柱穴も、竪穴住居の定型的な主柱（穴）の位置ではない箇所から検出された。

SB1 からは、土師器、須恵器を検出している。これらの遺物は、SB1 の南半部から出土しており、S215、S216 はその遺物分布範囲の北限に位置している。

RP1 ～ 8 は土師器である。

RP1 は坏である。口径 13.2cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、雲母、石英が観察される。この坏は、外面調整はナデ、内面調整もナデにより製作され、焼成は良である。

RP2 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 15cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面

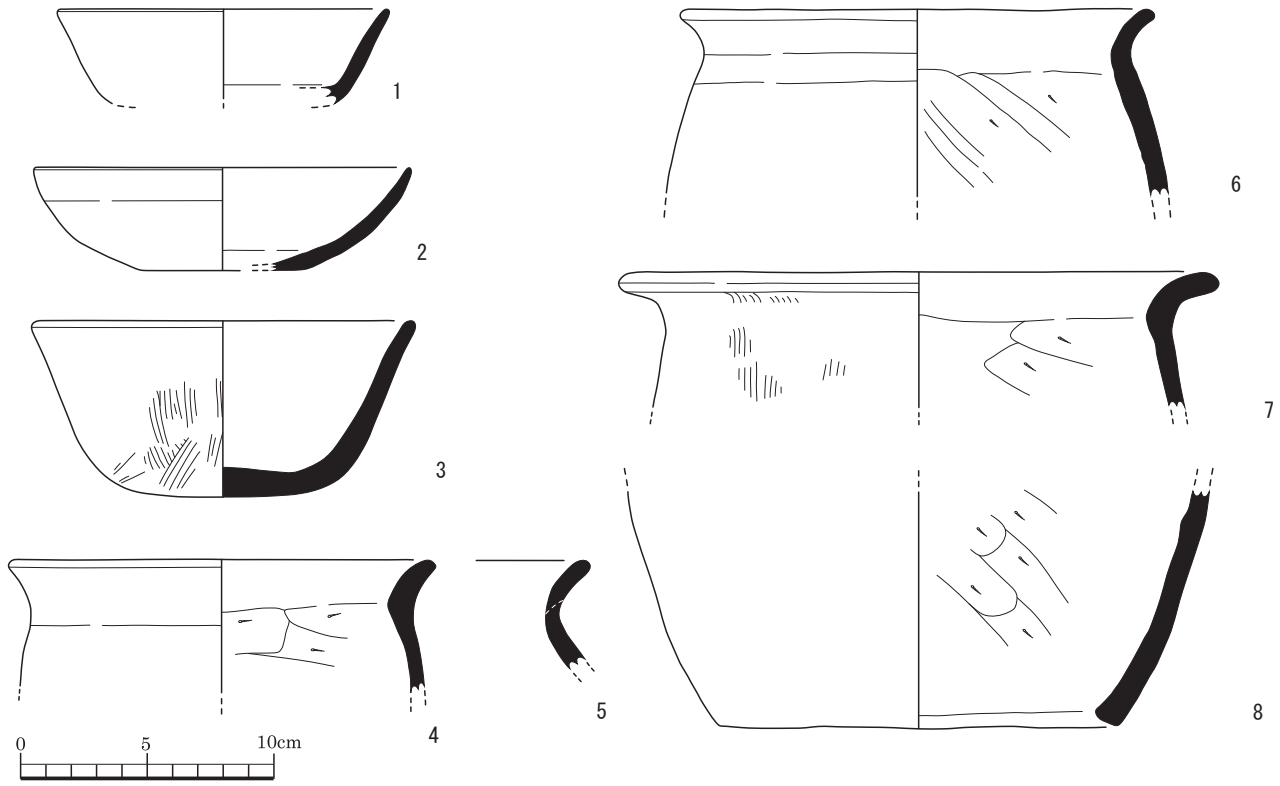


図 12　SB1 出土土器（RP）実測図

も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP3 は鉢である。口径 15.5cm、底径 7.6cm、器高 7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石赤色粒子、黒色粒子が観察される。この鉢は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、ナデ、内面調整は指頭圧痕、ナデ、工具ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP4 は甕である。口径 17cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP5 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 4.2cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、赤色粒子、粗砂、長石、角閃石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP6 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 18.9cm、器高 7.4cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP7 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 23.8cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP8 は甑である。底径 15.8cm、器高 9.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、雲母、石英、礫が観察される。この甑は、外面調整は工具ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP9 ～ 16 は須恵器である。

RP9 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径

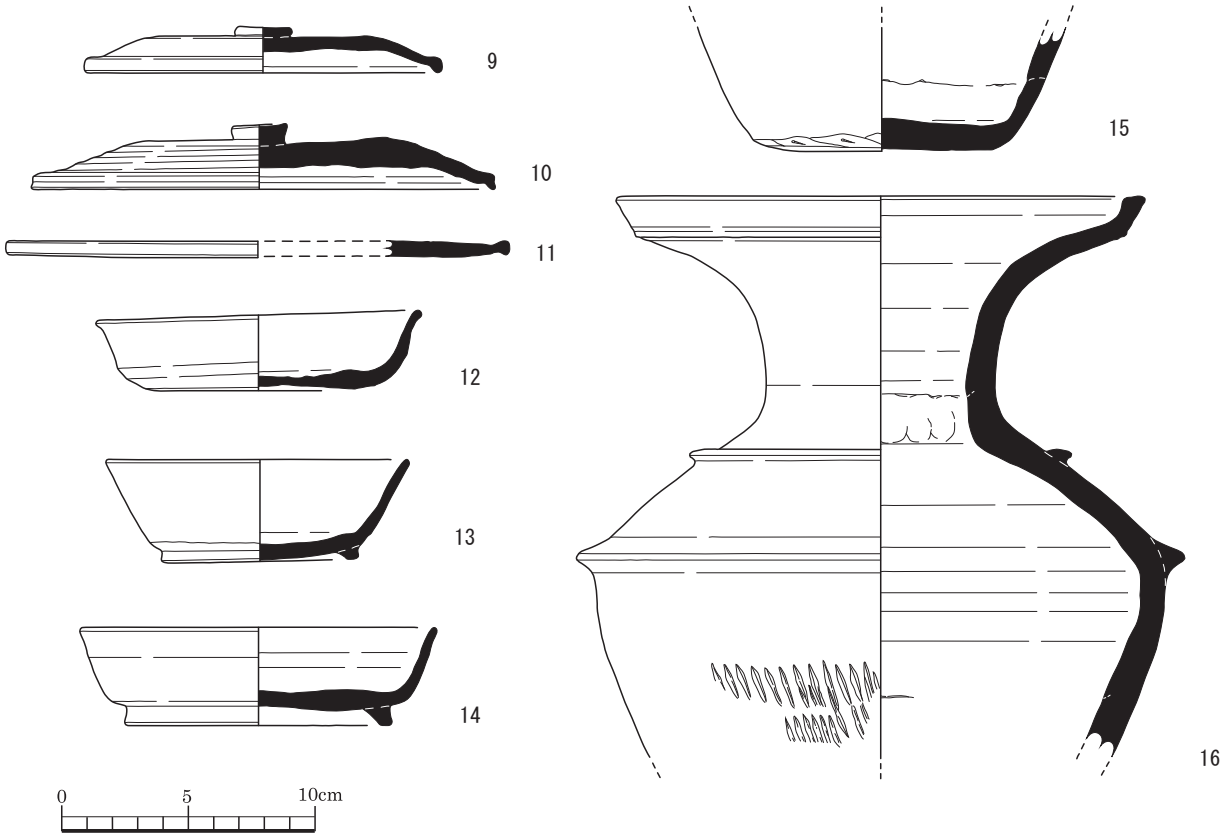


図 13　SB1 出土土器（RP）実測図

14.2cm、器高 1.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP10 は蓋であり、一括から出土した。口径 18.4cm、器高 2.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP11 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 20.0cm、器高 0.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP12 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.9cm、底径 9.1cm、器高 3.0cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP13 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 12.0cm、底径 7.8cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP14 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 14.2cm、底径 10.6cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP15 は壺であり、埋 1 層から出土した。底径 8.9cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この

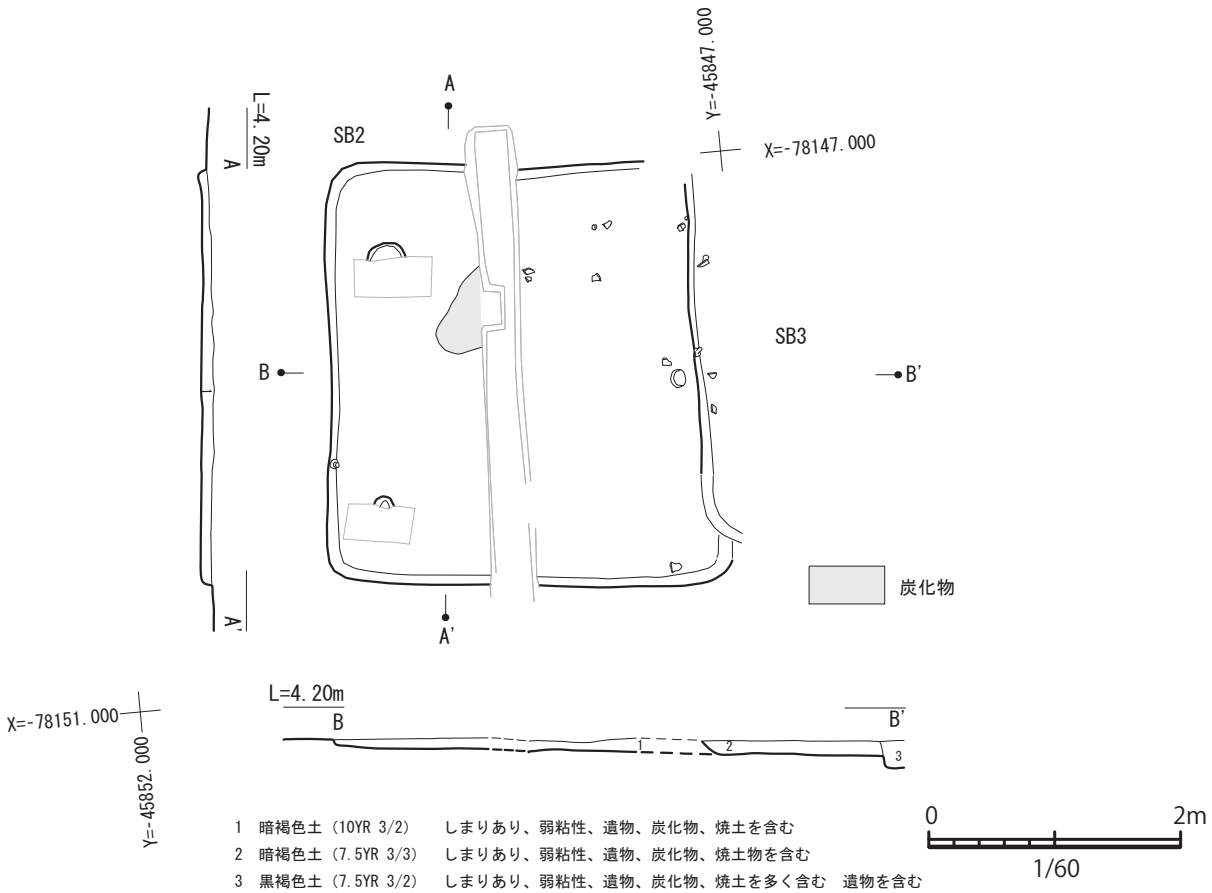


図 14　SB2 実測図（1/60）

壺は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデ、工具痕により製作され、焼成は良好である。

RP16 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 21.2cm、器高 23.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白、浅黄橙色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、貼付突帯、ヨコナデ、工具による縦位沈線文、内面調整は輪積痕、指オサエ、回転ナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 2（SB2）

SB2 は、正方形を呈し、2 本柱を検出した竪穴住居である。SB2 は SB3 に切られ、E6 グリッドに位置する。

SB2 の法量は、南北 3.3m、東西 2.9m を測り、遺構確認面からの深さ 12cm を測る。北西隅、柱穴より内側で炭化物を検出している。

SB2 からは、土師器、須恵器を検出している。

RP17 ～ 22 は土師器である。

RP17 は台付鉢である。底径 9cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は浅黄橙、にぶい橙色、内面も浅黄橙、にぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この台付鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整は工具ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP18 は壺であり、埋 1 層から出土した。器高 3.2cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP19 は甕である。器高 5.8cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコ

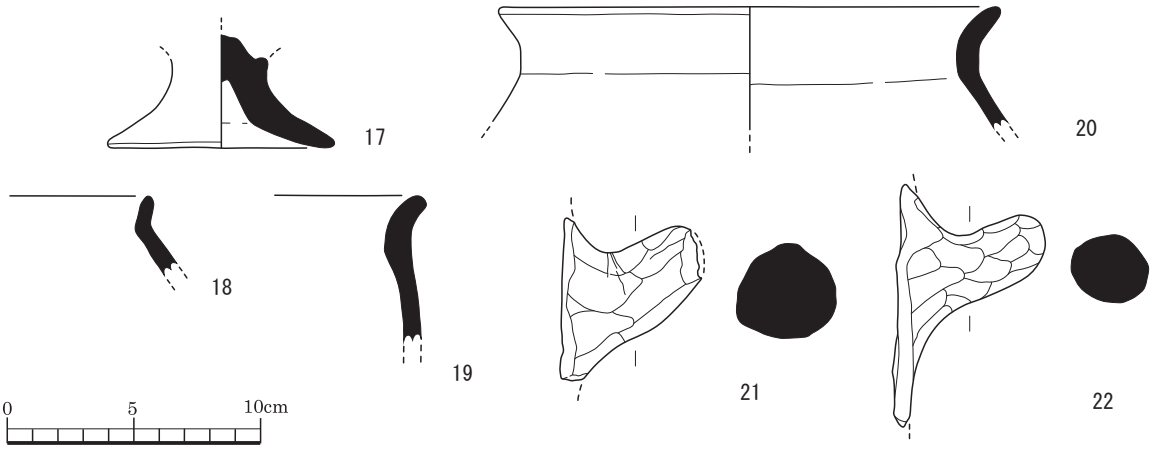


図 15　SB2 出土土器（RP）実測図

図 16　SB2 出土土器（RP）実測図

ナデにより製作され、焼成は良である。

RP20 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 19.8cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい褐色を呈し、胎土には石英、赤色粒子、長石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ケズリにより製作され、焼成は良である。

RP21 は甑である。器高 6.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甑は、外面調整は指頭圧痕のちナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP22 は甑である。器高 9.7cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甑は、外面調整は指頭圧痕、ナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP23、24 は須恵器である。

RP23 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 13.5cm、底径 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP24 は埦であり、埋 1 層から出土した。底径 9.8cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 3（SB3）

SB3 は、西半部を確認した竪穴住居である。SB3 の中央部では、SB9 が重複して検出されているが、切り合い関係は不明である。F7 グリッドに位置する。

竪穴平面形は、南北 4.1m、東西 2.0m（現存長）の長方形を呈し、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。土器片を検出している。

SB3 からは、土師器、須恵器、石器を検出している。

RP25 ～ 36 は土師器である。

RP25 は坏である。口径 12.5cm、底径 8.1cm、器高 5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石、礫が観察される。この坏は、外面調整はナデ、

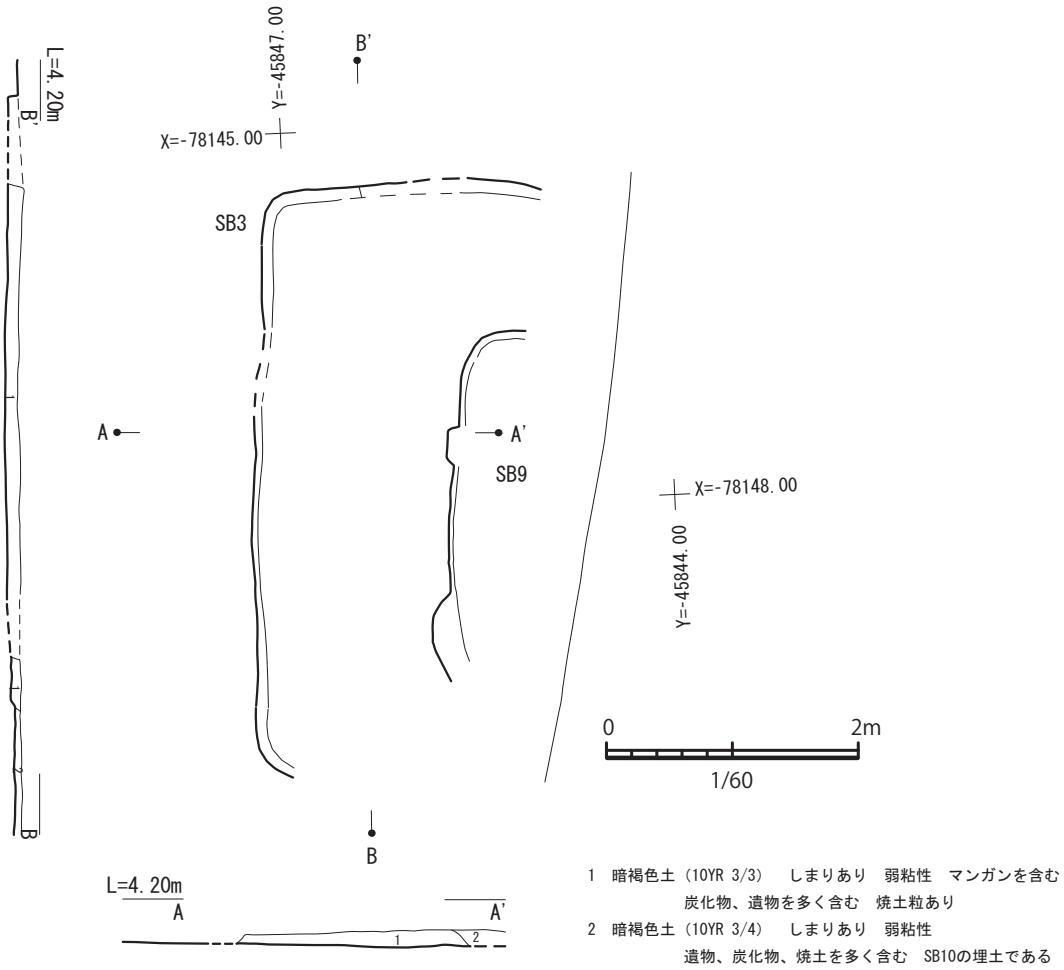


図 17　SB3 実測図（1/60）

ヨコナデ、ナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP26 は坏である。口径 15.9cm、底径 8.4cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、にぶい褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、粗砂、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、ケズリ、ナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP27 は甑であり、1 層から出土した。器高 8.1cm を測る。器面の外面は橙、にぶい褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甑は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP28 は鉢である。器高 3.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP29 は甕である。口径 18.4cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整は指頭圧痕、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP30 は甕である。口径 24cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、黒色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP31 は甕である。口径 16.2cm、器高 6.5cm を測る。

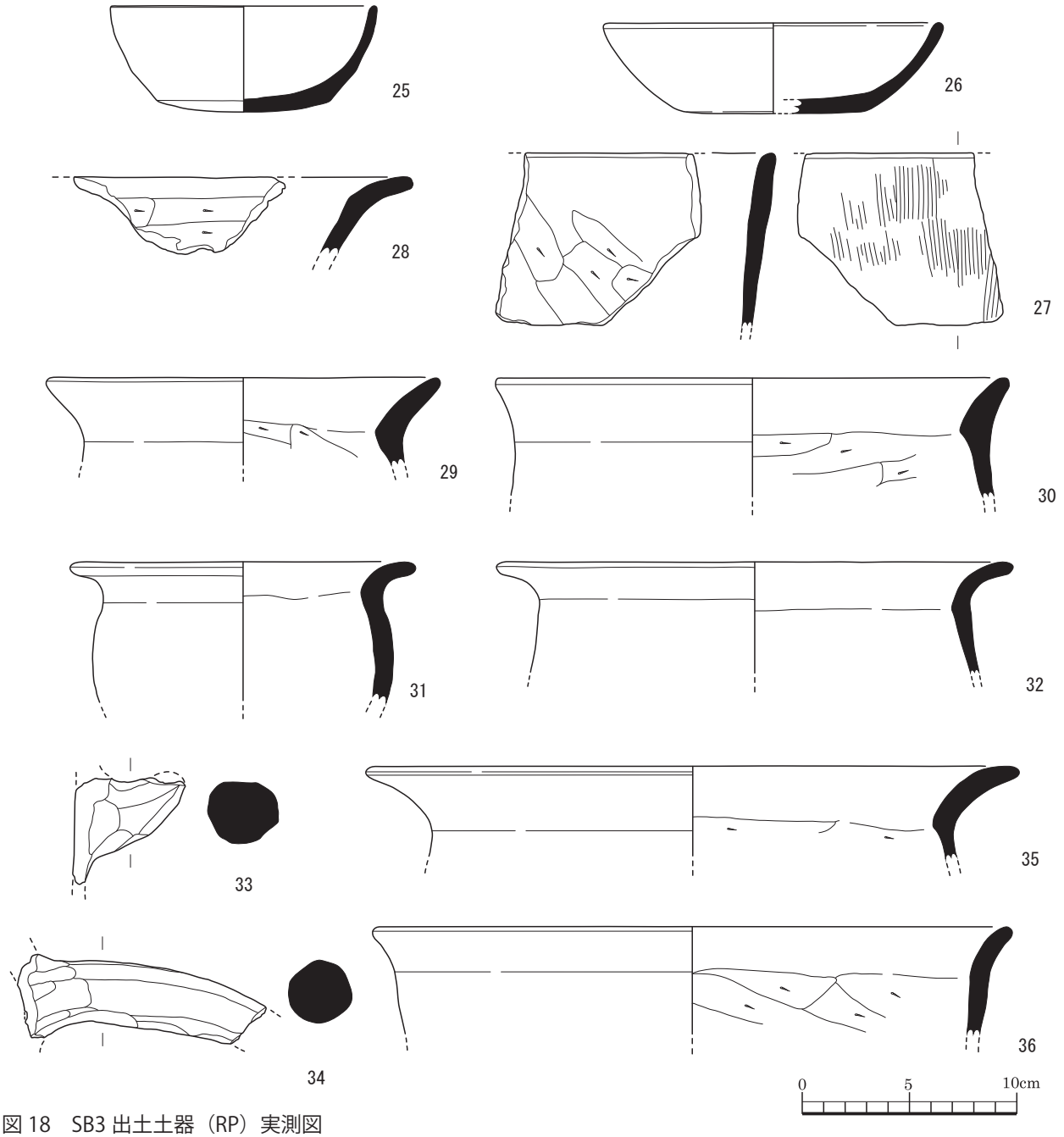


図 18　SB3 出土土器（RP）実測図

器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP32 は甕である。口径 24.2cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整は工具ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP33 は甑である。器高 5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石、礫が観察される。この甑は、外面調整は指頭圧痕、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP34 は把手である。器高 11.4cm を測る。器面の外面は橙、灰褐色、内面はにぶい褐色を呈し、胎土に

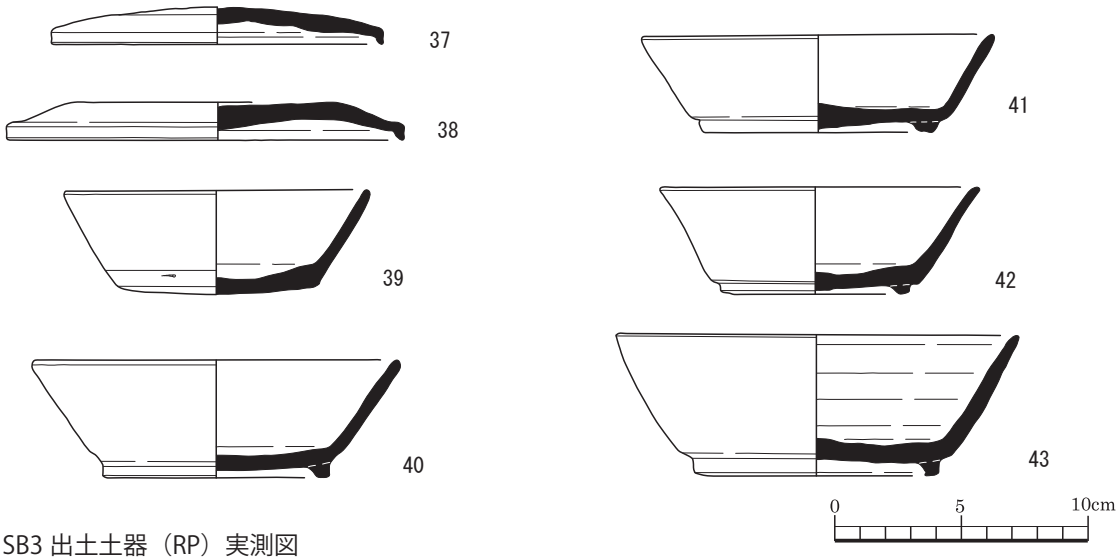


図 19　SB3 出土土器（RP）実測図

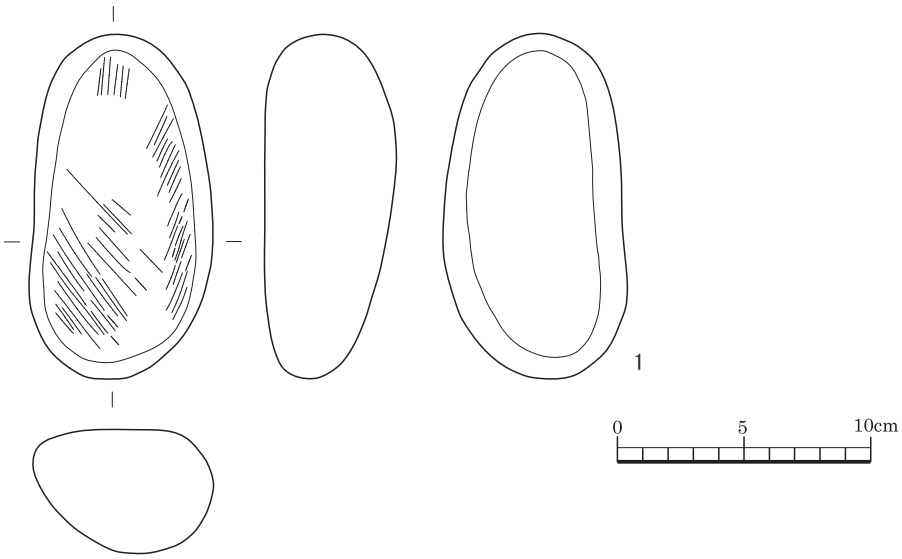


図 20　SB3 出土石器（RQ）実測図

は石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この把手は、指頭圧痕、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP35 は甕である。口径 30.6cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、黒色粒子、礫が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP36 は甕である。口径 30cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石、礫が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP37 ～ 43 は須恵器である。

RP37 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.2cm、器高 1.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP38 は蓋である。口径 16.8cm、器高 1.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、

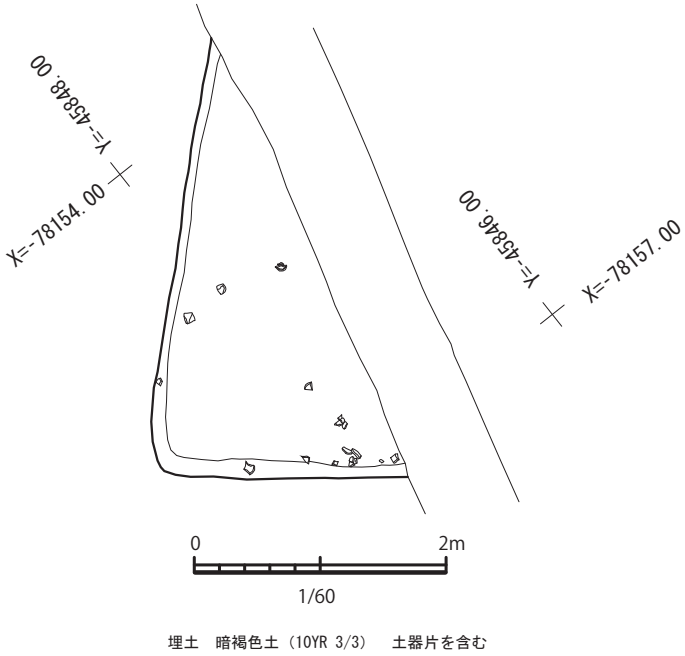


図 21　SB7 実測図（1/60）

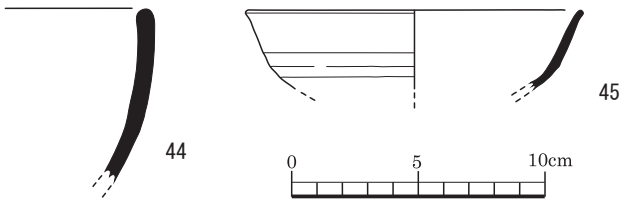


図 22　SB7 出土土器（RP）実測図

長石、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP39 は坏である。口径 12.1cm、底径 8.9cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP40 は埦である。口径 14.6cm、底径 9cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面は灰色､内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP41 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、底径 9.1cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP42 は埦である。口径 12.7cm、底径 7.5cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP43 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 16cm、底径 9.7cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面は灰褐色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RQ1 は磨石である。安山岩礫を素材としている。

竪穴住居 7（SB7）

SB7 は、南西隅を確認できただけであるため、全容不明の竪穴住居である。E6 グリッドに位置する。

SB7 は､その南西隅の西辺 2.0m､南辺 3.3m を測り、遺構確認面からの深さ 7cm を測る。

SB7 からは土師器、須恵器が出土している。

RP44 は土師器の鉢であり、埋 1 層から出土した。器高 6.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この鉢は､外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP45 は須恵器の坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.4cm、器高 3.1cm を測る。器面の外面は黄灰色､内面は灰白色を呈し､胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 8（SB8）

SB8 は、位置、形態、その他の様相が不明である。

SB8 からは土師器、須恵器が出土している。

RP46 は須恵器の蓋である。口径 14cm、器高

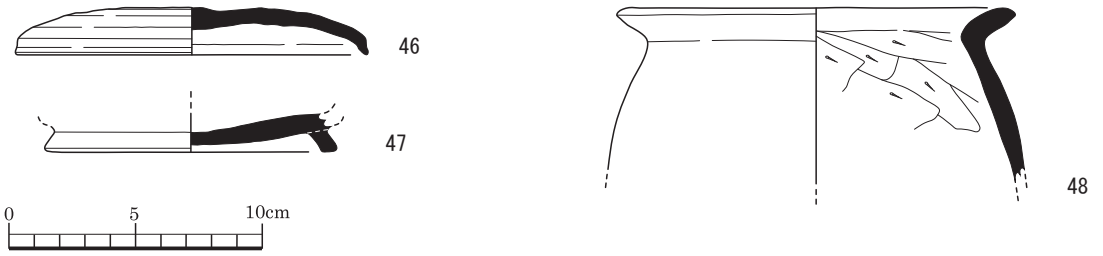


図 23　SB8 出土土器（RP）実測図

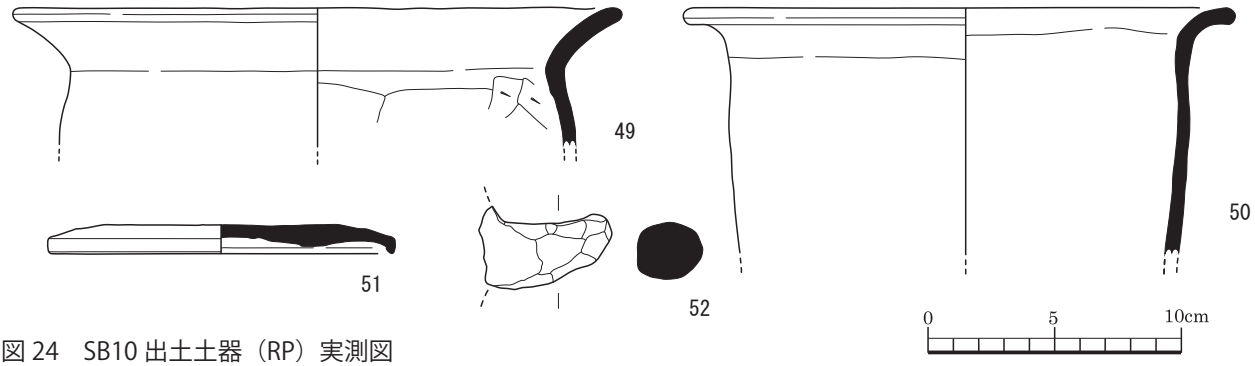


図 24　SB10 出土土器（RP）実測図

1.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP47 は土師器の埦である。底径 11.6cm、器高 2cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この埦は、外面調整はナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP48 は土師器の甕である。口径 15.8cm、器高 7cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面は灰黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、礫が観察される。この甕は、外面調整はナデ、内面調整はヘラケズリ、ナデにより製作され、焼成は不良である。

竪穴住居 9（SB9）

SB9 は、西半部を確認した竪穴住居である。SB3 の中央部に SB9 が重複して検出されているが、切り合い関係は不明である。F7 グリッドに位置する。

SB9 は、その北西隅の西辺 0.9m、北辺 0.5m を測り、遺構確認面からの深さ 4cm を測る。

遺物（RP）は出土しているものの、図示するには至らなかった。

竪穴住居 10（SB10）

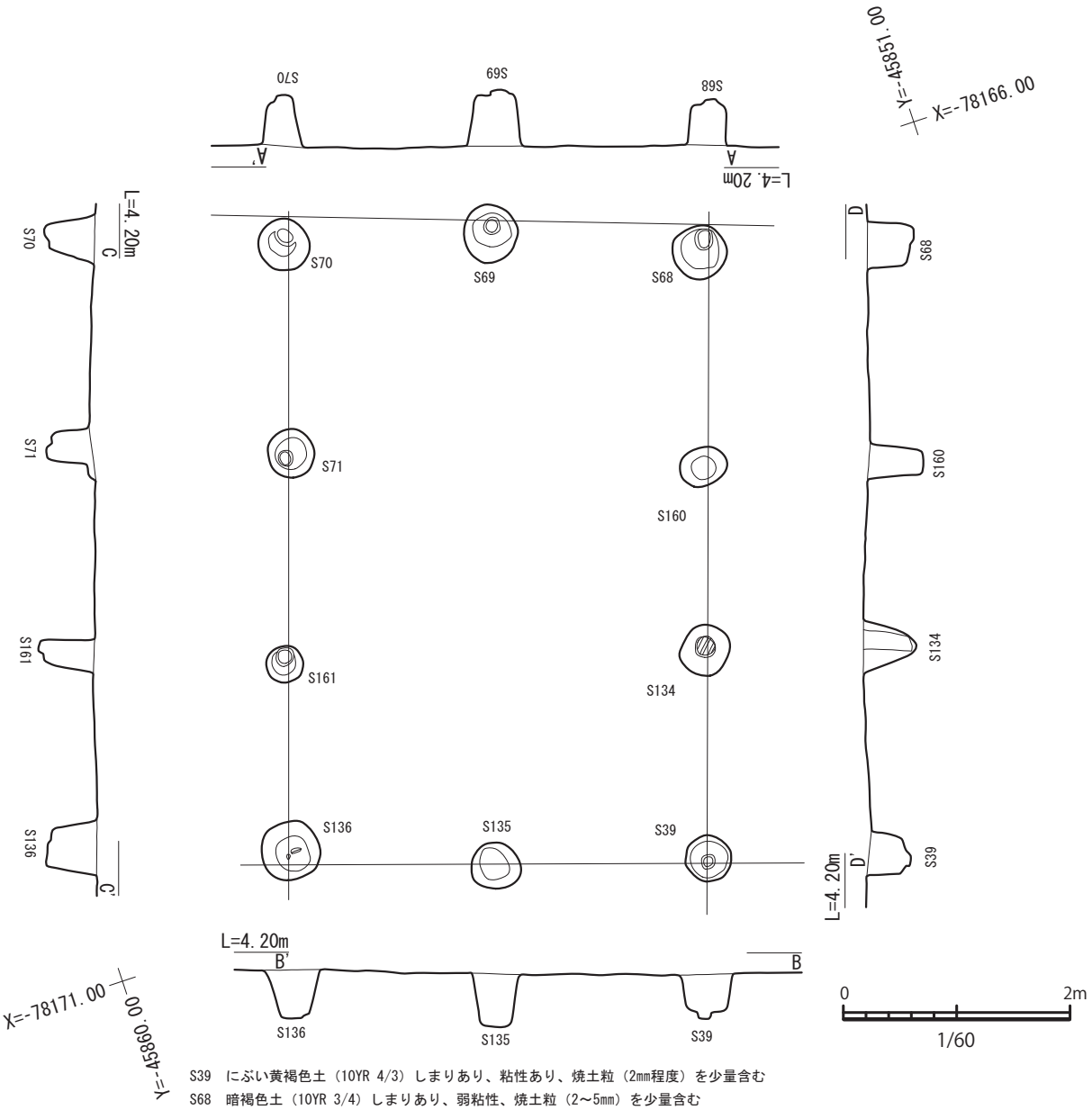
SB10 は、床面を確認した竪穴住居である。形態、その他の様相は不明である。F7 グリッドに位置する。

SB10 からは土師器、須恵器が出土している。

RP49 は土師器の甕である。口径 24.2cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、黒色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP50 は土師器の甕である。口径 22.4cm、器高 9.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP51 は須恵器の蓋である。口径 13.8cm、器高 1.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良



S39　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり、粘性あり、焼土粒（2mm程度）を少量含む
S68　暗褐色土（10YR 3/4）しまりあり、弱粘性、焼土粒（2～5mm）を少量含む
S69　暗褐色土（10YR 3/4）しまりあり、弱粘性、焼土粒（2mm程度）を少量含む、上部にマンガン粒を少量含む
S70　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり、弱粘性、焼土（2～5mm）を含む
S71　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり、弱粘性、焼土（2～5mm）を含む
S134　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり弱い、粘性あり
S135　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり弱い、粘性弱い
S136　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり弱い、粘性弱い
S160　褐色土（10YR 4/4）しまりあり、粘性あり
S161　褐色土（10YR 4/4）しまりあり、粘性弱い

図 25　SB39 実測図（1/60）

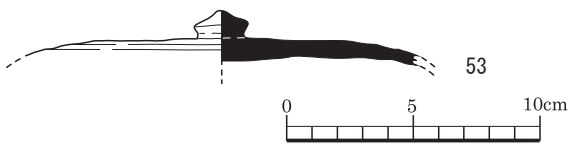
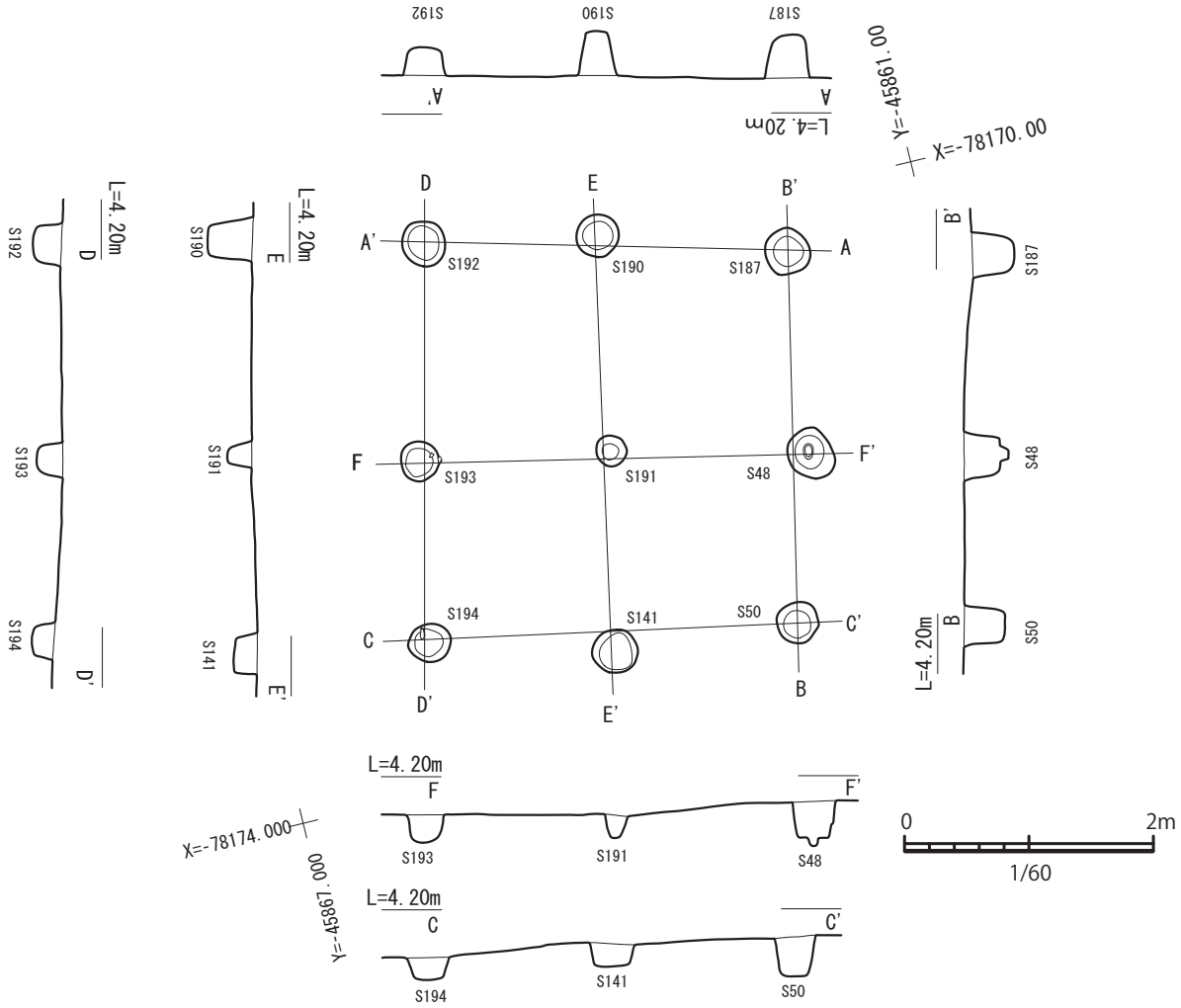


図 26　SB39 出土土器（RP）実測図

好である。

RP52 は土師器の甑である。器高 3.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英が観察される。この甑は、指頭圧痕、工具ナデにより製作され、焼成は良である。



S48　暗褐色土（10YR 3/4）しまりあり、粘性あり、焼土粒（2〜5mm）を若干含む
S50　暗褐色土（10YR 3/4）しまりあり、やや粘性あり、焼土粒（2mm程度）を少量含む
S141　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり、粘性あり
S187　褐色土（10YR 4/4）しまり、粘性あり
S190　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり弱い、粘性あり、微細な焼土粒・炭（1cmブロック状）を含む
S191　暗褐色土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性弱い、やや白みがかってみえる
S192　褐色土（10YR 4/4）しまり弱い、粘性ややある
S193　褐色土（10YR 4/4）しまり弱い、粘性弱い
S194　暗褐色土（10YR 3/4）しまりあり、粘性あり

図 27　SB48 実測図（1/60）

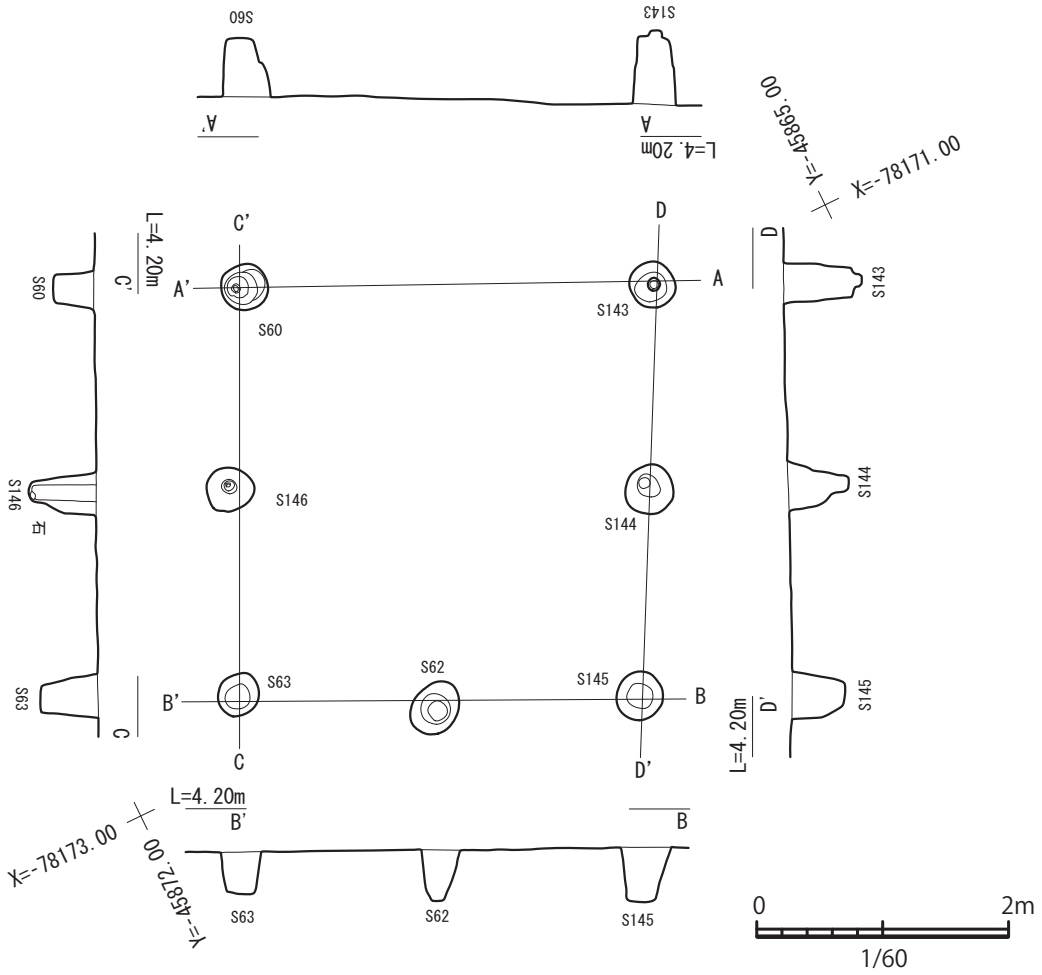
掘立柱建物 39（SB39）

SB39 は、長軸を南北方向に採り、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。E5 グリッドに位置する。

SB39 は桁行 5.6m ×梁行 3.7m であり、柱間寸法は桁間 1.8 〜 2.0 m、梁間 1.8 〜 1.9m を測る。その柱穴は直径 32 〜 50cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 38 〜 52cm であった。各柱穴は、底面標高を概ね揃えている。

SB39 からは須恵器が出土している。

RP53 は須恵器の蓋である。器高 2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。



S60　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）
S62　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり、粘性あり、焼土粒をわずかに含む、柱根部は強い粘性がある
S63　褐色土（10YR 4/4）しまりあり、弱粘性
S143　褐色土（10YR 4/4）しまり弱い、やや粘性強い
S144　褐色土（10YR 4/4）しまり弱い、粘性あり
S145　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり、粘性強い
S146　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり弱い、粘性あり、柱根部は粘性がより強くなる

図 28　SB60 実測図（1/60）

掘立柱建物 48（SB48）

SB48 は、長軸を南北方向に採る桁行 2 間×梁行 2 間の総柱建物である。D4 グリッドに位置する。

SB48 は、桁行 3.2m ×梁行 3.0m であり、柱間寸法は桁間 1.4 ～ 1.8 m、梁間 1.4 ～ 1.6m を測る。その柱穴は、直径 20 ～ 40cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 18 ～ 37cm であった。各柱穴は、底面標高を概ね揃えている。

掘立柱建物 60（SB60）

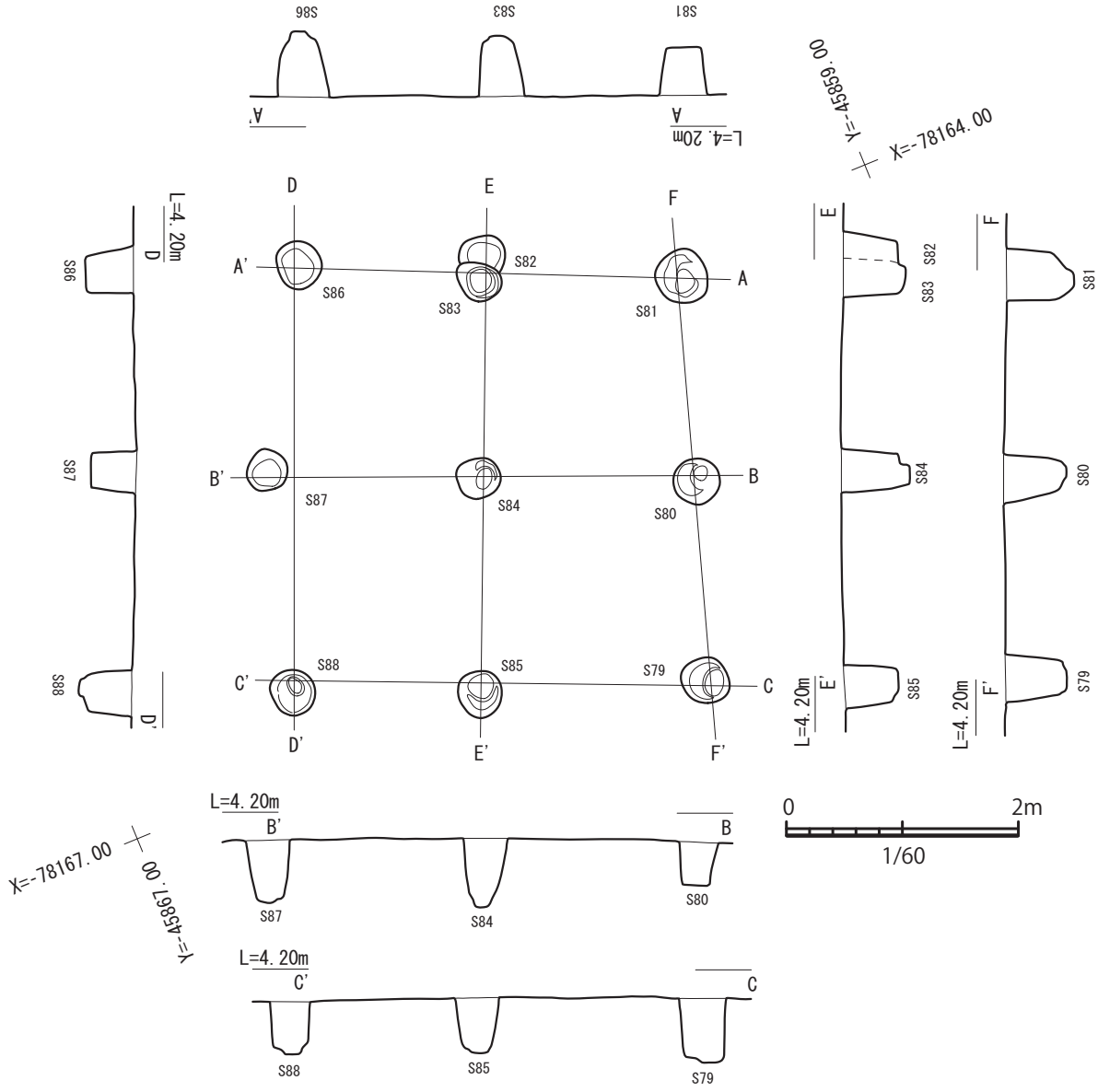
SB60 は、長軸を南北方向にとる桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。C4 グリッドに位置する。

SB60 は、桁行 3.3m ×梁行 3.3m であり、柱間寸法は桁間 1.6 ～ 1.7 m、梁間 1.6 ～ 1.7m を測る。その柱穴は、直径 30 ～ 39cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 32 ～ 68cm であった。各柱穴は、底面標高を概ね揃えている。

掘立柱建物 79（SB79）

SB79 は、長軸を南北方向に採る桁行 2 間×梁行 2 間の総柱建物である。D5 グリッドに位置する。

SB79 は、桁行 3.6m ×梁行 3.6m であり、柱間寸法は桁間 1.7 ～ 1.8 m、梁間 1.6 ～ 2.0m を測る。そ



S79　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまりあり、粘質つよい
S80　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまりあり、粘性あり、土器片含む
S81　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性あり、
　　焼土粒（2〜5㎜）炭粒を少量含む
S82　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまりあり、粘性弱い
S83　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性あり
S84　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性弱い
S85　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性弱い
S86　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性弱い
S87　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性弱い
S88　暗褐色粘質土（10YR 3/4）しまり弱い、粘性弱い、炭粒を少量含む

図 29　SB79 実測図（1/60）

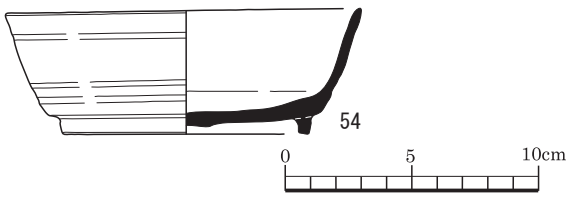
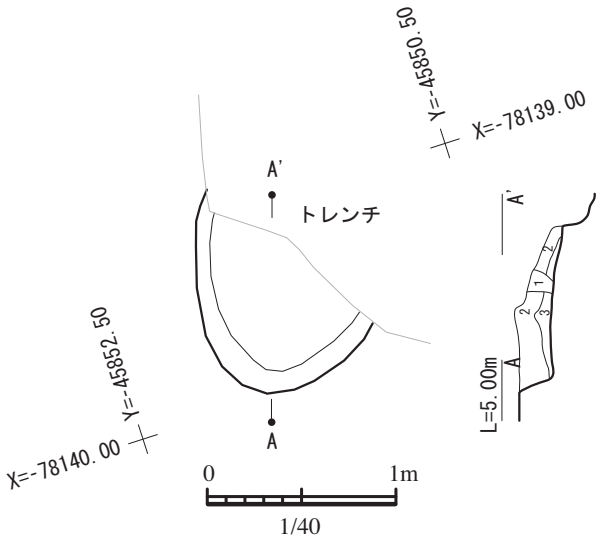


図 30　SB79 出土土器（RP）実測図

の柱穴は、直径 24 〜 45cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 38 〜 59cm であった。各柱穴は、底面標高を概ね揃えている。

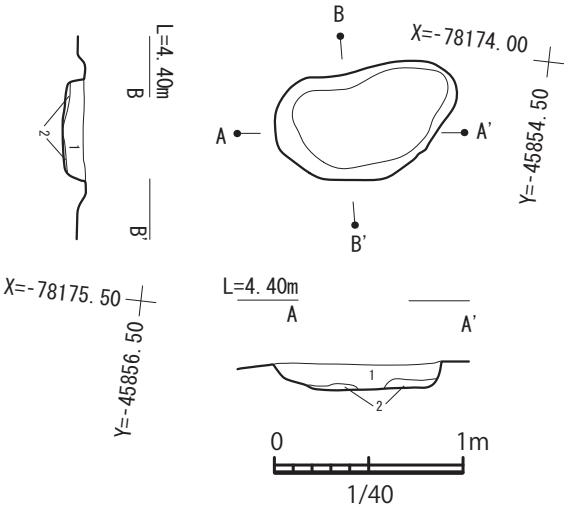
SB79 からは須恵器が出土している。

RP54 は須恵器の埦である。口径 14.1cm、底径 9.8cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。



1　黒褐色土（10YR 3/2）しまりあり、弱粘性、
　　焼土粒（1～2㎜）炭化物を含みむ
2　暗褐色粘質土（7.5YR 3/3）しまりあり、粘性あり、
　　直径3cmほどの黒色焼土粒を含む、
　　非常に固く焼きしまった焼土を含む
3　褐色粘質土（7.5YR 4/4）しまりあり、粘性あり

図 31　SK23 実測図（1/40）



1　暗褐色土（10YR 3/3）ややしまる、弱粘性、焼土粒を多量に含む、
　　炭化物を多く含む

2　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）ややしまりあり、弱粘性

図 32　SK41 実測図（1/40）

土壙 23（SK23）

SK23 は、南半部を確認できただけであるため、全容不明の円形に近い土壙である。E7 グリッドに位置する。

SK23 の法量は、南北 0.8 m、東西 1.0 m、遺構確認面からの深さ 38cm を測る。

土壙底部には平坦面が造り出されている。

土壙 41（SK41）

SK41 は、楕円形を呈する土壙である。E4 グリッドに位置する。

SK41 の法量は、南北 0.6m、東西 1.0m、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。焼土粒が検出されている。

土壙 42（SK42）

SK42 は、円形を呈する土壙である。D4 グリッドに位置する。

SK42 の法量は、南北 2.0m、東西 2.7m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。S137 は、直径 34cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは、56cm を測る。

SK42 の南東端には、小ピット（S176）が複合している。S176 は、直径 27cm の円形を呈し、SK42 底面からの深さ 26cm を測る。

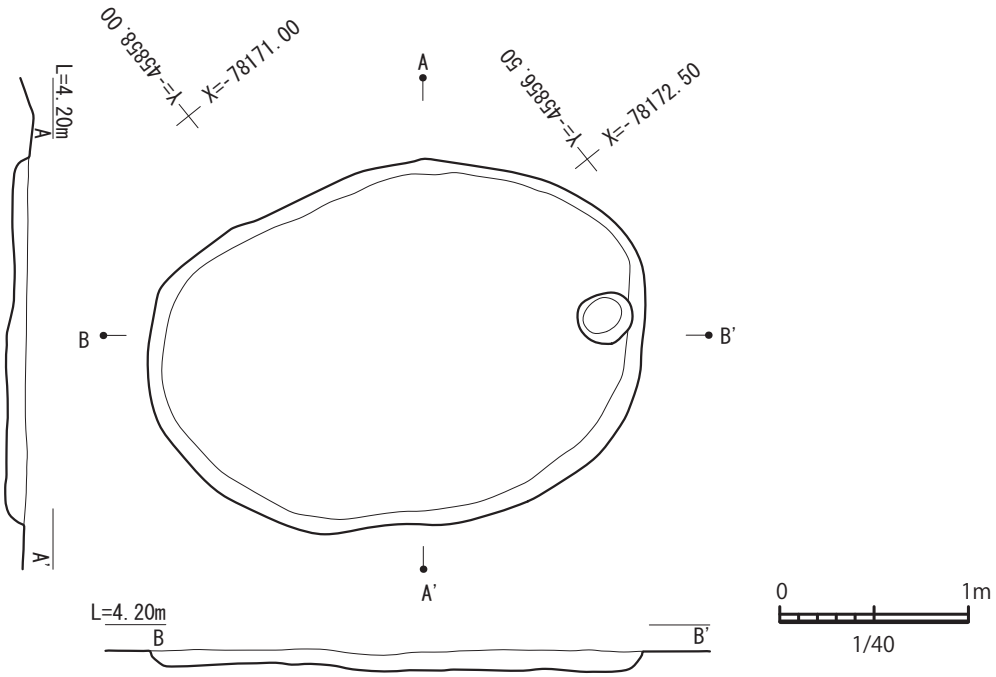
SK42 からは土師器、須恵器が出土している。

RP55 ～ 59 は土師器である。

RP55 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.6cm、底径 6cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP56 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 5.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP57 は片口土器である。器高 7.2cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面もにぶい褐色を呈し、胎土



SK42　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）ややしまる、弱粘性、焼土粒を多く含む、炭化物を多く含む、上部に土器片あり

図 33　SK42 実測図（1/40）

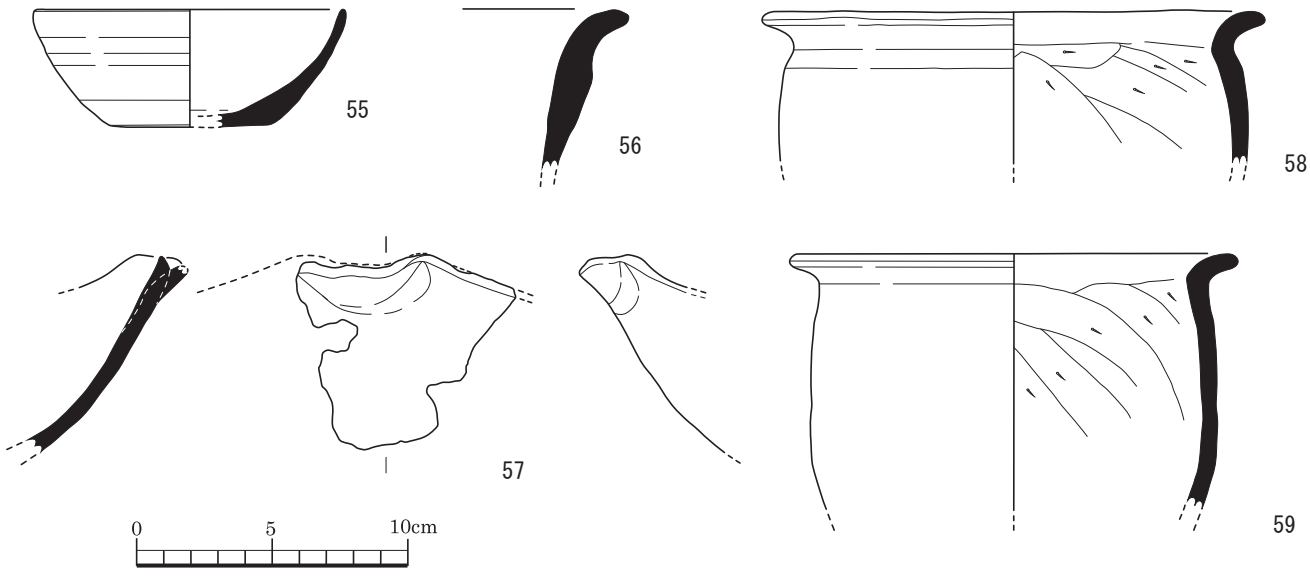


図 34　SK42 出土土器（RP）実測図

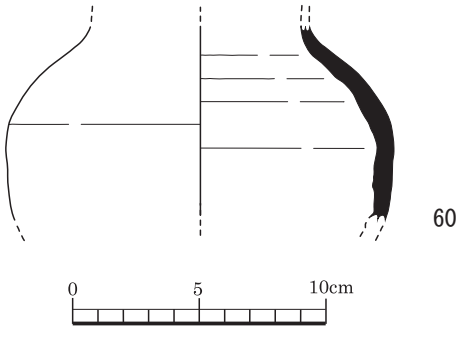


図 35　SK42 出土土器（RP）実測図

には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この片口土器は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP58 は甕である。口径 18.6cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はケズリ、工具ナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP59 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 16.6cm、器高 9.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、黒色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外

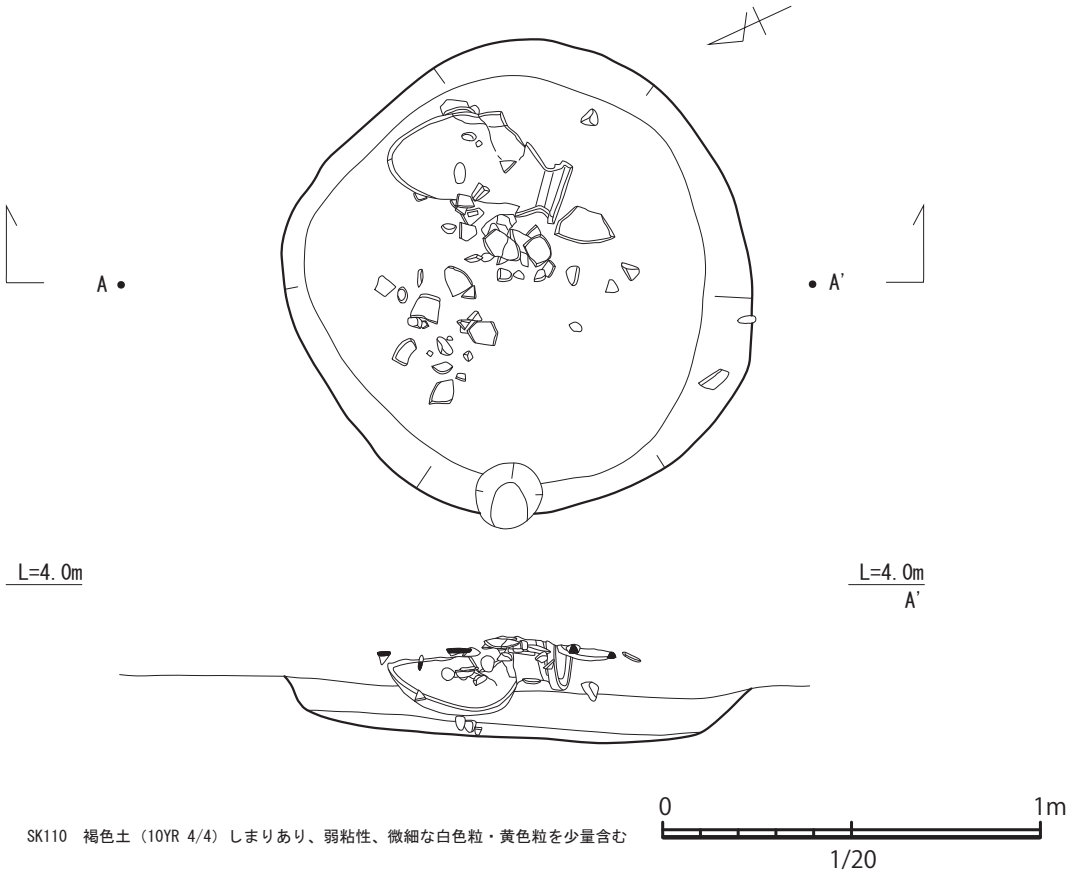


図 36　SK110 実測図（1/20）

面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP60 は須恵器の壺である。器高 7.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデ、ヘラナデにより製作され、焼成は良好である。

土壙 110（SK110）

SK110 は、円形を呈する土壙である。D7 グリッドに位置する。

SK110 の法量は、南北 1.3m、東西 1.3m を測り、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。

SK110 からは、弥生時代後期の甕、壺が検出されている。すべて白川流域熊本平野に分布する弥生時代後期後葉の土器群と同一様式と捉えることができるものであり、二子塚編年Ⅲ段階（島津・村上 1992）の併行段階に比定される。

RP61 は弥生時代の甕である。口径 17.8cm、器高 3.1cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP62 は弥生土器の甕である。底径 8.3cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、雲母が観察される。この甕は、外面調整は指頭圧痕、ナデ、内面調整は工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP63 は弥生土器の壺であり、埋 1 層から出土した。口径 16.9cm、底径 6.1cm、器高 45cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整は指頭圧痕、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

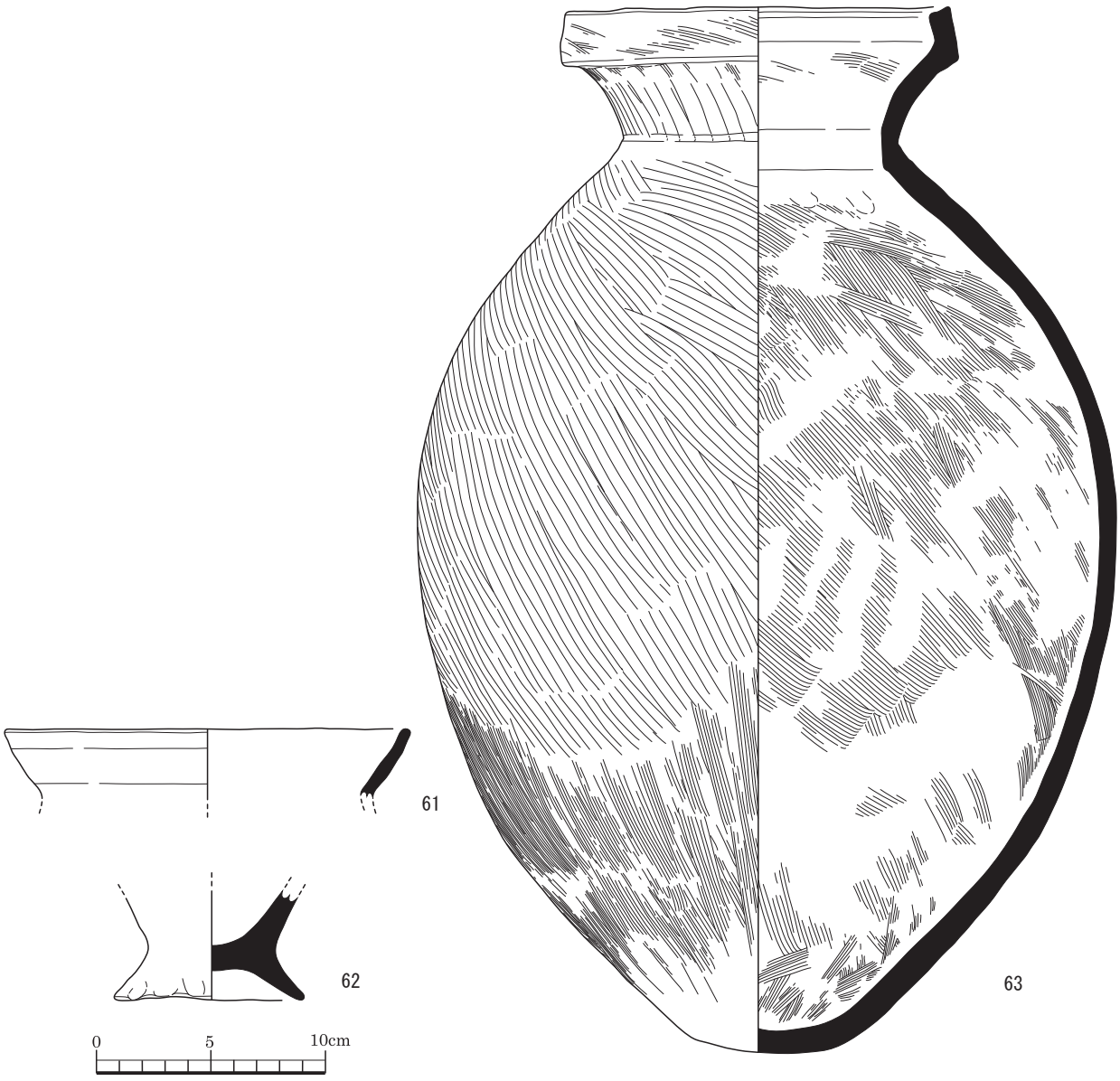


図 37　SK110 出土土器（RP）実測図

その他 13（SX13）

SX13 は B6 グリッドに位置した攪乱壙である。

SX13 からは、土師器、須恵器が出土している。

RP64 ～ 67 は土師器である。

RP64 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.4cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP65 は高坏であり、埋 1 層から出土した。器高 8.3cm を測る。器面の外面は橙色､内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、工具ナデ、ヘラミガキ、ヨコナデ、内面調整はシボリ痕、工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP66 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 24.8cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は灰褐色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整は指頭圧痕、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP67 は甕であり、1 層東西ベルトから出土した。

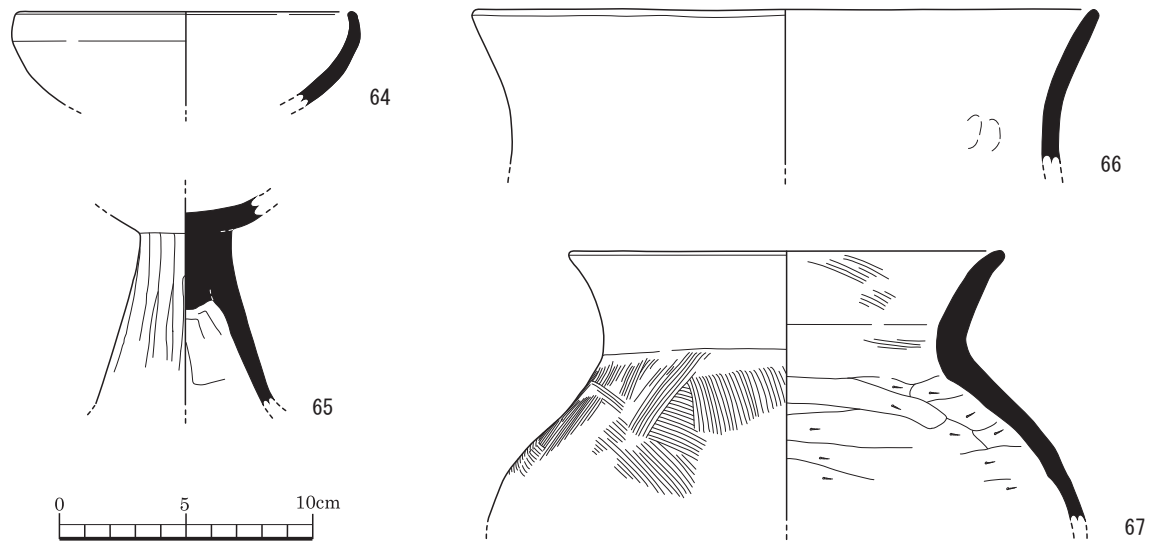


図 38　SX13 出土土器（RP）実測図

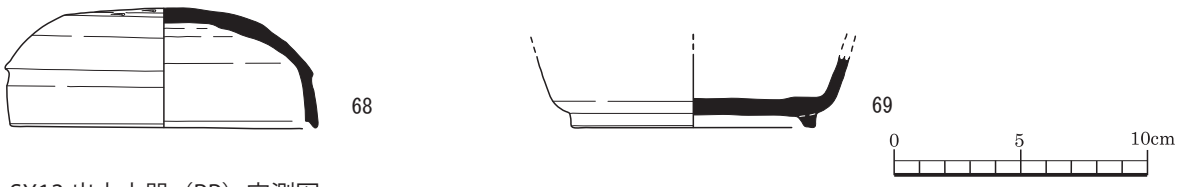


図 39　SX13 出土土器（RP）実測図

口径 17.3cm、器高 10.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP68 は須恵器の蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 12.2cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP69 は須恵器の埦であり、埋 1 層から出土した。底径 9.7cm、器高 2.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

土壙 55（SK55）

SK55 は、楕円形を呈する土壙に 1 基のピット（S190）が複合した遺構である。SK55 は SK56 を切っている。D4 グリッドに位置する。

SK55 の法量は、南北 2.0m、東西 1.5m を測り、遺構確認面からの深さ 51cm を測る。

S190 は円形ピットであり、SK55 の北東端に位置する。その法量は、直径 33cm、遺構確認面からの深さ 37cm を測る。

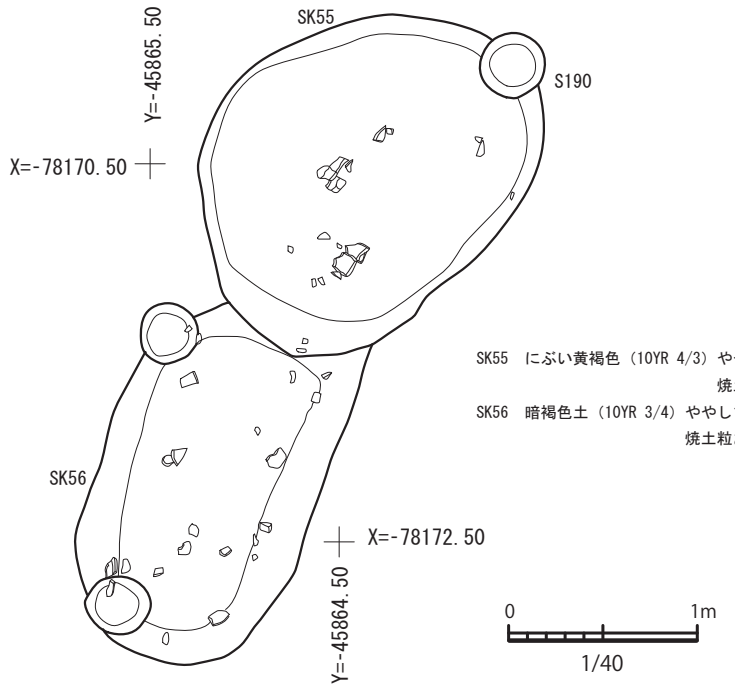
SK55 からは土師器が出土している。

RP70 ～ 79 は土師器である。

RP70 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.6cm、底径 7.1cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、内面調整もナデにより製作され、焼成は良である。

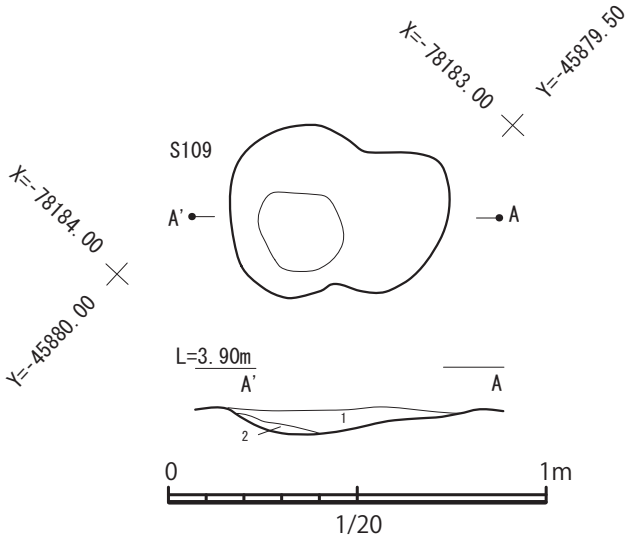
RP71 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.9cm、底径 6.6cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP72 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径



SK55　にぶい黄褐色（10YR 4/3）ややしまる、弱粘性、マンガン粒を全体に含む、
焼土粒（2㎜程度）を含む
SK56　暗褐色土（10YR 3/4）ややしまりあり、粘性あり、
焼土粒および、炭粒を少量全体に含む、灰色を帯びてみえる

図 40　SK55・56 実測図（1/40）



1　黒褐色土（7.5YR 3/2）ややしまりあり、弱粘性、炭を多く含み黒灰色に、見える
2　褐色土（10YR 4/4）ややしまりあり、粘性あり、焼土・炭を少量含む

図 41　SK109 実測図（1/20）

12.6cm、底径 7.6cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP73 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.6cm、底径 8cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、礫が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP74 は甕であり、埋 1 層から出土した。底径 2cm、器高 9.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、にぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はヘラケズリ、工具ナデ、ナデ、内面調整は指頭圧痕、ヘラケズリ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP75 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 5.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP76 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 19.6cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

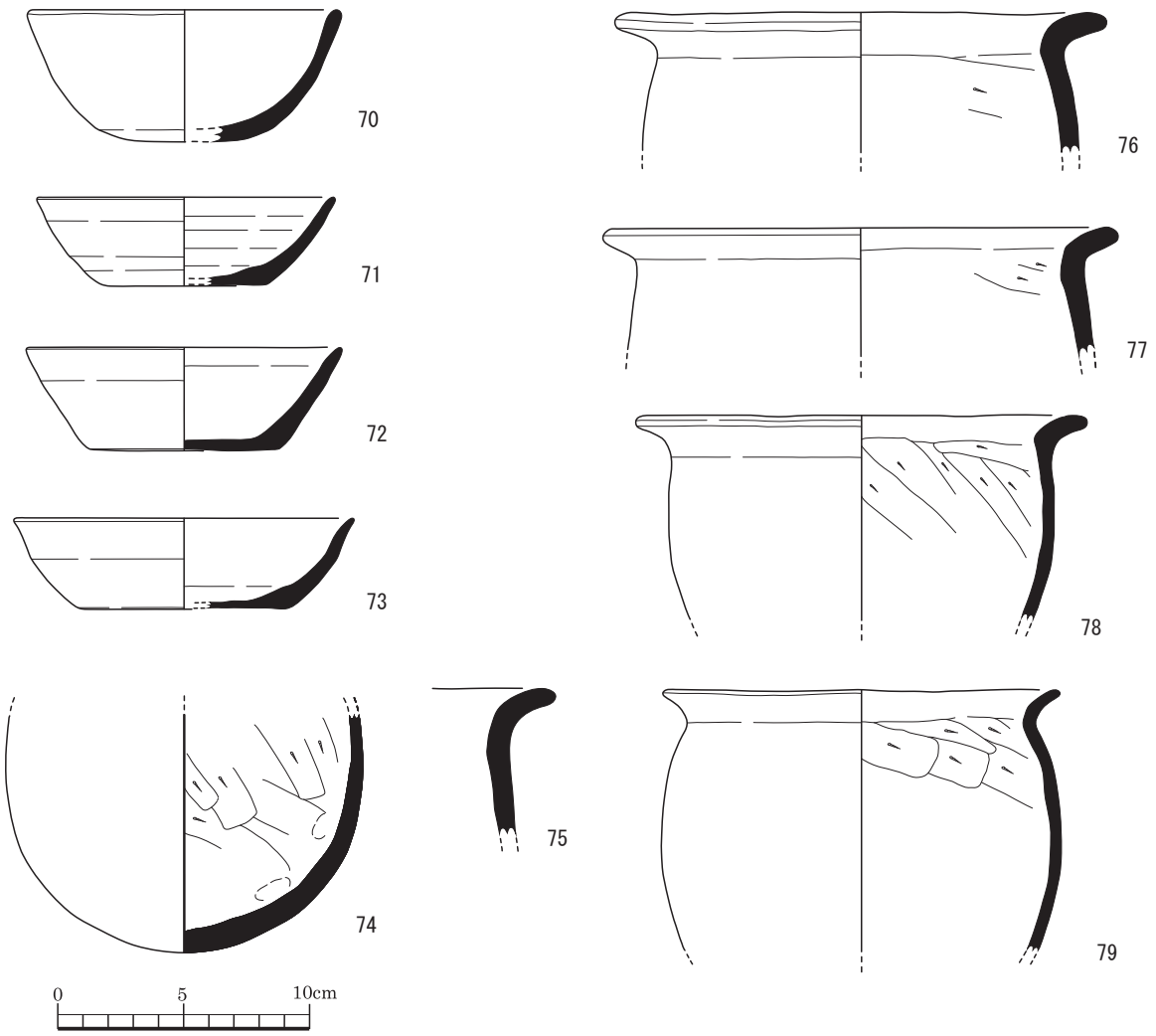


図 42　SK55 出土土器（RP）実測図

RP77 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 20.6cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、礫、石英、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、工具痕、内面調整はケズリ、工具ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP78 は甕である。口径 18cm、器高 8.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄褐色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、黒色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP79 は甕である。口径 15.8cm、器高 10.4cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整は工具ナデ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、工具ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

土壙 56（SK56）

SK56 は、不整形な土壙に 2 基のピットが複合した遺構である。SK56 は SK55 に切られている。D4 グリッドに位置する。

SK56 の法量は、南北 1.8m、東西 1.2m、遺構確認面からの深さ 138cm を測る。土壙の西南端、西北端に、直径 33cm 程のピットが各 1 基複合している。
土壙全面部から土器片が、検出されている。

SK56 からは土師器、須恵器が出土している。

RP80 は土師器の坏である。口径 12.2cm、底径

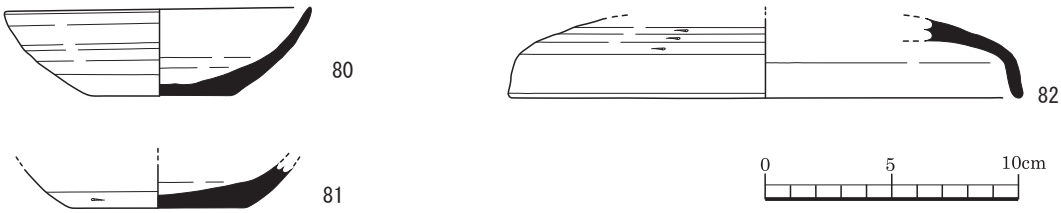


図 43　SK56 出土土器（RP）実測図

5.1cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP81 は土師器の坏である。底径 6.9cm、器高 1.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP82 は須恵器の蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 20.4cm、器高 3.1cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

土壙 46（SK46）

SK46 は円形を呈する土壙である。D4 グリッドに位置する。

SK46 の法量は、南北 1.14m、東西 1.38m、遺構確認面からの深さ 5cm を測る。

土壙 57（SK57）

SK57 は、不整形を呈する土壙である。D4 グリッドに位置する。

SK57 の法量は、南北 1.48m、東西 0.58m、遺構確認面からの深さ 6cm を測る。土壙の南西部から、土器片を検出している。

土壙 109（SK109）

SK109 は、不整形を呈する土壙である。B3 グリッドに位置する。

SK109 の法量は、南北 1.48m、東西 0.58m、遺構確認面からの深さ 6cm を測る

〔参考文献〕

島津義昭・村上恭通、1992、「二子塚遺跡出土弥生土器の分類と編年」、『二子塚』熊本県文化財調査報告 117、熊本県教育委員会、熊本

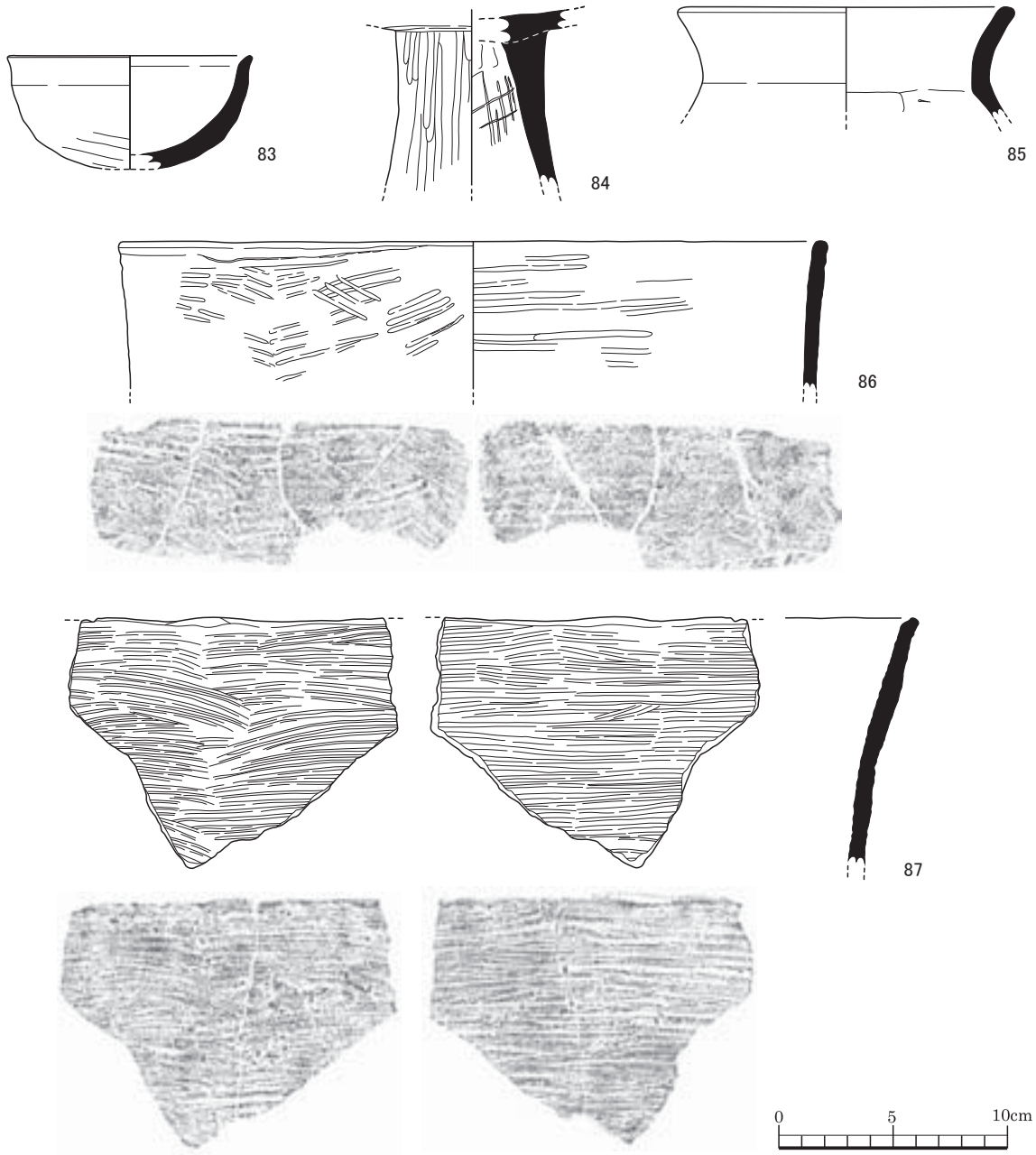


図 44　SX131 出土土器（RP）実測図

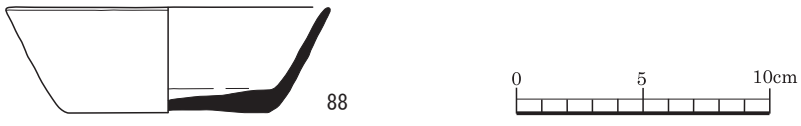


図 45　その他遺構　出土土器（RP）実測図

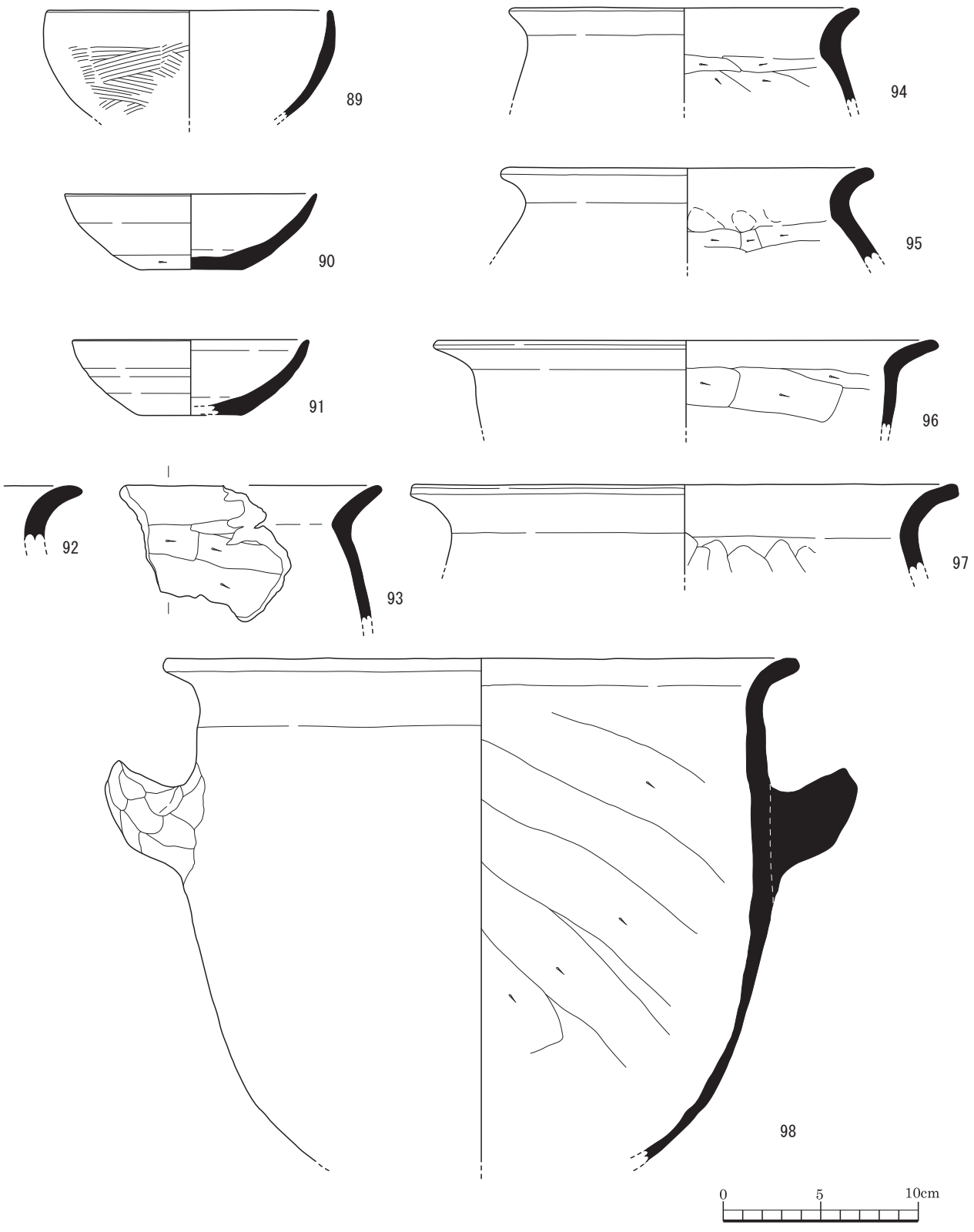


図 46　その他遺構　出土土器（RP）実測図

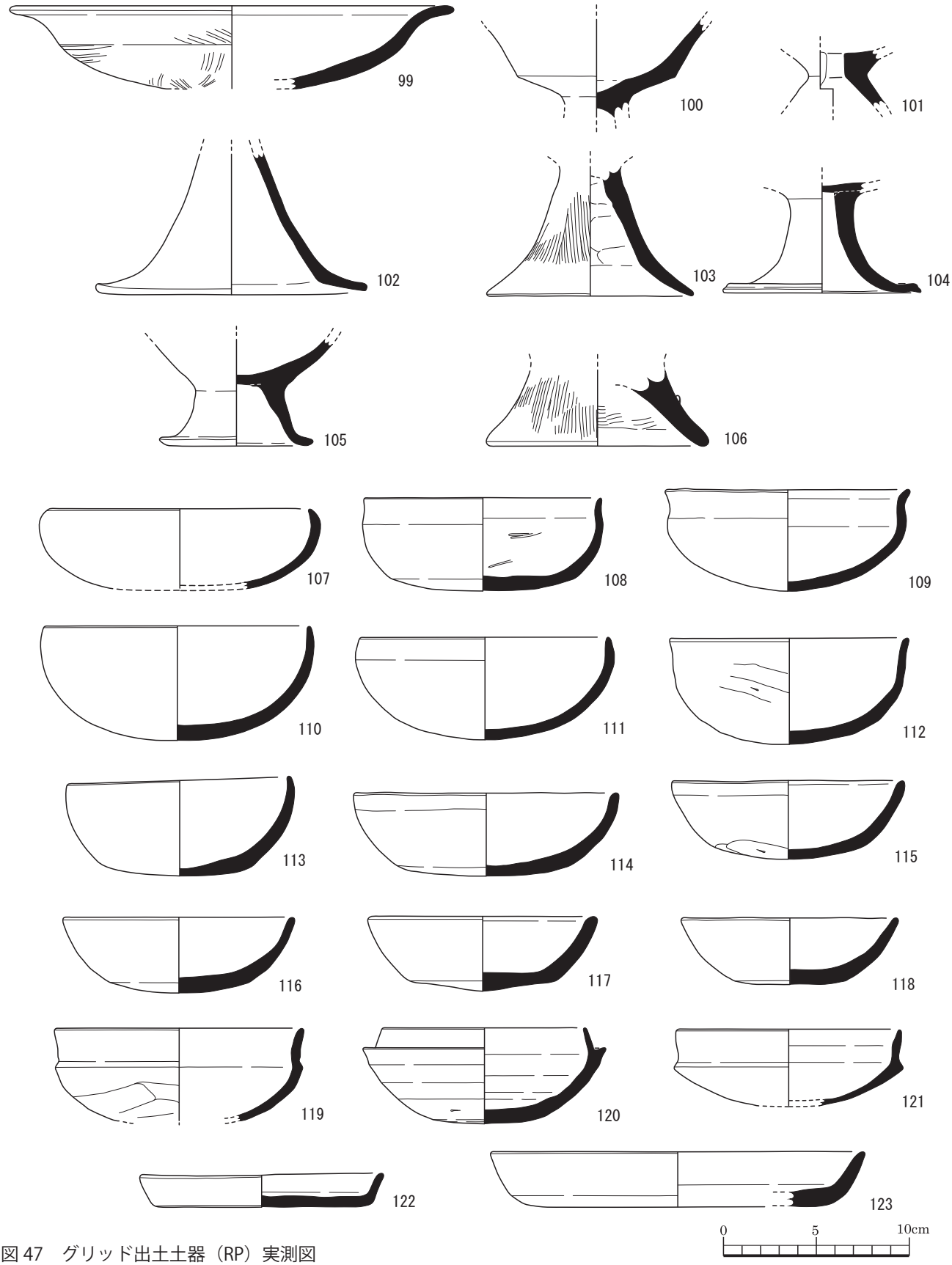


図 47　グリッド出土土器（RP）実測図

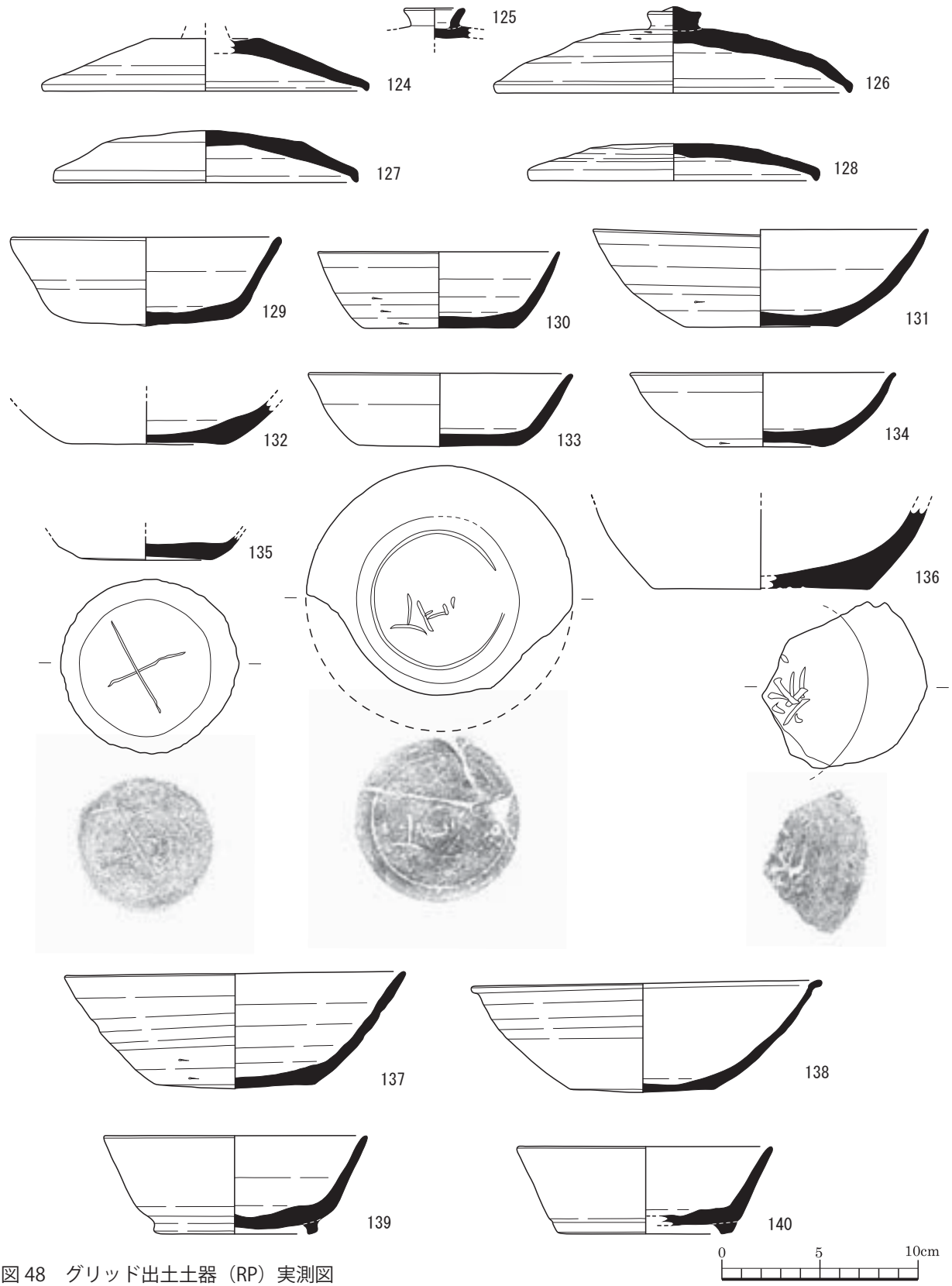


図 48　グリッド出土土器（RP）実測図

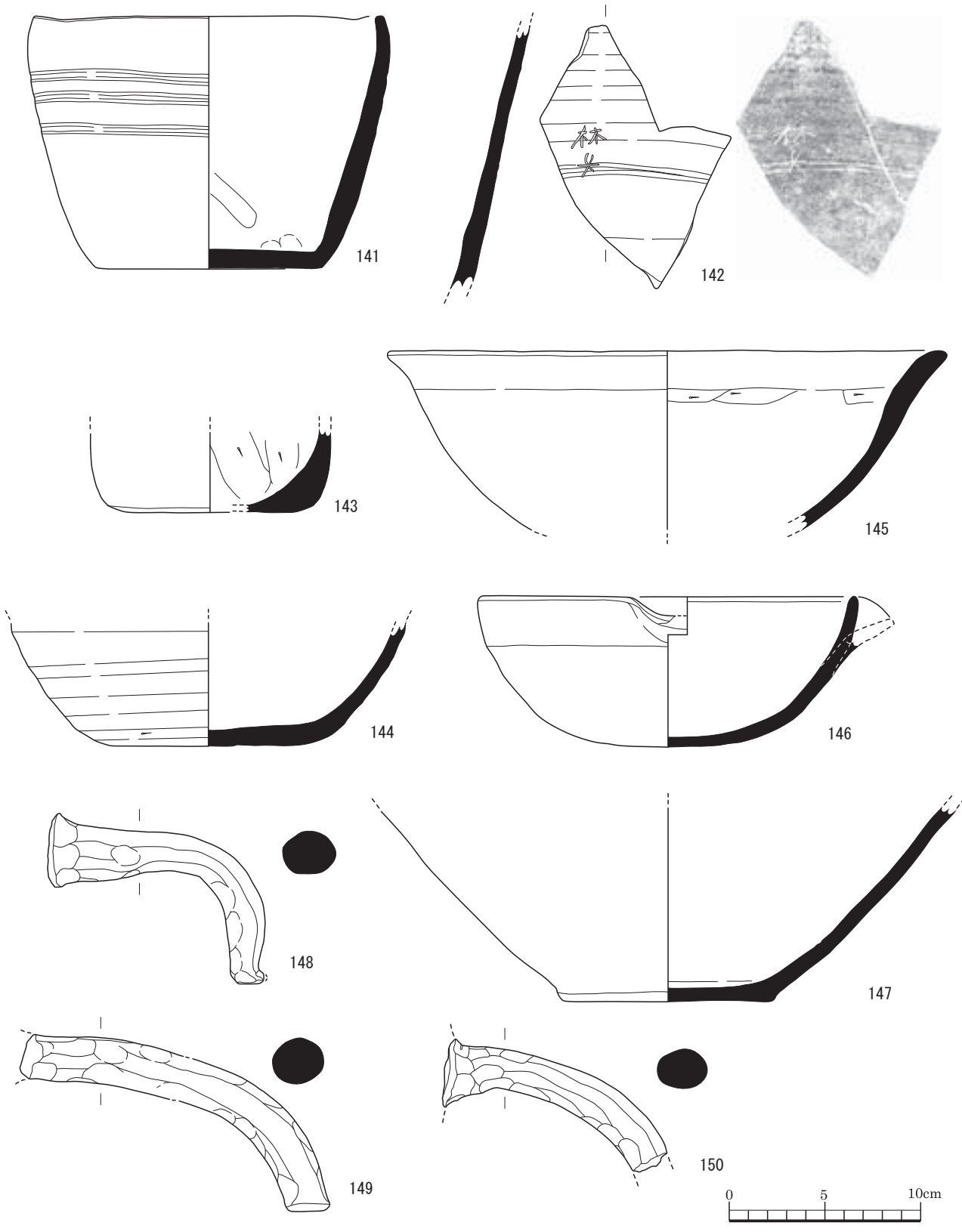


図 49　グリッド出土土器（RP）実測図

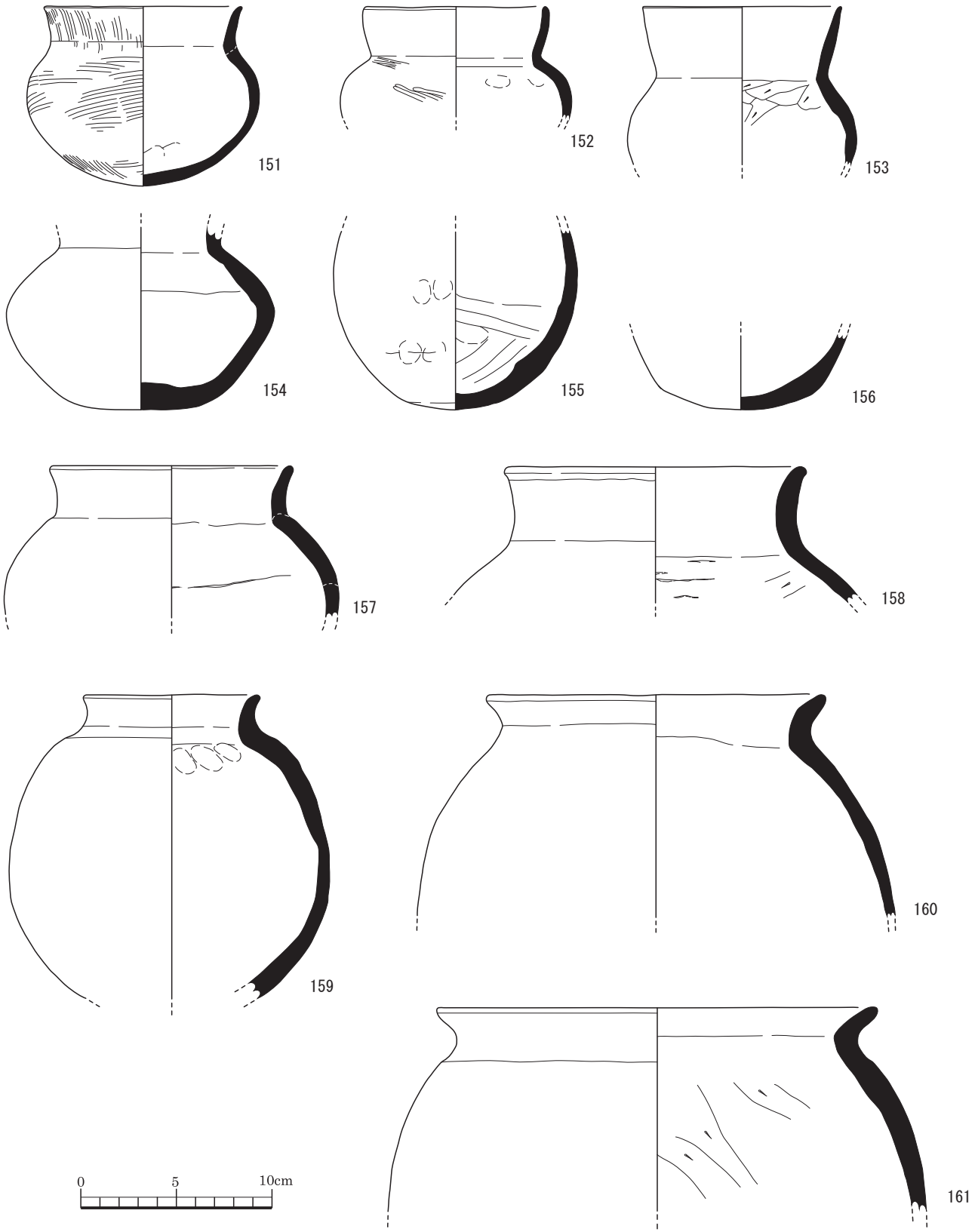
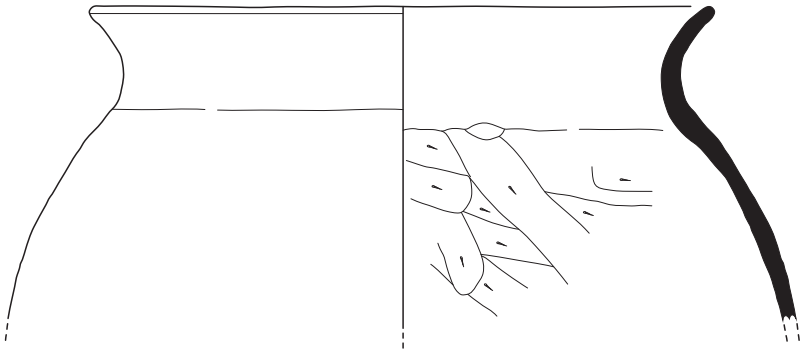
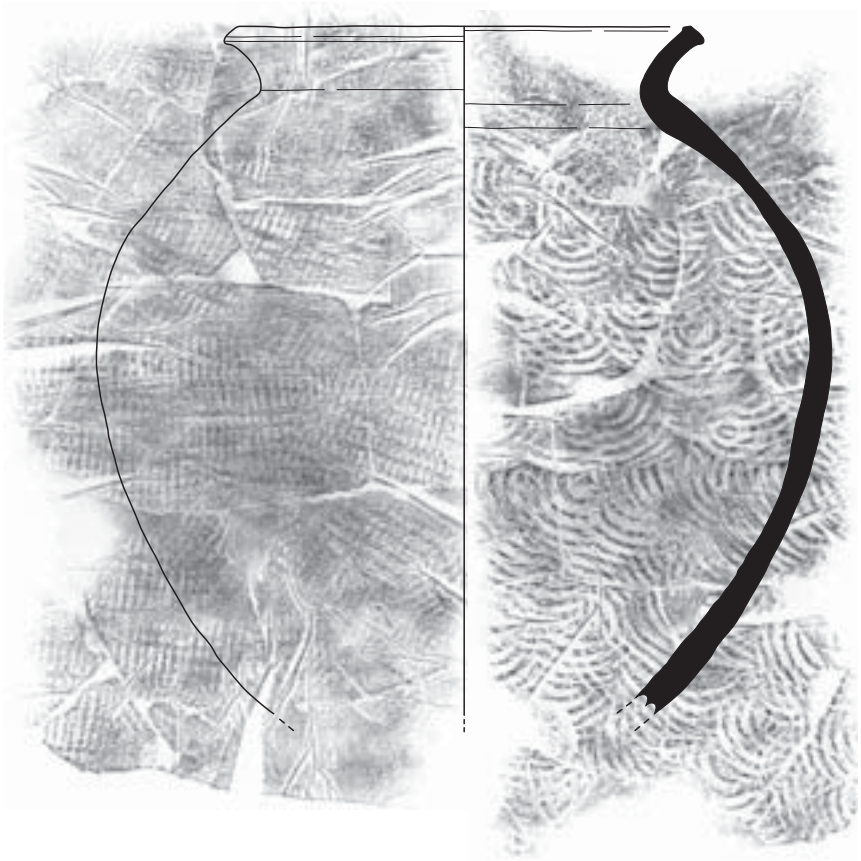


図 50　グリッド出土土器（RP）実測図





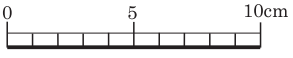


図 51　グリッド出土土器（RP）実測図

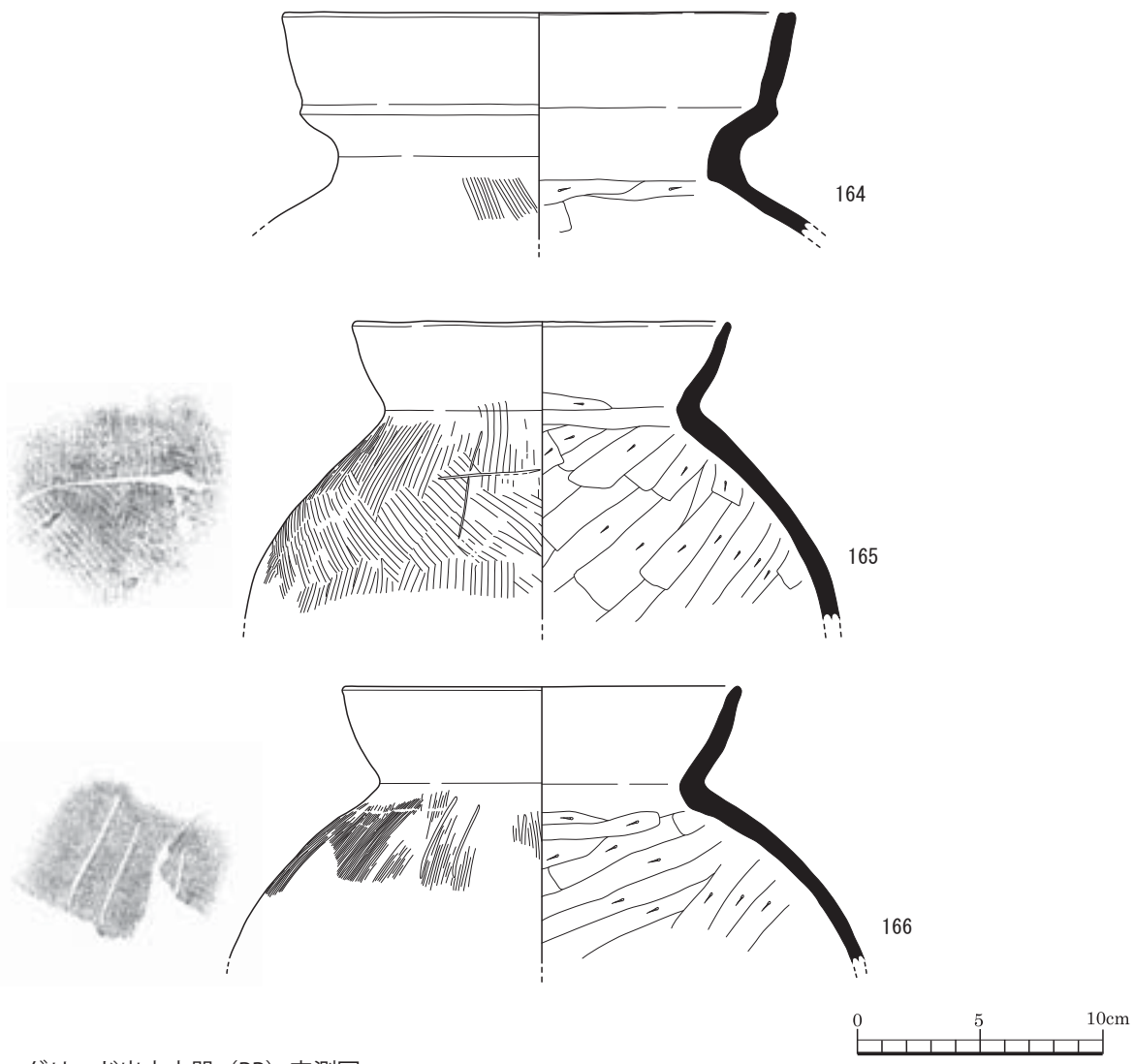


図 52　グリッド出土土器（RP）実測図

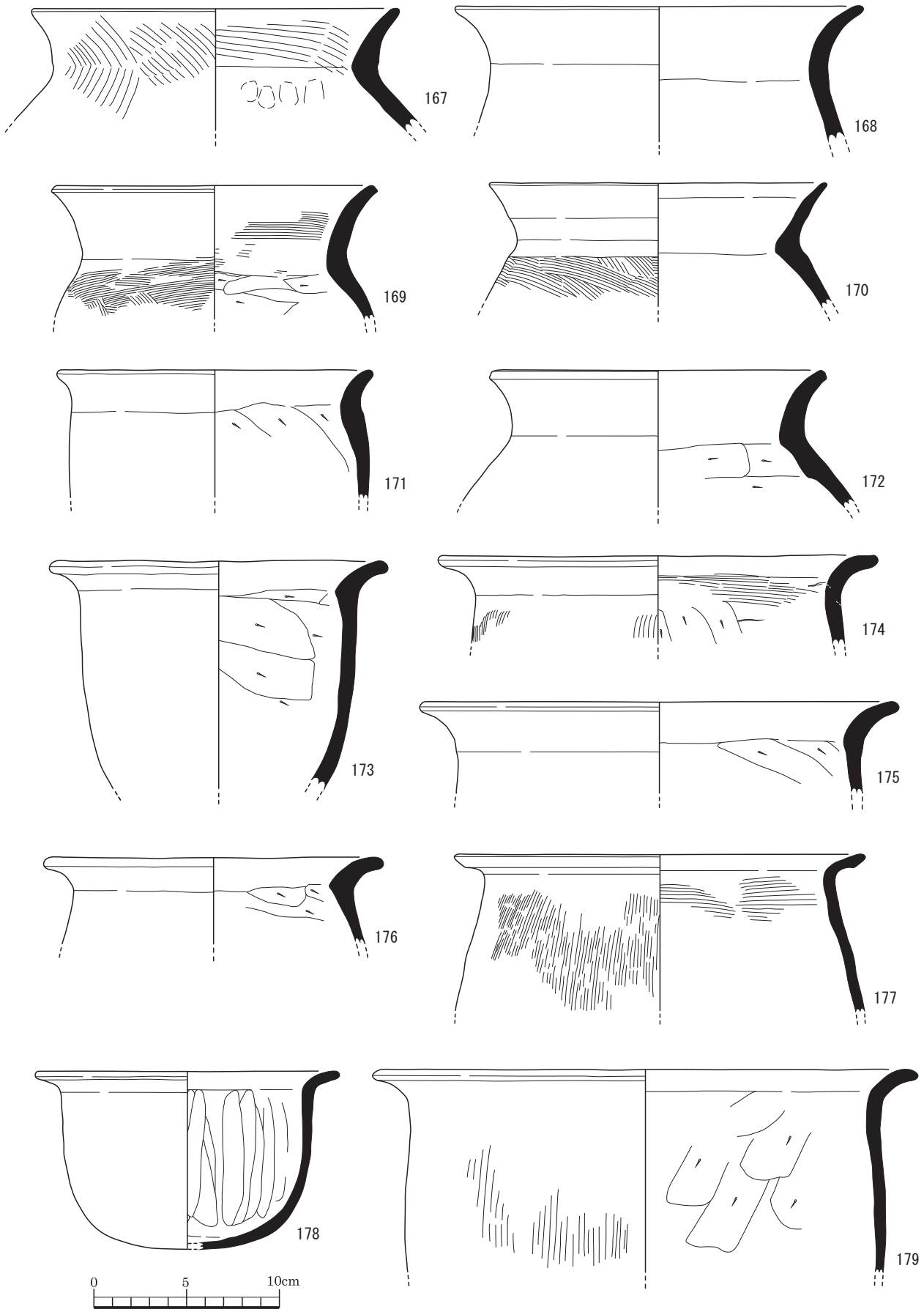


図 53　グリッド出土土器（RP）実測図

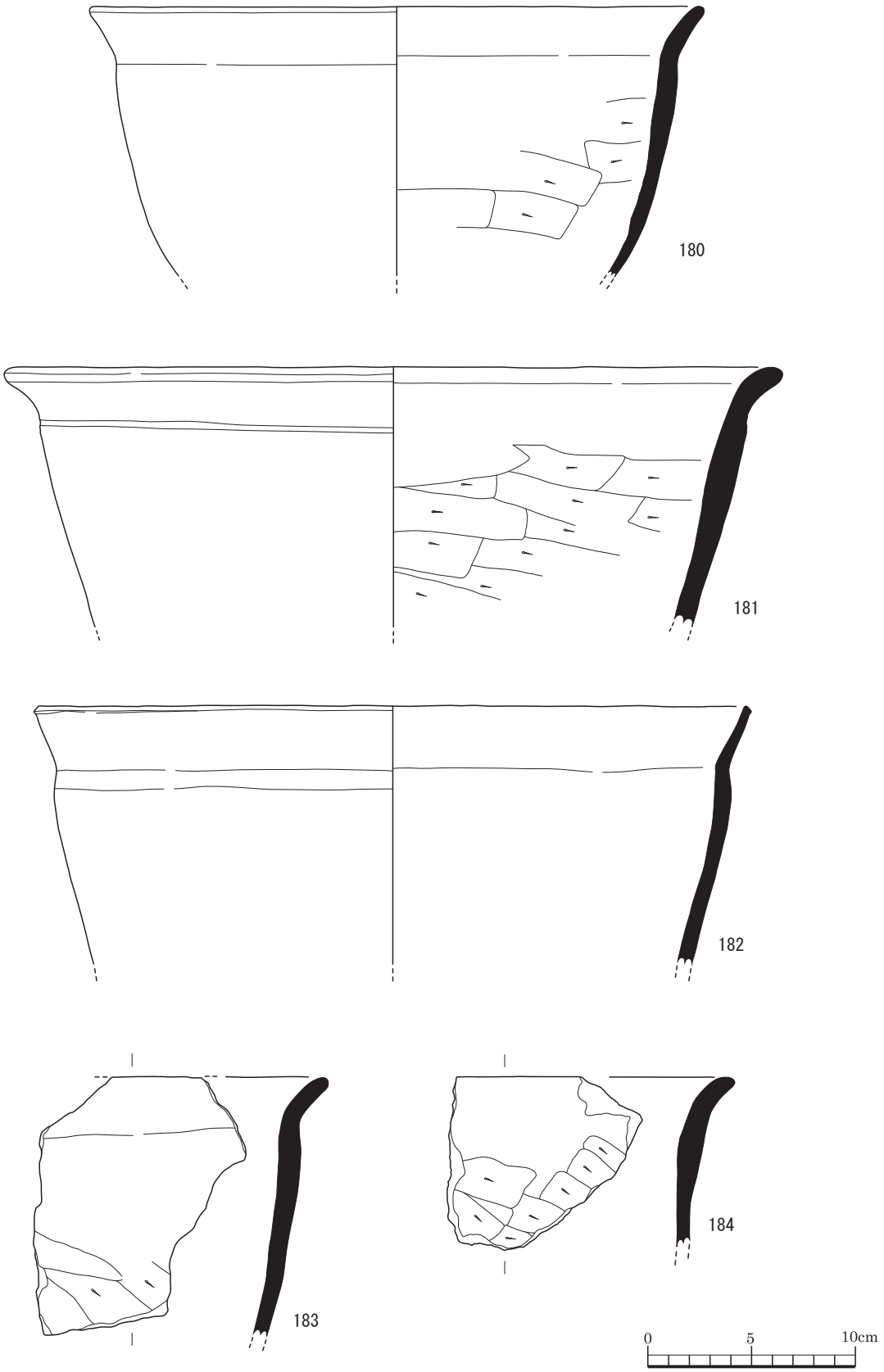


図 54　グリッド出土土器（RP）実測図

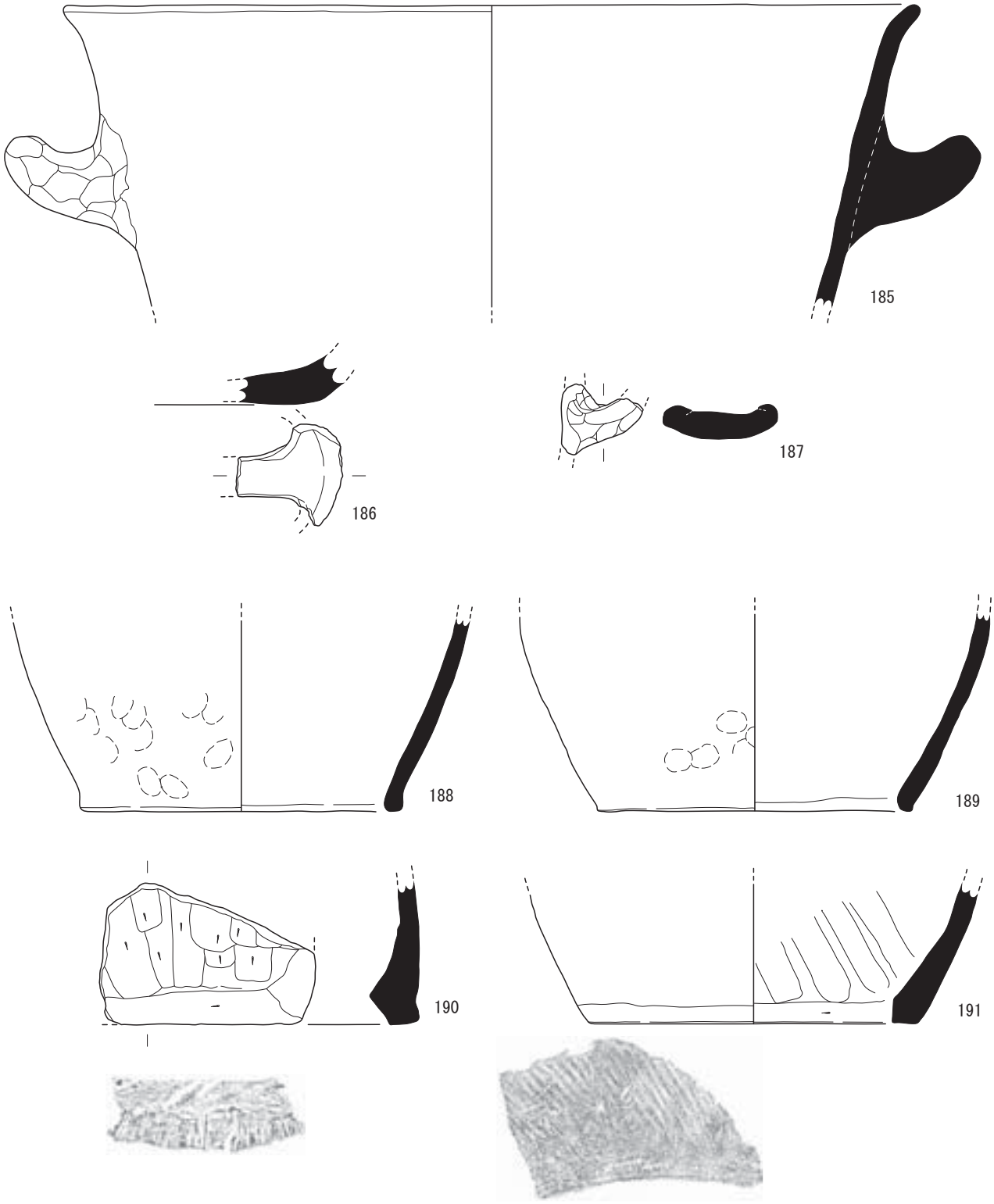


図 55　グリッド出土土器（RP）実測図

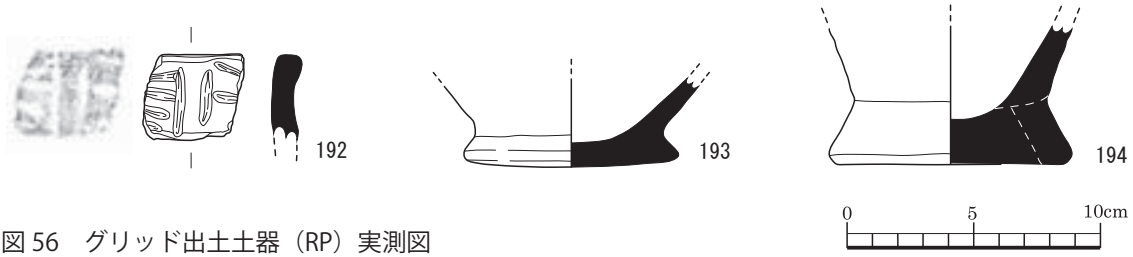


図 56　グリッド出土土器（RP）実測図

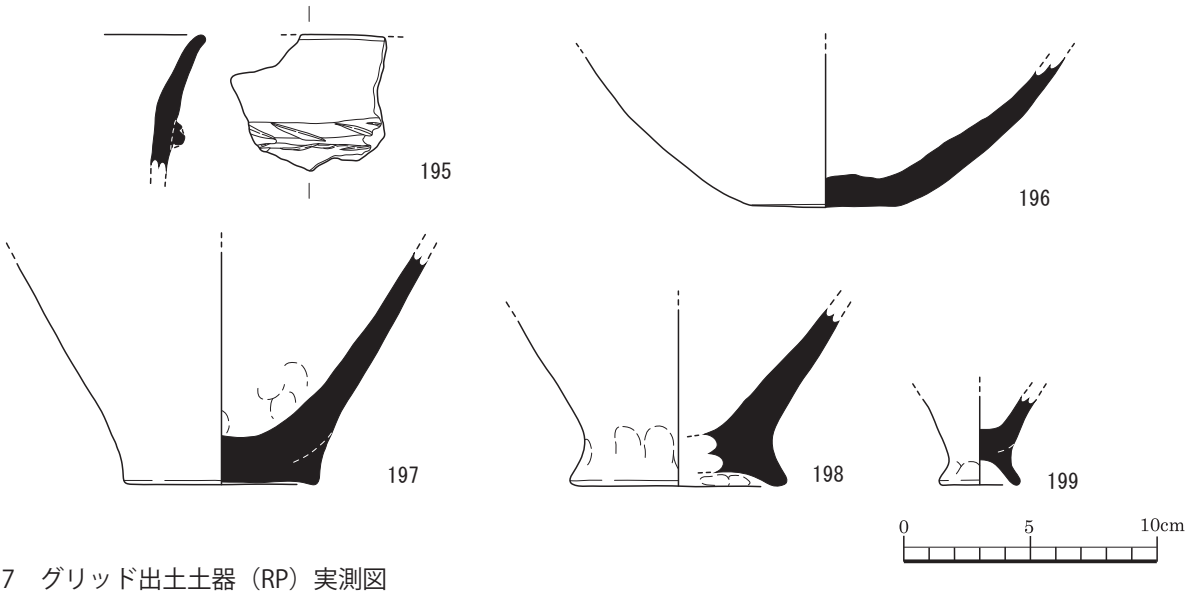


図 57　グリッド出土土器（RP）実測図

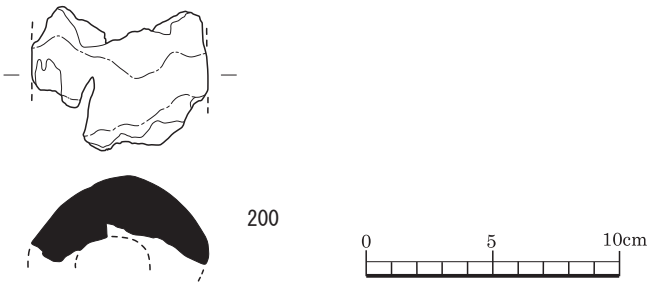


図 58　グリッド出土土製品（RP）実測図

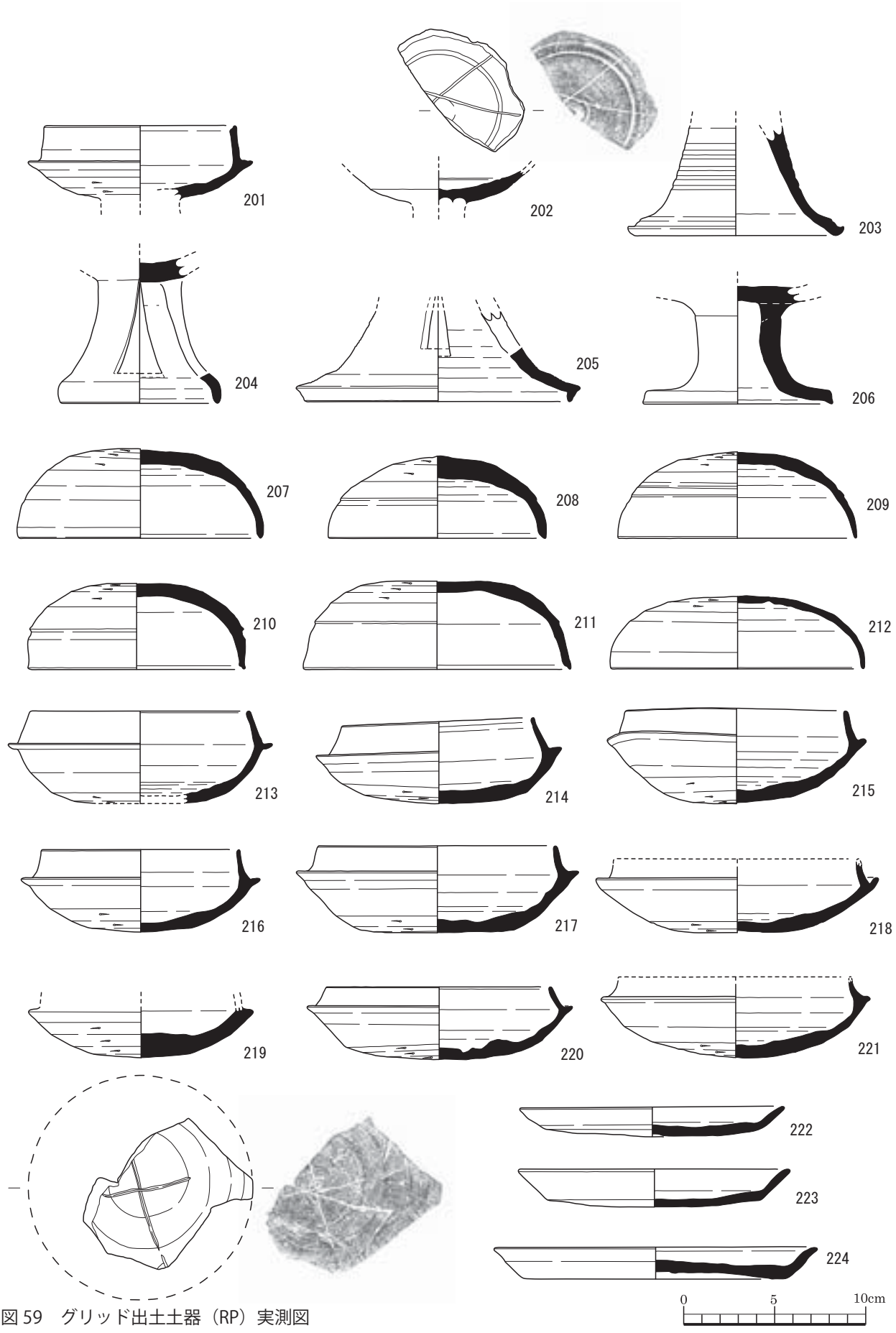


図 59　グリッド出土土器（RP）実測図

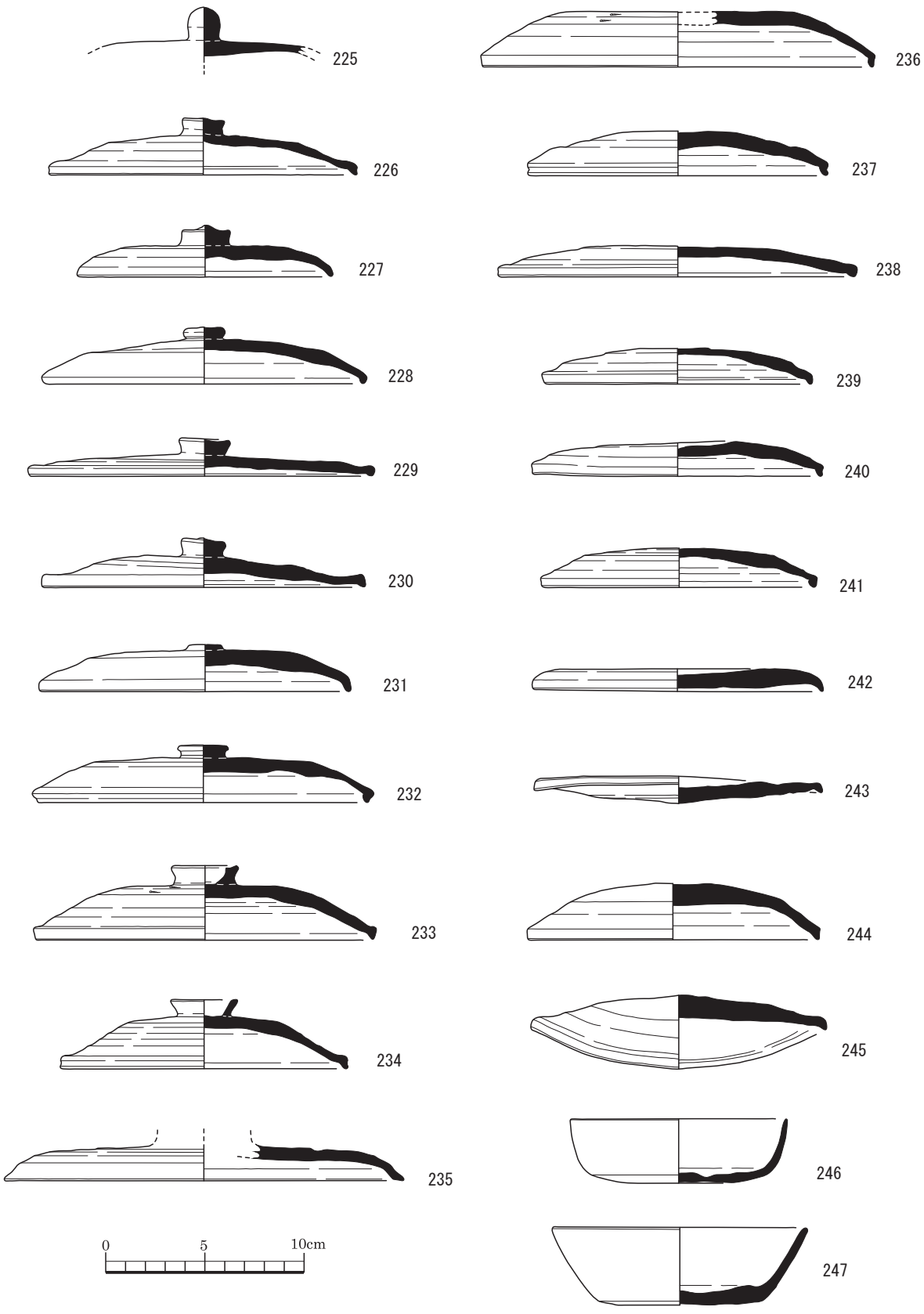


図 60　グリッド出土土器（RP）実測図

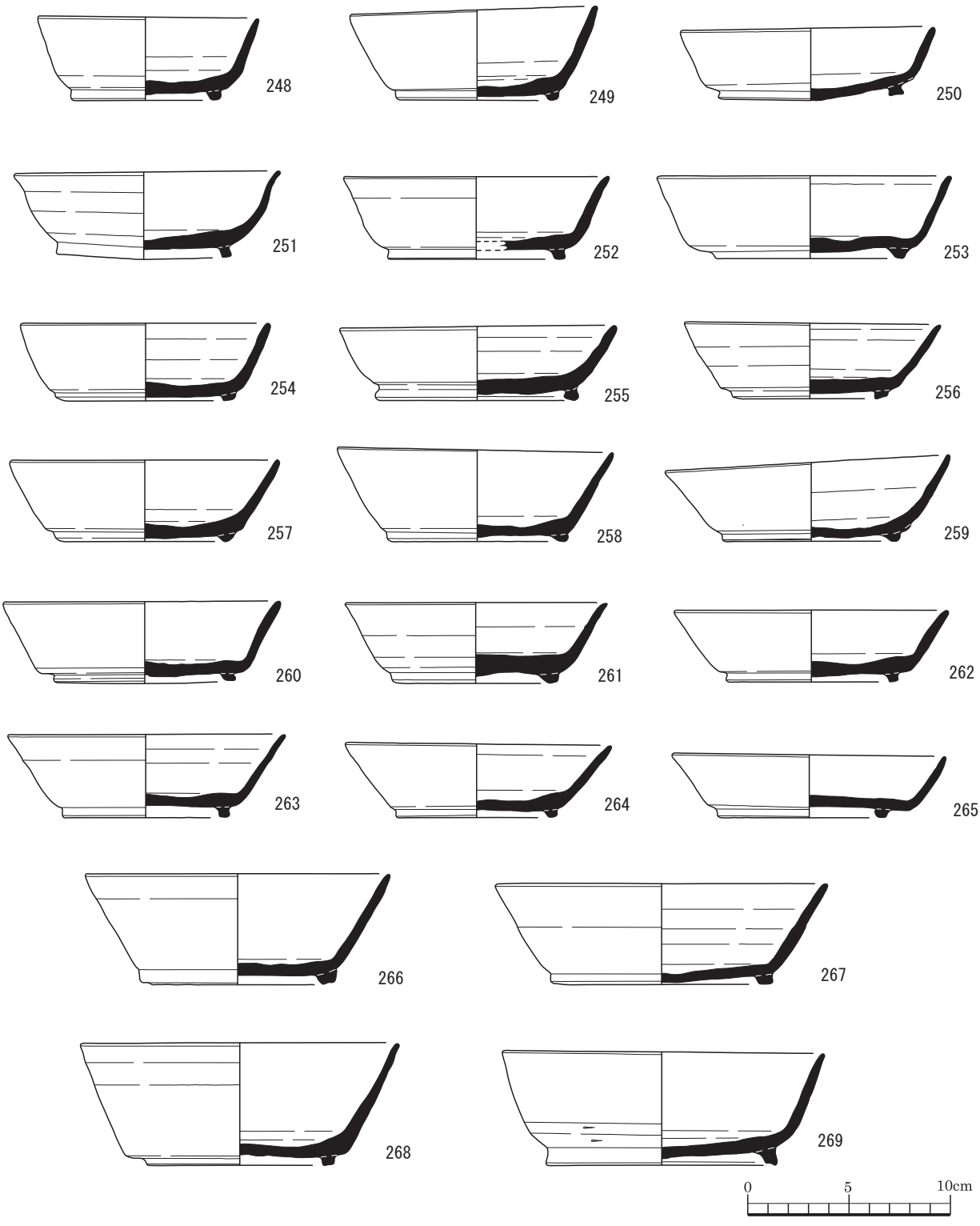


図 61　グリッド出土土器（RP）実測図

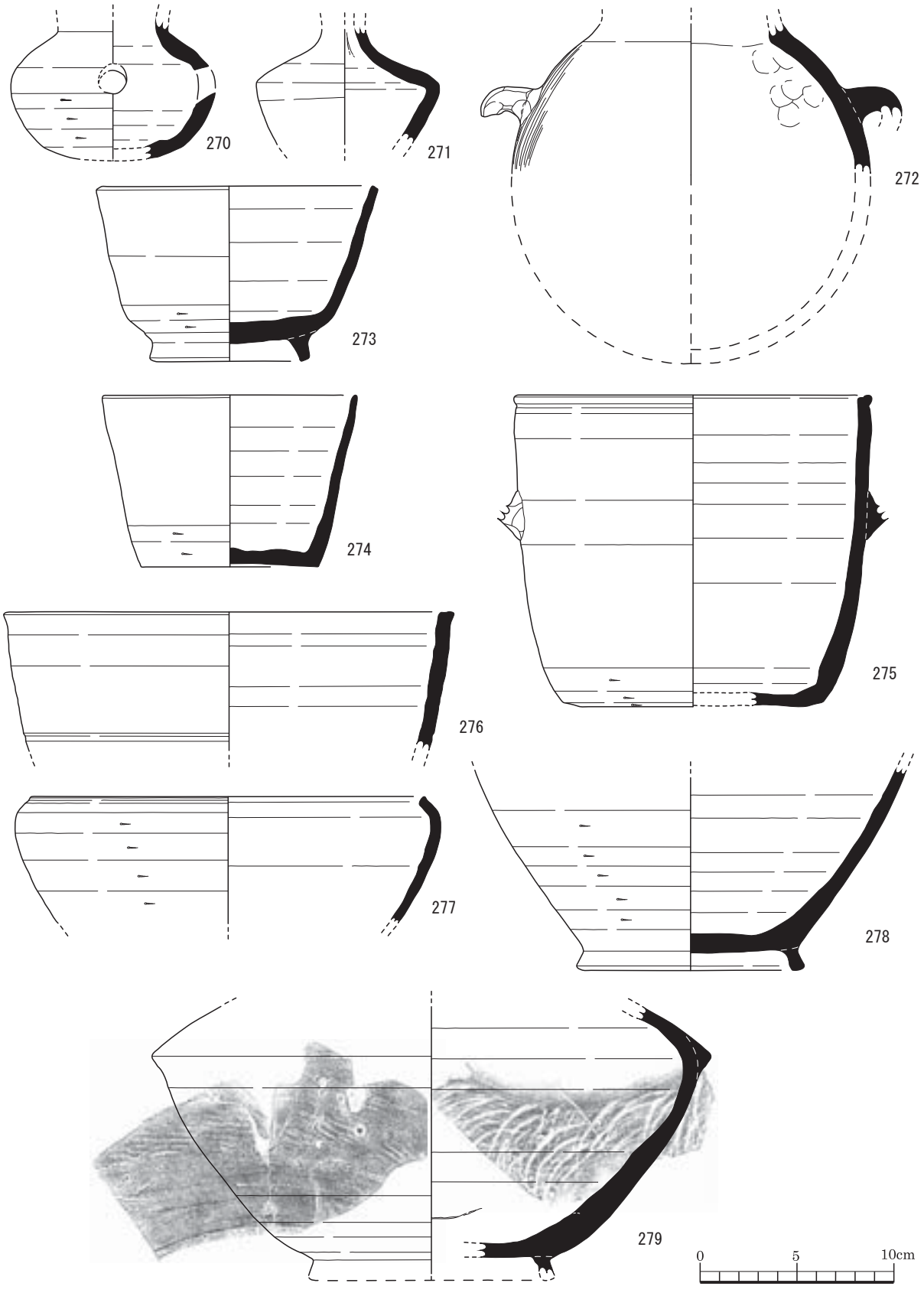


図 62　グリッド出土土器（RP）実測図

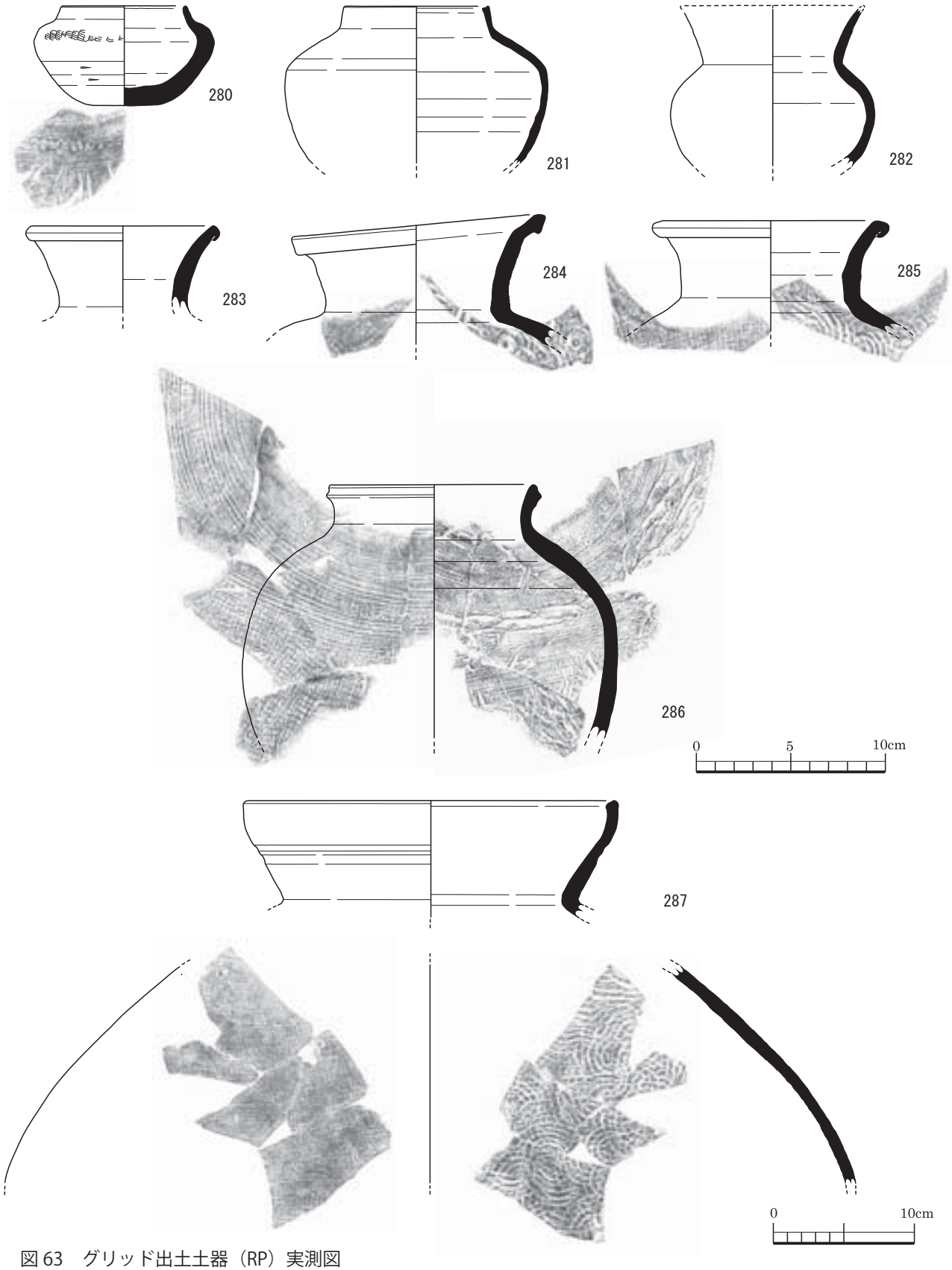


図 63　グリッド出土土器（RP）実測図

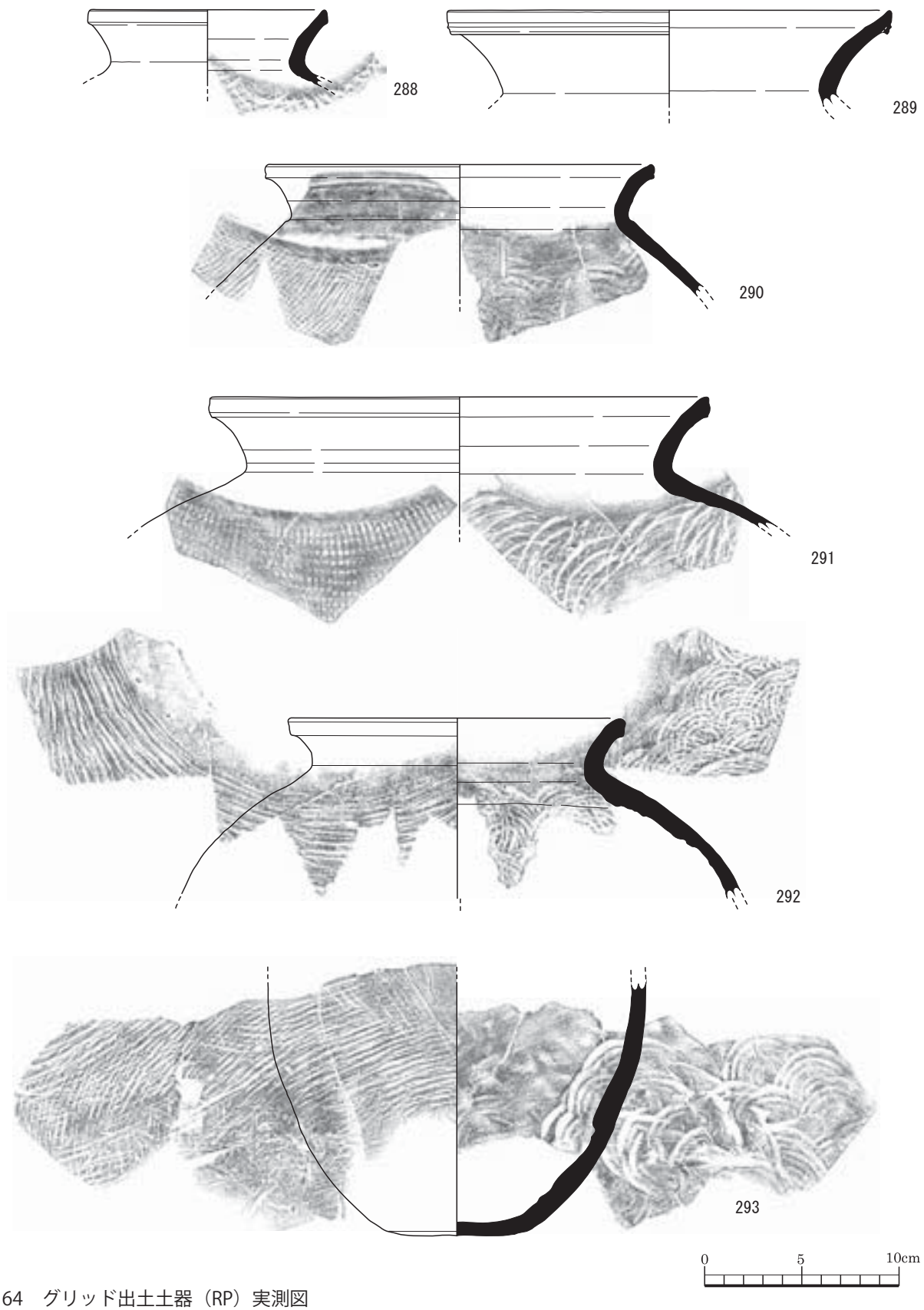


図 64　グリッド出土土器（RP）実測図

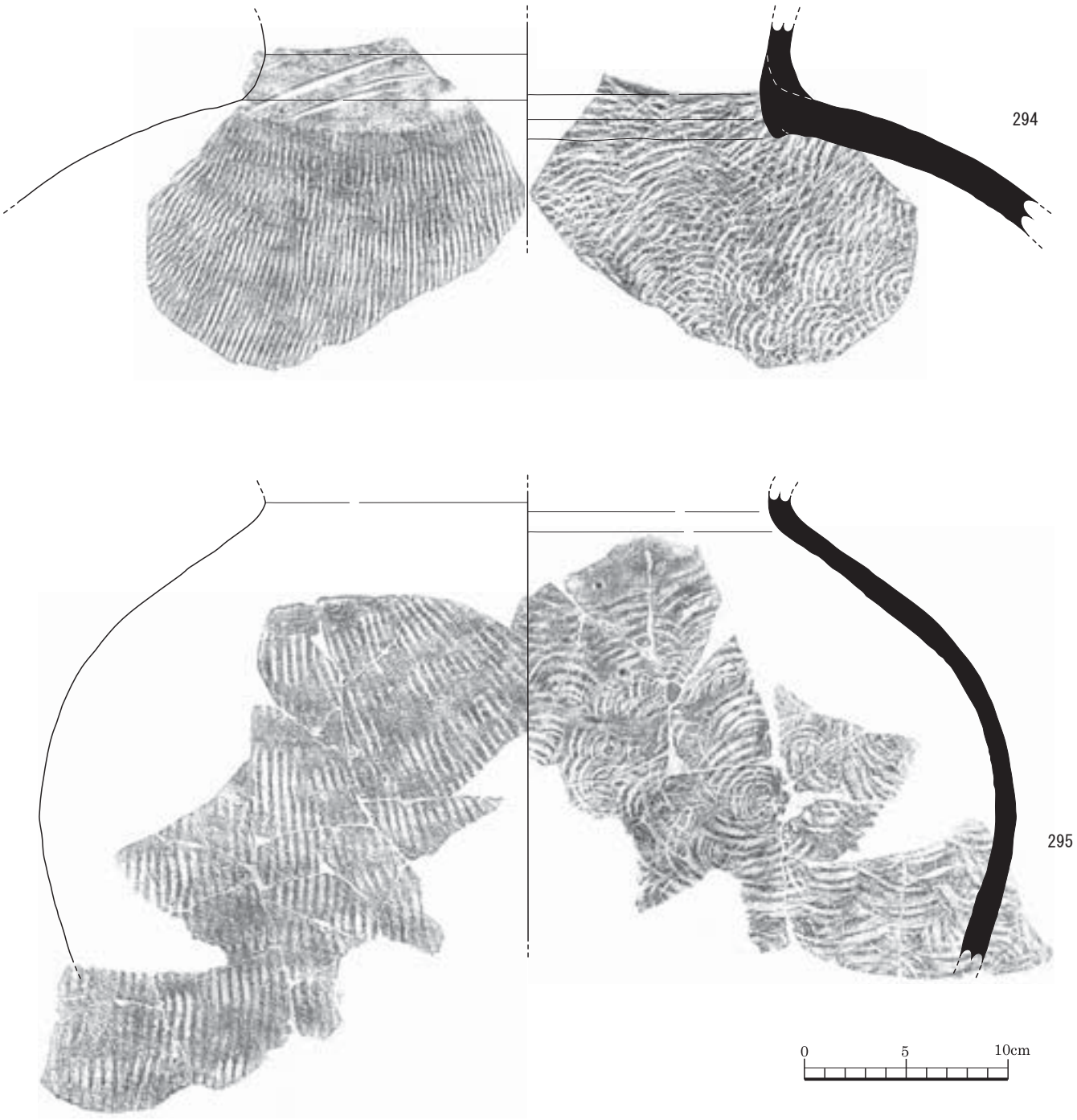


図 65　グリッド出土土器（RP）実測図

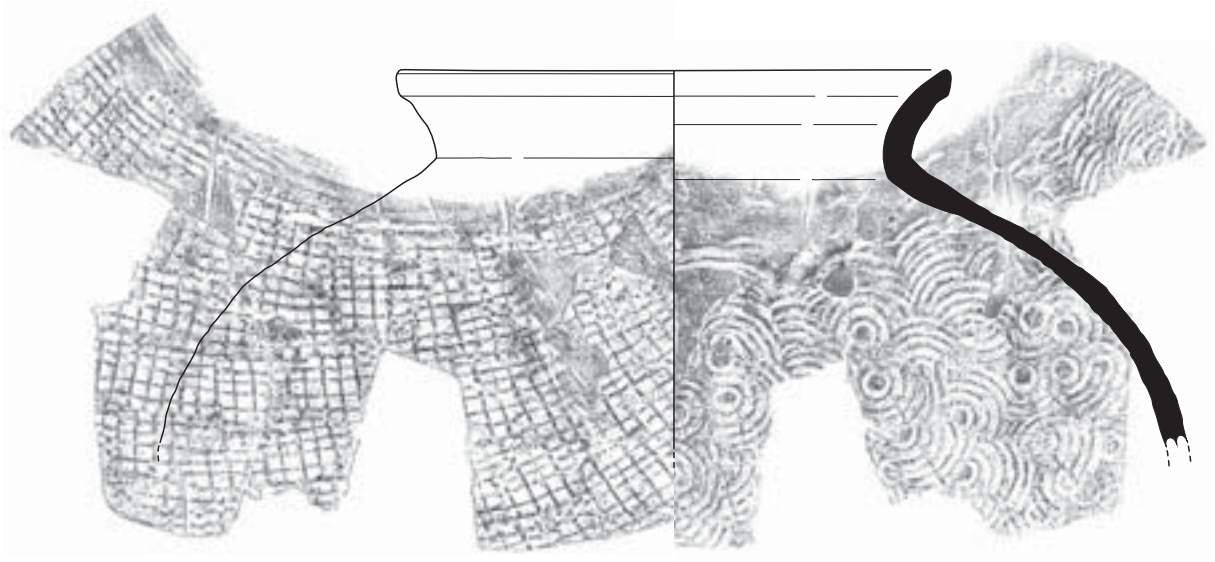


図 66　グリッド出土土器（RP）実測図

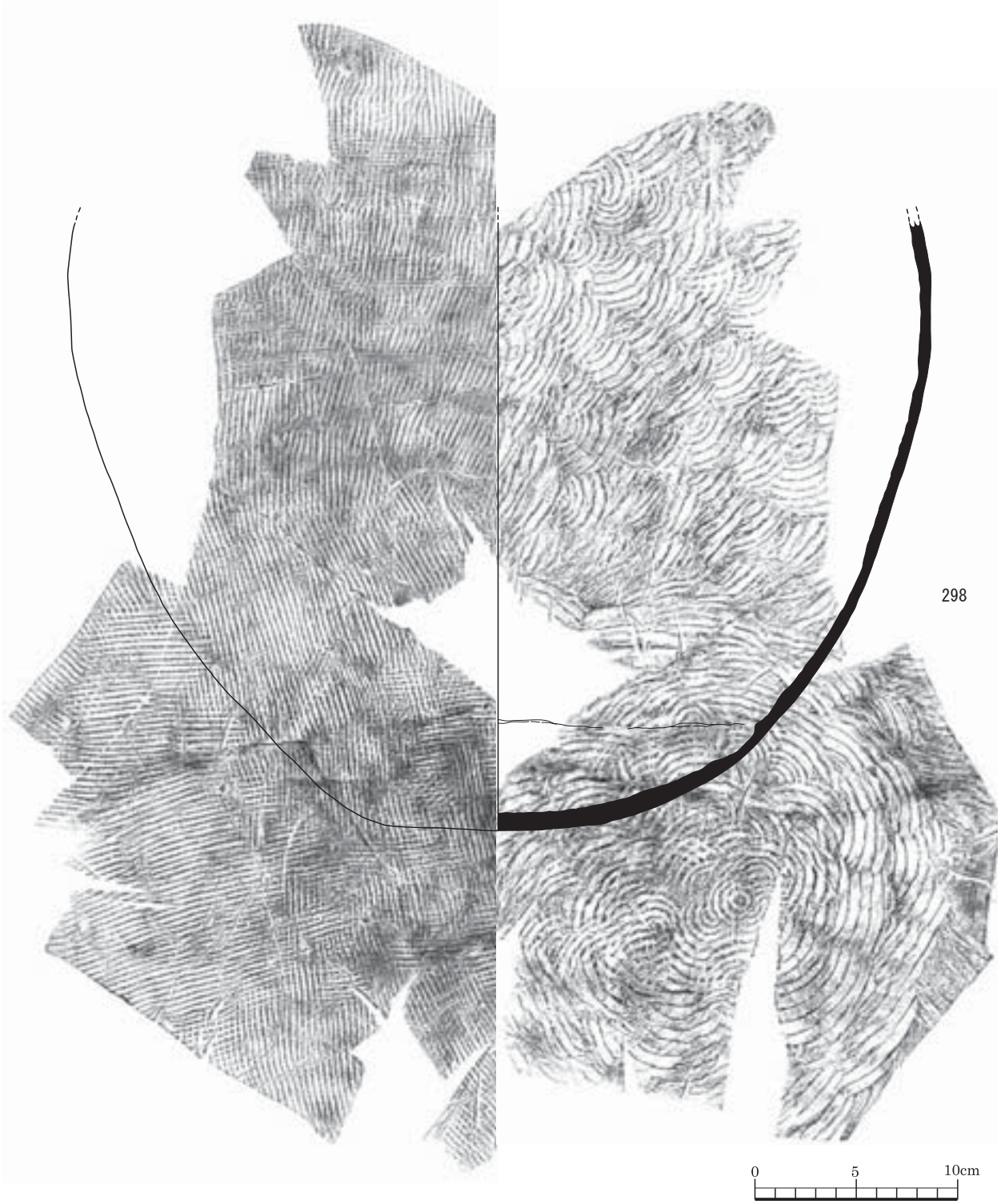


図 67　グリッド出土土器（RP）実測図

図 68　グリッド出土土器（RP）実測図

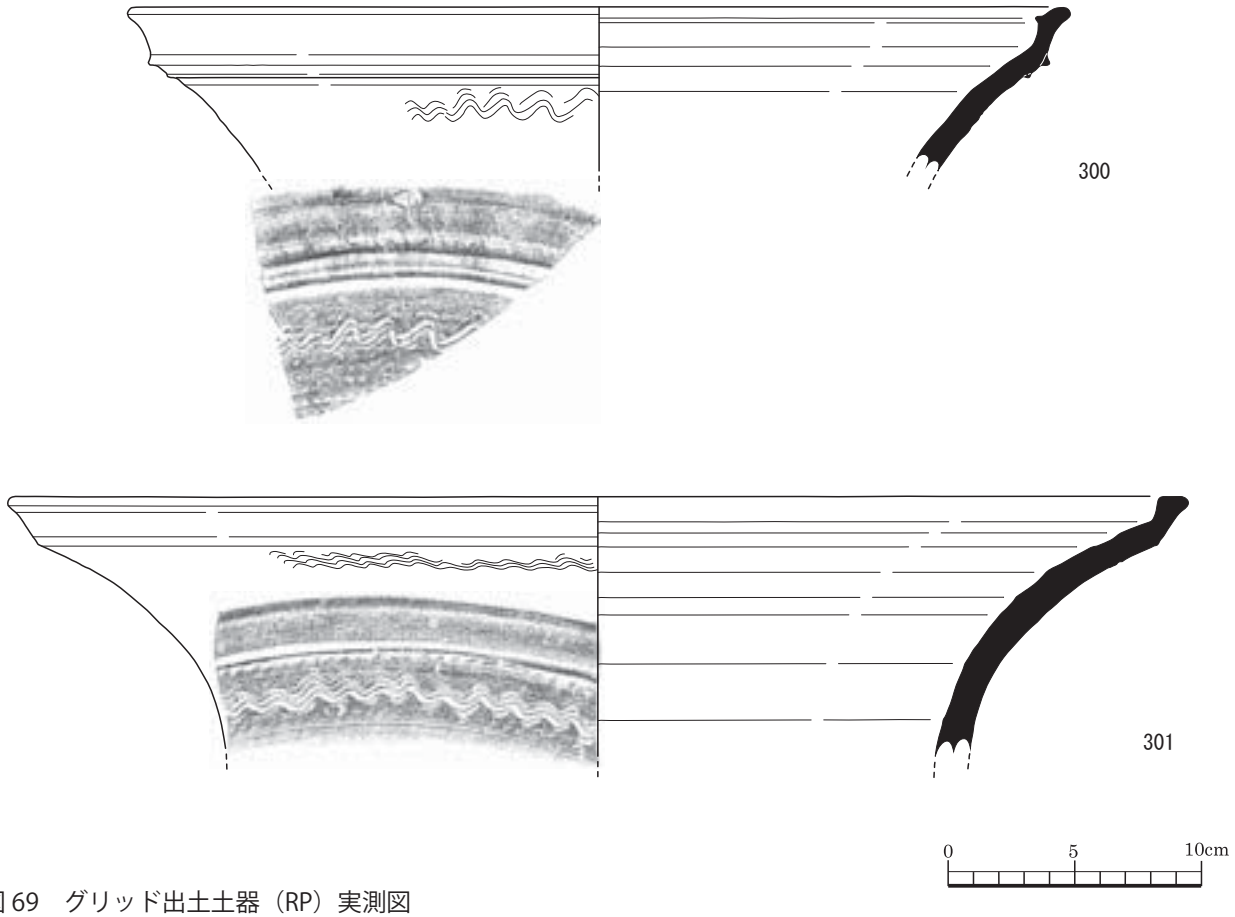


図 69　グリッド出土土器（RP）実測図

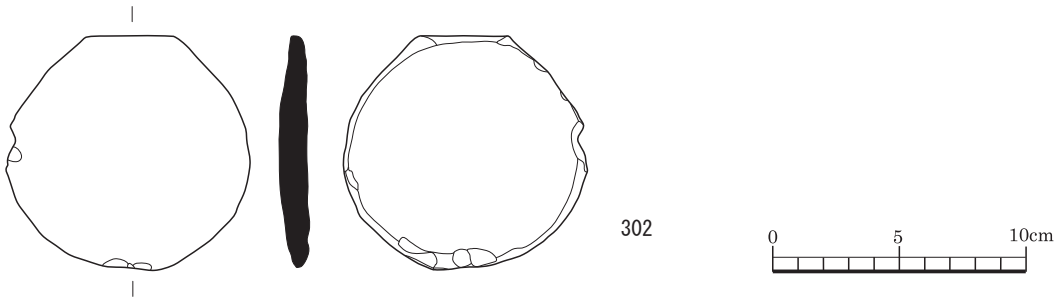


図 70　グリッド出土土製品（RP）実測図

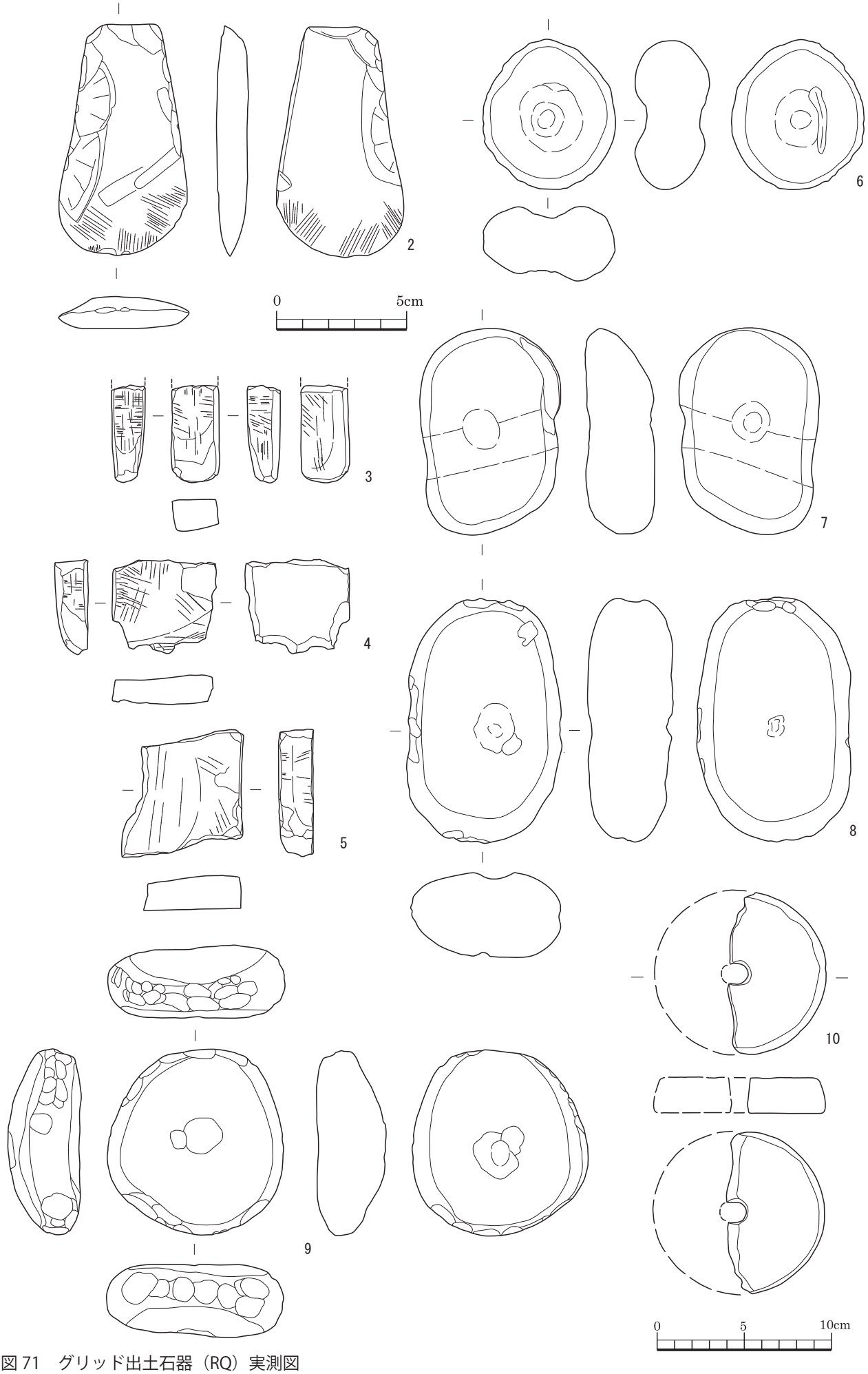


図 71　グリッド出土石器（RQ）実測図

2-2　花岡木崎遺跡 2 区の調査

2-2-1　調査区 2 区の概要

調査区 2 区は、花岡木崎遺跡の北西縁辺部に位置する。面積は約 1,450㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 2,900㎡である。調査区 2 区の発掘調査は、宮部武典（文化財保護主事）及び上高原聡（非常勤嘱託）が担当した。

2-2-2　調査区 2 区グリッド網

調査区 2 区及び 3 区を対象として設定された調査区 2、3 区グリッド網は、平面直角座標第Ⅱ系における X=-77910.000、Y=-46080.000 を起点とする。南北軸においては、起点から座標南に向かい 10 m間隔で区分し、各区間には北から南に A から R までアルファベットの名称を付した。東西軸も同様に 10 m間隔で区分し、各区間には西から東に 1 から 18 まで、

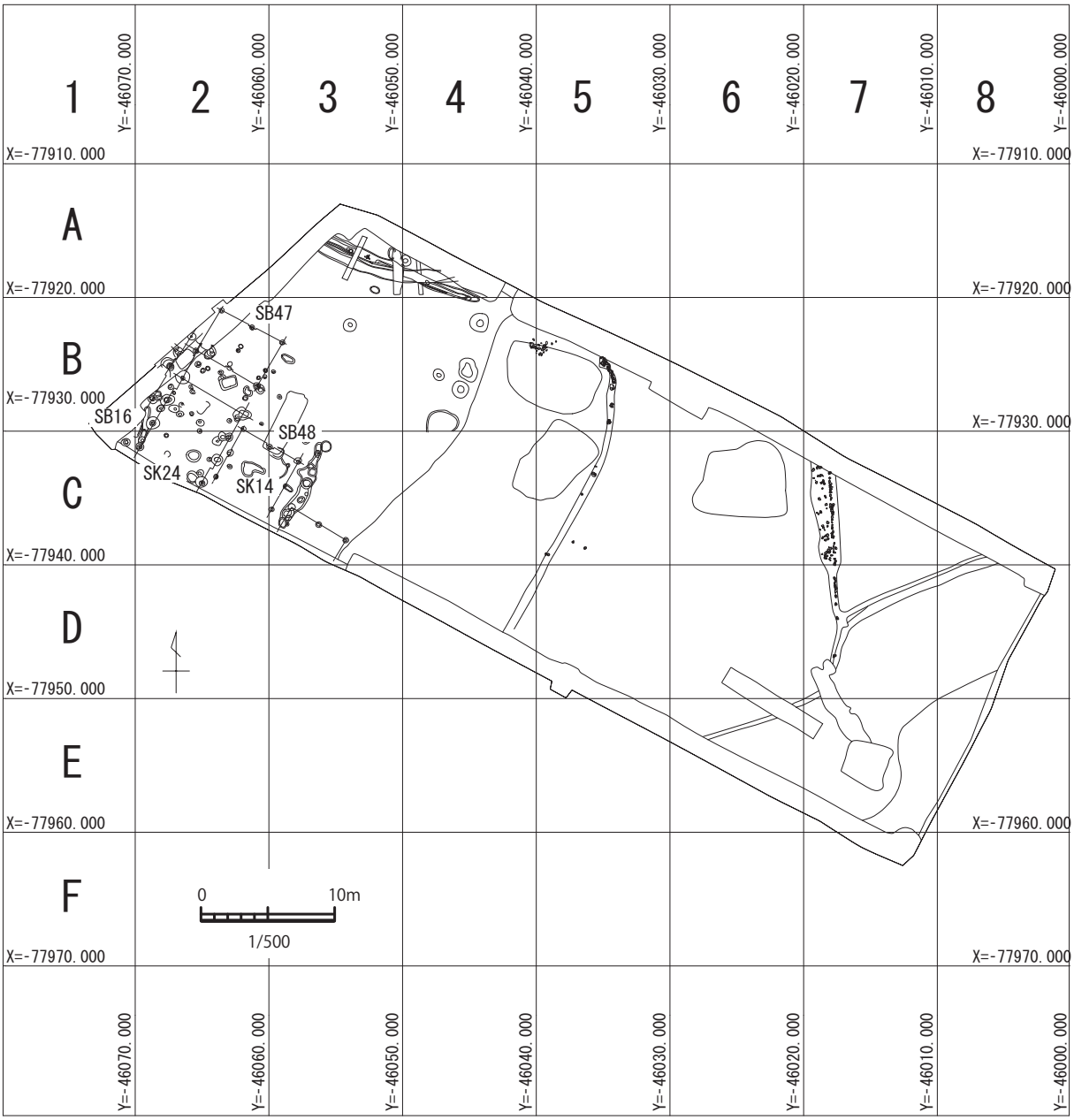


図 72　2 区遺構配置図 1・2 層（1/500）

東から西に 0 から -2 までの数字の名称を付した。なお、グリッドは、南北軸及び東西軸の区分の直交部分に 10m グリッドが設営されることとなる。また、グリッド名は、「南北軸アルファベット名称＋東西軸数字名称」と定め、「E4 グリッド」、「F-2 グリッド」のように記述している。おって、このグリッド名は、整理作業に際しても変更することなく用いた。したがって、遺物への註記、各種図面も上記グリッド名を用いて表記している。

2-2-3　調査区 2 区の遺構と遺物

調査区 1 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

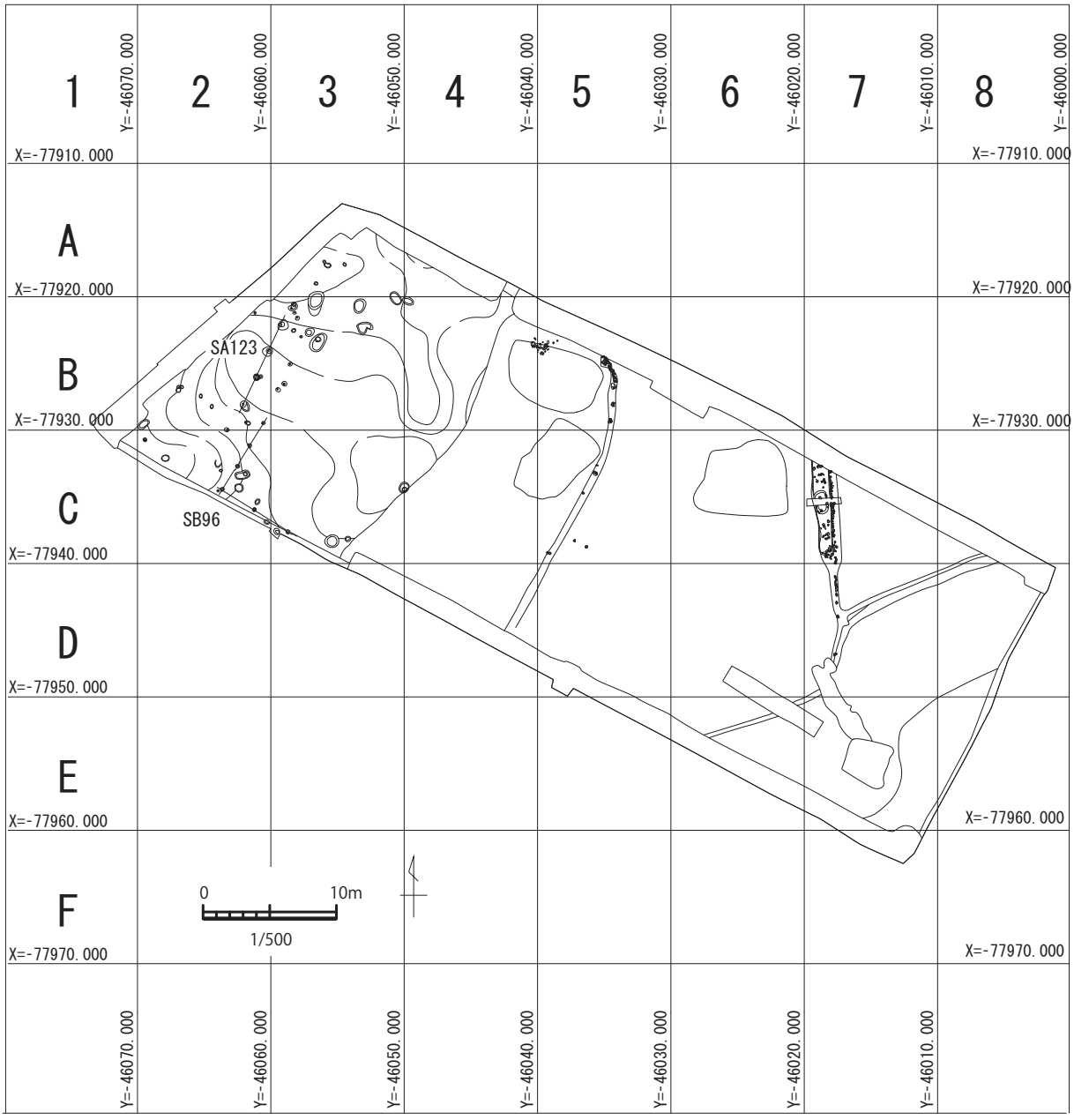
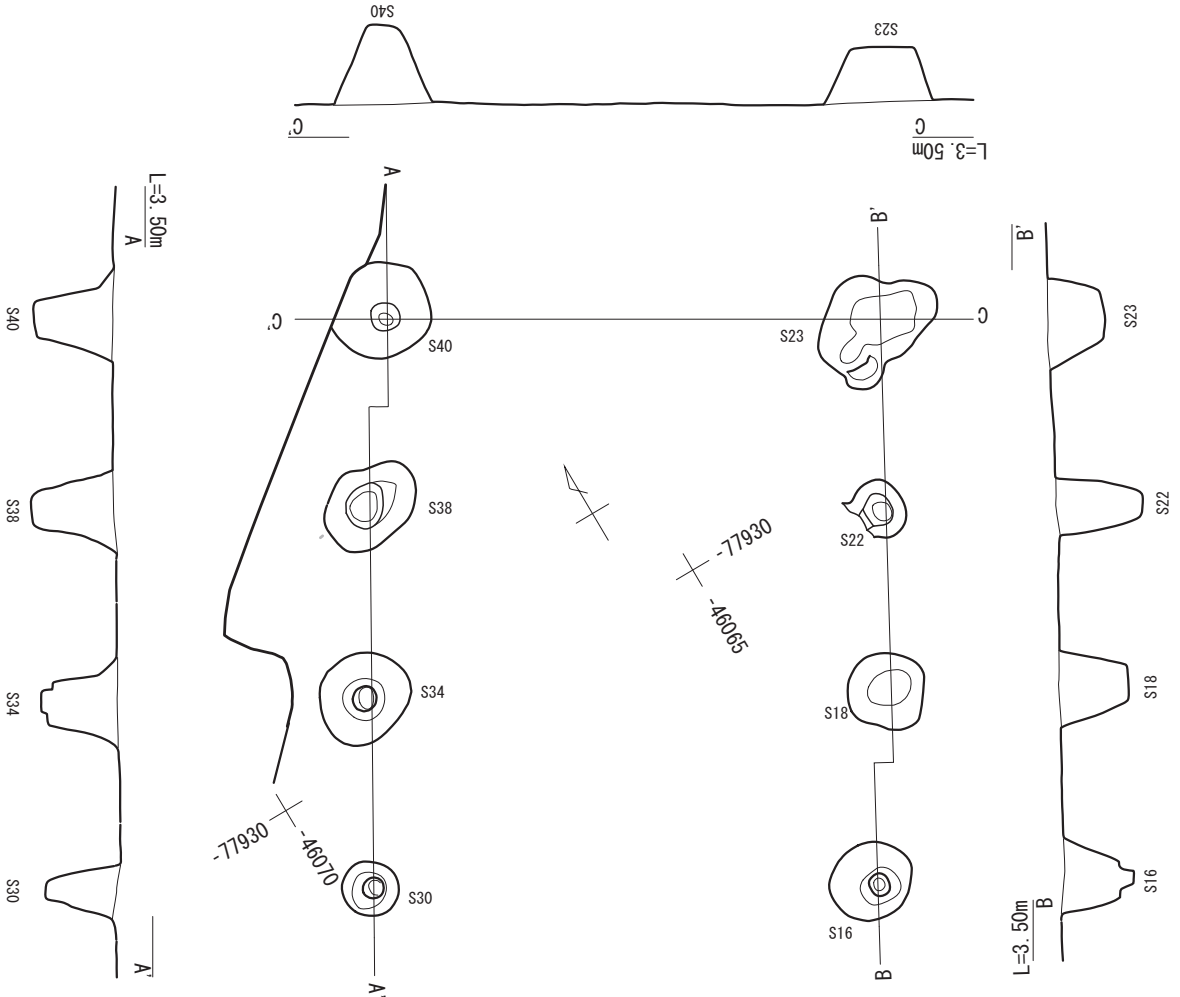


図 73　2 区遺構配置図 3・4 層（1/500）



SP18　暗褐色土（10YR 3/4）　しまりあり　粘性あり　焼土炭の粒（5mm～10mm）を多く含む　一部5～10ｃｍ大のブロック塊になっている。
SP22　暗褐色土（10YR 3/3）　しまりあり　粘性弱い、焼土（赤淡黄）炭を含み、黒ずんでいる。
SP23　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまりあり　粘性弱い　鉄分タテすじ状に含む　炭粒（1mm程度）微量に含む
SP30　黒色土（10YR 2/1）粘性あり　一部焼土混じるが、殆ど水気を含んだ炭で構成。底部に木片。
SP34　暗褐色土（10YR 3/4）しまり弱い　粘性あり　炭　焼土をまばらに含んでいる　一部3cm大のブロック状
SP38　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまり弱い　粘性あり　鉄分をまだらに含みやや土色より暗く見える
SP40　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり弱い　粘性あり　1mm程度の焼土粒を少量含む　1cm～5cmの小石を少量含む

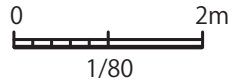


図 74　SB16 実測図（1/80）

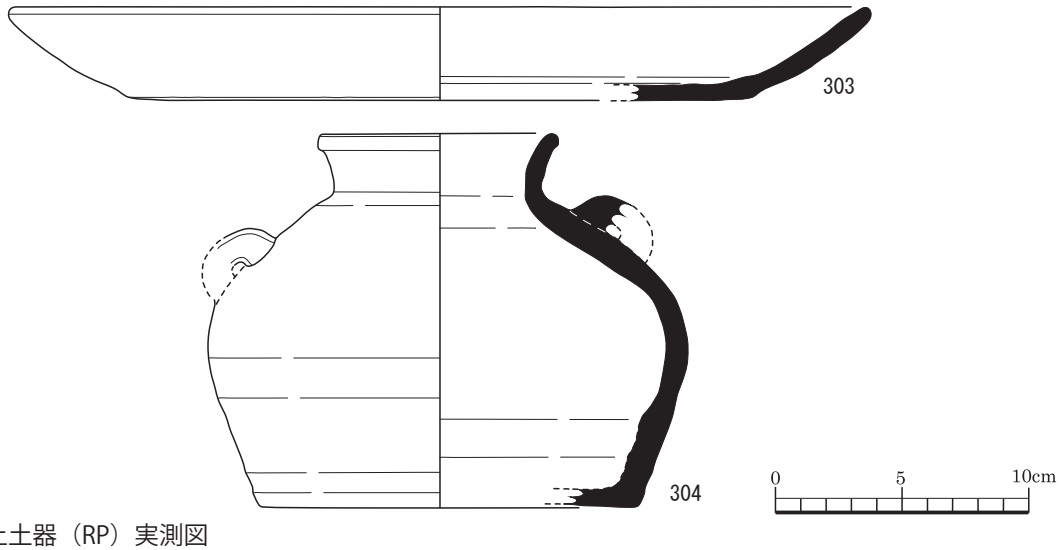
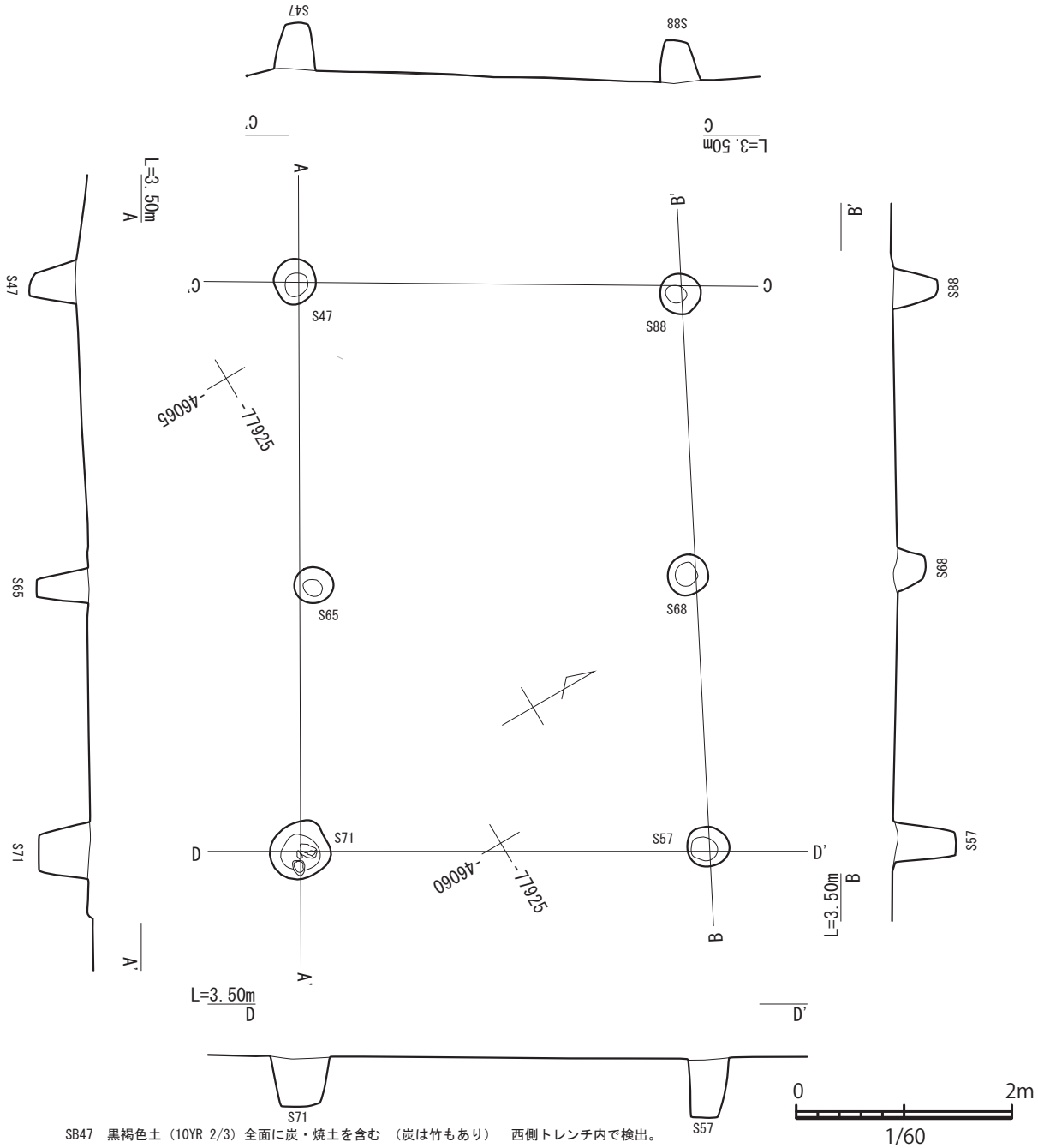


図 75　SB16 出土土器（RP）実測図



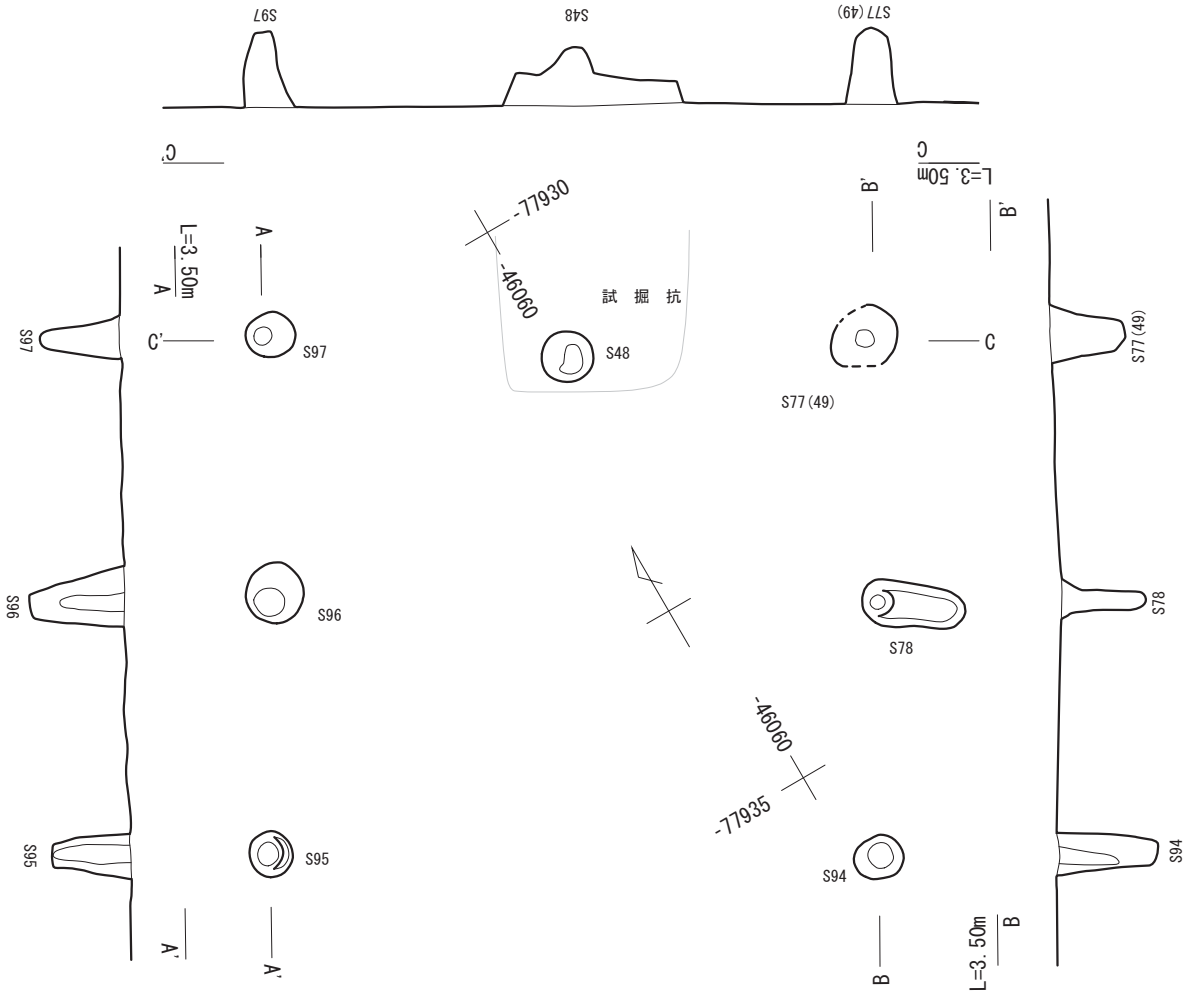
SB47　黒褐色土（10YR 2/3）全面に炭・焼土を含む （炭は竹もあり）　西側トレンチ内で検出。
SP57　黒褐色土（10YR 3/4）粘性あり。炭を大量に含んでいる 水分を含み湿っている 底部近くに土器片、底部に角礫十数個あり
SP65　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまりあり　粘性弱い　鉄分　炭粒を少量含み　やや黒ずんでいる
SP68　オリーブ褐色土（2.5Y 4/4）しまりあり　粘性弱い　鉄分を少量タテすじ状に含む　炭粒（5mm大）微量に含む
SP71　黒褐色土（10YR 3/2）しまりあり　粘性あり　炭を全面に含む　一部5cm大程度のブロック状をなす　焼土粒　炭粒を少量含む
SP88　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）　しまりあり　粘性弱い　鉄分　炭粒を少量含んでいる

図 76　SB47 実測図（1/60）

掘立柱建物 16（SB16）

SB16 は、北半部のみを確認した、長軸を南北方向に採る桁行 2 間×梁行 1 間の掘立柱建物である。C2 グリッドに位置する。

SB16 は桁行 6.05m ×梁行 5.24m であり、柱間寸法は桁間 1.9 ～ 2.05 mを測る。その柱穴は直径 56 ～ 115cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 57 ～ 87cm であった。柱穴 S23 以外の柱穴は、それぞれ底面標高を概ね揃えている。なお、東辺の柱列、西辺の柱列とも調査区外に延びているものと考えている。



S48　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）粘性あり　1cm以下の炭粒少量　灰色が強い
S77　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまりあり　粘性弱い　鉄分含む（タテすじ）　炭（5mm程度）を少量含む
S94　オリーブ褐色土（2.5Y 4/4）しまりあり　粘性弱い　鉄分を含む　炭粒微量に含む
S95　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまりあり　粘性弱い　鉄分をタテすじ状に含む
S96　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまりあり　粘性弱い　鉄分をタテすじ状に含む
S97　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまり弱い　粘性弱い　鉄分を含む　炭粒（5mm以内）を微量に含む　やや砂質をおびる
S78　オリーブ褐色土（2.5Y 4/4）しまり弱い　粘性弱い　炭粒　鉄分少量含む

図 77　SB48 実測図（1/60）

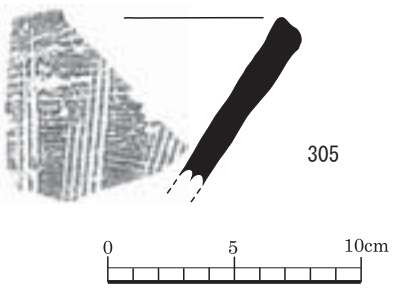
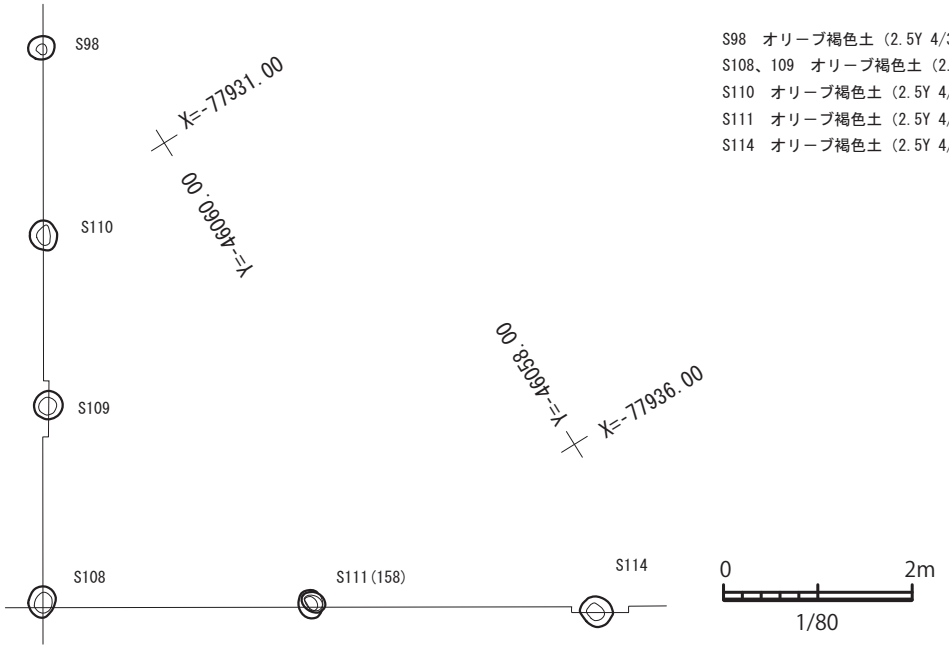


図 78　SB48 出土土器（RP）実測図

SB16 からは、瓦質土器、須恵器を検出している。

RP303 は焙烙である。口径 34.3cm、底径 25cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この焙烙は、外面調整は回転ナデ、ナデ、切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP304 は壺である。口径 9.5cm、底径 15.1cm、器高 14.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を



S98　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）しまり、粘性弱い。鉄分含む。
S108、109　オリーブ褐色土（2.5Y 4/4）しまり、粘性弱い。鉄分含む
S110　オリーブ褐色土（2.5Y 4/4）
S111　オリーブ褐色土（2.5Y 4/4）
S114　オリーブ褐色土（2.5Y 4/3）

図 79　SB96 実測図（1/80）

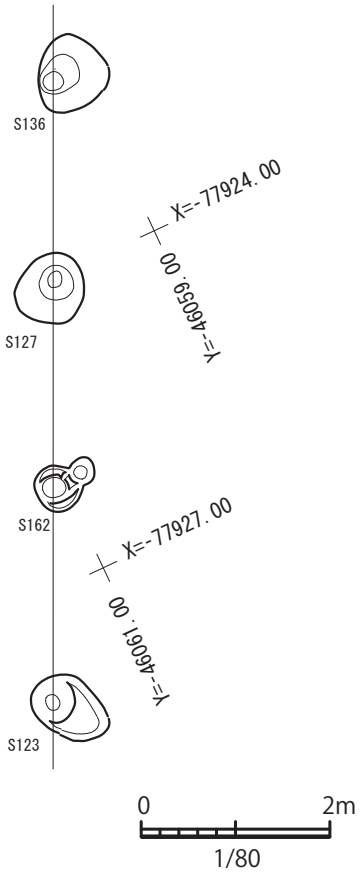


図 80　SA123 実測図（1/80）

呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、貼付耳、指オサエ、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

掘立柱建物 47（SB47）

SB47 は、長軸を西側から東南方向にとる桁行 3 間×梁行 1 間の掘立柱建物である。B2 グリッドに位置する。

SB47 は、桁行 5.3m ×梁行 3.55m であり、柱間寸法は桁間 2.45 ～ 2.85 mを測る。その柱穴は直径 32 ～ 55cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 26 ～ 58cm であった。各柱穴列は、底面標高を概ね揃えている。

掘立柱建物 48（SB48）

SB48 は、北半部のみを確認した、長軸を北西から東南東方向にとる桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。C2 グリッドに位置する。

SB48 は、桁行 4.1m ×梁行 4.85m であり、柱間寸法は桁間 2.0 ～ 2.45 mを測る。その柱穴は直径 35 ～ 82cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 54 ～ 75cm であった。各柱穴列は、底面標高を概ね揃えている。なお、東柱穴列、西柱穴列とも調査区以外に延びているものと考えている。

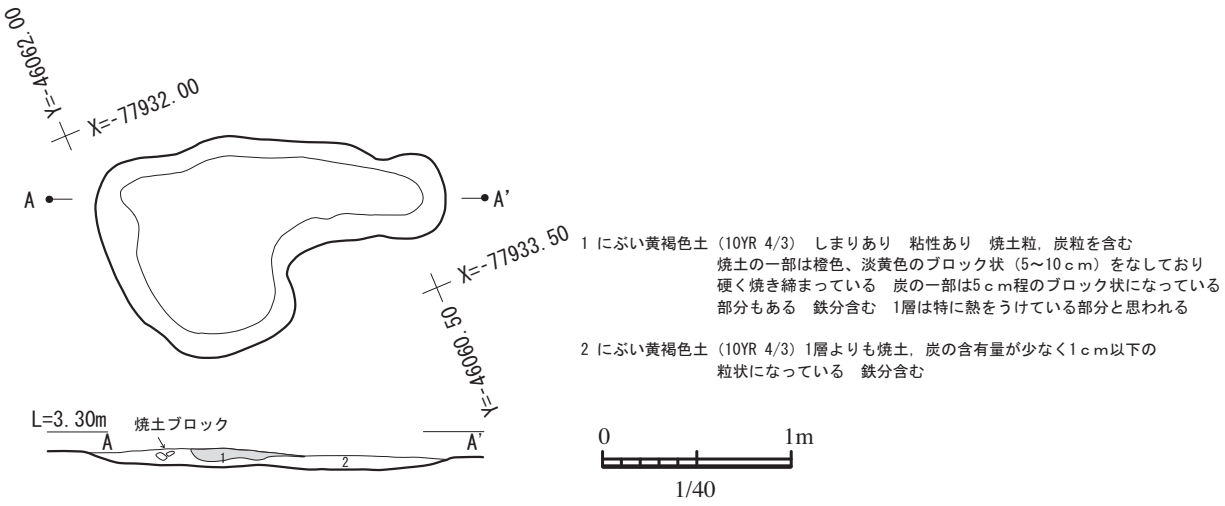


図 81　SK14 実測図（1/40）

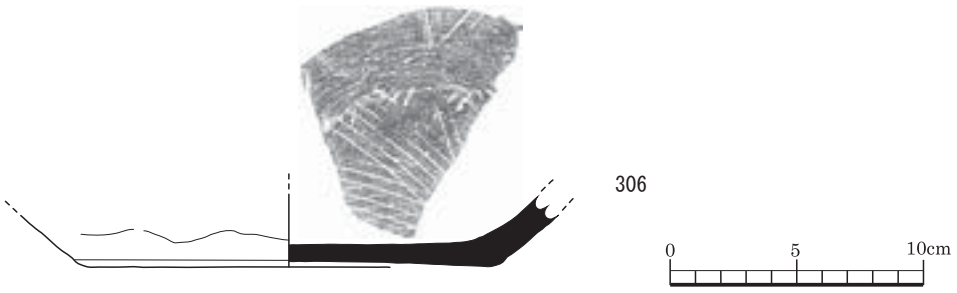


図 82　SK14 出土土器（RP）実測図

SB48 からは、瓦質土器を検出している。

RP305 は瓦質土器の擂鉢である。器高 6.6cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英が観察される。この擂鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ（ヨコ）、ヨコナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

掘立柱建物 96（SB96）

SB96 は、南西隅のみを確認した掘立柱建物である。C2 グリッドに位置する。

SB98 の南西隅は、柱穴列 S98、110、109、108 と柱穴列 S114、111、108 が S108 で直交している。柱穴列 S114、111、108 は柱穴列 S114、159、と交差しているが、調査者は両柱穴列の関係を整理していない。

柵列 123（SA123）

SA123 は、柱穴 S136、127、162、123 が構成する柵列である。B2 グリッドに位置する。

SA123 は、直径 0.5 ～ 0.8m の柱穴 4 基からなり、2.2 ～ 2.4m の柱間隔をもつ。

土壙 14（SK14）

SK14 は、不整形の土壙である。B3 グリッドに位置する。

SB48 は、1.8 × 1.1m の不整形を呈し、遺構確認面からの深さ 8cm を測る。その埋土には焼土ブロックが認められ、底面は平面となっている。

SB48 からは、瓦質土器を検出している。

RP306 は瓦質土器の擂鉢である。底径 16cm、器高 2.7cm を測る。器面の外面は灰オリーブ色、内面は灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この擂鉢は、外面調整はナデ、ケズリ、ナデ、内面調整はナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

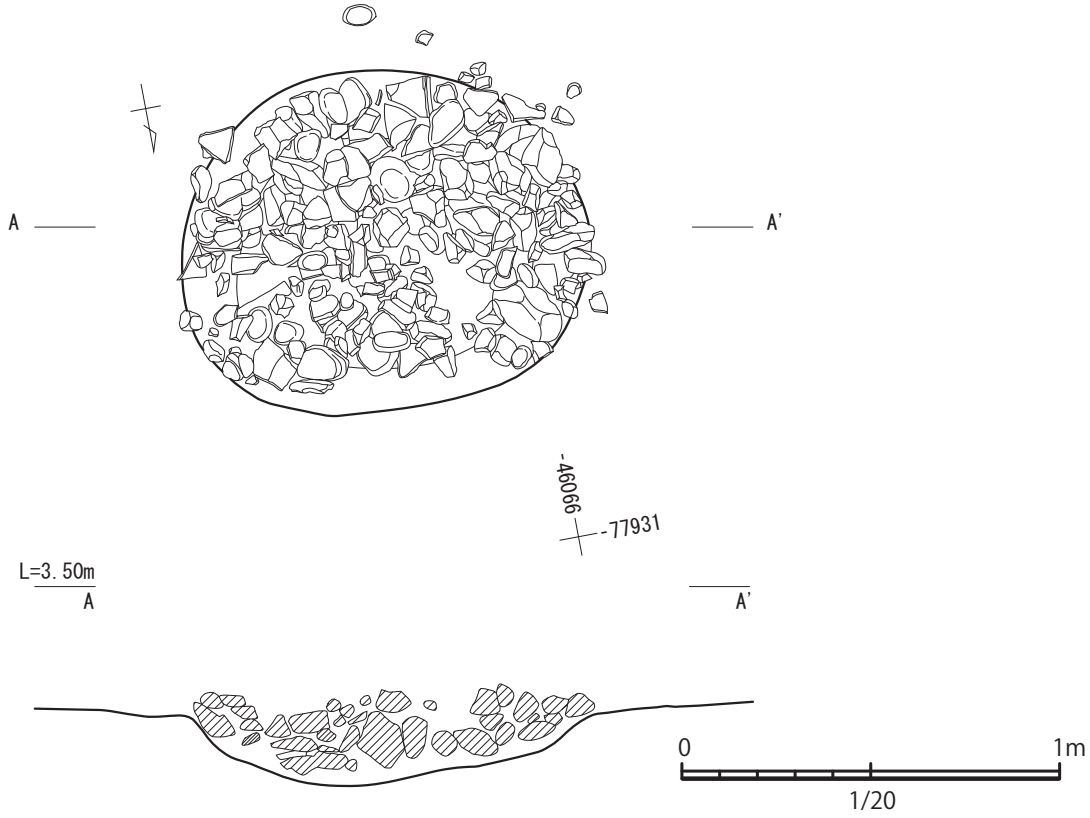


図 83　SK24 実測図（1/40）

土壙 24（SK24）

SK24 は、円形を呈する土壙である。C2 グリッドに位置する。

SK24 の法量は、長径 1.1 m、短径 0.9 m、遺構確認面からの深さ 25cm を測る。埋土には破砕礫が多数混入している。

SK24 からは、瓦質土器を検出している。

RP307 は瓦質土器の火鉢である。口径 44.3cm、器高 12.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この火鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、貼付文、ナデ、スタンプ文、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP308 は瓦質土器の火鉢である。口径 44.4cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面も灰黄色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この火鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、貼付文、ナデ、スタンプ文、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

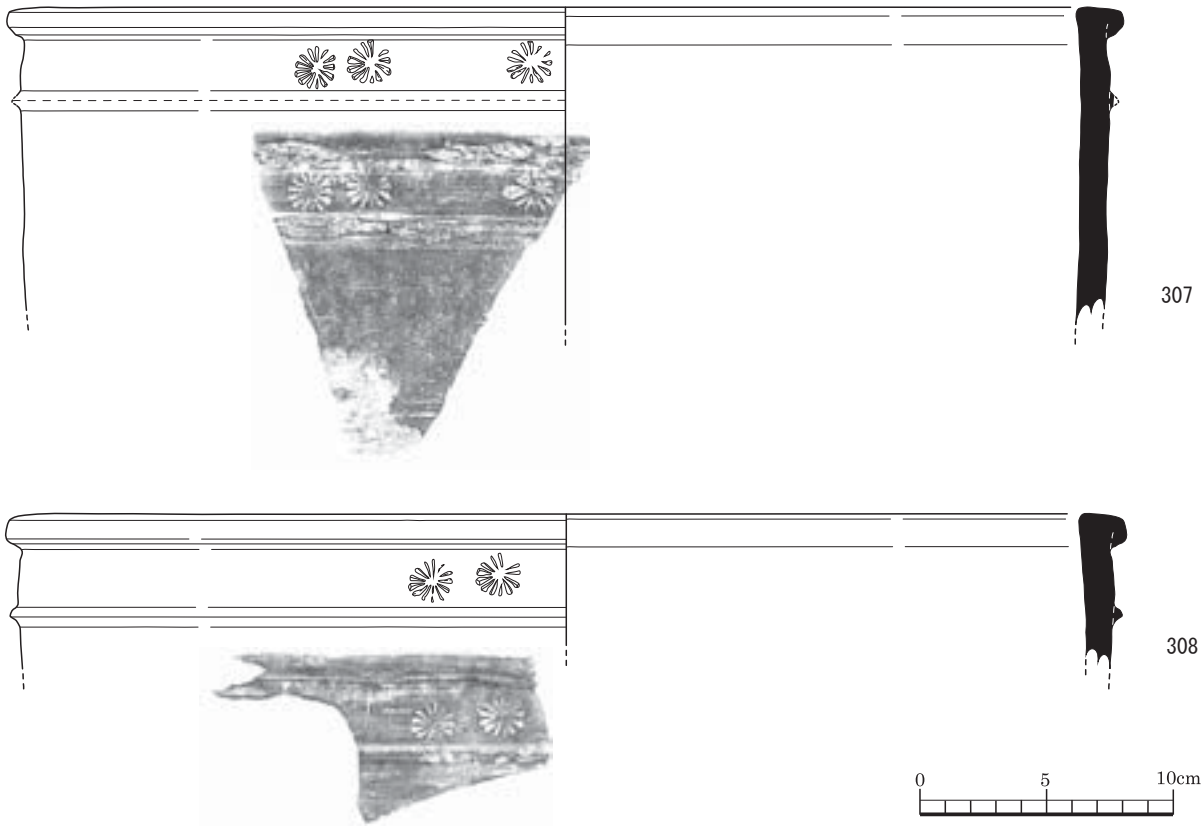


図 84　SK24 出土土器（RP）実測図

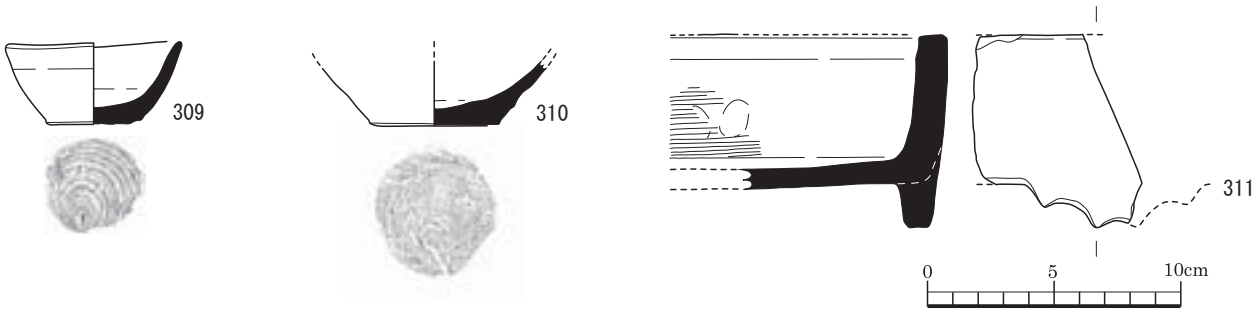


図 85　その他遺構　出土土器（RP）実測図

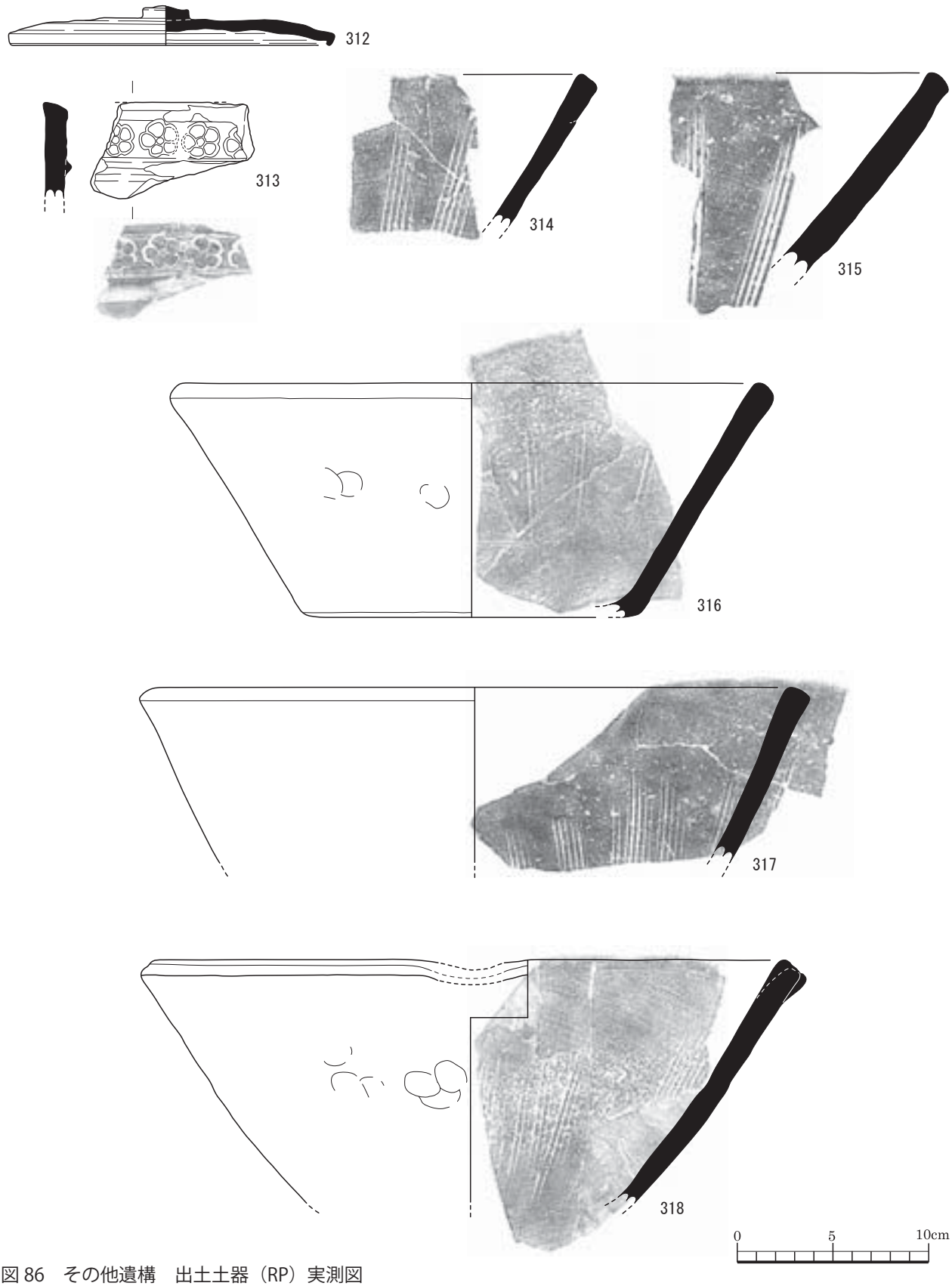


図 86　その他遺構　出土土器（RP）実測図

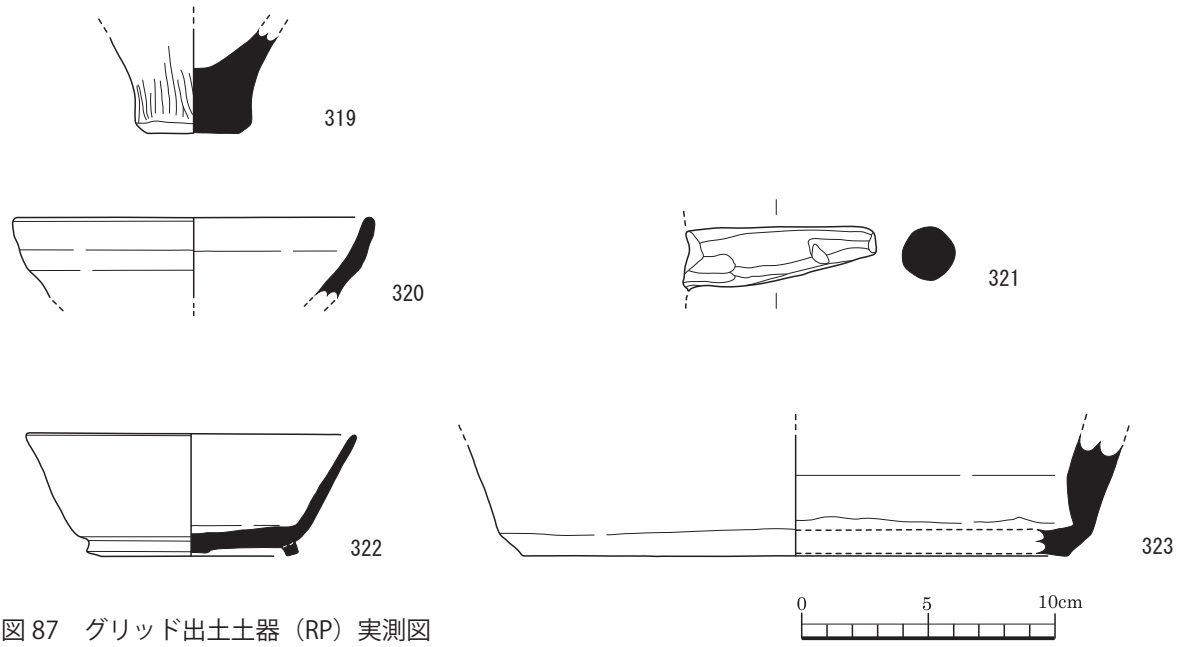


図 87　グリッド出土土器（RP）実測図

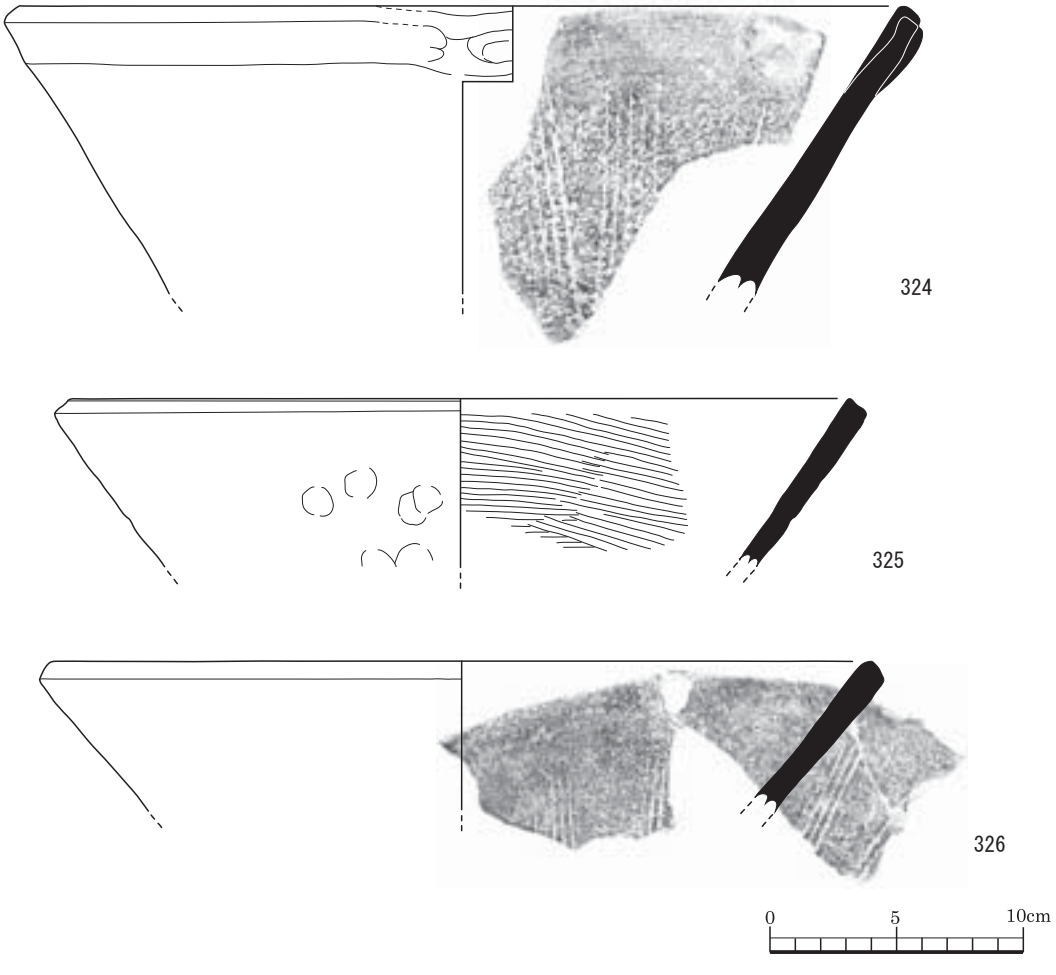


図 88　グリッド出土土器（RP）実測図

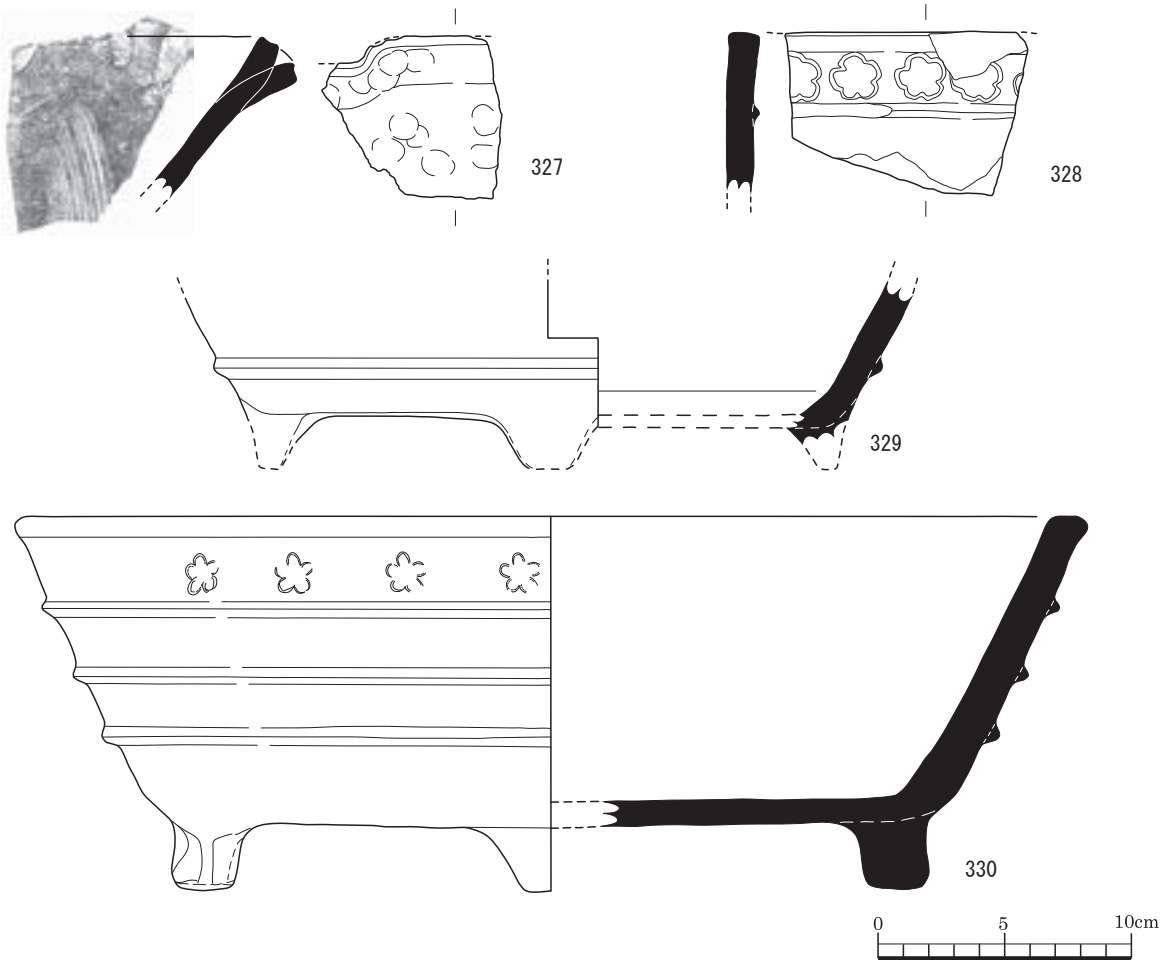


図 89　グリッド出土土器（RP）実測図

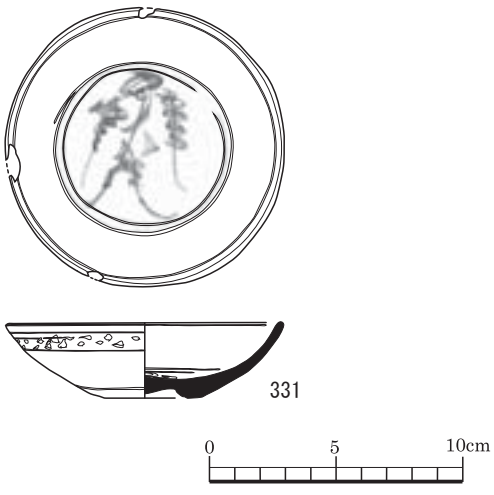


図 90　グリッド出土土器（RP）実測図

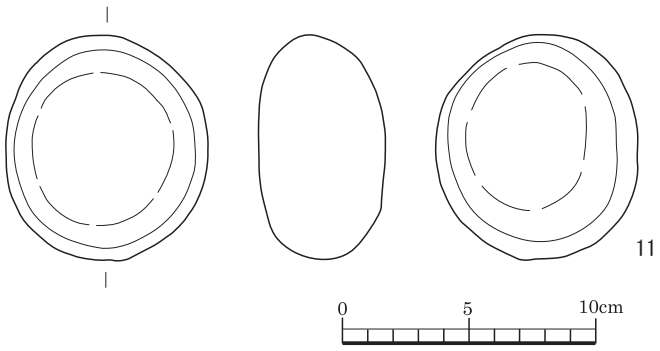


図 91　グリッド出土石器（RQ）実測図

2-3　花岡木崎遺跡 3 区の調査

2-3-1　調査区 3 区の概要

調査区 3 区は、花岡木崎遺跡の北西縁辺部に位置する。調査区 3 区は調査区 2 区の南に接し、面積は約 1,000㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 2,000㎡である。調査区 3 区の発掘調査は、宮部武典（文化財保護主事）及び川俣幸次（非常勤嘱託）が担当した。

2-3-2　調査区 3 区のグリッド網

調査区 2 ～ 4 区を対象として設定された調査区 2 ～ 4 区グリッド網は、平面直角座標第Ⅱ系における X=-77910.000、Y=-46080.000 を起点とする。南北軸においては、起点から座標南に向かい 10 m間隔で区分し、各区間には北から南に A から R までアルファベットの名称を付した。東西軸も同様に 10 m間隔で区分し、各区間には西から東に 1 から 18 まで、東から西に 0 から -2 までの数字の名称を付した。なお、グリッドは、南北軸及び東西軸の区分の直交部分に 10m グリッドが設営されることとなる。また、グリッド名は、「南北軸アルファベット名称＋東西軸数字名称」と定め、「E4 グリッド」、「F-2 グリッド」のように記述している。おって、このグリッド名は、整理作業に際しても変更することなく用いた。したがって、遺物への註記、各種図面も上記グリッド名を用いて表記している。

2-3-3　調査区 3 区の遺構と遺物

調査区 3 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

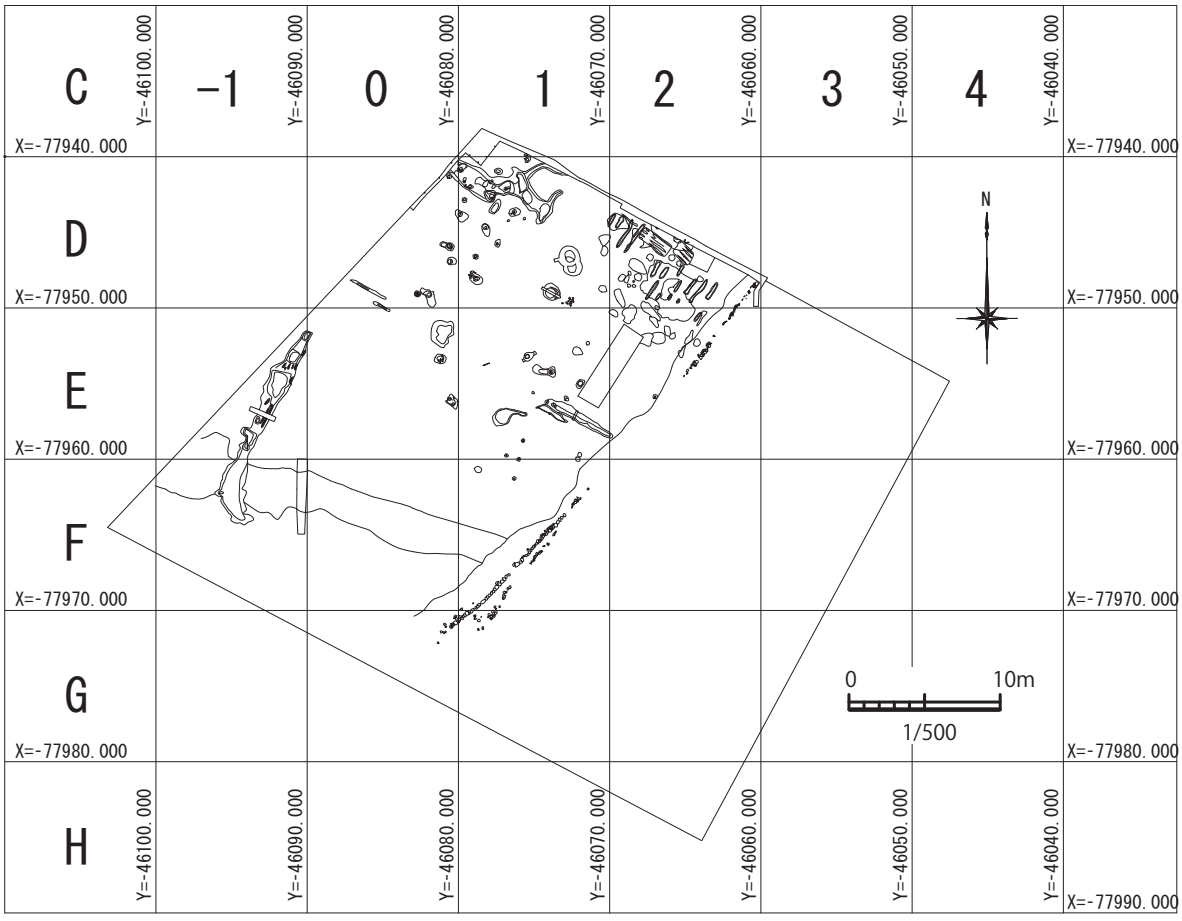


図 92　3 区遺構配置図 4 層 1 面（1/500）

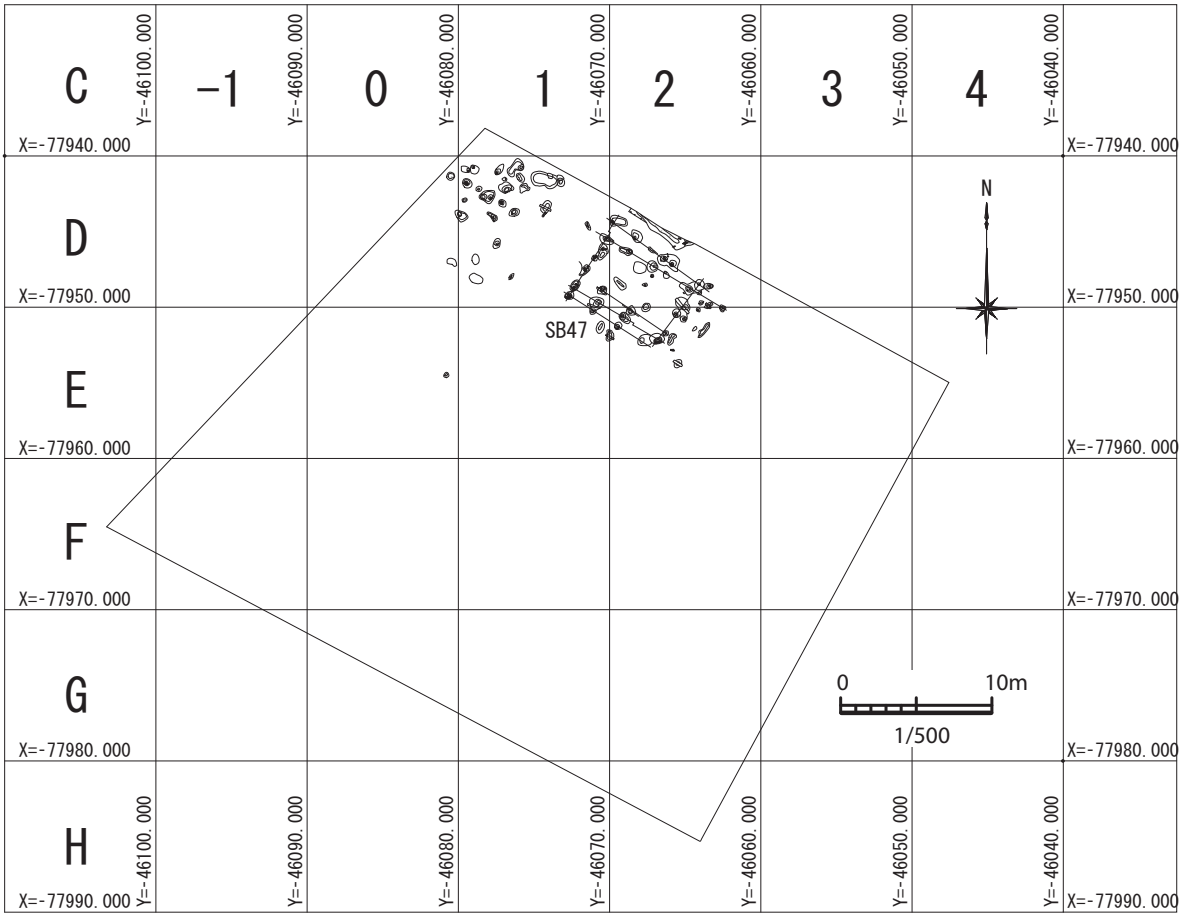


図 93　3 区遺構配置図 4 層 2 面（1/500）

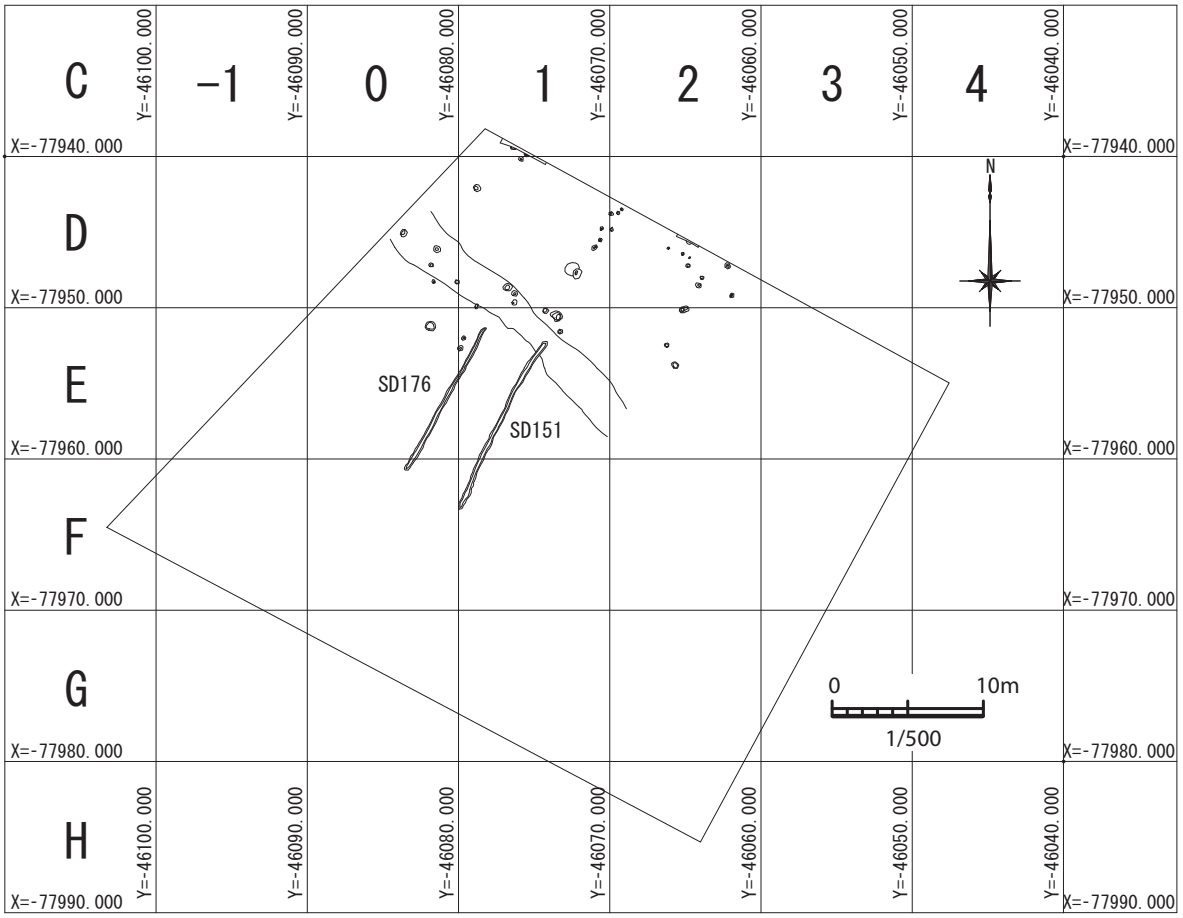
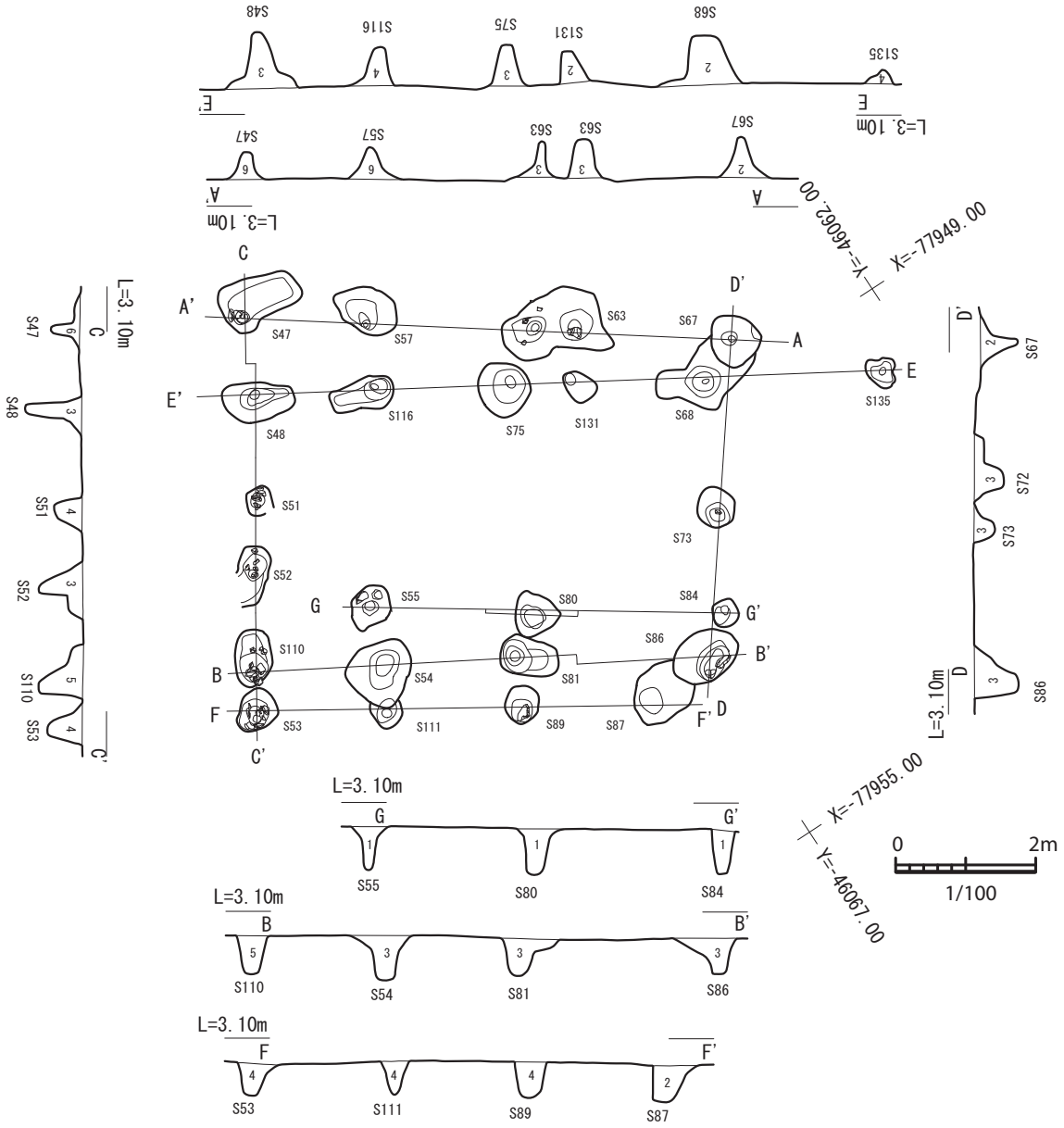


図 94　3 区遺構配置図 5 層（1/500）



1　黒褐色土（10YR 3/2）炭、焼土を多量に含む
2　黒褐色土（10YR 3/2）埋土やや明るい色　炭より焼土を多く含む
3　暗褐色土(10YR 3/3）しまり、粘性弱い　炭、焼土粒を少量含み黒ずんでいる　砂質をおびる
4　暗褐色土(10YR 3/3）炭、焼土の量が少ない
5　暗褐色土(10YR 3/3）小石、砂利を多く含むが、炭は微量。黒ずんだ土
6　にぶい黄褐色土（10YR 4/3）しまり、粘性弱い　1cm以下程度の砂利と小石で構成される　乾くと白くなる

図 95　SB47 実測図（1/100）

掘立柱建物 47（SB47）

SB47 は、長軸を東西方向に採る桁行 3 間×梁行 2 間、2 面庇付の掘立柱建物である。D2 グリッドに位置する。

SB47 は、桁行 7.0m ×梁行 4.0m であり、柱間寸法は桁間 1.7 ～ 2.8 m、梁間 1.5 ～ 2.0m である。その柱穴は直径 43 ～ 90cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは 30 ～ 80cm であった。

南北両面に庇柱列が付設され、主屋内南辺には S55、80、84 の柱穴 3 基が長軸と平行に位置する。S55、80、84 は直径 32~66cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さ 60~65cm である。この S55、

図 96　その他遺構　出土土器（RP）実測図

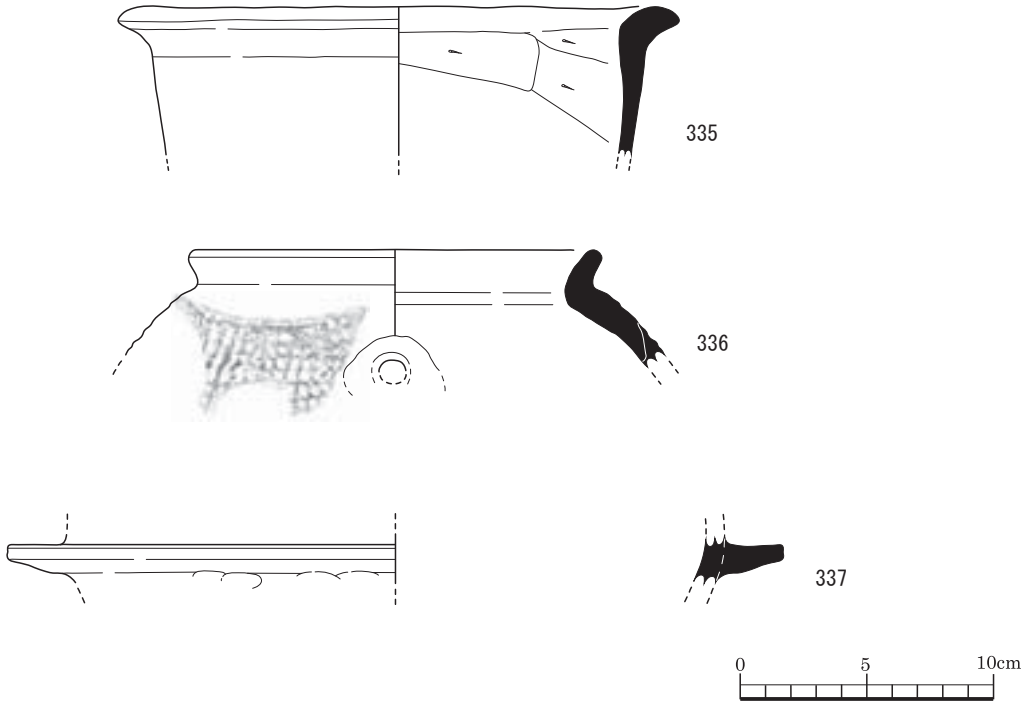


図 97　グリッド出土土器（RP）実測図

80、84 の延長上には、直径 84cm、深さ 62cm の 柱穴 S52 が位置している。

溝 151（SD151）
溝 176（SD176）

調査区 3 区の中央には北東方向に走る溝 2 条、SD151、176 がある。SD151、176 は平行して位置し、その幅は約 3.5m である。

SD151、176 に挟まれた空間は何らかの構造物であった可能性があり、一例として、道路及び側溝があげられよう。また、調査区 2、3 区で検出された掘立柱建物 SB16、47、48（以上は調査区 2 区の遺構）及び SB47（調査区 3 区の遺構）の軸方向は、この SD151、176 の走向に一致している。このように SD151、176 を道路の側溝とした場合、調査区 2 区の掘立柱建物群の一部は当該道路の両側に配置された柵列として理解することもできよう。ただし、出土遺物からは調査区 2、3 区で検出された遺構を古代に比定することはできない。

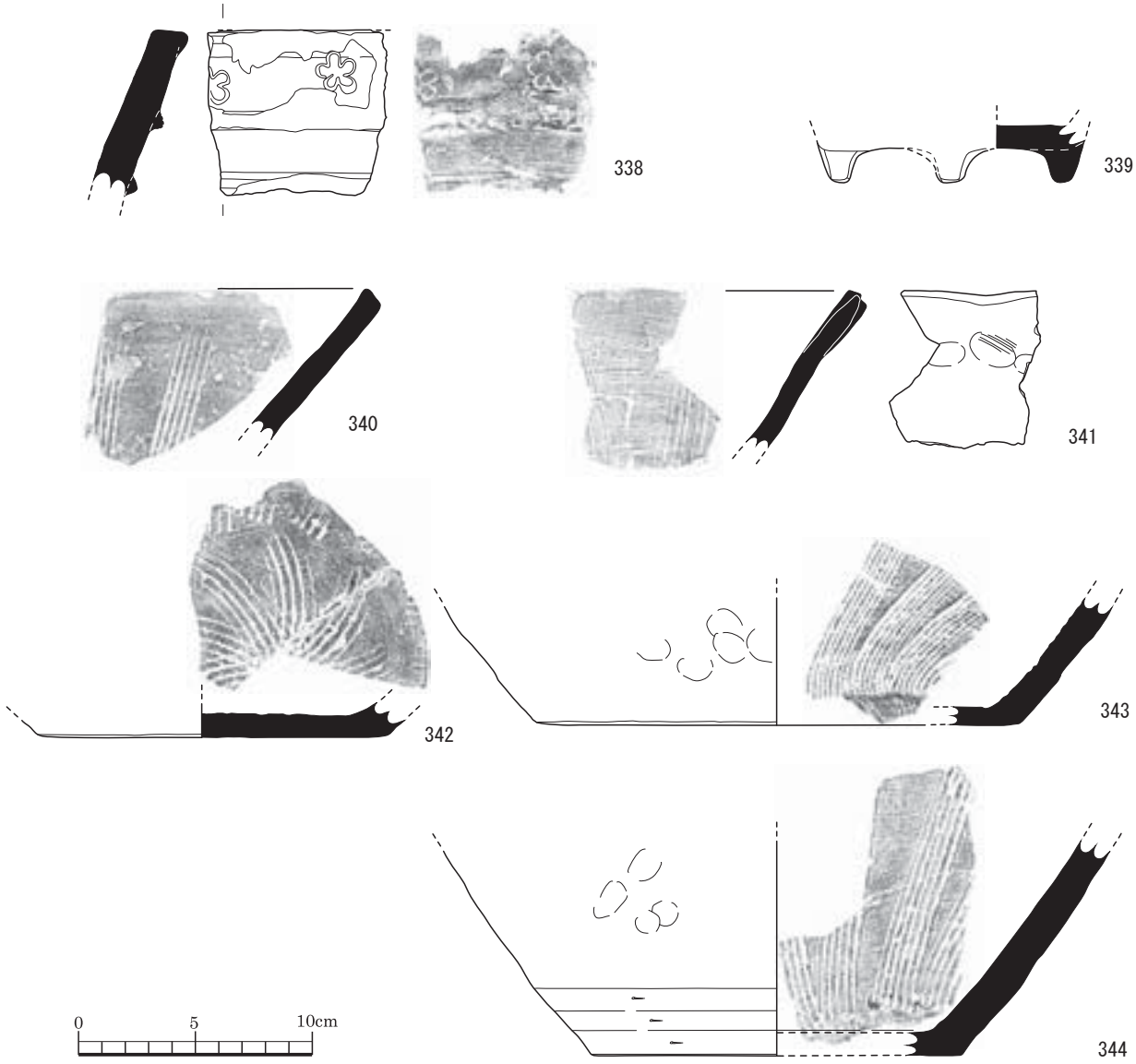


図 98　グリッド出土土器（RP）実測図

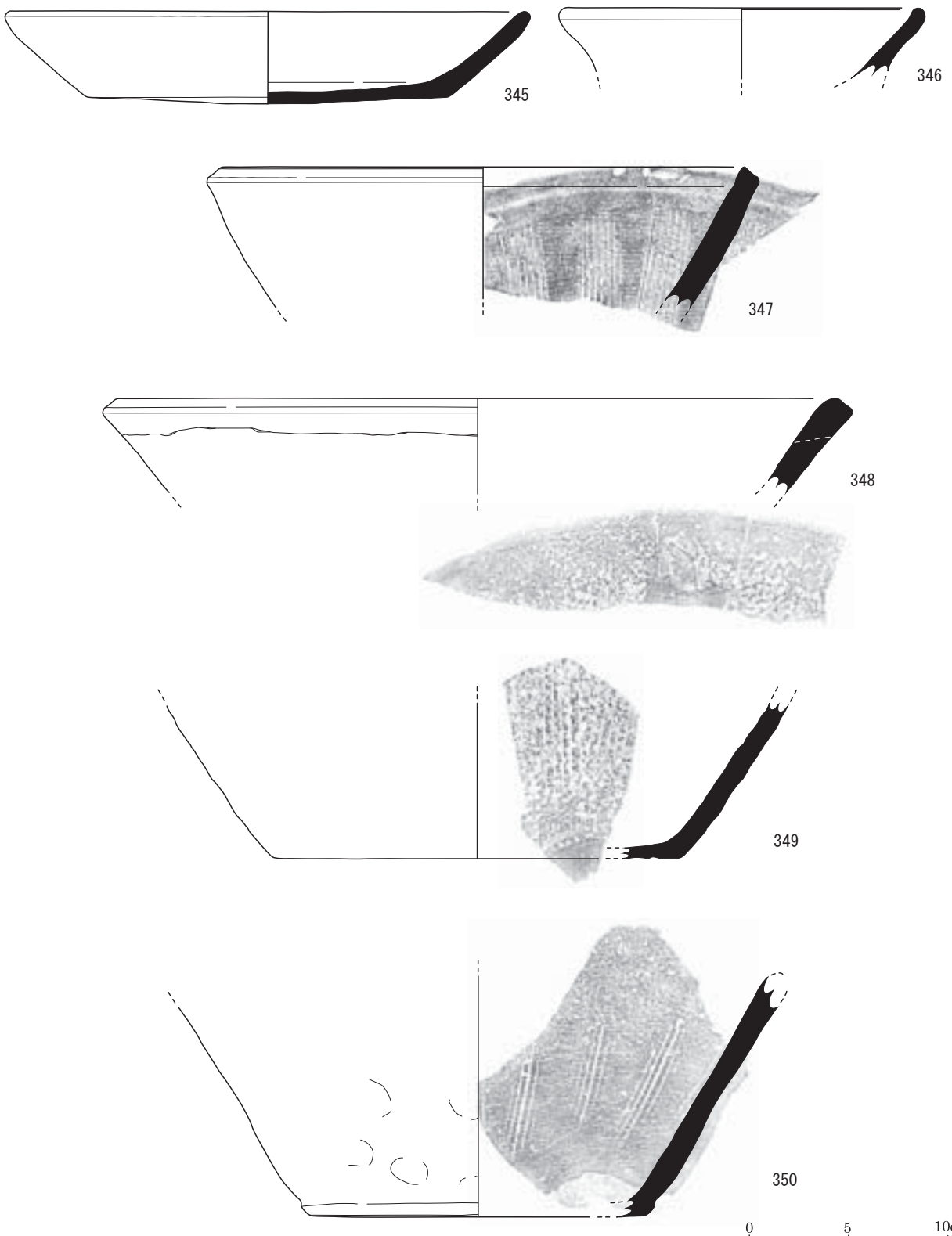


図 99　グリッド出土土器（RP）実測図

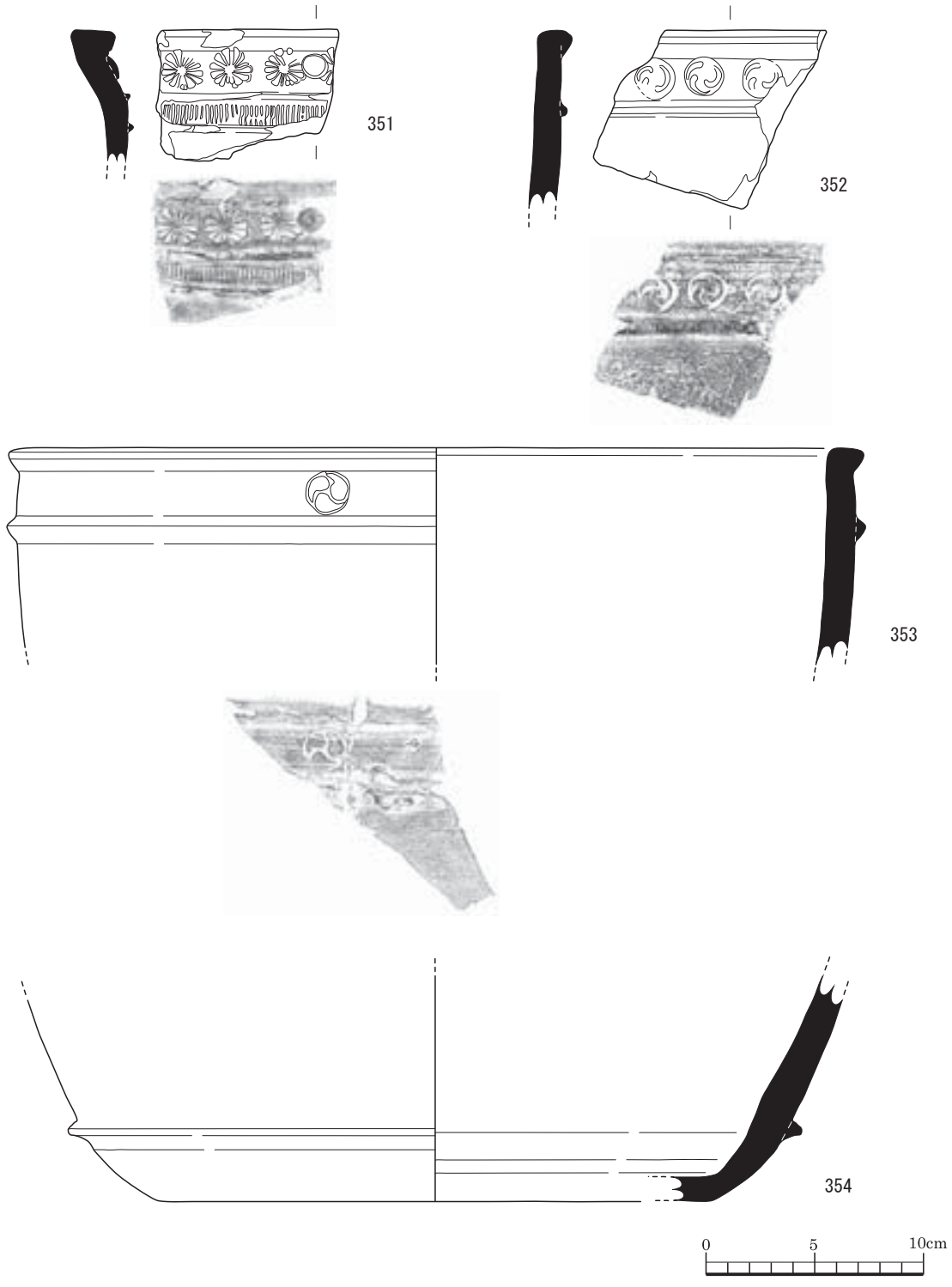


図 100　グリッド出土土器（RP）実測図

2-4　花岡木崎遺跡 4 区の調査

2-4-1　調査区 4 区の概要

調査区 4 区は、花岡木崎遺跡の南東縁辺部に位置する。面積は約 1,500㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 3,000㎡である。調査区 4 区の発掘調査は、宮部武典（文化財保護主事）、江頭俊介及び村中智恵（非常勤嘱託）が担当した。

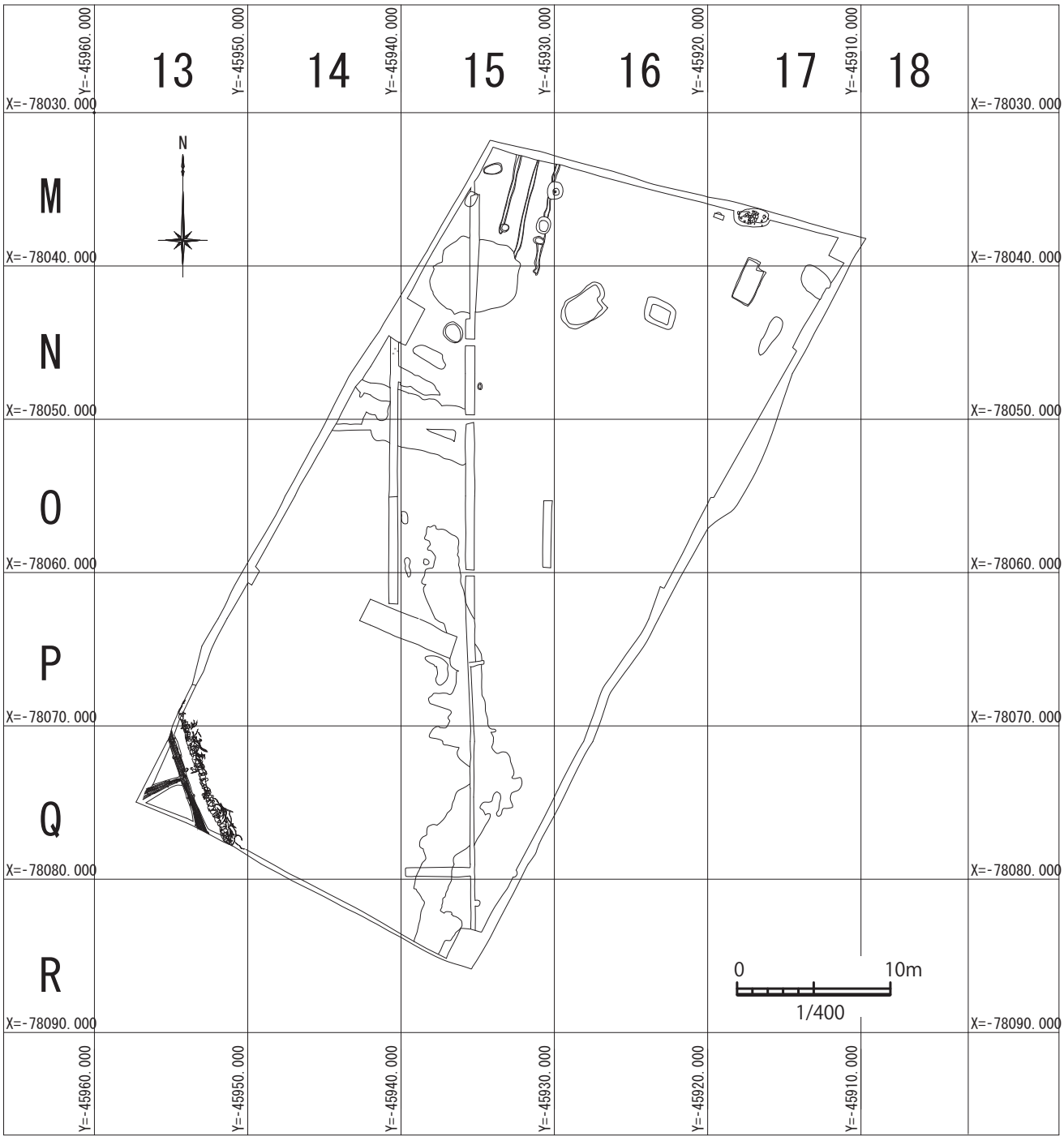


図 101　4 区遺構配置図 3 層（1/400）

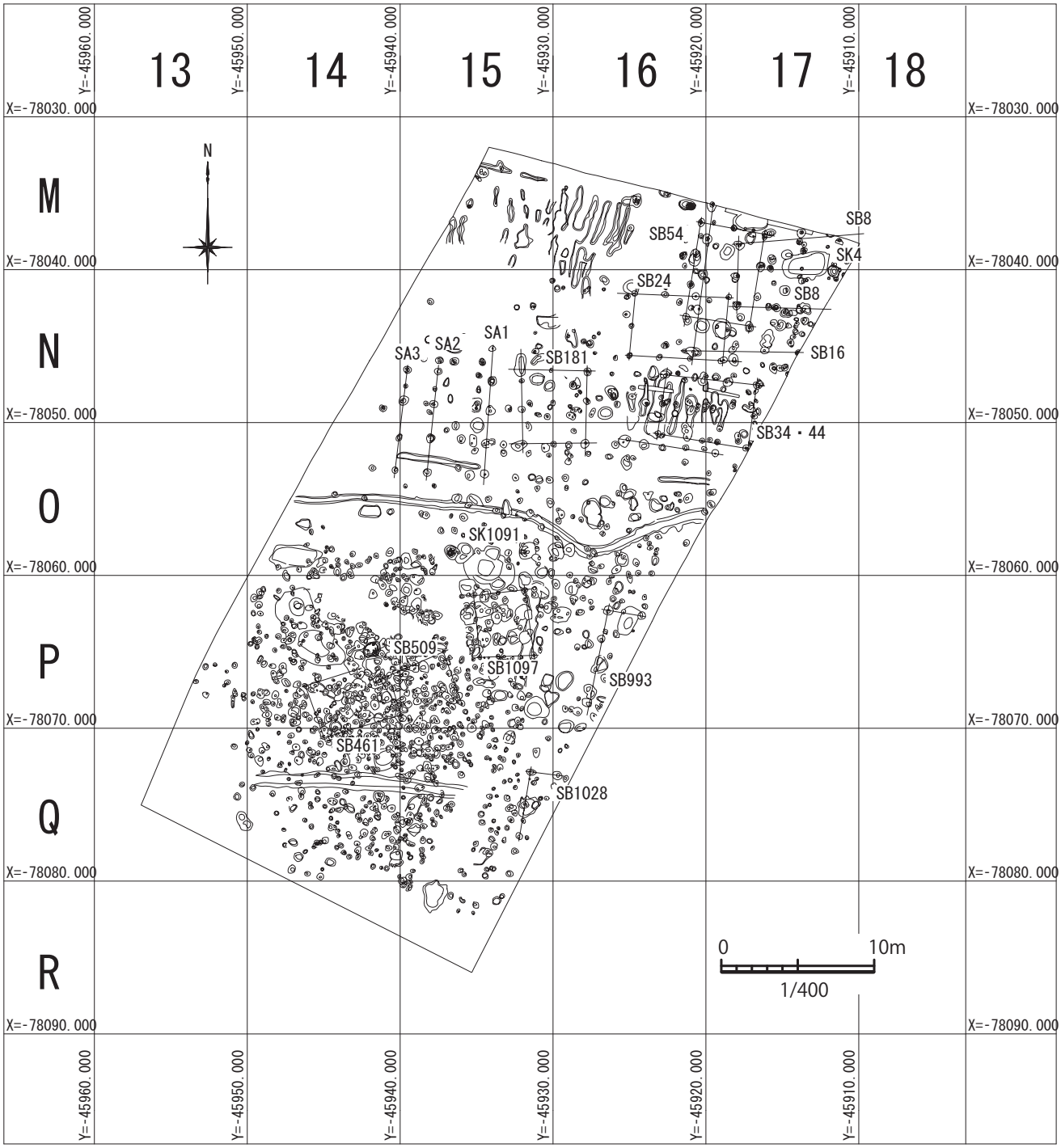
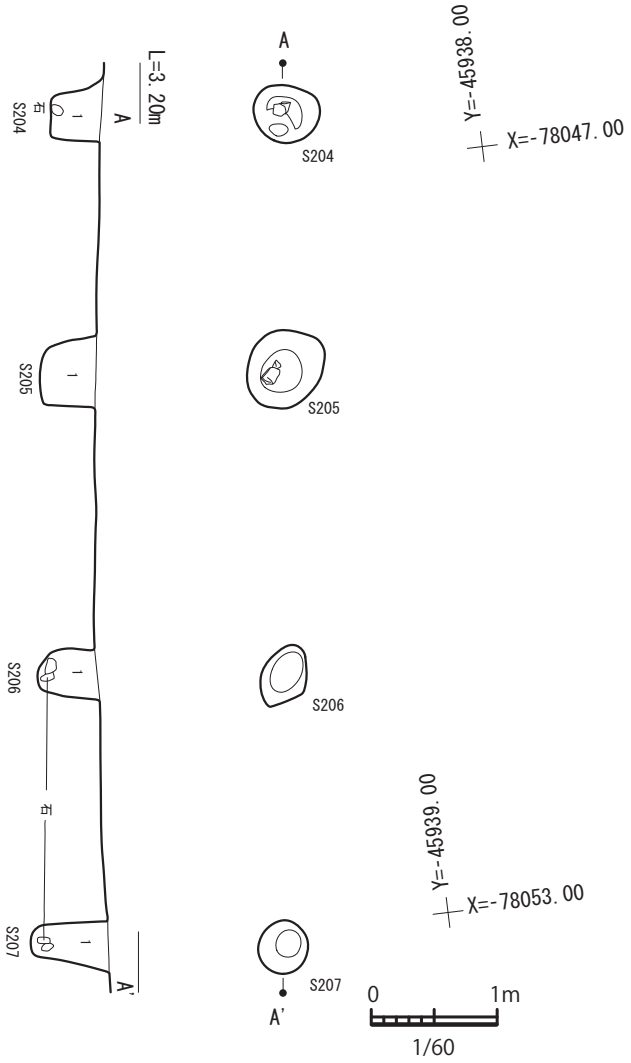


図 102　4 区遺構配置図 7 層（1/400）



1　黒褐色土（10YR 3/2）ブロックが殆ど無い。オレンジ色の焼土粒を含む。

図 103　SA3 実測図（1/60）

2-4-2　調査区 4 区のグリッド網

調査区 2 ～ 4 区を対象として設定された調査区 2 ～ 4 区グリッド網は、平面直角座標第Ⅱ系における X=-77910.000、Y=-46080.000 を起点とする。南北軸においては、起点から座標南に向かい 10 m間隔で区分し、各区間には北から南に A から R までアルファベットの名称を付した。東西軸も同様に 10 m間隔で区分し、各区間には西から東に 1 から 18 まで、東から西に 0 から -2 までの数字の名称を付した。なお、グリッドは、南北軸及び東西軸の区分の直交部分に 10m グリッドが設営されることとなる。また、グリッド名は、「南北軸アルファベット名称＋東西軸数字名称」と定め、「E4 グリッド」、「F-2 グリッド」のように記述している。おって、このグリッド名は、整理作業に際しても変更することなく用いた。したがって、遺物への註記、各種図面も上記グリッド名を用いて表記している。

2-4-3　調査区 4 区の遺構と遺物

調査区 4 区では、他の調査区とは異なり、遺構の種類ごとに、それぞれ連番を付している。したがって、SA3 と SB3 が存在する状況となっていることに留意されたい。

調査区 4 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

柵列 1（SA1）

4 基の柱穴で、構成された、南北に走行する柵列である。柵列は南北に延びる可能性がある。N15 グリッドに位置する。柵列の長さは約 7m、柱間寸法は 1.6 ～ 2.0m を測る。

柱穴は直径 40 ～ 56cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 40 ～ 60cm であった。

柵列 2（SA2）

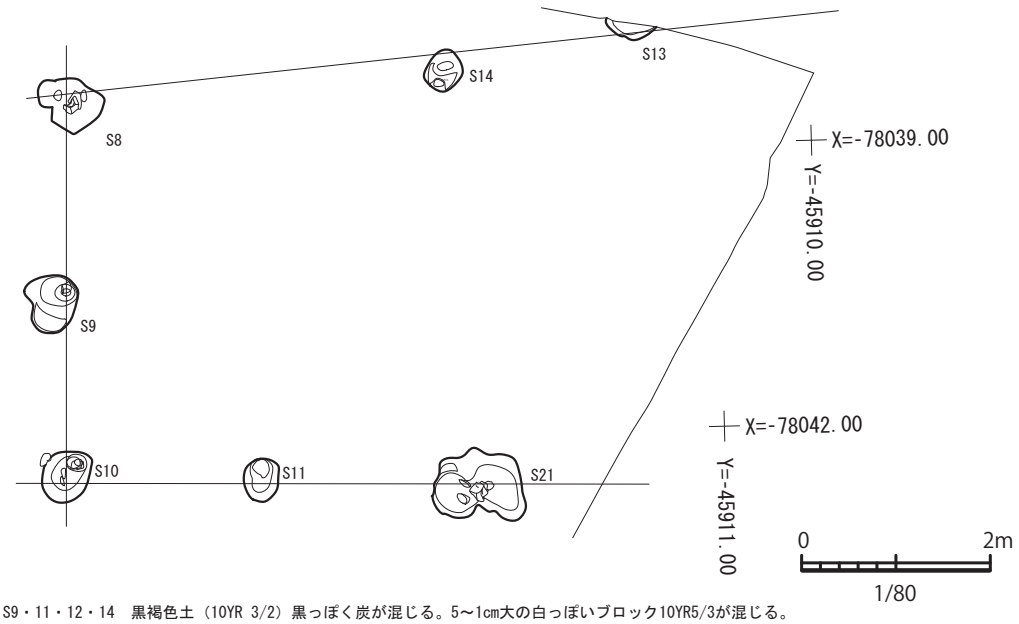
4 基の柱穴で、構成された、南北に走行する柵列である。柵列は南北に延びる可能性がある。N15 グリッドに位置する。柵列の長さは総計 7.2m、柱間寸法は 1.6 ～ 2.0m を測る。

柱穴は直径 40 ～ 56cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 40 ～ 60cm であった。

柵列 3（SA3）

4 基の柱穴で、構成された、南北に走行する柵列である。柵列は南北に延びる可能性がある。N15 グリッドに位置する。柵列の長さは総計 7.2m、柱間寸法は 1.6 ～ 2.0m を測る。

柱穴は直径 40 ～ 56cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 40 ～ 60cm であった。なお S204、S206、S207 からは根石を検出した。



S9・11・12・14　黒褐色土（10YR 3/2）黒っぽく炭が混じる。5～1cm大の白っぽいブロック10YR5/3が混じる。
S8・10・13　黒褐色土（10YR 3/2）ブロックが殆ど無い。オレンジ色の焼土粒を含む。

図 103　SB8 実測図（1/80）

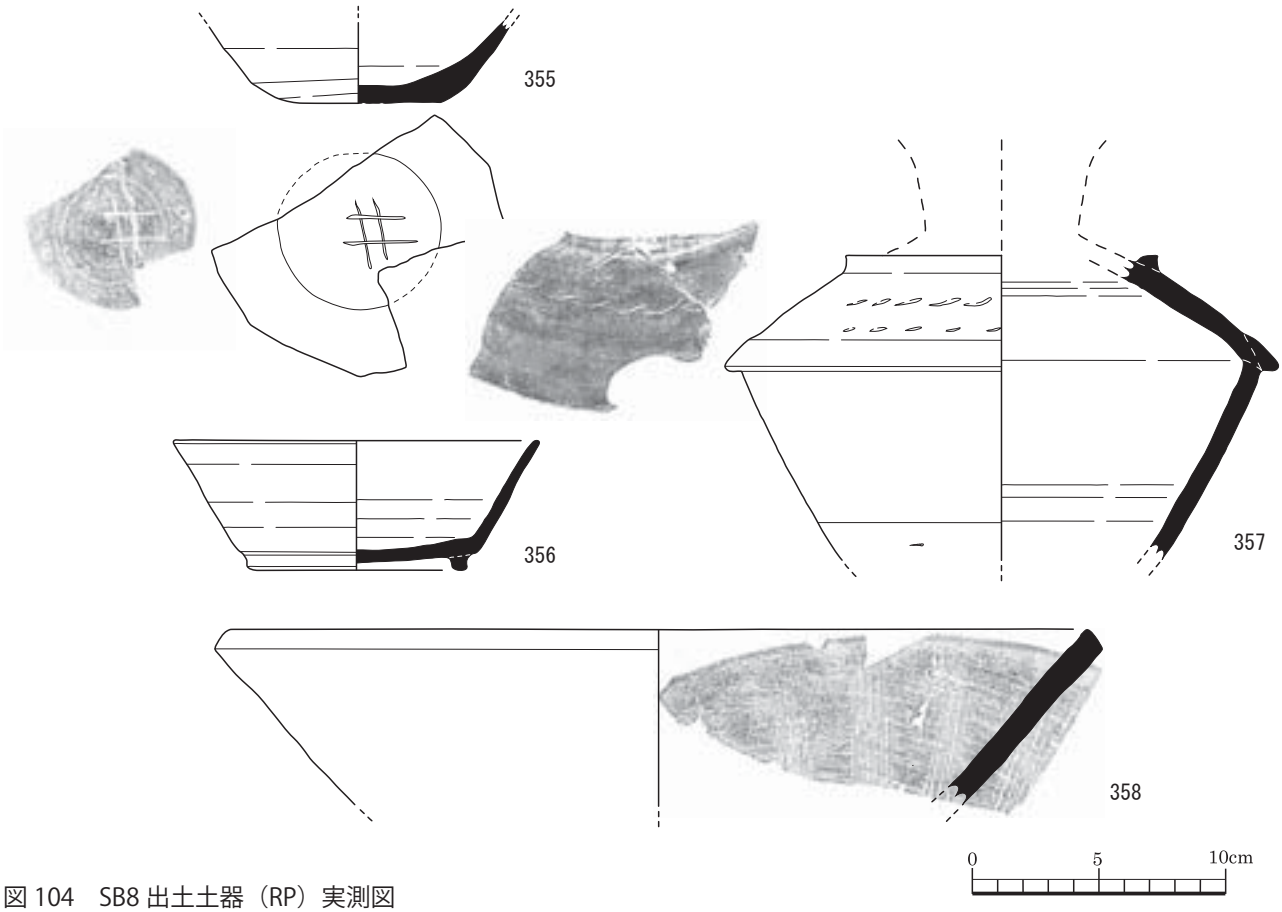
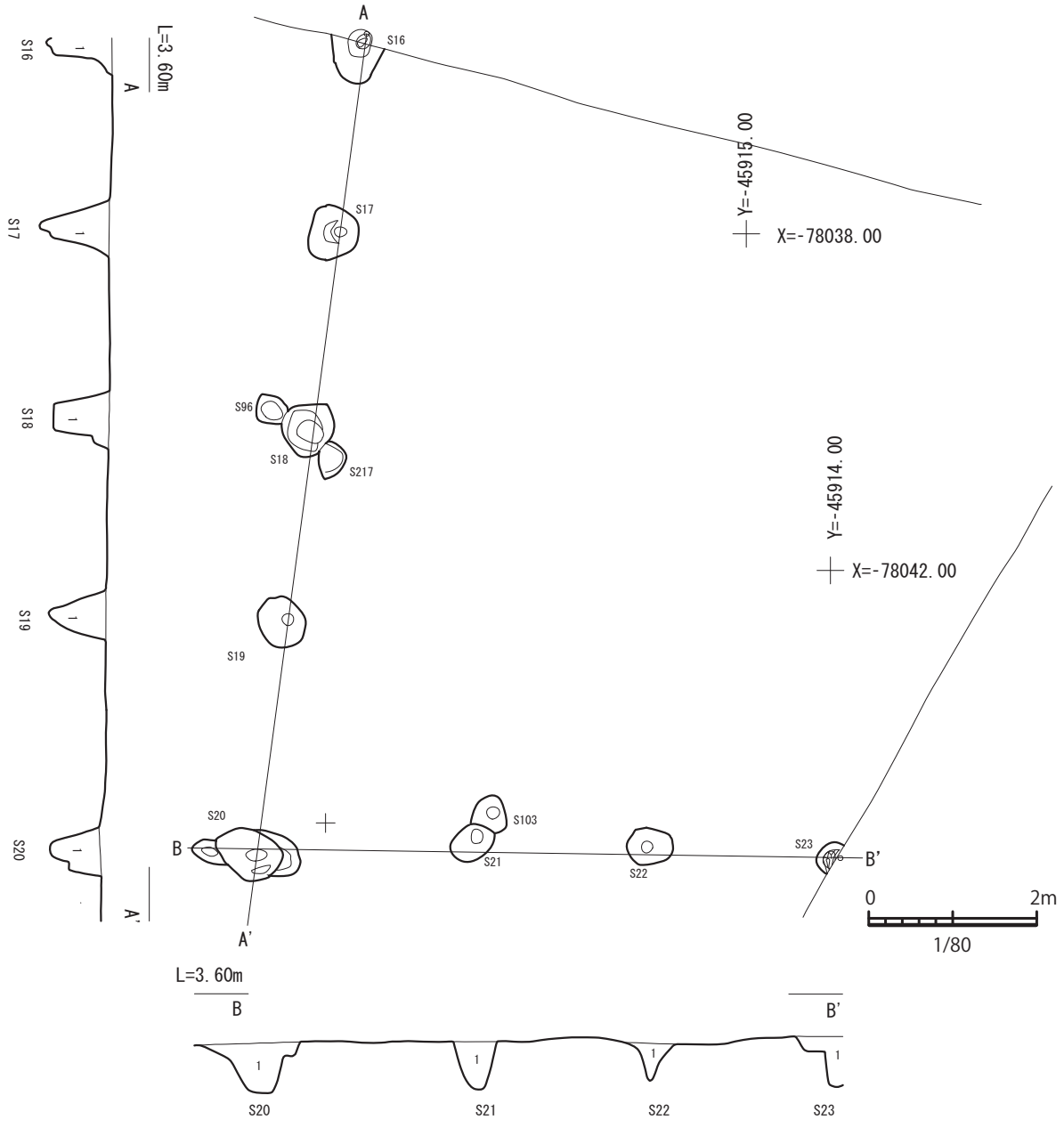


図 104　SB8 出土土器（RP）実測図



1　黒褐色土（10YR 3/2）黒っぽく炭が混じる。5～1cm大の白っぽいブロック10YR5/3が混じる。

図 105　SB16 実測図（1/80）

掘立柱建物 8（SB8）

SB8 は、西半部を確認できただけであるため、全容不明の掘立柱建物である。N17 グリッドに位置する。

SB8 は、検出状況においては長軸を東西方向に採る桁行 3 間以上×梁行 2 間の掘立柱建物であった。桁行 6.2m 以上×梁行 4.1m であり、柱間寸法は桁間不定、梁間 1.9 ～ 2.1m を測る。なお、北辺は柱間 4.0m、2.0m と不整であることから、梁行が北に延びると理解することもできる。その柱穴は直径 35 ～ 60cm の円形を呈している。

SB8 では土師器、須恵器が出土している。

RP355 は土師器の坏である。底径 6.5cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は橙色､内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、ヘラ記号、内面調整は回転ナデにより製作

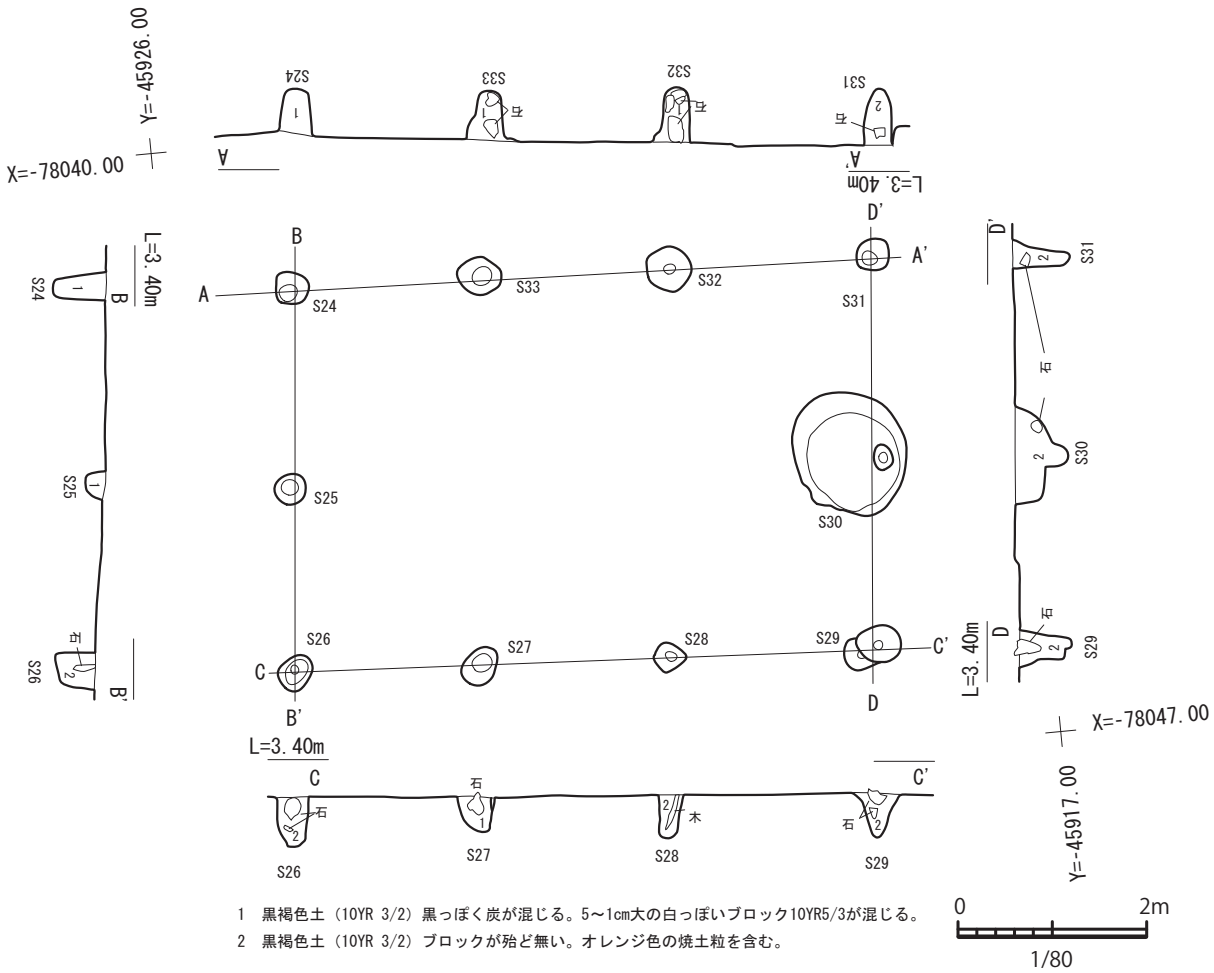


図 106　SB24 実測図（1/80）

され、焼成は良である。

RP356 ～ 358 は須恵器である。

RP356 は埦であり、8 層から出土した。口径 14.5cm、底径 8.7cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成はやや良である。

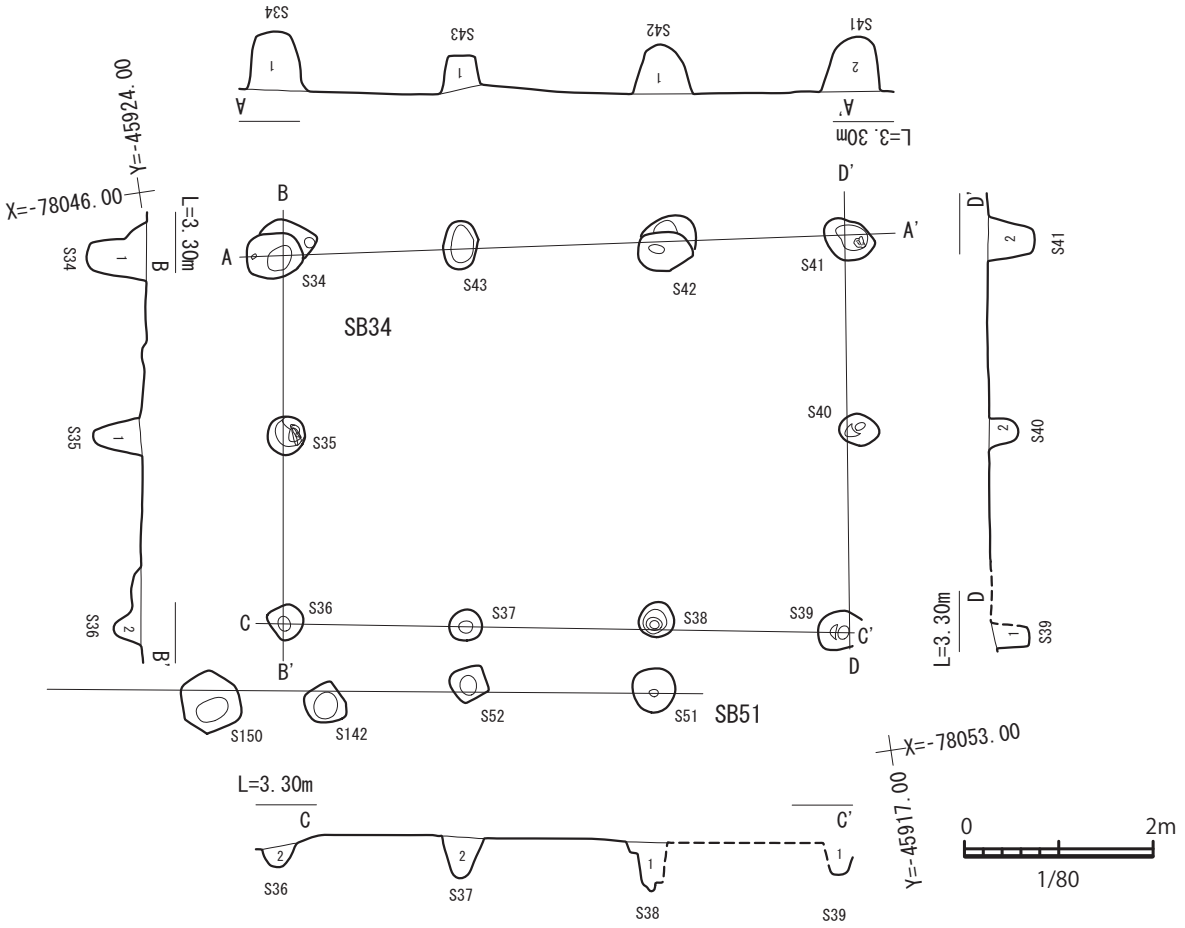
RP357 は壺であり、7 層から出土した。器高 12.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP358 は擂鉢であり、4 層から出土した。口径 35.2cm、器高 7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この擂鉢は、外面調整は指オサエ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

掘立柱建物 16（SB16）

SB16 は、南西隅部分を確認できただけであるため、全容不明の掘立柱建物である。N17 グリッドに位置する。

SB16 は、検出状況においては長軸を南北方向に採る桁行 4 間以上×梁行 3 間以上の掘立柱建物であった。桁行 9.62m 以上×梁行 6.86m 以上であり、柱間寸法は桁間 2.25 ～ 2.75 m、梁間 2.1 ～ 2.55m を測る。その柱穴は直径 43 ～ 67cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 42 ～ 82cm であった。



1　黒褐色土（10YR 3/2）黒っぽく炭が混じる。5～1cm大の白っぽいブロック10YR5/3が混じる。
2　黒褐色土（10YR 3/2）ブロックが殆ど無い。オレンジ色の焼土粒を含む。

図 107　SB34・51 実測図（1/80）

掘立柱建物 24（SB24）

SB24 は、全容が明らかになった掘立柱建物である。N16 グリッドに位置する。

SB24 は、長軸を東西方向に採る桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。桁行 6.2m ×梁行 3.9 ～ 4.2m であり、柱間寸法は桁間 2.0m ～ 2.2m、梁間 2.0 ～ 2.15m を測る。その柱穴は直径 27 ～ 40cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 21 ～ 60cm であった。ほとんどの柱穴に根石が備わっている。遺物には中世の青磁等が含まれている。

掘立柱建物 34（SB34）

SB34 は、全容が明らかになった掘立柱建物である。N17 グリッドに位置する。

SB34 は、検出状況においては長軸を東西方向に採る桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物であった。桁行 6.0 m×梁行 4.0m であり、柱間寸法は柱間 1.9 ～ 2.1m、梁間 1.9 ～ 2.0m を測る。その柱穴は直径 35 ～ 63cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは 28 ～ 64cm であった。なお、各柱穴は底面標高を概ね揃えている。

掘立柱建物 51（SB51）

SB51 は、東西方向の一辺のみを確認した掘立柱建物である。O16 グリッドに位置する。

SB51 は、東西方向に並ぶ 4 基のピットを検出し、これを掘立柱建物と認識している。4 基のピットの柱間寸法は柱間 2m 程度である。SB34 の南側に、軸方向を同じくして位置しており、ピットの並びも 4 基中 3 基が一致しているため、SB34 の南側に付設された庇柱列と理解することもできよう。

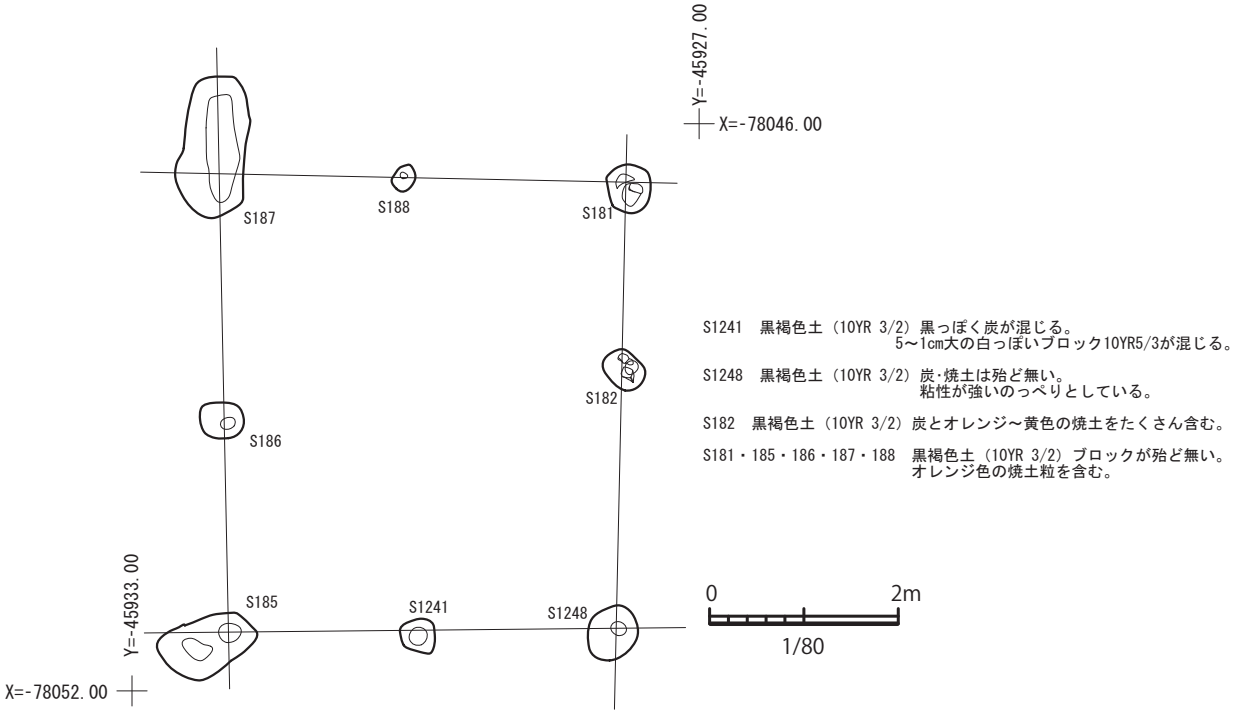


図 108　SB181 実測図（1/80）

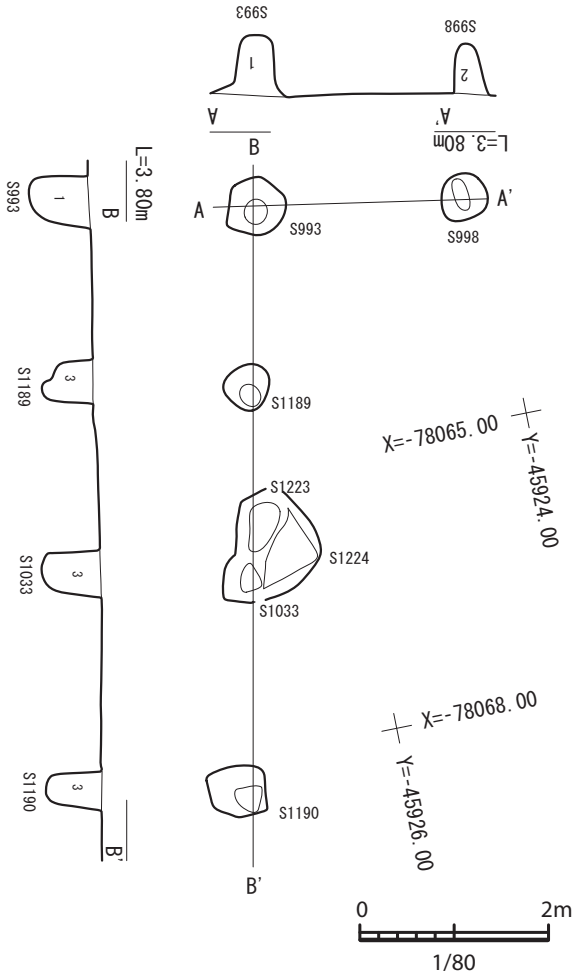


図 109　SB993 実測図（1/80）

掘立柱建物 181（SB181）

SB181 は、ほぼ正方形を呈する掘立柱建物である。N16 グリッドに位置する。

SB181 は、長軸を南北方向に採る桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。桁行 4.8m ×梁行 4.2m であり、柱間寸法は桁間 2.0m ～ 2.8m、梁間 1.9m ～ 2.4m を測る。その柱穴は直径 30 ～ 140cm の楕円形を呈している。

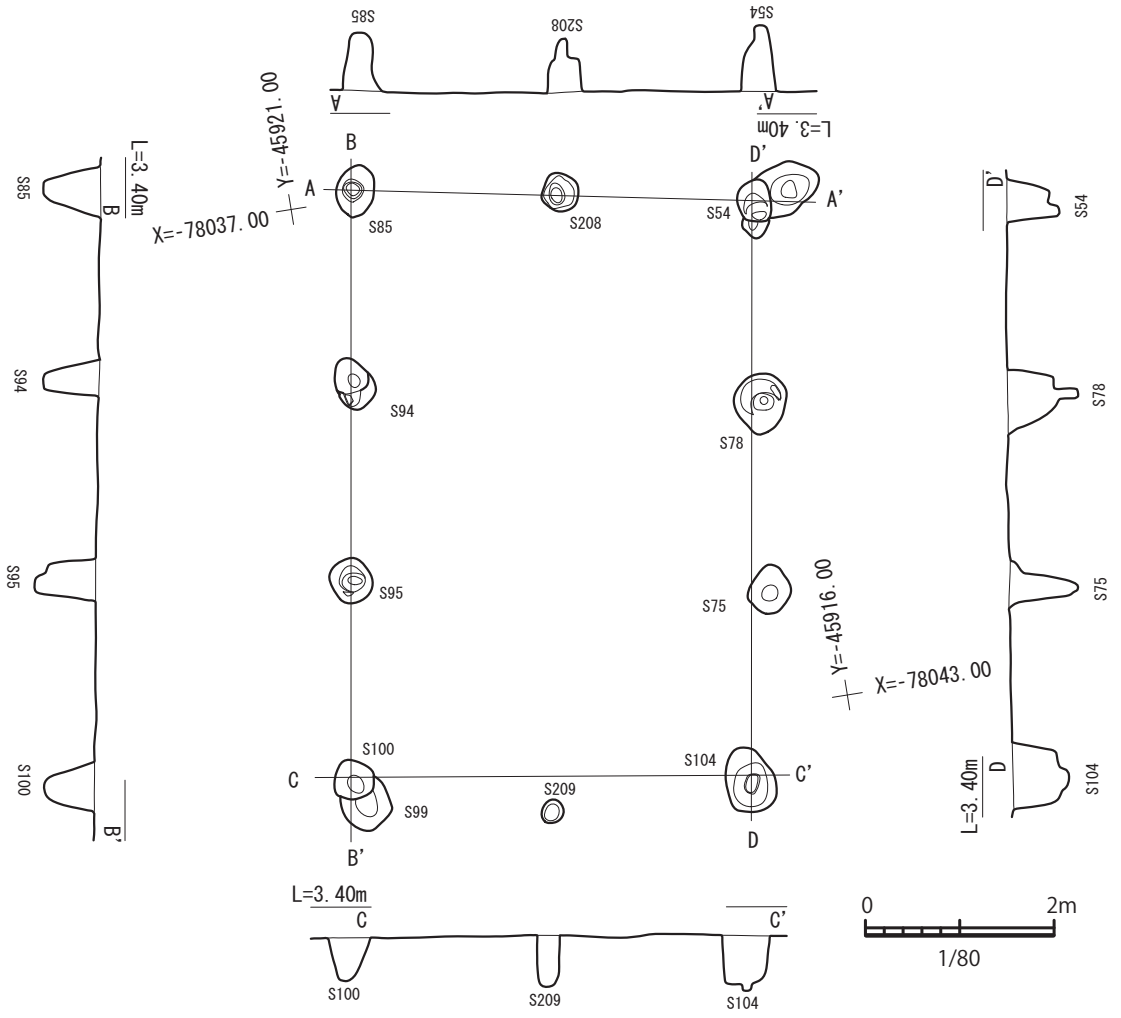
掘立柱建物 54（SB54）

SB54 は、全容が明らかになった掘立柱建物である。N17 グリッドに位置する。

SB54 は、長軸を南北方向に採る桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。桁行 6.3m ×梁行 4.2m であり、柱間寸法は桁間 2.0m ～ 2.2m、梁間 2.1m ～ 2.2m を測る。その柱穴は直径 24 ～ 72cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは 54 ～ 74cm であった。

SB54 では須恵器を検出している。

RP359 は須恵器の蓋であり、7 層から出土した。口径 13.6cm、器高 1.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成はやや良である。



S75・95・104　黒褐色土（10YR 3/2）黒っぽく炭が混じる　5〜1cm大の白っぽいブロック10YR5/3が混じる
S78・85・209　黒褐色土（10YR 3/2）ブロックが殆ど無い　オレンジ色の焼土粒を含む。
S100　黒褐色土（10YR 3/2）炭･焼土は殆ど無い　粘性が強い　のっぺりとしている

図 110　SB54 実測図（1/80）

掘立柱建物 993（SB993）

SB993 は、長軸を南北方向に採る桁行 3 間以上×梁行 1 間以上の掘立柱建物である。建物とした場合の北西隅のみを確認しているため､全容は不明である。P16 グリッドに位置する。

SB993 は、桁行 6.3m 以上×梁行 2.2m 以上であり､柱間寸法は桁間 2.0m 〜 2.3m､梁間 2.2m を測る。その柱穴は直径 24 〜 72cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは 54 〜 74cm であった。

掘立柱建物 1097（SB1097）

SB1097 は、ほぼ正方形の平面形を呈する掘立柱建物である。P15 グリッドに位置する。

SB1097 は、長軸を南北方向に採る桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。桁行 4.4m ×梁行 3.5m であり、柱間寸法は桁間 1.8m 〜 2.6m、梁間 1.6m 〜 1.9m を測る。その柱穴は直径 27 〜 60cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは 30 〜 60cm であった。

掘立柱建物 1028（SB1028）

SB1028 は、北西隅を確認できただけであるため、全容不明の掘立柱建物である。Q15 グリッドに位置する。

SB1028 は、長軸を南北方向に採り桁行 2 間以上×梁行 1 間以上の状況で検出された。桁行 4.4m 以上×梁行 1.9m 以上であり、柱間寸法は桁間 2.2m、梁間 1.9m を測る。その柱穴は直径 40 〜 58cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは 42 〜 50cm であった。

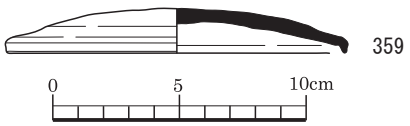


図 111　SB54 出土土器（RP）実測図

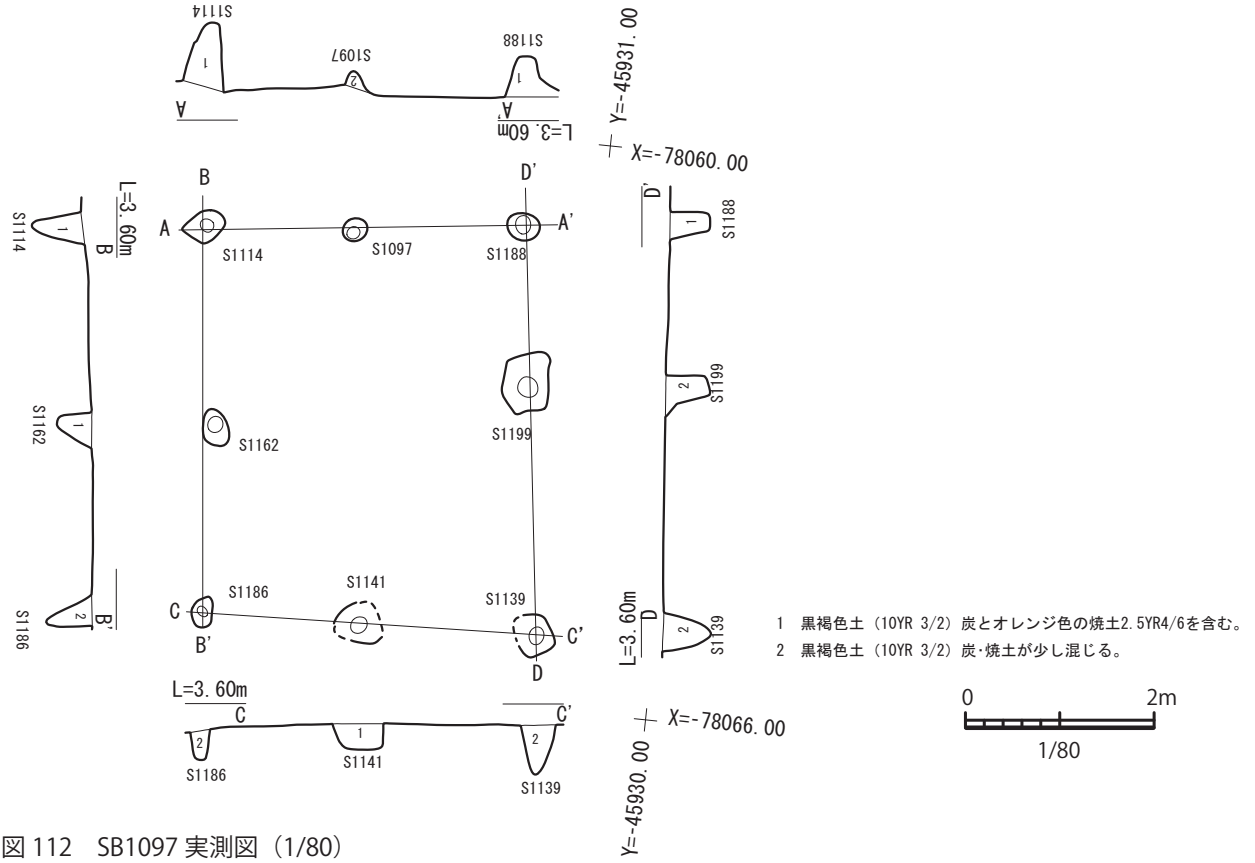


図 112　SB1097 実測図（1/80）

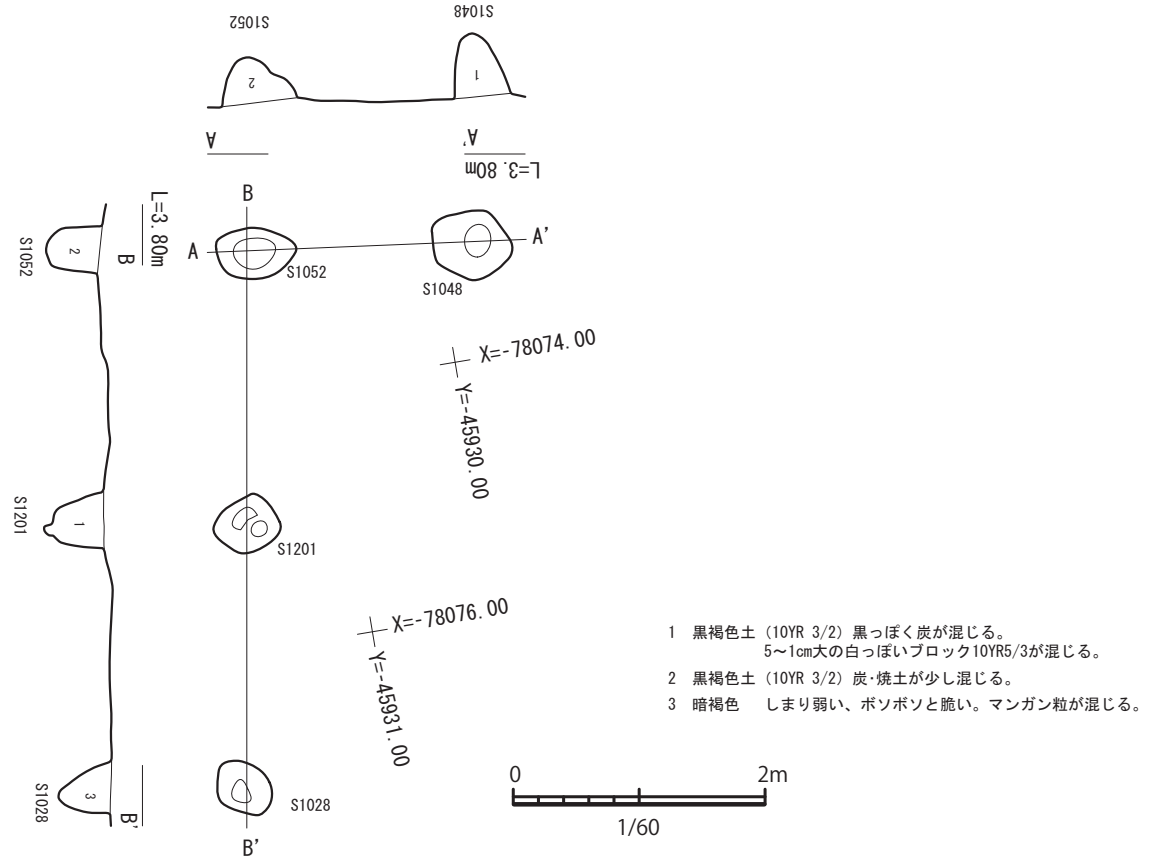


図 113　SB1028 実測図（1/60）

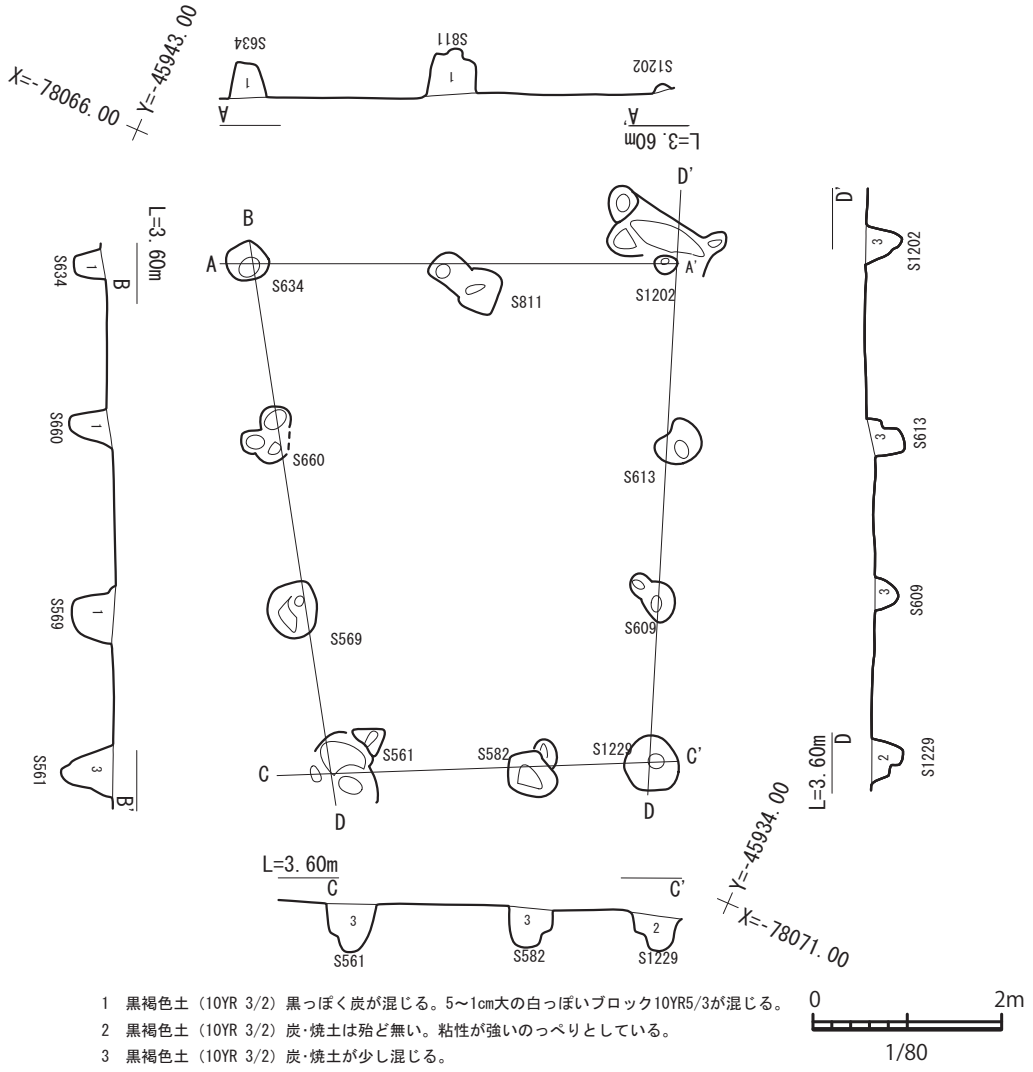


図 114　SB509 実測図（1/80）

掘立柱建物 509（SB509）

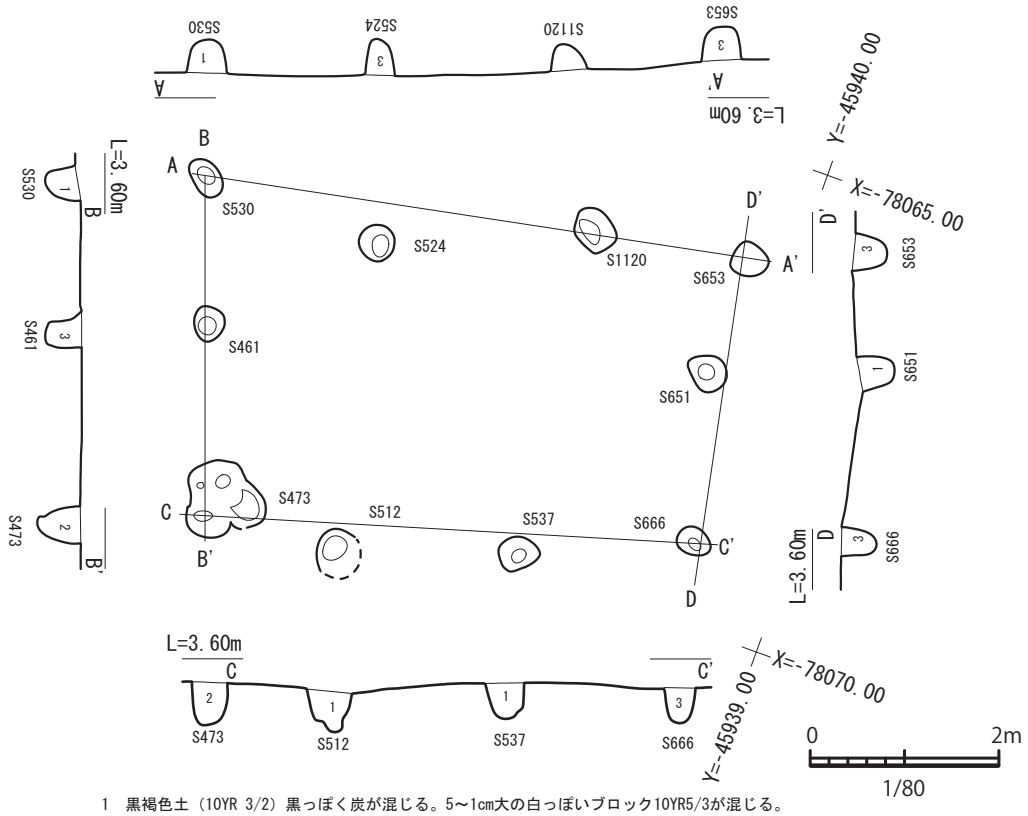
SB509 は、北半部分のみを確認したため、全容不明の掘立柱建物である。P15 グリッドに位置する。

SB509 は、長軸を南北方向に採る桁行 3 間以上×梁行 2 間以上の状況で検出された。桁行 5.5m 以上×梁行 4.5m 以上であり、柱間寸法は桁間 1.5 ～ 2.0 m、梁間 2.0 ～ 2.3m を測る。その柱穴は直径 40 ～ 60cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 24 ～ 55cm であった。なお、SB509 は建物が南に延びると理解することもできよう。

掘立柱建物 461（SB461）

SB461 は、ほぼ全容が明らかになった掘立柱建物である。P14 グリッドに位置する。

SB461 は、長軸を東西方向に採り、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。桁行 5.4m ×梁行 3.6m であり、柱間寸法は桁間 1.3 ～ 2.0 m、梁間 1.3 ～ 2.0m を測る。その柱穴は直径 30 ～ 48cm の楕円形を呈し、遺構確認面からの深さは全体に 50cm で揃っている。遺物は柱穴 S1120 から銅銭 2 枚、柱穴 S350 から土師器、龍泉窯産と考える青磁を検出している。



1　黒褐色土（10YR 3/2）黒っぽく炭が混じる。5～1cm大の白っぽいブロック10YR5/3が混じる。
2　黒褐色土（10YR 3/2）炭とオレンジ色の焼土2.5YR4/6を含む。
3　黒褐色土（10YR 3/2）炭･焼土が少し混じる。

図 115　SB461 実測図（1/80）

土壙 4（SK4）

SK4 は、長方形を呈する土壙である。N17 グリッドに位置する。

SK4 は、長軸を東西方向に採り、南北 1.6m ×東西 3.0m を測る。

SK4 では土師器、須恵器、瓦質土器が検出されている。

RP360 ～ 364 は土師器である。

RP360 は坏である。口径 6cm、底径 4.3cm、器高 2.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、糸切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され､焼成は良である。

RP361 は坏である。口径 10.3cm、底径 6cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、糸切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP362 は坏である。口径 10.8cm、底径 6.8cm、器高 4cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、糸切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP363 は火鉢である。口径 24.4cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色､内面は橙色を呈し、胎土には石英､長石､角閃石が観察される｡この火鉢は、外面調整はヨコナデ、貼付突帯文、縦位沈線文、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP364 は火鉢である。底径 21.6cm、器高 11.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この火鉢は、外面調整はヨコナデ、貼付突帯文、ナデ、脚貼付、ナデ､内面調整はナデにより製作され､焼成は良である。

RP365 ～ 375 は須恵器である。

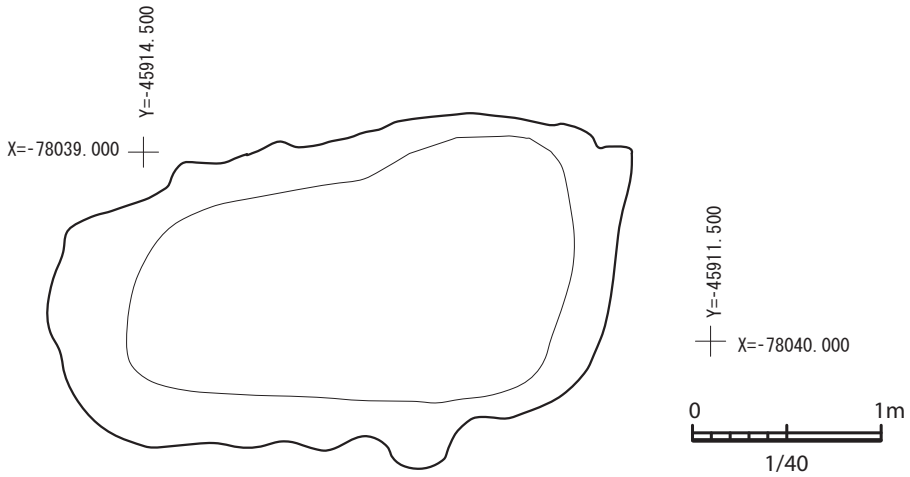


図 116　SK4 実測図（1/40）

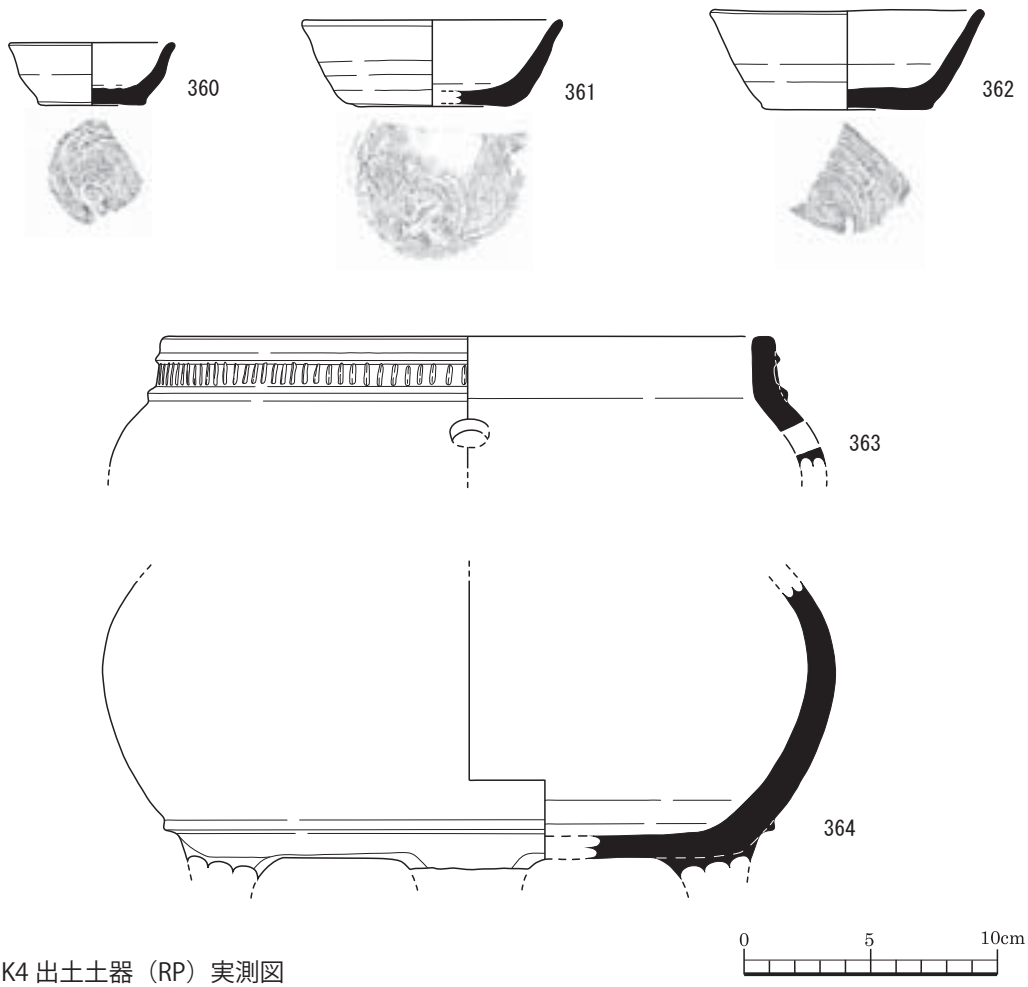


図 117　SK4 出土土器（RP）実測図

RP365 は蓋である。口径 17.8cm、器高 2.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP366 は蓋である。口径 18cm、器高 2.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP367 は蓋であり、7 層から出土した。口径 1.4cm、底径 14.8cm、器高 3.1cm を測る。器面の外

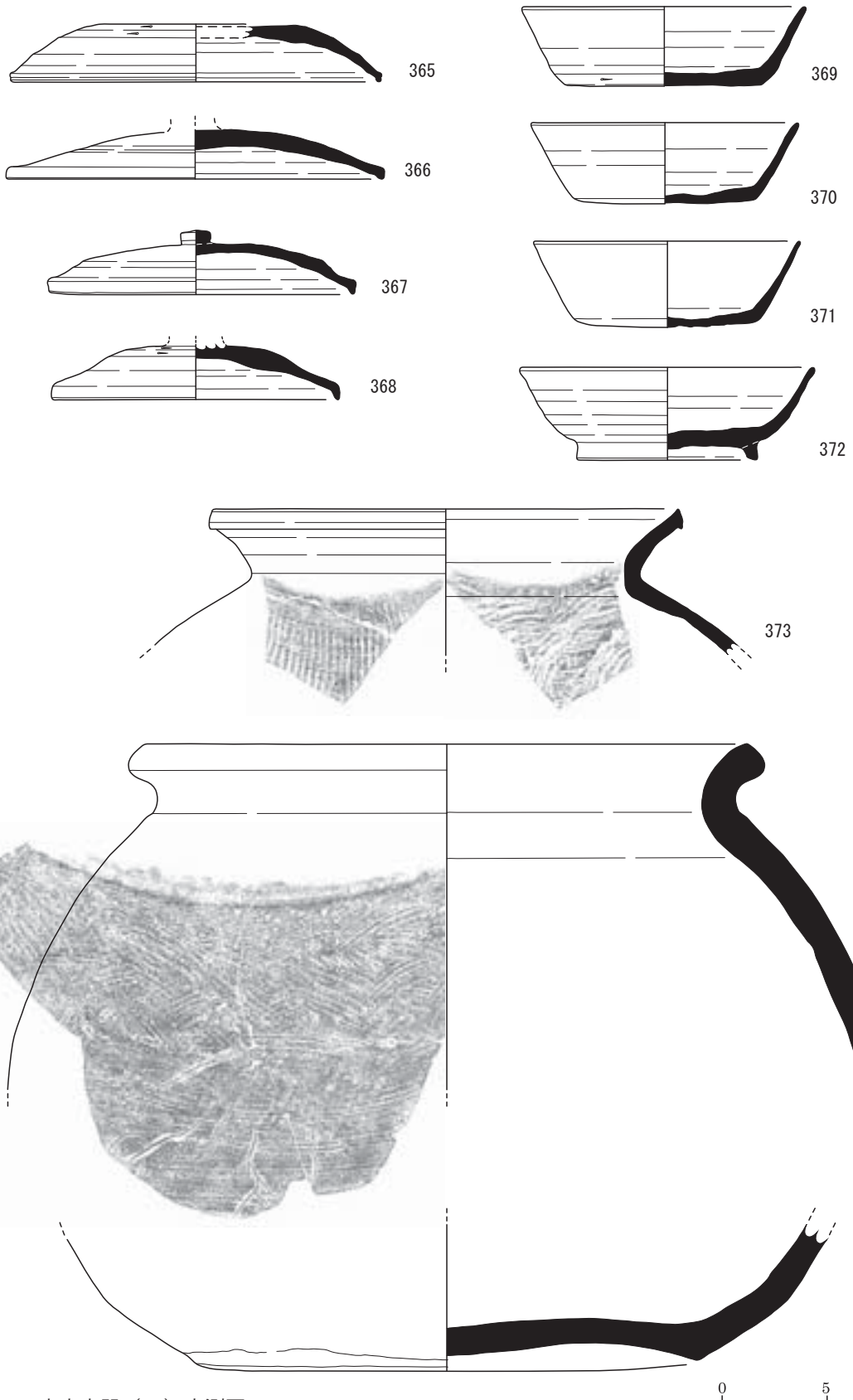
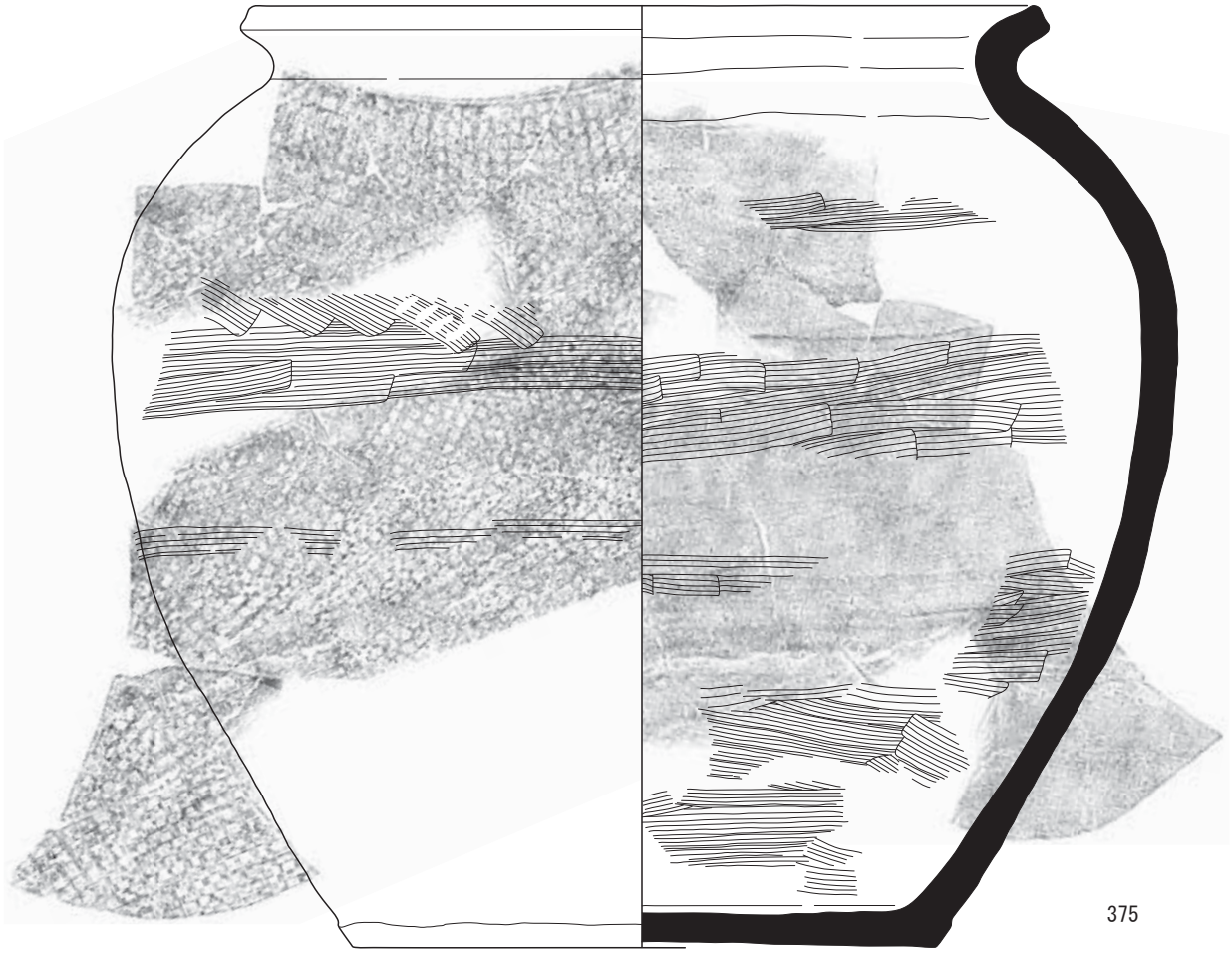


図 118　SK4 出土土器（RP）実測図



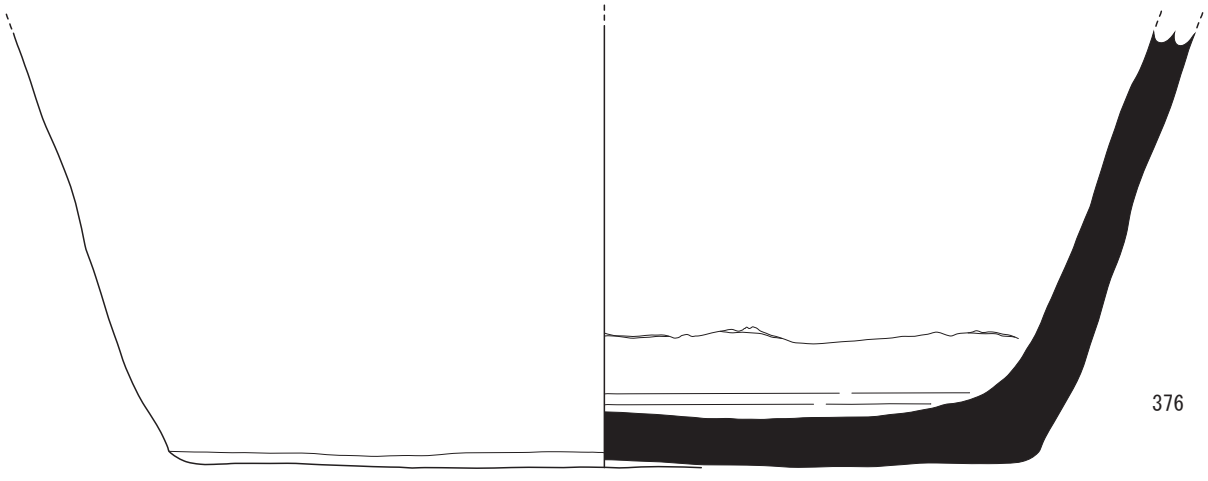


図 119　SK4 出土土器（RP）実測図

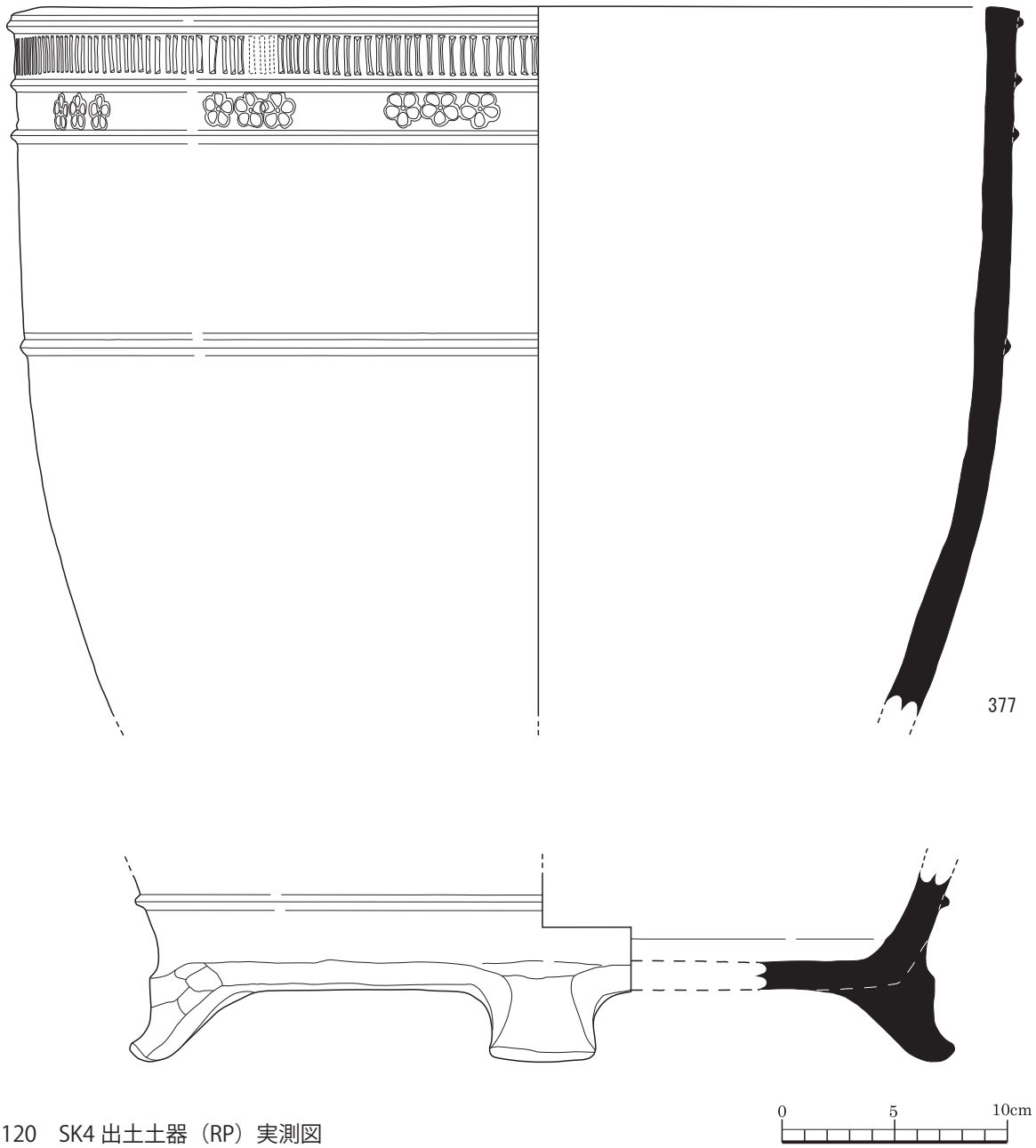


図 120　SK4 出土土器（RP）実測図

面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP368 は蓋であり、8 層から出土した。口径 13.8cm、器高 2.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、回転ヘラケズリ、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP369 は坏であり、8 層から出土した。口径 13.6cm、底径 9.4cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP370 は坏である。口径 12.8cm、底径 8.6cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰黄

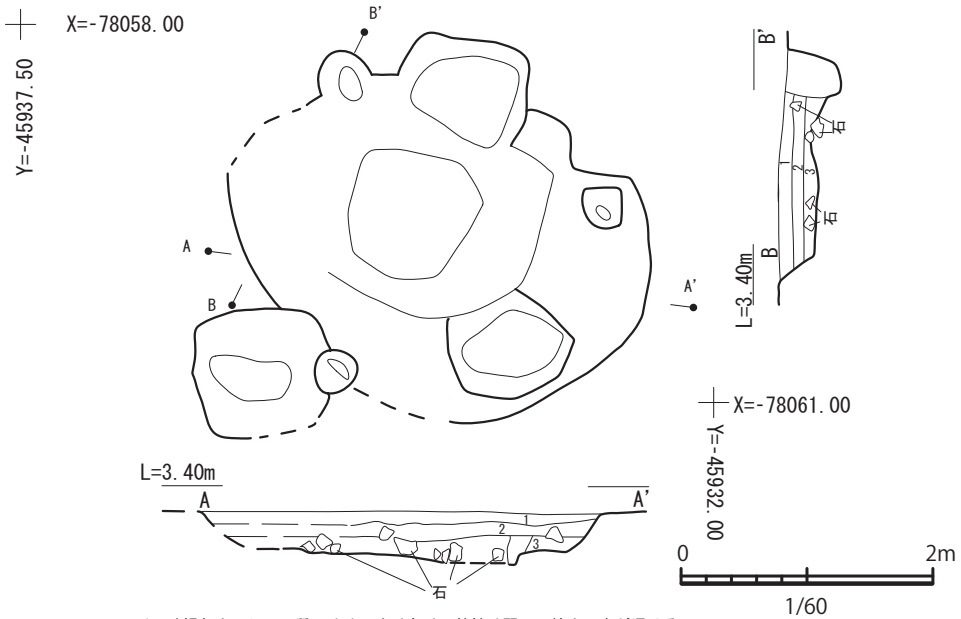


図 121　SK1091 実測図（1/60）

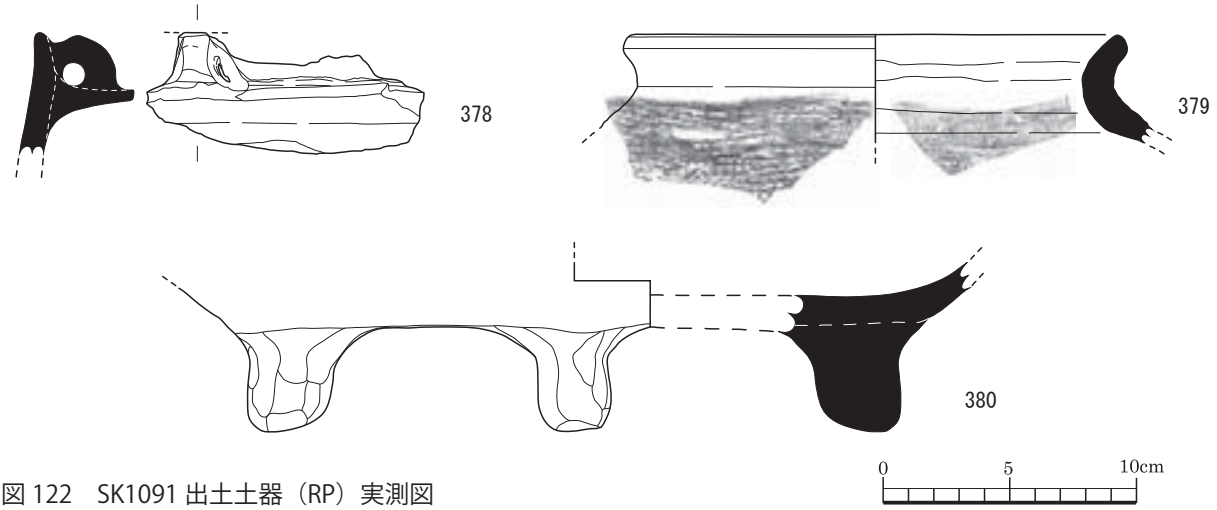


図 122　SK1091 出土土器（RP）実測図

色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP371 は坏である。口径 12.8cm、底径 8.5cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP372 は埦である。口径 14.1cm、底径 8.6cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は黄灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP373 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 22.6cm、器高 7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、タタキ（平行）、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、当て具痕（同心円状）により製作され、焼成は良である。

RP374 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 30.4cm、底径 24cm、を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はタタキ、ヨコナデ、工具ナデ、ナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラナデ。ナデにより製作され、焼成は良である。

RP375 は甕である。口径 32cm、底径 23.6cm、器高 37.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、タタキ（格子状）、ハケメ、ナデ、切

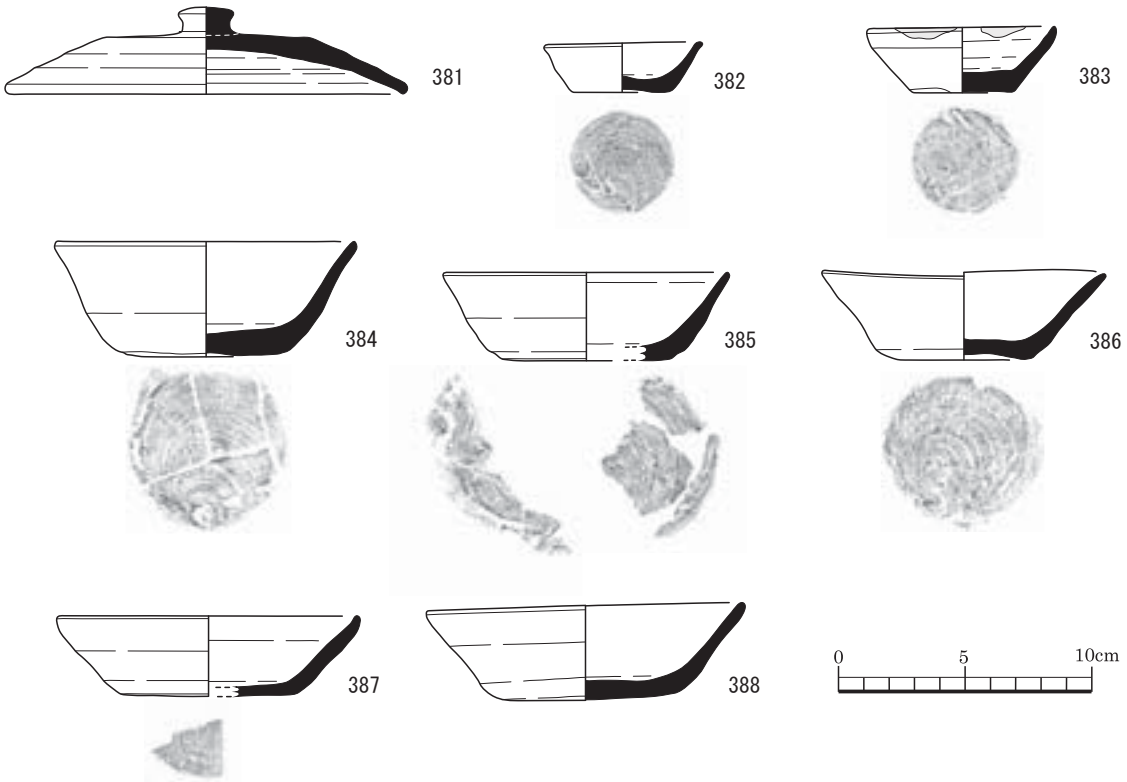


図 123　その他遺構　出土土器（RP）実測図

り離し、ナデ、内面調整はハケメ、ヘラナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP376 は瓦質土器の甕である。底径 34.6cm、器高 17.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP377 は瓦質土器の火鉢であり、1 層から出土した。口径 46.8cm、底径 32.2cm、器高 40.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、赤色粒子が観察される。この火鉢は、外面調整はナデ、貼付突帯、ナデ、スタンプ文、切り離し、ナデ、脚貼付、ヘラナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラナデ、回転ナデにより製作され、焼成は良である。

土壙 1091（SK1091）

SK1091 は、東西方向に長軸をおいた楕円形を呈する土壙である。O15 グリッドに位置する。

SK1091 は、東西 3.2m、南北 2.5m を測る。

SK1091 では土師器、須恵器、瓦質土器が検出されている。

RP378 は土師器の羽釜である。器高 4.8cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、雲母が観察される。この羽釜は、外面調整はナデ、内面調整はナデ、工具ナデにより製作され、焼成は良である。

RP379 は須恵器の甕である。口径 20cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はタタキ（格子状）、ヨコナデ、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP380 は瓦質土器の火鉢である。底径 27cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この火鉢は、外面調整はナデ、脚貼付、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良好である。

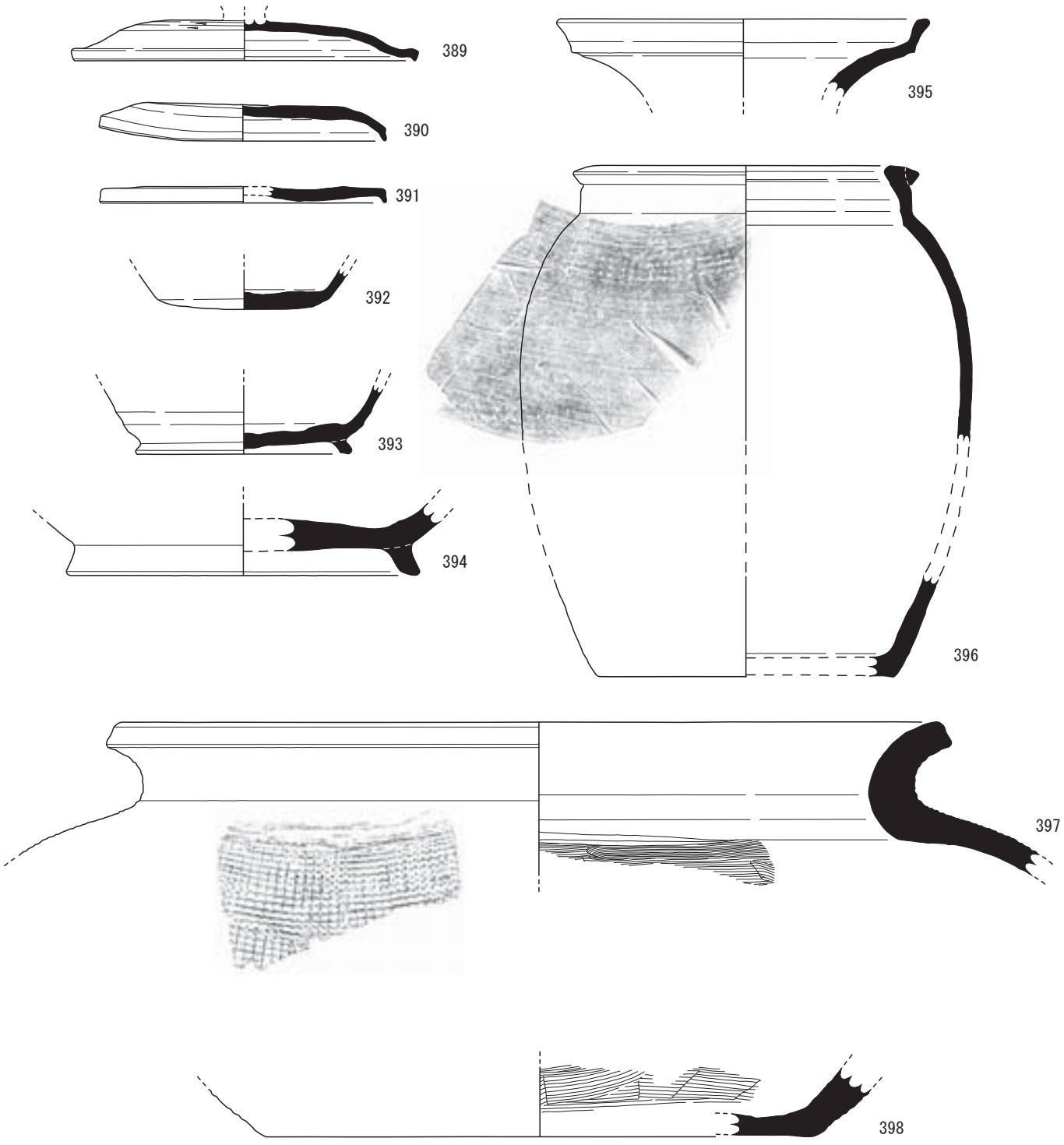


図 124　その他遺構　出土土器（RP）実測図

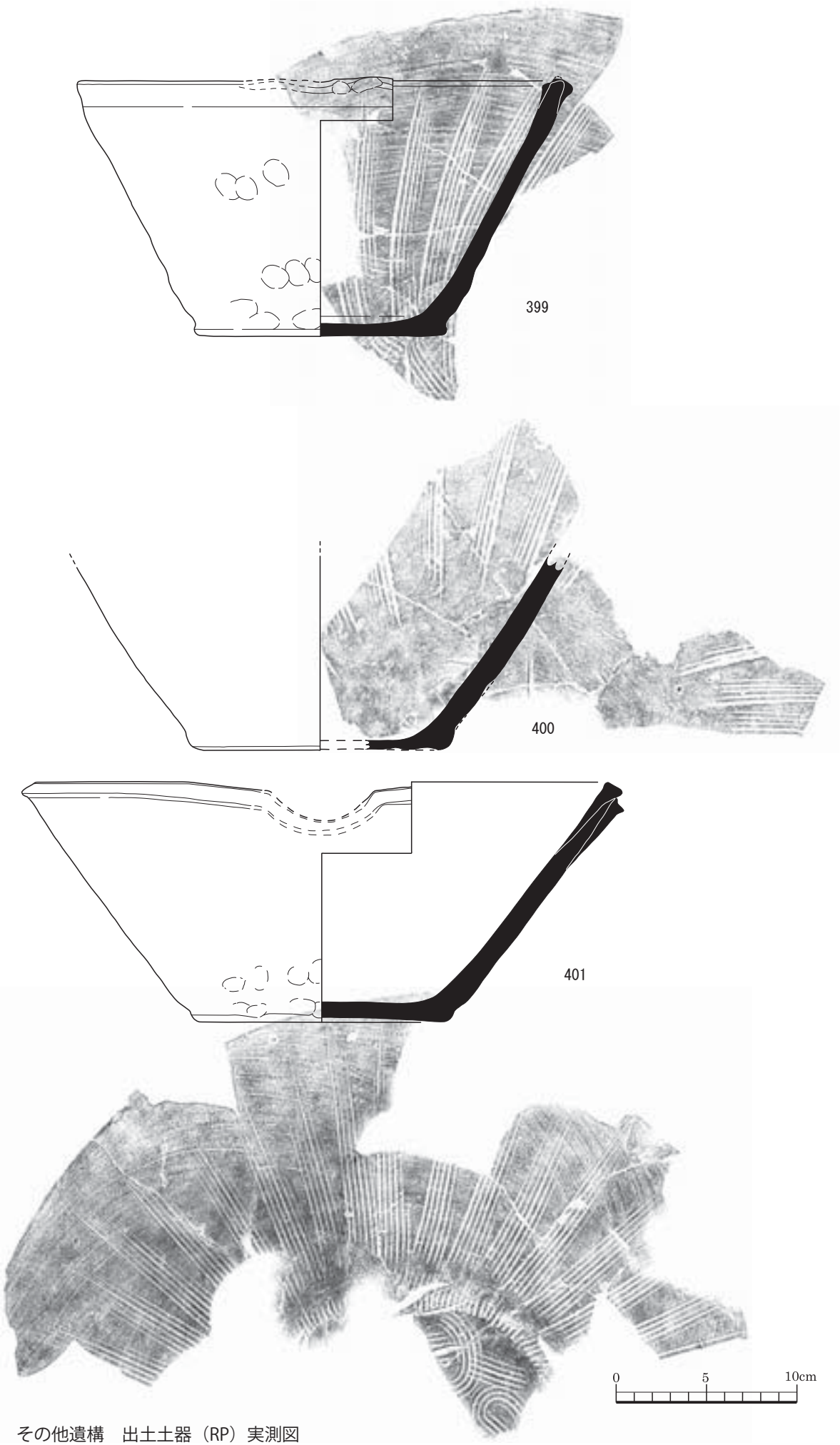


図 125　その他遺構　出土土器（RP）実測図

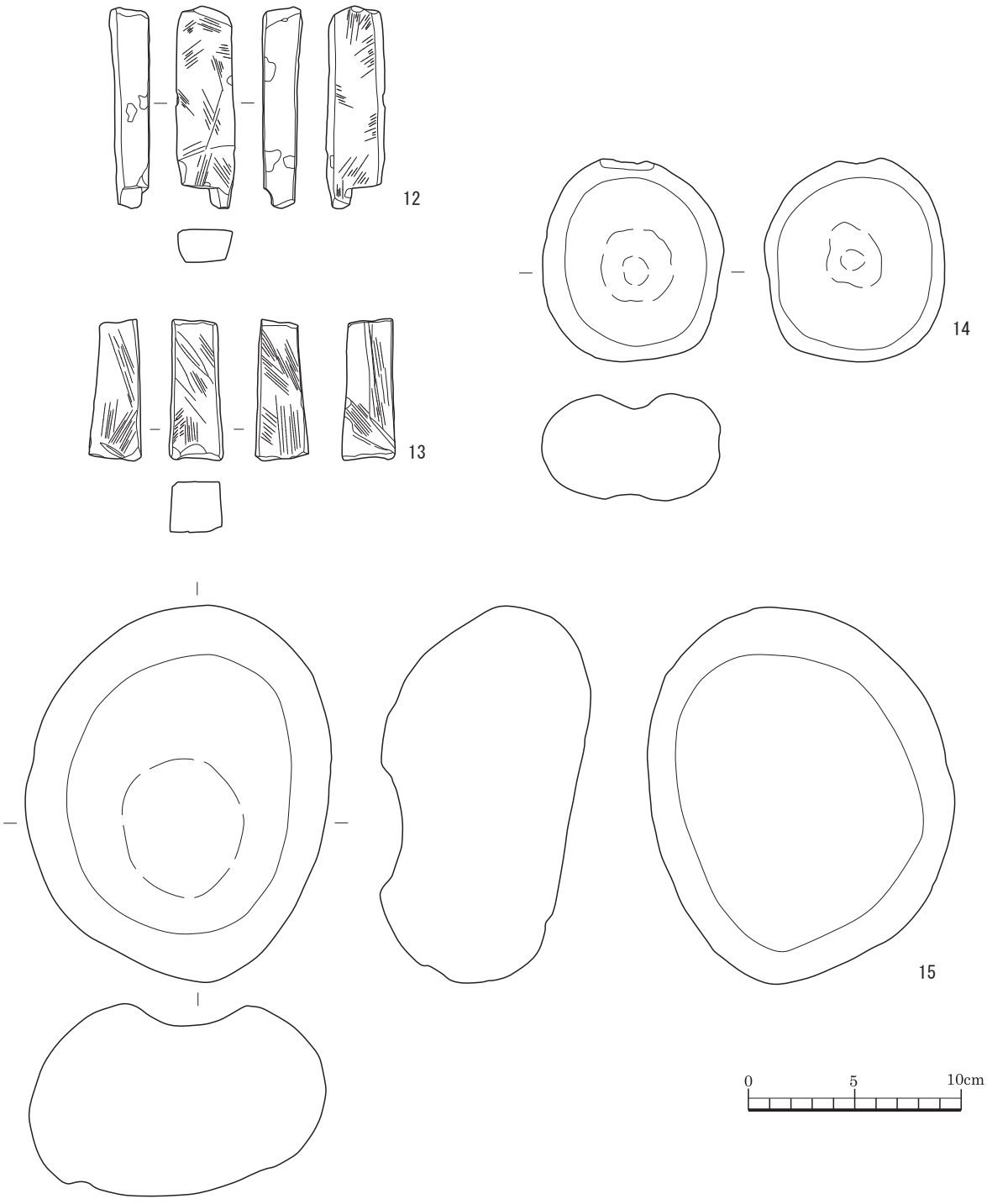


図 126　その他遺構　出土石器（RQ）実測図

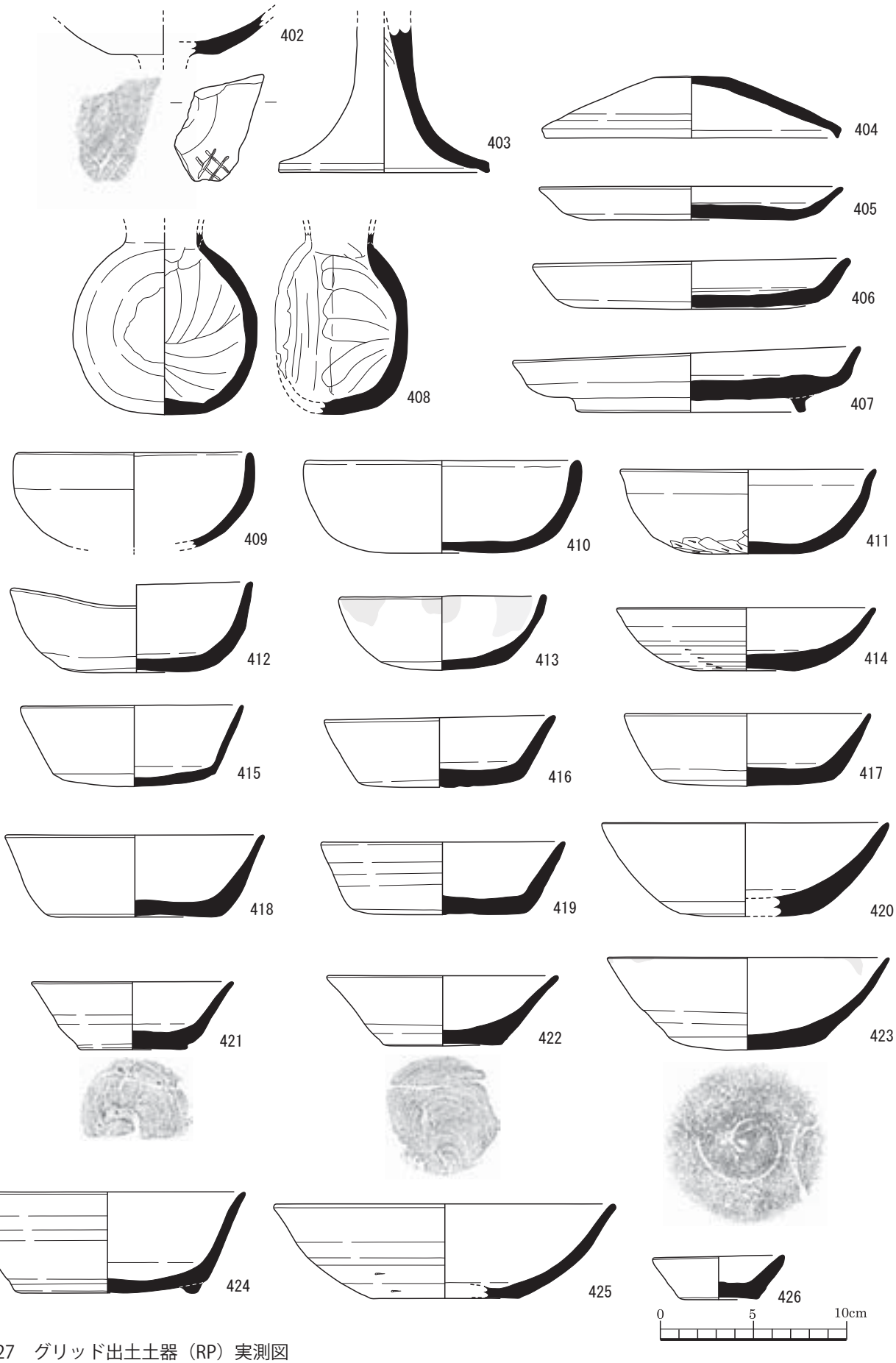


図 127　グリッド出土土器（RP）実測図

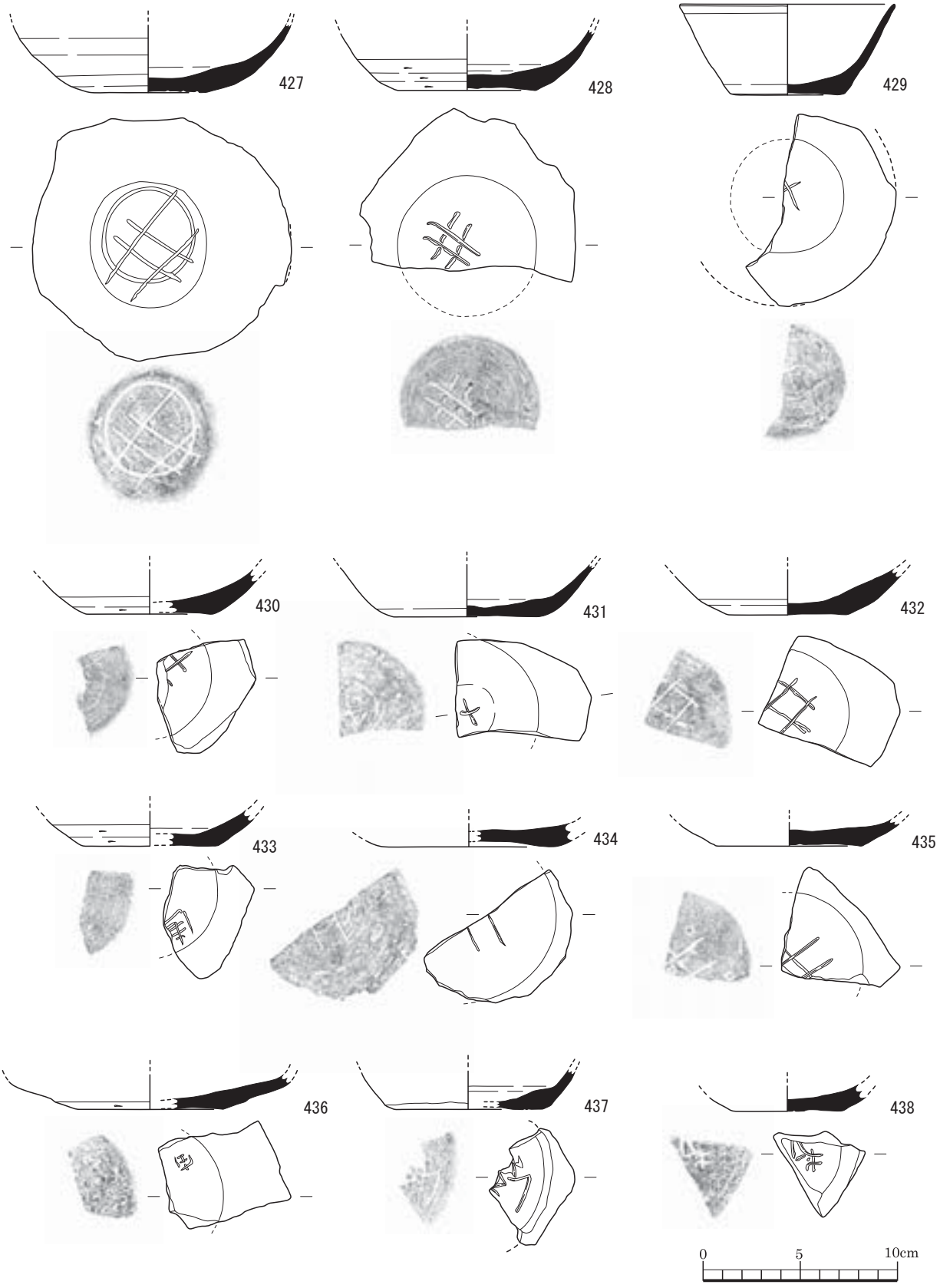


図 128　グリッド出土土器（RP）実測図

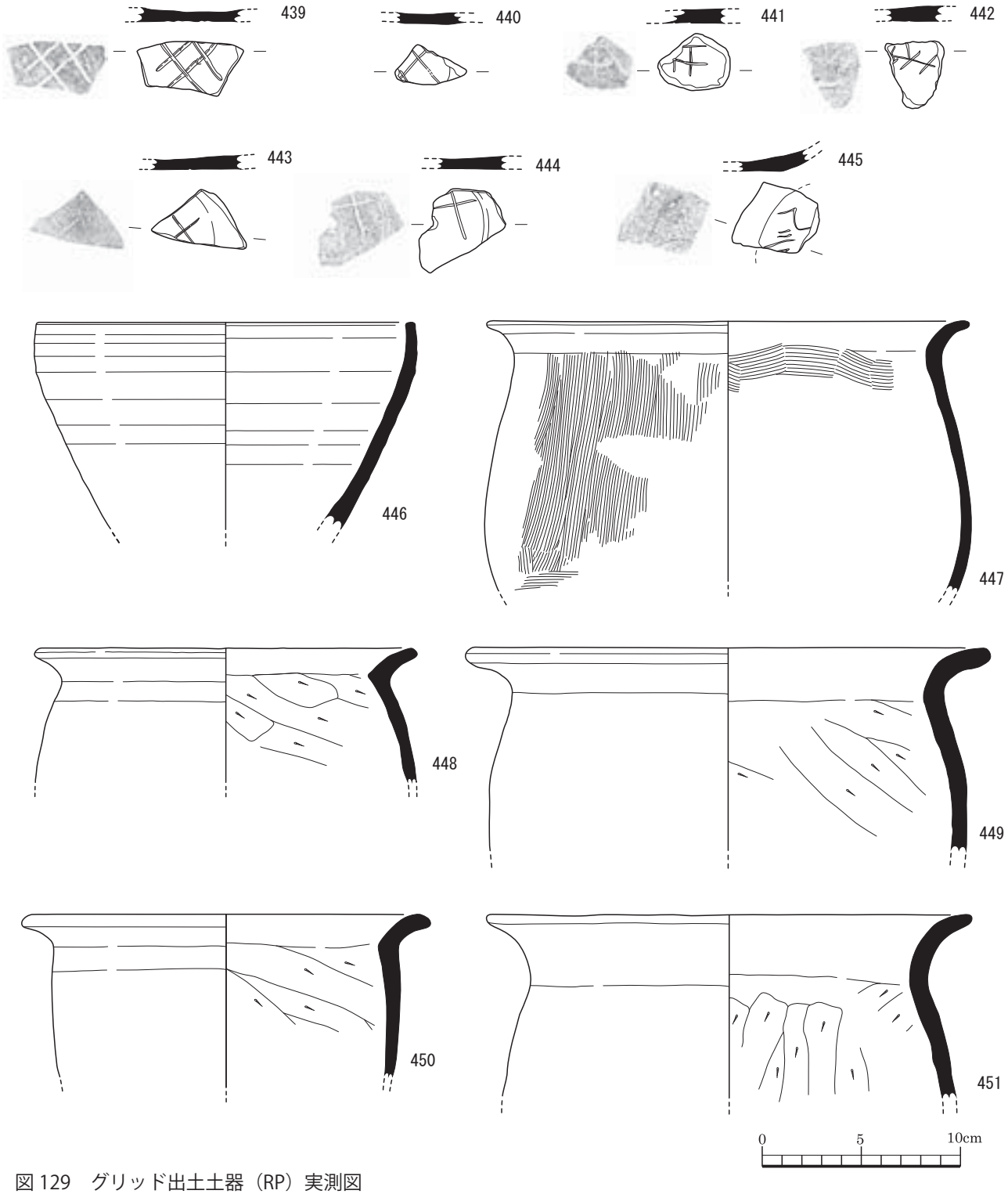


図 129　グリッド出土土器（RP）実測図

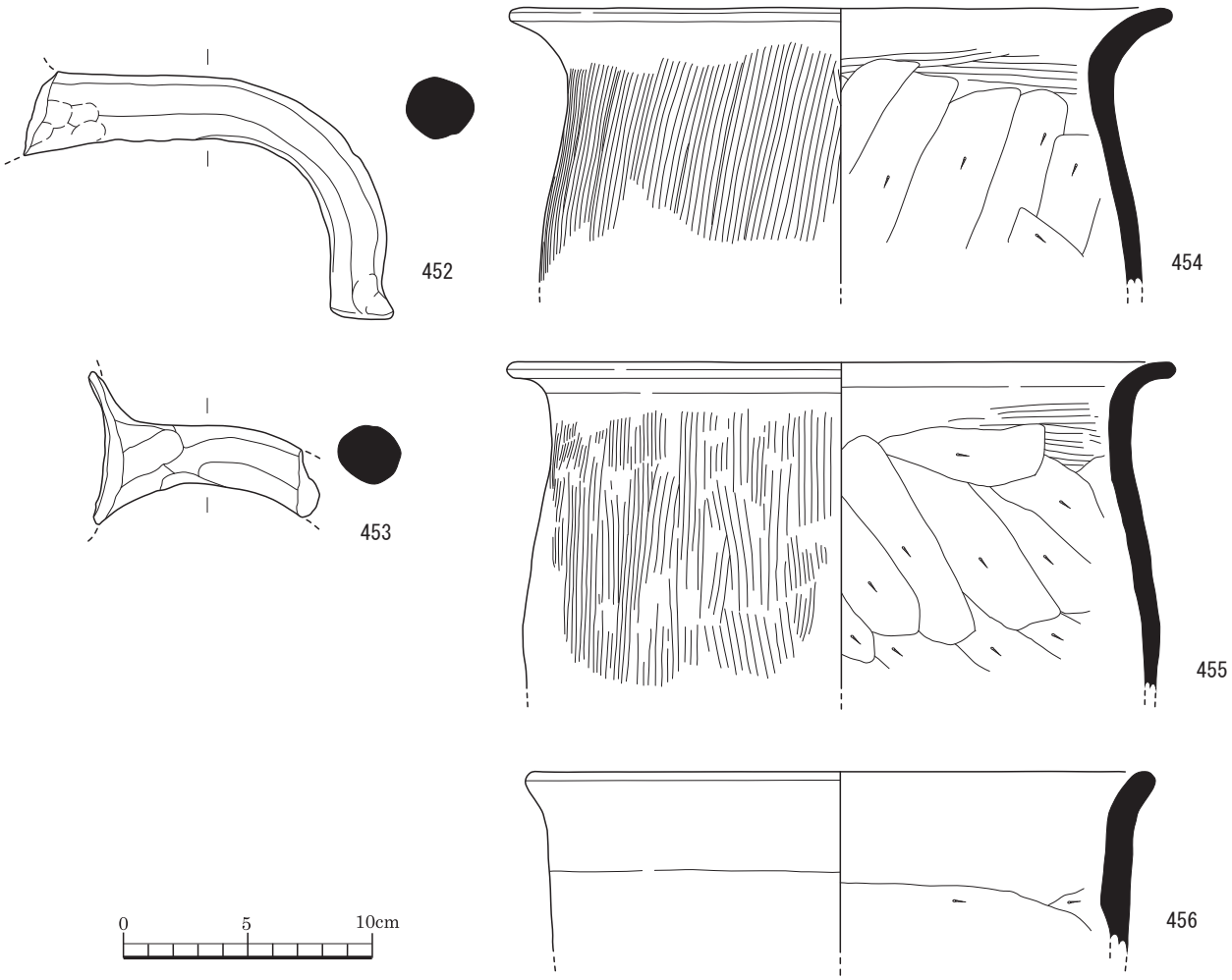


図 130　グリッド出土土器（RP）実測図

篦書土器

調査区 4 区からは篦書土器が出土している。いずれも土師器の坏底部に、焼成前に篦を用いて記号又は文字を書いているものであり、「＃」とする例が多数を占めている。

RP427 は底径 6.0cm の坏底に、「○」に「＃」と記している。

RP428 は底径 7.2cm の坏底に、「＃」と記している。

RP429 は底径 5.9cm の坏底に、推定「＃」と記している。

RP430 は底径 6.4cm の坏底に、推定「＃」と記している。

RP431 は底径 7.4cm の坏底に、推定「＃」と記している。

RP432 は底径 3.4cm の坏底に、「＃」と記している。

RP433 は底径 7.0cm の坏底に、「¬」に「＃」と記している。

RP434 は底径 9.0cm の坏底に、「二」と記している。

RP435 は底径 7.6cm の坏底に、推定「＃」と記している。

RP436 は底径 7.6cm の皿底に、「由」又は「田」と記している。

RP437 は底径 7.8cm の坏底に、判読不明の文字を記している。

RP438 は底径 5.5cm の坏底に、判読不明の文字を記している。

RP439 ～ 441 は坏底に「＃」と記している。

RP442 は坏底に判読不明の文字を記している。

RP443、444 は坏底に「十」と記している。

RP445 は坏底に推定「九三」と記している。

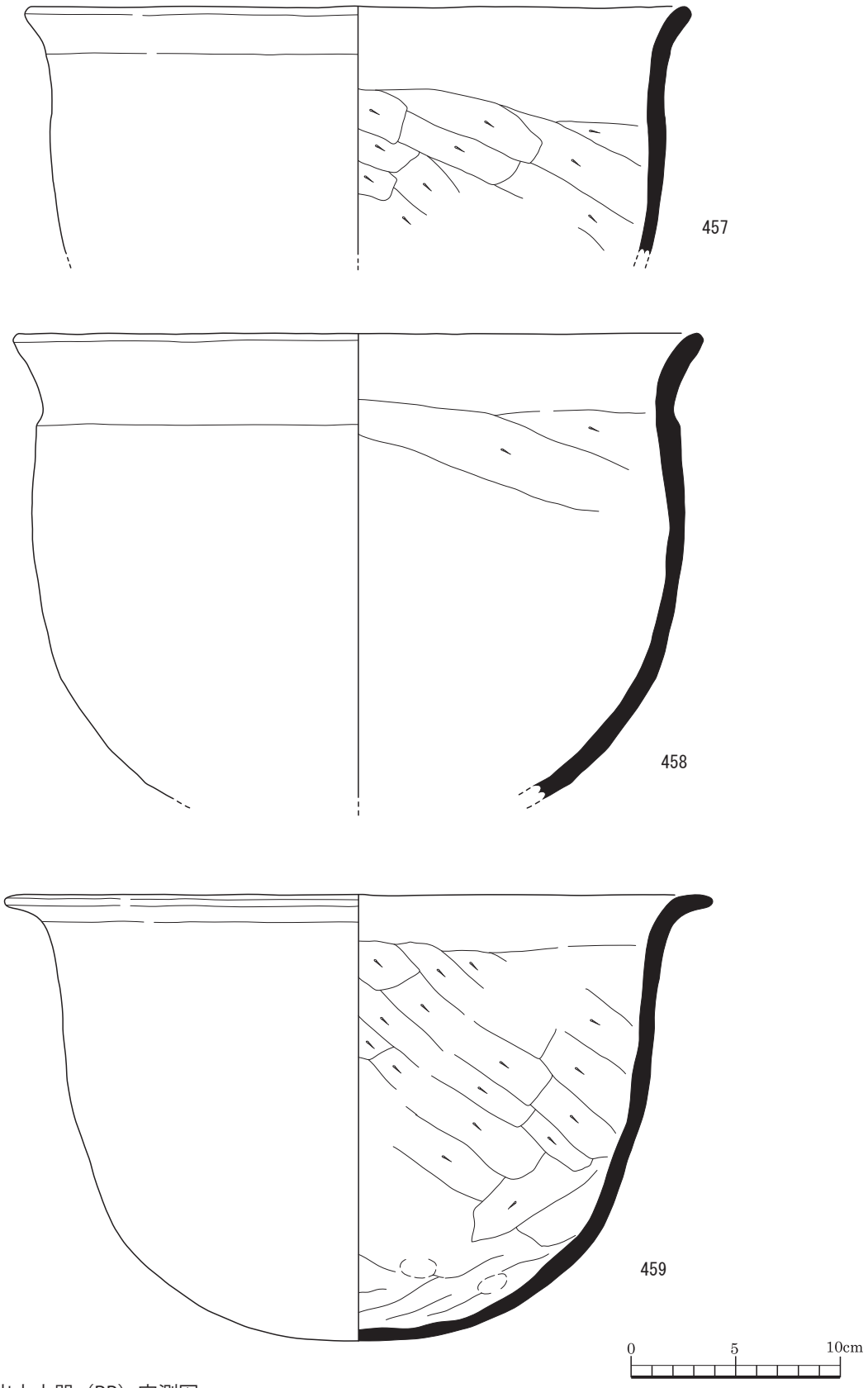


図 131　グリッド出土土器（RP）実測図

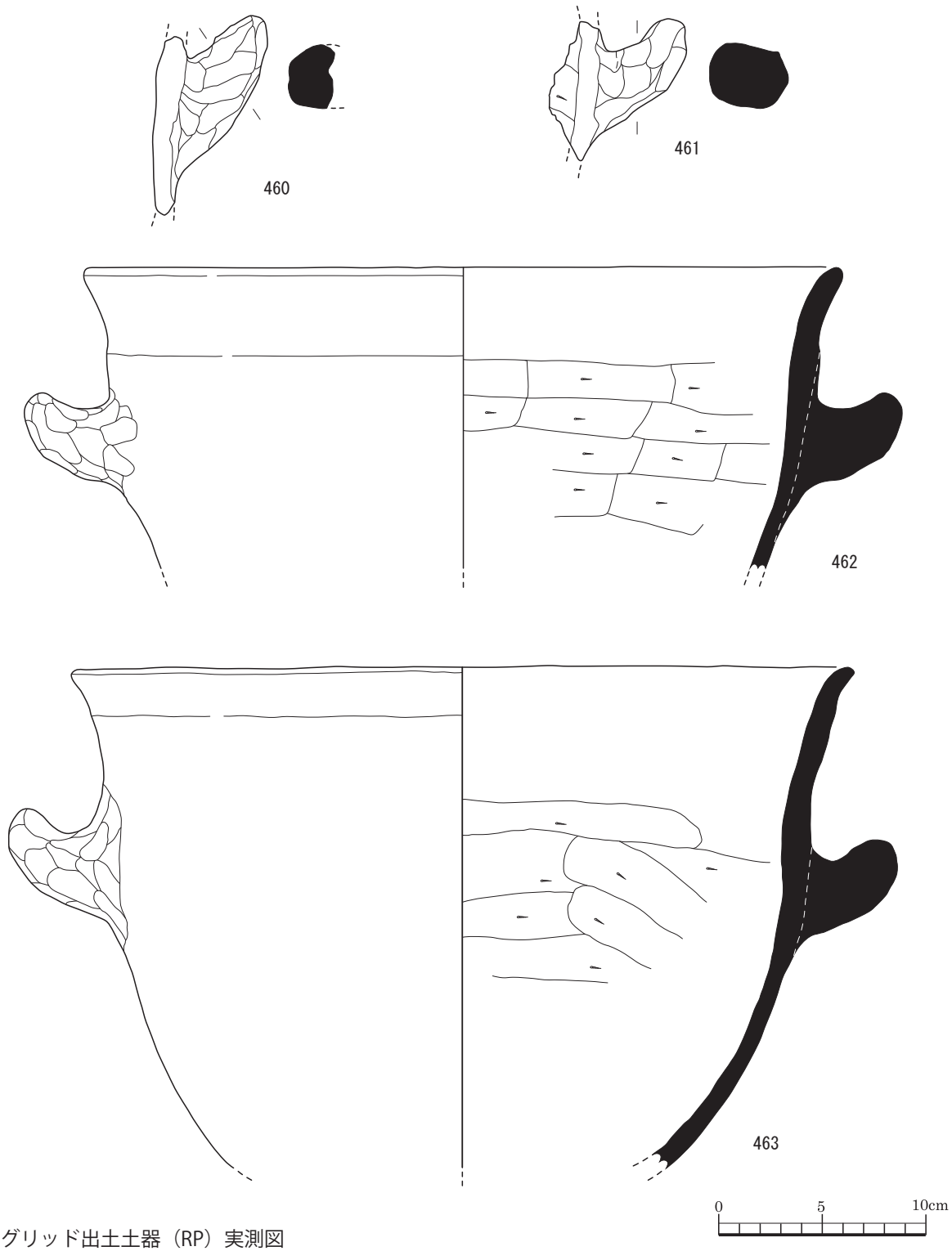


図 132　グリッド出土土器（RP）実測図

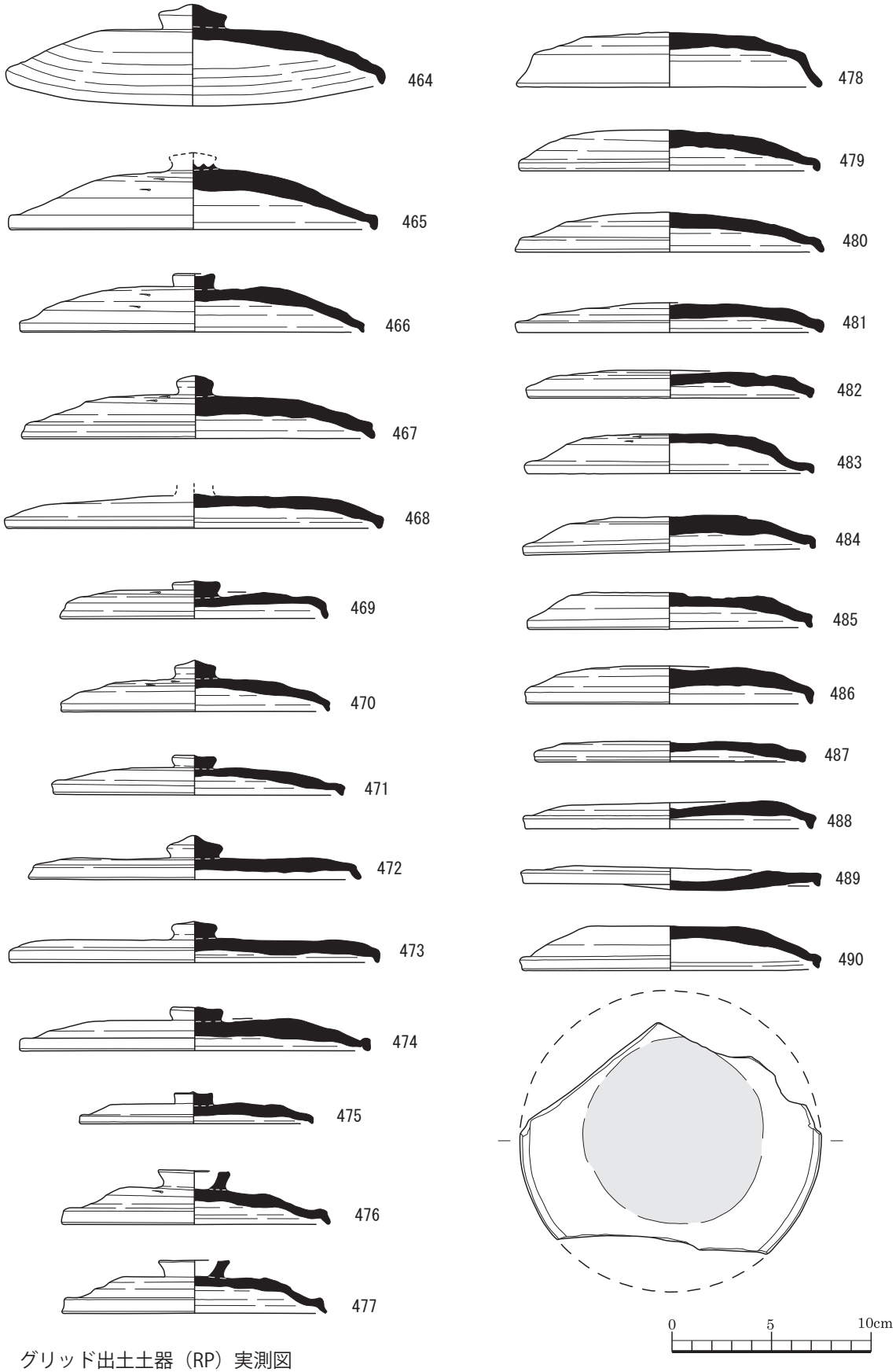


図 133　グリッド出土土器（RP）実測図

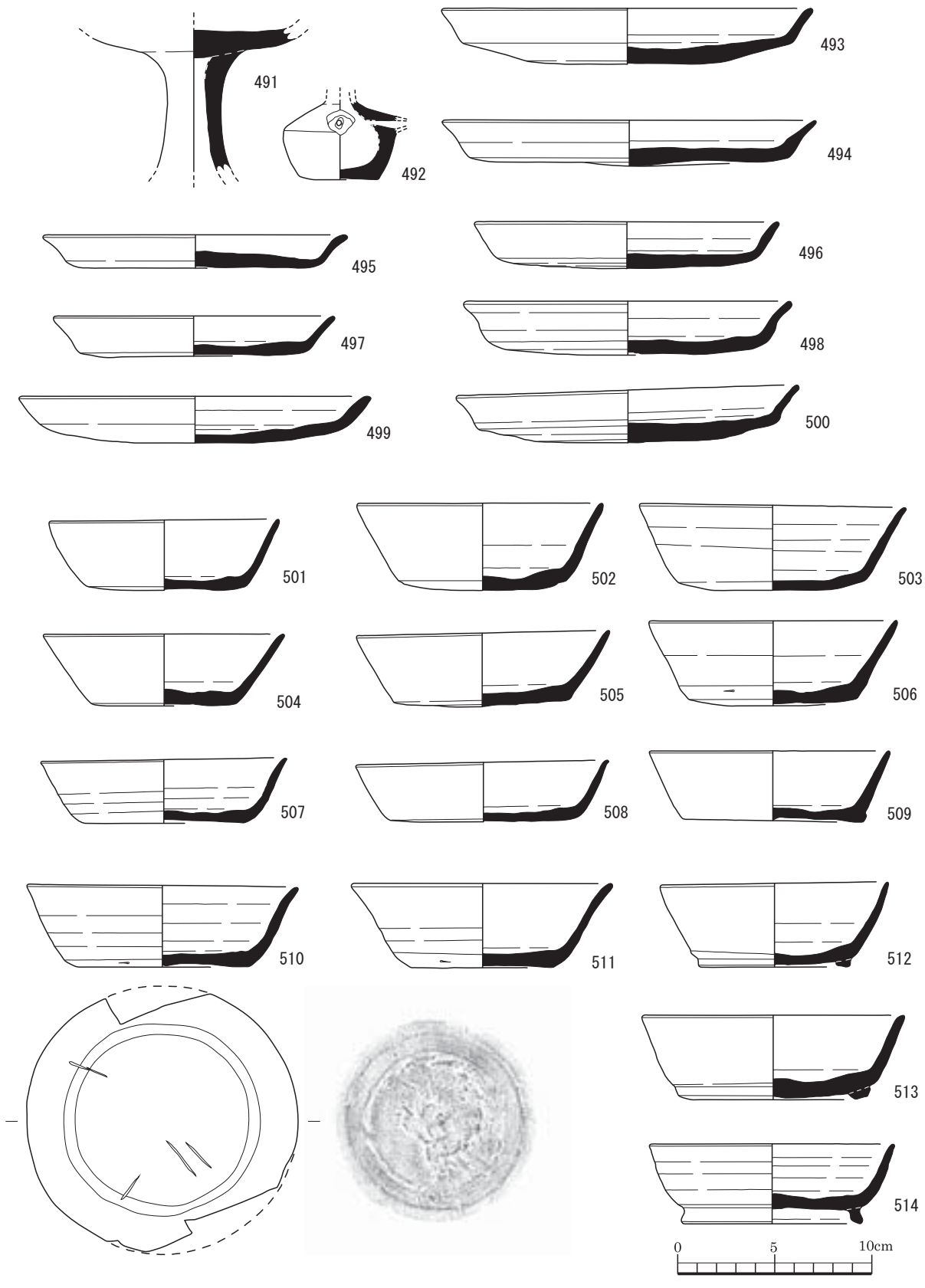


図 134　グリッド出土土器（RP）実測図

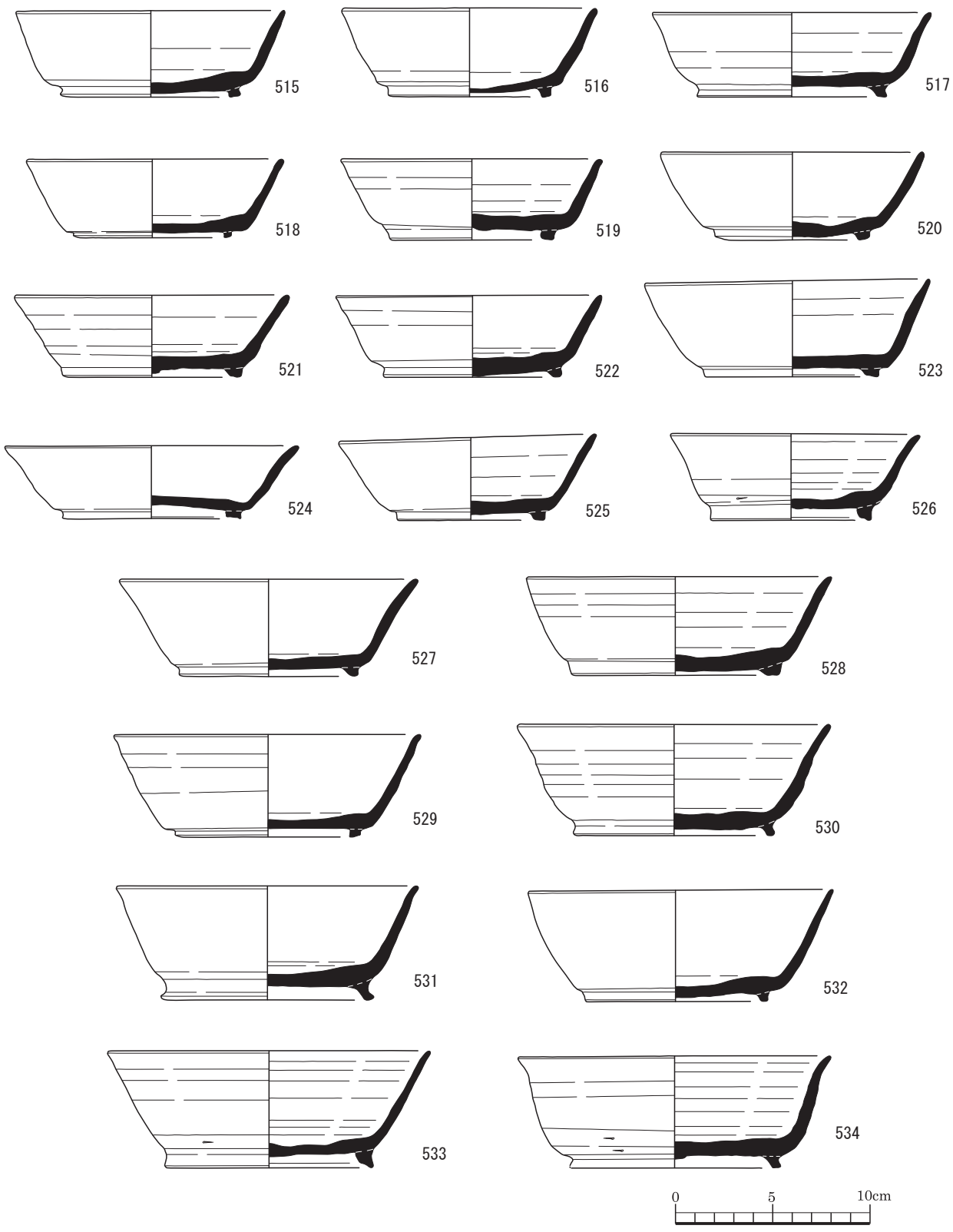


図 135　グリッド出土土器（RP）実測図

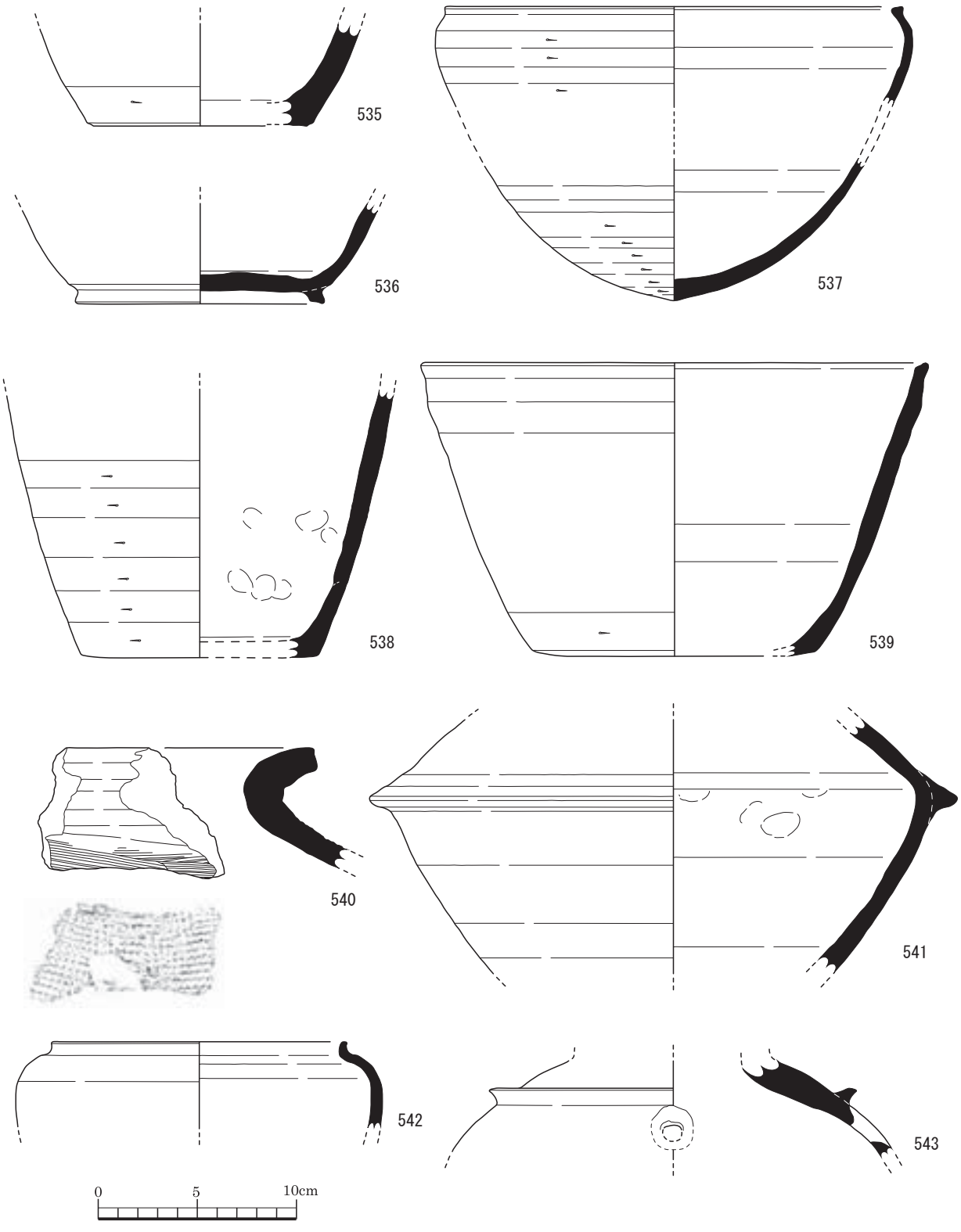


図 136　グリッド出土土器（RP）実測図

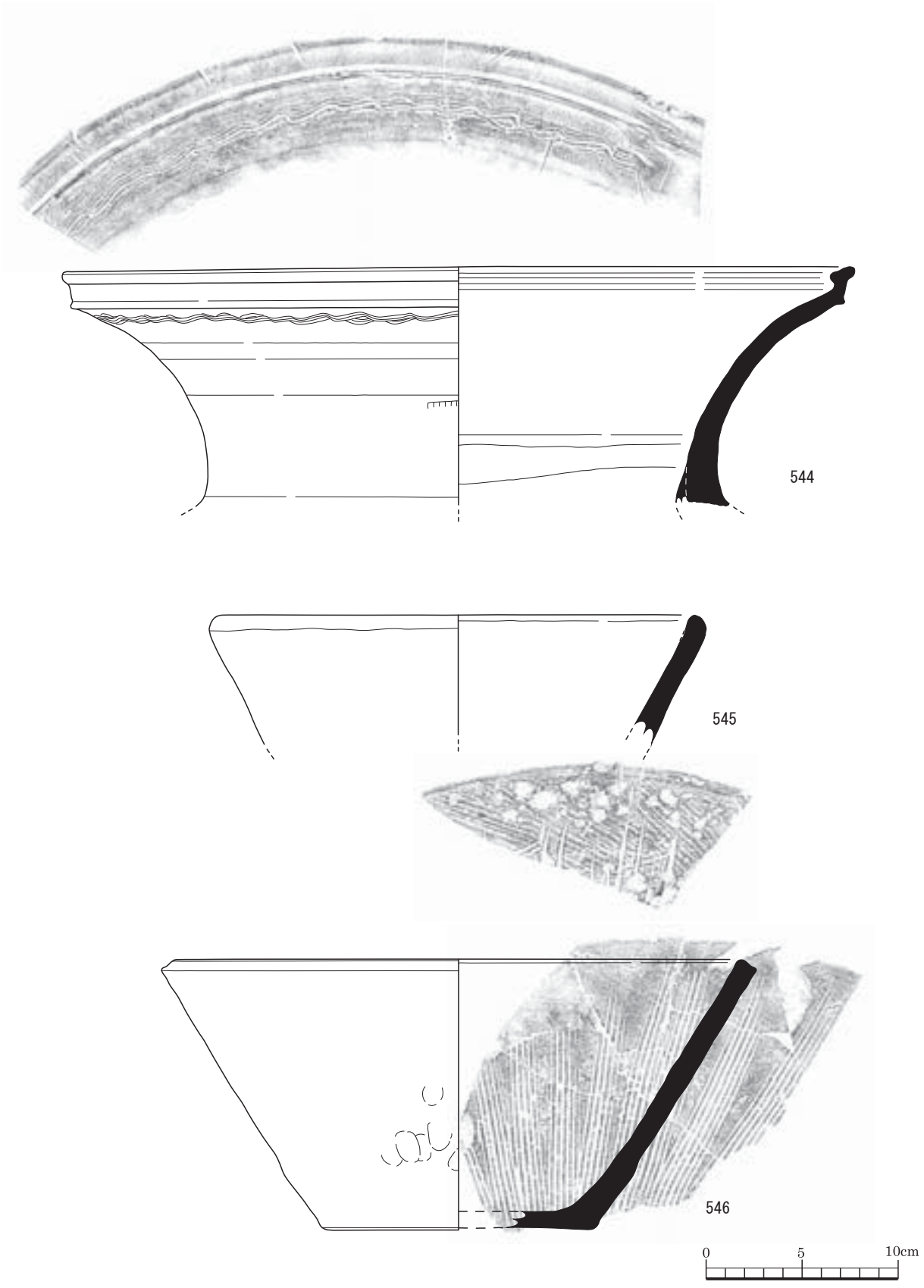


図 137　グリッド出土土器（RP）実測図

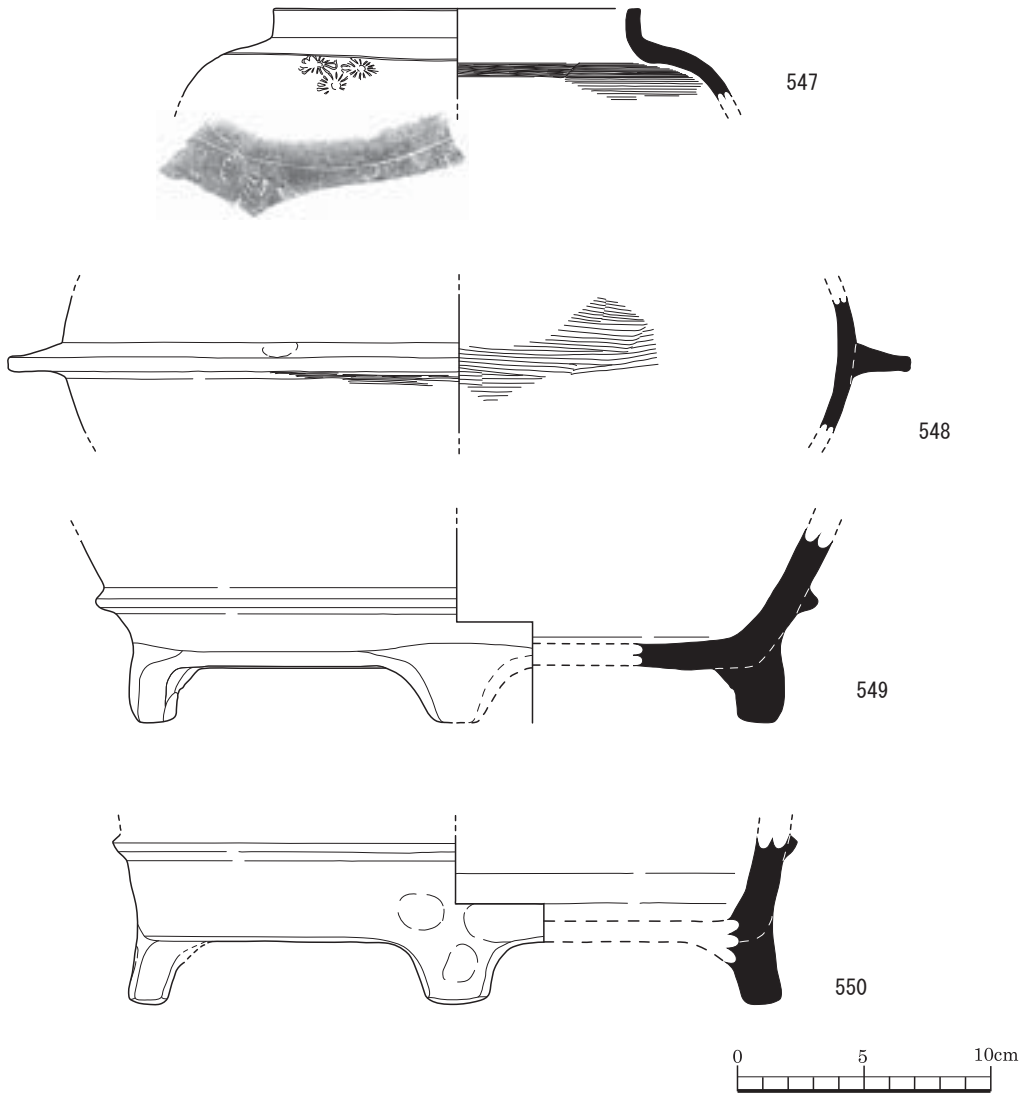


図 138　グリッド出土土器（RP）実測図

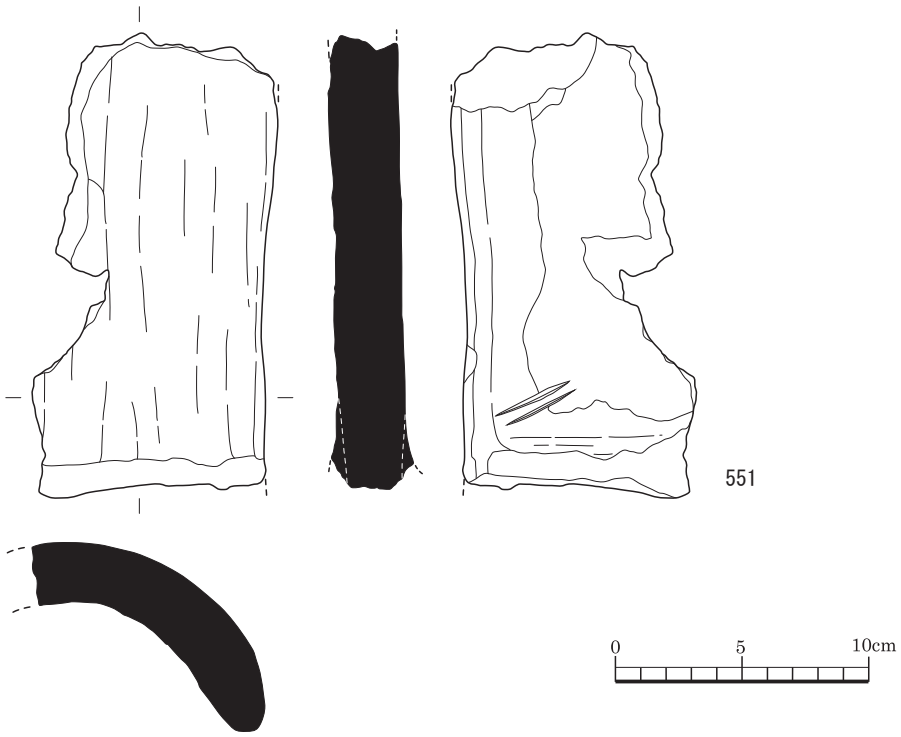


図 139　グリッド出土土器（RP）実測図

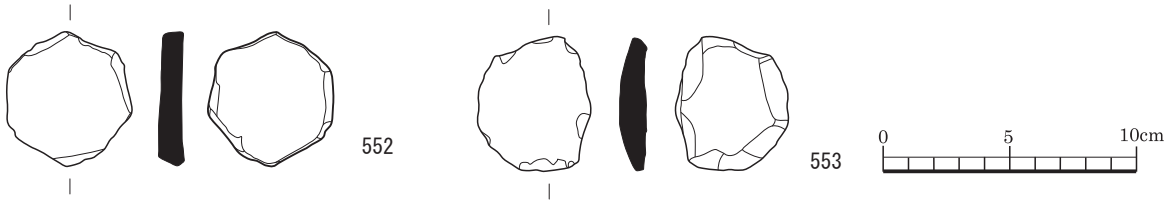


図 140　グリッド出土土器（RP）実測図

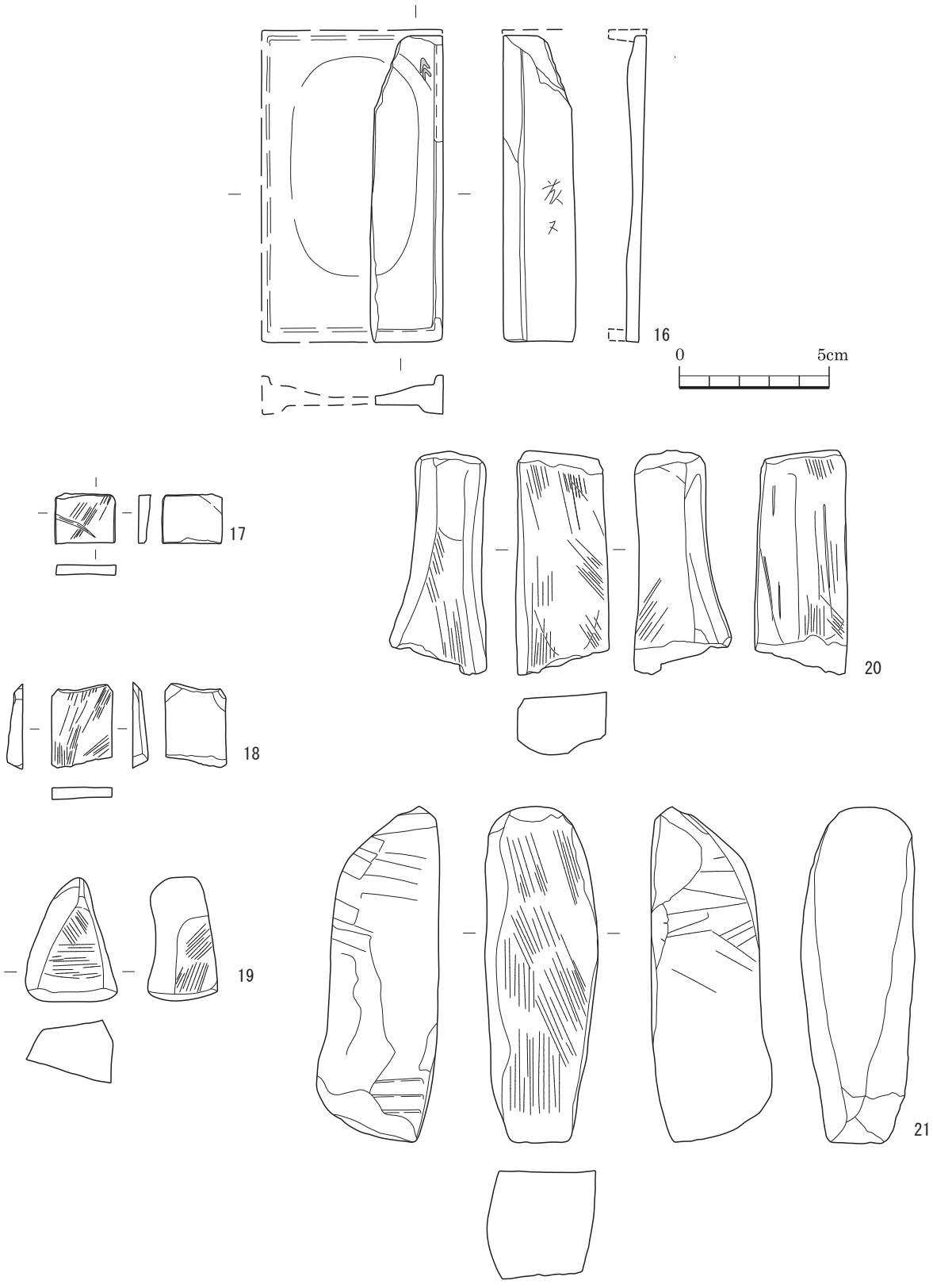


図 141　グリッド出土石器（RQ）実測図

図 142　グリッド出土石器（RQ）実測図

2-5　花岡木崎遺跡 5 区の調査

2-5-1　調査区 5 区の概要

調査区 5 区は、花岡木崎遺跡の南東縁辺部に位置する。面積は約 1,250㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 2,500㎡である。調査区がベルト状に設定されているのは、道路、用水路設置工等、日奈久芦北道路建設事業との調整の結果である。

なお、調査区 5 区の発掘調査は、宮崎敬士（主任学芸員）、江頭俊介及び村中智恵（非常勤嘱託）が担当した。

また、発掘調査は「花岡木崎遺跡発掘調査要領」（1-3-2 発掘作業の方法）に基づき実施している。

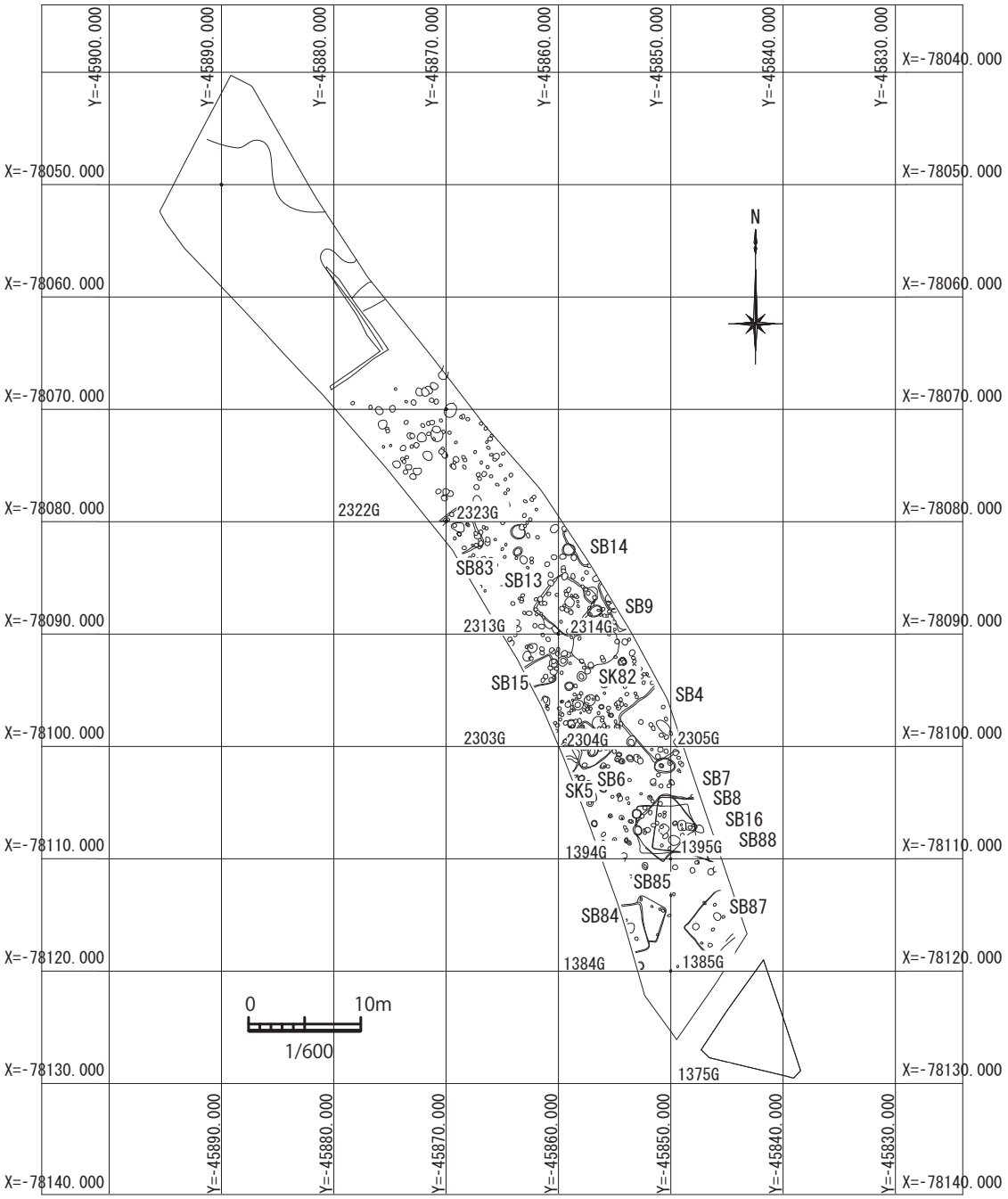


図 143　5 区遺構配置図（1/600）

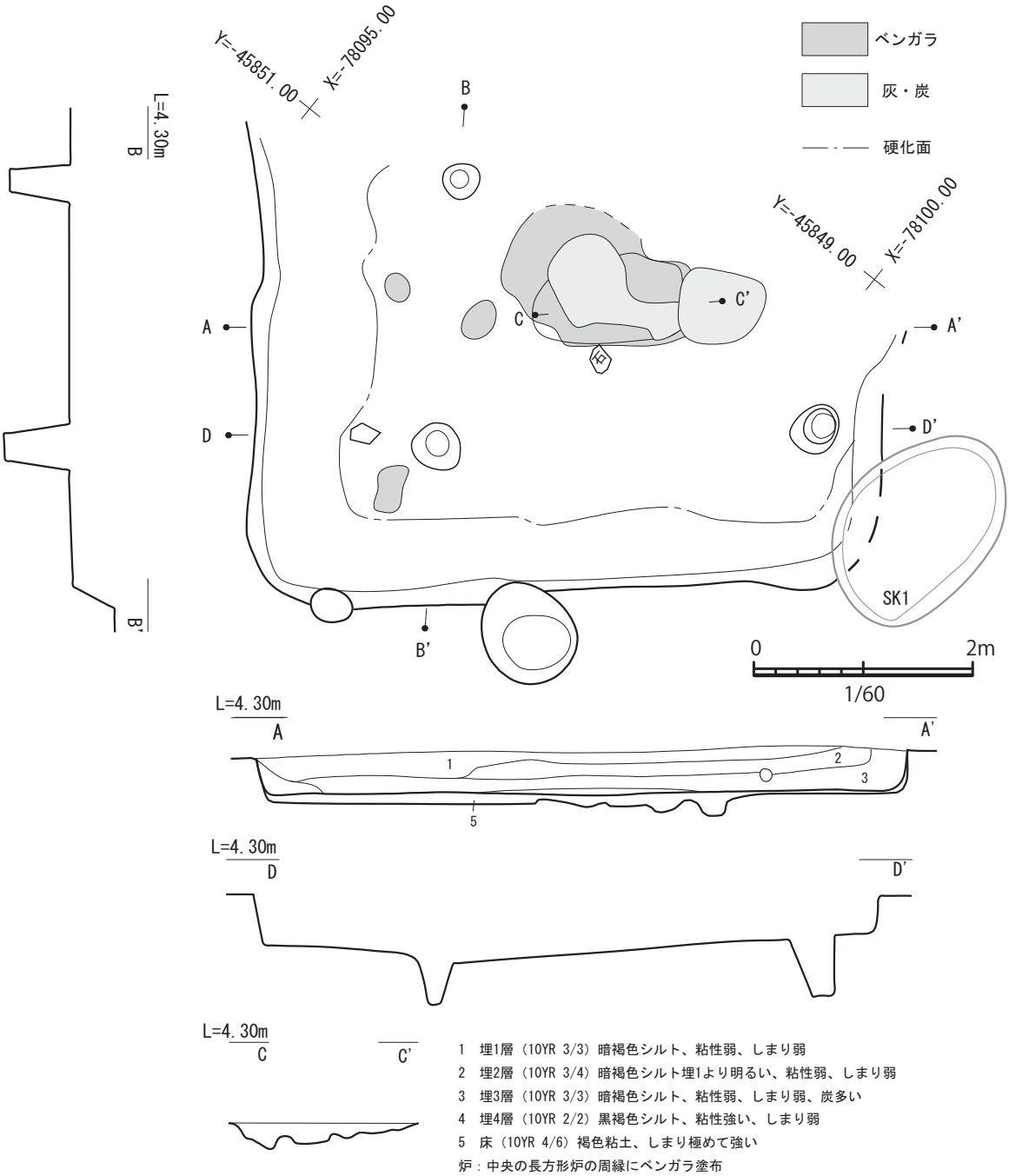


図 144　SB4 実測図（1/60）

2-5-2　調査区 5 区の遺構と遺物

調査区 5 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

竪穴住居 4（SB4）

SB4 は、平面が正方形を呈した 4 本柱建ての竪穴住居である。この遺構の東半部は調査区外にあり、併せて東北側には削平を受けた部分がある。SB4 では主柱穴、炉、硬化面を確認した。SB4 は SK1 に切られている。2304 グリッドに位置する。

SB4 の法量は、南北 5.7 m、東西 4.4 m以上、遺構

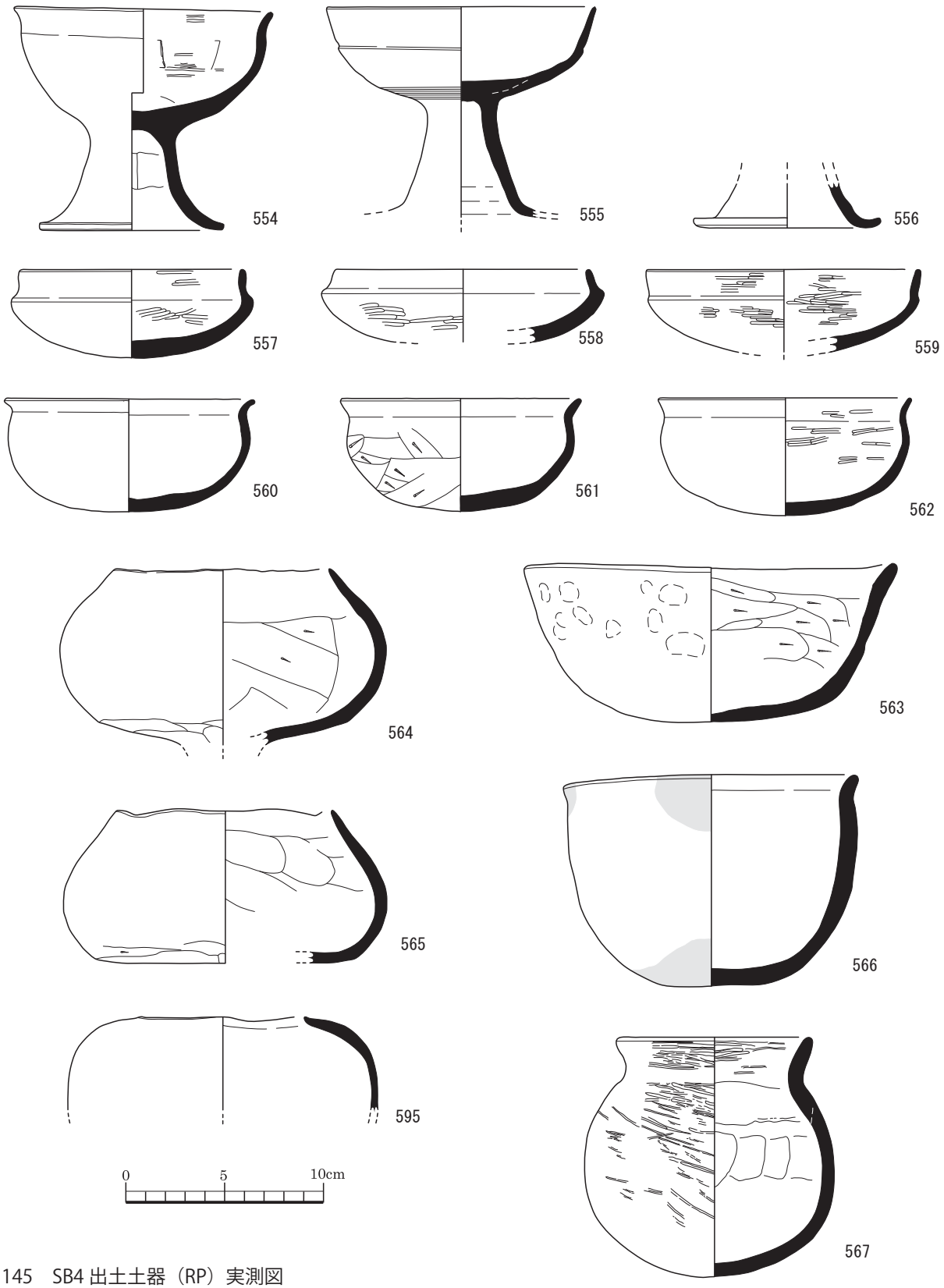


図 145　SB4 出土土器（RP）実測図

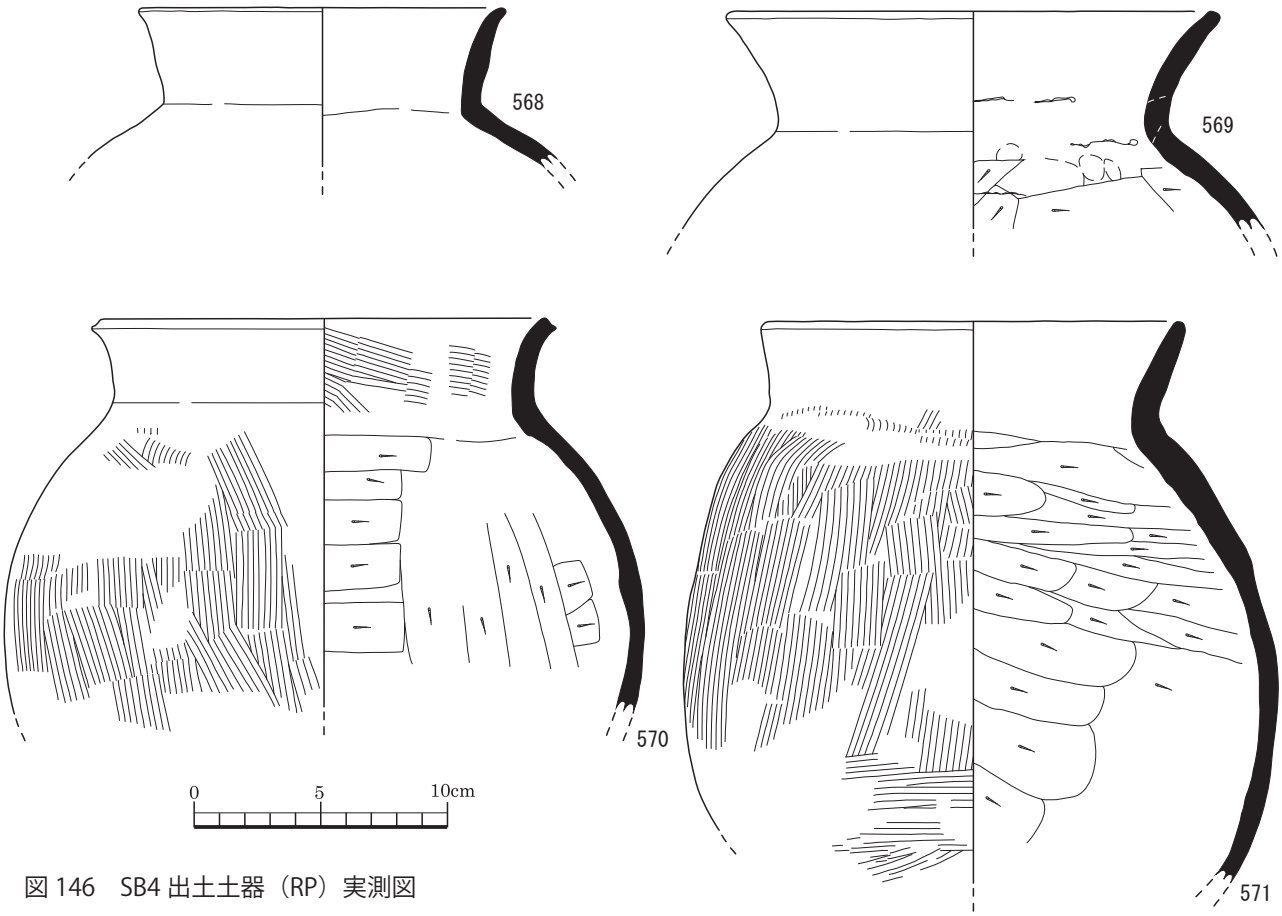


図 146　SB4 出土土器（RP）実測図

確認面からの深さ 50cm を測る。

主柱穴は 3 基検出した。残り 1 基の主柱穴は、調査区外に位置している。検出した 3 基の主柱穴は、直径 35 ～ 45㎝、遺構確認面からの深さ 37 ～ 60cm を測る。

炉は 1 基、SB4 の中央に設置されている。炉の平面形は長方形を呈し、南北 1.7m、東西 0.8m、深さは 20cm である。炉底は 2 基のピットが複合した形態をとり、炉の外周四隅には各 1 基、合計 4 基の小ピットがあった。炉の南側短辺には浅い土壙が付設されており、炭が入っていた。炉から掻きだした炭を溜めていた箇所であろう。この炭溜りをのぞき、炉の外縁には赤色顔料が「コ」の字形に分布していた。この赤色顔料は、肉眼観察の結果、ベンガラと考えている。同様の赤色顔料は、SB4 の北側に 3 箇所分布している。

床は貼り床であり、主柱穴の内側、内陣にあたる範囲に厚さ 3cm 程度の硬化面が形成されている。

SB4 からは、土師器（RP554 ～ 574、595）、須恵器（RP575 ～ 590）、石器が出土した。うち、RP557 ～ 559 は須恵器模倣坏、RP564、565、595 は製塩土器である。

RP554 は高坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 13.2cm、底径 9.4cm、器高 11.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には角閃石、雲母、白色粒子、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はハケ板による整形、ミガキ、ナデ、ケズリにより製作され、焼成は良である。

RP555 は高坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13.7cm、器高 10.7cm を測る。器面の外面は橙、灰白色、内面も橙、灰白色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はヨコナデ、回転ヘラケズリ、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP556 は高坏であり、埋 3 層から出土した。底径 9.6cm、器高 2.25cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子微量が観察

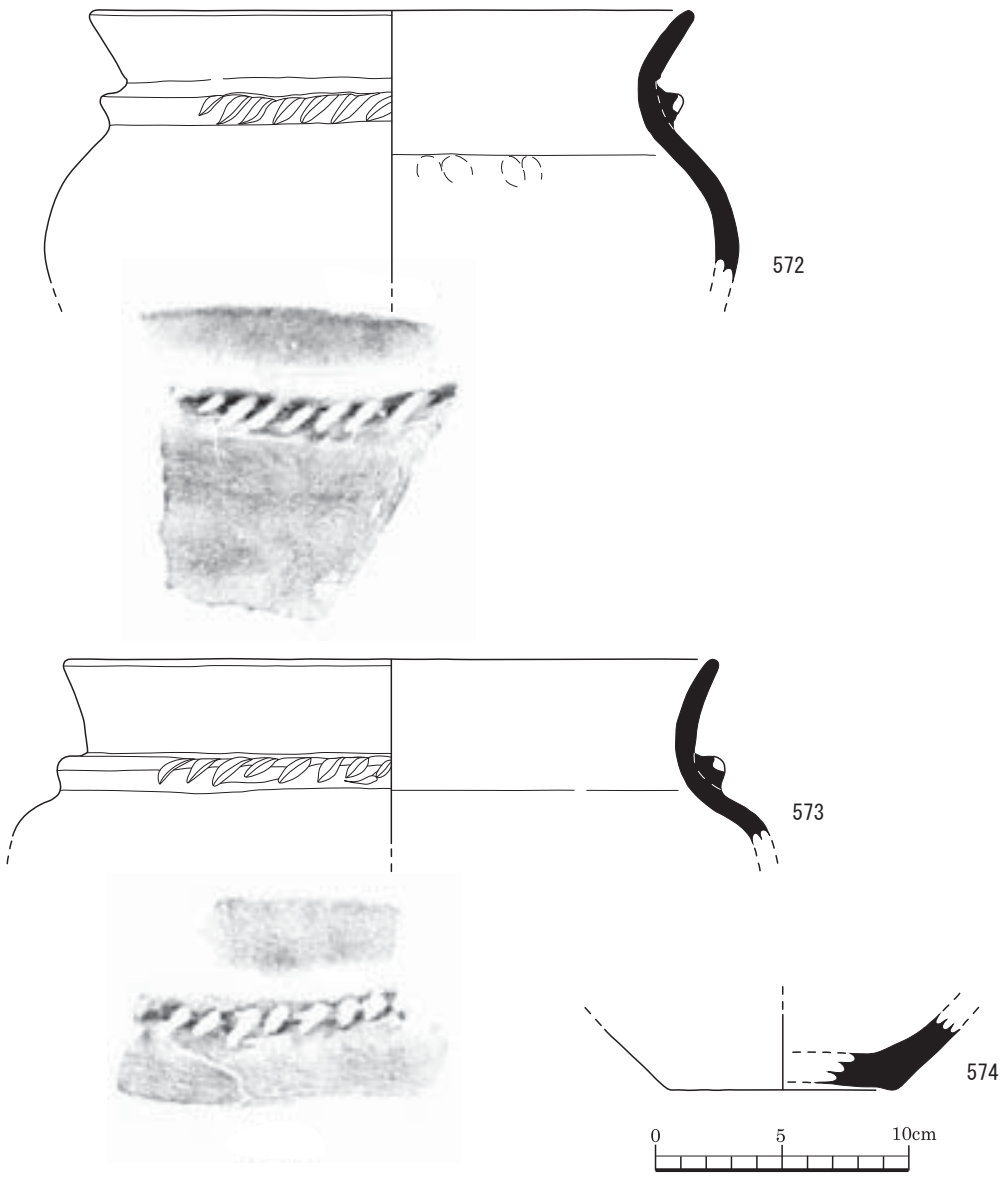


図 147　SB4 出土土器（RP）実測図

される。この高坏は、外面調整はナデ、内面調整もナデにより製作され、焼成は良好である。

RP557 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 11.5cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は黄灰色を呈し、胎土には金雲母、赤色粒子、チャートが観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ミガキ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP558 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は黒、橙色、内面は黄灰、橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ミガキ、内面調整はヨコナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP559 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 14cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は黒、にぶい橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には白色砂粒、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ミガキ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良である。

RP560 は坏であり、炉、SP407、SP464 から出土した。口径 12.7cm、底径 5.8cm、器高 5.8cm を測る。

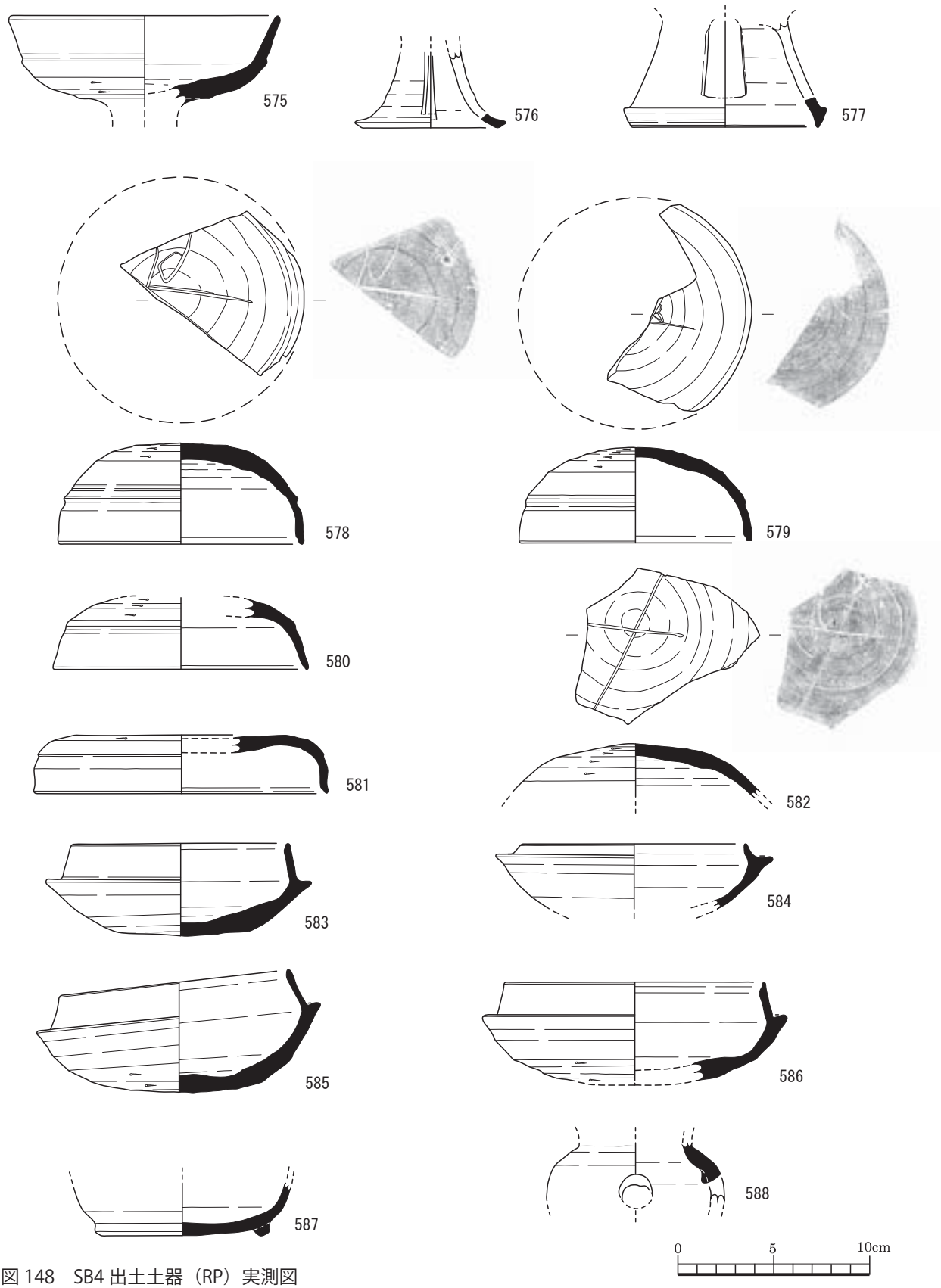


図 148　SB4 出土土器（RP）実測図

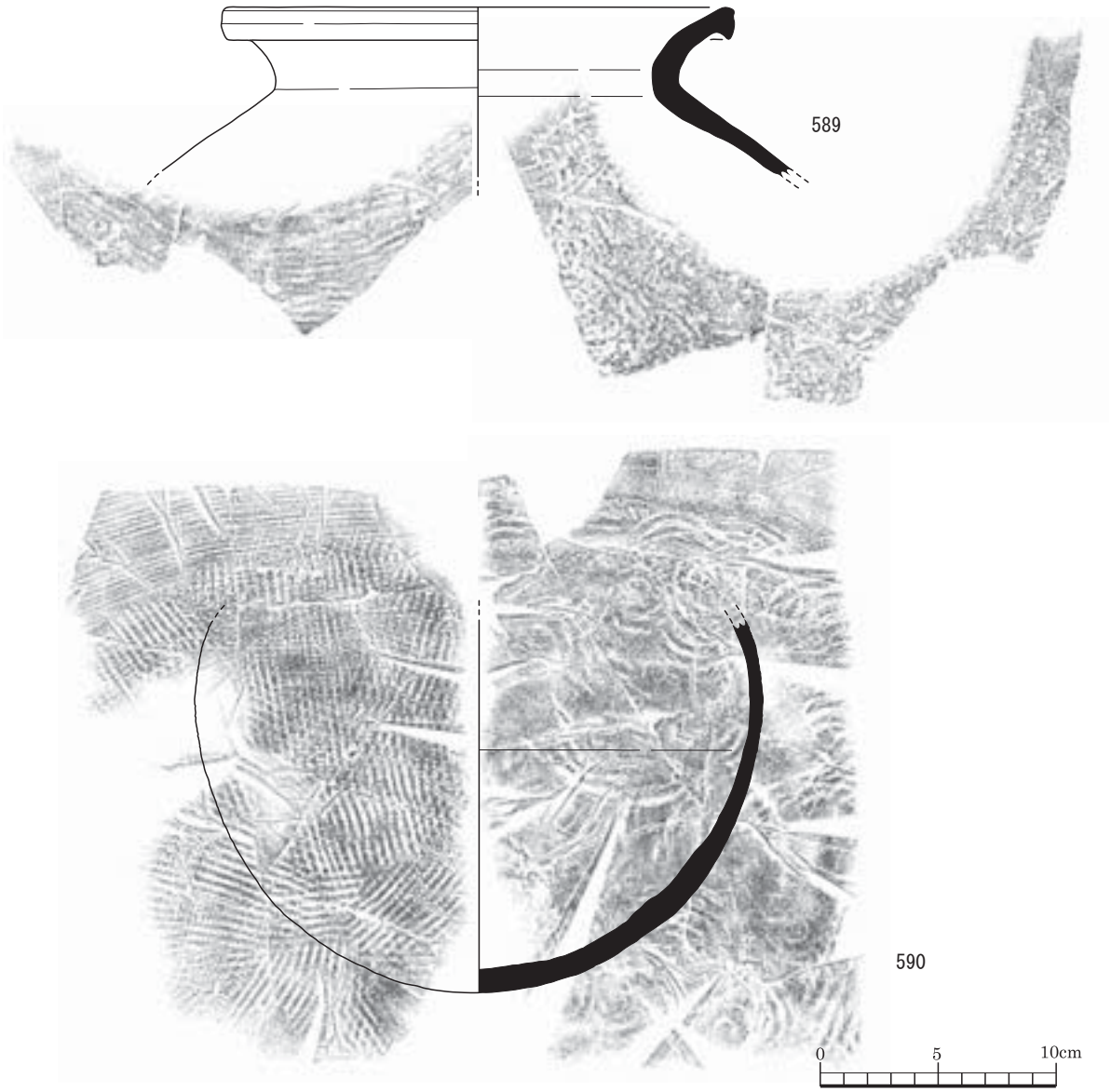


図 149　SB4 出土土器（RP）実測図

器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、黒色粒子、白色粒子、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ヘラケズリ、内面調整はヨコナデ、ヘラナデにより製作され、焼成は良好である。

RP561 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.2cm、器高 5.8cm を測る。器面の外面は橙、にぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、黒色粒子、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ、ヘラケズリ、内面調整は工具ナデ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP562 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 12.9cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には赤色粒子、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ケズリ、ナデ、内面調整はヨコナデ、ナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP563 は鉢であり、埋 1、3 層から出土した。口径 19cm、器高 8.1cm を測る。器面の外面はにぶい橙、にぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この鉢は、外面調整は指頭圧痕、ナデ、ヨコナデ、内面

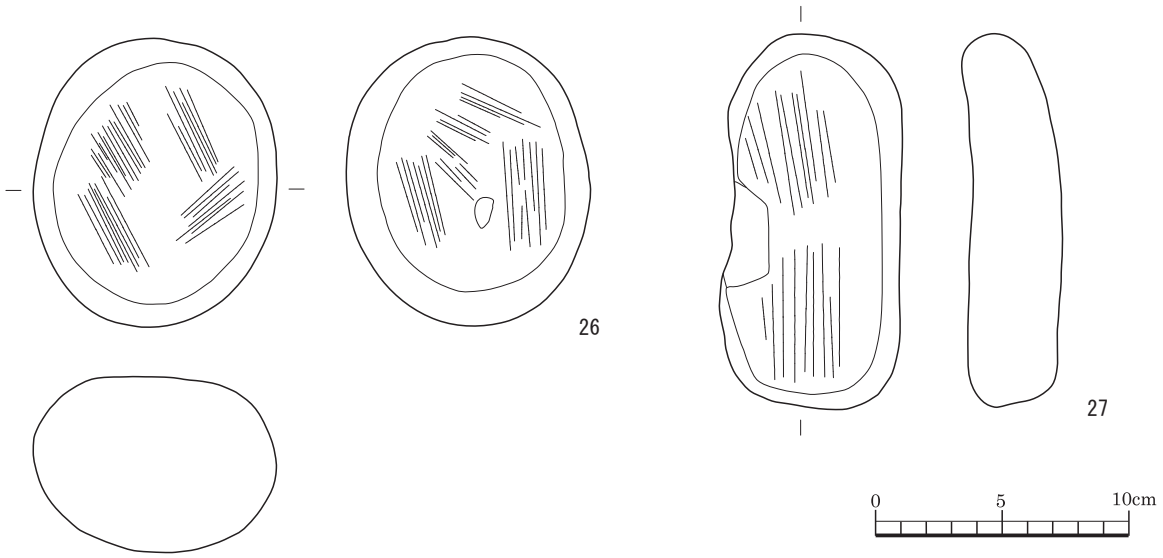


図 150　SB4 出土石器（RQ）実測図

調整はヨコナデ、ケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP564 は製塩土器であり、埋 1、3 層から出土した。口径 10.8cm、器高 9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には石英、角閃石、粗砂が観察される。この製塩土器は、外面調整はナデ、ヘラケズリ、内面調整は工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP565 は製塩土器であり、埋 3 層から出土した。口径 10.9cm、器高 7.8cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この製塩土器は、外面調整はナデ、ケズリ、内面調整は工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP595 は製塩土器であり、埋 5 層から出土した。口径 8.3cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この製塩土器は、外面調整はナデ、内面調整は指頭圧痕、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP566 は鉢であり、埋 2、3 層から出土した。口径 15cm、底径 5.3cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、雲母、赤色粒子、灰色粒子が観察される。この鉢は、外面調整はヨコナデ、ハケメ、ナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP567 は小型壺であり、埋 3 層から出土した。口径 10cm、器高 12.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、雲母、白色粒子、赤色粒子が観察される。この小型壺は、外面調整はミガキ、内面調整はナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP568 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 14.6cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には 1 ～ 2㎜の砂粒を含む長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP569 は甕であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 19.6cm、器高 8.6cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面は橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、ハケメ、ナデ、内面調整は指頭圧痕、ヨコナデ、ケズリにより製作され、焼成は良である。

RP570 は甕であり、埋 1、2、3 層から出土した。口径 18.4cm、器高 15.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、ハケメ、内面調整はヨコナデ、ハケメ、ヘラケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

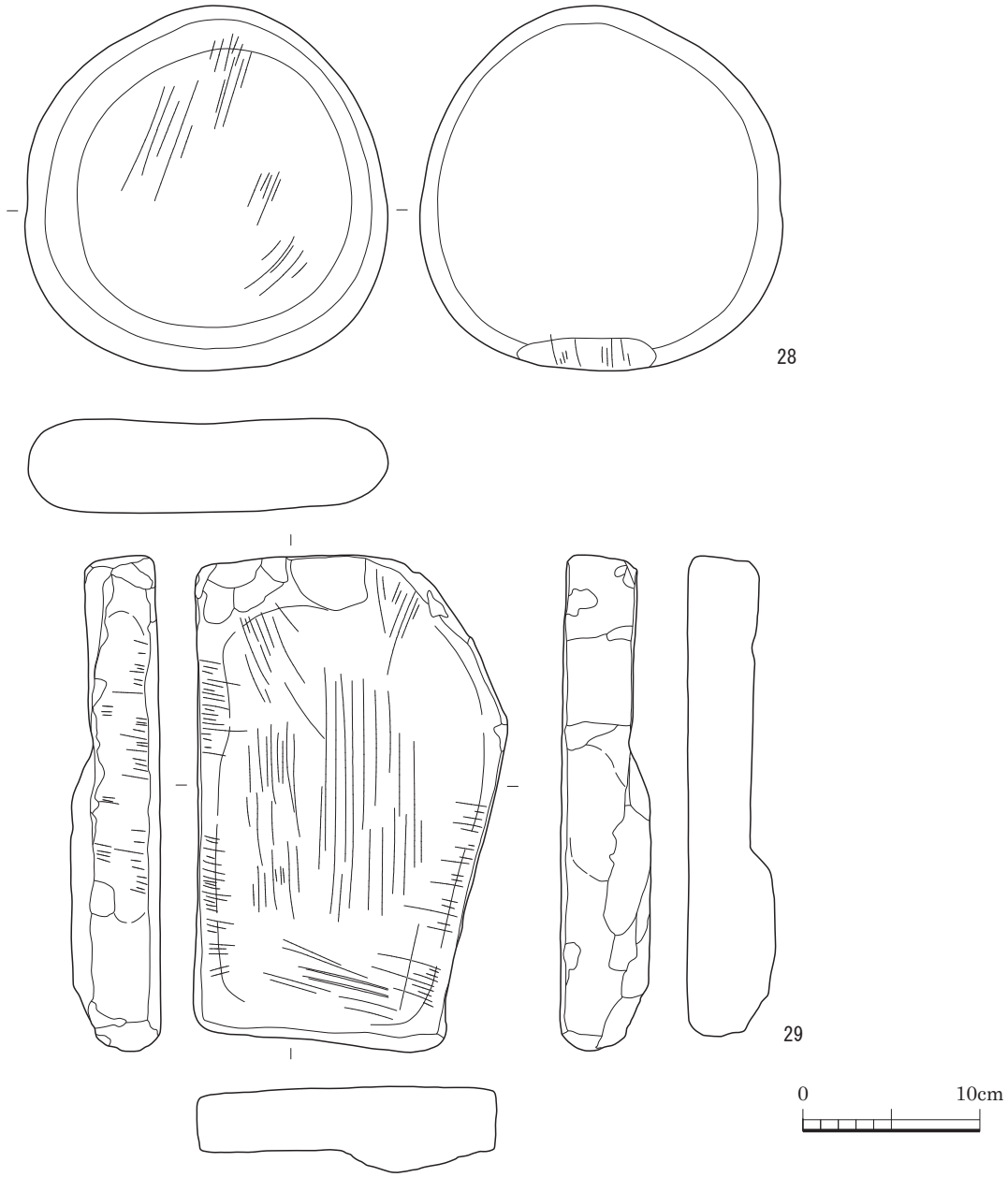


図 151　SB4 出土石器（RQ）実測図

RP571 は甕であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 16.8cm、器高 22.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP572 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。口径 24cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、貼付突帯、キザミ、内面調整はナデ、指オサエ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP573 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。口径 26cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には赤色粒子微量に含むが観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、貼付突帯、キザミ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

図 152　SB4 出土石器（RQ）実測図

RP574 は鉢であり、埋 3 層から出土した。底径 9.2cm、器高 3cm を測る。器面の外面は黄灰、浅黄橙色、内面は褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この鉢は、外面調整はナデ、内面調整もナデにより製作され、焼成は良である。

RP575 は高坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.4cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデによる沈線、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP576 は高坏であり、埋 2 層から出土した。底径 8cm、器高 4cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整も回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP577 は高坏であり、埋 1、3 層から出土した。底径 10.7cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面は青灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、カキメ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP578 はヘラ記号が付された蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 12.9cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP579 はヘラ記号が付された蓋であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 12.2cm、器高 5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP580 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.6cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰黄色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP581 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 2.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好であ

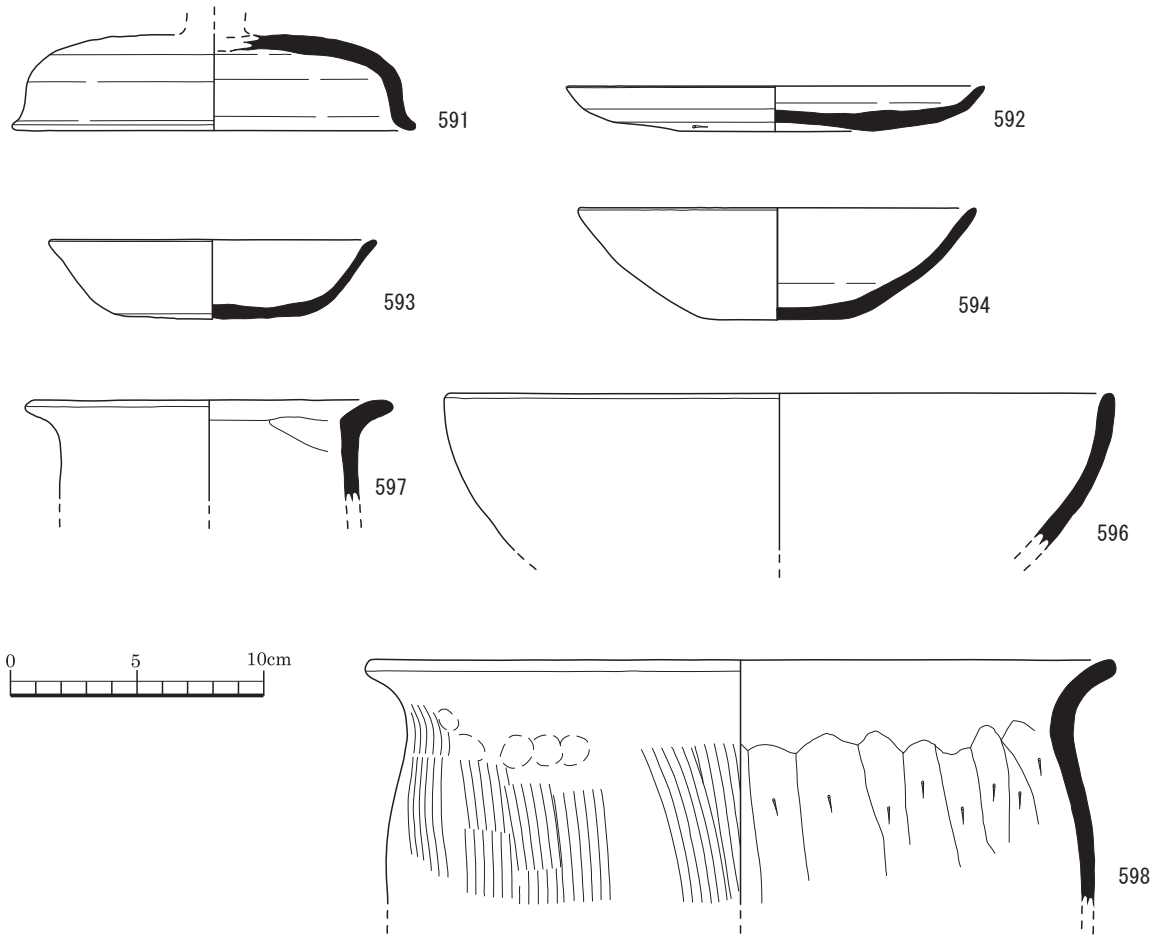


図 153　SK1 出土土器（RP）実測図

る。

RP582 はヘラ記号が付された蓋であり、埋 1 層から出土した。器高 2.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP583 は坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 11.6cm、底径 7cm、器高 5cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面も灰黄色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP584 は坏であり、埋 1、3 層から出土した。口径 11.1cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整も回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP585 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.5cm、底径 5.3cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP586 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.9cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP587 は埦であり、埋 1 層から出土した。底径 9.2cm、器高 2.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内

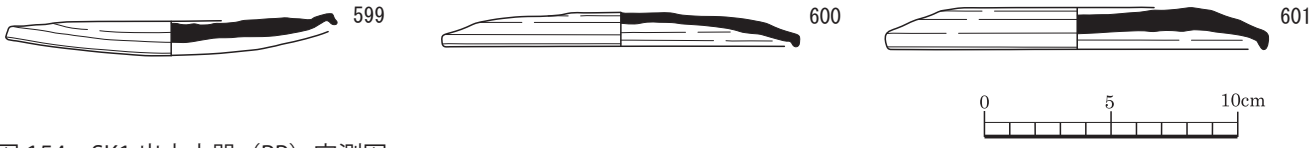


図 154　SK1 出土土器（RP）実測図

面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、ケズリ、ヘラ切り離し、ナデ、高台貼付、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP588 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 3.1cm を測る。器面の外面は灰オリーブ色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP589 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。口径 21.8cm、器高 7.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、タタキ（平行）、内面調整はヨコナデ、当て具痕（同心円状）により製作され、焼成はやや良である。

RP590 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。器高 15.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はタタキ、カキメ、内面調整はヨコナデ、タタキ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

石器は、磨石、台石、砥石が出土した。砥石は、天草砥石（リソイダイト）である。

土壙 1（SK1）

SK1 は長径 1.9m、短径 1.3m、遺構確認面からの深さ 10cm を測り、底面に 2 基の小ピットが複合した土壙である。SK1 は SB4 を切っている。1394 グリッドに位置する。

SK1 では、土師器（RP591 ～ 594、596 ～ 598）、須恵器（RP599 ～ 601）が出土した。

RP591 は蓋である。口径 16cm、底径 13cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子が観察される。この蓋は、外面調整は工具痕、回転ナデ、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP592 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 16.6cm、底径 7.6cm、器高 1.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、褐色粒子、砂粒が観察される。この皿は、外面調整は回転ヘラケズリ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP593 は坏である。口径 13cm、底径 7.8cm、器高 3.15cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、橙、褐灰色、内面は橙、褐灰、赤灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子、角閃石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP594 は坏である。口径 15.7cm、底径 5.8cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、灰白色を呈し、胎土には 1 ～ 3㎜の砂粒を含む、長石、赤色酸化粒子、黒色粒子等が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は工具痕有り、回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP596 は鉢である。口径 26.6cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、灰黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この鉢は、外面は摩耗し、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP597 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 14.6cm、器高 4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、灰色粒子（2 ～ 3㎜程の砂粒を多く含む）が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP598 は甕である。口径 29.8cm、器高 9.8cm を測る。器面の外面は明黄褐、橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子、

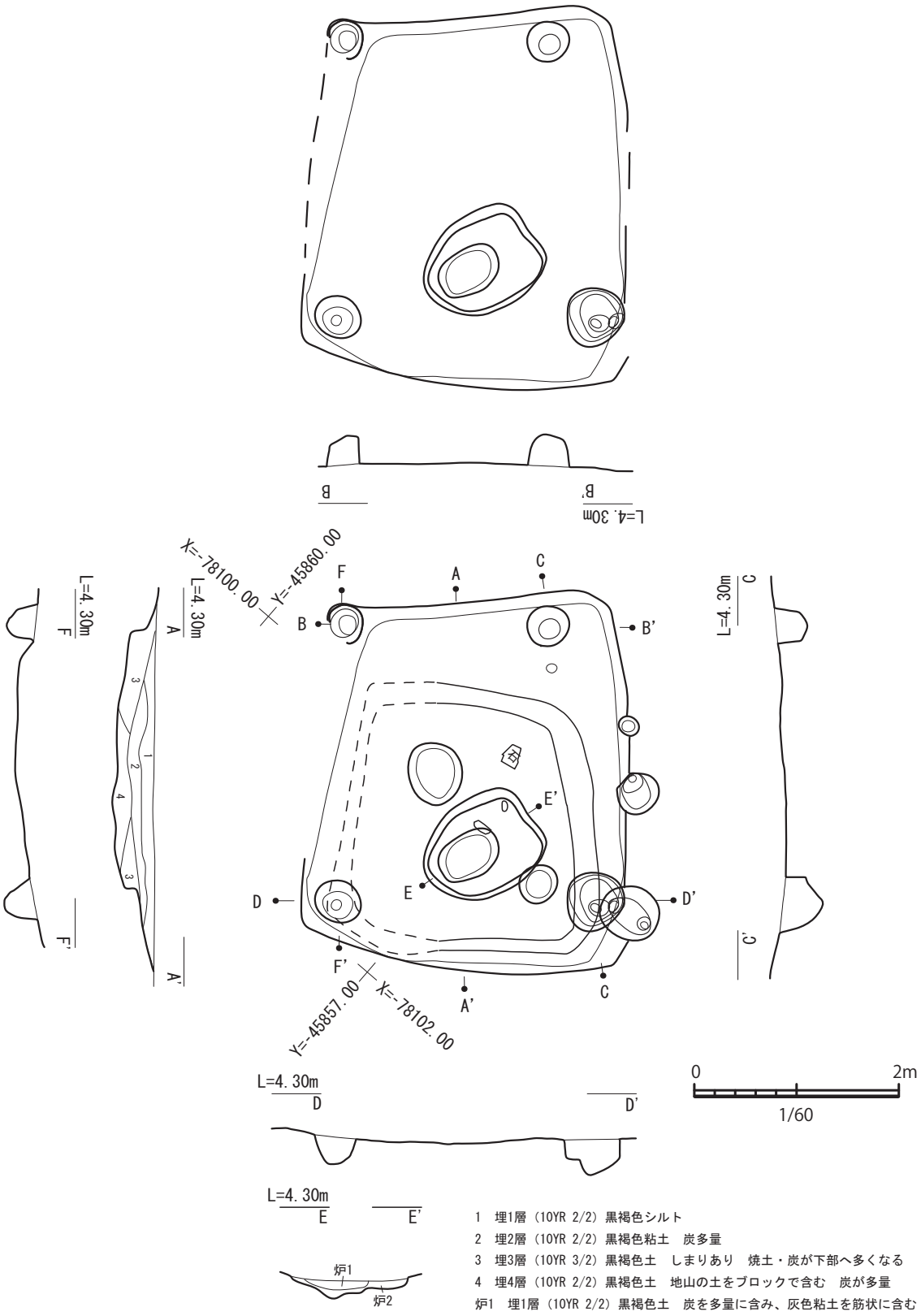


図 155　SB6 実測図（1/60）

雲母が観察される。この甕は、外面調整は指頭圧痕、ハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP599 は蓋である。口径 13.4cm、器高 1.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP600 は蓋である。口径 14.4cm、器高 1.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP601 は蓋である。口径 15.2cm、器高 1.7cm を

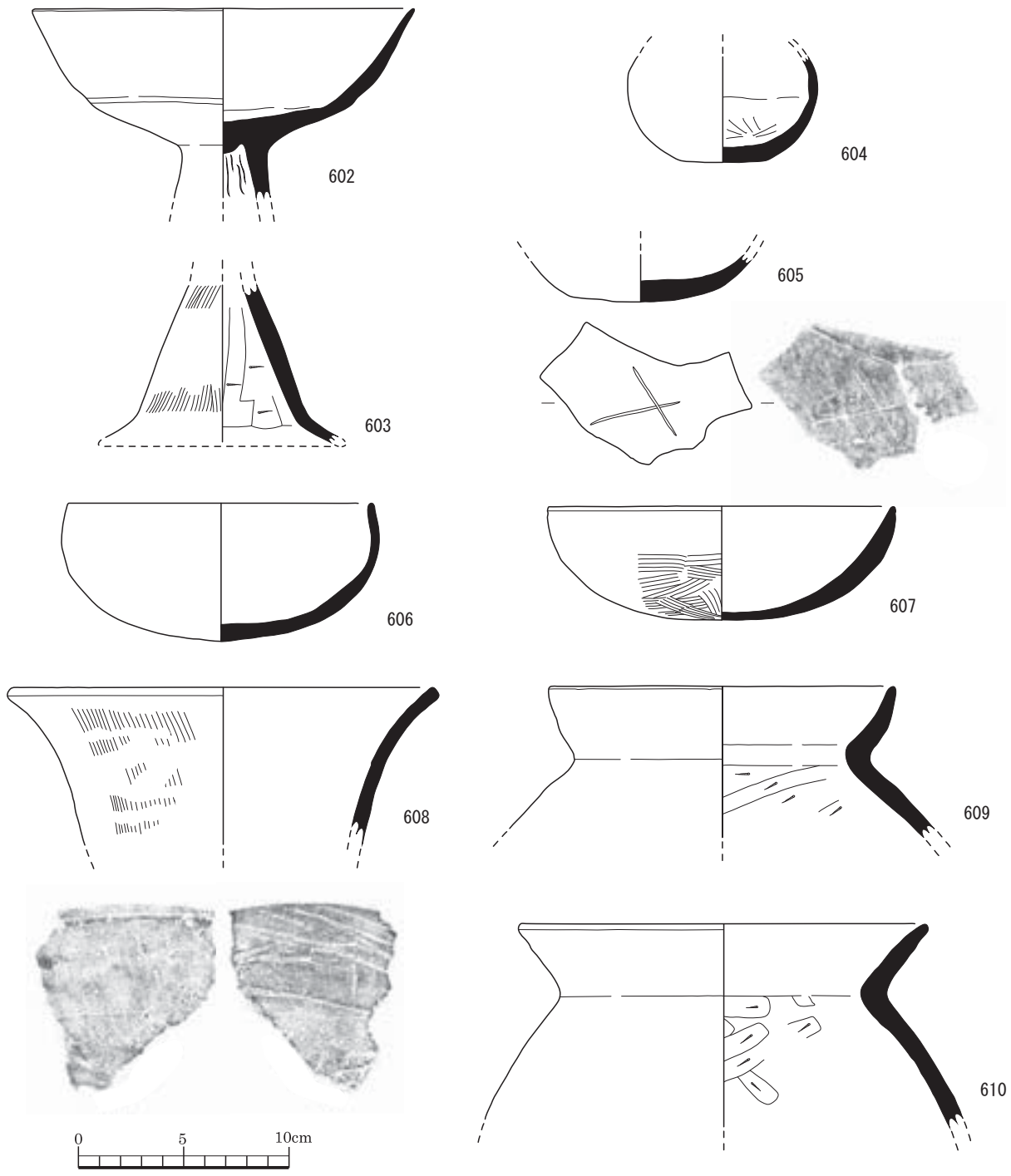


図 156　SB6 出土土器（RP）実測図

測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 6（SB6）

SB6 は、平面が正方形を呈する 4 本柱建ての竪穴住居である。床面の一部が低まり、中心部に炉を備えた竪穴住居である。SB6 は SK5 に切られている。2304 グリッドに位置する。

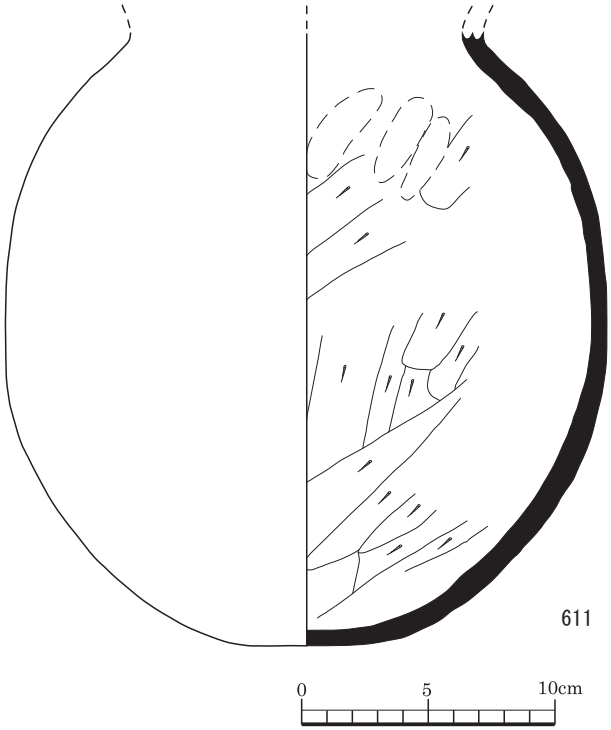


図 157　SB6 出土土器（RP）実測図

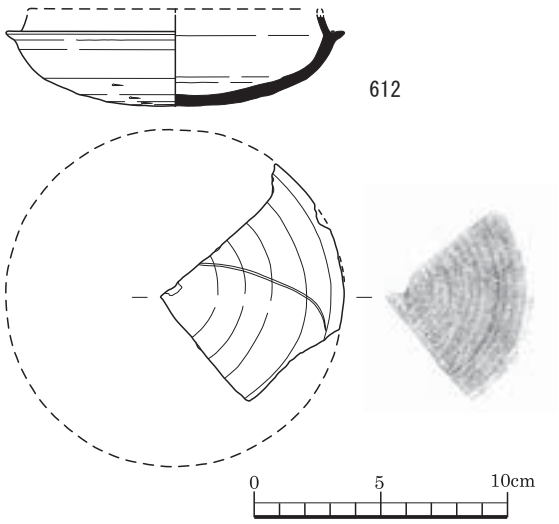


図 158　SB6 出土土器（RP）実測図

SB6 の法量は、南北 3.7m、東西 3.2m、遺構確認面から壁際の床面までの深さ 35cm を測る。住居内には平面が正方形を呈するくぼみ部分があるが、貼り床形成前の掘方と理解している。

主柱穴 4 基は住居の四隅に位置している。その法量は、P267 は直径 40cm の円形、深さ 34cm、P272 は直径 33cm の円形、深さ 30cm、SK34 は直径 35cm の円形、深さ 30cm、SK35 は直径 54cm の円形、深さ 44cm である。

炉は、平面は長方形を呈し、南北 0.9m、東西 1.2m、深さ 15cm を測る。炉底には長径 60㎝の楕円形ピットが複合し、東側にはテラスが備わった形状となっている。炉の周辺には炭、焼土が分布していた。

SB6 では、土師器（RP602 ～ 610）、須恵器（RP611）、石材（RQ）が出土している。

RP602 は高坏であり、埋 1、3、4 層から出土した。口径 18.2cm、器高 9cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP603 は高坏であり、埋 4 層から出土した。器高 7.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には長石、金雲母が観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はヘラケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP604 は壺であり、埋 1 層から出土した。底径 4cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子、白色粒子、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、内面調整は工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP605 は坏であり、埋 2 層から出土した。器高 2.3cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面もにぶい褐色を呈し、胎土には長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヘラ記号、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP606 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 6.6cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面もにぶい褐色を呈し、胎土には石英、長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ヘラケズリ、ナデ、内面調整もヨコナデ、ヘラケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP607 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 16.6cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には微量の礫が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、

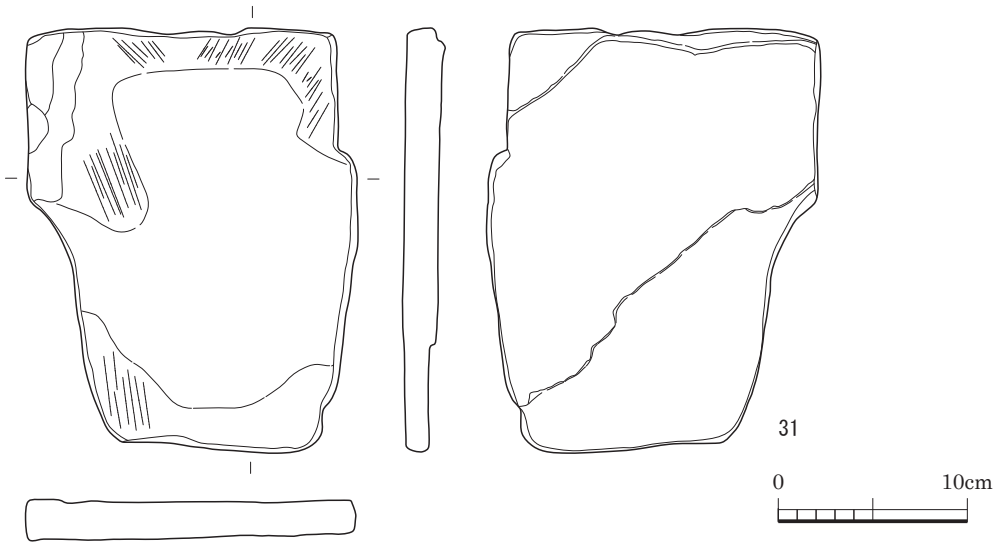


図 159　SB6 出土石器（RQ）実測図

内面調整はナデにより製作され、焼成は良好である。

RP608 は壺であり、炉 SP470 から出土した。口径 20.6cm、器高 7.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には金雲母、白色粒子、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP609 は甕であり、SP470 から出土した。口径 16.4cm、器高 7.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には金雲母、石英、長石が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、ハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP610 は甕であり、埋 3、4 層、炉 SP470 から出土した。口径 19.3cm、器高 9.7cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には金雲母、チャート、石英が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP611 は甕であり、埋 1、2、3 層から出土した。器高 24.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面は黄橙色を呈し、胎土には 1 ～ 3㎜の少量の礫が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP612 は須恵器の坏であり、埋 1 層から出土した。底径 7.7cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。外底部に箆で線がいれられている。

RQ は石棺石材と考えられる板石である。SB6 のほぼ中央、埋 3 層から出土している。

竪穴住居 7（SB7）

SB7 は、平面が長方形を呈する 2 本柱建て竪穴住居である。SB7 は SB16 を切っている。1394 グリッドに位置する。

SB7 は、遺構確認面からの深さが極めて浅い遺構である。黒褐色シルトの長方形プランが東西に長軸、南北に短軸を正しく合致させた状態で検出された遺構である。かろうじて壁面が確認できたのは北西隅のみであり、遺構の平面形は、実測図では菱形に歪んでいるものの、本来は直角の四隅をもつ長方形であった、と考えている。

SB7 の法量は、5.2m × 4.3m、遺構確認面からの深さ 2cm を測る。主柱穴は、西壁中央部に位置する SK18、東壁の外側に位置する土壙と理解している。これらの土壙は直径 0.9 ～ 1.0m の楕円形を呈している。

炉は、検出していない。これは SB7 が遺構確認面

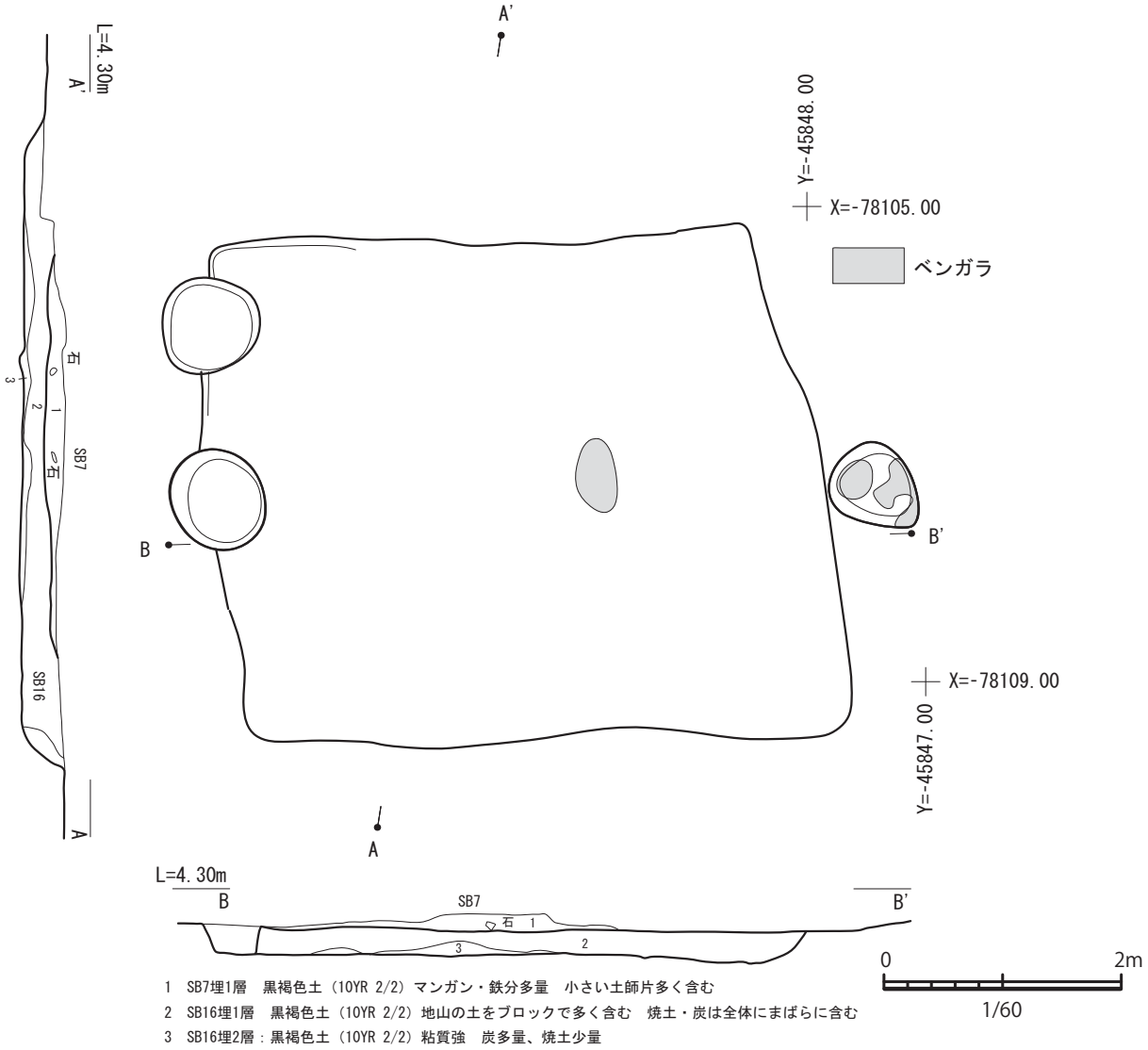


図 160　SB7 実測図（1/60）

からの深度がないためではなく、炉は付帯しない遺構であったためである。

東主柱穴となる土壙、及び遺構の中央付近からは赤色顔料が検出された。2 ブロックの分布が確認された赤色顔料は、遺構の東西方向の中軸上に分布している。この赤色顔料は、肉眼観察の結果、ベンガラである、と考えている。

SB7 では、土師器（RP613 ～ 625）、須恵器（RP626 ～ 638）が出土している。

RP613 は壺であり、埋 1 層から出土した。器高 9.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には白色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP614 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 15.2cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は褐灰、黒色、内面はにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はミガキ、内面調整もミガキにより製作され、焼成は良である。

RP615 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は褐灰色、内面は褐灰、黒色を呈し、胎土には雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ミガキ、内面調整はヨ

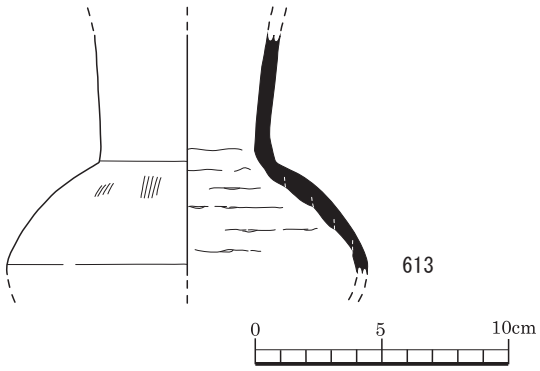


図 161　SB7 出土土器（RP）実測図

コナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP616 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.2cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は赤色、内面も赤色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ハケメ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP617 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、赤色酸化粒が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP618 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は黒色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良である。

RP619 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 14.8cm、器高 7.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP620 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 18.2cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は褐灰、浅黄橙色、内面はにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP621 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 14.8cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP622 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 20.2cm、器高 9.4cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整は輪積痕、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP623 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 12.6cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には金雲母、長石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP624 は甑である。底径 10.6cm、器高 3.3cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面も灰黄褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤色粒子、角閃石が観察される。この甑は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP625 は甑であり、埋 1 層から出土した。口径 18.2cm、底径 9.1cm、器高 18.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面は褐灰、にぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甑は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。頸部に 1 箇所（現状）、胴部下位に対面して 2 箇所の焼成前穿孔がある。

RP626 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。外面に箆で線がいれられている。

RP627 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径

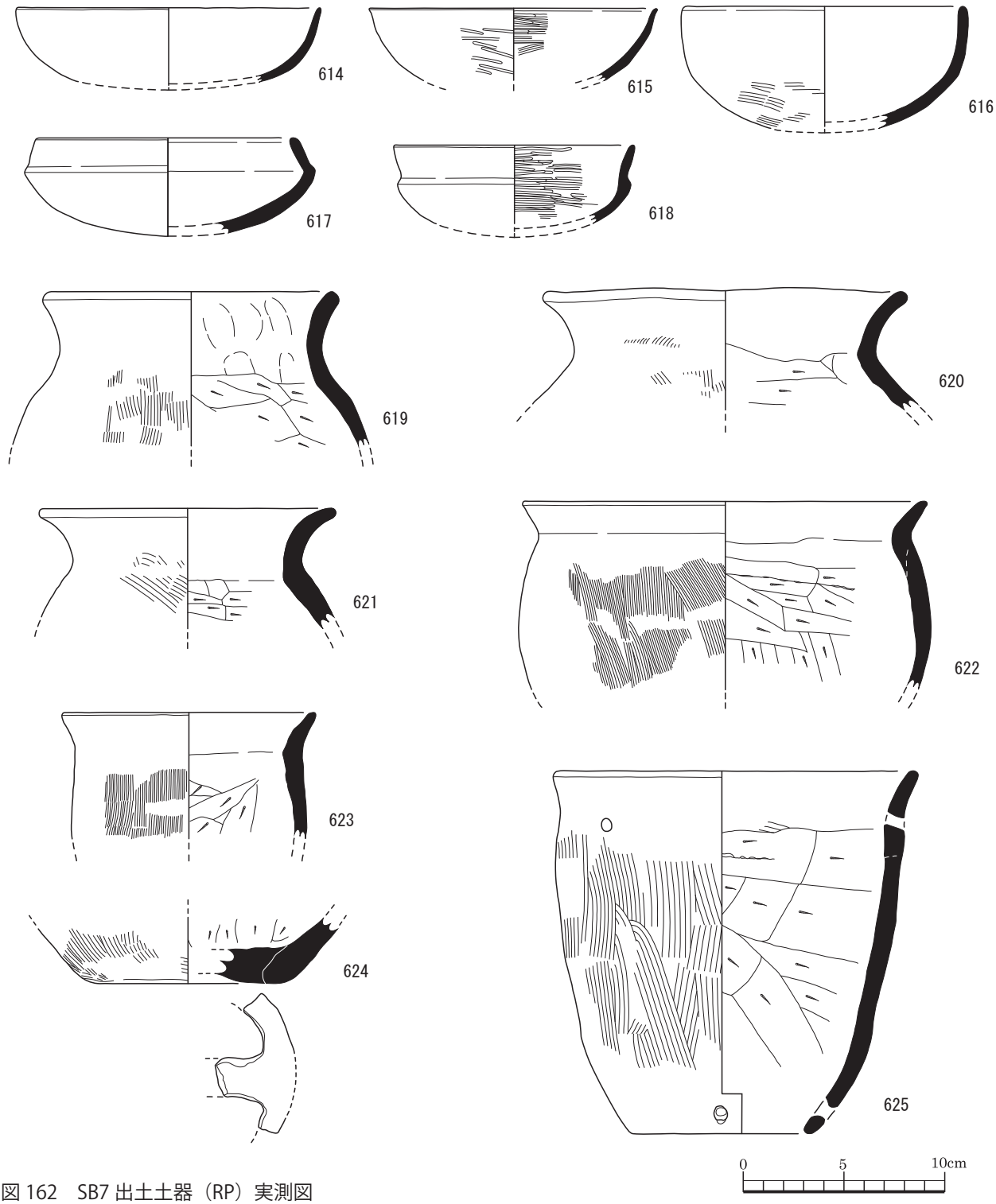


図 162　SB7 出土土器（RP）実測図

14cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP628 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面

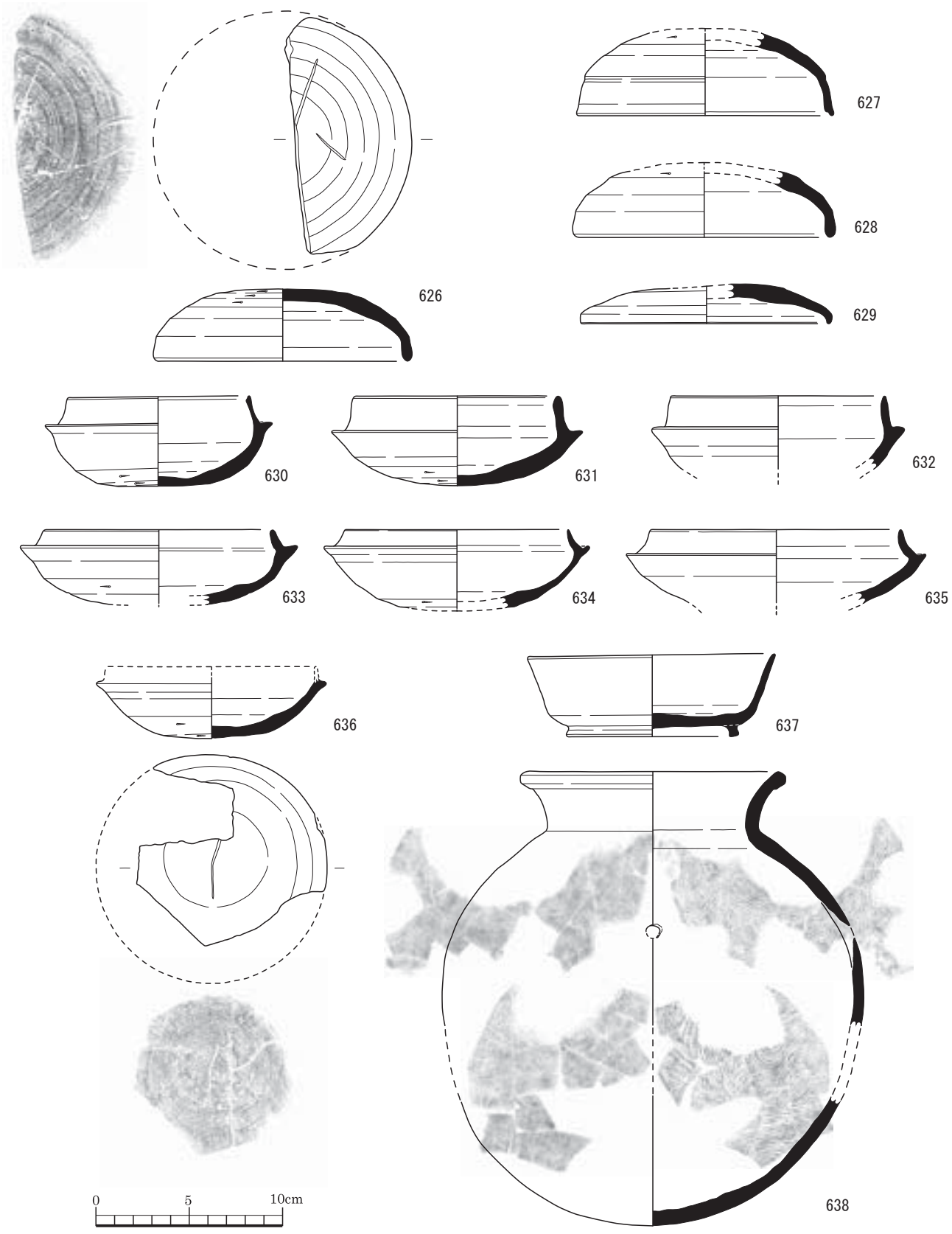


図 163　SB7 出土土器（RP）実測図

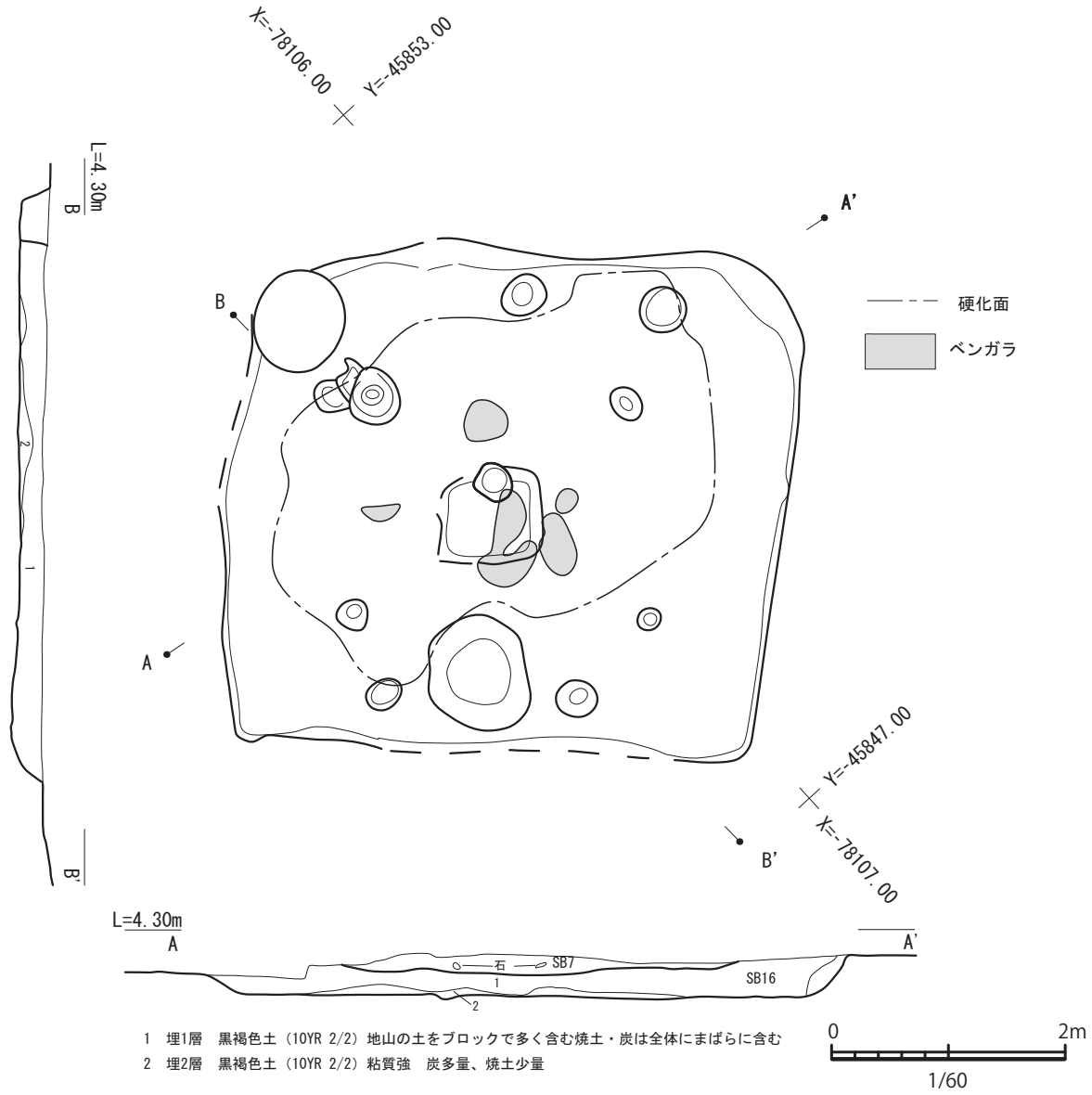


図 164 SB16 実測図（1/60）

調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP629 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.8cm、器高 2.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP630 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 10cm、底径 5.2cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP631 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.3cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP632 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.8cm、器高 4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP633 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.6cm、器高 4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回

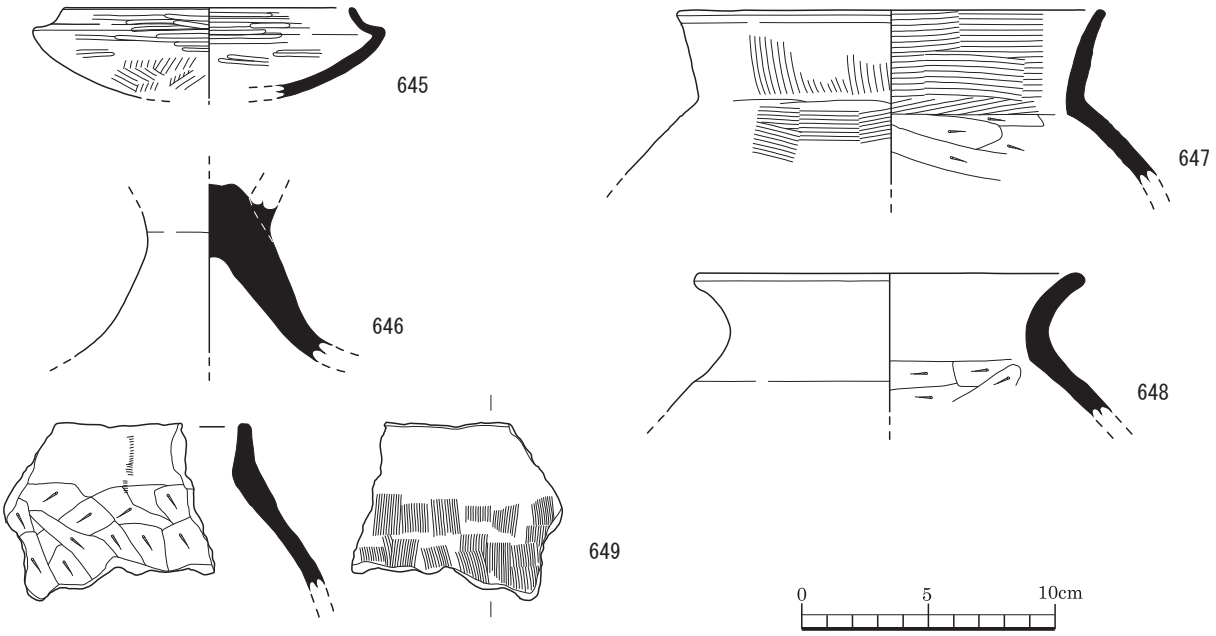


図 165　SB16 出土土器（RP）実測図

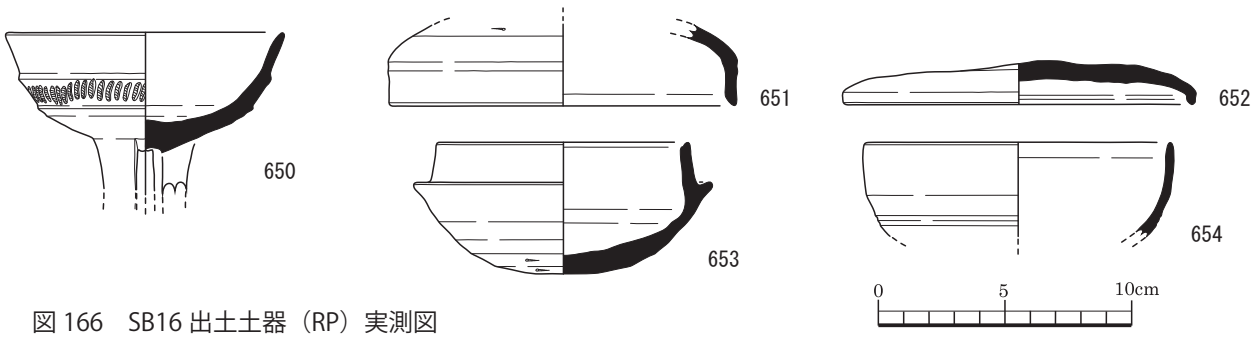


図 166　SB16 出土土器（RP）実測図

転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP634 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.1cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP635 は坏である。口径 13.6cm、器高 4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP636 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 6.4cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP637 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 13.5cm、底径 9.4cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP638 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 16.4cm、器高 28cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はヨコナデ、タタキ、ナデ、内面調整はヨコナデ、当て具痕により製作され、焼成は良である。

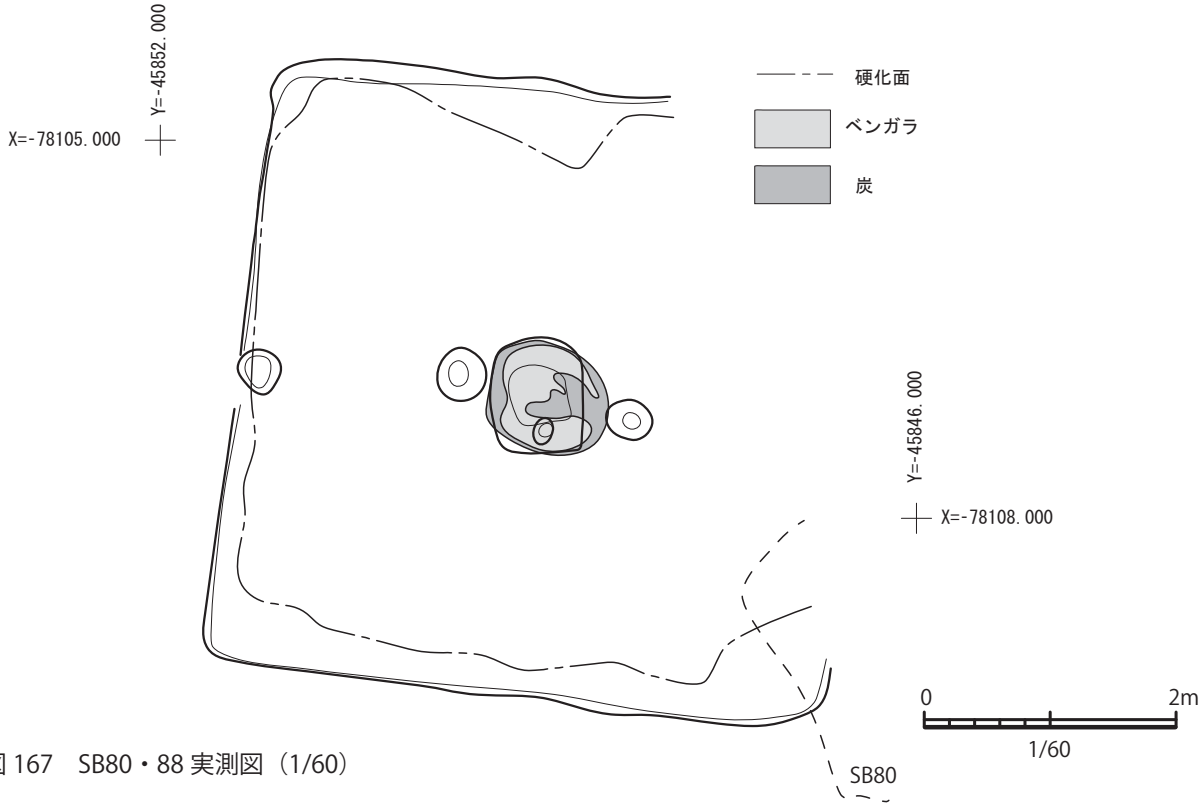


図 167　SB80・88 実測図（1/60）

竪穴住居 16（SB16）

SB16 は、平面が正方形を呈し、炉を備えた 4 本柱建て竪穴住居である。SB16 は SB7 に切られ、SB88 を切っている。1394 グリッドに位置する。

SB16 の法量は 4.3m × 4.8m の正方形を呈し、遺構確認面からの深さ 30cm を測る。

主柱穴は、側壁から 1.2m 程度の内側に位置し、直径 30 ～ 45cm の円形を呈している。

炉は、0.8m × 0.8m の正方形を呈し、側壁に併行し、SB16 の中央に位置している。炉の内部及び周辺には赤色顔料がブロック状に分布していた。この赤色顔料は、肉眼観察の結果、ベンガラと考えている。なお、赤色顔料の分布範囲は、主柱穴の内側（内陣）に限られている。

床には硬化面が形成されている。この硬化面は内陣より 0.6m 程度外側にまで分布しているが、北側壁のみにおいて側壁に接続している。この接続部分の両端にはピットが位置しており、出入口が付設されていた部分、と理解している。

SB16 の炉と南側壁との間には土壙が 1 基確認され、その東西にはピットが各 1 基検出されている。このような付帯設備の在り方は、弥生時代後期に熊本地域の白川流域を中心に展開する K-pit と同様である。

SB16 では、土師器（RP645 ～ 649）、須恵器（RP650 ～ 654）が出土している。

RP645 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.6cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は黒褐色、内面も黒褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、ミガキ、内面調整はナデ、ミガキにより製作され、焼成は良好である。

RP646 は高坏であり、埋 1 層から出土した。器高 6.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、赤褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ミガキ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP647 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17cm、器高 6.9cm を測る。器面の外面は赤褐、暗赤灰色、内面は赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメにより製作され、焼成は良好である。

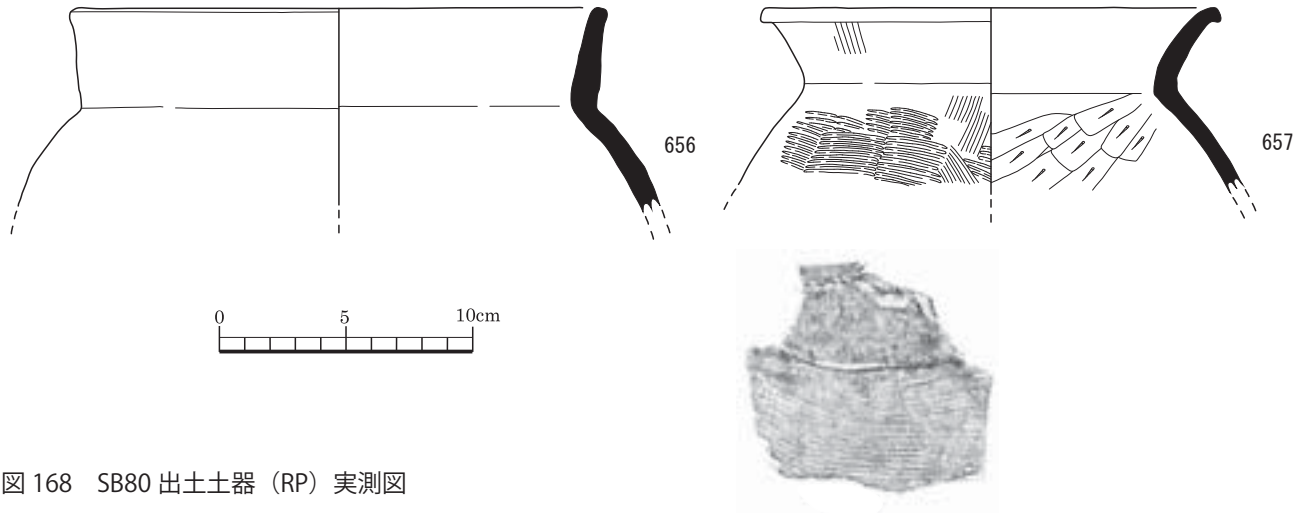


図 168　SB80 出土土器（RP）実測図

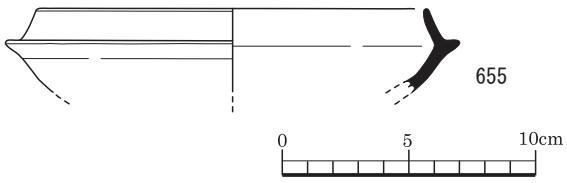


図 169　SB88 出土土器（RP）実測図

RP648 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 15.5cm、器高 5.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、黒褐色、内面はにぶい黄橙、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP649 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 6.6cm を測る。器面の外面は黒褐、にぶい褐色、内面は赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP650 は高坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 10.4cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、カキメ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP651 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP652 は蓋であり、埋 2 層から出土した。口径 14.2cm、器高 1.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP653 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 10.2cm、底径 5.3cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP654 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.4cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ナデによる沈線、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

竪穴住居 88（SB88）

SB88 は、平面が正方形を呈し、炉を備えた柱建て不明の竪穴住居である。SB88 は SB16 に切られ、SB8 を切っている。1395 グリッドに位置する。

SB88 の法量は 5.0m × 5.0m の正方形を呈し、遺構確認面からの深さ 30cm を測る。

主柱穴は、確認できていない。西側壁中央部に主柱穴と考えることができるピットを検出しているが、対

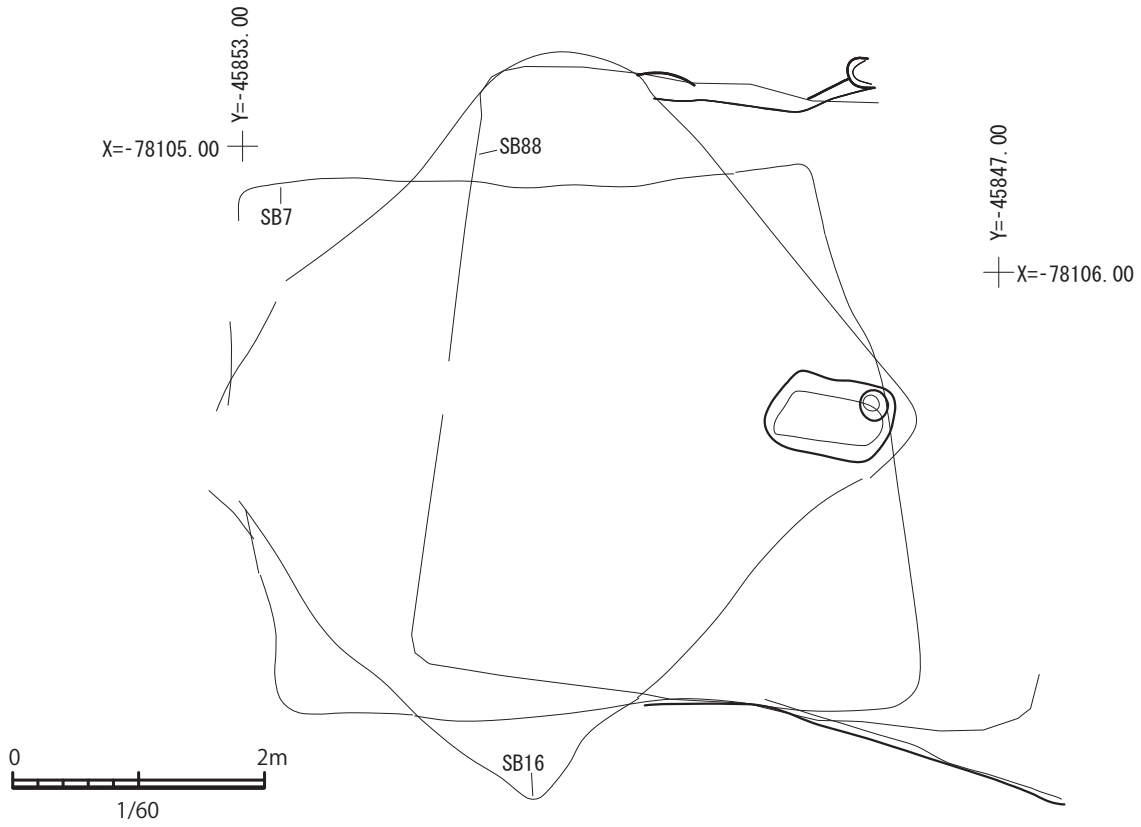


図 170　SB8 実測図（1/60）

置され棟持柱となるピットを確認していないため、未確認とした。

炉は、東西 0.7m ×南北 0.9m の長方形を呈し、側壁に併行し、SB88 の中央に位置している。炉の東西両端には直径 35㎝のピットが付設されており、SB88 の東西方向の中軸上に並んでいる。炉の近辺、西側の炉付設ピットの西には赤色顔料が分布していた。この赤色顔料は、肉眼観察の結果、ベンガラと考えている。

SB88 では、土師器（RP656、657）、須恵器（RP655）が出土している。

RP655 は坏である。口径 15.6cm、器高 3.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP656 は甕である。口径 20.2cm、器高 8cm を測る。器面の外面は明褐灰色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には茶褐色粒、２㎜の石英含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP657 は甕である。口径 18cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には 1 ～ 2㎜の粒子、金雲母、黒雲母含むが観察される。この甕は、外面調整はタタキ、ハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 8（SB8）

SB8 は炉を備えた竪穴住居である。SB8 は SB88 に切られている。1395 グリッドに位置する。

SB8 は、主要部分を SB88 に切られ、他の部分は調査区外にあるため、その形態、法量等の詳細、柱穴等の付帯設備の有無は不明である。ただし、SB88 の炉に切られた炉が 1 基検出されており、おそらくは当該炉が SB8 に付帯するものと推定し、図示した。この炉は長方形を呈し、現地調査では SB8 の北側壁、南側壁と並行して炉壁が切られている、と観察している。

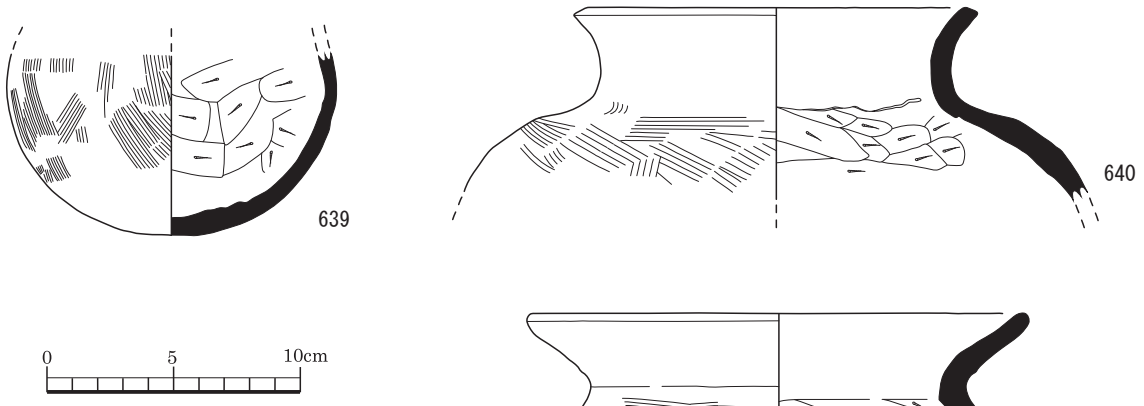


図 171　SB8 出土土器（RP）実測図

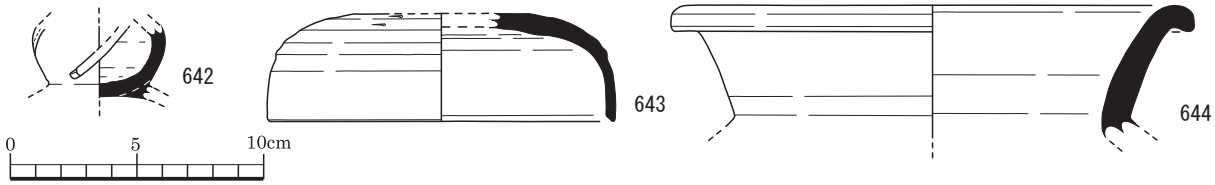


図 172　SB8 出土土器（RP）実測図

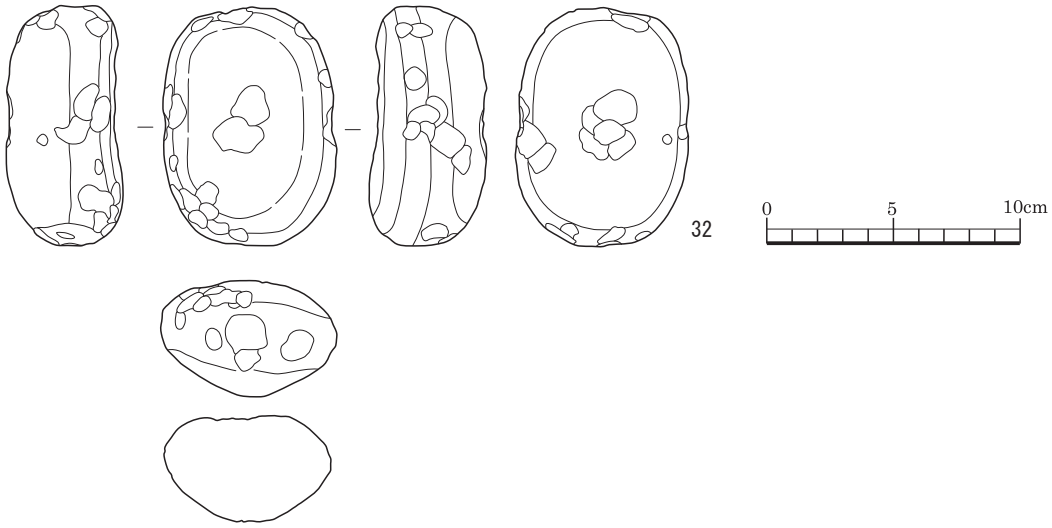


図 173　SB8 出土石器（RQ）実測図

SB8 では、土師器（RP639 ～ 641）、須恵器（RP642 ～ 644）が出土している。

RP639 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 7.2cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には長石、金雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP640 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 16cm、器高 7.6cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐色、内面は灰褐色を呈し、胎土には長石、金雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP641 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径

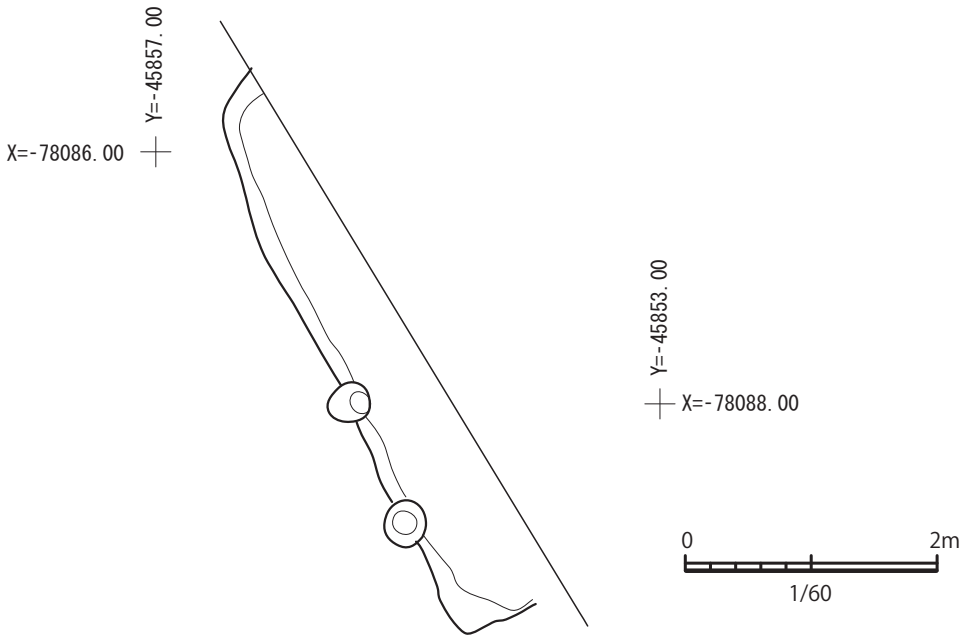


図 174　SB9 実測図（1/60）

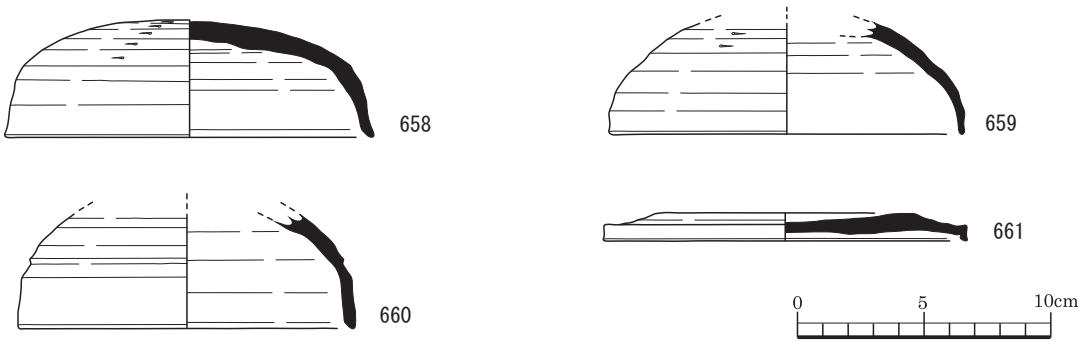


図 175　SB9 出土土器（RP）実測図

20cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP642 は装飾付高坏の一部（鈴部）であり、埋 1 層から出土した。器高 2.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この鈴部は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP643 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

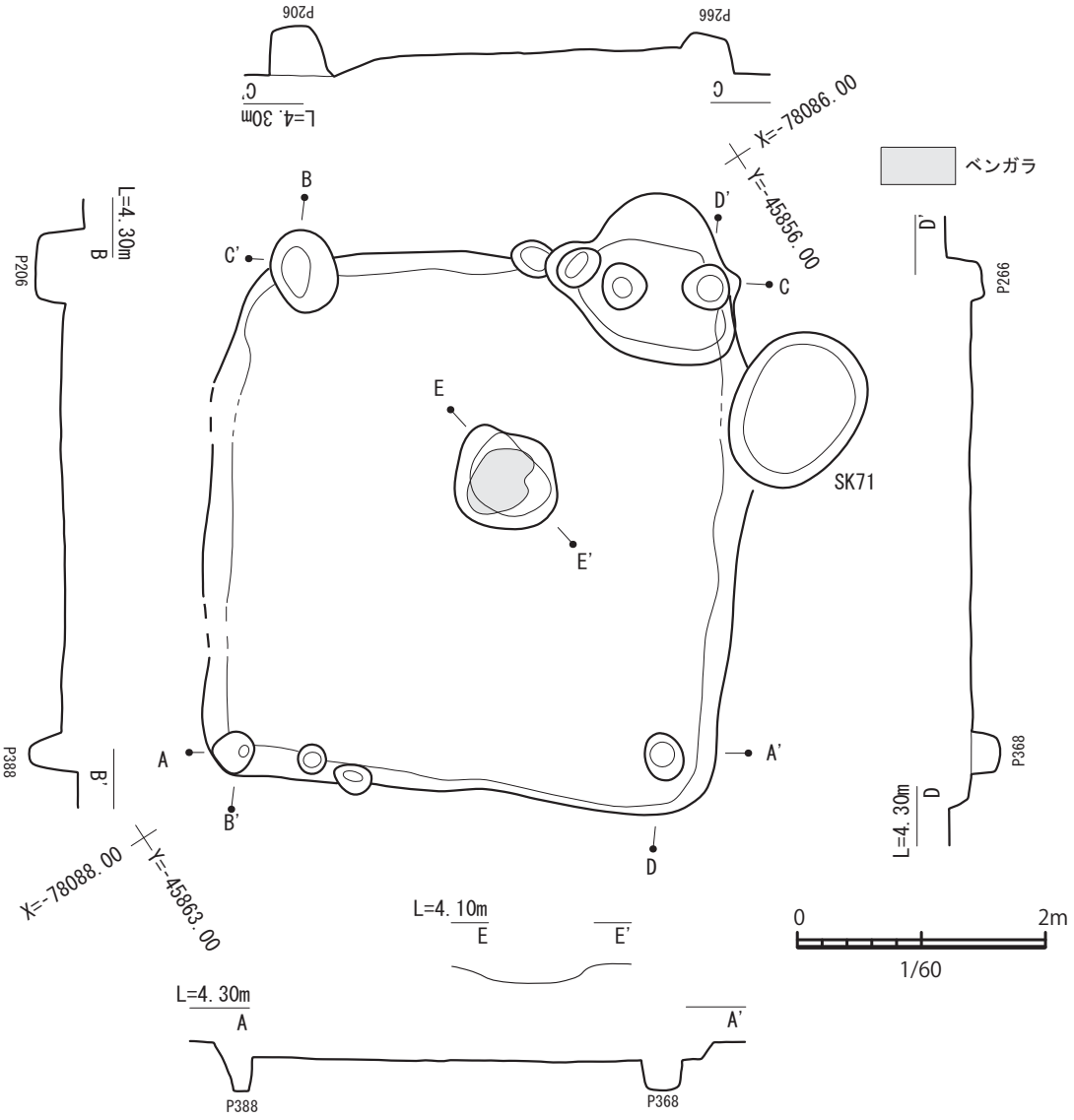
RP644 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 21cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰色、灰オリーブ色、内面は灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

竪穴住居 13（SB13）

SB13 は、平面が正方形を呈する、炉を備えた 4 本柱建て竪穴住居である。2314 グリッドに位置する。

SB13 の法量は 4.3m × 4.3m、遺構確認面からの深さ 24cm を測る。

柱穴は住居の四隅に位置し、直径 30 ～ 60cm、遺構確認面からの深さ 24 ～ 40cm を測る。この他、南側壁では側壁端から約 1m 内側にピットが 2 基、南



1　P368、P388　黒褐色粘質土（10YR 2/2）焼土・炭を少量含む粘質弱
2　P206、P266　暗褐色粘湿土（10YR 3/3）焼土･炭を全体に含む　但し径は小さい　粘質弱　マンガンを含む

図 176　SB13 実測図（1/60）

東隅には 1 基の土壙と 3 基のピットが複合した遺構が、SB13 の付帯設備となるものと考えている。なお、SB13 は東側壁で SK71 に切られている。SK71 は直径 1.0 ～ 1.3m の楕円形を呈する土壙である。

炉は、南北 0.92m、東西 0.9m の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。埋土には焼土、炭のブロックを含む。炉内では赤色顔料の分布が認められた。この赤色顔料は、肉眼観察の結果、ベンガラと考えている。

SB13 では、土師器（RP662、663）、須恵器（RP664 ～ 677）、石器（砥石）が出土している。

RP662 は甕である。器高 2.9cm を測る。器面の外面は褐色、内面も褐色を呈し、胎土には長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はハケメにより製作され、焼成は良好である。

RP663 は甑である。器高 6.7cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、雲母、赤色粒子が観察される。この甑は、外面調整はナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

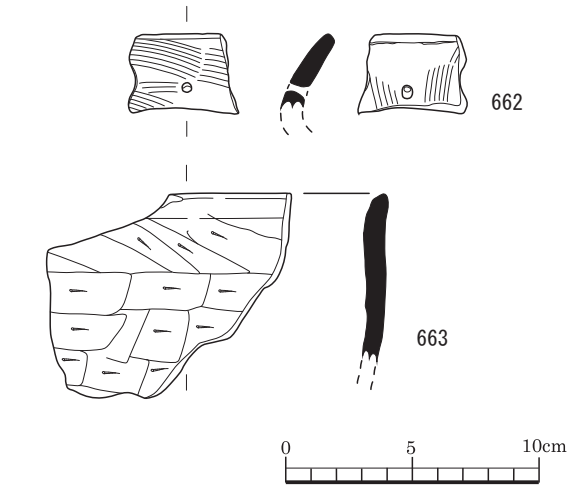


図 177　SB13 出土土器（RP）実測図

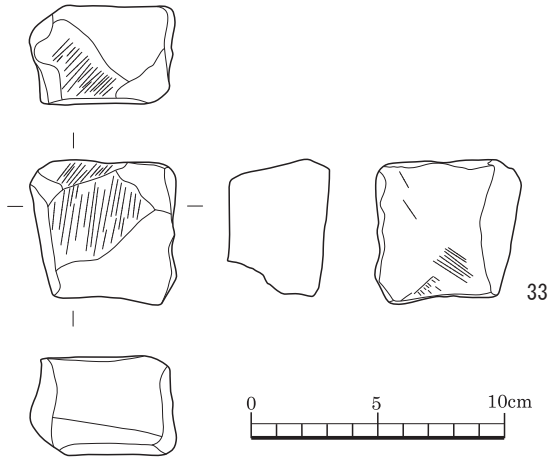


図 178　SB13 出土石器（RQ）実測図

RP664 は坏である。口径 11.2cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP665 は高坏であり、埋 3 層から出土した。器高 4.2cm を測る。器面の外面は灰色､内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、カキメ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP666 は坏である。口径 11cm､器高 4.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、カキメ、ナデによる隆起帯、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP667 は高坏である。器高 5.5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、カキメ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP668 は高坏であり、埋 1 層から出土した。底径 14.2cm、器高 10.7cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、カキメ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP669 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 12.6cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP670 は坏である。口径 12cm、底径 8cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP671 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 12.9cm、底径 5.9cm、器高 4cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面は灰褐色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP672 は皿である。口径 14cm、底径 10.8cm、器高 2cm を測る。器面の外面は灰色､内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP673 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 10.6cm、底径 6.3cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP674 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径

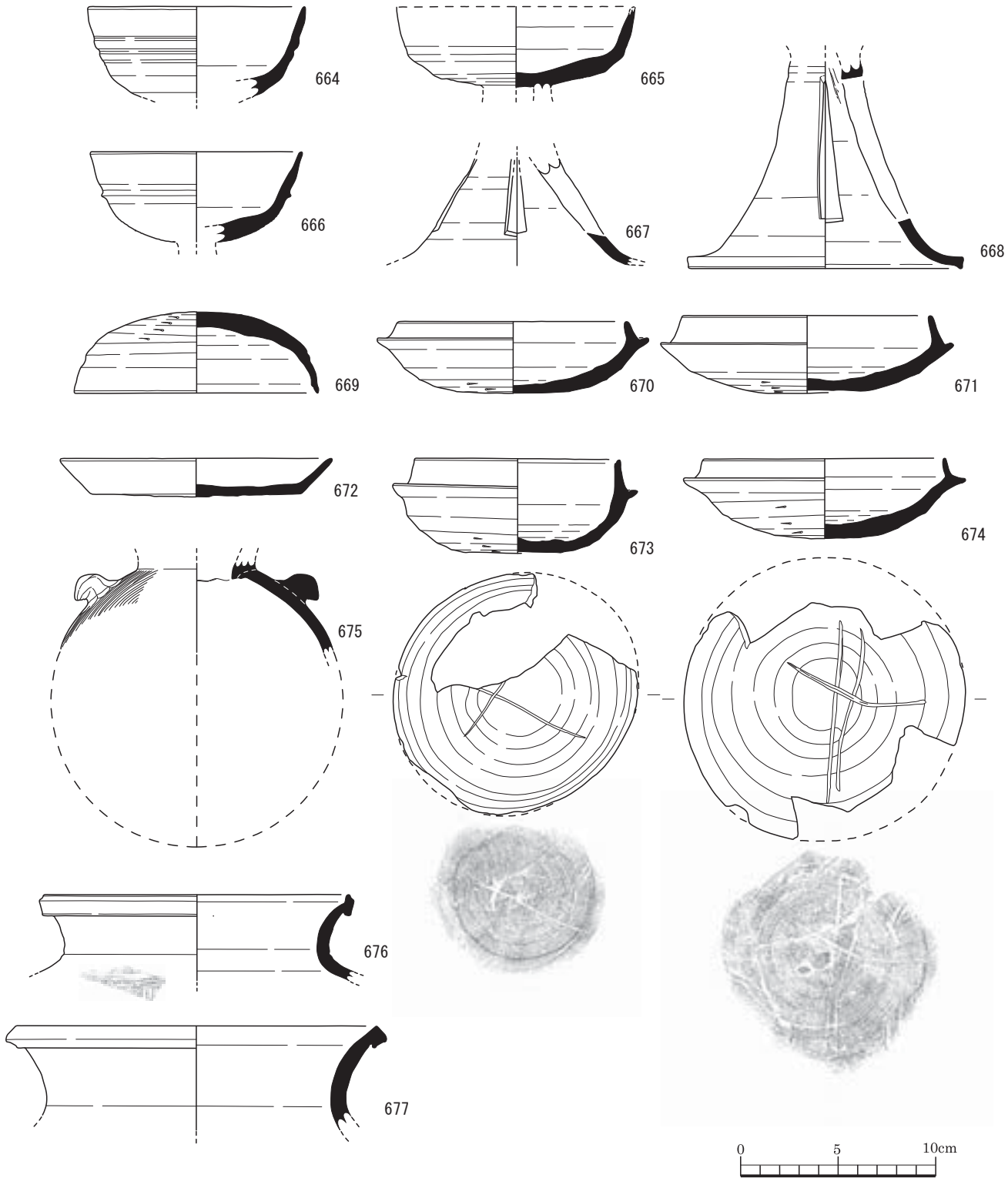


図 179　SB13 出土土器（RP）実測図

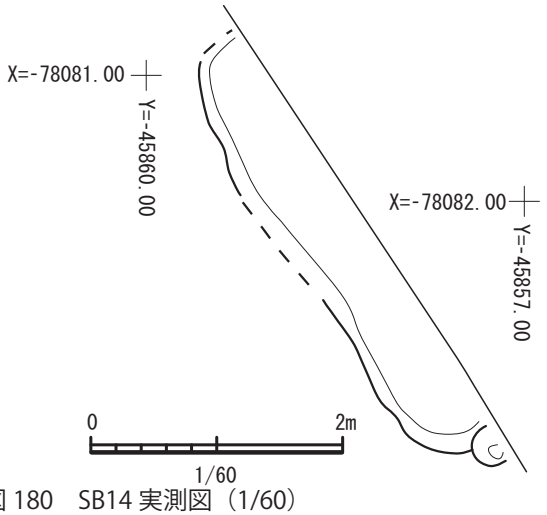


図 180　SB14 実測図（1/60）

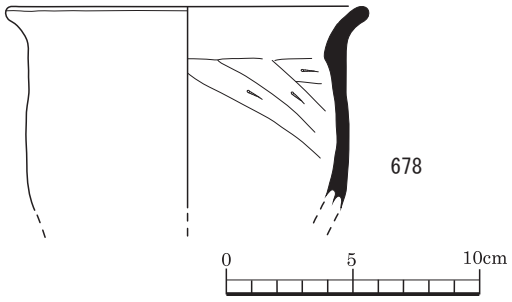


図 181　SB14 出土土器（RP）実測図

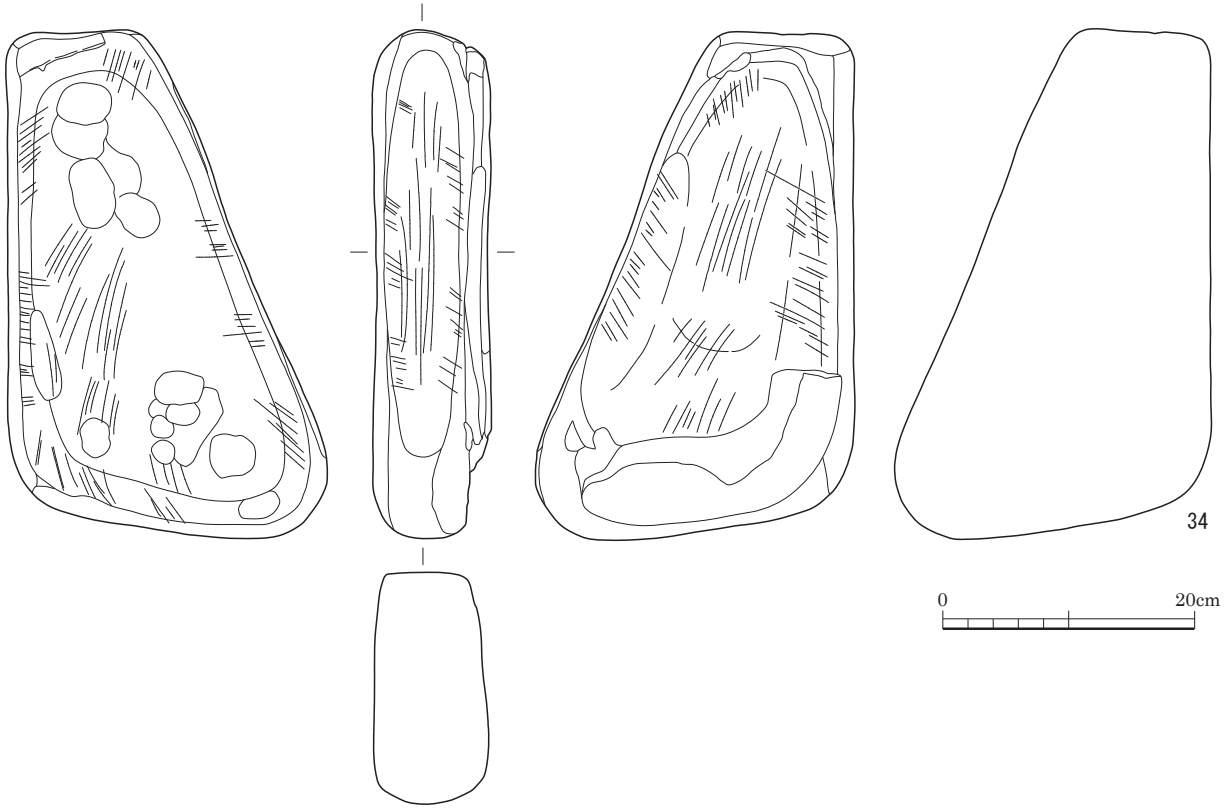


図 182　SB14 出土石器（RQ）実測図

12.5cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP675 は提瓶である。器高 4.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この提瓶は、外面調整は回転ナデ、カキメ、把手貼付、ナデ、内面調整は回転ナデ、指オサエにより製作され、焼成は良好である。

RP676 は甕である。口径 22.1cm、器高 6cm を測る。器面の外面は灰、暗灰色、内面は灰、暗灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、カキメ、タタキ（格子状）、内面調整は回転ナデ、ヘラナデにより製作され、焼成は良好である。

RP677 は甕である。口径 19.7cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、ハケメまたはタタキ、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

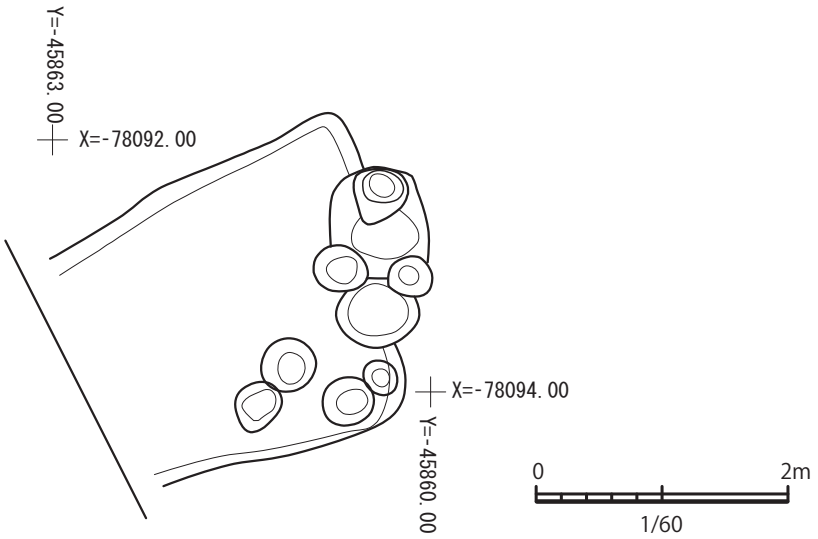


図 183　SB15 実測図（1/60）

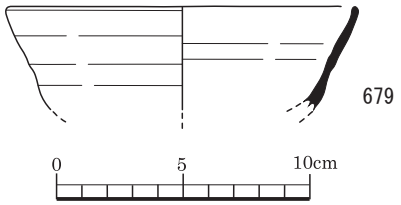


図 184　SB15 出土土器（RP）実測図

竪穴住居 14（SB14）

SB14 は、西側壁の一部を確認しただけであり、詳細不明の遺構である。2314 グリッドに位置する

SB14 では、土師器、石器（砥石）が出土している。

RP678 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 8cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 15（SB15）

SB15 は、東側の一部を確認しただけであり、詳細不明の遺構である。西側は調査区外へ延びているが確認できていない。2314 グリッドに位置する。

SB15 の法量は南北 2.0 m×東西 2.6 m以上、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

SB15 では須恵器が出土している。

RP679 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 83（SB83）

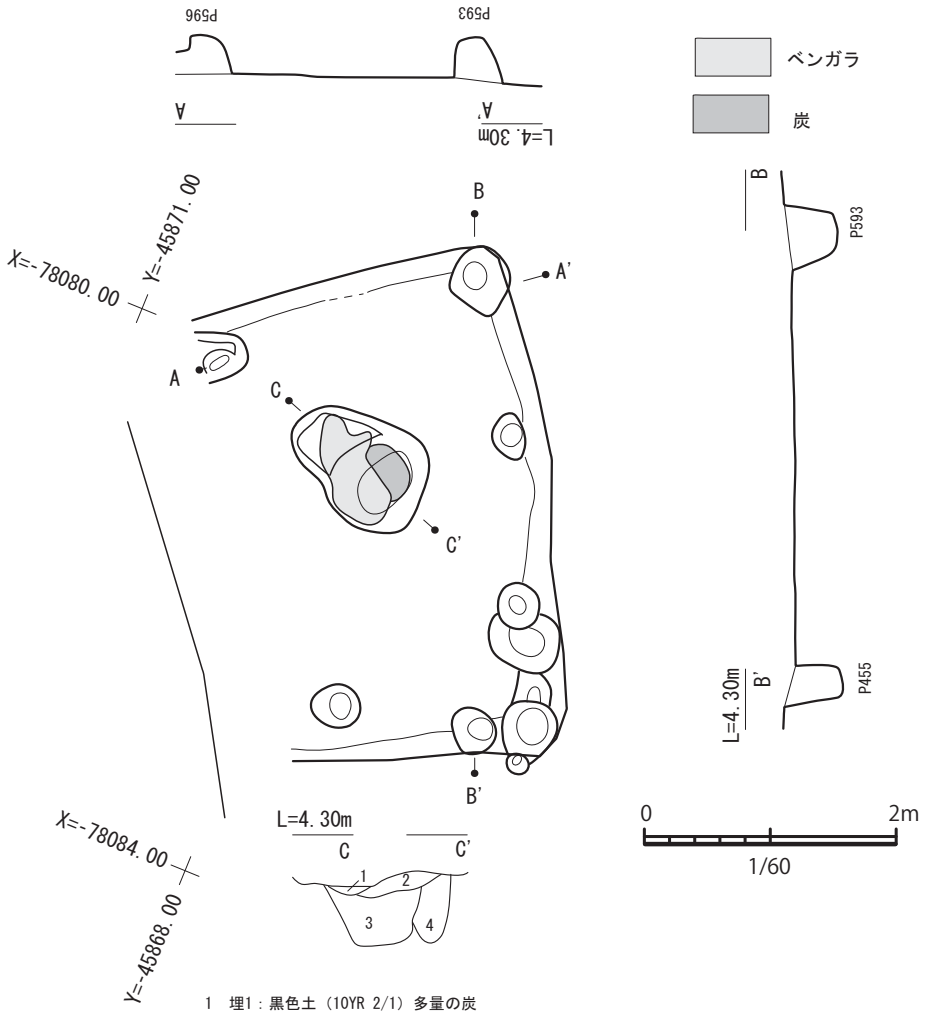
SB83 は、東半部を確認しただけのため詳細不明であるが、炉を備えた竪穴住居である。2313 グリッドに位置する。

主柱穴は、住居の四隅に 2 基を確認しているが、北西に 1 基、主柱穴と考えてよいピットを確認しており、さらに増加して 4 本又は 6 本の柱建てとなるものと考えている。柱穴は円形を呈し、直径 30 ～ 50cm、遺構確認面からの深さ 40cm を測る。

炉は、楕円形の炉の北西部にテラスが付設され、住居の中央に位置する。炉の法量は南北 0.83m、東西 1.2m、遺構確認面からの深さ 55cm を測る。炉内には、炭とともに赤色顔料がブロック状に分布していた。この赤色顔料のブロックは、しまり具合が高く、硬く敷き詰められた状態であった。赤色顔料は、肉眼観察の結果、ベンガラであると考えている。

SB83 では、土師器（RP680、681）、須恵器（RP682 ～ 685）、石器（凹部付磨石 2 点）が出土している。

RP680 は甕である。口径 15.6cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は橙、灰褐色、内面は橙色を呈し、



1　埋1：黒色土（10YR 2/1）多量の炭
2　埋2：暗赤褐色土（5YR 3/6）ベンガラ　固くしまっている
3　埋3：黒褐色土（10YR 3/2）炭をブロックで含む、焼土少量
4　埋4（p599）：暗褐色土（10YR 3/3）炭少量、しまった土

図 185　SB83 実測図（1/60）

胎土には長石、石英、雲母、角閃石、茶褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP681 は甕であり、埋 1 層、SP4603 から出土した。口径 14.2cm、底径 6cm、器高 17.95cm を測る。器面の外面は明赤褐、黒褐色、内面は明赤褐、灰褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP682 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.8cm、器高 5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP683 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 5.4cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP684 は器台であり、3 層から出土した。器高

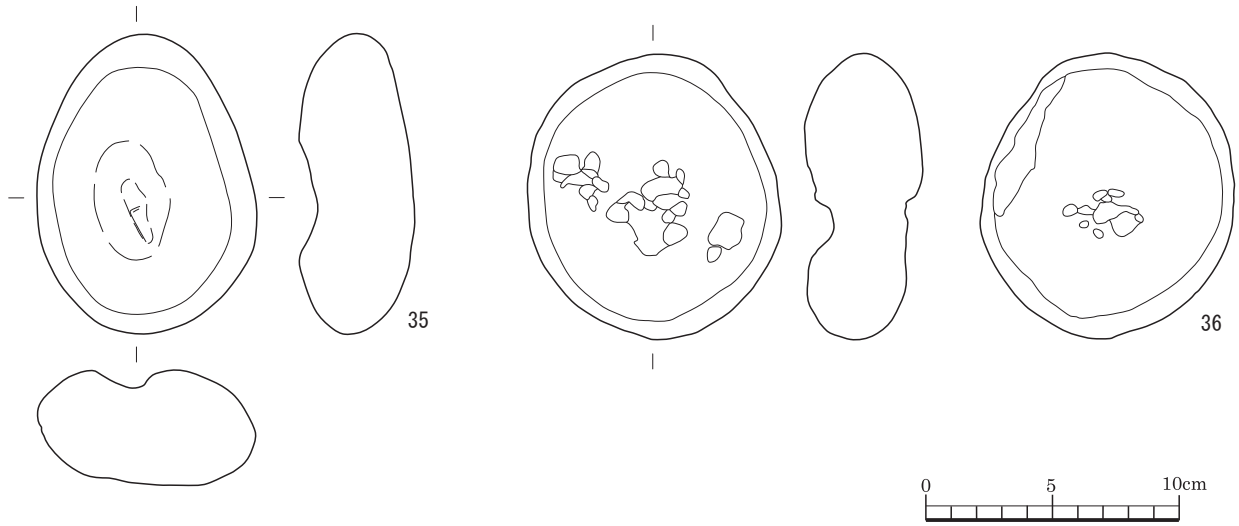


図 186　SB83 出土石器（RQ）実測図

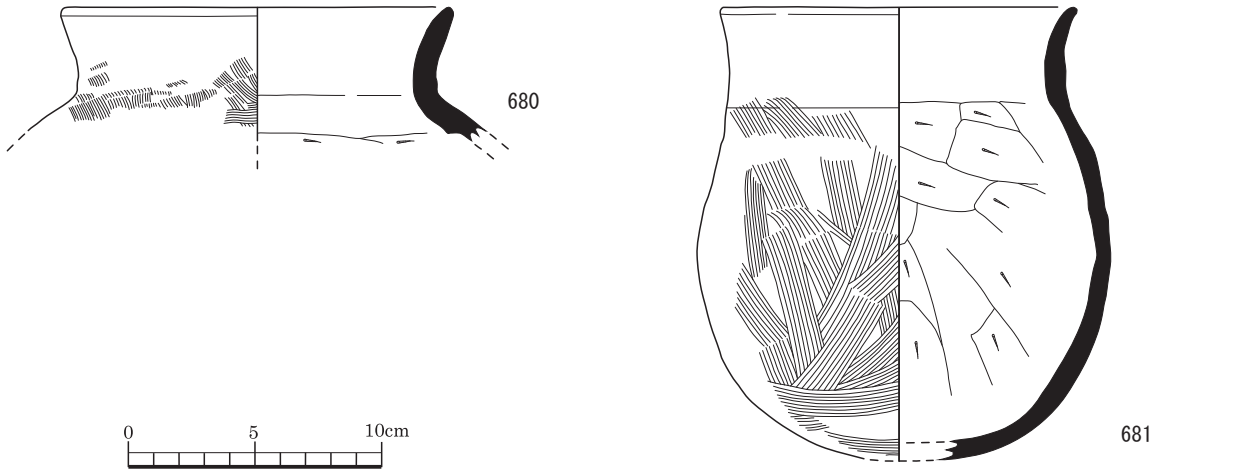


図 187　SB83 出土土器（RP）実測図

14.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この器台は、外面調整は回転ナデ、カキメ、櫛描波状文、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP685 は壺であり、埋 1、3 層から出土した。器高 44.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整はヨコナデ、タタキ（格子状）、カキメ、内面調整はヨコナデ、当て具痕により製作され、焼成は良好である。

竪穴住居 84（SB84）

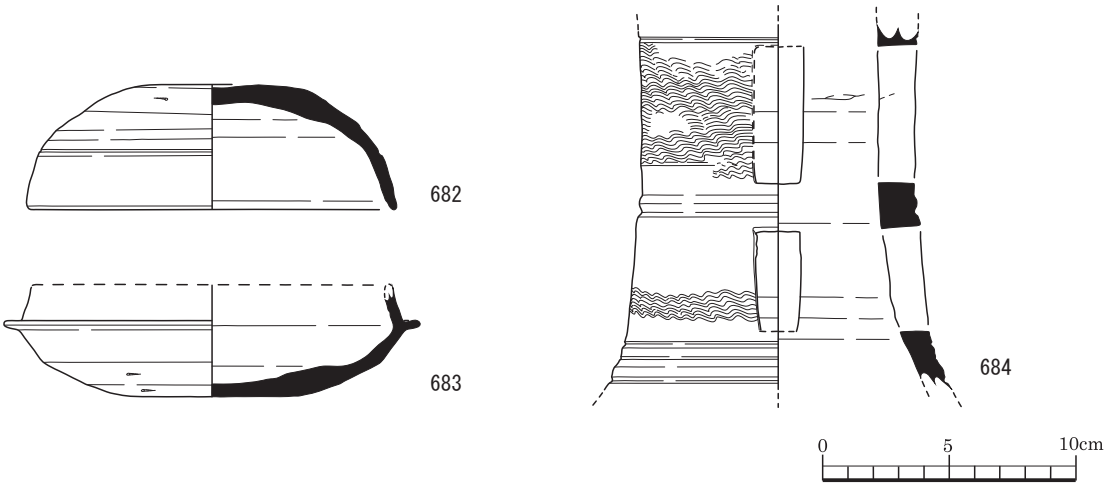
SB84 は、東半部を確認しただけであるため詳細不明であるが、炉を備えた竪穴住居である。SB84 は SB85 を切っている。1384 グリッドに位置する。

SB84 は、南北 4.4m ×東西 2.0m 以上の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

炉は、住居の中央に位置した円形土壙で、直径 80cm、深さは 5cm を測る。

SB84 では、土師器（RP686 ～ 688）、須恵器（RP689）、須恵器破片を加工した紡錘車（RP690）が出土している。

RP686 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 14.2cm、器高 15.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、金雲母が観察される。この甕は、外面調整は指オサエ、ヨコナデ、内面



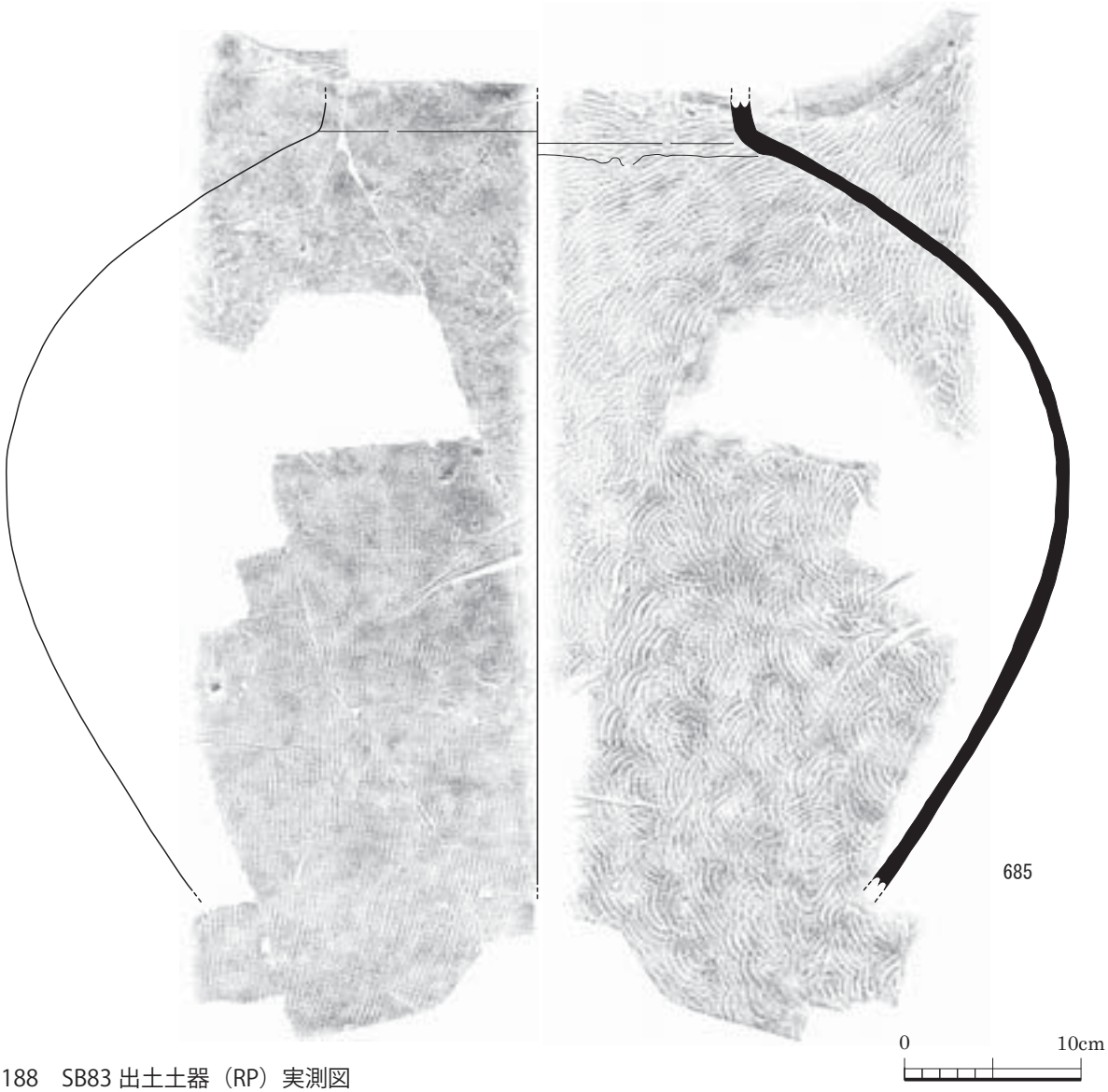


図 188　SB83 出土土器（RP）実測図

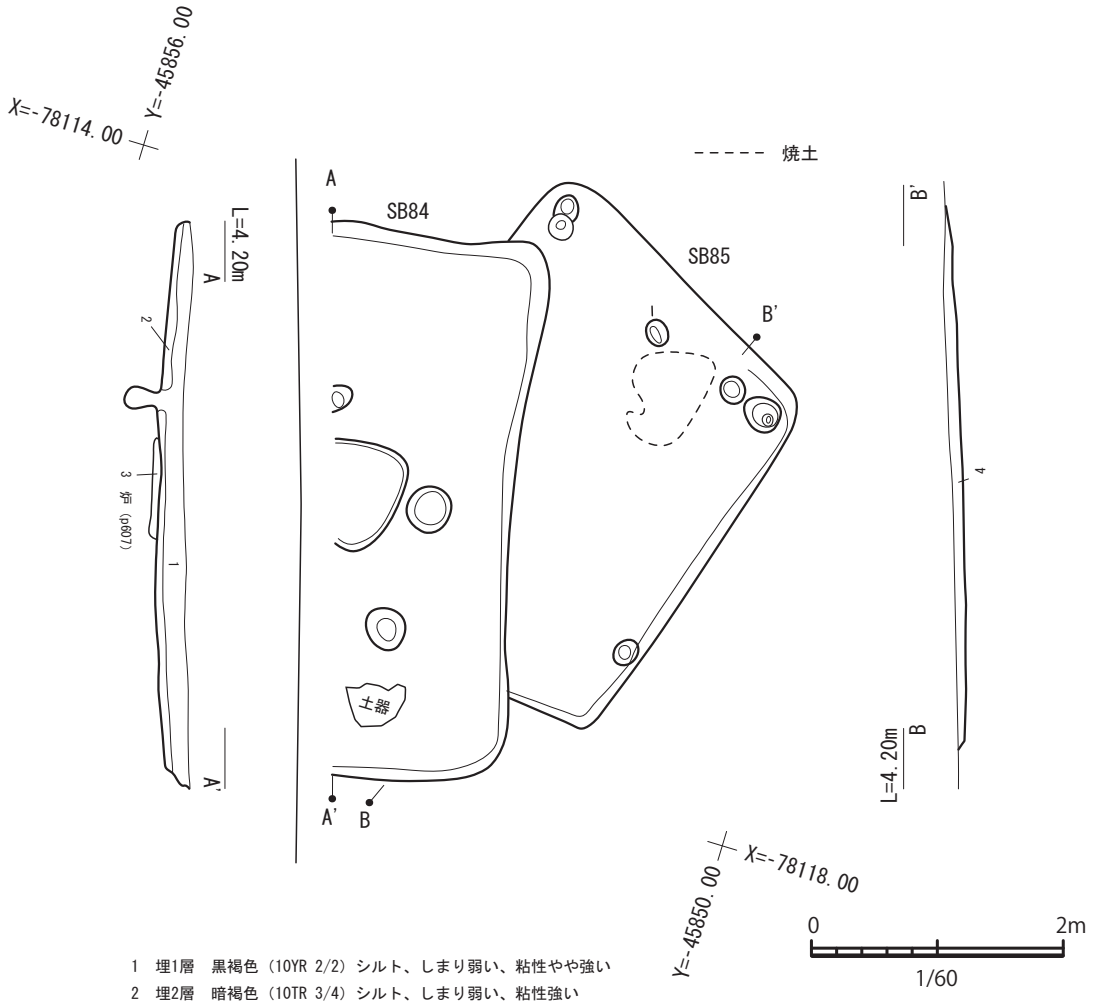


図 189　SB84・85 実測図（1/60）

調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP687 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 19cm、器高 7cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄橙、褐灰、黒褐色、内面は橙、にぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP688 は甕であり、埋 1、4、5 層から出土した。口径 20.2cm、器高 7.6cm を測る。器面の外面は明赤褐、にぶい赤褐色、内面も明赤褐、にぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP689 は甑であり、埋 3 層から出土した。器高 6.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甑は、外面調整は回転ナデ、タタキ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP690 は紡錘車である。全長 4.2 cm、幅 4.5 cm、厚さ 0.6 cm、重さ 11.9 g を測る。

竪穴住居 85（SB85）

SB85 は、平面方形を呈する 4 本柱建ての竪穴住居である。SB85 は SB84 に切られている。1384 グリ

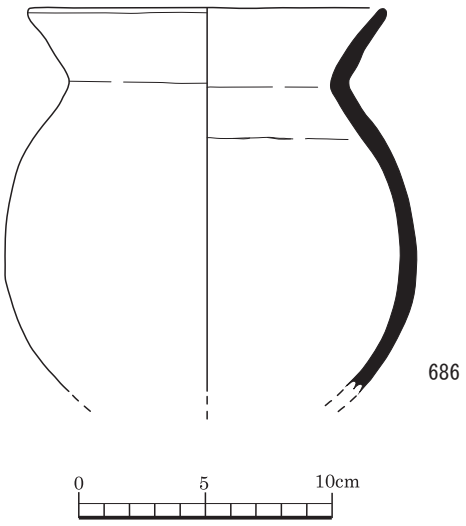
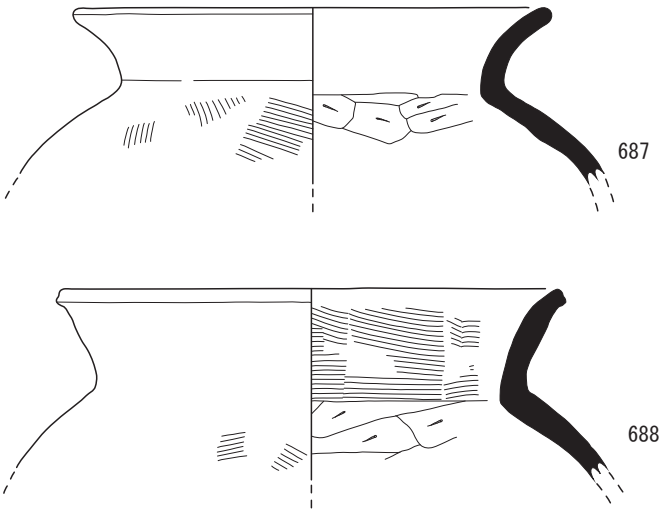


図 190　SB84 出土土器（RP）実測図



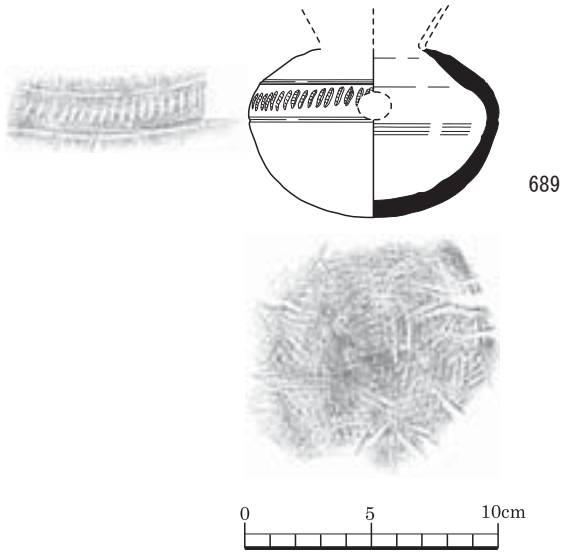


図 191　SB84 出土土器（RP）実測図

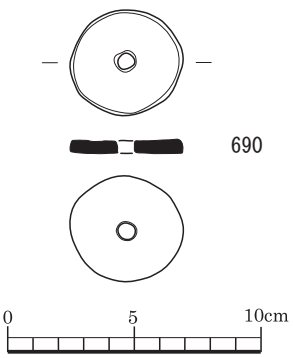


図 192　SB84 出土土製品（RP）実測図

ッドに位置する。

SB85 の法量は、3.4m × 2.7m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

主柱穴は、東西側壁際に在り、北側柱列は北東、北西隅に、南側柱列は南側壁から 0.8m 程内側に位置している。

SB85 の北側では焼土の分布を確認したが、炉は検出していない。

SB85 では、土師器（RP691 ～ 696）、須恵器（RP697、698）が出土している。

RP691 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13.8cm、器高 7.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、褐色粒子、砂粒が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP692 は壺であり、埋 2、3 層から出土した。口径 14.8cm、器高 6.9cm を測る。器面の外面は橙、にぶい赤褐色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP693 は甕である。口径 10.6cm、器高 12.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、褐灰色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、茶色粒子、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ハケメ、内面調整はハケメ、ナデにより製作され、焼成は良で

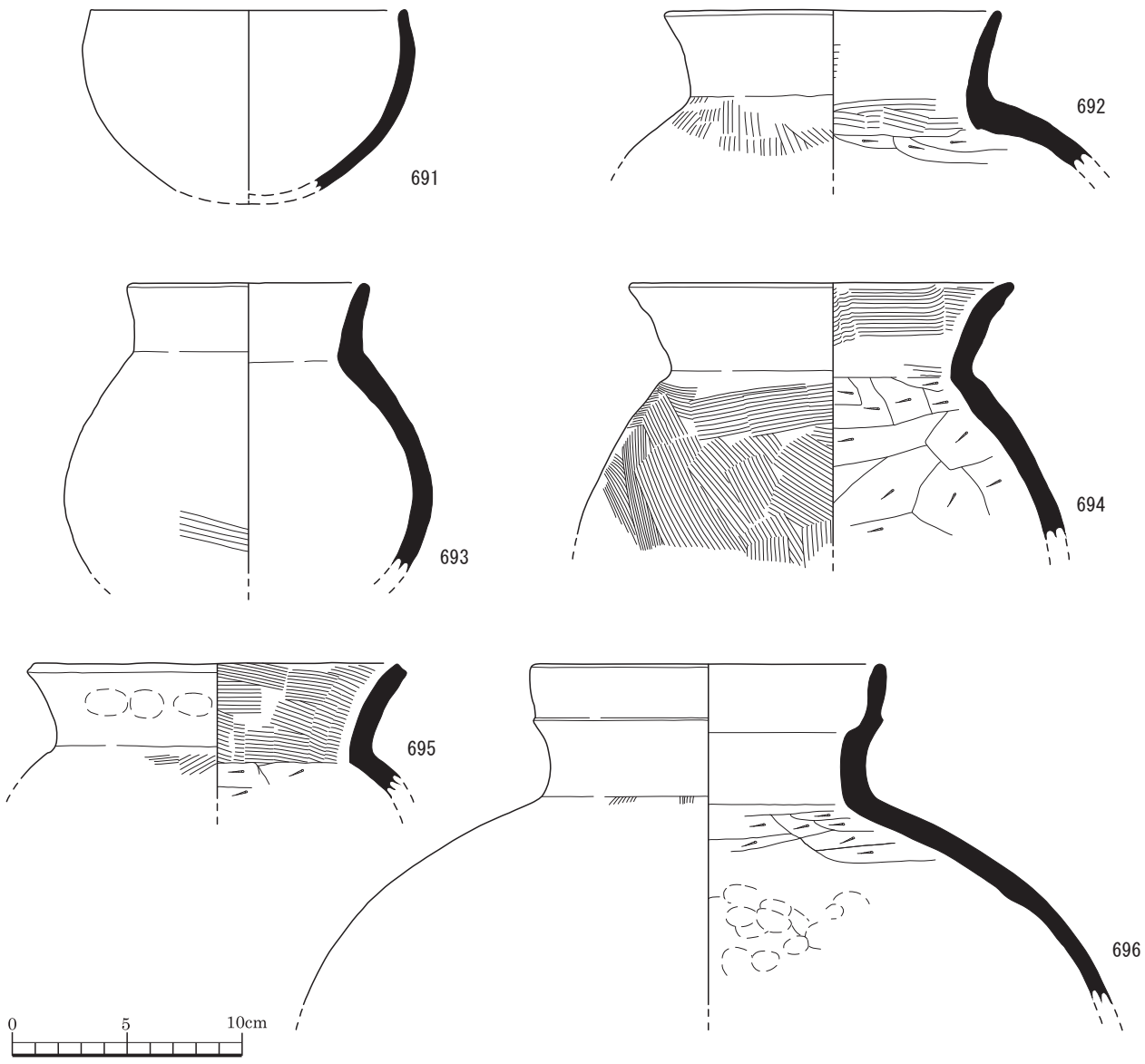


図 193　SB85 出土土器（RP）実測図

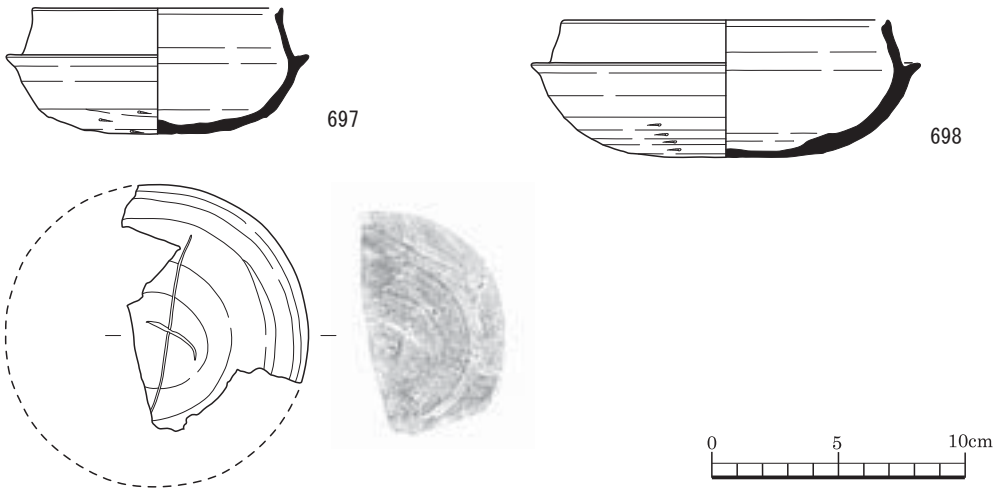
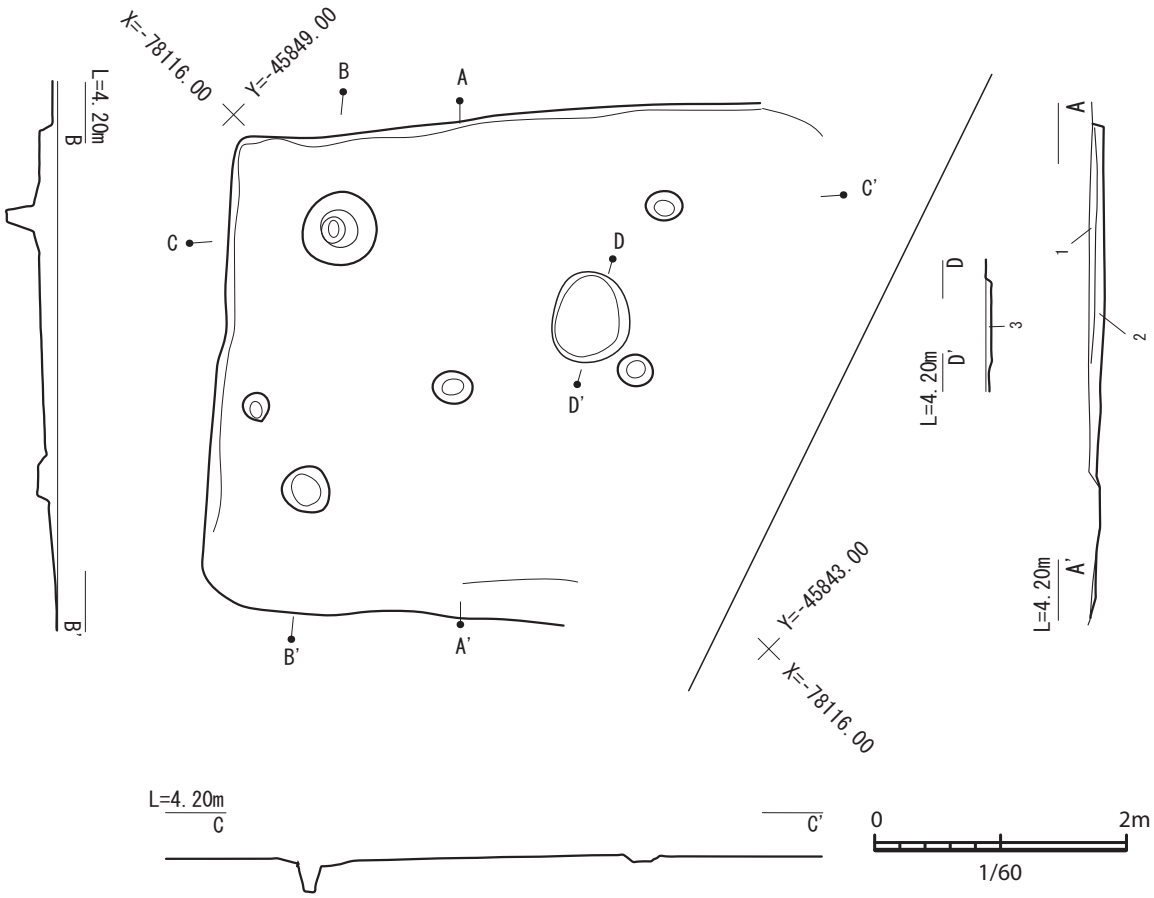


図 194　SB85 出土土器（RP）実測図



1　埋1層　黒褐色（10YR 2/2）シルト、しまり弱い、粘性やや強い
2　埋2層　暗褐色（10YR 3/3）シルト、しまり弱い、粘性弱い
3　炉（p611）埋1層　暗褐色土　ブロックの炭・土師器片を多量に含む

図 195　SB87 実測図（1/60）

ある。

RP694 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 15.8cm、器高 11.25cm を測る。器面の外面はにぶい褐、褐灰色、内面はにぶい赤褐、黒色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ハケメにより製作され、焼成は良である。

RP695 は壺であり、埋 3 層から出土した。口径 16.6cm、器高 5.9cm を測る。器面の外面は橙、にぶい褐色、内面は橙、にぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整は指オサエ、ハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP696 は壺である。口径 15.5cm、器高 14.9cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP697 は坏である。口径 9.9cm、底径 6cm、器高 5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP698 は坏である。口径 13cm、底径 7.7cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

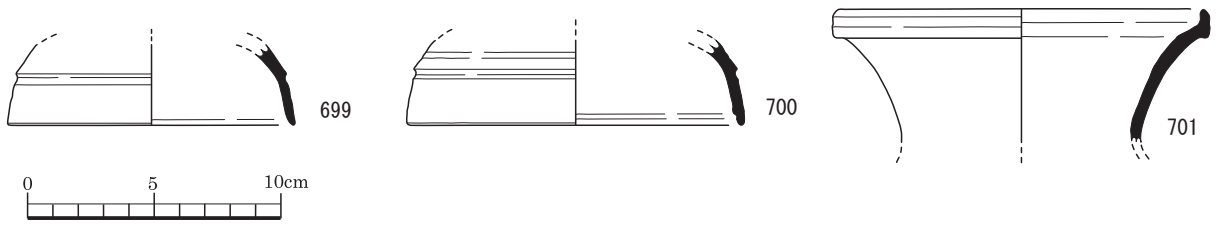


図 196　SB87 出土土器（RP）実測図

竪穴住居 87（SB87）

SB87 は、方形を呈し、炉を備えた 4 本柱建て竪穴住居である。南東隅は調査区外であった。1385 グリッドに位置する。

SB87 の法量は南北 4.1m ×東西 4.3m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

柱穴は直径 20cm ～ 35cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さ 30cm を測る。

炉は、直径 70cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さ 5cm を測る。

SB87 では、土師器（RP702 ～ 711）、須恵器（RP699 ～ 701）が出土している。

RP699 は蓋である。口径 1.4cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP700 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.4cm、器高 3.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ナデによる沈線、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP701 は壺である。口径 15cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP702 は坏である。口径 12.2cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP703 は坏である。口径 131.1cm、底径 5.2cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は赤、、にぶい黄橙色、内面は赤、にぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、黒色粒子、白色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヘラナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP704 は坏である。口径 14.8cm、器高 6.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には 1 ～ 3㎜の砂粒を含む長石、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP705 は台付鉢である。器高 3.3cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は褐灰色を呈し、胎土には石英含むが観察される。この台付坏は、外面調整はヨコナデ、内面調整はナデ、工具によるナデにより製作され、焼成は良である。

RP706 は壺である。器高 8.1cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も明黄褐色を呈し、胎土には赤色粒子、白色粒子含むが観察される。この壺は、外面調整は摩耗、内面調整は指オサエ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP707 は壺である。器高 5.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には金雲母微量、長石 1㎜含むが観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整は指オサエ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP708 は甕である。口径 19.8cm、器高 7cm を測る。器面の外面は黒、黄灰色、内面は灰黄、黄灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整は指頭圧痕、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP709 は壺であり、埋 1 層、3 層から出土した。口径 15.8cm、器高 16.7cm を測る。器面の外面はに

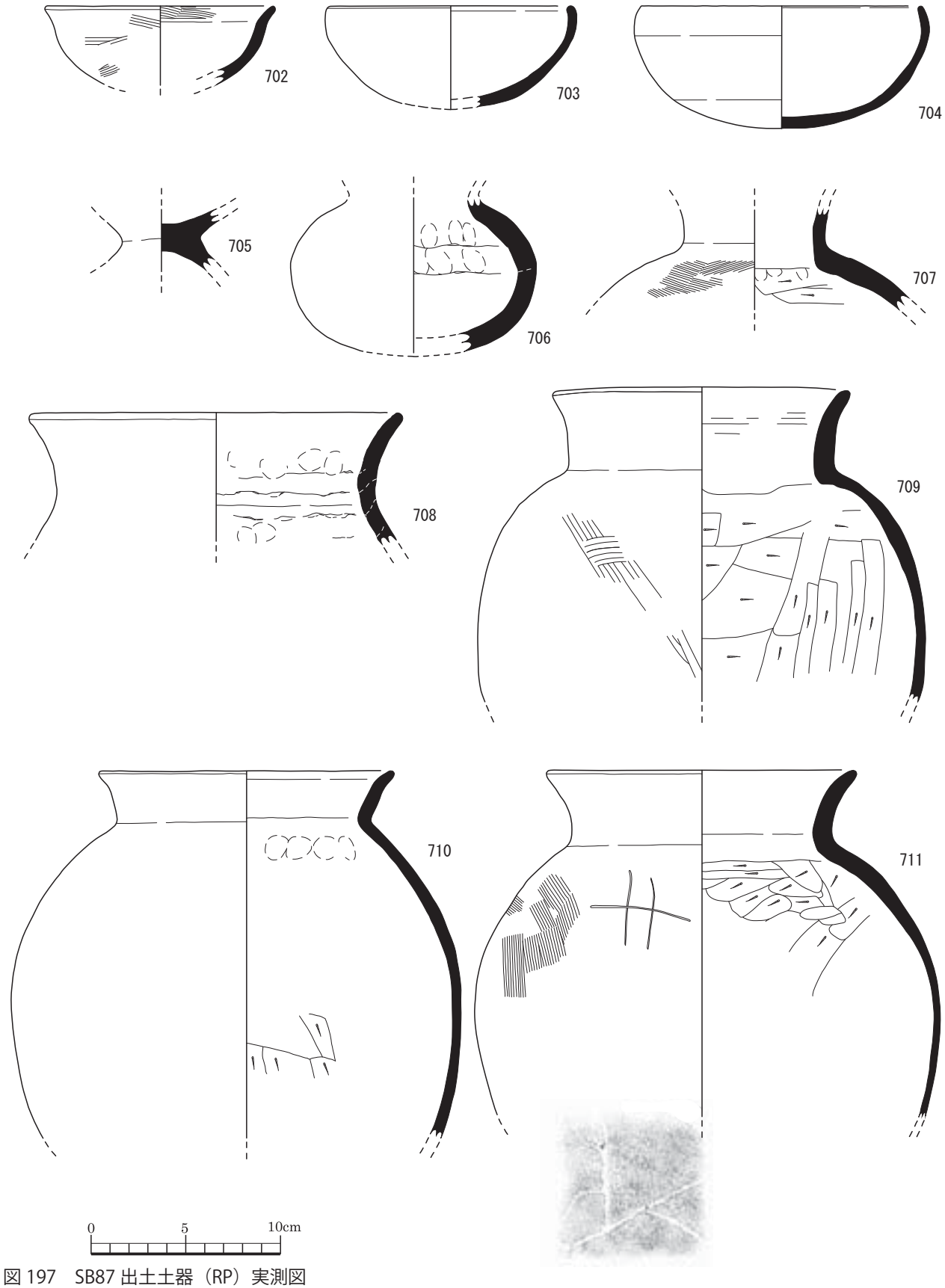


図 197　SB87 出土土器（RP）実測図

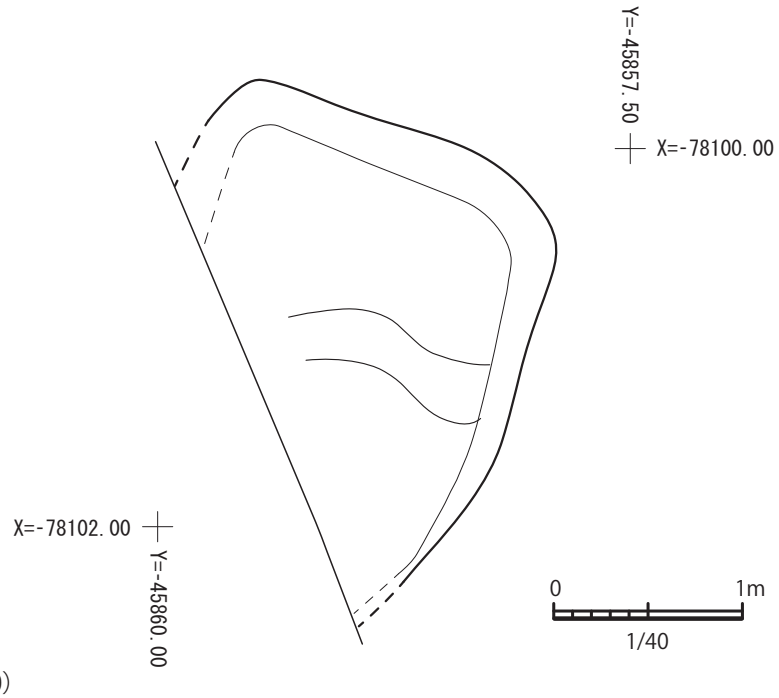


図 198　SK5 実測図（1/40）

ぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP710 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。口径 15.7cm、器高 19.5cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ（工具痕あり）、ヨコナデ、内面調整は指頭圧痕、ケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP711 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。口径 16.5cm、器高 18.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、ヘラ記号、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

土壙 5（SK5）

SK5 は、平面が方形を呈した土壙である。南西部分は調査区外である。SK5 は SB6 を切っている。1394 グリッドに位置する。

SK5 の法量は、長軸 2.0 m以上、短軸 2.1 mを測る。

SK5 では、土師器（RP712 ～ 716）、須恵器（RP717 ～ 722）が出土している。

RP712 は鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 12.4cm、器高 5cm を測る。器面の外面は赤褐色、内面は褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、金雲母が観察される。この鉢は、外面調整は摩耗、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP713 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 15cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP714 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 15.4cm、器高 7.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、赤色粒子、白色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP715 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 15cm、器高 10.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

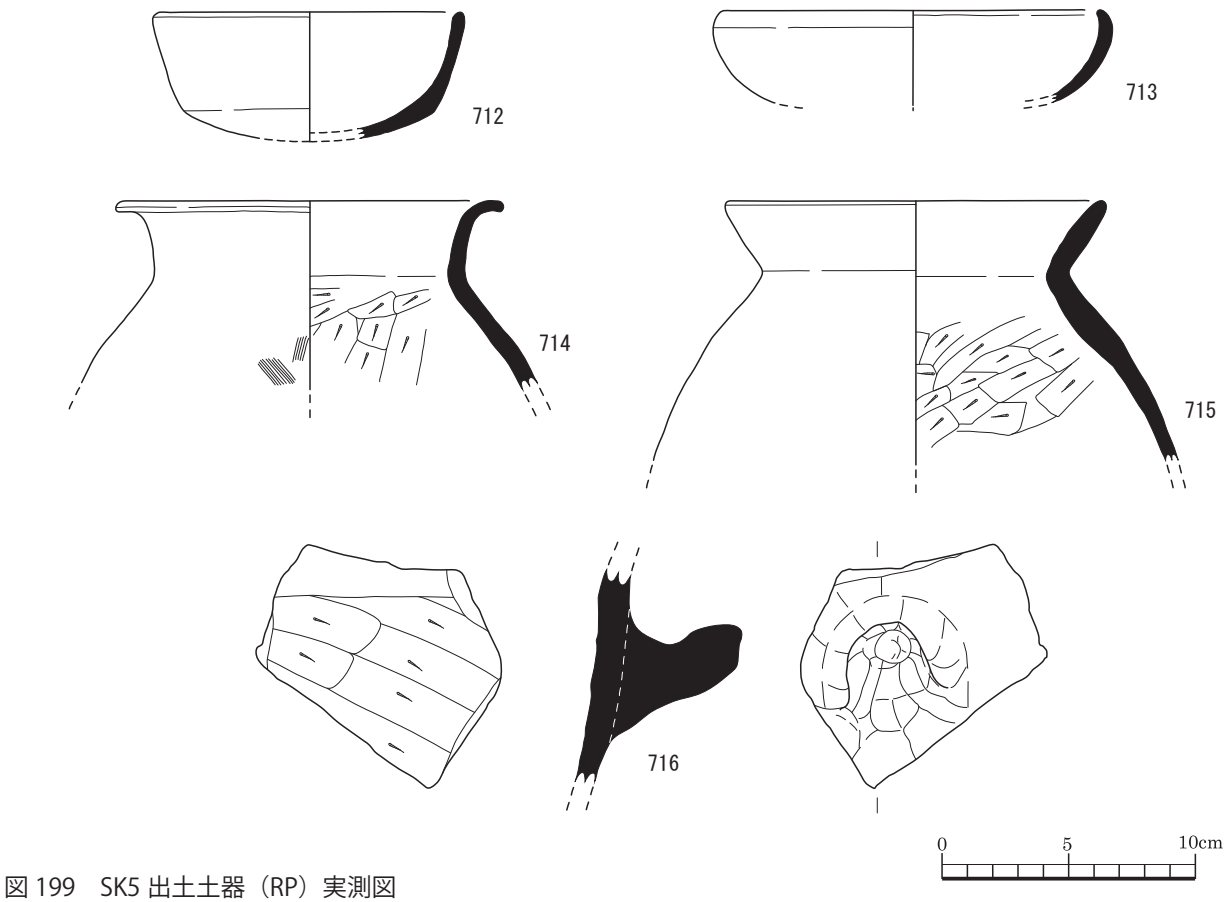


図 199　SK5 出土土器（RP）実測図

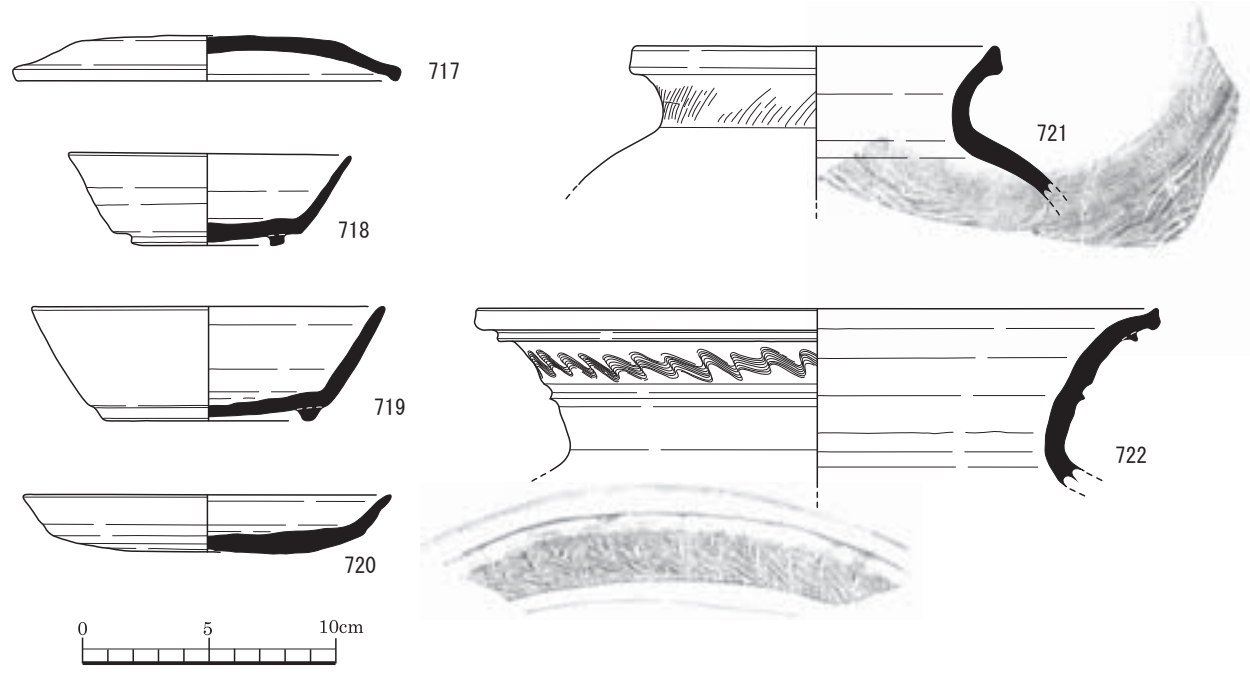


図 200　SK5 出土土器（RP）実測図

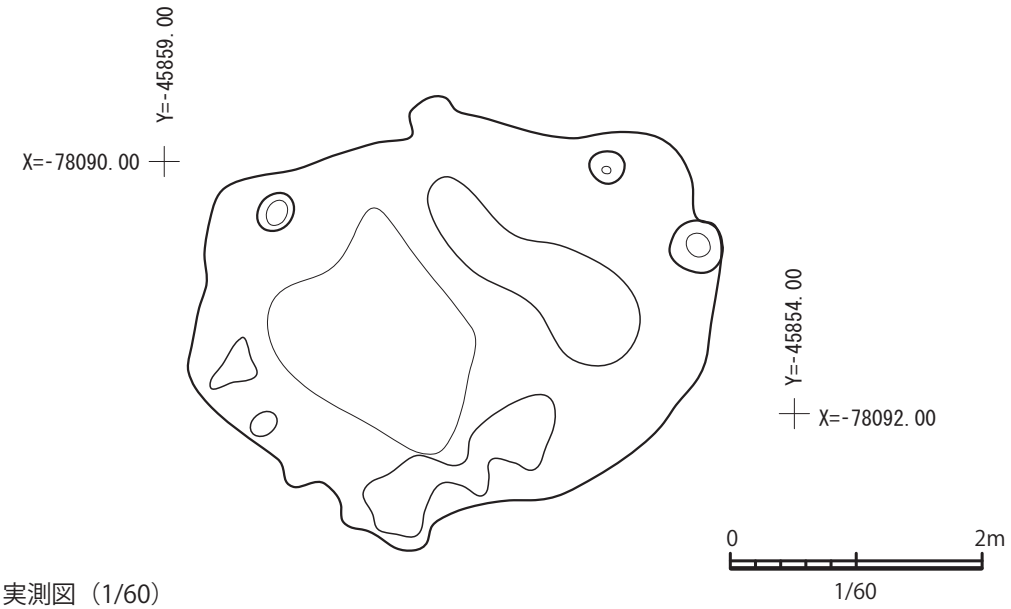


図 201　SK82 実測図（1/60）

RP716 は甑であり、埋 1 層から出土した。器高 8.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、赤色粒子が観察される。この甑は、外面調整は指オサエ、ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP717 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 15.4cm、器高 1.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP718 は埦であり、埋 1 層西から出土した。口径 11.7cm、底径 6.1cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP719 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、底径 8.4cm、器高 4.6cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP720 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 14.6cm、器高 2.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP721 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 14.6cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、ハケメ、内面調整は回転ナデ、当て具痕により製作され、焼成は良好である。

RP722 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 27.2cm、器高 7.1cm を測る。器面の外面は灰白、灰色、内面も灰白、灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、貼付突帯、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、指オサエにより製作され、焼成は良好である。

土壙 82（SK82）

SK82 は、平面が円形を呈した土壙である。2304 グリッドに位置する。

SK82 の法量は、長軸 4.2 m、短軸 3.1 mを測る。

SK82 では、土師器（RP723 ～ 727）、須恵器（RP728）が出土している。

RP723 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 13.1cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面はにぶい黄

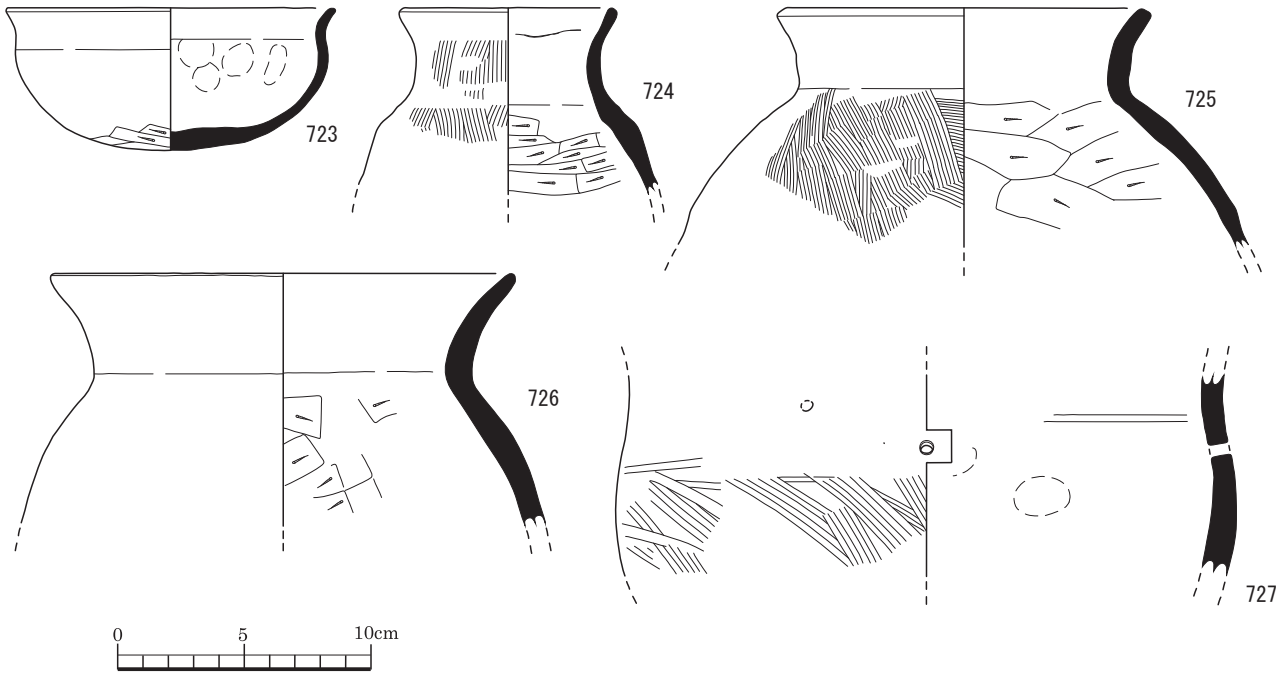


図 202　SK82 出土土器（RP）実測図

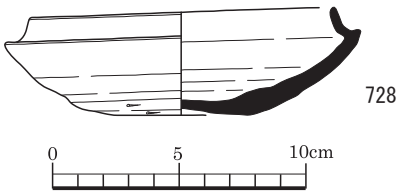


図 203　SK82 出土土器（RP）実測図

橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には褐色粒子を少量含むが観察される。この坏は、外面調整は工具によるナデ、ケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は指オサエ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP724 は壺であり、埋 2 層から出土した。口径 8.8cm、器高 7.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には 1 ～ 2㎜の金雲母含むが観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、指オサエ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP725 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 15cm、器高 9.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面は灰黄褐色を呈し、胎土には長石、金雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、ハケメ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP726 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 18.4cm、器高 10cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には 1 ～ 3㎜の長石、1㎜の金雲母含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP727 は甕であり、埋 2 層から出土した。器高 8cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい褐色を呈し、胎土には赤色粒子を少量含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整は指オサエ、ハケメ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP728 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 12.2cm、底径 5.5cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

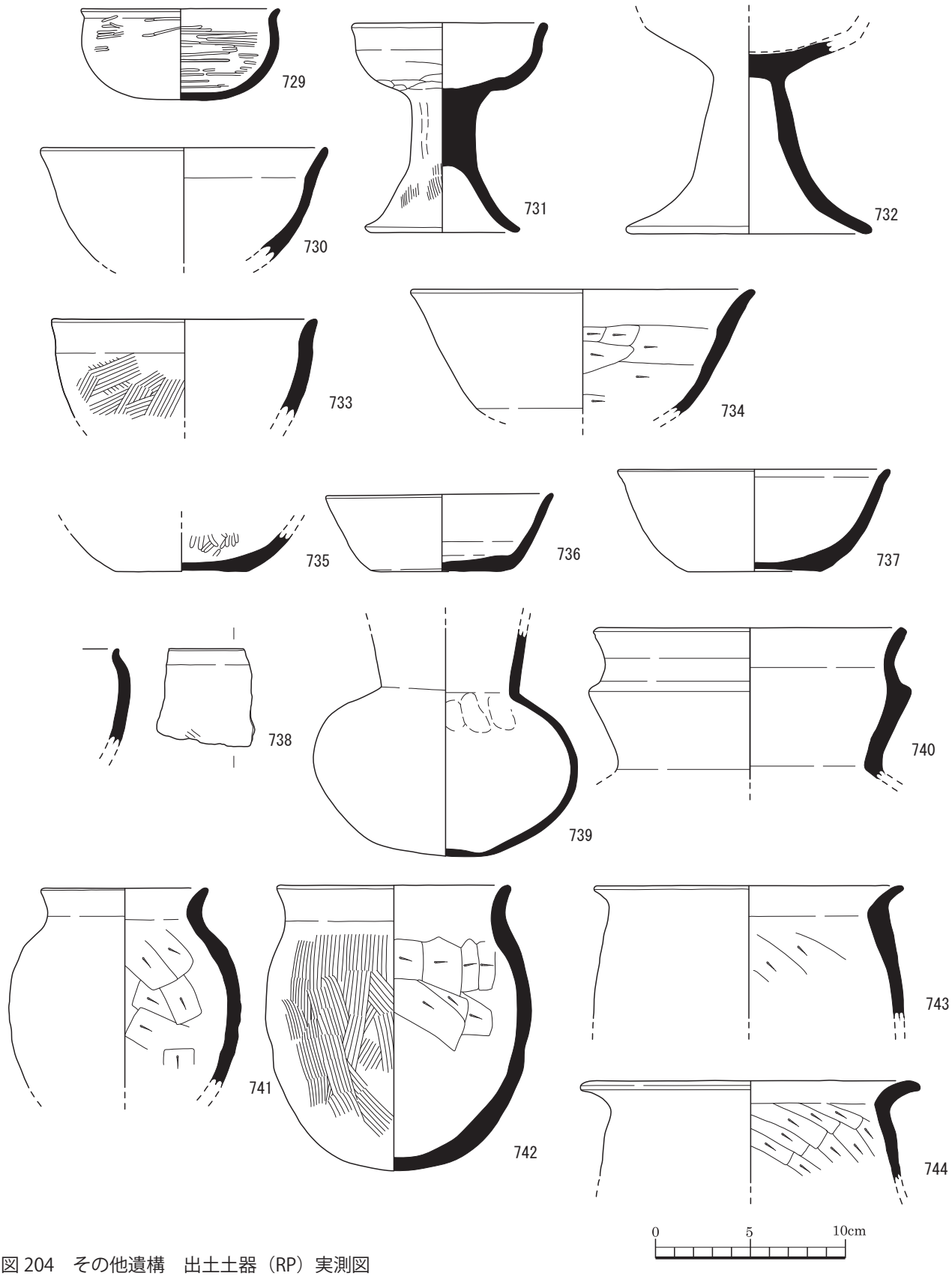


図 204　その他遺構　出土土器（RP）実測図

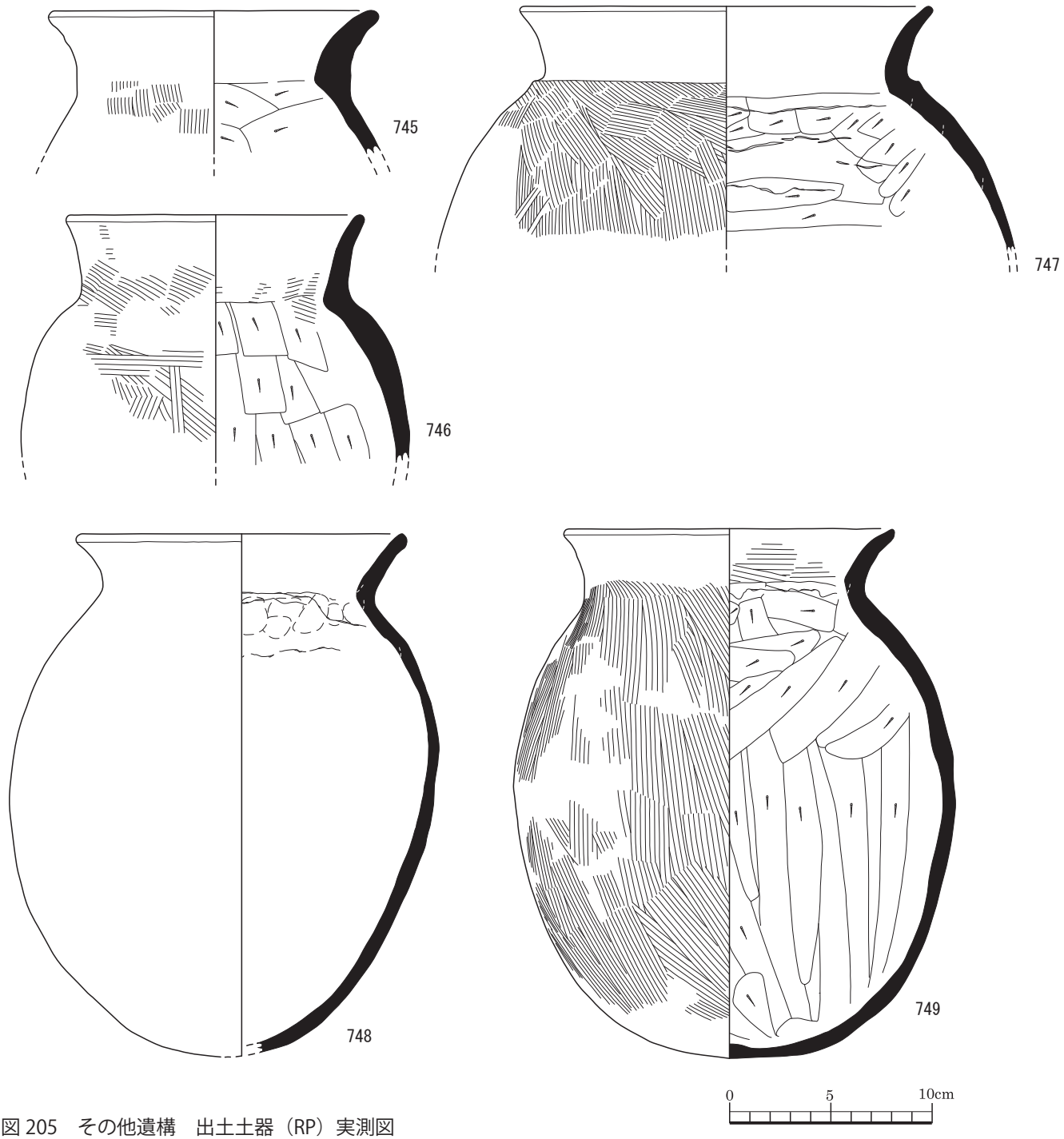


図 205　その他遺構　出土土器（RP）実測図

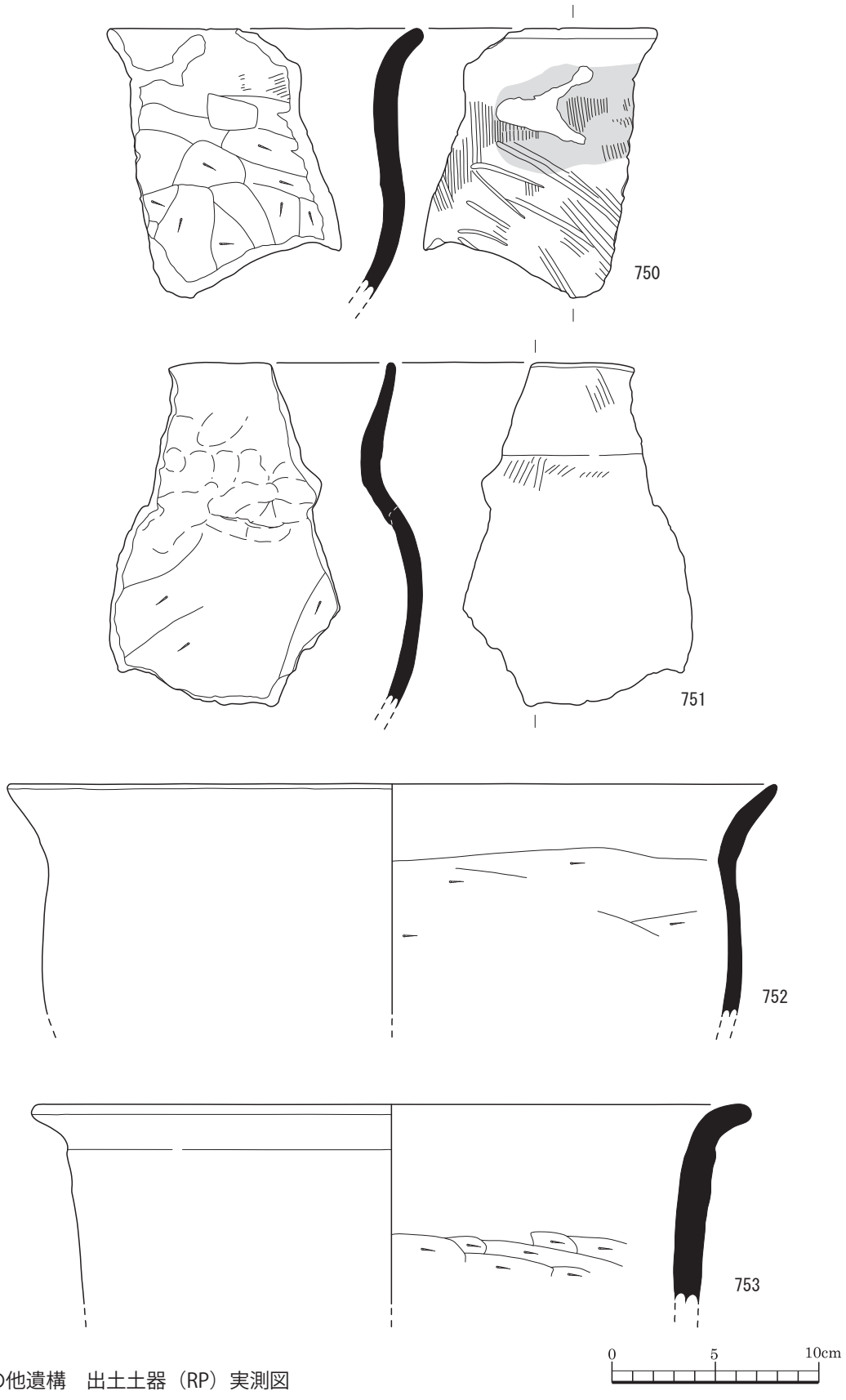


図 206　その他遺構　出土土器（RP）実測図

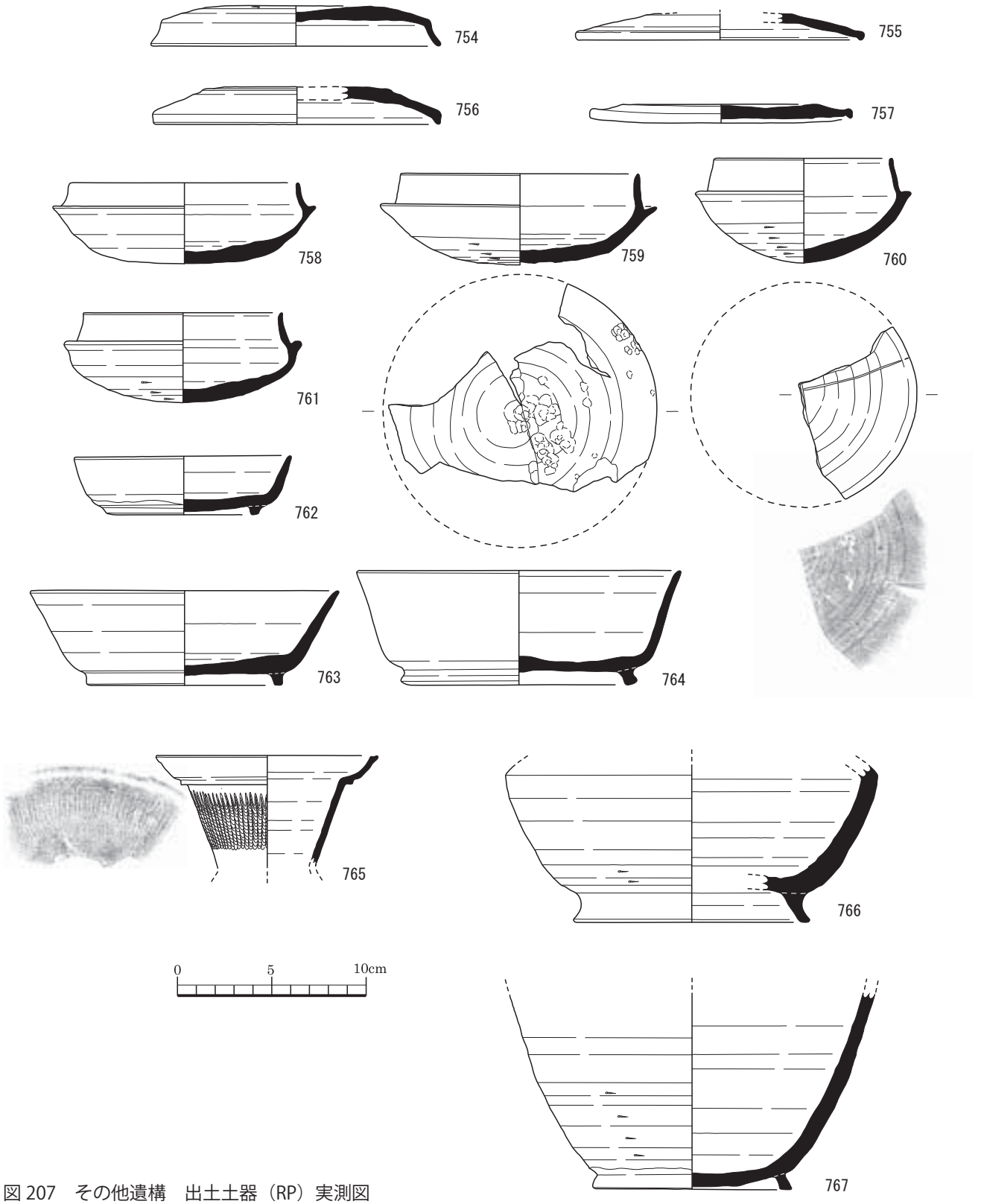


図 207　その他遺構　出土土器（RP）実測図

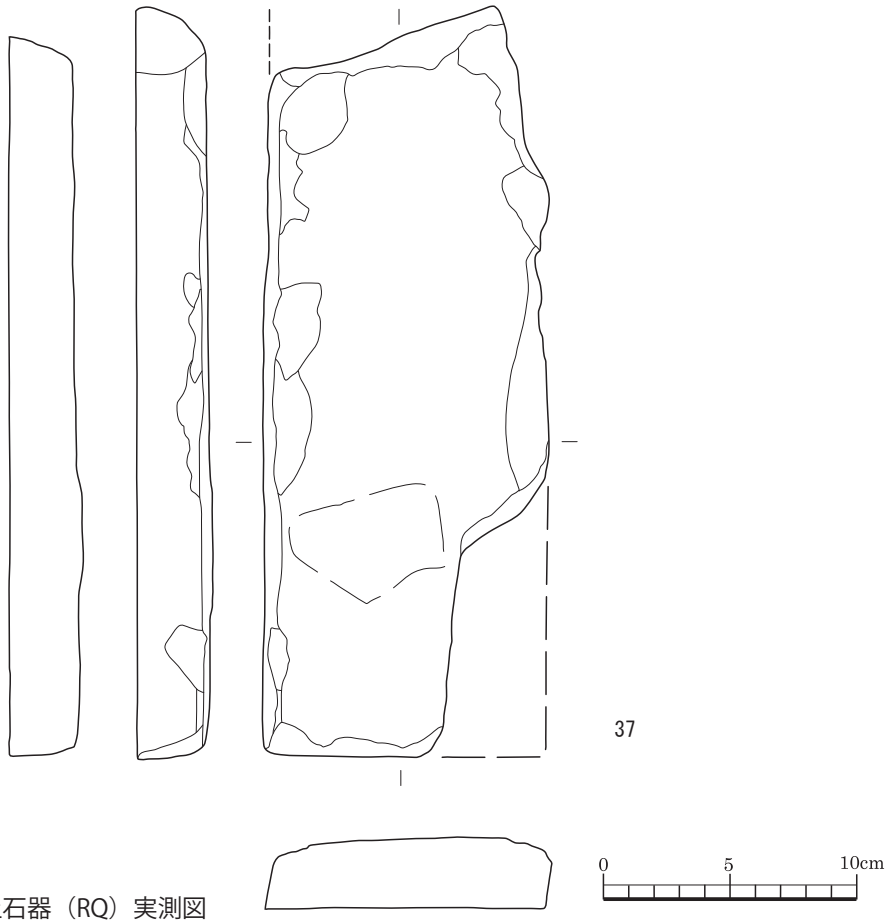


図 208　その他遺構　出土石器（RQ）実測図

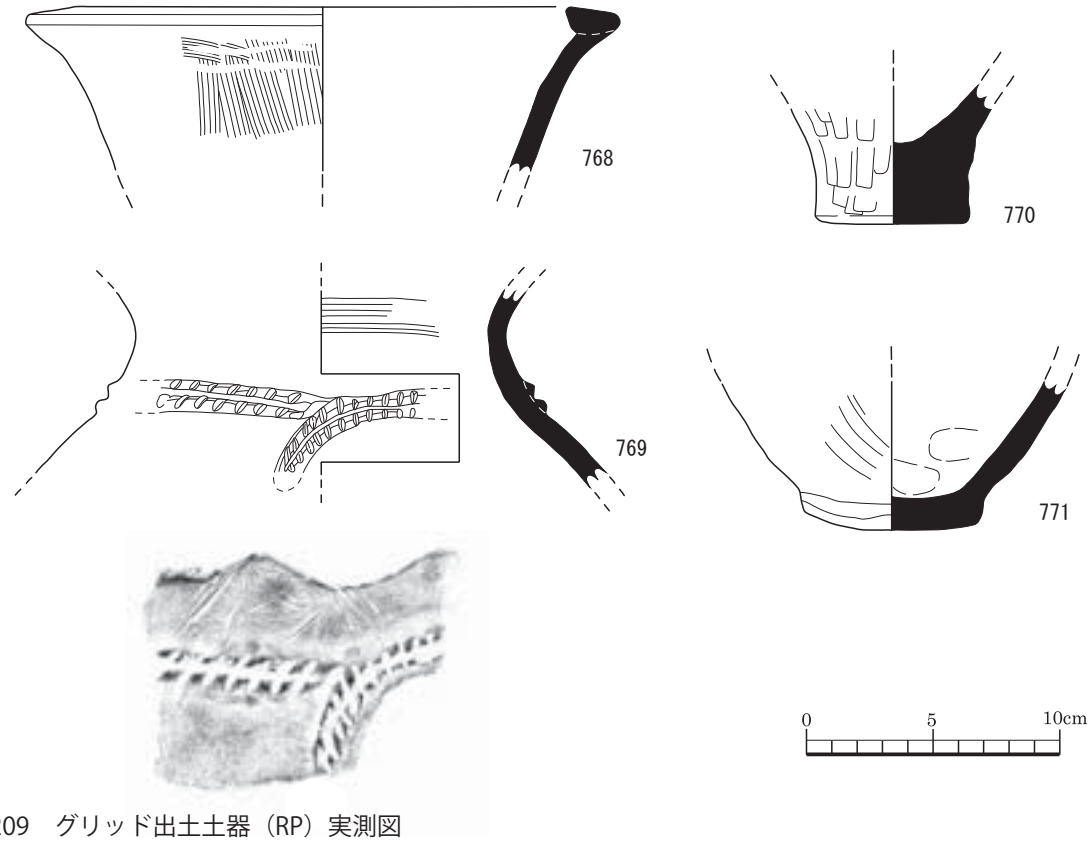


図 209　グリッド出土土器（RP）実測図

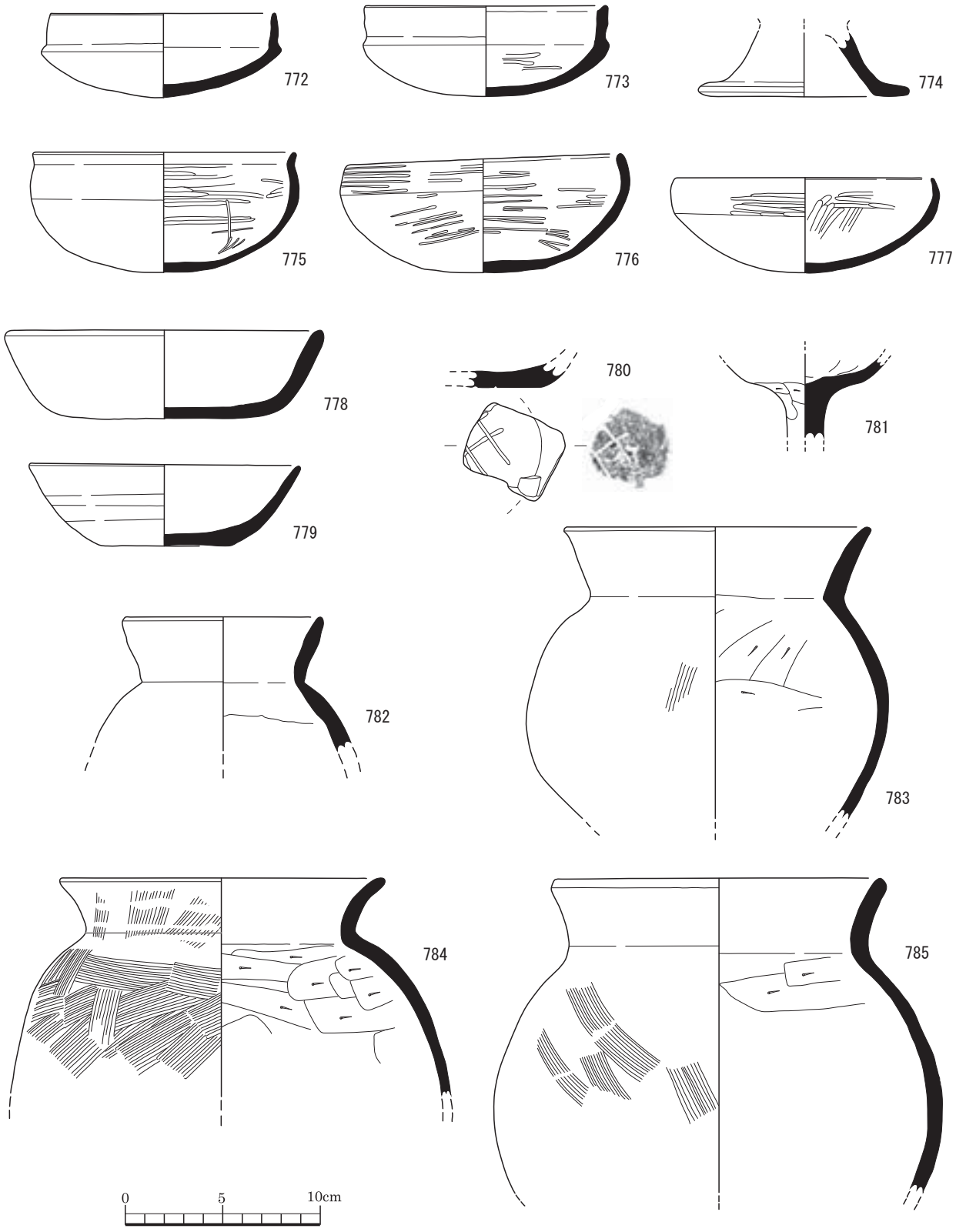


図 210　グリッド出土土器（RP）実測図

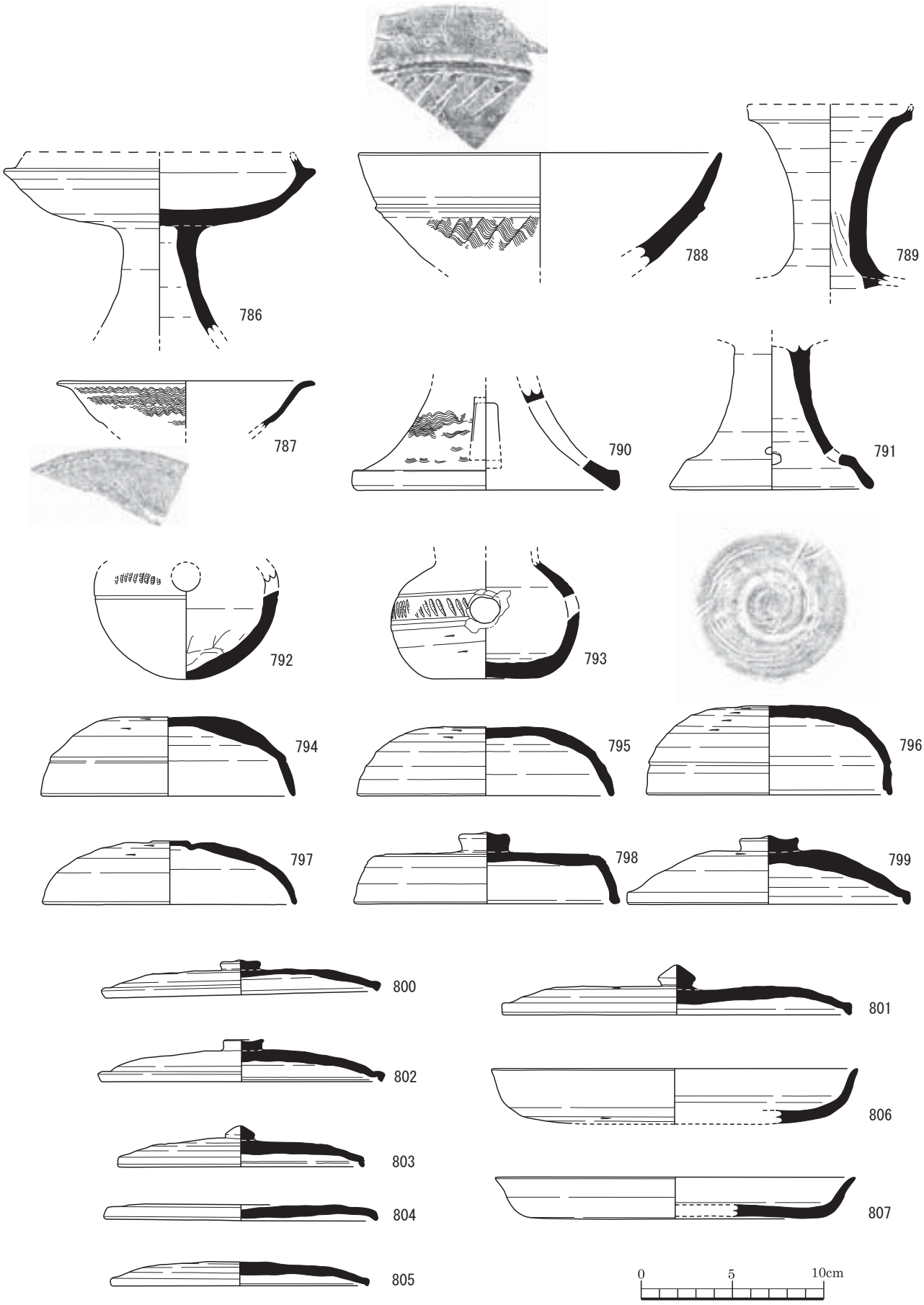


図 211　グリッド出土土器（RP）実測図

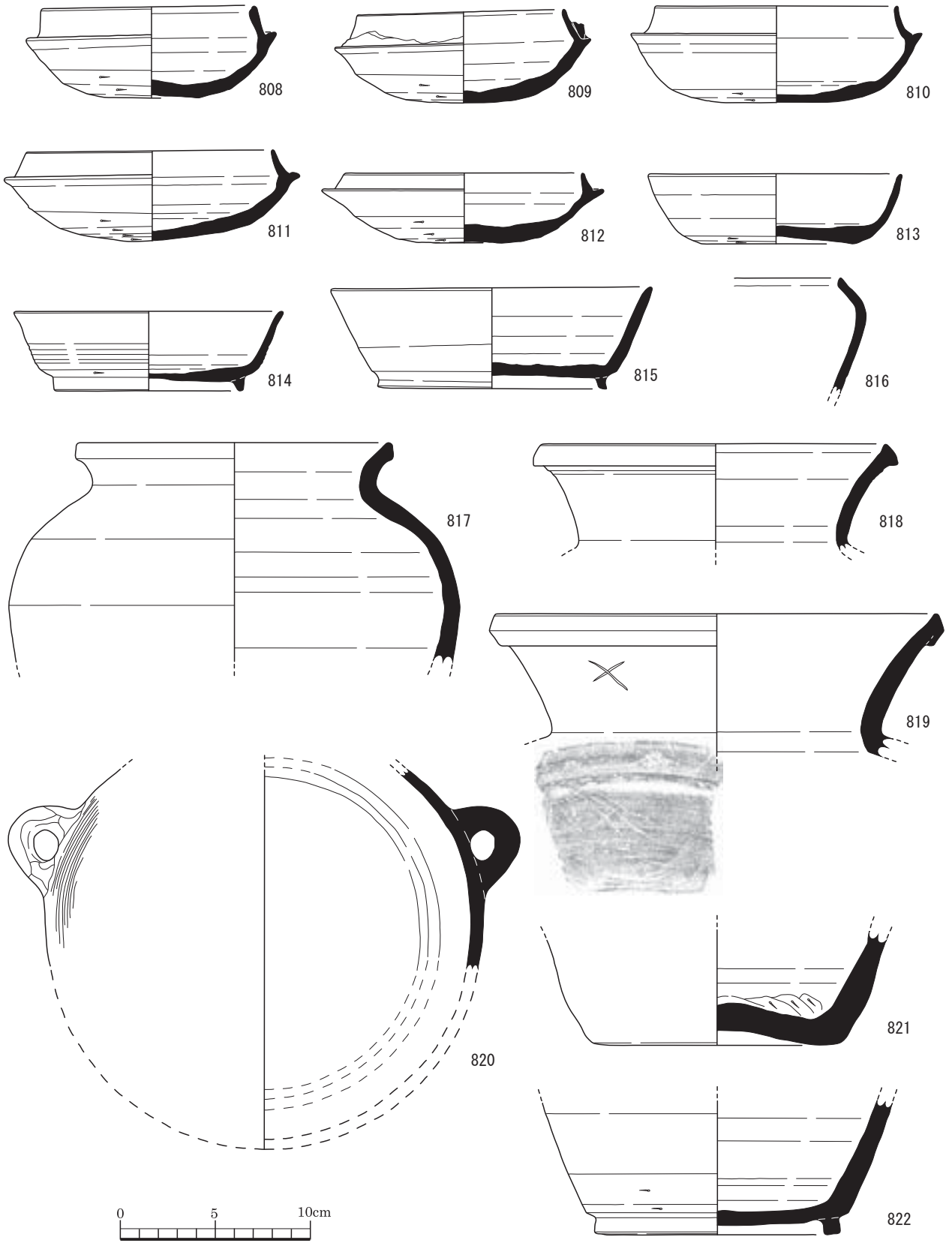


図 212　グリッド出土土器（RP）実測図

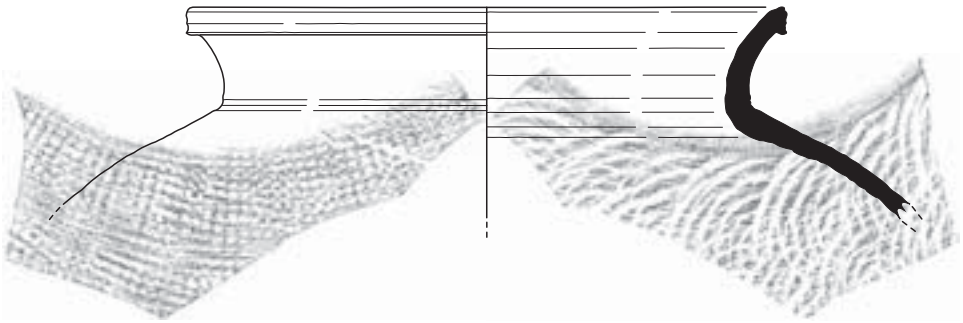


図 213　グリッド出土土器（RP）実測図

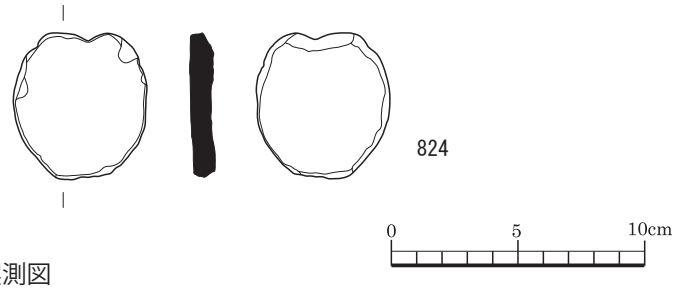


図 214　グリッド出土土製品（RP）実測図

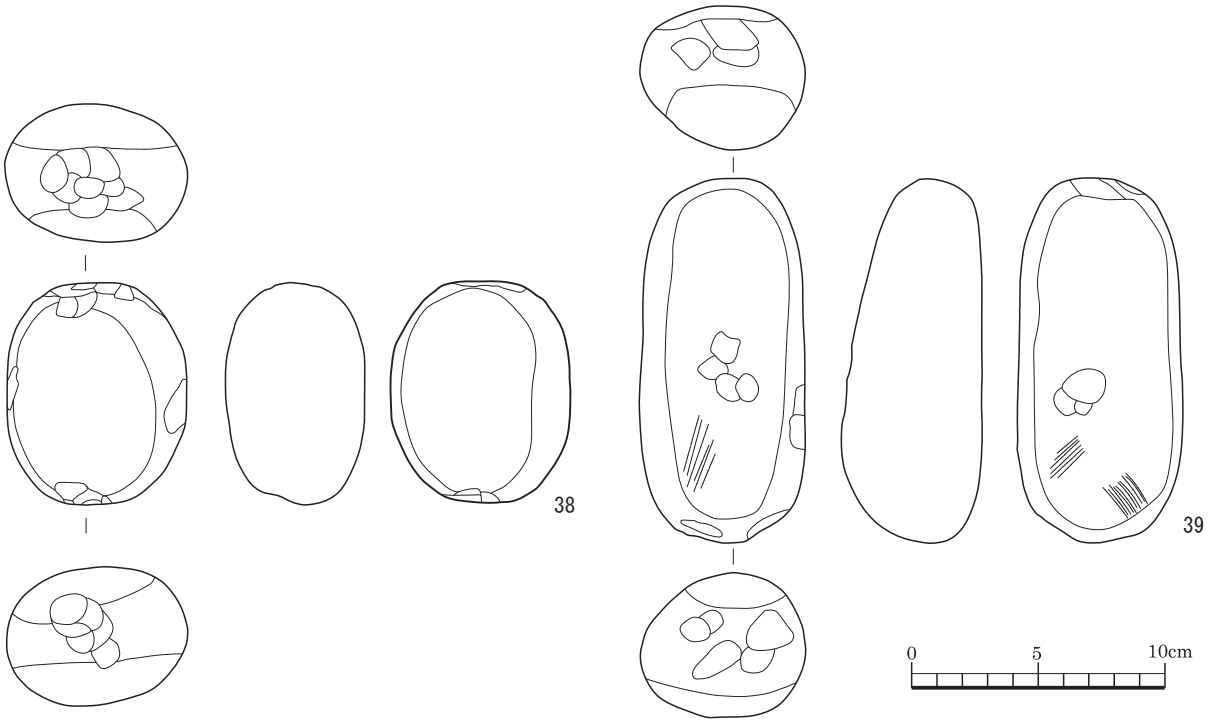


図 215　グリッド出土石器（RQ）実測図

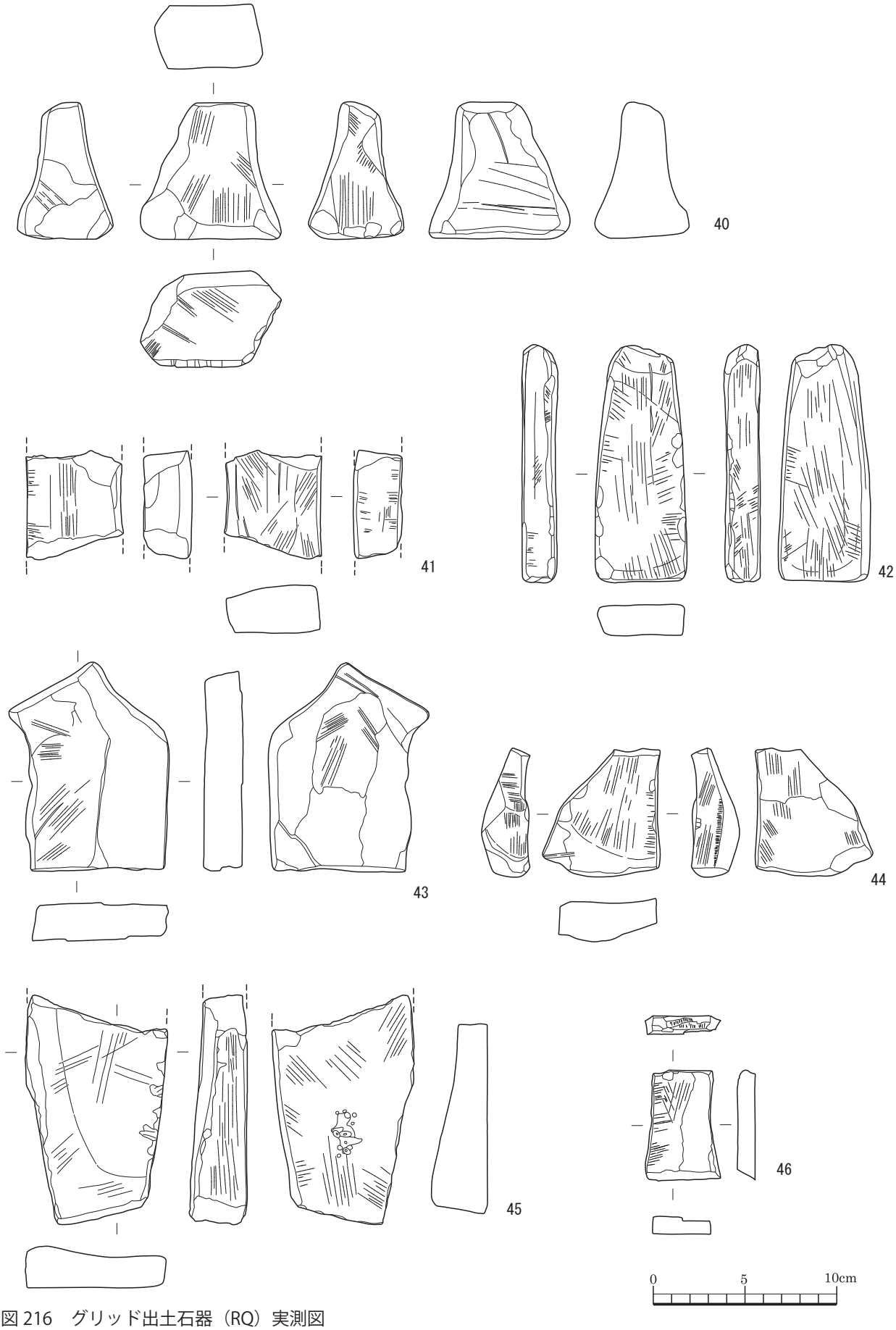


図 216　グリッド出土石器（RQ）実測図

2-6　花岡木崎遺跡 6 区の調査

2-6-1　調査区 6 区の概要

調査区 6 区は、花岡木崎遺跡の南端部に位置する。面積は約 1,450㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 2,900㎡である。

なお、調査区 6 区の発掘調査は、宮崎敬士（主任学芸員）、伊藤友美子及び横矢晋二郎（非常勤嘱託）が担当した。

また、発掘調査は「花岡木崎遺跡発掘調査要領」（1-3-2 発掘作業の方法）に基づき実施している。

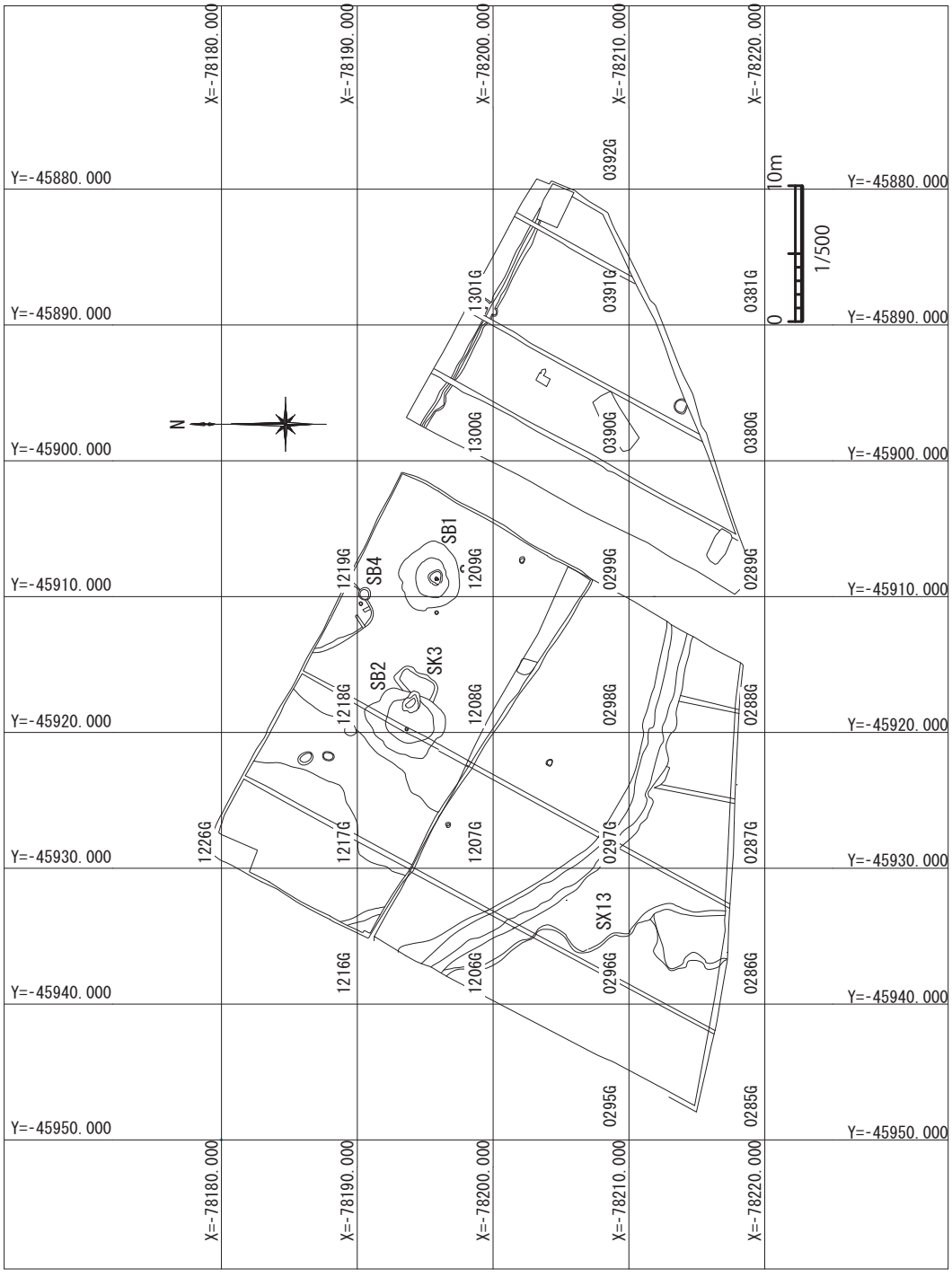
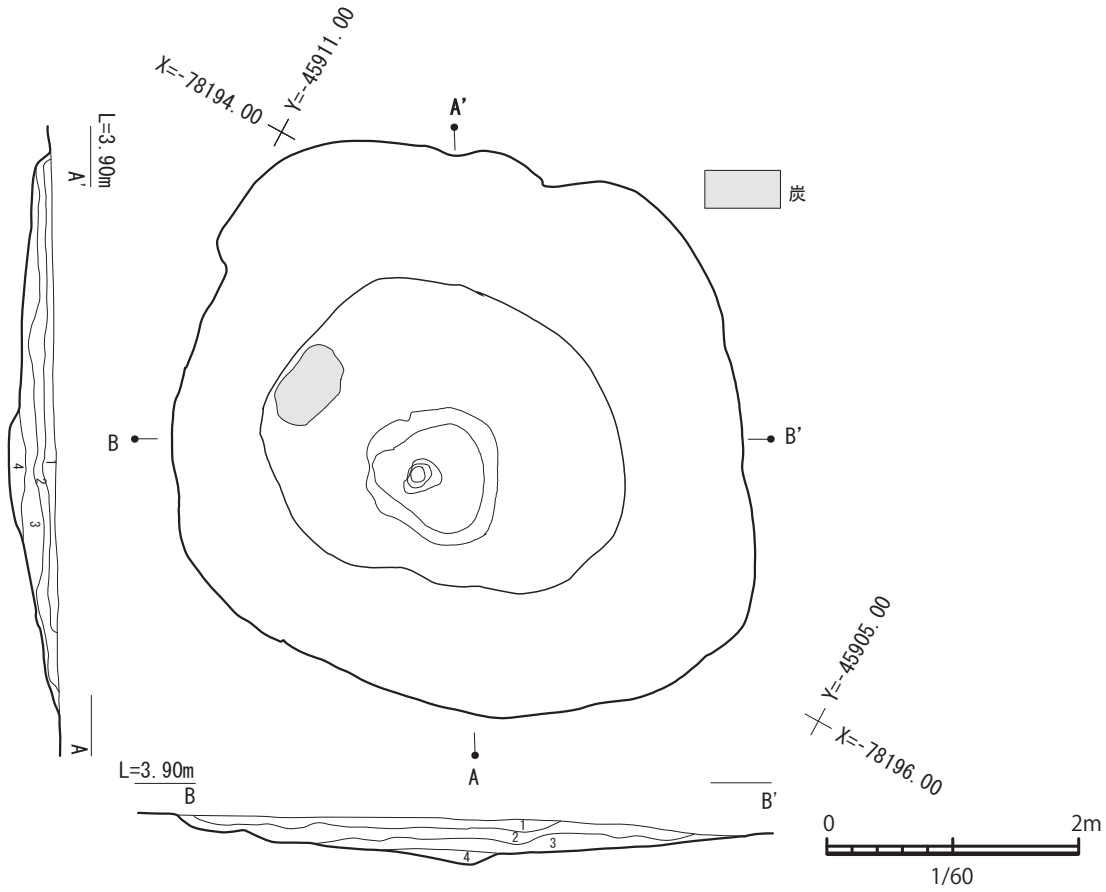


図 217　6 区遺構配置図（1/500）



1　埋1層　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト、砂礫混　鉄分土粒（7.5YR 明褐）中（0.2～0.5cm）を5%混
　　黒色土粒（10YR 2/1）小（0.1～0.2cm）を7%混　しまりあり　粘性なし　土器片、炭化物粒（1cm）含む　石器（磨石）含む
2　埋2層　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト、砂礫混、鉄分土粒（7.5YR 明褐）極大（1～2cm）を5%混
　　黒色土粒（10YR 2/1）　小（0.1～0.2cm）を5%混　しまりあり　粘性ややあり　土器片含む
3　埋3層　褐灰色（10YR 4/1）粘土　礫混　鉄分土塊（7.5Y 明褐）極大（1～5cm）を3%混　しまりややあり　粘性あり　土器片　石器（磨石）含む
4　埋4層　褐灰色（10YR 4/1）粘土　しまりなし　粘性あり　土器片　石皿含む

図 218　SB1 実測図（1/60）

2-6-2　調査区 6 区の遺構と遺物

調査区 6 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

竪穴建物 1（SB1）

SB1 は、平面が円形を呈した竪穴である。1209 グリッドに位置する。

SB1 の法量は、南北 4.5 m、東西 4.45 m、遺構確認面からの深さ 37cm を測る。レンズ状の窪地状態で、埋土は潟土である。

主柱穴は、確認していない。

住居の中央には、中心部にボウル状の窪みを備えた直径 0.2 m、深さ 40cm を測る円形土壙が位置し、床面西端には炭化物ブロックが検出された。しかし、この土壙と炭化物を炉とは認識していない。

上記のように、主柱穴、火処等、住居の付帯設備に欠くこと、水辺に近い立地であることから、洗い場等、水利用施設の一部を形作る遺構と考えている。

SB1 では、須恵器（RP825 ～ 827）、石器（凹付磨石、石皿）が出土している。

RP825 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.2cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整も回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

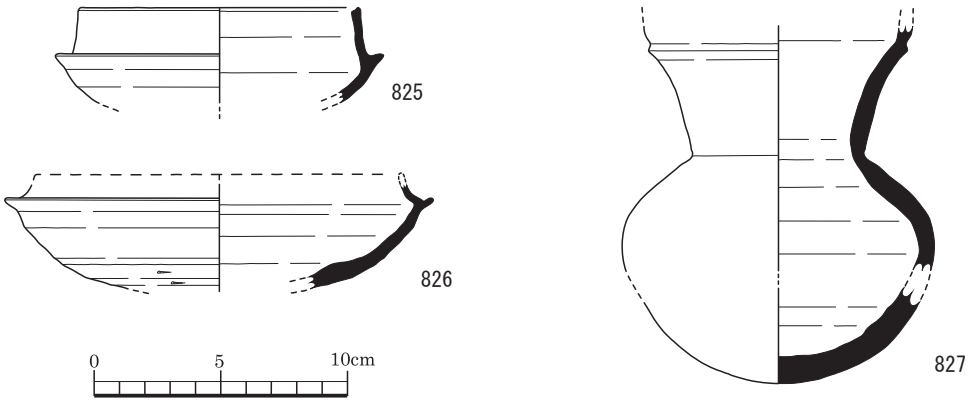


図 219　SB1 出土土器（RP）実測図

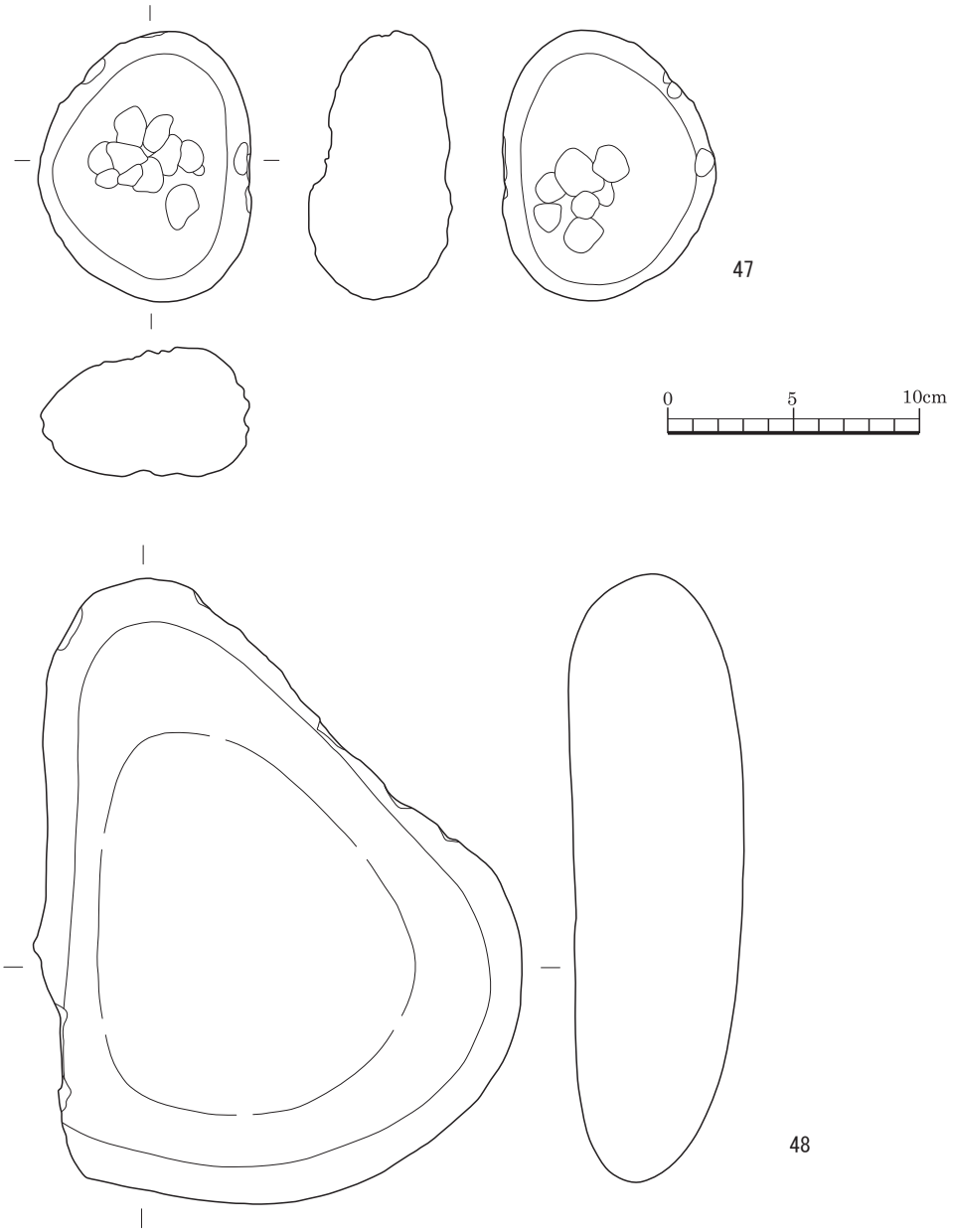
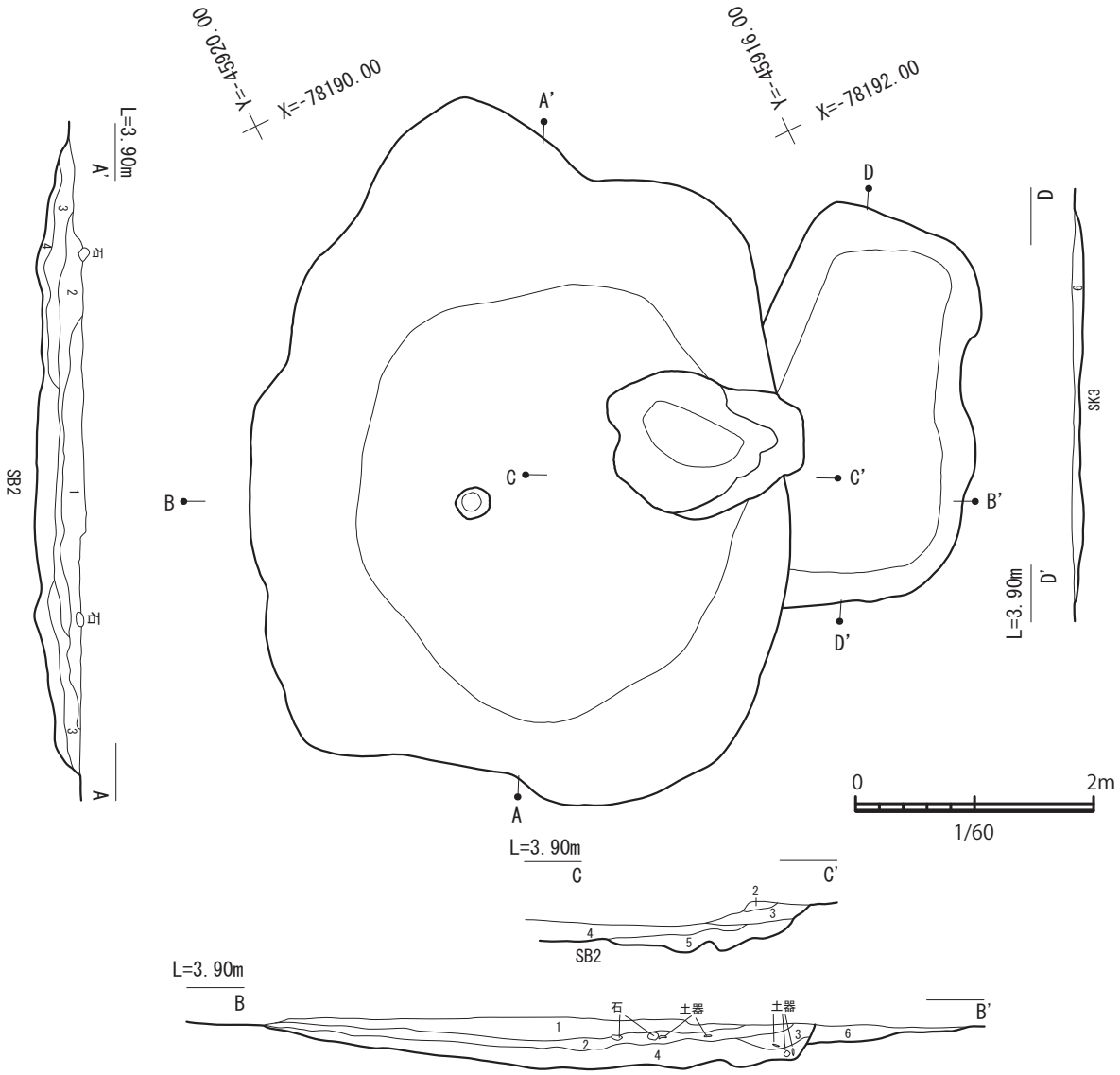


図 220　SB1 出土石器（RQ）実測図



(SB2)
1　埋1層　黒褐色（10YR 2/1）シルト しまりあり 鉄分斑点状 （1～3cm）多く含む 粘性なし 炭を多く含む（1～5cm）中心地に多い 礫（1～5cm）多く含む
2　埋2a層　黒褐色（10YR 3/1）シルト しまりある 粘性少しあり 鉄分斑点状（1～2cm）含む 炭少し含む　礫（1～6cm）多く含む
3　埋2b層　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト しまりあり 粘性あり 炭少し含む
4　埋3a層　暗灰黄色（2.5Y 5/2）粘土 しまり強い 粘性強い 炭少し含む 鉄分斑点状（1～2cm）少し含む
5　埋3b層　黒色（2.5Y 2/1）粘土 しまり強い 粘性強 炭を少し含む 鉄分斑点状（1～3cm） 縦方向（3cm）含む
(SK3)
6　埋1層　　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト しまり弱い 粘性少しあり マンガン斑点状（0.5～2cm）多く含む

図 221　SB2・SK3 実測図（1/60）

RP826 は坏であり、埋 3 層から出土した。器高 4.2cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面は灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP827 は小型壺であり、埋 1、3 層から出土した。器高 14.2cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この小型壺は、外面調整は回転ナデ、カキメ、ナデ、内面調整は回転ナデ、工具によるオサエにより製作され、焼成は良好である。

竪穴建物 2（SB2）

SB2 は、平面が円形を呈する竪穴である。SB2 は SK3 を切る。1208 グリッドに位置する。

SB2 の法量は、南北 5.4 m，東西 4.5 m、遺構確認

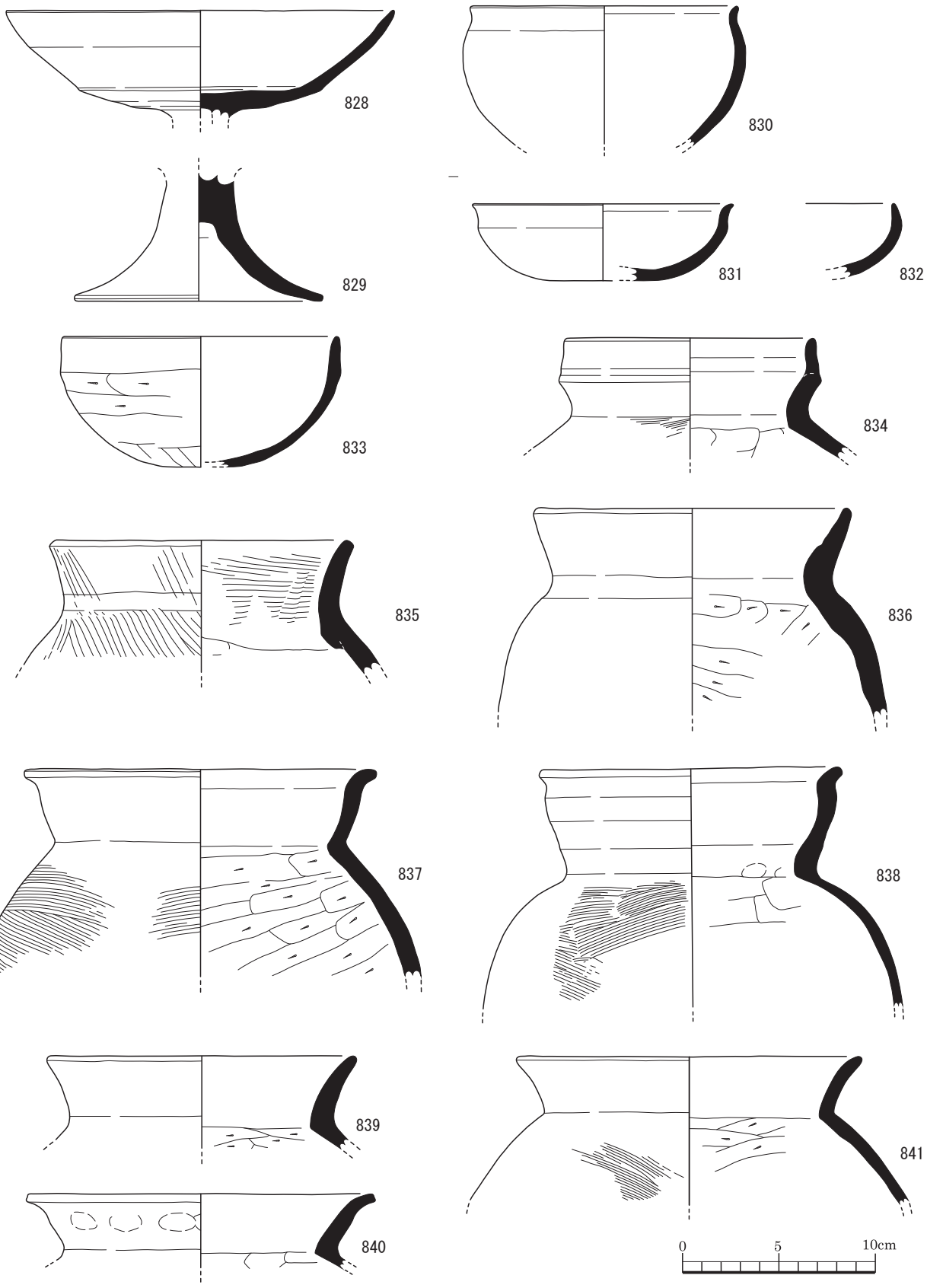


図 222　SB2 出土土器（RP）実測図

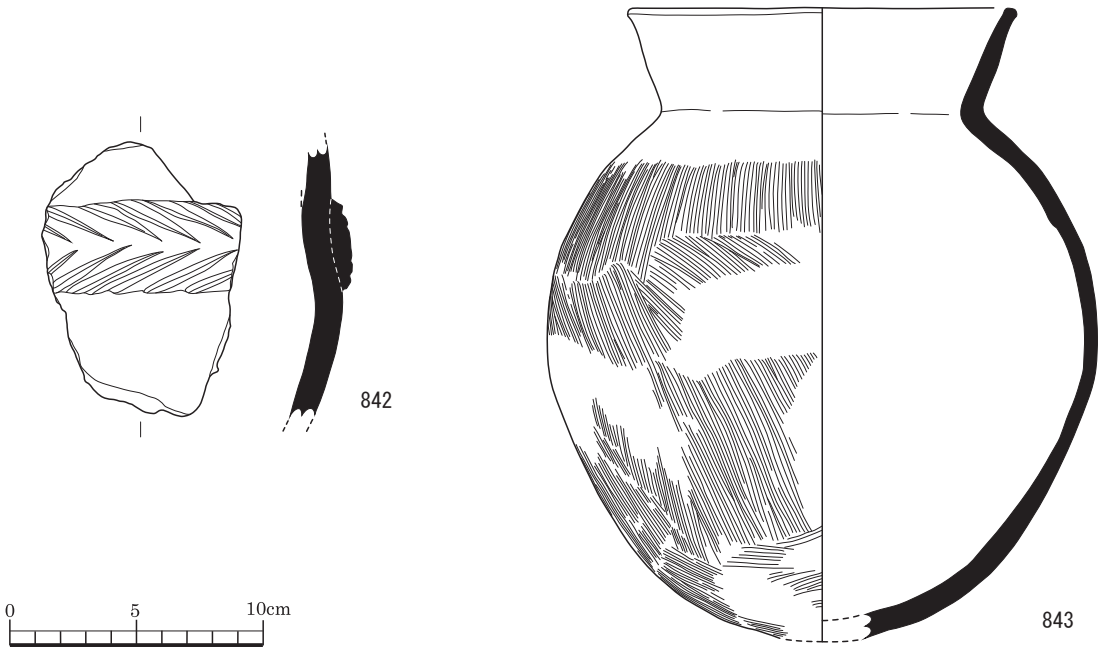


図 223　SB2 出土土器（RP）実測図

面からの深さ 45cm を測る。

主柱穴は、確認していない。

東端には 1.6m × 1.2m、深さ 20㎝の土壙が複合している。なお、SB2 の埋土は黒褐色を基調とし、大小の礫とともに炭化物を多く含んでいた。また、埋土と同様に、遺物にも炭化物が付着しているものが多い。しかし、焼土は確認していない。

上記のように、主柱穴、火処等、住居の付帯設備に欠くこと、水辺に近い立地であることから、洗い場等、水利用施設の一部を形作る遺構と考えている。

SB2 では、土師器（RP828 ～ 843）、須恵器（RP844 ～ 849）、石器（砥石、敲石）が出土している。

RP828 は高坏であり、埋 1、2、3 層から出土した。口径 20.2cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、ナデ、内面調整はナデ、回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP829 は高坏であり、埋 1 層から出土した。底径 13cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、内面調整もナデにより製作され、焼成は良である。

RP830 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 7.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整もナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP831 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13.6cm、底径 5.4cm、器高 4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、内面調整もヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP832 は坏であり、埋 2 層から出土した。器高 3.8cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は黄灰色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英が観察される。この坏は、外面調整はナデ、内面調整もナデにより製作され、焼成は良である。

RP833 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 14.4cm、底径 6.2cm、器高 6.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ヘラケズリ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

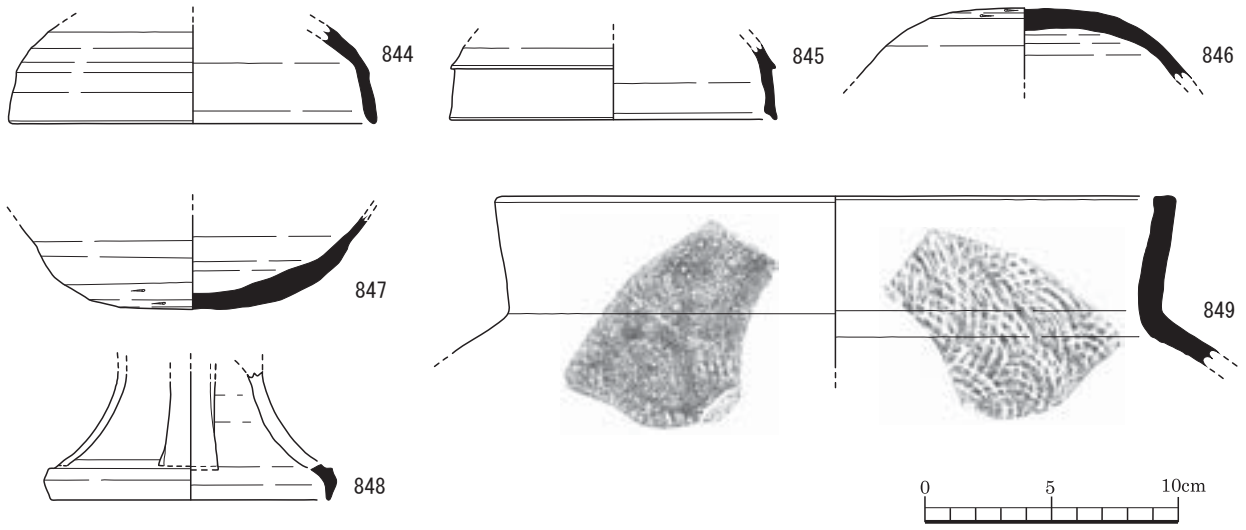


図 224　SB2 出土土器（RP）実測図

RP834 は壺であり、埋 2 層から出土した。口径 13.1cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面はにぶい黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良好である。

RP835 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 15.8cm、器高 7cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、工具によるナデ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP836 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 16.6cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい黄褐色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP837 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 18.4cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP838 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 15.8cm、器高 12.5cm を測る。器面の外面は褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、角閃石、赤色粒子、長石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整は指頭圧痕、ヘラケズリ、ヨコナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP839 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 16.2cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、石英が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP840 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 18.2cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整は指頭圧痕、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP841 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 18cm、器高 7.7cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP842 は甕であり、埋 2 層から出土した。器高 10.9cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は灰黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、貼付突帯文、内面

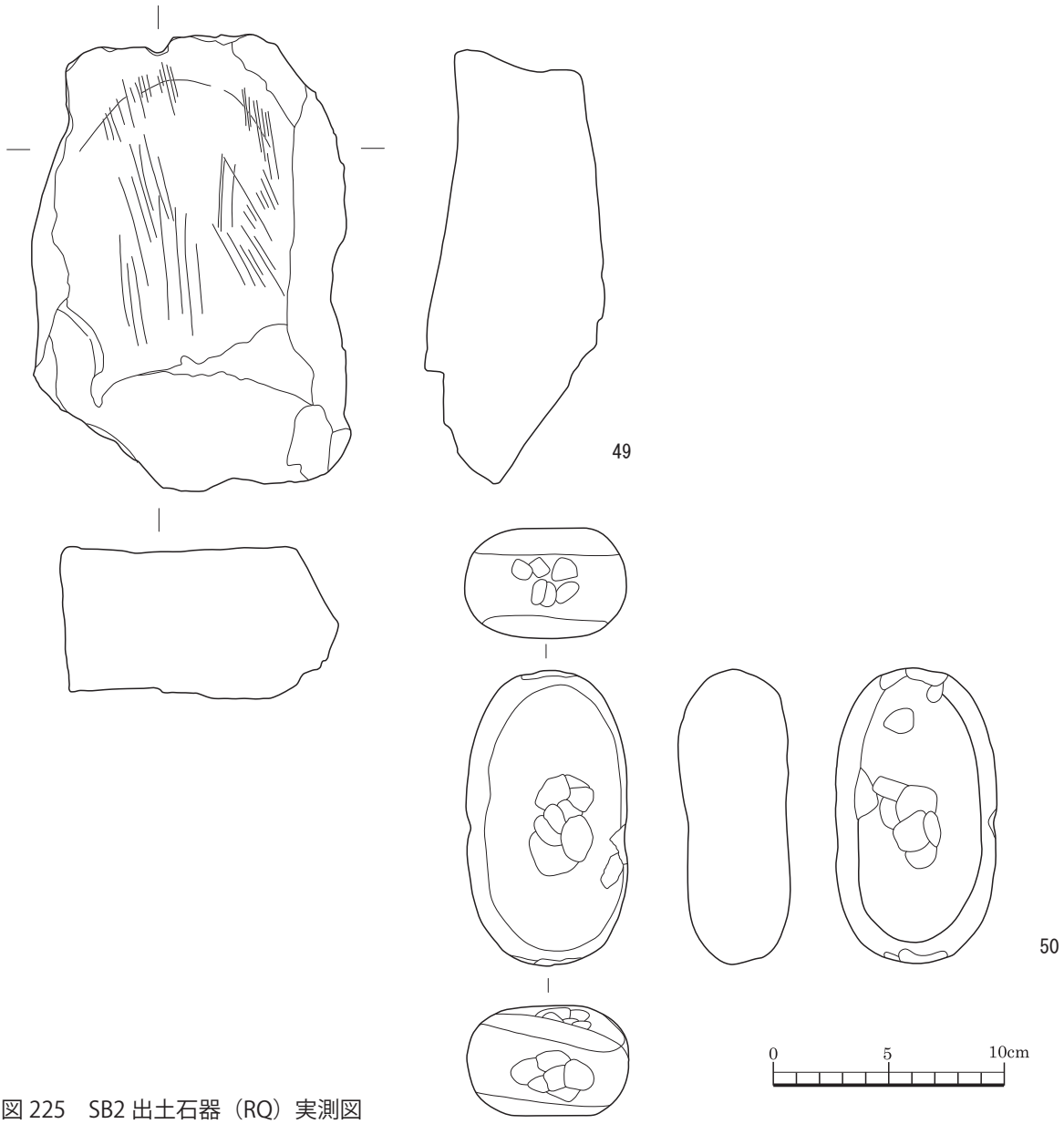


図 225　SB2 出土石器（RQ）実測図

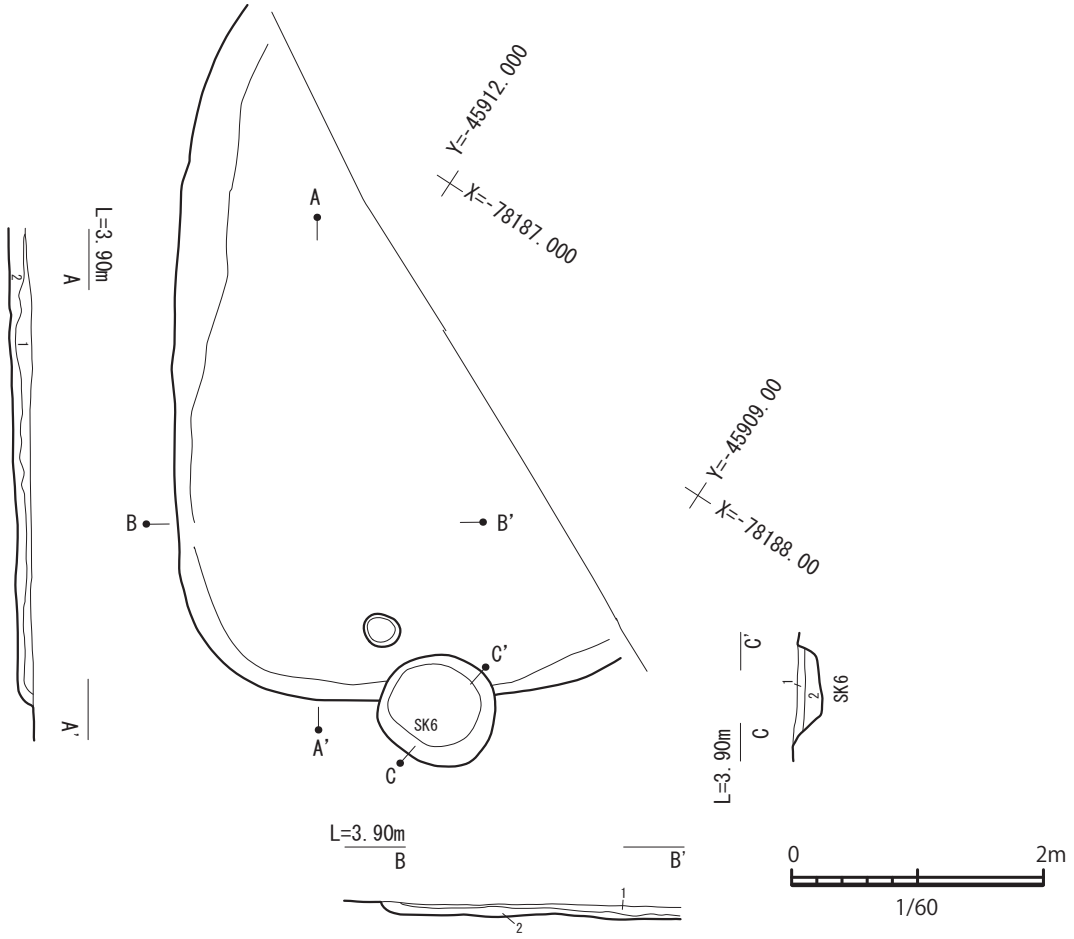
調整は剥離の為不明であり、焼成は良である。

RP843 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。口径 15.4cm、底径 4cm、器高 25cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP844 は蓋であり、埋 2 層から出土した。口径 14.6cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP845 は蓋であり、埋 2、3 層から出土した。口径 13cm、器高 3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP846 は蓋であり、埋 1 層から出土した。器高 2.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回



1　埋1層　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト、砂礫混、鉄分土粒（7.5YR 5/6明褐）極大（1～2cm）を5%混　しまりあり　粘性なし
土器片、炭化物粒（0.5cm）、石器を含む
2　埋2層　褐灰色（10YR 4/1）粘土　礫混　鉄分土粒　（7.5YR 5/6明褐）　極大（2～4cm）を5%混　しまりややあり　粘性あり
土器片、炭化物粒（0.5～1cm）、石器を含む

図 226　SB4 実測図（1/60）

転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP847 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 4.4cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP848 は高坏であり、埋 2 層から出土した。底径 11.2cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、カキメ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP849 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 27cm、器高 6.8cm を測る。器面の外面はオリーブ黒色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はタタキ、ヨコナデ、カキメ、内面調整はヨコナデ、当て具痕（同心円状）により製作され、焼成は良好である。

土壙 3（SK3）

SK3 は、平面が方形を呈する土壙である。SK3 は SB2 に切られている。1208 グリッドに位置する。

SK3 の法量は、3.3 m× 1.3 m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

竪穴建物 4（SB4）

SB4 は、平面が方形を呈する竪穴である。北西隅、

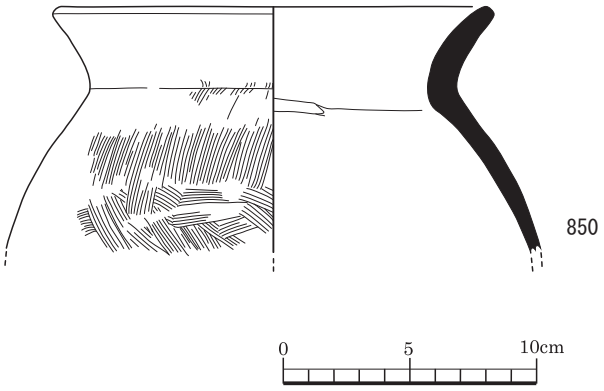


図 227　SB4 出土土器（RP）実測図

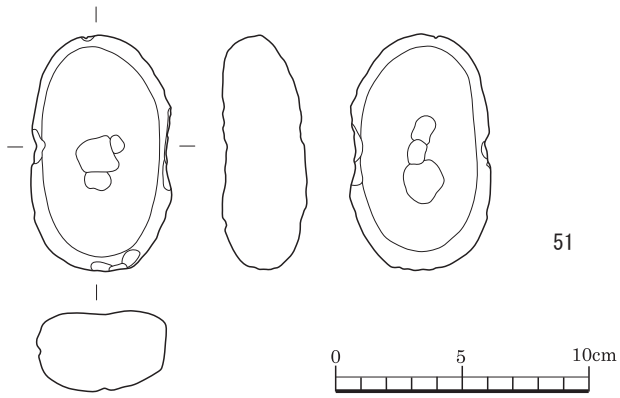


図 228　SB4 出土石器（RQ）実測図

南西隅を確認したが、残り部分は調査区外に位置するため、詳細不明である。SB4 は SK6 に切られている。1218 グリッドに位置する。

SB4 の法量は、南北 4.5 m、東西 2.8 m、遺構確認面からの深さ 18cm を測る。

主柱穴、炉等、付帯設備は、確認していない。

上記のように、主柱穴、火処等、住居の付帯設備に欠くこと、水辺に近い立地であることから、SB4 も SB2 同様、洗い場等、水利用施設の一部を形作る遺構と考えている。

SB4 では、土師器（RP850）、石器（凹付磨石）が出土している。

RP850 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 17.5cm、器高 9.8cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

土壙 6（SK6）

SK6 は、平面が円形を呈する土壙である。SK6 は SB4 を切っている。1209 グリッドに位置する。

SK6 の法量は、南北 1,0 m、東西 0.9 m、遺構確認面からの深さ 23cm を測る。

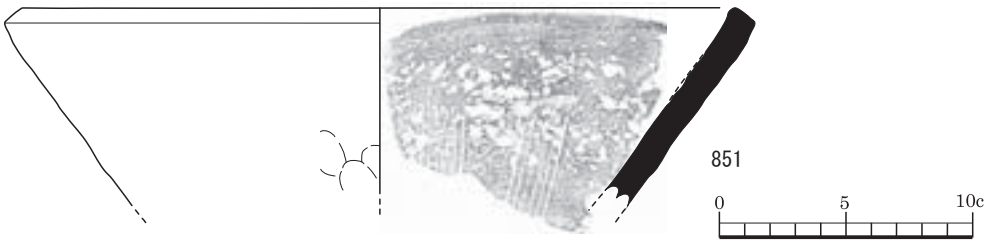


図 229　SX13 出土土器（RP）実測図

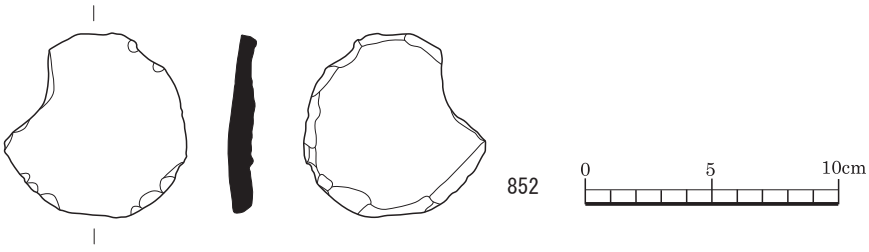


図 230　SX13 土製品（RP）実測図

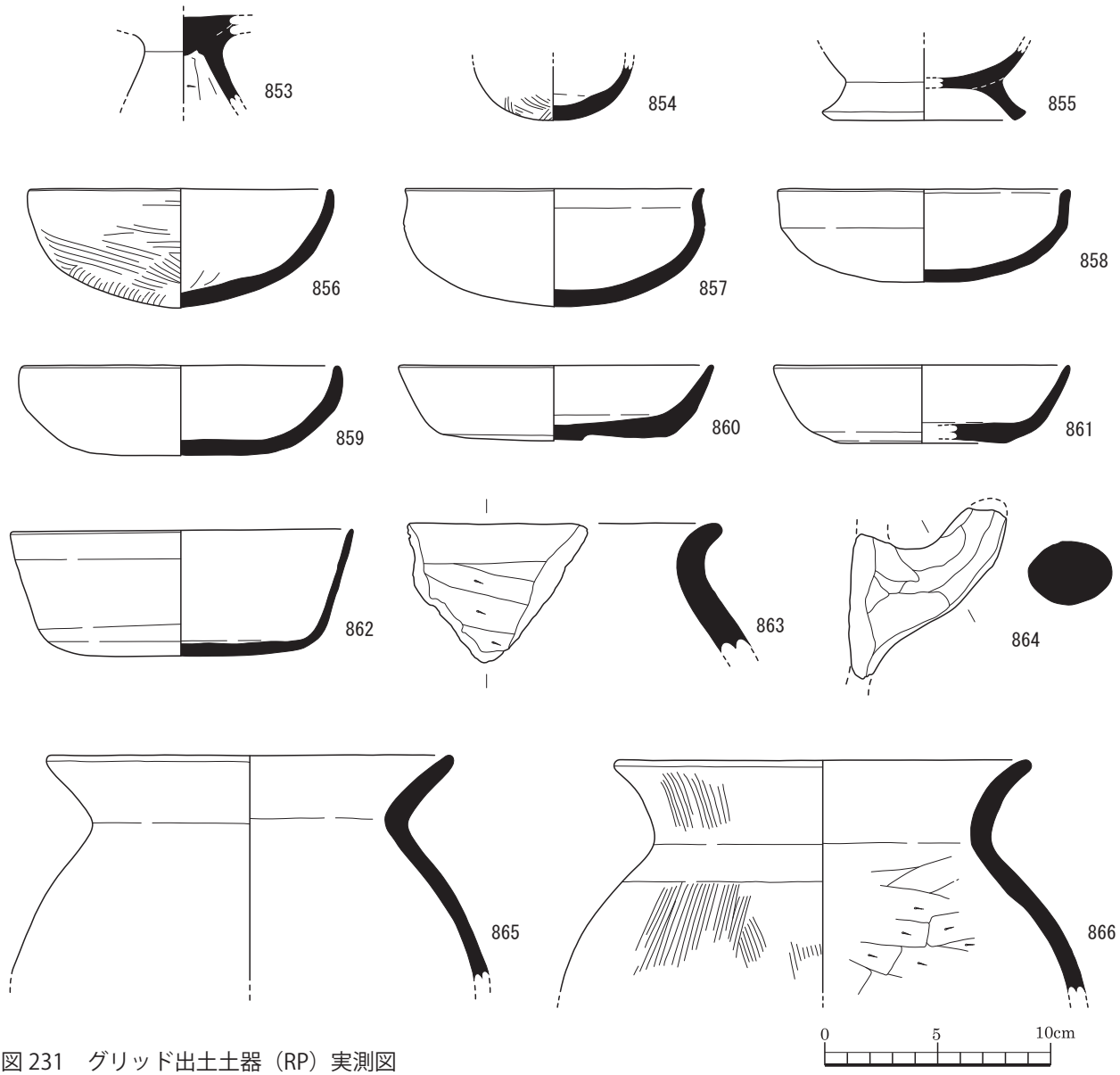


図 231　グリッド出土土器（RP）実測図

その他 7（SX7）

SX7 は、調査区 6 区南西部に「コ」形に走向する圃場整備前に使用されていた水路跡である。

この他、調査区 6 区には竹を荒簾に敷き込んだ暗渠等、現代の水利設備跡が多数検出されている。また、埋土にも潟土が混じる等、他の調査区とは異なり低湿地であったことが判明する調査結果を得ている。

その他 13（SX13）

SX13 は、調査区 6 区南西部に展開する窪地である。

RP851 は擂鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 29.8cm、器高 7.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この擂鉢は、外面調整はヨコナデ、指オサエ、内面調整はヨコナデ、ナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

RP852 は須恵器片を円盤形に打ち欠いており、埋 1 層から出土した。長さ 7.3cm、幅 7.2 cm、厚さ 1.2cm を測る。

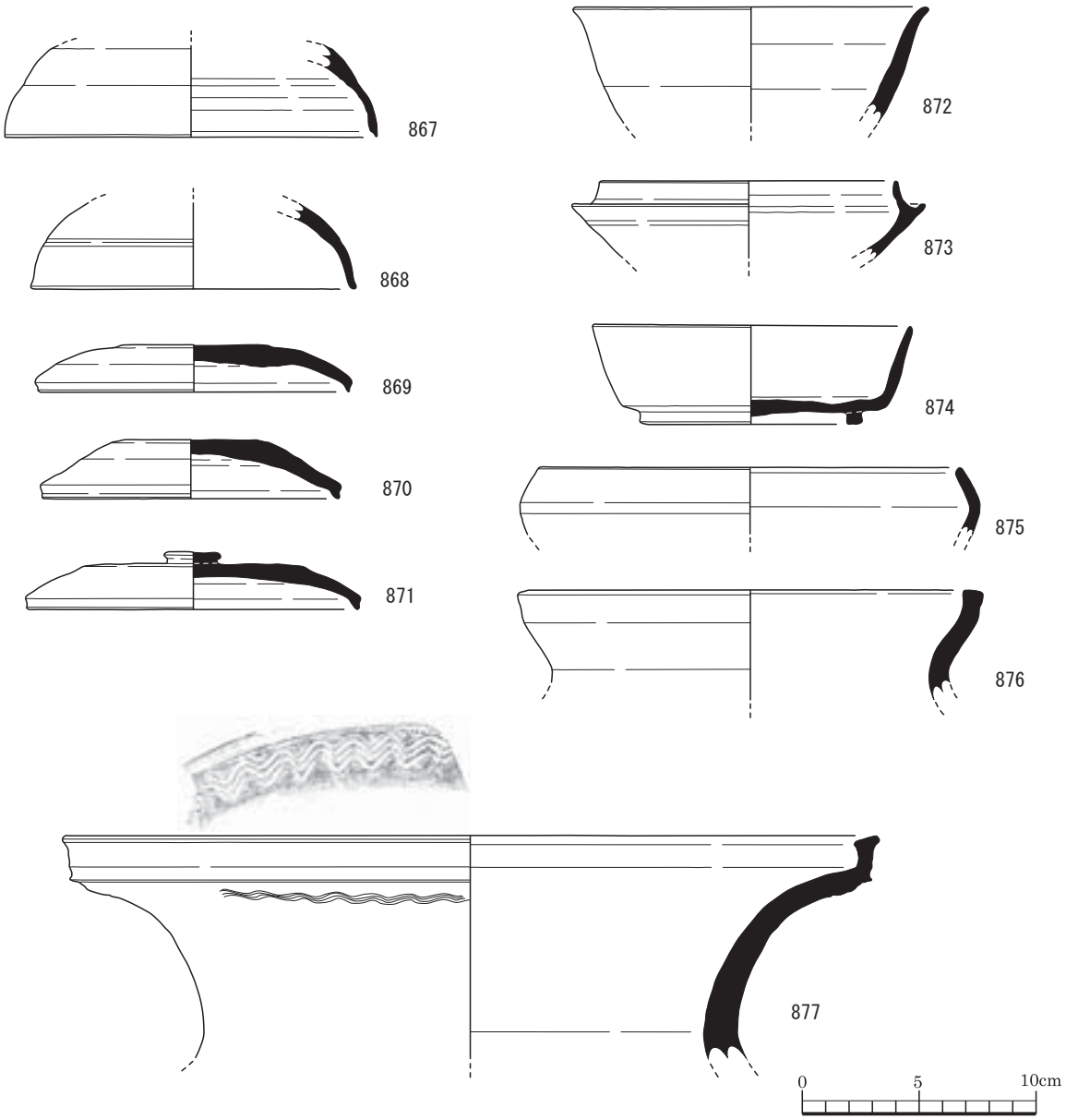


図 232　グリッド出土土器（RP）実測図

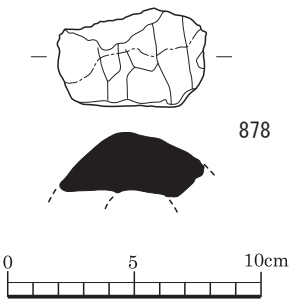


図 233　グリッド出土土製品（RP）実測図

2-7　花岡木崎遺跡 7 区の調査

2-7-1　調査区 7 区の概要

調査区 7 区は、花岡木崎遺跡の南東部に位置する。面積は約 1,250㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 2,500㎡である。

なお、調査区 7 区の発掘調査は、宮崎敬士（参事）、伊藤友美子及び横矢晋二郎（非常勤嘱託）が担当した。

また、発掘調査は「花岡木崎遺跡発掘調査要領」（1-3-2 発掘作業の方法）に基づき実施している。

2-7-2　調査区 7 区の遺構と遺物

調査区 7 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

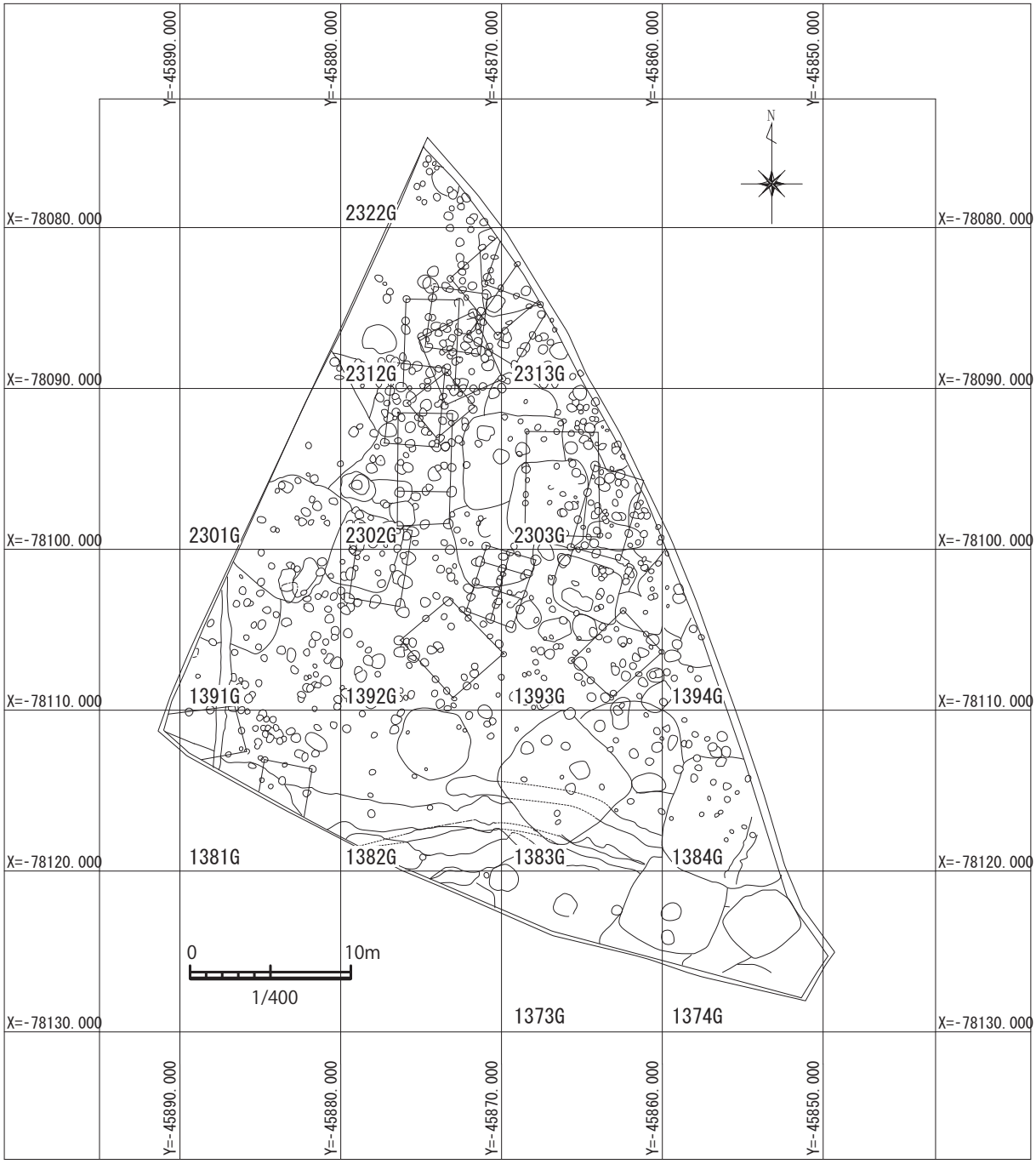


図 234　7 区遺構配置図（1/400）

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

竪穴建物 1（SB1）

SB1 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB1 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。1384 グリッドに位置する。

SB1 の法量は、南北 8.2m、東西 6.4m、遺構確認面からの深さ 94cm を測る。

SB1 では土師器（RP879~912）、須恵器（RP916、917）、石器（RQ52~60）が出土している。

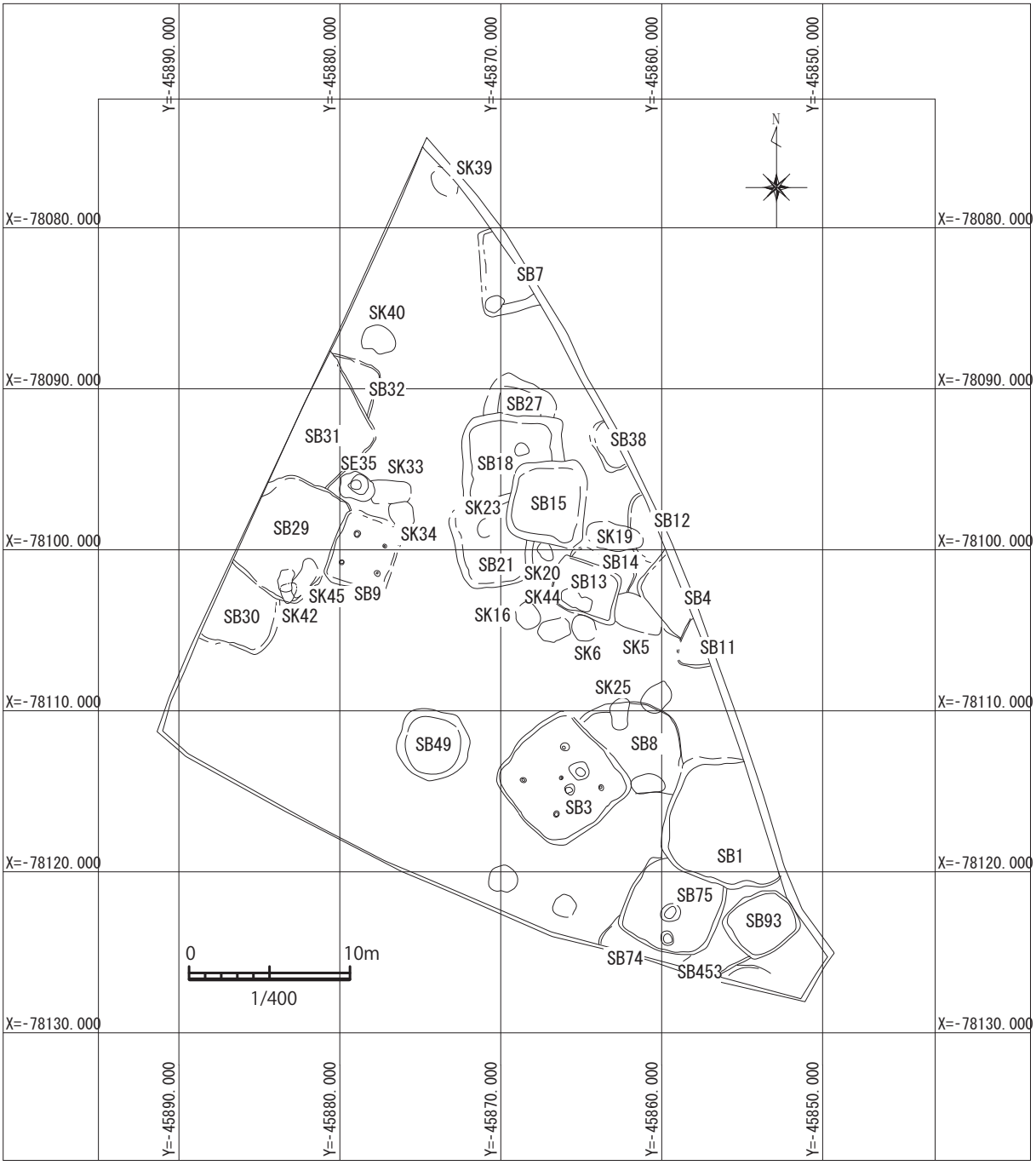


図 235　7 区遺構配置図（1/400）

土製品（RP）には、製塩土器（RP895）、紡錘車（RP917）が含まれている。

RP879 は高坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 22.3cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石を微量含むが観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP880 は高坏であり、埋 7 層から出土した。底径 11.2cm、器高 6.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP881 は坏であり、埋 3、4 層から出土した。口

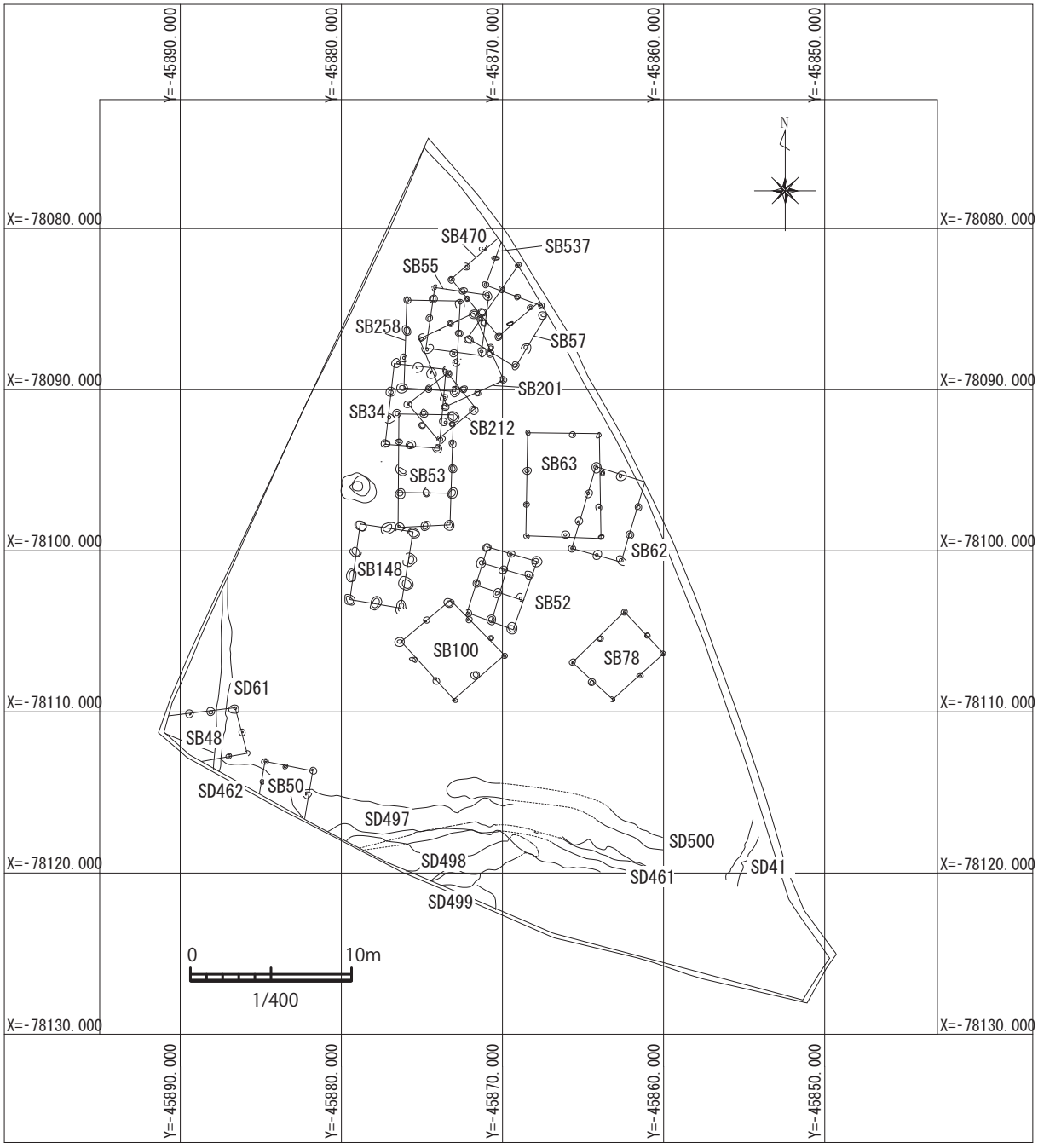
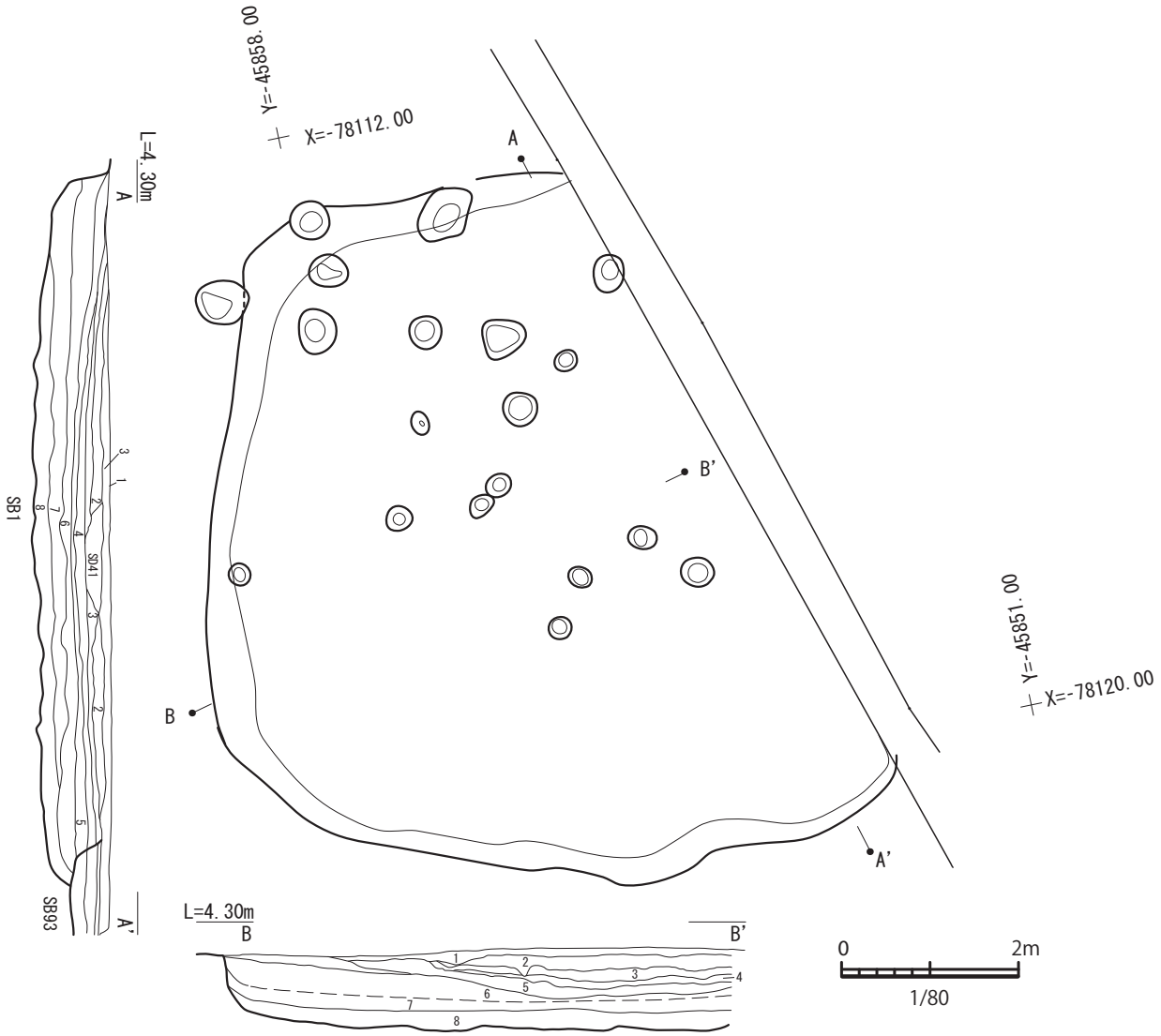


図 236　7 区遺構配置図（1/400）



1　埋1層　灰黄褐色（10YR 5/2）砂　粘性なし　しまりあり　明褐色マンガン粒（0.5～1cm）を2%含む　土器片含む　SB1の埋土ではなく近くの流路からの流れ込み層
2　埋2層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　粘性なし　しまりなし　10YR 2/1黒色マンガン粒を7%含む　土器片を多く含む
3　埋3層　黒褐色（10YR 3/1）シルト　粘性ややあり　しまりなし　炭化物粒（0.5～2cm）を2%含む　土器片を多く含む
4　埋4層　灰褐色（10YR 4/2）シルト　粘性あり　しまりなし　炭化物粒（0.5～2cm）を2%含む　土器片を含む
5　埋5層　にぶい褐色（10YR 5/3）シルト　粘性ややあり　しまりなし　炭化物粒（0.5～1.0cm）を5%含む　土器片含む
6　埋6層　灰褐色（10YR 4/2）シルト　（粘土に近い）　粘性あり　しまりなし　炭化物粒（0.5～1cm）を3%含む　土器片をごくわずかに含む
7　埋7層　褐色（10YR 4/3）シルト（粘土に近い）　粘性あり　しまりなし　炭化物粒（0.5～1cm）を2%含む
8　埋8層　灰褐色（10YR 5/2）シルト（粘土に近い）　粘性あり　しまりなし　炭化物粒（0.5cm）を1%含む

図 237　SB1 実測図（1/80）

径 11cm、器高 8.6cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には長石、雲母、砂粒が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP882 は坏であり、埋 3、4 層から出土した。口径 13.3cm、器高 8cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP883 は坏であり、埋 5 層から出土した。口径 14.8cm、器高 7.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、白色粒

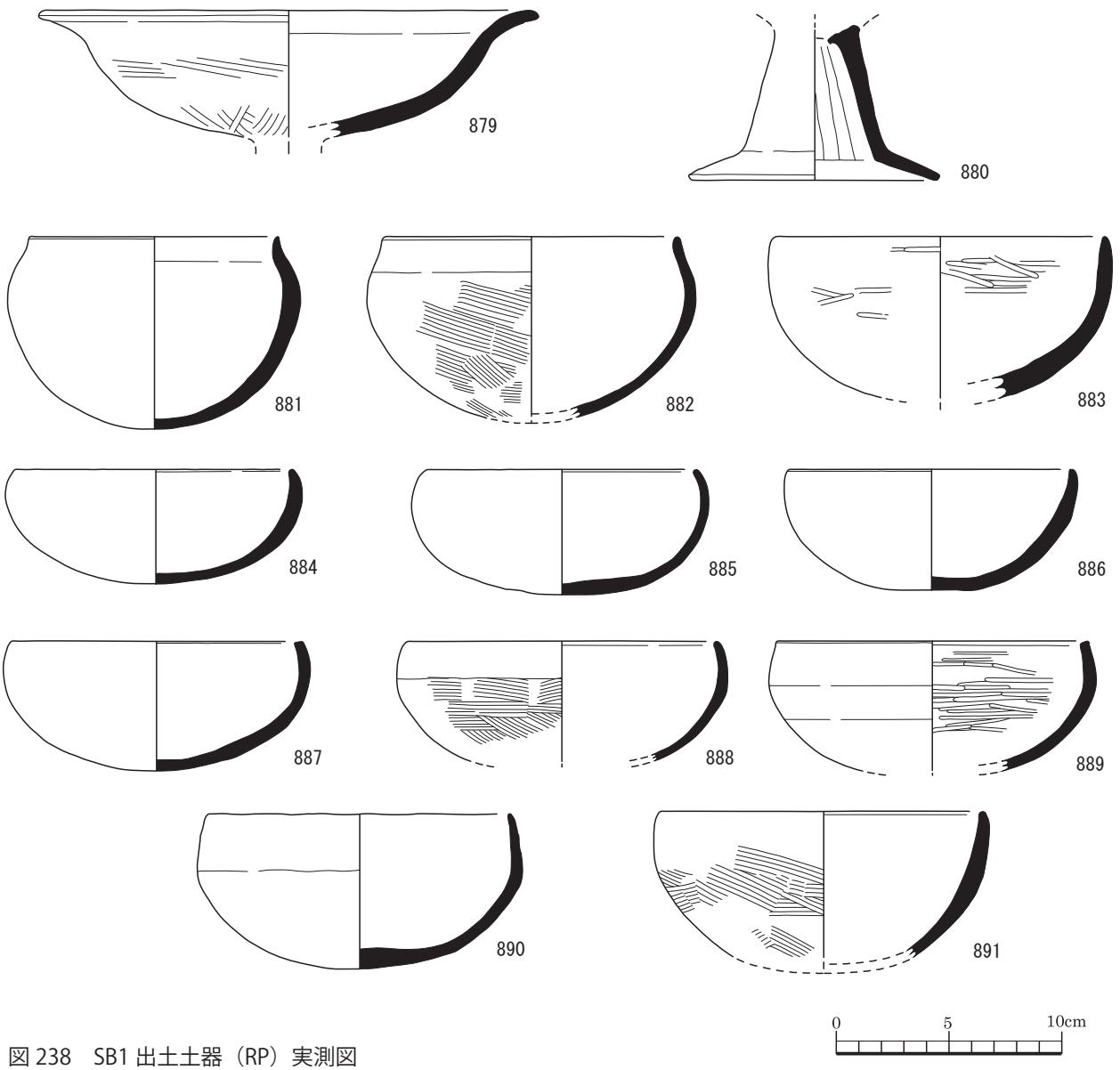


図 238　SB1 出土土器（RP）実測図

子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ミガキ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良である。

RP884 は坏であり、埋 3、4、5 層から出土した。口径 12.3cm、底径 3.4cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、黒色粒子、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、工具によるナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はヨコナデ、工具によるナデにより製作され、焼成は良好である。

RP885 は坏であり、埋 3 層南 G 埋 1 層から出土した。口径 12cm、底径 3.8cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は橙橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は工具によるナデ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はヨコナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP886 は坏であり、埋 3、4 層から出土した。口径 12.7cm、底径 36.9cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には褐色粒子、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良好である。

RP887 は坏であり、埋 5 層から出土した。口径

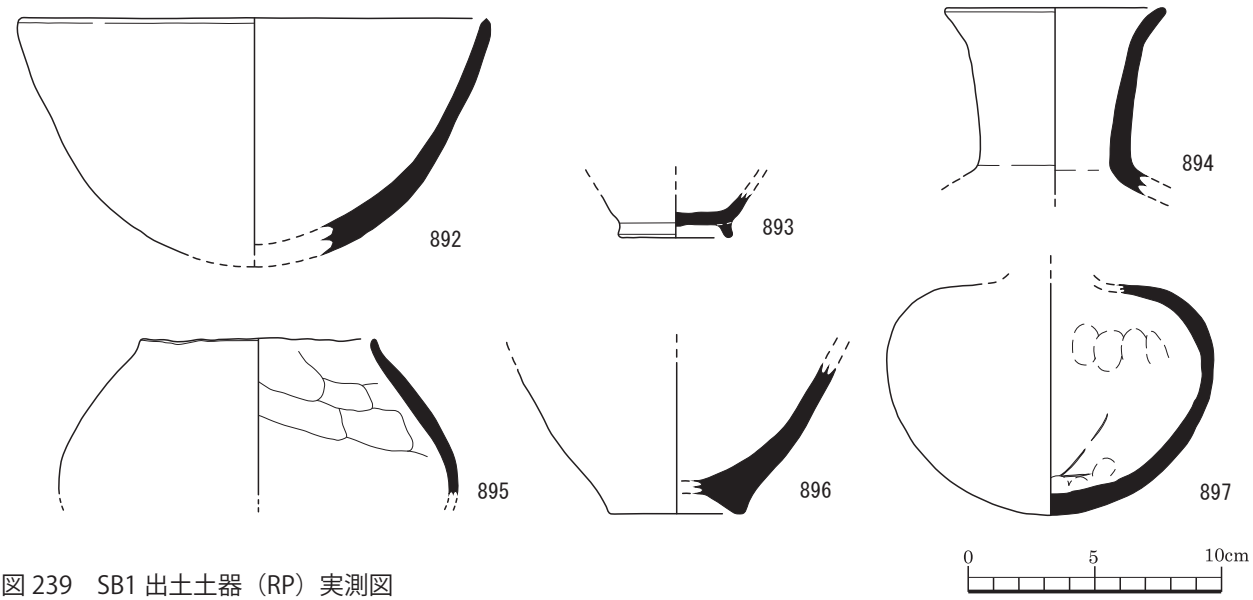


図 239　SB1 出土土器（RP）実測図

13cm、器高 5.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ヘラ切り離し、ナデ、ヨコナデ、内面調整は工具ナデ、ナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP888 は坏であり、埋 3、4 層から出土した。口径 13.8cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には角閃石、長石、白色粒子が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP889 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 14cm、器高 5.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には 1㎜程の長石を微量含むが観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP890 は坏であり、埋 4 層から出土した。口径 13.5cm、器高 6.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、磨滅により製作され、焼成は良である。

RP891 は坏であり、埋 5、6、7 層から出土した。口径 14.5cm、器高 6.5cm を測る。器面の外面は赤橙色、内面は赤色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP892 は鉢であり、埋 3、5 層から出土した。口径 18.8cm、器高 9.4cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP893 は坏であり、埋 3 層から出土した。底径 4.3cm、器高 1.7cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。RP893 は、SB1 から出土した他の土器群と様式が一致しない。

RP894 は壺であり、埋 3、4 層から出土した。口径 8.8cm、器高 7.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土にはチャートが観察される。この壺は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良好である。

RP895 は製塩土器であり、埋 3 層から出土した。口径 9.2cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この製塩土器は、外面調整はナデ、内面調整は工具ナデ、ナデによ

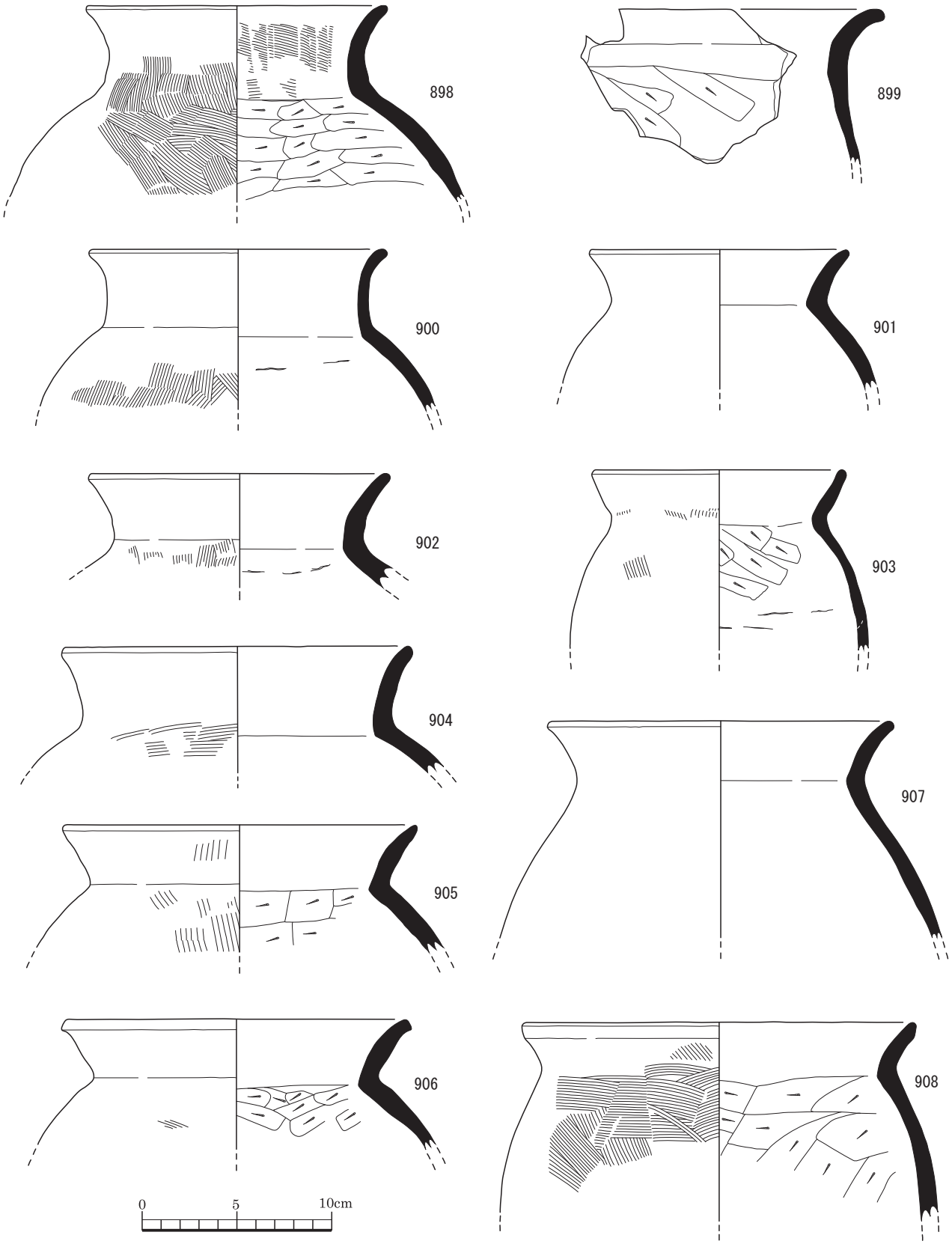


図 240　SB1 出土土器（RP）実測図

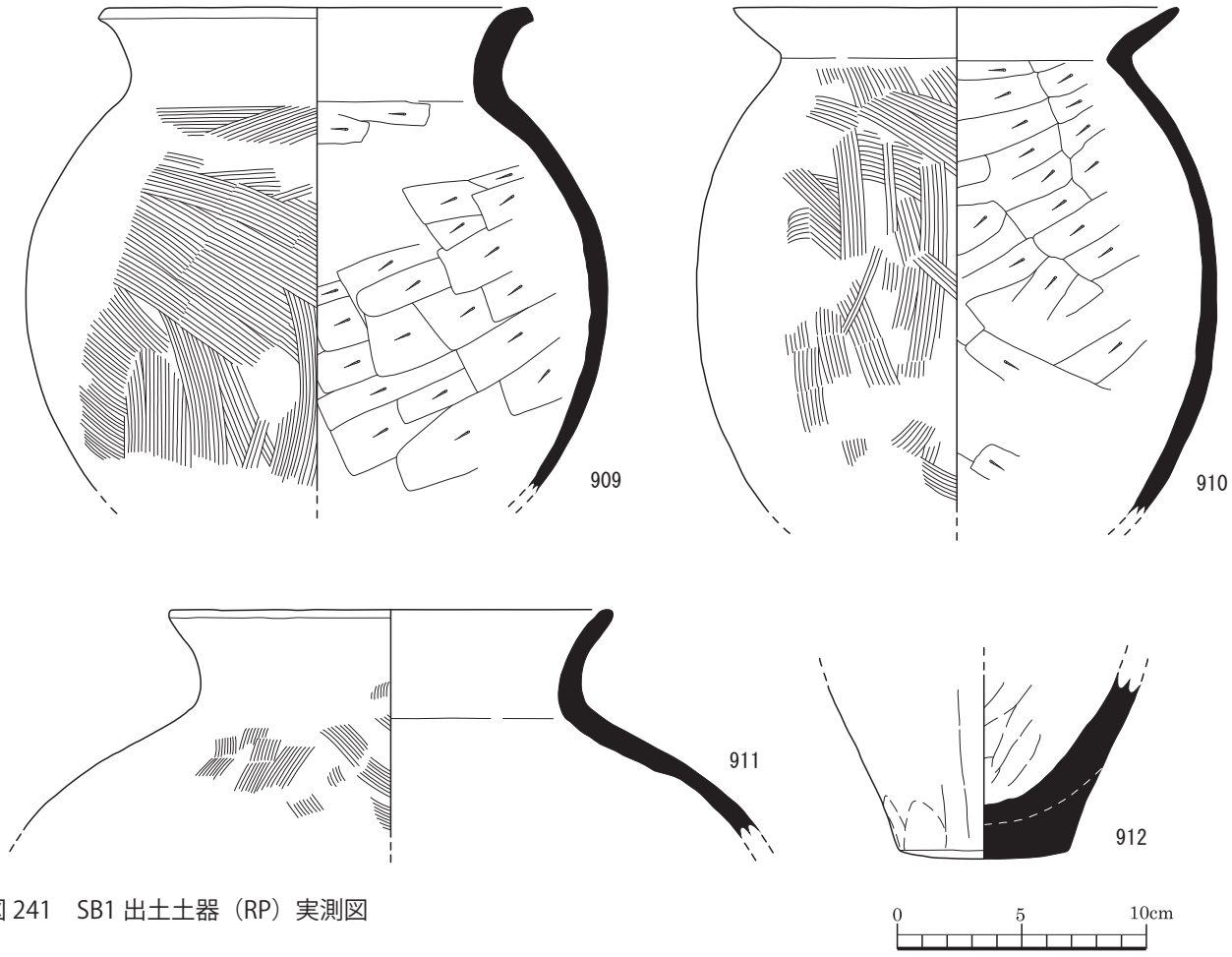


図 241　SB1 出土土器（RP）実測図

り製作され、焼成は良である。

RP896 は壺であり、埋 3 層から出土した。底径 5.1cm、器高 6cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には石英が観察される。この壺は、外面調整は磨滅、内面調整はナデにより製作され、焼成は良好である。

RP897 は壺であり、埋 1 層から出土した。器高 9.2cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、内面調整はナデ、指頭圧痕により製作され、焼成は良である。

RP898 は壺であり、埋 4 層から出土した。口径 16cm、器高 10.4cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP899 は甕であり、埋 1、3、4 層から出土した。器高 8.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には砂粒、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP900 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 15.8cm、器高 8.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には角閃石、雲母、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP901 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 13.8cm、器高 7.4cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、チャートが観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好

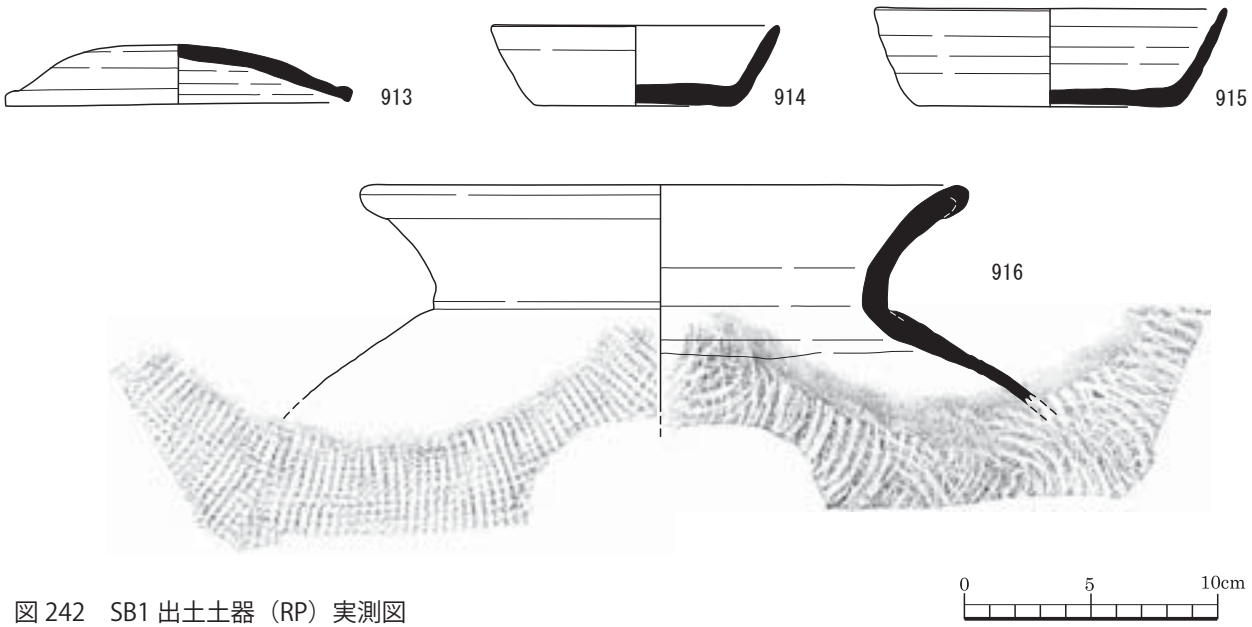


図 242　SB1 出土土器（RP）実測図

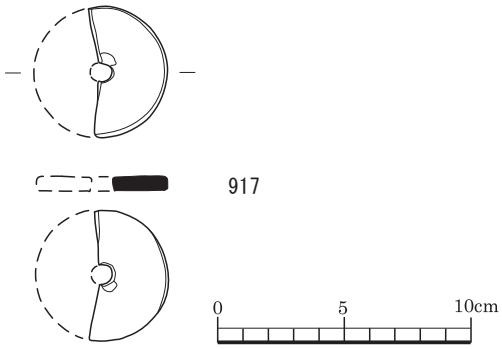


図 243　SB1 土製品（RP）実測図

である。

RP902 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 16cm、器高 69cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には礫、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP903 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 13.5cm、器高 9.6cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、チャートが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP904 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 18.6cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ヨコナデ、ケズリにより製作され、焼成は良である。

RP905 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 18.8cm、器高 6.75cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP906 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 18.6cm、器高 6.9cm を測る。器面の外面は赤橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP907 は甕であり、埋 2、5 層から出土した。口径 18.4cm、器高 11.5cm を測る。器面の外面は浅黄橙、灰白色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP908 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 21cm、器高 10.5cm を測る。器面の外面は明赤褐

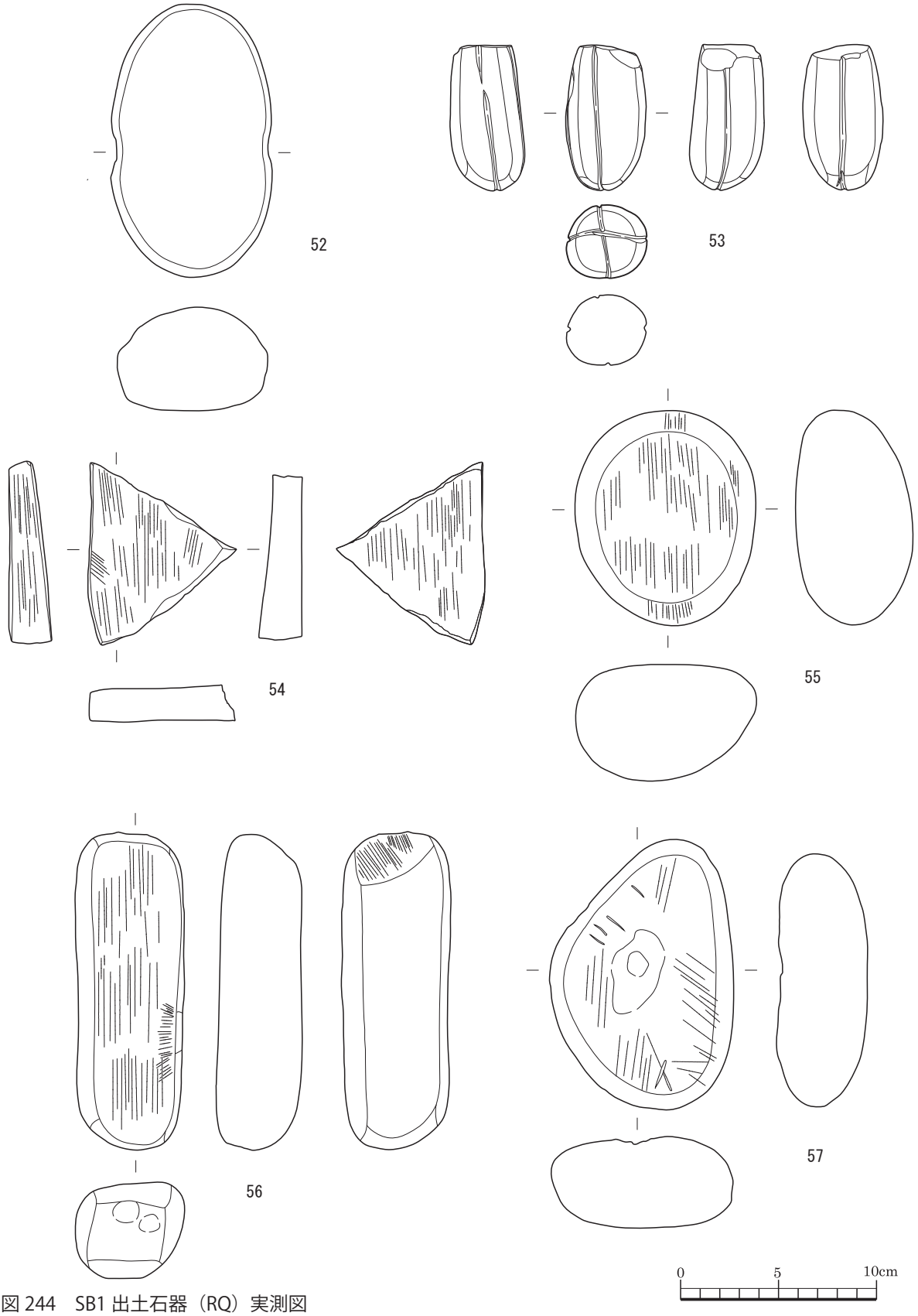


図 244　SB1 出土石器（RQ）実測図

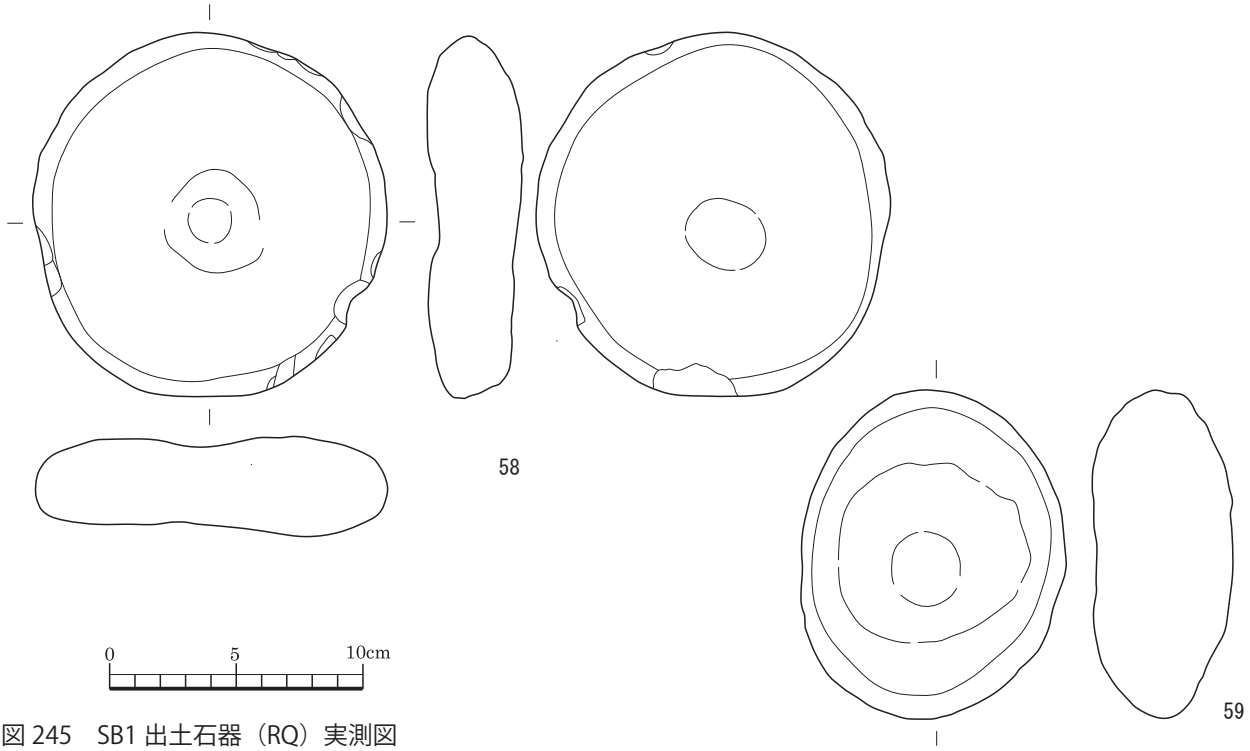


図 245　SB1 出土石器（RQ）実測図

色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、金雲母、チャートが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP909 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 17.6cm、器高 19.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土にはチャート、角閃石、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP910 は甕であり、埋 1、4、5、7 層から出土した。口径 18cm、器高 20.35cm を測る。器面の外面はにぶい橙、明赤褐、褐灰色、内面はにぶい橙、灰褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP911 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 18cm、器高 9.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP912 は甕であり、埋 7 層から出土した。底径 6.8cm、器高 7.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP913 は蓋であり、埋 1、2 層から出土した。口径 13.8cm、器高 2.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ヘラケズリ、回転ナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP914 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 11.4cm、底径 7.8cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP915 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 14cm、底径 10.4cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

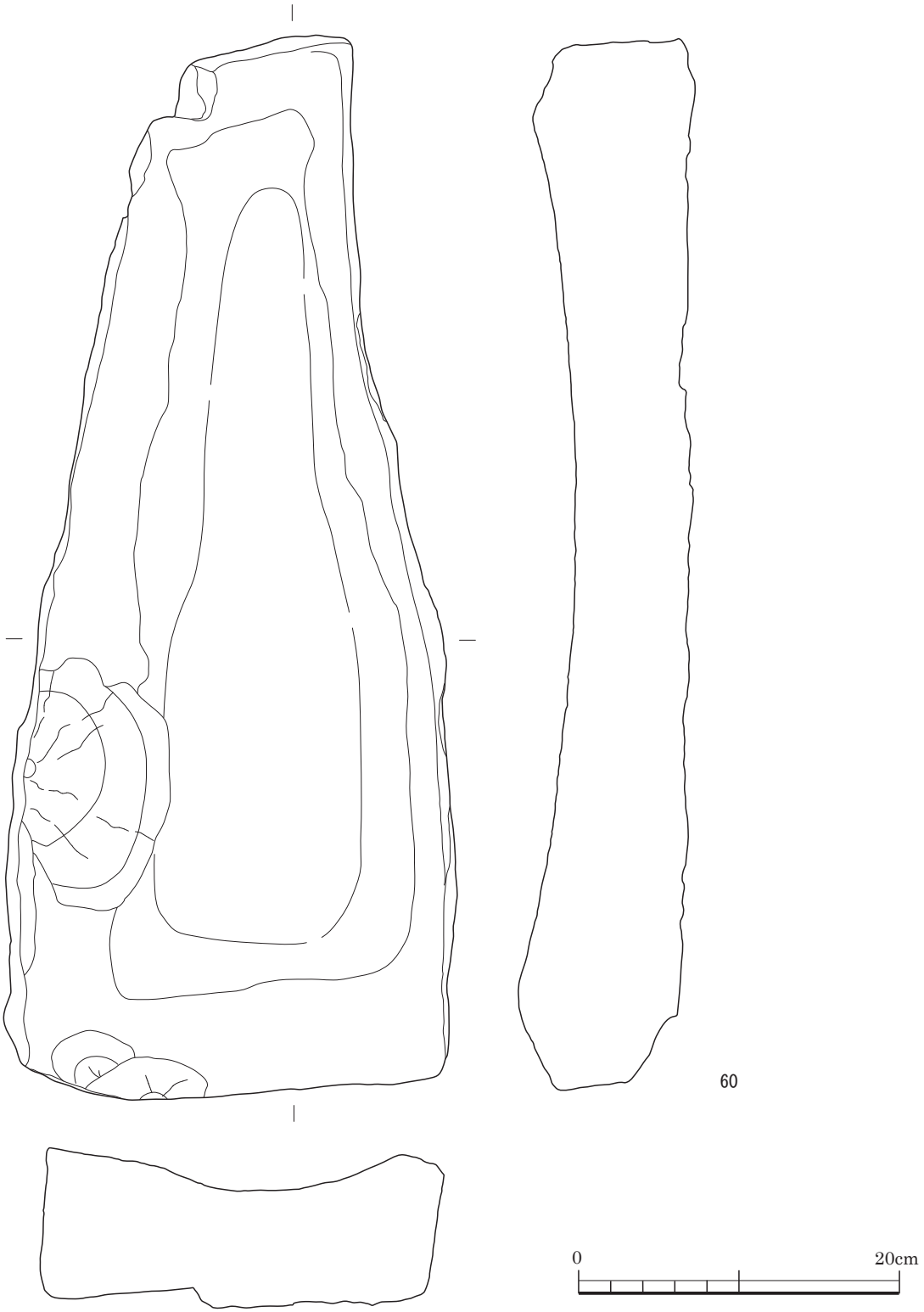
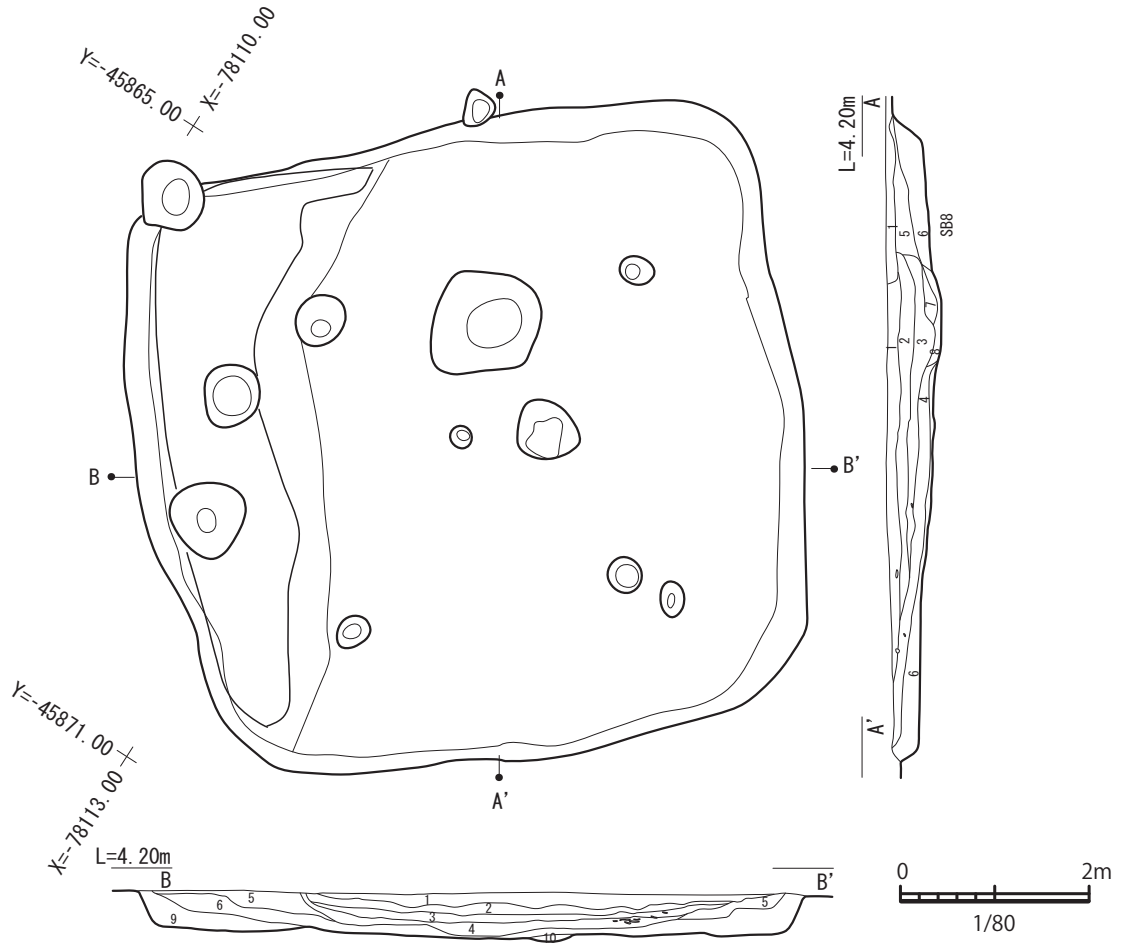


図 246　SB1 出土石器（RQ）実測図



1　灰黄褐色（10YR 5/2）砂礫層　しまりあり　粘性なし　横を流れる河道からの流れ込み層であるため、ＳＢ3の純粋な埋土とは言えない
　　1層中には古代と古墳の遺物がローリングで混在しており、1層の最下には1～6ｃｍ大の礫が推積している様子は典型的な河川推積と言える
2　黒褐色（10YR 2/2）シルト　しまりあり　粘性なし　土器片を非常に多く含む
3　黒褐色（10YR 3/2）シルトと10YR 6/4にぶい黄橙色シルトとの混土　しまりなし　粘性あり　土器片を非常に多く含む　粘土に近い
4　黒褐色（10YR 3/1）シルト　しまりなし　粘性あり　1～10ｃｍ大の炭化物ブロックを10%で含む
　　4層はＳＢ3の建築材が崩落もしくは倒されて推積した層と考えられるほど炭化物ブロックが非常に多かった
　　地山の様子や焼土を含まないことから、火災住居の可能性は低い.完形品に近い土器を非常に多く含む　粘土に近い埋土
5　明褐色（10YR 3/3）シルト　しまりあり　粘性あり　10YR 2/1黒色マンガン粒5mm大を3%含む　土器片を多く含む
6　にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト　砂に近い　しまりややあり　粘性なし　10YR 3/1黒褐色マンガン粒（0.5～1ｃｍ大）5%含む　土器片少量含む
7　暗黄褐色（10YR 6/6）シルト
8　黒色（10YR 2/1）シルト　しまりなし　粘性あり　炭層（埋4層と同一層の可能性あり）
9　暗褐色（10YR 3/4）　粘性少しあり　炭、焼土なし　しまりあり
10　暗褐色（10YR 3/4）　粘性少しあり　炭多い　焼土少しあり　土器あり　しまりあり

図 247　SB3 実測図（1/80）

RP916 は甕であり、埋 1、2、3 層から出土した。口径 24.1cm、器高 8.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はタタキ（格子）、ヨコナデ、内面調整はタタキ（同心円）、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP917 は紡錘車であり、埋 6 層から出土した。口径 5.2 全長 cm、底径 3.1 幅 cm、厚さ 0.6cm を測る。

RQ52~60 は石器である。SB1 では多種類の石器が出土している。

RQ52 は石錘、RQ53 は切目石錘、RQ54 は砥石、RQ55、56 は磨石、RQ57~59 は凹石、RQ60 は舟形槽である。

竪穴住居 3（SB3）

SB3 は、平面が正方形を呈し、炉、ベッド状遺構を

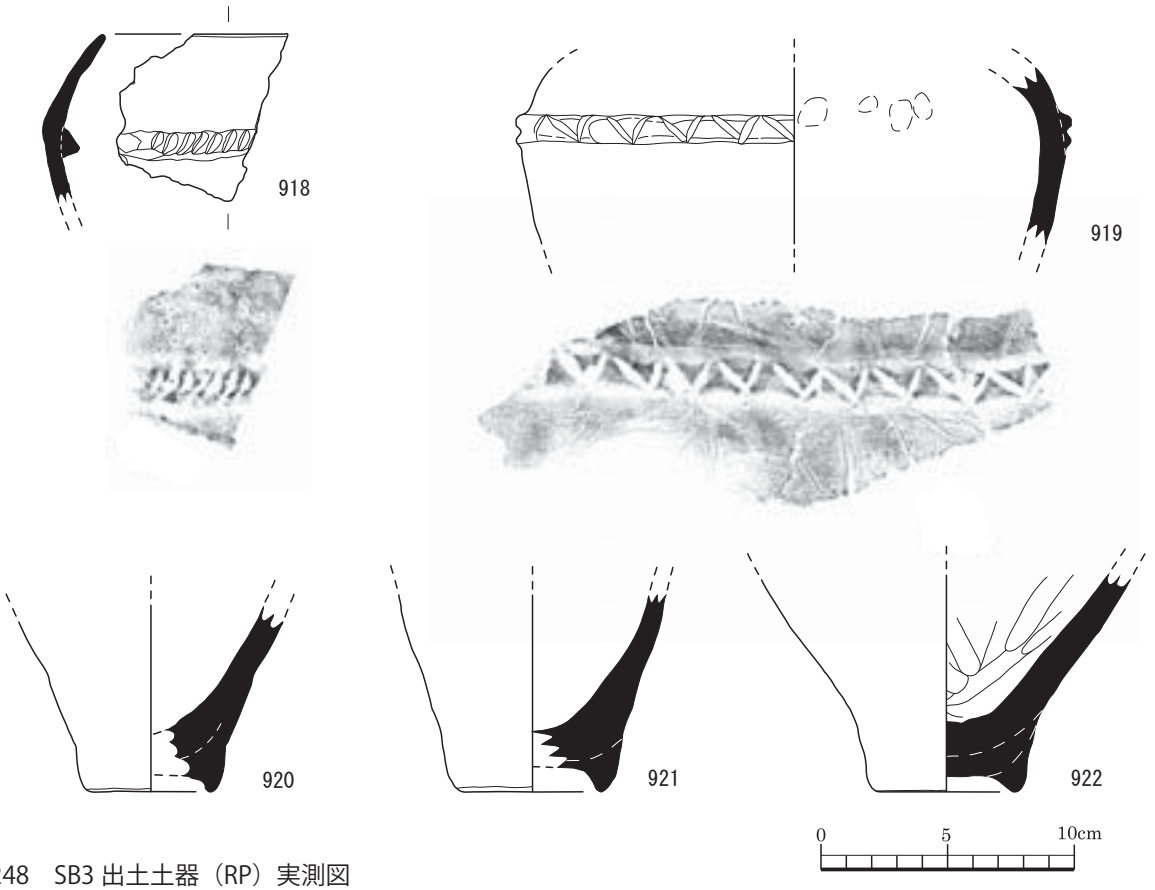


図 248　SB3 出土土器（RP）実測図

備えた 4 本柱建ての竪穴住居である。1383 グリッドに位置する。

SB3 の法量は、南北 6.8m、東西 7.1m、遺構確認面からの深さ 56cm を測る。

主柱穴は、側壁から約 1.1m 内側に 4 基配されている。主柱穴の直径は約 40~60cm である。また、南東主柱穴の外側、住居の中央には小ピット各 1 基が配されている。

炉は、1.1 × 1.2m の方形を呈し、深さ 10cm を測る。炉の南東には直径約 60cm の土壙が付設され、焼土、土器片が包含されていた。

ベッド状遺構は、西側壁に沿って、側壁と西側主柱穴列との間に位置している。床面から 15㎝程度の高さであり、その幅は北端では広く、南端では細く変化している。

SB3 では土師器（RP918~970）、須恵器（RP971~983）、石器（RQ61~67）が出土している。

土器（RP）には、九州南東部からの搬入土器（RP918~922）、ミニチュア土器（RP923、924）が含まれている。

RP918 は壺であり、埋 5 層から出土した。器高 6.7cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい橙、黄灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この壺は、突帯貼付が施され、焼成は良である。

RP919 は壺であり、埋 4、5 層から出土した。器高 7cm を測る。器面の外面はにぶい橙、褐灰色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この壺は、外面調整はナデ、突帯貼付、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP920 は甕であり、埋 1 層から出土した。底径 5.2cm、器高 7.4cm を測る。器面の外面は明黄褐、橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP921 は甕であり、埋 1 層から出土した。底径 6cm、器高 7.8cm を測る。器面の外面は灰黄褐、に

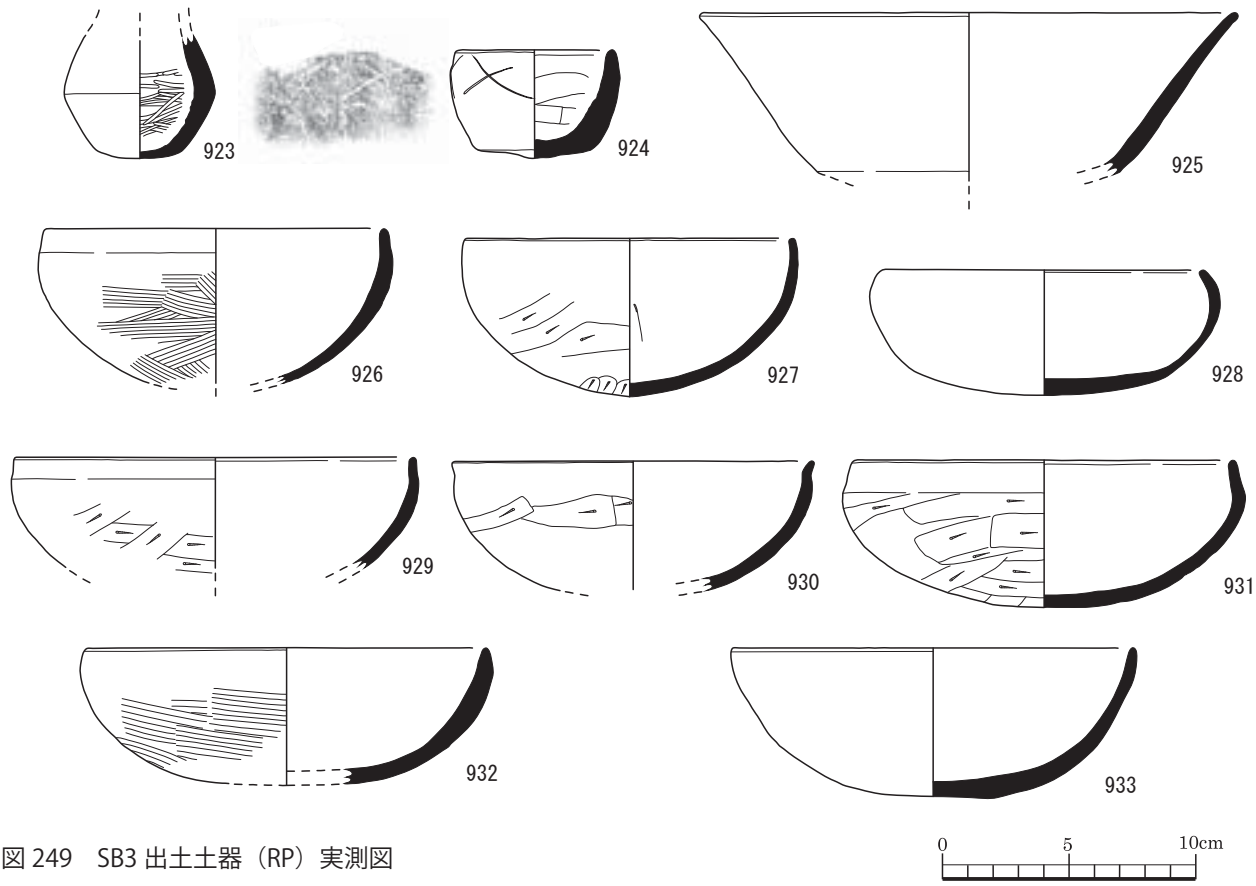


図 249　SB3 出土土器（RP）実測図

ぶい黄褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP922 は甕であり、埋 1 層から出土した。底径 5.6cm、器高 8.6cm を測る。器面の外面は橙、褐灰、赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、茶色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP923 はミニチュア土器の壺であり、埋 4 層から出土した。底径 3.3cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は赤褐色、内面は赤褐、橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母が観察される。このミニチュア土器は、外面調整は丁寧なナデ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良好である。

RP924 はミニチュア土器の鉢であり、埋 4 層から出土した。口径 6.3cm、底径 4.5cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は淡橙、灰白色を呈し、胎土には赤色粒子、黒色粒子が観察される。このミニチュア土器は、外面調整はナデ、内面調整は工具痕、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP925 は高坏であり、埋 9 層から出土した。口径 21.4cm、器高 6.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には雲母、角閃石、石英、長石、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP926 は坏であり、埋 2、3、4 層から出土した。口径 13.6cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP927 は坏であり、埋 4、5 層から出土した。口径 11cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は明赤褐、暗赤灰色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、雲母、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整は工具ナデ、ヨ

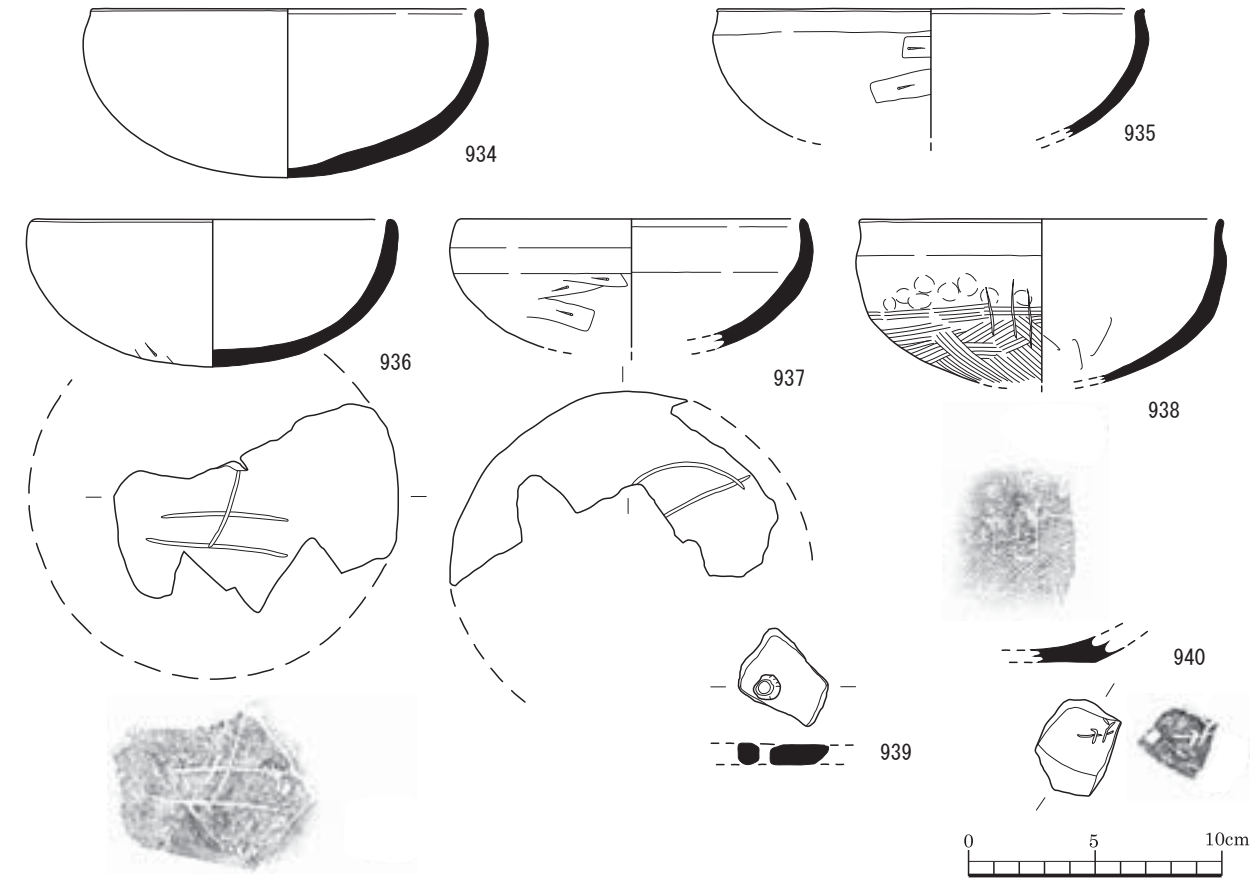


図 250　SB3 出土土器（RP）実測図

コナデにより製作され、焼成は良である。

RP928 は坏であり、埋 2、6 層から出土した。口径 12.6cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP929 は坏であり、埋 5 層から出土した。口径 16cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は明赤褐、褐灰色、内面は橙、灰褐、明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、茶褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP930 は坏であり、埋 5、6 層から出土した。口径 14.4cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は赤褐色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作されている。

RP931 は坏であり、埋 4 層から出土した。口径 15cm、器高 5.85cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は明赤褐、橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP932 は坏であり、埋 4、5 層から出土した。口径 16cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP933 は坏であり、埋 2、5 層から出土した。口径 16cm、底径 4.7cm、器高 6cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヘラケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

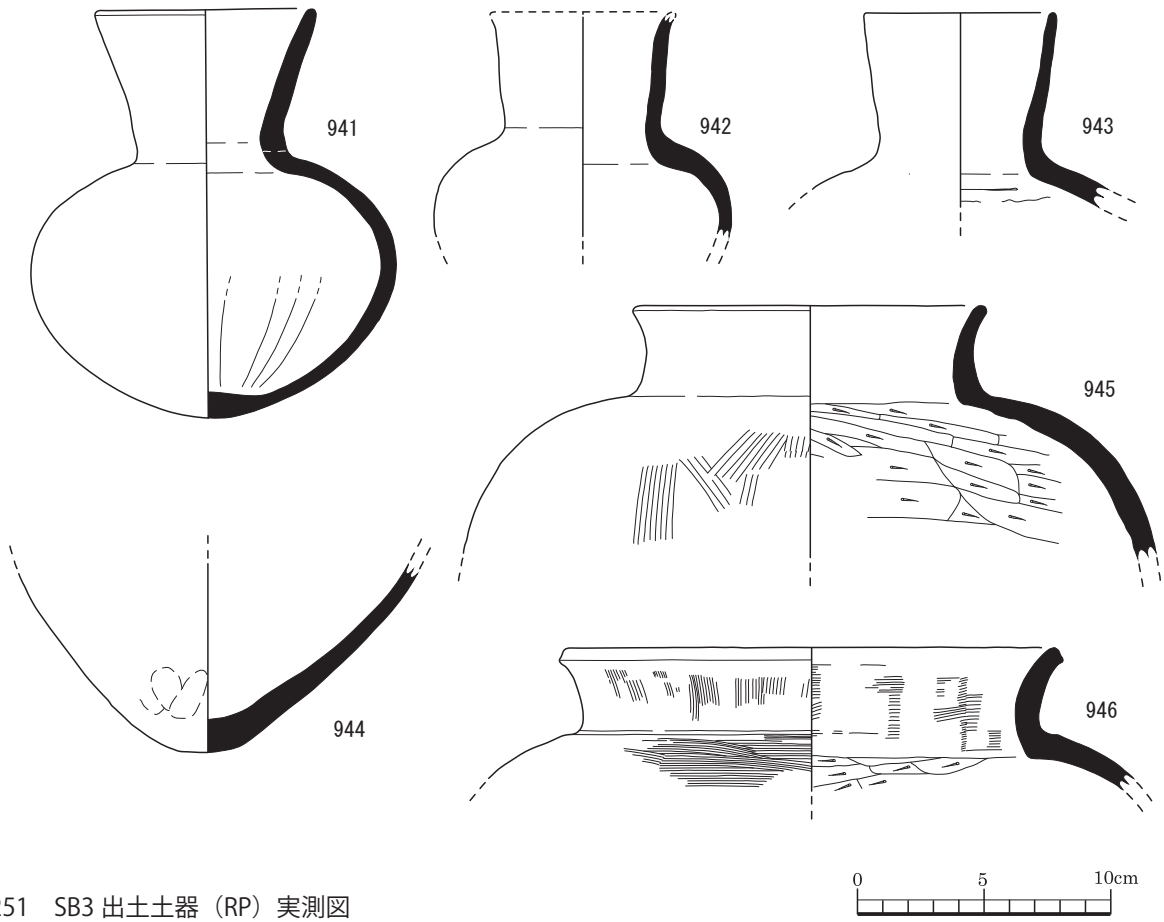


図 251　SB3 出土土器（RP）実測図

RP934 は坏であり、埋 3、5 層から出土した。口径 15.6cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP935 は坏であり、埋 4、5 層から出土した。口径 17cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は明赤褐、暗赤灰色、内面も明赤褐、暗赤灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整は剥離により不明、焼成は良である。

RP936 は底部に線刻をもつ坏であり、埋 3、5 層から出土した。口径 14.6cm、器高 5.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP937 は底部に線刻をもつ坏であり、埋 2、4 層から出土した。口径 14cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は橙黄色、内面も橙黄色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラ記号、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP938 は底部に線刻をもつ坏であり、埋 1、2、5 層から出土した。口径 14.4cm、器高 6.5cm を測る。器面の外面は赤色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、指頭圧痕、ヨコナデ、内面調整はナデ（工具痕有り）、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP939 は穿孔された土器片であり、埋 5 層から出土した。穿孔の直径 5mm、土器片の厚さ 0.85cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。焼成は良である。

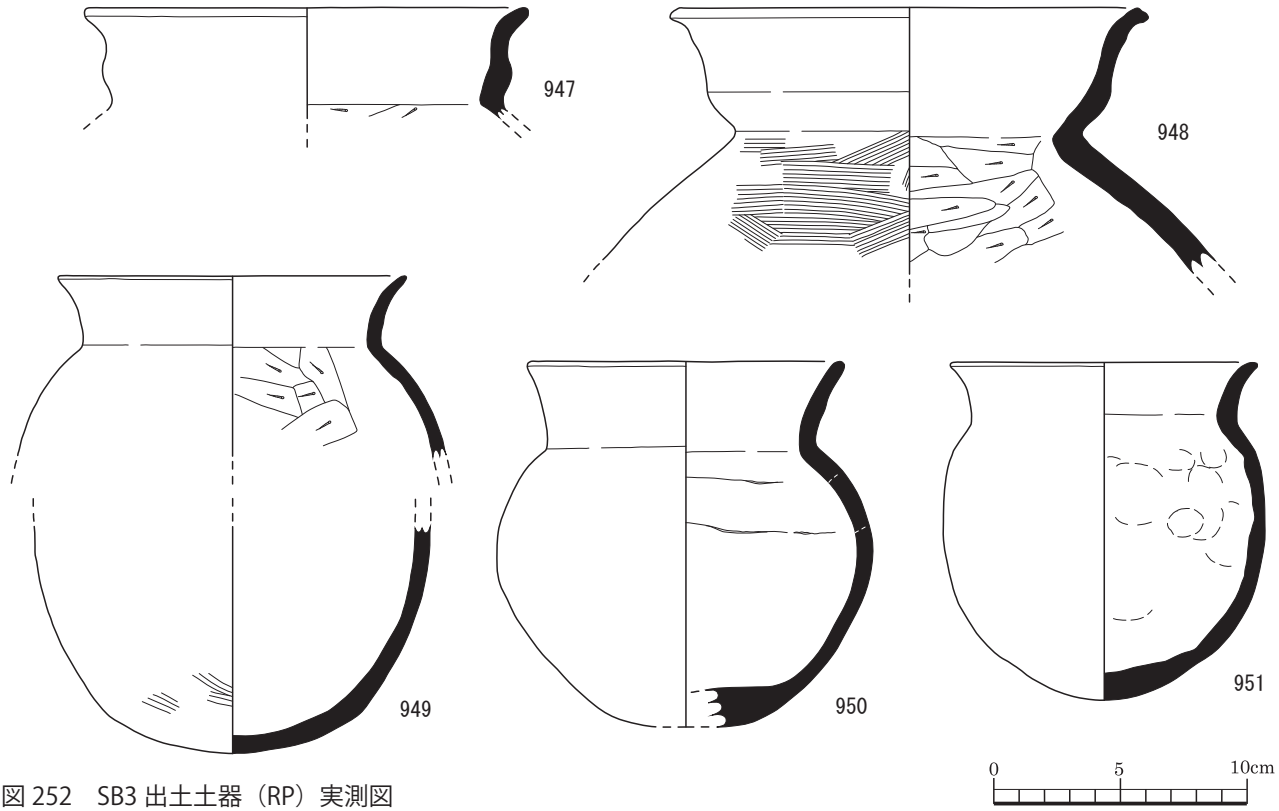


図 252　SB3 出土土器（RP）実測図

RP940 は線刻のある土器片であり、埋 1 層から出土した。厚さ 1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この土器片は坏底部であるが、底部外面に線刻が認められ、文字の一部と考えている。焼成は良である。古墳時代には属さない破片と考えている。

RP941 は壺であり、埋 5 層から出土した。口径 8.8cm、器高 16.2cm を測る。器面の外面は橙、明褐灰色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子、雲母が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP942 は壺であり、埋 4 層から出土した。器高 8.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作されている。

RP943 は壺であり、埋 4 層から出土した。口径 7.6cm、器高 7.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この壺は、外面調整はナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP944 は甕であり、埋 4、5 層から出土した。器高 7.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整は指頭圧痕、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP945 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 14cm、器高 10cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP946 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 20cm、器高 5.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、黒色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP947 は壺であり、埋 1~4 層から出土した。口径

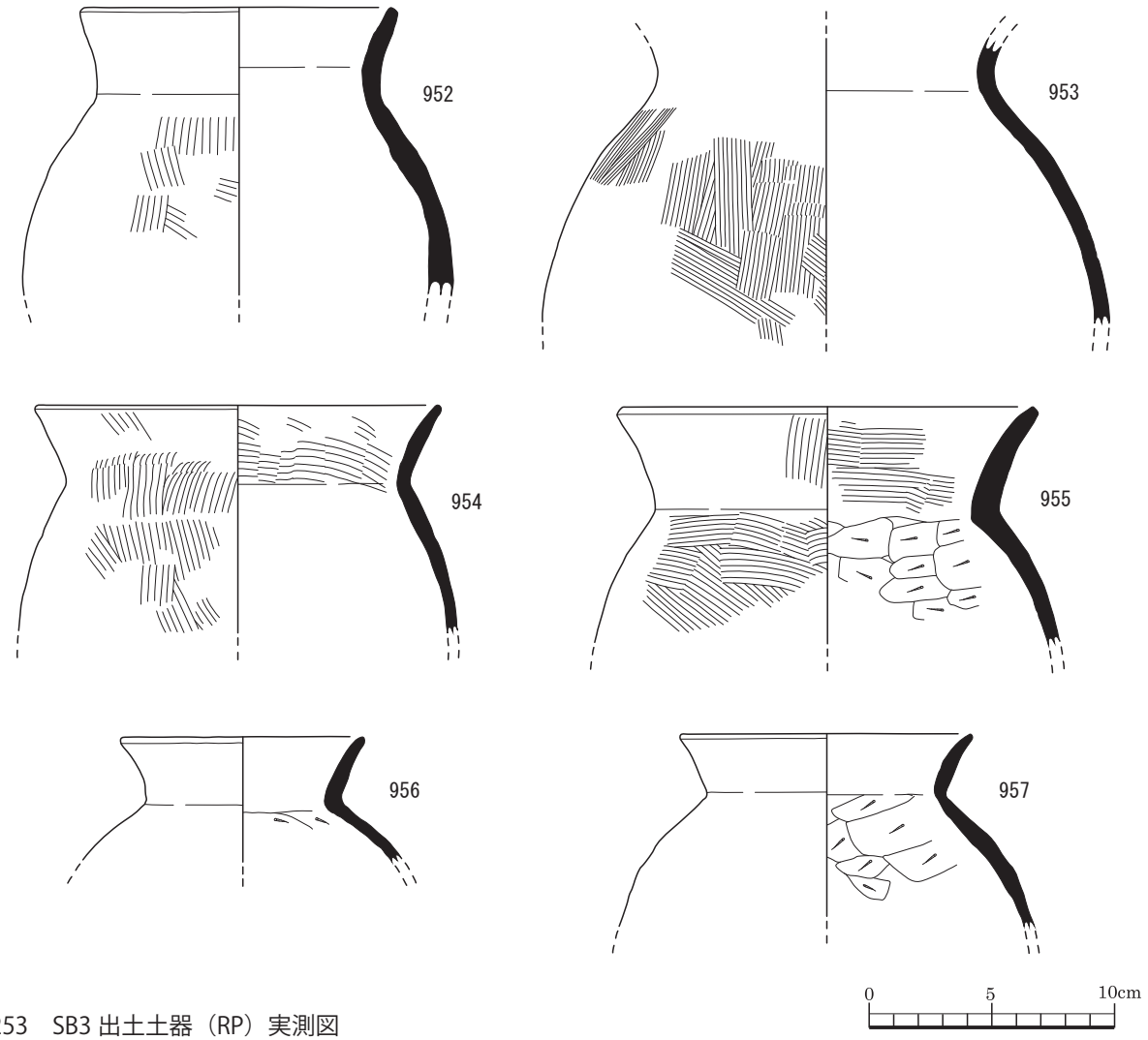


図 253　SB3 出土土器（RP）実測図

17.6cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は橙、赤灰色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この壺は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP948 は壺であり、埋 2、3、5 層から出土した。口径 19.4cm、器高 10.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP949 は甕であり、埋 2~4 層から出土した。口径 13.8cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面は褐灰、橙、にぶい黄橙色、内面はにぶい黄橙、褐灰、橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整は摩耗、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP950 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 12.6cm、器高 14.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、橙色、内面は灰黄褐、灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、摩耗で不明瞭、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP951 は甕であり、埋 4、5 層から出土した。口径 12.2cm、器高 13.4cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、褐灰色、内面はにぶい黄橙、灰黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整は指頭圧痕、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良で

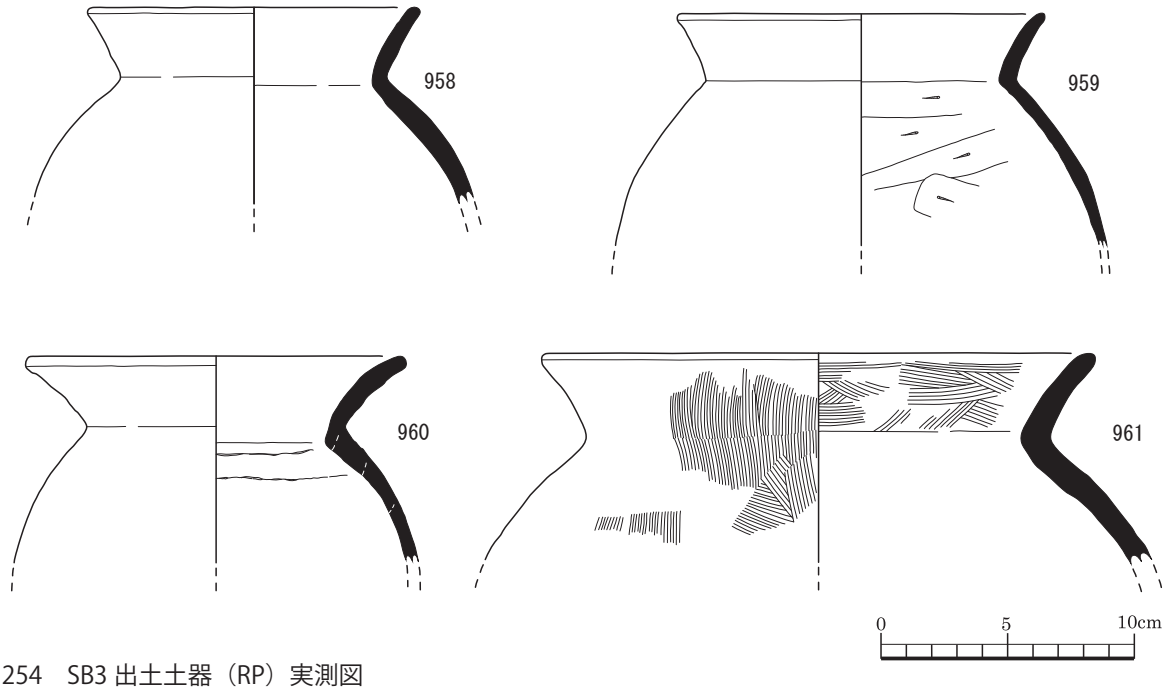


図 254　SB3 出土土器（RP）実測図

ある。

RP952 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 13cm、器高 11.8cm を測る。器面の外面はにぶい橙、褐灰、黒褐色、内面はにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP953 は甕であり、埋 5 層から出土した。器高 11.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、黒褐色、内面は灰黄褐、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、白色雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP954 は甕であり、埋 2~4 層から出土した。口径 16.6cm、器高 9.3cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP955 は甕であり、埋 1、2、5 層から出土した。口径 17.3cm、器高 9.7cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には金雲母、チャートが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメにより製作され、焼成は良である。

RP956 は壺であり、埋 4 層から出土した。口径 10cm、器高 5.15cm を測る。器面の外面はにぶい橙、褐灰色、内面もにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP957 は甕であり、埋 4、5 層から出土した。口径 12cm、器高 7.9cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP958 は甕であり、埋 4、6 層から出土した。口径 13.2cm、器高 7.8cm を測る。器面の外面は明赤褐、灰白色、内面は灰白、黄灰、暗灰黄色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP959 は甕であり、埋 1、4 層から出土した。口径 14.6cm、器高 9.2cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、

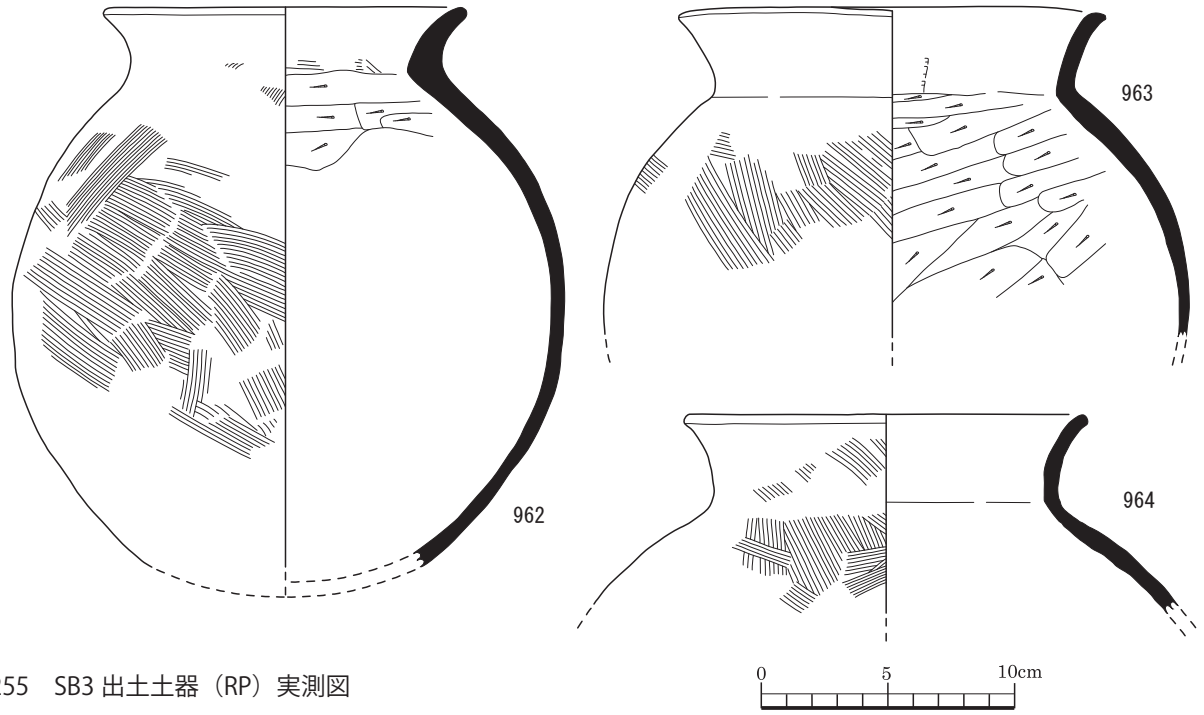


図 255　SB3 出土土器（RP）実測図

長石、赤色粒子、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP960 は甕であり、埋 5 層から出土した。口径 15.1cm、器高 8.2cm を測る。器面の外面は赤褐灰色、内面も赤褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整は摩耗、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP961 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 22cm、器高 8.3cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、褐灰色、内面は浅黄橙、にぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ハケメにより製作され、焼成は良好である。

RP962 は甕であり、埋 3、4 層から出土した。口径 14.4cm、器高 22.2cm を測る。器面の外面は浅黄橙、褐灰色、内面も浅黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP963 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 17cm、器高 13.1cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面も橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP964 は甕であり、埋 1~5 層から出土した。口径 16cm、器高 7.9cm を測る。器面の外面は浅黄橙、橙、灰白、灰色、内面はにぶい橙、灰白色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整は剥離により不明、焼成は良である。

RP965 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 19cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面は灰褐色を呈し、胎土には角閃石、雲母、石英、長石が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP966 は甕であり、埋 2~6 層から出土した。口径 19.2cm、器高 13.8cm を測る。器面の外面は明赤褐、赤灰色、内面も明赤褐、赤灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP967 は甕であり、埋 2、4 層から出土した。器高 7.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶ

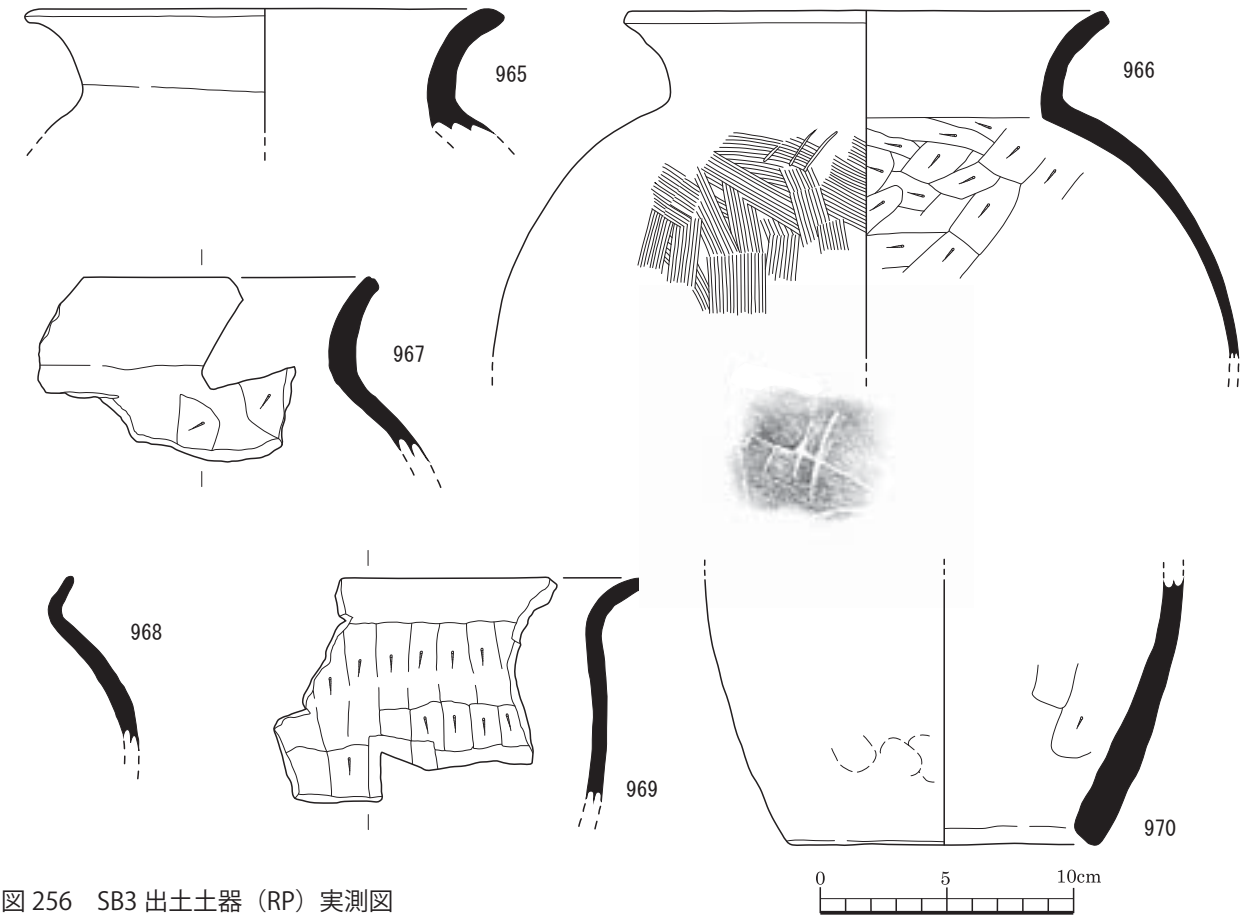


図 256　SB3 出土土器（RP）実測図

い黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP968 は甕であり、埋 5 層から出土した。器高 6.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、褐灰色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP969 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 8.85cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、灰黄褐色、内面は浅黄橙、灰黄褐、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP970 は甑であり、埋 4 層から出土した。底径 12.4cm、器高 10.6cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子が観察される。この甑は、外面調整は指頭圧痕、工具ナデ、内面調整はナデ、ヘラケズリにより製作され、焼成は良である。

RP971 は蓋であり、埋 4 層から出土した。口径 8cm、器高 2.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP972 は蓋であり、埋 4、5 層から出土した。口径 12.2cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP973 は蓋であり、埋 2 層から出土した。口径 13.6cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰色、内

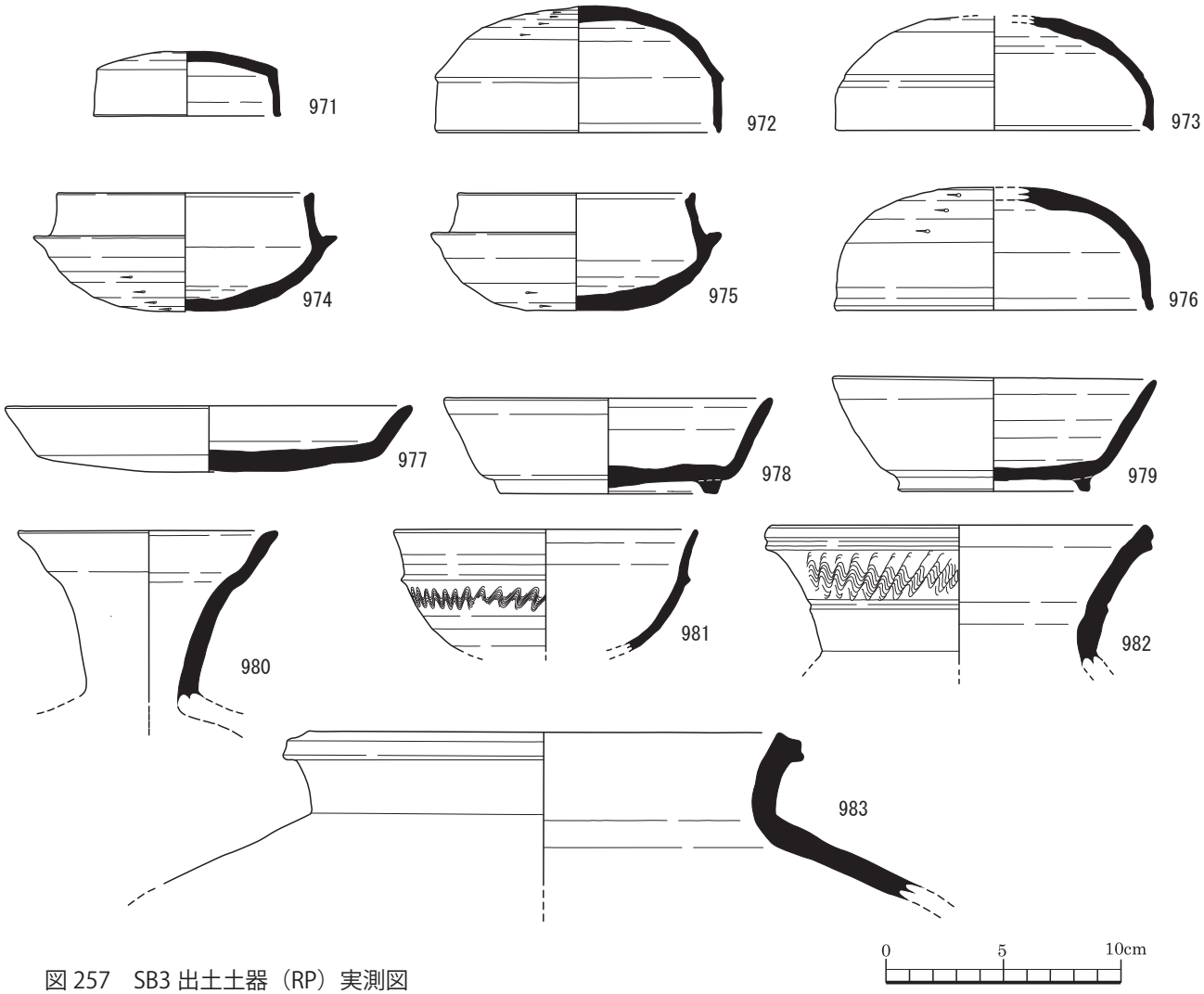


図 257　SB3 出土土器（RP）実測図

面は青灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP974 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11cm、底径 3.7cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP975 は坏であり、埋 4 層から出土した。口径 10.2cm、底径 4.2cm、器高 5.05cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP976 は蓋であり、埋 5 層から出土した。口径 13.6cm、底径 4.8cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP977 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 17.4cm、底径 14.8cm、器高 2.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP978 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径

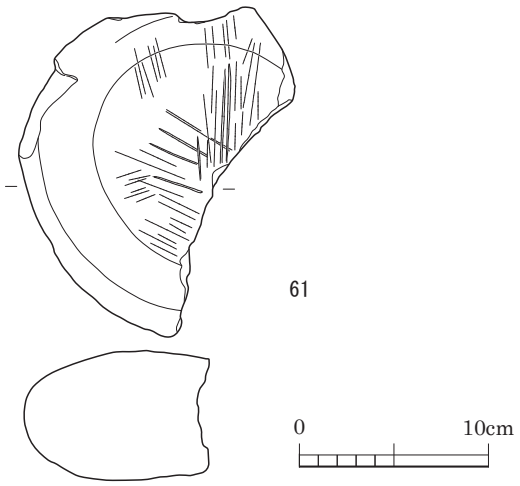


図 258　SB3 出土石器（RQ）実測図

14cm、底径 9.2cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、貼付高台、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP979 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 11.1cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子、石英が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、内面調整も回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP980 は高坏であり、埋 4 層から出土した。口径 13cm、器高 5.25cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、櫛描波状文、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP981 は甕であり、埋 1~3 層から出土した。口径 20.2cm、器高 7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子、砂粒が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、タタキ（平行）、ヨコナデ、直線文、内面調整はタタキ（同心円）、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP982 は壺であり、埋 5 層東 G から出土した。口径 16.6cm、器高 6cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、波状文、ナデによる沈線、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RQ61 は台石、RQ62 は磨製石鏃、RQ63、64 は砥石、RQ65 は凹石、RQ66、67 は敲石である。

竪穴住居 4（SB4）

SB4 は、平面が正方形を呈し、炉を備えた竪穴住居である。主柱穴は確認していない。なお、SB4 は SK5 に切られている。また、SB4 は SB11 に切られている。1394 グリッドに位置する。

SB4 の法量は、南北 3.0m 以上×東西 4.1m 以上、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

炉は、SB4 床面中央部に直径約 80cm、深さ 15cm のピットに直径約 60cm の浅いピットが複合し、その南側 2 箇所に焼土、炭化物がブロック状に検出された。この複合するピット群が炉であり、南側の大ピットが炉床、北側の小ピットがテラス部分であると理解している。

主柱穴は検出していない。

SB4 では土師器（RP984~992）、須恵器（RP993~999）が出土している。

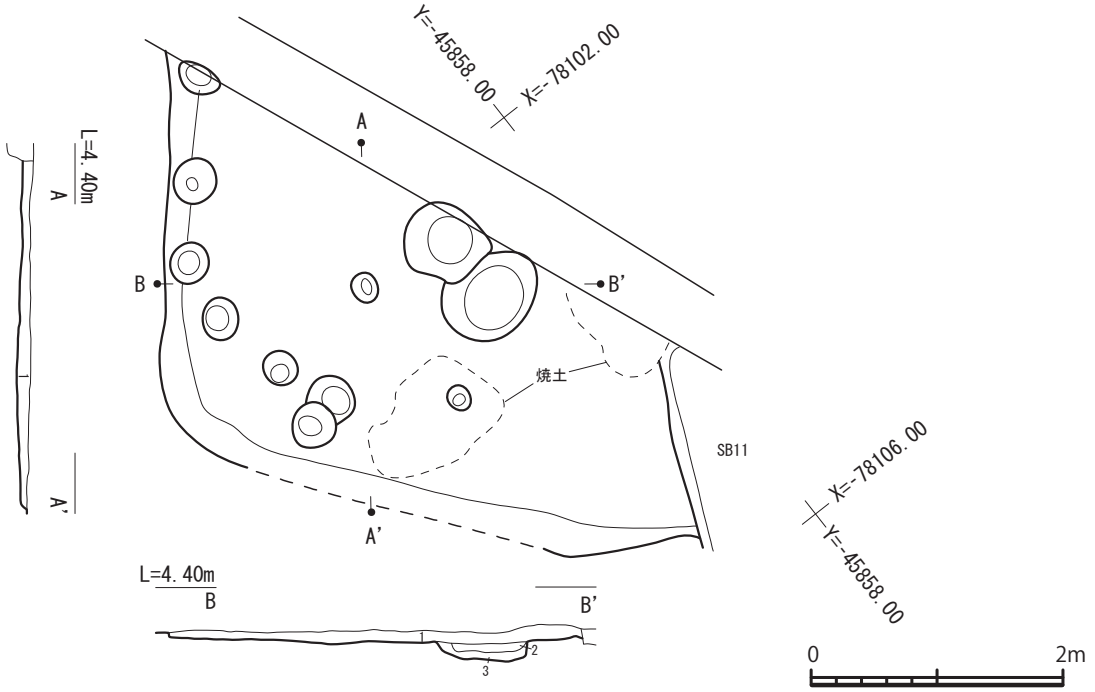
RP984 は蓋であり、埋 1 層から出土した。器高 2.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整はヘラ切り離し、回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP985 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 15.9cm、底径 9.3cm、器高 2.6cm を測る。器面の外面は浅黄橙、灰白色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子、褐色粒子が観察される。この皿は、外面調整はヨコナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP986 は甑であり、埋 1 層から出土した。口径 32.2cm、器高 8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この甑は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP987 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面

図 259　SB3 出土石器（RQ）実測図



1　埋1層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　しまりあり　粘性なし　炭、焼土粒（0.5〜2cm大）を10%含む
2　埋2層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　しまりあり　粘性なし　炭、焼土粒（0.5cm大）を2%含む　土器片多く含む
3　埋3層　にぶい黄褐色（10YR 5/3）シルト　しまりあり　粘性なし　10YR 2/2黒褐色マンガン粒（0.5cm大）を3%含む　土器片含む

図 260　SB4 実測図（1/60）

も橙色を呈し、胎土には密が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP988 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 24.2cm、器高 5.9cm を測る。器面の外面は黄橙色、内面も黄橙色を呈し、胎土には砂粒含むが観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP989 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 20.2cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP990 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 27.6cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、赤色粒子、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP991 は甕であり、埋 1 層、焼土 1 層から出土した。口径 16cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は明黄褐色、内面も明黄褐色を呈し、胎土には密、長石含むが観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP992 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 24.8cm、器高 8.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP993 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 12.1cm、器高 2.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP994 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.6cm、器高 1.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋

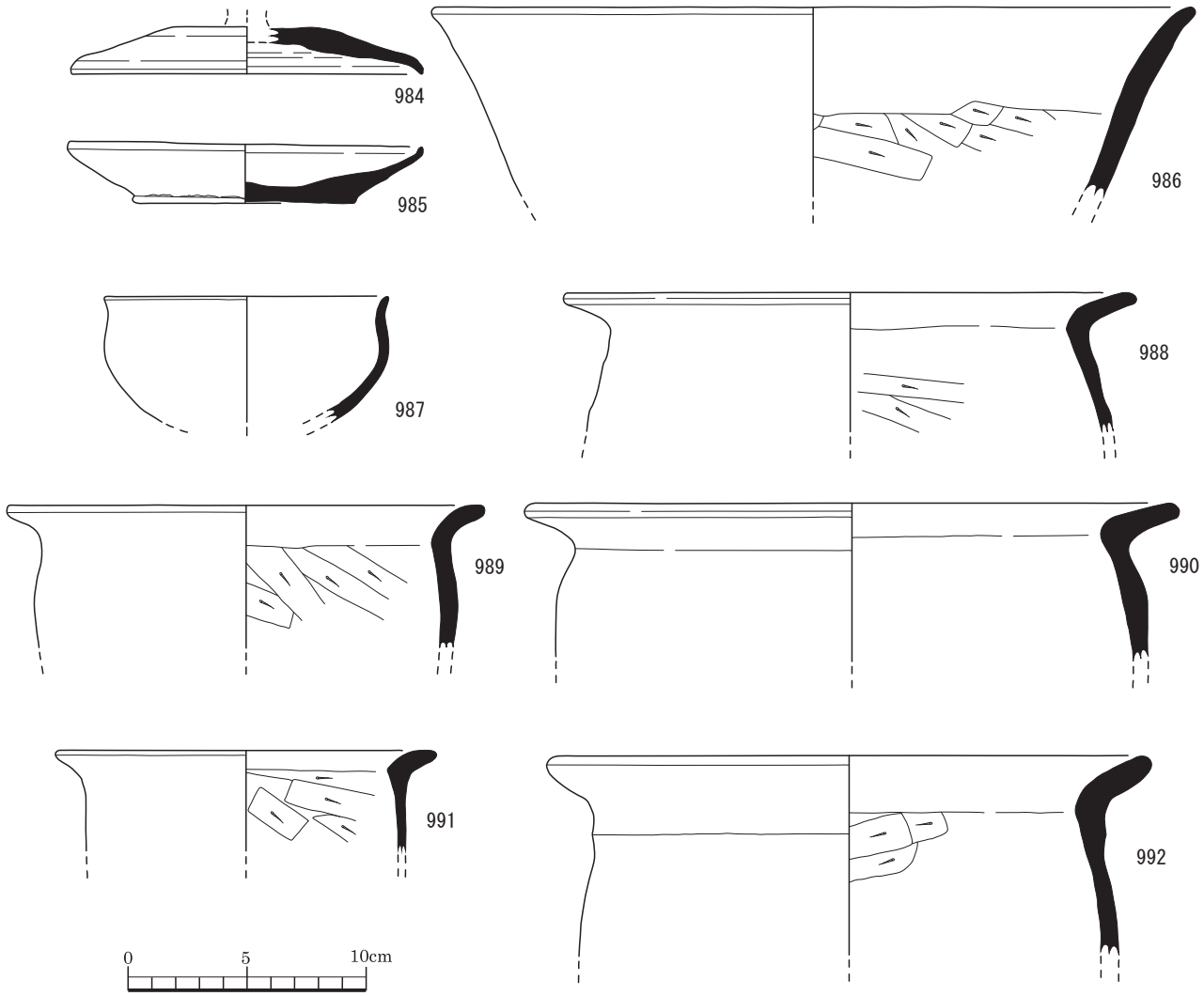


図 261　SB4 出土土器（RP）実測図

は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP995 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.3cm、器高 0.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP996 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 15.4cm、器高 2.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP997 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 7.5cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP998 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.2cm、底径 9cm、器高 5.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデに

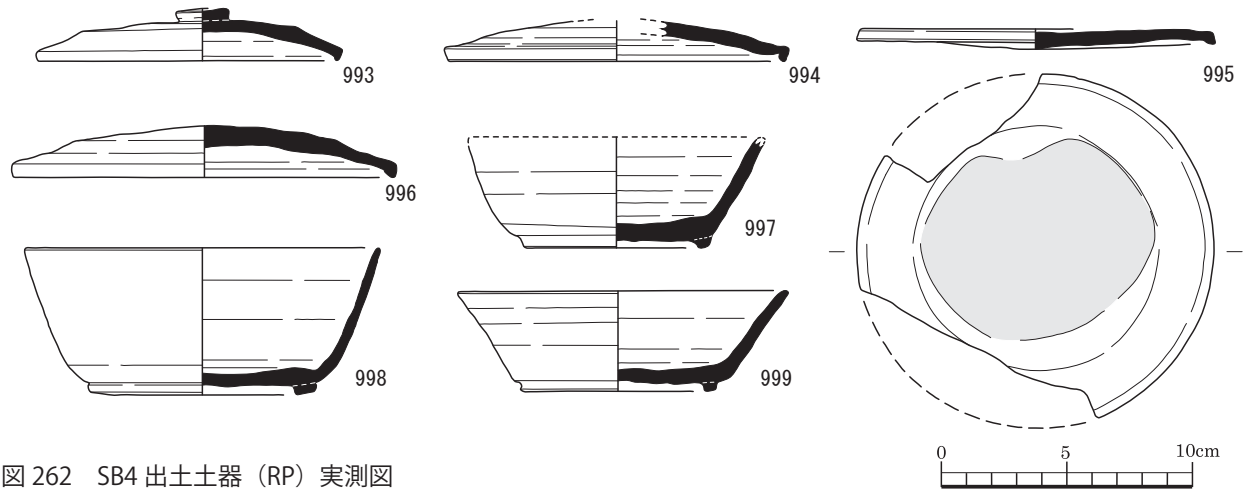


図 262　SB4 出土土器（RP）実測図

より製作され、焼成は良である。

RP999 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.2cm、底径 7.8cm、器高 4cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

竪穴住居 7（SB7）

SB7 は、平面が方形を呈する 4 本又は 6 本柱建ての竪穴住居である。炉等の付帯施設は確認していない。2312 グリッドに位置する。

SB7 の法量は、南北 5.4m ×東西 3.3m 以上、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。

主柱穴は、西側壁の両端に 2 基を確認している。北西主柱穴の直径は約 45cm、南西主柱穴となるであろう SK36 は直径約 100cm、遺構確認面からの深さ 47cm を測る。この他、西側壁中央部に 2 基の柱穴、南側壁付近では 1 基の柱穴が配置されていた。

SB7 では土器（RP1000~1003）が出土している。

土器（RP）には、弥生時代後期初頭の土器（RP1000~1002）が含まれているが、いずれも最上層からの出土であり、ローリングを受けた小破片である。

RP1000 は、鋤先形口縁の甕であり、口唇部に刻み目をもつ。埋 1 層から出土した。器高 4.5cm を測る。器面の外面は明黄褐色、内面も明黄褐色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整は粗いハケメ、ナデにより製作され、焼成は良である。

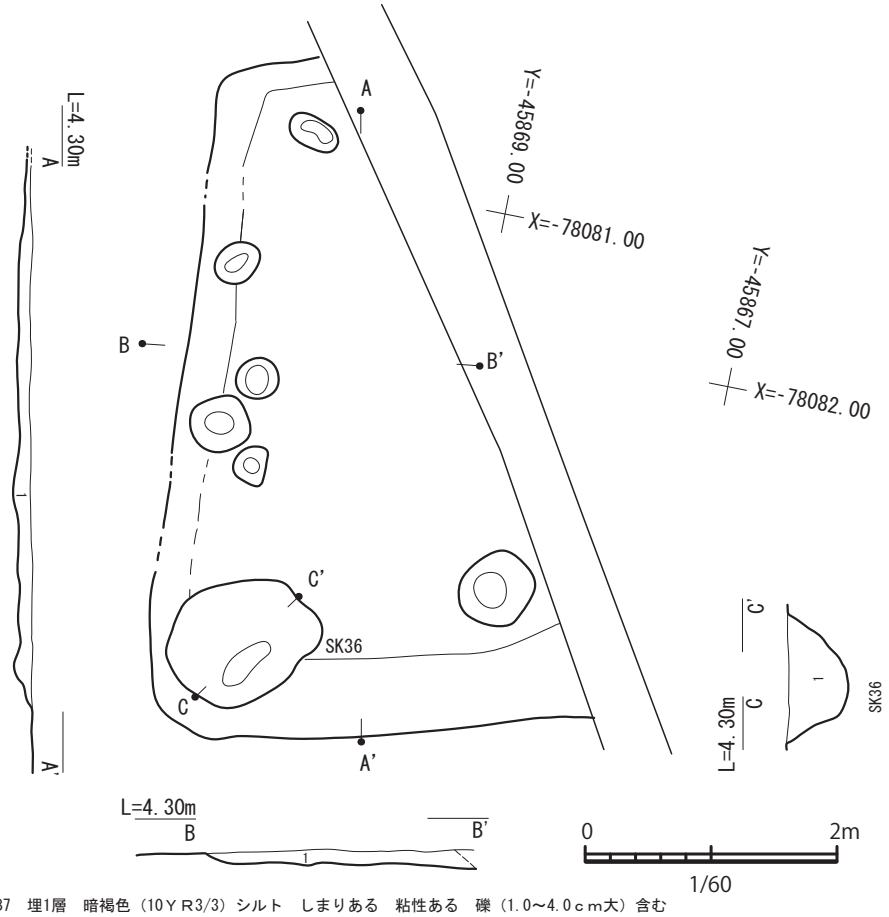
RP1001 は、鋤先形口縁の甕であり、口唇部に刻み目をもつ。埋 1 層から出土した。器高 4.2cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1002 は、鋤先形口縁の甕であり、口唇部に棒状浮紋、頸部に刻目突帯 3 条を巡らせる。埋 1 層から出土した。器高 5.1cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、砂粒が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、貼付突帯、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1003 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 25.4cm、器高 7.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

竪穴建物 8（SB8）

SB8 は、平面は方形を呈するものと考えられるが、北東隅を確認できただけであるため、全容不明の竪穴建物である。SB8 では主柱穴、炉等、付帯設備は確認していないため、「建物」と記述する。SB8 は SB1 に切られている。SB8 は SB3 に切られている。1383 グ



SB7　埋1層　暗褐色（10ＹＲ3/3）シルト　しまりある　粘性ある　礫（1.0～4.0ｃｍ大）含む
SK36　埋1層　黒褐色（10ＹＲ2/2）シルト　しまりある　粘性ある　焼土粒状（0.2～0.5ｃｍ）少し含む　炭化物粒状（0.5～1ｃｍ）少し含む

図 263　SB7 実測図（1/60）

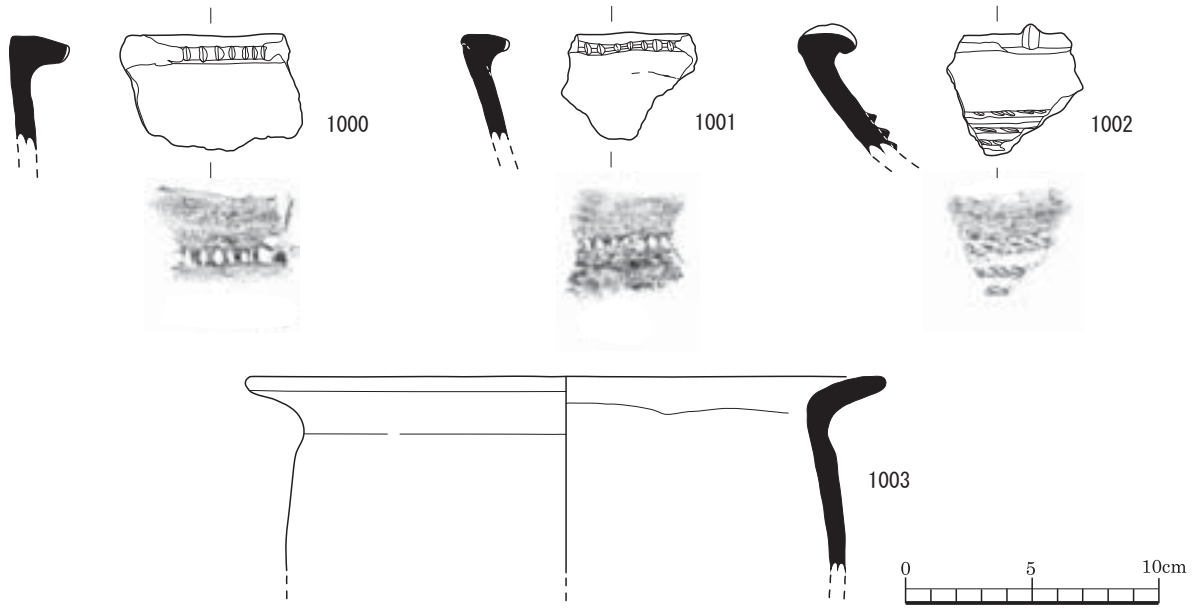
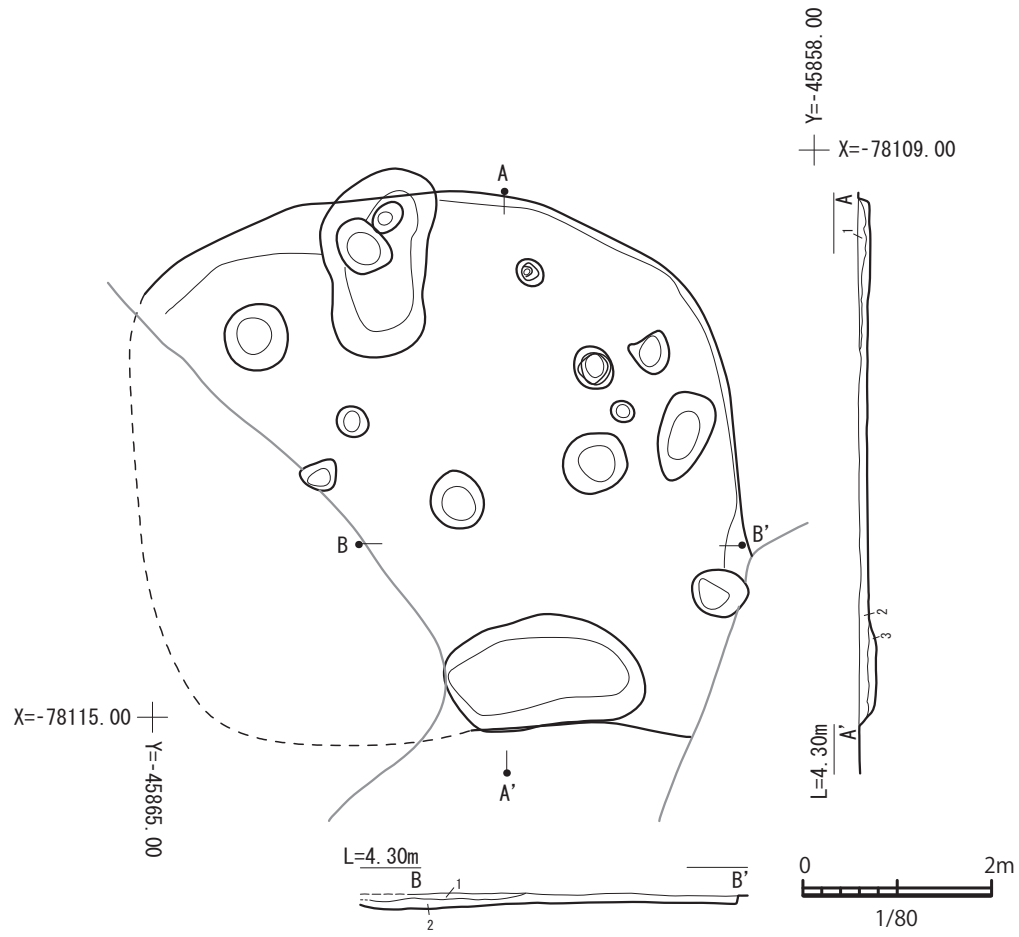


図 264　SB7 出土土器（RP）実測図



1　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト　しまりあり　粘性なし　黒褐色(10YR 2/3)マンガン粒（0.5cm～１cm大）を7%で含む　土器片を含む
2　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　しまりなし　粘性なし　黒褐色(10YR 2/3)マンガン粒（0.5cm～１cm大）を3%で含む　土器片を少量含む
3　にぶい黄褐色（10YR 5/3）シルト　しまりあり　粘性なし　黒褐色(10YR 2/3)土ブロック（5cm大）を3%で含む　土器片を少量含む

図 265　SB8 実測図（1/80）

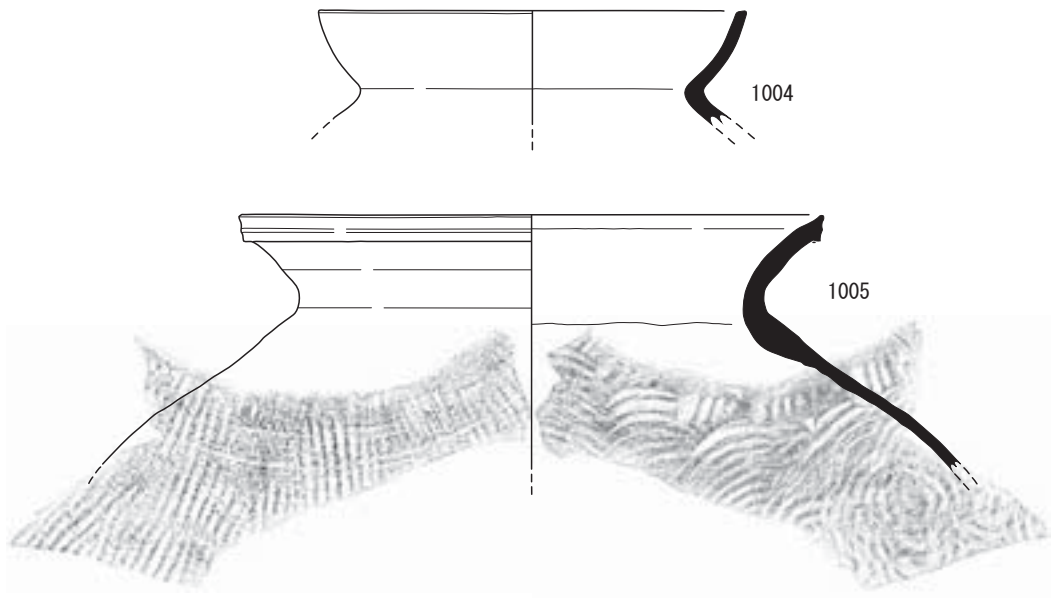


図 266　SB8 出土土器（RP）実測図

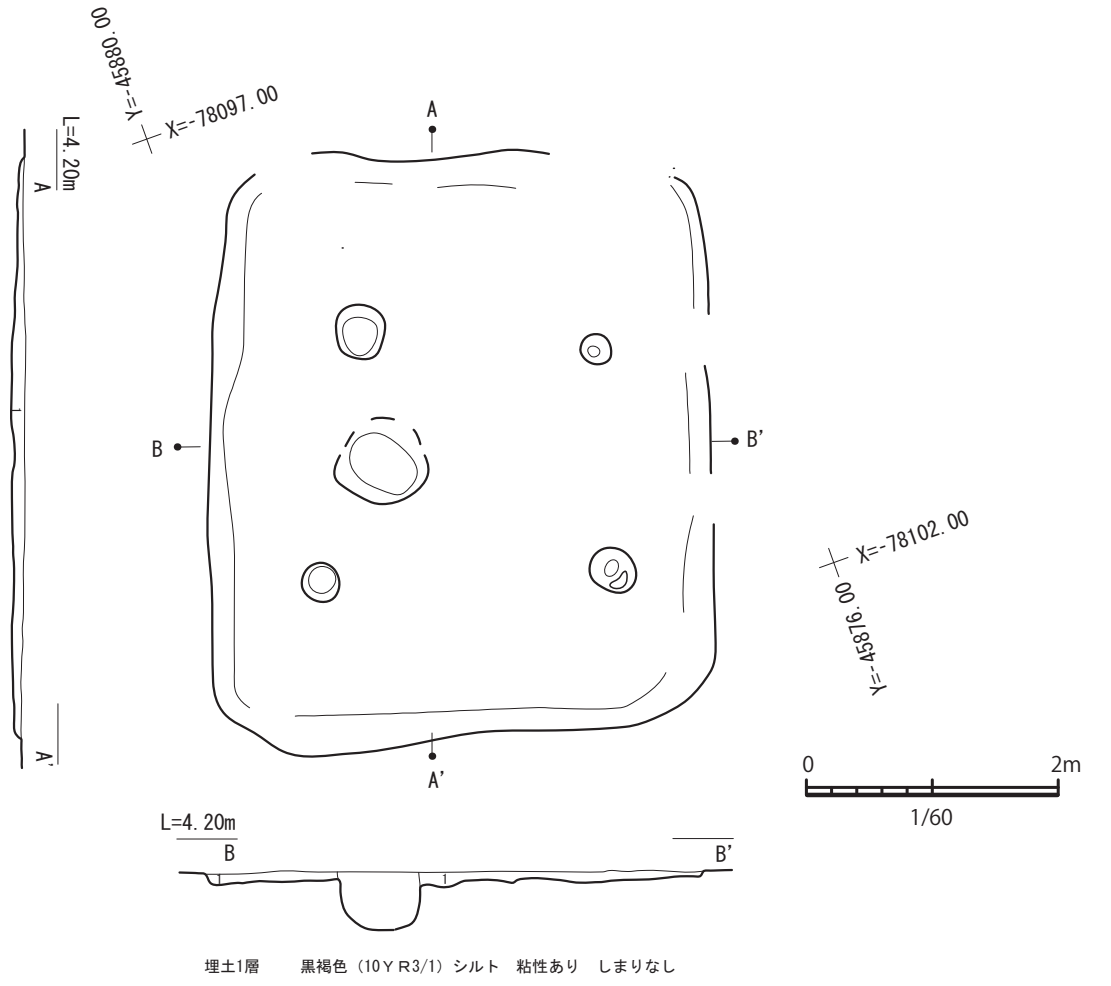


図 267　SB9 実測図（1/60）

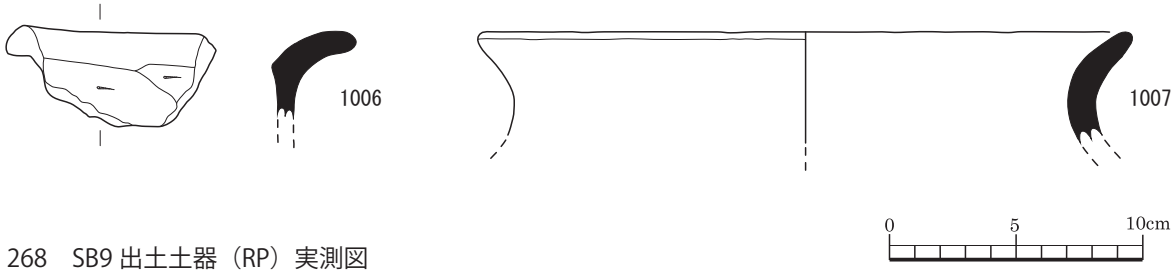


図 268　SB9 出土土器（RP）実測図

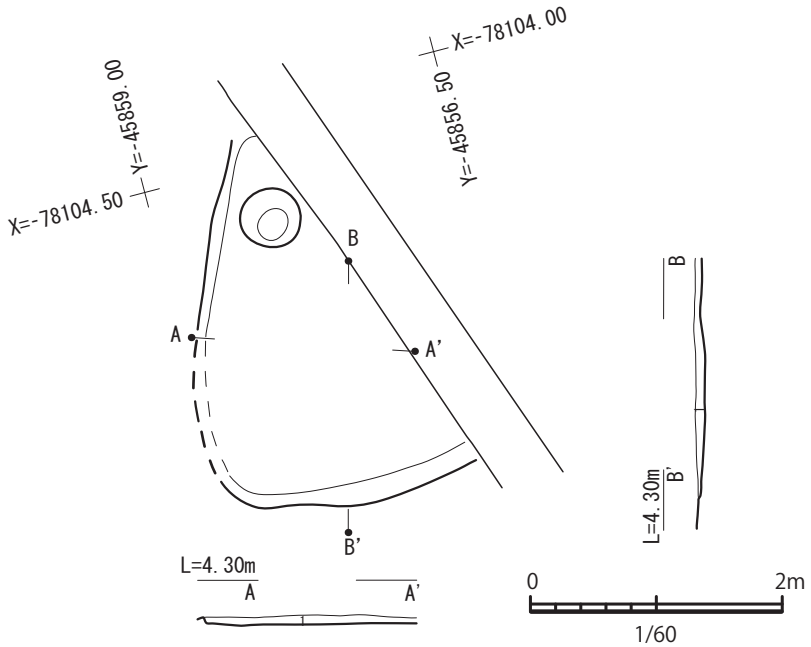
リッドに位置する。

SB8 の法量は、南北 4.0m 以上、東西 5.5m 以上、遺構確認面からの深さ 13cm を測る。

SB8 内では、直径 30cm~60cm のピットを複数検出しているが、主柱穴にふさわしい規模、配置のピットではない。また、SB8 は SK25、SK147、SK528 が複合している。SK25 の法量は、南北 2.1m、東西 1.2m の長方形を呈し、遺構確認面からの深さ 18cm を測る。SK147 の法量は、南北 1.2m、東西 2.1m の長方形を呈し、遺構確認面からの深さは 8cm である。また、SK528 の法量は、南北 2.0m、東西 1.5m、遺構確認面からの深さ 12cm を測る。

SB8 では土師器（RP1004）、須恵器（RP1005）が出土している。

RP1004 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面



1　埋土1層 灰黄褐色（10YR 4/2）シルト　粘性なし　しまりなし　黒色(10YR 2/1)マンガン粒（0.5～1cm大）を10%含む　土器片含む

図 269　SB11 実測図（1/60）

は明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1005 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 23.2cm、器高 10.1cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面は黄灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、ヨコナデ、タタキ（格子）、内面調整は回転ナデ、ヨコナデ、タタキ（同心円）により製作され、焼成は良好である。

竪穴住居 9（SB9）

SB9 は、平面が正方形を呈する 4 本柱建ての竪穴住居である。炉等の付帯施設は確認していない。1392 グリッドに位置する。

SB9 の法量は、南北 4.6m、東西 4.0m の長方形を呈し、遺構確認面からの深さ 12cm を測る。

主柱穴は、側壁から 1m 程内側に配置され、直径 15~40cm である。

SB9 では土師器（RP1006、1007）が出土している。

RP1006 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 3.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1007 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 26cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴建物 11（SB11）

SB11 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB11 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。1394 グリッドに位置する。

SB11 の法量は、南北 2.9m 以上、東西 1.7m 以上、遺構確認面からの深さ 8cm を測る。

SB11 からは図示できる遺物は出土しておらず、また、隣接する 5 区で SB11 と同一遺構と考えられる遺構は検出されていない。

竪穴建物 12（SB12）

SB12 は、建物の西側一部だけを確認できた竪穴建物である。SB12 は主柱穴、炉等の付帯施設を確認し

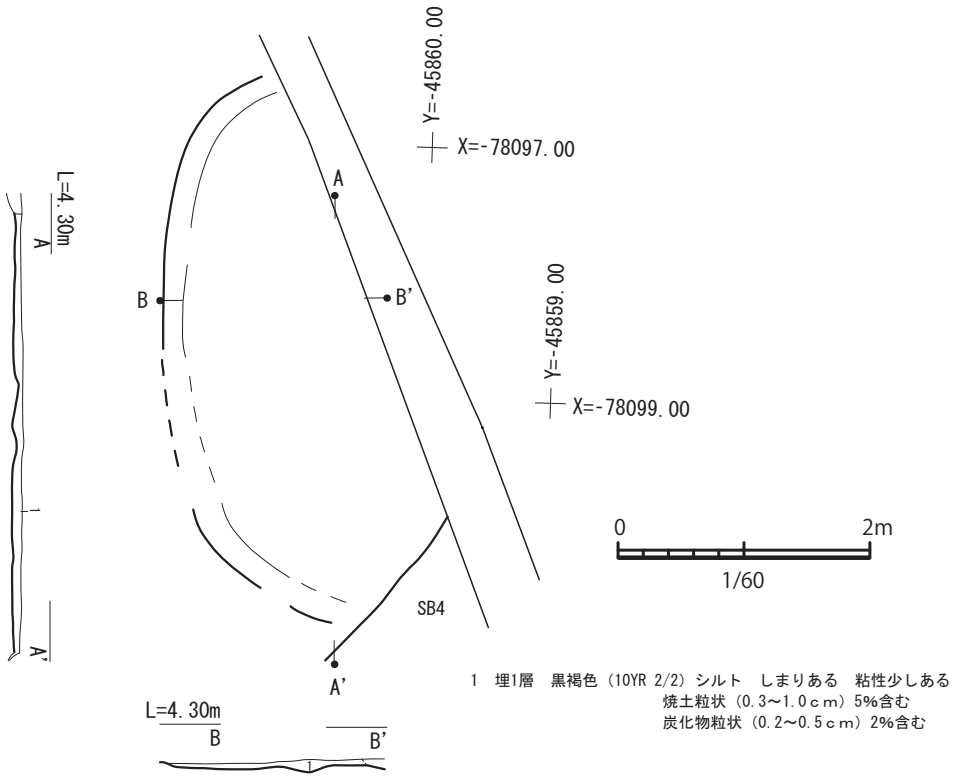


図 270　SB12 実測図（1/60）

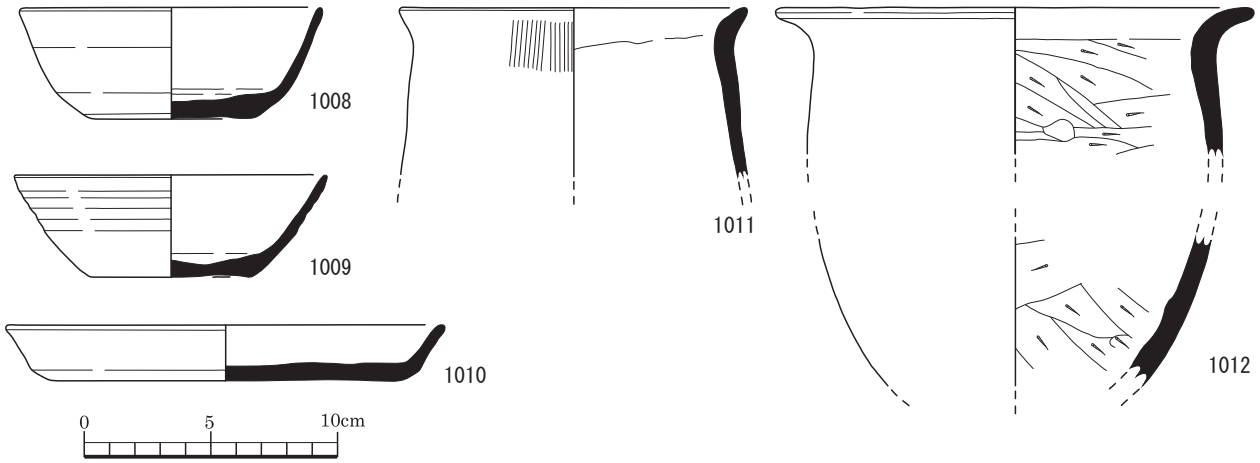


図 271　SB12 出土土器（RP）実測図

ていないため、「建物」と記述する。SB12 は SB4 に切られている。2303 グリッドに位置する。

SB12 の法量は、南北 3.7m 以上、東西 1.7m 以上、遺構確認面からの深さ 8cm を測る。

隣接する 5 区で SB12 と同一遺構と考えられる遺構は検出されていない。

SB1 で は 土 師 器（RP1008~1012）、 須 恵 器（RP1013~1015）が出土している。

RP1008 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、底径 6.4cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

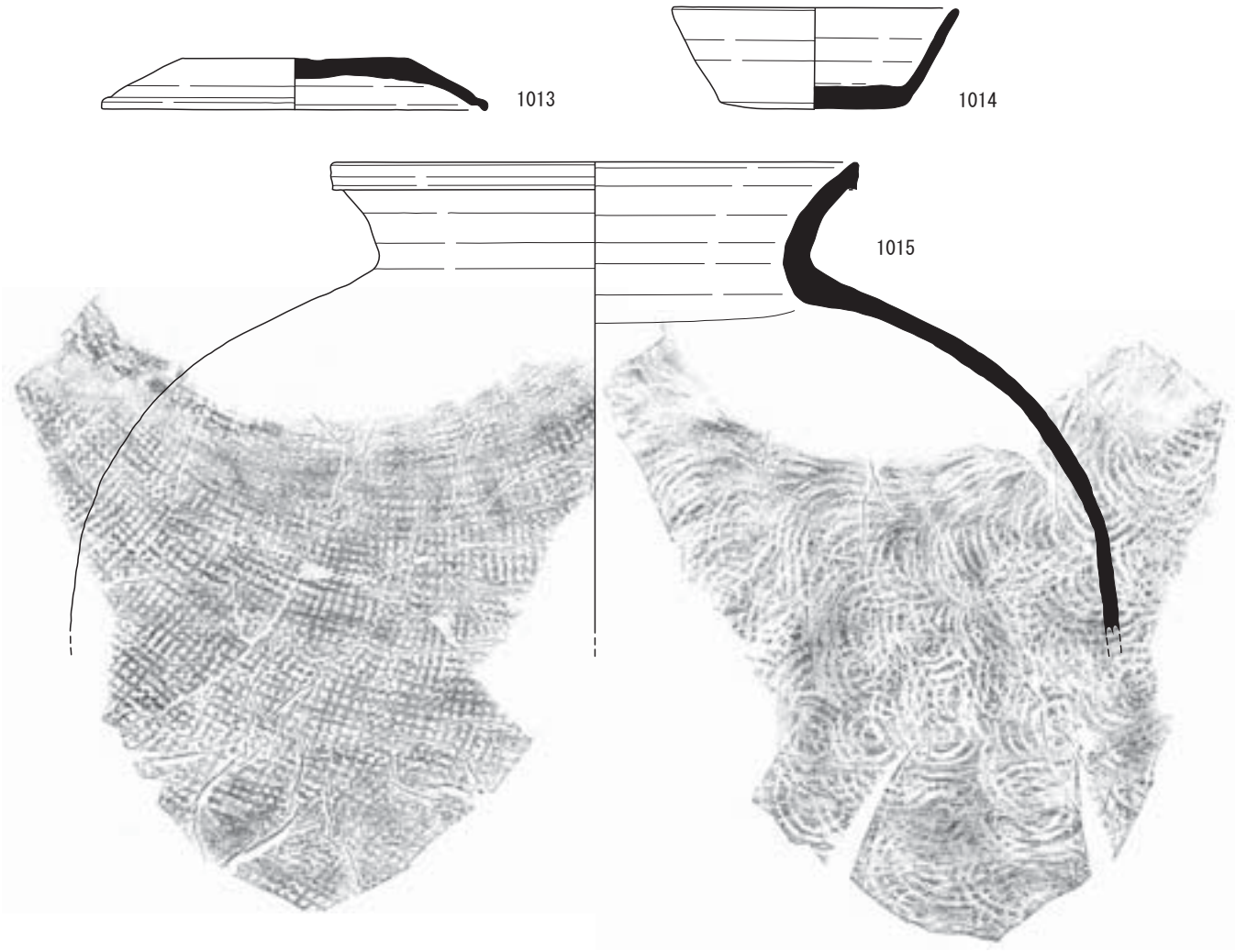


図 272　SB12 出土土器（RP）実測図

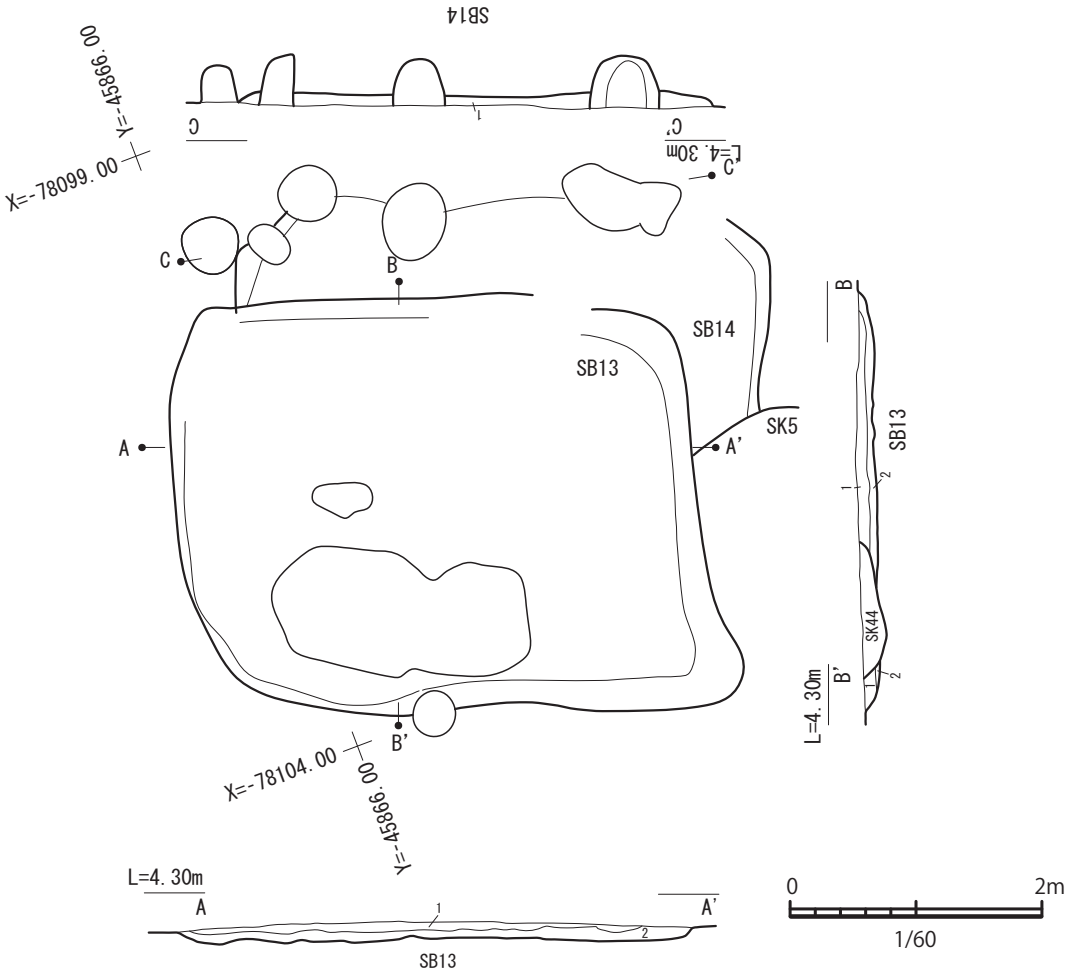
RP1009 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.4cm、底径 6.4cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1010 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 17.4cm、底径 13.6cm、器高 2.2cm を測る。器面の外面は浅黄色、内面も浅黄色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1011 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 13.8cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1012 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 19cm、器高 5.8+5.9 cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1013 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 16.6cm、器高 2.2cm を測る。器面の外面は灰黄色、



SB13　埋1層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　しまりあり　粘性なし　にぶい黄褐色(10YR 5/4)地山ブロック（5cm大）を2%含む　土器片を含む
　　埋2層　にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト　しまりあり　粘性なし　黒褐色(10YR 3/2)シルトブロック（10cm大）を1%含む　土器片を少量含む
SB14　埋1層　黒褐色（10YR 3/1）シルト　しまりなし　粘性なし　褐色(10YR 4/4)地山ブロック（3cm大）を2%含む

図 273　SB13・14 実測図（1/60）

内面はにぶい黄橙、灰黄色を呈し、胎土には長石、石英、褐色粒子が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1014 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.4cm、底径 8cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この坏は､外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1015 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 22.8cm、器高 20.4cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はタタキ（格子）、ヨコナデ、内面調整はタタキ（同心円）、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

竪穴建物 13（SB13）

SB13 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB13 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB13 は SB14 を切る。1393 グリッドに位置する。

SB13 の法量は、南北 3.3m、東西 4.1m の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 18cm を測る。

SB13 の床面には、南側壁に平行して SK44 が配置されている。SK44 の法量は、南北 1.0m、東西

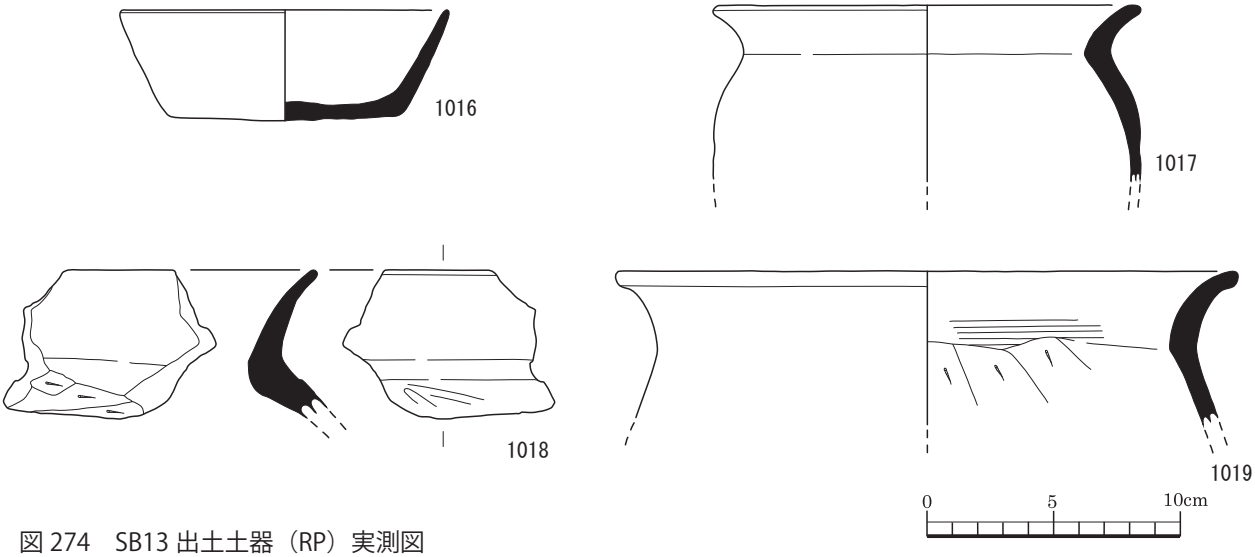


図 274　SB13 出土土器（RP）実測図

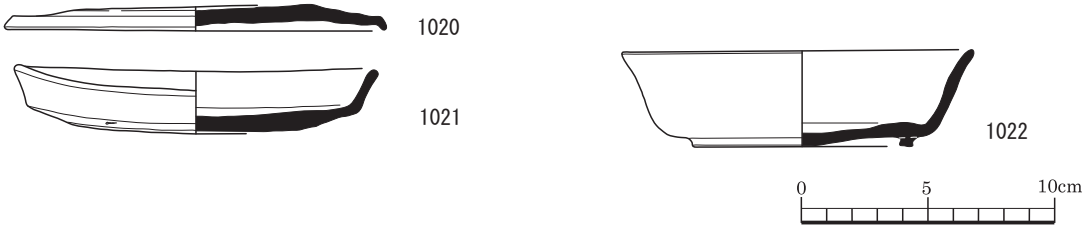


図 275　SB13 出土土器（RP）実測図

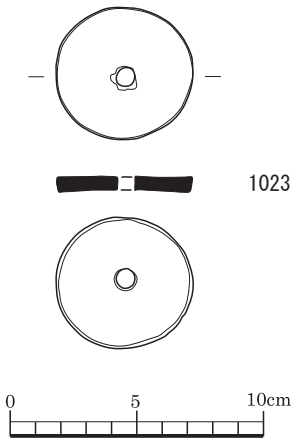


図 276　SB13 土製品（RP）実測図

2.0m、床面からの深さ 20cm を測る。

SB13 では土師器（RP1016~1019）、須恵器（RP1020~1023）が出土している。

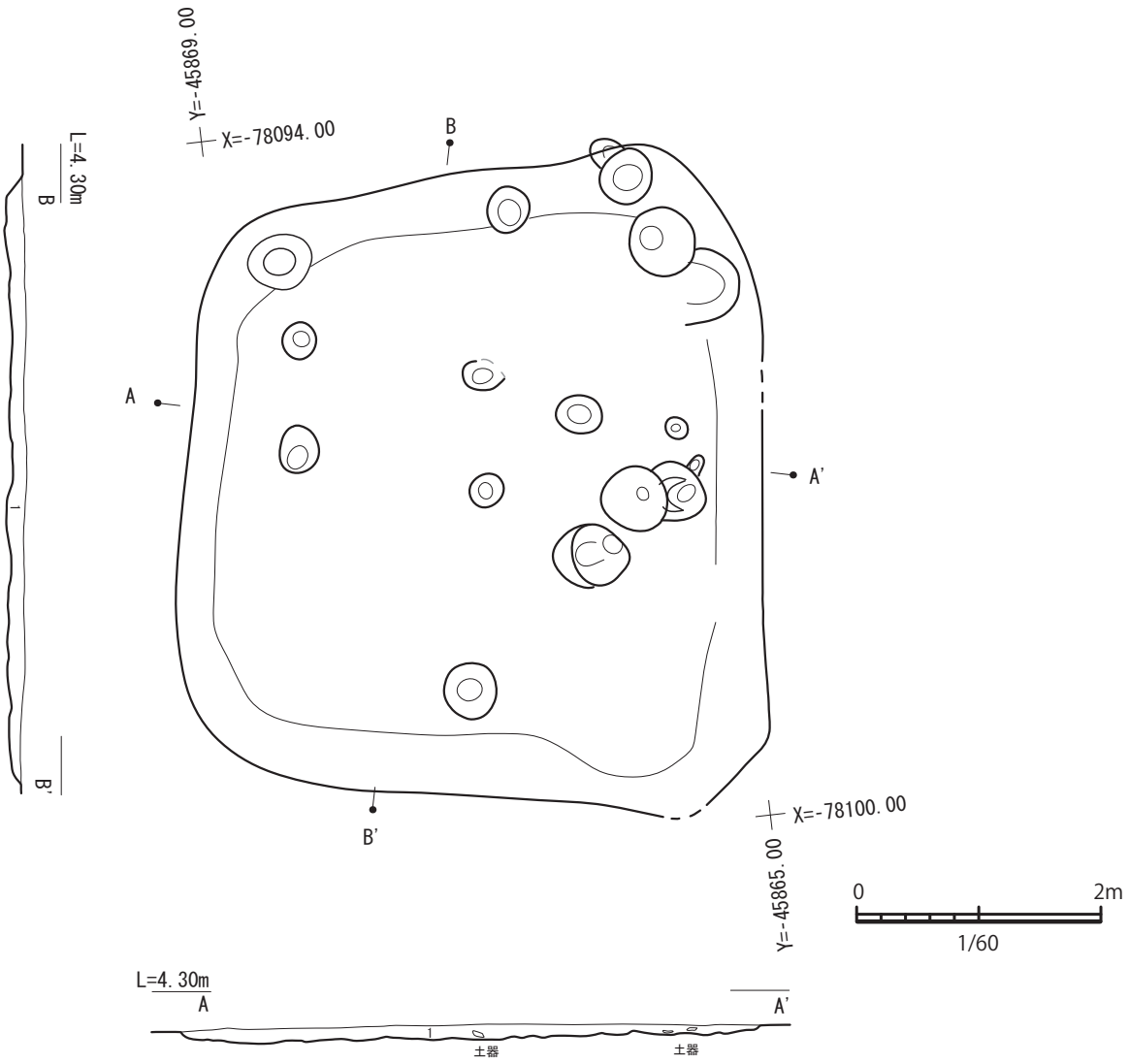
土器（RP）には、紡錘車（RP1023）が含まれている。

RP1016 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13cm、底径 9.2cm、器高 4.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1017 は甕である。口径 17cm、器高 7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1018 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 5.9cm を測る。器面の外面は明赤褐、黄灰色、内面は赤、明赤褐色を呈し、胎土には長石、雲母、石英、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1019 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 24.7cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。



1　埋1層　黒褐色（10YR 3/2）シルトと褐色(10YR 4/4)シルト（地の土）が混在（7：3）しまりある　粘質なし　遺物が多い

図 277　SB15 実測図（1/60）

RP1020 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 15.2cm、器高 1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、手持ちヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1021 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 14.5cm、底径 13.2cm、器高 2.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1022 は坏であり、埋 1 層 3 層 3 層から出土した。口径 14cm、底径 8.7cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1023 は紡錘車であり、埋 2 層から出土した。直径 5.4 cm、厚さ 0.6 cm を測る。この紡錘車は、外面調整はタタキ（格子）、内面調整はタタキ（同心円）が認められる。

竪穴建物 14（SB14）

SB14 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB14 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB14 は SB13 に切られて

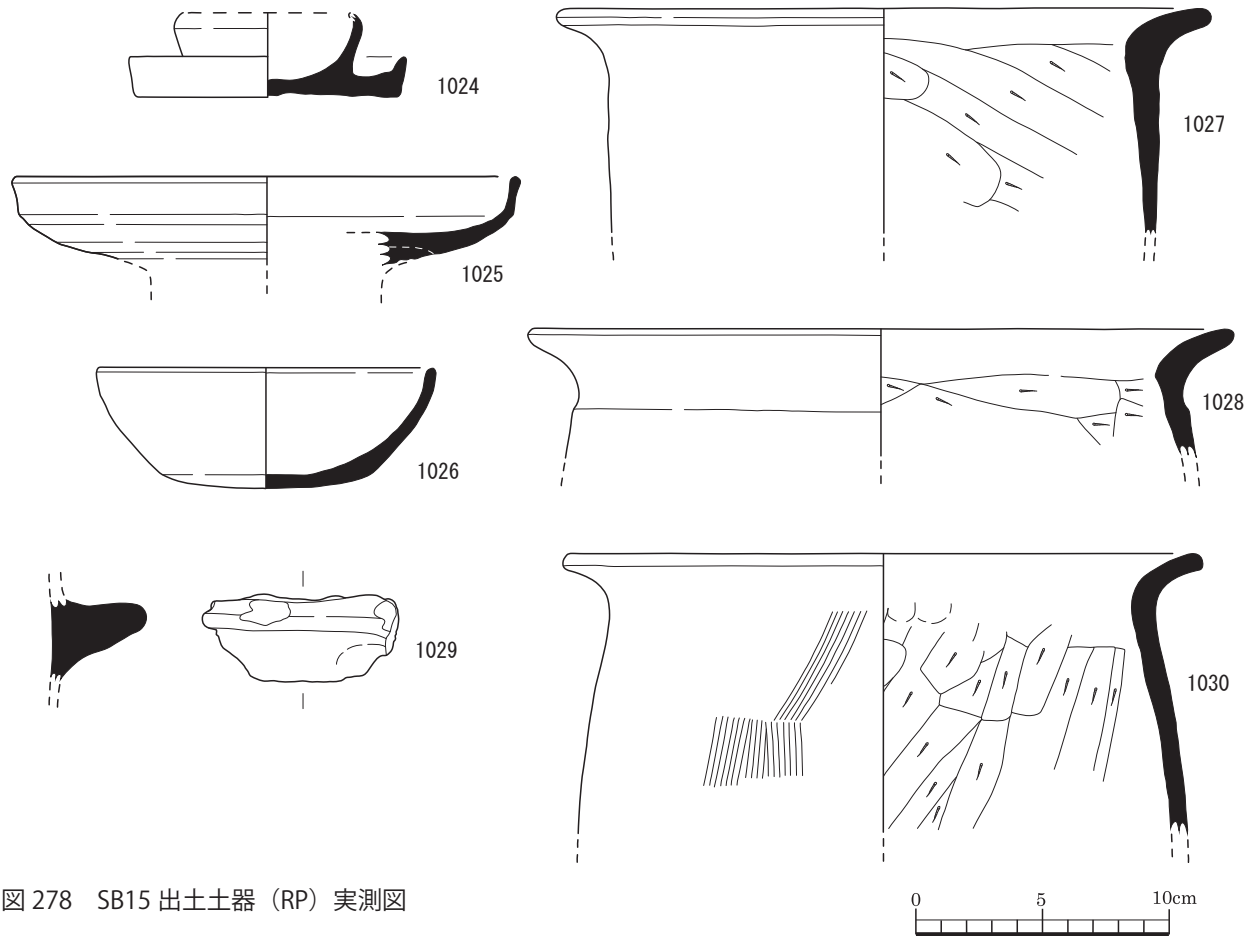


図 278　SB15 出土土器（RP）実測図

いる。1393 グリッドに位置する。

SB14 の法量は、南北 1.0m 以上、東西 4.25m の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 15m を測る。

SB14 からは図示できる遺物は出土していない。

竪穴建物 15（SB15）

SB15 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB15 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。2303 グリッドに位置する。

SB15 の法量は、南北 5.0m、東西 4.8m の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

SB15 では土師器（RP1024~1032）、須恵器（RP1033~1041）が出土している。

RP1024 は托であり、埋 1 層から出土した。底径 10.4cm、器高 3.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土は密であり、長石が観察される。この托は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はナデ、回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1025 は高坏であり、埋 1 層から出土した。口径 20.2cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には砂粒含むが観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1026 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.4cm、底径 8.2cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1027 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 26cm、器高 8.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、

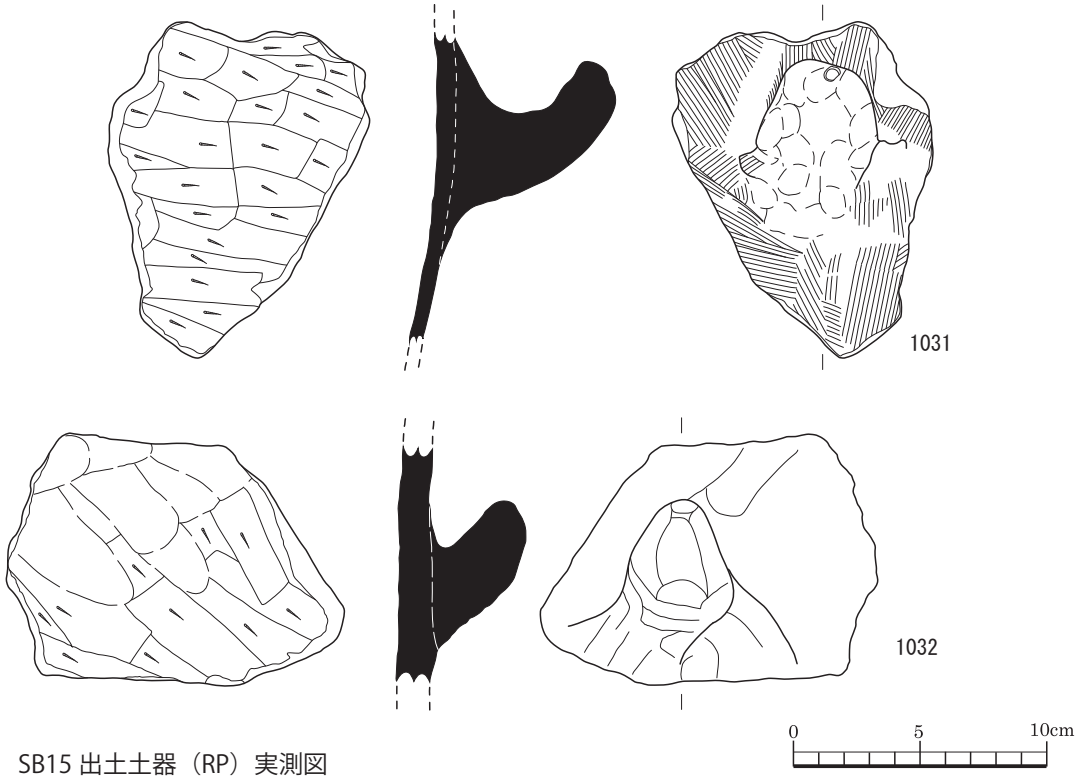


図 279　SB15 出土土器（RP）実測図

ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1028 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 28cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、灰白色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1029 は移動式竈の破片であり、埋 1 層から出土した。器高 3.5cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この竈は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1030 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 25.4cm、器高 11.1cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1031 は甑の把手であり、埋 1 層から出土した。器高 13.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甑の把手は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP1032 は甑の把手であり、埋 1 層から出土した。器高 9.4cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甑の把手は、外面調整はナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1033 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 15.6cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP1034 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 2.15cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1035 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径

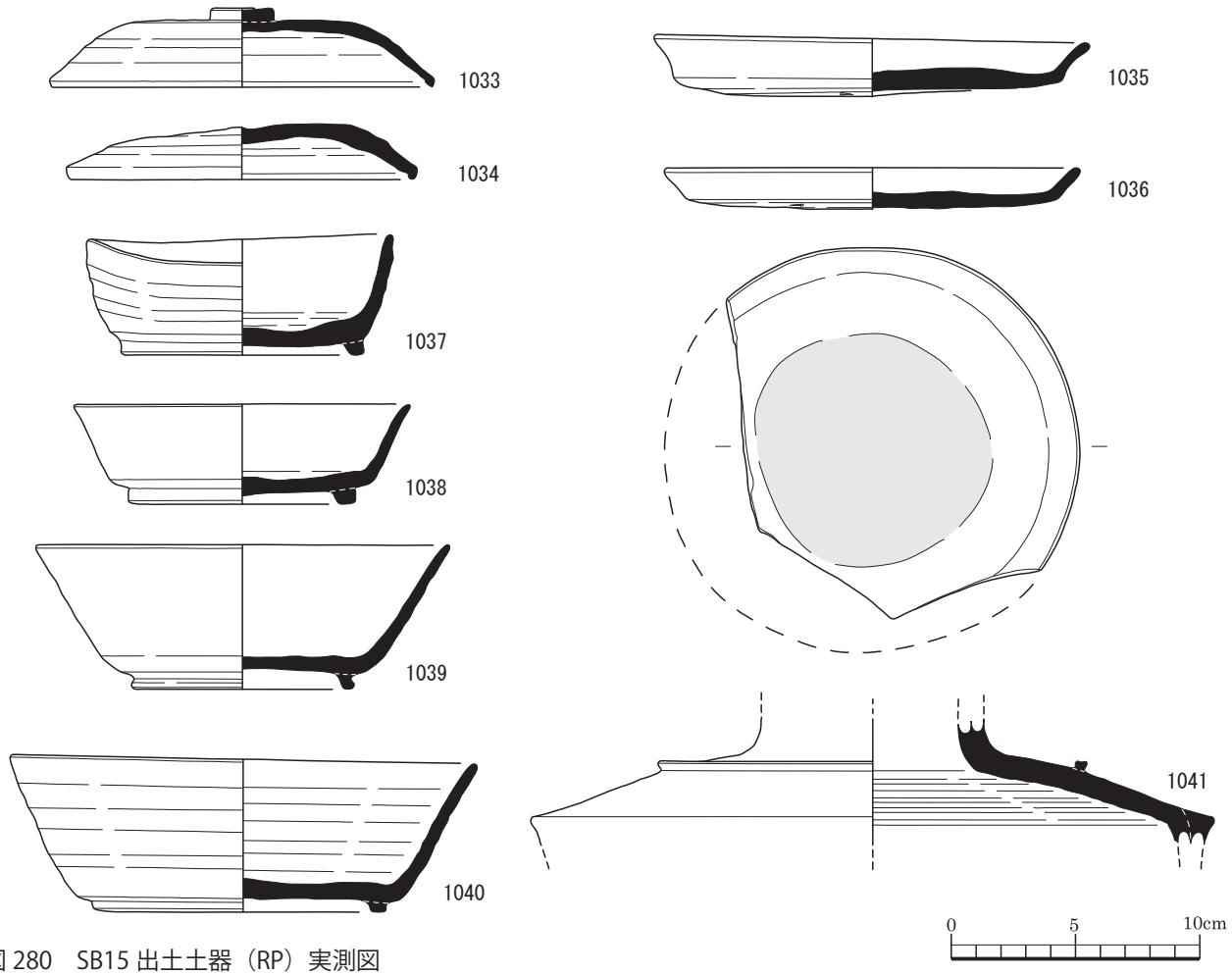


図 280　SB15 出土土器（RP）実測図

17.6cm、底径 15.2cm、器高 2.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

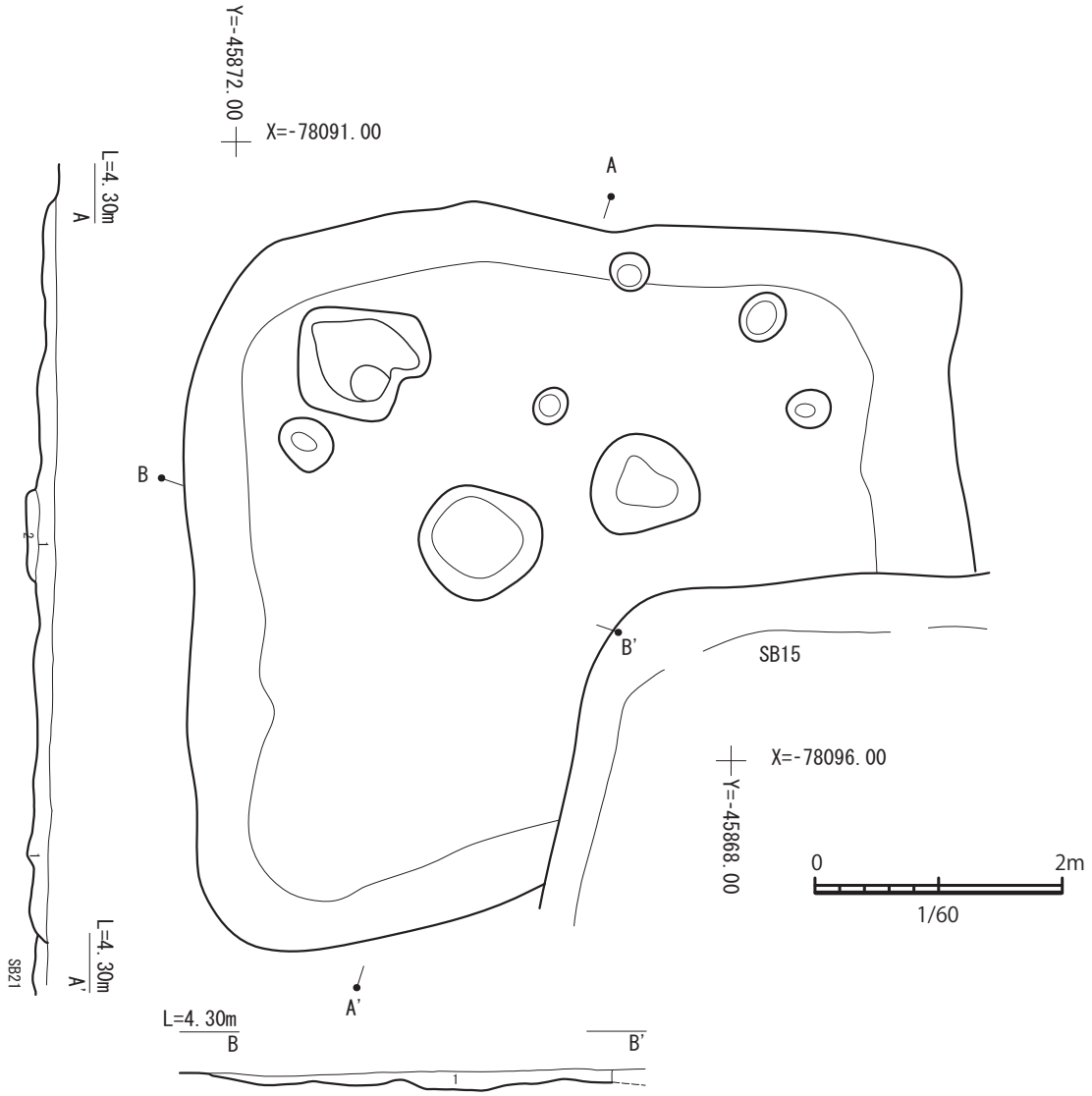
RP1036 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 16.8cm、底径 11cm、器高 1.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1037 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.4cm、底径 9.8cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り、回転ヘラケズリ、貼付高台、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1038 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.6cm、底径 9.2cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1039 は坏であり、埋 1 層東ベルトから出土した。口径 16.7cm、底径 9cm、器高 5.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、貼付高台、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1040 は坏であり、埋 1 層南 G から出土した。口径 18.9cm、底径 11.9cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長



1　埋1層 黒褐色（10YR 2/2）シルト　しまり良い　粘質少しあり　黒褐色土（10YR 2/3）　斑点状（0.1～0.3cm）少し含む　炭少し含む

図 281　SB18 実測図（1/60）

石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1041 は壺であり、埋 1 層から出土した。器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰色､内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、貼付突帯、内面調整は回転ナデ、シボリ痕により製作され、焼成は良好である。

竪穴建物 18（SB18）

SB18 は、平面が長方形を呈し、炉を備えた竪穴住居である。SB18 は、SB15 に切られる。2303 グリッドに位置する。

SB18 の法量は、南北 6.2m、東西 5.9m、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。

炉は、SB18 のほぼ中央に位置し、平面は円形、直径 0.8m、深さ 16cm を測る。

SB18 では土師器（RP1043、1044）、須恵器（RP1045~1047）の他、弥生土器（RP1042）が出土している。

RP1042 は弥生中期の甕の底部であり、埋 1 層から出土した。底径 6cm、器高 5.3cm を測る。器面の

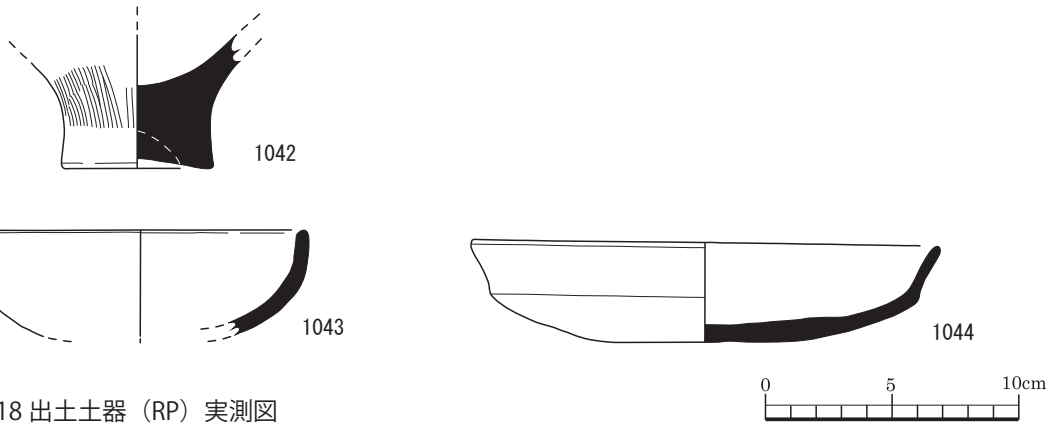


図 282　SB18 出土土器（RP）実測図

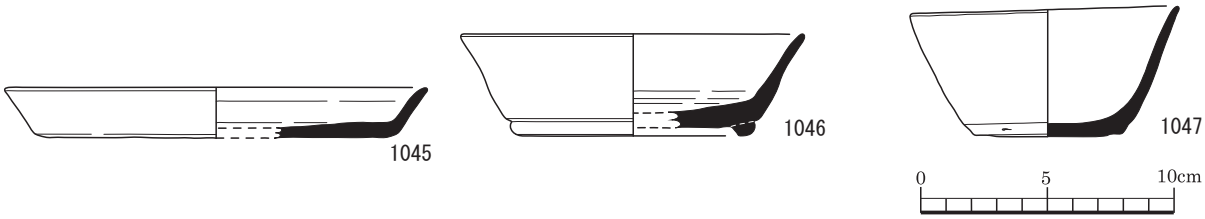


図 283　SB18 出土土器（RP）実測図

外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、灰色砂粒が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。混入した資料と考えている。

RP1043 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.2cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は黒、にぶい橙色、内面はにぶい橙、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1044 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 18.6cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この皿は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1045 は皿である。口径 16.8cm、底径 13.4cm、器高 2cm を測る。器面の外面は灰白、浅黄橙色、内面も灰白、浅黄橙色を呈し、胎土には長石、赤褐色粒子が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1046 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.8cm、底径 9.8cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石、赤褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP1047 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 10.7cm、底径 5.8cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

竪穴建物 21（SB21）

SB21 は、平面が正方形を呈し、炉を備えた竪穴住居である。主柱穴は確認していない。

SB21 は SB18 に切られている。SB21 は SB15 に切られている。2302 グリッドに位置する。

SB21 の法量は、南北 5.25m、東西 4.8m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

炉は、SB21 の北半部中央に位置する SK23 である。

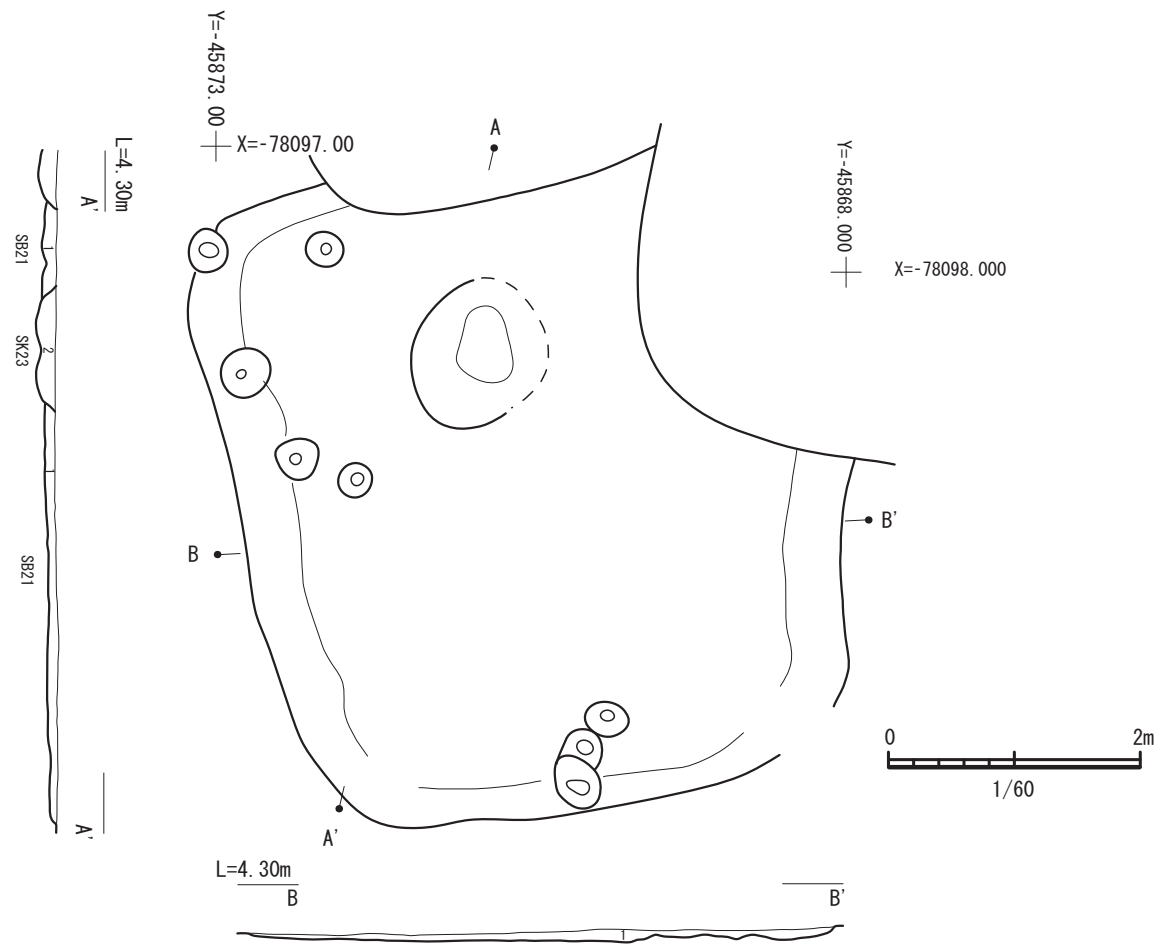


図 284　SB21 実測図（1/60）

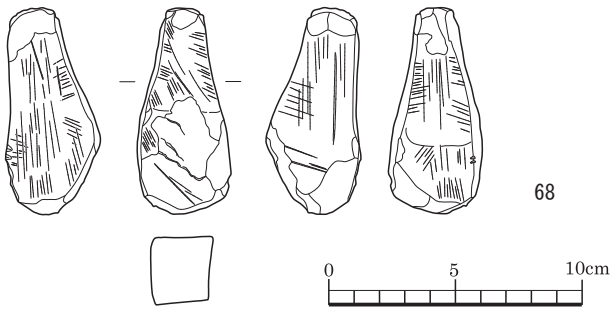


図 285　SB21 出土石器（RQ）実測図

SK23 は、直径 1.1m の円形で、深さ 15cm を測る。埋土中には、炭や焼土を少し含んでいる。

SB21 では土師器（RP1048~1053）、須恵器（RP1054~1062）、石器（RQ68）が出土している。

RP1048 は高坏であり、埋 1 層から出土した。底径 11cm、器高 9.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には密が観察される。この高坏は、外面調整はミガキ、ナデ、内面調整はナデ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1049 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 10.2cm、底径 6.6cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には長石含むが観察される。この坏は、外面調整はナデ、ナデ、ヘラ記号、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1050 は壺である。口径 17cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1051 は壺である。口径 22.2cm、器高 8.2cm を測る。器面の外面は赤褐色、内面も赤褐色を呈し、胎土には金雲母含むが観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1052 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径

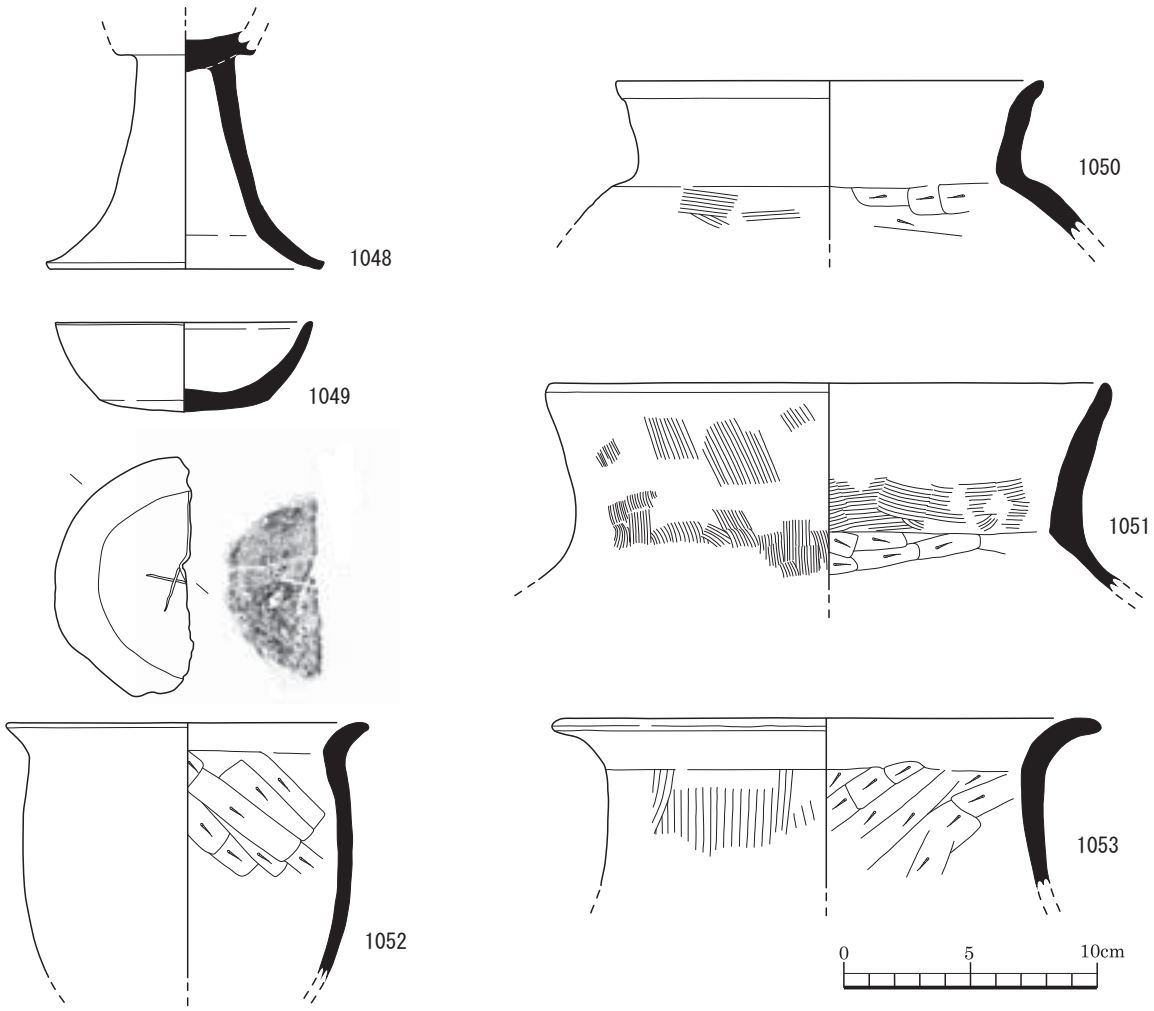


図 286　SB21 出土土器（RP）実測図

14.4cm、器高 10.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面は褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1053 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 21.7cm、器高 6.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1054 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 15.4cm、器高 2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1055 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.8cm、器高 1.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP1056 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 16.2cm、器高 2.1cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

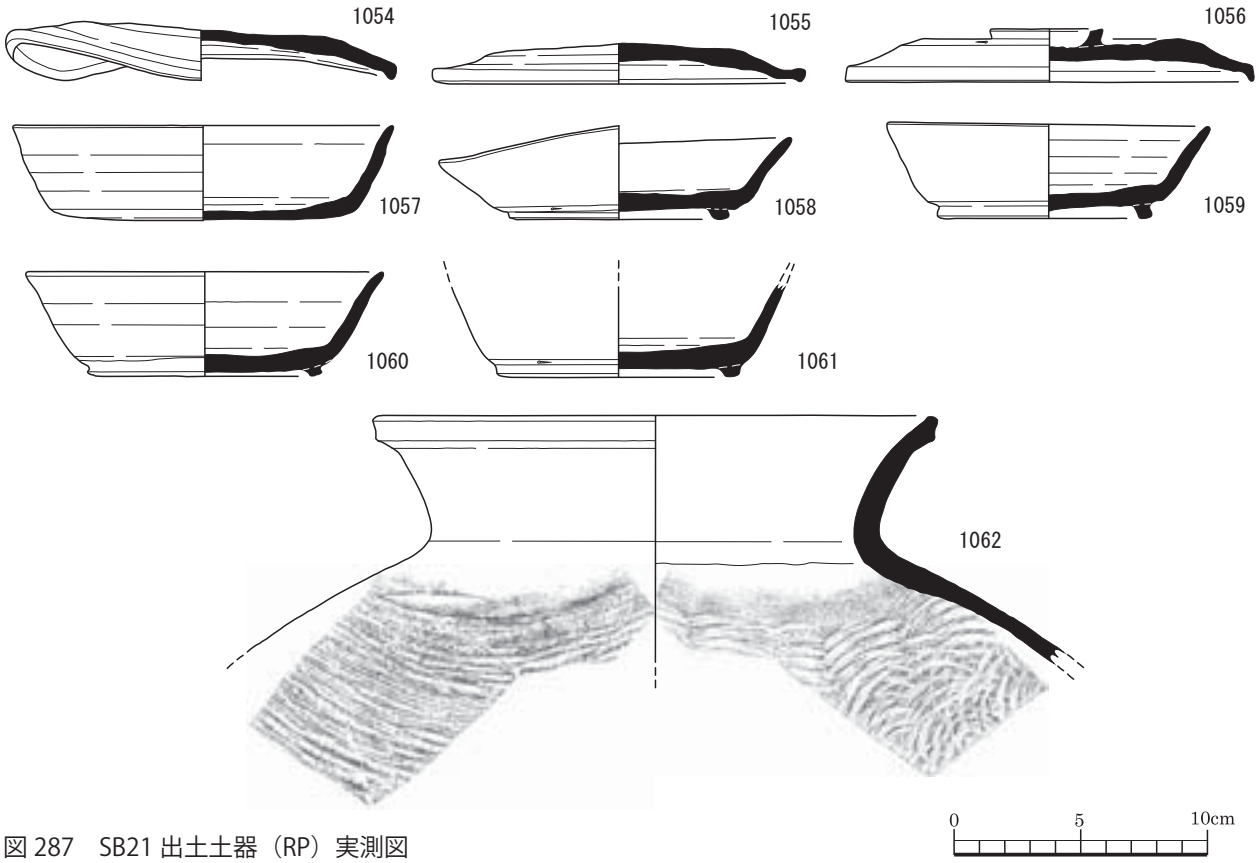


図 287　SB21 出土土器（RP）実測図

RP1057 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 15.1cm、底径 9.3cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1058 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、底径 8.7cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

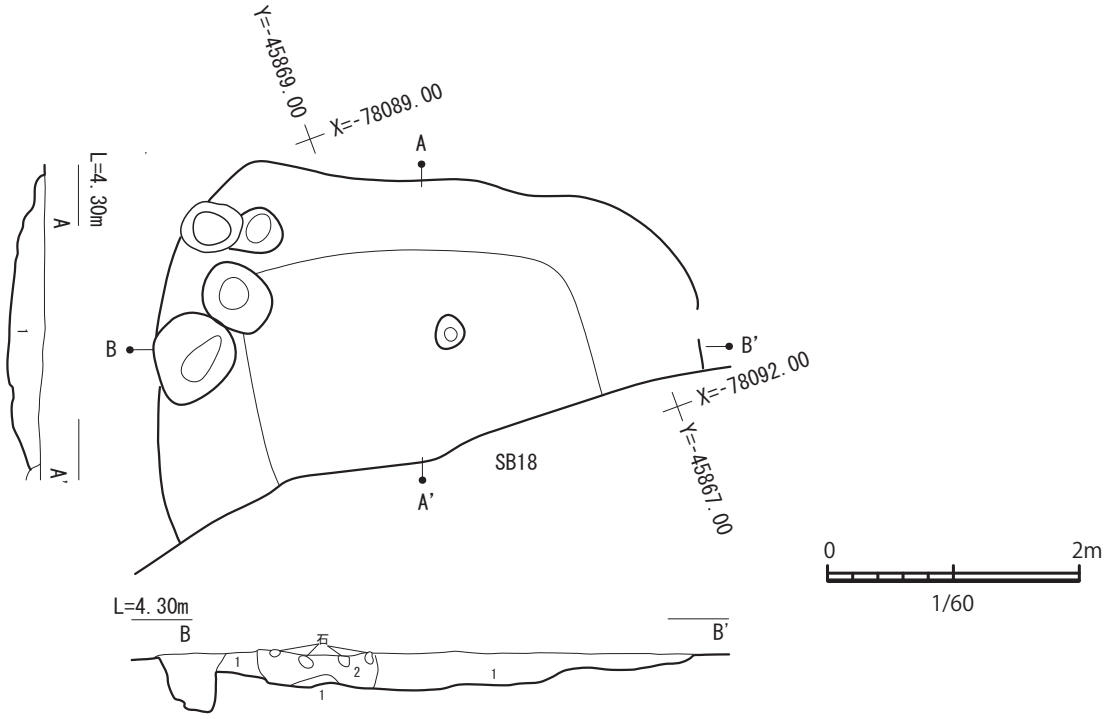
RP1059 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.8cm、底径 8.4cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1060 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.2cm、底径 9.3cm、器高 4.15cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、ナデ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1061 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 9.6cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP1062 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 22.4cm、器高 9.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、タタキ（格子）、内面調整はヨコナデ、指オサエ、ヘラナデ、タタキ（同心円）により製作され、焼成は良好である。

RQ68 は、天草砥石（リソイダイト）を素材とした



1　埋1層　褐色（10YR 4/4）シルト　黒褐色(10YR 2/2)シルトが混在（6：4）　しまりなし　粘性少しあり　焼土粒状（0.1～0.3cm大）少し含む
2　礫層　礫（5～10cm大）多く含む　住居よりも後のようで住居の床面より下方にも続く　遺物はない

図 288　SB27 実測図（1/60）

砥石である。

竪穴建物 27（SB27）

SB27 は、平面が方形を呈する竪穴建物である。SB27 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB27 は SB18 に切られている。2303 グリッドに位置する。

SB27 の法量は、南北 2.2m 以上、東西 4.3m、遺構確認面からの深さ 26cm を測る。

SB27 の北西壁側に 4 基のピットが群集する。その法量は、直径 30~70cm、深さは最大 42cm を測る。

SB27 の埋土には礫が多く混じる。

SB27 では、図示できる遺物は出土していない。

竪穴建物 29（SB29）

SB29 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB29 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。なお、9 区の調査では SB29 と同一と考えられる遺構は検出されなかった。SB29 は、SB9 に切られている。2301 グリットに位置する。

SB29 の法量は、南北 7.4m、東西 3.8m 以上、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。

SB29 の南東隅に SK42、SK45 を備える。SK45 の法量は、南北 2.3m 以上、東西 1.0m 以上の長方形を呈し、遺構確認面からの深さ 34cm を測る。SK42 の法量は、東西 1.45m の不整形を呈し、遺構確認面からの深さ 40cm を測る。

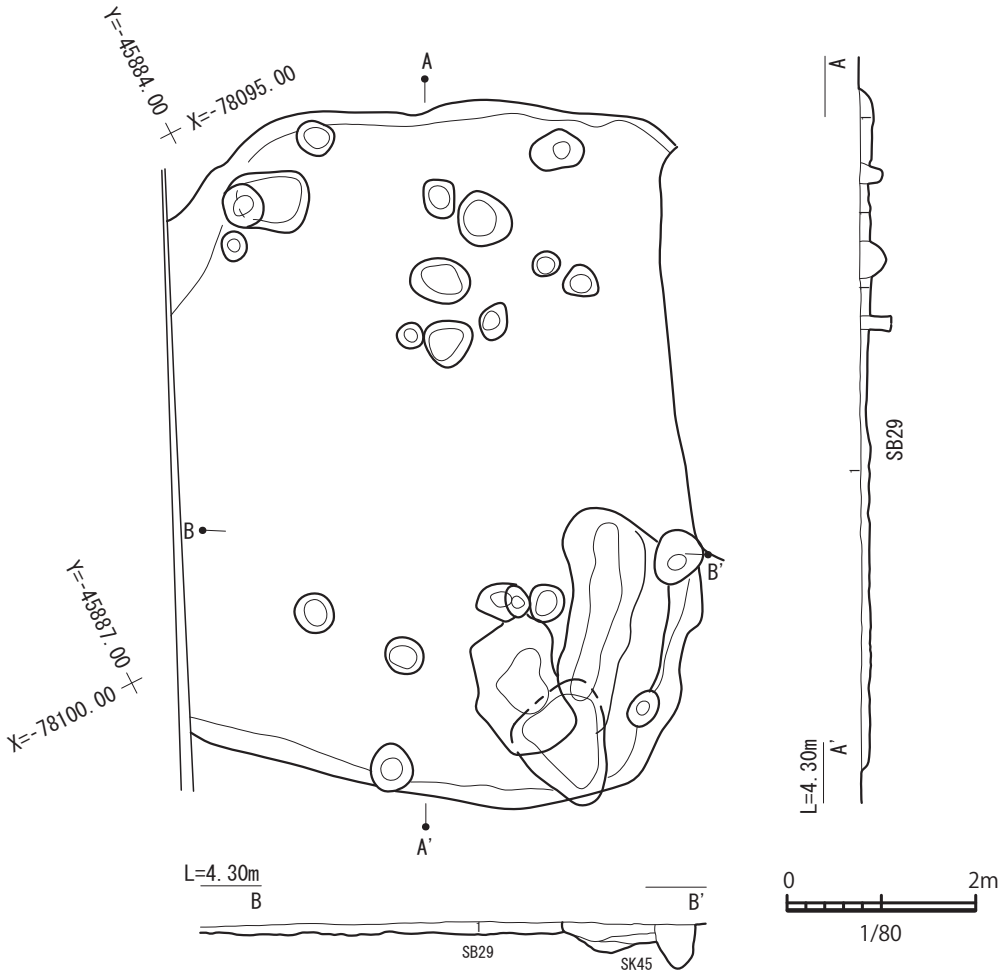
SB29 では、図示できる遺物は出土していない。

竪穴建物 30（SB30）

SB30 は、平面が方形を呈する竪穴建物である。SB30 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。なお、9 区の調査では SB30 と同一と考えられる遺構は検出されなかった。SB30 は SB29 に切られている。1391 グリッドに位置する。

SB30 の法量は、南北 5.0m 以上、東西 4.25m 以上、遺構確認面からの深さ 14cm を測る。

SB30 内では、南北に延びる溝である SD61 を確認



1　埋1層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　粘性なし　しまりあり　にぶい黄褐色(10YR 5/4)地山ブロック（5cm大）を10%含む　土器片含む

図 289　SB29 実測図（1/80）

した。

SB30 では土師器（RP1063）が出土している。

RP1063 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴建物 31（SB31）

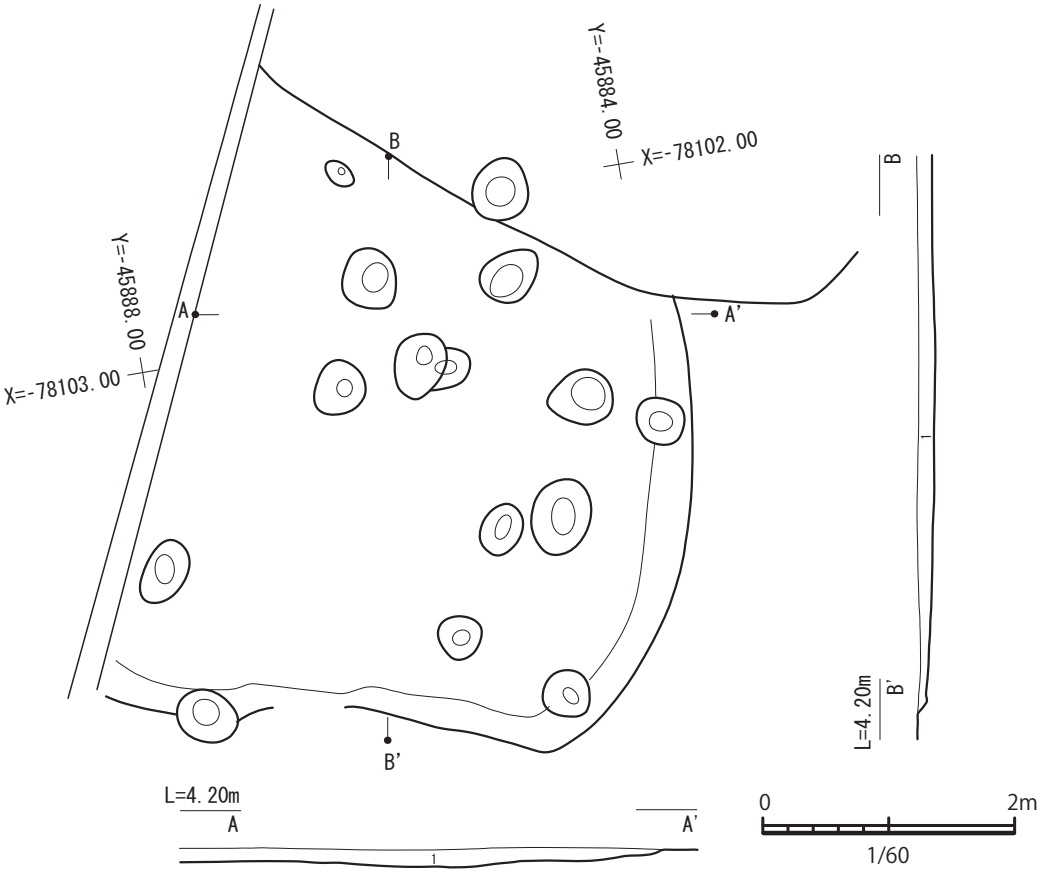
SB31 は、平面が方形を呈する竪穴建物である。SB31 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB31 は、SB29 に切られている。SB31 は、SB32 を切っている。2301 グリッドに位置する。

SB31 の法量は、南北 7.0m 以上、東西 4.4m 以上、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

SB31 では土師器（RP1064~1067）が出土している。

RP1064 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、底径 12.2cm、器高 1.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この皿は、外面調整はナデ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1065 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.2cm、底径 7.4cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。



1　埋1層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　しまりあり　粘性なし　黒褐色(10YR 3/1)　シルト　ブロック（5～10cm大）を3%含む　土器片含む　SB32の埋土と似る

図 290　SB30 実測図（1/60）

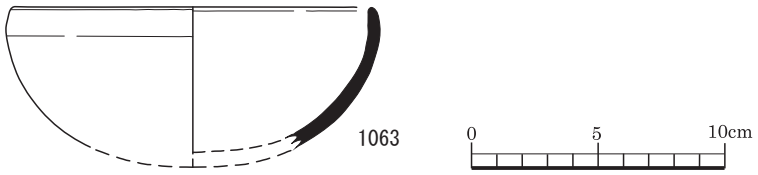


図 291　SB30 出土土器（RP）実測図

RP1066 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 18.2cm、器高 3.3cm を測る。器面の外面は明赤褐、灰褐色、内面は明赤褐、にぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、茶褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1067 は甑である。器高 4.6cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子、角閃石が観察される。この甑は、外面調整は指頭圧痕、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

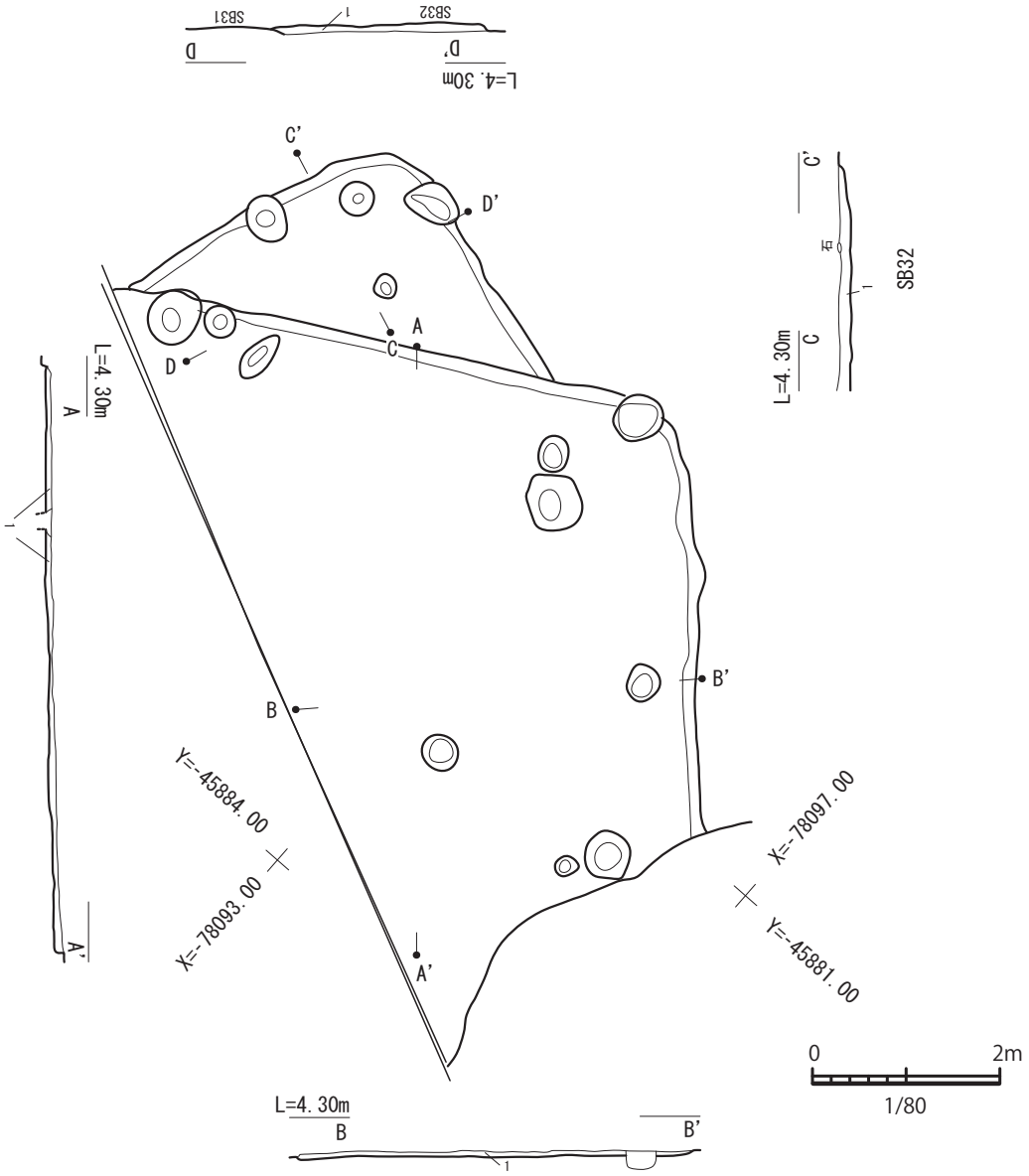
竪穴建物 32（SB32）

SB32 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB32 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB32 は、SB31 に切られている。2312 グリッドに位置する。

SB32 の法量は、南北 2.2m 以上、東西 3.1m 以上の不整形を呈し、遺構確認面からの深さ 18cm を測る。

SB32 では土師器（RP1068）が出土している。

RP1068 は底部穿孔がなされた坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.1cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長



SB31　埋1層　暗褐色（10YR 3/3）シルト　粘性なし　しまりあり　土器片ごく少量含
SB32　埋1層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　しまりなし　粘性なし　黒褐色(10YR 3/1)シルトブロック（5～10cm大）を3%含む
土器片を含む　ＳＢ30の埋土と似る　地山は礫層で貼り床の可能性あり

図 292　SB31・32 実測図（1/80）

石、角閃石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。底部穿孔は外面から間接打撃法により施されている。

竪穴建物 38（SB38）

SB38 は、平面が方形を呈する竪穴建物である。SB38 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため､「建物」と記述する。2303 グリッドに位置する。

SB38 の法量は、南北 3.2m、東西 1.3m 以上、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

SB38 では土師器（RP1069、1070）、須恵器（RP1071、1072）が出土している。

RP1069 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 4.75cm を測る。器面の外面はにぶい橙、灰褐色、内面もにぶい橙、灰褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤褐色粒子、黒色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ケ

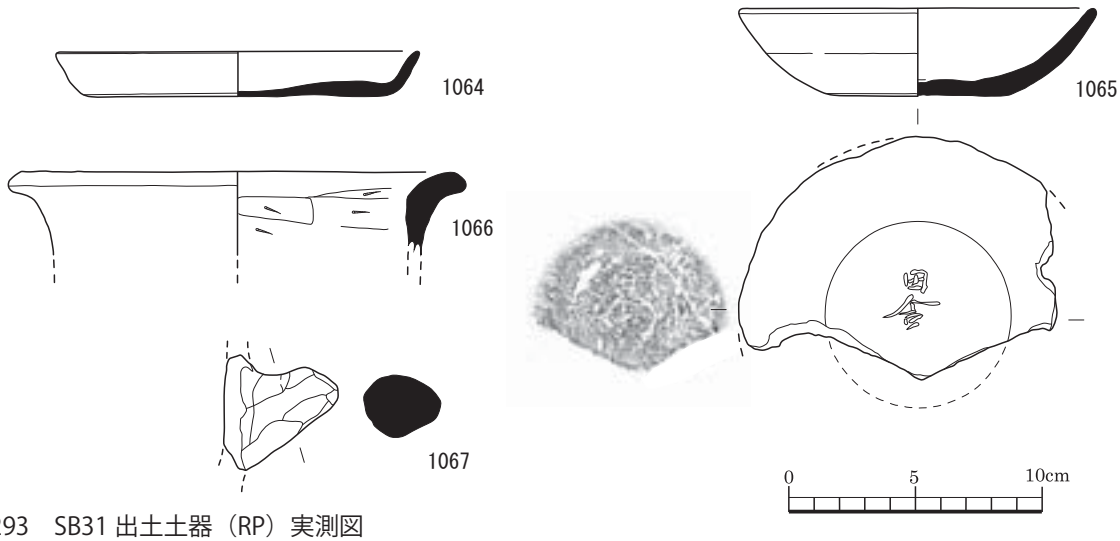


図 293　SB31 出土土器（RP）実測図

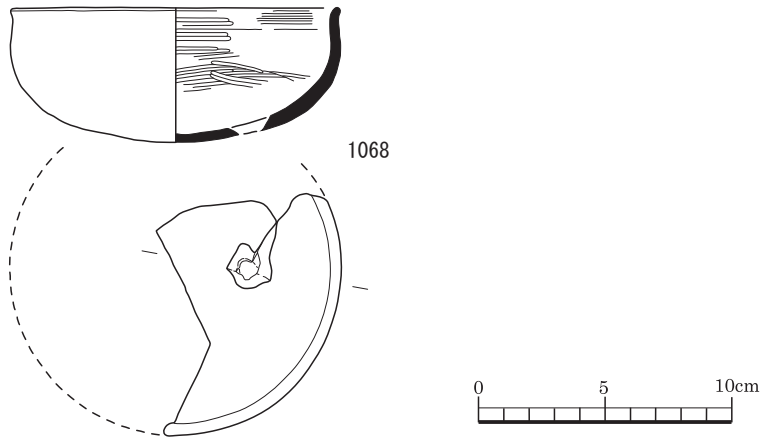


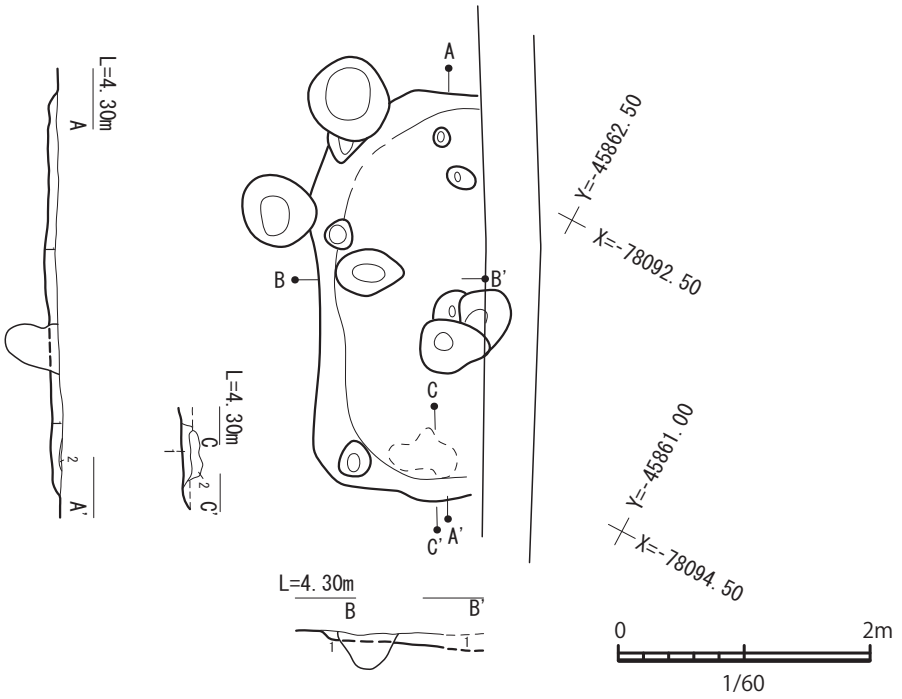
図 294　SB32 出土土器（RP）実測図

ズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1070 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 21cm、器高 2.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、赤色粒子、黒色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1071 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 2.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は淡黄色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1072 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 15.4cm、底径 12.3cm、器高 2.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。



1　埋1層　暗褐色（10YR 3/3）シルト　しまりある　粘性ある　黒褐色(10YR 2/2)シルト、斑点状（0.2～1cm大）多く含む
2　焼土　埋1層の土をベースに表面に焼土が集中し、下方はブロック状（1～2cm大）で少し含む　炭も上方に少し含む　かまどではないようである

図 295　SB38 実測図（1/60）

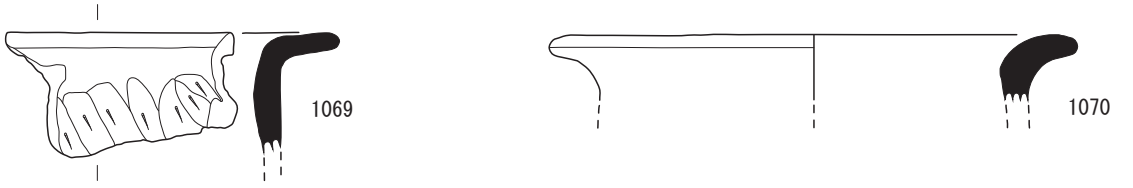


図 296　SB38 出土土器（RP）実測図

図 297　SB38 出土土器（RP）実測図

竪穴建物 49（SB49）

SB49 は、平面が円形を呈し、炉を備えた 3 本柱建ての竪穴住居である。1382 グリッドに位置する。

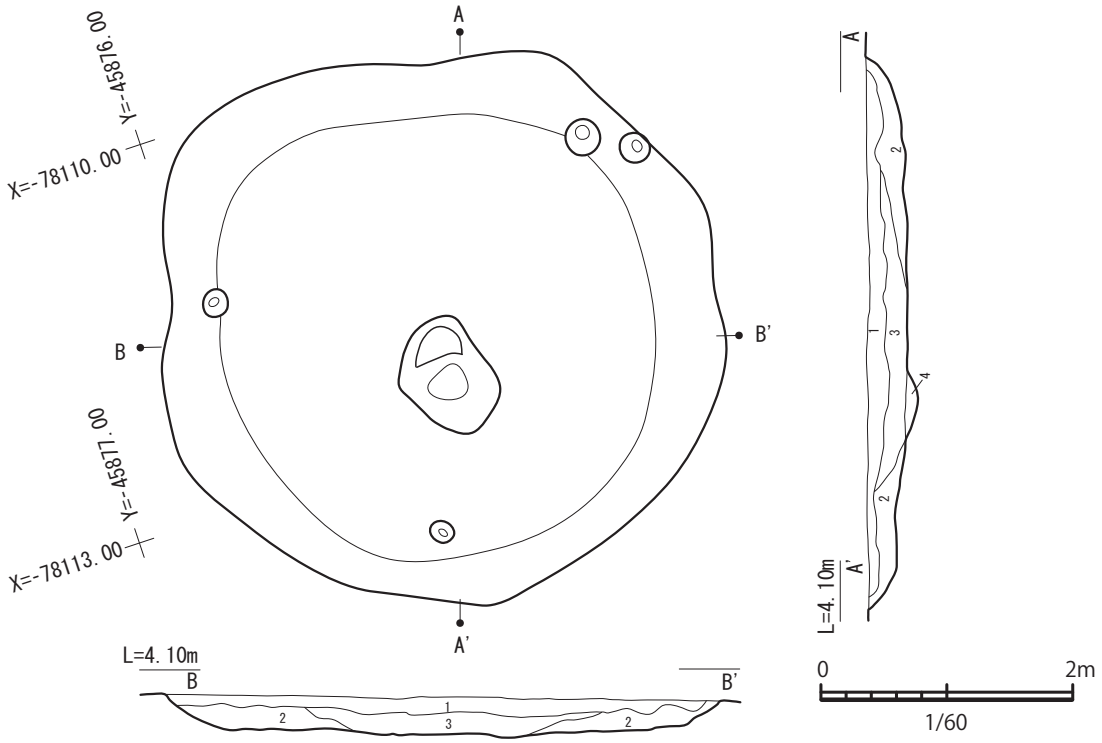
SB49 の法量は、直径 4.5m、遺構確認面からの深さ 32cm を測る。

炉は、SB49 のほぼ中央に位置し、南北 1.0m、東西 0.8m の楕円形を呈し、深さ 10cm を測る。北側には一段高いテラスが付設しており、南側はボウル状に掘削された炉床となっている。炉内では炭化物が多く検出された。

SB49 では土師器（RP1073~1077）、石器（RQ69）が出土している。

RP1073 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 10.5cm、器高 9cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は赤褐色を呈し、胎土には長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1074 は壺であり、埋 2 層から出土した。器高 7.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は橙色を



1　埋1層　暗褐色（10YR 3/4）シルト　しまり弱い　粘性なし　焼土粒状（0.2～0.5cm）少し含む　炭、ブロック状（0.5～1.0cm）少し含む　遺物少ない
2　埋2層　黒褐色（10YR 3/1）シルト　しまりある　粘性ある　焼土粒状（0.2～0.5cm）少し含む　炭、ブロック状（0.5～2.0cm）少し含む
3　埋3層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　しまりある　粘性少し強い　焼土粒状（1.0～2.0cm）少し含む　（埋3層上部）　炭化物ブロック状（1.0～6.0cm）多く含む
埋4層（炉）の上部に集中していた.下部に行くほど粘性が強くなる
4　埋4層（炉）　黒色（10YR 2/1）シルト　しまりあり　粘性強い　焼土粒状（0.5～1cm）少し含む　炭化物ブロック状（1.0～2.0cm）含む

図 298　SB49 実測図（1/60）

呈し、胎土には金雲母、赤色粒子、白色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1075 は壺であり、埋 2 層から出土した。器高 4.2cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、ヘラ書き、内面調整はヘラケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1076 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 16.4cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には白色粒子、角閃石含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1077 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 9.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には砂粒、礫、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RQ69 は、砥石である。

竪穴建物 74（SB74）

SB74 は、その一部だけを確認した、全容不明の竪穴建物である。SB74 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB74 は、SB75 に切られている。1373 グリッドに位置する。

SB74 の法量は、東西 5.4m 以上である。

SB74 では土師器（RP1078~1113）、石器（RQ70~74）が出土している。これら SB74 出土遺物は SB75（後述）出土遺物と相互に接合するため、同一図幅に一括して掲載した。

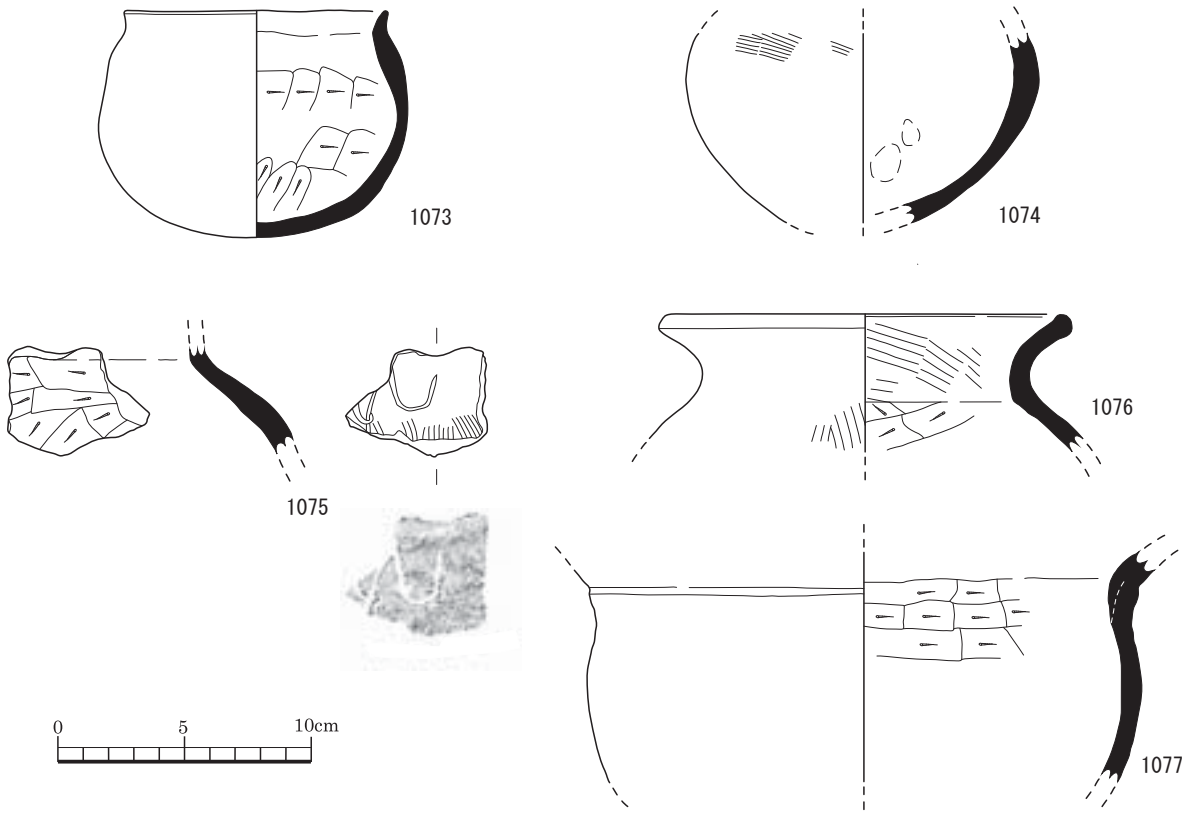


図 299　SB49 出土土器（RP）実測図

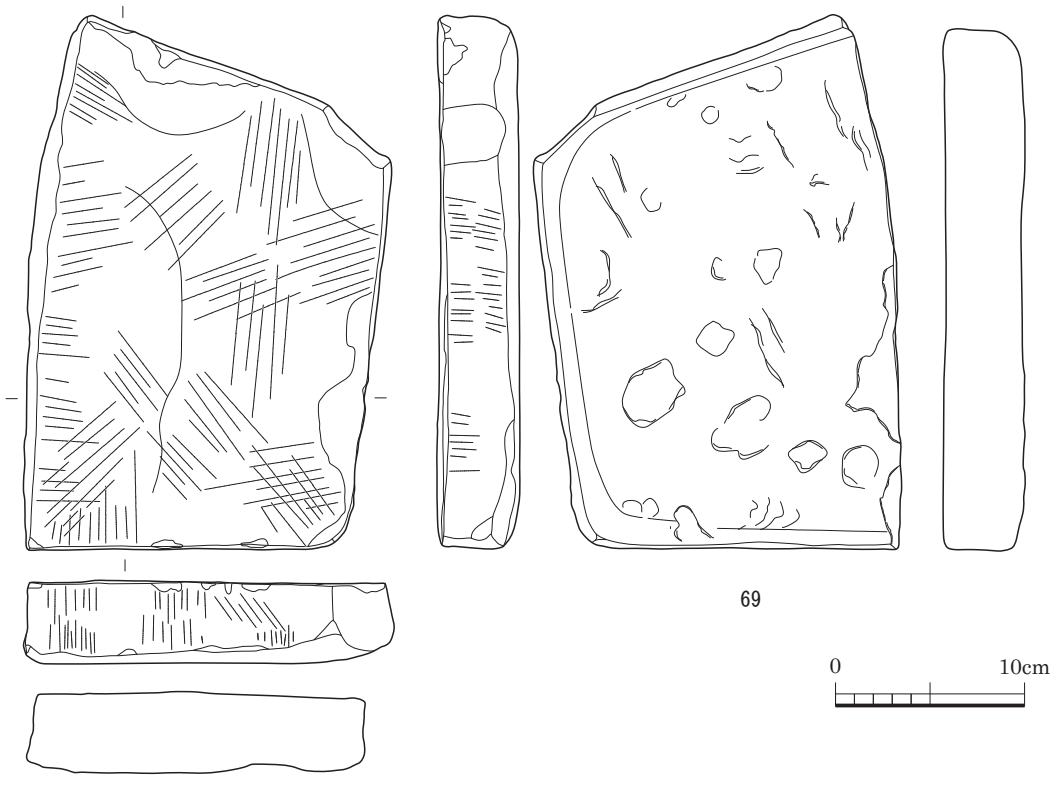
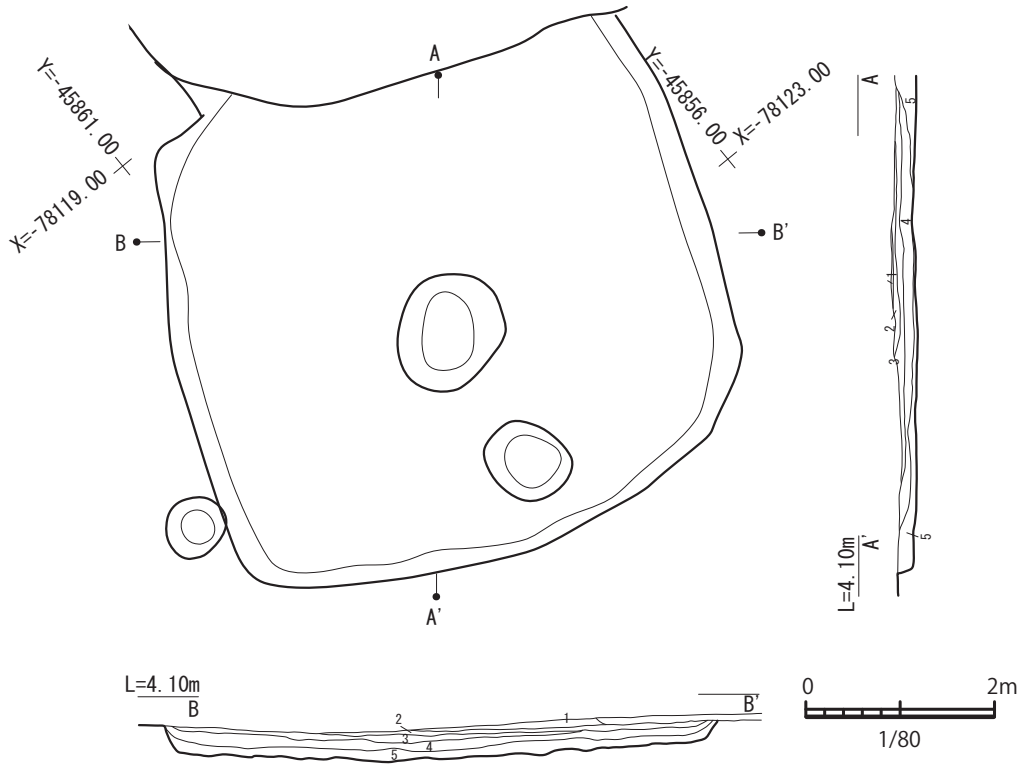


図 300　SB49 出土石器（RQ）実測図



1　埋1層　黒褐色（7.5YR 3/2）砂、粘性なし　しまりなし　SB75の埋土というより付近にある流路からの流れ込み土　土器片含むが時期は混在
2　埋2層　黒褐色（7.5YR 2/2）シルト　粘性なし　しまりなし　0.5〜1cm大の炭化物粒を20%含む　完形品の土器を多く含む
3　埋3層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）と（10YR 3/3暗褐色）シルトの混土　粘性あり　しまりなし　1〜3cm大の炭化物粒を5%含
4　埋4層　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト　粘性あり　しまりなし　0.5cm大の炭化物粒を3%含　土器片含
5　埋5層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　粘性あり　しまりあり　0.5cm大の炭化物粒を2%含　土器片含

図 301　SB75 実測図（1/80）

竪穴住居 75（SB75）

SB75 は、平面が正方形を呈し、炉を備えた竪穴住居である。主柱穴は確認していない。SB75 は、SB1 に切られている。SB75 は、SB74 を切っている。1374 グリッドに位置する。

SB75 の法量は、南北 5.4m、東西 5.8m、遺構確認面からの深さ 38cm を測る。

炉は、SB75 のほぼ中央に位置する直径 1.2m の土壙である。

SB75 では土師器（RP1078~1113）、石器（RQ70~74）が出土している。これら SB75 出土遺物は SB74 出土遺物と相互に接合するため、同一図幅に一括して掲載した。

土師器（RP）には、製塩土器（RP1092）が含まれている。

RP1078 は高坏であり、埋 1 層から出土した。口径 18cm、底径 13.4cm、器高 14.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、黒色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1079 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 14cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄橙色、内面も橙、にぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ケズリ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1080 は鉢であり、埋 3 層から出土した。口径 10.2cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面は橙、灰白、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この鉢は、外面調整はナデ、ハケメ、内面調整は工具ナデにより製作され、焼成は良で

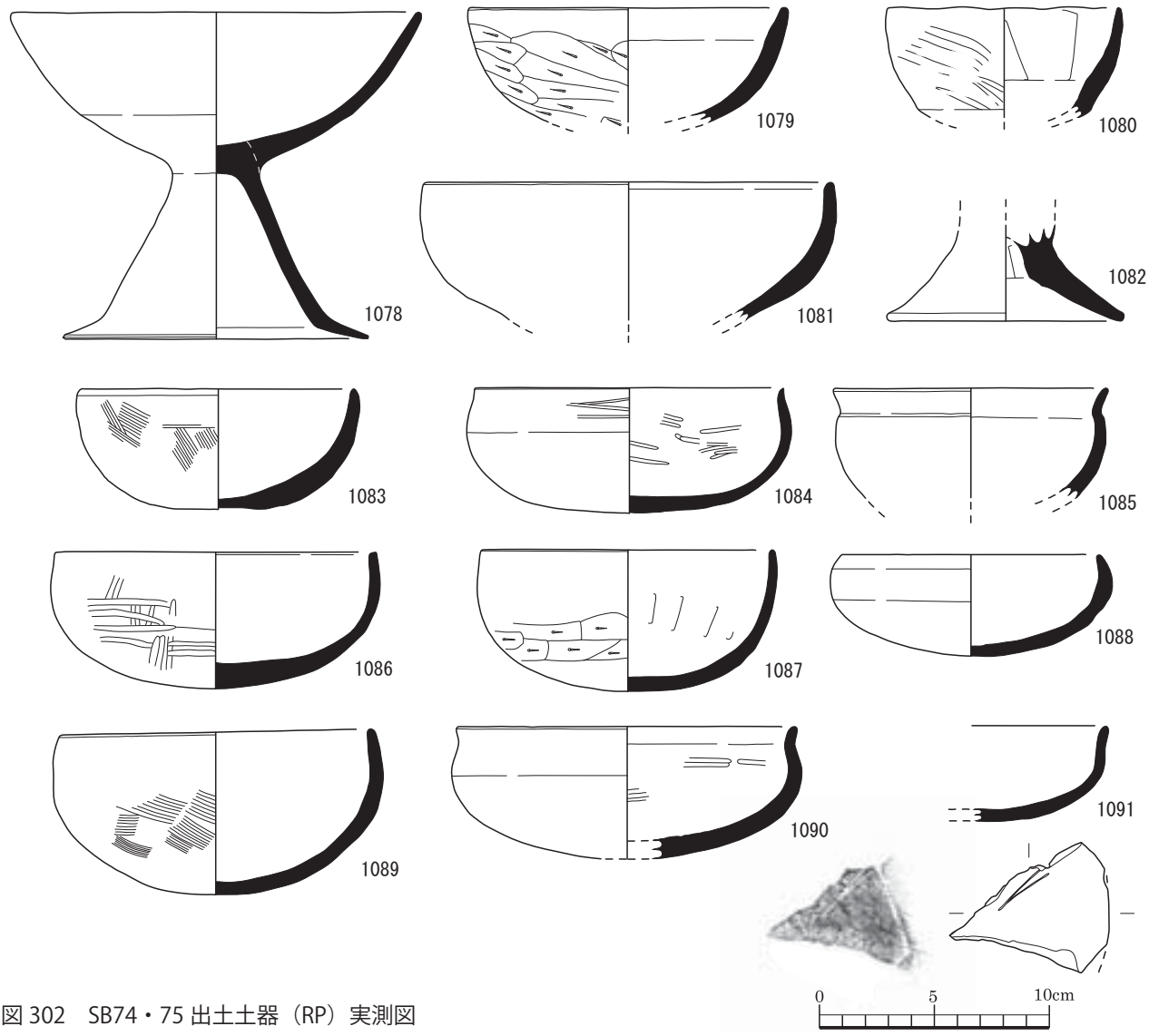


図 302　SB74・75 出土土器（RP）実測図

ある。

RP1081 は坏であり、埋 1、4 層から出土した。口径 18cm、器高 6cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、茶褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1082 は高坏の脚部であり、埋 1 層から出土した。底径 10.4cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は浅黄橙、灰黄褐、赤色、内面は灰黄、黄灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1083 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 12.3cm、器高 5.25cm を測る。器面の外面は灰白、黒橙色、内面は黄灰、灰白、橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1084 は坏であり、埋 1、4 層から出土した。口径 13.6cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、ミガキ、内面調整はナデ、ヨコナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1085 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面

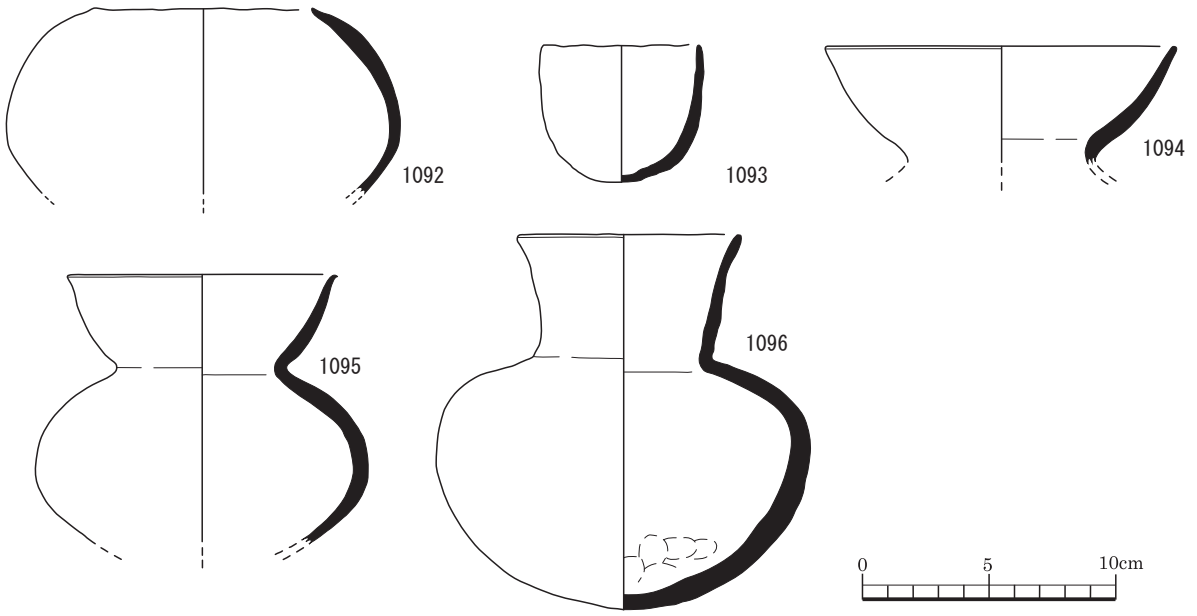


図 303　SB74・75 出土土器（RP）実測図

も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はミガキ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1086 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 14cm、底径 2.2cm、器高 6cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には雲母、角閃石、石英が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ミガキ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はナデ、ミガキ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1087 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.9cm、底径 6.2cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整は板状工具で成形、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1088 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 11.3cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、石英が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1089 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 13.6cm、底径 3.8cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、角閃石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1090 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.9cm、器高 5.8cm を測る。器面の外面は明赤褐、橙、褐灰色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ミガキ、ヨコナデ、内面調整はミガキ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1091 は坏であり、埋 1 層から出土した。器高 4.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ミガキ、内面調整はヨコナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1092 は製塩土器であり、埋 1、2 層から出土した。口径 8.7cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この製塩土器は、外面調整はナデ、ケズリ、内面調整は工具ナデ、ナデにより

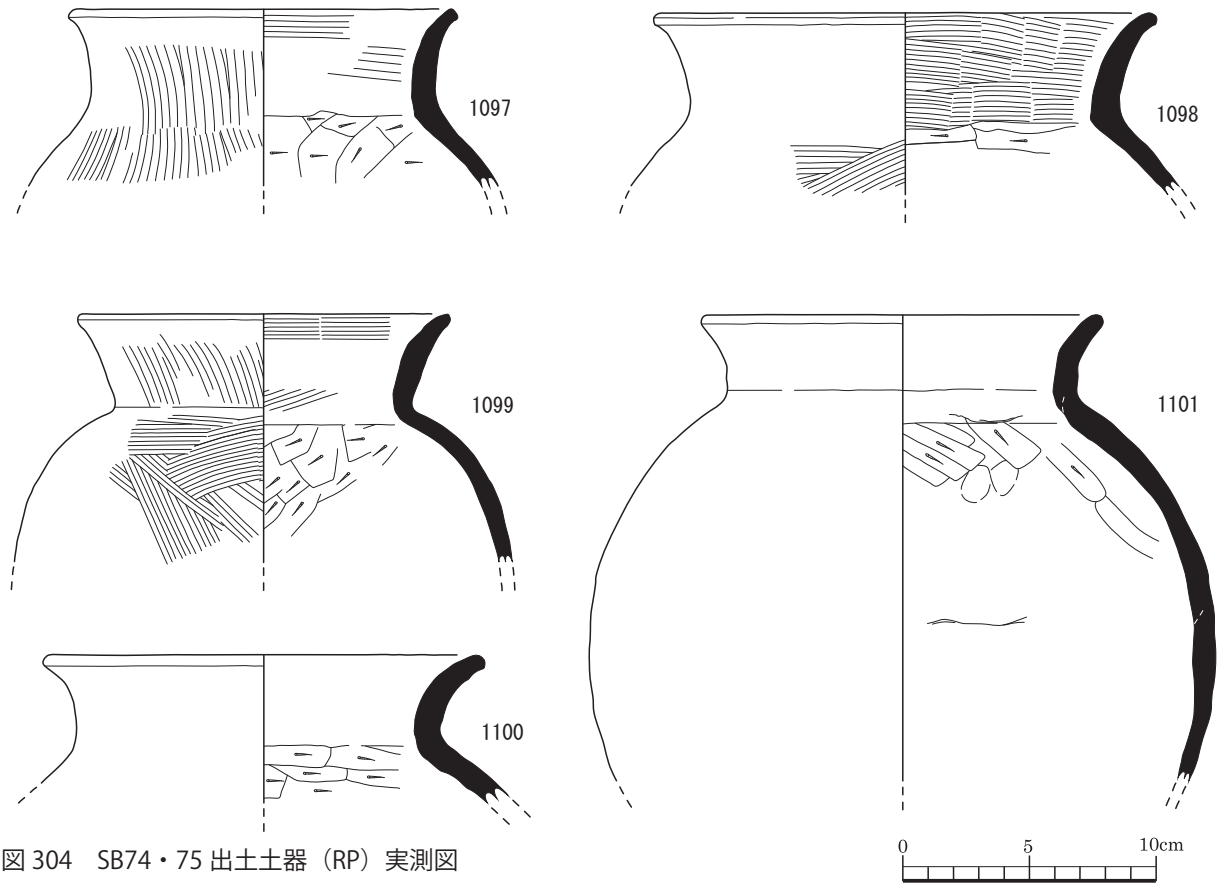


図 304　SB74・75 出土土器（RP）実測図

製作され、焼成は良である。

RP1093 は鉢であり、埋 3 層から出土した。口径 6.4cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は明赤褐、黄灰色、内面は灰褐、にぶい褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この鉢は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1094 は壺であり、埋 4、5 層から出土した。口径 14cm、器高 4.6cm を測る。器面の外面は灰白、浅黄橙色、内面も灰白、浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1095 は壺であり、埋 3 層から出土した。口径 10.7cm、器高 10.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、黒色粒子が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1096 は壺であり、埋 2 層から出土した。口径 8.9cm、器高 14.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、灰黄褐、黒褐色、内面は橙、にぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はナデ、指頭圧痕、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1097 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 15.4cm、器高 7cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐色、内面もにぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1098 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 20cm、器高 7.2cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄褐、褐灰色、内面も橙、にぶい黄褐、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、赤色粒子、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメにより製作され、焼成は良である。

RP1099 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口

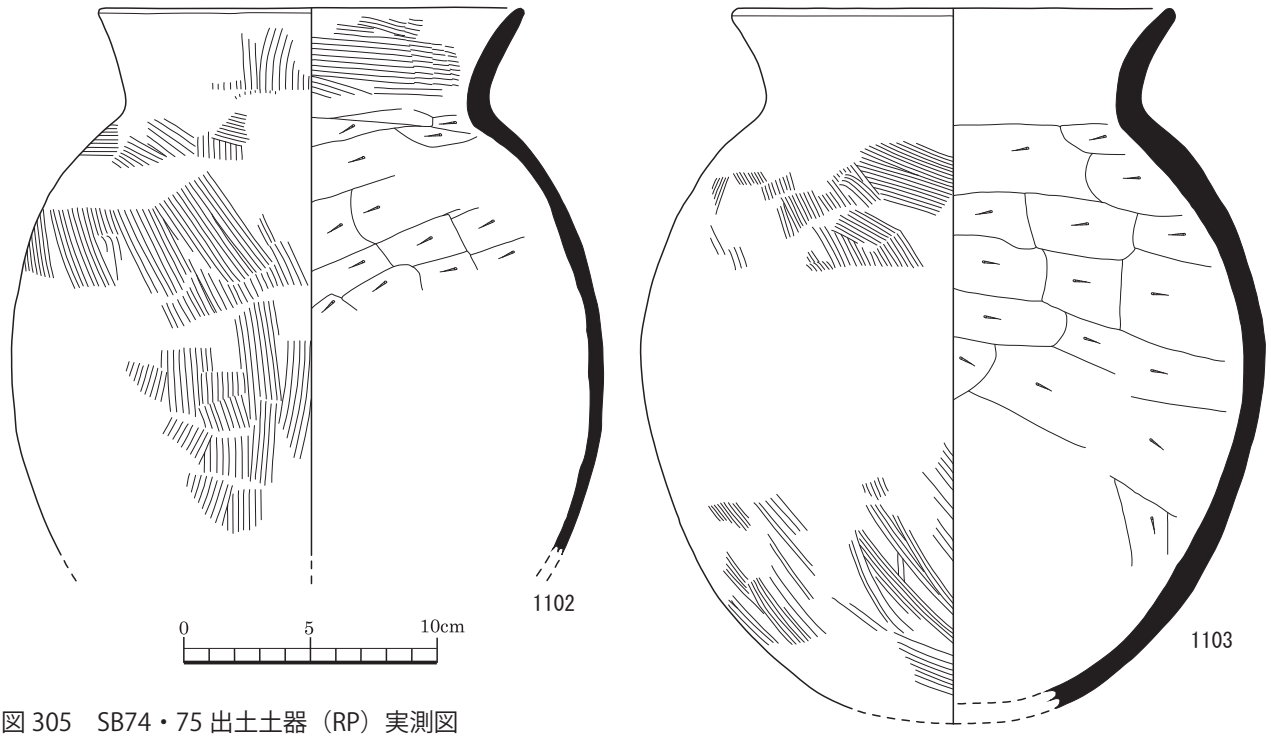


図 305　SB74・75 出土土器（RP）実測図

径 14.8cm、器高 9.85cm を測る。器面の外面は赤褐、黒褐、灰黄色、内面はにぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデ、ハケメにより製作され、焼成は良好である。

RP1100 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 17.6cm、器高 5.9cm を測る。器面の外面は浅黄橙、にぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1101 は甕であり、埋 1~4 層から出土した。口径 16cm、器高 18.5cm を測る。器面の外面は赤橙橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1102 は甕であり、埋 1~4 層から出土した。口径 16.9cm、器高 21.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメにより製作され、焼成は良である。

RP1103 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 17cm、器高 27.8cm を測る。器面の外面は橙、浅黄橙色、内面は橙、浅黄橙、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1104 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 18.6cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐、灰褐、褐灰色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1105 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 13.5cm、器高 16.3cm を測る。器面の外面は明赤褐、灰褐色、内面は明赤褐、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、茶色粒子が観察される。この甕は、外面調整は指オサエ、ハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整は粘土輪積、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1106 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口

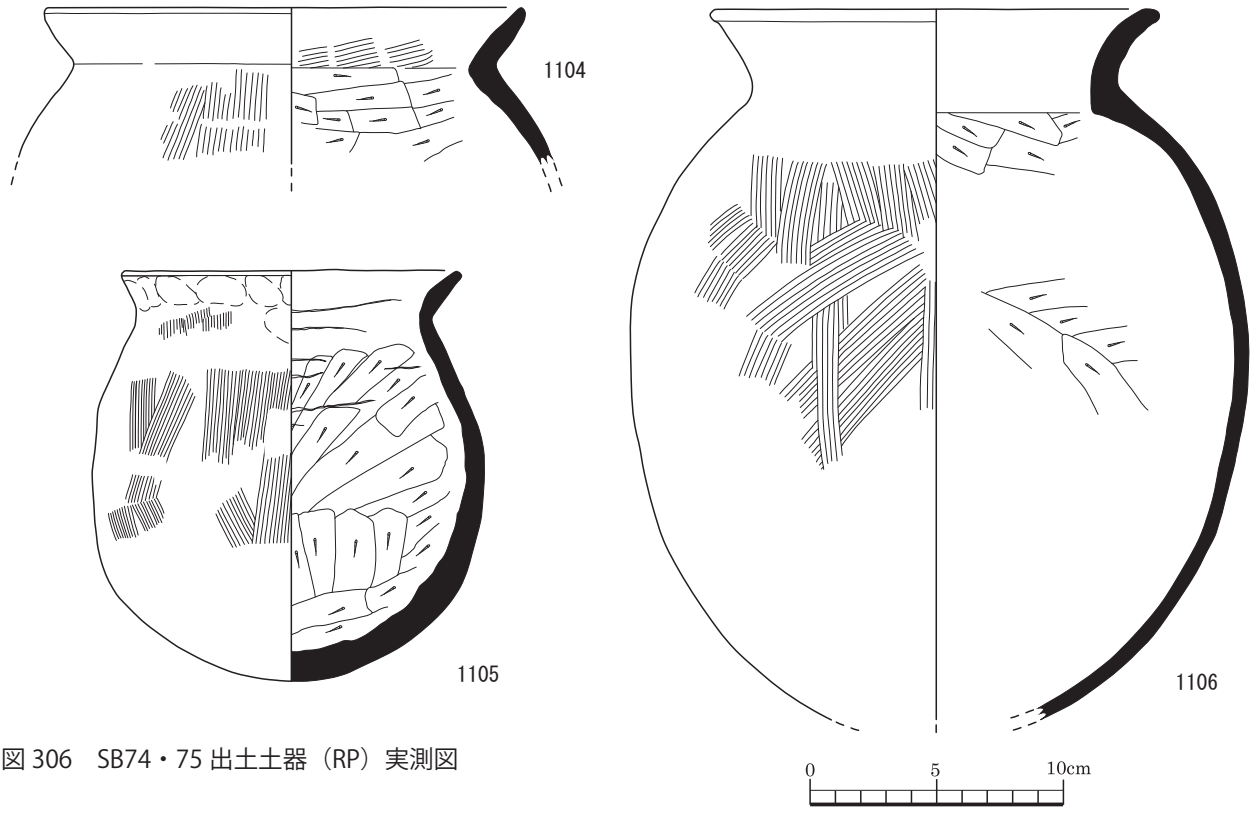


図 306　SB74・75 出土土器（RP）実測図

径 17.9cm、器高 28.2cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄橙、灰黄褐、黒褐色、内面はにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1107 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 16.6cm、器高 7cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1108 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 14.7cm、器高 6.9cm を測る。器面の外面は赤褐色、内面は赤褐、にぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1109 は甕であり、埋 1、2、4 層から出土した。口径 15cm、器高 14.9cm を測る。器面の外面は明赤褐、灰色、内面は明赤褐、黄灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、茶褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1110 は壺であり、埋 2、3 層から出土した。口径 16.4cm、器高 36.4cm を測る。器面の外面は浅黄橙、灰黄褐、赤橙色、内面は浅黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石、雲母が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1111 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17.4cm、器高 7.2cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、茶色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1112 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 19cm、器高 9.6cm を測る。器面の外面は灰白、黄灰色、内面は灰白、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、

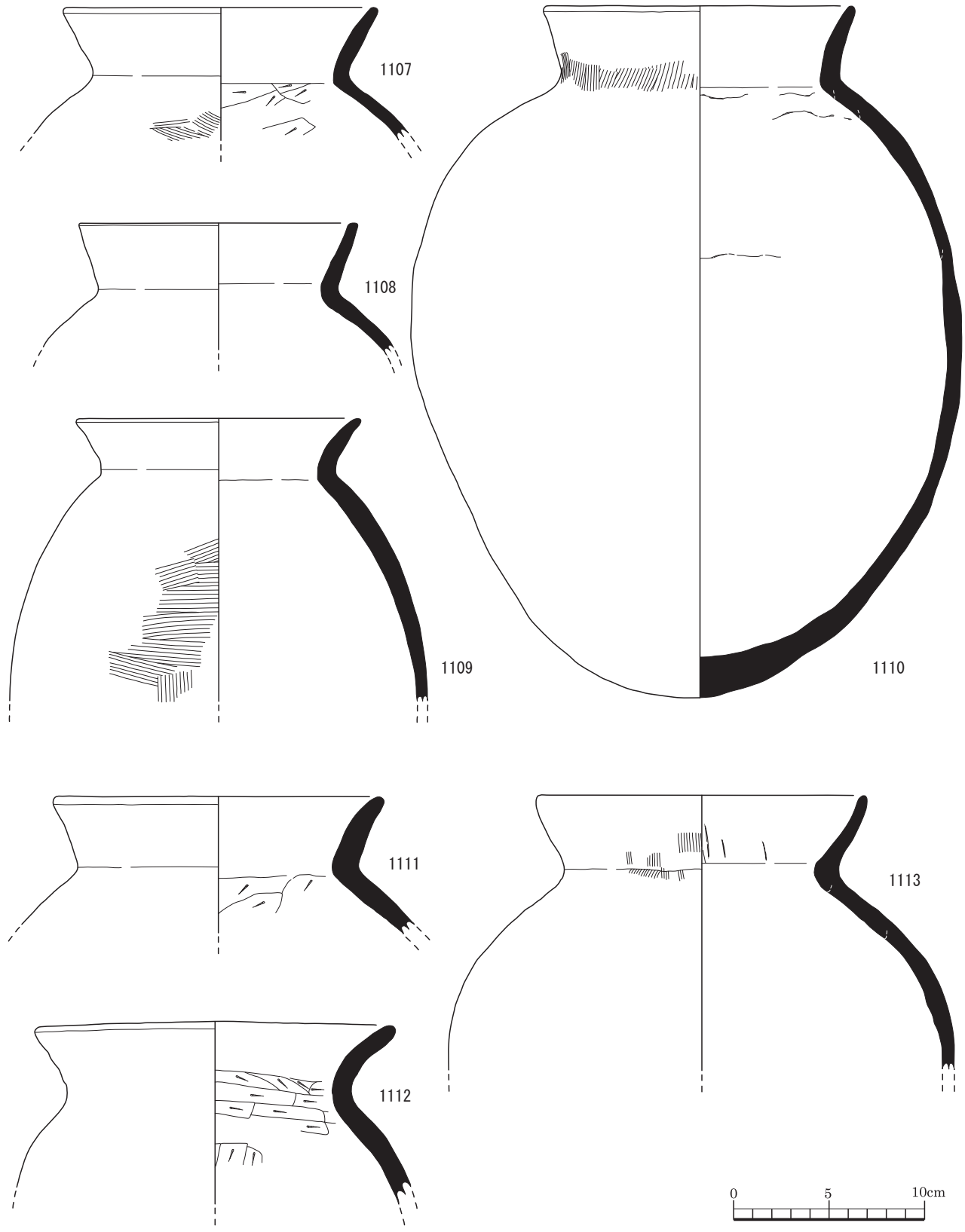


図 307　SB74・75 出土土器（RP）実測図

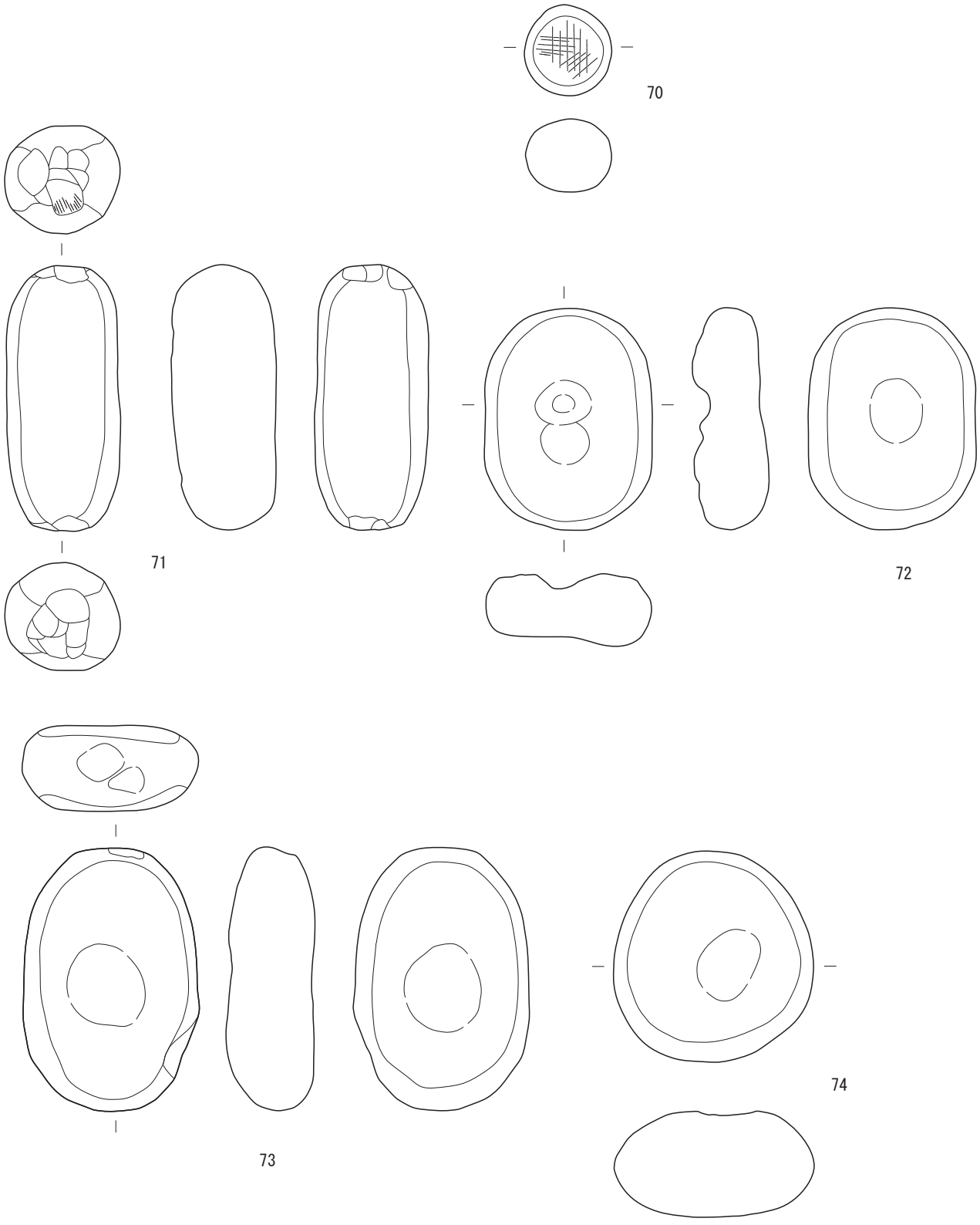


図 308　SB74・75 出土石器（RQ）実測図

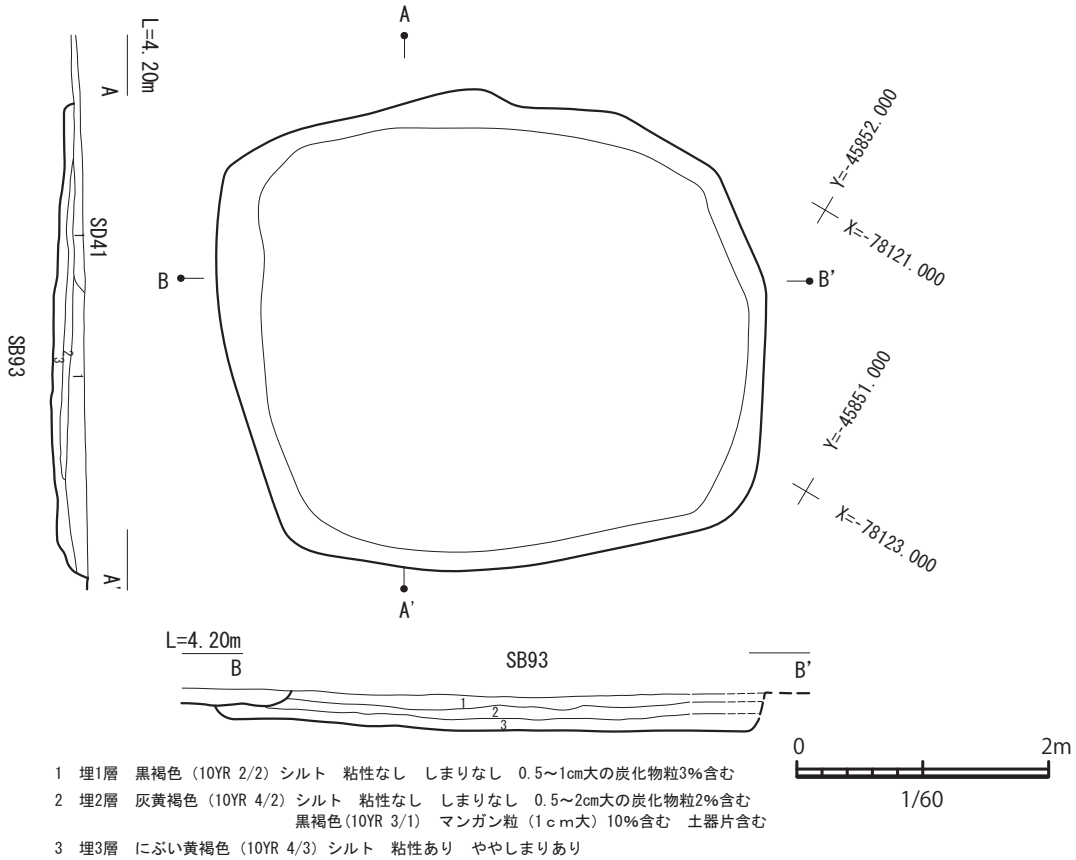


図 309　SB93 実測図（1/60）

雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1113 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17cm、器高 14.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙、にぶい黄橙色、内面はにぶい黄褐、浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RQ70 は磨石、RQ71 は敲石、RQ72~74 は凹石である。

竪穴建物 93（SB93）

SB93 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB93 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。1374 グリッドに位置する。

SB93 の法量は、南北 3.8m、東西 4.1m、遺構確認面からの深さ 28cm を測る。

SB93 では土師器（RP1114~1127）、須恵器（RP1128、1129）、石器（RQ75、76）が出土している。

石器（RQ）には、紡錘車（RQ75）が含まれている。

RP1114 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.6cm、器高 6.8cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ミガキ、ヘラ切り離し、内面調整はナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1115 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 15cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1116 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.4cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観

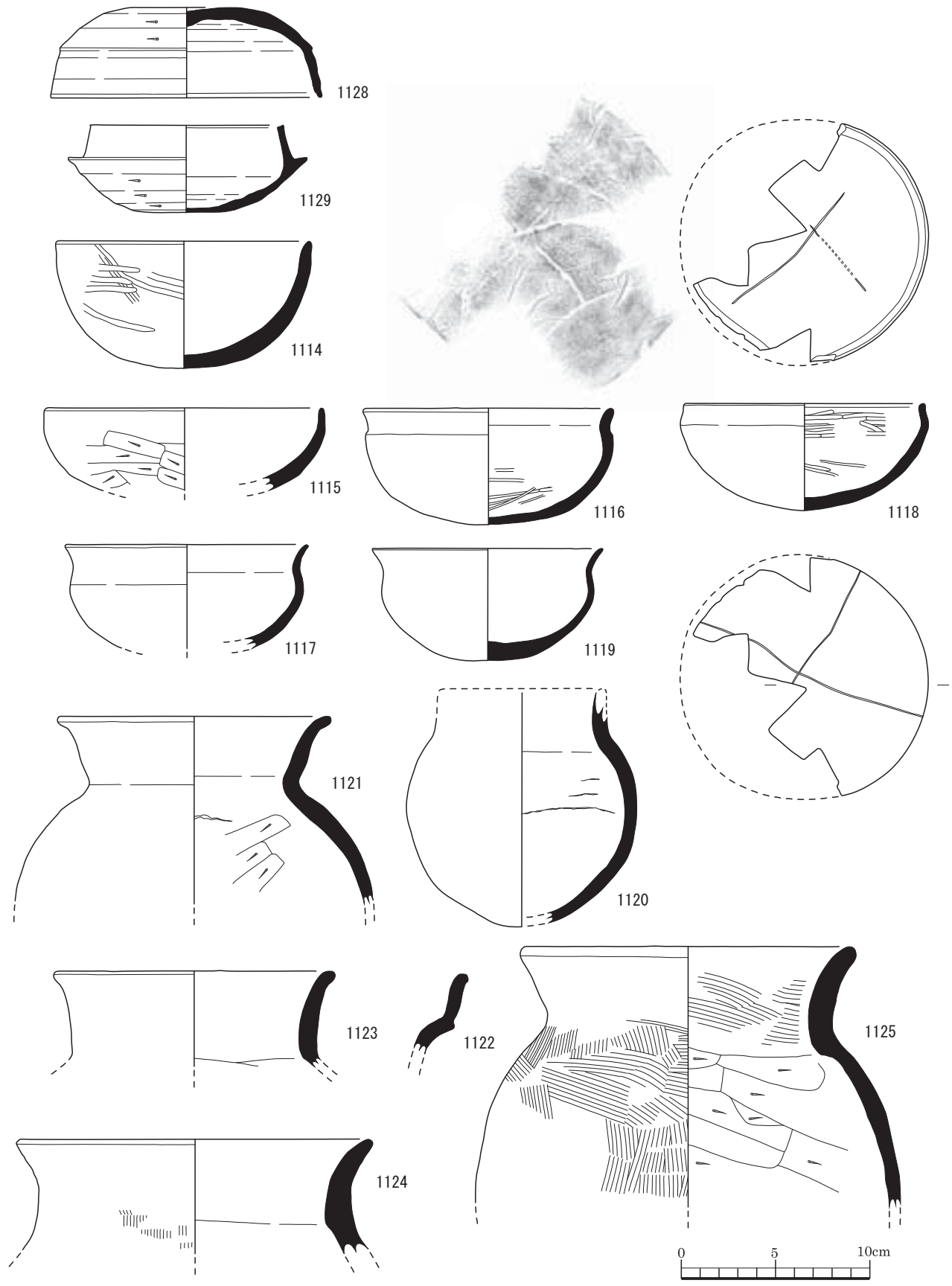


図 310　SB93 出土土器（RP）実測図

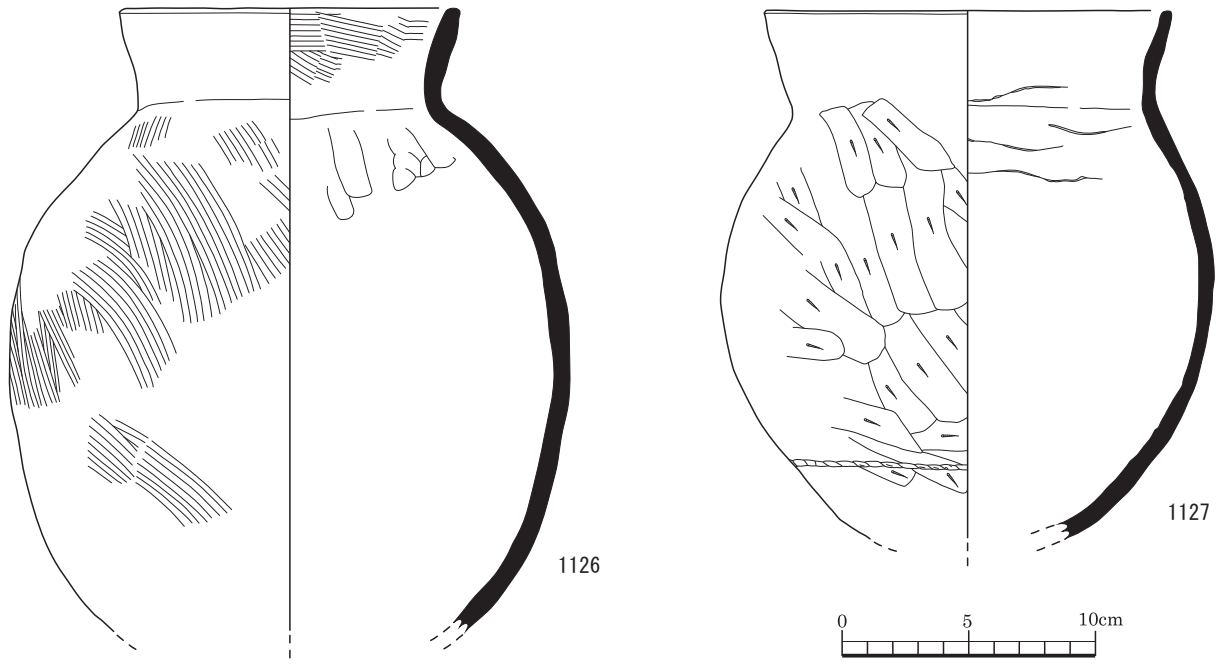


図 311　SB93 出土土器（RP）実測図

察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はミガキ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1117 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1118 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 12.9cm、器高 5.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1119 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.2cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には褐色粒子、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整はヘラケズリ、ナデ、ヨコナデ、ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1120 は壺であり、埋 1 層から出土した。器高 12cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面はにぶい橙、灰黄色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はナデ（摩耗）、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1121 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 14.6cm、器高 10cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1122 は壺であり、埋 1 層から出土した。器高 4.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1123 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 15cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1124 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径

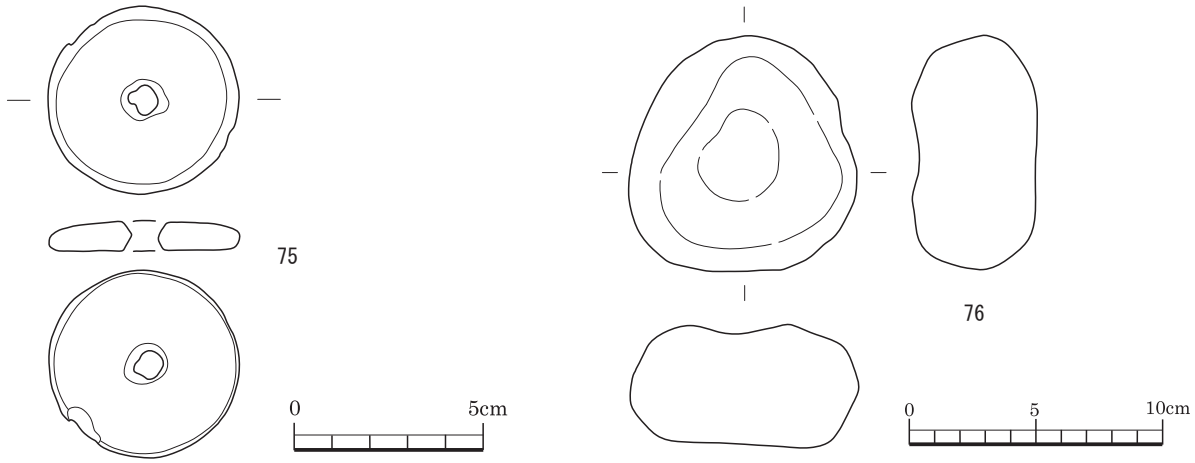


図 312　SB93 出土石器（RQ）実測図

19cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面はにぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1125 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 17.9cm、器高 13.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1126 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 13.5cm、器高 24.7cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は浅黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1127 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 16.2cm、器高 20.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、黒褐色、内面もにぶい黄橙、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1128 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には黒色粒子、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1129 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 10.2cm、底径 5.8cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RQ75 は紡錘車、RQ76 は凹石である。

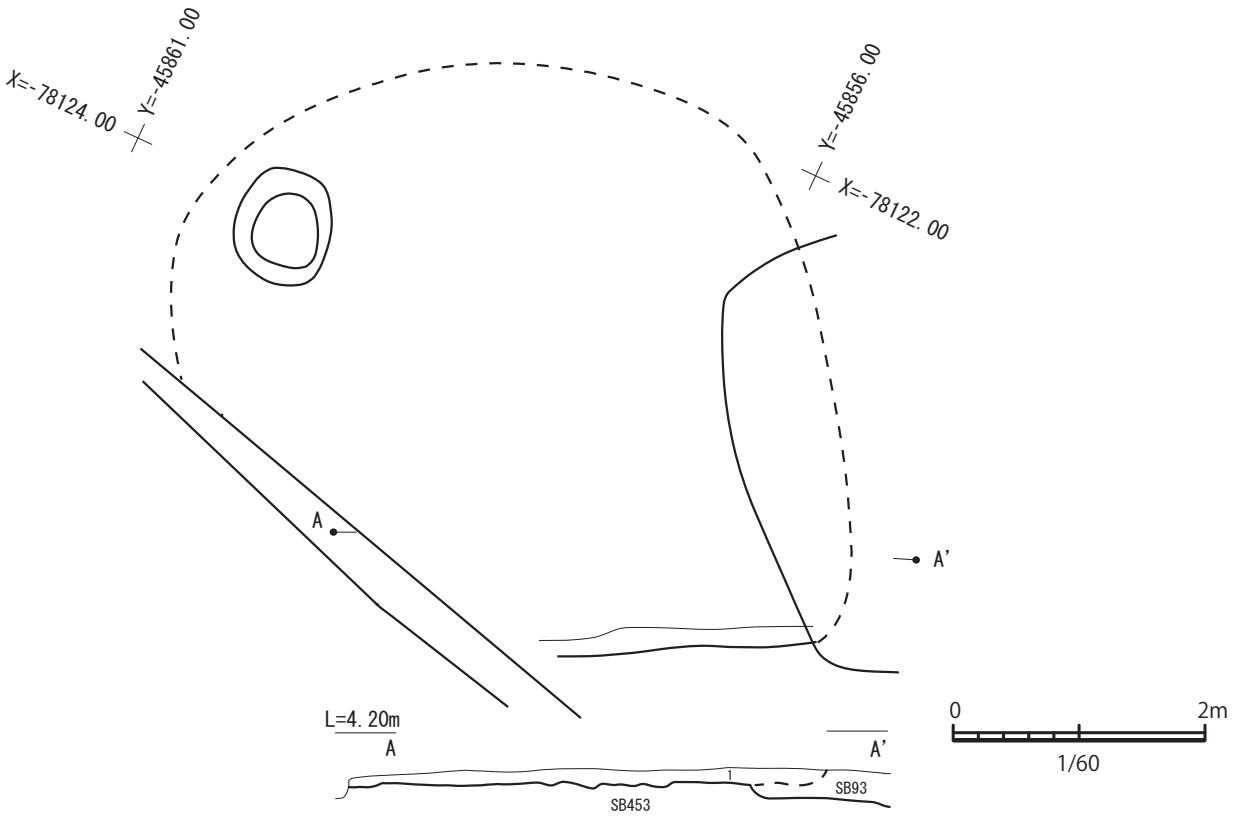
竪穴建物 453（SB453）

SB453 は、全容不明の竪穴建物である。SB453 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB453 は、SB75、SB93 に切られている。SB453 は、SB74 と接しているが、切合関係は不明である。1374 グリッドに位置する。

SB453 の法量は、南北 2.0m 以上、遺構確認面からの深さ 12cm を測る。

SB453 では土師器（RP1130）が出土している。

RP1130 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.9cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。



1　埋1層　灰黄褐色（10YR 5/2）粘性なし　しまりなし　黒色(10YR 2/1)マンガン粒（1cm大）を1%含む　土器片含む

図 313　SB453 実測図（1/60）

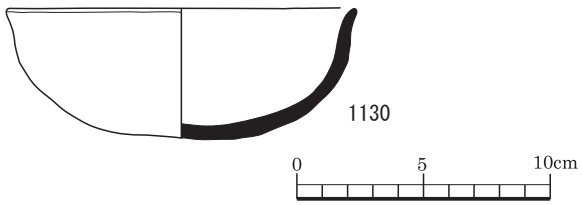


図 314　SB453 出土土器（RP）実測図

掘立柱建物 34（SB34）

SB34 は、長軸を南北方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2302 グリッドに位置する。

SB34 は、桁行 5.0m ×梁行 3.3m であり、柱間寸法は桁間 1.5~1.8m、梁間 1.4~1.8m を測る。

柱穴は、直径 40~55cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 20~34cm であった。

掘立柱建物 48（SB48）

SB48 は、長軸を東西方向にとる、桁行 3 間以上×梁行 2 間以上の掘立柱建物である。1381 グリッドに位置する。

SB48 は、桁行 4.15m 以上×梁行 2.9m であり、柱間寸法は桁間 1.1~1.5m、梁間 1.35~1.6m を測る。

柱穴は、直径 35~60cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 15~30cm であった。

なお､建物東側だけを確認しており､SB48 は西側(調査区外）に延びている。

掘立柱建物 50（SB50）

SB50 は、長軸を南北方向にとる、桁行 2 間以上×梁行 2 間の掘立柱建物である。1381 グリッドに位置する。

SB50 は、桁行 3.0m 以上×梁行 3.0m であり、柱間寸法は桁間 1.3~1.5m、梁間 1.3~1.7m を測る。

柱穴は、直径 30~45cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 15cm であった。

なお､建物北側だけを確認しており､SB50 は南側(調査区外）に延びている。

掘立柱建物 52（SB52）

SB52 は、長軸を南北方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の総柱建物である。1392 グリッドに位置する。

SB52 は、桁行 4.5m ×梁行 3.2m であり、柱間寸法は桁間 1.0~2.0m、梁間 1.3~1.7m を測る。

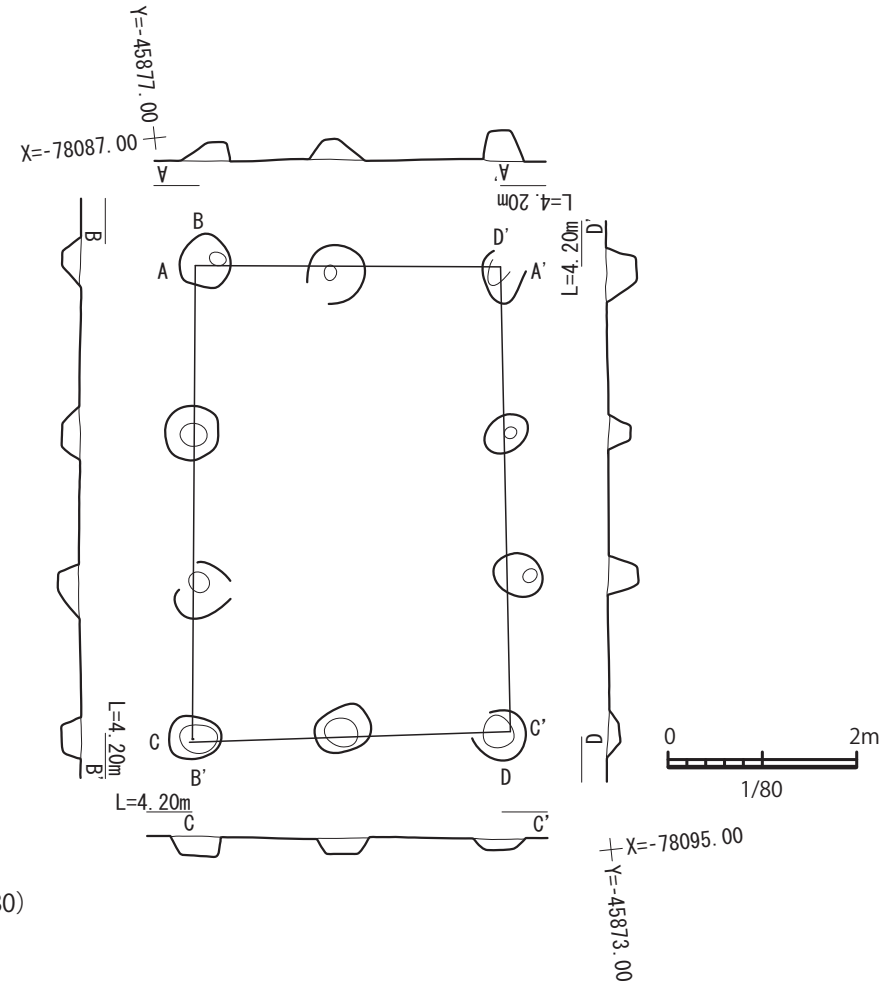


図 315　SB34 実測図（1/80）

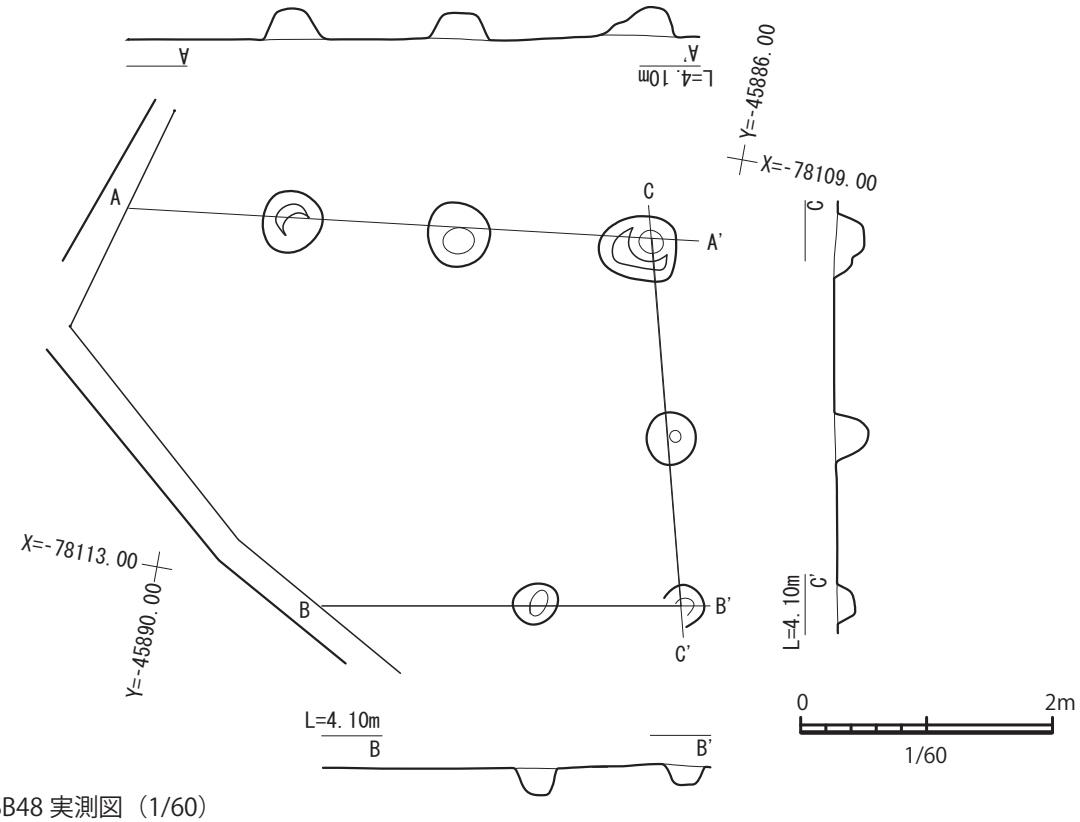


図 316　SB48 実測図（1/60）

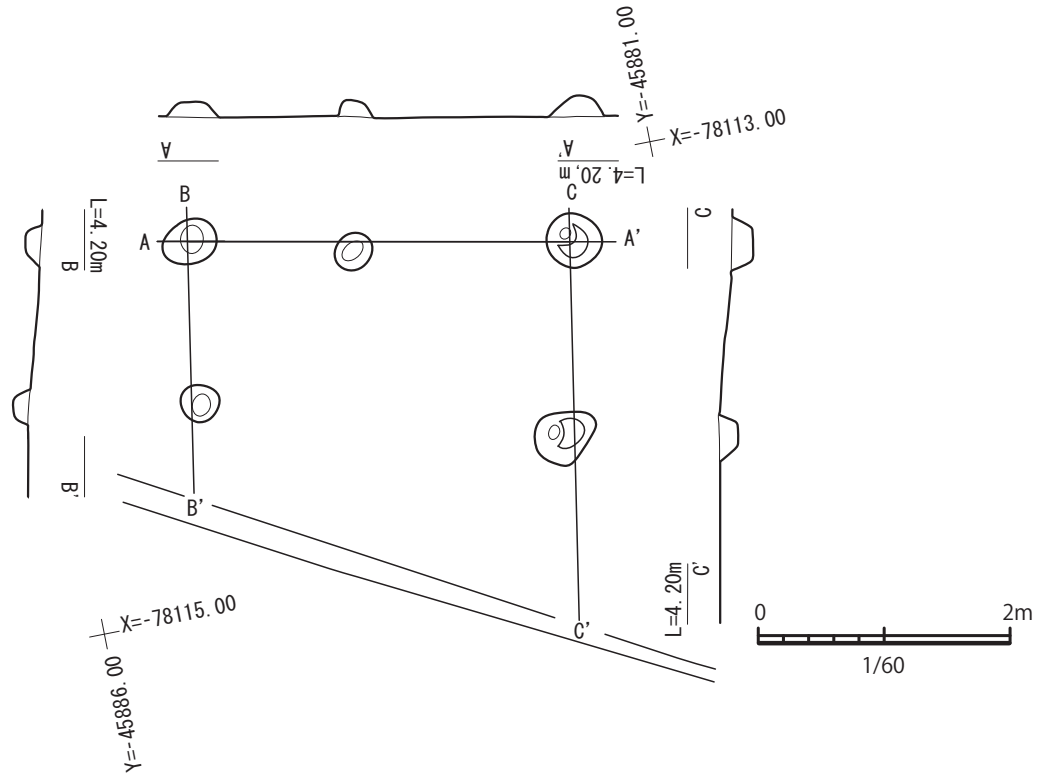


図 317　SB50 実測図（1/60）

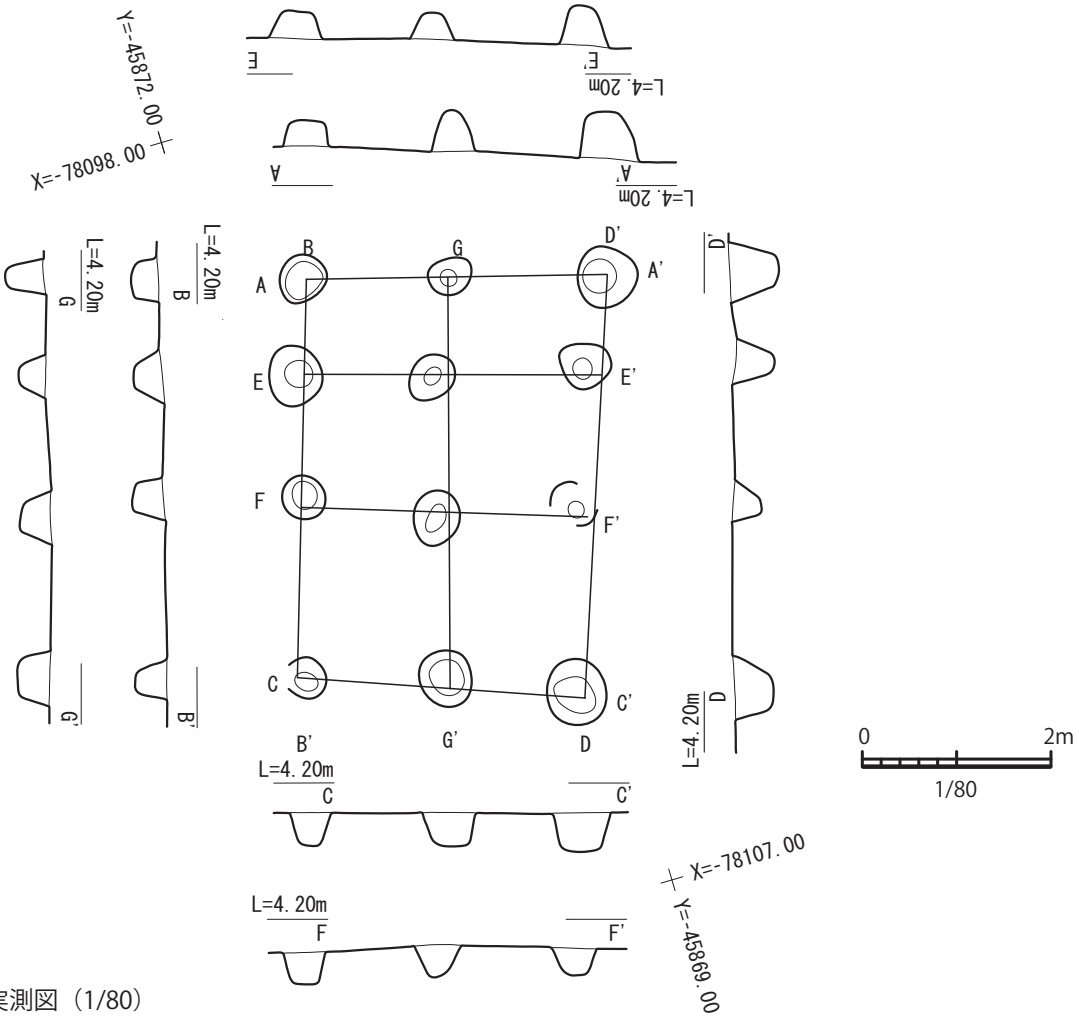


図 318　SB52 実測図（1/80）

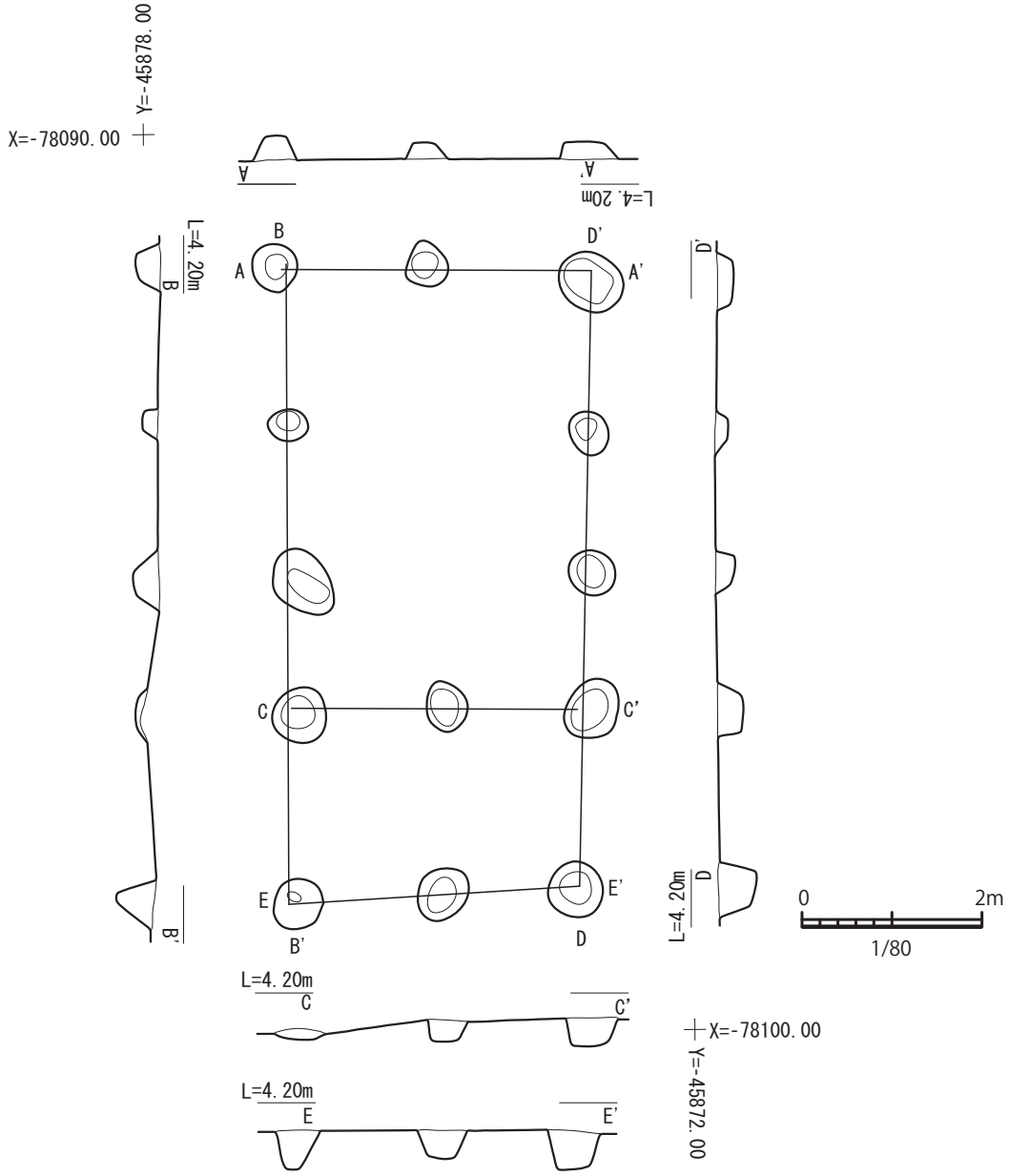


図 319　SB53 実測図（1/80）

柱穴は、直径 40~70cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 27~51cm であった。

掘立柱建物 53（SB53）

SB53 は、長軸を南北方向にとる、桁行 4 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2302 グリッドに位置する。

SB53 は、桁行 7.0m ×梁行 3.4m であり、柱間寸法は桁間 1.4~2.1m、梁間 1.55~1.8m を測る。

柱穴は、直径 30~65cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 10~45cm であった。

なお、柱穴 SB53P10 では直径 45cm、深さ 25cm の柱痕跡を確認している。

掘立柱建物 55（SB55）

SB55 は、長軸を南北方向にとる、桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2312 グリッドに位置する。

SB55 は、桁行 3.8m ×梁行 3.4m であり、柱間寸法は桁間 1.8~2.0m、梁間 1.6~1.75m を測る。

柱穴は、直径 35~75cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 15~25cm であった。

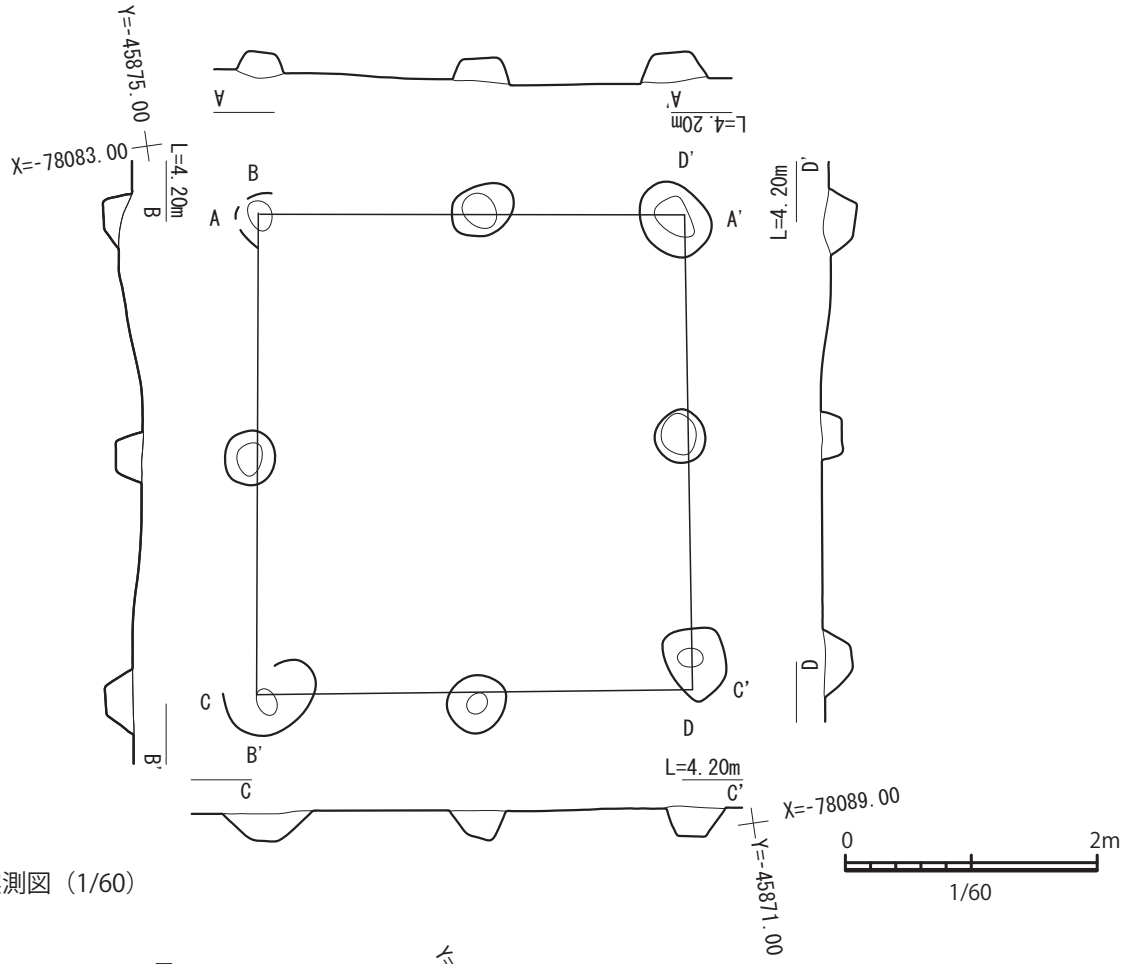


図 320　SB55 実測図（1/60）

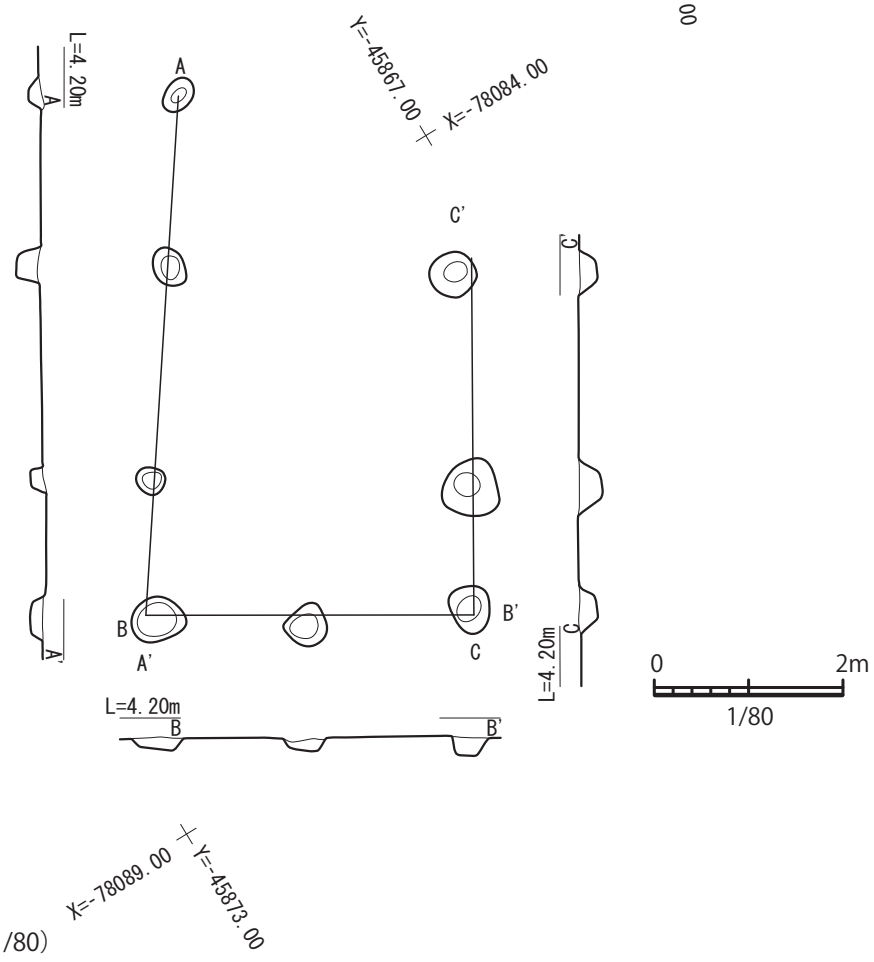


図 321　SB57 実測図（1/80）

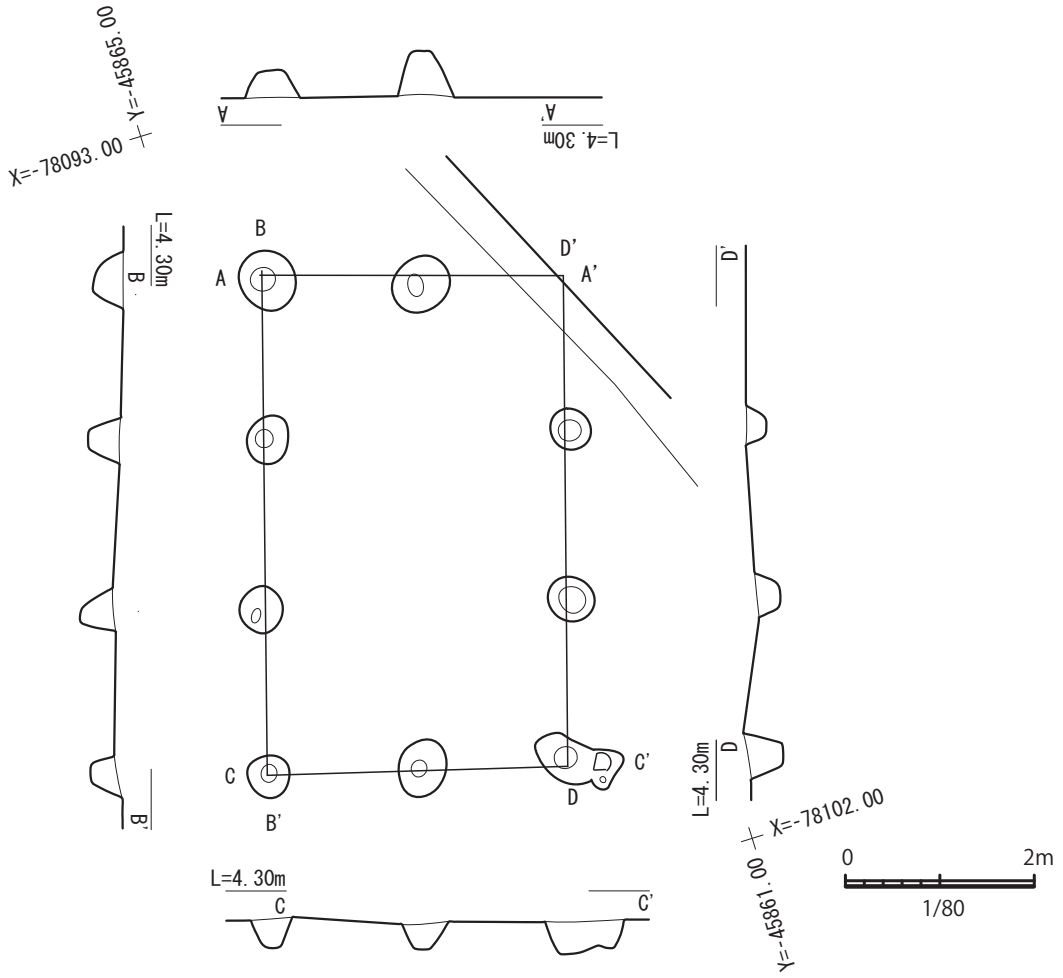


図 322　SB62 実測図（1/80）

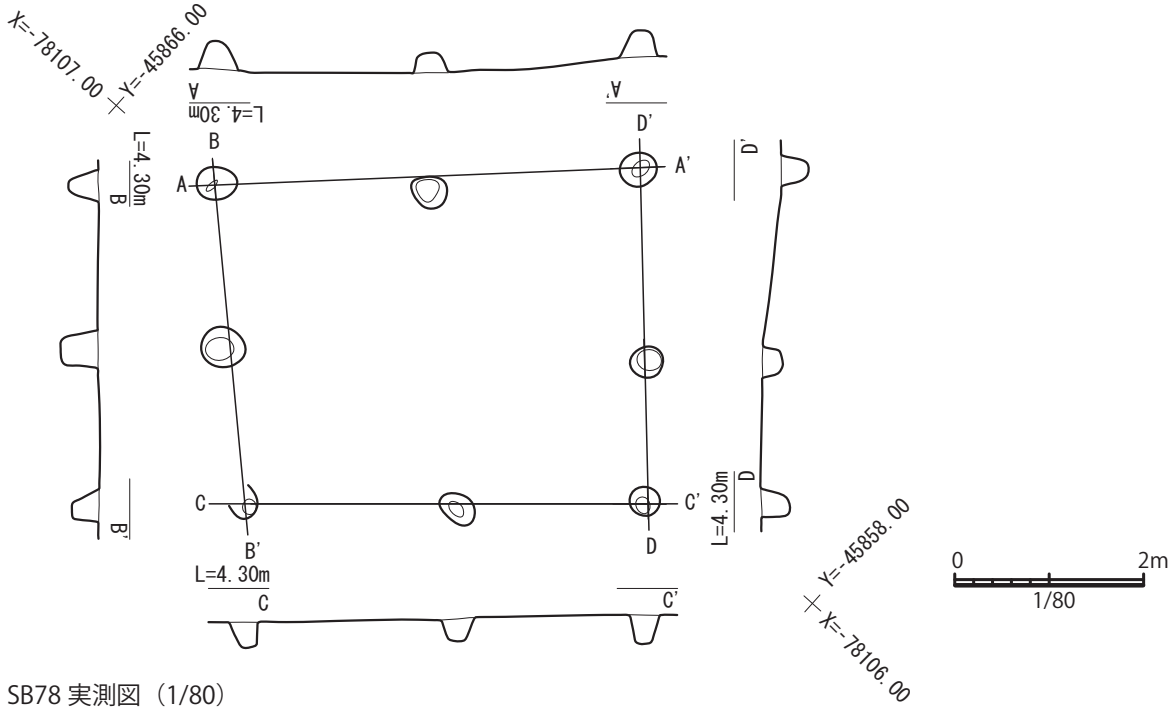


図 323　SB78 実測図（1/80）

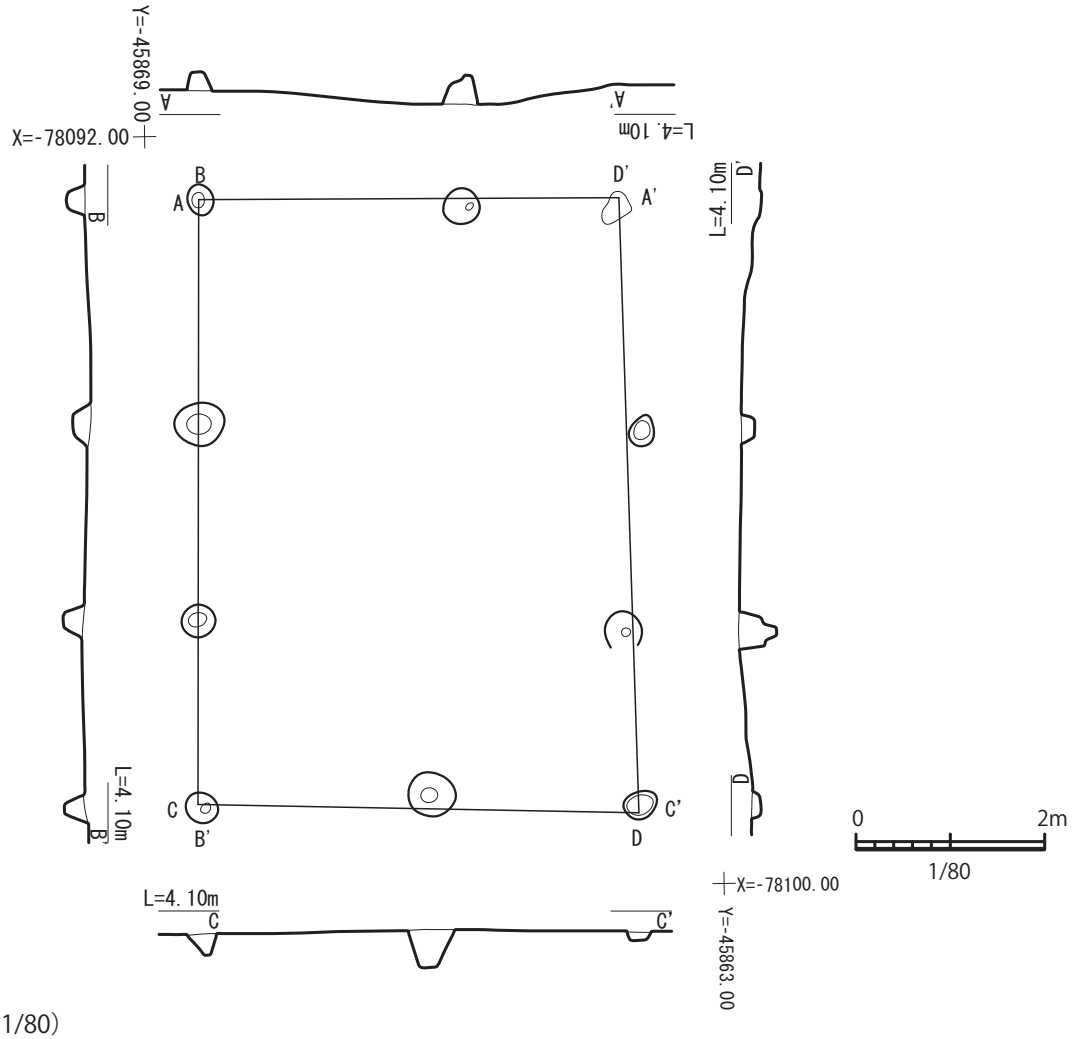


図 324　SB63 実測図（1/80）

掘立柱建物 57（SB57）

SB57 は、長軸を北北東から南南西方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2313 グリッドに位置する。

SB57 は、桁行 6.0m 以上×梁行 3.5m であり、柱間寸法は桁間 1.4~2.3m、梁間 1.7~1.8m を測る。

柱穴は、直径 25~60cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 15~25cm であった。

なお、建物南側だけを確認しており、SB57 は北東に向かい（調査区外）延びている。

掘立柱建物 62（SB62）

SB62 は、長軸を北北東から南南西方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2303 グリッドに位置する。

SB62 は、桁行 5.3m ×梁行 3.2m であり、柱間寸法は桁間 1.65~1.85m、梁間 1.55~1.6m を測る。

柱穴は、直径 45~60cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 20~45cm であった。

なお、SB62 の北柱穴列、東柱穴列とも調査区外に延びているものと考えている。

掘立柱建物 63（SB63）

SB63 は、長軸を南北方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2303 グリッドに位置する。

SB63 は、桁行 6.5m ×梁行 4.6m であり、柱間寸法は桁間 1.9~2.5m、梁間 1.65~2.8m を測る。

柱穴は、直径 25~50cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 10~40cm であった。

掘立柱建物 78（SB78）

SB78 は、長軸を東西方向にとる、桁行 2 間×梁行

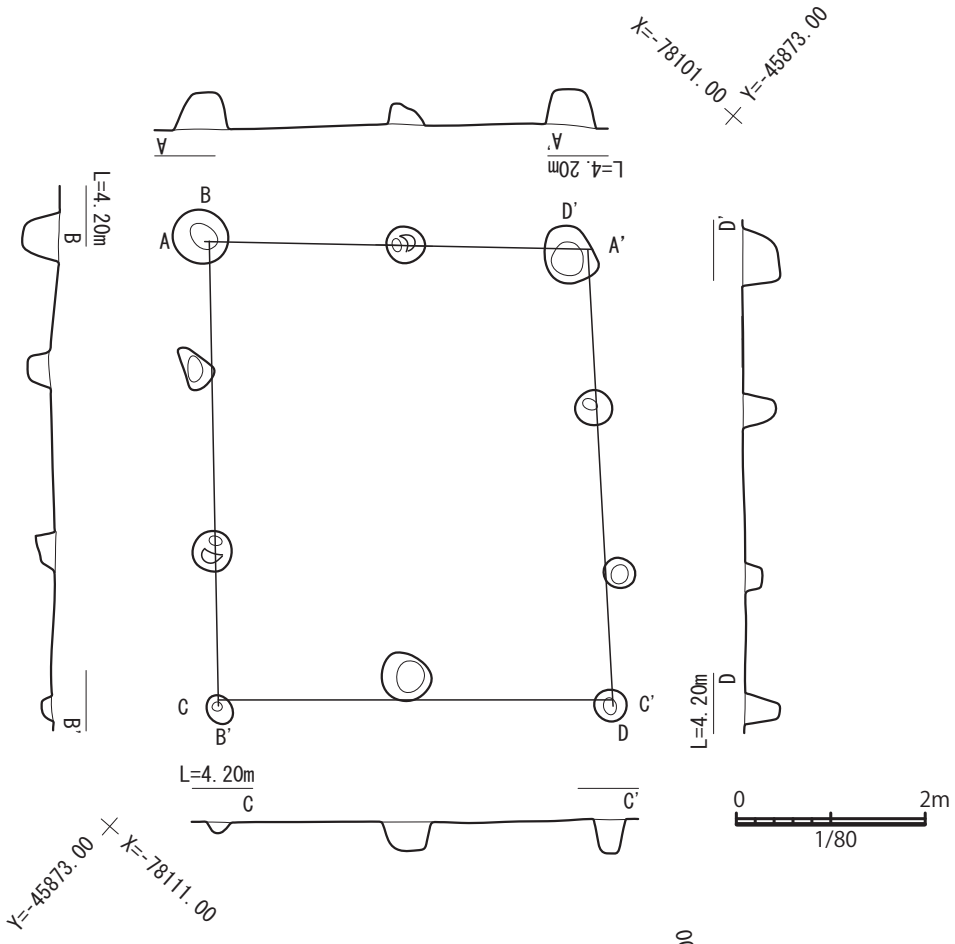


図 325　SB100 実測図（1/80）

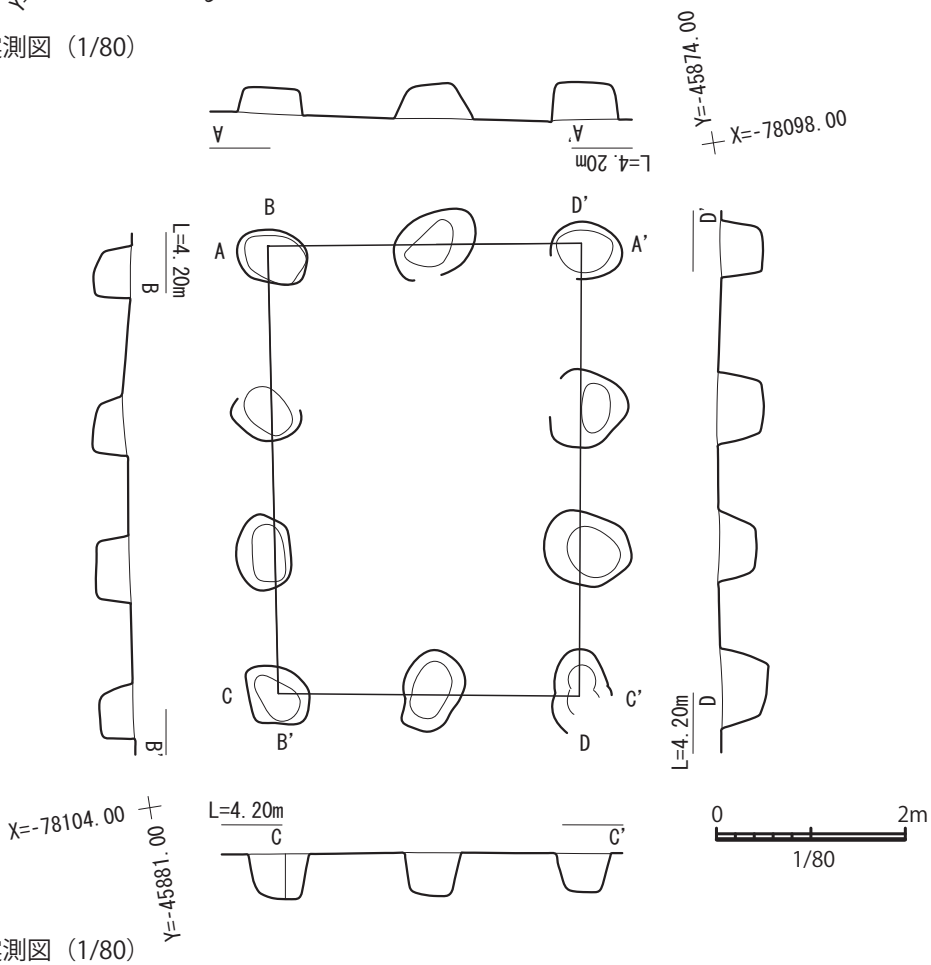


図 326　SB148 実測図（1/80）

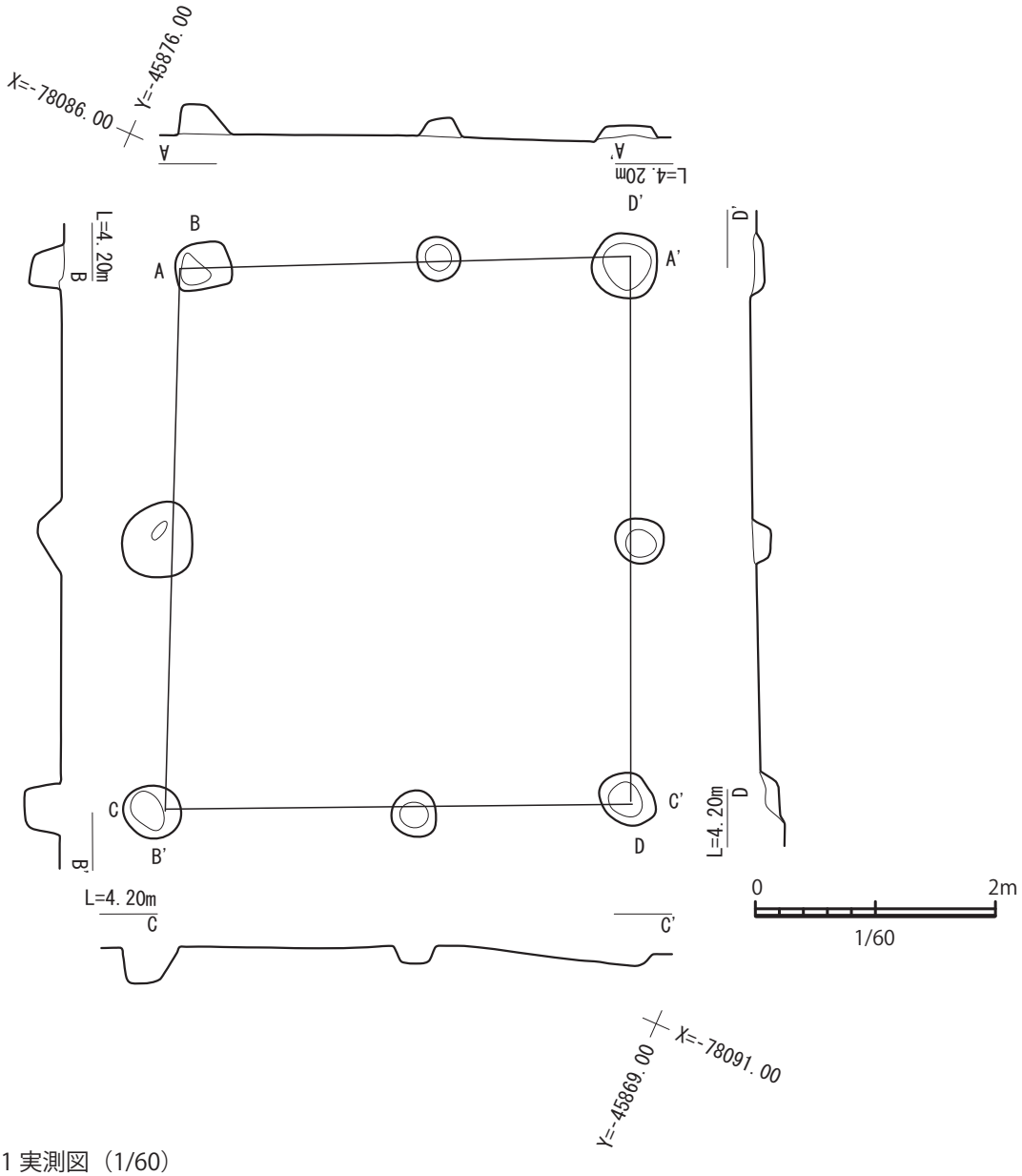


図 327　SB201 実測図（1/60）

2 間の掘立柱建物である。1393 グリッドに位置する。

SB78 は、桁行 4.5m ×梁行 3.6m であり、柱間寸法は桁間 2.0~2.2m、梁間 1.5~2.0m を測る。

柱穴は、直径 30~43cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 20~39cm であった。

掘立柱建物 100（SB100）

SB100 は、長軸を西北西から南南東にとる、桁行 3 間× 2 間の掘立柱建物である。1392 グリッドに位置する。

SB100 は、桁行 4.9m ×梁行 4.1m であり、柱間寸法は桁間 1.3~1.8m、梁間 1.9~2.1m を測る。

柱穴は、直径 28~60cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 10~40cm であった。

掘立柱建物 148（SB148）

SB148 は、長軸を南北方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。1392 グリッドに位置する。

SB148 は、桁行 4.85m ×梁行 3.31m であり、柱間寸法は桁間 1.4~1.8m、梁間 1.5~1.8m を測る。

柱穴は、直径 56~83cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 34~50cm であった。各柱穴は、底面標高を概ね揃えている。

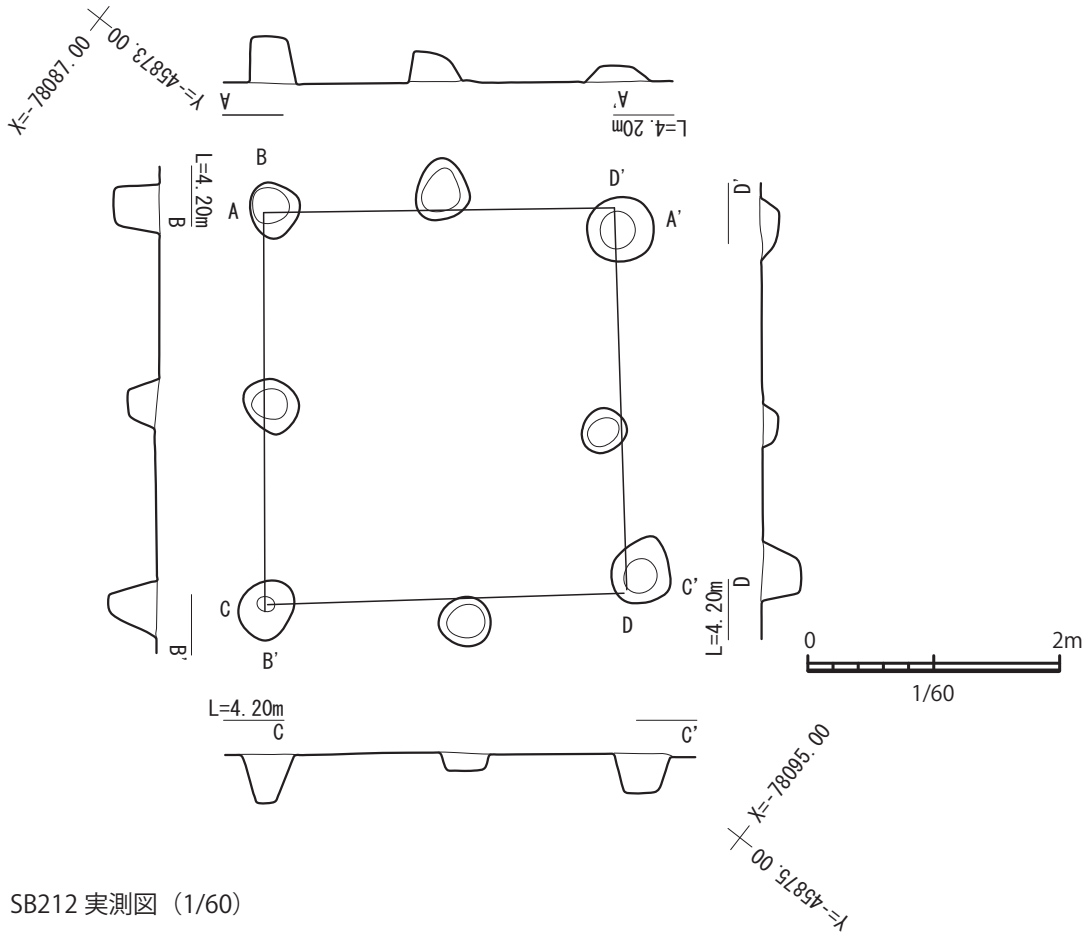


図 328　SB212 実測図（1/60）

掘立柱建物 201（SB201）

SB201 は、長軸を北北西から南南東方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2312 グリッドに位置する。

SB201 は、桁行 4.55m ×梁行 3.9m であり、柱間寸法は桁間 2.2~2.35m、梁間 1.6~2.15m を測る。

柱穴は、直径 35~60cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 10~30cm であった。

掘立柱建物 212（SB212）

SB212 は、長軸を北北東から南南西方向にとる、桁行 2 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2302 グリッドに位置する。

SB212 は、桁行 3.1m ×梁行 3.0m であり、柱間寸法は桁間 1.15~1.6m、梁間 1.4~1.6m を測る。

柱穴は、直径 30~50cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 15~38cm であった。

掘立柱建物 470（SB470）

SB470 は、長軸を北北東から南南西方向にとる、桁行 3 間以上×梁行 3 間以上の掘立柱建物である。2312 グリッドに位置する。

SB470 は、桁行 3.9m 以上×梁行 4.6m であり、柱間寸法は桁間 1.1~1.6m、梁間 1.25~1.8m を測る。

柱穴は、直径 30~50cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 5~30cm であった。

なお、建物南西隅だけを確認しており、SB470 は北東（調査区外）に向かい延びている。

掘立柱建物 537（SB537）

SB537 は、長軸を北北東から南南西方向にとる、桁行 2 間以上×梁行 2 間以上の掘立柱建物である。2313 グリッドに位置する。

SB537 は、桁行 3.0m 以上×梁行 3.9m 以上であり、柱間寸法は桁間 1.8m、梁間 1.6~2.1m を測る。

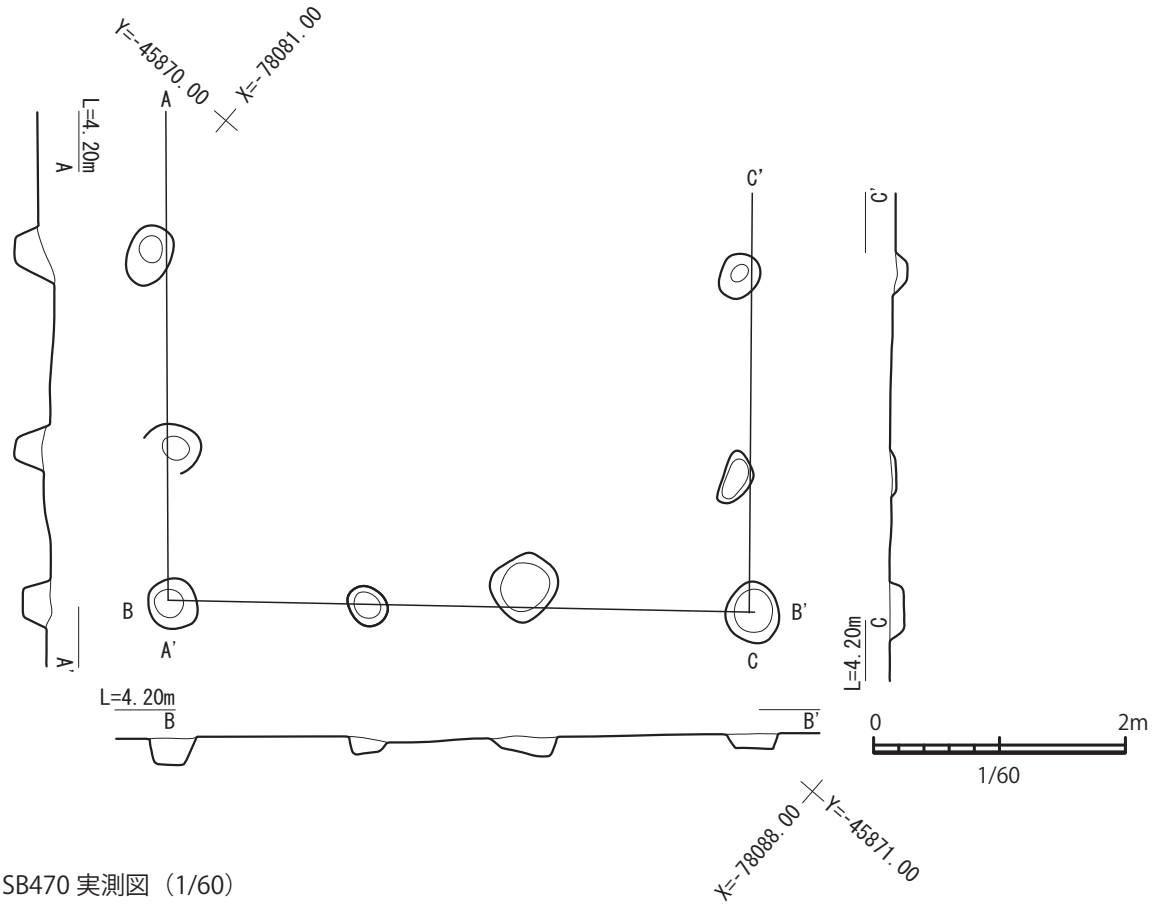


図 329　SB470 実測図（1/60）

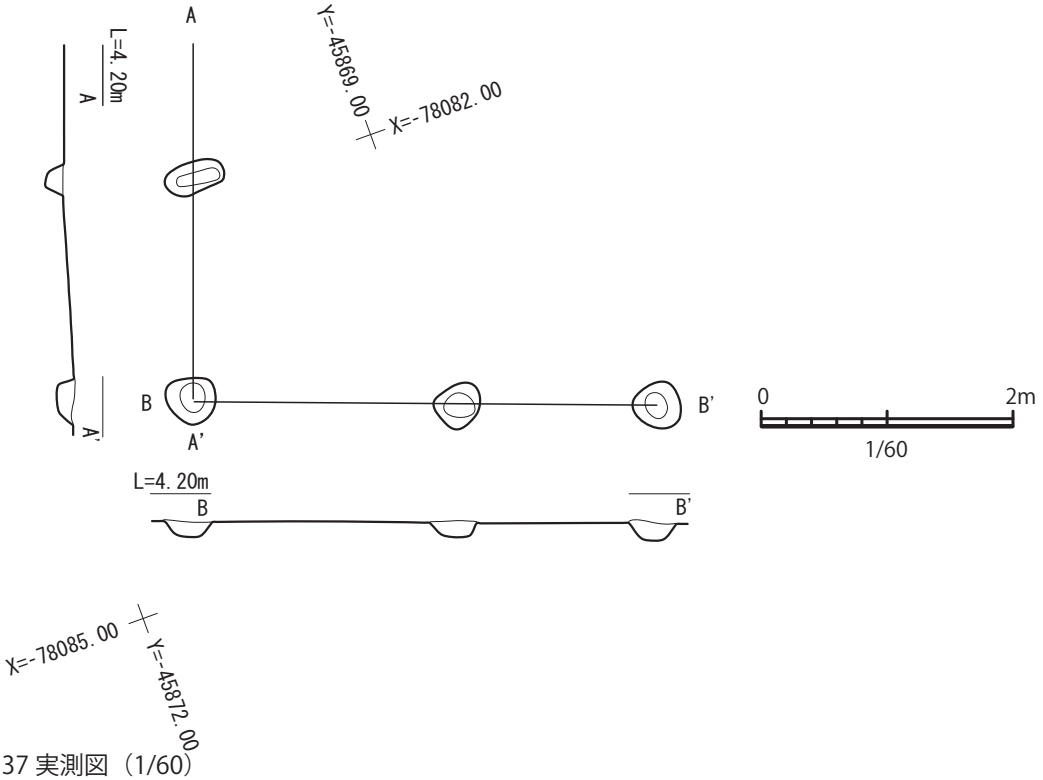


図 330　SB537 実測図（1/60）

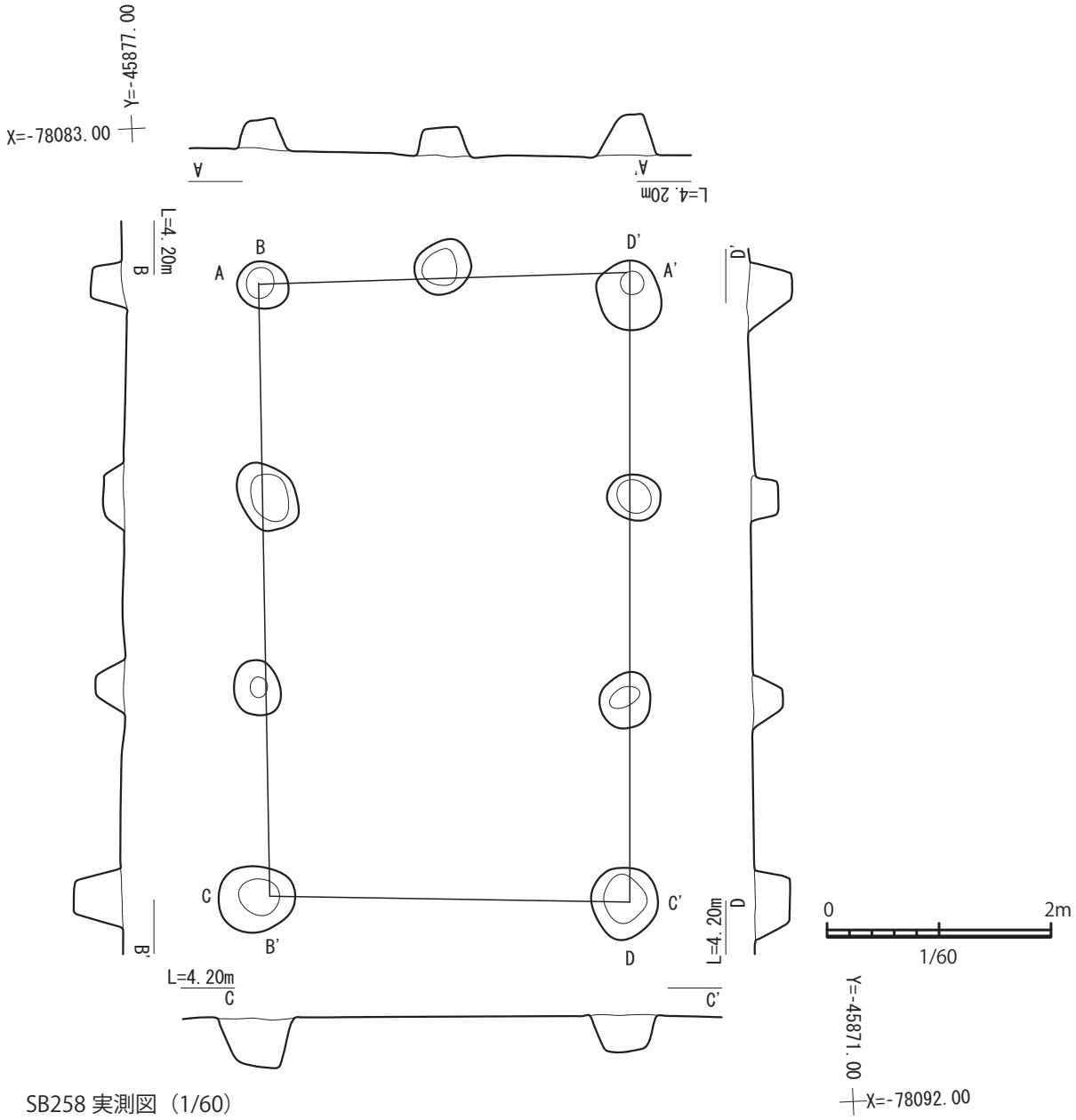


図 331　SB258 実測図（1/60）

柱穴は、直径 25~40cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 15cm であった。

なお、建物南西隅だけを確認しており、SB537 は北東（調査区外）に向かい延びている。

掘立柱建物 258（SB258）

SB258 は、長軸を南北方向にとる、桁行 3 間×梁行 2 間の掘立柱建物である。2312 グリッドに位置する。

SB258 は、桁行 5.5m ×梁行 3.3m であり、柱間寸法は桁間 1.7~1.9m、梁間 1.65m を測る。

柱穴は、直径 40~70cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 20~45cm であった。

溝 41（SD41）

SD41 は、南北方向に走る溝である。SD41 は、SB1 を切っている。1384 グリッドに位置する。

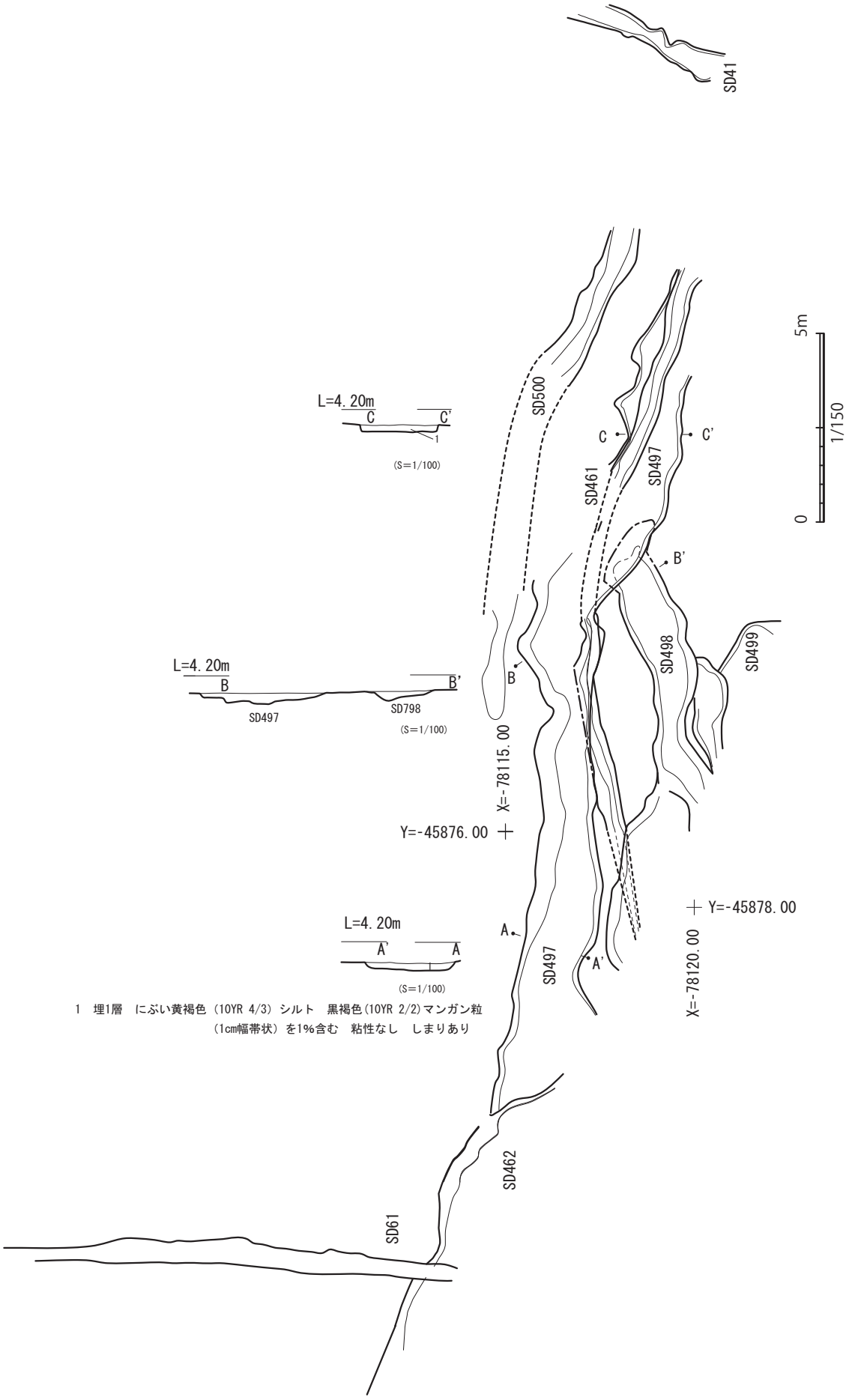
SD41 は、長さ 4.5m 以上、幅 1.0m を測る。

SD41 では土師器（RP1131）が出土している。

RP1131 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.4cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には雲母、白色粒子が観察される。この坏は、外面調整は摩耗、内面調整は摩耗され、焼成は良である。

溝 497（SD497）

SD497 は、東西方向に走る溝である。SD497 は、



1　埋1層　にぶい黄褐色（10YR 4/3）シルト　黒褐色(10YR 2/2)マンガン粒
（1cm幅帯状）を1%含む　粘性なし　しまりあり

図 332　SD41・61・461・462・497・498・499 実測図（1/150）

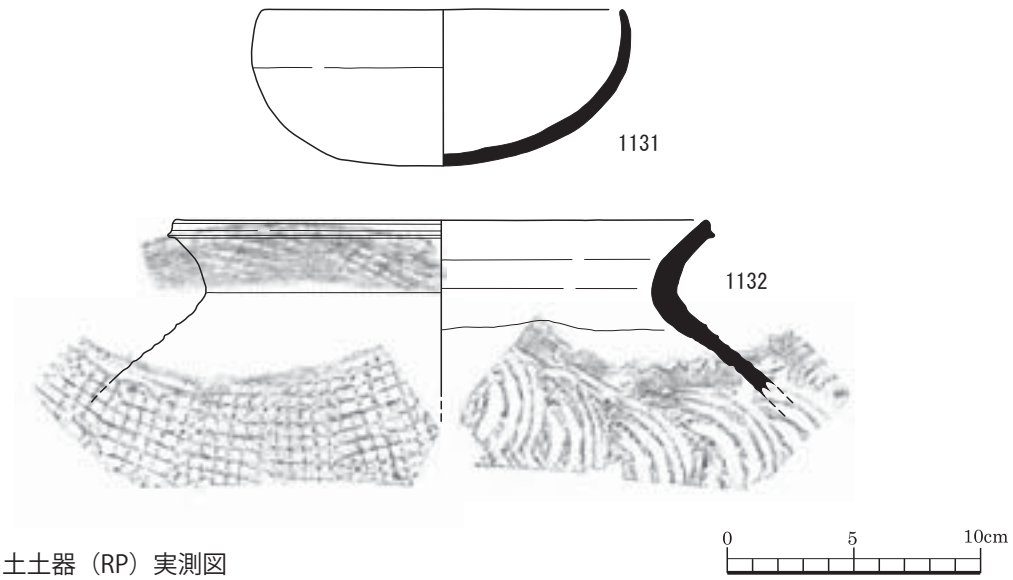


図 333　SD41 出土土器（RP）実測図

SD462 に切られている。1382 グリッドに位置する。

SD497 は、長さ 20.0m、幅 2.2m、深さ 20cm を測る。

SD497 では須恵器（RP1132）が出土している。

RP1132 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 21.6cm、器高 7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、タタキ（格子）、内面調整はヨコナデ、タタキ（同心円）により製作され、焼成は良好である。

溝 500（SD500）

SD500 は、東西方向に走る溝である。SD500 は、SB3 に切られている。1383 グリッドに位置する。

SD500 は、長さ 13.5m、幅 1.0m を測る。

溝 498（SD498）

SD498 は、東西方向に走る溝である。1382 グリッドに位置する。

SD498 は、長さ 11.0m、 幅 1.5m、 深さ 16cm を測る。

溝 499（SD499）

SD499 は、東西方向に走る溝である。1382 グリッドに位置する。

SD499 は、長さ 2.0m、幅 1.0m を測る。

溝 461（SD461）

SD461 は、東西方向に走る溝である。1383 グリッドに位置する。

SD461 は、長さ 6.0m、幅 0.6m を測る。

溝 462（SD462）

SD62 は、東西方向に走る溝である。1381 グリッドに位置する。

SD62 は、長さ 4.0m、幅 1.5m を測る。

溝 61（SD61）

SD61 は、南北方向に走る溝である。1381 グリッドに位置する。

SD61 は、長さ 12.0m、幅 4.0m 以上を測る。その西端は調査区外にあり、幅を知ることはできない。

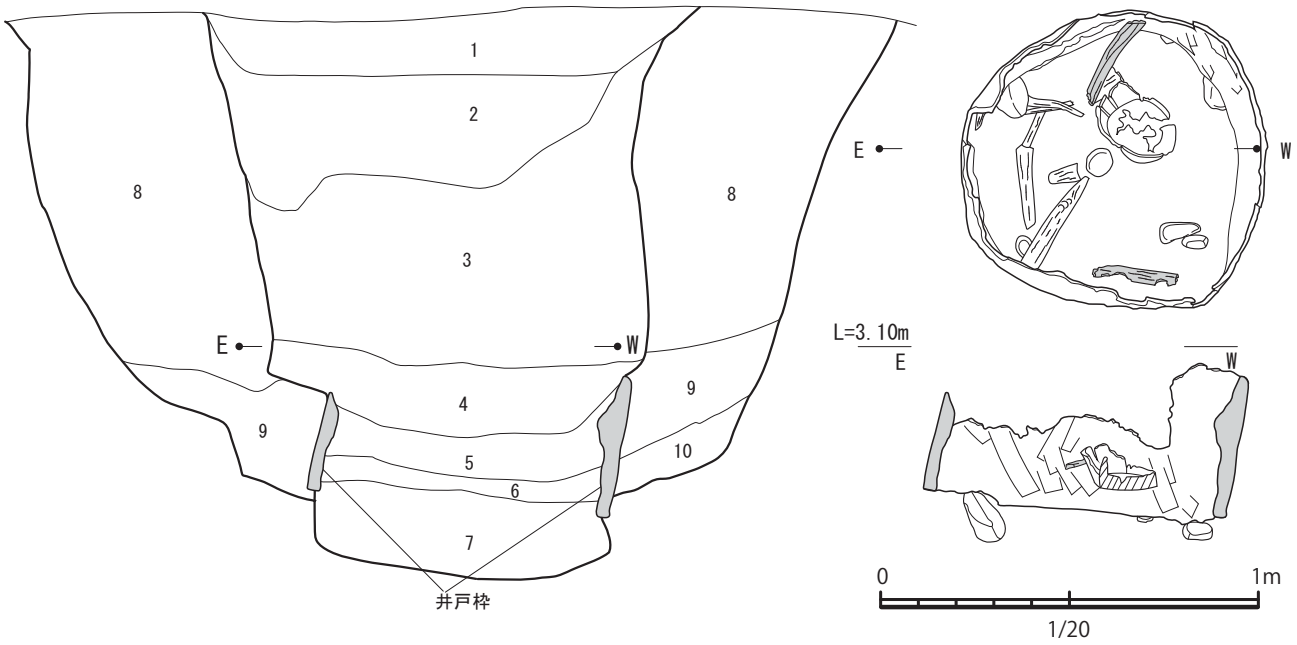
井戸 SE35

SE35 は、方形の掘方に、一木刳りぬきの井戸枠を設え、木簡 2 点が出土した井戸である。2302 グリッドに位置する。

SE35 の法量は、南北 1.6m、東西 2.3m、遺構確認面からの深さ 1.51m を測る。

一木刳りぬきの井戸枠は、直径 1.6m、最大高 60cm 程度までが残存しており、その底面には鉈で斫った痕跡が明瞭に残っている。

SE35 は、その廃止に際し埋め戻された層序を示し、



1　埋1層　Hue10YR 3/1　黒褐色シルト　粘性なし　しまりなし　2.5～1cm大の粘土粒　炭化物を10%含む　完形土器を多く含む
2　埋2層　Hue10YR 3/2　黒褐色シルト　粘性なし　しまりあり　0.5～1cm大の粘土粒　炭化物を2%含む　土器片含む
3　埋3層　Hue10YR 4/2　灰黄褐色土　砂礫混　粘性なし　しまりなし　0.5～1cm大の粘土粒　炭化物を2%含む　土器片含む
4　埋4層　Hue10YR 4/2　灰黄褐色シルト　粘性あり　しまりなし　0.5cm大の粘土粒　炭化物を2%含む　土器片含む
5　埋5層　Hue10YR 4/2　灰黄褐色シルト　やや砂質　粘性あり　しまりなし　7.5YR 4/4　褐色の柱状マンガン（鉄?）粒
10%含む　5～10cm大の礫混　土器片含む
※　くりもの、1号木簡、2号木簡を出土。2号木簡はレベルでは埋6層と重なるが、井戸枠内の北側では井戸枠内の北側では、
埋5層が下がっており、2号木簡も埋5層であった
6　埋6層　Hue10YR 3/2　黒褐色シルト　粘性あり　しまりなし　土器片多く含む　水分が多く　小枝や小木片が多く堆積しており
そうした小木片の堆積層と考えられる
7　埋7層　Hue7.5Y 4/1　灰色砂　粘性あり　しまりなし　小礫混　5～10cm大の木片をやや多く含む
8　埋8層　Hue10YR 3/2　黒褐色シルト　粘性あり　はりあり　0.5～1cm大の粘土粒　10cm大レキ混　炭化物を2%含む　土器片含む
9　埋9層　Hue10YR 3/2　黒褐色シルト　粘性あり　はりあり　5cm弱のレキを少量含む　マンガンを多量含む
10　埋10層　Hue5PB 4/1　暗青灰色粘土　粘性極めて強し　しまりあり　井戸枠設置時に周囲を固めるためにつめこんでいる
井戸枠外壁には裏込めのレキ（1cm弱）が見られる

図 334　SE35 実測図（1/20）

最下部には木簡、井戸枠等、木製品（RW）が多数、残存していた。

木製品（RW）が包含されていた層は埋 5 層及び埋 6 層であり、最下位井戸枠内に堆積した一連の層である。2 点の木簡は埋 5、6 層の界面近くに位置していた。中でも 2 号木簡は出土レベルでは埋 6 層と重なるが、井戸枠内の北側では埋 5 層が沈降しており、2 号木簡はこの沈降した埋 5 層に包含されていた。井戸枠内では木簡の他、櫛 2 点、片手桶（刳物）1 点他の木製品及び土器（RP）を検出した。

埋 7 層（砂層）は井戸の構造部と水脈との間層であるが、古墳時代の須恵器坏蓋が包含されている。調査区 7 区には同時期の竪穴式住居が複数確認されており、後代に混入したものと考えてよい。

上層部分の埋 4 層から埋 1 層までには、供献、煮沸の用途に係る遺物が一定量包含されていた。これらの遺物群は竪穴式住居跡から出土する遺物群と同一様相を示していること、所属時期も収斂していること、埋 3 層には遺物が少ないことから、SE35 はその廃止に際して 2 段目より上位の井戸枠を抜き取り、埋め戻された井戸跡である、と考えている。

SE35 では土師器（RP1133~1146、1158）、須恵器（RP1147~1157）、石器（RQ77）が出土している。

土製品（RP）には土錘（RP1158）、須恵器には円盤形破片（RP1157）が含まれている。

RP1133 は坏であり、埋 4~7 層から出土した。口

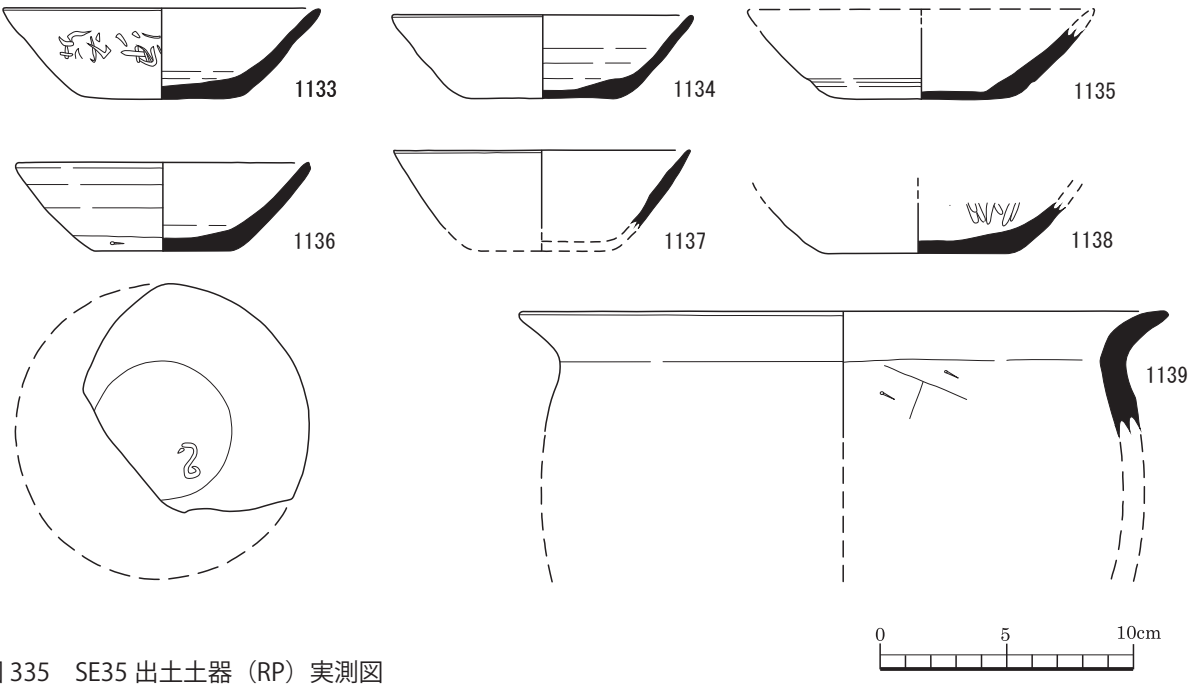


図 335　SE35 出土土器（RP）実測図

径 12.6cm、底径 6.3cm、器高 3.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、回転ヘラ切り、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1134 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、底径 6cm、器高 3.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1135 は坏であり、埋 4 層から出土した。底径 7.2cm、器高 2.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、褐色粒子、砂粒、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、沈線、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1136 は坏であり、埋 7 層から出土した。口径 11.6cm、底径 5.4cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は赤橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、回転ヘラ切り、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1137 は坏であり、埋 4、5 層から出土した。口径 11.8cm、器高 3.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1138 は坏であり、埋 5 層から出土した。底径 7.6cm、器高 2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は黒色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデ、ミガキにより製作され、焼成は良好である。

RP1139 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 25.6cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1140 は坏であり、埋 4 層から出土した。口径 14.1cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は明黄褐色、内面も明黄褐色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整も回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

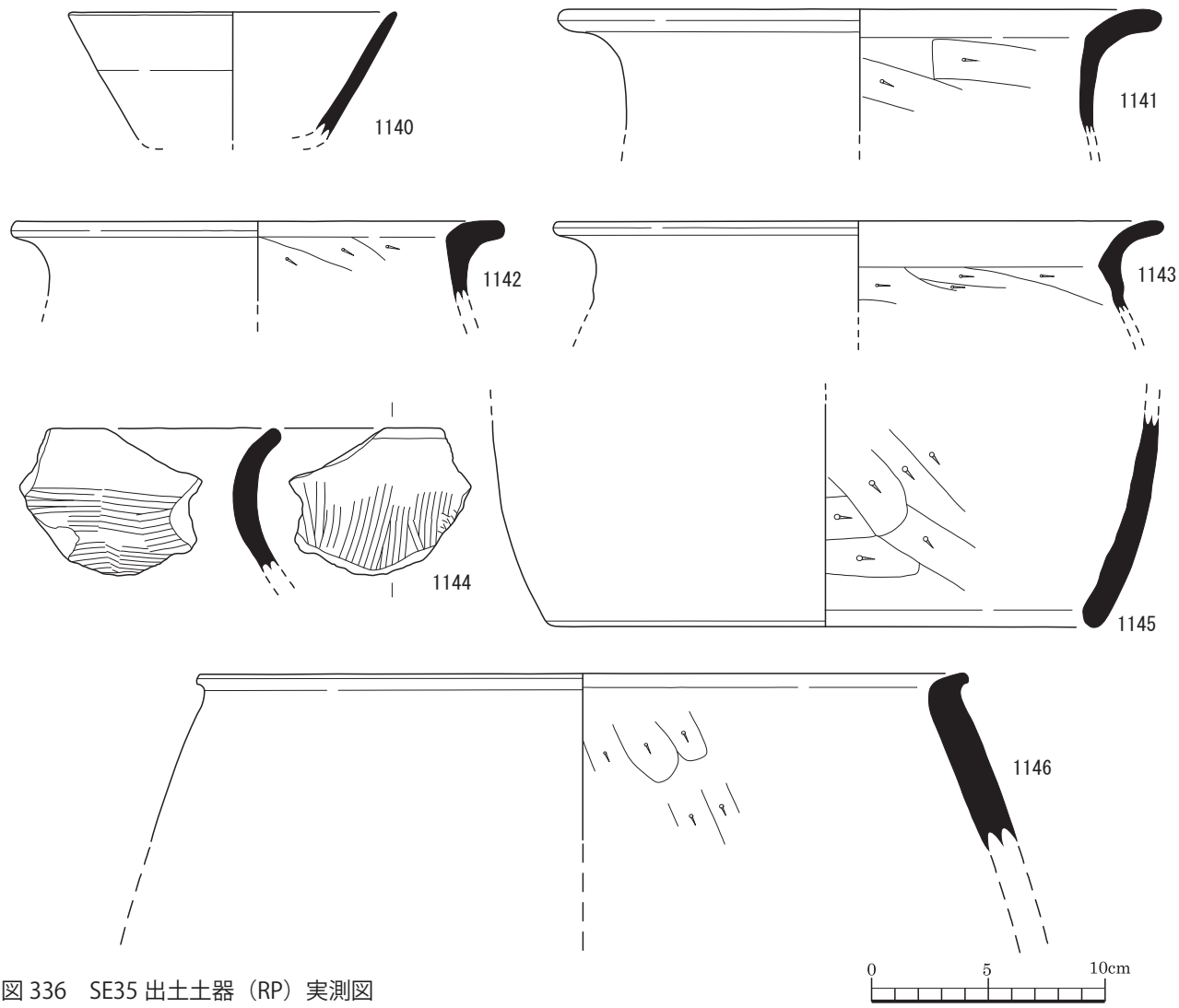


図 336　SE35 出土土器（RP）実測図

RP1141 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 26cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、褐色粒子、砂粒が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1142 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 21.2cm、器高 3.4cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、角閃石、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1143 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 26.2cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、雲母、白色粒子、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1144 は壺であり、埋 5、6 層から出土した。器高 6.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰白、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1145 は甑であり、埋 4 層から出土した。底径 23.6cm、器高 8.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には角閃石、長石、石英、雲母が観察される。この甑は、外面調整はナデ、内面調整

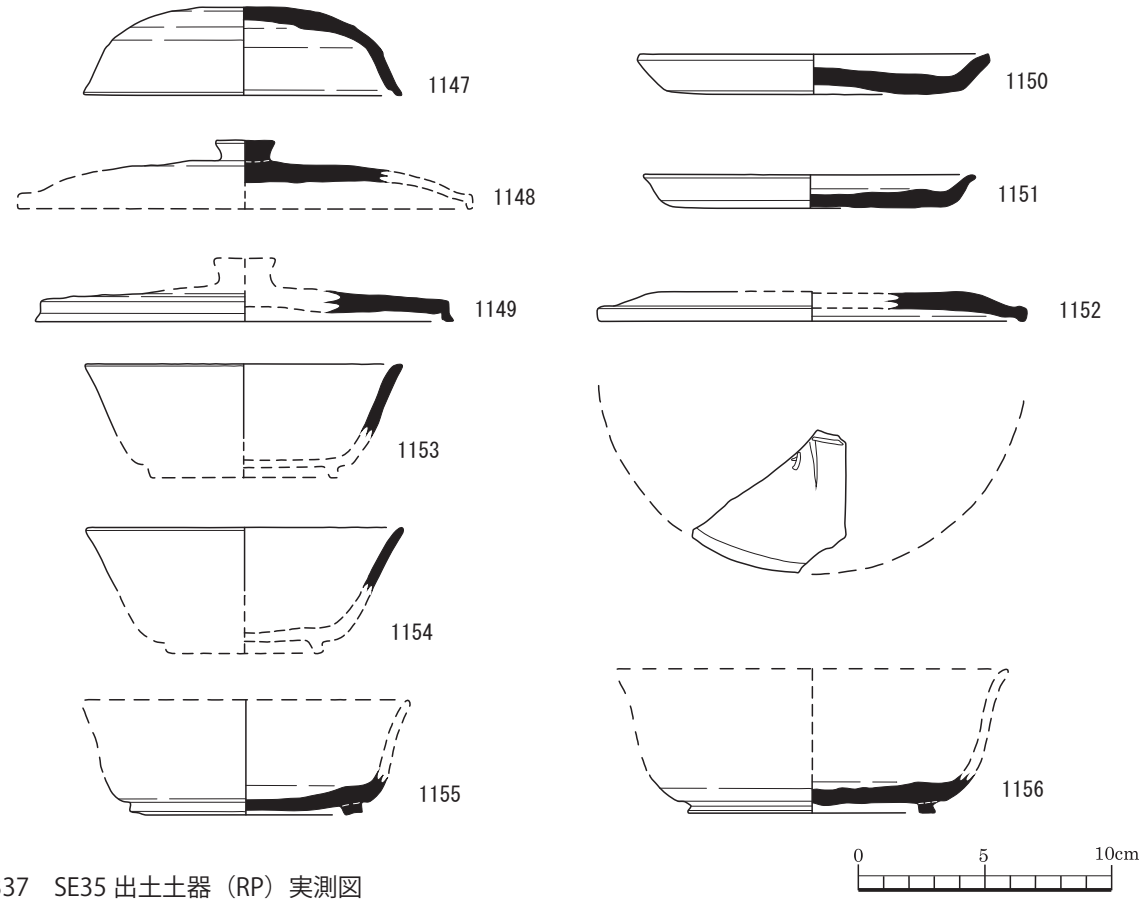


図 337　SE35 出土土器（RP）実測図

はヘラケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1146 は竈であり、埋 3~5 層から出土した。口径 33.2cm、器高 7.6cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、雲母、赤色粒子が観察される。この竈は、外面調整はヨコナデ、摩耗、内面調整はヘラケズリにより製作され、焼成は良好である。

RP1147 は蓋であり、埋 7 層から出土した。口径 12.6cm、器高 3.45cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1148 は蓋であり、埋 5、7 層から出土した。器高 1.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面は褐灰色を呈し、胎土には長石、角閃石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1149 は蓋であり、埋 2 層から出土した。口径 16.6cm、器高 1.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子、石英が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1150 は皿であり、埋 8 層から出土した。口径 14cm、底径 11.6cm、器高 1.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1151 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 13.2cm、底径 10.8cm、器高 1.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、石英、黒色粒子が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナ

図 338　SE35 出土土製品（RP）実測図

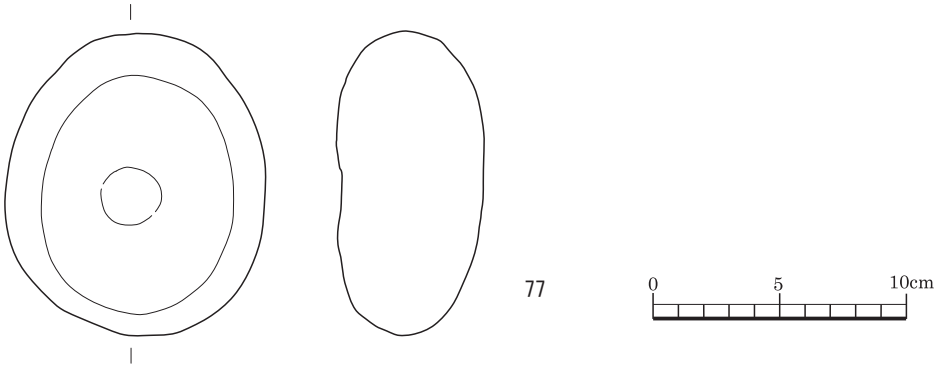


図 339　SE35 出土石器（RQ）実測図

デにより製作され、焼成は良好である。

RP1152 は蓋であり、埋 4 層から出土した。口径 17cm、器高 1.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1153 は坏であり、埋 6、7 層から出土した。口径 12.6cm、器高 2.7cm を測る。器面の外面はオリーブ灰色、内面もオリーブ灰色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1154 は坏であり、埋 5、6 層から出土した。口径 12.6cm、器高 2.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

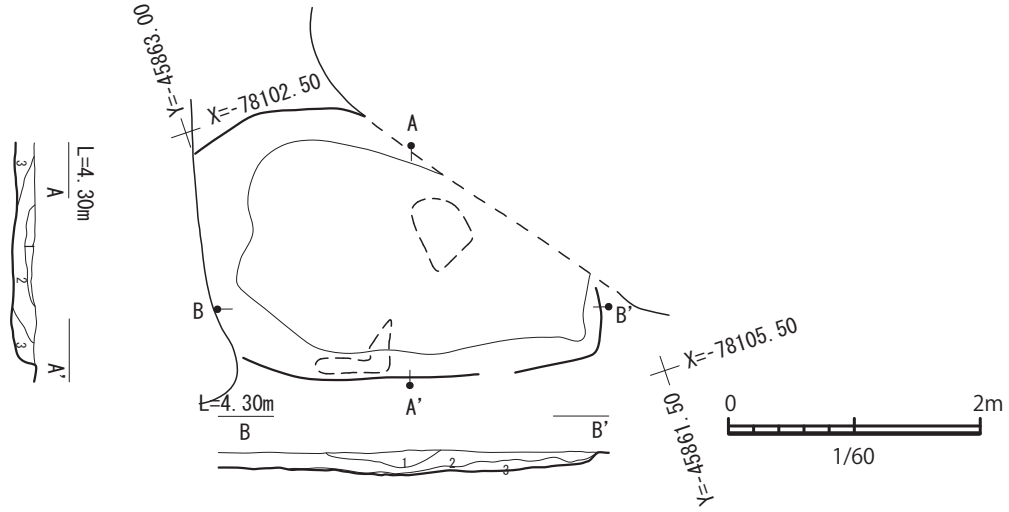
RP1155 は埦であり、埋 5 層から出土した。底径 9.2cm、器高 1.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この埦は、外面調整は回転ヘラケズリ、ヘラ切り離し、貼付高台、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1156 は埦であり、埋 4 層から出土した。口径 15.6cm、底径 10.6cm、器高 1.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、ヘラ切り離し、貼付高台、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1157 は須恵器片を円盤形に打ち欠いた二次加工品であり、埋 7 層から出土した。口径 7.6 全長 cm、底径 6.9 幅 cm、器高 1.4 厚さ cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には長石、黒色粒子が観察される。

RP1158 は土錘であり、埋 7 層から出土した。器高 3.75cm を測る。器面の外面は暗灰色、内面は暗灰色を呈している。

なお、木製品（RW）は、別途後述する。



1　埋1層　明赤褐色（5YR 5/8）焼土層　しまりあり　粘性なし　暗褐色(10YR 3/2)シルトブロック（5～10cm大）を2%含む　土器片含む
2　埋2層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　しまりなし　粘性なし　焼土粒（0.5～1cm大）を5%含む　土器（完形に近い）多く含む
3　埋3層　にぶい黄褐色（10YR 5/4）シルト　しまりあり　粘性なし　10ＹＲ3/2黒褐色　シルトブロック（2～5cm大）を2%含む

図 340　SK5 実測図（1/60）

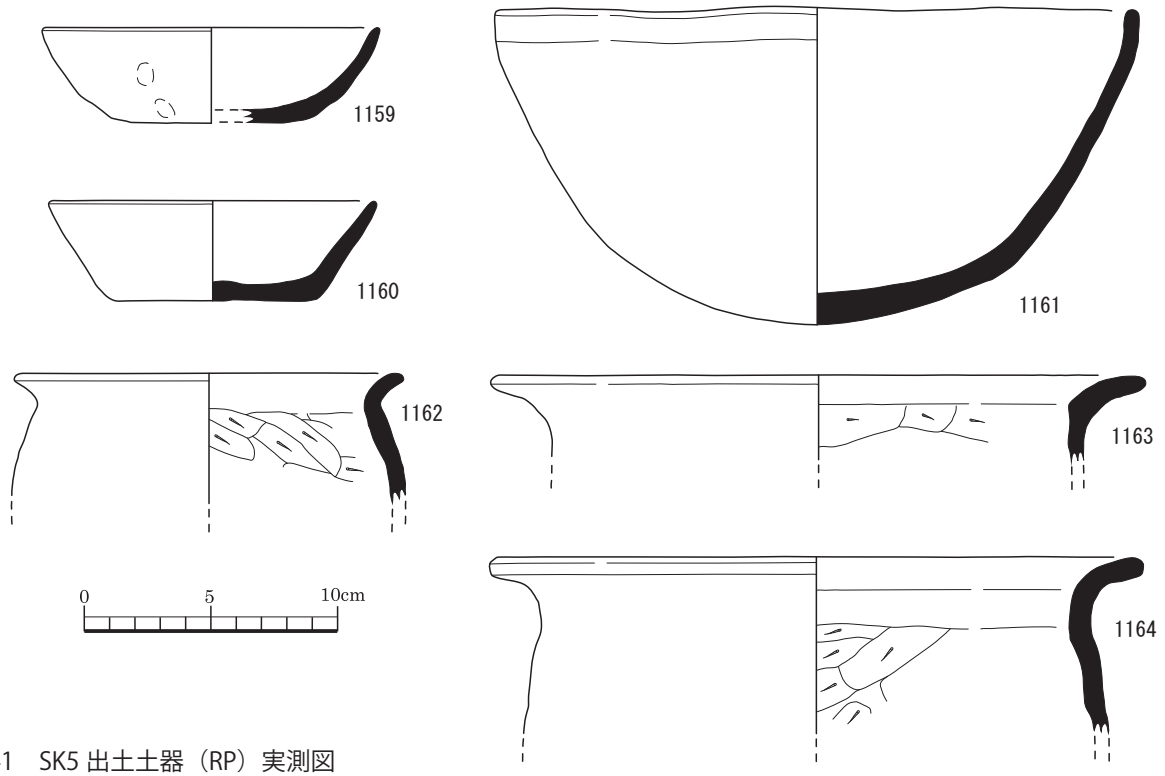


図 341　SK5 出土土器（RP）実測図

土壙 SK5

SK5 は、長方形を呈する土壙である。東西 3.1m 以上、南北 2.2m、深さ 20cm を測る。1393 グリッドに位置する。

SK5 では土師器（RP1159~1164）、須恵器（RP1165~1173）、石器（RQ78、79）が出土している。

土壙 SK6

SK6 は、円形を呈する土壙である。南北 1.5m、東西 1.5m の円形、遺構確認面からの深さ 23cm を測る。1393 グリッドに位置する。

SK6 では須恵器（RP1174、1176）が出土している。

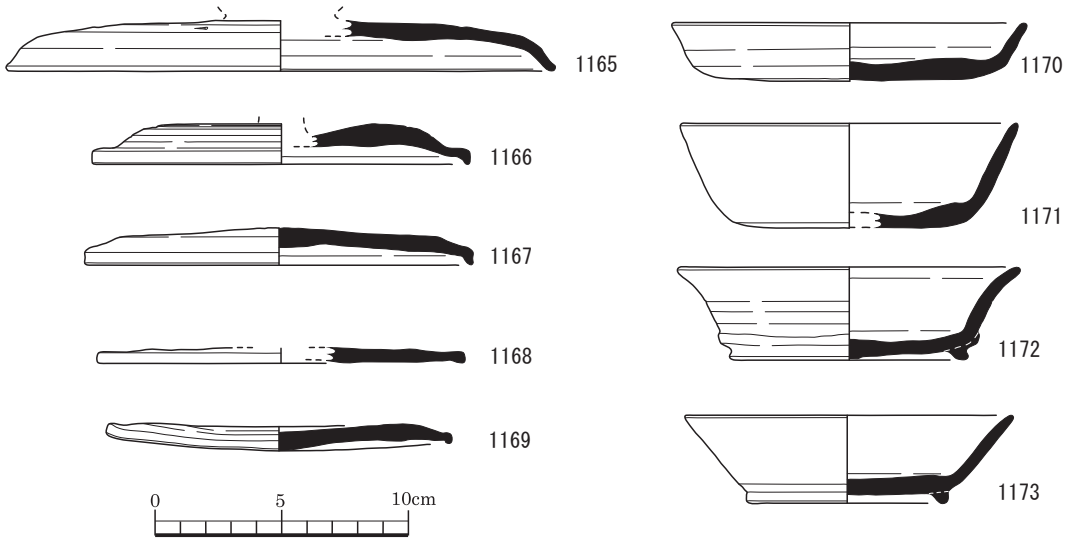


図 342　SK5 出土土器（RP）実測図

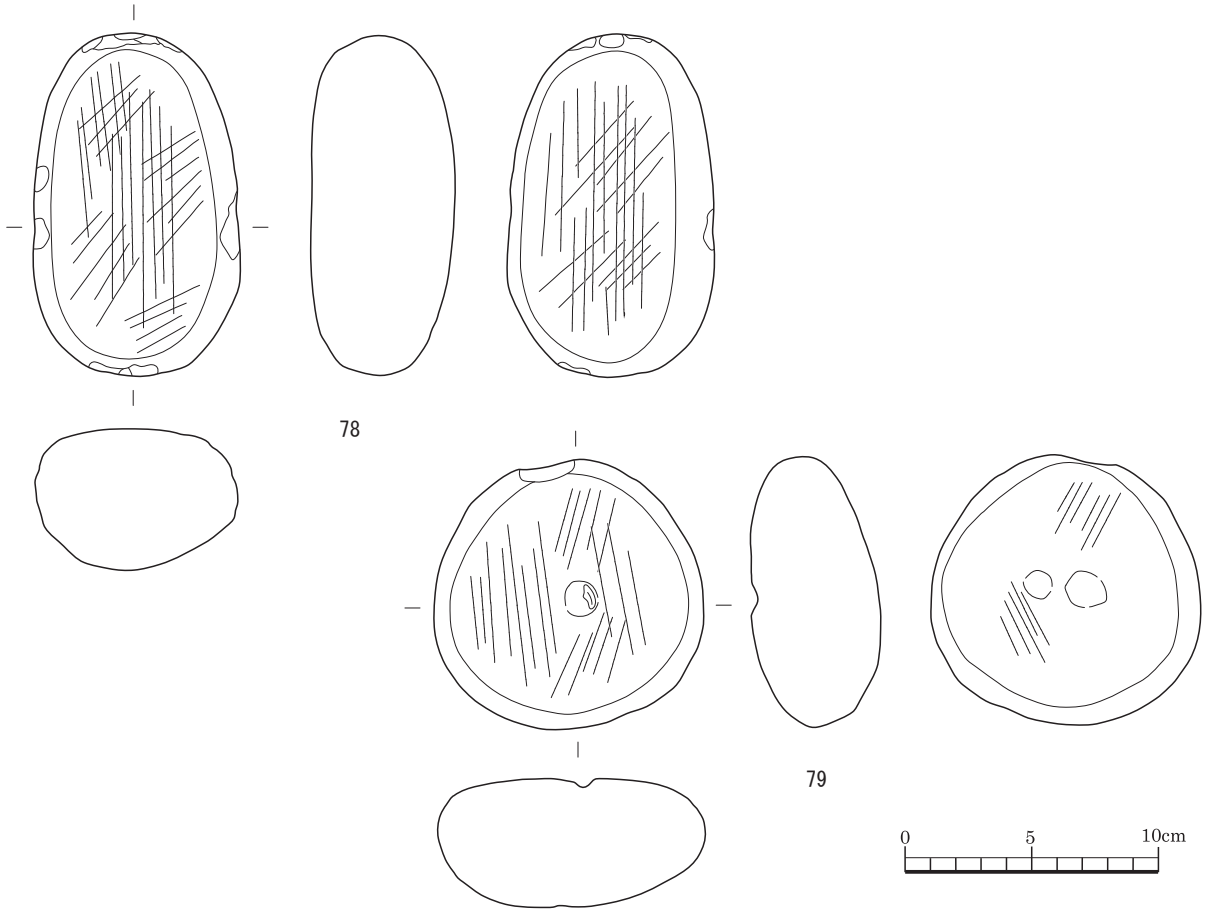
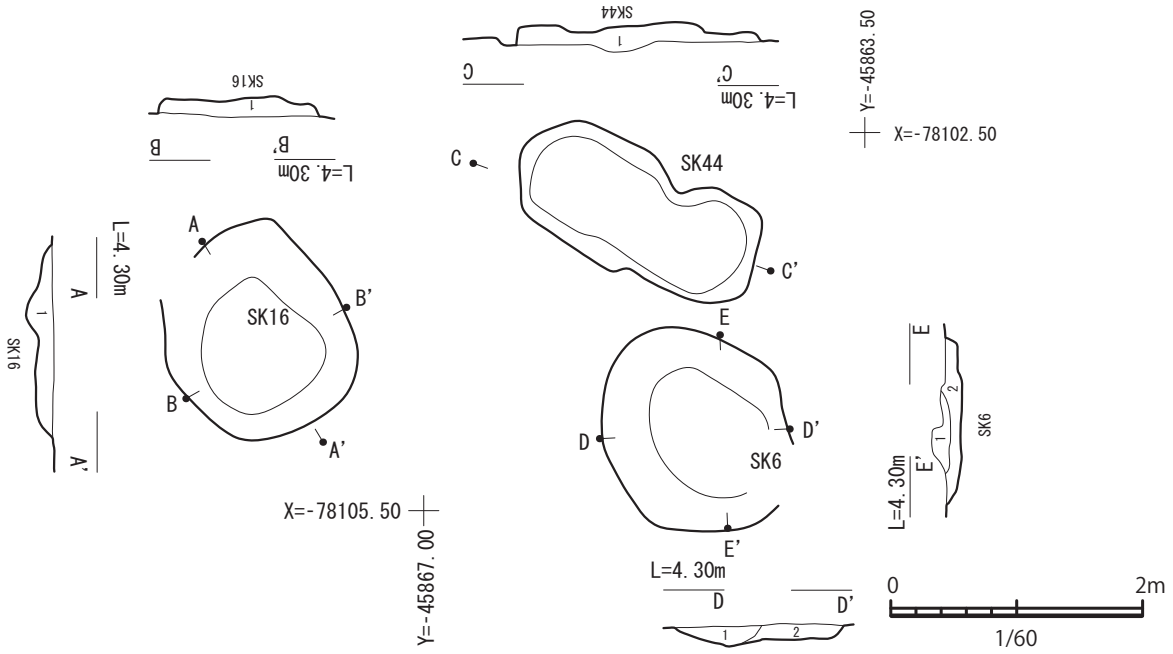


図 343　SK5 出土石器（RQ）実測図



SK6　埋1層　黒褐色（7.5YR 2/2）シルト　粘性なし　しまりなし　焼土粒、炭化物粒（0.5～1cm）を2%含む
黒色(7.5YR 2/1)マンガン粒（0.5cm）を10%含　土器片を少量含む
埋2層　極暗褐色（7.5YR 2/3）シルト　粘性なし　しまりなし　にぶい黄褐色(10YR 5/4)地山ブロック（5～10cm）を2%含む
黒色（7.5YR 2/1）マンガン粒（0.5cm）を7%含む　土器片少量含む
SK16　埋土1層　暗褐色（10YR 3/4）シルト　粘性なし　しまりなし　黒色(10YR 2/1)マンガン粒（0.5～1cm）7%含む　土器片含む
SK44　埋1層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　しまりなし　粘性なし　炭、焼土粒（2m大）を2%含む　土器片含む

図 344　SK6・16・44 実測図（1/60）

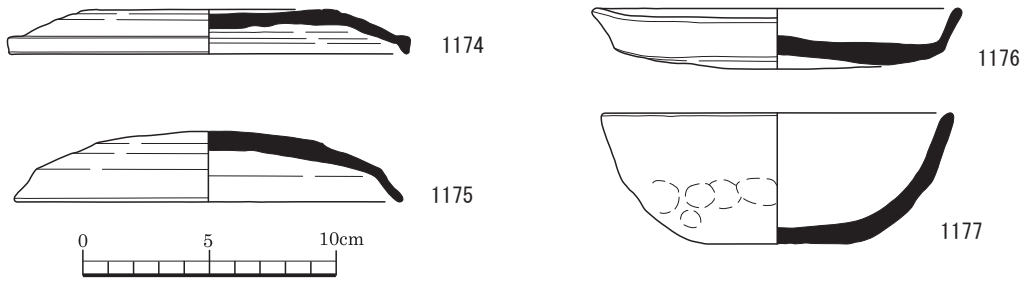


図 345　SK6 出土土器（RP）実測図

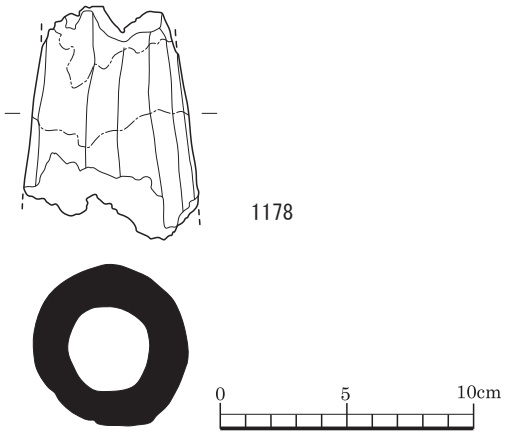


図 346　SK6 出土土製品（RP）実測図

土壙 SK16

SK16 は、円形を呈する土壙である。南北 1.65m、東西 1.45m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。1393 グリッドに位置する。

SK6 では須恵器（RP1175）が出土している。

土壙 SK44

SK44 は、SB13 の遺構内で検出された長方形の土壙である。南北 1.0m、東西 2.0m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。1393 グリッドに位置する。

SK44 では土師器（RP1177）が出土している。

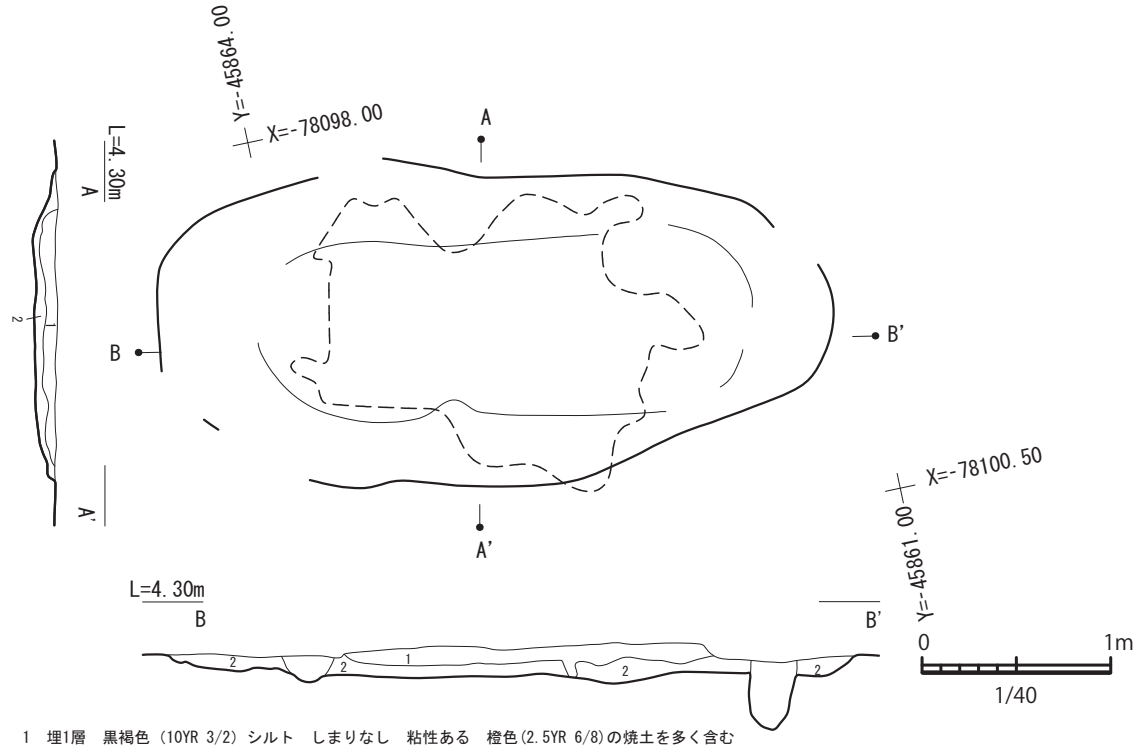


図 347　SK19 実測図（1/40）

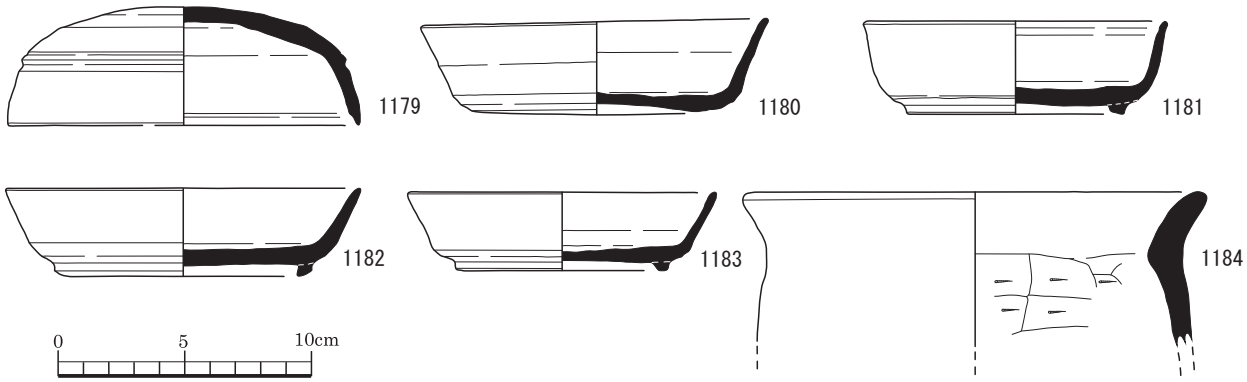


図 348　SK19 出土土器（RP）実測図

土壙 SK19

SK19 は、ピット 2 基が複合する長方形の土壙である。南北 1.6m、東西 3.55m、遺構確認面からの深さ 23cm を測る。SB12 を切っている。2303 グリッドに位置する。

SK19 では土師器（RP1184）、須恵器（RP1179~1183）が出土している。

土壙 SK20

SK20 は、楕円形を呈する土壙である。南北 1.2m、東西 0.85m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。1393 グリッドに位置する。

SK20 では須恵器（RP1185、1186）が出土している。

土壙 SK23

SK23 は、SB21 内に位置する円形の土壙である。SB21 の炉と考えている。南北 1.1m、東西 1.1m、遺構確認面からの深さ 24cm を測る。2302 グリッドに位置する。

SK23 では土師器（RP1187、88）、須恵器（RP1189、1190）が出土している。

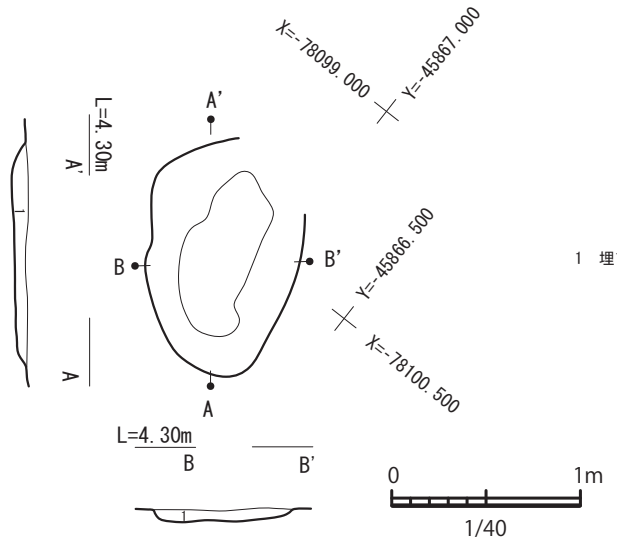


図 349 SK20 実測図（1/40）

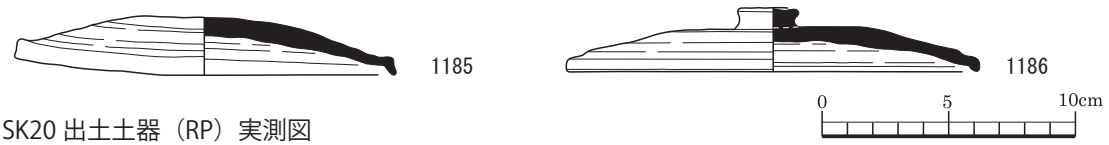


図 350 SK20 出土土器（RP）実測図

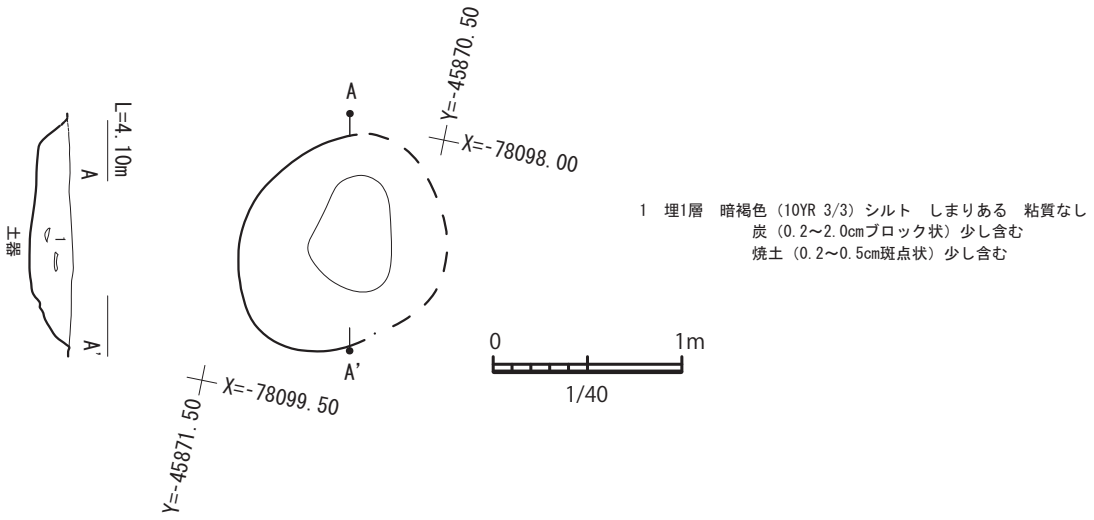


図 351 SK23 実測図（1/40）

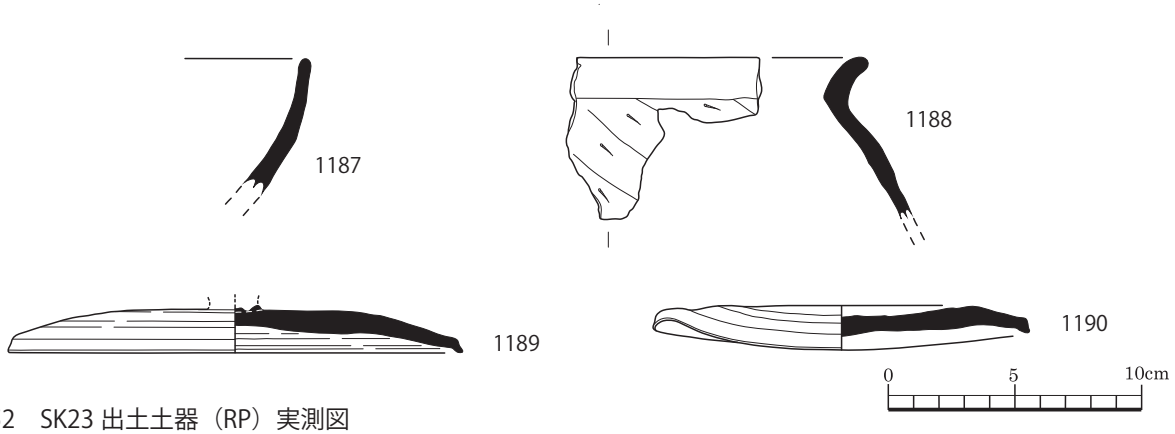
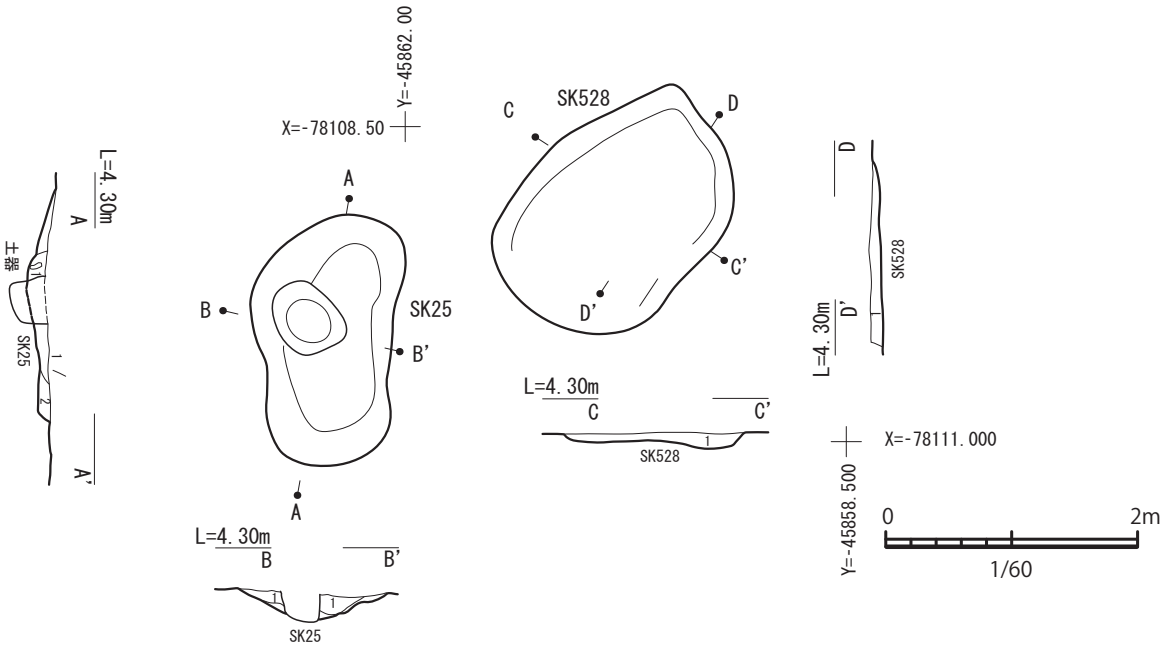


図 352 SK23 出土土器（RP）実測図



SK25　埋1層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　粘性なし　しまりあり　にぶい褐色(10YR 5/4)地山ブロック（2～5cm）を5%含む
SK528　埋1層　暗褐色（10YR 3/4）　褐色(10YR 4/4)地山ブロック（5～10cm大）を25%含む　粘性あり　しまりややあり

図 353　SK25・528 実測図（1/60）

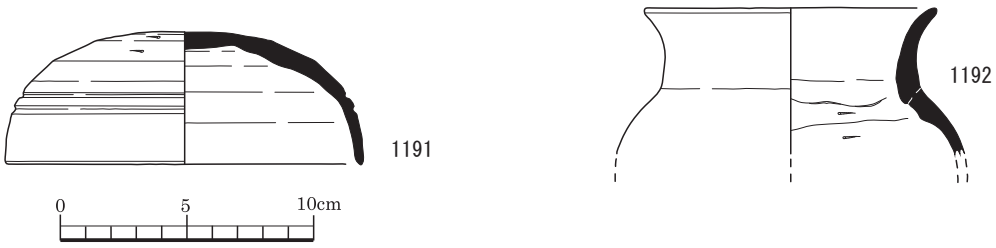


図 354　SK25 出土土器（RP）実測図

土壙 SK25

SK25 は、SB8 内に位置する長方形の土壙である。南北 2.0m、東西 1.15m、遺構確認面からの深さ 34cm を測る。1383 グリッドに位置する。

SK25 では土師器（RP1192）、須恵器（RP1191）が出土している。

土壙 SK33

SK33 は、長方形を呈する土壙である。南北 1.5m、東西 2.3m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。SK33 は、SK34、SE35 に切られている。2302 グリッドに位置する。

SK33 では土師器（RP1193~1197）、須恵器（RP1198~1202）が出土している。

RP1193 は鉢であり、埋 1 層から出土した。器高 6.9cm を測る。器面の外面は橙色､内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、チャートが観察される。この鉢は、外面調整はケズリ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1194 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 7.7cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、金雲母、長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1195 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 23.2cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、

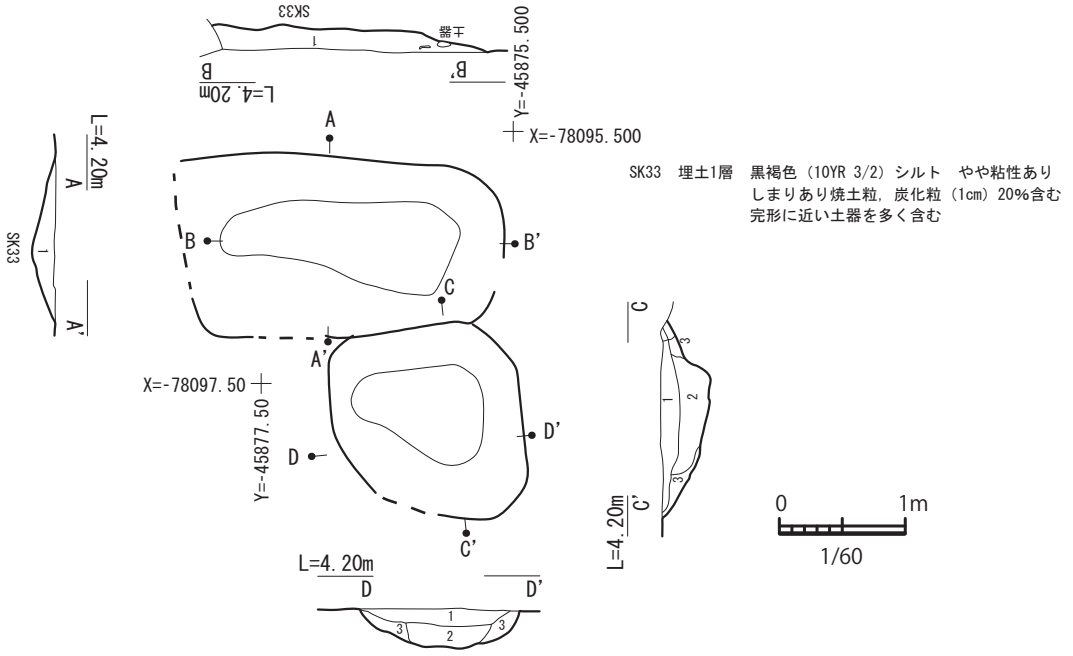


図 355　SK33・34 実測図（1/60）

角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメにより製作され、焼成は良である。

RP1196 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 19.2cm、器高 14.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には礫、長石、石英が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1197 は鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 24.4cm、底径 15.1cm、器高 12.25cm を測る。器面の外面は橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この鉢は、外面調整はタタキ、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1198 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 17.2cm、器高 1.8cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1199 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 19.6cm、器高 1.3cm を測る。器面の外面は灰白、灰色、内面も灰白、灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成はやや良である。

RP1200 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 19.4cm、器高 2.3cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面も灰黄色を呈し、胎土には長石が観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1201 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 13cm、底径 8.3cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1202 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 16.2cm、底径 9.8cm、器高 4.85cm を測る。器面の

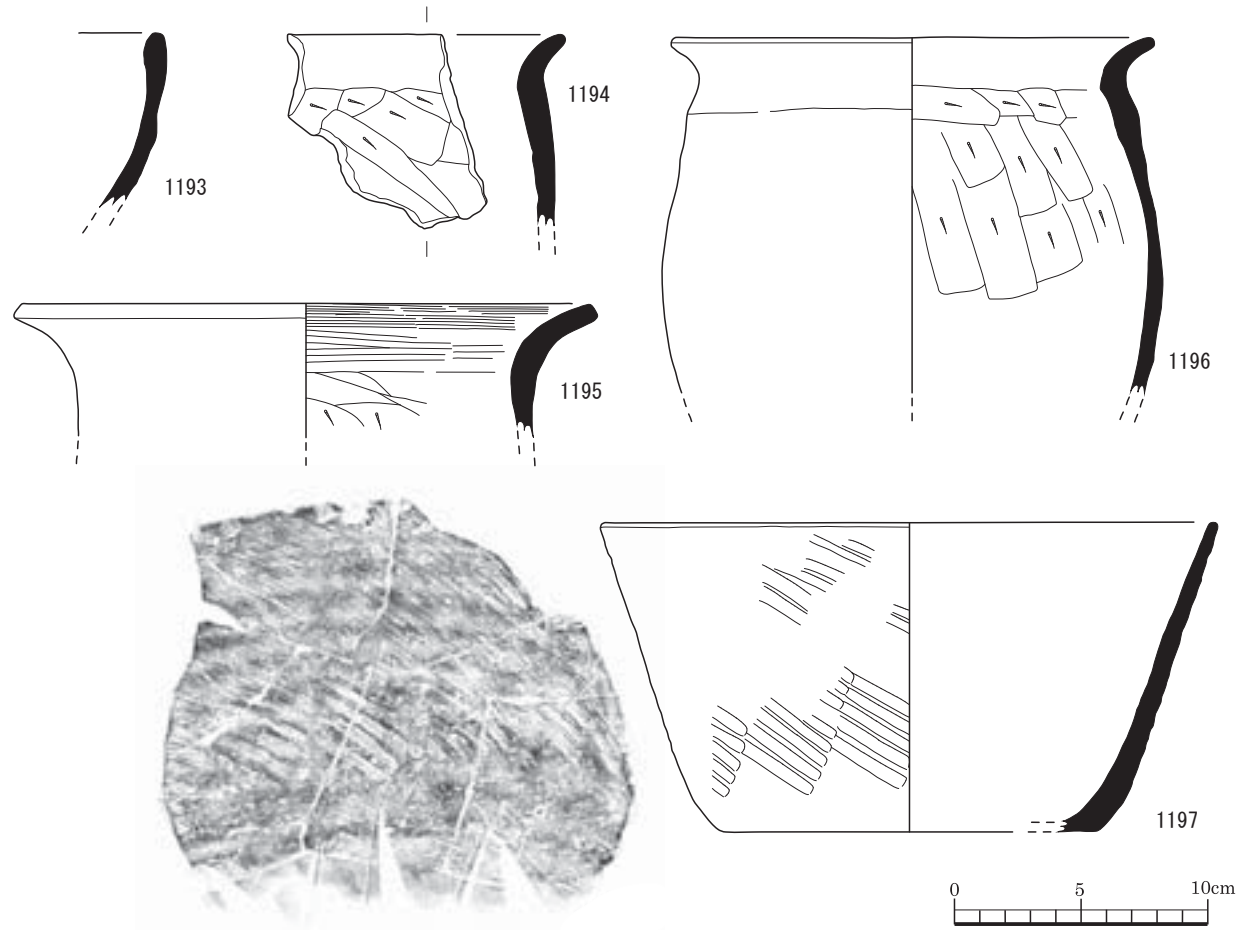


図 356　SK33 出土土器（RP）実測図

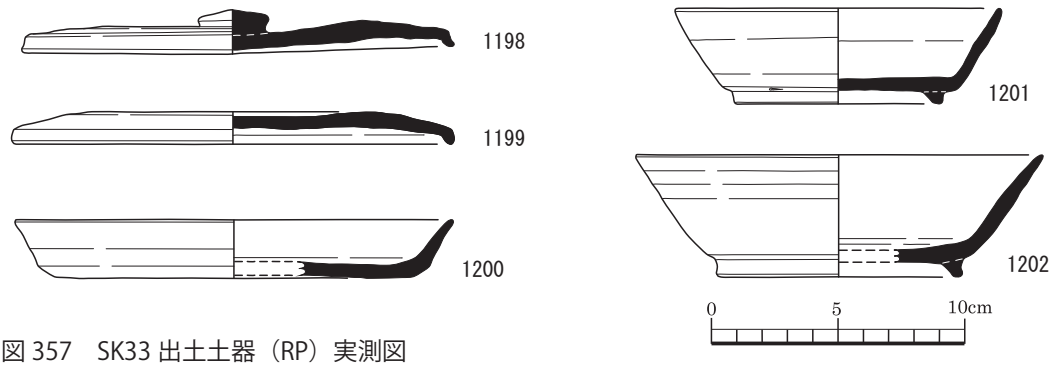


図 357　SK33 出土土器（RP）実測図

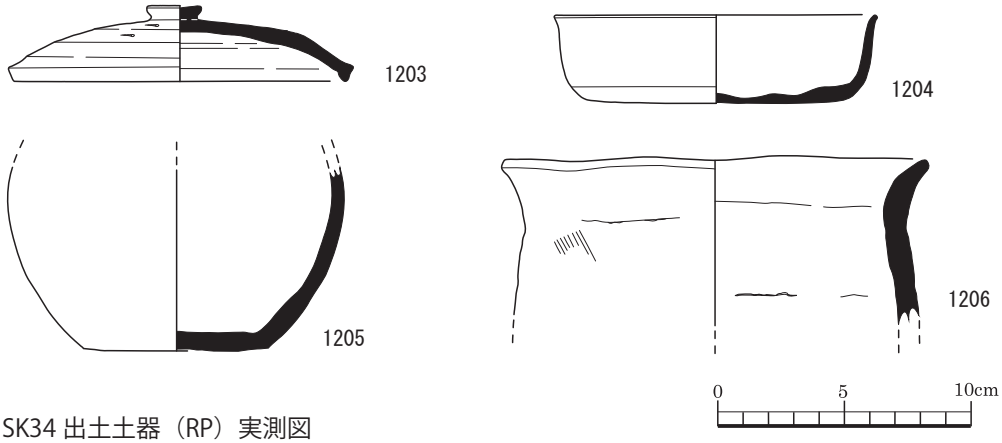
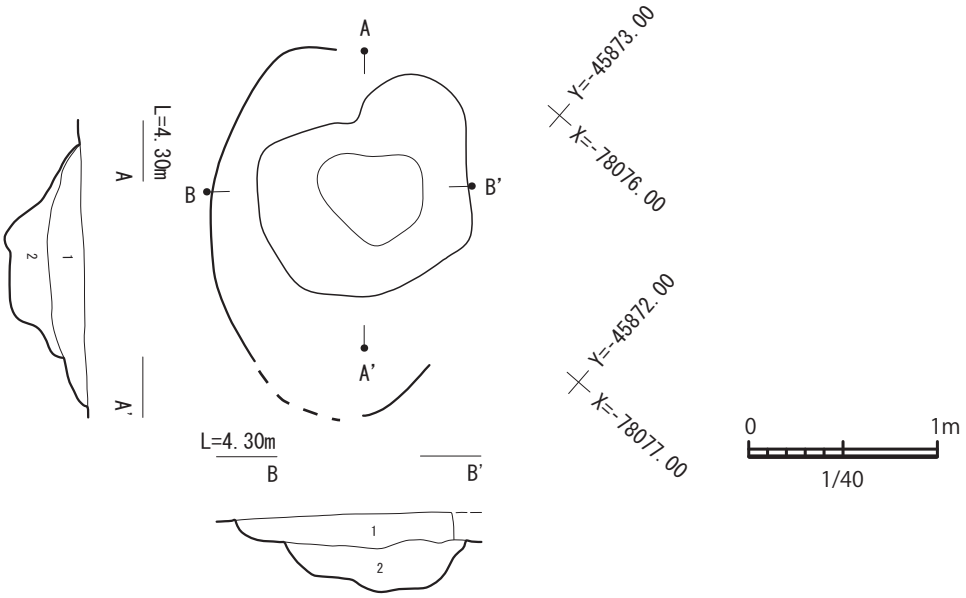


図 358　SK34 出土土器（RP）実測図



1　埋1層　黒褐色（10YR 2/2）シルト　しまりある　粘性ある　焼土、炭化物粒状（0.2～1.0cm）10%含む
2　埋2層　黒褐色（10YR 2/3）シルト　しまりある　粘性少し強い　焼土粒状（0.2～0.5cm）5%含む　炭化物粒状、ブロック状（0.2～2.0ｃｍ）10%含む

図 359　SK39 実測図（1/40）

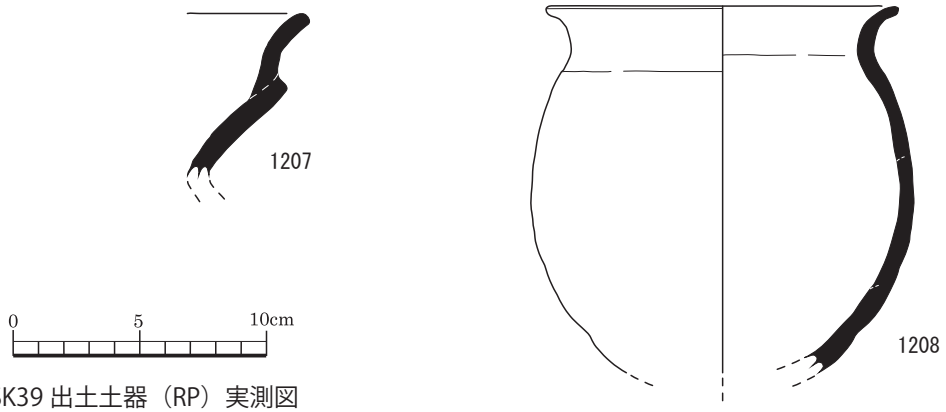


図 360　SK39 出土土器（RP）実測図

外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

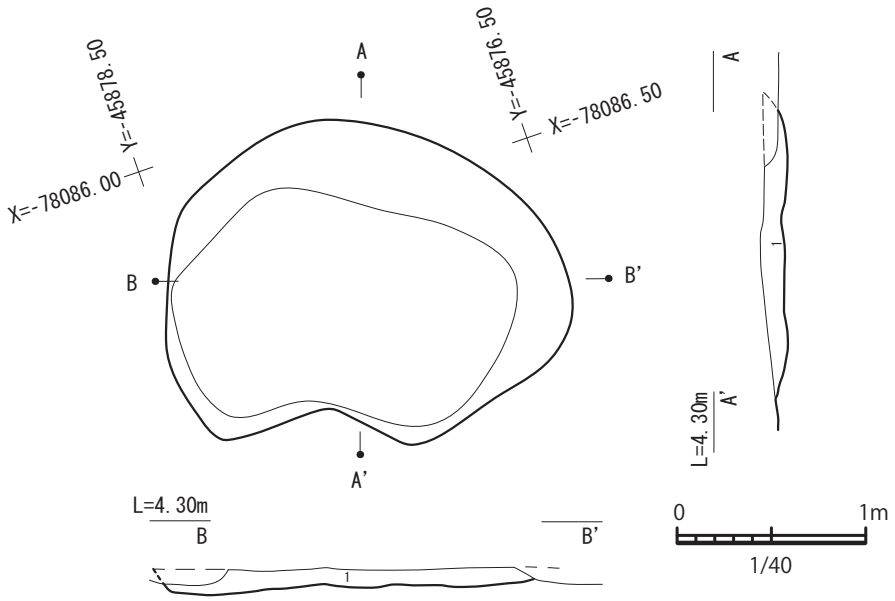
土壙 SK34

SK34 は、方形を呈する土壙である。南北 1.5m、東西 1.5m の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 40cm を測る。SK34 は、SK33 を切っている。2302 グリッドに位置する。

SK34 では土師器（RP1204~1206）、須恵器（RP1203）が出土している。

RP1203 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.2cm、器高 3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し､胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1204 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 12.8cm、底径 10.2cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ヘラケズリ、ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。



1　埋1層　黒褐色（10YR 3/2）シルト　しまりあり　粘性なし　完形の土器を多く含む

図 361　SK40 実測図（1/40）

RP1205 は壺であり、埋 1 層から出土した。底径 7.4cm、器高 7.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には赤色粒子を疎らに含むが観察される。この壺は、外面調整は摩耗、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1206 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 17cm、器高 6.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面はにぶい赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1207 は壺であり、埋 2 層から出土した。器高 6.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

土壙 SK39

SK39 は、円形を呈する土壙である。南北 1.06m、東西 1.36m、遺構確認面からの深さ 40cm を測る。2322 グリッドに位置する。

SK39 では土師器（RP1207、1208）が出土している。

土壙 SK40

SK40 は、概ね方形を呈する土壙である。南北 1.6m、東西 2.0m、遺構確認面からの深さ 12cm を測る。2312 グリッドに位置する。

SK40 では土師器（RP1209~1214）、須恵器（RP1215~1219）、石器（RQ80）が出土している。

土壙 SK45

SK45 は、長方形を呈する土壙である。南北 2.3m、東西 1.0m、遺構確認面からの深さ 28cm を測る。SK45 は、SK42、SK43 を切っている。1391 グリッドに位置する。

SK40 では土師器（RP1220）、石器（RQ81）が出土している。

土壙 SK42

SK42 は南北 1.15m、東西 1.0m の方形を呈し、遺構確認面からの深さ 35cm を測る。1391 グリッドに位置する。SK43、SK45 に切られている。

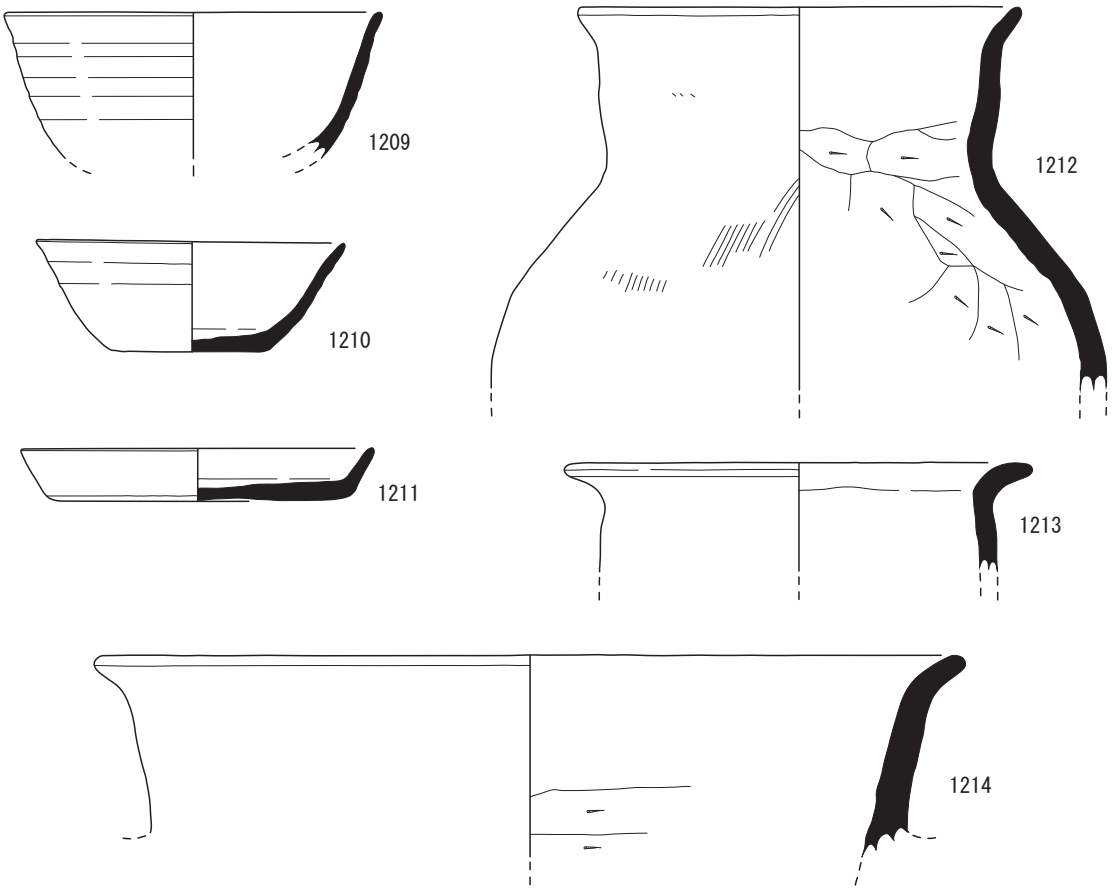


図 362　SK40 出土土器（RP）実測図

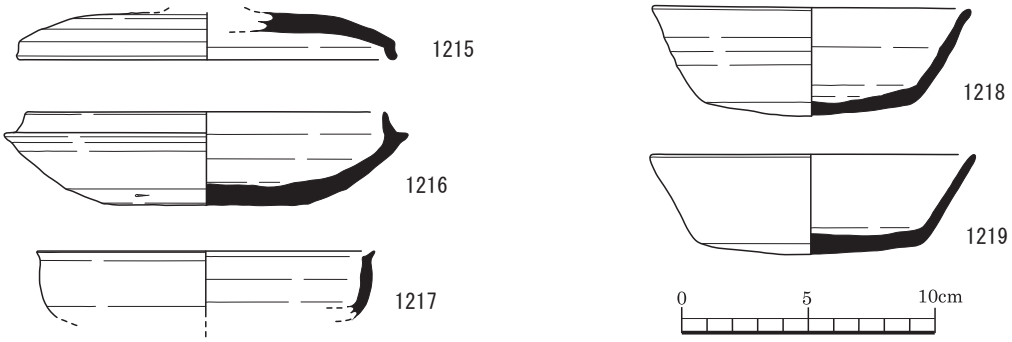


図 363　SK40 出土土器（RP）実測図

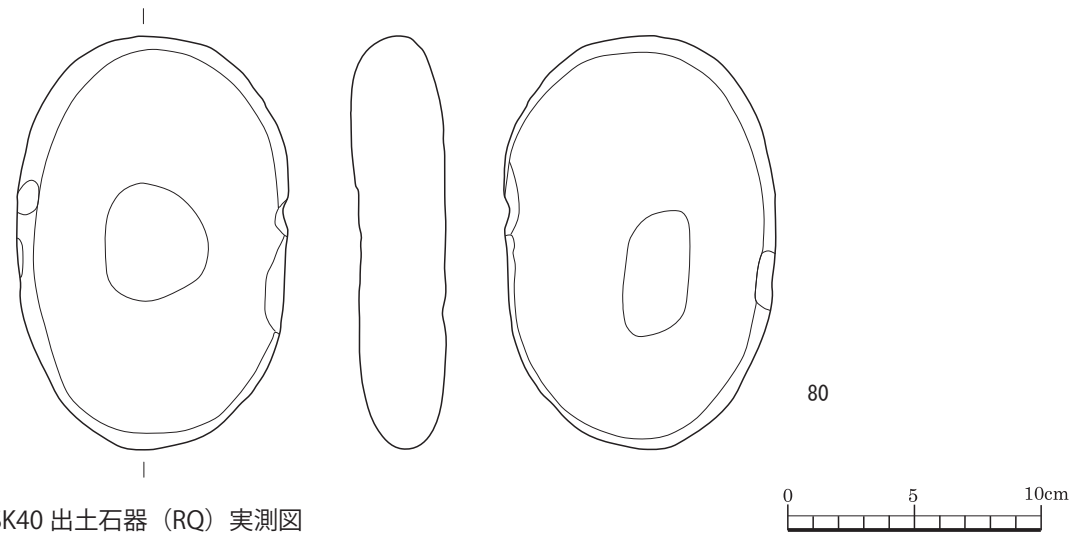


図 364　SK40 出土石器（RQ）実測図

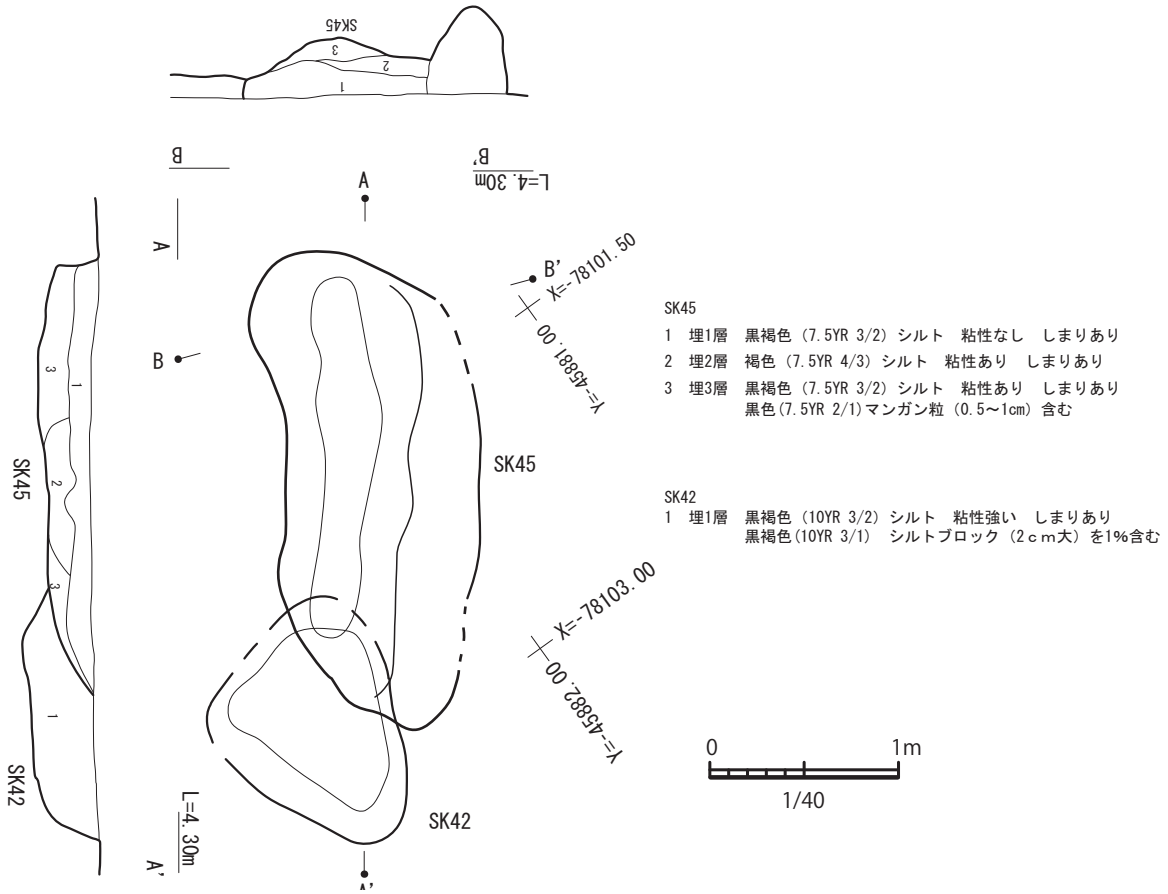


図 365　SK42・45 実測図（1/40）

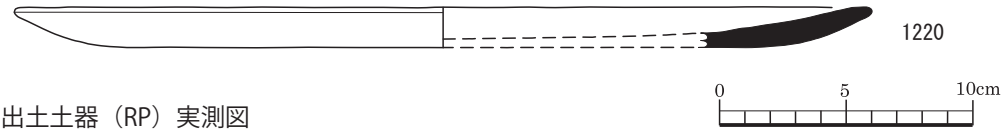


図 366　SK45 出土土器（RP）実測図

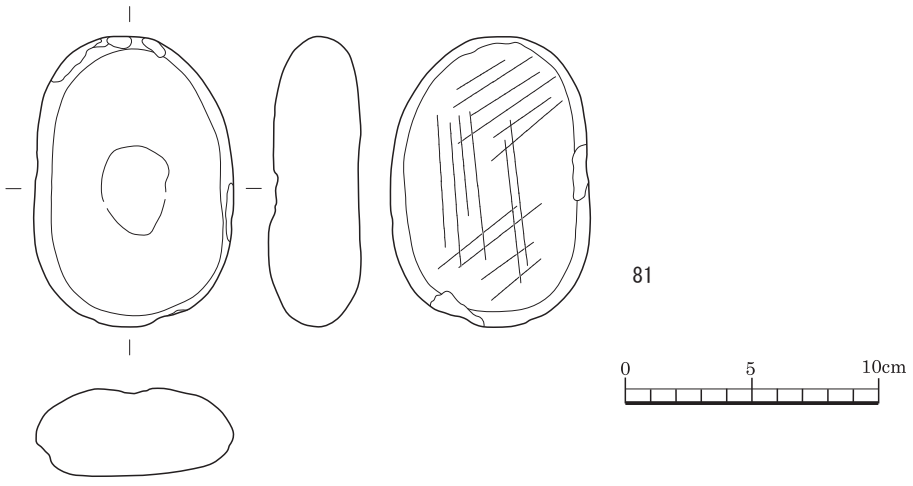


図 367　SK45 出土石器（RQ）実測図

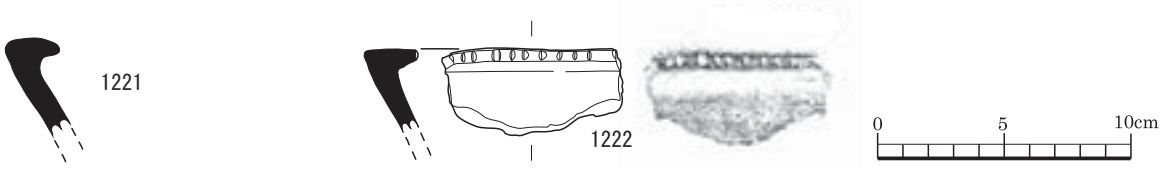


図 368　ピット出土土器（RP）実測図

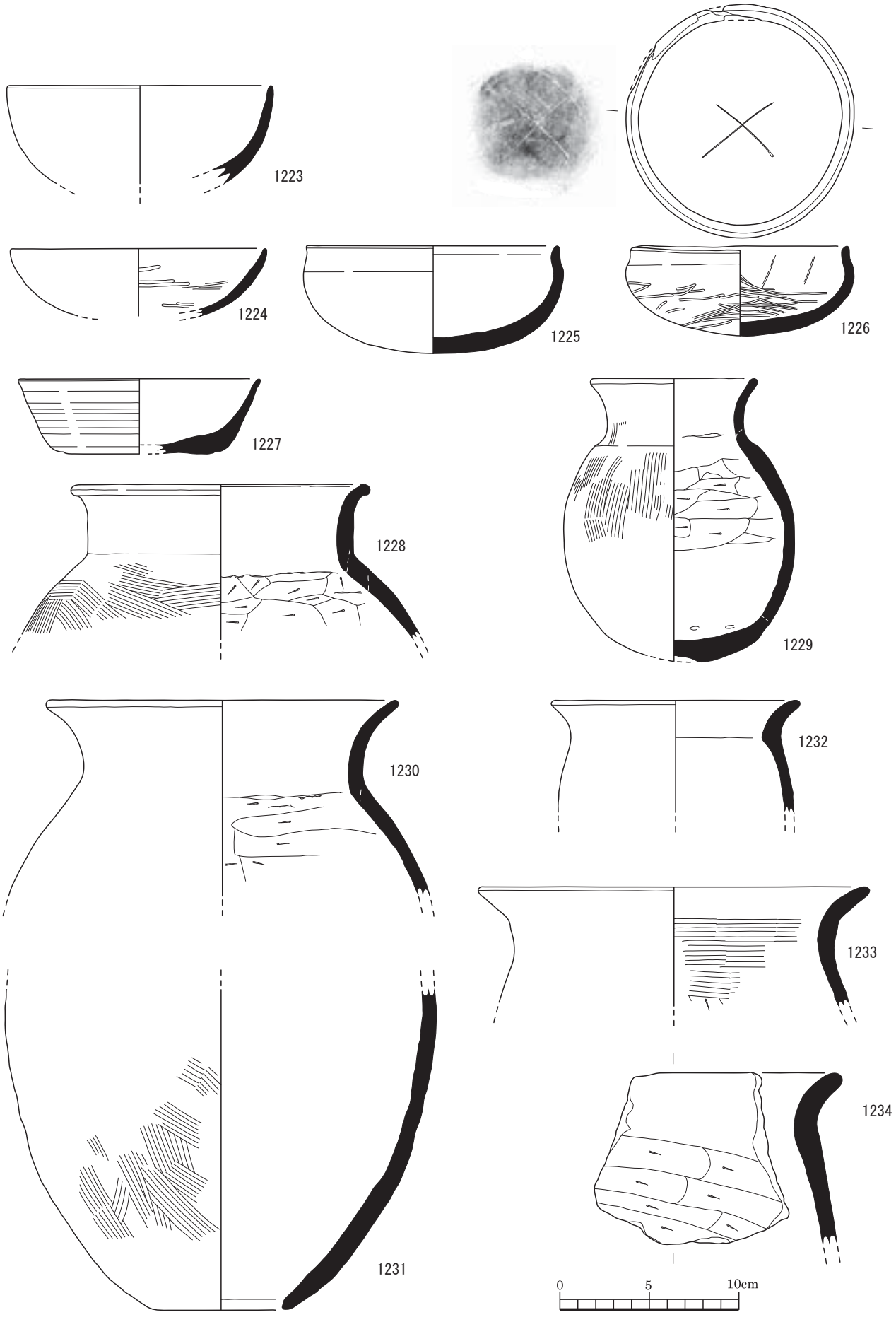


図 369　ピット出土土器（RP）実測図

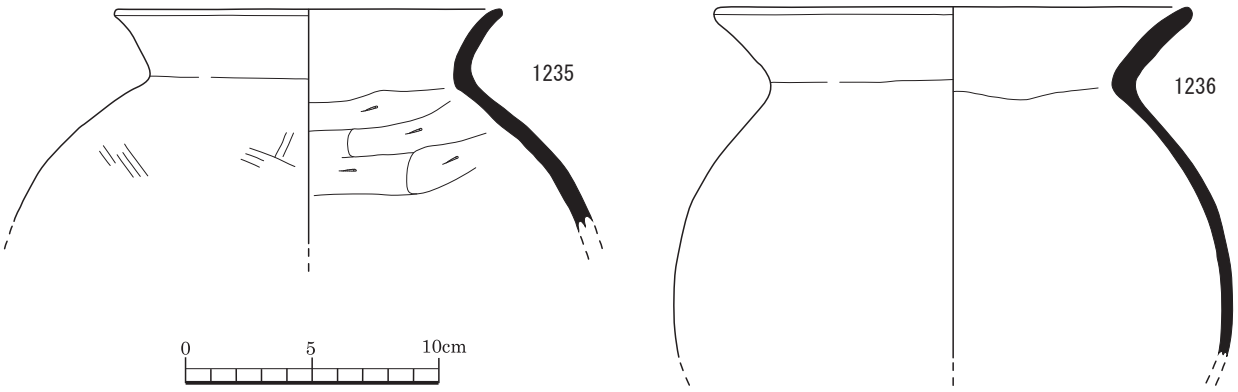


図 370　ピット出土土器（RP）実測図

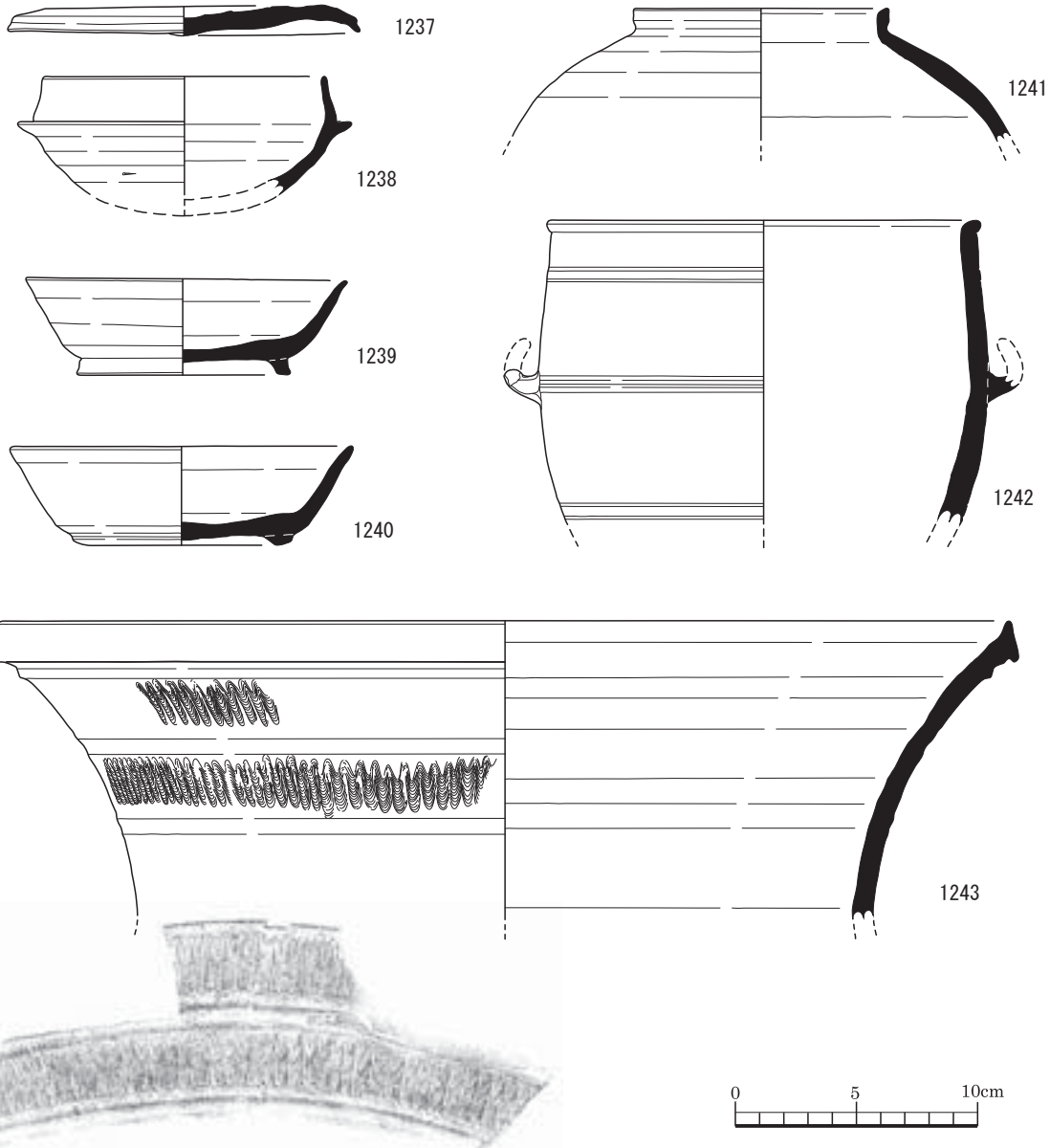


図 371　ピット出土土器（RP）実測図

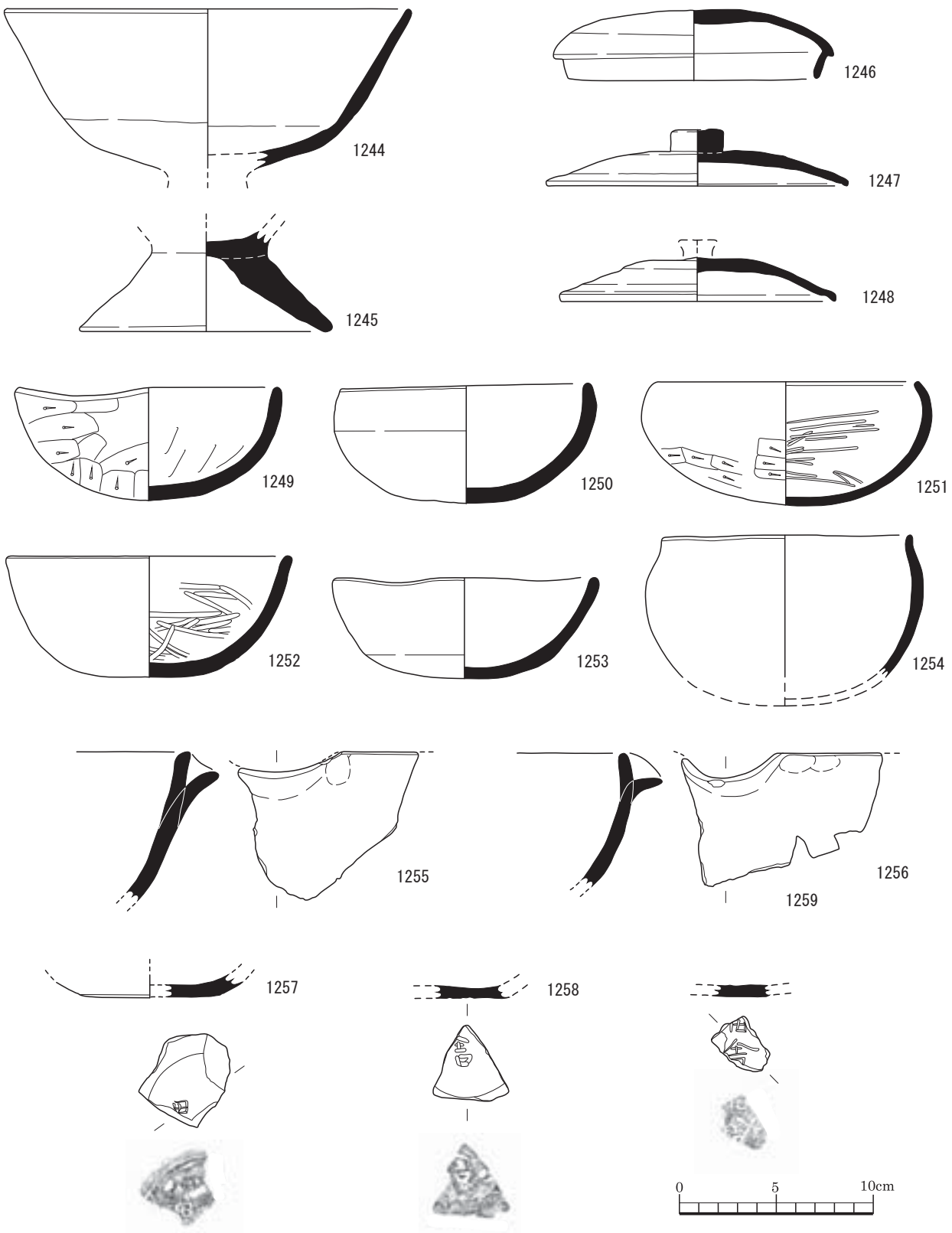


図 372　グリッド出土土器（RP）実測図

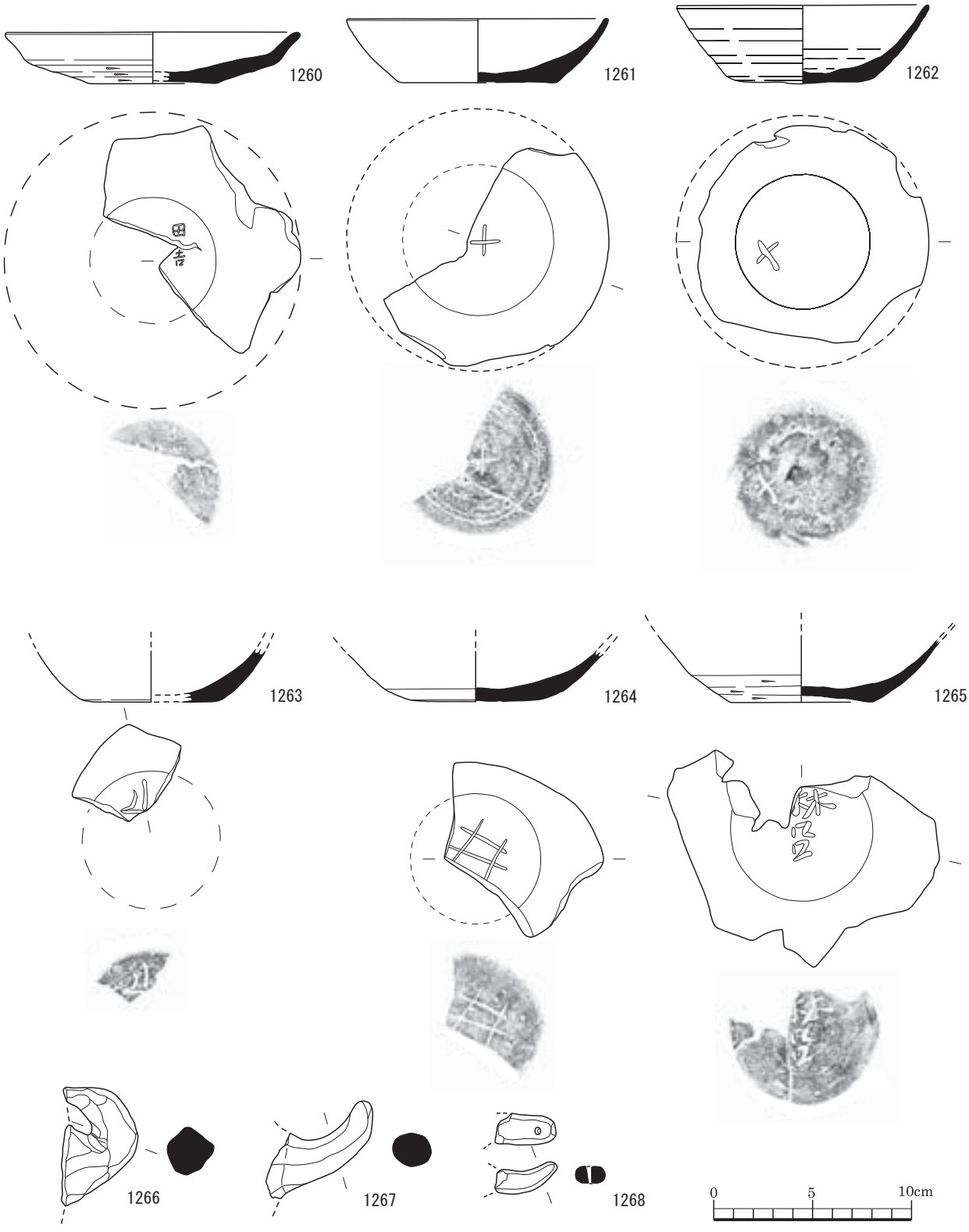


図 373　グリッド出土土器（RP）実測図

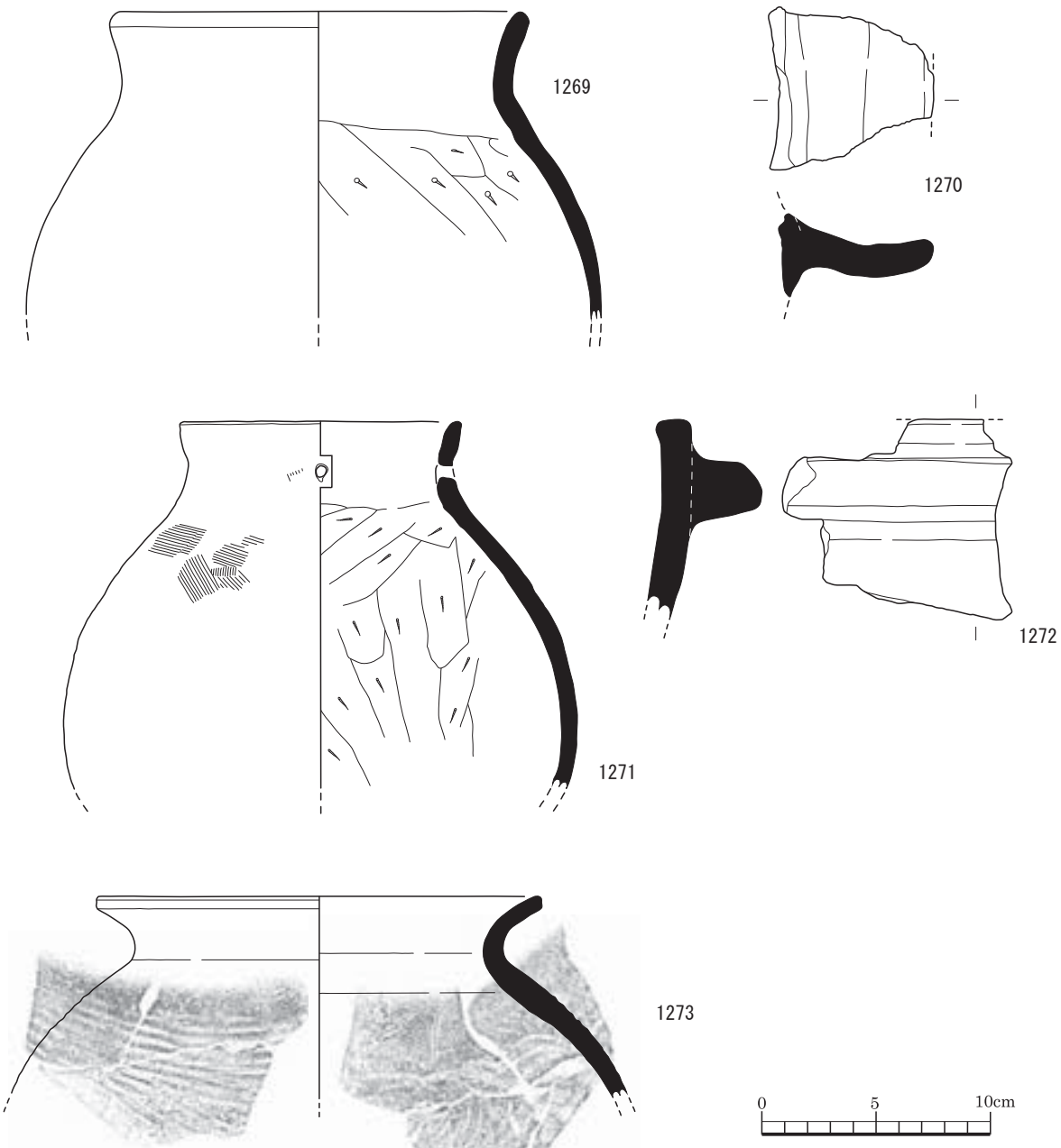


図 374　グリッド出土土器（RP）実測図

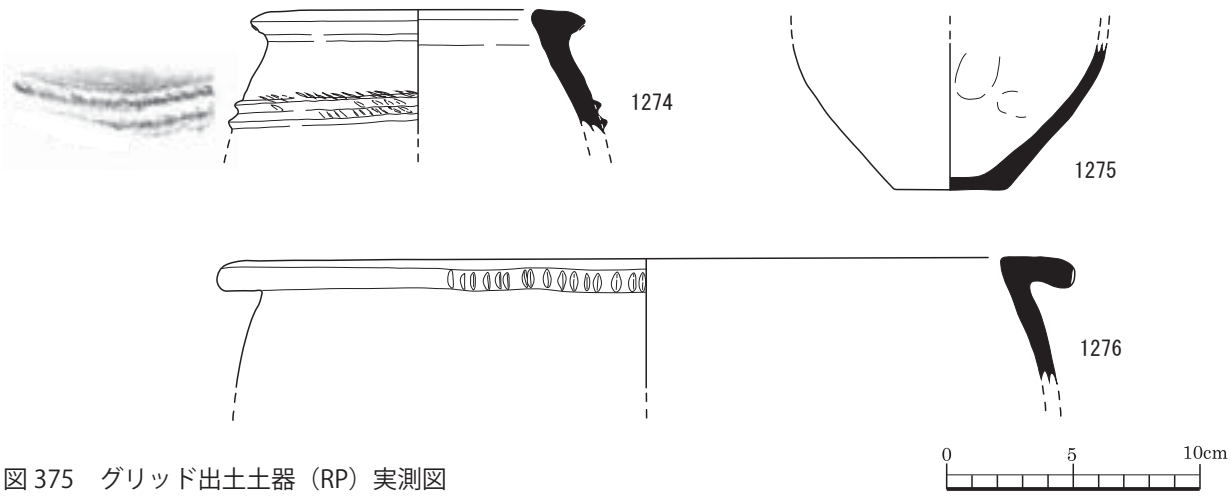


図 375　グリッド出土土器（RP）実測図

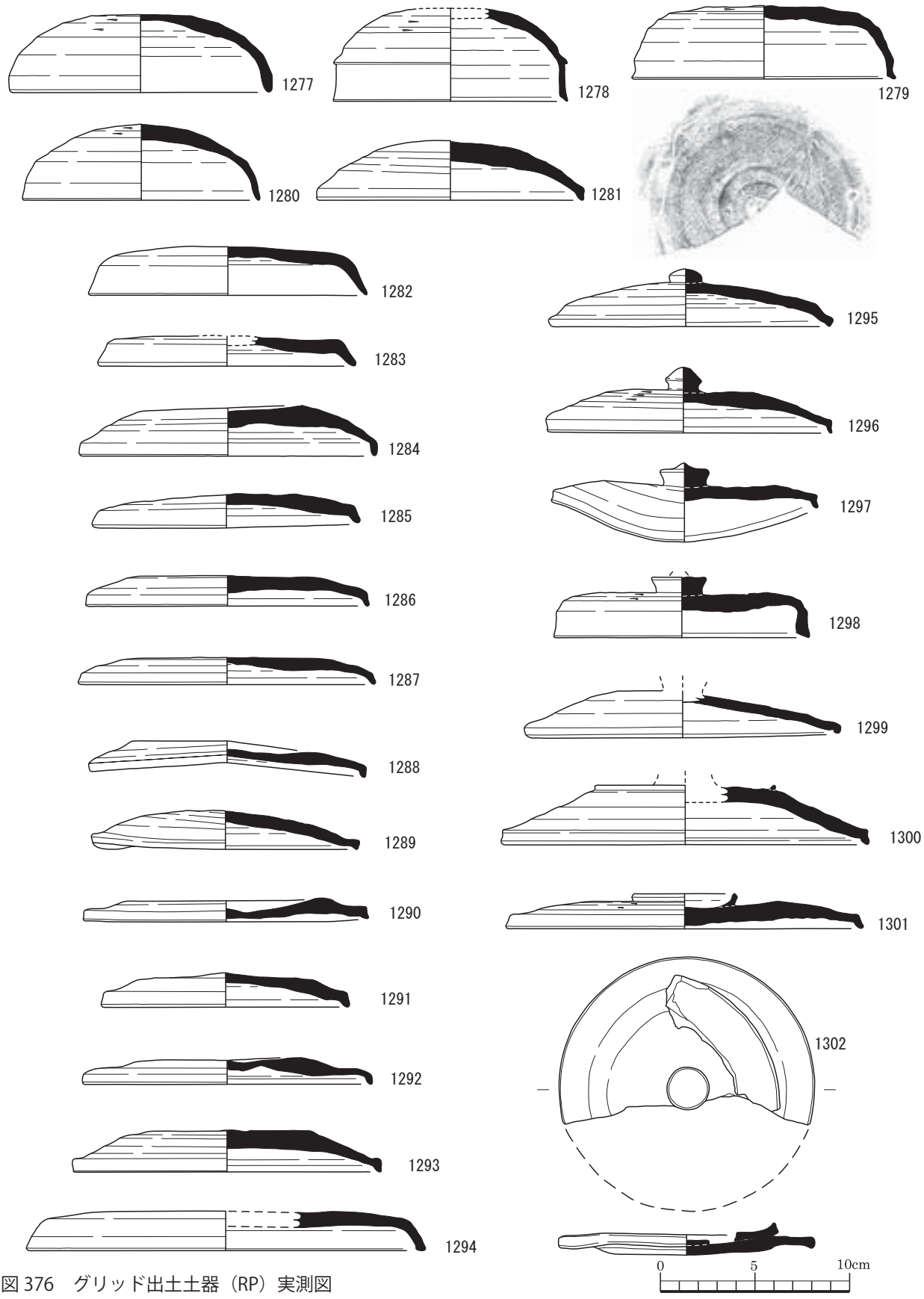


図 376　グリッド出土土器（RP）実測図

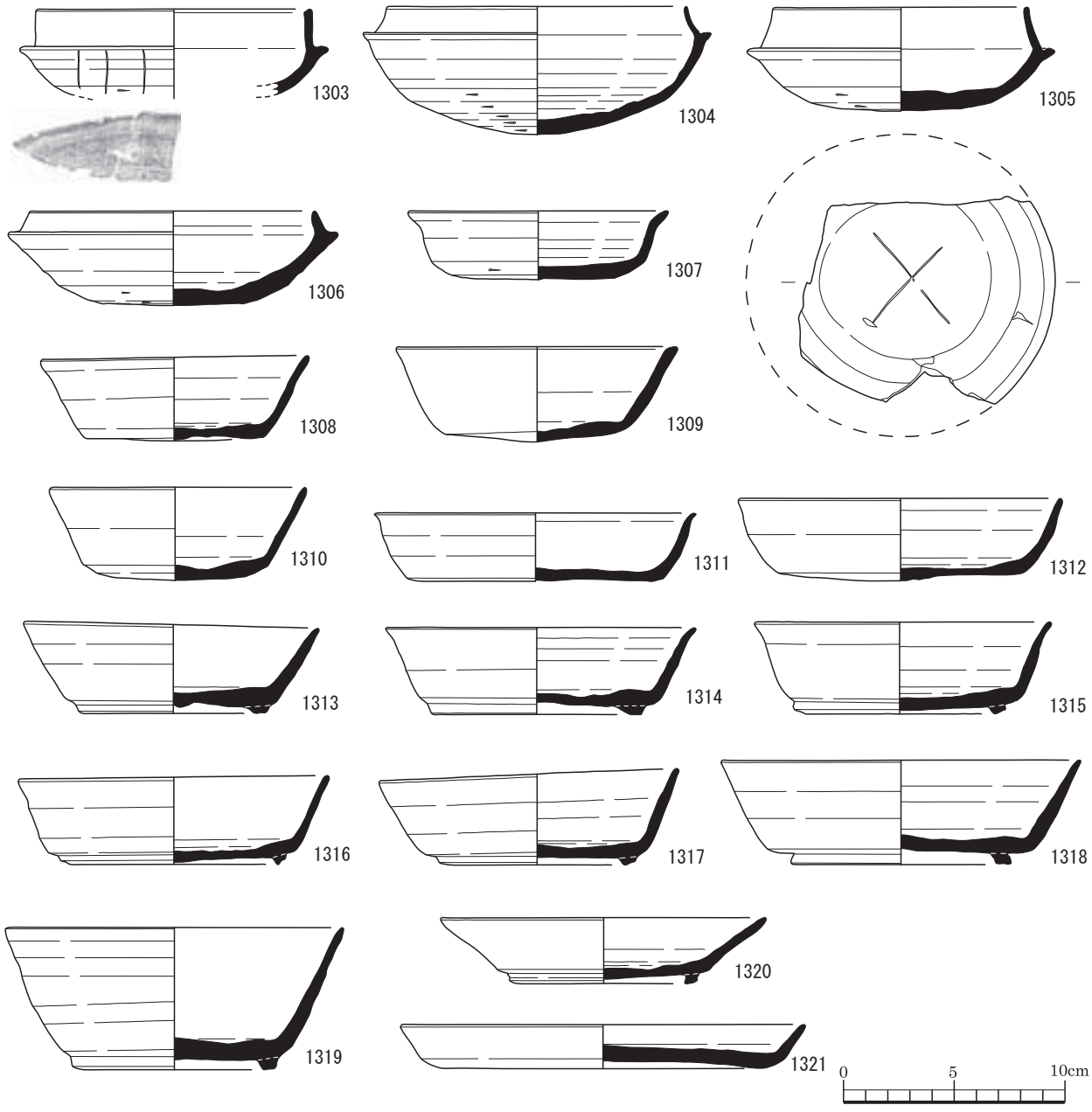


図 377　グリッド出土土器（RP）実測図

箆書土器、墨書土器

調査区 7 区からは箆書土器が出土している。いずれも焼成前に箆を用いて記号又は文字を書いている。

記号が記されていた土器は、RP924「×」、936「土」、937「半円」、938「川」、966「川」、1049「＋」、1075「UU」、1091「V」、1118「＋」、1226「×」、1264「井」、1303「×」、1305「×」、1332「井」、1338「格子」である。

文字が記されていた土器は、RP940「不明」、1065「田舎」、1152「不明」、1257「田」、1258「舎」、1259「田舎」、1260「田舎」、1261「＋」、1261「×」、1263「山」、1265「麻呂」である。

また、墨書土器も 2 点確認している。

墨書されていた土器は、RP1133「不明」、1136「逆 S」である。

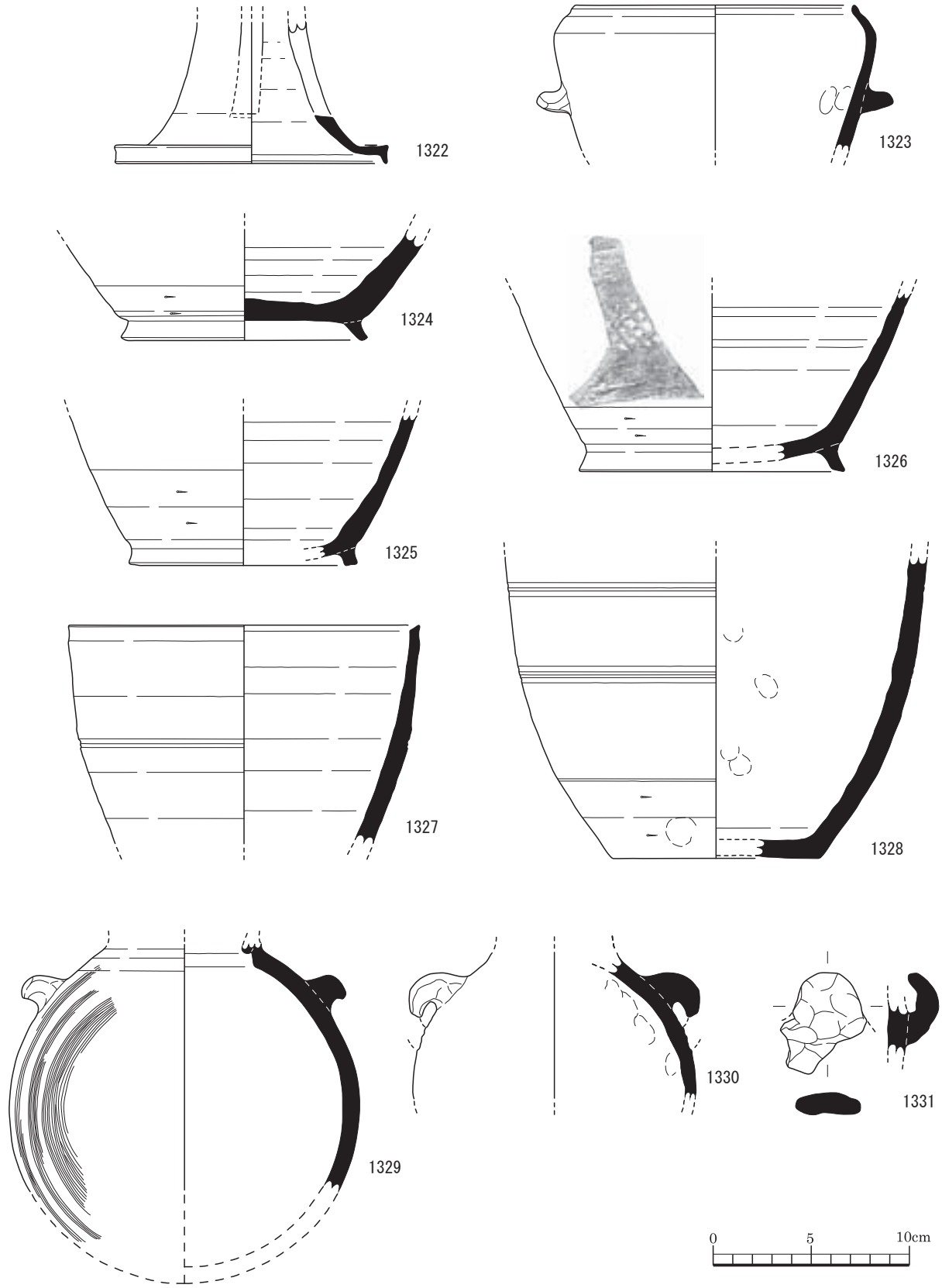


図 378　グリッド出土土器（RP）実測図

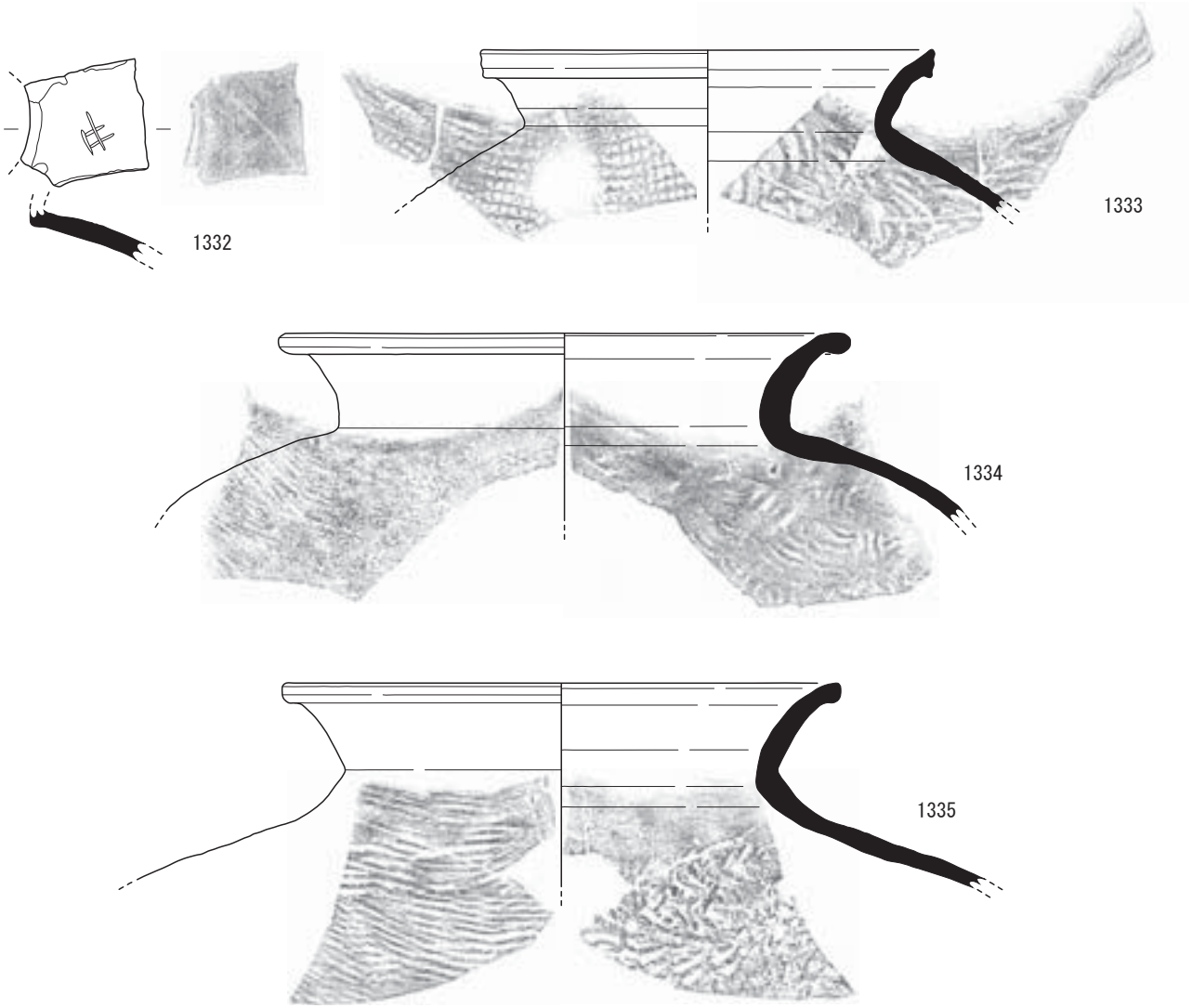


図 379　グリッド出土土器（RP）実測図

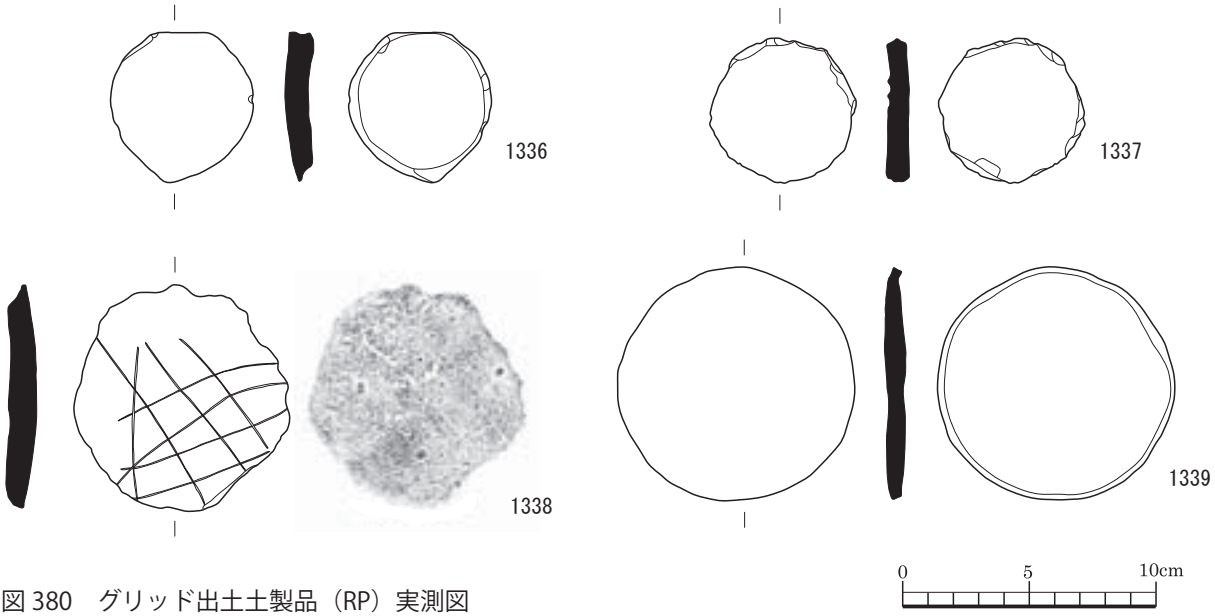


図 380　グリッド出土土製品（RP）実測図

図 381　グリッド出土石器（RQ）実測図

2-8　花岡木崎遺跡 9 区の調査

2-8-1　調査区 9 区の概要

調査区 9 区は、花岡木崎遺跡の東部に位置する。面積は約 1,250㎡、遺構面は 2 面存在したため調査面積は約 2,500㎡である。

なお、調査区 9 区の発掘調査は、宮崎敬士（参事）、横矢晋二郎及び米村俊治（非常勤嘱託）が担当した。

また、発掘調査は「花岡木崎遺跡発掘調査要領」（1-3-2 発掘作業の方法）に基づき実施している。

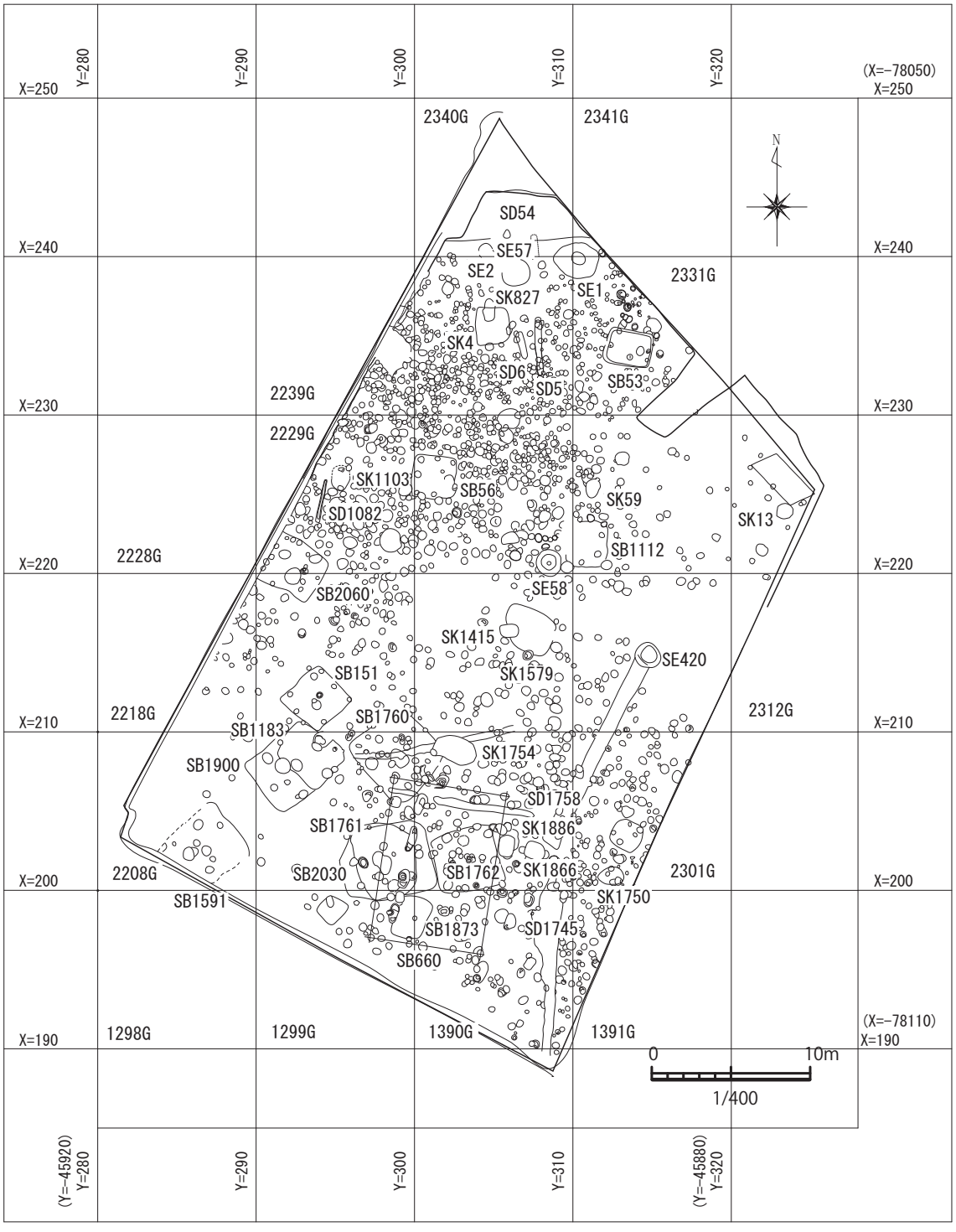


図 382　9 区遺構配置図（1/400）

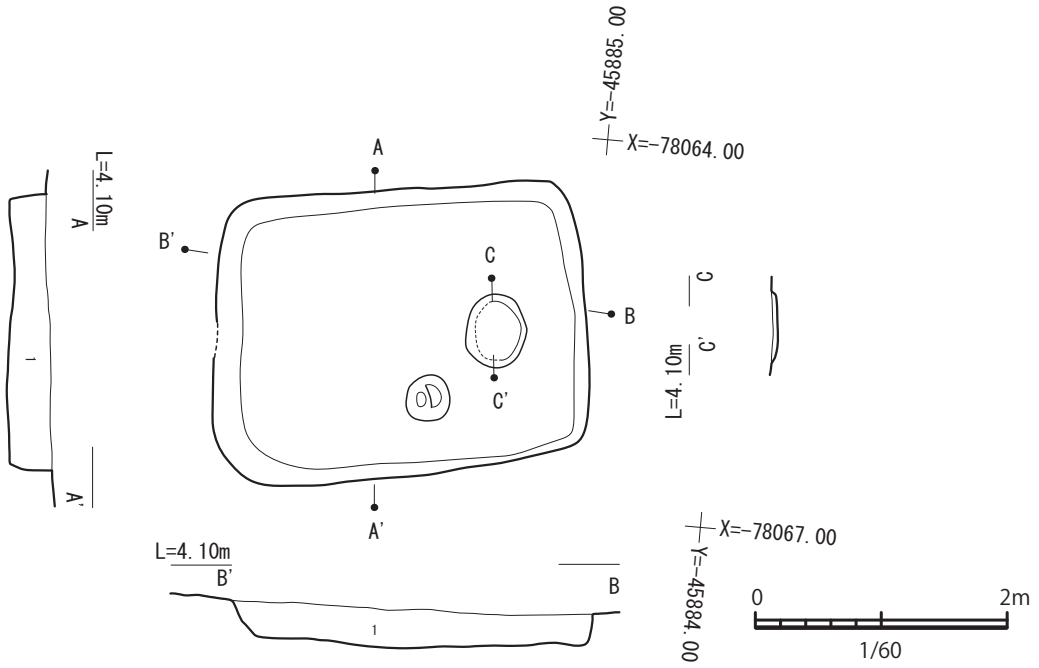


図 383　SB53 実測図（1/60）

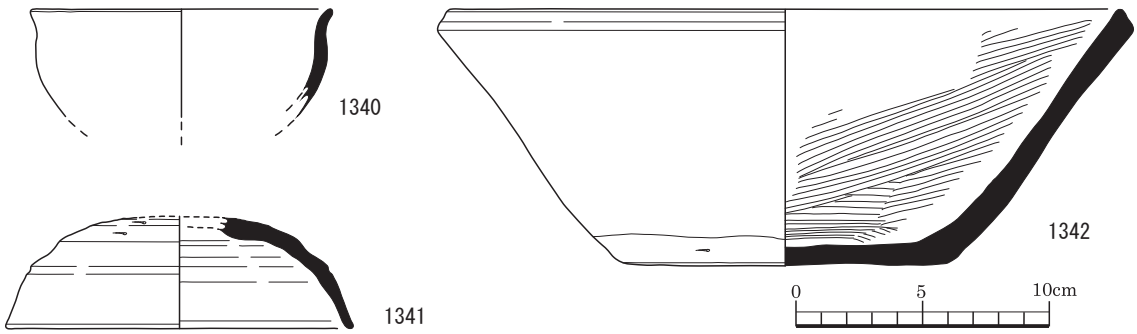


図 384　SB53 出土土器（RP）実測図

2-8-2　調査区 9 区の遺構と遺物

調査区 9 区から出土した主要な遺構、遺物を以下に記述する。

なお、本節末尾には包含層、グリッド等から出土した遺物を図示している。「3 附表」に収録した各種遺物観察表と併せて参照いただきたい。

竪穴建物 53（SB53）

SB53 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB53 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。2331 グリッドに位置する。

SB53 の法量は、東西 2.95 m、南北 2.2 m、遺構確認面からの深さは 33cm を測る。

SB53 では土師器（RP1340）、須恵器（RP1341）、瓦質土器（RP1342）が出土している。

RP1340 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、褐色粒子、雲母、石英が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1341 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 13.8cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋

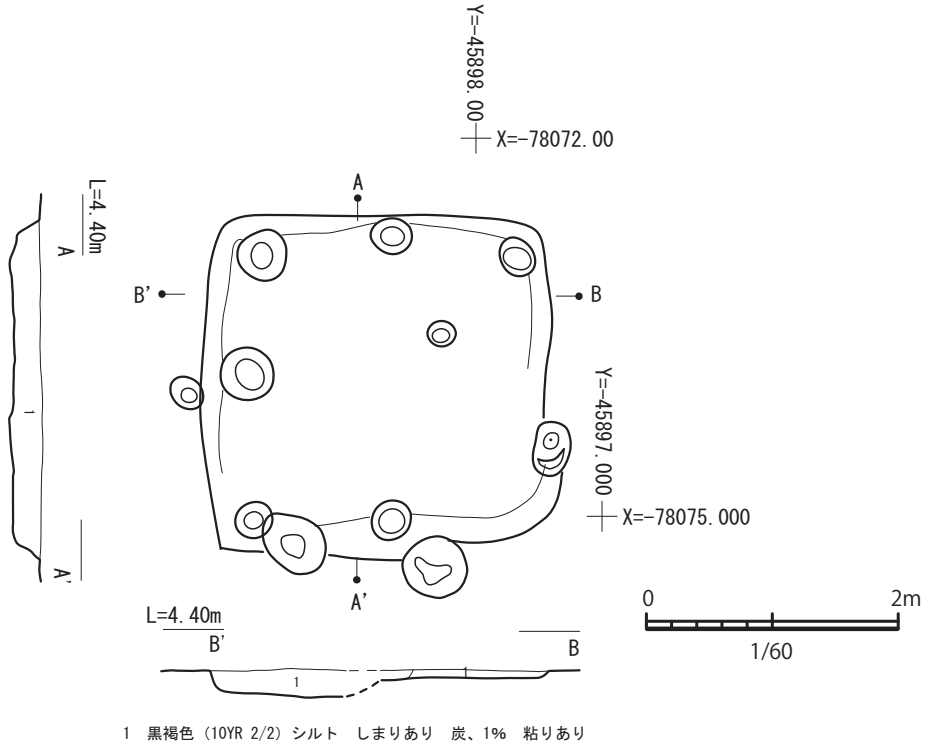


図 385　SB56 実測図（1/60）

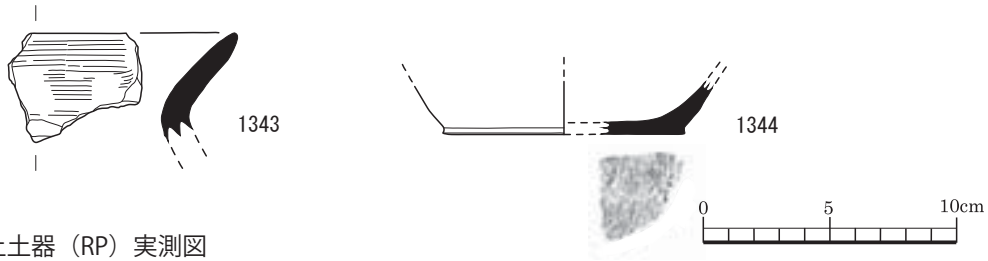


図 386　SB56 出土土器（RP）実測図

は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1342 は捏ね鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 27.6cm、底径 13cm、器高 10.2cm を測る。器面の外面は灰黄色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この捏ね鉢は、外面調整はヘラナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴建物 56（SB56）

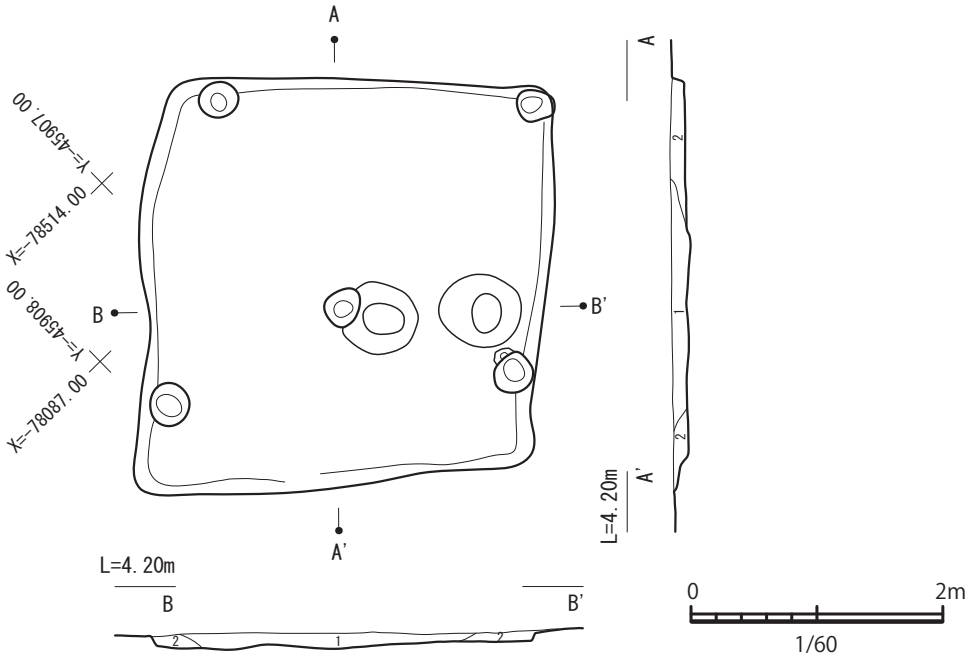
SB56 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB56 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。2330 グリッドに位置する。

SB56 の法量は、東西 2.75 m、南北 2.7 m、遺構確認面からの深さは 25cm を測る。

SB56 では土師器（RP1343、1344）が出土している。

RP1343 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 4.3cm を測る。器面の外面は暗褐、橙色、内面はにぶい橙、暗褐色を呈し、胎土には雲母、角閃石、長石、石英、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1344 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 9.6cm、器高 2.1cm を測る。器面の外面はにぶい橙、暗黄灰色、内面もにぶい橙、暗黄灰色を呈し、胎土には長石、雲母、赤色粒子、石英が観察される。この坏は、外面調整は摩耗、回転糸切り離し、内面調整は摩耗され、焼成は良である。



1　埋1層　黒褐色（10YR 2/2）しまりあり　炭、10%　粘性なし　焼土、5%　炭化物が比較的多く混じる、土器を多く含包する
2　埋2層　　褐色（10YR 4/4）シルト　しまりあり　炭、3%　粘性なし　焼土、1%　黒褐色土が少量混じる

図 387　SB151 実測図（1/60）

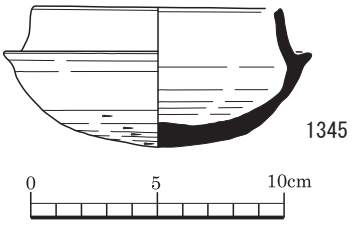


図 388　SB151 出土土器（RP）実測図

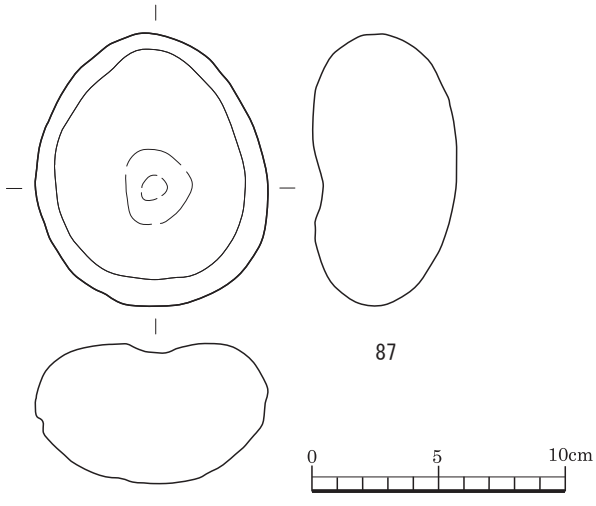


図 389　SB151 出土石器（RQ）実測図

竪穴住居 151（SB151）

SB151 は、平面が正方形を呈し、炉を備えた 4 本柱建ての竪穴住居である。2219 グリッドに位置する。

SB151 の法量は、南北 3.3 m、東西 3.3 m、遺構確認面からの深さ 15cm を測る。

炉は、SB151 の中央に設置された直径約 60cm の円形を呈する土壙である。その南側には直径 65cm の浅い土壙が南側壁に接して配置されている。この土壙は、弥生時代後期から熊本地域の竪穴住居に付設される K-pit と同一の規模と配置を示している。なお、床面には、明瞭な硬化面が形成されていた。

SB151 では土師器（RP1346 ～ 1359）、須恵器（RP1345）、石器（RQ87）が出土している。

RP1345 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 9.9cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1346 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.7cm、器高 6.4cm を測る。器面の外面はにぶい橙、浅黄橙、灰色、内面はにぶい黄橙、灰黄色を呈し、胎

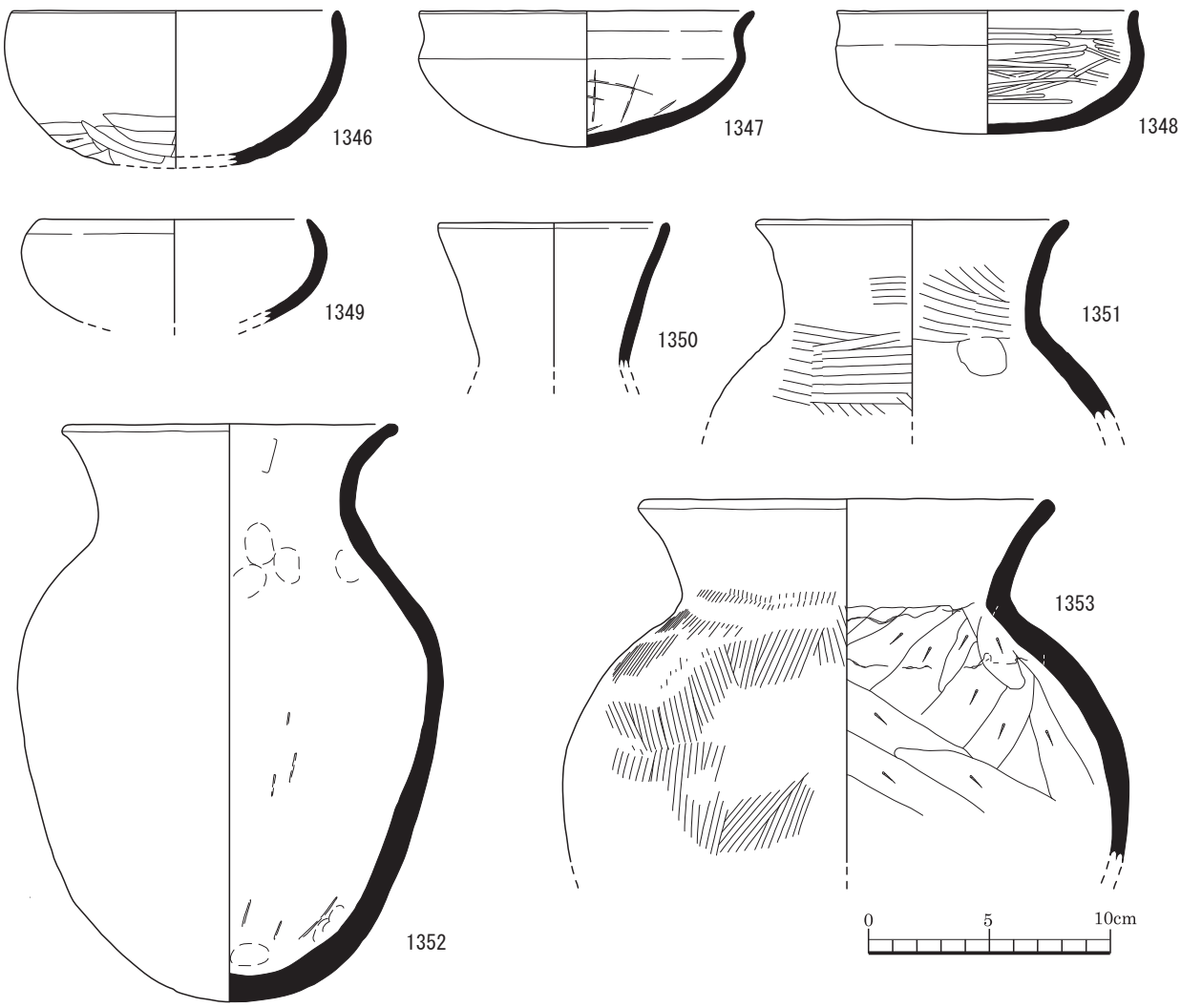


図 390　SB151 出土土器（RP）実測図

土には石英、長石、赤褐色粒子、が観察される。この坏は、外面調整は摩耗、ヘラケズリ、内面調整は摩耗により製作され、焼成は良である。

RP1347 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 5.65cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、明黄褐、暗灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、黒色粒子、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はハケ板による整形、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1348 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.5cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、茶褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ミガキ、内面調整はミガキ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1349 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.1cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は橙、灰黄褐、黒色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、橙色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1350 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 9.6cm、器高 6cm を測る。器面の外面は浅黄橙、灰白色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、褐色粒子が観察される。この壺は、外面調整はヨコナデ、内面調整はヨコナデにより製作され、焼成は良である。

図 391　SB151 出土土器（RP）実測図

RP1351 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 13cm、器高 8.2cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、灰黄褐、黒色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤褐色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1352 は壺であり、埋 1、2 層から出土した。口径 14cm、器高 24cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、にぶい橙、橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、暗灰色粒子、茶色粒子が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はオサエ、ハケ板による整形、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1353 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17.3cm、器高 10.1cm を測る。器面の外面はにぶい橙、褐灰色、内面はにぶい赤褐、褐灰色を呈し、胎土には

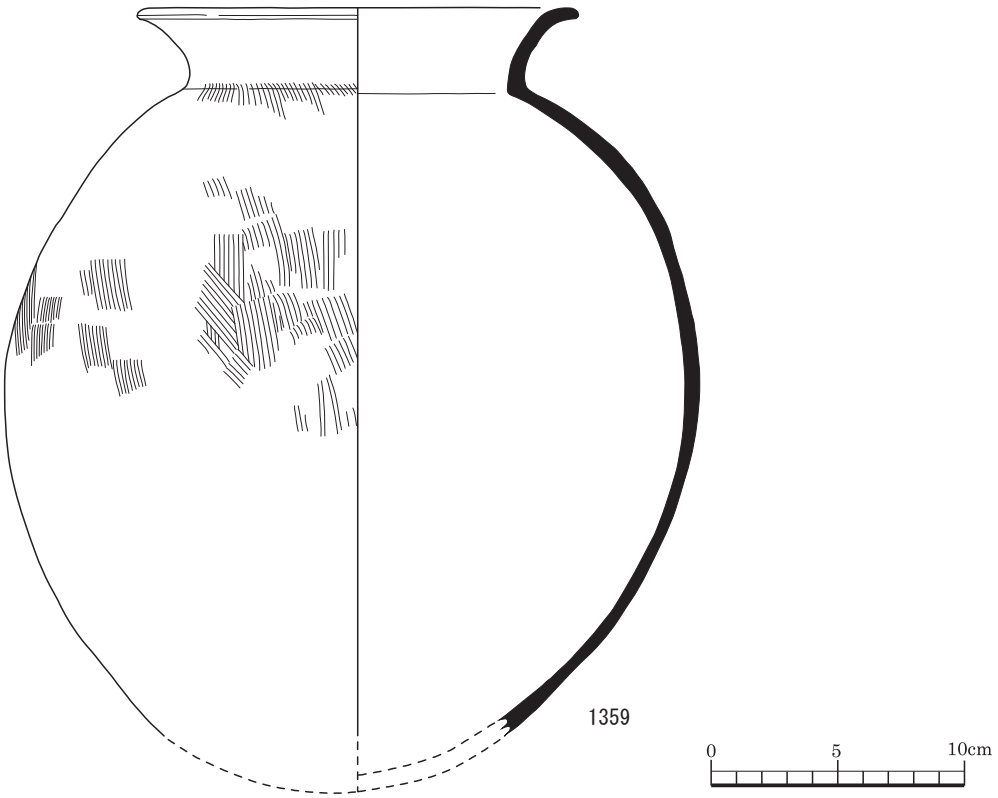


図 392　SB151 出土土器（RP）実測図

石英、長石、赤色粒子、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1354 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 10.2cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、灰黄褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、雲母、赤褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整は粗いハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1355 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 8.4cmを測る。器面の外面はにぶい橙、灰黄褐、褐灰色、内面はにぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、黒色粒子、赤褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1356 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 20.4cm、器高 14.9cm を測る。器面の外面はにぶい橙、黒褐色、内面はにぶい黄橙、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1357 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 12.6cm、器高 22.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、橙、褐灰色、内面は橙、暗褐色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、指頭圧痕、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1358 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17.6cm、器高 24cm を測る。器面の外面は赤褐、黒褐、にぶい褐色、内面は赤褐、灰褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、雲母、橙色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1359 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 17.5cm、器高 28.9cm を測る。器面の外面は灰白色、内面はにぶい黄橙、灰白色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RQ87 は、凹石である。

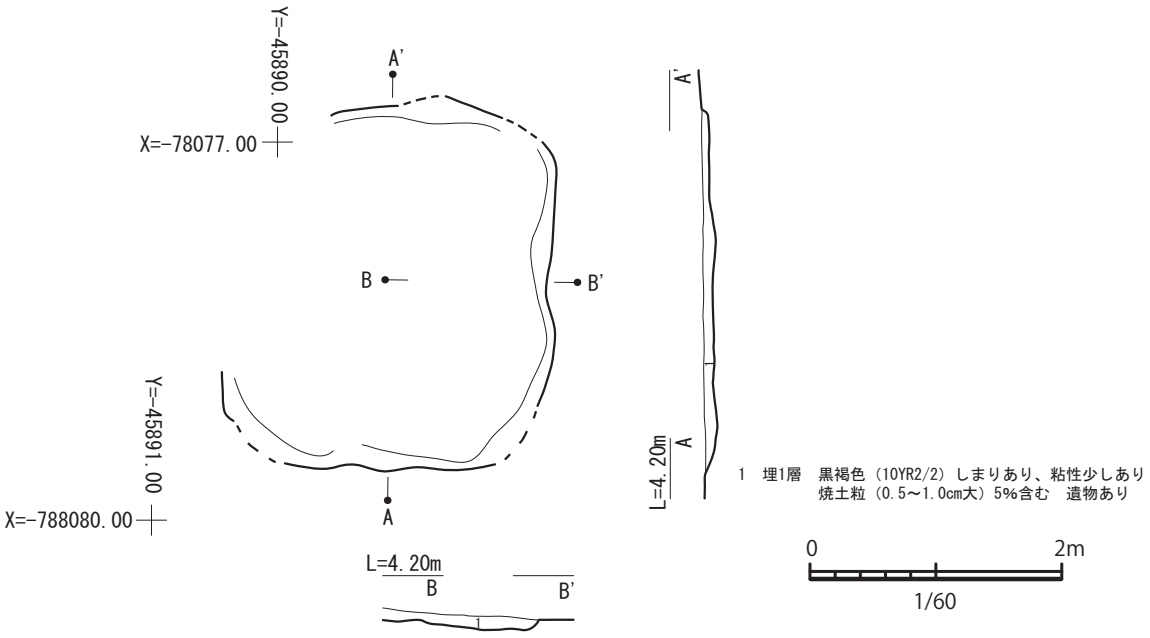


図 393　SB1112 実測図（1/60）

竪穴建物 1112（SB1112）

SB1112 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB1112 では炉等の付帯施設を確認していない、同時に出土遺物数が極めて少なく、礫が多い立地であり、小規模な竪穴であるため、「建物」と記述する。2321 グリッドに位置する。

SB1112 の四隅部分には、各 1 基のピットが位置し、四隅に主柱穴をもつ 4 本柱建て建物となる可能性が高い。なお、西北部は攪乱をうけ、破壊されているためピットの確認はできない。

SB1112 の法量は、南北 2.9 m、東西 2.7 m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

SB112 では、図示できる遺物は出土していない。

竪穴住居 1183（SB1183）

SB1183 は、正方形を呈し、竈を備えた竪穴住居である。SB1183 は、SB1900 を切っている。2209 グリッドに位置する。

SB1183 の法量は、南北 3.9 m、東西 3.15 m、遺構確認面からの深さ約 10cm を測る。

SB1183 では土師器（RP1360 ～ 1363）、須恵器（RP1364、1466）、瓦質土器（RP1365、1366）、石器（RQ88）が出土している。

RP1360 は皿である。口径 6.6cm、底径 4.1cm、器高 1.55cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤褐色粒子が観察される。この皿は、灯明皿と考えられ、外面調整はナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、板状圧痕、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1361 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 11.1cm、底径 7.5cm、器高 3.2cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、糸切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1362 は高坏であり、埋 1 層から出土した。口径 17.2cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙、灰褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤褐色粒子が観察される。この高坏は、外面調整は工具ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1363 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 9cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面は橙、にぶい褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、赤褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整は摩耗、内面調整も摩耗により不明、焼成は良である。

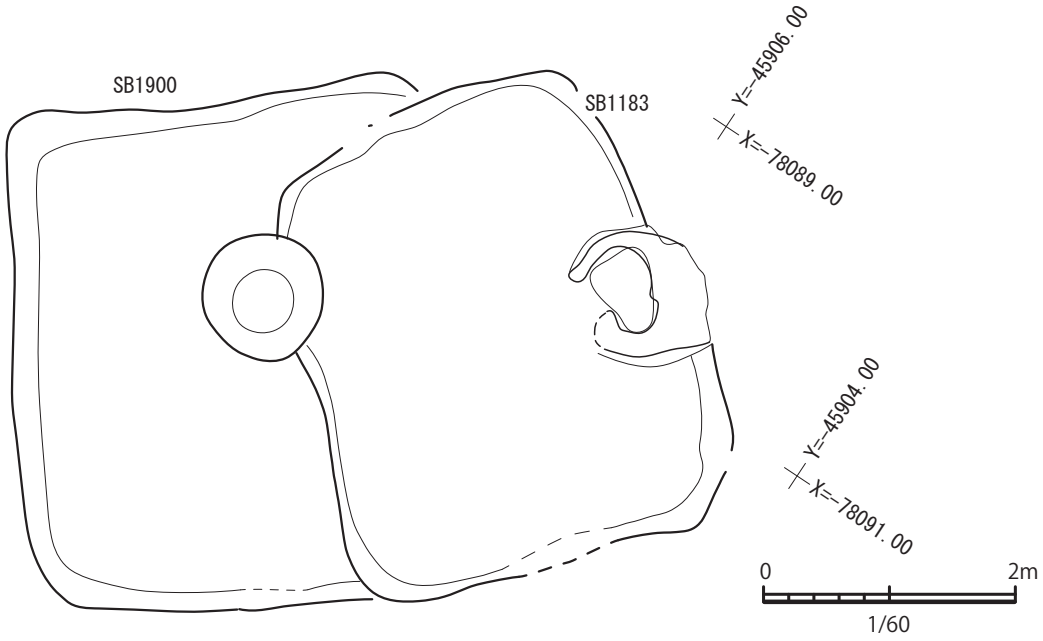


図 394　SB1183・1900 実測図（1/60）

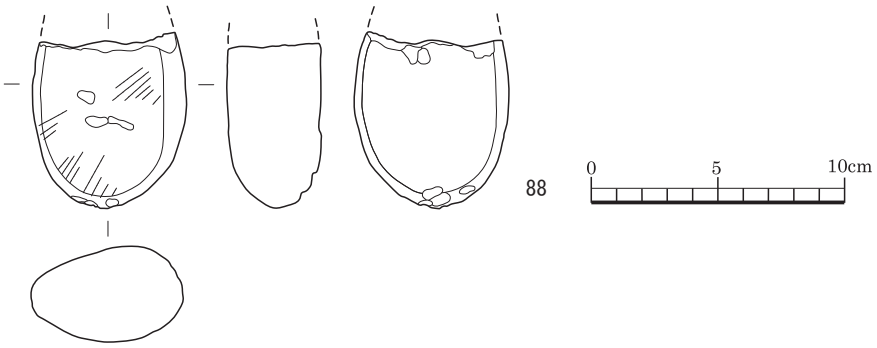


図 395　SB1183 出土石器（RQ）実測図

RP1364 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 11cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、手持ちヘラケズリ、ナデ、切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデ、オサエにより製作され、焼成は良好である。

RP1466 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1365 は擂鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 32cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この擂鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

RP1366 は火鉢であり、埋 1 層から出土した。底径 26cm、器高 7.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この火鉢は、外面調整は回転ナデ、ナデ、切り離し、脚貼付、ナデ、内面調整はヘラナデ、回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RQ88 は、敲石である。

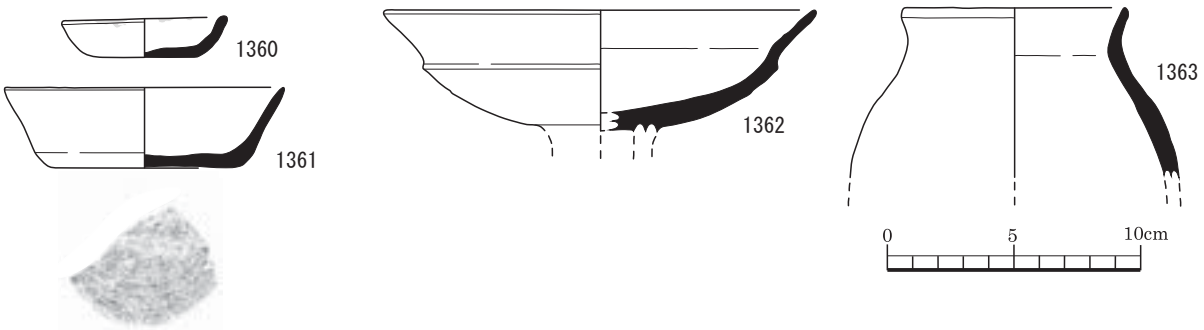


図 396　SB1183 出土土器（RP）実測図

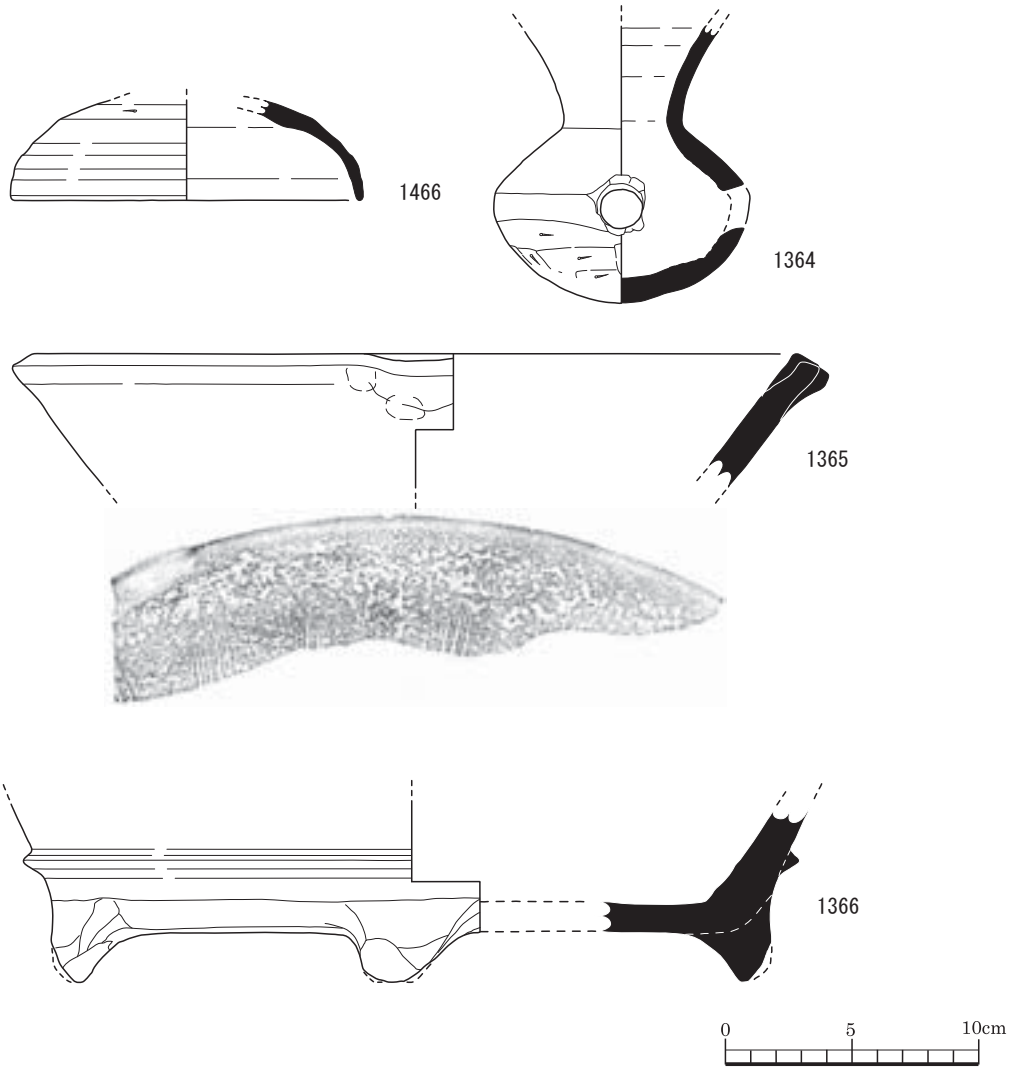


図 397　SB1183 出土土器（RP）実測図

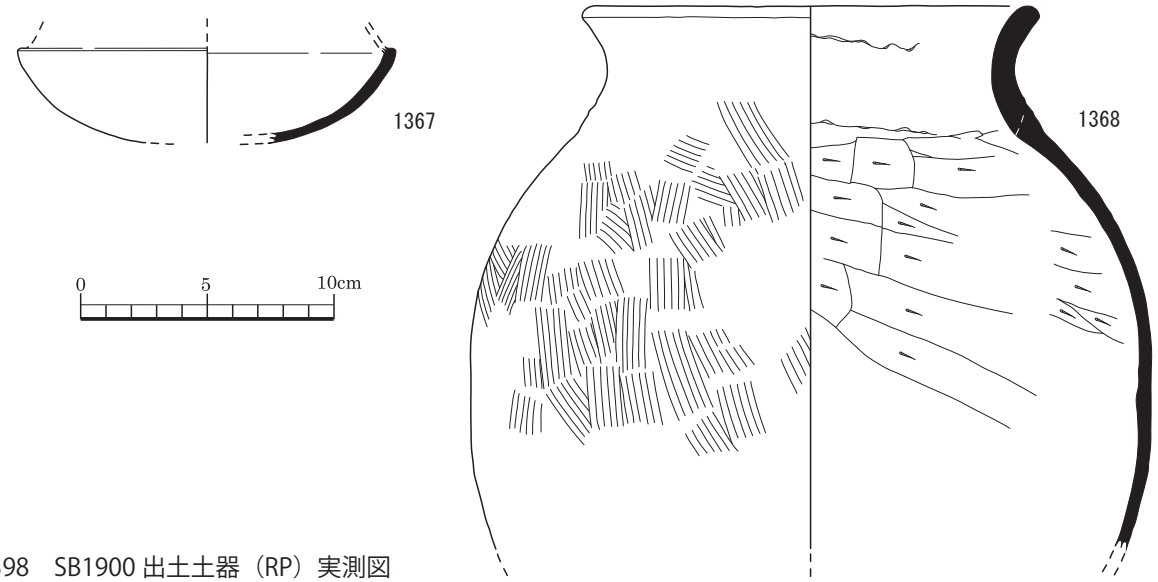


図 398　SB1900 出土土器（RP）実測図

竪穴建物 1900（SB1900）

SB1900 は、正方形を呈し、竈を備えた竪穴建物である。SB1900 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB1900 は、SB1183 に切られている。2209 グリッドに位置する。

SB1900 の法量は、南北 4.0 m、東西 3.3 mを測る。

SB1900 では土師器（RP1367、1368）が出土している。

RP1367 は坏であり、埋 1 層から出土した。器高 3.8cm を測る。器面の外面は黒褐色、内面は灰褐色を呈し、胎土には雲母、砂粒はほとんど含まないが観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1368 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 18.2cm、器高 21.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面は黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴住居 1591（SB1591）

SB1591 は、方形を呈し、炉を備えた竪穴住居である。2208 グリッドに位置する、

古墳時代の住居址で、多量の炭化物と土器が出土する。

SB1591 の法量は、南北 3.55m、東西 4.95m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

床面には複数の柱穴が確認されたが、主柱穴と判断できる柱穴ではない。柱穴は直径 32 ～ 35cm、遺構確認面からの深さは 36 ～ 55cm であった。

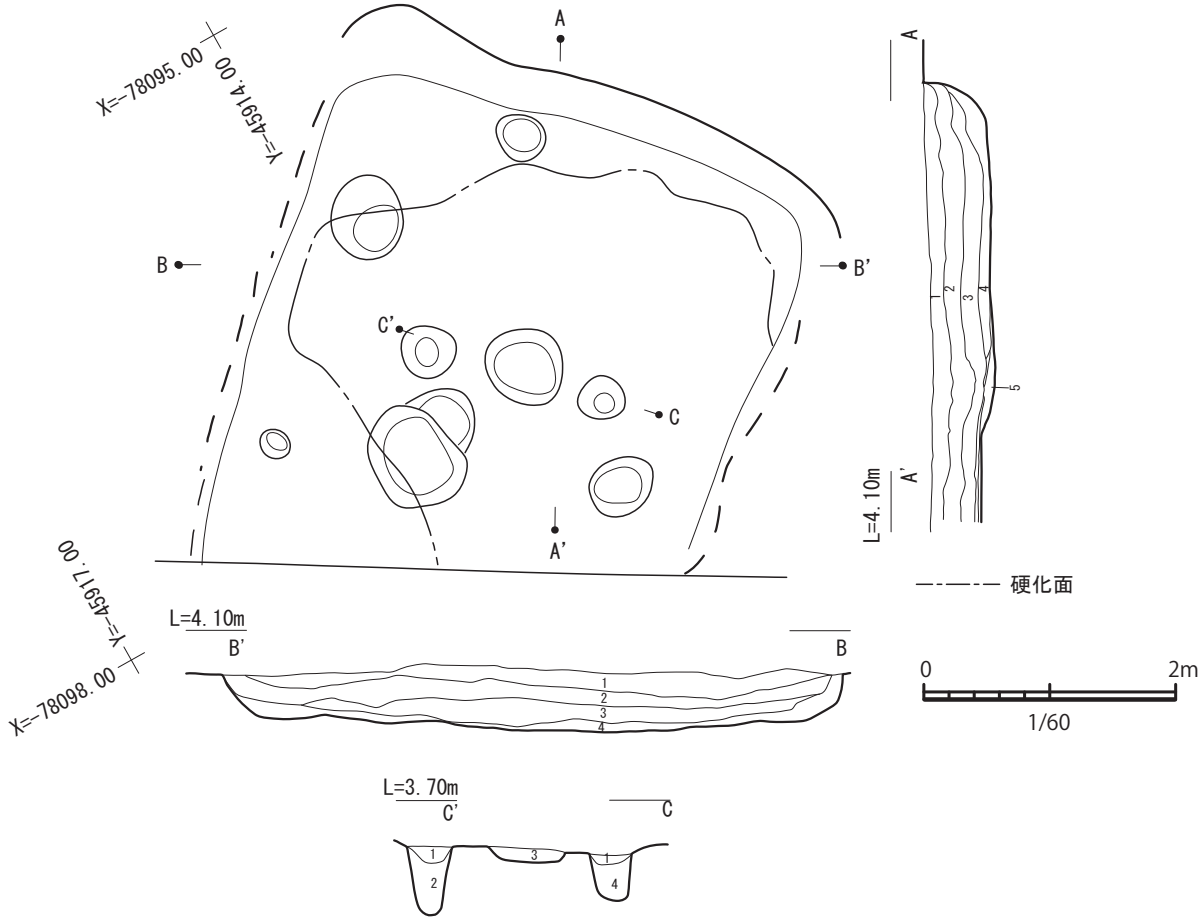
炉は、SB1591 の中央に位置する直径 62cm の土壙であり、深さは 11cm であつた。多量の炭化物と土器を包含していた。炉の南北端には各 1 基のピットが配置されている。

床面には、硬化面が形成されていた。

SB1591 では土師器（RP1369 ～ 1429）、須恵器（RP1430 ～ 1448）、石器（RQ89）が出土している。

RP1369 は高坏であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 12.2cm、器高 7.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ミガキ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1370 は高坏であり、埋 2、3 層から出土した。底径 8.2cm、器高 6.7cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面はにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、茶色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。



（A-A’・B-B’土層注記）

1　埋1層　　黄褐色砂質土（2.5Y5/6）しまりなし　炭なし　粘性なし　焼土なし　砂質土。3㎜程度の礫が多く混じる
2　埋2層　　にがい黄褐色（YR4/3）シルト　しまりなし　炭なし　粘性あり　焼土なし　多量のマンガンが混じる
3　埋3a層　黒色土（N1.5）しまりなし　炭、90%　粘性あり　焼土なし　炭の層。多量の土器が混じる
4　埋3b層　暗褐色（10YR4/3）しまりなし　炭、10%　粘性なし　焼土なし　土器多量
5　埋3c層　黒色土（N1.5）しまりあり　炭、90%　粘性あり　焼土なし　3a層と極似

（C-C’土層注記）

1　埋1層　暗褐色（10YR3/3）シルト　しまりあり　炭、10%　粘性あり　焼土なし　褐色土が混じる
2　埋2層　黒褐色（10YR3/1）シルト　しまりなし　炭、3%　　粘性あり　焼土なし　砂が多く混じる
3　炉　　黒色（N21）シルト　しまりあり　炭、20%　粘性あり　焼土、15%　　レキ混じる
4　黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土なし　粘性強い

図 399　SB1591 実測図（1/60）

RP1371 は坏である。口径 13cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ナデ、内面調整は回転ナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1372 は高坏であり、埋 3 層から出土した。器高 9.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ケズリにより製作され、焼成は良である。

RP1373 は高坏であり、埋 1、2 層から出土した。器高 4.2 坏部 7.1 脚部 cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には白色粒子、雲母、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデ、内面調整はミガキ、ケズリにより製作され、焼成は良である。

RP1374 は高坏であり、埋 2 層から出土した。口径 15cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は浅黄橙、に

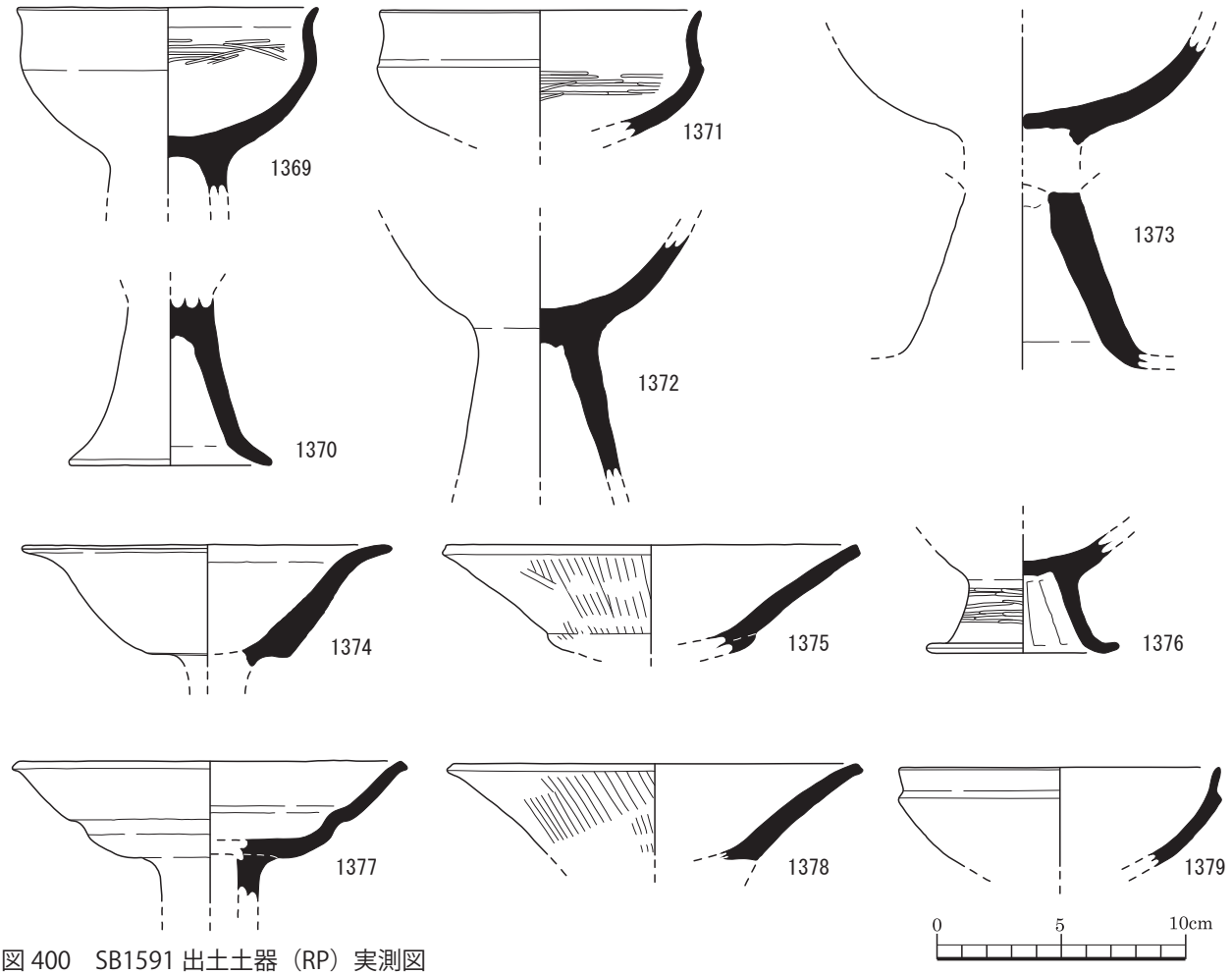


図 400　SB1591 出土土器（RP）実測図

ぶい橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1375 は高坏であり、埋 3 層から出土した。口径 16.9cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面も橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ (摩耗) により製作され、焼成は良である。

RP1376 は高坏であり、埋 3 層から出土した。底径 7.8cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面も橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、ミガキ、内面調整はナデ、ケズリにより製作され、焼成は良好である。

RP1377 は高坏であり、埋 3 層から出土した。口径 16cm、器高 5.7cm を測る。器面の外面は橙、黒色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、赤色粒子、石英が観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1378 は高坏であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 16.8cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は橙、にぶい黄橙色、内面は橙、にぶい黄橙、灰黄褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この高坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1379 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13cm、器高 4cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整は

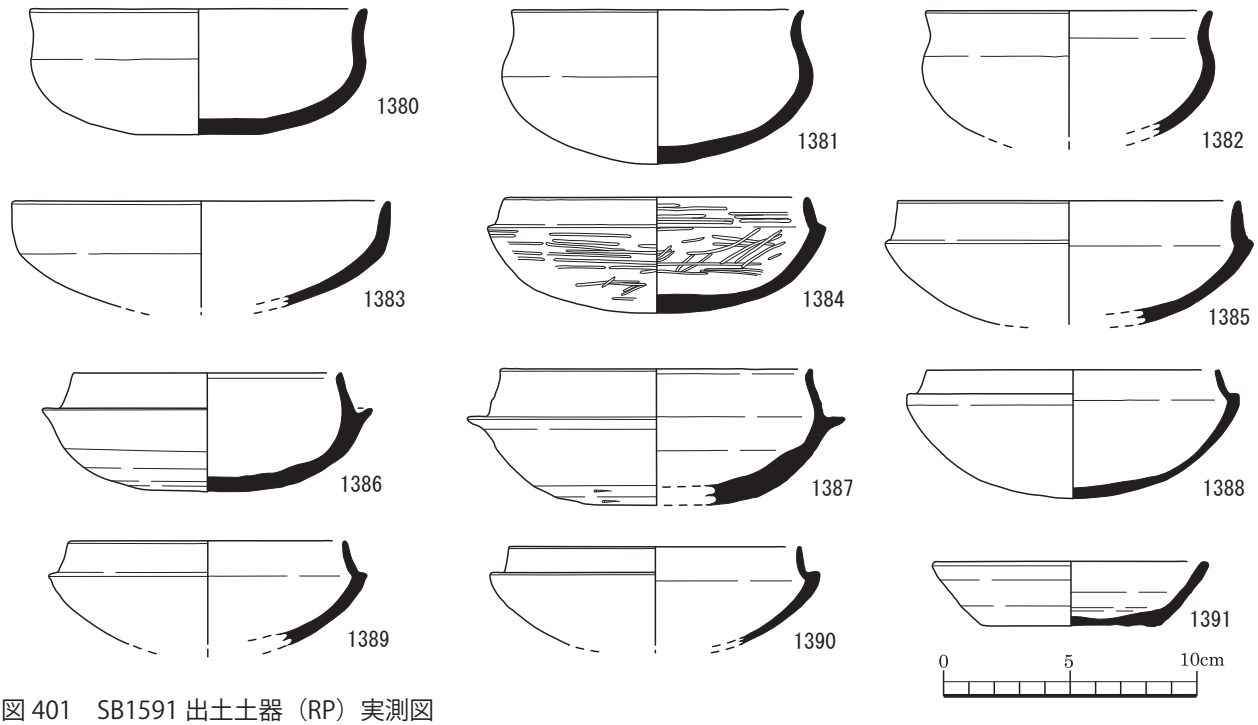


図 401　SB1591 出土土器（RP）実測図

ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1380 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13.4cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1381 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 11.6cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙、黒色、内面は浅黄橙、橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1382 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 11.4cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙、暗灰色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1383 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 15cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は橙、暗灰色、内面は橙、にぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、茶褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、摩耗、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1384 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 12.2cm、器高 4.6cm を測る。器面の外面は暗褐、黒褐色、内面は暗褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、明茶褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はミガキ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ミガキ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1385 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13.6cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、橙、暗灰色、内面もにぶい黄橙、橙、暗灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、摩耗され、焼成は良である。

RP1386 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 10.7cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1387 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径

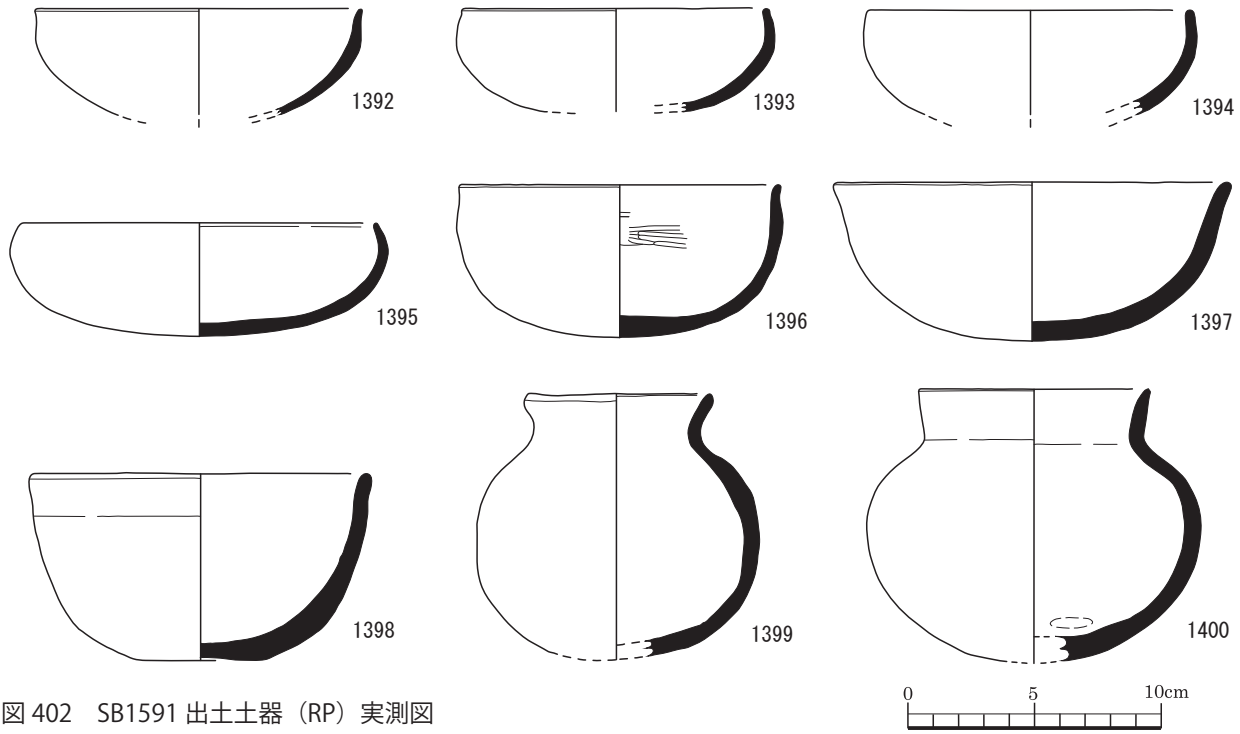


図 402　SB1591 出土土器（RP）実測図

12.4cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面はにぶい橙、にぶい褐、黒褐色、内面はにぶい褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、褐色粒子、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、ケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1388 は坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 11.6cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰白、浅黄橙色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には白色粒子、黒色粒子、雲母が観察される。この坏は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1389 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 11.1cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は明赤褐、にぶい橙色、内面も明赤褐、にぶい橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、摩耗、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1390 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 11.6cm、器高 3.9cm を測る。器面の外面は橙、灰白色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、摩耗、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1391 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 11cm、底径 7.1cm、器高 2.55cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には赤色粒子、石英、長石、角閃石、黒色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1392 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13cm、器高 4.2cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1393 は坏であり、南側壁面から出土した。口径 12.2cm、器高 4.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面は橙、灰白色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1394 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13cm、器高 4.15cm を測る。器面の外面は明赤褐、橙色、内面は明赤褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコ

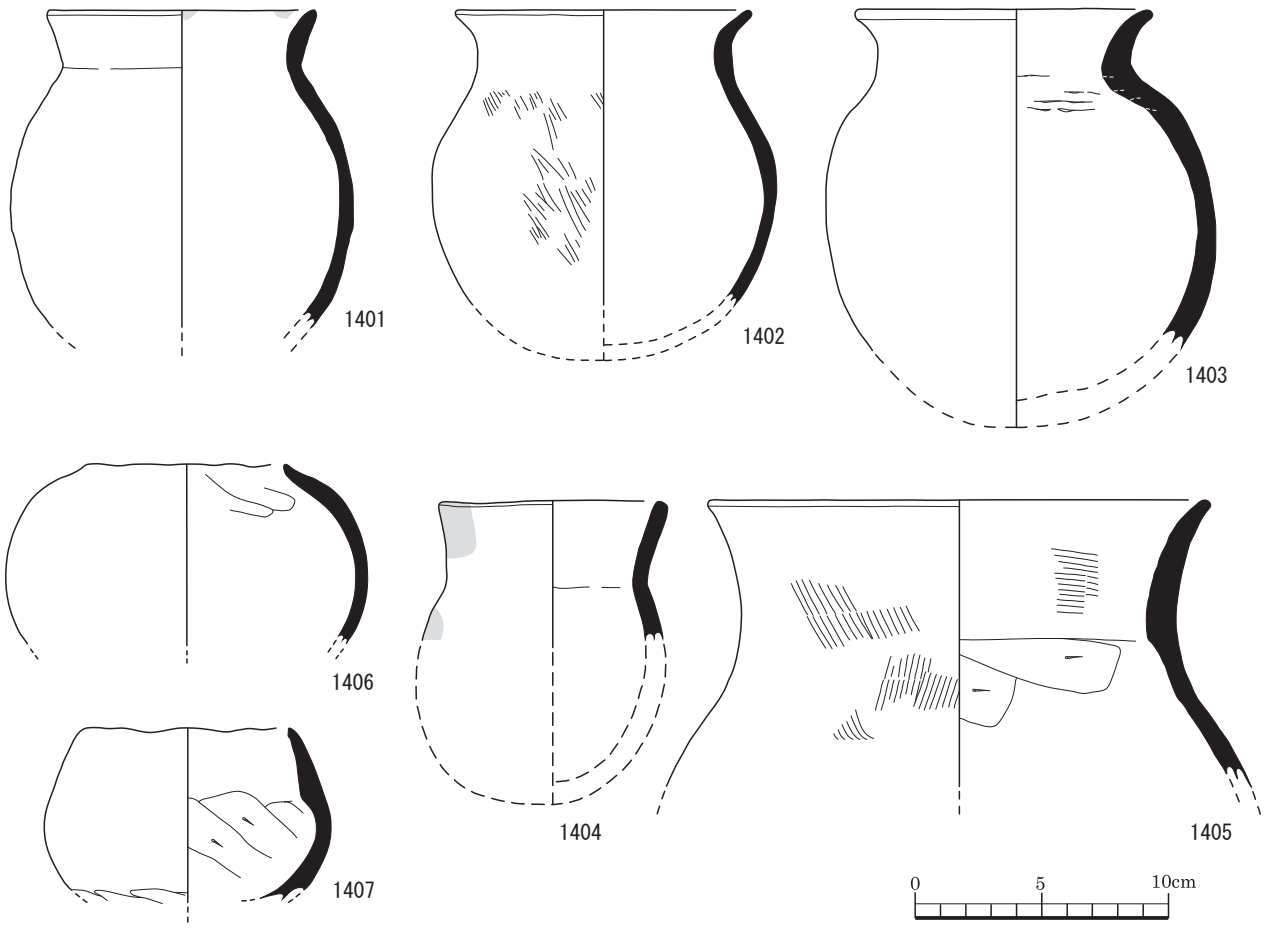


図 403　SB1591 出土土器（RP）実測図

ナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1395 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 14.2cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は灰黄褐色を呈し、胎土には白色砂粒、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ミガキ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1396 は坏である。口径 12.8cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1397 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 15.8cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は橙、赤色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1398 は鉢であり、埋 2、3 層から出土した。口径 13.6cm、底径 5.1cm、器高 7.4cm を測る。器面の外面はにぶい橙、明褐灰色、内面はにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には白色粒子、雲母、赤色粒子が観察される。この鉢は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1399 は壺であり、埋 3 層から出土した。口径 7.6cm、器高 10.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、橙色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、茶色粒子が観察される。この壺は、外面調整はナデ（摩耗）、内面調整はナデ（摩耗）により製作され、焼成は良である。

RP1400 は壺であり、埋 2、3 層から出土した。口径 9.2cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面は橙色、

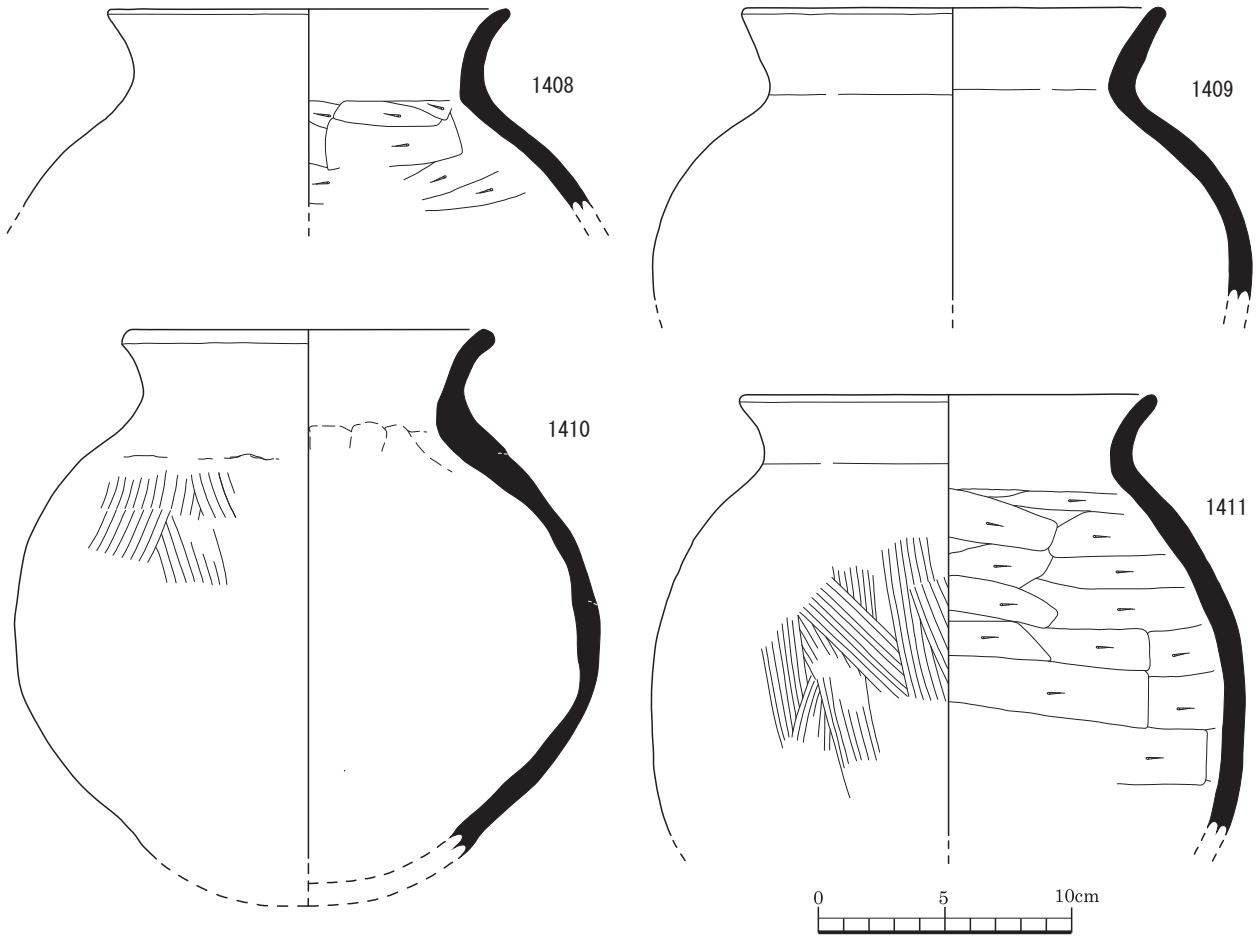


図 404　SB1591 出土土器（RP）実測図

内面はにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はミガキ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1401 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 10.7cm、器高 12.6cm を測る。器面の外面は橙、にぶい橙、灰褐色、内面は橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、茶色粒子が観察される。この甕は、外面調整は摩耗、ヨコナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP1402 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 11.8cm、器高 11.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面は明褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1403 は甕であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 11.8cm、器高 16.6cm を測る。器面の外面はにぶい橙、褐灰、黒色、内面はにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子、角閃石、白色雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1404 は壺であり、埋 3 層から出土した。口径 9.1cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面は橙、にぶい褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、石英、橙色粒子、角閃石、雲母が観察される。この壺は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1405 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 20cm、器高 11.3cm を測る。器面の外面は明赤褐、黒褐色、内面は明赤褐、灰褐色を呈し、胎土には長石、石英、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケ

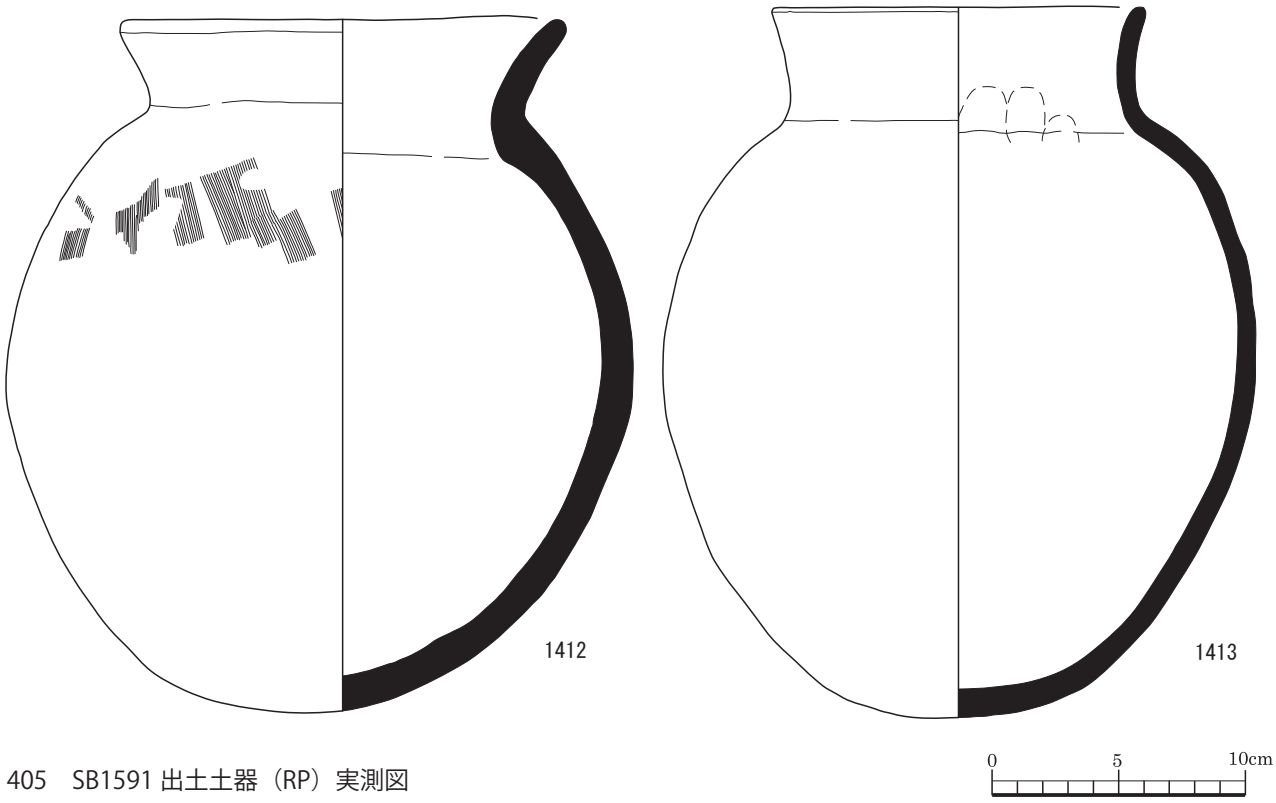


図 405　SB1591 出土土器（RP）実測図

メ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1406 は製塩土器であり、埋 3 層から出土した。口径 7.7cm、器高 8.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、粗砂、赤色粒子が観察される。この製塩土器は、外面調整はナデ、ヘラケズリ、内面調整は工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1407 は製塩土器であり、埋 2、3 層から出土した。口径 8.1cm、器高 7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、赤色粒子、黒色粒子が観察される。この製塩土器は、外面調整はヨコナデ、工具ナデ、ヘラケズリ、内面調整は工具ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1408 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 16cm、器高 7.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、灰黄褐、褐灰色、内面はにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、角閃石、赤褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1409 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 16.8cm、器高 11.6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、褐色砂粒が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1410 は壺であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 14.8cm、器高 21.05cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、褐灰色、内面もにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ（指ナデ）、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1411 は甕であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 16.6cm、器高 12.5cm を測る。器面の外面は黄橙色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1412 は甕であり、埋 1 ～ 3 層南側壁面から出土した。口径 17.7cm、器高 27.5cm を測る。器面の

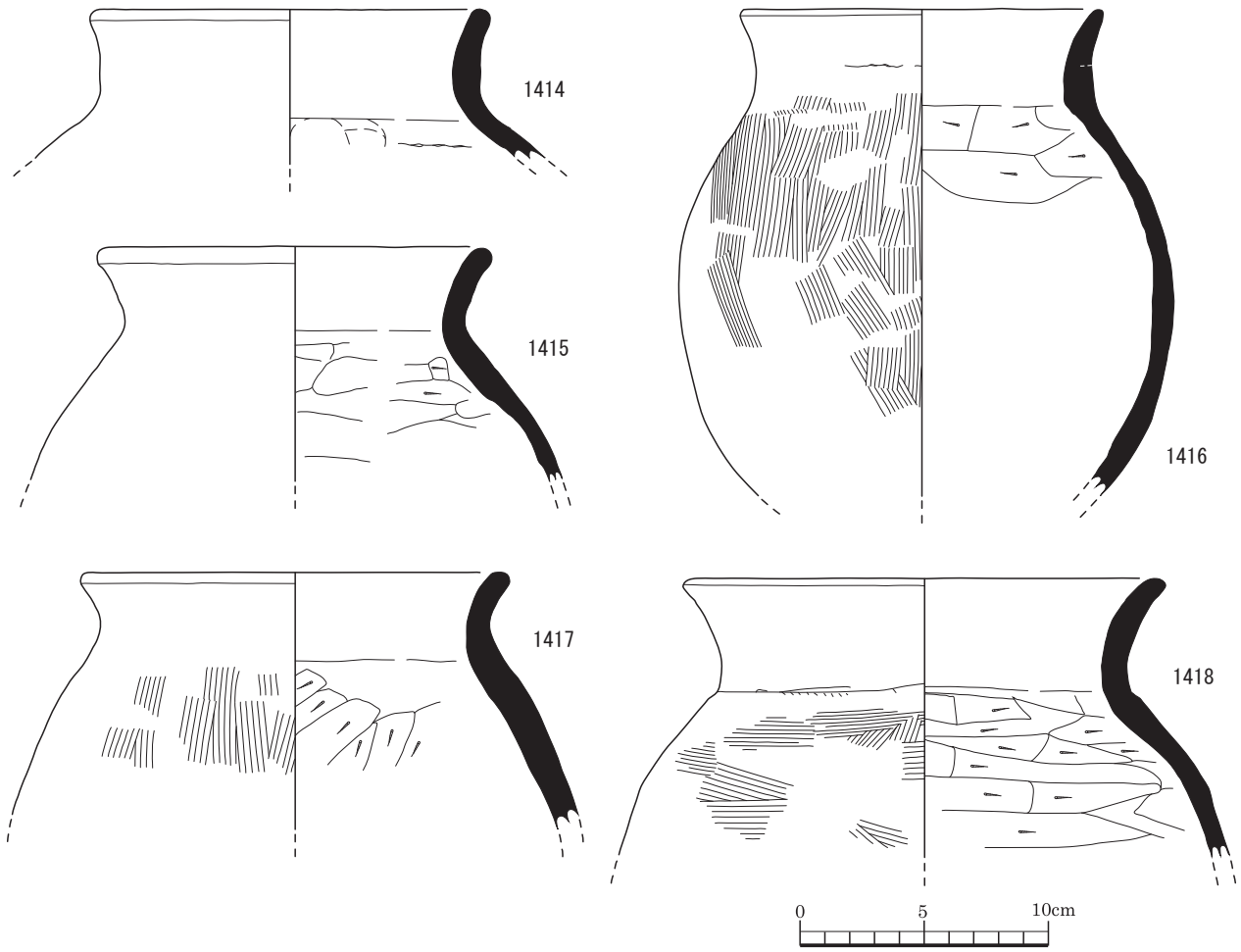


図 406　SB1591 出土土器（RP）実測図

外面はにぶい黄褐色、内面は灰黄褐色を呈し、胎土には長石、角閃石、石英、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1413 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 14.8cm、器高 28.2cm を測る。器面の外面は明黄褐色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1414 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 16.2cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、指頭圧痕、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1415 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 16cm、器高 9.5cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整は摩耗、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1416 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 14.7cm、器高 19.7cm を測る。器面の外面は橙、にぶい橙、褐灰色、内面はにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、赤色粒子、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1417 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 17.4cm、器高 10.4cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は赤褐色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、

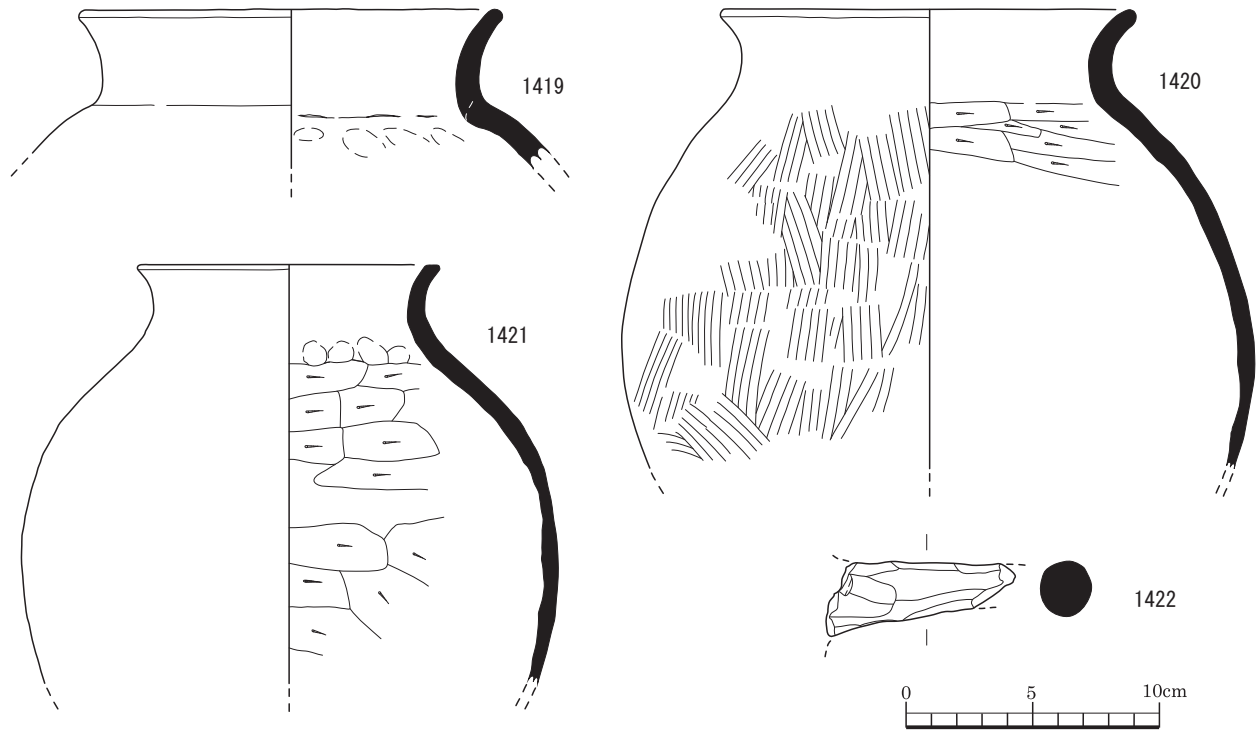


図 407　SB1591 出土土器（RP）実測図

雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1418 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 19.5cm、器高 11.3cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐、灰褐色、内面はにぶい橙、橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1419 は壺であり、埋 3 層から出土した。口径 16.8cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は褐灰、浅黄橙色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、指頭圧痕、ヨコナデにより製作されている。

RP1420 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 16.4cm、器高 18.2cm を測る。器面の外面は浅黄色、内面も淡黄色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1421 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 12cm、器高 16.6cm を測る。器面の外面は明赤褐、黒褐色、内面はにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、茶褐色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1422 は把手であり、埋 1 層から出土した器高 3cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英、赤色粒子、角閃石が観察される。この把手は、外面調整は指頭圧痕、ナデ、内面はハガレにより不明、焼成は良である。

RP1423 は壺であり、埋 2 層から出土した。口径 19.8cm、器高 12.4cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、灰黄褐色、内面もにぶい黄橙、灰黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1424 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 20.2cm、器高 12.6cm を測る。器面の外面はにぶい橙、灰褐色、内面もにぶい橙、灰褐色を呈し、胎土には石英、

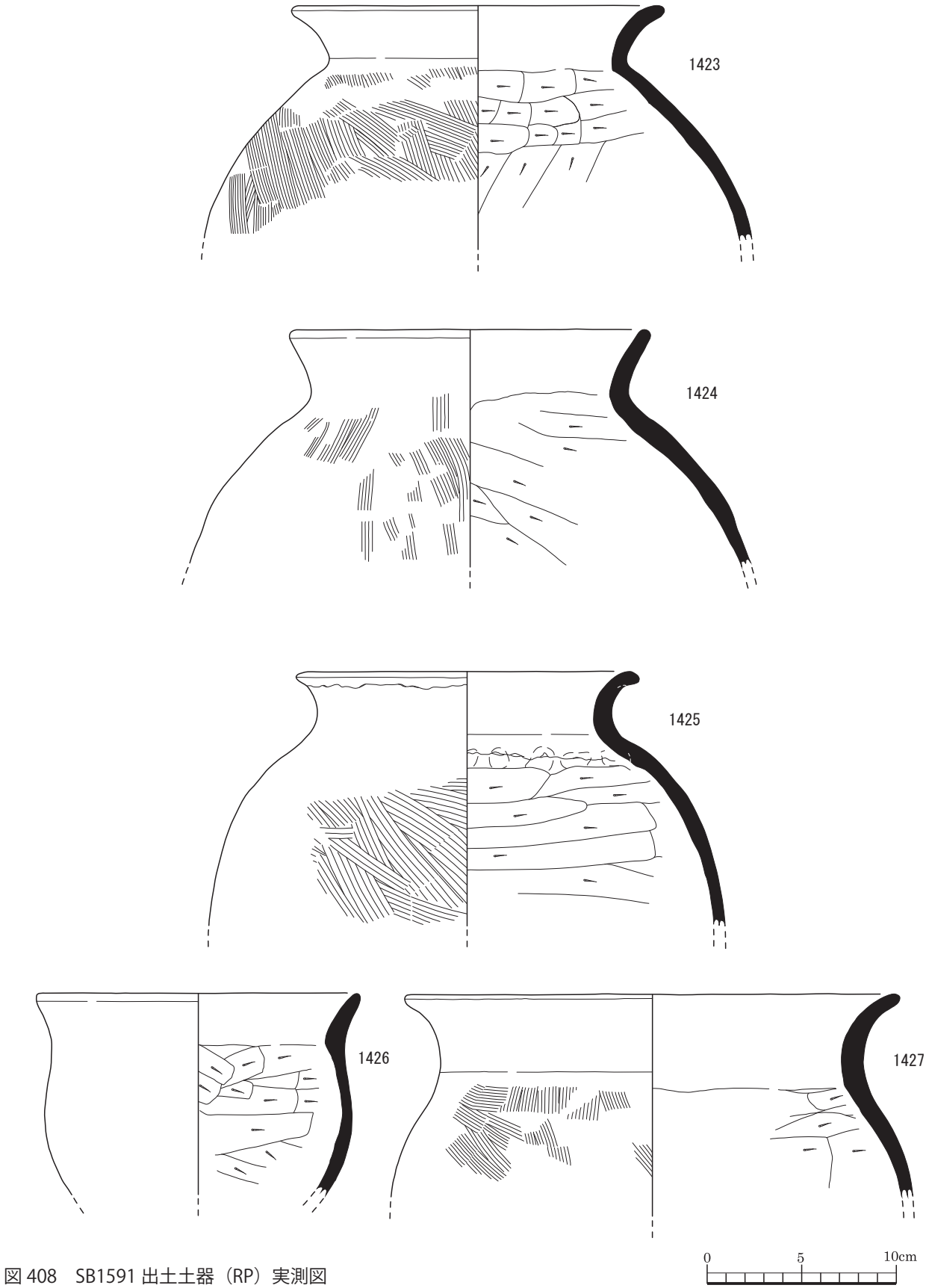


図 408　SB1591 出土土器（RP）実測図

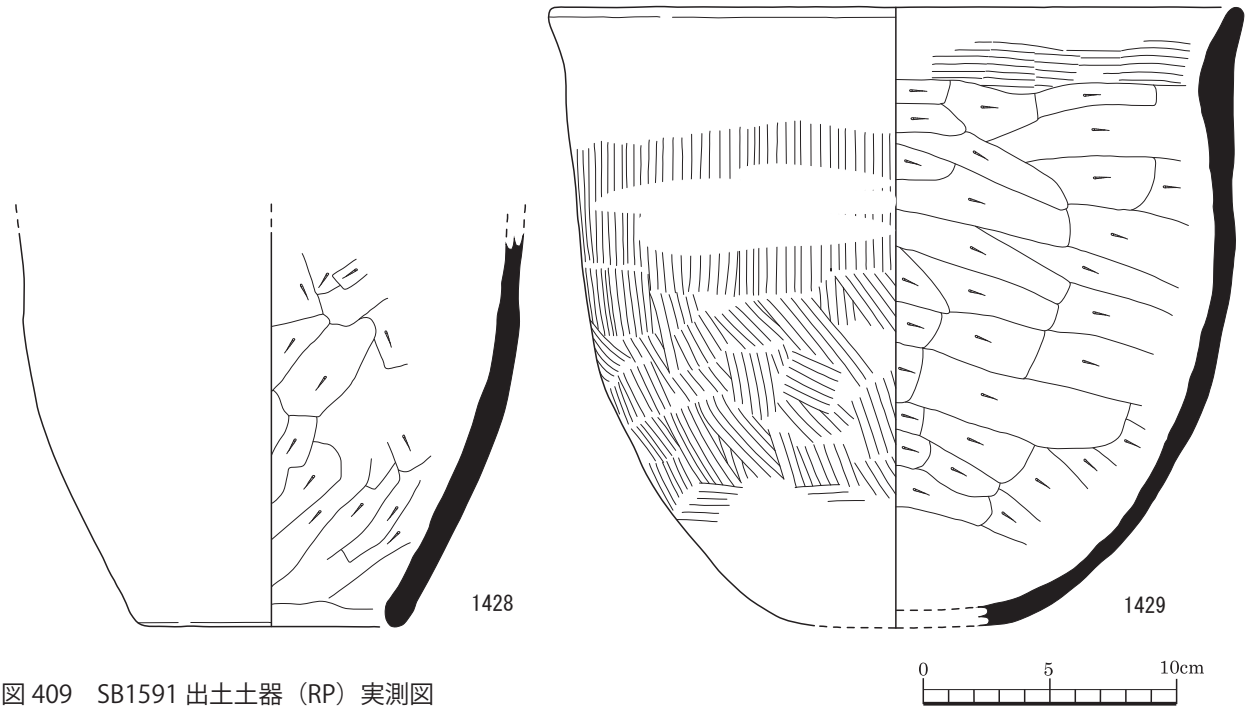


図 409　SB1591 出土土器（RP）実測図

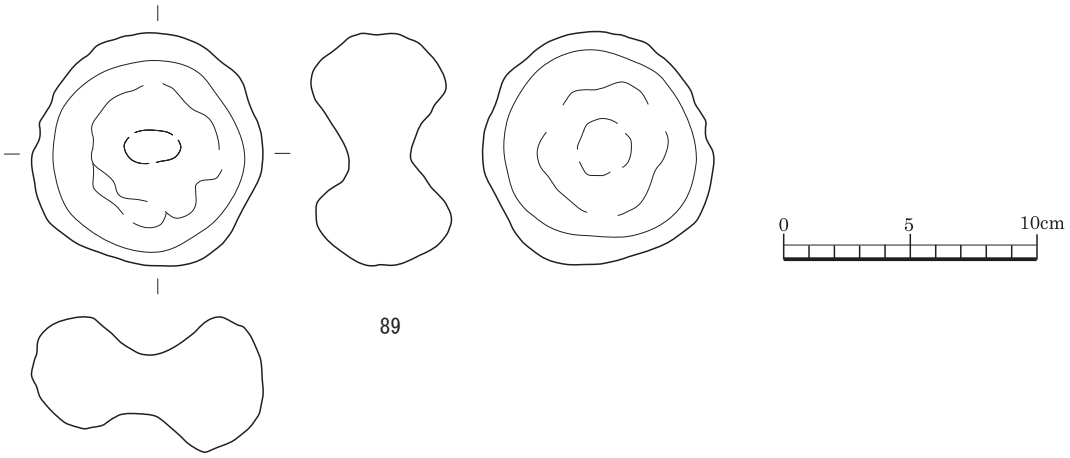


図 410　SB1591 出土石器（RQ）実測図

長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1425 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 18.3cm、器高 13.5cm を測る。器面の外面は浅黄橙、灰白色、内面は明褐灰、灰白色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、指オサエ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1426 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 17.2cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面はにぶい褐、黒褐色、内面はにぶい橙、黒褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1427 は甕であり、埋 2、3 層西ベルトから出土した。口径 26.3cm、器高 10.8cm を測る。器面の外面は橙、褐灰色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

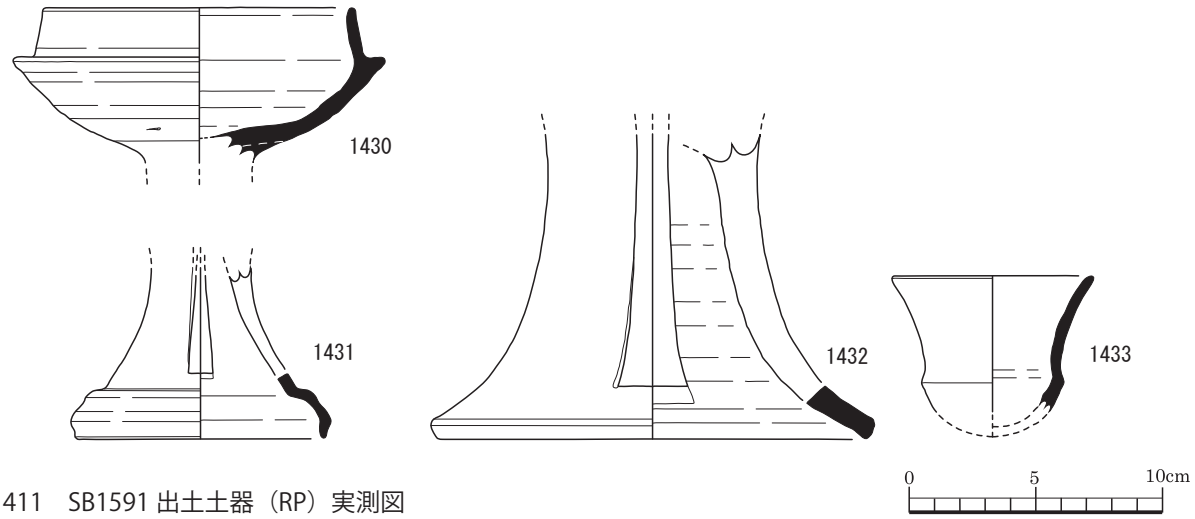


図 411　SB1591 出土土器（RP）実測図

RP1428 は甑であり、埋 3 層から出土した底径 10.6cm、器高 15.6cm を測る。器面の外面は浅黄橙、にぶい黄橙色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、黒色粒子、赤褐色粒子が観察される。この甑は、外面調整はナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

RP1429 は甕であり、埋 2、3 層から出土した。口径 27.6cm、器高 24.5cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面は橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1430 は高坏であり、埋 3 層から出土した。口径 12.4cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1431 は高坏であり、埋 3 層から出土した底径 10.3cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1432 は高坏であり、埋 3 層から出土した底径 17.6cm、器高 12.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1433 は壺であり、埋 2 層から出土した。口径 8cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整は回転ナデ、ヘラナデ、内面調整は回転ナデ、ヘラナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1434 は蓋であり、埋 2、3 層から出土した。口径 12.6cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1435 は蓋であり、埋 3 層から出土した。口径 12.3cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1436 は蓋である。口径 11.6cm、器高 4.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ヘラケズリにより製作され、焼成は良好である。

RP1437 は蓋であり、埋 2、3 層西ベルトから出土した。口径 11.8cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

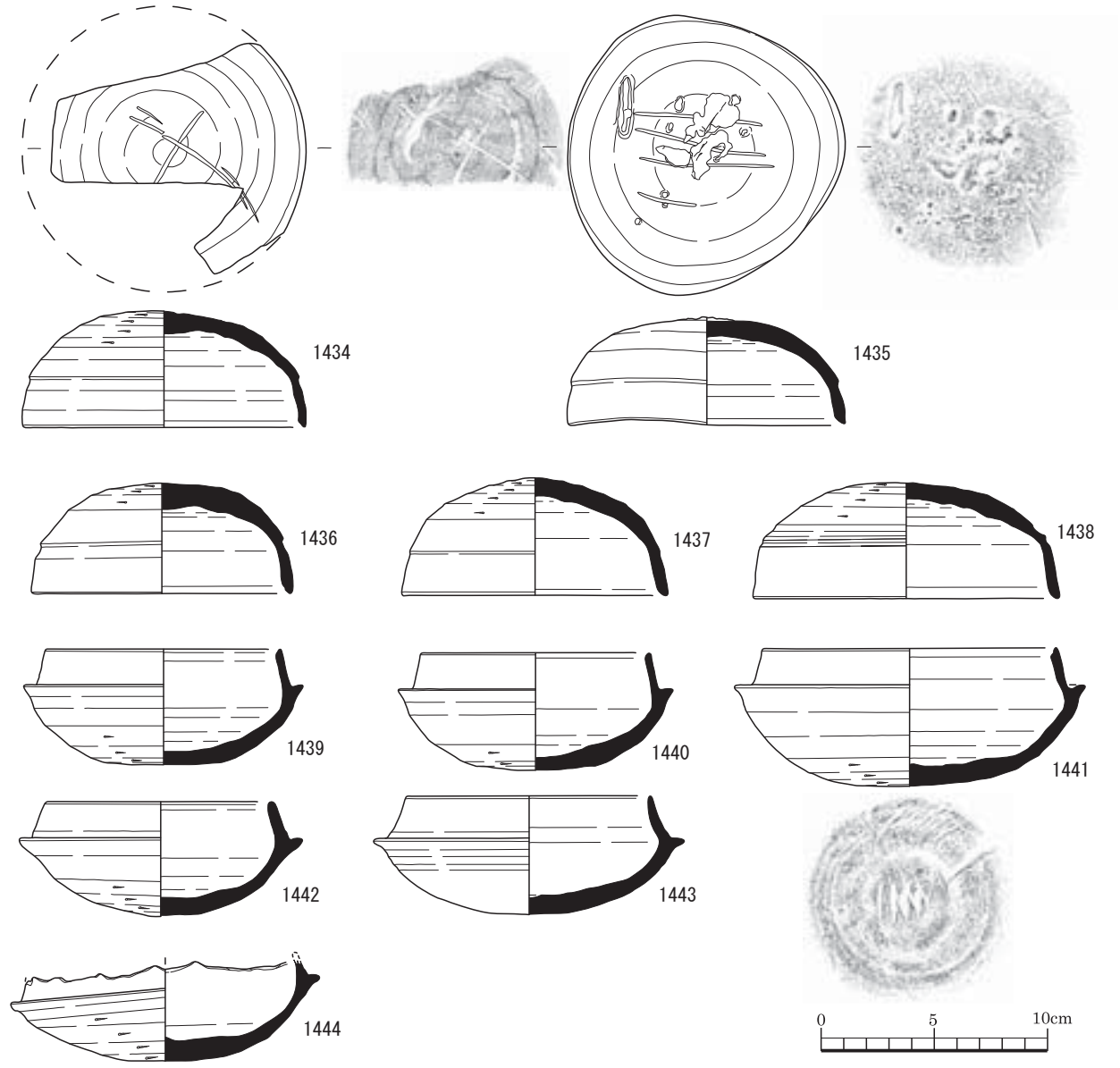


図 412　SB1591 出土土器（RP）実測図

RP1438 は蓋であり、埋 2、3 層から出土した。口径 13.6cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石、石英が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1439 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 10.5cm、底径 5.2cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1440 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 10.3cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1441 は坏であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 13.2cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は灰色、

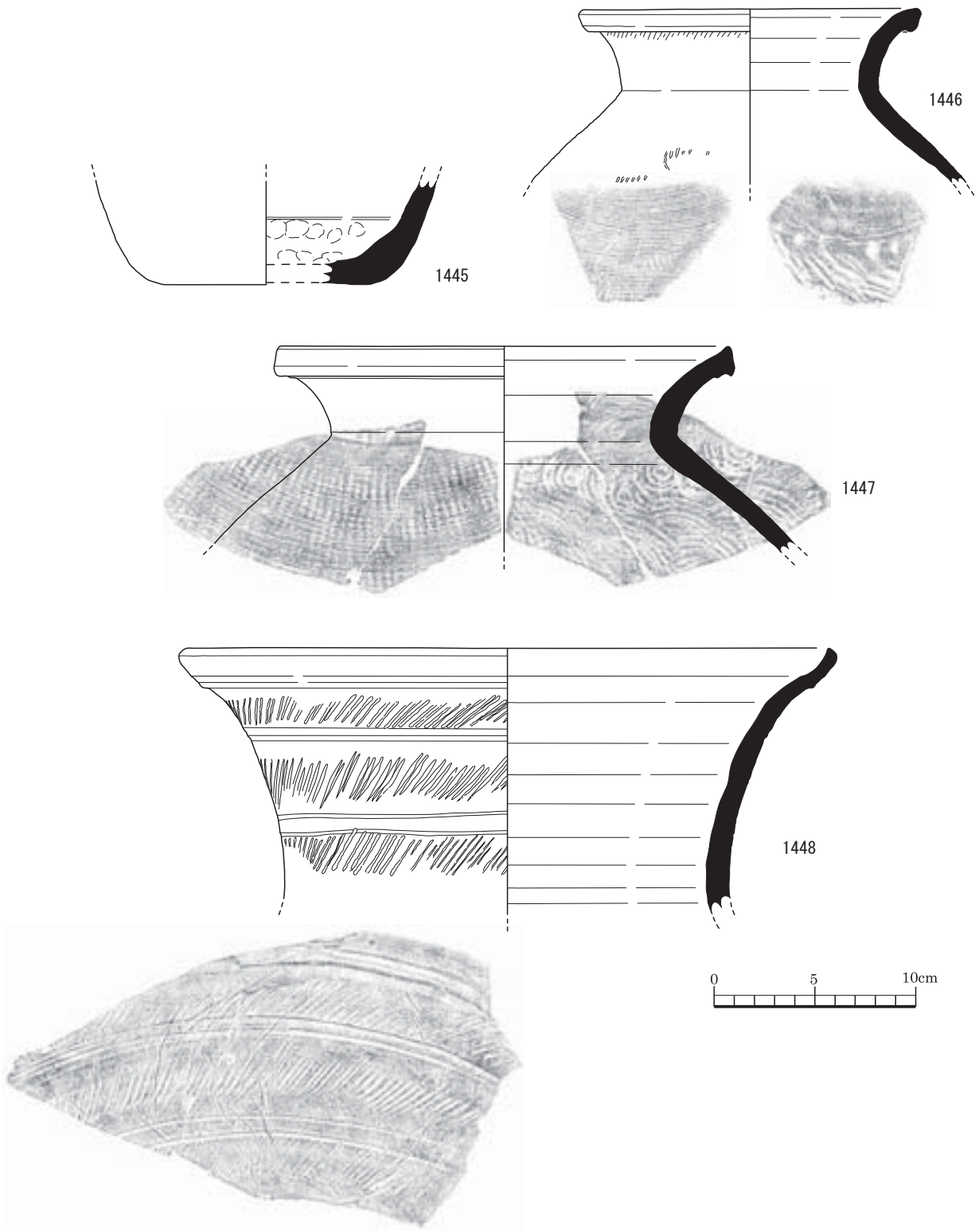


図 413　SB1591 出土土器（RP）実測図

内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、当て具痕により製作され、焼成は良好である。

RP1442 は坏であり、埋 2 層から出土した。口径 10.2cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は暗オリーブ灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1443 は坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 11cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、切り離し、内面調整は回

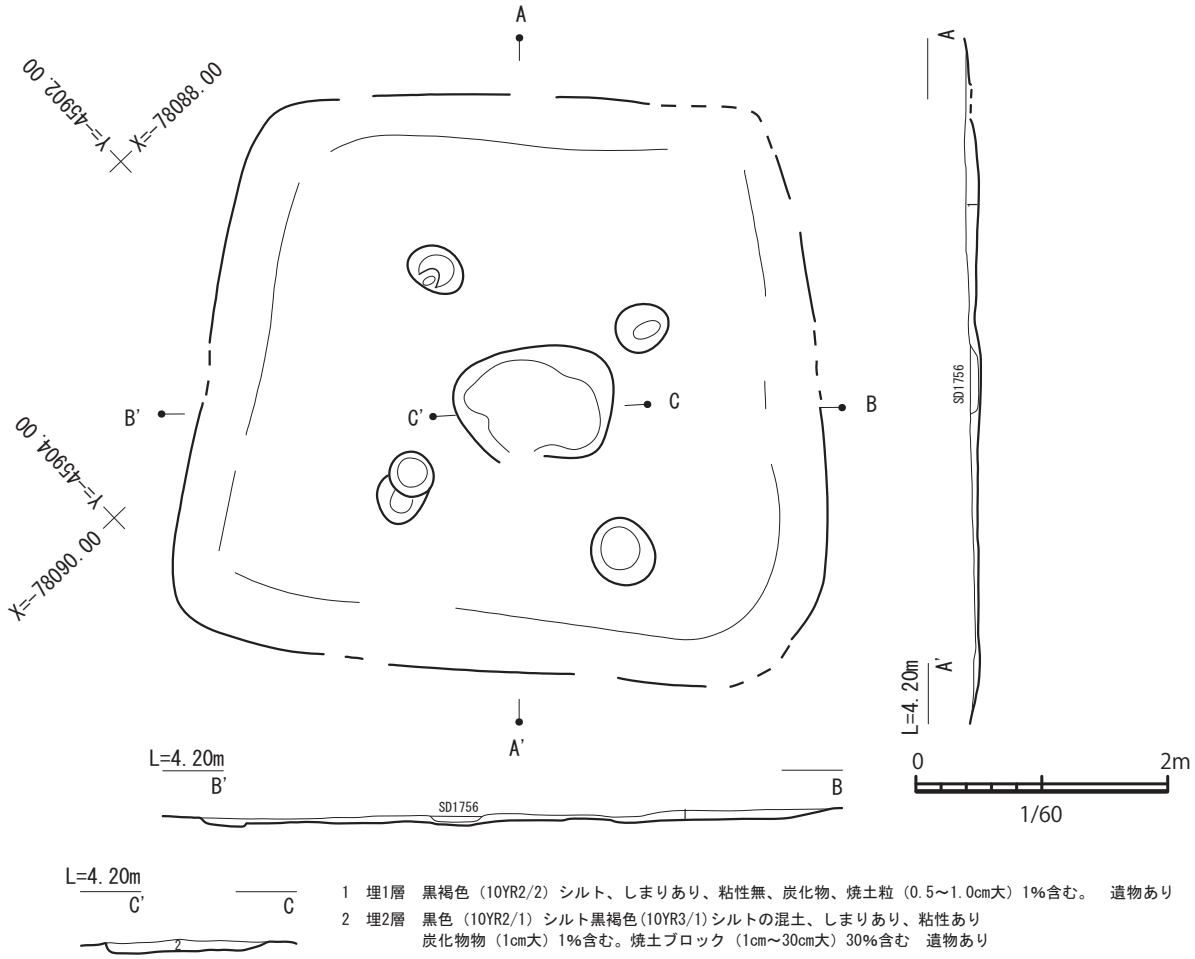


図 414　SB1760 実測図（1/60）

転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1444 は坏であり、埋 1、2 層から出土した器高 4.1cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1445 は壺であり、埋 2 層から出土した底径 10cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、ハケメ、切り離し、ナデ、内面調整は指オサエ、ナデ、ハケメにより製作され、焼成は良好である。

RP1446 は壺であり、埋 2、3 層から出土した。口径 17.1cm、器高 8.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この壺は、外面調整はナデ、カキ目、タタキ（格子又は平行）、ヨコナデ、内面調整はナデ、タタキ（平行）、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1447 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 22.7cm、器高 10.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、タタキ（格子）、カキ目、内面調整は回転ナデ、タタキ（同心円）により製作され、焼成は良である。

RP1448 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 32.8cm、器高 13.3cm を測る。器面の外面は灰オリーブ灰色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整は回転ナデ、沈線、櫛描文、内面調整は回転ナデ、ヘラナデ、ヨコナデにより製作

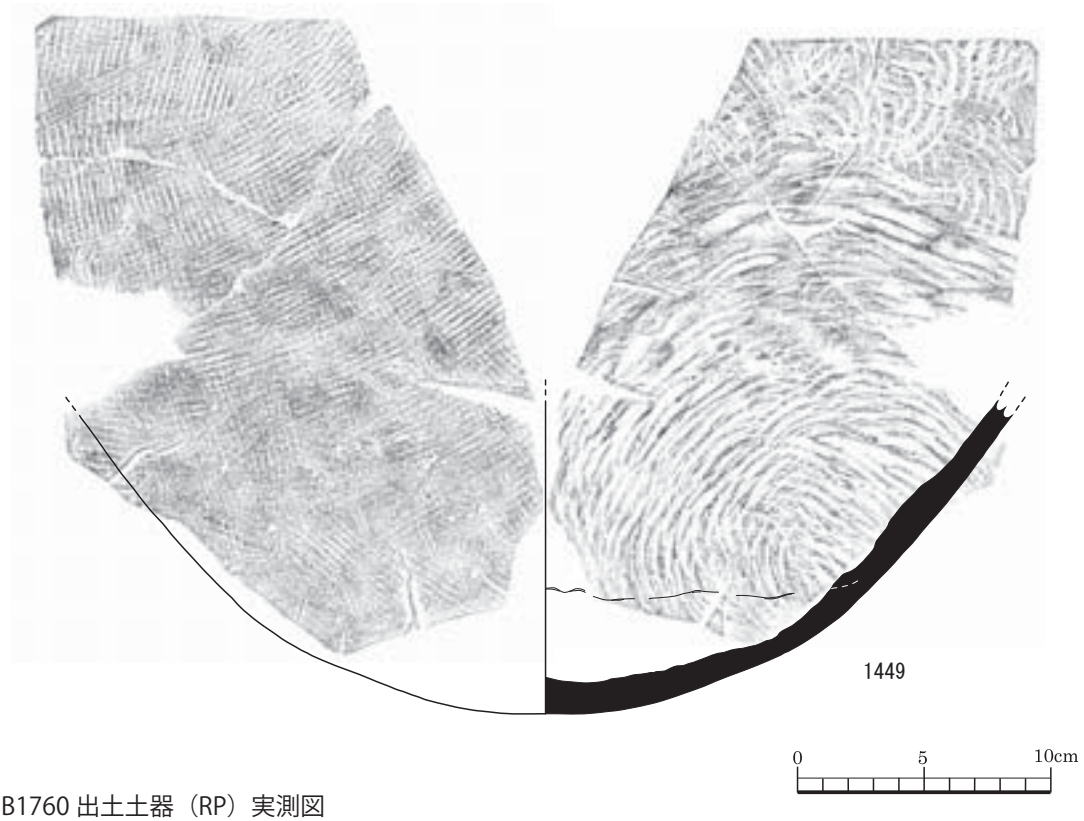


図 415　SB1760 出土土器（RP）実測図

され、焼成は良好である。

RQ89 は、凹石である。

竪穴住居 1760（SB1760）

SB1760 は、正方形を呈し、炉を備えた 4 本柱建ての竪穴住居である。SB1760 は、SD1756 に切られる。2209 グリッドに位置する。

SB1760 の法量は、南北 4.6 m、東西 5.15 m、遺構確認面からの深さ 10cm を測る。

主柱穴は直径 42 ～ 50cm のピットである。

炉は、SB1760 の中央に位置する、1.2m × 0.9m の方形の土壙である。

SB1760 では須恵器（RP1449）が出土している。

RP1449 は甕であり、埋 1 層から出土した器高 12.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には長石が観察される。この甕は、外面調整はタタキ（格子状）、カキ目、内面調整は当て具痕（同心円状）により製作され、焼成は良好である。

竪穴建物 1761（SB1761）

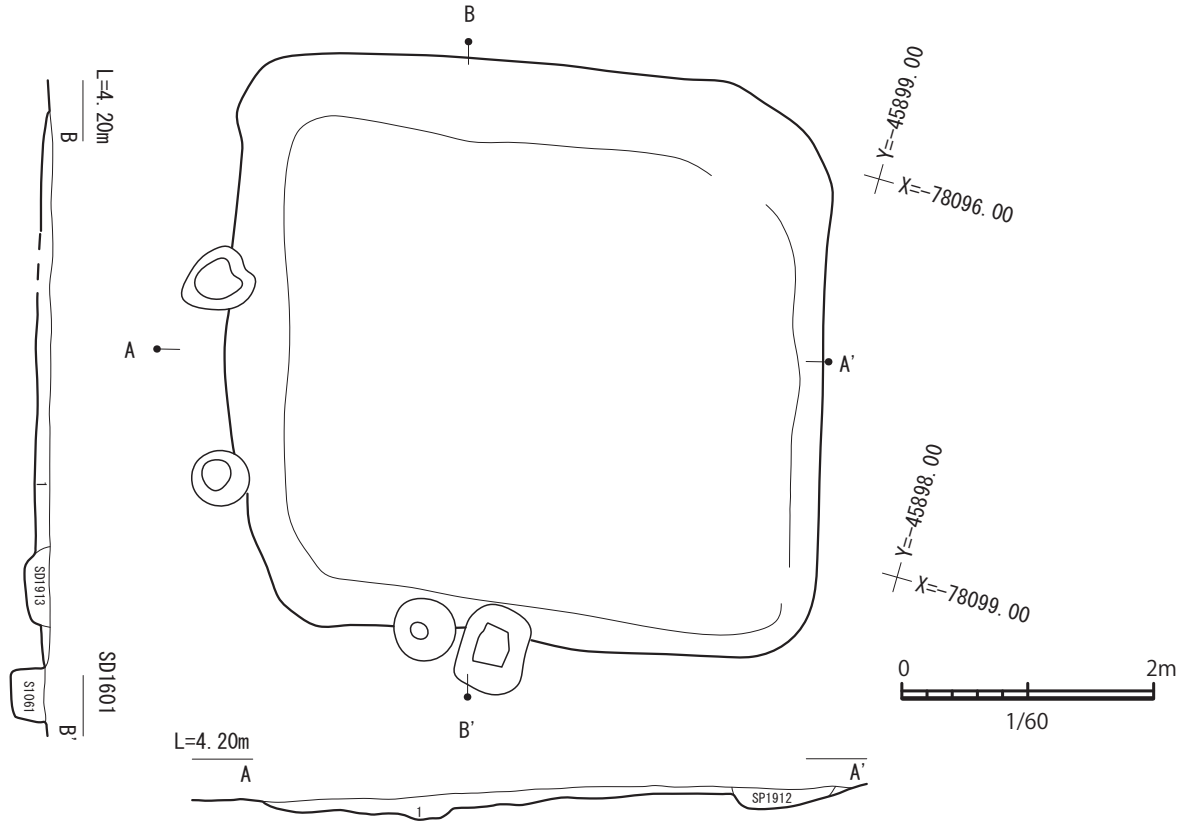
SB1761 は、正方形を呈する竪穴建物である。SB1761 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB1761 は、SB1762 を切る。2209 グリッドに位置する。

SB1761 の法量は、南北 4.85 m、東西 4.8 m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。床面に硬化面はないが、締りがよくて硬い。

SB1761 では土師器（RP1450 ～ 1461）、須恵器（RP1762）、石器（RQ90）が出土している。

RP1450 は甕であり、埋 1 層から出土した器高 6.9cm を測る。器面の外面は橙色、内面は灰褐色を呈し、胎土には長石含むが観察される。この甕は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1451 はコップ形土器であり、埋 1 層から出土した底径 3.5cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、白色粒子が観察される。このコップ形土器は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼



1　埋1層　黒褐色（10YR 2/2）シルト　しまりあり　粘性なし　焼土粒（0.2～1.5cm大）5%、炭化物ブロック（1.0～3.0cm大）3%含む　遺物多い

図 416　SB1761 実測図（1/60）

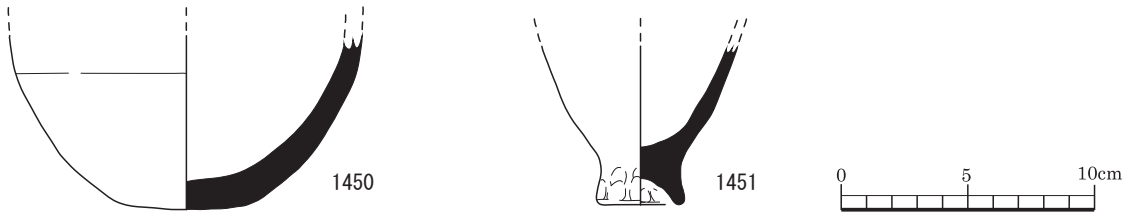


図 417　SB1761 出土土器（RP）実測図

成は良である。

RP1452 は高坏であり、埋 2 層から出土した器高 5.5cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には赤色粒子含むが観察される。この高坏は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1453 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.9cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には白色粒子、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1454 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 15.9cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1455 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 16.6cm、器高 5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、白色粒子が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1456 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口

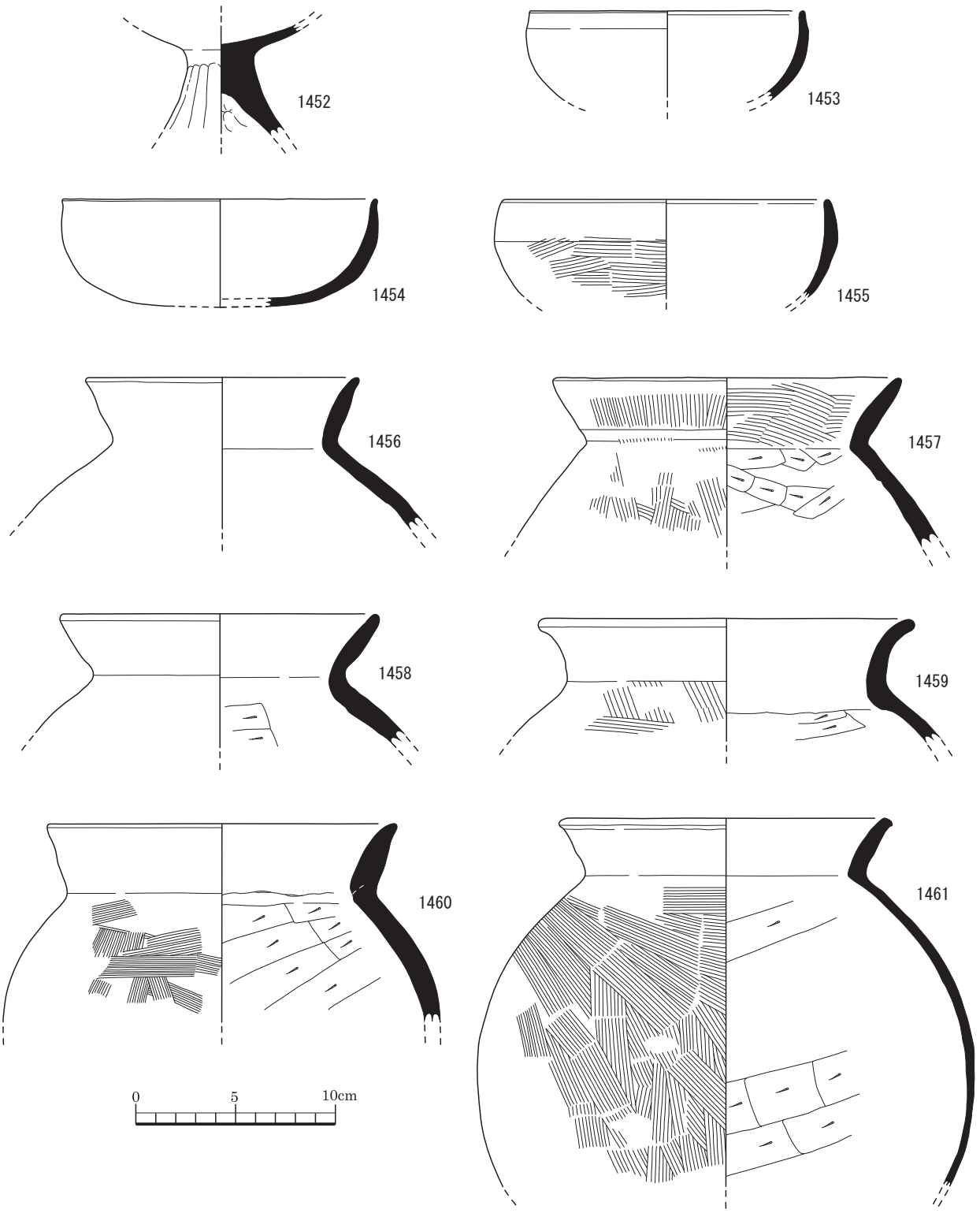


図 418　SB1761 出土土器（RP）実測図

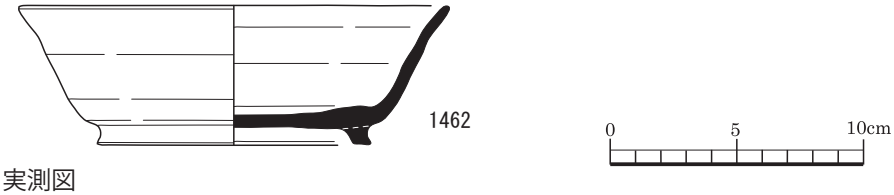


図 419　SB1761 出土土器（RP）実測図

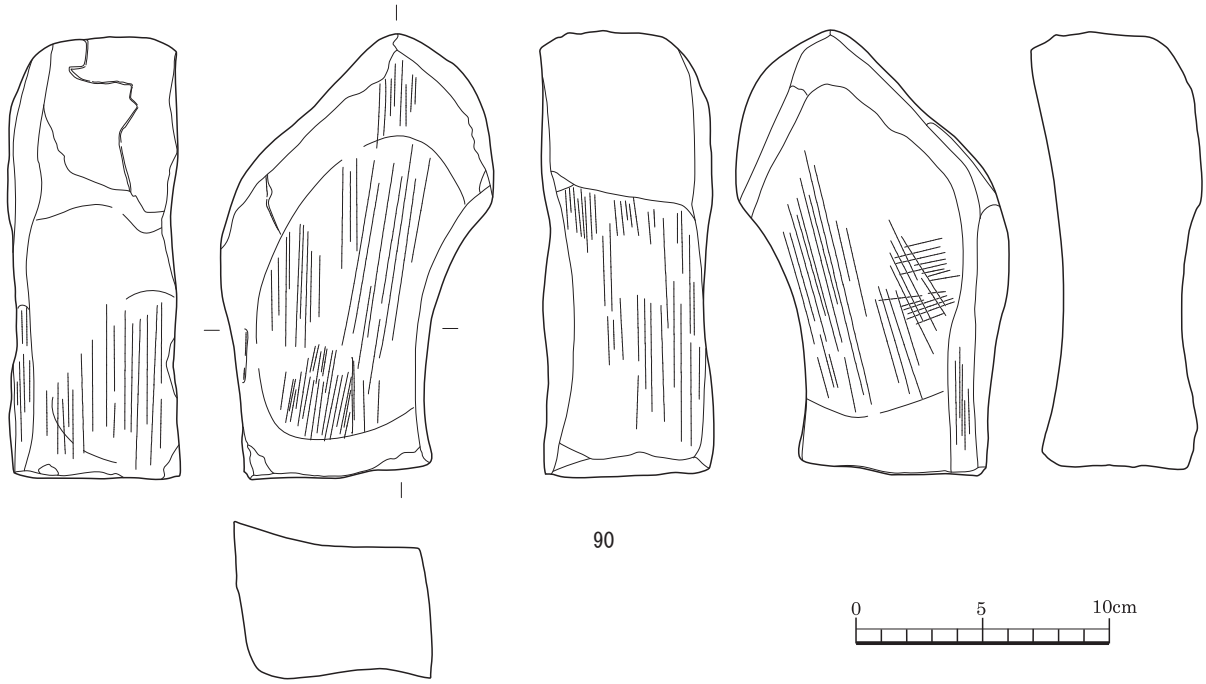


図 420　SB1761 出土石器（RQ）実測図

径 13.8cm、器高 7.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

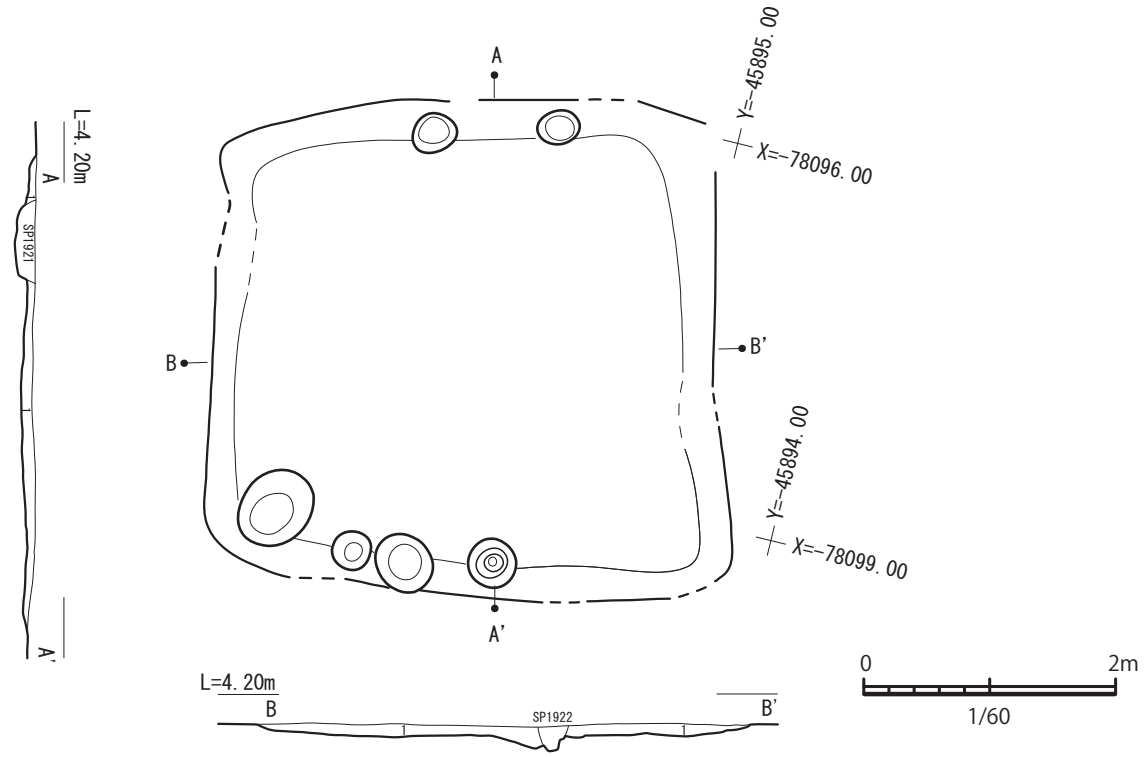
RP1457 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17.6cm、器高 8.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ハケメにより製作され、焼成は良である。

RP1458 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 16.1cm、器高 6.8cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には長石含むが観察される。この壺は、外面調整は摩耗、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1459 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 19cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には雲母含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1460 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 17.6cm、器高 10cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面は橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1461 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 16.8cm、器高 18.5cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、



1　埋1層　黒褐色（10YR3/2）シルト　しまりあり　粘性なし　焼土粒（0.5～1.0cm大）5%、炭化物粒（0.5～1.0cm大）3%含む　遺物あり

図 421　SB1762 実測図（1/60）

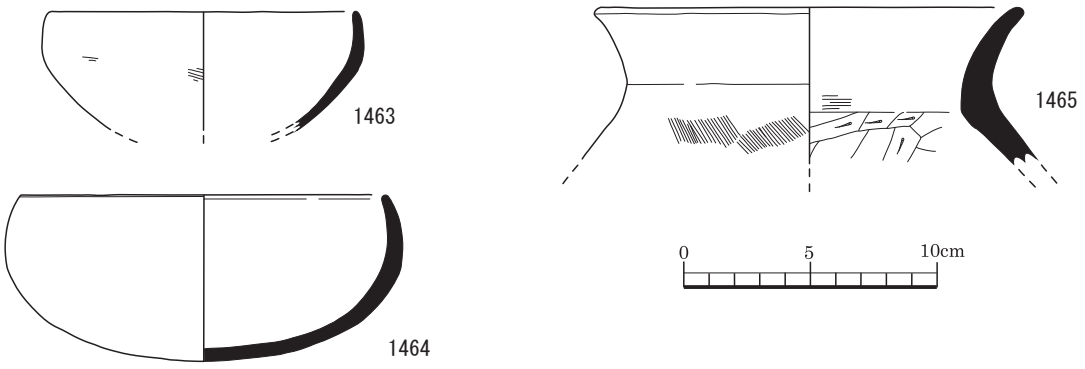


図 422　SB1762 出土土器（RP）実測図

雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

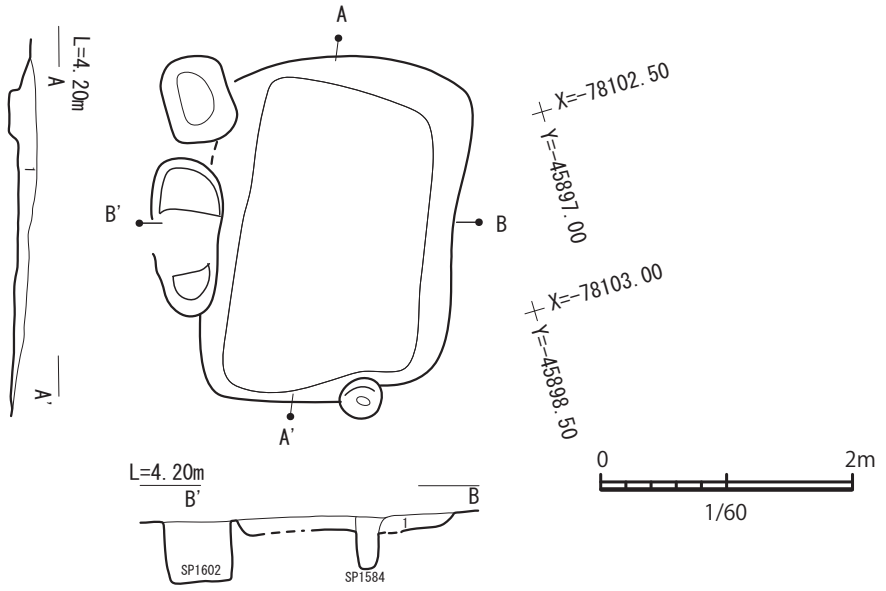
RP1462 は埦であり、埋 1 層から出土した。口径 17.1cm、底径 10.8cm、器高 5.6cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ヨコナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RQ90 は、砥石である。

竪穴建物 1762（SB1762）

SB1762 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB1 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。SB1762 は、SB1761 に切られる。2300 グリッドに位置する。

SB1762 の法量は、南北 4.0 m、東西 4.0 m、遺構



1　黒褐色（10YR 3/2）シルトしまりあり　粘性あり　焼土粒（0.2～1.0cm大）3%、炭化物粒（1.0cm大）1%、マンガン粒（1.0cm大）10%含む　遺物あり

図 423　SB1873 実測図（1/60）

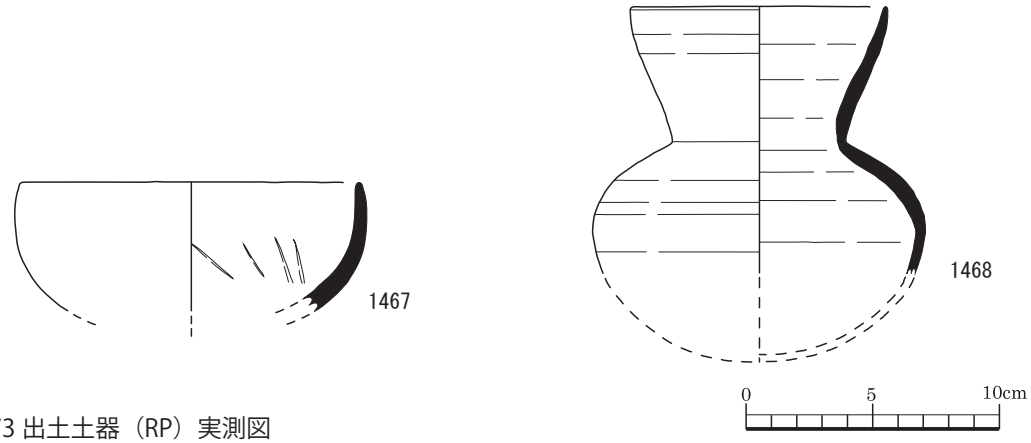


図 424　SB1873 出土土器（RP）実測図

確認面からの深さ 10cm を測る。

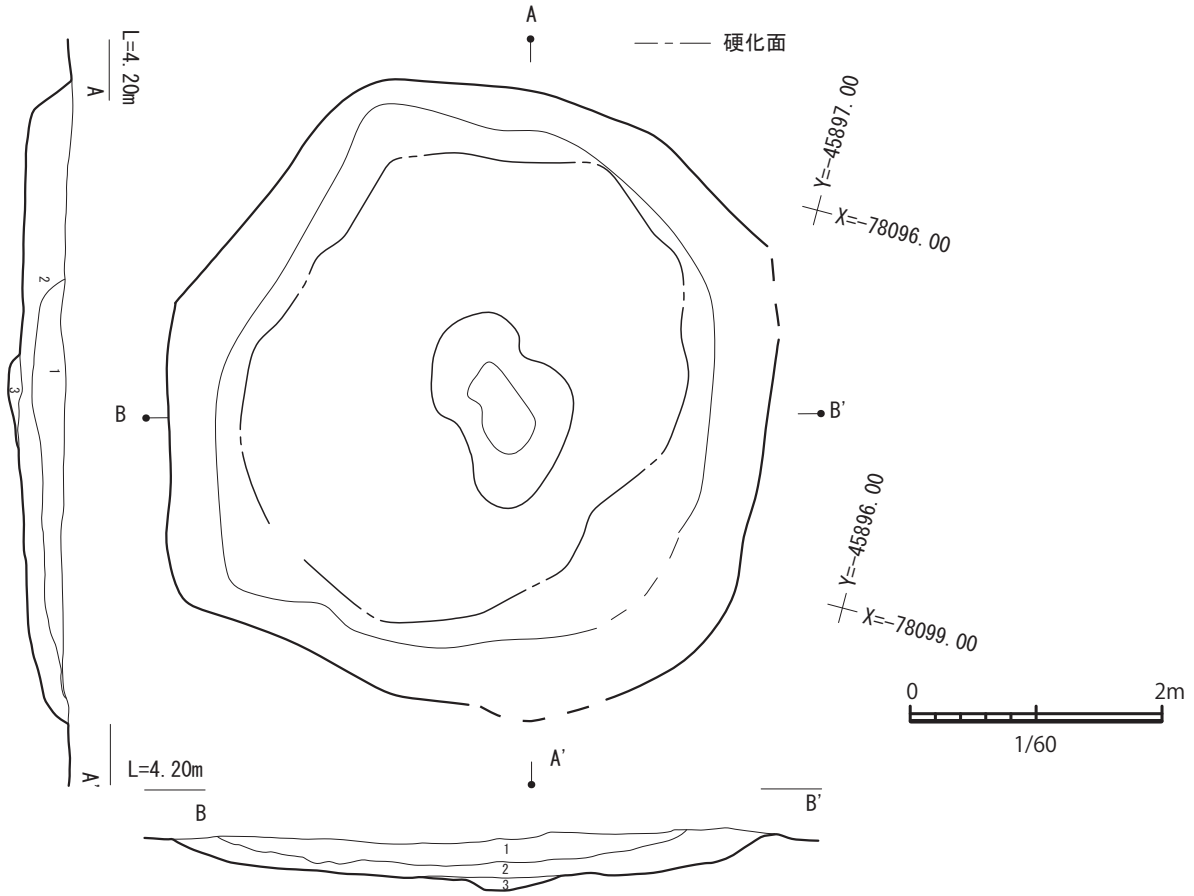
北側壁、南側壁の中点には各 1 基のピットが配置されているが、規模及び配置から主柱穴と判断するには至っていない。

SB1761 では土師器（RP1463 ～ 1465）が出土している。

RP1463 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12.2cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面はにぶい黄褐色、内面は褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1464 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.6cm、器高 6.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1465 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17cm、器高 6.2cm を測る。器面の外面はにぶい褐、褐灰色、内面はにぶい橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。



1　埋1層　黒色（10YR2/1）シルト　しまりあり　粘性あり　焼土粒（0.2～3.0cm大）10%含む　　遺物多い
2　埋2層　にぶい黄褐色（10YR2/2）シルト　しまりあり　粘性あり　焼土粒（0.5～1.0cm大）3%、炭化物ブロック（0.5～3.0cm大）5%含む　遺物あり
3　埋3層　黒褐色（10YR2/2）シルト　しまり良い　粘性あり　焼土粒（0.2～1.0cm大）3%、炭化物ブロック（0.5～1.0cm大、10～3cmの塊）15%含む　遺物あり

図 425　SB2030 実測図（1/60）

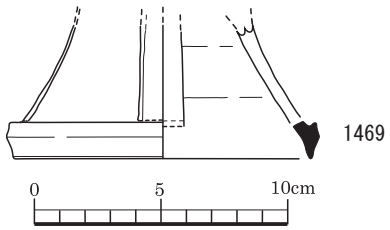


図 426　SB2030 出土土器（RP）実測図

竪穴建物 1873（SB1873）

SB1873 は、平面が正方形を呈する竪穴建物である。SB1873 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。1299 グリッドに位置する。

SB1873 の法量は、南北 4.1 m、東西 3.0 m、遺構確認面からの深さ 20cm を測る。

SB1873 では土師器（RP1467）、須恵器（RP1468）が出土している。

RP1467 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 13.6cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面はにぶい橙色、内面もにぶい橙色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整は工具痕、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1468 は小型壺であり、埋 1 層から出土した。口径 10.2cm、器高 10.6cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この小型壺は、外面調整は回転ナデ、カキ目、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

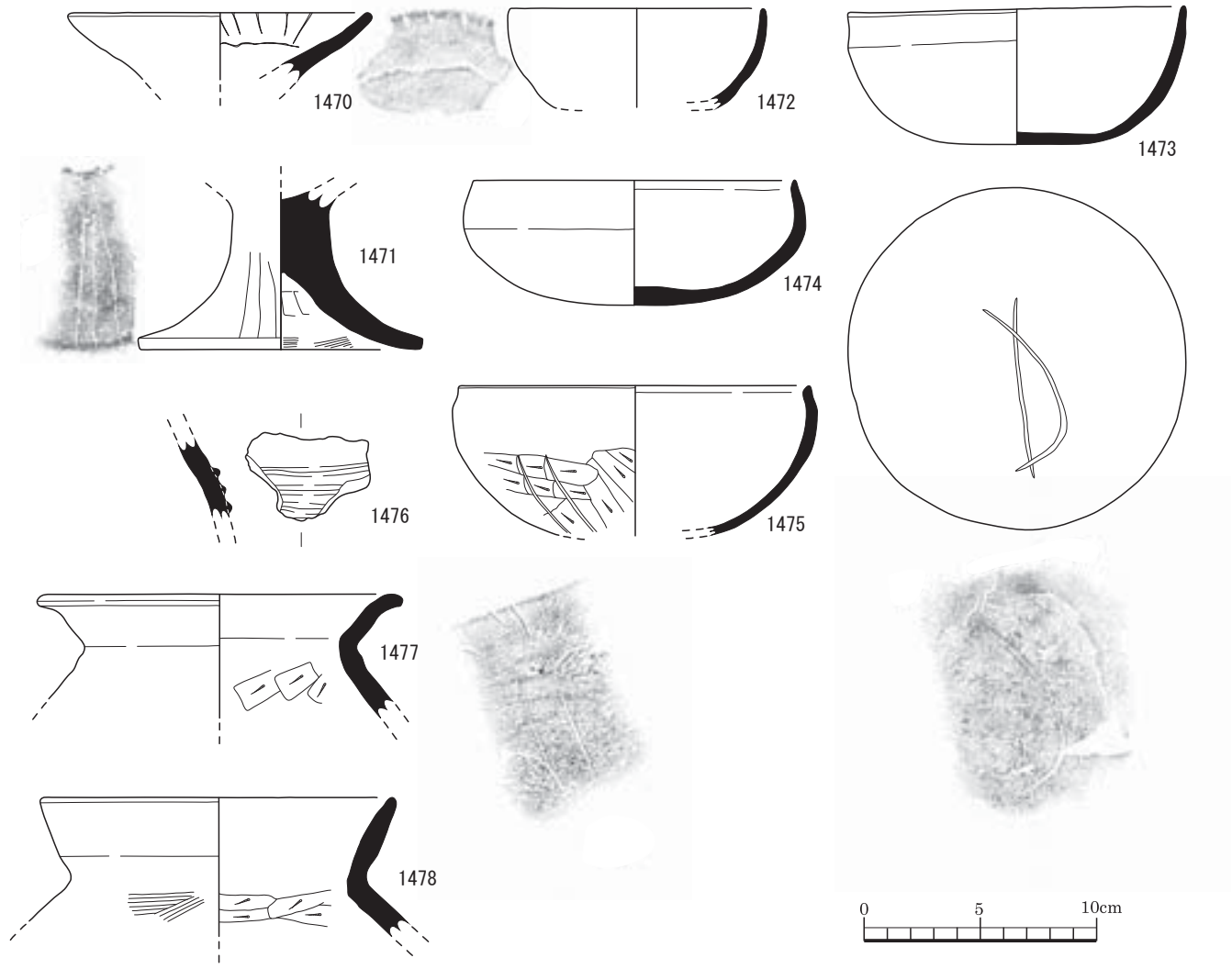


図 427　SB2030 出土土器（RP）実測図

竪穴建物 2030（SB2030）

SB2030 は、平面が、不整ではあるが、方形を呈する竪穴建物である。SB2030 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。2209 グリッドに位置する。

SB2030 の法量は、南北 5.1 m、東西 4.8 m、遺構確認面からの深さ 42cm を測る。

SB2030 の中央には土壙が複合している。この土壙の埋土には炭化物が包含されていたが、焼土は極めて少ない状況であった。このため、中央土壙を炉とは判断していない。

床面には硬化面が確認されている。

SB2030 では土師器（RP1470 ～ 1480）、須恵器（RP1469）が出土している。

RP1469 は高坏であり、埋 1 層から出土した底径 11.9cm、器高 5.3cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰オリーブ色を呈し、胎土には長石が観察される。この高坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1470 は台付鉢であり、埋 2 層から出土した。口径 13.2cm、器高 2.9cm を測る。器面の外面は灰黄褐色、内面も灰黄褐色を呈し、胎土には長石含むが観察される。この台付鉢は、外面調整はヨコナデ、内面調整はナデ、キザミにより製作され、焼成は良である。

RP1471 は高坏であり、埋 1 層から出土した底径 12.4cm、器高 6.8cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には微量の金雲母を含むが観察される。この高坏は、外面調整はミ

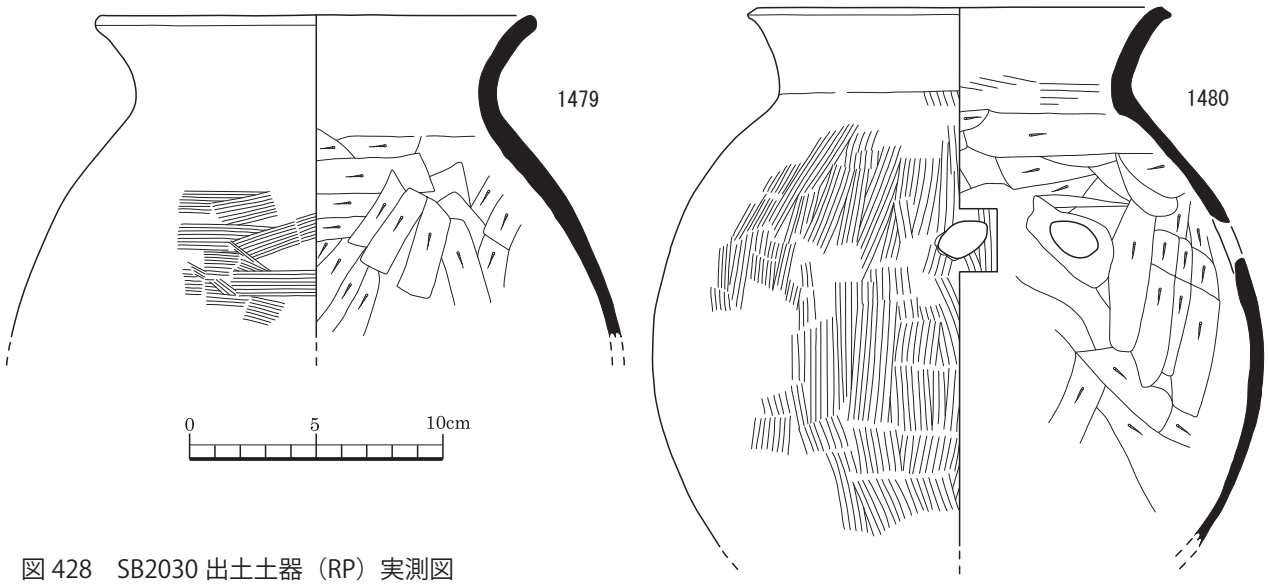


図 428　SB2030 出土土器（RP）実測図

ガキ、内面調整はケズリ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1472 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 11cm、器高 4.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、白色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1473 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14.6cm、器高 5.85cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、砂粒が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1474 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 14cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面はにぶい赤褐色を呈し、胎土には赤色粒子、白色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1475 は坏であり、埋 1、2 層から出土した。口径 15.2cm、器高 6.4cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面は橙色を呈し、胎土には砂粒、雲母が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

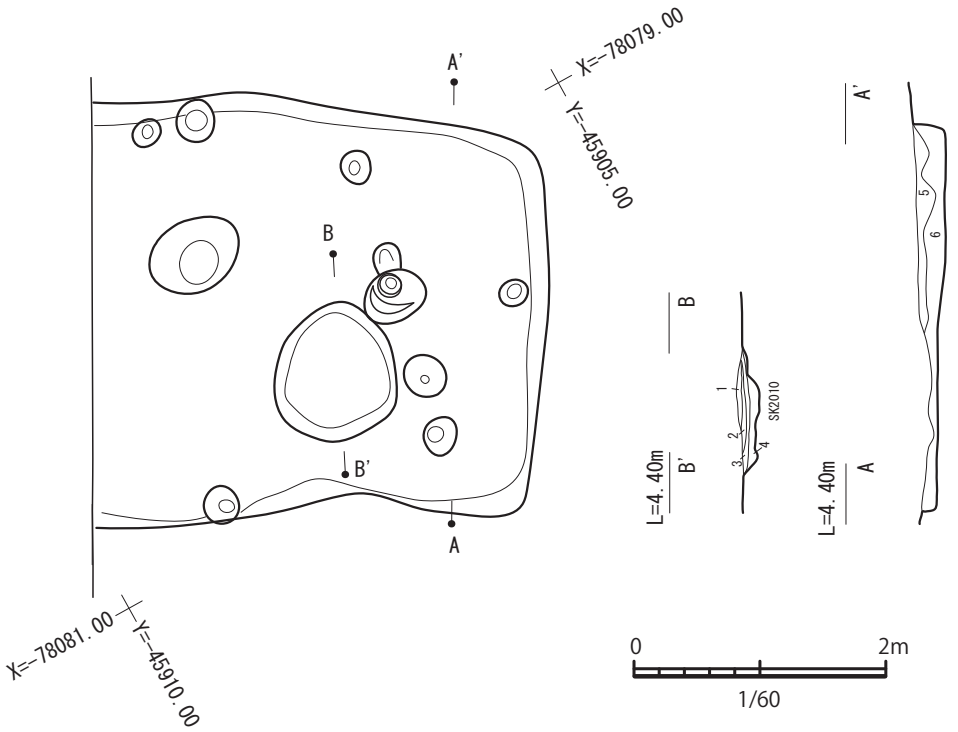
RP1476 は甕であり、埋 2 層から出土した器高 3.3cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には金雲母含むが観察される。この甕は、外面調整は突帯、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1477 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 15.8cm、器高 5.4cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には長石含むが観察される。この甕は、外面調整は摩耗、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1478 は壺であり、埋 1 層から出土した。口径 15.4cm、器高 6cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、雲母が観察される。この壺は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1479 は甕であり、埋 1、2 層から出土した。口径 17.5cm、器高 12.8cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1480 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 16.8cm、器高 21.4cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は浅黄橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、



1　灰黄褐色（10YR 4/2）しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土、1%
2　黒色（N/）シルト　しまりなし　炭、10%　粘性なし　焼土、1%　炭の層
3　にぶい赤褐色（5YR 4/4）しまりなし　炭、20%　粘性なし　焼土が極めて多い、
4　暗褐色　（10YR 3/3)シルト　しまりあり　炭、10%　粘性あり　焼土、3%　礫（5cm大）が混じる
5　黒褐色（10YR2/2）砂レキ　しまりなし　炭なし　粘性なし　焼土なし　ベースは黒褐色土であるが砂レキがメイン（10cm弱）
6　オリーブ褐色（5Y 3/1）砂層　しまりなし　炭なし　粘性なし　焼土なし　砂レキ層

図 429　SB2060 実測図（1/60）

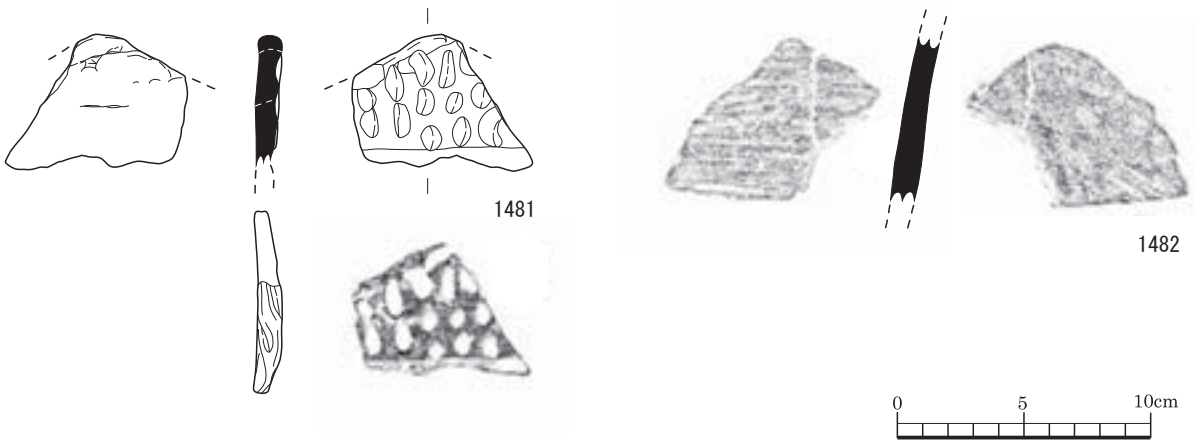


図 430　SB2060 出土土器（RP）実測図

雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

竪穴建物 2060（SB2060）

SB2060 は、平面が長方形を呈する竪穴建物である。SB2060 では主柱穴、炉等の付帯施設を確認していないため、「建物」と記述する。2229 グリッドに位置する。

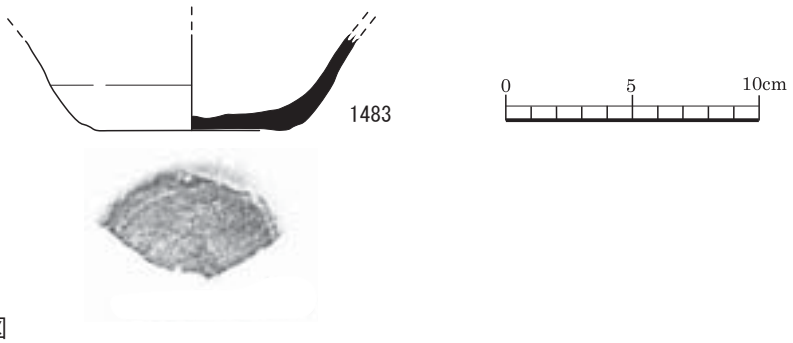


図 431　SB2060 出土土器（RP）実測図

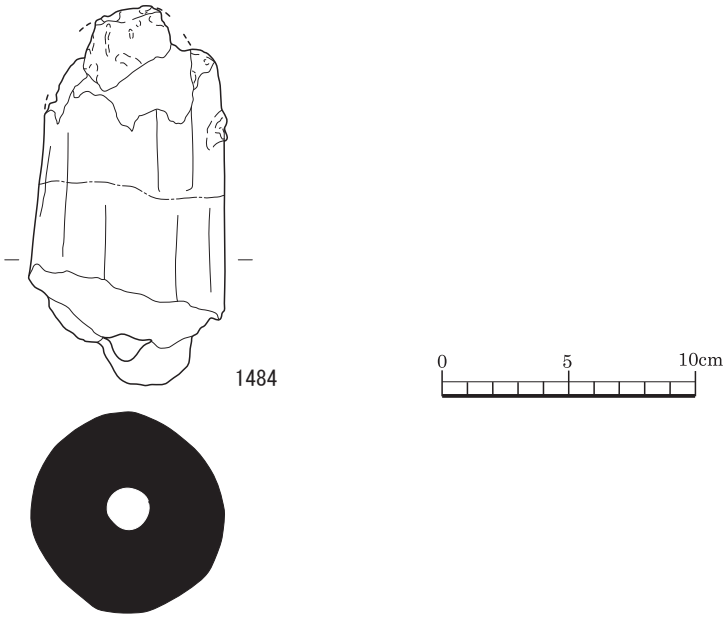


図 432　SB2060 出土土製品（RP）実測図

SB2060 の法量は、南北 3.4 m、東西 3.6 m、遺構確認面からの深さ 50cm を測る。

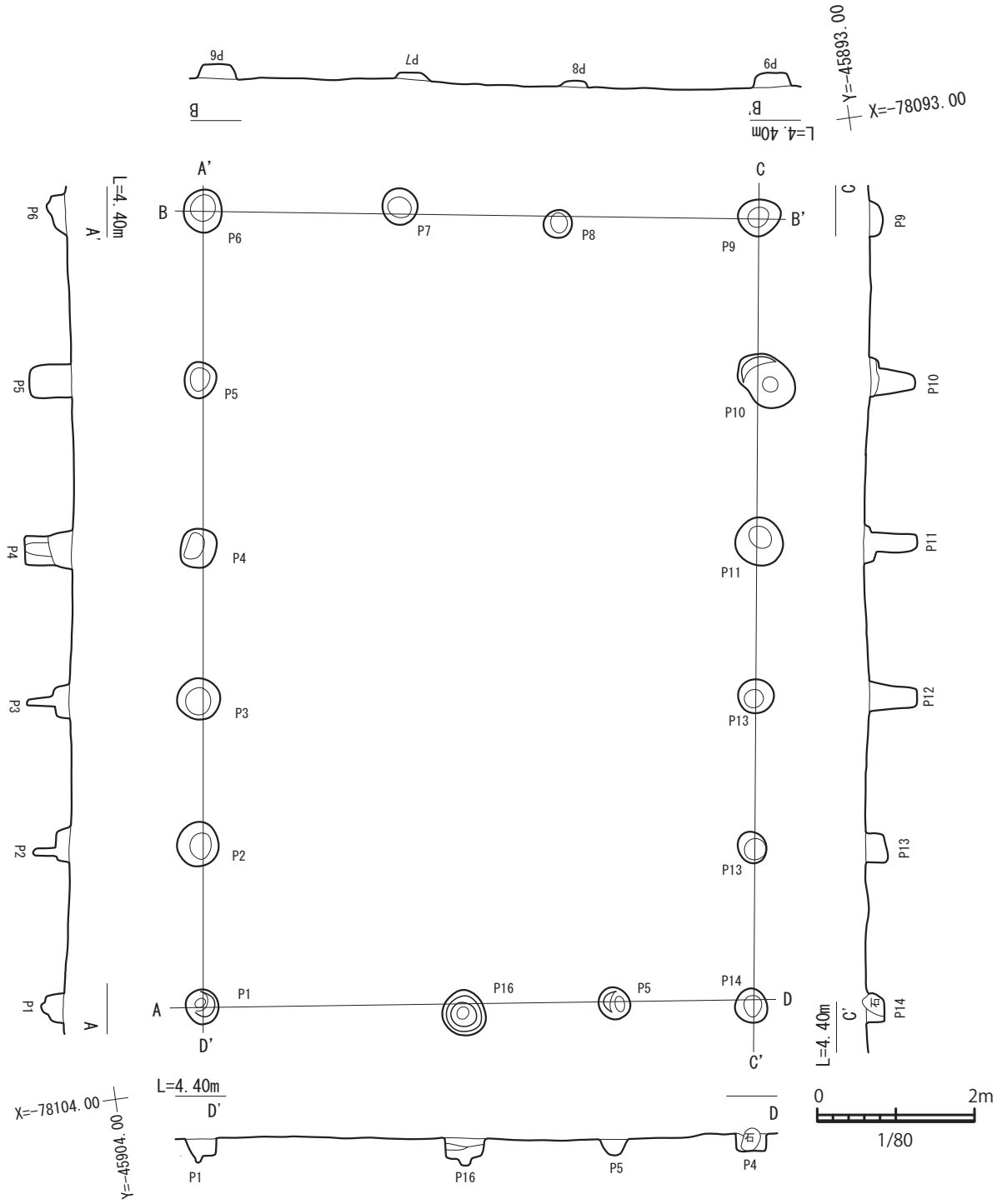
SB2060 では土製品（RP1481 ～ 1484）が出土している。この土製品（RP）には、縄紋土器（RP1481、1482）、鞴羽口（RP1484）が含まれる。

RP1481 は縄紋土器（後期前半の深鉢）片であり、埋 1 層から出土した。器面の外面は灰褐色、内面はにぶい赤褐色を呈し、胎土には白色粒子含むが観察される。

RP1482 は縄紋土器（後期の深鉢）片であり、埋 1 層から出土した。器面の外面は橙色、内面はにぶい黄褐色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。

RP1483 は坏であり、埋 1 層から出土した底径 7.8cm、器高 3.8cm を測る。器面の外面は明黄褐色、内面は浅黄橙色を呈し、胎土には石英含むが観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転糸切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1484 は鞴羽口であり、埋 1 層から出土した。送風孔の口径 1.8cm、残存長 15.1cm を測る。外面は灰黄色、内面は黄灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この鞴羽口は、外面調整は工具ナデにより製作され、焼成は良好である。



P1　　灰黄褐色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　炭、1%　粘性あり　焼土なし　黒褐色土が少量混ざる
P2・P14　灰黄褐色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土、1%含む　マンガンが多く混ざる
P3・P6　灰黄褐色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　炭、5%含む　粘性あり　焼土なし　マンガンと黒褐色土が多く混ざる
P11　　灰黄褐色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　炭あり　粘性あり　焼土　多量のマンガンと褐色土を少量含む
P15　　灰黄色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土なし　多量のマンガンと褐色土を含む
P16　　多量のマンガンと褐色土を含む暗褐色（10YR3/2）シルト　しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土なし　多量のマンガンが混じる
P12・P13　灰黄色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　炭あり　粘性あり　焼土なし　多量のマンガンと褐色土を含む
P4・P7・P8　灰黄褐色（10ＹR5/2）シルト　しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土なし　マンガンと黒褐色土が少量混ざる
P5・P9・P10　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト　しまりあり　炭なし　粘性あり　焼土なし　3cm大のレキ多数

図 433　SB660 実測図（1/80）

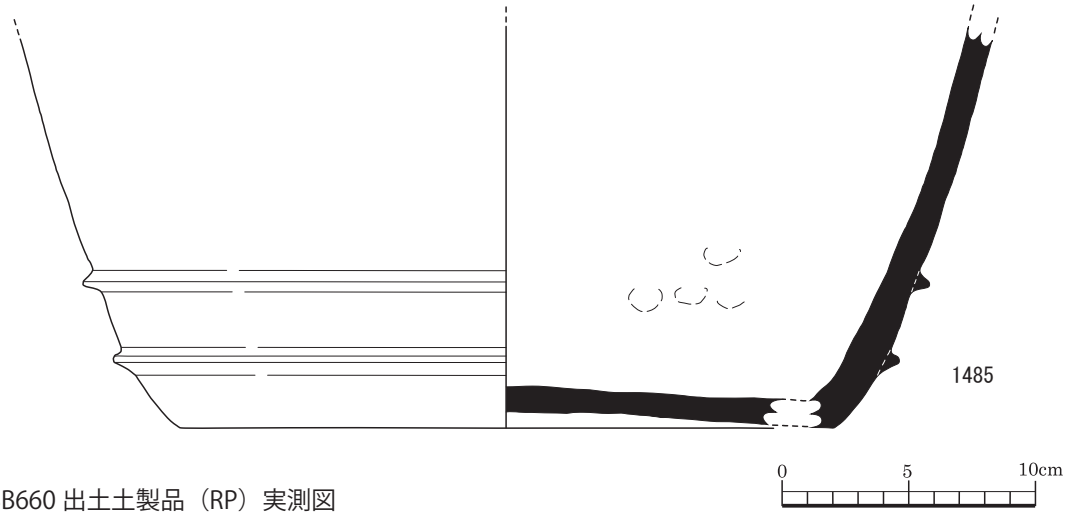


図 434　SB660 出土土製品（RP）実測図

掘立柱建物 660（SB660）

SB660 は、長軸を南北方向にとる桁行 5 間×梁行 3 間の掘立柱建物である。1390 グリッドに位置する。

SB660 の法量は、桁行 10.1m ×梁行 7.1m であり、柱間寸法は桁間 1.8 ～ 3.4 mを測る。

柱穴は、直径 35 ～ 51cm の円形を呈し、遺構確認面からの深さは 8 ～ 68cm であった。各柱穴は、それぞれ底面標高を概ね揃えている。

SB660 では須恵器（RP1485）が出土している。

RP1485 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。底径 27cm、器高 15.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はヘラナデ、ナデ、ヨコナデ、貼付突帯、内面調整は回転ナデ、指オサエ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

井戸 2（SE2）

SE2 は、石積み井戸である。SE2 は SK3 を切っている。2330 グリッドに位置する。

SE2 は、礫を乱積みして井戸側としている。SE2 の東側には、東壁と連続した石組が残っていたが、他の部分には残存していない。掘方はボウル状に形成され、東側石組に裏込が幅広くとられている。これは SK3 との切合箇所が存在するためと考えている。

SE2 の法量は、掘方は南北 1.5m、東西 2.5m、井戸孔は直径 0.6m 程に復元でき、遺構確認面からの深さ 0.9m を測る。

SE では土師器（RP1486）、銭貨（RM22）、磨製石斧（RQ91）が出土している。

RP1486 は土師器底部を円盤形に打ち欠いた二次加工品であり、埋 2 層から出土した。直径 7.6cm、厚さ 2.2cm を測る。

RM22 は、銭種不明の銭貨である。RM22 は、井戸の北部分、井戸底に近い箇所の石組井戸側を除去すると、掘方から半分に割れた状態で出土した。RM22 の銭文は削れており、銭種は不明である。

RQ91 は、磨製石斧の破片である。

井戸 57（SE57）

SE57 は、石積み井戸である。2340 グリッドに位置する。

SE57 は、礫を乱積みして井戸側としている。SE57 の西側面は直線状に、その他 3 面は円弧状に石積みされており、全体は馬蹄形を呈している。掘方は、極めて幅狭く、井戸側となっている石をはずすと、すぐに地山が検出された。

SE57 の法量は、掘方は直径 0.94m、井戸孔は直径 0.72m、井戸遺構確認面からの深さ 1.32m を測る。

石組井戸側は、最下段には大石をもちい、その上に円礫を組む。最上段は角礫をもちいており、井戸枠またはその設置場の上端を平坦面とすることを意図したと考えている。直線状に組まれた西側面には、傾斜が付き、井戸底には踏石と考えられる大石 2 個が連接している。

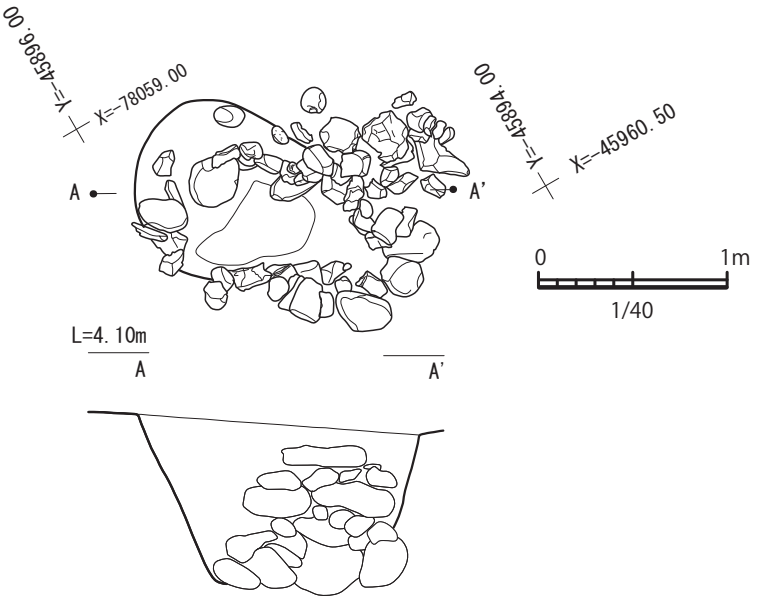


図 435　SE2 実測図（1/40）

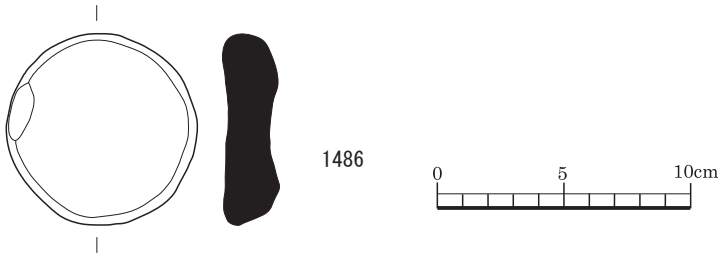


図 436　SE2 出土土製品（RP）実測図

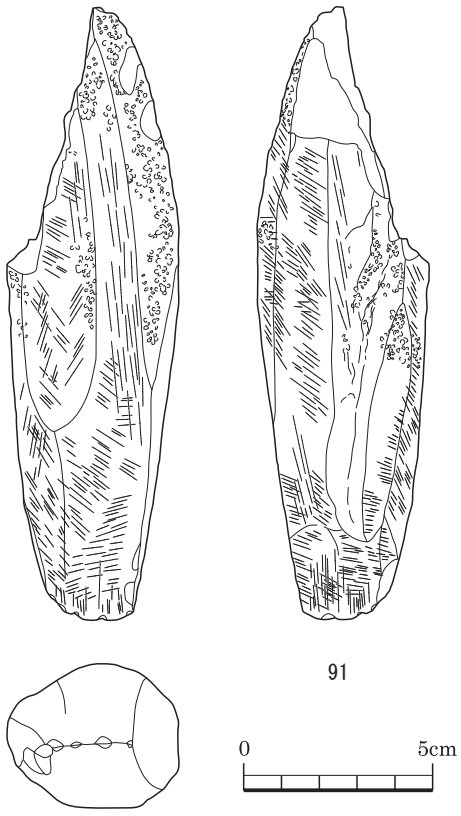


図 437　SE2 出土石器（RQ）実測図

井戸 58（SE58）

SE58 は、井戸孔は円形素掘りで検出され、集水孔に石積みをもちいた井戸である。2320 グリッドに位置する。

SE58 の法量は、1.7m × 1.56m、遺構確認面からの深さ 1.2m を測る。

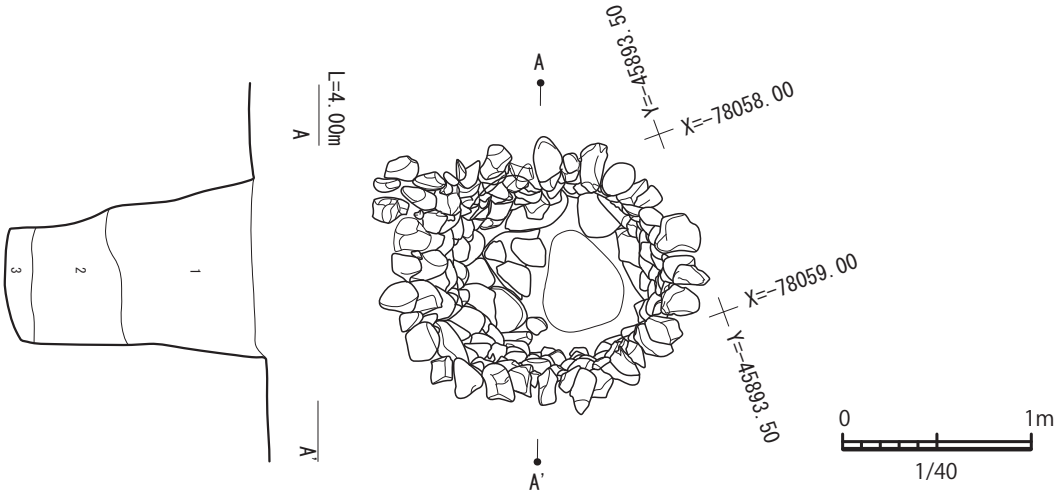
井戸孔部分は素掘り土壙として検出され、その中央にさらに土壙を穿ち、礫を用いた乱石積により集水部としている。井戸孔部分と集水部分の間にはテラスが巡っており、井戸孔には不整傾斜が認められるため、木製（刳りぬき）井戸側が設置されていた可能性がある。

井戸 420（SE420）

SE420 は、円形を呈する素掘り井戸である。2311 グリッドに位置する。

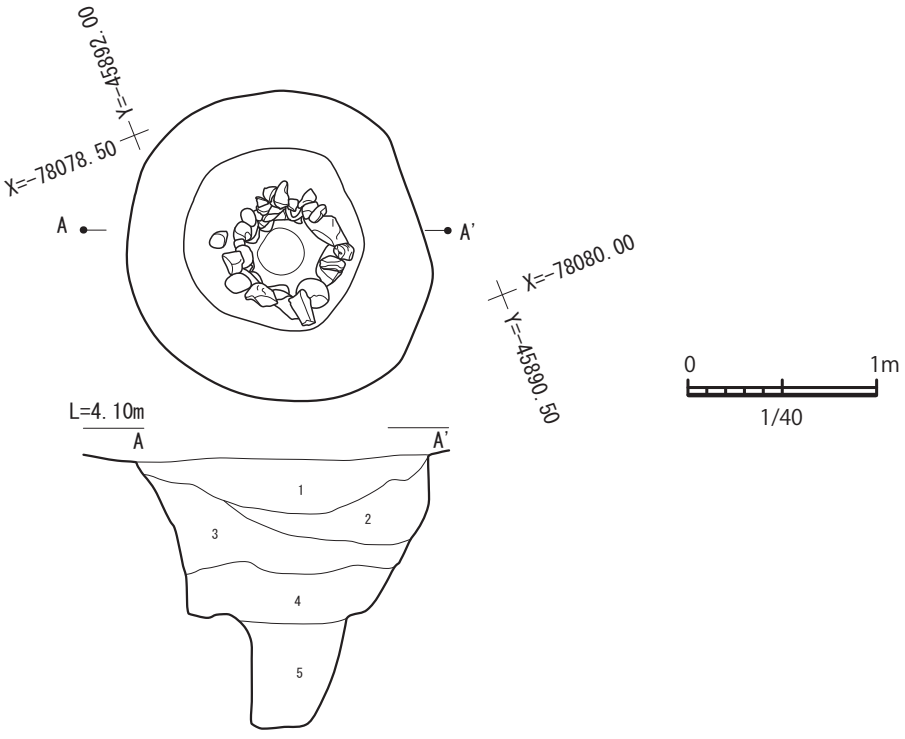
SE420 の法量は、直径 1.6m、遺構確認面からの深さ 0.64m を測る。

SE420 の周囲は、礫層が露出している状況である。SE420 の南端には、南北に走る SD1092 が連接している。



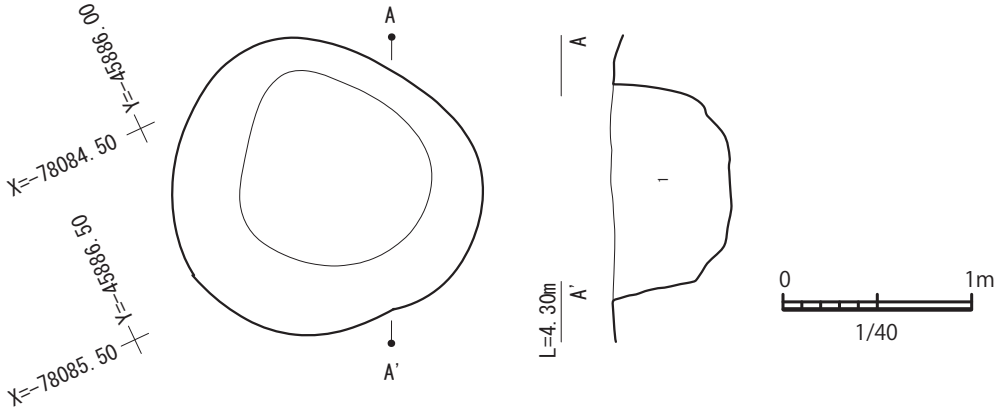
1　埋1層　褐灰色粘質土（10YR4/1）しまりあり　粘性あり　焼土なし　炭なし　鉄分の沈着が多くみられる
2　埋2層　褐灰色粘質土（10YR5/1）しまりあり　粘性あり　焼土なし　炭なし　粘性極めて大
3　埋3層　灰色砂層（7.5Y4/1）しまりなし　粘性なし　焼土なし　炭なし　木くずが多量混じる

図 438　SE57 実測図（1/40）



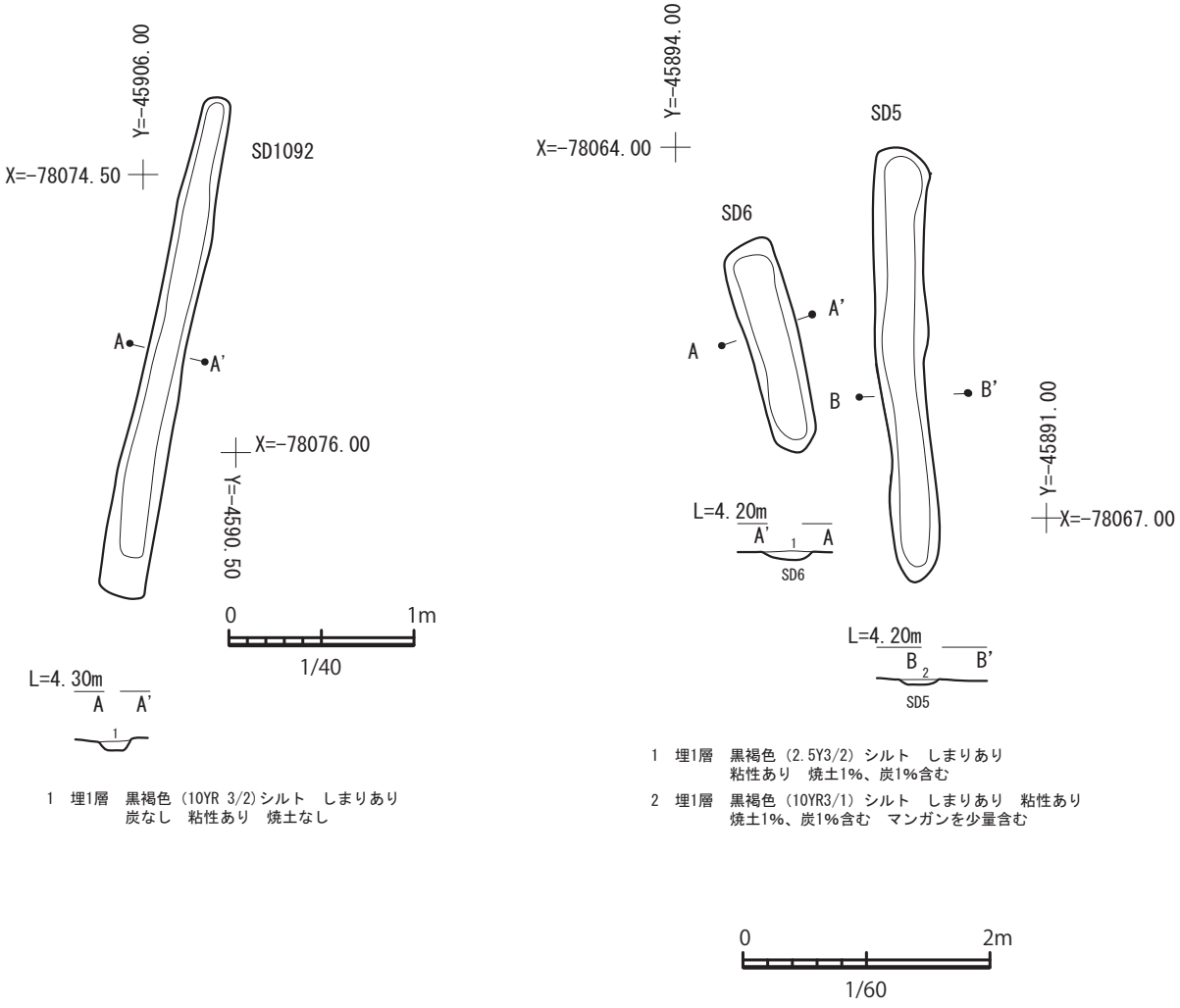
1　埋1層　黒褐色（10YR2/3）シルト　しまりある　粘性ある　焼土粒（0.2～1.0cm大）1%　炭化物（0.2～1.0cm大）1%
2　埋2層　褐灰色（10YR4/1）シルト　しまりある　粘性強い　焼土粒（0.2～1.0cm大）1%、炭化物粒（0.2～1.0cm大）3%
　　レキ（1.0～6.0cm大）10%含む　　遺物出土
3　埋3層　黒褐色（10YR3/1）シルト　しまり弱い　粘性少しある　焼土粒（0.2～1.0cm大）1%、炭化物（0.2～1.0cm大）1%、レキ（1.0～10.0cm大）40%含む
4　埋4層　黒褐色（2.5Y3/2）シルト　しまり弱い　粘性強い　暗褐色粒10YR3/4（0.5～1.0cm大）3%、焼土粒（0.2～1.0cm大）1%　炭化物粒（0.5～2.0cm大）3%
5　埋5層　オリーブ黒色粘土（5Y3/1）しまり弱い　粘性非常に強い　褐色土粒10YR4/4（1.0～3.0cm大）10.%含む、焼土粒（0.5～1.0cm大）1%
　　炭化物粒（0.5～1.0cm大）　レキ（1.0～7.0cm大）7%含む

図 439　SE58 実測図（1/40）



1　埋1層　暗灰黄色（2.5Y5/2）シルト　しまり弱い　粘性なし　褐色土（7.5YR4/4）ブロック（1.0～3.0cm）5%含む　焼土、炭化物、粒（0.2～0.5cm）1%含む

図 440　SE420 実測図（1/40）

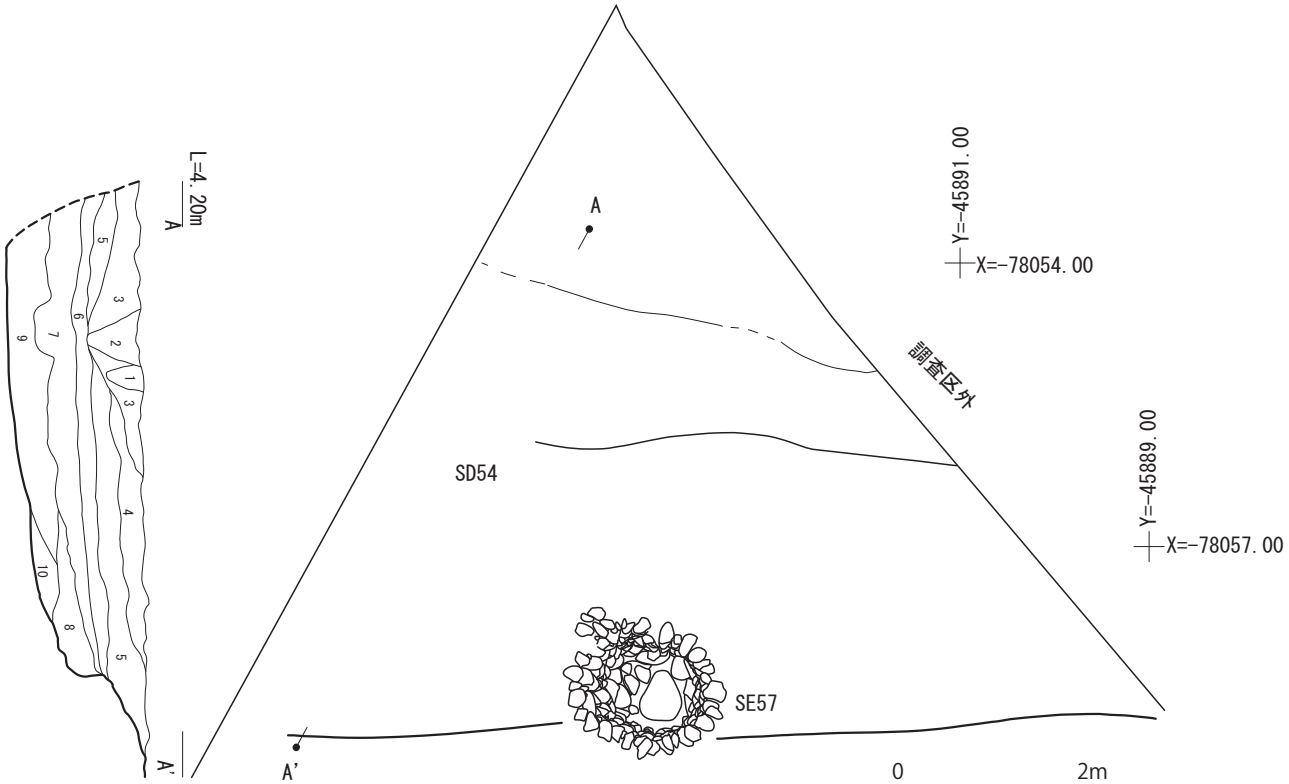


1　埋1層　黒褐色（10YR 3/2)シルト　しまりあり
　　炭なし　粘性あり　焼土なし

1　埋1層　黒褐色（2.5Y3/2）シルト　しまりあり
　　粘性あり　焼土1%、炭1%含む

2　埋1層　黒褐色（10YR3/1）シルト　しまりあり　粘性あり
　　焼土1%、炭1%含む　マンガンを少量含む

図 441　SD5・6（1/60）・SD1092（1/40）実測図



1　褐灰色（10YR 5/1）圃場整備に伴うもの　しまりあり　粘性あり
2　褐灰色（10YR 5/1）1と同様　焼土ブロックの塊が多くある
3　埋1a層　灰黄褐色（10YR 5/2）シルト　しまりあり　粘性少しあり　にぶい赤褐色（5YR 4/4）の鉄分粒（0.5～3cm大）5%含む
焼土粒（0.5～1.0cm大）5%含む(上部に集中）炭化物粒（1.0cm大）2%含む
4　埋1b層　黒褐色（10YR 3/1）シルト　しまりあり　粘性少しあり　5ＹＲ4/4にぶい赤褐色の鉄分粒（0.5～3.0ｃｍ大）5%含む
焼土粒（0.5～1.0cm大）2%含む　炭化物粒（1.0cm大）1%含む
5　埋2層　灰色（5Y 4/1）シルト　しまりあり　粘性あり　7.5YR4/4褐色の鉄分｛粒（1.0～2.0ｃｍ大）5%含む
柱状10cmの塊あり｝焼土、炭化物粒（1.0ｃｍ大）1%含む、遺物あり、馬の歯出土
6　埋3a層　灰黄色（2.5Y 6/2）粘土　しまり良い　粘性強い　7.5YR4/4褐色鉄分｛柱（1.0～2.0ｃｍ大）柱状（3.0～5.0cm）｝20%含む
焼土、炭化物粒（0.5ｃｍ大）1%含む
7　埋3a層　灰黄色（2.5Y 6/2）粒土と粗砂が混ざる　しまりある　粘性ある（6：4）褐色（7.5Y4/4）の鉄分粒（1.0～2.0ｃｍ大）5%含む
焼土、炭化物粒（0.5～1cm大）1%含む
8　埋3a層　灰黄色（2.5Y 6/2）粘土と粗砂が混ざる（4：6）
9　埋4a層　黒褐色（10YR 3/1）シルト　しまりあり　粘性あり　木片が多く出土　貝殻も堆積していた
10　埋4b層　灰色粘土（10YR 4/2）しまりよい　粘性強い

図 442　SD54 実測図（1/80）

溝 1092（SD1092）

SD1092 は、南北に走る溝である。2229 グリッドに位置する。

SD1092 の法量は、長さ 13 m、幅 0.8 mを測る。

溝 5（SD5）

SD5 は、南北に走る溝である。2330 グリッドに位置する。

SD5 の法量は、長さ 4 m、幅 0.4 m、遺構確認面からの深さ 5cm を測る。非常に浅い溝である。

溝 6（SD6）

SD6 は、南北に走る溝である。2330 グリッドに位置する。

SD6 の法量は、長さ 1.8 m、幅 0.5 m、遺構確認面からの深さ 8cm を測る。浅く短い溝である。

溝 54（SD54）

SD54 は、東西に走る大溝である。2340 グリッドに位置する。調査区 9 区北端に位置しており、調査区外に延びている。SD54 は、SE57 に切られている。

SD54 の法量は、長さ 10m 以上、幅 6 m以上、遺

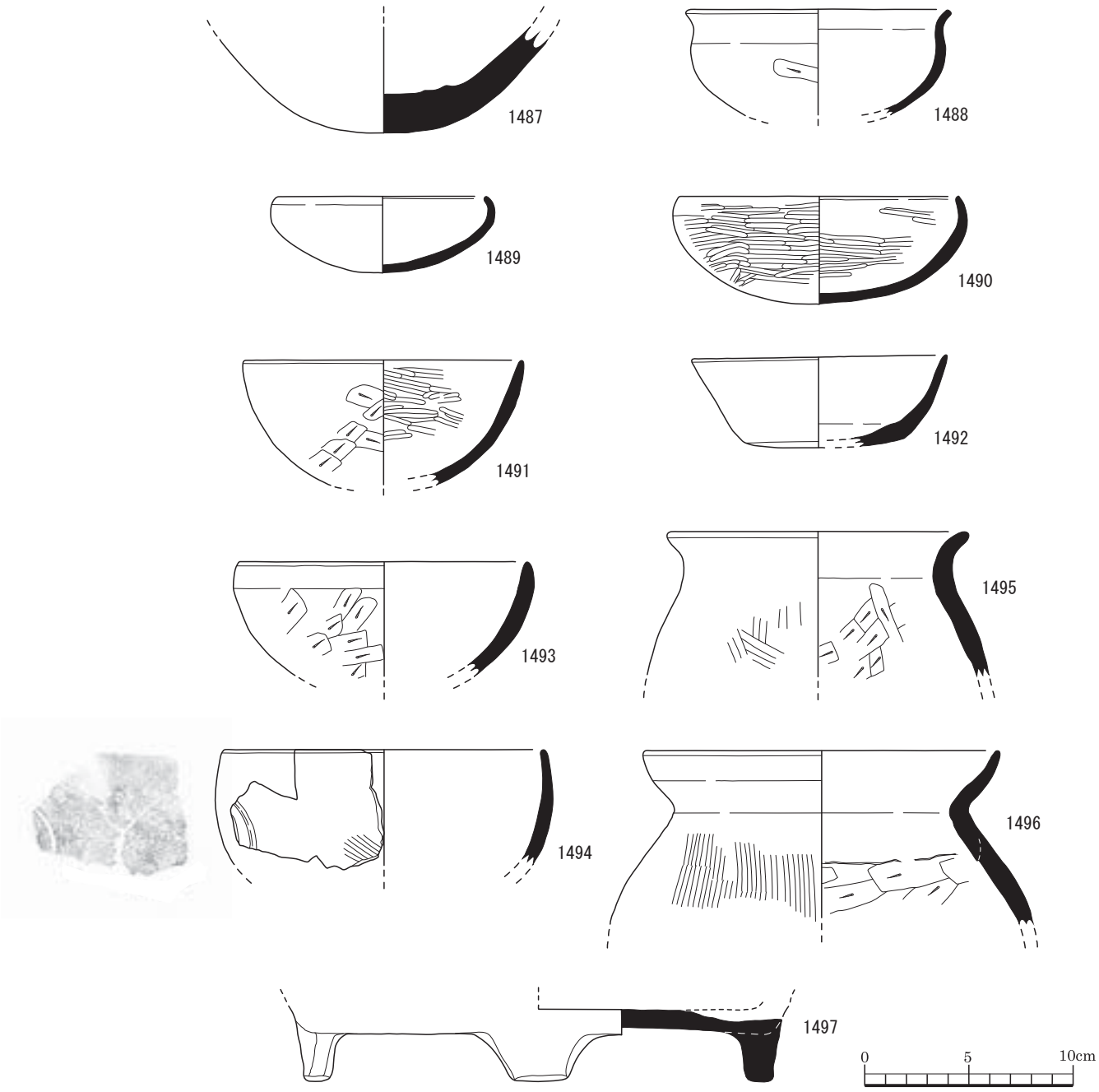


図 443　SD54 出土土器（RP）実測図

構確認面からの深さ 1.4m を測る。

SD54 は、埋 3、5 層、埋 7 層、埋 9、10 層をそれぞれ最下層とする 3 段階にわたり存続したことがその土層断面から観察することができる。最底辺の溝底まで検出したが、その幅は 5m 以上であり、なお調査区外に延びている。また、南側壁の天端部を SE57 に切られている。

SD54 では土師器（RP1487 ～ 1497）、須恵器（RP1498 ～ 1501）、瓦質土器（RP1502）が出土している。

RP1487 は壺であり、埋 4 層から出土した。器高 5.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には 1 ㎜の砂粒微量が観察される。この壺は、外面調整はナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1488 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 12.8cm、器高 5.1cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には 1 ㎜の砂粒、雲母微量に含むが観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1489 は坏であり、埋 4 層から出土した。口径

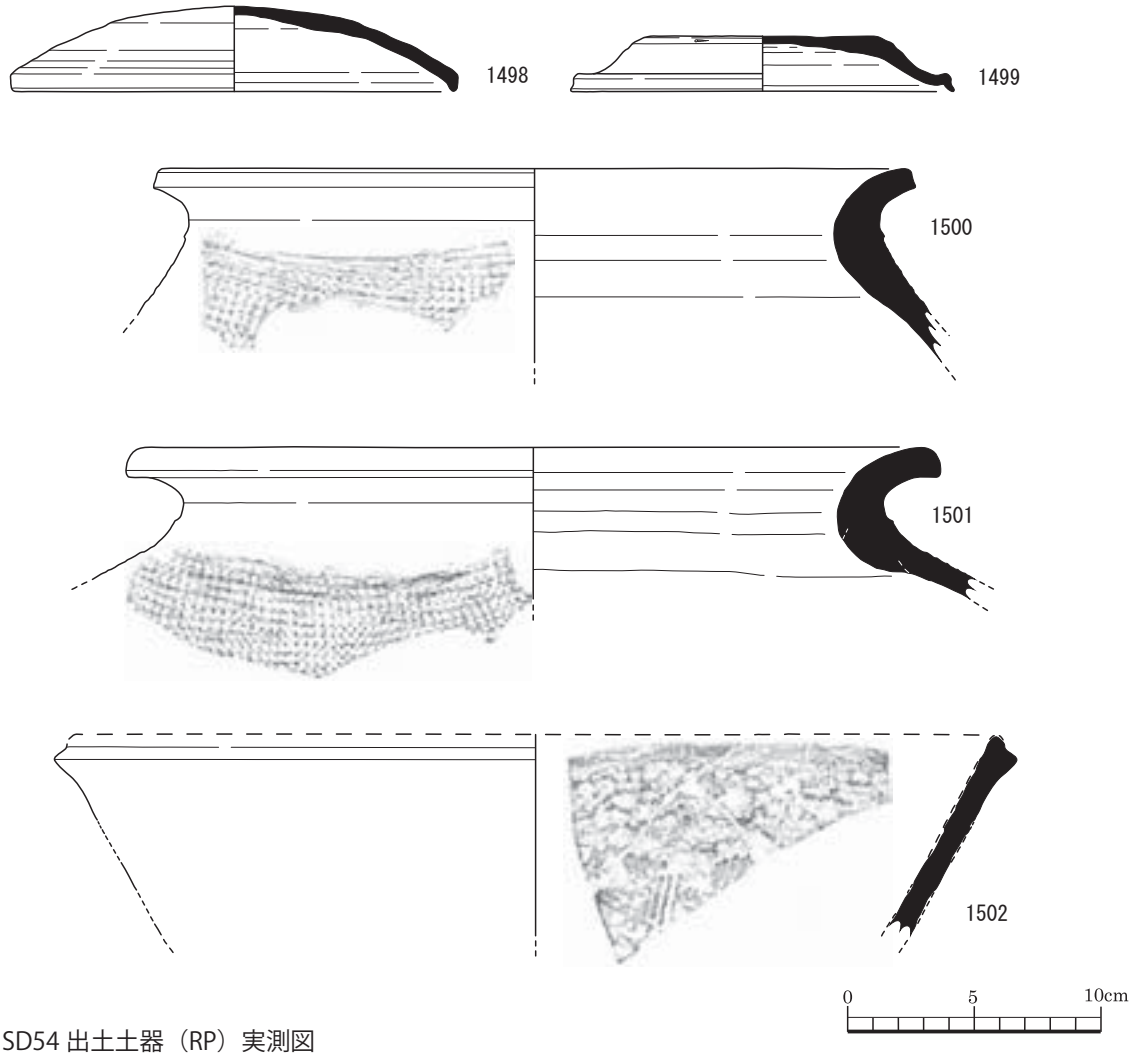


図 444　SD54 出土土器（RP）実測図

10cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、雲母、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1490 は坏であり、埋 3、4 層から出土した。口径 13.4cm、器高 5.2cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には 1 ～ 2㎜の長石含むが観察される。この坏は、外面調整はミガキ、内面調整はナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1491 は坏であり、埋 4 層から出土した。口径 13.4cm、器高 6cm を測る。器面の外面は灰白、にぶい赤色、内面も灰白、にぶい赤色を呈し、胎土には 2㎜の砂粒含むが観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1492 は坏である。口径 12.3cm、底径 7.8cm、器高 4.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には石英、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1493 は坏である。口径 14cm、器高 5.5cm を測る。器面の外面はにぶい褐色、内面もにぶい褐色を呈し、胎土には雲母、白色粒子、赤色粒子が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1494 は坏であり、埋 4 層から出土した。器高 5.5cm を測る。器面の外面はにぶい赤褐色、内面は黒褐色を呈し､胎土には白色粒子少し含むが観察される。この坏は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1495 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 14.6cm、器高 7cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面は灰白色を呈し、胎土には赤色粒子含むが観察さ

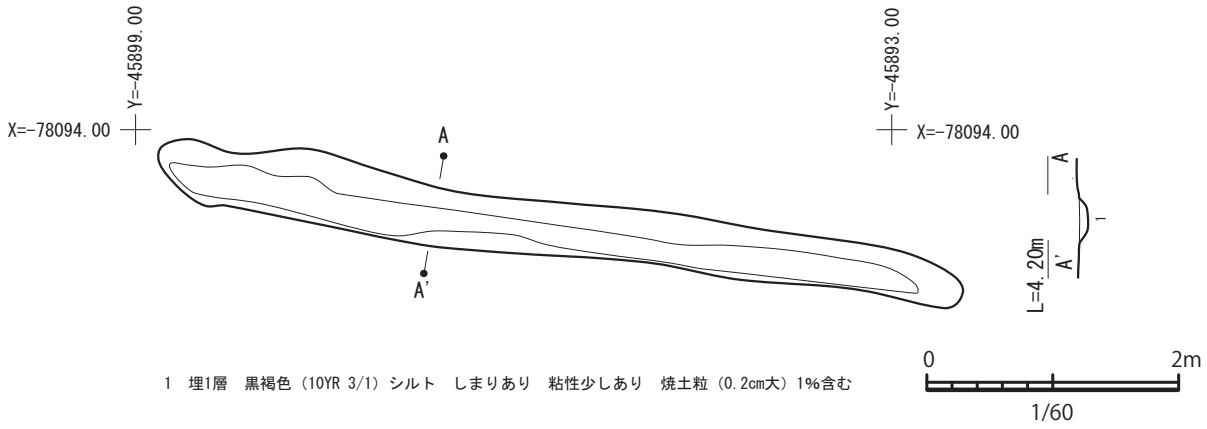


図 445　SD1758 実測図（1/60）

れる。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1496 は甕であり、埋 4 層から出土した。口径 17cm、器高 8.4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には 1 ～ 2㎜の長石含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1497 は火鉢である。底径 22cm、器高 3.7cm を測る。器面の外面は褐灰色、内面はにぶい黄橙色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この火鉢は、外面調整はヨコナデ、脚貼付、指オサエ、板状圧痕、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1498 は蓋であり、埋 4 層から出土した。口径 17.8cm、器高 3.4cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、手持ちヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1499 は蓋である。口径 15.2cm、器高 2.2cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1500 は甕であり、埋 2 層から出土した。口径 30.5cm、器高 7.7cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はタタキ（格子状）、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1501 は甕である。口径 32.4cm、器高 6cm を測る。器面の外面は灰色、内面は灰白、灰色を呈し、胎土には長石、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はタタキ（格子状）、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1502 は擂鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 38.2cm、器高 7.9cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には石英、長石、角閃石が観察される。この擂鉢は、外面調整はナデ、内面調整はヨコナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

溝 1745（SD1745）

SD1745 は、南北に走る溝である。1390 グリッドに位置する。

SD1745 の法量は、幅 0.6m ～ 1.7 m、遺構確認面からの深さ 0.3m を測る。

SD1745 では須恵器（RP1503、1504）が出土している。

RP1503 は蓋であり、埋 1 層から出土した。器高 3.2cm を測る。器面の外面は橙色､内面も橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、白色粒子が観察される。この蓋は、外面調整は摩耗、ヨコナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は良である。

RP1504 は蓋であり、埋 3 層から出土した。口径

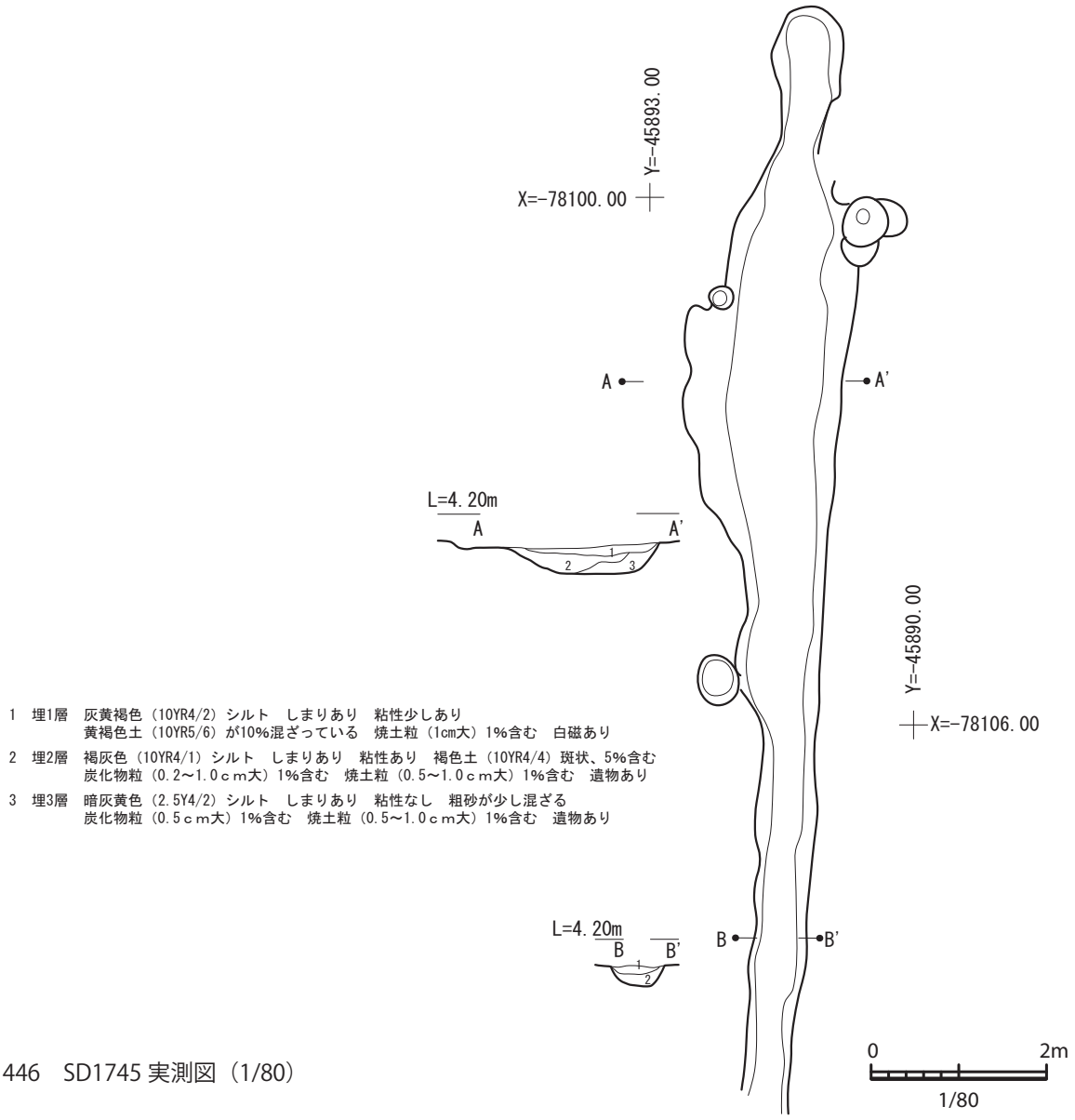


図 446　SD1745 実測図（1/80）

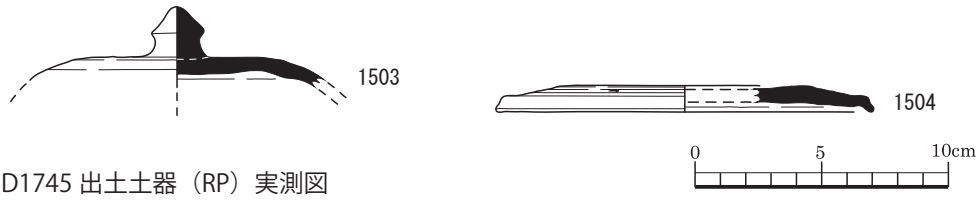


図 447　SD1745 出土土器（RP）実測図

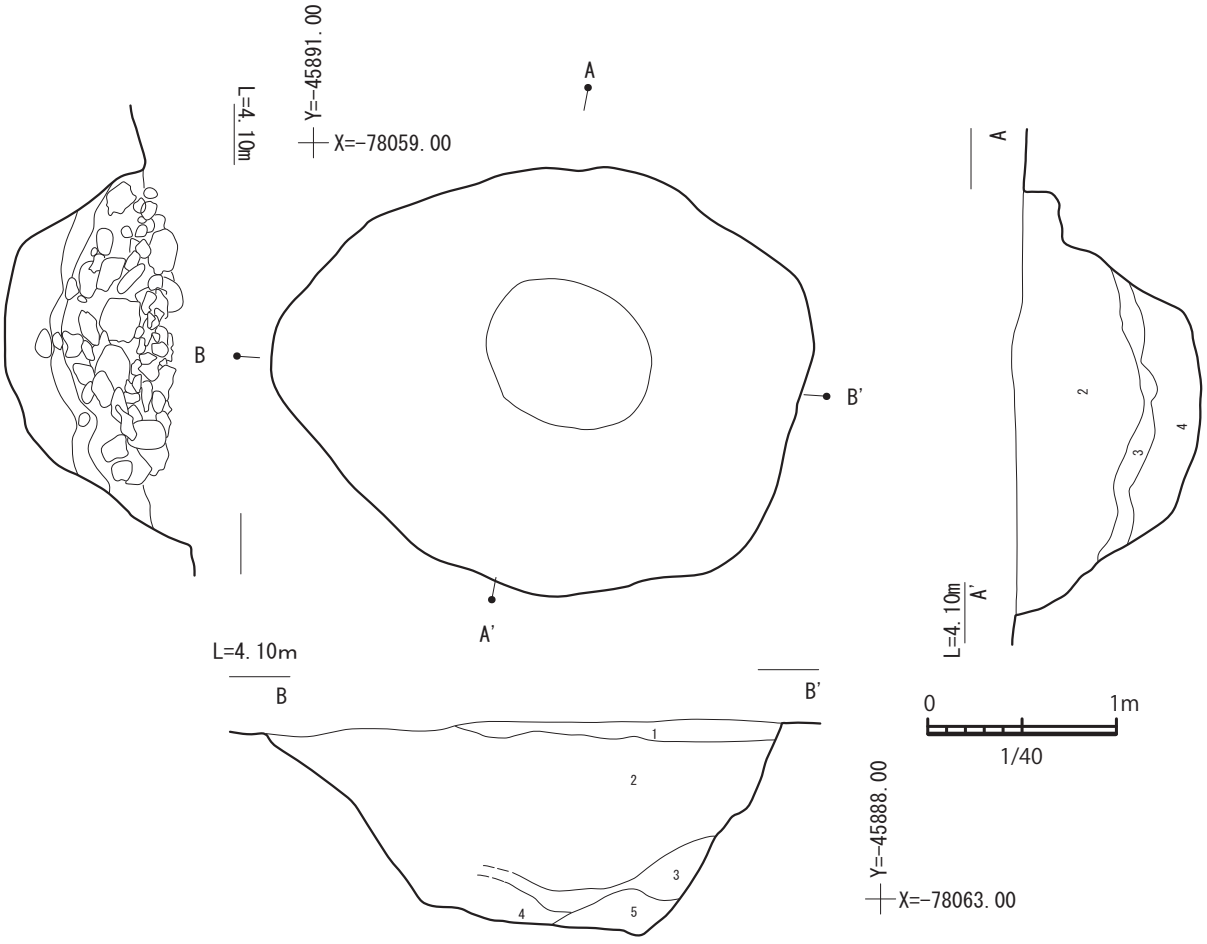
15cm、器高 1.1cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

溝 1758（SD1758）

SD1758 は、東西に走る溝である。2300 グリッドに位置する。

SD1758 の法量は、長さ 6.5m、幅 0.5m、遺構確認面からの深さ 7cm を測る。

SD1758 は、SB660 の北側辺平行し、その内側を



1　埋1層　暗褐色シルト（10YR3/3）しまりある。粘性少しある。
　　焼土粒（0.2～1.0cm大）3%　炭化物（0.2～1.0cm大）3%
　　レキ（1.0～10.0cm大）3%　遺物出土

2　埋2層　暗灰色シルト（N 3/）しまり弱い　粘性強い
　　焼土粒（0.2～1.0cm大）2%　炭化物（0.2～1.0cm大）2%
　　レキ（1.0～29.8cm大）80%

3　埋3層　灰黄褐色（10YR4/2）シルト　しまり弱い　粘性少しある
　　焼土粒（0.2～2.0cm大）5%　炭化物粒（0.5～1.0大cm大）3%　遺物出土

4　埋4層　オリーブ黒色7.5YR3/1)シルト　しまり弱い　粘質少し弱い
　　鉄分土（褐色）柱状（2.0～5.0cm）5%　遺物出土（多し）

5　埋4b層 灰色（N/4)シルト しまりある　粘性強い　にぶい黄褐色土（10YR5/4）5%
　　焼土粒（0.1～0.3cm大）1%　炭化粒（0.2～0.5cm大）1%　遺物出土

図 448　SE1 実測図（1/40）

走っている。また、SD1758 は、SD1745 と直交する配置をとる。

井戸 1（SE1）

SE1 は、楕円形を呈する土壙である。2341 グリッドに位置する。

SE1 の法量は、南北 2.3 m、東西 2.7 m、遺構確認面からの深さ 1.0m を測る。

SE1 は、埋 2 層までには多量の角礫が包含され、少量の焼土、炭化物も含まれていた。

SE1 では瓦質土器（RP1505、1506）、石器（RQ92）が出土している。

RP1505 は擂鉢であり、埋 2、4 層から出土した。口径 32.8cm、器高 9.5cm を測る。器面の外面は灰白色、内面も灰白色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この擂鉢は、外面調整は指オサエ、ヨコナデ、内面調整はヨコナデ、スリ目により製作され、焼成は良好である。

RP1506 は擂鉢であり、埋 3 層から出土した。器高 8.4cm を測る。器面の外面は黄灰色、内面も黄灰色を呈し、胎土には石英、長石が観察される。この擂鉢は、外面調整は指オサエ、ナデ、内面調整はナデ、ヘラナデ、スリ目により製作され、焼成は良である。

RQ92 は、凹石である。

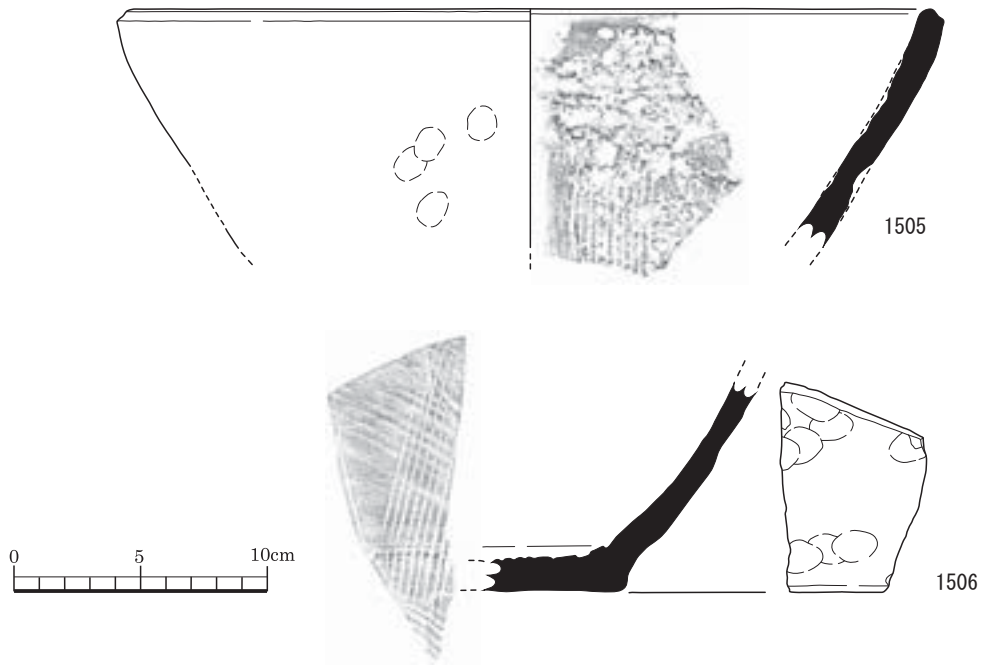


図 449　SE1 出土土器（RP）実測図

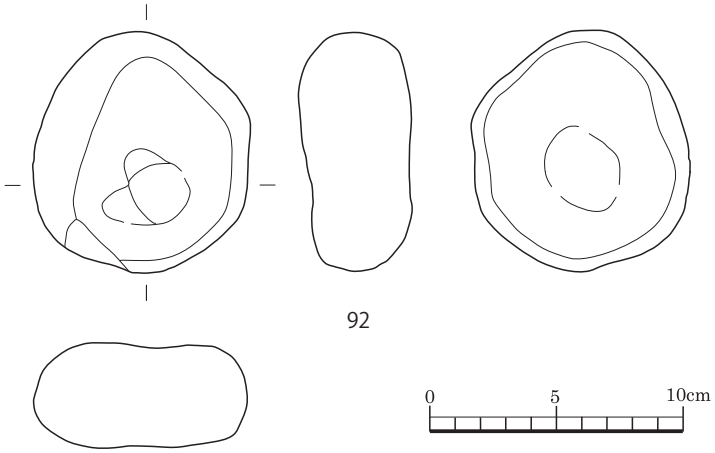


図 450　SE1 出土石器（RQ）実測図

土壙 4（SK4）

SK4 は、正方形を呈する土壙である。2330 グリッドに位置する。

SK4 の法量は、南北 2.3m、東西 2.2m、遺構確認面からの深さ 0.1m を測る。

SK4 は、床面まで浅い土壙であり、その中央には人頭大の礫が位置し、床面には河川礫層が露出している。

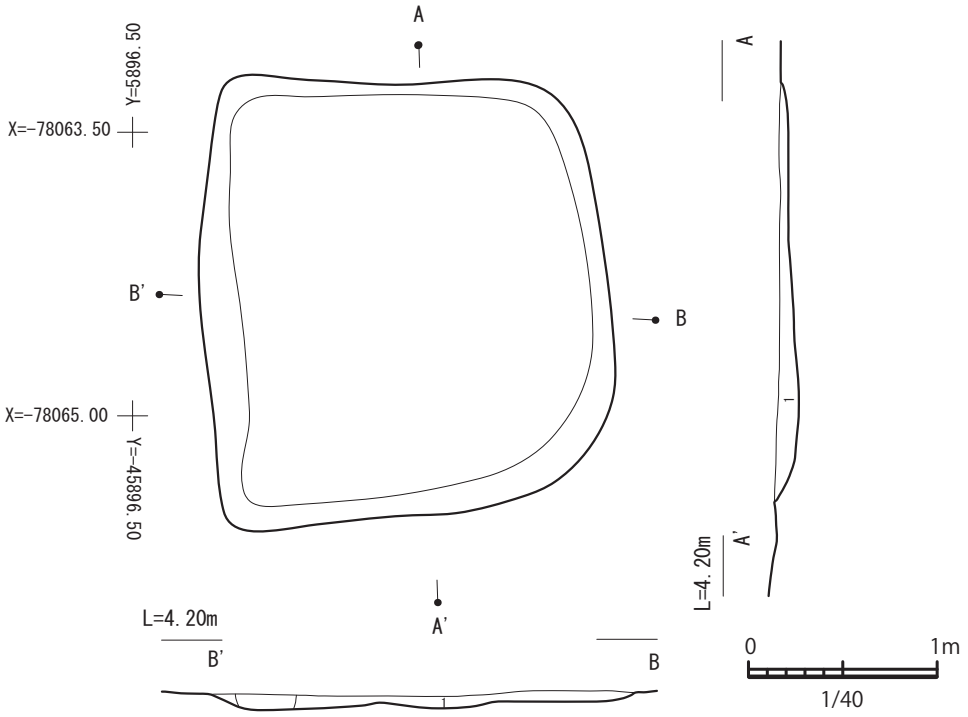
土壙 3（SK3）

SK3 は、円形を呈する土壙である。2330 グリッドに位置する。

SK3 の法量は、南北 1.6 m、東西 1.8 m、遺構確認面からの深さ 0.8m を測る。

SK3 では土師器（RP1507）が出土している。

RP1507 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 12cm、器高 4.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、雲母、赤色粒子、白色



1　埋1層　黒褐色（10YR 3/1）シルト　しまりあり　粘性なし　焼土1%、炭3%、10cm大のレキが多く混じる

図 451　SK4 実測図（1/40）

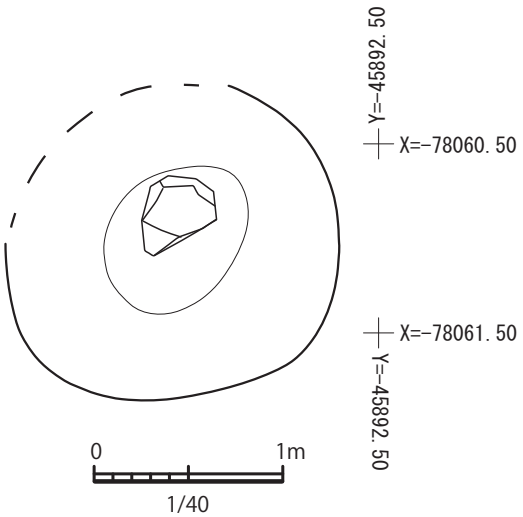


図 452　SK3 実測図（1/40）

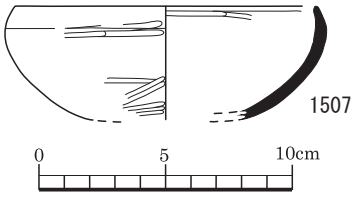


図 453　SK3 出土土器（RP）実測図

粒子が観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ミガキ、内面調整はヨコナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

土壙 59（SK59）

SK59 は、楕円形を呈する土壙である。2321 グリッドに位置する。

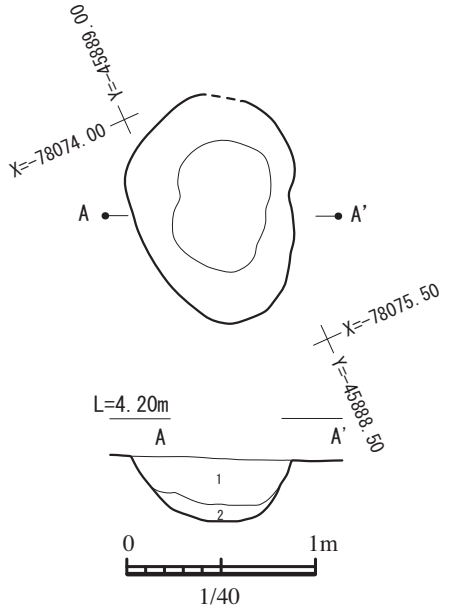
SK59 の法量は、南北 1.2m、東西 0.9m、遺構確認面からの深さ 0.3m を測る。

SK59 の北半部には多量の焼土と土器片が多く包含されていた。

SK59 では土師器（RP1510 ～ 1512）、須恵器（RP1508、1509）が出土している。

RP1508 は蓋であり、埋 1 層から出土した。口径 12.3cm、器高 4.8cm を測る。器面の外面は灰色、内面も灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この蓋は、外面調整は回転ナデ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1509 は坏であり、埋 1 層から出土した。口径 10.2cm、器高 4.7cm を測る。器面の外面はオリーブ



1　暗褐色（10YR 3/3）シルト　しまり弱い　粘性なし
　　焼土、炭化物粒状（0.2～5ｃｍ）2%含む
2　黒褐色（10YR 2/2）シルト　しまりある
　　焼土、炭化物粒状（0.2～0.5ｃｍ）2%含む

図 454　SK59 実測図（1/40）

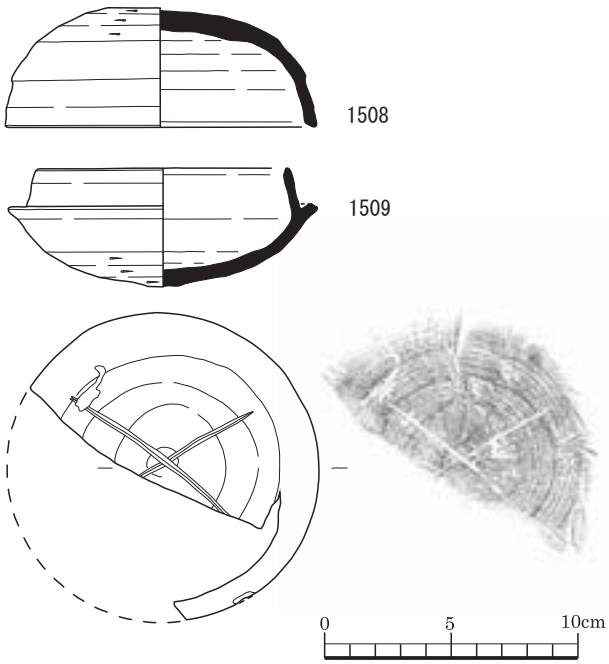


図 455　SK59 出土土器（RP）実測図

黒色、内面は灰色を呈し、胎土には長石が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラケズリ、切り離し、回転ヘラケズリ、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1510 は甕であり、埋 1、3 層から出土した。器高 23cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙、褐灰色、内面もにぶい黄橙、褐灰色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、雲母、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1511 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 17.8cm、器高 8.3cm を測る。器面の外面は黄橙色、内面は明黄褐色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1512 は甕であり、埋 1 層から出土した。器高 14.3cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面も明赤褐色を呈し、胎土には 1 ～ 3㎜の長石、白色粒子含むが観察される。この甕は、外面調整はハケメ、工具ナデ、内面調整はケズリにより製作され、焼成は良である。

土壙 1754（SK1754）

SK1754 は、楕円形を呈する土壙である。2300 グリッドに位置する。

SK1754 の法量は、南北 1.8 m、東西 2.8 m、遺構確認面からの深さ 0.5m を測る。SK1754 の西側には粘土が焼けた焼土が分布し、土壙内には灰と炭化物が堆積していた。

SK1754 では土師器（RP1513 ～ 1517）が出土している。

RP1513 は皿であり、埋 1 層から出土した。口径 6.2cm、底径 4.2cm、器高 1.7cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には赤色粒子含むが観察される。この皿は、外面調整は回転ナデ、回転糸切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良好である。

RP1514 は皿であり、埋 3 層から出土した。口径 10cm、底径 6cm、器高 2.3cm を測る。器面の外面は浅黄橙色、内面も浅黄橙色を呈し、胎土には石英、赤

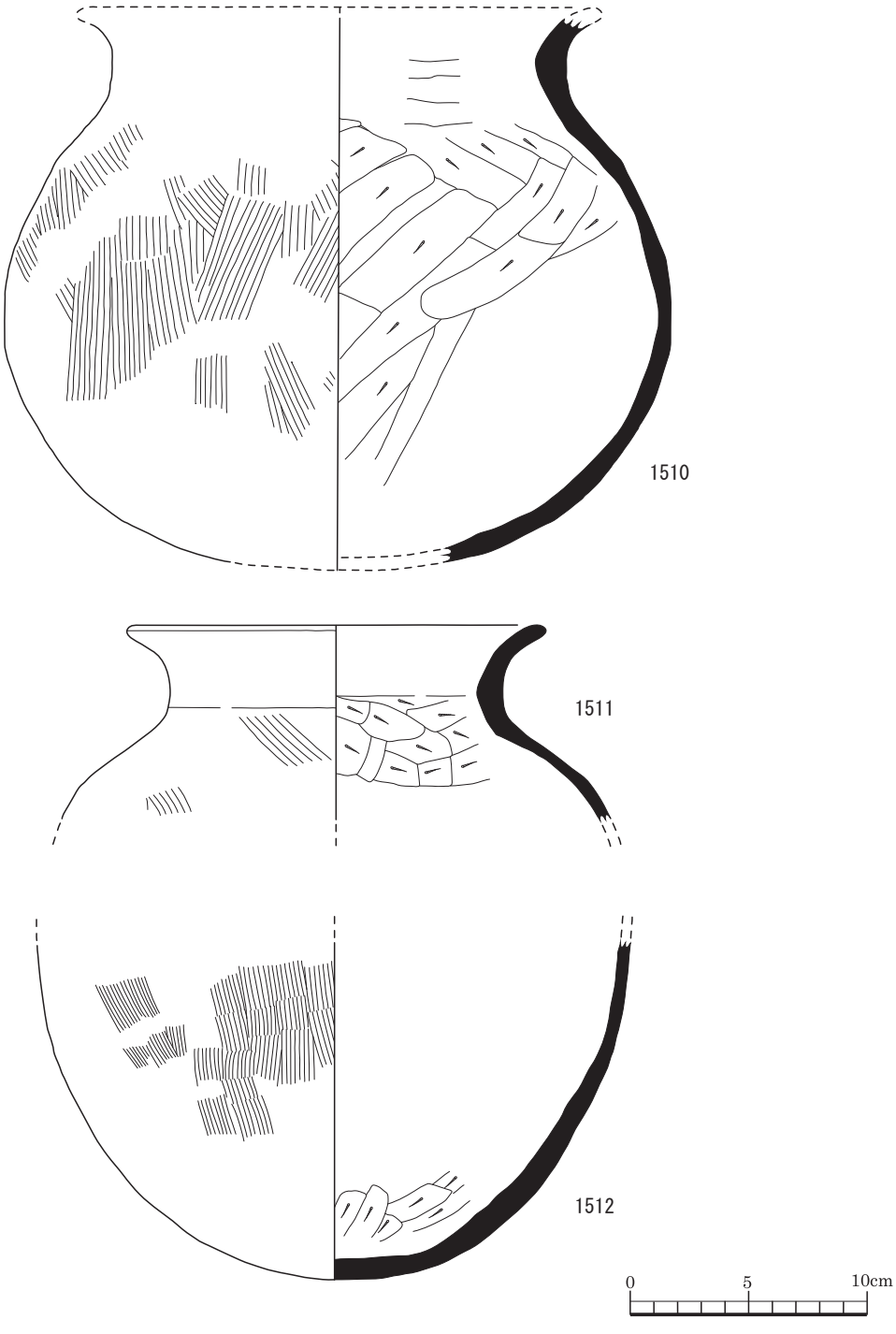
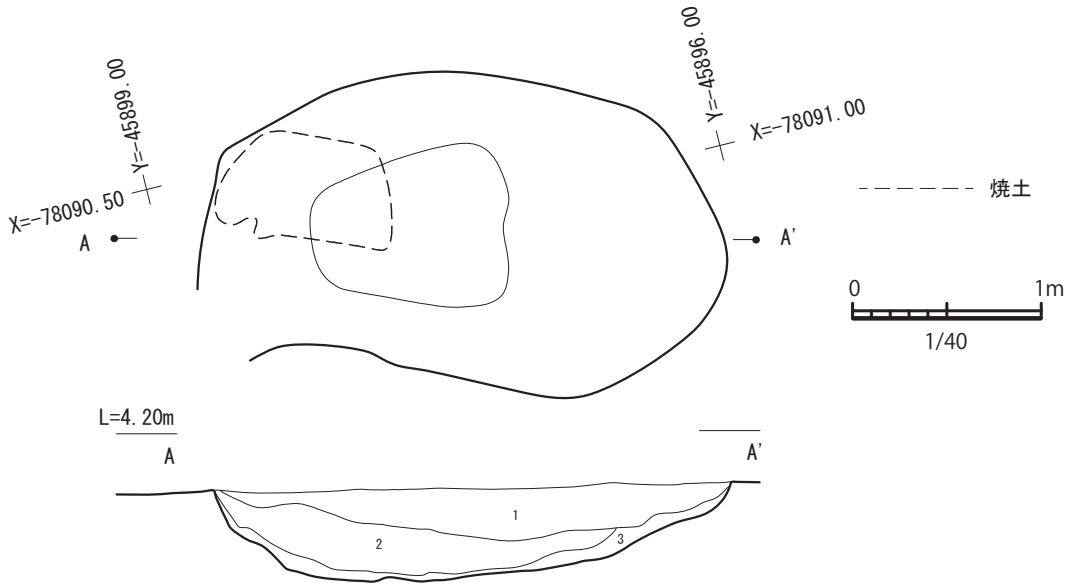


図 456　SK59 出土土器（RP）実測図



1　埋1層　灰黄褐色（10YR 4/2）シルト　しまりあり　粘性少しあり　黄褐色土(10YR5/6)が10%混ざっている　焼土粒(1cm大)1%含む　白磁あり
2　埋2層　褐灰色（10YR 4/1）シルト　しまりあり　粘性あり　褐色土(10YR4/4)斑状を5%、炭化物粒(0.2～1.0cm大)1%、焼土粒(0.5～1.0cm大)1%含む　遺物あり
3　埋3層　暗灰黄色（2.5Y 4/2）シルト　しまりあり　粘性なし　粗砂が少し混ざる　炭化物粒(0.5cm大)1%、焼土粒(0.5～1.0cm大)1%含む　遺物あり

図 457　SK1754 実測図（1/40）

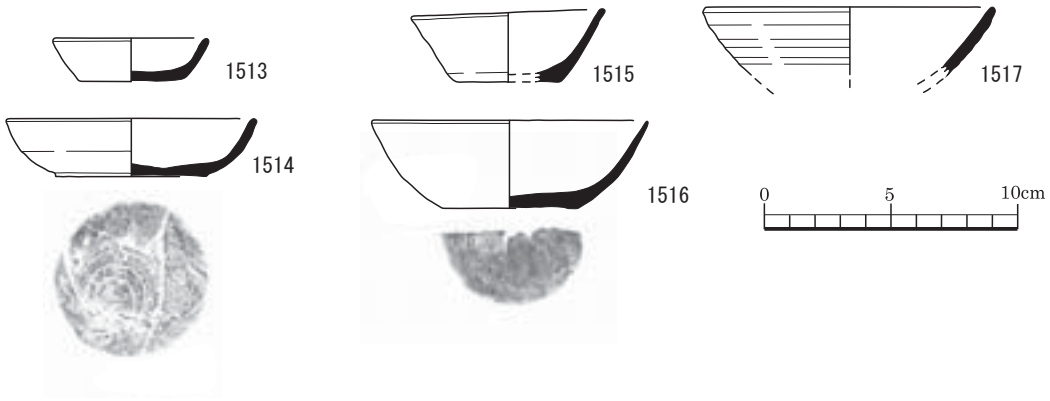


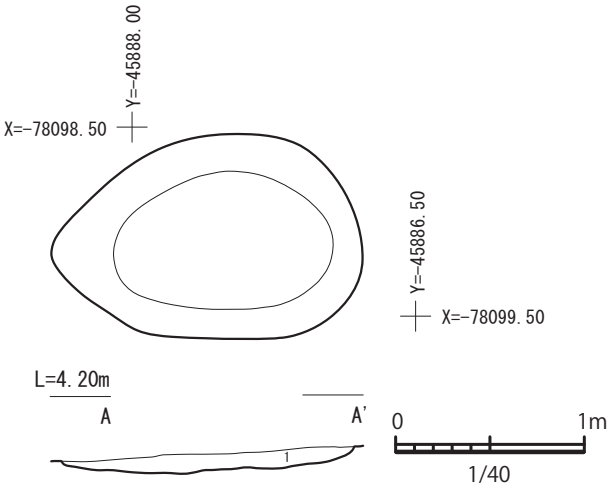
図 458　SK1754 出土土器（RP）実測図

色粒子が観察される。この皿は､外面調整は回転ナデ、回転糸切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1515 は坏であり、埋 1 ～ 3 層から出土した。口径 7.7cm、底径 4.2cm、器高 2.75cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には微量の金雲母、長石含むが観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転糸切り離し、内面調整は回転ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1516 は坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 11cm、底径 5.4cm、器高 3.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には密、雲母、白色粒子含むが観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、回転糸切り離し、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1517 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 11.6cm、器高 2.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には微量の金雲母、1 ～ 2㎜の砂粒が観察される。この坏は、外面調整は回転ナデ、内面調整は回転ナデにより製作され､焼成は良である。



1　埋1層　暗褐色（10YR 3/3）シルト　しまりあり　粘性あり
　　炭化物ブロック（0.5～10.0cm大）20%含む
　　焼土粒（0.2～2.5cm大）5%含む、遺物あり

図 459　SK1750 実測図（1/40）

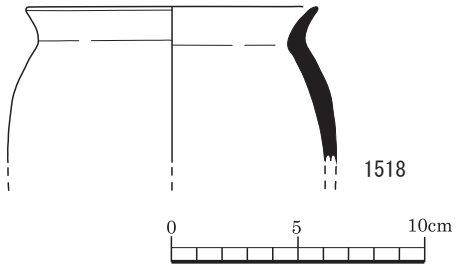


図 460　SK1750 出土土器（RP）実測図

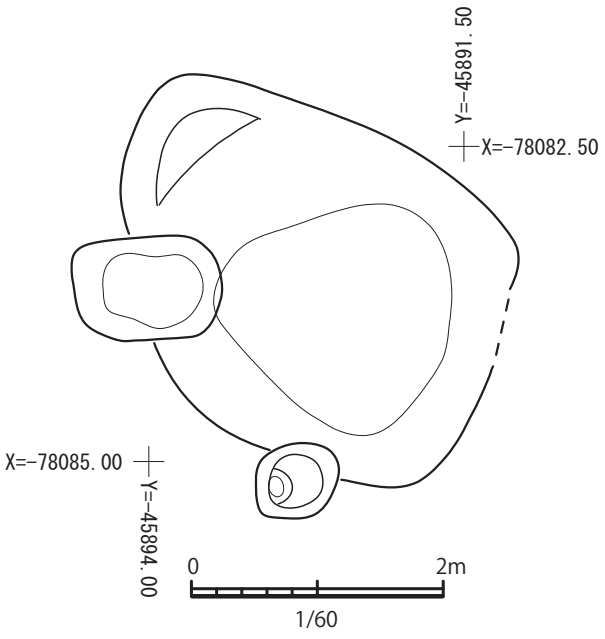


図 461　SK1579 実測図（1/60）

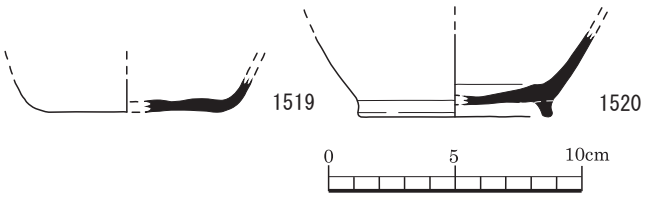


図 462　SK1579 出土土器（RP）実測図

土壙 SK1750

SK1750 は、楕円形を呈する土壙である。2301 グリッドに位置する。

SK1750 の法量は、南北 1.1m、東西 1.8m、遺構確認面からの深さ 0.1m を測る。

SK1750 では土師器（RP1518）が出土している。

RP1518 は甕であり、埋 1 層から出土した。口径 11.6cm、器高 6.1cm を測る。器面の外面は黄橙色、内面も黄橙色を呈し、胎土には長石、角閃石、赤色粒子、白色粒子が観察される。この甕は、外面調整はナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

土壙 SK1579

SK1579 は、楕円形を呈する土壙である。2310 グリッドに位置する。

SK1579 の法量は、南北 2.7 m、東西 3.2 m、を測る。土壙の中心部では大型の礫が多く検出された。

SK1579 では土師器（RP1519、1520）、瓦質土器（1521、1522）、石器（RQ93）が出土している。

RP1519 は坏であり、埋 1 層から出土した。底径 7.6cm、器高 1.3cm を測る。器面の外面は明赤褐、暗灰黄色、内面も明赤褐、暗灰黄色を呈し、胎土には長石、石英、雲母、褐色粒子が観察される。この坏は、外面調整はナデ、回転ヘラ切り離し、ナデ、内面調整はナデにより製作され、焼成は不良である。

RP1520 は埦であり、埋 1 層から出土した。底径 7.7cm、器高 3.3cm を測る。器面の外面は灰白、橙色、内面も灰白、橙色を呈し、胎土には長石、雲母が観察される。この埦は、外面調整は回転ナデ、回転ヘラ切り離し、貼付高台、ナデ、内面調整は回転ナデ、ナデにより製作され、焼成は良である。

RP1521 は擂鉢であり、埋 1 層から出土した。器高 6.6cm を測る。器面の外面は灰白色、内面は灰色を呈し、胎土には長石、石英、角閃石が観察される。この擂鉢は、外面調整は指オサエ、ナデ、内面調整はハケメ、スリ目により製作され、焼成は良である。

RP1522 は擂鉢であり、埋 1 層から出土した。口径 30cm、器高 5.9cm を測る。器面の外面はにぶい黄橙色、内面もにぶい黄橙色を呈し、胎土には長石、石英

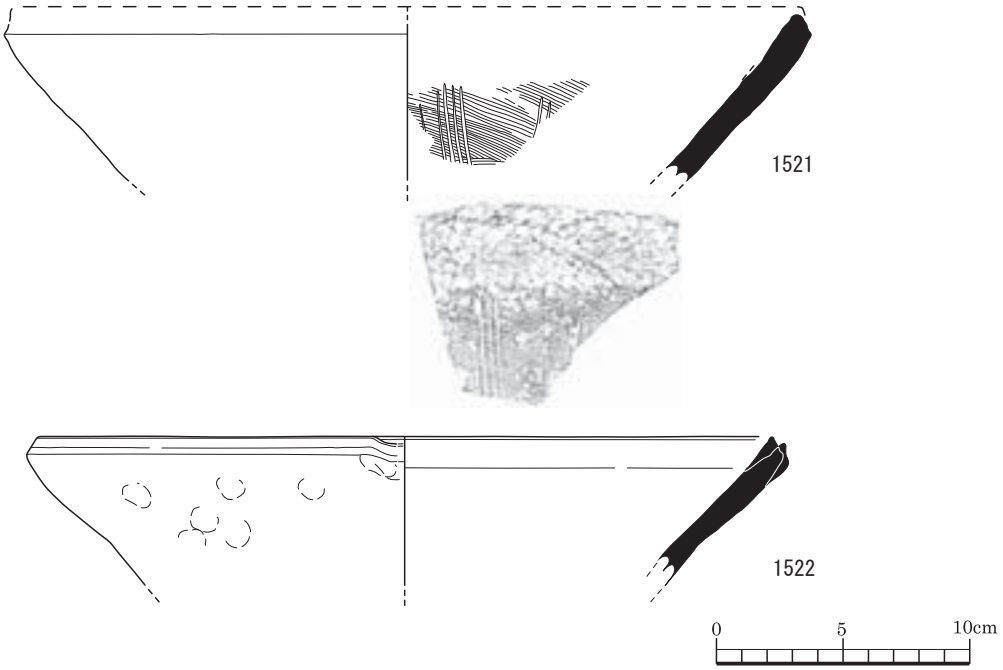


図 463　SK1579 出土土器（RP）実測図

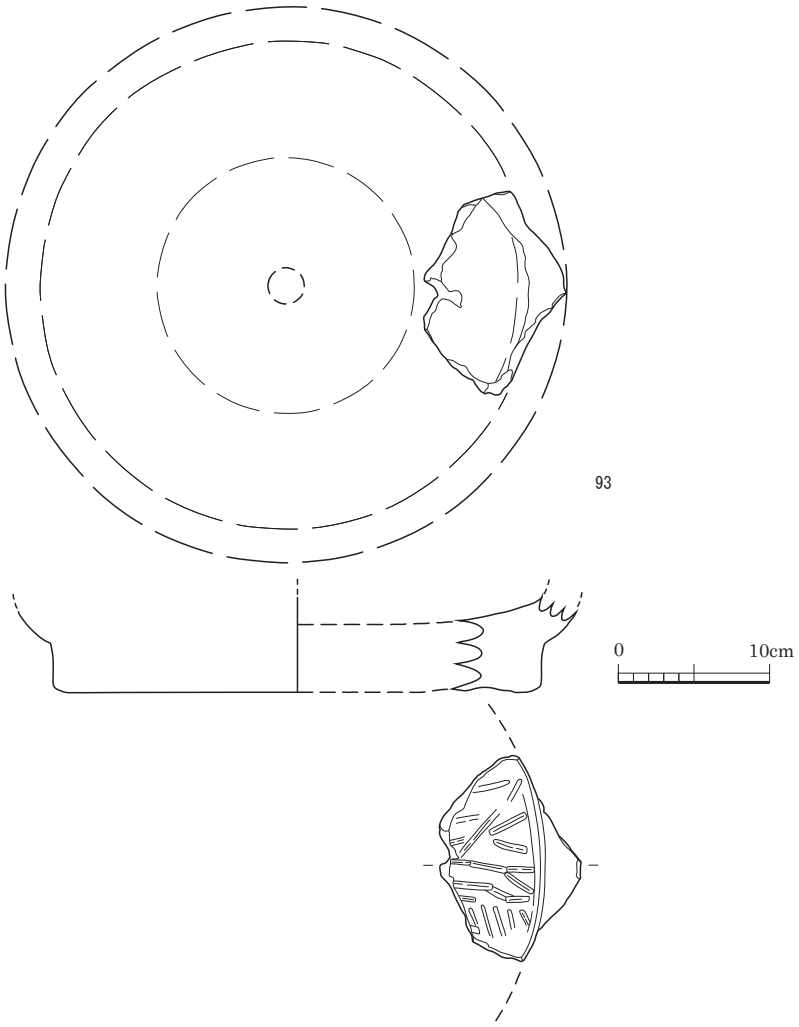


図 464　SK1579 出土石器（RQ）実測図

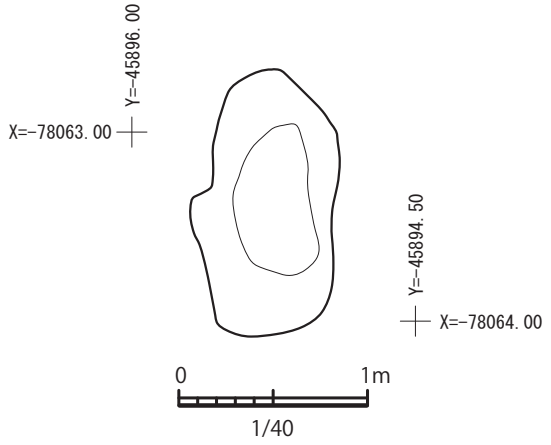
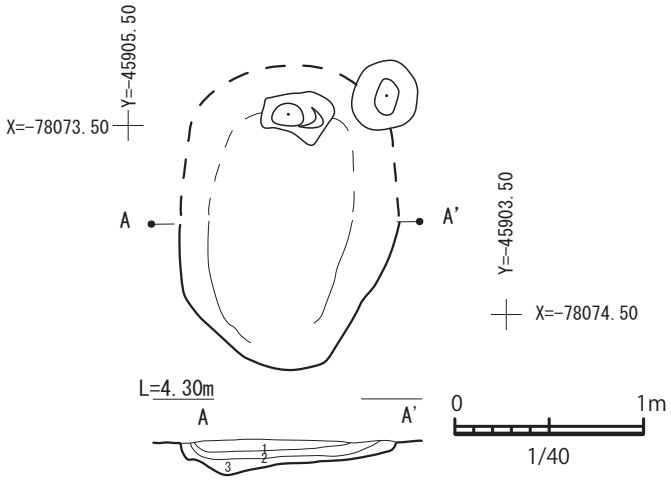
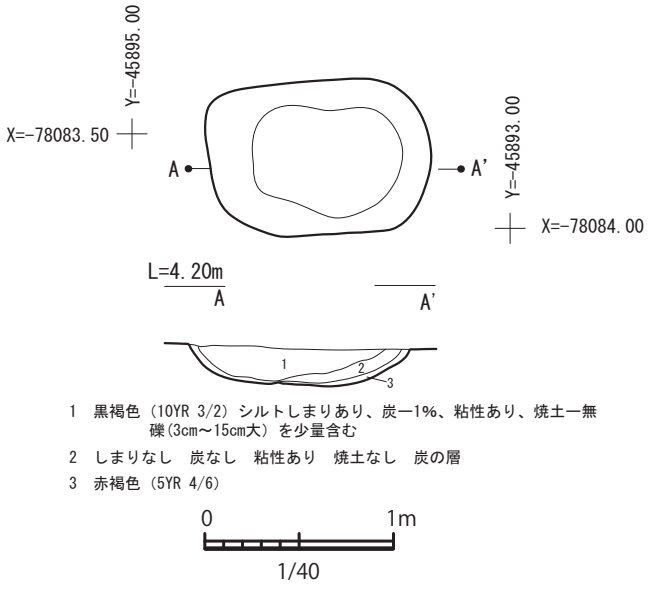


図 465　SK827 実測図（1/40）



1　埋1層　暗褐色（YR3/3）しまりあり　炭10%
　　粘性あり　焼土10%、炭、焼土を少量含む
2　埋2層　青黒色土（5B1.7/1）しまりあり　炭90%　粘性あり
　　焼土なし　炭の層にぶい黄褐色土が混じる
3　埋3層　にぶい赤褐色（5YR4/4）しまりあり　炭なし　粘性あり
　　焼土90%　焼土の層　にぶい黄褐色土が混じる

図 466　SK1103 実測図（1/40）



1　黒褐色（10YR 3/2）シルトしまりあり、炭一1%、粘性あり、焼土一無
　　礫(3cm～15cm大）を少量含む
2　しまりなし　炭なし　粘性あり　焼土なし　炭の層
3　赤褐色（5YR 4/6）

図 467　SK1415 実測図（1/40）

が観察される。この擂鉢は、外面調整は指オサエ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はヘラナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良好である。

RQ93 は、石臼である。上臼破片であり、目は逝かれたままである。

土壙 827（SK827）

SK827 は、楕円形を呈する土壙である。2330 グリッドに位置する。

SK827 の法量は、南北 1.4 m、東西 0.8 m、を測る。

SK827 から人骨が出土した。人骨は頭位を北にとり、西に向かい半側臥位をとる。

頭蓋骨は西を向いているものと予想しているが、崩壊が著しいため判別できない。耳孔より後部が残存し、その残存率は 50%である。

上肢のうち、前腕部を含めて両上腕骨は良好な残存をみせるが、手関節より遠位は残存していない。上肢は、胸部で左前腕を上位、右前腕を下位に交差させている。残存率は 90%である。

下肢は、股関節、膝関節を屈曲させ、かつ、西に倒している。大腿部から下腿部までは左部が上位にあるのに対し、足関節より遠位はこれが逆転している。なかでも右足関節の角度は正常域を逸脱しているように見受けられる。また、左大腿骨頸部が寛骨臼からはずれて、骨頭が折られている、と観察した。このことから、踝は結束されていたものと理解している。

左大腿骨長は 41cm を測り、男性人骨における推定身長は 156cm となる。

2.50 ×左大腿骨最大長＋ 53.560 ＝ 156.05（cm）
〔藤井式〕

なお、SK827 は、5 月 21 日から 6 月 5 日までの期間にブルーシートで養生を施しながら調査したが、5 月 31 日から 6 月 3 日は雨天等で現場中止となり、6 月 4 日にシートを開けるとネズミが営巣し、左骨盤と左腓骨をネズミに齧られていた。

土壙 1103（SK1103）

SK1103 は、楕円形を呈する土壙である。2229 グリッドに位置する。

SK1103 の法量は、南北 1.2 m、東西 1.2 m、遺構

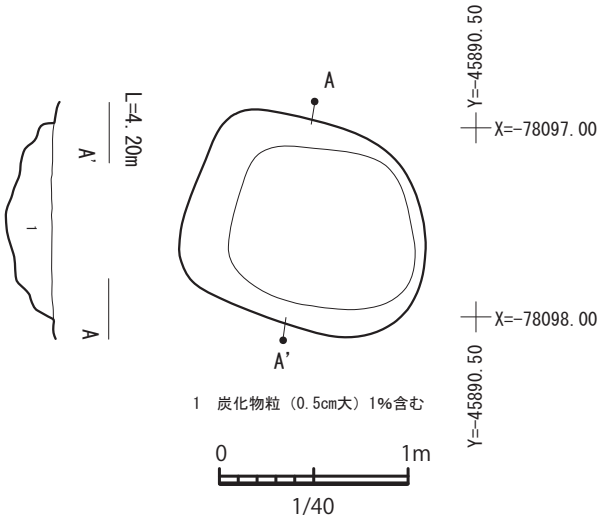


図 468　SK1866 実測図（1/40）

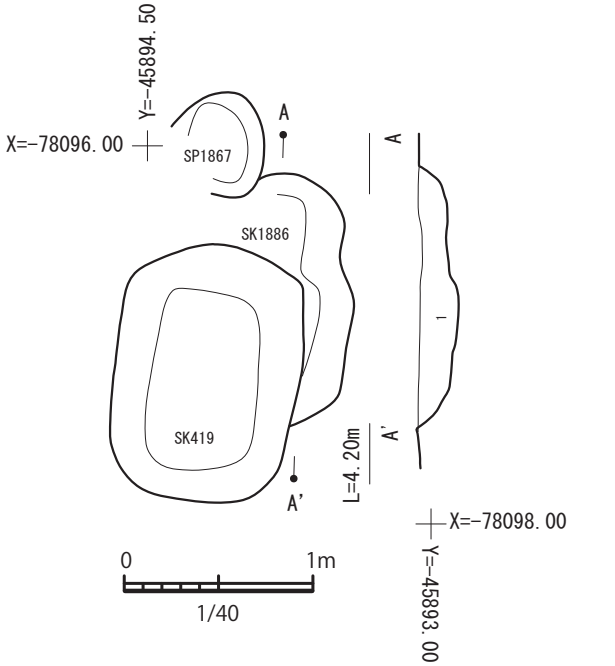


図 469　SK1886 実測図（1/40）

確認面からの深さ 0.2m を測る。

埋土には多量の炭化物が含まれていた。

土壙 1415（SK1415）

SK1415 は、楕円形を呈する土壙である。2310 グリッドに位置する。

SK1415 の法量は、南北 0.8 m、東西 1.2 m、遺構確認面からの深さ 0.2m を測る。

埋 1 層除去後、炭化物が多量に出土した。

土壙 1866（SK1866）

SK1866 は、円形を呈する土壙である。2300 グリッドに位置する。

SK1866 の法量は、南北 1.1 m、東西 1.3 m、遺構確認面からの深さ 0.2m を測る。

土壙 1886（SK1886）

SK1886 は、方形を呈する土壙である。SK1886 は、SK419、SP1867 に切られる。2300 グリッドに位置する。

SK1886 の法量は、南北 1.1 m、東西 1.3 m、遺構確認面からの深さ 0.2m を測る。

土壙 2010（SK2010）

SK2010 は、円形を呈する土壙である。2229 グリッドに位置する。

SK2010 の法量は、南北 1.2 m、東西 0.9 m、遺構確認面からの深さ 0.2m を測る。

土壙 13（SK13）

SK13 は、円形を呈する土壙である。2322 グリッドに位置する。

SK13 の法量は、南北 1.0 m、東西 1.0 m、遺構確認面からの深さ 0.4m を測る。

SK13 では土師器（RP1523 ～ 1529）、石器（RQ94）が出土している。

RP1523 は坏であり、埋 1、3 層から出土した。口径 16.4cm、器高 5.7cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には白色粒子含むが観察される。この坏は、外面調整は摩滅、ミガキ、内面調整は摩滅、ミガキにより製作され、焼成は良好である。

RP1524 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 13.4cm、器高 6.5cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には 1 ～ 2㎜の赤色粒子含むが観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ハケメ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1525 は坏であり、埋 3 層から出土した。口径 15.6cm、器高 6.3cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には長石、赤色粒子、白色粒子

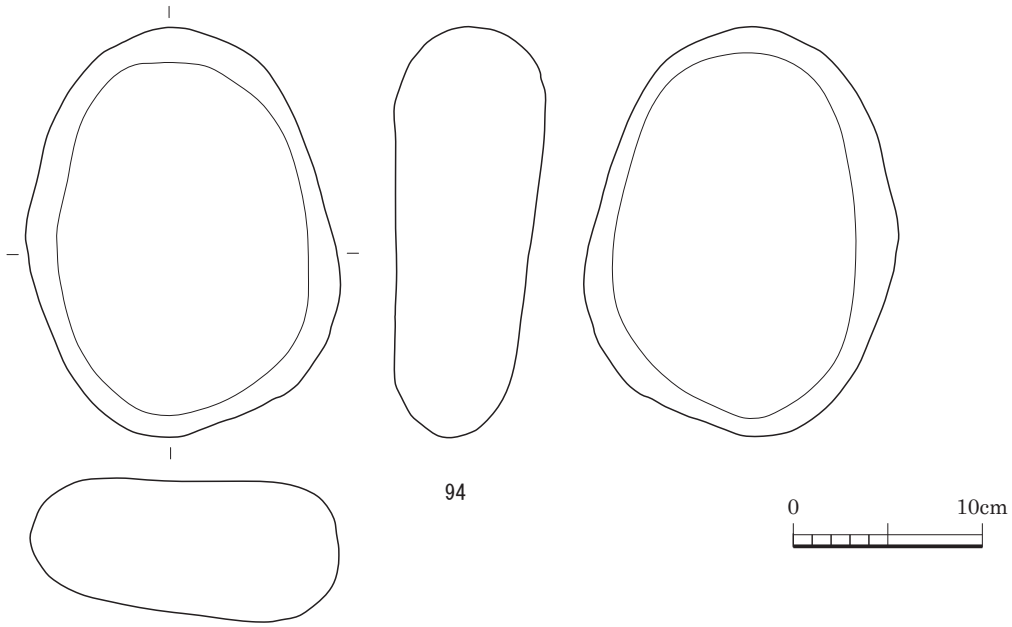


図 470　SK13 出土石器（RQ）実測図

が観察される。この坏は、外面調整はケズリ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はナデ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1526 は坏であり、埋 2、3 層から出土した。口径 13.4cm、器高 4cm を測る。器面の外面は橙色、内面も橙色を呈し、胎土には密、雲母、白色粒子含むが観察される。この坏は、外面調整はヨコナデ、ナデ、ミガキ、内面調整はヨコナデ、ナデ、ミガキにより製作され、焼成は良である。

RP1527 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 21cm、器高 7.2cm を測る。器面の外面は褐灰色、内面も褐灰色を呈し、胎土には砂粒、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ヨコナデ、内面調整はケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1528 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 15.5cm、器高 20.7cm を測る。器面の外面は明赤褐、灰褐色、内面はにぶい黄橙、橙、褐灰色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石、赤色粒子が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RP1529 は甕であり、埋 3 層から出土した。口径 17.8cm、器高 26.6cm を測る。器面の外面は明赤褐色、内面はにぶい赤褐、黒色を呈し、胎土には石英、長石、雲母、角閃石が観察される。この甕は、外面調整はハケメ、ナデ、ヨコナデ、内面調整はハケメ、ケズリ、ヨコナデにより製作され、焼成は良である。

RQ94 は、台石である。

箆書土器

調査区 9 区からは箆書土器が出土している。いずれも焼成前に箆を用いて記号又を書いている。

記号が記されていた土器は、RP1434「×」、1435「1111」、1473「D」、1475「11」、1479「111」、1509「×」、1524「卜」、1543「×に＋」、1578「V」である。

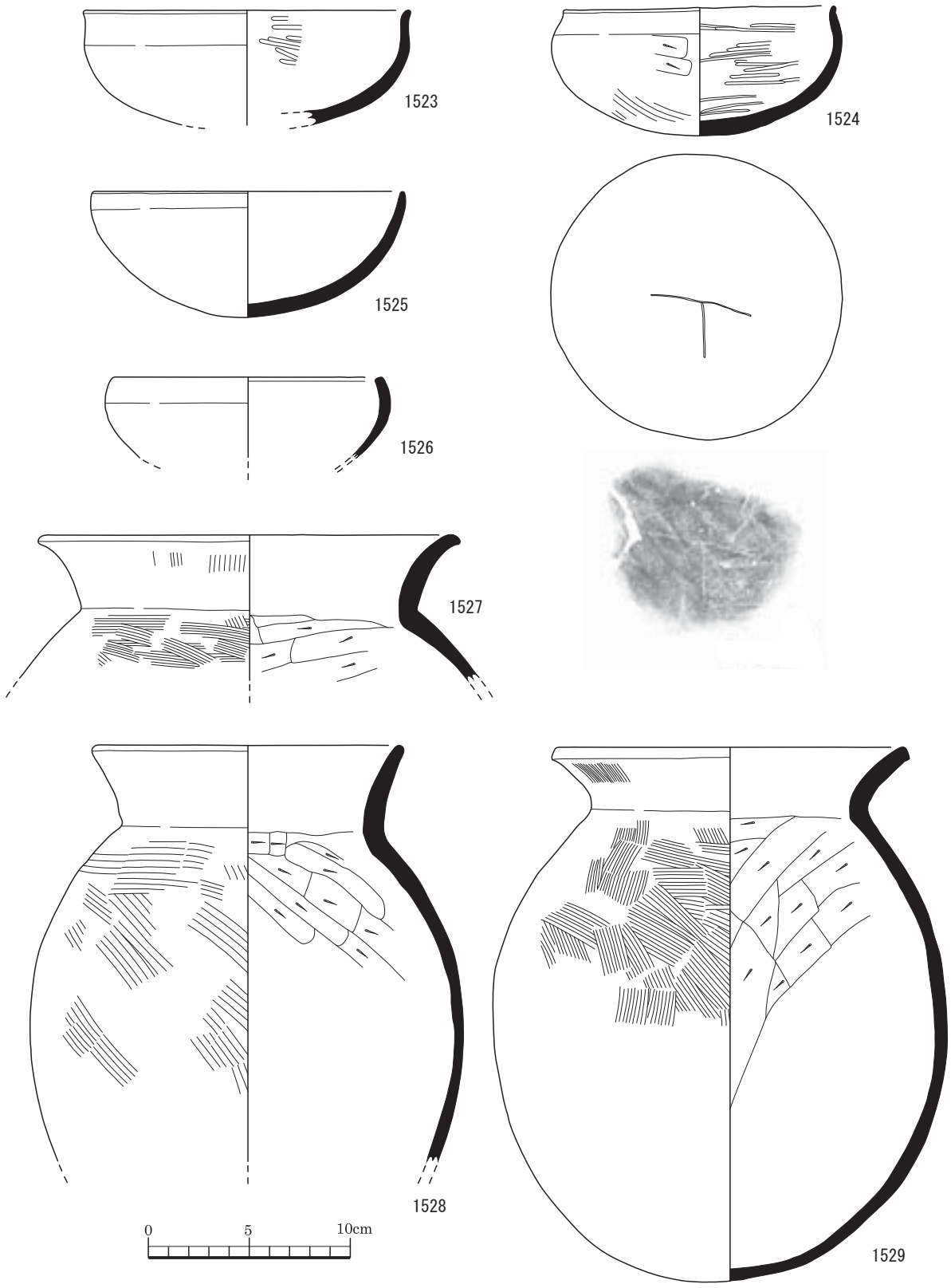


図 471　SK13 出土土器（RP）実測図

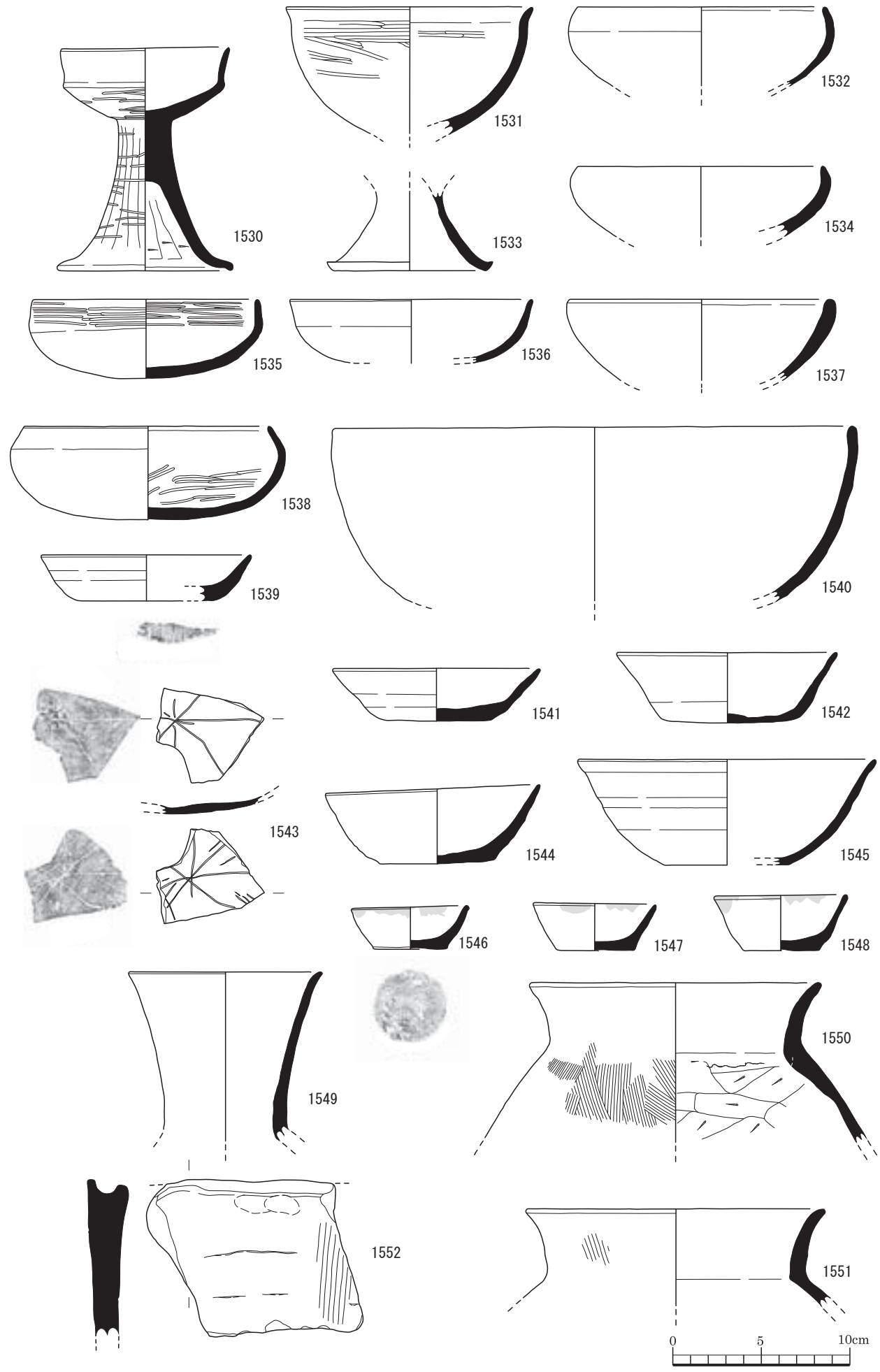


図 472　SK13 出土土器（RP）実測図

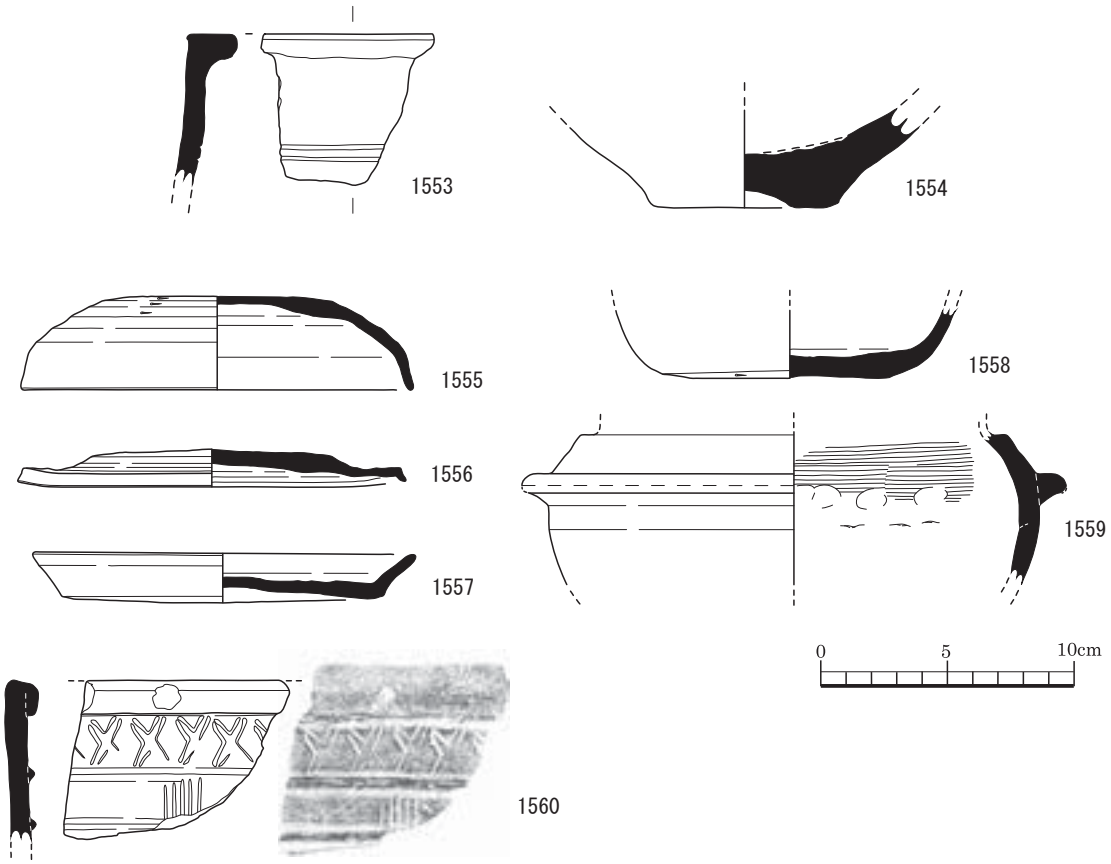


図 473　ピット出土土器（RP）実測図

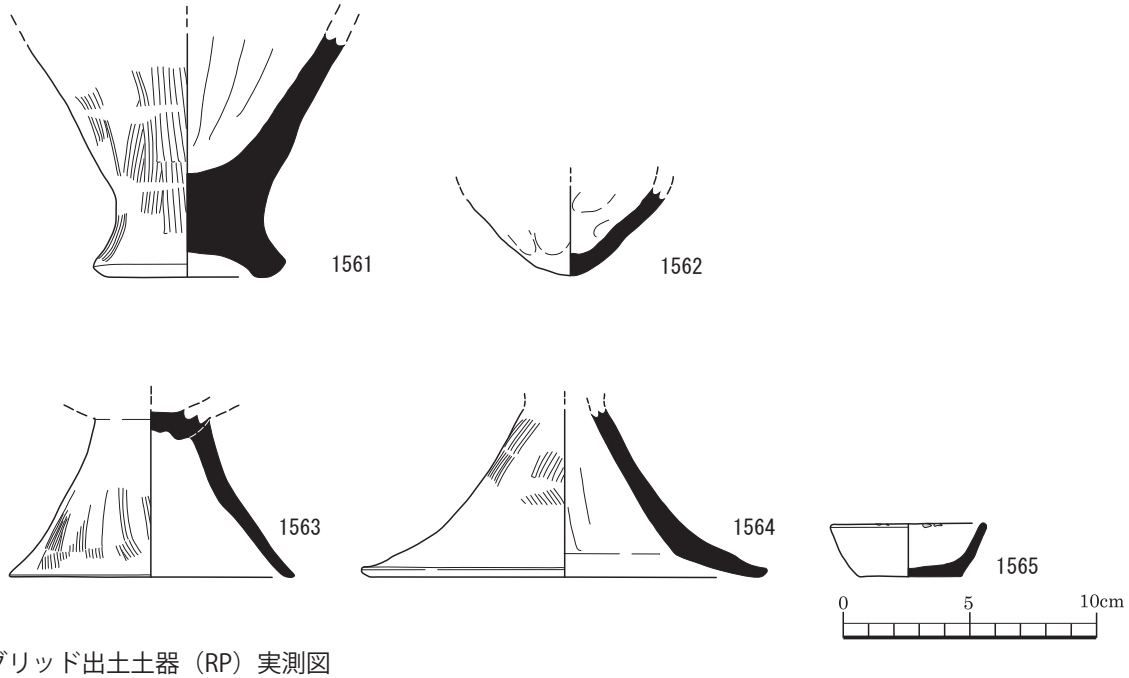


図 474　グリッド出土土器（RP）実測図

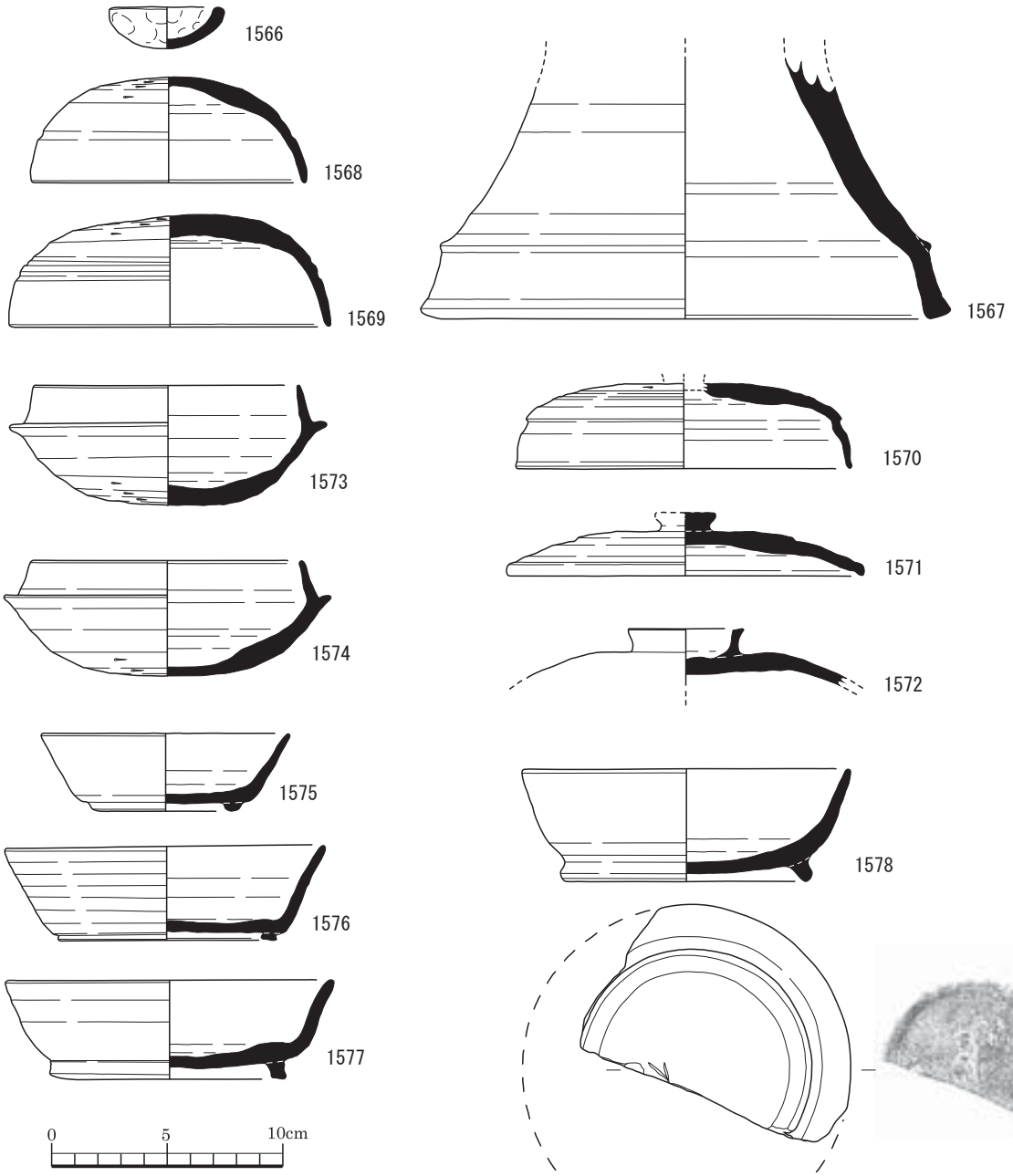


図 475　グリッド出土土器（RP）実測図

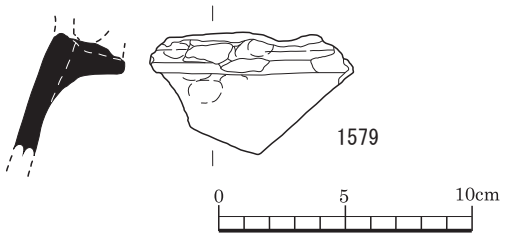


図 476　グリッド出土土器（RP）実測図

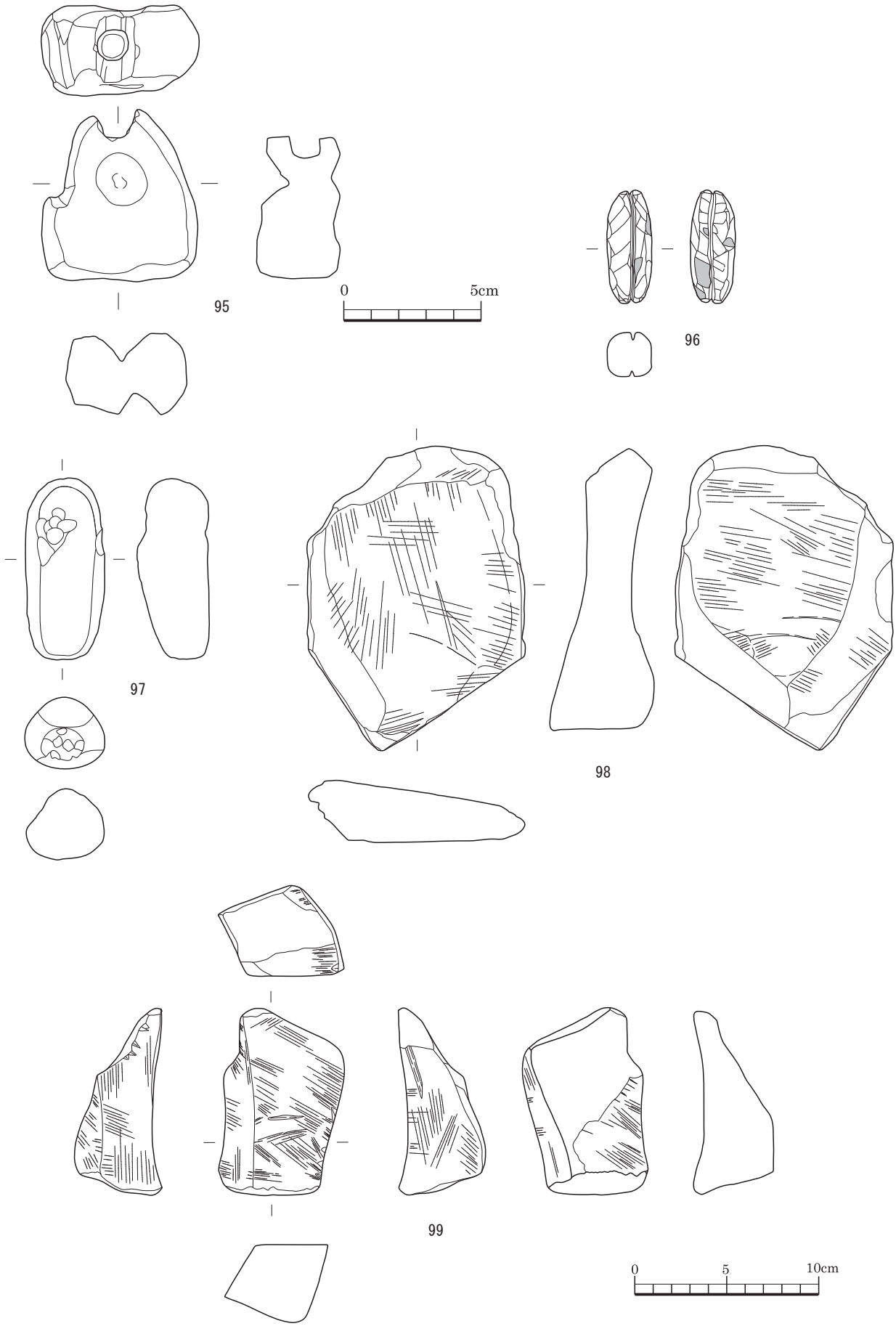


図 477　ピット出土石器（RQ）実測図

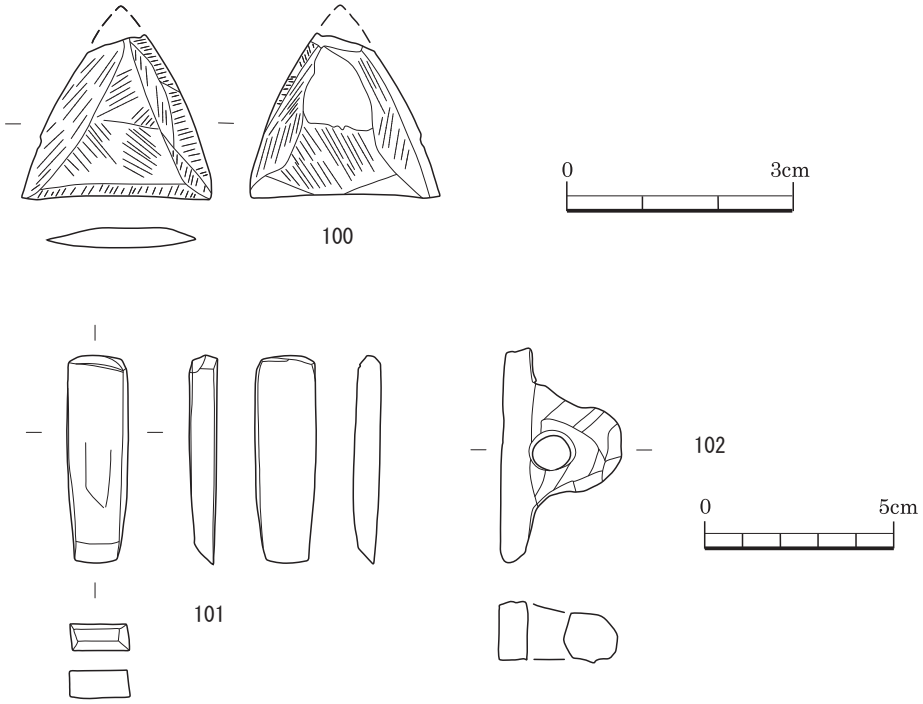


図 478　グリッド出土石器（RQ）実測図

3 附表

3-1　土器（RP）一覧
3-2　石器（RQ）一覧

Lustiges Zusammensein der Landleute.

3-1　土器（RP）一覧

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1	坏	1	SB1			(13.2)	-	(3.8)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/4 残存　反転復元
2	坏	1	SB1		1 層	(15.0)	-	4.1	橙	5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部～底部 1/3 残存　一部反転復元
3	鉢	1	SB1			(15.5)	(7.6)	(7.0)	にぶい黄橙	10YR 6/3	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 1/8～ 底部 ほぼ完形　外：黒斑 ハケ単位不明瞭 5 本 一部　反転復元
4	甕	1	SB1			(17.0)	-	(5.3)	明赤褐	5YR 5/6	橙	7.5YR6/6	口縁部～胴部 1/6 残存 内、外：摩滅気味　反転復元
5	甕	1	SB1		埋 1 層	-	-	(4.2)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 1/8 以下残存 口縁部はヨコナデの痕跡が強く残る
6	甕	1	SB1		埋 1 層	(18.9)	-	(7.4)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
7	甕	1	SB1		埋 1 層	(23.8)	-	(5.4)	橙	7.5YR 6/6	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 1/8 以下残存　反転復元
8	甑	1	SB1			-	(15.8)	(9.4)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	底部～胴部 1/6 残存　反転復元
9	蓋	1 1	SB1	F7	埋 1 層 1 層	(14.2)	-	1.8	灰白	N 8/	灰白	N 8/	天井部～口縁部 1/2 残存 外：自然釉 灰 5Y 6/1　反転復元
10	蓋	1	SB1			18.4	-	2.6	灰白	N 7/	灰白	N 7/	ほぼ完形　外：自然釉 灰 7.5Y 6/1
11	蓋	1	SB1		埋 1 層	(20.0)	-	(0.7)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/6 残存　反転復元
12	坏	1	SB1	E7	1 層	12.9	9.1	3.0	灰白	2.5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部残存 内、外：自然釉 灰 5Y 5/1
3	埦	1 1	SB1	F7	埋 1 層 1 層	(12.0)	7.8	4.1	灰	N 5/	灰	5Y 5/1	口縁部～底部 3/4 残存 反転復元
14	埦	1	SB1		埋 1 層	(14.2)	(10.6)	3.9	灰	N 5/	灰白	N 7/	口縁部～高台 1/4 残存　反転復元
15	壺	1	SB1		埋 1 層	-	8.9	(4.9)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	胴部～底部 2/3 残存 内面に輪積痕あり　反転復元
16	壺	1 1	SB1	C2	埋 1 層 1 層	(21.2)	-	(23.1)	灰	7.5Y 6/1	灰白 浅黄橙	5Y 6/1 10YR8/3	口縁部～胴部 1/4 残存 反転復元
17	台付鉢	1	SB2			-	9.0	(4.5)	浅黄橙 にぶい橙	10YR8/3 7.5YR 7/4	浅黄橙 にぶい橙	10YR8/3 7.5YR 7/4	脚台のみほぼ完形 内：黒斑
18	壺	1	SB2		埋 1 層	-	-	(3.2)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 1/8 細片　内、外：摩滅
19	甕	1	SB2			-	-	(5.8)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部 細片　内、外：摩滅
20	甕	1	SB2		埋 1 層	(19.8)	-	(4.8)	橙	7.5YR 7/6	にぶい褐	7.5YR 5/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
21	甑	1	SB2			-	-	(6.5)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	把手完形　内：接合面ハガレ
22	甑	1	SB2			-	-	(9.7)	にぶい橙	7.5YR 6/4	橙	7.5YR 6/6	把手完形
23	埦	1 1	SB2	F7	埋 1 層 1 層	13.5	(4.1)	-	灰	N 5/	灰白	2.5Y 7/1	口縁部～底部 3/4 残存 高台欠損　外：自然釉
24	埦	1	SB2		埋 1 層	-	(9.8)	(3.5)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	胴部～高台 1/2 残存 外：自然釉　反転復元
25	坏	1	SB3			(12.5)	(8.1)	5.0	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～底部 1/5 残存　反転復元
26	坏	1	SB3			(15.9)	(8.4)	(4.3)	橙	5YR 6/6	橙 にぶい褐	7.5YR 6/6 7.5YR 5/3	全体的に摩滅の為不明 反転復元
27	甑	1	SB3		1 層	-	-	(8.1)	橙 にぶい褐	7.5YR 7/6 7.5YR 5/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 破片　外：縦方向のハケ 7 本以上 1 単位全体に摩滅気味
28	甕	1	SB3			-	-	(3.5)	にぶい黄褐	10YR 5/3	橙	5YR 6/6	口縁部 細片
29	甕	1	SB3			(18.4)	-	(4.1)	橙	7.5YR 7/6	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
30	甕	1	SB3			(24.0)	-	(5.6)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 1/6 残存　反転復元
31	甕	1	SB3			(16.2)	-	(6.5)	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
32	甕	1	SB3			(24.2)	-	(5.2)	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
33	甑	1	SB3			-	-	(5.0)	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	把手 先端部欠損　内、外：摩滅
34	把手	1	SB3			-	-	(11.4)	橙 灰褐	7.5YR6/6 7.5YR 4/2	にぶい褐	7.5YR 5/4	把手 2/3 残存　下部にスス付着
35	甕	1	SB3			(30.6)	-	(4.4)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
36	甕	1	SB3			(30.0)	-	(5.0)	橙	7.5YR 7/6	明黄褐	10YR 7/6	口縁部 1/6 残存　反転復元
37	蓋	1 1	SB3	C5	1 層	(13.2)	-	1.5	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 2/5 残存 反転復元
38	蓋	1	SB3			(16.8)	-	1.5	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存　反転復元
39	坏	1	SB3			12.1	8.9	4.1	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 2/3 残存　全体に火襷
40	埦	1	SB3			(14.6)	(9.0)	4.7	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/4 残存 大粒の粒子含む　反転復元
41	埦	1	SB3			14.0	9.1	3.9	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～高台 3/4 残存
42	埦	1	SB3			(12.7)	7.5	4.2	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/2 残存 内 : 鉄分付着　反転復元
43	埦	1	SB3			(16.0)	9.7	5.6	灰黄褐	10YR 6/2	灰褐	7.5YR 6/2	口縁部～底部 3/4 残存　反転復元
44	鉢	1	SB7		埋 1 層	-	-	(6.9)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/8 残存　内、外 : 摩滅
45	坏	1	SB7		埋 1 層	(13.4)	-	(3.1)	黄灰	2.5Y 6/1	灰白	10YR 8/2	口縁部～胴部 1/8 残存　反転復元
46	蓋	1	SB8			(14.0)	-	1.9	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
47	埦	1	SB8			-	(11.6)	(2.0)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	高台部 1/3 残存　反転復元
48	甕	1	SB8			(15.8)	-	(7.0)	にぶい褐	7.5YR 5/4	灰黄褐	10YR 4/2	口縁部～胴部 1/6 残存 全体的に摩滅　反転復元
49	甕	1	SB10			(24.2)	-	(5.5)	橙	7.5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～胴部 1/4 残存 全体的に摩滅　反転復元
50	甕	1	SB10			(22.4)	-	(9.7)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部～胴部 1/6 残存 内、外 : 摩滅　反転復元
51	蓋	1	SB10			(13.8)	-	1.1	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
52	甑	1	SB10			-	-	(3.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	-	-	把手部 一部欠損
53	蓋	1	S136 （SB39）			-	-	(2.0)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～胴部 1/4 残存　反転復元
54	埦	1	S81 （SB79）			14.1	9.8	4.9	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/2 残存
55	坏	1 1	SK42 SK55		1 層	(11.6)	(6.0)	4.4	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 1/4 残存底部摩滅 一部反転復元
56	-	1	SK42		1 層	-	-	(5.5)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部破片
57	片口 土器	1 1	SK41 SK42			-	-	(7.2)	にぶい褐	7.5YR 5/4	にぶい褐	7.5YR 5/4	口縁部破片片口部残存
58	甕	1	SK42			(18.6)	-	(5.6)	橙	5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
59	甕	1	SK42		1 層	(16.6)	-	(9.5)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
60	壺	1	SK42			-	-	(7.7)	灰	N 4/	灰	N 4/	頸部～胴部 1/5 残存　外 : 重ね焼き痕 内、外 : 自然釉　反転復元
61	甕	1	SK110			(17.8)	-	(3.1)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
62	甕	1	SK110			-	(8.3)	(4.8)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	脚台 4/5 残存内 : 横方向の工具ナデ 外 : 指頭圧痕後ナデ　一部反転復元
63	壺	1 1	SK110	E7	1 層	16.9	6.1	45.0	にぶい黄褐	10YR 5/4	褐灰	10YR 5/1	口縁部 3/4~ 胴部 1/4 残存底部 完形胴部　一部反転復元　内、外 :（下）12~14 本 1 単位幅 1.8cm 外 :（上）単位は分かりにくいが 5 本 1 単位幅 3cm 程と推定される　黒斑あり
64	坏	1	SX13		埋 1 層	(13.4)	-	(3.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存 内外ともに摩滅のため調整不明確　反転復元
65	高坏	1	SX13		1 層	-	-	(8.3)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	脚部完形、裾部欠損　一部反転復元
66	甕	1	SX13		埋 1 層	(24.8)	-	(6.2)	灰褐	7.5YR 4/2	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
67	甕	1	SX13		1 層	(17.3)	-	(10.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/3 残存　一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
68	蓋	1 1	SX13	C7	埋 1 層 3a 層	12.2	-	4.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 完形 外 : 自然釉灰 (ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 4/2)
69	埦	1	SX13		埋 1 層	-	(9.7)	(2.9)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部 ~ 底部 1/5 残存　反転復元
70	坏	1 1	SK50 SK55		1 層 1 層	(12.6)	(7.1)	5.3	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 鉄分付着（埋土中付近）　反転復元
71	坏	1	SK55		1 層	11.9	6.6	3.6	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
72	坏	1	SK55		1 層	(12.6)	(7.6)	4.1	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
73	坏	1	SK55		1 層	(13.6)	(8.0)	(3.6)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 全体的に摩滅　反転復元
74	甕	1	SK55		1 層	-	(2.0)	(9.5)	橙	5YR 6/6	橙 にぶい赤褐	7.5YR 7/6 5YR 5/4	胴部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
75	甕	1	SK55		1 層	-	-	(5.8)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 1/8 細片
76	甕	1	SK50 SK55		埋 1 層 埋 1 層	(19.6)	-	(5.6)	にぶい褐	7.5YR 5/3	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　反転復元
77	甕	1	SK55		1 層	(20.6)	-	(5.1)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
78	甕	1	SK55			(18.0)	-	(8.2)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄褐	10YR 5/3	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
79	甕	1	SK55			(15.8)	-	(10.4)	にぶい褐	7.5YR 5/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/2 残存　反転復元
80	坏	1	SK56			(12.2)	5.1	3.5	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	口縁部 1/3~ 底部ほぼ完形　一部反転復元
81	坏	1	SK56			-	(6.9)	(1.7)	にぶい黄橙	10YR 7/3	黒褐	2.5Y 3/1	内黒全体に摩耗している　反転復元
82	蓋	1	SK56			(20.4)	-	(3.1)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	天井部 ~ 口縁部 1/8 残存　反転復元
83	坏	1	SD131		1 層	(10.8)	(3.6)	(5.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/5 残存　反転復元
84	高坏	1	SD131		1 層	-	-	(7.7)	にぶい黄橙	10YR 7/4	灰黄	2.5YR 6/2	底部 1/2 残存裾部欠損 外 : 一部赤彩残る　一部反転復元
85	甕	1	SD131		1 層	(14.8)	-	(4.8)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 1/6 残存　反転復元
86	深鉢	1	SD131		埋 4 層	(31.2)	-	(6.5)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	5Y 8/1	口縁部 1/6 残存　反転復元
87	深鉢	1	SD131		埋 4 層	-	-	(10.8)	黒褐	2.5Y 3/1	黒	5Y 2/1	口縁部 1/8 残存 内、外 : スス付着　内 : 黒斑
88	坏	1	S14		埋 1 層	(12.8)	(8.0)	4.2	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 1/2 残存 外 : 鉄分付着　反転復元
89	坏	1	S11		1 層	(14.8)	-	(5.5)	-	-	-	-	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存 外 : ハケメ 6 本 1 単位　反転復元
90	坏	1	S21	C6	3a 層	(13.0)	(5.2)	3.9	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　一部反転復元
91	坏	1	S67			(12.2)	-	3.9	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
92	甕	1	S139			-	-	(2.8)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 破片　内外ともに摩滅調整が不明瞭
93	甕	1	S24		1 層	-	-	(7.0)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい褐	7.5YR 5/3	口縁部 ~ 胴部 1/8 以下残存
94	甕	1	S24		1 層	(14.0)	-	(4.9)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
95	甕	1	S169			(19.2)	-	(4.9)	灰白 橙	10YR8/2 2.5YR 6/6	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
96	甕	1	S67			(26.0)	-	(4.5)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
97	甕	1	S67		1 層	(28.2)	-	(4.6)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/8 残存　反転復元
98	甕	1	S22	C6	1 層 3a 層	(32.8)	-	(25.9)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 把手部残存　一部反転復元
99	高坏	1		D7	4 層	(24.0)	-	-	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 坏部 1/5 残存　反転復元
100	高坏	1		D7	B	-	-	(5.3)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	坏部 1/6 残存　反転復元
101	器台	1		D7	1 層	-	-	(3.0)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	脚つなぎ部完形中心部に穿孔
102	高坏	1		C6	3a 層	-	(14.6)	(7.6)	にぶい橙	7.5YR 7/3	にぶい橙	7.5YR 7/3	脚部ほぼ完形　一部反転復
103	高坏	1		C6	3a 層	-	(11.2)	(7.0)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	脚部 1/3 残存　外 : 縦方向 1 単位 8 本以上後ヨコナデ　反転復元
104	高坏	1		F7	1 層	-	(10.7)	(6.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	脚部 3/4 残存　一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
105	高坏	1		B4	5a 層	-	8.3	(5.8)	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6	胴部～脚部 1/3 残存全体に摩滅 一部反転復元
106	甕	1		E8	1 層	-	(12.0)	(4.1)	にぶい赤褐	5YR 5/4	にぶい赤褐	5YR 5/4	脚台 1/4 残存　反転復元
107	坏	1		E6	1 層	(14.0)	-	4.3	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
108	坏	1		C6		(12.8)	(9.9)	5.1	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部～底部 1/4 残存　内、外：摩滅 内：黒斑　外：赤彩　反転復元
109	坏	1		C7	3a 層	13.2	-	5.5	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	ほぼ完形
110	坏	1		C6		(14.4)	(4.0)	6.2	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
111	坏	1		C7	3a 層	(13.5)	(1.3)	5.6	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～底部 1/4 残存 内外ともに剥落が激しい　反転復元
112	坏	1		C7	3a 層	(12.9)	7.2	5.8	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～頸部の破片　一部反転復元
113	坏	1		C6		(12.1)	8.0	5.4	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/2 残存　底面：黒斑
114	坏	1			1 層	(14.4)	9.5	4.4	浅黄	5Y 8/3	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 3/4 残存　一部反転復元
115	坏	1		C6	B	(12.6)	(5.0)	4.3	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
116	坏	1		C6	3a 層	12.5	7.5	4.1	橙	7.5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 1/2 残存 内外ともに摩滅　一部反転復元
117	坏	1		B4	5b 層	(12.4)	(8.0)	4.1	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
118	坏	1		C6	3a 層	(11.7)	(6.0)	3.6	にぶい橙	7.5YR 6/4	明黄褐	2.5Y 7/6	口縁部～底部 1/5 残存　反転復元
119	坏	1		B7	3a 層	(13.5)	-	(5.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/5 残存　反転復元
120	坏	1		C6	3a 層	(11.1)	(6.8)	5.2	橙	7.5YR 7/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～底部 3/4 残存　一部反転復元
121	坏	1		C6	3a 層	(12.2)	-	(4.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
122	皿	1		C6		13.2	11.7	1.9	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 3/4 残存　全体的に摩滅
123	皿	1		D6	3 層	(20.2)	(18.0)	3.0	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～底部 1/6 残存　反転復元
124	蓋	1		C6		(16.6)	-	2.6	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
125	蓋	1		C6	3a 層	-	-	(1.5)	明褐灰	7.5YR 7/2	にぶい黄橙	10YR 7/2	ツマミ部 1/2 残存　ツマミ成形後接合 （ヨコナデ）　一部反転復元
126	蓋	1		C6	3a 層 1 層	(18.4)	-	4.4	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	天井部～口縁部 1/2 残存 外：赤彩　一部反転復元
127	蓋	1		C6	3a 層	(15.6)	-	2.7	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/4	天井部～口縁部 4/5 残存　一部反転復元
128	蓋	1		C6	3a 層	(15.0)	-	(1.9)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
129	坏	1		C6	3a 層	(13.9)	8.8	(4.6)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 1/2 残存　一部反転復元
130	坏	1		C6	3a 層	(12.4)	(7.8)	3.9	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
131	坏	1		C6	3a 層	(17.2)	(7.8)	5.0	にぶい橙	7.5YR 7/4	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～底部 1/5 残存　反転復元
132	坏	1		D7	1 層	-	(8.8)	(2.2)	浅黄橙	10YR 8/3	暗赤灰	2.5YR 3/1	胴部～底部 1/3 残存全体に摩滅 外：底部付近に黒斑　反転復元
133	坏	1		表土 ハギ	1 層	13.5	8.3	3.8	橙	5YR 7/6	黄橙	7.5YR 7/8	口縁部～底部 1/2 残存 底部に箆書「人」
134	坏	1		B5	5a 層	(13.6)	6.1	3.8	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/24～底部完形　一部反転復元
135	坏	1		C6	3a 層	-	3.8	(1.2)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	底部完形底部外面にヘラ記号 一部反転復元
136	鉢	1		F7	1 層	-	(11.3)	(4.1)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	胴部～底部 1/4 残存　反転復元 底部にヘラ書き
137	坏	1		C6	3a 層	(17.5)	(8.1)	6.0	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 残存　反転復元
138	坏	1		C6	3 層	18.0	7.4	5.8	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/2 残存
139	埦	1		C6	3a 層	(13.5)	(8.4)	5.1	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部～高台 2/3 残存　一部反転復元
140	坏	1		C6	3a 層	(12.5)	(8.4)	4.5	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
141	鉢	1		C6	3a 層	(18.4)	(11.0)	(13.3)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
142	鉢	1		C6	3a 層	-	-	(13.8)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	胴部破片　外：箆書全体に摩滅

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
143	鉢	1		D6	3 層	-	(10.8)	(4.2)	にぶい褐	7.5YR 5/4	にぶい褐	7.5YR 5/4	底部 1/4 残存　反転復元
144	鉢	1			2	-	10.7	(6.5)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	胴部～底部 1/2 残存　一部反転復元
145	鉢	1		C5	1 層	(29.4)	-	(9.4)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～胴部 2/3 残存　一部反転復元
146	片口土器	1		C6	3a 層	-	-	-	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/6 残存　反転復元
147	甕	1		C2		-	11.0	(10.2)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 5/3	胴部～底部 1/5 残存　一部反転復元
148	把手	1		C6	3a 層	-	-	(9.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	把手部 ほぼ完形被熱あり
149	把手	1		C6	3a 層	-	-	(9.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	-	-	把手部 ほぼ完形
150	把手	1		C6	3a 層	-	-	(7.0)	にぶい橙	7.5YR 7/4	-	-	把手 1/2 残存
151	壺	1		C7	3a 層	(10.4)	(1.0)	10.0	-	-	-	-	口縁部～底部 1/2 残存　外 : スス付着 全体的に摩滅　反転復元
152	壺	1		C7	3a 層	(9.8)	-	(5.9)	橙	7.5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～胴部 1/6 残存 内、外 : 赤彩（2.5YR 5/6）　反転復元
153	壺	1		C6		(10.5)	-	(8.3)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/5 残存　反転復元
154	壺	1			1 層	-	3.9	(9.6)	灰白	5Y 8/1	灰白	2.5Y 8/2	頸部～底部 完形　一部反転復元
155	甕	1		E6		-	(5.0)	(9.4)	にぶい黄橙	10YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/3	胴部～底部 1/4 残存　一部反転復元
156	壺	1		A4	4 層	-	4.2	(3.9)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 6/6	底部 1/2 残存　一部反転復元
157	壺	1		D6	4 層	(12.8)	-	(8.0)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
158	甕	1		D7	4 層	(15.9)	-	(7.1)	にぶい褐	7.5YR 5/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部～胴部 1/2 残存　反転復元
159	壺	1		C7	3a 層	(9.3)	-	(16.0)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/3 残存　一部反転復元
160	甕	1		C6	3a 層	(17.9)	-	(11.7)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/4 残存　一部反転復元
161	甕	1		C5	5 層	(22.2)	-	(10.8)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
162	甕	1		C7	3a 層	(24.0)	-	(12.8)	灰黄	2.5Y 6/2	灰黄	2.5Y 6/2	口縁部～胴部 1/8 残存　反転復元
163	甕	1		C6	3a 層	(19.0)	-	(27.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～胴部 2/3 残存　反転復元
164	壺	1		B6	3a 層	(20.8)	-	(9.2)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
165	甕	1		B6 C6	3a 層 1 層	(15.5)	-	(12.2)	橙	7.5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部～胴部 2/3 残存 外 : ヘラ描き沈線「+」一部反転復元
166	甕	1		B6 C6	3a 層	(16.3)	-	11.3	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部～胴部 1/3 残存ハケメ :1 単位 10~12 条内外 : 黒斑　一部反転復元
167	甕	1		C7	3a 層	(19.9)	-	(6.6)	橙	5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 1/6 残存 5 本 1 単位のハケメ 反転復元
168	甕	1		E5		(22.0)	-	(7.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/2 残存　反転復元
169	甕	1		E7		(17.6)	-	(7.2)	にぶい橙	7.5YR 6/4	橙	5YR 6/6	口縁部 1/4 残存ハケメ :7 本 1 単位 内、外 : スス付着　反転復元
170	甕	1		C6	3a 層	(18.3)	-	(6.8)	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部～胴部 1/4 残存　外 :9 本 1 単位のハケメ　反転復元
171	甕	1		C6	3a 層	(17.2)	-	(6.9)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 1/2 残存　一部反転復元
172	甕	1		C6	3a 層	(18.2)	-	(7.4)	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	口縁部 1/3 残存　反転復元
173	甕	1		C6	3a 層	(18.4)	-	(12.4)	にぶい黄橙	10YR 7/3	橙	7.5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
174	甕	1		C6	3a 層	(23.8)	-	(4.8)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～胴部 1/4 残存　内 :1 単位 5 本以上のハケ外 :1 単位 8 本以上のハケ
175	甕	1		C6	3a 層	(26.0)	-	(5.0)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 1/3 残存　反転復元
176	甕	1		C6	3a 層	(18.4)	-	(4.7)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部 1/4 残存　反転復元
177	甕	1		C6	3a 層	(22.3)	-	(8.5)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
178	鉢	1		C6	3a 層	(16.4)	(4.3)	(9.7)	にぶい黄橙	10YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部～底部 1/5 残存 全体的に摩滅　反転復元
179	甕	1		C5		(29.7)	-	(11.0)	灰黄褐	10YR 4/2	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～胴部 1/8 残存　内 : ハケメ（ヨコ単位不明）外 : タテ方向 6 本以上 1 単位のハケ　反転復元
180	甕	1		C6	3a 層	(29.7)	-	(13.1)	-	-	-	-	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
181	甑	1		E6		(37.7)	-	(12.6)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
182	甕	1		C6		(34.8)	-	(12.5)	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
183	甑	1		C6	4 層	-	-	(12.6)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部～胴部 破片　内、外 : 摩滅
184	甑	1		C6	3a 層	-	-	(8.3)	浅黄	2.5Y 7/3	にぶい黄褐	10YR 5/3	口縁部 破片　内 : 黒斑
185	甑	1		C6	3a 層	(43.4)	-	(15.3)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/5 残存　一部反転復元
186	甑	1		C6	3a 層	-	-	(2.5)	にぶい黄褐 灰黄褐	10YR5/3 10YR 4/2	にぶい黄褐 灰黄褐	10YR5/3 10YR 4/2	底部破片 底面 :2 孔以上の穿孔有
187	把手	1		E7	1 層	-	-	(3.6)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	把手　先端欠損扁平の把手である
188	甑	1		E6		-	(16.4)	(9.8)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	胴部～底部 1/3 残存　反転復元
189	甑	1		E6E7	1 層	-	(16.0)	(10.0)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	胴部～底部 1/6 残存　反転復元
190	竈	1		F7	1 層	-	-	(7.2)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	焚口部破片　底部 : 植物原体もしくはムシロ鍔部分欠損
191	甑	1		D6	4 層	-	(16.8)	(7.1)	にぶい橙	7.5YR 6/4	明褐	7.5YR 5/6	胴部～底部 1/6 残存　一部反転復元
192	深鉢	1		B7	1 層	-	-	(3.4)	にぶい褐	7.5YR 6/3	にぶい赤褐	5YR 5/4	口縁部破片内 : 摩滅
193	深鉢	1			2	-	8.5	(3.5)	橙	7.5YR 6/6	灰褐	7.5YR 5/2	底部 ほぼ完形　一部反転復元
194	深鉢	1			1 層	-	(9.6)	(5.5)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	底部 1/4 残存　反転復元
195	甕	1		C7	3a 層	-	-	(5.4)	灰	5Y 5/1	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部破片 外 : 貼付突帯文上に綾杉状の沈線文を施す
196	壺	1		C6	3a 層	-	(6.0)	(6.1)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	胴部～底部 1/6 残存　反転復元
197	甕	1		C6	3a 層	-	(7.7)	(9.3)	橙	7.5YR 6/6	黒褐	10YR 3/1	胴部～底部 1/3 残存　反転復元
198	甕	1		D7	4 層	-	(8.6)	(7.0)	にぶい黄褐	10YR 5/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	胴部～底部 1/3 残存　反転復元
199	ミニチュア土器	1		C7	1 層	-	(3.2)	(3.5)	黄灰	2.5Y 5/1	黄灰	2.5Y 5/1	脚～胴部 1/3 残存　外 : 赤彩残る（明赤褐 2.5YR 5/6）　一部反転復元
200	鞴羽口	1		C6	3a 層	-	-	(5.7)	灰白	N 7/	橙	7.5YR 6/6	羽口 破片　外 : 被熱している
201	高坏	1		D7	1 層	(10.6)	-	(4.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	坏部 1/4 残存　反転復元 透孔製作時の痕跡あり
202	高坏	1		C6		-	-	(1.8)	灰白	5Y 7/1	にぶい褐	7.5YR 5/3	坏部 1/3 残存ヘラ記号 内 : 赤く焼けている　反転復元
203	高坏	1		C7	3a 層	-	11.9	6.1	灰	7.5Y 5/1	灰白	N 7/	脚部 1/2 残存　外 : 自然釉　反転復元
204	高坏	1		D6E6		-	(8.8)	(8.0)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	脚部 ほぼ完形　透孔 三角形 3 孔あり
205	高坏	1			1 層	-	(15.7)	(5.0)	灰	N 6/	灰白	N 7/	脚部 1/5 残存　透孔 2 箇所残存 外 : 鉄分付着　反転復元
206	高坏	1		C6	1 層	-	(10.5)	(6.5)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	脚部 2/3 残存　反転復元
207	蓋	1			1 層	13.6	-	4.9	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/2	ほぼ完形
208	蓋	1		D6	4 層	(12.0)	-	4.5	灰	5Y 6/1	にぶい褐	7.5YR 6/3	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
209	蓋	1			1 層	(13.2)	-	4.8	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
210	蓋	1		C6	3a 層	(12.0)	-	5.7	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
211	蓋	1 1		C7 C6	3a 層 3a 層	(14.8)	-	4.9	灰	N 4/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/3 残存 外 : 自然釉付着　反転復元
212	蓋	1			1 層	14.0	-	4.0	灰白	7.5Y 7/1	灰白	N 7/	天井部～口縁部 4/5 残存 内 : 一部鉄分付着　外 : 鉄分付着
213	坏	1		D6	3 層	(12.2)	-	(5.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
214	坏	1		E6		10.6	-	4.5	灰白	7.5Y 8/1	灰白	N 8/	口縁部～底部 2/3 残存　外 : 自然釉
215	坏	1			1 層	12.3	-	5.5	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 5/6 残存口縁部 歪みあり
216	坏	1		C6	3a 層	(11.0)	-	(4.5)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/3 残存 外 : 自然釉　反転復元
217	坏	1		B5	5a 層	(13.2)	(8.4)	(4.8)	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
218	坏	1		C6	3a 層	-	-	(3.9)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
219	坏	1		B5	5a 層	-	-	(2.8)	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	受部～底部 1/3 残存 ヘラ記号「+」 反転復元
220	坏	1			1 層	12.5	-	8.3	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 2/3 残存
221	坏	1		B7	3a 層	-	-	(4.3)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	受部～底部 1/2 残存　反転復元
222	皿	1		D6	3 層	14.6	11.8	1.6	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 2/3 残存　内 : 鉄分付着
223	皿	1		B6	1 層	(15.0)	(11.8)	2.1	灰白	N 7/	灰	N 5/	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
224	皿	1		C6	3a 層	(17.9)	14.5	1.8	青灰	5B 5/1	青灰	5B 5/1	口縁部～底部 1/3 残存歪みあり　反転復元
225	蓋	1		B4B5	5a 層	-	-	(2.5)	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ～胴部 1/2 残存　反転復元
226	蓋	1		C5	5 層	(15.6)	-	2.9	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	ツマミ～口縁部 1/4 残存　反転復元
227	蓋	1		C6	3a 層	(13.0)	-	2.6	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
228	蓋	1		C6	3a 層	(16.5)	-	2.9	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
229	蓋	1		C6	1 層	17.6	-	1.9	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 3/4 残存
230	蓋	1		C6	1 層	(16.4)	-	2.5	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/2 残存　反転復元
231	蓋	1 1		B5	5b 層 1 層	(15.8)	-	2.4	灰	N 5/	灰白 浅黄	7.5Y 8/1 2.5Y 7/3	ツマミ～口縁部 1/2 残存　鉄分付着
232	蓋	1			1 層	(17.3)	-	2.9	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
233	蓋	1 1		B4 B5	5a 層 5a 層	(17.2)	-	3.8	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	ツマミ～口縁部 1/4 残存 内、外 : 自然釉　反転復元
234	蓋	1		D6	4 層	(14.6)	-	3.5	灰白	5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/3 残存 内 : 鉄分付着　反転復元
235	蓋	1		B5	3a 層	(20.2)	-	(1.8)	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
236	蓋	1		B4	6a 層	(19.9)	-	2.8	灰 灰	N 6/ N 4/	灰 灰	N 6/ N 4/	天井部～口縁部 1/6 残存　反転復元
237	蓋	1		C6	3a 層	(15.2)	-	2.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
238	蓋	1		C6	3a 層	18.2	-	1.4	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	天井部～口縁部 4/5 残存
239	蓋	1			1 層	(13.7)	-	1.8	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存 内外 : 鉄分付着
240	蓋	1			1 層	14.8	-	1.7	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 4/5 残存
241	蓋	1		C6	3a 層	(14.0)	-	2.0	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存 反転復元
242	蓋	1		B4	6a 層	14.8	-	1.2	黄灰	2.5Y 6/1	灰	N 6/	天井部～口縁部 2/3 残存
243	蓋	1		C6	3a 層	14.6	-	2.7	灰	N 6/	灰白	7.5Y 7/1	ほぼ完形歪みあり
244	蓋	1		B5	5a 層	14.7	-	2.9	灰	N 6/	灰 灰白	N 5/ N 7/	天井部～口縁部 3/4 残存 重ね焼きムラ有り
245	蓋	1			表土ハギ 1 層	(15.0)	-	3.7	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 2/3 残存 全体に歪みあり　反転復元
246	坏	1			1 層	11.0	9.0	3.2	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
247	坏	1		C6	3a 層	12.9	8.3	3.9	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 5/6 残存　内 : 鉄分付着
248	埦	1		C6	3a 層	10.9	7.5	4.2	灰白	N 7/	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～高台 3/4 残存
249	埦	1		C6	3a 層	12.3	8.1	4.5	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	ほぼ完形
250	埦	1		B5	5b 層	12.6	9.2	3.6	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～高台 1/2 残存
251	埦	1		C6	3a 層	(13.2)	8.7	4.4	灰白	N 7/	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～高台 1/3 残存歪みあり 外 : 自然釉　反転復元
252	埦	1 1		A4 D6	4 層 4 層	(13.2)	(8.8)	4.1	灰	N 4/	灰	N 6/	口縁部～高台 1/3 残存 外 : 自然釉　反転復元
253	埦	1 1		C5 D6	1 層 3 層	(14.6)	9.3	4.1	灰	10Y 6/1	灰白	N 7/	口縁部～高台 1/3 残存 内 : 鉄分付着　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
254	埦	1			1 層	(12.4)	8.9	3.8	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
255	埦	1		C6	3a 層	13.8	10.1	3.6	灰褐	7.5YR 5/2	灰白	7.5Y 7/1	ほぼ完形　外：鉄分付着
256	埦	1		C6	3a 層	12.7	7.7	3.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～高台 1/2 残存
257	埦	1			1 層	-	8.8	(4.0)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	胴部～底部 1/3 残存　反転復元
258	埦	1		F7	1 層	13.7	9.0	4.5	黄灰	2.5Y 6/1	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 5/6 残存　内：鉄分付着
259	埦	1		C6	3a 層	14.1	8.8	3.9	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 3/4 残存 口縁部歪みあり粒子を多く含む
260	埦	1		C6	3a 層	13.7	9.0	4.1	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 4/5 残存
261	埦	1		C6	3a 層	(13.0)	8.2	4.0	灰白	N 7/	灰白	10Y 7/1	口縁部～高台 1/3 残存　内：鉄分付着 外：自然釉焼きぶくれあり　反転復元
262	埦	1 1		C6 C6	3 層 3a 層	(13.6)	8.6	3.6	灰	10Y 6/1	灰	N 6/	口縁部～高台 1/3 残存 外：鉄分付着　反転復元
263	埦	1		C5		(13.8)	8.3	4.1	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～高台 1/3 残存　反転復元
264	埦	1 1		C6 C6	3a 層 3 層	(13.2)	8.0	3.7	褐灰	10YR 5/1	灰	N 5/	口縁部～高台 残存 赤く焼けている　反転復元
265	埦	1		C6	3a 層	13.6	8.4	3.1	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/6 残存 内、外：わずかに鉄分付着歪みあり
266	埦	1		C6	3a 層	15.1	(9.7)	5.5	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	口縁部～高台 2/3 残存　一部反転復元
267	埦	1		C6	3a 層	(16.5)	11.0	5.0	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
268	埦	1		C6		(15.8)	9.3	6.1	灰白	N 8/	灰白	N 8/	口縁部～高台 1/2 残存　反転復元
269	埦	1		C6	3a 層	16.0	11.5	5.7	灰白	2.5Y 7/1	灰白	10YR 8/2	口縁部～高台 2/3 残存
270	甕	1		C6 C6	3 層 3a 層	-	-	(7.2)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	頸部～底部 2/5 残存 穿孔（円形）外→内
271	小型壺	1		F7	1 層	-	-	(6.0)	灰白	5Y 7/1	灰白	2.5Y 8/2	頸部～胴部 1/2 残存　反転復元
272	提瓶	1		B6 C6	3a 層	-	-	(7.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	N 7/	胴部 1/8 残存　把手 1 ヶ所残存 反転復元
273	埦	1		C6	3a 層	(14.6)	8.3	9.1	灰白	7.5Y 7/1	灰白	N 7/	口縁部～高台 1/3 残存　反転復元
274	小鉢	1		C6	3a 層	(13.2)	(9.2)	8.9	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
275	鉢	1			1 層 2	(18.6)	(13.4)	16.1	灰	N 6/	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/3 残存 内、外：鉄分付着　反転復元
276	鉢	1		C6	1 層	(23.4)	-	(7.2)	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～胴部 1/8 残存　反転復元
277	鉢	1			1 層	(20.6)	-	(6.6)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～胴部 1/8 残存 内、外：鉄分付着　反転復元
278	壺	1 1		C6 C7	3a 層 3a 層	-	(11.8)	(10.4)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部～底部 1/4 残存　外：自然釉灰（ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 6/2）　反転復元
279	壺	1 1		C6 C6	1 層 1 層	-	(12.8)	(14.2)	灰ｵﾘｰﾌﾞ	5Y 6/2	灰白	5Y 7/1	胴部～高台 1/4 残存 外：自然釉　反転復元
280	小型壺	1		E6		(6.7)	(3.8)	5.4	灰白	7.5Y 8/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
281	小型壺	1 1		B7C7 C6	1 層 3a 層	(7.7)	-	(8.3)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～胴部 1/4 残存 外：自然釉　反転復元
282	小型壺	1		C7	3a 層	-	-	(8.3)	灰	N 6/	灰	N 6/	頸部～胴部 1/4 残存　反転復元
283	壺	1 1		C6	3a 層 1 層	(10.3)	-	(4.6)	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	口縁部～頸部 2/3 残存 内、外：鉄分付着　反転復元
284	壺	1 1		A4 B5	4 層 3a 層	(13.5)	-	(6.3)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/2 残存 内、外：タタキ、当て具痕　反転復元
285	壺	1		C7	3a 層	(12.6)	-	(5.9)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～胴部 1/6 残存 内、外：タタキ、当て具痕　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
286	壺	1 1		C6 C7	3a 層 1 層	(11.4)	-	(13.5)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部～胴部 1/2 残存　内：当て具痕 外：カキ目、タタキ　反転復元
287	甕	1		B4	5a 層	(26.6)	-	(8.3)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	口縁部～頸部 1/6 残存　反転復元
288	壺	1 1		C6 C6	3a 層	(12.4)	-	(4.0)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～頸部 1/4 残存 内、外：自然釉 灰ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 6/2 断面：鉄分付着　内：当て具痕　反転復元
289	甕	1 1		B5 C5	5a 層 3b 層	(23.0)	-	(5.0)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～頸部 1/6 残存 内、外：自然釉　反転復元
290	甕	1 1		B6 C6	1 層 3a 層	(20.1)	-	(6.8)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～胴部 1/8 残存 内、外：タタキ、当て具痕　反転復元
291	甕	1		C6	3 層	(25.8)	-	(6.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～肩部 1/8 残存　反転復元
292	甕	1		B4	5a 層	(17.4)	-	(9.3)	灰白	N 7/	灰	N 6/	口縁部～肩部 1/2 残存　反転復元
293	甕	1		C6		-	(7.2)	(13.1)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	胴部～底部 1/4 残存 内、外：タタキ、当て具痕　反転復元
294	甕	1		B4	5b 層	-	-	(10.6)	ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y 5/1	赤灰	5R 6/1	頸部～肩部 1/8 残存　反転復元
295	甕	1 1		B5 C6	1 層	-	-	22.2	ｵﾘｰﾌﾞ灰 紫灰	5Y 5/1 5P 6/1	灰	N 5/	頸部～胴部 1/6 残存　外：自然釉 内：鉄分付着タタキ、当て具　反転復元
296	甕	1		C6	3a 層	(22.0)	-	(15.0)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～胴部 1/4 残存 内、外：自然釉　反転復元
297	甕	1 1		B5 B5	5a 層 5a 層	-	-	(18.8)	灰	N 5/	灰	N 5/	胴部～底部　タタキ、当て具 反転復元
298	甕	1		B5	3b 層	-	11.0	(30.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部～底部 1/4 残存　反転復元
299	甕	1		B4 B5	3b 層 3b 層	(23.9)	-	(46.5)	灰	N 6/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/3 残存　内、外：鉄分付着 内：当て具痕　外：タタキ　反転復元
300	甕	1 1		B4 B5	5a 層 5a 層	(37.4)	-	(6.5)	灰白	N 8/	灰白	N 8/	口縁部～頸部 1/8 残存 内、外：鉄分付着　外：波状文　反転復元
301	甕	1 1		C5	1 層 1 層	(27.0)	-	(10.3)	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～頸部 1/8 残存 外：波状文　内、外：自然釉　反転復元
302	二次加工品	1		B5	3b 層	9.3 （全長）	9.7 （幅）	1.2 （厚さ）	-	-	-	-	須恵器の壺が割れた後を二次加工し再利用した
303	焙烙	2	SB16			(34.3)	(25.0)	3.9	灰白	5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 1/8 残存　反転復元
304	壺	2 2	SB16 SB16		埋 4 層 埋 4 層	9.5	(15.1)	14.9	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 2/3 残存 内、外：自然釉肩部に耳が 2 つ　反転復元
305	擂鉢	2	SB48		埋 1 層	-	-	(6.6)	灰黄	2.5Y 7/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 破片 5 条 1 単位のスリ目（放射状）
306	擂鉢	2	SK14	C3		-	(16.0)	(2.7)	灰ｵﾘｰﾌﾞ	7.5Y	灰	7.5Y 6/1	底部 1/6 残存　6 条 1 単位のスリ目 使用により摩耗している　反転復元
307	火鉢	2	SK24			(44.3)	-	(12.6)	灰	5Y 5/1	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 1/8 残存外：スタンプ文（菊花） 内、外：鉄分付着　反転復元
308	火鉢	2	SK24			(44.4)	-	(6.2)	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部 1/8 残存外：スタンプ文（菊花） 内、外：鉄分付着　反転復元
309	坏	2	P92			7.0	3.8	3.3	浅黄橙	7.5YR 8/3	淡橙	5YR 8/4	ほぼ完形　底部：糸切り離し
310	坏	2	P92		№1	-	(5.2)	(2.5)	にぶい黄橙	10YR 7/3	浅黄橙	10YR 8/3	胴部～底部 3/4 残存 底部：糸切り離し　一部反転復元
311	火鉢	2	S73			(10.1)	(12.6)	(7.7)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 6/8	口縁部～脚 1/6 残存 器形は方形であると思われる
312	蓋	2	S112			16.9	-	2.1	にぶい黄橙	10YR 7/2	にぶい黄橙	10YR 7/3	ツマミ～口縁ほぼ完形
313	火鉢	2	S91		埋 1 層	-	-	(5.1)	灰	7.5Y 4/1	灰	7.5Y 4/1	口縁部 破片 鉄分付着外：スタンプ文（梅花）

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
314	擂鉢	2	S46	B2	一括	-	-	(7.9)	にぶい橙	5YR 6/3	にぶい橙	5YR 6/3	口縁部 破片 5 条 1 単位のスリ目（放射状）
315	擂鉢	2	S49			-	-	(10.5)	褐灰	7.5YR 5/1	にぶい橙	7.5YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 破片 5 条 1 単位のスリ目（放射状）
316	擂鉢	2	S91			(31.6)	(17.8)	12.3	にぶい橙	7.5YR 7/3	灰白 黄灰	7.5YR 8/2 2.5Y 5/1	口縁部 ~ 底部 1/8 残存 スリ目 単位不明、放射状　反転復元
317	擂鉢	2 2	S91 S91			(35.2)	-	(9.2)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	10Y 8/1	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元 6 条 1 単位のスリ目（放射状）
318	擂鉢	2 2	S91 S91			(34.6)	-	(12.8)	灰白	10Y 8/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　反転復元 6 条 1 単位のスリ目（放射状）
319	壺	2		E7		-	(4.6)	(4.1)	にぶい橙	5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	底部 1/2 残存外 : 縦方向のミガキ
320	坏	2		C4	6 層	(14.4)	-	(3.2)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　歪みあり
321	把手	2		D8	1 層	-	-	(2.6)	にぶい黄橙	10YR 7/3	-	-	把手 ほぼ完形　外 : 黒斑、スス付着
322	埦	2		C6	3a 層	13.1	18.3	4.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部
323	壺	2		A3	4 層上	-	(21.6)	(4.8)	灰	5Y 6/1	黄灰	2.5Y 5/1	胴部 ~ 底部 1/8 残存　反転復元
324	擂鉢	2		A4		(36.8)	-	(11.4)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 ~ 胴部 5 条 1 単位のスリ目　反転復元
325	捏ね鉢	2		B3	3 層	(32.2)	-	(6.7)	灰白	5Y 8/1	灰	N 6/	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存 内、外 : 鉄分付着　反転復元
326	擂鉢	2		C3	4 層	(33.4)	-	(5.9)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 5 条 1 単位のスリ目　反転復元
327	擂鉢	2		B2	5 層	-	-	(6.4)	灰	7.5Y 6/1	灰白	N 7/	口縁部 破片　4 条 1 単位のスリ目
328	火鉢	2		B3	4 層	-	-	(6.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 破片　外 : スタンプ文（梅花）
329	火鉢	2 2		B2 C2	6 層 5 層	-	(22.4)	(7.3)	灰	7.5Y 5/1	灰	5Y 6/1	胴部 ~ 底部 1/8 残存 脚部 :1 脚残存　反転復元
330	火鉢	2				(42.6)	(30.0)	14.8					外面に黒のスス付着　反転復元
331	皿	2		B2		11.0	3.9	3.0					高台脇一重圏線外面口縁部、二重圏線内列点文 内面口縁部一重圏線見込み二重圏線内に崩し文字外面底部釉掻き取る
332	坏	3		D1	4 層	7.0	4.4	2.6	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　底部 : 糸切り離し
333	坏	3	S62 P63		№ 3	(11.8)	(7.0)	3.2	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　内、外 : 黒斑 底部 : 糸切り離し　反転復元
334	坏	3	P116			-	(8.2)	(3.6)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	胴部 ~ 底部 1/4 残存 底部 : 糸切り離し　反転復元
335	甕	3			1 層	(22.3)	-	(5.9)	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　反転復元
336	甕	3		F0	4 層	(16.4)	-	(4.6)	にぶい黄橙	10YR 7/4	明黄褐	10YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　胴部 : 焼成後穿孔内、外 : 鉄分付着　反転復元
337	羽釜	3			1 層	-	-	(1.9)	黄灰	2.5Y 4/1	黄灰	2.5Y 6/1	鍔のみ 1/8 残存　外 : スス　反転復元
338	火鉢	3		D2	8 層	-	-	(7.1)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 破片　外 : スタンプ文（梅花）
339	火鉢	3		E1	4 層	-	(10.5)	(2.5)	浅黄橙	7.5YR 8/3	灰	7.5Y 6/1	底部 ~ 脚部 1/4 残存　反転復元
340	擂鉢	3		D1	4 層	-	-	(6.5)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 破片　5 条 1 単位のスリ目
341	擂鉢	3		E2	4 層	-	-	(6.8)	灰	7.5Y 6/1	灰	10Y 5/1	口縁部 破片　スリ目 : 単位不明、放射状
342	擂鉢	3		D2	4 層	-	(16.0)	(1.6)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	底部 1/2 残存　6 条 1 単位のスリ目 反転復元
343	擂鉢	3		D1	4 層	-	(20.7)	(5.5)	灰	10Y 5/1	灰	7.5Y 6/1	底部 1/8 残存 7 条 1 単位のスリ目（放射状）　反転復元
344	擂鉢	3		F（-1）	4 層	-	(16.0)	(9.2)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	胴部 ~ 底部 1/8 残存 6 条 1 単位のスリ目　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
345	焙烙	3		D1	4層	(26.6)	(18.2)	4.7	灰黄	2.5Y 6/2	灰黄	2.5Y 6/2	口縁部～底部 1/4 残存　内、外：鉄分
		3		D2	4層								付着内：スス付着　反転復元
346	焙烙	3		D1	4層	(18.6)	-	(3.6)	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～頸部 1/8 残存　反転復元
347	擂鉢	3		D0	4層	(28.0)	-	(6.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～胴部 1/6 残存
													6条1単位のスリ目　反転復元
348	擂鉢	3		E0	4層	(38.0)	-	(4.8)	灰	5Y 4/1	灰	5Y 4/1	口縁部～胴部 1/8 残存
		3		E1	4層				にぶい橙	5YR 7/3	にぶい橙	5YR 7/3	スリ目 単位不明　反転復元
349	擂鉢	3		D0	4層	-	(20.8)	(7.9)	にぶい黄橙	10YR 7/3	黄灰	2.5Y 4/1	胴部～底部 1/8 残存　反転復元
													6条1単位のスリ目（放射状）
350	擂鉢	3		F0	4層	-	(17.9)	(12.2)	浅黄橙	10YR 8/3	灰	5Y4/16/1	胴部～底部 1/6
													内：スス、鉄分付着　反転復元
351	火鉢	3		E0	4層	-	-	(6.1)	暗灰	N 3/	灰	N 4/	口縁部 破片　外：スタンプ文（菊花）
											灰	5Y 6/1	円形浮文、連子状スタンプ文
352	火鉢	3		D1	4層	-	-	(8.2)	灰白	2.5Y 8/1	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 破片　内、外：鉄分付着
													外：スタンプ文（三巴）
353	火鉢	3		E1	4層	(39.5)	-	(10.0)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	口縁部～胴部 1/8 残存
		3			1層								外：スタンプ文（巴）　反転復元
354	火鉢	3		E1	4層	-	(25.4)	(10.4)	灰白	5Y 7/1	灰黄	2.5Y 7/2	底部 1/8 残存　反転復元
355	坏	4	SB9			-	6.5	(3.2)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	胴部～底部 3/4 残存
													底部：ヘラ記号「#」 一部反転復元
356	埦	4	SB8			(14.5)	8.7	5.1	灰	N 6/	灰白	5Y 8/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
357	壺	4	S88			-	-	(12.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部～底部 1/4 残存
		4		M16	7層								胴部：連続斜行沈線あり　反転復元
358	擂鉢	4	SB8			(35.2)	-	(7.0)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～胴部 1/8 残存
		4		N16	4層								鉄分がわずかに付着　反転復元
359	蓋	4	SB54			(13.6)	-	1.8	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	SP208
		4		M17	7層								天井部～口縁部 2/3 残存　反転復元
360	坏	4	SK4			(6.0)	(4.3)	2.5	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/2 残存
													底部：糸切り　反転復元
361	坏	4	SK4			(10.3)	6.0	3.5	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～底部 1/4 残存
													底部：糸切り　一部反転復元
362	坏	4	SK4			(10.8)	(6.8)	4.0	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/4 残存
													底部：糸切り、黒斑　反転復元
363	火鉢	4	SK4			(24.4)	-	(5.2)	にぶい橙	7.5YR 6/4	橙	2.5YR 6/6	口縁部 1/6 残存　外：黒斑円形透孔有
													（孔数不明）　反転復元
364	火鉢	4	SK4			-	(21.6)	(11.6)	橙	2.5YR 6/6	橙	2.5YR 6/6	胴部～脚部 1/4 残存
													脚：4 足　反転復元
365	蓋	4	SK4			(17.8)	-	2.8	灰	7.5Y 5/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
366	蓋	4	SK4			18.0	-	2.4	灰白	5Y 7/1	灰	N 4/	天井部～口縁部 1/3 残存　内：鉄分付着
367	蓋	4	SK4		埋4層	1.4	(14.8)	3.1	灰	N 5/	灰	N 5/	ツマミ～口縁部 残存
		4		M16	8層								口縁に歪み有　反転復元
368	蓋	4	SK4			(13.8)	-	(2.7)	灰	N 5/	灰	N 5/	天井部～口縁部 1/4 残存
		4		M17	8層								ツマミ欠損　反転復元
369	坏	4	SK4			(13.6)	(9.4)	3.8	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
		4		M17	8層								
370	坏	4	SK4			(12.8)	(8.6)	3.9	灰白	5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
371	坏	4	SK4			(12.8)	(8.5)	4.2	灰白	7.5YR 8/1	灰白	7.5YR 8/1	口縁部～底部 1/3 残存
													外：鉄分付着　反転復元
372	埦	4	SK4			(14.1)	(8.6)	4.5	にぶい黄褐	10YR 4/3	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部～高台 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
373	甕	4 4	SK4 S215		埋 4 層	(22.6)	-	(7.0)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　反転復元
374	甕	4	S1213 SK4		埋 4 層	(30.4)	(24.0)	-	灰	7.5Y 6/1	灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 底部 1/8 残存 外 : タタキ　反転復元
375	甕	4 4	SK4 S1039			(32.0)	(23.6)	37.5	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 残存 外面タタキ（格子状）　反転復元
376	甕	4	SK4			-	(34.6)	(17.3)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	胴部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
377	火鉢	4 4	SK4 SK4			46.8	(32.2)	40.8	灰白	5Y 7/1	灰	7.5Y 5/1	口縁部 ~ 脚部 1/4 残存外面上部 : ヘラによる刺突文、スタンプ文（梅花）　反転復元
378	羽釜	4	SK1091			-	-	(4.8)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	鍔部破片
379	甕	4	SK1091			(20.0)	-	(4.3)	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部 1/6 残存　反転復元
380	火鉢	4	SK1091			-	(27.0)	(6.7)	灰	N 5/	灰	N 5/	脚部 1/8 残存 1 脚残存　反転復元
381	蓋	4	SK1532			(16.0)	-	3.0	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	天井部 ~ 口縁部 1/5 残存　一部反転復元
382	坏	4	S1203			6.3	4.0	2.0	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	完形　糸切りがはっきり残る
383	灯明皿	4	S902		埋 1 層	7.5	4.1	2.6	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	ほぼ完形　底部 : 糸切り 内、外 : 油煙によりス付着
384	坏	4	S903			(12.0)	6.3	4.6	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 底部 : 糸切り　一部反転復元
385	坏	4	SK924			(11.3)	(6.8)	(3.5)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 底部 : 糸切り　反転復元
386	坏	4	S360			11.2	7.0	4.9	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	ほぼ完形　上縁部歪み有
387	坏	4	S101			(12.1)	(7.0)	3.2	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 底部 : 糸切り　反転復元
388	坏	4	S1010			12.6	6.9	3.9	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 底部 3/4 残存 底部 : 糸切り全体に摩滅
389	蓋	4	S1		埋 1 層	17.7	-	(2.1)	灰	N 6/	灰	10Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存　一部反転復元
390	蓋	4	S1		埋 1 層	14.6	-	1.9	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 4/5 残存歪み有
391	蓋	4	S932			(14.6)	-	(0.8)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/5 残存 内、外 : 自然釉　反転復元
392	坏	4	S1204			-	8.7	(2.0)	灰白	2.5Y 8/1	灰白	2.5Y 8/1	底部完形　反転復元
393	埦	4	S77			-	11.0	(3.5)	灰黄褐	10YR 6/2	にぶい黄橙	10YR 7/3	胴部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
394	壺	4	S293			-	(18.0)	(3.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	底部 1/6 残存　反転復元
395	甕	4 4	S88	M17	7 層	(19.0)	-	(4.0)	灰	N 4/	灰白	5Y 7/1	口縁部 1/4 残存 内、外 : 自然釉（灰 N 4/）　反転復元
396	甕	4	S113	P15	3 層	(17.6)	(15.0)	26.0	灰褐	7.5YR 4/2	灰褐	7.5YR 4/2	口縁部 ~ 底部 1/4残存　陶器内 : 当て具痕外 : カキ目　反転復元
397	甕	4	S1415			(42.0)	-	(7.8)	灰ｵﾘｰﾌﾞ	7.5Y 5/2	灰	N 5/	口縁部 ~ 肩部 1/10 残存　外 : 自然釉
398	甕	4		Q4	4 層	-	(28.0)	(3.6)	灰	N 5/	灰	5Y 6/1	底部 1/4 残存　反転復元
399	擂鉢	4 4	S924	O15	5a 層	(27.1)	(14.0)	14.1	灰	N 5/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　5 条 1 単位のスリ目（放射状）　反転復元
400	擂鉢	4	S398			-	(14.2)	(10.7)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	胴部 ~ 底部 1/2 残存　内 :5 条 1 単位のスリ目（放射状）　反転復元
401	擂鉢	4 4	S1047	Q15	1 層	(33.5)	(14.6)	13.5	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　スリ目 :6 本 1 単位（放射状）　反転復元
402	高坏	4		M17	8 層	-	-	(2.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	胴部 1/5 残存外 : 摩滅 底部 : ヘラ記号「#」　反転復元
403	高坏	4		M16	7 層	-	(11.4)	(7.9)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	脚部 1/2 残存　一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
404	蓋	4		N16	8層	(16.0)	-	3.3	にぶい黄橙	10YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	天井部～口縁部 内、外：摩滅　外：黒斑　反転復元
405	皿	4		M16	7層	(16.4)	(12.1)	1.8	橙 橙	5YR 7/6 7.5YR 7/6	橙 橙	5YR 7/6 7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/3 残存 内、外：摩滅　反転復元
406	皿	4		M15	8層	17.2	17.7	2.7	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	ほぼ完形内、外：摩滅
407	皿	4		N16	7層	18.8	12.4	3.6	-	-	-	-	口縁部～高台 ほぼ完形 全体に摩滅皿部は大きな歪みあり
408	ミニチュア堤	4		Q15	5層	-	4.6	(9.8)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	ほぼ完形　成形後口縁部を充填してふさぎ、口縁を別成形　剥離が激しい
409	坏	4		M16	8層	(12.8)	-	(5.1)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～胴部 1/3 残存 内、外：摩滅　反転復元
410	鉢	4		M17	8層	(14.9)	6.4	5.0	灰黄褐	10YR 6/2	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部～底部 1/6 残存 全体に摩滅　反転復元
411	坏	4		M17	7層	(13.8)	(5.4)	4.6	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
412	坏	4		M16	8層	13.0	8.3	4.9	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 4/5 残存 内、外：摩滅　口縁部：歪曲している
413	灯明皿	4		M15	8層	11.2	6.7	4.1	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	ほぼ完形　内、外：スス付着、摩滅
414	坏	4		O17	8層	(14.0)	(5.4)	3.4	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
415	坏	4		N16	8層	12.0	8.8	4.4	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	ほぼ完形　内、外：摩滅
416	坏	4		M16	8層	12.5	8.8	3.9	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～底部 1/4 残存　全体に摩滅
417	坏	4		M16	8層	(13.3)	(9.1)	(3.9)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 4/5 残存 内、外：摩滅　一部反転復元
418	坏	4		M17	7層	(14.0)	9.5	4.4	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 1/4 残存 内、外：摩滅　一部反転復元
419	坏	4		M16	7層	13.2	8.8	4.0	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～底部 2/3 残存
420	坏	4		M17	7層	(15.4)	(7.0)	5.1	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/4 残存 内、外：摩滅　反転復元
421	坏	4		N17	4層	(10.9)	5.9	3.7	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/3 残存 底部：糸切り　一部反転復元
422	坏	4		N17	7層	(12.5)	6.4	3.8	灰黄褐	10YR 4/2	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/3 残存内、外：スス付着底部：糸切り　一部反転復元
423	坏	4		M15	8層	15.3	8.5	5.0	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 3/4 残存内、外：スス付着、摩滅　一部反転復元
424	埦	4		M16 N17	8層 8層	(14.9)	9.9	5.5	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～高台 1/3 残存　全体に摩滅 一部反転復元
425	坏	4		M16	8層	(18.4)	(8.0)	5.1	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
426	坏	4		O16	5a層	7.1	4.2	2.4	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	ほぼ完形　底部：糸切り
427	坏	4		M17	8層	-	6.0	(3.5)	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 6/8	胴部～底部 3/4 残存　底部：ヘラ記号「○に #」全体に摩滅　一部反転復元
428	坏	4		N17	7層	-	7.2	(3.1)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～胴部 1/3 残存 底部：ヘラ記号「#」 反転復元
429	坏	4		M7	8層	(11.2)	(5.9)	4.7	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～底部 1/2 残存 底部：ヘラ記号　反転復元
430	坏	4		N17	7層	-	(6.4)	(2.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	胴部～底部 1/4 残存　内：摩滅気味 底部：ヘラ記号「十」 反転復元
431	坏	4		M16	7層	-	(7.4)	(2.7)	橙	5YR 6/8	橙	7.5YR 6/8	胴部～底部 1/4 残存　内、外：摩滅 底部：ヘラ記号「十」 反転復元
432	坏	4		M17	8層	-	(3.4)	(2.4)	橙	5YR 7/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	底部 1/4 残存　内、外：摩滅 底部：ヘラ記号「#」 反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
433	坏	4		M16	7 層	-	(7.0)	(1.8)	浅黄	2.5Y 7/3	浅黄	2.5Y 7/3	底部 1/4 残存 外 : 摩滅　底部 : ヘラ記号　反転復元
434	坏	4		M17	7 層	-	(9.0)	(1.2)	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	底部 1/3 残存　内 : 摩滅 底部 : ヘラ記号「二」 反転復元
435	坏	4		N16	7 層	-	(7.6)	(1.4)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	底部 1/4 残存内、外 : 摩滅 底部 : ヘラ記号「#」 反転復元
436	皿	4		M16	8 層	-	(7.6)	(1.8)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	胴部 ~ 底部 1/4 残存 底部 : ヘラ記号「由 or 田」 反転復元
437	坏	4		M15	8 層	-	(7.8)	(2.0)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	底部 1/4 残存 底部 : ヘラ記号　反転復元
438	坏	4		M18	7 層	-	5.5	(1.9)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	底部 1/6 残存　内、外 : 摩滅 底部 : ヘラ記号　反転復元
439	坏	4		M17	8 層	-	-	(0.7)	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	底部細片内、外 : 摩滅 ヘラ記号「#」
440	坏	4		M16	7 層	-	-	(0.6)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	底部細片 内、外 : 摩滅ヘラ記号「#」
441	坏	4		N15	4 層	-	-	(0.7)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	底部細片 内、外 : 摩滅　底部 : ヘラ記号「#」
442	坏	4		M17	8 層	-	-	(0.8)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	底部細片　底部 : ヘラ記号
443	坏	4		M17	7 層	-	-	(0.7)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	底部細片 内 : 摩滅　底部 : ヘラ記号「十」
444	坏	4		M17	8 層	-	-	(0.7)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	底部細片 内、外 : 摩滅　底部 : ヘラ記号「十」
445	坏	4		M16	8 層	-	-	(1.1)	にぶい黄橙	10YR 7/4	橙	5YR 6/6	底部細片 内、外 : 摩滅　底部 : ヘラ記号「九三」
446	鉢	4		M17	8 層	(19.2)	-	(10.5)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存 全体に摩滅　反転復元
447	甕	4		M15	8 層	(24.4)	-	(13.6)	にぶい褐	7.5YR 5/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　ハケメ（内）9 本 1 単位（外）9~12 本 1 単位　反転復元
448	甕	4		M17	8 層	(19.4)	-	(6.8)	橙	5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/4 残存　外 : 摩滅　反転復元
449	甕	4		M17	8 層	(26.6)	-	(10.3)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 全体に摩滅　反転復元
450	甕	4		M17	7 層	(20.7)	-	(8.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 内、外 : 摩滅　反転復元
451	甕	4		M16 N16	3 層 7 層	(24.6)	-	(9.3)	にぶい橙	7.5YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存 外 : 摩滅　反転復元
452	把手	4		M16	8 層	-	-	(10.0)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	把手　完形接合付近に変色が見られる被熱あり
453	鍋	4		M15	8 層	-	-	(6.2)	橙	7.5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	脚部 1/3 残存　内 : 摩滅下面 : 被熱
454	甕	4		M16	8 層	(26.7)	-	(11.2)	灰白	10YR 8/2	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　ハケメ（内）5 本以上 1 単位（外）7 本以上 1 単位　反転復元
455	甕	4		M17	8 層	(27.0)	-	(13.2)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存 内、外 : ハケメ 1 単位 4~6 本　反転復元
456	甑	4		M17	8 層	(25.4)	-	(7.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/6 残存　外 : 摩滅　反転復元
457	甑	4		M17	7 層	(32.0)	-	(11.9)	橙	7.5YR 7/6	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
458	甕	4		M15 M16	8 層 8 層	(33.0)	-	(22.3)	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 1/5 残存　内、外 : 摩滅 把手貼付部一部残存か　反転復元
459	甕	4		M17 M17	7 層 8 層	(34.0)	(7.0)	(20.4)	灰	5Y 4/1	黄灰	2.5Y 4/1	口縁部 ~ 底部 1/6 残存　全体に摩滅 ハケメ :6 本以上 1 単位　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
460	甑	4		O17	7層	-	-	(9.7)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	把手部 一部欠損
461	甑	4		M16	8層	-	-	(6.9)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	把手部 完形
462	甑	4		M15 M15	7層 8層	(36.4)	-	(14.5)	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	口縁部～胴部 1/3 残存 内、外：摩滅　反転復元
463	甑	4		M16 M17	8層 8層	(37.7)	-	(23.9)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 2/3 残存 内、外：摩滅　一部反転復元
464	蓋	4		N17	7層	19.1	-	5.1	にぶい黄橙	10YR 7/2	明褐灰	7.5YR 7/2	ほぼ完形　歪み有
465	蓋	4		M16	8層	(2.4)	(18.6)	(3.5)	灰 灰	7.5Y 6/1 7.5Y 5/1	灰白	7.5YR 8/1	ツマミ～口縁部 1/4 残存 ツマミ欠損　反転復元
466	蓋	4		N17	7層	17.4	-	2.9	にぶい黄橙	10YR 7/3	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存歪み有
467	蓋	4		M16	8層	17.9	-	3.2	灰白	N 7/	灰白	N 7/	ツマミ～口縁　完形
468	蓋	4		M16	8層	(19.2)	-	(1.7)	灰白	7.5Y 7/1	浅黄	2.5Y 7/4	天井部～口縁部 1/2 残存 内：鉄分付着 ツマミ部欠損　反転復元
469	蓋	4		M16	8層	13.5	-	1.9	灰	N 5/	灰	N 5/	ツマミ～口縁 完形　口縁に歪み有
470	蓋	4		M15	8層	(13.6)	-	3.1	灰白	5Y 7/1	灰黄	2.5Y 7/2	ツマミ～口縁部 1/2 残存　反転復元
471	蓋	4		M15	8層	14.7	-	2.0	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ～口縁部 1/2 残存　外：鉄分付着
472	蓋	4		M16	7層	(16.8)	-	2.2	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 1/4 残存 内：鉄分付着　反転復元
473	蓋	4		M16	8層	(18.7)	-	2.1	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 7/1	ツマミ～口縁部 1/4 残存　反転復元
474	蓋	4 4		M17 M17	7層 8層	17.7	-	2.2	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	ツマミ～口縁部 1/2 残存 内、外：鉄分付着
475	蓋	4		M17	8層	11.8	-	1.6	灰	7.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 6/1	ほぼ完形
476	蓋	4		M17	8層	13.6	-	2.7	にぶい黄	2.5Y 6/3	灰白	N 7/	天井部～口縁部 5/6 残存　口縁部に自然釉（灰白 7.5Y 8/1）外：鉄分付着
477	蓋	4 4		M16 M17	4層 8層	13.4	-	2.7	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～底部 1/2 残存 ツマミ部分を　反転復元
478	蓋	4		M15	7層	(15.4)	-	2.8	灰白	5Y 8/2	灰白	5Y 8/1	天井部～口縁部 1/3 残存 外：鉄分付着　反転復元
479	蓋	4		M16	8層	15.2	-	2.0	灰	7.5Y 6/1	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/2 残存
480	蓋	4		N16	8層	15.6	-	2.0	にぶい黄	2.5Y 6/4	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 3/4 残存 外：鉄分付着
481	蓋	4		M17	8層	15.6	-	1.5	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	天井部～口縁部 1/2 残存 内、外：鉄分付着
482	蓋	4		M17	7層	14.6	-	1.4	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 3/4 残存
483	蓋	4		M17	8層	14.6	-	2.0	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存
484	蓋	4		M16	8層	14.8	-	2.0	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 3/4 残存 口縁わずかに歪み有
485	蓋	4		M15	8層	14.4	-	1.9	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/2 残存
486	蓋	4		M17	7層	4.6	-	1.9	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存　反転復元
487	蓋	4		N16	8層	13.7	-	1.0	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 3/4 残存
488	蓋	4		M17	7層	14.5	-	1.3	灰	N 6/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/2 残存　歪み有
489	蓋	4		M15	8層	15.0	-	1.2	灰	N 5/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/2 残存　歪み有
490	蓋	4		M16	8層	15.2	-	2.2	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存 歪み有、転用硯
491	高坏	4		M16	8層	-	-	(7.3)	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	胴部～脚部 1/3 残存 外：鉄分付着　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
492	ミニチュア土器	4		O15	5a 層	-	4.1	4.1	灰	10Y 5/1	灰	10Y 5/1	頸部～底部 ほぼ完形 注ぎ口有穿孔（焼成前 外→内）
493	皿	4		M16	8 層	(19.2)	(10.4)	2.9	灰白	7.5Y 8/1	灰白	7.5Y 8/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
494	皿	4		M17	8 層	(19.4)	(14.8)	2.4	灰白	5Y 7/2	灰白	5Y 7/1	口縁～底部 2/5 残存　反転復元
495	皿	4		M16	8 層	(15.8)	-	1.8	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/4 残存
		4		N16	8 層								少し歪み有　反転復元
496	皿	4		N16	7 層	(15.8)	-	2.4	灰白	N 8/	灰白	7.5Y 8/1	口縁部～底部 3/4 残存
		4		M16	8 層								内：鉄分付着　反転復元
497	皿	4		M16	7 層	14.6	-	2.1	灰白	7.5Y 7/1	灰	N 6/	口縁部～底部 2/3 残存
		4		M17	8 層								外：自然釉少し赤っぽく焼成される
498	皿	4		N16	4 層	(17.0)	13.4	2.8	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
		4		M17	8 層								
499	皿	4		N17	7 層	18.2	(16.1)	2.4	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
500	皿	4		M15	8 層	17.7	10.8	2.8	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 3/4 残存
501	坏	4		M17	7 層	11.9	8.1	3.6	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 3/4 残存　内：火襷
502	坏	4		M17	7 層	(12.7)	8.7	4.5	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
503	坏	4		M17	7 層	13.8	9.7	4.4	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/2 残存　歪み有
504	坏	4		N16	7 層	(12.5)	(7.6)	3.7	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/6 残存　反転復元
505	坏	4		M17	7 層	13.1	9.2	3.9	灰白	7.5Y 8/1	灰白	7.5Y 8/1	口縁部～底部
		4		M17	8 層				灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	
506	坏	4		M15	8 層	(12.8)	8.7	4.4	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
507	坏	4		M17	8 層	12.8	8.2	3.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 2/3 残存
508	坏	4		N17	7 層	13.1	9.7	3.1	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 1/2 残存
509	坏	4		M17	3 層	(12.5)	9.4	3.7	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	口縁部～底部 3/4 残存　反転復元
510	坏	4		M16	8 層	14.0	9.0	4.1	にぶい黄橙	10YR 7/3	灰白	2.5Y 8/1	口縁部～底部 3/4 残存 底部：ヘラ記号
511	坏	4		M16	7 層	(13.5)	7.4	4.4	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
512	埦	4		M17	7 層	(11.8)	7.8	4.3	ｵﾘｰﾌﾞ灰	2.5Y 6/1	ｵﾘｰﾌﾞ灰	2.5Y 6/1	口縁部～高台 1/2 残存
		4		M17	8 層								内、外：火襷　反転復元
513	埦	4		M15	8 層	(13.6)	9.8	4.4	灰黄	2.5Y 6/2	灰黄褐	10YR 6/2	口縁部～底部 3/4 残存 内、外：鉄分付着　反転復元
514	埦	4		N16	7 層	(12.7)	(9.4)	4.1	にぶい橙	2.5YR 6/4	灰赤	2.5YR 5/2	口縁部～底部 1/4 残存
		4		N17	4 層								全体が赤く焼けている　反転復元
515	埦	4		N16	7 層	(13.9)	9.3	4.5	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～高台 1/2 残存　反転復元
516	埦	4		M16	8 層	(13.2)	(8.4)	4.6	灰白	N 7/	黄灰	2.5Y 5/1	口縁部～底部 1/3 残存 内、外：自然釉焼きぶくれ有　反転復元
517	埦	4		M17	7 層	(14.4)	4.4	(9.8)	黄灰	2.5Y 6/1	灰白	2.5Y 8/2	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
518	埦	4		M17	8 層	(13.3)	8.2	4.0	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/2 残存 高台に工具痕有　反転復元
519	埦	4		M16	8 層	(13.5)	8.5	4.2	灰褐 灰	7.5YR 5/2 10Y 5/1	灰	N 5/	口縁部～高台 1/2 残存外：鉄分付着 赤く焼けている　反転復元
520	埦	4		M16	7 層	(13.6)	8.0	4.5	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
521	埦	4		N16	7 層	(14.2)	9.2	4.2	浅黄	2.5Y 7/3	浅黄	2.5Y 7/3	口縁部～底部 2/3 残存
		4		M17	7 層								内：鉄分付着　反転復元
522	埦	4		M15	8 層	13.8	4.2	9.2	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 3/4 残存 内、外：鉄分付着
523	埦	4		M17	8 層	14.8	9.0	5.0	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～高台 2/3 残存 歪み有　高台に重ね焼き痕有

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
524	埦	4 4		M16 N17	8 層 7 層	(15.2)	3.8	9.2	灰	N 6/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/2 残存 外 : 自然釉が若干見られる　反転復元
525	埦	4		M16	8 層	13.3	(7.7)	4.3	灰白 灰	N 7/ 10Y 5/1	灰白 灰	N 7/ 10Y 5/1	口縁部～高台 3/4 残存外 : 自然釉 内 : 鉄分付着　反転復元
526	埦	4		M17	8 層	(12.9)	8.3	4.5	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～高台 1/2 残存　反転復元
527	埦	4 4		M17 M17	7 層 8 層	(15.4)	9.2	5.0	灰	10Y 6/1	灰褐	7.5Y 5/2	口縁部～底部 3/4 残存 内、外 : 鉄分付着　反転復元
528	埦	4		M16 M16	7 層 8 層	15.8	10.7	5.1	灰 灰褐	N 6/ 7.5YR 5/2	灰 灰褐	N 6/ 7.5YR 5/2	口縁部～高台 3/5 残存 外 : 焼きムラ有り
529	埦	4		M16	8 層	(15.8)	(9.6)	5.3	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
530	埦	4		M15	8 層	(16.2)	(10.4)	5.7	灰	N 5/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
531	埦	4		M16	8 層	(15.6)	(11.0)	5.9	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～高台 1/3 残存　反転復元
532	埦	4		M16	8 層	15.8	9.4	5.8	灰	N 5/	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～高台 2/3 残存　外 : 鉄分付着
533	埦	4		M17	7 層	(16.7)	(10.8)	6.1	にぶい黄橙	10YR 7/2	灰白	2.5Y 8/1	口縁部～高台 1/3 残存 鉄分付着　反転復元
534	埦	4		N16	8 層	16.2	(10.9)	5.8	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～高台 1/2 残存　反転復元
535	壺	4		M16	8 層	-	(11.4)	(5.2)	黄灰	2.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 6/1	底部 1/4 残存　内 : 鉄分付着　反転復元
536	壺	4		N17	7 層	-	(12.6)	(5.1)	灰白	5Y 7/1	灰	5Y 5/1	胴部～底部 1/6 残存　内、外 : 自然釉 （灰ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 4/2）　反転復元
537	鉢	4		N16	7 層	(23.2)	-	(14.9)	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 8/1	口縁部～底部 1/10 残存　反転復元
538	壺	4 4		M16 M17	3 層 7 層	-	-	(13.6)	灰	N 5/	灰	N 6/	胴部～底部 1/6 残存 内 : 鉄分付着　黒色粒子多く含む
539	鉢	4 4		M15 M16	8 層 8 層	(25.8)	(14.4)	-	灰白	10Y 8/1	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～底部 1/4 残存 内 : 鉄分付着　反転復元
540	甕	4		O16	4 層	-	-	(6.2)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～頸部 破片
541	壺	4		M17	7 層	-	-	(12.9)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	胴部 1/8 残存　外 : 自然釉　反転復元
542	壺	4		N16	8 層	(15.0)	-	(4.4)	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
543	壺	4 4		M15 N15	 7 層	-	-	(5.0)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	胴部 1/6 残存 胴部 :1 箇所焼成後穿孔　反転復元
544	甕	4 4		M16 M18	3 層 8 層	41.4	-	12.5	灰白 暗褐	5Y 7/1 7.5Y 3/4	灰白 灰	5Y 8/2 5Y 5/1	口縁部～頸部 4/5 残存　内、外 : 自然釉 外面上部に櫛描波状文（3 条 1 単位）
545	擂鉢	4		O15	5 層	(26.0)	-	(6.3)	灰白	2.5Y 8/1	灰白	2.5Y 8/1	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
546	擂鉢	4 4		Q15 O14	5 層 4 層	(31.2)	(14.2)	(14.2)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部～底部 1/4 残存　スリ目 :5 本 1 単位（放射状）　反転復元
547	火鉢	4		Q15	5b 層	(14.5)	-	(3.6)	暗灰黄	2.5Y 4/2	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部～胴部 1/8 残存 外 : スタンプ文（菊花）茶釜
548	羽釜	4		N16	4 層	-	-	(5.5)	灰	5Y 5/1	灰	5Y 6/1	胴部（鍔）1/10) 残存鍔径 35.8cm 鍔下部よりスス付着　反転復元
549	火鉢	4 4		N16 N17	3 層 7 層	-	(23.6)	(7.7)	にぶい黄橙	10YR 7/2	灰	5Y 6/1	底部 1/6 残存　胴部 : 貼付突帯 脚部 1 箇所残存　反転復元
550	火鉢	4		O14	4 層	-	(24.4)	(6.7)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	5Y 8/1	底部～脚部 1/8 残存 鉄分付着　反転復元
551	軒丸瓦	4			1 層	-	-	-	にぶい橙	7.5YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 6/3	約 1/2 残存瓦当部欠損
552	二次加工品	4			1 層	5.3 （全長）	4.9 （幅）	1.0 （厚さ）	-	-	-	-	擂鉢の破片を円盤型に加工し再利用
553	二次加工品	4		P15	3 層	5.3 （全長）	4.5 （幅）	1.1 （厚さ）	-	-	-	-	須恵器の底部を二次加工し再利用
554	高坏	5	SB4		埋 2 層 埋 3 層	13.2	9.4	11.4	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	坏部 3/4 残存、脚裾部 1/4 欠損

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名 (外)	色調	土色名 (内)	色調	備考
555	高坏	5	SB4		埋 3 層	13.7	-	(10.7)	橙 灰白	7.5YR 7/6 10YR 8/1	橙 灰白	7.5YR 7/6 10YR 8/1	坏部体部は一部欠損口縁 1/2 の残存 須恵器模倣の土師器
556	高坏	5	SB4		埋 3 層	-	(9.6)	(2.25)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	脚部 1/3 残存　外 : 赤彩　反転復元
557	坏	5	SB4		埋 1 層 埋 2 層	(11.5)	-	4.5	にぶい黄橙	10YR 7/4	黄灰	2.5Y 4/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存 内 : 黒色化　反転復元
558	坏	5	SB4		埋 1 層	(13.0)	-	(3.7)	黒 橙	N 2/ 7.5YR 7/6	黄灰 橙	2.5Y 4/1 7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　外 : 黒色処理 内 : 黒色化する　反転復元
559	坏	5	SB4		埋 3 層	(14.0)	-	(4.2)	黒 にぶい橙	N 2/ 7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存 外 : 黒色処理　反転復元
560	坏	5	SB4		SP464 炉 SP407	12.7	5.8	5.8	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 3/4 残存
561	坏	5	SB4		埋 1 層	(12.2)	-	5.8	橙 にぶい橙	5YR 7/6 7.5YR 7/4	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
562	坏	5	SB4		埋 3 層	(12.9)	-	6.0	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 底部黒斑　反転復元
563	鉢	5	SB4		埋 1 層 埋 3 層	19.0	-	8.1	にぶい橙 にぶい黄橙	7.5YR 7/4 10YR 7/3	にぶい橙	7.5YR 7/4	底部を 1/4 欠損する他はほぼ完形 外 : 黒斑 2 箇所
564	製塩土器	5	SB4		埋 1 層 埋 3 層	(10.8)	-	(9.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	明黄褐	10YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 内、外 : 摩滅　反転復元
565	製塩土器	5	SB4		埋 3 層	(10.9)	-	(7.8)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 内、外 : 摩滅　反転復元
566	鉢	5	SB4		埋 2 層 埋 3 層	15.0	5.3	10.8	橙	7.5YR 7/6	灰白	10YR 8/2	口縁部 ~ 底部 5/6 残存　全体に摩耗 内 : 黒斑外 : スス付着
567	小型壺	5	SB4		埋 3 層	10.0	-	12.2	にぶい橙	2.5YR 6/3	にぶい橙	2.5YR 6/3	ほぼ完形　外 : 黒斑 内、外 : 赤色顔料塗布
568	甕	5	SB4		埋 2 層	(14.6)	-	(6.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 全体的に摩耗　反転復元
569	甕	5	SB4 SB4		埋 1 層 埋 2 層	(19.6)	-	(8.6)	橙 褐灰	7.5YR 6/6 7.5YR 4/1	橙 褐灰	7.5YR 6/6 7.5YR 4/1	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
570	甕	5	SB4		埋 1 層 埋 2 層	(18.4)	-	(15.7)	にぶい黄橙	10YR 7/2	灰白	10YR 8/2	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存 外 : スス付着　反転復元
571	甕	5	SB4 SD82		埋 1 層 埋 3 層	(16.8)	-	(22.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 口縁端部を反転復元
572	甕	5	SB4		埋 1 層	(24.0)	-	(10.8)	橙	7.5YR 7/6	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
573	甕	5	SB4		埋 1 層 埋 3 層	(26.0)	-	(7.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 内 : 黒斑　反転復元
574	鉢	5	SB4		埋 3 層	-	(9.2)	(3.0)	黄灰 浅黄橙	2.5Y 6/1 10YR 8/3	褐灰	10YR 6/1	胴部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
575	高坏	5	SB4		埋 1 層	(13.4)	-	(4.5)	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	坏部 1/6 残存　反転復元
576	高坏	5	SB4		埋 2 層	-	(8.0)	(4.0)	灰	10Y 6/1	灰白	N 8/	脚部 1/4 残存　内、外 : 降灰、自然釉 透孔（形状不明、3 孔）　反転復元
577	高坏	5 5	SB4	1384	埋 1 層 3 層	-	(10.7)	(5.6)	灰	N 5/	青灰	5B 6/1	脚部 1/4 残存　内、外 : 降灰、自然釉 透孔（方形、孔数不明）　反転復元
578	蓋	5 5	SB4 SB4		埋 1 層 埋 1 層	12.9	-	5.3	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存 天井部 : ヘラ記号　反転復元
579	蓋	5 5	SB4 SB4		埋 1 層 埋 2 層	(12.2)	-	(5.0)	灰白	N 8/	灰白	N 8/	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　天井部 : ヘラ記号 外 : 自然釉（灰ｵﾘｰﾌﾞ 5Y 6/2）　反転復元
580	蓋	5	SB4		埋 1 層	(13.6)	-	(3.8)	灰	5Y 6/1	灰黄	2.5Y 7/2	天井部 ~ 口縁部 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
581	蓋	5	SB4		埋 1 層	14.4	-	2.9	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存 歪み有　反転復元
582	蓋	5	SB4		埋 1 層 側	-	-	(2.8)	灰白	N 7/	灰白	10Y 7/1	天井部 ~ 胴部 1/3 残存 天井部 : ヘラ記号「×」 反転復元
583	坏	5 5	SB4 SB11		埋 3 層	11.6	7.0	5.0	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部 ~ 底部 2/3 残存
584	坏	5 5	SB4 SB13		埋 1 層	11.1	-	(3.2)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁 ~ 胴部 2/3 残存
585	坏	5	SB4		埋 1 層	11.5	5.3	5.5	灰白	N 7/	灰白	N 7/	ほぼ完形
586	坏	5 5	SB4 SB7		埋 1 層 埋 1 層	(12.9)	-	(4.9)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 胴部 1//4 残存 外 : 自然釉　反転復元
587	埦	5	SB4		埋 1 層	-	(9.2)	(2.8)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	5Y 8/1	胴部 ~ 高台 3/8 残存 摩耗が激しい　反転復元
588	瓶	5	SB4		埋 1 層	-	-	(3.1)	灰ｵﾘｰﾌﾞ	5Y 5/2	灰白	5Y 7/1	頸部 ~ 胴部 1/4 残存 外 : 自然釉穿孔有　反転復元
589	甕	5 5	SB4 SB4		埋 1 層 埋 1 層	21.8	-	(7.2)	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　外 : タタキ（平行）内 : 当て具痕（同心円）
590	甕	5 5	SB4 SB7		埋 1 層 埋 1 層	-	-	(15.9)	灰	N 6/	灰白	N 7/	胴部 ~ 底部 1/3 残存　外 : タタキ（格子状）内 : タタキ（同心円） 反転復元
591	蓋	5	SK1			(16.0)	(13.0)	3.8	橙	7.5YR 7/6	にぶい橙 にぶい橙	7.5YR 6/4 7.5YR 7/4	天井部 ~ 底部 1/2 残存 ツマミ箇所欠損　反転復元
592	皿	5	SK1		埋 1 層	(16.6)	(7.6)	1.8	橙	5YR 6/8	橙 明赤褐	5YR 6/8 2.5YR 5/8	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 反転復元
593	坏	5	SK1			(13.0)	(7.8)	3.15	にぶい黄橙 橙	10YR 7/3 2.5Y 6/6	橙 褐灰	5YR 6/6 5YR 5/1	口縁部 3/8~ 底部 1/2 残存 二次焼成による色変あり
594	坏	5	SK1			(15.7)	(5.8)	4.5	橙	7.5YR 7/6	橙 灰白	7.5YR 7/6 10YR 8/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
595	製塩土器	5	SB4		埋 5 層	(8.3)	-	(4.7)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 内、外 : 摩滅　反転復元
596	鉢	5	SK1			(26.6)	-	(6.2)	橙	5YR 7/6	橙 灰黄褐	5YR 7/6 10YR 5/2	口縁部 ~ 胴部 残存 全体的に摩耗が激しい　反転復元
597	甕	5	SK1		埋 1 層	(14.6)	-	(4.0)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存 全体に摩耗激しい　反転復元
598	甕	5	SK1			(29.8)	-	(9.8)	明黄褐 橙	10YR 7/6 5YR 7/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
599	蓋	5	SK1			13.4	-	1.4	灰	N 6/	灰	N 6/	完形歪み有 内、外 : 自然釉、粘土塊付着
600	蓋	5	SK1			(14.4)	-	1.4	灰白	5Y 7/1	灰白	2.5Y 8/2	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
601	蓋	5	SK1			(15.2)	-	1.7	灰	10Y 6/1	灰白	10Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存 口縁歪み有　反転復元
602	高坏	5	SB6		埋 1 層 埋 3 層	(18.2)	-	(9.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部 ~ 脚部 1/6 残存 脚部内面にシボリ痕有　反転復元
603	高坏	5	SB6		埋 4 層	-	-	(7.5)	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	脚部 1/3 残存 ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
604	壺	5	SB6		埋 1 層	-	(4.0)	(5.1)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	胴部 ~ 底部 5/6 残存 全体的に摩耗　反転復元
605	坏	5	SB6		埋 2 層	-	-	(2.3)	にぶい褐	7.5YR 5/3	にぶい褐	7.5YR 5/3	胴部下位 ~ 底部 1/6 残存 底部 : ヘラ記号「×」 反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
606	坏	5	SB6		埋 1 層	(14.4)	-	6.6	にぶい褐	7.5YR 5/3	にぶい褐	7.5YR 5/3	口縁部 ~ 底部 1/2 残存 反転復元
607	坏	5	SB6		埋 1 層	(16.6)	-	5.4	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
608	壺	5	SB6		炉 SP470	(20.6)	-	(7.5)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 1/6 残存　反転復元
609	甕	5	SB6		SP470	(16.4)	-	(7.2)	橙	5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 外面と口縁内面に赤彩痕　反転復元
610	甕	5	SB6		埋 4 層 炉 SP470	(19.3)	-	(9.7)	明赤褐	5Y 5/6	明赤褐	5Y 5/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
611	甕	5	SB6		埋 1 層 埋 2 層	-	-	(24.3)	橙	7.5YR 6/6	黄橙	7.5YR 7/8	頸部 ~ 底部 1/2 残存 全体に摩滅　外 : スス付着　反転復元
612	坏	5	SB6		埋 1 層	-	(7.7)	(3.6)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/5 残存 天井部 : ヘラ記号　反転復元
613	壺	5	SB7		埋 1 層	-	-	(9.5)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 残存　反転復元
614	坏	5	SB7		埋 1 層	15.2	-	(3.7)	褐灰 黒	10YR 7/2 N 2/	にぶい黄橙 褐灰	10YR 7/2 10YR 6/1	口縁部 ~ 胴部 1/2 残存　内、外 : 黒化処理全体的に摩耗一部　反転復元
615	坏	5	SB7		埋 1 層	(14.4)	-	(3.6)	褐灰	10YR 4/1	褐灰 黒	10YR 4/1 N 2/	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 内、外 : 黒化処理　反転復元
616	坏	5	SB7		埋 1 層	(14.2)	-	(6.1)	赤	10R 5/8	赤	10R 5/8	口縁部 ~ 胴部 残存、口縁で 1/9 残存 ハケメ :4 本 1 単位　反転復元
617	坏	5	SB7		埋 1 層	13.0	-	4.9	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 1/2 強残存一部スス付着
618	坏	5	SB7		埋 1 層	(12.0)	-	(3.9)	にぶい橙	7.5YR 7/4	黒	N 2/	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 内 : 黒化処理　反転復元
619	甕	5	SB7		埋 1 層	(14.8)	-	(7.7)	橙	5YR 6/6	明赤褐	5YR 5/8	口縁 ~ 胴部上位 1/2 残存 ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
620	甕	5	SB7		埋 1 層	(18.2)	-	(6.1)	褐灰 浅黄橙	10YR 4/1 10YR 8/3	にぶい黄橙 褐灰	10YR 7/3 10YR 4/1	口縁部 ~ 胴部上位 1/2 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
621	甕	5	SB7		埋 1 層	(14.8)	-	(6.0)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部上位 2/5 残存　反転復元
622	甕	5	SB7		埋 1 層	(20.2)	-	(9.4)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 1/7 残存 ハケメ :10 本 1 単位　反転復元
623	甕	5	SB7		埋 1 層	(12.6)	-	(6.3)	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
624	甑	5	SB7			-	(10.6)	(3.3)	灰黄褐	10YR 5/2	灰黄褐	10YR 5/2	底部 1/6 残存底部 :2 孔以上確認 反転復元
625	甑	5	SB7 SB16		埋 1 層 埋 1 層	(18.2)	9.1	18.1	橙	2.5YR 6/8	褐灰 にぶい黄橙	10YR 4/1 10YR 6/3	口縁部 1/2~ 底部 3/4 残存　ハケメ :7 本 1 単位焼成前穿孔有り　一部反転復元
626	蓋	5	SB7		埋 1 層	(14.0)	-	3.9	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存内 : 割れ口に鉄分付着天井部 : ヘラ記号　反転復元
627	蓋	5	SB7		埋 1 層	(14.0)	-	(4.5)	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
628	蓋	5	SB7		埋 1 層	(14.4)	-	(3.6)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/6 残存　反転復元
629	蓋	5	SB7		埋 1 層	13.8	-	(2.1)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 3/4 残存
630	坏	5 5	SB7 SB8		埋 1 層 埋 1 層	(10.0)	5.2	4.9	灰	5Y 6/1	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 外 : 自然釉　反転復元
631	坏	5 5	SB7 SB16		埋 1 層 埋 1 層	(11.3)	-	(4.9)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 外 : 剥離激しい　反転復元
632	坏	5	SB7 SB16		埋 1 層 埋 1 層	(11.8)	-	(4.0)	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
633	坏	5 5	SB7 SB16		埋 1 層 埋 1 層	(2.6)	-	(4.0)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　外 : 自然釉（灰ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 6/2）　反転復元
634	坏	5	SB7		埋 1 層	(12.1)	-	(4.3)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
635	坏	5	SB7			(13.6)	-	(4.0)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～胴部 1/3 残存 鉄分付着　反転復元
636	坏	5	SB7		埋 1 層	-	6.4	(3.7)	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	受部～底部 1/3 残存
		5	SB7		埋 1 層								底面：ヘラ記号　反転復元
637	埦	5	SB7		埋 1 層	13.5	9.4	4.5	灰白	5Y 8/2	灰白	5Y 8/1	口縁部～高台 1/2 残存
638	壺	5	SB7		埋 1 層	(16.4)	-	28.0	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部～底部 1/4 残存　胴部：焼成後穿孔 1 箇所内：当て具痕（同心円）外：タタキ（格子状→平行）　反転復元
		5		1394 1395	3 層 3 層								
639	甕	5	SB8		埋 1 層	-	-	(7.2)	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	胴部～底部 1/4 残存　ハケメ :7 本 1 単位外：黒化、摩滅　反転復元
640	甕	5	SB8		埋 1 層	(16.0)	-	(7.6)	にぶい赤褐	5YR 5/4	灰褐	5YR 4/2	口縁部 1/12、頸部 1/4 残存　ハケメ :5 本 1 単位外：部分的黒化　反転復元
641	甕	5	SB8		埋 1 層	(20.0)	-	(5.3)	明赤褐	2.5YR 5/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部～頸部 1/6 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
642	装飾付高坏	5	SB8		埋 1 層	-	-	(2.9)	灰白	5Y 8/1	灰白	7.5Y 7/1	胴部 1/2 残存　透孔（方形、ナナメに 3 孔）内、外：自然釉　反転復元
643	蓋	5	SB8		埋 1 層	(14.0)	-	(4.3)	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/8 残存　反転復元
644	甕	5	SB8		埋 1 層	(21.0)	-	(5.3)	灰 灰ｵﾘｰﾌﾞ	5Y 6/1 5Y 4/2	灰	7.5Y 6/1	口縁部～頸部 1/6 残存 内、外：自然釉　反転復元
645	坏	5	SB16		埋 1 層	(11.6)	-	(3.6)	黒褐	10YR 3/1	黒褐	10YR 3/2	口縁部～胴部下位 1/7 残存 内、外：黒色顔料塗布か
646	高坏	5	SB16		埋 1 層	-	-	(6.7)	にぶい黄橙 赤褐	10YR 7/4 5YR 4/8	にぶい黄橙	10YR 7/4	脚部のみ、裾部を欠く 外：赤色顔料塗布
647	甕	5	SB16		埋 1 層	(17.0)	-	(6.9)	赤褐 暗赤灰	2.5YR 4/6 2.5YR 3/1	赤褐	2.5YR 4/8	口縁部～肩部 1/8 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
648	甕	5	SB16		埋 1 層	(15.5)	-	(5.7)	にぶい黄橙 黒褐	10YR 7/2 10YR 3/1	にぶい黄橙 黒褐	10YR 7/3 10YR 3/1	口縁部～肩部 1/5 残存 口縁部内外は黒色に変わる
649	甕	5	SB16		埋 1 層	-	-	(6.6)	黒褐 にぶい褐	5YR 3/1 7.5YR 5/1	赤褐	5YR 4/6	口縁部～肩部小片 ハケメ :11 本 1 単位
650	高坏	5	SB16		埋 1 層	(10.4)	-	(6.1)	黄灰	2.5Y 5/1	黄灰	2.5Y 5/1	坏部 1/3、脚一部残存　内、外：自然釉透孔（3 ヶ所）　反転復元
		5	SB16		埋 2 層								
651	蓋	5	SB16		埋 1 層	(14.0)	-	(3.2)	灰	7.5Y 5/1	灰	N 6/	胴部～口縁部 1/6 残存　反転復元
652	蓋	5	SB16		埋 2 層	(14.2)	-	1.1	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存 外：まだらに自然釉　反転復元
653	坏	5	SB16		埋 1 層	(10.2)	(5.3)	5.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
654	坏	5	SB16		埋 1 層	(12.4)	-	(3.8)	灰	N 4/	灰	5Y 6/1	口縁部～胴部 1/8 残存　反転復元
655	坏	5	SB80			(15.6)	-	(3.3)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	口縁部～胴部 1/8 残存　反転復元
656	甕	5	SB88			(20.2)	-	(8.0)	明褐灰	7.5YR 7/2	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～胴部 1/12 残存　全体的に摩耗 ハケメ :3~4 本 1 単位　反転復元
657	甕	5	SB88			(18.0)	-	(7.3)	灰黄褐	10YR 5/2	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部～胴部 1/6 残存　ハケメ :6 本 1 単位、7 本 1 単位　反転復元
658	蓋	5	SB9			14.8	-	4.7	灰白 黄灰	2.5Y 8/2 2.5Y 6/1	灰黄 灰白	2.5Y 7/2 2.5Y 8/1	ほぼ完形
		5	SP291										
659	蓋	5	SB9			(14.2)	-	(4.5)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	胴部～口縁部 1/4 残存　反転復元
660	蓋	5	SB9		埋 1 層	(13.6)	-	(4.6)	灰白 灰	5Y 7/1 5Y 5/1	灰白	2.5Y 7/1	胴部～口縁部 1/3 残存　反転復元
		5		2322	3 層								
661	蓋	5	SB9			(14.8)	-	1.2	灰	N 4/	灰白	N 8/	天井部～口縁部 1/6 残存 外：自然釉歪み有　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
662	甕	5	SB13			-	-	(2.9)	褐	10YR 4/4	褐	10YR 4/4	口縁部小片 内→外へ 0.3cm の円形の穿孔有り
663	甑	5	SB13			-	-	(6.7)	にぶい赤褐	5YR 5/4	橙	5YR 6/6	口縁部小片
664	坏	5	SB13			(11.2)	-	4.7	黄灰	2.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部～胴部 1/4 残存 高坏の坏部　反転復元
665	高坏	5	SB13			-	-	(4.2)	灰	N 5/	灰	N 5/	坏部 1/3 残存　反転復元
666	高坏	5	SB13			(11.0)	-	(4.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
667	高坏	5	SB13			-	-	(5.5)	灰白	N 7/	灰白	7.5Y 7/1	脚部 1/4 残存 透孔（三角形、4 孔）　反転復元
668	高坏	5 5	SB13 SB13		埋 1 層	-	(14.2)	(10.7)	黄灰	2.5Y 6/1	にぶい黄橙	10YR 7/2	脚部 1/2 残存 透孔（三角形、3 孔）　反転復元
669	蓋	5	SB13		埋 1 層	12.6	-	4.2	橙	7.5YR 6/4	橙	7.5YR 6/4	天井部～口縁部 2/3 残存　一部反転復元
670	坏	5	SB13			(12.0)	(8.0)	3.7	灰白	7.5Y 7/1	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/4 残存 外 : 自然釉　反転復元
671	坏	5 5	SB13 SK51			(12.9)	5.9	4.0	黄灰	2.5Y 6/1	灰褐	7.5YR 6/2	口縁部～底部 3/4 残存　外 : 自然釉受部に重ね焼き痕有　一部反転復元
672	皿	5	SB13			(14.0)	(10.8)	2.0	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
673	坏	5 5	SB13 SB15		埋 1 層	10.6	6.3	4.9	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 2/3 残存 底部 : ヘラ記号
674	坏	5 5	SB13	2314	3 層	(12.5)	-	4.3	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 2/3 残存 底部 : ヘラ記号
675	提瓶	5	SB13			-	-	(4.7)	灰	N 6/	灰	N 6/	頸部～胴部 1/6 残存　反転復元
676	甕	5	SB13			(22.1)	-	(6.0)	灰 暗灰	N 5/ N 3/	灰 暗灰	N 5/ N 3/	口縁部～頸部 1/6 残存 内、外 : 自然釉　反転復元
677	甕	5	SB13			(19.7)	-	(5.4)	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～頸部 1/6 残存　反転復元
678	甕	5	SB14		埋 1 層	(14.0)	-	(8.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	明黄褐	10YR 7/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
679	坏	5	SB15		埋 1 層	(14.0)	-	(4.1)	灰	N 6/	灰	N 5/	口縁部 1/6 残存　反転復元
680	甕	5	SB83			(15.6)	-	(5.3)	橙 灰褐	7.5YR 6/6 7.5YR 4/2	橙	7.5YR 6/6	口縁部～肩部 小片　反転復元
681	甕	5	SB83	2313	埋 1 層 3 層	14.2	(6.0)	17.95	明赤褐 明赤褐	5YR 5/6 2.5YR 5/6	明赤褐 灰褐	5YR 5/6 5YR 4/2	口縁部～底部 3/4 残存 口縁に歪み有ハケメ :9 本 1 単位
682	蓋	5	SB83		埋 1 層	14.8	-	5.0	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 4/5 残存
683	坏	5	SB83		埋 1 層	-	(5.4)	(4.3)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/8 残存　反転復元
684	器台	5 5	SB83	2313	3 層	-	-	(14.5)	灰	5Y 5/1	灰白	7.5Y 7/1	脚部 1/3 残存　透孔（上下二段による方形、3 ヶ所）　反転復元
685	壺	5 5	SB83 SP593		埋 1 層 埋 1 層	-	-	(44.6)	灰	N 6/	灰	N 6/	頸部～胴部 1/3 残存　内 : 当て具痕（同心円状） 外 : タタキ（格子状）、自然釉　反転復元
686	甕	5	SB84	1384	3 層	(14.2)	-	(15.2)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部～胴部 1/2 残存 内 , 外 : スス付着一部　反転復元
687	甕	5	SB84	1384	3 層	(19.0)	-	(7.0)	橙 にぶい黄橙	7.5YR 6/6 10YR 7/4	橙 にぶい黄橙	7.5YR 6/6 10YR 7/4	口縁部～肩部 1/5 残存 ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
688	甕	5	SB1 SB84		埋 4 層 埋 5 層	(20.2)	-	(7.6)	明赤褐 にぶい赤褐	2.5YR 5/6 2.5YR 5/4	明赤褐 にぶい赤褐	2.5YR 5/6 2.5YR 5/4	口縁部～肩部 1/2 残存　反転復元
689	ハソウ	5 5	SB84	1384	3 層	-	-	(6.7)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部～底部 1/2 残存　内、外 : 自然釉 櫛状工具による刺突文有　反転復元
690	紡錘車	5				4.2 (全長)	4.5 (幅)	0.6 (厚さ)	-	-	-	-	須恵器の土器を二次加工して再利用 穿孔有り（直径 0.7㎝）重さ 11.9
691	坏	5	SB85	1384	3 層	(13.8)	-	(7.9)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/2 残存 外 : 摩耗一部黒斑あり　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
692	壺	5	SB85 SB87		埋 3 層 埋 2 層	14.8	-	(6.9)	橙 にぶい赤褐	2.5YR 6/8 5YR 5/3	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 1/2~ 肩部 9/10 残存 外 : 黒斑一部　反転復元
693	甕	5	SB85			(10.6)	-	(12.7)	にぶい黄橙 褐灰	10YR 6/3 7.5YR 4/1	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 1/5~ 胴部 1/3 残存 外 : スス付着　反転復元
694	甕	5	SB85	1384	3 層	15.8	-	(11.25)	にぶい褐 褐灰	7.5YR 5/3 10YR 4/1	にぶい赤褐 黒	5YR 5/4 10YR 2/1	口縁 全形 ~ 胴部中位 わずか 外 : ハケメ 11 本 1 単位　反転復元
695	壺	5	SB85 SB87			16.6	-	(5.9)	橙 にぶい褐	2.5YR 6/8 7.5YR 5/3	橙 にぶい赤褐	2.5YR 6/8 5YR 5/4	口縁部 ~ 頸部 2/3 残存 内面ハケメ :10 本 1 単位
696	壺	5 5	SB85	1384		(15.5)	-	(14.9)	浅黄橙 橙	7.5YR 8/4 5YR 7/6	浅黄 橙	2.5Y 7/4 7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部上位 口縁 1/6 残存 外 : 黒斑有り　反転復元
697	坏	5	SB85			(9.9)	(6.0)	5.0	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 底部 : ヘラ記号　反転復元
698	坏	5	SB85			(13.0)	(7.7)	5.4	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
699	蓋	5	SB87			(1.4)	-	(3.2)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	胴部 ~ 口縁部 1/6 残存　反転復元
700	蓋	5	SB87		埋 1 層	(13.4)	-	(3.4)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
701	壺	5	SB87			(15.0)	-	(5.3)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 8/1	口縁部 ~ 頸部 1/8 残存　反転復元
702	坏	5	SB87			(12.2)	-	(4.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 1/6 残存 外 : 赤色顔料塗布　反転復元
703	坏	5	SB87			(131.1)	(5.2)	(5.3)	赤 にぶい黄橙	10R 4/8 10YR 7/4	赤 にぶい黄橙	10R 4/8 10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 内・外 : 赤色顔料塗布　反転復元
704	坏	5	SB87			(14.8)	-	(6.5)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 外 : 一部黒変　反転復元
705	台付坏	5	SB87			-	-	(3.3)	にぶい黄橙	10YR 6/4	褐灰	10YR 4/1	頸部のみ残存 外 : 赤彩が施される内 : 黒化処理
706	壺	5	SB87			-	-	(8.1)	浅黄橙	10YR 8/3	明黄褐	10YR 7/6	胴部 1/2 残存　外 : 摩滅が激しい 黒斑有り　反転復元
707	壺	5	SB87			-	-	(5.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	頸部 1/3 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
708	甕	5	SB87	1385		(19.8)	-	(7.0)	黒 黄灰	10YR 2/1 2.5Y 4/1	灰黄 黄灰	2.5Y 6/2 2.5Y 4/1	口縁部 1/3 残存　外 : 燻され黒色化 内 : 粘土紐痕　反転復元
709	壺	5	SB87	1385	3 層	(15.8)	-	(16.7)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 口縁は 2/3 残存 外ハケメ :5 本 1 単位　反転復元
710	甕	5	SB87	1385	2 層	15.7	-	(19.5)	橙 褐灰	5YR 7/6 10YR 5/1	橙 橙	2.5YR 6/8 7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部中位口縁は少し欠損す るがほぼ完形　内、外 : 黒斑有り
711	甕	5	SB87	1385	3 層	16.5	-	(18.4)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部中位 口縁は 3/4 残存 外 : スス付着、ヘラ記号あり　反転復元
712	鉢	5	SK5		埋 1 層	(12.4)	-	(5.0)	赤褐	5YR 4/6	褐灰	5YR 4/1	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　外 : 口縁一部 黒斑内 : 全体に黒化　反転復元
713	坏	5	SK5		埋 1 層	(15.0)	-	(3.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
714	壺	5	SK5		埋 1 層	(15.4)	-	(7.5)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存 全体に摩耗が激しい　反転復元
715	甕	5	SK5		埋 1 層	(15.0)	-	(10.3)	橙	7.5YR 6/8	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　反転復元
716	甑	5	SK5		埋 1 層	-	-	(8.5)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	把手のみ残存
717	蓋	5	SK5		埋 1 層	(15.4)	-	1.8	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
718	埦	5	SK5		埋 1 層	11.7	6.1	3.7	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 3/4 残存
719	埦	5	SK5		埋 1 層	(14.0)	(8.4)	4.6	黄灰	2.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部 ~ 高台 1/4 残存　反転復元
720	皿	5	SK5		埋 1 層	14.6	-	2.3	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
721	甕	5 5	SK5	2303	埋 1 層 1 層	(14.6)	-	(6.1)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 頸部 1/3 残存 内、外 : 自然釉　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
722	甕	5	SK5		埋 1 層	(27.2)	-	(7.1)	灰白 灰	N 7/ N 5/	灰白 灰	N 7/ 7.5Y 5/1	口縁部～頸部 1/4 残存　内、外 : 自然釉外 : 櫛描波状文　反転復元
723	坏	5	SD82		埋 2 層	13.1	-	5.6	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部～底部 1/2 残存　内、外 : 黒斑 口縁付近と胴部の一部に赤色顔料が見られる
724	壺	5	SD82		埋 2 層	(8.8)	-	(7.4)	橙	5YR 6/8	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部～胴部 1/5 残存 内 : 外 : 赤塗り　反転復元
725	甕	5	SD82		埋 2 層	(15.0)	-	(9.5)	橙	7.5YR 6/6	灰黄褐	10YR 5/2	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
726	甕	5	SD82		埋 2 層	(18.4)	-	(10.0)	浅黄橙	10YR 8/3	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～胴部　反転復元
727	甕	5	SD82		埋 2 層	-	-	(8.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい褐	7.5YR 6/3	胴部 1/6 残存　外 : スス付着 穿孔（径 0.4cm）有り　反転復元
728	坏	5	SD82		埋 2 層	(12.2)	5.5	4.1	灰	7.5Y 6/1	灰	N 6/	口縁部～底部 3/4 残存　一部反転復元
729	坏	5	SP213			(10.4)	-	(4.8)	黄橙	7.5YR 7/8	浅黄橙	7.5YR 8/6	口縁部～底部 1/6 残存 底部外面 : 黒斑赤塗土器　反転復元
730	坏	5	SP445			(15.4)	-	(6.1)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存 内、外 : 赤彩　反転復元
731	高坏	5	SP223			(10.4)	8.2	11.1	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	坏部 1/2~ 脚裾部 2/3 残存 全面赤色顔料塗布一部　反転復元
732	高坏	5	SP509			-	(13.0)	(11.0)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	坏部は屈曲部より上位を全て欠損 裾部を反転復元
733	鉢	5	SK63			(14.0)	-	(5.2)	橙	5YR 6/6	にぶい橙	5YR 6/4	口縁部～胴部 1/12 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
734	鉢	5	SK75			(18.2)	-	(6.6)	にぶい赤褐	5YR 4/3	明赤褐	5YR 5/6	口縁部～胴部 1/6 残存 外 : 被熱を受け色調が暗い　反転復元
735	坏	5	SK45			-	(7.0)	(2.0)	灰白	7.5YR 8/2	褐灰	7.5YR 4/1	胴部～底部 1/4 残存　内 : 全面黒化 底部 : 黒斑有り　反転復元
736	坏	5	SK71			(12.2)	7.7	4.1	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 1/2 残存　一部反転復元
737	坏	5	SK71			(14.4)	(7.0)	.5.4	浅黄橙	10YR 8/4	灰	5Y 4/1	口縁部～底部 1/3 残存 内 : 黒化処理　反転復元
738	鉢	5	SK75			-	-	(5.2)	明赤褐	5YR 5/6	橙	5YR 6/6	口縁部小片（1/6 以下）外 : 被熱
739	壺	5	SP483			-	-	(13.1)	浅黄橙 橙	7.5YR 8/6 5YR 7/6	浅黄橙	7.5YR 8/6	頸部～底部 2/3 残存　外 : 黒斑有り 一部反転復元
740	壺	5	SP558			(16.6)	-	(8.6)	橙	7.5YR 7/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/6 残存　外面のハケメはナデにより摩滅している　反転復元
741	小型壺	5	SP483			(8.8)	-	(10.6)	褐灰	7.5YR 4/1	黒褐	5YR 2/2	口縁部～底部 1/12 残存 外 : 摩耗内、外 : 黒色化　反転復元
742	甕	5	SK63	2304	3 層	12.4	-	(15.0)	橙	2.5YR 6/8	褐灰	7.5YR 4/1	口縁部 完存、胴部 1/3 残存 一部反転復元
743	甕	5	SP412			(16.4)	-	(7.0)	明赤褐	5YR 5/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
744	甕	5	SK71			(18.0)	-	(5.4)	橙	5YR 6/6	灰黄褐	10YR 4/2	口縁部～底部 1/6 残存　反転復元
745	壺	5	SK70			(16.4)	-	(7.0)	明赤褐	2.5YR 5/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/4~ 胴部 1/6 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
746	壺	5	SK70			(14.8)	-	(12.3)	浅黄橙	7.5YR 8/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/3 残存　外 : 黒斑有り ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
747	甕	5	SK63			(20.6)	-	(12.0)	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部～胴部 1/6 残存　ハケメ :8 本 1 単位外 : スス付着　反転復元
748	甕	5	SP213		埋 1 層	16.4	-	26.0	橙 橙	2.5YR 6/6 5YR 7/6	橙 赤灰	2.5YR 7/6 2.5YR 4/1	部分的に欠損するが、ほぼ完形 外面、口縁部内面 : 黒斑有り
749	甕	5	SK63	2304	1 層	16.4	-	26.3	明赤褐 灰赤	2.5YR 5/6 2.5YR 5/2	明赤褐 灰赤	2.5YR 5/6 2.5YR 4/2	口縁部～底部残存口縁部と胴部を一部欠損　外のハケメ :9 本 1 単位

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
750	甕	5	SP555			-	-	(13.1)	にぶい黄橙	10YR 7/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～胴部破片　外：スス付着
751	甕	5	SP564			-	-	(16.7)	にぶい黄橙	10YR 7/2	灰黄 褐灰	2.5Y 7/2 10YR 4/1	口縁部～胴部破片 外：摩耗、スス付着
752	甕	5	SP232	2313	3 層	(37.4)	-	(11.3)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/3 残存 口縁部内外：黒斑　反転復元
753	甑	5	SK71			(34.2)	-	(9.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/8	口縁部～胴部 1/6 残存 全体に摩耗が著しい　反転復元
754	蓋	5 5	SK66		1 層	(15.4)	-	2.2	灰 暗灰	N 5/ N 3/	灰	7.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/2 残存　内、外：自然釉歪みが激しい　反転復元
755	蓋	5	SP196			(15.4)	-	1.4	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
756	蓋	5	SP202		埋 1 層	(15.4)	-	2.0	にぶい褐	7.5YR 6/3	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
757	蓋	5	SP569			(14.0)	-	1.0	灰	N 4/	黄灰	2.5Y 6/1	天井部～口縁部 1/4 残存 外：自然釉歪み有　反転復元
758	坏	5	SP233			(12.2)	(6.0)	4.3	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～底部 1/4 残存 外：自然釉、付着物　反転復元
759	坏	5 5	SP483	2323	3 層	(12.7)	-	4.8	灰	7.5Y 4/1	灰	N 5/	口縁部～底部 1/4 残存 底部：敲打痕、自然釉　反転復元
760	坏	5	SP483			(9.6)	-	5.6	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/4 残存　底部：ヘラ記号歪みが激しい　反転復元
761	坏	5	SP101			(10.6)	6.4	(4.7)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
762	埦	5	SK2			11.6	8.1	3.1	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～高台 1/2 残存　口縁歪み有
763	埦	5 5	SK27 SK74			(16.5)	10.5	5.1	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～高台 1/4 残存 歪み有　反転復元
764	埦	5	SK62			(17.3)	12.6	6.1	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～高台 3/8 残存　反転復元
765	小型壺	5	SP483			(11.8)	-	(6.0)	灰	N 4/	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～頸部 1/3 残存 外：櫛描波状文　反転復元
766	壺	5 5	SK2 SK2		埋 1 層	-	(12.6)	(8.4)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部～高台 1/2 残存 長頸壺　反転復元
767	壺	5	SP249			-	10.6	(10.5)	灰	N 6/	灰	N 6/	底部～胴部 1/6 残存　反転復元
768	壺	5		2322	3 層	23.4	-	(6.5)	黒褐	7.5YR 3/2	にぶい褐	7.5YR 5/3	口縁部～頸部 1/8 残存　反転復元
769	甕	5		2313	3 層	-	-	(7.8)	橙	7.5YR 7/6	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部～胴部上位 1/4 残存　外面に刻み目突帯を貼り付ける　反転復元
770	甕	5		2332	4 層	-	6.1	(5.5)	暗灰 橙	N 3/ 2.5YR 7/6	灰	N 4/	底部のみ残存　内、外：黒色化 一部　反転復元
771	壺	5		1385	3 層	-	6.9	(5.9)	灰白	10YR 8/2	浅黄橙	10YR 8/4	底部ほぼ完形、胴部一部のみ残存 反転復元
772	坏	5		1385	№ 14	11.6	-	4.4	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	ほぼ完形　朱塗り
773	坏	5		1384	3 層	(12.6)	-	4.7	橙 橙	7.5YR 7/6 2.5YR 6/6	赤黒	2.5YR 2/1	口縁部～底部 1/2 残存　外面口縁～内面全体に内黒を施す　反転復元
774	高坏	5		2322	3 層	-	(10.8)	(3.3)	黄橙	10YR 8/6	黄橙	10YR 8/6	脚部 ほぼ完形 底部の内器面に黒変が見られる
775	坏	5		1385	3 層	13.6	-	6.2	橙 橙	5YR 6/8 7.5YR 7/6	橙	5YR 6/8	ほぼ完形 外：黒変有り
776	坏	5		1385		14.4	6.2	6.1	橙	2.5YR 6/6	橙	2.5YR 6/6	ほぼ完形 内、外：丁寧なミガキ有り、鉄分付着
777	坏	5		1384		13.4	2.4	4.9	にぶい黄橙 橙	10YR 6/4 5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 6/4	完形品　内、外：丹塗りを施す

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
778	坏	5		1394	3 層	(16.4)	(6.8)	4.55	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙 橙	10YR 8/4 5YR 7/6	口縁部～底部 1/4 残存　摩耗により調整がわかりづらい　反転復元
779	坏	5		1394	3 層	13.9	6.5	4.3	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	ほぼ完形　全体に摩耗
780	坏	5			1 層	-	-	(1.2)	橙	5YR 7/8	橙	2.5YR 6/8	底部破片　底部外面：ヘラ記号（線刻）
781	製塩土器	5		1385	3 層	-	-	(4.0)	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	胴部～脚部 1/4 残存 内、外：摩滅　一部反転復元
782	壺	5		1385		(10.3)	-	6.9	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
783	甕	5		1384	3 層	15.8	-	(15.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部～胴部 1/2 残存　内、外：摩耗
784	甕	5		1374	3 層	(16.7)	-	(11.2)	橙	2.5YR 6/8	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/3 残存　反転復元
785	甕	5			一括	(16.6)	-	(16.35)	浅黄橙 灰黄褐	10YR 8/3 10YR 4/2	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～胴部上位 1/2 残存　ハケメ :11 本 1 単位外：スス付着　反転復元
786	高坏	5		1394	3 層	-	-	(9.8)	灰	7.5Y 5/1	灰	7.5Y 6/1	受部～脚部 1/3 残存 外：自然釉　反転復元
787	小型壺	5 5		2313 2322	3 層 3 層	(14.2)	-	(2.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 1/4 残存 外：櫛描波状文　反転復元
788	不明	5		1394	3 層	(20.0)	-	(6.3)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～胴部 1/8 残存　内、外：自然釉外：櫛描波状文　反転復元
789	壺	5			1 層	-	-	(10.2)	灰	N 4/	灰白	7.5Y 7/1	頸部 3/4 残存 内、外：自然釉　反転復元
790	高坏	5		2304	3 層	-	(14.7)	(5.5)	灰	5Y 4/1	灰	5Y 6/1	脚部 1/4 残存　外：波状文　反転復元
791	高坏	5		1395	3 層	-	11.2	(8.0)	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	脚部 1/2 残存　透孔（円形、3 孔）
792	ハソウ	5		1384	3 層	-	-	(6.0)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	5Y 7/1	胴部～底部 1/2 残存 外：刺突文　反転復元
793	ハソウ	5		1385	3 層	-	6.0	(6.5)	灰	N 5/	灰	N 5/	頸部～底部 ほぼ完形　穿孔有（外→内） 外：櫛状工具による刺突文
794	蓋	5		2304	3 層	(14.0)	-	4.4	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
795	蓋	5		2313	3 層	(14.1)	-	3.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
796	蓋	5		1384		13.5	-	4.9	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	完形　内：当て具痕
797	蓋	5		2303	3 層	(14.0)	-	(3.5)	灰黄	2.5Y 6/2	灰黄	2.5Y 6/2	天井部～口縁部 1/2 残存　反転復元
798	蓋	5				(14.6)	-	3.9	灰黄褐	10YR 6/2	灰黄	2.5Y 7/2	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
799	蓋	5		2322	4 層	(15.6)	-	3.8	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ～口縁部　内：自然釉　反転復元
800	蓋	5 5		1384 1385	3 層 3 層	(15.4)	-	1.9	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/6 残存 ツマミ部完形　反転復元
801	蓋	5		1395		2.1	19.1	2.8	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ～口縁部 1/6 残存　反転復元
802	蓋	5			1 層	(15.8)	-	2.3	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/6 残存　反転復元
803	蓋	5			1 層	(13.6)	-	2.2	灰	7.5Y 6/1	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/2 残存 外：鉄分付着　反転復元
804	蓋	5		1394	3 層	15.1	-	0.9	灰	N 6/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 3/4 残存 内：鉄分付着歪み有
805	蓋	5			1 層	14.2	-	1.3	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 4/5 残存 内：自然釉若干歪み有
806	皿	5		2323	3 層	(20.2)	(13.8)	(3.0)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	口縁部～底部 1/6 残存　反転復元
807	皿	5		2322	3 層	(19.8)	(16.1)	2.3	黄灰	2.5Y 5/1	浅黄	2.5Y 7/3	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
808	坏	5		1394	3 層	(11.4)	4.9	4.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～底部 ほぼ完形
809	坏	5		1395	3 層	10.1	3.7	4.8	-	-	-	-	口縁部～底部 2/3 残存　重ね焼き痕有 蓋が受部全体に熔着している
810	坏	5		1385	3 層	(12.8)	(6.2)	5.1	灰白	N 8/	灰白	N 8/	口縁部～底部 3/8 残存 外：自然釉　反転復元
811	坏	5		2313	3 層	13.2	-	4.7	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 1/2 残存

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
812	坏	5		2303	3 層	12.8	6.0	3.7	暗灰黄	2.5Y 5/2	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/2 残存　一部反転復元
813	坏	5		1394	3 層	(13.4)	8.0	3.7	灰 黒褐	N 6/ 10YR 3/2	灰	10Y 6/1	口縁部～底部 1/3 残存 外：自然釉歪み有　反転復元
814	埦	5			1 層	(14.2)	(10.0)	4.2	褐灰	5YR 5/1	にぶい橙	5YR 6/4	口縁部～高台 1/3 残存　反転復元
815	埦	5			1 層	17.0	(12.2)	5.3	灰	7.5Y 5/1	灰白	N 7/	口縁部～底部 4/5 残存 外：自然釉（灰ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 6/2）
816	鉢	5		2314	3 層	-	-	(6.1)	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 7/1	口縁部破片
817	壺	5 5		2333	3 層 1 層	(16.7)	-	(11.6)	灰	N 6/	灰	N 4/	口縁部～胴部 1/4 残存 内、外：自然釉　反転復元
818	甕	5		1385		18.4	-	(5.6)	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部～底部 2/3 残存　反転復元
819	甕	5		1375	3 層	(24.0)	-	(7.5)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	口縁部 1/8 残存 外：カキ目、ヘラ記号　反転復元
820	提瓶	5		1374	3 層	-	-	(10.2)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部～底部 1/3 残存　反転復元
821	壺	5			1 層	-	(13.2)	(6.1)	灰	5Y 5/1	灰白	5Y 7/1	底部 3/8 残存　外：自然釉　反転復元
822	壺	5			1 層	-	(13.0)	(7.1)	灰	7.5Y 6/1	灰	N 6/	胴部～高台 1/6　反転復元
823	甕	5		1375	3 層	(23.8)	-	(8.4)	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～胴部 1/4 残存　反転復元
824	二次加工品	5		1385	3 層	5.8（全長）	5.3（幅）	1.0（厚さ）	-	-	-	-	須恵器の割れた後を二次加工し再利用
825	坏	6	SB1		埋 1a 層	(11.2)	-	(3.8)	灰	N 6/	灰	N 5/	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
826	坏	6	SB1		埋 3 層	-	-	(4.2)	灰黄褐	10YR 6/2	灰	5Y 5/1	口縁部～胴部 1/8 残存　反転復元
827	小型壺	6 6	SB1 SB2		埋 3 層 埋 1 層	-	-	(14.2)	灰	N 4/	灰	N 4/	頸部～底部 1/2 残存 外：自然釉　反転復元
828	高坏	6 6	SB2 SB2		埋 1 層 埋 2 層	(20.2)	-	(5.6)	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	口縁部～胴部 1/2 残存　回転ナデ時の繊維痕が強く残る　内：摩滅　反転復元
829	高坏	6	SB2		埋 1 層	-	(13.0)	(6.7)	橙	5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/4	脚部 4/5 残存外：赤彩 内、外：摩滅　一部反転復元
830	坏	6	SB2 SB2		埋 1 層 埋 1 層	(14.0)	-	(7.1)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/5 残存 外：摩滅、黒斑　反転復元
831	坏	6	SB2		埋 3a 層	(13.6)	(5.4)	(4.0)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～底部 1/8 残存 胴部～底部：内外摩滅　反転復元
832	坏	6	SB2		埋 2 層	-	-	(3.8)	にぶい黄橙	10YR 7/3	黄灰	2.5Y 4/1	口縁部 破片　内、外：摩滅内黒
833	坏	6	SB2		埋 2 層	(14.4)	(6.2)	6.8	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/5 残存 内、外：摩滅　反転復元
834	壺	6	SB2		埋 2 層	(13.1)	-	(6.3)	灰黄褐	10YR 5/2	にぶい黄褐	10YR 5/3	口縁部～胴部 1/6 残存 複合口縁　反転復元
835	甕	6	SB2		埋 1 層	(15.8)	-	(7.0)	橙	7.5YR 7/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～胴部 1/4 残存外ハケメ :10 本 1 単位 内ハケメ :10 本以上 1 単位　反転復元
836	甕	6	SB2		埋 2a 層	(16.6)	-	(10.8)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄褐	10YR 5/3	口縁部 1/6 残存 内、外：摩滅　反転復元
837	甕	6	SB2		埋 2 層	(18.4)	-	(10.8)	橙	7.5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部～胴部 1/6 残存　ハケメ :8 本 1 単位外：黒斑　反転復元
838	甕	6 6	SB2 SB2		埋 2a 層 埋 2b 層	(15.8)	-	(12.5)	褐	7.5YR 4/3	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/4 残存 ハケメ :10 本 1 単位　反転復元
839	甕	6 6	SB2 SB2		埋 1 層	(16.2)	-	(4.8)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/3 残存 全体に摩滅　反転復元
840	甕	6 6	SB2 SB2		埋 1 層	(18.2)	-	(3.9)	橙	7.5YR 6/6	橙	2.5YR 6/6	口縁部 1/3 残存　内：黒斑　反転復元
841	甕	6	SB2		埋 1 層	(18.0)	-	(7.7)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/4 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
842	甕	6	SB2		埋 2 層	-	-	(10.9)	にぶい橙	7.5YR 6/4	灰黄褐	10YR 6/2	胴部 破片　外 : 貼付突帯上に相対する沈線は綾杉状を呈する
843	甕	6 6	SB2 SB2		埋 1 層 埋 3a 層	(15.4)	(4.0)	(25.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　内 : 摩滅、黒斑外 : スス付着、ハケメ（9 本 1 単位）　反転復元
844	蓋	6	SB2		埋 2 層	(14.6)	-	(3.9)	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 7/1	胴部 ~ 口縁部 1/8 残存　反転復元
845	蓋	6	SB2		埋 2 層	(13.0)	-	(3.0)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部 ~ 口縁部 1/8 残存　反転復元
846	蓋	6	SB2		埋 1 層	-	-	(2.9)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部 ~ 胴部 1/2 残存　反転復元
847	坏	6 6	SB2	1218	埋 1 層 3 層	-	4.4	(3.8)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	胴部 ~ 底部 3/4 残存 内、外 : 自然釉　反転復元
848	高坏	6	SB2		埋 2 層	-	(11.2)	(5.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	脚部 ~ 裾部 1/4 残存 透孔（方形、4 孔）　反転復元
849	甕	6	SB2		埋 2 層	(27.0)	-	(6.8)	ｵﾘｰﾌﾞ黒	7.5Y 3/2	灰	N 5/	口縁部 ~ 頸部 1/8 残存 外 : 自然釉　反転復元
850	甕	6	SB4		埋 2 層	(17.5)	-	(9.8)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/4 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
851	擂鉢	6	SX13		埋 1 層	29.8	-	(7.9)	灰	N 5/	灰白	5Y 8/2	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　内、外 : 鉄分付着 6 条 1 単位のスリ目　反転復元
852	二次加工品	6	SX13		埋 1 層	7.3（全長）	7.2（幅）	1.2（厚さ）	-	-	-	-	須恵器の割れた後を二次加工し再利用
853	高坏	6		1208	3 層	-	-	(3.9)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	脚部 1/2 残存 全体に摩滅が著しい　反転復元
854	壺	6		1207	3 層	-	(1.0)	(2.5)	橙	5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	胴部 ~ 底部 1/2 残存 ハケメ :5 本以上 1 単位　反転復元
855	埦	6		1217	3 層	-	(9.0)	(3.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	灰黄	2.5Y 7/2	胴部 ~ 底部 1/2 残存　内黒（黒褐 10YR 3/1) 高台内部に黒斑　反転復元
856	坏	6		1208	3 層	13.6	1.8	5.3	浅黄	2.5Y 7/3	浅黄	2.5Y 7/3	ほぼ完形　外 : 底部に黒斑
857	坏	6		1207	3 層	13.3	2.8	(5.3)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
858	坏	6		1206	3 層	(13.0)	(4.0)	4.1	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　内、外 : 摩滅 外 : 胴部に黒斑　反転復元
859	坏	6			3 層	(14.2)	(6.4)	4.0	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
860	坏	6			3 層	(14.0)	10.0	3.4	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	ほぼ完形　外 : 摩滅　一部反転復元
861	坏	6		1300	3 層	(13.2)	(7.2)	3.5	浅黄橙	10YR 8/4	明褐	7.5YR 5/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 全体的に摩滅　反転復元
862	坏	6			3 層	15.2	10.2	5.7	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 4/5 残存　内、外 : 摩滅
863	甕	6		1208	3 層	-	-	(6.2)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 破片　外 : 摩滅
864	甑	6		1208	3 層	-	-	(7.6)	浅黄	2.5Y 7/3	浅黄	2.5Y 7/3	把手部 一部欠損　内 : 摩滅外 : 黒斑
865	甕	6		1208 1948	3 層 3 層	(18.2)	-	(10.0)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存 内、外 : 摩滅　反転復元
866	甕	6		1207	3 層	(18.6)	-	(10.3)	暗褐	7.5YR 3/3	明褐	7.5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
867	蓋	6		1217	3 層	(16.0)	-	(4.0)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	胴部 ~ 口縁部 1/8 残存　反転復元
868	蓋	6		1217	3 層	(14.0)	-	(3.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 8/1	胴部 ~ 口縁部 1/8 残存　外 : 自然釉（灰ｵﾘｰﾌﾞ 5Y 5/3）　反転復元
869	蓋	6			1 層	(13.6)	-	2.0	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 1/6 残存　反転復元
870	蓋	6		1207	3 層	(14.2)	-	2.5	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 1/5 残存 焼き膨れ有り　反転復元
871	蓋	6			1 層	(14.4)	-	2.5	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存 内 : 鉄分付着　反転復元
872	坏	6		1217	3 層	(15.4)	-	(5.0)	灰	N 6/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
873	坏	6		1208	3 層	(13.2)	-	(3.3)	灰	N 6/	灰	7.5Y 6/1	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
874	埦	6			1 層	13.8	9.6	4.3	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	口縁部～底部 3/4 残存
		6			3 層								内、外：鉄分付着
875	鉢	6		298	3 層	(18.6)	-	(2.9)	灰白	7.5Y 7/1	灰	10Y 6/1	口縁部 1/6 残存　外：自然釉（灰ｵﾘｰﾌﾞ 7.5Y 6/2）　反転復元
876	器台	6		390	3 層	-	(20.8)	(4.7)	灰	N 6/	灰	N 6/	脚部 1/8 残存　反転復元
877	甕	6		390	3 層	(35.2)	-	(9.6)	灰	7.5Y 5/1	灰	7.5Y 5/1	口縁部～頸部 1/5 残存
													外：波状文有り　反転復元
878	鞴羽口	6		1207	3 層	-	-	(3.9)	灰黄	2.5Y 7/2	にぶい橙	7.5YR 7/3	羽口 破片　被熱により変色
879	高坏	7	SB1		埋 2 層	(22.3)	-	(5.6)	橙	5YR 6/8	橙	7.5YR 6/6	口縁部～坏部 1/6 残存　ハケメ :5 本
		7	SB1		埋 3 層								1 単位全体に摩耗　反転復元
880	高坏	7	SB1		埋 7 層	-	(11.2)	(6.9)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	脚柱部ほぼ完形～裾部 1/5 残存
													裾部反転復元
881	坏	7	SB1		埋 3 層	(11.0)	-	(8.6)	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
882	坏	7	SB1		埋 3 層	(13.3)	-	(8.0)	にぶい赤褐	2.5YR 5/4	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存　ハケメ :8~9 本
		7	SB1		埋 4 層								1 単位内、外：鉄分付着　反転復元
883	坏	7	SB1		埋 5 層	(14.8)	-	(7.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
884	坏	7	SB1		埋 3 層	12.3	3.4	5.1	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	ほぼ完形
885	坏	7	SB1		埋 3 層	12.0	3.8	5.6	橙	2.5YR 6/8	浅黄橙	10YR 8/3	ほぼ完形　外：一部に黒斑有り
		7	SD41		埋 1 層				橙	7.5YR 7/6			内：口縁部に朱塗りの痕有り
886	坏	7	SB1		埋 3 層	12.7	36.9	5.4	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 1/2 残存
887	坏	7	SB1		埋 5 層	13.0	-	5.8	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部～底部 2/3 残存
888	坏	7	SB1		埋 3 層	(13.8)	-	(5.4)	橙	2.5YR 6/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部～胴部下位 1/3 残存
					埋 4 層								外：黒斑有り　反転復元
889	坏	7	SB1		埋 3 層	(14.0)	-	(5.8)	橙	2.5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部～胴部 1/3 残存　反転復元
890	坏	7	SB1		埋 4 層	(13.5)	-	6.9	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～底部 5/6 残存　全体に摩耗
													外：一部黒色に変化　反転復元
891	坏	7	SB1		埋 5 層	(14.5)	-	(6.5)	赤橙	10R 6/8	赤	10R 5/8	口縁部～胴部 3/4 残存
					埋 6 層								ハケメ :6 本 1 単位　一部反転復元
892	鉢	7	SB1		埋 3 層	(18.8)	-	(9.4)	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部～胴部下位 1/7 残存
					埋 5 層								内、黒：黒斑有り　反転復元
893	埦	7	SB1		埋 3 層	-	(4.3)	(1.7)	浅黄橙	7.5YR 8/3	浅黄橙	7.5YR 8/3	底部 1/6 残存　反転復元
894	壺	7	SB1		埋 3 層	(8.8)	-	(7.4)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 1/2 残存　反転復元
895	製塩土器	7	SB1		埋 3 層	(9.2)	-	(6.2)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部～胴部 1/3 残存
													全体に磨滅　反転復元
896	壺	7	SB1		埋 3 層	-	(5.1)	(6.0)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	底部 5/6~ 胴部 1/6 残存
													外：黒斑有り　反転復元
897	壺	7	SB1		P9	-	(1.8)	(9.2)	黄灰	2.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 5/1	胴部上位～底部 1/3 残存
					埋 1 層				灰	N 4/	褐灰	10YR 5/1	外：黒斑有り　反転復元
898	壺	7	SB1		埋 4 層	(16.0)	-	(10.4)	明赤褐	5YR 5/6	橙	5YR 6/6	口縁部～胴部 1/6 残存　ハケメ :12~14 本
													1 単位　内、外：黒変有り　反転復元
899	甕	7	SB1		埋 1 層	-	-	(8.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部 1/6 以下残存　全体に磨滅
		7	SB1		埋 1 層								
900	甕	7	SB1		埋 2 層	(15.8)	-	(8.5)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部～胴部 2/3 残存
													内、外：鉄分付着　反転復元
901	甕	7	SB1		埋 5 層	(13.8)	-	(7.4)	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～肩部 1/6 残存　反転復元
902	甕	7	SB1		埋 5 層	(16.0)	-	(69.0)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部 1/4 残存　反転復元
903	甕	7	SB1		埋 5 層	(13.5)	-	(9.6)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部～胴部 1/2 残存外：スス付着
		7	SB1		埋 5 層								内：粘土紐痕有り　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
904	甕	7	SB1		埋 5 層	(18.6)	-	(6.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 1/5 残存
											橙	2.5YR 6/6	外ハケメ :5 本 1 単位　反転復元
905	甕	7	SB1		埋 5 層	(18.8)	-	(6.8)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 肩部 1/6 残存　反転復元
906	甕	7	SB1		埋 4 層	(18.6)	-	(6.9)	赤橙	10R 6/8	橙	2.5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 1/3 残存　反転復元
907	甕	7	SB1		埋 2 層	(18.4)	-	(11.5)	浅黄橙	7.5YR 8/3	灰白	2.5Y 8/1	口縁部 1/3~ 胴部 残存　反転復元
					埋 5 層				灰白	2.5Y 8/2			
908	甕	7	SB1		埋 5 層	(21.0)	-	(10.5)	明赤褐	2.5YR 5/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存
													ハケメ :12 本 1 単位　反転復元
909	甕	7	SB3		埋 2 層	(17.6)	-	(19.5)	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存
		7	SB1		埋 3 層								ハケメ :9 本 1 単位　反転復元
910	甕	7	SB1		埋 1 層	(18.0)	-	(20.4)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/4~ 胴部下位 3/5 残存
			SB75		埋 1 層				明赤褐	2.5YR 5/6	灰褐	7.5YR 5/2	ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
			SB93		埋 1 層								
			SB453		埋 1 層								
911	甕	7	SB1		埋 5 層	(18.0)	-	(9.2)	橙	5YR 7/6	にぶい橙	5YR 7/4	口縁部 ~ 肩部 1/6 残存
													ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
912	甕	7	SB1		埋 7 層	-	(6.8)	(7.5)	橙	5YR 6/6	にぶい橙	5YR 6/3	底部 2/3~ 胴部下位残存　内 : 黒色付着物（炭化物）　反転復元
913	蓋	7	SB1		埋 1 層	13.8	-	2.4	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存　歪み有り
914	坏	7	SB1		埋 2 層	(11.4)	(7.8)	3.2	黄灰	2.5Y 6/1	灰白	2.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
915	坏	7	SB1		埋 1 層	(14.0)	10.4	3.9	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　一部反転復元
916	甕	7	SB1		埋 1 層	(24.1)	-	(8.8)	灰	N 5/	灰白	N 7/	口縁 ~ 肩部 3/4 残存　外 : 自然釉付着
917	紡錘車	7	SB1		埋 6 層	5.2 (全長)	(3.1) (幅)	0.6 (厚さ)	-	-	-	-	須恵器の土器の底部を二次加工して再利用 穿孔有り（直径 0.8㎝）重さ 13.9
918	甕	7	SB3		埋 5 層	-	-	(6.7)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 小片
											黄灰	2.5Y 4/1	外 : 突帯貼付（ヘラによる刻み目）
919	壺	7	SB3		埋 4 層	-	-	(7.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	橙	7.5YR 6/6	胴部中位 1/3 残存　最大径の位置に突帯貼付（ヘラによる刻み三角形）　反転復元
		7	SB3		埋 5 層				褐灰	7.5YR 4/1			
920	甕	7	SB3		埋 1 層	-	(5.2)	(7.4)	明黄褐	10YR 7/6	明黄褐	10YR 7/6	胴部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
									明黄褐	10YR 6/6	明黄褐	10YR 6/6	
921	甕	7	SB3		埋 1 層	-	(6.0)	(7.8)	灰黄褐	10YR 4/2	にぶい黄橙	10YR 6/4	胴部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
									にぶい黄褐	10YR 5/3			
922	甕	7	SB3		埋 1 層	-	(5.6)	(8.6)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	胴部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
									褐灰	7.5YR 5/1			
923	ミニチュア土器	7	SB3		埋 4 層	-	(3.3)	(4.9)	赤褐	2.5YR 4/8	赤褐	2.5YR 4/8	胴部 ~ 底部 径の 1/4 残存
											橙	7.5YR 7/6	外面、内面上部に丹塗り　反転復元
924	鉢（ミニチュア）	7	SB3		埋 4 層	(6.3)	4.5	4.3	灰白	10YR 8/2	淡橙	5YR 8/4	口縁部 ~ 底部口縁端部を 3/4 欠損する　外 : ヘラ記号あり
									灰白	10YR 7/1	灰白	5YR 8/2	
925	坏	7	SB3		埋 9 層	(21.4)	-	(6.4)	橙	7.5YR 7/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/4 残存　内、外 : 丹塗り
926	坏	7	SB3		埋 2 層	(13.6)	-	(6.1)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部下位 1/2 残存
		7	SB3		埋 3 層				橙	5YR 6/6			ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
927	坏	7	SB3		埋 5 層	(11.0)	-	6.3	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
		7	SB3		埋 4 層				暗赤灰	2.5YR 3/1			外 : 斑状にスス付着　反転復元
928	坏	7	SB3		埋 2 層	12.6	-	5.0	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　内、外 : 全体に朱塗り外 : 口縁の一部に黒変
		7	SB3		埋 6 層				橙	2.5YR 6/8			
929	坏	7	SB3		埋 5 層	(16.0)	-	(4.4)	明赤褐	5YR 5/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
									褐灰	5YR 4/1	灰褐	7.5YR 5/2	
930	坏	7	SB3		埋 5 層	(14.4)	-	(5.1)	赤褐	2.5YR 4/6	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
931	坏	7	SB3		埋 4 層	(15.0)	-	5.85	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁にわずかな欠けがあるが、ほぼ
		7	SB3		埋 4 層						橙	5YR 7/6	完形
932	坏	7	SB3		埋 5 層	(16.0)	-	(5.4)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/5 残存
		7	SB3		埋 4 層				橙	2.5YR 6/6			ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
933	坏	7	SB3		埋 2 層	(16.0)	4.7	6.0	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　内外面の一部
		7	SB3		埋 5 層								に黒斑一部　反転復元
934	坏	7	SB3		埋 3 層	15.6	-	6.7	橙	5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　外 : 黒斑有り
935	坏	7	SB3		埋 4 層	17.0	-	(5.1)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部 3/5 残存　反転復元
		7	SB3		埋 5 層				暗赤灰	10YR 3/1	暗赤灰	10YR 3/1	
936	坏	7	SB3		埋 3 層	(14.6)	-	5.9	橙	5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/6 残存
		7	SB3		埋 5 層								外 : 底部にヘラ記号　反転復元
937	坏	7	SB3		埋 2 層	(14.0)	-	(5.1)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/4 残存
		7	SB3		埋 2 層				黄灰	2.5Y 5/1	黄灰	2.5Y 4/1	外 : 底部にヘラ記号有り
938	坏	7	SB3		埋 1 層	(14.4)	-	(6.5)	赤	10R 5/8	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 1/4、胴部 1/2 残存　外 : ヘラ記号
		7	SB3		埋 2 層								有り、ハケメ 5 本 1 単位　反転復元
939	坏	7	SB3		埋 5 層	-	-	0.9	灰白	10YR 8/2	浅黄橙	7.5YR 8/4	底部 小片 0.5cm の穿孔有り
940	坏	7	SB3		埋 1 層	-	-	(1.0)	橙	-	橙	-	底部 小片底部外面に線刻文字有り
941	壺	7	SB3		埋 5 層	8.8	-	16.2	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	口縁端部を約 1/3 欠損する他はほぼ
									明褐灰	7.5YR 7/1			完形　外 : 黒斑有り
942	壺	7	SB3		埋 4 層	-	-	(8.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/4（端部は欠損）~ 胴部上位
		7	SB3		埋 4 層								3/4 残存　反転復元
943	壺	7	SB3		埋 4 層	(7.6)	-	(7.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 1/3 残存
													全体的に摩耗気味
944	甕	7	SB3		埋 5 層	-	-	(7.5)	明赤褐	2.5YR 5/6	黒褐	10YR 3/1	胴部下位 ~ 底部 残存底部のみ完形
		7	SB3		埋 4 層								内 : 黒色化　一部反転復元
945	甕	7	SB3		埋 5 層	(14.0)	-	(10.0)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 小片、体部 1/4 残存
													ハケメ・8 本　反転復元
946	甕	7	SB3		埋 5 層	(20.0)	-	(5.7)	橙	2.5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/5 残存ハケメ :7 本 1 単位
													内、外 : 一部黒斑有り　反転復元
947	壺	7	SB3		埋 3 層	(17.6)	-	(4.4)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部のみ残存　反転復元
		7	SB74		埋 1 層				赤灰	2.5YR 5/1			
948	壺	7	SB3		埋 2 層	(19.4)	-	(10.6)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 1/4 残存
		7	SB3		埋 3 層								ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
949	甕	7	SB3		埋 4 層	(13.8)	-	(7.2)	褐灰	10YR 4/1	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 胴部上部 1/2
		7	SB3		埋 3 層	-	-	(9.0)	橙	5YR 6/6	褐灰	10YR 4/1	胴部下位 ~ 底部 2/3 残存　反転復元
950	甕	7	SB3		埋 5 層	12.6	-	14.5	にぶい黄橙	10YR 7/3	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部 3/4 残存、体部一部欠損
									橙	7.5YR 6/6	褐灰	10YR 4/1	外面、口縁部内面 : スス付着
951	甕	7	SB3		埋 4 層	(12.2)	-	13.4	にぶい黄橙	10YR 6/3	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部 1/4~ 胴部 1/2 残存　外 : 全体
		7	SB3		埋 5 層				褐灰	10YR 4/1	灰黄褐	10YR 5/2	的にスス付着　反転復元
952	甕	7	SB3		埋 4 層	(13.0)	-	(11.8)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存
									褐灰	7.5YR 4/1	褐灰	7.5YR 4/1	ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
953	甕	7	SB3		埋 5 層	-	-	(11.7)	にぶい黄橙	10YR 7/3	灰黄褐	10YR 6/2	頸部 ~ 胴部 1/3 残存
					埋 5 層				黒褐	10YR 3/1	褐灰	10YR 4/1	ハケメ :9 本 1 単位　反転復元
954	甕	7	SB3		埋 2 層	(16.6)	-	(9.3)	にぶい黄褐	10YR 5/3	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存
		7	SB3		埋 3 層								ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
955	甕	7	SB3		埋 2 層	(17.3)	-	(9.7)	にぶい褐	7.5YR 5/4	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存　ハケメ :7
		7	SB74		埋 5 層								本 ~9 本 1 単位　反転復元
956	壺	7	SB3		埋 4 層	10.0	-	(5.2)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部上位 残存口縁部ほぼ完形
									褐灰	7.5YR 4/1	褐灰	7.5YR 4/1	口縁部内外にスス付着　一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
957	甕	7	SB3		埋 4 層	(12.0)	-	(7.9)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　口縁部、外面
		7	SB3		埋 5 層								胴部に黒斑有り　反転復元
958	甕	7	SB3		埋 4 層	(13.2)	-	(7.8)	明赤褐	2.5YR 5/6	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 1/5~ 胴部上位 残存　外面と口
					埋 6 層				灰白	2.5Y 8/2	黄灰	2.5Y 4/1	縁部内面に赤色顔料塗布　反転復元
959	甕	7	SB3		埋 1 層	(14.6)	-	(9.2)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 胴部
960	甕	7	SB3		埋 5 層	(15.1)	-	(8.2)	赤	10R 5/8	赤	10R 5/8	口縁部 1/2 残存
		7	SB3		埋 5 層				褐灰	10YR 4/1	褐灰	10YR 4/1	全体に摩耗　反転復元
961	甕	7	SB3		埋 4 層	(22.0)	-	(8.3)	にぶい黄橙	10YR 7/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存
									褐灰	10YR 5/1	にぶい黄橙	10YR 7/3	ハケメ 9 本 1 単位　反転復元
962	甕	7	SB3		埋 4 層	14.4	-	(22.2)	浅黄橙	7.5YR 8/6	浅黄橙	7.5YR 8/6	口縁端部 1/4 欠損
					埋 3 層				褐灰	10YR 6/1	褐灰	10YR 6/1	外 : スス付着ハケメ 11 本 1 単位
963	甕	7	SB3		埋 4 層	17.0	-	(13.1)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部中位 残存　口縁部少し
									褐灰	7.5YR 5/1	褐灰	7.5YR 5/1	欠損ハケメ :10 本 1 単位
964	甕	7	SB3		埋 1 層	(16.0)	-	(7.9)	浅黄橙	10YR 8/3	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/2~ 肩部 1/6 残存　内 : 剥落が
		7	SB3		埋 2 層				橙	7.5YR 7/6	灰白	10YR 8/1	著しいハケメ :7 本 1 単位　反転復元
965	甕	7	SB3		埋 4 層	19.0	-	(4.9)	灰黄褐	10YR 6/2	灰褐	7.5YR 6/2	口縁のみ完存頸部を反転復元
966	甕	7	SB3		埋 2 層	19.2	-	(13.8)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 4/5~ 胴部 1/4 残存　ハケメ :9 本 1 単
		7	SB3		埋 3 層				赤灰	2.5YR 4/1	赤灰	2.5YR 4/1	位肩部に 3 条のヘラ書き有り　反転復元
967	甕	7	SB3		埋 2 層	-	-	(7.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 6/3	口縁部 ~ 肩部 小片
		7	SB3		埋 2 層								外面に黒褐色の付着物あり
968	甕	7	SB3		埋 5 層	-	-	(6.9)	にぶい黄橙	10YR 6/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 肩部 小片
									褐灰	10YR 5/1			
969	甕	7	SB3		埋 1 層	-	-	(8.9)	にぶい黄橙	10YR 7/2	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部上位 小片
									灰黄褐	10YR 5/2	灰黄褐	10YR 5/2	外面は摩耗気味だがハケを施す
970	甑	7	SB3		埋 4 層	-	(12.4)	(10.6)	にぶい黄橙	10YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/3	胴部 ~ 底部 1/6 残存　反転復元
971	蓋	7	SB3		埋 4 層	(8.0)	-	2.8	灰	N 5/	灰	N 5/	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　天井部に
													自然釉有り　反転復元
972	蓋	7	SB3		埋 4 層	-	12.2	5.4	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存
973	蓋	7	SB3		埋 2 層	(13.6)	-	(4.9)	灰	7.5Y 6/1	青灰	5B 5/1	天井部 ~ 口縁部 1/8 残存
													外 : 降灰有り　反転復元
974	坏	7	SB3		埋 1 層	(11.0)	(3.7)	5.1	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
975	坏	7	SB3		埋 4 層	(10.2)	(4.2)	5.05	灰白	10Y 7/1	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 3/8 残存　反転復元
976	蓋	7	SB3		埋 5 層	(13.6)	(4.8)	5.3	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 3/4~ 口縁部 1/3 残存　反転復元
977	皿	7	SB3		埋 1 層	(17.4)	(14.8)	2.9	灰白	N 7/	灰白	N 8/	口縁部 1/4~ 底部 1/3 残存　反転復元
978	埦	7	SB3		埋 1 層	(14.0)	(9.2)	4.1	灰	N 6/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 高台 1/3 残存　反転復元
979	埦	7	SB3		埋 1 層	13.8	8.2	4.9	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部 ~ 高台 2/3 残存
		7		1383	3 層								内、外 : 自然釉
980	壺	7	SB3		埋 1 層	11.1	-	(7.3)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 頸部 2/3 残存　内、外 : 自然釉
981	高坏	7	SB3		埋 4 層	(13.0)	-	(5.3)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
		7	SB3		埋 4 層								外 : 胴部に櫛描波状文有り

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
982	壺	7	SB3		埋 5 層	(16.6)	-	(6.0)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 1/8 残存 口縁部に波状文有り　反転復元
983	甕	7	SB3		埋 1 層	(20.2)	-	7.0	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～肩部 1/2 残存　反転復元
984	蓋	7	SB4		埋 1 層	-	-	2.1	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	天井部～口縁部 1/2 残存　反転復元
985	皿	7	SB4		埋 1 層	15.9	9.3	2.6	浅黄橙 灰白	7.5YR 8/6 7.5YR 8/2	浅黄橙	7.5YR 8/4	ほぼ完形
986	甑	7	SB4		埋 1 層	(32.2)	-	(8.0)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/8	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
987	坏	7	SB4		埋 1 層	(12.0)	-	(5.3)	橙	7.5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 1/12～胴部 1/3 残存　反転復元
988	甕	7	SB4		埋 1 層	(24.2)	-	(5.9)	黄橙	7.5YR 7/8	黄橙	7.5YR 7/8	口縁部～胴部上位 1/12 残存 全体に摩耗している　反転復元
989	坏	7	SB4		埋 1 層	(20.2)	-	(6.0)	橙	5YR 6/8	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/6 残存 全体に摩耗している　反転復元
990	甕	7	SB4		埋 1 層	(27.6)	-	(6.7)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部～胴部上位 1/4 残存 全体に磨滅している　反転復元
991	甕	7 7	SB4 SB4		埋 1 層 焼土 1 層	(16.0)	-	(4.2)	明黄褐	10YR 6/6	明黄褐	10YR 7/6	口縁部 1/4 残存 内 : 口縁部に黒斑有り　反転復元
992	甕	7	SB4		埋 1 層	(24.8)	-	(8.4)	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部～胴部上位 1/6 残存 全体に磨滅している　反転復元
993	蓋	7 7	SB4	1393	埋 1 層 3 層	12.1	-	2.1	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ～口縁部 1/2 残存 内外面に重ね焼き時の粘土痕有り
994	蓋	7	SB4		埋 1 層	(13.6)	-	(1.6)	灰	N 5/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/4 残存 反転復元　口縁部に若干の歪み有り
995	蓋	7	SB4		埋 1 層	14.3	-	0.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 3/4 残存 転用有り（転用硯）
996	蓋	7	SB4 SK5		埋 1 層 埋 1 層	15.4	-	2.1	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存 一部　反転復元
997	埦	7	SB4		埋 1 層	-	7.5	(4.4)	灰	10Y 6/1	灰	N 6/	口縁部～高台 1/2 残存　一部反転復元
998	埦	7 7	SB4 SK19		埋 1 増 埋 1 層	(14.2)	(9.0)	5.9	灰白	7.5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
999	埦	7	SB4		埋 1 層	13.2	7.8	4.0	灰	N 4/	灰白	N 7/	口縁部～高台 2/3 残存
1000	甕	7	SB7		埋 1 層	-	-	(4.5)	明黄褐	10YR 6/6	明黄褐	10YR 6/6	口縁部 1/6 以下の小片 外面口唇部に刻み目
1001	甕	7	SB7		埋 1 層	-	-	(4.2)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 1/6 以下の小片 外面口唇部に刻み目
1002	甕	7	SB7		埋 1 層	-	-	(5.1)	にぶい黄褐	10YR 5/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部 1/6 以下の小片　口唇部に棒状浮文有り　外 : 体部に刻み目を施した 3 条の貼付突帯有り
1003	甕	7	SB7		埋 1 層	(25.4)	-	(7.8)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部～胴部 1/6 残存 全体に摩耗いている　反転復元
1004	甕	7	SB8		埋 1 層	(17.0)	-	(4.5)	橙	5YR 6/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部～頸部 1/6 残存 全体に磨滅が著しい　反転復元
1005	甕	7 7	 SB8	1383	1 層 埋 1 層	(23.2)	-	(10.1)	灰黄	2.5Y 6/2	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部～胴部 1/5 残存 内、外 : 降灰有り　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1006	甕	7	SB9		埋 1 層	-	-	(3.4)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/6 未満の小片
1007	甕	7	SB9		pi14 埋 1 層	(26.0)	-	(4.4)	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/6	口縁部 1/6 残存　全体に磨滅が著しい　内 : 一部に黒斑有り　反転復元
1008	坏	7	SB12		埋 1 層	(12.0)	(6.4)	4.4	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 1/5~ 底部 1/2 残存　反転復元
1009	坏	7	SB12		埋 1 層	(12.4)	6.4	4.05	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 1/3~ 底部 1/2 残存 内、外 : 黒色化と赤色化　反転復元
1010	皿	7	SB12		埋 1 層	(17.4)	(13.6)	2.2	浅黄	2.5Y 7/4	浅黄	2.5Y 7/4	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　全体に摩耗している　反転復元
1011	甕	7	SB12		埋 1 層	(13.8)	-	(6.7)	にぶい赤褐	2.5YR 5/4	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部中位 2/5 残存　ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1012	甕	7 7	SB12 SB12		埋 1 層 埋 1 層	(19.0)	-	(5.8) (5.9)	橙	5YR 7/6	にぶい橙	5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部上位 1/3 残存 胴部下位 1/3 残存　反転復元
1013	蓋	7	SB12		埋 1 層	(16.6)	-	2.2	灰黄	2.5Y 7/2	にぶい黄橙 灰黄	10YR 7/3 2.5Y 7/2	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存　反転復元
1014	坏	7	SB12		埋 1 層	12.4	8.0	4.4	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 2/3 残存
1015	甕	7	SB12		埋 1 層	(22.8)	-	(20.4)	にぶい黄橙	10YR 6/3	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 肩部 2/3 残存　反転復元
1016	坏	7	SB13		埋 1 層	(13.0)	(9.2)	4.6	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	口縁部 ~ 底部 1/12 残存　反転復元
1017	甕	7	SB13		pi 一括	(17.0)	-	(7.0)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部上位 1/5 残存　反転復元
1018	甕	7	SB13		pi2 埋 1 層	-	-	(5.9)	明赤褐 黄灰	2.5YR 5/8 2.5Y 4/1	赤 明赤褐	10R 5/8 2.5YR 5/6	口縁部 ~ 頸部 小片　外 : 黒斑有り
1019	甕	7	SB13		埋 1 層	(24.7)	-	(6.1)	橙	2.5YR 7/8	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/7 残存 全体に摩耗している　反転復元
1020	蓋	7	SB13		埋 1 層	15.2	-	1.0	灰白	N 7/	灰白	N 7/	ほぼ完形
1021	皿	7	SB13		埋 1 層	14.5	13.2	2.5	灰	N 5/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 3/4 残存　歪み有り
1022	埦	7 7	SB13 SK6P1		埋 1 層 3 層	14.0	8.7	3.9	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 2/3 残存 外 : 一部自然釉付着
1023	紡錘車	7	SB13		埋 2 層	5.4 (全長)	5.2 (幅)	0.6 (厚さ)	-	-	-	-	須恵器の壺が割れた後を二次加工し再利用
1024	灯明皿	7	SB15		埋 1 層	-	(10.4)	3.3	橙	5YR 6/8	橙	5YR 7/8	口縁部 ~ 台座部 5/6 残存 口唇部欠損　一部反転復元
1025	高坏	7	SB15		埋 1 層	(20.2)	-	(3.5)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部 1/2~ 坏部 1/3 残存　反転復元
1026	坏	7	SB15		埋 1 層	(13.4)	(8.2)	4.8	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 1/2 弱残存　反転復元
1027	甕	7	SB15		埋 1 層	(26.0)	-	(8.9)	橙	7.5YR 6/8	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存 口縁内面に少々黒斑　反転復元
1028	甕	7	SB15		埋 1 層	(28.0)	-	(5.1)	橙	5YR 6/6	橙 灰白	5YR 6/6 10YR 8/2	口縁部 ~ 胴部上位 1/4 残存 全体に摩耗している　反転復元
1029	竈	7	SB15		埋 1 層	-	-	(3.5)	浅黄橙	7.5YR 8/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	ツバの破片

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1030	甕	7	SB15		埋 1 層	(25.4)	-	(11.1)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部中位 1/4 残存 ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1031	甑の把手	7 7	SB15 SB15		埋 1 層 埋 1 層	-	-	(13.3)	橙	2.5YR 6/6	橙	2.5YR 7/6	胴部把手　ハケメ :9 本 1 単位 外 : 黒斑有り
1032	甑の把手	7	SB15		埋 1 層	-	-	(9.4)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/2	胴部把手
1033	蓋	7	SB15		埋 1 層	(15.6)	-	3.2	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ ~ 口縁部 1/2 残存 一部反転復元
1034	蓋	7	SB15		埋 1 層	14.0	-	2.2	灰白	N 7/	灰白	N 7/	歪み有り　ほぼ完形
1035	皿	7	SB15		埋 1 層	17.6	15.2	2.4	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 3/4 残存 歪み有り　一部反転復元
1036	皿	7	SB15		埋 1 層	(16.8)	11.0	1.7	灰白	7.5Y 7/1	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 3/5 残存 転用硯　歪み有り　反転復元
1037	埦	7 7	SB15	2303	埋 1 層 1 層	(12.4)	(9.8)	4.7	灰	N 6/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 高台 1/2 残存 歪み有り　外 : 自然釉　一部反転復元
1038	埦	7	SB15		埋 1 層	(13.6)	(9.2)	(4.1)	灰白	10Y 8/1	灰白	10Y 8/1	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
1039	埦	7	SB15		埋 1 層	(16.7)	(9.0)	5.8	灰	N 6/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1040	埦	7	SB15		埋 1 層	18.9	11.9	6.2	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 3/4~ 底部完形
1041	壺	7	SB15		埋 1 層	-	-	(5.1)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	頸部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
1042	壺	7	SB18		埋 1 層	-	6.0	(5.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	底部、端部 2/3 残存　一部反転復元
1043	坏	7	SB18		埋 1 層	(13.2)	-	(4.2)	黒 にぶい橙	N 2/ 7.5YR 7/3	にぶい橙 黒褐	7.5YR 7/3 7.5YR 3/1	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 内、外 : 黒化処理　反転復元
1044	皿	7	SB18		埋 1 層	(18.6)	-	4.1	灰白	2.5Y 8/1	灰白	2.5Y 8/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　歪みあり 反転復元
1045	皿	7	SB18		一括	16.8	13.4	2.0	灰白 浅黄橙	5Y 8/1 10YR 8/3	灰白 浅黄橙	5Y 8/1 10YR 8/3	口縁部 ~ 底部 1/8 残存 反転復元
1046	埦	7	SB18		埋 1 層	(13.8)	(9.8)	4.1	灰白	10Y 7/1	灰	10Y 6/1	口縁部 ~ 高台 1/3 残存　反転復元
1047	坏	7	SB18		埋 2 層	10.7	5.8	5.1	灰	N 5/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 3/4 残存
1048	高坏	7	SB21		埋 1 層	-	(11.0)	(9.4)	橙	5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	底部 1/12 残存 脚部の胴部は完存　一部反転復元
1049	坏	7	SB21		埋 1 層	(10.2)	6.6	3.5	橙	2.5YR 6/8	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 1/4~ 底部 1/2 残存　外面底部 にヘラ記号「+」有り　反転復元
1050	壺	7	SB21		pi7	(17.0)	-	(6.3)	橙	5YR 6/6	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 ~ 肩部 1/6 残存　反転復元
1051	壺	7	SB21		pi10	(22.2)	-	(8.2)	赤褐	5YR 4/8	赤褐	5YR 4/8	口縁部 ~ 頸部 1/4 残存　反転復元
1052	甕	7	SB21		埋 1 層	(14.4)	-	(10.1)	橙	7.5YR 6/6	褐灰	7.5YR 5/1	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　口縁上部や 外面に黒斑有り　反転復元
1053	甕	7	SB21		埋 1 層	(21.7)	-	(6.6)	灰白	7.5YR 8/2	浅黄橙	7.5YR 8/3	口縁部 ~ 胴部上位 1/12 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1054	蓋	7	SB21		埋 1 層	15.4	-	2.0	灰白	7.5Y 7/1	灰	10Y 6/1	天井部一部欠損　歪み激しい
1055	蓋	7	SB21		埋 1 層	14.8	-	1.6	灰白	N 7/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存
1056	蓋	7 7		SB21 1392	埋 1 層 3 層	(16.2)	-	2.1	灰黄	2.5Y 7/2	にぶい黄橙	10YR 7/3	ツマミ ~ 口縁部 1/2 残存　反転復元
1057	坏	7	SB21		埋 1 層	(15.1)	(9.3)	3.8	灰白	5Y 7/1	灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 底部 3/8 残存 外 : 自然釉　反転復元
1058	埦	7	SB21		埋 1 層	14.0	8.7	3.7	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 高台 1/2 残存　歪み有り
1059	埦	7	SB21		埋 1 層	12.8	(8.4)	3.7	灰白	7.5Y 7/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部 ~ 高台 2/3 残　一部反転復元
1060	埦	7	SB21		埋 1 層	(14.2)	(9.3)	4.2	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	口縁部 ~ 高台 1/3 残存　反転復元
1061	埦	7	SB21		埋 1 層	-	(9.6)	3.7	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	胴部 ~ 高台 残存　反転復元
1062	甕	7 7	SB21	 2302	埋 1 層 3 層	(22.4)	-	(9.8)	灰	N 6/	灰	N 4/	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　内、外 : 自然釉 口縁部に焼き膨れ有り　反転復元
1063	坏	7	SB30		埋 1 層	(14.4)	-	(5.6)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
1064	皿	7	SB31		埋 1 層	(14.4)	(12.2)	1.8	橙	2.5YR 7/8	橙	5YR 7/8	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
1065	坏	7	SB31		埋 1 層	(14.2)	(7.4)	3.5	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 2/5 残存　外面底部にヘラ記号「田舎」 反転復元
1066	甕	7	SB31		埋 1 層	(18.2)	-	(3.3)	明赤褐 灰褐	2.5YR 5/6 7.5YR 5/2	明赤褐 にぶい橙	2.5YR 5/6 7.5YR 6/4	口縁部 ~ 頸部 1/4 残存 口縁部歪み有り　反転復元
1067	甑	7	SB31		焼土内	-	-	(4.6)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	把手部のみ完形　内 : 磨滅
1068	坏	7	SB32		埋 1 層	(13.1)	-	5.3	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　底部に穿孔（外→内）有り　反転復元
1069	甕	7	SB38		P1 埋 1 層	-	-	(4.75)	にぶい橙 灰褐	7.5YR 6/4 7.5YR 5/2	にぶい橙 灰褐	7.5YR 6/4 7.5YR 5/2	口縁部 ~ 胴部上位 破片
1070	甕	7	SB38		埋 1 層	(21.0)	-	(2.6)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 1/7 残存　反転復元
1071	蓋	7 7	SB38 SB38		埋 1 層 埋 1 層	(14.4)	-	2.6	灰白	5Y 7/1	淡黄	2.5Y 8/3	輪ツマミ ~ 口縁部 2/3 残存 一部反転復元
1072	皿	7	SB38		埋 1 層	15.4	12.3	2.6	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
1073	鉢	7	SB49		埋 2 層	10.5	-	9.0	明赤褐	5YR 5/8	赤褐	5YR 4/6	口縁部 ~ 底部 完形　外 : 黒斑有り
1074	壺	7	SB49		埋 2 層	-	-	(7.5)	明赤褐	2.5YR 5/6	橙	5YR 6/6	胴部のみ 1/2 残存　反転復元
1075	甕	7	SB49		埋 2 層	-	-	(4.2)	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	肩部 破片　外面にヘラ記号有り
1076	甕	7	SB49		埋 1 層	(16.4)	-	(5.5)	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部 ~ 頸部 1/3 残存　反転復元
1077	甕	7	SB49		埋 1 層	-	-	(9.1)	橙	7.5YR 6/6	橙	5YR 7/8	胴部のみ 1/6 残存　外 : 部分的に付着物

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1078	高坏	7	SB75		埋 1 層	(18.0)	(13.4)	14.3	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 1/3、頸部 ~ 底部ほぼ完存
		7	SB75		埋 2 層								裾部 1/4 残存　一部反転復元
1079	坏	7	SB74		埋 1 層	(14.0)	-	(5.0)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 5/6~ 底部一部 残存
		7	SB75		埋 2 層				にぶい黄橙	10YR 7/2	にぶい橙	7.5YR 7/4	底部に黒斑能　反転復元
1080	鉢	7	SB75		埋 3 層	(10.2)	-	(4.8)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/3 残存　ハケメ :6
									褐灰	10YR 5/1	灰白	10YR 8/2	本 1 単位　反転復元
1081	坏	7	SB74		埋 1 層	(18.0)	-	(6.0)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部下位 1/5 残存　反転復元
		7	SB75		埋 4 層				浅黄橙	7.5YR 8/4			
1082	台付坏	7	SB75		埋 1 層	-	10.4	(4.2)	浅黄橙	10YR 8/3	灰黄	2.5Y 7/2	脚部 3/4 残存　外面に丹塗り
				1374	3 層				灰黄褐	10YR 6/2	黄灰	2.5Y 4/1	
1083	坏	7	SB75		埋 2 層	(12.3)	-	5.25	灰白	10YR 8/2	黄灰	2.5Y 5/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　ハケメ :9 本 1 単
									黒	10YR 2/1	灰白	10YR 8/2	位　内、外 : 赤色顔料塗布　反転復元
1084	坏	7	SB75		埋 1~4 層	(13.6)	-	5.5	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	口縁部 1/5、胴部 ~ 底部 1/4~1/2 残存　反転復元
1085	坏	7	SB75		埋 1 層	(12.0)	-	(4.8)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 1/6~ 胴部 1/4 残存 内、外 : 黒色の付着物有り　反転復元
1086	坏	7	SB75		埋 2 層	14.0	2.2	6.0	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	ほぼ完形　スス付着
1087	坏	7	SB75		埋 1 層	12.9	6.2	6.2	橙	2.5YR 7/8	橙	5YR 7/8	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
		7	SB93		埋 1 層								内 : 板状の工具痕が顕著
		7	SB453		埋 1 層								外 : 鉄分付着
1088	坏	7	SB75		埋 2 層	11.3	-	4.5	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 2/3 残存 内、外 : 黒変あり思われる）
1089	坏	7	SB75		埋 2 層	13.6	3.8	7.3	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	ほぼ完形　外 : 鉄分付着
1090	坏	7	SB74		埋 1 層	(14.9)	-	(5.8)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 1/4~ 底部 1/2 残存
									橙	7.5YR 6/6			外面底部に黒斑　反転復元
1091	坏	7	SB75		埋 1 層	-	-	(4.2)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 破片 底部外面 : ヘラ記号　黒斑あり
1092	製塩土器	7	SB75		埋 1 層	(8.7)	-	(7.3)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　全体に磨滅
		7	SB75		埋 2 層								口縁部に黒斑　反転復元
1093	ミニチュア土器	7	SB75		埋 3 層	(6.4)	-	5.5	明赤褐	5YR 5/8	灰褐	7.5YR 4/2	口縁部 1/8、胴部 ~ 底部 完存
									黄灰	2.5Y 4/1	にぶい褐	7.5YR 5/3	内 : 工具痕有り　口縁は反転復元
1094	壺	7	SB75		埋 4 層	(14.0)	-	(4.6)	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	口縁部 3/4 残存　反転復元
		7	SB75		埋 5 層				浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	
1095	壺	7	SB75		埋 3 層	(10.7)	-	(10.7)	橙	7.5YR 7/6	明黄褐	10YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/3~1/4 残存
									橙	5YR 6/6			反転復元
1096	壺	7	SB75		埋 2 層	(8.9)	-	14.9	にぶい黄橙	10YR 7/4	橙	5YR 6/6	口縁部 1/2~ 底部残存　外面底部 : 下か
									灰黄褐	10YR 4/2	にぶい黄橙	10YR 6/4	ら燻された痕跡あり　一部反転復元
1097	壺	7	SB75		埋 2 層	(15.4)	-	(7.0)	にぶい赤褐	2.5YR 4/4	にぶい赤褐	2.5YR 4/4	口縁部 1/4 残存 外ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
1098	甕	7	SB75		埋 1 層	(20.0)	-	(7.2)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 1/4 残存　口縁部内面
									にぶい黄褐	10YR 5/3	にぶい黄褐	10YR 5/3	ハケメ、胴部内面ケズリ　反転復元
1099	甕	7	SB75		埋 2 層	(14.8)	-	(9.85)	赤褐	5YR 4/6	にぶい赤褐	2.5YR 4/4	口縁部 3/5~ 胴部上位 1/6 残存
		7	SB453		埋 1 層				黒褐	5YR 3/1			
1100	甕	7	SB75		埋 2 層	17.6	-	(5.9)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁は完存 ~ 肩部 1/2 残存
									にぶい橙	7.5YR 7/4			
1101	甕	7	SB75		埋 1 層	(16.0)	-	(18.5)	赤橙	10R 6/6	橙	5YR 7/6	口縁部少量、頸部 1/3、胴部 1/2 残存
		7	SB75		埋 2 層				橙	5YR 7/6			外 : 摩耗している　黒斑有り　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1102	甕	7	SB75		埋 1 層	16.9	-	(21.7)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部下位 残存　外 : ハケメ
		7	SB75		埋 2 層								9 本 1 単位 , 黒斑　一部反転復元
1103	甕	7	SB75		埋 1 層	(17.0)	-	(27.8)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部下位 残存　外 : ハケメ
		7	SB75		埋 2 層				浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/5	8 本単位、黒斑有り　反転復元
1104	甕	7	SB75		埋 1 層	(18.6)	-	(6.2)	にぶい赤褐	5YR 5/4	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/5 残存
									灰褐	7.5YR 5/2			ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1105	甕	7	SB75		埋 2 層	13.5	-	16.3	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	口縁部 1/2 欠損 ~ 胴部底部完形
									灰褐	7.5YR 4/2	褐灰	5YR 4/1	ハケメ :7 本 1 単位、10 本 1 単位
1106	甕	7	SB75		埋 1 層	17.9	-	(28.2)	橙	5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部完存 ~ 胴部下位 1/2 残存　外 : ハケ
		7	SB75		埋 2 層				にぶい黄橙	10YR 7/2	褐灰	7.5YR 4/1	メ 8 本 1 単位　黒斑有り　一部反転復元
1107	甕	7	SB75		埋 2 層	(16.6)	-	(7.0)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部上位 1/5 残存
													ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1108	甕	7	SB75		埋 2 層	(14.7)	-	(6.9)	赤褐	5YR 4/8	赤褐	5YR 4/8	口縁部 ~ 肩部 1/6 残存
											にぶい黄橙	10YR 7/2	反転復元
1109	甕	7	SB75		埋 1 層	(15.0)	-	(14.9)	明赤褐	5YR 5/8	明赤褐	5YR 5/8	口縁部 ~ 胴部中位 1/2 残存
		7	SB75		埋 2 層				灰	5Y 4/1	黄灰	2.5Y 5/1	ハケメ :7 本 1 単位、10 本 1 単位
		7	SB75		埋 4 層								反転復元
1110	壺	7	SB75		埋 2 層	16.4	-	36.4	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	ぼ完形胴部を一部欠損
		7	SB75		埋 2 層				灰黄褐	10YR 5/2	褐灰	10YR 5/1	全体的に摩耗している
1111	甕	7	SB74		埋 1 層	(17.4)	-	(7.2)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 胴部上位 2/5 残存
													口縁部に黒色化有り　反転復元
1112	甕	7	SB75		埋 2 層	19.0	-	(9.6)	灰白	10YR 8/2	灰白	2.5Y 8/1	口縁部 3/4~ 胴部上位 残存
				1373	3 層				黄灰	2.5Y 6/1	褐灰	10YR 4/1	
1113	甕	7	SB75		埋 1 層	(17.0)	-	(14.5)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい黄褐	10YR 4/3	口縁部 ~ 胴部上位 1/2 残存　外 : 一部
									にぶい黄橙	10YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/4	にスス付着　内 : 鉄分付着　反転復元
1114	坏	7	SB93		埋 1 層	(13.6)	-	(6.8)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
		7	SB453		埋 1 層								内、外 : 朱塗り有り　反転復元
1115	坏	7	SB93		埋 1 層	(15.0)	-	(4.4)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存　外 : 鉄分
													付着　反転復元
1116	坏	7	SB93		埋 1 層	13.4	-	6.2	明赤褐	5YR 5/6	橙	5YR 6/6	口縁と胴部の一部を欠損する
1117	坏	7	SB93		埋 1 層	(13.0)	-	(5.5)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/3 残存
		7	SB93		埋 1 層								反転復元
1118	坏	7	SB93		埋 1 層	(12.9)	-	5.7	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 2/5 残存
					埋 2 層								内、外 : 線刻有り　反転復元
1119	坏	7	SB93		埋 1 層	(12.2)	-	6.0	橙	5YR 7/8	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
1120	壺	7	SB93		埋 1 層	-	-	(12.0)	橙	2.5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 底部口縁端部は残存なし、
		7	SB453		埋 1 層				褐灰	10YR 5/1	灰黄	2.5Y 7/2	底部一部欠損　一部反転復元
1121	甕	7	SB93		埋 1 層	(14.6)	-	(10.0)	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存
													内 : 粘土紐の痕有り　反転復元
1122	壺	7	SB93		埋 1 層	-	-	(4.3)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/8	口縁部 小片
1123	甕	7	SB93		埋 1 層	(15.0)	-	(5.1)	浅黄橙	7.5YR 8/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 頸部 1/3 残存
													全体に摩耗　反転復元
1124	甕	7	SB93		埋 1 層	(19.0)	-	(6.1)	にぶい褐	7.5YR 5/3	にぶい赤褐	5YR 5/4	口縁部 ~ 胴部上位 1/8 残存
													ハケメ :8 本 1 単位　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1125	甕	7	SB93		埋 1 層	17.9	-	(13.9)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 3/4~ 胴部中位 残存
		7	SB93		埋 2 層								外ハケメ : 太 9 本 1 単位、細 10 本 1 単位　口縁内面ハケメ :9 本 1 単位 一部反転復元
1126	甕	7	SB93		埋 1 層	13.5	-	(24.7)	浅黄橙	7.5YR 8/6	浅黄橙	7.5YR 8/6	口縁部 3/4~ 胴部下位 1/2 残存　外ハケメ :8 本 1 単位　口縁内面ハケメ :8 本 1 単位　一部反転復元
		7	SB93		埋 1 層						褐灰	10YR 4/1	
		7	SB93		埋 1 層								
1127	甕	7	SB93		埋 1 層	16.2	-	(20.9)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 ~ 胴部下位 4/5 残存
		7	SB93		埋 1 層				黒褐	10YR 3/2	黒褐	10YR 3/2	
1128	蓋	7	SB93		埋 1 層	(14.4)	-	4.8	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存　反転復元
		7	SB93		埋 1 層								
1129	坏	7	SB93		埋 1 層	10.2	5.8	4.7	灰白	N 7/	灰白	5Y 7/1	ほぼ完形　底部一部欠損
1130	坏	7	SB453		埋 1 層	(13.9)	-	(5.2)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
1131	坏	7	SD41		埋 1 層	14.4	-	6.2	橙	2.5YR 7/8	橙	2.5YR 7/8	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　外 : 黒斑
									にぶい黄橙	10YR 6/4			
1132	甕	7	SD497		埋 1 層	(21.6)	-	(7.0)	灰	N 5/	灰	N 6/	口縁部 ~ 肩部 1/6 残存
													外 : 自然釉　反転復元
1133	坏	7	SE35		埋 4 層	12.6	6.3	3.6	橙	5YR 7/6	橙	2.5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 残存　外器面に墨書有り　外底部 : スス付着なのか黒変有り
		7	SE35		埋 5 層								
1134	坏	7	SE35		埋 1 層	(12.0)	(6.0)	3.3	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1135	坏	7	SE35		埋 4 層	-	(7.2)	(2.8)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	底部 ~ 胴部 1/3 残存　反転復元
1136	坏	7	SE35		埋 7 層	(11.6)	(5.4)	3.5	浅黄橙	7.5YR 8/3	赤橙	10R 6/6	口縁部 ~ 底部 1/3 残存
													底部に墨書有り　反転復元
1137	坏	7	SE35		埋 4 層	(11.8)	-	(3.1)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
1138	坏	7	SE35		埋 5 層	-	(7.6)	(2.0)	灰白	2.5Y 8/2	黒	2.5Y 2/1	底部 1/4 残存　反転復元
1139	甕	7	SE35		埋 1 層	(25.6)	-	(5.0)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 頸部 1/6 残存　反転復元
1140	坏	7	SE35		埋 4 層	(14.1)	-	(5.5)	明黄褐	10YR 7/6	明黄褐	10YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 残存
													内 : 鉄分付着　反転復元
1141	甕	7	SE35		埋 1 層	(26.0)	-	(5.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 頸部 1/4 残存
													外 : 摩耗している　反転復元
1142	甕	7	SE35		埋 4 層	(21.2)	-	(3.4)	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 ~ 頸部 1/4 残存　反転復元
1143	甕	7	SE35		埋 4 層	(26.2)	-	(3.9)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部のみ残存　反転復元
1144	壺	7	SE35		埋 5 層	-	-	(6.1)	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	口縁部 ~ 胴部上位破片
											褐灰	10YR 6/1	内、外 : ハケメ 7 本 1 単位
1145	甑	7	SE35		埋 4 層	-	(23.6)	(8.9)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	胴部 ~ 底部 1/8 残存　反転復元
1146	竈	7	SE35		埋 3 層	(33.2)	-	(7.6)	浅黄橙	7.5YR 8/6	橙	2.5YR 6/6	口縁部のみ残存　反転復元
1147	蓋	7	SE35		埋 7 層	(12.6)	-	(3.5)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/8 残存
													外面の一部に自然釉　反転復元
1148	蓋	7	SE35		埋 5 層	-	-	(1.8)	灰	5Y 6/1	褐灰	10YR 5/1	ツマミ ~ 天井部 1/3 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1149	蓋	7	SE35		埋 2 層	(16.6)	-	(1.2)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	口縁部 1/4 残存 ツマミ部欠損　反転復元
1150	皿	7	SE35		埋 8 層	(14.0)	(11.6)	1.6	灰白	N 7/	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/3 残存 歪み有り　反転復元
1151	皿	7	SE35		埋 1 層	(13.2)	(10.8)	1.3	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1152	蓋	7	SE35		埋 4 層	(17.0)	-	(1.2)	灰白	N 8/	灰白	N 8/	天井部 ~ 口縁部 1/8 残存 外 : 天井部に墨書き有り　反転復元
1153	坏	7	SE35		埋 6 層	(12.6)	-	(2.7)	ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y 5/1	ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y 5/1	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
1154	坏	7	SE35		埋 5 層	(12.6)	-	(2.5)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　反転復元
1155	埦	7	SE35		埋 5 層	-	(9.2)	(1.7)	灰	N 6/	灰	N 6/	底部 ~ 胴部 1/5 残存　反転復元
1156	埦	7	SE35		埋 4 層	(15.6)	(10.6)	(1.5)	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 8/1	底部 1/4 残存　反転復元
1157	二次加工品	7	SE35		埋 7 層	7.6 （全長）	6.9 （幅）	1.4 （厚さ）	-	-	-	-	須恵器の二次加工品　円盤型に成形 途中なのか打ち欠いたままの状態
1158	土錘	7	SE35		埋 7 層	-	-	3.8	暗灰	N 3/	暗灰	N 3/	完形　孔径 0.4cm
1159	坏	7 7	SK5 SK5		埋 1 層 埋 2 層	(13.4)	(8.0)	3.8	橙	5YR 7/6	浅黄橙 にぶい橙	10YR 8/3 7.5YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/6 残存　反転復元
1160	坏	7	SK5		埋 1 層	(13.0)	(8.4)	4.0	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	7.5YR 8/3	口縁部 ~ 底部 1/5 残存　反転復元
1161	鉢	7 7	SK5 SK5		埋 1 層 埋 1 層	(25.6)	-	12.6	橙 灰褐	7.5YR 6/6 7.5YR 5/2	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR 7/3 10YR 6/3	口縁部 1/5、胴部 ~ 底部 完存 口縁部　反転復元
1162	甕	7	SK5		埋 2 層	(15.5)	-	(5.1)	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐 にぶい橙	2.5YR 5/8 5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部上位 1/4 残存 反転復元
1163	甕	7	SK5		埋 1 層	(26.0)	-	(3.4)	橙 明黄褐	7.5YR 6/6 10YR 7/6	灰白 浅黄橙	10YR 8/2 10YR 8/4	口縁部 1/8 残存　全体に摩耗 反転復元
1164	甕	7 7	SK5 SK5		埋 1 層 埋 1 層	(26.0)	-	(7.0)	浅黄橙 灰褐	7.5YR 8/3 7.5YR 5/2	浅黄橙 灰褐	7.5YR 8/3 7.5YR 5/2	口縁部 1/3~ 胴部上位わずか残存 反転復元
1165	蓋	7 7	SK5	1393	埋 2 層 1 層	(21.8)	-	2.0	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存　反転復元
1166	蓋	7	SK5		埋 2 層	(15.0)	-	1.6	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 2/5 残存　反転復元
1167	蓋	7	SK5		埋 1 層	(15.4)	-	1.5	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　反転復元
1168	蓋	7 7	SK5	1393	埋 1 層 3 層	(14.6)	-	(0.6)	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
1169	蓋	7	SK5		埋 1 層	13.7	-	1.0	灰	N 6/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存
1170	皿	7	SK5		埋 1 層	14.1	9.6	2.3	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
1171	坏	7	SK5		埋 1 層	(13.4)	(9.2)	4.2	灰	7.5Y 6/1	灰白	7.5Y 8/1	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1172	埦	7	SK5		埋 1 層	(13.6)	(9.5)	3.7	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 1/4 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1173	埦	7	SK5		埋 1 層	(13.0)	8.0	3.5	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 1/3 残存　反転復元
1174	蓋	7	SK6		埋 1 層	(15.9)	-	1.8	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存
		7	SK6P1		埋 1 層								外面口縁に自然釉　反転復元
1175	蓋	7	SK16		埋 1 層	(15.4)	-	2.8	灰白	7.5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
1176	皿	7	SK6		埋 1 層	14.7	13.1	2.4	灰	7.5Y 6/1	灰白	N 7/	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　歪み有り
		7		2303	1 層								焼き膨れ有り　外 : 側面に自然釉
1177	坏	7	SK44		埋 1 層	(14.0)	(5.8)	5.2	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/5~ 底部 1/4 残存
					B				橙	5YR 6/6	明赤褐	5YR 5/8	全体に摩耗している　反転復元
1178	鞴羽口	7	SK6		埋 1 層	-	-	(9.3)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	羽口 先端部破片　被熱により変色
				1393	1 層								ガラス化した部分有り
1179	蓋	7	SK19		埋 2 層	(14.0)	-	(4.7)	灰	5Y 6/1	灰白	2.5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　外 : 自然釉
1180	坏	7	SK19		埋 2 層	13.8	9.9	3.7	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	ほぼ完形
1181	埦	7	SK19		埋 2 層	(12.0)	(8.7)	3.7	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 1/2 残存　反転復元
1182	埦	7	SK19		埋 1 層	(14.1)	(10.2)	3.5	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 1/4 残存
		7		2303	3 層								外 : 自然釉　反転復元
1183	埦	7	SK19		埋 1 層	12.3	8.5	3.1	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 2/3 残存
		7		1393	3 層								若干歪み有り　一部反転復元
1184	甕	7	SK19		一括焼土	(18.4)	-	(6.1)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 1/5 残存　反転復元
									灰褐	7.5YR 4/2	浅黄橙	7.5YR 8/4	
1185	蓋	7	SK20		埋 1 層	15.2	-	2.3	灰	N 6/	灰白	7.5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存　歪み有り
1186	蓋	7	SK20		埋 1 層	(16.4)	-	2.5	灰白	N 7/	灰白	N 7/	ツマミ ~ 口縁部 1/2 残存
													一部反転復元
1187	鉢	7	SK23		埋 1 層	-	-	(5.5)	にぶい橙	7.5YR 7/4	橙	5YR 7/6	口縁部 1/6 以下残存　全体に摩耗気味
1188	甕	7	SK23		埋 1 層	-	-	(6.4)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 以下残存
1189	蓋	7	SK23		埋 1 層	(18.0)	-	1.9	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ ~ 口縁部 1/4 残存
													ツマミ欠損　反転復元
1190	蓋	7	SK23		埋 1 層	15.0	-	1.4	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/2 残存　歪み有
1191	蓋	7	SK25		埋 3 層	(14.2)	-	(5.2)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
1192	甕	7	SK25		埋 3 層	(11.6)	-	(5.8)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 肩部 1/3 残存　反転復元
1193	鉢	7	SK33		埋 1 層	-	-	(6.9)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 以下残存
1194	甕	7	SK33		埋 1 層	-	-	(7.7)	にぶい橙	5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 以下残存
1195	甕	7	SK33		埋 1 層	(23.2)	-	(5.3)	橙	5YR 6/8	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 頸部 1/6 残存　反転復元
1196	甕	7	SK33		埋 1 層	(19.2)	-	(14.1)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存
		7	SK33		埋 1 層								全体に磨滅している　反転復元
1197	鉢	7	SK33		埋 1 層	(24.4)	(15.1)	12.25	橙	2.5YR 6/8	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 ~ 胴部 1/2、底部 1/3 残存
		7	SK33		埋 1 層								反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1198	蓋	7	SK33		埋 1 層	17.2	-	1.8	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	ツマミ ~ 口縁部 2/3 残存　歪み有り
1199	蓋	7	SK33		埋 1 層	(19.6)	-	1.3	灰白	7.5Y 8/1	灰白	7.5Y 8/1	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存
		7	SK33		埋 1 層				灰	N 6/	灰	N 6/	重ね焼き時の焼き膨れ有り
1200	皿	7	SK33		埋 1 層	(19.4)	-	2.3	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1201	埦	7	SK33		埋 1 層	13.0	8.3	3.8	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部 ~ 高台 2/3 残存
1202	埦	7	SK33		埋 1 層	(16.2)	(9.8)	4.9	灰白	2.5Y 8/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1203	蓋	7	SK34		埋 2 層	(13.2)	-	3.0	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ ~ 口縁部 1/2 残存
		7		2302	1 層								一部反転復元
1204	坏	7	SK34		埋 1 層	(12.8)	10.2	3.5	灰白	10YR 8/1	灰白	10YR 8/1	口縁 ~ 底部 1/4 残存　底部は完形 一部反転復元
1205	壺	7	SK34		埋 1 層	-	(7.4)	(7.3)	灰白	7.5YR 8/2	灰白	10YR 8/2	胴部中位 ~ 底部 1/6 残存　反転復元
1206	甕	7	SK34		埋 2 層	(17.0)	-	(6.5)	明赤褐	2.5YR 5/6	にぶい赤褐	5YR 4/3	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存　反転復元
1207	壺	7	SK39		埋 2 層	-	-	(6.4)	橙	5YR 6/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部小片
1208	甕	7	SK39			(14.0)	-	(14.55)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部下位 1/2 弱残存　外 : 黒斑
		7	SK39		埋 2 層				褐灰	10YR 4/1	灰黄褐	10YR 5/2	有り、指頭圧痕多く残る　反転復元
1209	坏	7	SK40		埋 1 層	(15.0)	-	(5.8)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部少量 ~ 胴部 1/4 残存　外面と
									にぶい褐	7.5YR 5/4			口縁内部にスス付着　反転復元
1210	坏	7	SK40		埋 1 層	12.3	6.3	4.5	黄橙	7.5YR 7/8	黄橙	7.5YR 7/8	口縁部 ~ 底部 2/3 残存 全体に摩耗している
1211	皿	7	SK40		埋 1 層	(14.0)	(12.0)	2.1	浅黄橙	7.5YR 8/4	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
1212	壺	7	SK40		埋 1 層	(17.6)	-	(15.1)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部中位 1/4 残存
									褐灰	7.5YR 4/1			ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1213	甕	7	SK40		埋 1 層	(18.6)	-	(4.3)	橙	5YR 7/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/8 残存　反転復元
1214	甑	7	SK40		埋 1 層	(34.6)	-	(8.0)	橙	5YR 6/8	橙	7.5YR 6/8	口縁部 1/6 残存 把手欠損　反転復元
1215	蓋	7	SB40		埋 1 層	(15.1)	-	(1.9)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存
		7	SK40		埋 1 層								内 : 鉄分付着　反転復元
1216	坏	7	SK40		埋 1 層	(14.2)	(8.2)	(3.7)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1217	鉢	7	SK40		埋 1 層	(13.4)	-	(2.6)	黄灰	2.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部 1/5 残存　反転復元
1218	坏	7	SK40		埋 1 層	12.6	8.3	4.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　内 : 鉄分付着
1219	坏	7	SK40		埋 1 層	12.9	8.8	4.0	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 2/3 残存
1220	盤	7	SK45		埋 1 層	(34.0)	-	(1.6)	浅黄	2.5Y 7/3	浅黄	2.5Y 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/12 残存　反転復元
1221	甕	7	SP286		埋 1 層	-	-	(3.9)	黒褐	7.5YR 3/1	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部上位破片　外 : スス付着
1222	甕	7	SP536		埋 1 層	-	-	(3.3)	橙	5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 ~ 胴部上位破片 口縁端部外面に刻み目を施す

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1223	坏	7	SB53		埋 2 層	(15.0)	-	(5.5)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存　反転復元
1224	坏	7	SP518		埋 1 層	(14.4)	-	(3.8)	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR 7/2 7.5YR 7/4	黒	N 2/	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
1225	坏	7	SP279		埋 1 層	14.2	-	6.1	明赤褐	2.5YR 5/8	明赤褐	2.5YR 5/8	ほぼ完形（口縁の一部欠損）
1226	坏	7	SP358		埋 1 層	12.3	-	5.1	灰褐 黒	7.5YR 4/2 N 1.5/	橙 にぶい赤褐	2.5YR 6/8 5YR 5/3	少し欠損するがほぼ完形 内 : 底部にヘラ記号　外 : 黒斑
1227	坏	7	SP101		埋 1 層	(13.6)	(10.0)	4.2	浅黄橙	7.5YR 8/4	浅黄橙	7.5YR 8/6	口縁部少量 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
1228	甕	7	SP294		埋 1 層	(16.8)	-	(8.7)	橙	2.5YR 6/8	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/4 残存　外 : ハケメ 7 本 1 単位、スス付着　反転復元
1229	甕	7	SP583		埋 1 層	(9.4)	-	15.9	明赤褐	2.5YR 5/6	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 底部 1/2 残存 底部以外を反転復元
1230	甕	7 7	SP284 SP284		埋 1 層	19.8	-	(11.0)	橙 にぶい黄橙	5YR 7/8 10YR 7/2	橙 灰黄褐	5YR 7/8 10YR 6/2	口縁部 ~ 胴部中位残存外 : 黒斑有り 胴部の一部　反転復元
1231	甑	7 7	SP583 SP587		埋 1 層 埋 1 層	-	8.0	(18.0)	橙 暗灰	5YR 6/6 N 3/	橙	5YR 6/6	胴部上位 ~ 底部 2/3 残存 ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1232	甕	7	SB53		P6 埋 1 層	(14.0)	-	(6.3)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/8	口縁部 1/3~ 胴部上位 1/6 残存 反転復元
1233	甕	7	SB51		P5 埋 1 層	(22.0)	-	(6.7)	にぶい橙	7.5YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 1/3~ 胴部上位 1/6 残存 反転復元
1234	甕	7	SP310		埋 1 層	-	-	(9.6)	橙 浅黄橙	5YR 6/6 10YR 8/4	橙 浅黄橙	5YR 7/6 10YR 8/4	口縁部 ~ 胴部上位破片
1235	甕	7	SP442		埋 1 層	(15.4)	-	(8.8)	灰白 浅黄橙	10YR 8/2 7.5YR 8/6	灰白 浅黄橙	2.5Y 8/2 7.5YR 8/4	口縁部 ~ 胴部上位 残存　反転復元
1236	甕	7	SP100		埋 1 層	(19.0)	-	(13.9)	浅黄橙	7.5YR 8/6	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 ~ 胴部中位 1/4 残存　反転復元
1237	蓋	7 7 7	SP181	 1393 1393	埋 1 層 1 層 3 層	14.6	-	1.2	灰	N 6/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 3/4 残存 歪み有り
1238	坏	7	SP99		埋 1 層	(11.8)	-	(4.9)	ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y 6/1	ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
1239	埦	7	SP272		埋 1 層	(13.3)	(8.8)	4.0	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 3/4 残存 外 : 自然釉　一部　反転復元
1240	埦	7 7 7	SP505	 2302 2303	埋 1 層 1 層 3 層	(14.2)	9.1	4.1	灰白 灰	N 7/ N 5/	灰白 灰	N 7/ N 5/	口縁部 ~ 高台 1/2 残存　外 : 自然釉
1241	壺	7	SP175		埋 1 層	(10.6)	-	(5.5)	灰 灰白	N 6/ N 8/	灰 灰白	N 6/ N 8/	口縁部 ~ 胴部 1/8 残存　反転復元
1242	鉢	7 9	SP1825	 1391	埋 1 層 3 層	(18.0)	-	(12.6)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 把手部上部破損　反転復元
1243	甕	7 9	SP372 SE1		埋 1 層 埋 2 層	(42.0)	-	(12.4)	灰	N 4/	灰	N 6/	口縁部 ~ 頸部 1/4 残存 内 : 自然釉　反転復元
1244	坏	7 7		1391 1394	3 層 3 層	(21.0)	-	(8.8)	橙	5YR 7/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 坏部下位 1/4 残存 反転復元
1245	台付坏	7		1374	3 層	-	13.1	(5.2)	灰白	7.5YR 8/2	灰 灰白	N 4/ 7.5YR 8/1	底部のみ残存　脚内部 : 黒く変色している　内、外 : 一部に赤い付着物有り

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1246	蓋	7 7		1392	3 層 1 層	13.0	-	3.6	にぶい橙 橙	7.5YR 7/4 2.5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 7/4	天井部～口縁部 3/4 残存 外：赤色顔料塗布　天井部に黒斑有り
1247	蓋	7 7		2303	1 層 3 層	(15.6)	-	2.9	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	ツマミ～口縁部 2/3 残存 一部反転復元
1248	蓋	7 7		2302 2301	3 層 包 3 層	14.3	-	2.3	浅黄 にぶい黄橙	2.5Y 7/3 10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	天井部～口縁部 2/3 残存 ツマミがはずれた痕有り
1249	坏	7		2301	3 層	13.8	-	5.9	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	ほぼ完形
1250	坏	7		1392	1 層	12.9	4.8	6.2	橙 浅黄橙	5YR 6/6 7.5YR 8/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部～底部 1/2 残存　外：鉄分付着
1251	坏	7		1373	3 層	13.6	7.2	6.5	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部～底部 3/4 残存　外：一部黒斑有り　内、外：指頭痕有り
1252	坏	7		1373	1 層・3 層	(14.8)	6.0	6.3	橙	2.5YR 6/6	橙	2.5YR 6/6	口縁部～底部 3/4 残存 胴部～底部：黒変有り　一部反転復元
1253	坏	7		1393	3 層	12.8	-	6.3	橙	7.5YR 6/6	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部～底部 2/3 残存
1254	坏	7		1373	3 層	12.4	-	(7.4)	灰褐	7.5YR 4/2	にぶい褐	7.5YR 6/3	口縁部～胴部 2/3 残存　口縁部に歪み有　内、外：黒斑有　一部反転復元
1255	片口土器	7		1380	3 層	-	-	(7.7)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部破片　全体に磨滅
1256	片口土器	7		1381	1 層	-	-	(6.9)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部破片　全体に磨滅
1257	坏	7		1383	3 層	-	(7.4)	(1.15)	にぶい黄橙	10YR 7/2	橙	7.5YR 6/6	底部 1/5 残存口縁部欠損　底部外面：刻書有り「田」 反転復元
1258	坏	7		1393	3 層	-	-	(0.65)	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	底部 破片　摩耗が著しい　箆書あり
1259	坏	7		1391	3 層	-	-	(0.6)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	破片　外面に刻書有り
1260	坏	7		2303	3 層	(15.0)	(6.4)	2.75	橙	2.5YR 6/8	橙 橙	2.5YR 6/8 5YR 7/6	口縁の一部～胴部 1/3～底部 1/2 弱 残存　底部外面に箆書有　反転復元
1261	坏	7		2303	3 層	(13.3)	(7.7)	3.25	橙	5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 1/4～底部 1/2 残存 底部外面：ヘラ記号有り　反転復元
1262	坏	7		2302	3 層	(12.8)	6.8	4.0	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/6～底部全形 残存　底部外面：刻書「×」有　口縁部～胴部を反転復元
1263	坏	7		2303	3 層	-	(7.0)	(2.6)	橙 にぶい黄褐	7.5YR 7/6 10YR 5/3	にぶい黄橙	10YR 7/4	底部 1/5 残存口縁部欠損 底部外面：ヘラ書有り　反転復元
1264	坏	7		1393	3 層	-	(6.6)	(2.55)	橙	7.5YR 7/6	橙	5YR 6/8	胴部下位～底部 1/3 残存 底部外面：ヘラ記号有り「井」 反転復元
1265	坏	7		2302	1 層・3 層	-	7.2	(3.4)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	胴部中位～体部 2/3 残存 底部外面に刻書有り「麻呂」
1266	甑	7		1374	3 層	-	-	(5.0)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	把手部のみ完形
1267	甑	7		2312	1 層	-	-	(5.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	-	-	把手部完形
1268	ミニチュア土器	7		1384	3 層	-	-	(1.6)	にぶい橙	7.5YR 7/4	-	-	把手部完形 先端部に焼成前の穿孔有り
1269	甕	7		2301	3 層	18.4	-	(13.5)	橙	2.5YR 6/8	橙	7.5YR 7/6	口縁部ほぼ完形～胴部残存 一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1270	竈	7		1383	3 層	-	-	(3.6)	にぶい橙	7.5YR 7/4	-	-	鍔部破片　外 : 磨滅内 : ハガレ
1271	甕	7		1374	3 層	(12.4)	-	(16.15)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部～胴部中位 1/4 残存　ハケメ :7 本 11 単位　頸部に穿孔有り（径 5㎜） 反転復元
1272	竈	7		1332	3 層	-	-	(8.5)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	鍔部破片　内、外 : 磨滅
1273	甕	7 7		1393 2303	3 層 1 層	(19.6)	-	(8.9)	橙	7.5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部～頸部 1/6 残存 須恵器模倣　反転復元
1274	甕	7		2302	3 層	13.2	-	(4.9)	にぶい褐 黒褐	7.5YR 5/4 7.5YR 3/1	にぶい赤褐	5YR 5/4	口縁部～胴部上位 1/6 残存　胴部突帯に刻み目文有り　反転復元
1275	小型壺	7		2312	3 層	-	(4.4)	(5.8)	にぶい黄橙	10YR 7/2	にぶい黄橙	10YR 7/3	胴部～底部 3/4 残存 外 : 胴部下位～底部に黒斑有り　反転復元
1276	甕	7		2312	3 層	(34.0)	-	(5.0)	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7/3 10YR 4/2	灰黄褐	10YR 4/2	口縁部のみ残存　口縁部外面にヘラなどの刻目文有り　反転復元
1277	蓋	7		2302	3 層	(14.0)	-	(4.1)	灰白	5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存　反転復元
1278	蓋	7 7		1373 1374	3 層 3 層	(12.4)	-	(4.9)	灰	N 5/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/4 残存　外 : 自然釉 反転復元
1279	蓋	7 7		2302 2312	3 層 3 層	(14.0)	-	3.9	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 3/5 残存 内 : 当て具痕　反転復元
1280	蓋	7		2303	1 層	(12.6)	-	4.1	にぶい黄橙 黄灰	10YR 7/3 2.5Y 5/1	灰黄	2.5Y 7/2	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
1281	蓋	7		2302	3 層	14.2	-	3.2	灰白	5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存
1282	蓋	7		1393	3 層	(14.8)	-	2.6	暗灰黄	2.5Y 4/2	灰白	2.5Y 8/2	天井部～口縁部 1/2 残存 内 : 鉄分付着　一部反転復元
1283	蓋	7		2303 2303	1 層 3 層	13.8	-	(1.6)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/2 残存 一部反転復元
1284	蓋	7 7		2311 2312	1 層 3 層	15.8	-	2.1	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存
1285	蓋	7		1393	3 層	14.2	-	1.7	灰白	5Y 8/2	灰白	5Y 8/1	口縁一部欠損
1286	蓋	7		1393	3 層	15.1	-	1.6	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 8/1	天井部～口縁部 2/3 残存
1287	蓋	7		1383	1 層	(15.8)	-	1.4	灰	N 5/	灰	N 5/	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
1288	蓋	7 7 7		1392 1393 2302	3 層 3 層 3 層	14.6	-	2.2	灰 灰	N 6/ N 4/	灰	N 6/	天井部～口縁部 1/3 残存　歪み有
1289	蓋	7		2303	3 層	14.2	-	2.1	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	ほぼ完形　若干の歪み有り
1290	蓋	7		1392	1 層	15.2	-	1.1	灰	N 6/	灰	N 6/	ほぼ完形
1291	蓋	7 7		2303 2303	1 層 3 層	(13.2)	-	1.9	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	天井部～口縁部 1/4 残存　反転復元
1292	蓋	7		1392 1393	3 層 3 層	(15.4)	-	1.3	灰白 灰白	5Y 8/1 5Y 7/1	灰白	2.5Y 8/2	天井部～口縁部 1/3 残存 内 : 鉄分付着　一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1293	蓋	7		1393	1 層	(16.3)	-	2.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存 内：鉄分付着　一部反転復元
1294	蓋	7		2303	3 層	(21.6)	-	2.1	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/6 残存
		7		2304	1 層				暗赤灰	7.5R 4/1	暗赤灰	7.5R 4/1	外：自然釉　反転復元
1295	蓋	7		2312	1 層	15.1	-	3.1	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	ツマミ～口縁部 3/4 残存
		7		2312	3 層								
1296	蓋	7		1392	1 層	15.1	-	3.5	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	ツマミ～口縁部 2/3 残存
		7		2303	3 層								宝珠ツマミ
1297	蓋	7		1374	3 層	(14.2)	-	4.2	灰	N 5/	灰	N 5/	ツマミ～口縁部 1/3 残存
		7		1383	1 層								歪み有　反転復元
1298	蓋	7		2302	3 層	(13.6)	-	(3.2)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	ツマミ～口縁部 1/2 残存　反転復元
1299	蓋	7		2302	3 層	16.8	-	(2.5)	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部～口縁部 2/3 残存
		7		2312	3 層								ツマミ部欠損
1300	蓋	7		1393	3 層	(19.6)	-	3.2	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	天井部～口縁部 1/6 残存　反転復元
1301	蓋	7		1392	1 層	(19.0)	-	1.9	灰白	N 7/	灰	N 6/	ツマミ～口縁部 1/2 残存 外：自然釉付着　反転復元
1302	蓋	7		2302	3 層	13.6	-	1.0	灰	N 6/	灰	N 6/	ツマミ～口縁部 1/2 残存 外：自然釉　重ね焼き痕有り
1303	坏	7		2301	3 層	(12.5)	-	(3.9)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～胴部 1/6 残存 外：坏部にヘラ記号有り　反転復元
1304	坏	7		1374	3 層	(13.6)	-	(5.8)	灰	N 4/	灰	N 5/	口縁部～底部 2/5 残存 外：自然釉　反転復元
1305	坏	7		2302	3 層	(11.6)	(5.4)	4.7	灰白	5Y 7/1	灰白	N 7/	口縁部～底部 1/3 残存　外：自然釉
		7		2312	3 層								底部：ヘラ記号「×」 反転復元
1306	坏	7		2312	3 層	(12.8)	(6.4)	4.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/2 残存　反転復元
1307	坏	7		1391	1 層	(11.8)	6.6	3.1	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	口縁部～底部 1/3 残存　反転復元
		7		1391	3 層								
1308	坏	7		2301	3 層	12.2	8.1	3.8	灰白	5Y 8/1	灰白	5Y 8/1	口縁部～底部 4/5 残存
		7		2302	3 層								
1309	坏	7		1393	3 層	12.8	4.3	8.3	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	完形
1310	坏	7		2302	1 層	11.7	8.4	4.1	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部～底部 2/3 残存 内面の調整が不良　反転復元
1311	坏	7		1383	1 層	(14.6)	(10.6)	3.1	灰白	N 7/	褐灰	10YR 6/1	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
		7		1383	3 層						灰白	5Y 7/1	
1312	坏	7		1392	1 層	(14.7)	(11.0)	3.8	灰白	2.5Y 7/1	灰黄	2.5Y 7/2	口縁部～底部 1/2 残存 内：自然釉　反転復元
1313	埦	7		1383	3 層	13.4	8.6	4.1	灰黄 灰	2.5Y 7/2 5Y 4/1	黄灰	2.5Y 6/1	口縁部～高台 3/4 残存　内：鉄分付着
1314	埦	7		1392	1 層	(14.1)	5.0	9.5	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～高台 2/3 残存　反転復元
1315	埦	7		2301	1 層	(13.5)	9.6	4.2	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～高台 2/3 残存　反転復元
1316	埦	7		2303	3 層	14.1	10.2	4.0	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部～高台 2/3 残存　外：自然釉

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1317	埦	7 7		2303 2303	1 層 3 層	13.6	8.9	4.4	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 2/3 残存
1318	埦	7		1391	1 層	(16.3)	(10.0)	5.8	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	口縁部 ~ 高台 1/6 残存　反転復元
1319	埦	7		2302	1 層	(15.3)	9.2	6.5	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 8/1	口縁部 ~ 底部 2/3 残存　反転復元
1320	埦	7 7		1393 1393	1 層 3 層	(14.8)	(8.5)	3.0	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 高台 1/2 残存　反転復元
1321	皿	7 7		1374 1374	1 層 3 層	(18.4)	(14.4)	2.0	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
1322	高坏	7		1382	1 層	-	(14.0)	(7.2)	灰	7.5Y 4/1	灰	7.5Y 6/1	脚部 ~ 裾部 1/6 残存　歪み有り　透孔（方形 2 孔）有り　内、外 : 自然釉　反転復元
1323	鉢	7		2303	1 層	(14.3)	-	(7.5)	灰白	5Y 7/2	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
1324	壺	7 7		1391 2301	1 層 1 層	-	(12.6)	(5.7)	灰	7.5Y 4/1	灰	7.5Y 4/1	胴部 ~ 高台 残存高台欠損 内、外 : 自然釉
1325	壺	7		1381	1 層	-	(11.7)	(7.7)	灰	10Y 6/1	灰白	N 7/	胴部 ~ 高台 1/4 残存　反転復元
1326	壺	7		1392	1 層	-	(13.6)	(9.1)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	胴部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1327	鉢	7		1384	1 層	(18.0)	-	(11.2)	灰	N 5/	灰	N 6/	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元
1328	壺	7		2303	1 層	-	(10.6)	(15.4)	灰	N 6/	灰	N 6/	胴部 1/12~ 底部 1/4 残存　反転復元
1329	提瓶	7		1382	1 層	-	-	(12.6)	灰	10Y 5/1	灰	10Y 6/1	口縁部欠、胴部 1/2 残存 2 個体把手有り
1330	提瓶	7		2302	3 層	-	-	(7.5)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	胴部 1/10 把手残存 外 : 自然釉　反転復元
1331	鉢	7		1392	1 層	-	-	(5.2)	灰黄	2.5Y 7/2	灰黄	2.5Y 7/2	把手のみ
1332	壺	7		1392	1 層	-	-	(2.1)	灰	N 6/	灰	N 6/	頸部 ~ 同部 1 破片　ヘラ記号有り
1333	甕	7 7		2303 2303	1 層 3 層	(19.4)	-	(6.9)	黄灰	2.5Y 5/1	黄灰	2.5Y 5/1	口縁部 ~ 肩部 1/4 残存　反転復元
1334	甕	7 7		1392 2302	1 層 3 層	(24.4)	-	(8.0)	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存 内、外 : 自然釉　反転復元
1335	甕	7 7		2302 2302	1 層 3 層	(23.8)	-	(8.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 反転復元
1336	二次加工品	7		1384	1 層	5.9 （全長）	5.6 （幅）	1.1 （厚さ）	-	-	-	-	須恵器の底部を二次加工し再利用
1337	二次加工品	7		2301	3 層	5.8 （全長）	5.8 （幅）	0.9 （厚さ）	-	-	-	-	須恵器の割れた後を二次加工し再利用
1338	二次加工品	7		1388	包 3 層	9.0 （縦）	8.6 （横）	1.1 （厚さ）	褐灰 にぶい黄褐	10YR 6/1 10YR 5/3	灰白	5Y 8/1	完形　周囲を打ち欠いて円盤状に加工している　外面に線刻有り
1339	二次加工品	7		1391	1 層	9.2 （全長）	9.4 （幅）	0.9 （厚さ）	-	-	-	-	須恵器の蓋を二次加工し再利用 打ち欠いた後に成形
1340	坏	9	SB53		埋 1 層	(12.0)	-	(4.3)	浅黄橙	7.5YR 8/6	浅黄橙	7.5YR 8/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 全体に摩耗気味　反転復元
1341	蓋	9	SB53		埋 1 層	(13.8)	-	(4.5)	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1342	捏ね鉢	9	SB53		埋 1 層	(27.6)	(13.0)	10.2	灰黄	2.5Y 7/2	灰白	5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 1/5 残存　反転復元
1343	甕	9	SB56		埋 1 層	-	-	(4.3)	暗褐 橙	7.5YR 3/3 5YR 6/6	にぶい橙 暗褐	7.5YR 7/4 7.5YR 3/3	口縁部 破片 口縁内面ハケメ :5 本 /㎝
1344	坏	9	SB56		埋 1 層	-	(9.6)	(2.1)	にぶい橙 暗黄灰	5YR 7/4 2.5Y 5/2	にぶい橙 暗黄灰	5YR 7/4 2.5Y 5/2	胴部下位 ~ 底部 1/4 残存 全体に摩耗　反転復元
1345	坏	9	SB151		埋 1 層	9.9	-	5.6	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	完形受部わずかに欠損
1346	坏	9	SB151		埋 1 層	(13.7)	-	(6.4)	にぶい橙 浅黄橙	7.5YR 7/4 10YR 8/3	にぶい黄橙 灰黄	10YR 7/4 2.5Y 7/2	口縁部 ~ 胴部下位 1/2 残存 全体に摩耗　反転復元
1347	坏	9	SB151		埋 1 層 炉埋土	14.0	-	5.65	橙	5YR 6/8	橙 明黄褐	5YR 6/8 10YR 7/6	口縁部 1/2、胴部 ~ 底部 3/4 残存 底部に黒斑有り
1348	坏	9	SB151		埋 1 層	12.5	-	5.1	橙	7.5YR 6/6	橙	5YR 7/8	口縁部 1/2~ 胴部 2/3 残存 内、外 : ミガキ調整
1349	坏	9	SB151		埋 1 層	(11.1)	-	(4.2)	橙 灰黄褐	7.5YR 7/6 10YR 6/2	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部 ~ 胴部下位 1/5 残存 外 : 胴部下位が黒色化　反転復元
1350	壺	9	SB151		埋 1 層	(9.6)	-	(6.0)	浅黄橙 灰白	10YR 8/3 10YR 7/1	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 1/3 残存　外 : 赤色顔料が残る 反転復元
1351	壺	9 9	SB151 SB151		埋 1 層 埋 1 層	(13.0)	-	(8.2)	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7/2 10YR 6/2	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 1/3~ 肩部 1/8 残存 ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
1352	壺	9 9	SB151 SB151		埋 1 層 炉埋土	14.0	-	24.0	にぶい黄橙 にぶい橙	10YR 7/3 7.5YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 3/4~ 底部 残存（胴部一部欠損） 一部反転復元（胴部）
1353	甕	9 9	SB151 SB151		埋 1 層 埋 1 層	(17.3)	-	(10.1)	にぶい橙 褐灰	5YR 6/3 5YR 4/1	にぶい赤褐 褐灰	5YR 5/4 5YR 4/1	口縁部 1/3~ 胴部 1/2 残存　ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1354	甕	9	SB151		埋 1 層	-	-	(10.2)	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 7/2 10YR 5/2	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 ~ 胴部上位 破片　胴部上位に スス付着　ハケメ :5 本 1 単位
1355	甕	9 9	SB151 SB151		埋 1 層 埋 1 層	-	-	(8.4)	にぶい橙 灰黄褐	7.5YR 6/4 10YR 6/2	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 肩部 破片 ハケメ :3~4 本 /㎝
1356	甕	9	SB151		埋 1 層	(20.4)	-	(14.9)	にぶい橙 黒褐	7.5YR 6/4 10YR 3/1	にぶい黄橙 黒褐	10YR 7/3 10YR 3/1	口縁部わずか ~ 胴部上位 1/2 残存 ハケメ :3 本 /㎝　反転復元
1357	甕	9	SB151		埋 1 層	(12.6)	-	22.5	にぶい黄橙 橙	10YR 7/3 2.5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6 7.5YR 3/3	口縁部 2/5、胴部 ~ 底部 1/2 残存 ハケメ :7 本 1 単位　一部反転復元
1358	甕	9	SB151		埋 1 層	17.6	-	(24.0)	赤褐 黒褐	5YR 4/6 10YR 3/1	赤褐 灰褐	5YR 4/6 5YR 4/2	口縁部は完存、肩部 ~ 胴部下位 1/6 残存　反転復元（口縁以外）
1359	甕	9 9 9	SB151 SB151 SB151		埋 1 層 埋 1 層 埋 2 層	17.5	-	(28.9)	灰白	10YR 8/2	にぶい黄橙 灰白	10YR 7/2 10YR 8/2	口縁部 ~ 胴部下位 残存　口縁部ほぼ 完形　ハケメ :9 本 1 単位 外 : 黒斑有り　一部反転復元
1360	灯明皿	9	SB1183			6.6	4.1	1.55	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/8	完形　口縁部内外面にスス付着
1361	坏	9	SB1183		埋 1 層	(11.1)	(7.5)	3.2	橙 にぶい黄橙	5YR 6/6 10YR 6/3	橙 橙	5YR 6/6 7.5YR 6/6	口縁部 1/6~ 底部 1/3 残存　反転復元
1362	高坏	9 9	SB1183 SB1900		埋 1 層 埋 1 層	(17.2)	-	(4.8)	橙 灰褐	5YR 6/6 5YR 4/2	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 坏部 1/2 残存　脚部を欠く 外面坏部下位に同心円が巡る 反転復元
1363	甕	9 9	SB1183 SB1900		埋 1 層 埋 1 層	(9.0)	-	(6.7)	橙 にぶい褐	5YR 6/8 7.5YR 6/3	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/3 残存 全体に摩耗　反転復元
1364	ハソウ	9	SB1183		埋 1 層	-	-	(11.0)	灰	10Y 6/1	灰白	N 7/	頸部 ~ 底部 残存（底部のみ完形） 外 : 自然釉わずかにかかる 胴部に穿孔有り（外→内） 頸部　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1365	擂鉢	9	SB1183		埋 1 層	(32.0)	-	(5.3)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	口縁部 1/4 残存 4 条 1 単位のスリ目（放射状）
1366	火鉢	9	SB1183		埋 1 層	-	(26.0)	(7.1)	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	底部 1/6 残存脚残存（4 足あると思われる） 反転復元
1367	坏	9 9	SB1900 SB1900		埋 1 層 埋 1 層	-	-	(3.8)	黒褐	7.5YR 3/1	灰褐	7.5YR 4/2	口縁部 ~ 胴部下位 1/4 残存 内、外 : 黒化処理 反転復元
1368	甕	9 9	SB1900	2209	埋 1 層 1・3 層	(18.2)	-	(21.5)	橙	7.5YR 6/6	黒褐	7.5YR 3/1	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 ハケメ :6 本 1 単位 反転復元
1369	高坏	9	SB1591		埋 2 層	12.2	-	(7.5)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	坏部 2/3 残存脚部を欠く
1370	高坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 2 層 埋 3 層	-	(8.2)	(6.7)	橙 褐灰	2.5YR 6/6 10YR 5/1	にぶい黄橙 褐灰	10YR 7/3 10YR 5/1	脚部のみ残存 裾部ほぼ欠損 一部反転復元（裾部）
1371	坏	9	SB1591		側壁面	(13.0)	-	(5.1)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部下位 1/5 残存 反転復元
1372	高坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 3 層 埋 3 層	-	-	(9.7)	橙	5YR 6/6	明赤褐	2.5YR 5/6	坏部下位 1/8~ 脚部中位 残存 裾部を欠く 反転復元
1373	高坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 1 層 埋 2 層	-	-	(4.2) 坏部 (7.1) 脚部	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	坏部と脚部の破片 脚部外面 : 赤色顔料塗布 反転復元
1374	高坏	9	SB1591		埋 2 層	15.0	-	(4.9)	浅黄橙 にぶい橙	10YR 8/4 7.5YR 7/4	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 2/3~ 坏部 残存 一部反転復元
1375	高坏	9	SB1591		埋 3 層	(16.9)	-	(4.4)	橙 褐灰	5YR 6/6 10YR 4/1	橙 褐灰	5YR 6/6 10YR 4/1	坏部 1/8 残存脚部を欠く ハケメ :6 本 1 単位 反転復元
1376	高坏	9	SB1591		埋 3 層	-	7.8	(4.8)	橙 褐灰	5YR 6/6 5YR 4/1	橙 褐灰	5YR 6/6 5YR 4/1	坏部は底部のみ ~ 脚裾部 4/5 残存 一部反転復元（坏部のみ）
1377	高坏	9	SB1591		埋 3 層	(16.0)	-	(5.7)	橙 黒	5YR 6/6 7.5Y 2/1	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 坏部 残存 外 : 黒斑有り 内、外 : 赤色顔料塗布 反転復元
1378	高坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 1 層 埋 2 層	(16.8)	-	(3.7)	橙 にぶい黄橙	5YR 6/6 10YR 7/2	橙 にぶい黄橙	5YR 6/6 10YR 7/2	坏部 1/2 残存脚部を欠く ハケメ :6 本 1 単位 反転復元
1379	坏	9	SB1591		埋 3 層	(13.0)	-	(4.0)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙 にぶい黄橙	10YR 7/2 10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存 全体に摩耗 反転復元
1380	坏	9	SB1591		埋 3 層	(13.4)	-	5.0	橙 橙	5YR 6/8 7.5YR 7/6	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 全体に摩耗 反転復元
1381	坏	9	SB1591		埋 3 層	(11.6)	-	(6.0)	橙 黒	7.5YR 6/6 N 2/	浅黄橙 橙	7.5YR 8/4 5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存 外 : 胴部下位 ~ 底部に黒斑有り 反転復元
1382	坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 3 層 埋 3 層	(11.4)	-	(5.0)	橙 暗灰	7.5YR 6/6 N 3/	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部下位 1/4 残存 外 : 胴部下位に黒斑有り 反転復元
1383	坏	9	SB1591		埋 2 層	(15.0)	-	(4.2)	橙 暗灰	7.5YR 6/6 N 3/	橙 にぶい黄橙	7.5YR 6/6 10YR 7/2	口縁部 ~ 胴部下位 1/5 残存 外 : 黒斑有り 反転復元
1384	坏	9	SB1591		埋 3 層	(12.2)	-	4.6	暗褐 黒褐	10YR 3/3 10YR 3/2	暗褐	10YR 3/3	口縁部 1/6~ 底部 1/2 残存 内、外 : 黒塗り 反転復元
1385	坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 3 層 埋 3 層	(13.6)	-	(4.9)	にぶい黄橙 橙	10YR 7/4 5YR 7/6	にぶい黄橙 橙	10YR 7/3 5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/4 残存 口縁部外面 : 黒斑有り 反転復元
1386	坏	9	SB1591		埋 3 層	(10.7)	-	4.7	橙	7.5YR 7/6	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁端部をほとんど欠損する他はほぼ完形 口縁部のみ 反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1387	坏	9	SB1591		埋 3 層	(12.4)	-	5.4	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい褐	7.5YR 6/3	口縁部わずか ~ 底部 1/4 残存
									にぶい褐	7.5YR 6/3			口縁端部に浅い凹み　反転復元
1388	坏	9	SB1591		埋 2 層	(11.6)	-	5.1	灰白	2.5Y 8/1	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 ~ 底部 1/5 残存
		9	SB1591		埋 3 層				浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	7.5YR 8/4	外 : 黒斑有り　反転復元
1389	坏	9	SB1591		埋 2 層	(11.1)	-	(4.1)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存
									にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	全面に赤色顔料塗布　反転復元
1390	坏	9	SB1591		埋 3 層	(11.6)	-	(3.9)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/3 残存
		9	SB1591		埋 3 層				灰白	2.5Y 7/1			反転復元
		9	SB1591		埋 3 層								
1391	坏	9	SB1591		埋 3 層	(11.0)	(7.1)	2.55	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
													底部に板状圧痕が残る　反転復元
1392	坏	9	SB1591		埋 3 層	(13.0)	-	(4.2)	浅黄橙	7.5YR 8/4	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存
									浅黄橙	7.5YR 8/6			全体に摩耗気味　反転復元
1393	坏	9	SB1591		側壁面	(12.2)	-	(4.1)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/5 残存
											灰白	10YR 8/2	反転復元
1394	坏	9	SB1591		埋 3 層	(13.0)	-	(4.15)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存
									橙	5YR 6/6			外 : 黒斑有り　反転復元
1395	坏	9	SB1591		埋 3 層	(14.2)	-	4.5	にぶい黄褐	10YR 5/3	灰黄褐	10YR 5/2	口縁部 ~ 底部 1/8 残存
		9	SB1591		埋 3 層								内、外 : 黒化処理　反転復元
1396	坏	9	SB1591			(12.8)	-	6.0	橙	5YR 7/8	橙	7.5YR 7/6	口縁 ~ 底部 1/2 弱残存　反転復元
1397	坏	9	SB1591		埋 3 層	(15.8)	-	6.3	橙	5YR 6/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 1/7~ 底部 残存　内 : 底部に黒
									赤	10R 4/8			斑有り　外 : 赤色顔料塗布　反転復元
1398	鉢	9	SB1591		埋 2 層	(13.6)	(5.1)	7.4	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 底部
		9	SB1591		埋 3 層				明褐灰	7.5YR 7/1	褐灰	7.5YR 6/1	外面底部 : 黒斑有り　反転復元
1399	壺	9	SB1591		埋 3 層	7.6	-	(10.5)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 3/4~ 胴部下位 残存　底部欠損
									橙	5YR 6/8			外 : 黒斑有り　一部　反転復元
1400	壺	9	SB1591		埋 2 層	(9.2)	-	(10.8)	橙	5YR 6/6	にぶい橙	7.5YR 7/3	口縁部わずか ~ 胴部 1/2 残存
		9	SB1591		埋 3 層								全体に摩耗　反転復元
1401	甕	9	SB1591		埋 1 層	(10.7)	-	(12.6)	橙	2.5YR 6/8	橙	5YR 6/6	口縁部 1/4~ 胴部 1/2 残存
		9	SB1591		埋 2 層				にぶい橙	5YR 6/4	褐灰	7.5YR 5/1	内 : スス付着あり　反転復元
1402	甕	9	SB1591		埋 3 層	11.8	-	(11.7)	橙	7.5YR 6/6	明褐	7.5YR 5/6	口縁部 2/3~ 胴部 1/3 残存
		9	SB1591		埋 3 層								反転復元（胴部）
1403	甕	9	SB1591		埋 1 層	11.8	-	(16.6)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部~胴部 残存（口縁端部 1/2 欠損）
		9	SB1591		埋 2 層				褐灰	7.5YR 4/1	褐灰	7.5YR 4/1	外 : スス付着
		9	SB1591		埋 3 層								
1404	壺	9	SB1591		埋 3 層	9.1	-	(5.5)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部 3/4~ 胴部中位 残存
									橙	7.5YR 6/6			歪み大きい　外 : スス付着
1405	甕	9	SB1591		埋 2 層	(20.0)	-	(11.3)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	口縁部 ~ 肩部 1/4 残存
		9	SB1591		埋 2 層				黒褐	7.5YR 3/2	灰褐	7.5YR 4/2	ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1406	製塩土器	9	SB1591		埋 3 層	(7.7)	-	(8.2)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存
													全体に摩滅　反転復元
1407	製塩土器	9	SB1591		埋 2 層	(8.1)	-	(7.0)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存
		9	SB1591		埋 3 層 BB								全体に摩滅　反転復元
1408	甕	9	SB1591		埋 3 層	16.0	-	(7.9)	にぶい黄橙	10YR 7/2	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 4/5~ 肩部 1/4 残存
		9	SB1591		埋 3 層				灰黄褐	10YR 5/2	褐灰	10YR 4/1	ハケメ :3 本 /cm　肩部以下を反転復元
1409	甕	9	SB1591		埋 2 層	(16.8)	-	(11.6)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 1/2~ 胴部上位 残存　反転復元
1410	壺	9	SB1591		埋 1 層	14.8	-	(21.05)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部上位　胴部下位は復元
		9	SB1591		埋 2 層				褐灰	10YR 4/1	褐灰	10YR 4/1	内、外 : スス付着　一部反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1411	甕	9	SB1591		埋 1 層	(16.6)	-	(12.5)	黄橙	7.5YR 7/8	橙	7.5YR 6/6	口縁部小片 ~ 胴部 1/3 残存
		9	SB1591		埋 2 層								ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1412	甕	9	SB1591		埋 1 層	17.7	-	27.5	にぶい黄褐	10YR 5/3	灰黄褐	10YR 4/2	口縁部 ~ 底部 7/10 残存
		9	SB1591		埋 2 層								ハケメ :13 本 1 単位
1413	甕	9	SB1591		埋 2 層	14.8	-	28.2	明黄褐	10YR 7/6	浅黄橙	10YR 8/4	口縁部 ~ 底部 9/10 残存　内 : 口縁と胴
		9	SB1591		埋 3 層								部の境に指頭圧痕有り　外 : 黒斑有り
1414	甕	9	SB1591		埋 2 層	(16.2)	-	(6.3)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 1/2 残存
		9	SB1591		埋 2 層								全体に摩耗　反転復元
1415	甕	9	SB1591		埋 2 層	(16.0)	-	(9.5)	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 肩部 1/4 残存　反転復元
1416	甕	9	SB1591		埋 3 層	14.7	-	(19.7)	橙	2.5YR 6/8	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 3/4~ 胴部 1/2 残存
		9	SB1591		埋 2 層				にぶい橙	7.5YR 7/4	褐灰	10YR 4/1	ハケメ :8 本 1 単位　一部反転復元
1417	甕	9	SB1591		埋 2 層	(17.4)	-	(10.4)	明赤褐	5YR 5/6	赤褐	5YR 4/6	口縁部 ~ 胴部上位 1/5 残存
		9	SB1591		埋 2 層								ハケメ :6 本 1 単位　反転復元
1418	甕	9	SB1591		埋 3 層	(19.5)	-	(11.3)	にぶい赤褐	5YR 5/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部上位 1/2 弱残存
									灰褐	5YR 5/2	橙	5YR 6/6	ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1419	壺	9	SB1591		埋 3 層	(16.8)	-	(6.3)	褐灰	10YR 4/1	灰白	10YR 8/1	口縁部 ~ 胴部上位 2/5 残存　反転復元
									浅黄橙	10YR 8/3			
1420	甕	9	SB1591		埋 2 層	16.4	-	(18.2)	浅黄	2.5Y 7/4	淡黄	2.5Y 8/4	口縁部 5/6~ 胴部 1/2 残存　ハケメ :5
		9	SB1591		埋 3 層								本 1 単位　外 : 黒斑有　一部反転復元
1421	甕	9	SB1591		埋 2 層	(12.0)	-	(16.6)	明赤褐	5YR 5/6	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 ~ 胴部中位 3/4 残存
		9	SB1591		埋 2 層				黒褐	5YR 3/1	褐灰	10YR 4/1	外 : 黒変有り　反転復元
1422	把手	9	SB1591		埋 1 層	-	-	(3.0)	にぶい黄橙	10YR 6/4	-	-	把手部先端部欠損
1423	壺	9	SB1591		埋 2 層	(19.8)	-	(12.4)	にぶい黄橙	10YR 7/3	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 ~ 胴部上位 1/4 残存
									灰黄褐	10YR 4/2	灰黄褐	10YR 4/2	ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1424	甕	9	SB1591		埋 2 層	(20.2)	-	(12.6)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部上位 1/4 残存　ハケメ :6
		9	SB1591		埋 2 層				灰褐	7.5YR 5/2	灰褐	7.5YR 5/2	本 /㎝　外 ; スス付着　反転復元
1425	甕	9	SB1591		埋 3 層	18.3	-	(13.5)	浅黄橙	7.5YR 8/3	明褐灰	7.5YR 7/1	口縁部 ~ 胴部中位 残存　ハケメ :7 本
		9	SB1591		埋 3 層				灰白	7.5YR 8/2	灰白	7.5YR 8/2	1 単位　一部　反転復元（胴部中位）
1426	甕	9	SB1591		埋 3 層	(17.2)	-	(10.8)	にぶい褐	7.5YR 5/3	にぶい橙	7.5YR 6/4	口縁部 ~ 胴部中位 1/7 残存
									黒褐	7.5YR 3/1	黒褐	7.5YR 3/1	内、外 : 黒く変色　反転復元
1427	甕	9	SB1591		埋 2 層	(26.3)	-	(10.8)	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 1/4~ 胴部上位 残存　外 : 黒斑
		9	SB1591		埋 3 層				褐灰	7.5YR 4/1			有り　ハケメ :9 本 1 単位　反転復元
1428	甑	9	SB1591		埋 3 層	-	(10.6)	(15.6)	浅黄橙	10YR 8/3	灰白	10YR 8/1	胴部中位 ~ 底部 1/4 残存
		9	SB1591		側壁面				にぶい黄橙	10YR 7/2			外 : 黒斑有り　反転復元
1429	甕	9	SB1591		埋 2 層	27.6	-	24.5	にぶい褐	7.5YR 5/4	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 7/10 残存
		9	SB1591		埋 3 層								ハケメ :6 本 1 単位　外 : スス付着
1430	高坏	9	SB1591		埋 3 層	(12.4)	-	(6.2)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 坏部 3/8 残存　反転復元
1431	高坏	9	SB1591		埋 3 層	-	(10.3)	(6.3)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	脚部 1/4 残存　透かし窓 3 ヶ所有り
		9	SB1591		埋 3 層								（1 ヶ所残存）　反転復元
1432	高坏	9	SB1591		埋 3 層	-	(17.6)	(12.1)	灰白	5Y 7/1	灰	5Y 6/1	脚部 1/4 残存　外 : 自然釉付着
		9	SB1591		埋 3 層								透かし窓 3 ヶ所有り　反転復元
1433	壺	9	SB1591		埋 2 層	(8.0)	-	(5.4)	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存
													内、外 : 自然釉付　反転復元
1434	蓋	9	SB1591		埋 2 層	(12.6)	-	5.2	黄灰	2.5Y 6/1	黄灰	2.5Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　天井部外
		9	SB1591		埋 3 層								面にヘラ記号有り　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1435	蓋	9	SB1591		埋 3 層	12.3	-	4.8	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	完形　全体に歪み有り　天井部外面：ヘラ記号。焼成時の付着物有り 外：自然釉付着
1436	蓋	9	SB1591		側壁面一括	11.6	-	4.9	灰	N 6/	灰白	N 7/	天井部～口縁部 4/5 残存 外：自然釉付着
1437	蓋	9	SB1591		埋 2 層	(11.8)	-	5.2	灰白	7.5Y 7/1	灰白	N 7/	天井部～口縁部 1/3 残存　反転復元
1438	蓋	9 9	SB1591 SB1591		埋 2 層 埋 3 層	13.6	-	5.2	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部～口縁部 2/3 残存 外：自然釉付着
1439	坏	9	SB1591		埋 3 層	(10.5)	(5.2)	5.2	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	口縁部～底部 1/6 残存　反転復元
1440	坏	9	SB1591		埋 2 層	(10.3)	-	(5.2)	灰白	10Y 7/1	灰白	10Y 7/1	口縁部～底部 3/8 残存　反転復元
1441	坏	9	SB1591		埋 3 層	13.2	-	6.1	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部～底部 3/4 残存
1442	坏	9 9	SB1591 SB1591		埋 2 層 埋 2 層	10.2	-	5.1	暗ｵﾘｰﾌﾞ灰	5Y 3/1	灰白	N 7/	口縁部～底部 4/5 残存 外：自然釉付着　焼成時の付着物多数
1443	坏	9	SB1591		埋 2 層	(11.0)	-	5.3	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	口縁部～底部 1/4 残存　反転復元
1444	坏	9 9	SB1591 SB1900		埋 2 層 埋 1 層	-	-	(4.1)	灰	7.5Y 6/1	灰白	N 7/	受部から底部 1/2 残存口縁打ち欠き 歪み有り　外：自然釉
1445	壺	9	SB1591		埋 2 層	-	(10.0)	(5.2)	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	底部 1/4 残存　反転復元
1446	壺	9 9	SB1591 SB1591		埋 2 層 埋 2 層	17.1	-	(8.8)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 5/6~ 胴部 1/8 残存 一部反転復元
1447	甕	9 9	SB1591 SB1591		埋 2 層 埋 2 層	(22.7)	-	(10.3)	灰	N 6/	灰	10Y 6/1	口縁部～肩部 1/4 残存　反転復元
1448	甕	9 9	SB1591 SB1591		埋 2 層 埋 2 層	(32.8)	-	(13.3)	灰ｵﾘｰﾌﾞ 灰	7.5Y 5/2 N 5/	灰	10Y 5/1	口縁部 1/6 残存　外：櫛描文様有り 内、外：自然釉付着　反転復元
1449	甕	9 9	SB1760	2300	埋 1 層 3 層	-	-	(12.4)	灰白	N 7/	灰白	5Y 7/1	底部 1/4 残存 外：火襷有り　反転復元
1450	甕	9	SB1761		埋 1 層	-	-	(6.9)	橙	7.5YR 6/6	灰褐	7.5YR 4/2	胴部下位～底部 1/2 残存　反転復元
1451	ミニチュア土器	9	SB1761		埋 1 層	-	(3.5)	(6.3)	浅黄橙	10YR 8/4	浅黄橙	10YR 8/4	1/2 残存　脚部は指オサエで調整 一部反転復元（胴部、脚部）
1452	高坏	9	SB1761		埋 2 層	-	-	(5.5)	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	脚部一部一周 一部反転復元（坏部底部）
1453	坏	9	SB1761		埋 1 層	(13.9)	-	(4.5)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部～胴部 1/6 残存　反転復元
1454	坏	9 9	SB1761 SB1762		埋 1 層	(15.9)	-	(5.4)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部～胴部下位 1/4 残存 口縁端部はほとんど欠損　反転復元
1455	坏	9	SB1761		埋 1 層	(16.6)	-	(5.0)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 1/3~ 胴部 残存　反転復元
1456	甕	9 9	SB1761 SB2030		埋 1 層 埋 1 層	13.8	-	(7.7)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 11/12~ 肩部 残存 一部　反転復元（肩部）
1457	甕	9 9 9	SB1761 SB1761 SB2030		埋 1 層 埋 1 層 埋 1 層	(17.6)	-	(8.5)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 2/3~ 肩部 残存 ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1458	壺	9	SB1761		埋 1 層	(16.1)	-	(6.8)	にぶい黄橙	10YR 6/3	明黄褐	10YR 6/6	口縁部 1/6~ 肩部 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1459	甕	9	SB1761		埋 1 層	(19.0)	-	(6.2)	にぶい黄褐	10YR 5/3	にぶい黄橙	10YR 6/4	口縁部 1/4~ 肩部 残存
		9	SB1761		埋 1 層								粘土紐痕有り　反転復元
1460	壺	9	SB1761		埋 1 層	(17.6)	-	(10.0)	明赤褐	2.5YR 5/8	橙	5YR 6/6	口縁部 1/4~ 胴部上位 残存
													外 : 黒斑有り　反転復元
1461	甕	9	SB1761		埋 1 層	(16.8)	-	(18.5)	にぶい黄褐	10YR 5/4	黄橙	10YR 8/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/2 残存　ハケ
		9	SB2030		埋 1 層								メ :10 本 1 単位　反転復元
1462	埦	9	SB1761		埋 1 層	(17.1)	(10.8)	5.6	にぶい褐	7.5YR 5/4	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 高台 1/2 残存　反転復元
1463	坏	9	SB1762		埋 1 層	(12.2)	-	(4.7)	にぶい黄褐	10YR 4/3	褐	7.5YR 4/3	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存
													摩滅が著しい　反転復元
1464	坏	9	SB1762		埋 1 層	(14.6)	-	(6.5)	橙	5YR 7/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 底部 1/4 残存
													摩滅が著しい　反転復元
1465	甕	9	SB1762		埋 1 層	(17.0)	-	(6.2)	にぶい褐	7.5YR 6/3	にぶい橙	7.5YR 7/3	口縁部 1/4 残存　反転復元
									褐灰	7.5YR 4/1	褐灰	10YR 4/1	
1466	蓋	9	SB1183		埋 1 層	(14.0)	-	(4.0)	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/8 残存　反転復元
1467	坏	9	SB1873		埋 1 層	(13.6)	-	(5.1)	にぶい橙	7.5YR 6/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 胴部下位 1/10 残存
													外 : 黒変有り　反転復元
1468	小型壺	9	SB1873		埋 1 層	(10.2)	-	(10.6)	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存　口縁部歪み
		9	SP1584		埋 1 層								有り　外 : 自然釉　反転復元
1469	高坏	9	SB2030		埋 1 層	-	(11.9)	(5.3)	灰	5Y 6/1	灰ｵﾘｰﾌﾞ	5Y 5/2	脚部 ~ 裾部 1/6 残存　透孔（方形 4 孔）
													有り　内、外 : 自然釉　反転復元
1470	台付鉢	9	SB2030		埋 2 層	(13.2)	-	(2.9)	灰黄褐	10YR 4/2	灰黄褐	10YR 4/2	口縁部 ~ 胴部 1/12 残存　反転復元
1471	高坏	9	SB2030		埋 1 層	-	(12.4)	(6.8)	にぶい黄橙	10YR 6/3	にぶい黄橙	10YR 7/3	脚部 1/3 残存　外 : 線刻 3 条有
													赤色顔料付着　反転復元
1472	坏	9	SB2030		埋 1 層	(11.0)	-	(4.3)	橙	7.5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/2 残存　反転復元
1473	坏	9	SB2030		埋 1 層	14.6	-	5.85	橙	2.5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 5/6 残存滅
													外面底部 : 黒斑とヘラ記号有り
1474	坏	9	SB2030		埋 1 層	(14.0)	-	5.4	橙	5YR 6/8	にぶい赤褐	5YR 5/4	口縁部 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
1475	坏	9	SB2030		埋 1 層	(15.2)	-	(6.4)	にぶい褐	7.5YR 5/4	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　内 : 黒斑有り
		9	SB2030		埋 2 層								外 : 黒斑とヘラ記号有り　反転復元
1476	甕	9	SB2030		埋 2 層	-	-	(3.3)	明赤褐	5YR 5/8	明赤褐	5YR 5/8	破片 1/12 残存
1477	甕	9	SB2030		埋 1 層	(15.8)	-	(5.4)	明赤褐	5YR 5/8	明赤褐	5YR 5/8	口縁部 ~ 胴部上位 1/12 残存
													外面 : 摩耗している　反転復元
1478	壺	9	SB2030		埋 1 層	(15.4)	-	(6.0)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 ~ 頸部 1/2 残存　反転復元
1479	甕	9	SB2030		埋 1 層	(17.5)	-	(12.8)	橙	2.5YR 6/6	橙	2.5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部中位 1/2 残存
		9	SB2030		埋 2 層								外 : ヘラ記号有り　反転復元
1480	甕	9	SB2030		埋 1 層	(16.8)	-	(21.4)	浅黄橙	10YR 8/3	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部 2/3~ 胴部下位 残存　ハケメ :7
		9	SB2030		埋 1 層						褐灰	10YR 4/1	本 1 単位　胴部に焼成後穿孔有り
													外 : スス付着　一部反転復元
1481	鉢	9	SB2060		埋 1 層	-	-	(5.4)	灰褐	5YR 4/2	にぶい赤褐	5YR 5/4	5㎝× 5㎝の口縁部小片　粘土紐を 2
													本編んで口縁に接合させている
1482	鉢	9	SB2060		埋 1 層	-	-	(6.7)	橙	7.5YR 6/6	にぶい黄褐	10YR 5/3	胴部破片

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1483	坏	9	SB2060		埋 1 層	-	(7.8)	(3.8)	明黄褐	10YR 6/6	浅黄橙	10YR 8/4	胴部下位 ~ 底部 1/3 残存　反転復元
1484	鞴羽口	9	SB2060		埋 1 層	-	-	(15.1)	灰黄	2.5Y 7/2	黄灰	2.5Y 5/1	羽口 1/3~1/4 残存　被熱による変色 ガラス化した部分有り
1485	甕	9	SB660		埋 1 層	-	(27.0)	(15.9)	灰	7.5Y 6/1	灰	7.5Y 6/1	胴部下位 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1486	二次加工品	9	SE2		埋 2 層	7.6 （全長）	7.6 （幅）	2.2 （厚さ）	-	-	-	-	土師器の底部を二次加工し再利用 ほぼ円形になっている
1487	壺	9	SD54		埋 4 層	-	-	(5.1)	灰白	10YR 8/2	灰白	10YR 8/2	胴部下位 ~ 底部 1/12 残存　反転復元
1488	坏	9	SD54		埋 3b 層	(12.8)	-	(5.1)	橙	5YR 7/8	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/12 残存　反転復元
1489	坏	9	SD54		埋 4b 層	(10.0)	-	3.7	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/6	口縁部 1/12~ 胴部 1/4 残存　外面口縁部に薄い黒斑有り　反転復元
1490	坏	9	SD54 SD54		埋 3b 層 埋 4 層	13.4	-	5.2	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 3/4 残存 内外共にミガキを施す
1491	坏	9	SD54		埋 4 層	(13.4)	-	(6.0)	灰白 にぶい赤	10YR 8/1 7.5R 4/4	灰白 にぶい赤	10YR 8/1 7.5R 4/4	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存 内、外 : 赤色顔料塗布　反転復元
1492	坏	9	SD54		埋上層	12.3	7.8	4.4	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 2/3 残存
1493	坏	9	SD54		埋下層	(14.0)	-	(5.5)	にぶい褐	7.5YR 5/4	にぶい褐	7.5YR 5/4	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存　反転復元
1494	坏	9	SD54		埋 4 層	-	-	(5.5)	にぶい赤褐	5YR 5/4	黒褐	5YR 3/1	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存 外 : 工具で沈線を施す　反転復元
1495	甕	9	SD54		埋 2b 層	(14.6)	-	(7.0)	浅黄橙	10YR 8/3	灰白	10YR 8/2	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存　口縁部とハケメ部分にスス付着　反転復元
1496	甕	9	SD54		埋 4b 層	(17.0)	-	(8.4)	橙	2.5YR 6/8	橙	2.5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部上位 1/6 残存　ハケメ :8~9 本 1 単位　反転復元
1497	火鉢	9	SD54		埋一括	-	(22.0)	(3.7)	褐灰	10YR 5/1	にぶい黄橙	10YR 7/4	底部 1/5 残存　貼付脚は 4 足あると思われる　反転復元
1498	蓋	9 9	SD54 SD54		埋 4a 層 埋一括	(17.8)	-	3.4	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存 口縁に歪み有り　反転復元
1499	蓋	9	SD54		埋下層	(15.2)	-	2.2	灰	N 6/	灰白	5Y 8/1	天井部 ~ 口縁部 1/12 以下残存 反転復元
1500	甕	9	SD54		埋 2 層	(30.5)	-	(7.7)	灰	N 4/	灰	N 4/	口縁部 ~ 頸部 1/8 残存　反転復元
1501	甕	9	SD54		埋一括	(32.4)	-	(6.0)	灰	10Y 6/1	灰白 灰	10Y 7/1 10Y 6/1	口縁部 ~ 頸部 1/6 残存　反転復元
1502	擂鉢	9 9	SD54	2340	埋上層 1 層	(38.2)	-	(7.9)	灰	N 5/	灰	N 5/	口縁部 1/8 残存　6 条 1 単位のスリ目 内、外 : 激しく剥離　反転復元
1503	蓋	9	SD1745		埋 1 層	-	-	(3.2)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	ツマミ ~ 天井部 3/10 残存 ツマミ径 :2.1㎝　反転復元
1504	蓋	9	SD1745		埋 3 層	(15.0)	-	1.1	灰白	N 7/	灰白	N 7/	天井部 ~ 口縁部 1/5 残存　反転復元
1505	擂鉢	9 9	SE1 SE1		埋 2 層 埋 4 層	(32.8)	-	(9.5)	灰白	2.5Y 8/2	灰白	2.5Y 8/2	口縁部 ~ 胴部 1/3 残存 激しく剥離している　反転復元
1506	擂鉢	9	SE1		埋 3 層	-	-	(8.4)	黄灰	2.5Y 5/1	黄灰	2.5Y 6/1	胴部下位 ~ 底部 1/12 以下破片 9 条 1 単位のスリ目（放射状）
1507	坏	9	SK3		埋 1b 層	(12.0)	-	(4.5)	橙	2.5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1508	蓋	9	SK59		埋 1 層	12.3	-	4.8	灰	5Y 6/1	灰	5Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 3/4 残存
1509	坏	9	SK59		埋 1 層	(10.2)	-	4.7	ｵﾘｰﾌﾞ黒	5Y 3/1	灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 底部 2/3 残存
		9		2321	1 層								受部に重ね焼痕、自然釉有り
													底部外面にヘラ記号　反転復元
1510	甕	9	SK59		埋 1 層	-	-	(23.0)	にぶい黄橙	10YR 6/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部は一部のみ、胴部 2/5 残存
				2320	3 層				褐灰	10YR 4/1	褐灰	10YR 5/1	ハケメ :8 本 1 単位　反転復元
1511	甕	9	SK59		埋 1 層	(17.8)	-	(8.3)	黄橙	10YR 8/6	明黄褐	10YR 7/6	口縁部 ~ 肩部 1/3 残存　反転復元
1512	甕	9	SK59		埋 1 層	-	-	(14.3)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	胴部 ~ 底部 3/5 残存　ハケメ :8 本 1
													単位　　一部反転復元（胴部中位）
1513	皿	9	SK1754		埋 1 層	(6.2)	4.2	1.7	浅黄橙	7.5YR 8/6	浅黄橙	7.5YR 8/6	口縁部 1/3~ 底部完存
													一部反転復元（口縁部）
1514	皿	9	SK1754		埋 3 層	(10.0)	6.0	2.3	浅黄橙	7.5YR 8/4	浅黄橙	7.5YR 8/4	口縁部 ~ 胴部 1/6 残存
													一部反転復元（口縁部）
1515	坏	9	SK1754		埋 1 層	7.7	4.2	2.75	-	-	-	-	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
		9	SK1754		埋 3 層								
1516	坏	9	SK1754		埋 2 層	(11.0)	(5.4)	3.5	橙	7.5YR 7/6	橙	7.5YR 7/6	口縁部 ~ 底部 1/2 残存　反転復元
		9	SK1754		埋 3 層								
1517	坏	9	SK1754		埋 3 層	(11.6)	-	(2.7)	橙	2.5YR 7/8	橙	2.5YR 7/8	口縁部 1/3~ 胴部 残存　反転復元
1518	甕	9	SK1750		埋 1 層	(11.6)	-	(6.1)	黄橙	7.5YR 7/8	黄橙	7.5YR 7/8	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存　反転復元
1519	坏	9	SB1579		埋 1 層	-	(7.6)	(1.3)	明赤褐	5YR 5/6	明赤褐	5YR 5/6	底部 1/4 残存
									暗灰黄	2.5Y 5/2	暗灰黄	2.5Y 5/2	全体に摩耗　反転復元
1520	埦	9	SB1579		埋 1 層	-	(7.7)	(3.3)	灰白	10YR 8/1	灰白	10YR 8/1	胴部下位 1/5~ 底部 1/2 残存
									橙	2.5YR 6/6	橙	2.5YR 6/6	赤色顔料塗布　反転復元
1521	擂鉢	9	SB1579		埋 1 層	-	-	(6.6)	灰白	5Y 7/2	灰	7.5Y 5/1	口縁部 1/8 残存　4 条 1 単位のスリ目
													口縁付近内面ハガレ　反転復元
1522	擂鉢	9	SB1579		埋 1 層	(30.0)	-	(5.9)	にぶい黄橙	10YR 7/4	にぶい黄橙	10YR 7/4	口縁部 1/6 残存　反転復元
1523	坏	9	SK13		埋 1 層	(16.4)	-	(5.7)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存
					埋 3 層								全体に摩滅　反転復元
1524	坏	9	SK13		埋 3 層	13.4	-	6.5	橙	7.5YR 7/6	橙	2.5YR 6/8	口縁部 ~ 底部 11/12 残存　全体に磨
													滅　外 : 底部に黒斑とヘラ記号有り
1525	坏	9	SK13		埋 3 層	15.6	-	6.3	橙	5YR 6/6	橙	5YR 7/6	ほぼ完形全体に摩滅している
1526	坏	9	SK13		埋 2 層	(13.4)	-	(4.0)	橙	2.5YR 6/8	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存
		9	SK13		埋 3 層								全体に摩滅　反転復元
1527	甕	9	SK13		埋 3 層	(21.0)	-	(7.2)	褐灰	10YR 4/1	褐灰	10YR 4/1	口縁部 ~ 肩部 1/6 残存
													内面口縁の一部黒色化　反転復元
1528	甕	9	SK13		埋 3 層	15.5	-	(20.7)	明赤褐	2.5YR 5/6	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部完形 ~ 胴部中位 残存　ハケメ :5 本
									灰褐	7.5YR 5/2	橙	5YR 6/6	1 単位　外 : スス付着　一部反転復元
1529	甕	9	SK13		埋 3 層	17.8	-	26.6	明赤褐	5YR 5/6	にぶい赤褐	5YR 5/4	一部欠損するがほぼ完形　ハケメ :9
											黒	10YR 2/1	本 1 単位　外面、口縁内面 : スス付着
1530	高坏	9	SP1285		埋 1 層	9.6	10.0	12.65	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	ほぼ完形
											橙	5YR 7/8	
1531	坏	9	SP1450		埋 1 層	(14.0)	-	(7.2)	赤褐	5YR 4/6	にぶい黄橙	10YR 7/3	口縁部 ~ 胴部下位 1/4 残存　内 : 黒斑
											にぶい黄褐	10YR 5/4	有り　外 : 赤色顔料塗布　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1532	坏	9	SP1592		埋 1 層	(14.1)	-	(4.5)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 胴部下位 1/5 残存　全体に摩耗の為調整不明　反転復元
1533	高坏	9	SP1824		埋 1 層	-	(9.4)	(4.1)	橙	5YR 6/8	橙	5YR 6/8	脚部 2/3 残存 全体に摩耗気味　反転復元
1534	坏	9	SP1072		埋 1 層	(14.0)	-	(4.0)	にぶい黄橙 明赤褐	10YR 7/2 2.5YR 5/6	にぶい黄橙	10YR 7/2	口縁部 ~ 胴部 1/5 残存　外 : 赤色顔料塗布、一部黒変　反転復元
1535	坏	9	SP1620		埋 1 層	(12.9)	-	4.5	褐灰 橙	10YR 4/1 7.5YR 6/6	褐灰 橙	10YR 4/1 7.5YR 6/6	口縁部 2/3、胴部 ~ 底部ほぼ完形 一部反転復元（口縁部）
1536	坏	9	SP1536		埋 1 層	(13.8)	-	(3.6)	橙 橙	5YR 6/6 7.5YR 7/6	橙	5YR 7/6	口縁部 ~ 胴部 1/4 残存 全体に摩耗　反転復元
1537	坏	9	SD1589		埋 1 層	(15.0)	-	(4.6)	明赤褐	5YR 5/6	橙	7.5YR 6/6	口縁部 1/12 残存 外 : 口縁部に黒斑有り　反転復元
1538	坏	9	SP997		埋 1 層	(14.0)	-	5.3	橙 黒	5YR 6/8 5YR 1.7/1	橙 橙	5YR 6/8 5YR 7/8	口縁部 ~ 底部 1/5 残存　反転復元
1539	皿	9	SK1355		埋 1 層	(12.0)	(7.5)	2.6	にぶい橙	7.5YR 7/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部 ~ 底部 1/4 残存　反転復元
1540	鉢	9	SP1533		埋 1 層	(30.0)	-	(10.0)	橙 褐灰	7.5YR 6/6 7.5YR 5/1	橙 橙	5YR 7/6 2.5YR 6/8	口縁部 ~ 胴部下位 1/6 残存　全体に摩耗の為調整不明　反転復元
1541	坏	9	SP1312		埋 1 層	(11.8)	6.1	3.0	橙 にぶい黄橙	7.5YR 6/6 10YR 7/4	橙 にぶい黄橙	7.5YR 6/6 10YR 7/4	口縁部を部分的に欠くがほぼ完形 全体に摩耗　一部反転復元
1542	坏	9	SP1708		埋 1 層	12.5	7.8	4.0	橙 にぶい黄橙	7.5YR 7/6 10YR 7/3	橙 褐	7.5YR 7/6 7.5YR 4/4	口縁部 3/4~ 底部 残存　外 : 摩耗している　内 : 黒褐色の付着物（鉄分）有
1543	坏	9	SP1342		埋 1 層	-	-	(0.5)	にぶい褐 黒褐	7.5YR 5/3 7.5YR 3/1	明赤褐 褐灰	5YR 5/6 5YR 4/1	底部小片　内、外 : ヘラ書き有り
1544	坏	9	SP1536		埋 1 層	12.15	6.3	4.3	にぶい橙 灰	7.5YR 7/4 5Y 5/1	にぶい橙 灰	7.5YR 7/4 5Y 5/1	口縁部 4/5、胴部 ~ 底部は完存 全体に摩耗　歪み有り
1545	坏	9	SP1346		埋 1 層	(17.0)	-	6.0	橙 橙	7.5YR 7/6 5YR 6/6	橙 にぶい黄橙	5YR 6/6 10YR 7/3	口縁部 ~ 底部 1/6 残存　口縁端部は玉縁を模したもの　反転復元
1546	灯明皿	9	SB62		埋 1 層	6.7	4.2	2.4	橙 浅黄橙	5YR 7/6 10YR 8/3	橙	5YR 7/6	ほぼ完形（口縁端部を一部欠損） 口縁部内外面にスス付着
1547	灯明皿	9	SP154		埋 1 層	7.0	4.5	2.65	橙	7.5YR 6/6	橙 にぶい黄橙	7.5YR 6/6 10YR 7/4	口縁部 ~ 底部 3/4 残存 内、外 : 口縁部にスス付着
1548	灯明皿	9	SP1142		埋 1 層	7.6	4.4	3.1	橙 浅黄橙	7.5YR 6/6 10YR 8/4	橙	7.5YR 6/6	完形　灯芯は 10 ヶ所程度の使用痕 内、外 : 口縁部にスス付着
1549	壺	9	SP923		埋 1 層	(11.0)	-	(9.6)	明赤褐 橙	2.5YR 5/6 5YR 6/6	明赤褐 橙	2.5YR 5/6 7.5YR 6/6	口縁部 ~ 頸部 1/3 残存　反転復元
1550	甕	9	SP629		埋 1 層	(16.6)	-	(9.0)	橙	5YR 6/6	橙	5YR 6/6	口縁部 ~ 肩部 1/5~1/6 残存 ハケメ :11 本 1 単位　反転復元
1551	甕	9	SP1450		埋 1 層	(17.0)	-	(5.5)	橙 灰褐	5YR 6/6 7.5YR 4/2	橙	5YR 6/6	口縁部 1/4 残存 ハケメ :7 本 1 単位　反転復元
1552	竈	9	SP1446		埋 1 層	-	-	(8.9)	浅黄橙	10YR 8/4	にぶい橙	7.5YR 7/4	口縁部破片　ハケメ :8 本 1 単位
1553	甕	9	SP440		埋 1 層	-	-	(6.0)	にぶい黄橙 灰黄褐	10YR 6/3 10YR 4/2	浅黄橙	10YR 8/3	口縁部小片　外 : 沈線が 2 条巡る
1554	壺	9	SP1462		埋 1 層	-	(7.5)	(3.9)	橙	5YR 6/6	明赤褐	5YR 5/6	底部 1/4 残存 内 : 剥離面が多い　反転復元
1555	蓋	9	SP1723		埋 1 層	(15.6)	(9.0)	3.7	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　反転復元
1556	蓋	9	SP1357		埋 1 層	(15.4)	-	1.5	灰	N 6/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/4 残存　歪み有り 外 : 自然釉　反転復元

RP	器種	区	遺構	グリッド	層	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	土色名（外）	色調	土色名（内）	色調	備考
1557	皿	9 9	SP1324 SP1357		埋 1 層 埋 1 層	15.2	12.8	2.0	灰白	7.5Y 7/1	灰白	7.5Y 7/1	口縁部 ~ 底部 2/3 残存
1558	壺	9 9	SP1771	1390	埋 1 層 1 層	-	7.9	(2.7)	灰	5Y 6/1	灰白	5Y 7/1	底部 ほぼ完形 外 : 自然釉　反転復元
1559	羽釜	9	SP1902		埋 1 層	-	-	(5.9)	灰	5Y 5/1	灰	5Y 5/1	胴部 破片　外 : スス付着　反転復元
1560	火鉢	9	SB1155		埋 1 層	-	-	(6.3)	暗灰黄	2.5Y 5/2	暗灰黄	2.5Y 5/2	口縁部 1/12 破片 外 : スタンプ文（格子状）
1561	甕	9		2322	3 層	-	7.6	(9.8)	褐灰	10YR 4/1	にぶい橙	7.5YR 7/4	胴部下位 ~ 底部 残存 ハケメ :7 本 1 単位　一部反転復元
1562	甕	9		2301	3 層	-	-	(3.4)	明赤褐	2.5YR 5/6	明赤褐	2.5YR 5/6	底部 残存　手捏ね土器 尖底土器で座らない　一部反転復元
1563	高坏	9		2311 2311	1 層 3 層	-	(11.3)	(6.6)	橙	7.5YR 6/6	橙	7.5YR 6/6	底部 ~ 脚部 1/3 残存 外 : 赤色顔料塗布　反転復元
1564	高坏	9			包含層	-	(16.0)	(6.7)	橙	5YR 6/6	にぶい赤褐	5YR 5/4	脚部 1/4 残存 ハケメ :9 本 1 単位　反転復元
1565	灯明皿	9		2331	3a 層	6.2	4.0	2.1	橙	5YR 7/6	橙	5YR 7/6	ほぼ完形　口縁部にスス付着 4 ヶ所使用痕有り
1566	ミニチュア土器	9		2312	1 層 3 層	5.0	-	1.8	灰白	5Y 7/1	灰	5Y 6/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存
1567	器台	9		2320	1 層 2 層	-	(23.0)	(21.4)	灰白 灰	7.5Y 7/1 7.5Y 4/1	灰白	5Y 7/1	脚部 1/6 残存　内、外 : 自然釉　突帯をわざと欠けさせている　反転復元
1568	蓋	9 9		1299 2209	3 層 3 層	(12.0)	-	4.6	灰 灰	N 6/ N 5/	灰	N 6/	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　反転復元
1569	蓋	9 9		2310 2311	1 層 2 層	14.0	-	4.9	灰	7.5Y 5/1	灰	5Y 6/1	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存 外 : 一部に自然釉付着
1570	蓋	9		2311	包 3 層	(14.6)	-	(3.7)	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	天井部 ~ 口縁部 1/3 残存　内 : 鉄分付着　ツマミ部欠損　反転復元
1571	蓋	9 9		2300 2300	1 層 3 層	(15.6)	-	(2.5)	灰白	2.5Y 8/1	灰白	2.5Y 8/1	天井部 ~ 口縁部 2/3 残存 ツマミ部欠損　反転復元
1572	蓋	9 9		2300 2321	4 層 3a 層	-	-	(2.4)	灰白	2.5Y 7/1	灰白	2.5Y 7/1	ツマミ ~ 天井部 1/4 残存 外 : 自然釉（灰 5Y 4/1）　反転復元
1573	坏	9		2312	3 層	11.6	6.7	5.2	灰白	5Y 7/1	灰白	5Y 7/1	ほぼ完形
1574	坏	9		2310	1 層 2 層	(11.9)	-	5.0	灰	10Y 6/1	灰	10Y 6/1	口縁部 ~ 底部 1/2 残存 受部打ち欠き　外 : 自然釉　反転復元
1575	埦	9		2301	3 層	(10.8)	(6.4)	3.4	灰	N 6/	灰	N 6/	口縁部 ~ 高台 1/2 残存　反転復元
1576	埦	9 9		1390 2300	1 層 3 層	13.9	9.5	4.1	灰白 灰	N 7/ N 6/	灰白	N 8/	口縁部 ~ 高台 2/3 残存 外 : 自然釉　内 : 鉄分付着
1577	埦	9 9		2300 2300	1 層 3 層	14.3	(10.3)	4.3	灰白	N 8/	灰白	N 8/	口縁部 ~ 高台 1/3 残存　高台内部一部黒く変色している　反転復元
1578	埦	9		2301	3 層	(14.3)	(10.9)	4.9	灰白	N 7/	灰白	N 7/	口縁部 ~ 高台 1/3 残存　高台内 : ヘラ記号有り、粘土塊付着　反転復元
1579	羽釜	9		2340	一括	-	-	(4.8)	黄灰	2.5Y 4/1	黄灰	2.5Y 5/1	鍔のみ 破片　指痕有り

3-2　石器（RQ）一覧

RQ	区	遺構	グリッド	層	器種	石材	長さ	幅	厚み	重さ（g）	備考
1	1	SB3			磨石	安山石	13.8	7.3	5.2	751.0	№86
2	1		C6	3	磨製石斧	砂岩	8.9	4.9	1.2	73.8	
3	1		C5	5	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	5.7	2.8	1.9	49.2	
4	1		C7	1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	5.5	6.0	1.7	81.5	
5	1		D8	1	砥石	砂岩	7.4	7.0	2.0	146.5	
6	1		C2		凹石	安山石	8.7	7.6	4.3	320.0	
7	1			1	凹石	安山石	12.0	8.1	4.0	483.5	
8	1		C5.C6		凹石	安山石	14.1	8.9	4.9	801.3	東西 B
9	1		B4	5b	凹石	輝石安山岩	10.7	10.1	4.0	674.0	IT
10	1		C6	3	紡錘車	砂岩	8.4	5.0	1.9	120.0	
11	2			1	磨石	安山石	9.0	8.0	5.0	329.8	
12	4	S1134	P15G		砥石	安山石	9.6		1.6	39.0	
13	4	S1297			砥石	砂岩	6.7	2.6	2.4	62.4	
14	4	S296			凹石	安山石	9.6	8.5	5.2	600.4	
15	4	S1		埋 1	凹石	凝灰岩	17.7	14.6	9.9	2543.0	№3
16	4		O16	4	硯	頁岩	10.3	2.4	1.3	75.2	
17	4		O15	4	巡方		2.6	3.0	0.6	8.3	
18	4		O16		砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	4.3	3.0	0.7	12.8	
19	4			1	砥石	砂岩	6.2	4.6	3.2	97.8	
20	4			1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	11.3	4.5	3.2	304.4	
21	4			1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	16.8	5.7	5.4	704.8	
22	4		N17	7	敲石	輝石安山岩	14.6	5.7	4.9	56.9	
23	4		O16	4	凹石	安山石	9.0	8.5	3.5	405.0	
24	4			1	凹石	安山石	11.3	8.1	5.2	680.6	
25	4			1	凹石	安山石	17.7	14.2	8.3	2236.6	
26	5	SB4		埋 3	磨石	輝石安山岩	11.5	9.6	8.0	1040.5	
27	5	SB4	西 G	埋 3	磨石	安山石	15.0	7.2	4.0	684.1	
28	5	SB4		埋 1	台石	安山石	20.5	20.6	5.3	3915.0	
29	5	SB4	床		砥石	砂質泥岩	28.0	17.8	5.0	4250.0	№34
30	5	SB4		埋 2	砥石	砂岩	36.1	19.2	12.5	15450.0	
31	5	SB6		埋 3	その他	砂岩	22.5	17.6	22.2	1417.5	石棺の一部、№3
32	5	SB8	北 G	埋 1	敲石	安山石	9.5	6.9	4.6	332.2	
33	5	SB13			砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	5.8	5.8	4.0	164.4	3 面の砥面あり
34	5	SB14	2314	埋 1	砥石	砂岩	30.3	19.2	7.0	6000.0	
35	5	SB83			凹石	安山石	12.0	8.7	4.6	462.5	

RQ	区	遺構	グリッド	層	器種	石材	長さ	幅	厚み	重さ（g）	備考
36	5	SB83			凹石	安山石	10.4	10.1	4.6	668.5	
37	5	P528			砥石	砂岩	29.8	11.4	2.9	1833.2	
38	5		2313	3	敲石	安山石	8.9	7.1	5.5	432.9	
39	5		1385	3	敲石	輝石安山岩	14.5	6.7	5.6	677.2	
40	5			1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	7.5	7.7	5.2	257.4	
41	5		1385	3	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	6.0	5.3	2.6	121.5	
42	5		1385	3	砥石	砂岩	13.1	5.0	2.0	240.2	
43	5		1375	3	砥石	砂岩	11.6	8.8	2.1	315.7	
44	5		2304	3	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	7.1	6.5	2.3	122.0	
45	5			1	砥石	砂岩	12.7	7.8	3.1	398.4	
46	5			1	砥石	砂岩	6.1	4.1	1.0	40.8	
47	6	SB1		埋 3	凹石	安山石	10.9	8.5	5.7	509.9	No. 30
48	6	SB1		埋 3	台石	安山石	31.5	26.0	9.4	121.5	No. 31
49	6	SB2		埋 3a	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	19.1	13.9	7.8	2795.6	No. 3
50	6	SB2	南 G	埋 2	敲石	安山石	13.0	7.0	4.8	566.1	
51	6	SB4			凹石	輝石安山岩	9.4	5.6	3.3	202.0	No. 5
52	7	SB1		埋 2	石錘	安山石	8.3	14.0	5.3	845.9	
53	7	SB1	南 B	埋 5	石錘	砂岩	7.5	4.1	3.8	143.1	
54	7	SB1	南 B	埋 3	砥石	砂岩	9.4	7.7	2.2	168.2	
55	7	SB1	南 G	埋 5	磨石	凝灰岩	11.1	9.2	6.0	595.2	
56	7	SB1	北 G	埋 5	磨石	安山石	16.5	5.6	4.4	755.7	
57	7	SB1		埋 1	凹石	安山石	13.9	9.4	4.7	776.8	北 G
58	7	SB1		埋 1	凹石	安山石	14.5	14.0	4.0	998.2	
59	7	SB1		埋 7	敲石	安山石	13.1	10.5	5.5	795.2	No. 247
60	7	SB1			石皿	砂岩	66.5	28.2	10.9	28800.0	
61	7	SB3		埋 4	台石	安山石	17.6	14.5	6.9	1738.9	No. 73
62	7	SB3		埋 5	石鏃	片岩	1.8	2.0	0.3	1.3	
63	7	SB3	東 G	埋 1	砥石	砂岩	13.4	4.5	5.1	526.8	荒砥ぎ用
64	7	SB3	東 G	2	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	6.4	4.3	3.6	117.2	
65	7	SB3		埋 5	凹石	輝石安山岩	15.2	13.2	5.5	1487.9	No. 70
66	7	SB3		4	敲石	安山石	12.0	7.4	5.0	658.8	No. 80
67	7	SB3		4	敲石	安山石	15.3	6.8	4.0	547.8	No. 76
68	7	SB21	東 G	1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	8.8	3.7	2.7	127.3	
69	7	SB49		埋 2	砥石	砂岩	28.2	19.7	4.4	4536.1	No. 546

RQ	区	遺構	グリッド	層	器種	石材	長さ	幅	厚み	重さ（g）	備考
70	7	SB75		埋 2	磨石	安山石	4.7	4.5	3.8	113.5	№405
71	7	SB75		埋 2	敲石	安山石	13.7	5.9	7.4	606.7	№403
72	7	SB75		2	凹石	安山石	11.5	8.6	3.9	508.9	№398
73	7	SB74		埋 1	凹石	安山石	13.6	9.1	4.6	811.8	
74	7	SB74	東 G	埋 1	凹石	安山石	11.0	10.3	5.5	645.0	
75	7	SB93		1	紡錘車	流紋岩	5.0	5.0	0.8	35.6	№411
76	7	SB93		1	凹石	安山石	9.5	9.0	4.9	530.9	№519
77	7	SE35		埋 5	凹石	輝石安山岩	12.0	10.3	5.8	937.4	
78	7	SK5		1	磨石	安山石	13.5	8.2	5.7	987.1	№167
79	7	SK5		埋 1	磨石	安山石	10.8	10.7	5.1	690.8	№166
80	7	SK40		1	凹石	安山石	16.5	10.7	3.8	955.1	№200
81	7	SK45		埋 1	凹石	輝石安山岩	11.5	7.9	3.6	475.2	№252
82	7		1374	3	敲石	安山石	41.0	5.5	4.0	491.5	
83	7		1393	1	紡錘車	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	5.1	2.8	1.5	27.5	
84	7	SB47		埋 1	砥石	砂岩	9.0	6.3	2.3	212.8	荒砥ぎ用
85	7		2301	3	砥石	泥質砂岩	10.2	4.8	11.6	807.6	
86	7		1393	1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	9.5	4.5	6.3	291.5	
87	9	SB151 SP1403		埋 1	凹石	安山石	10.9	9.2	5.6	594.4	
88	9	SB1183	南北 G	埋 1	敲石	安山石	7.1	6.1	3.8	219.8	
89	9	SB1591	南東 G	埋 2	凹石	輝石安山岩	9.3	9.2	5.4	543.8	
90	9	SB1761			砥石	砂岩	18.0	10.9	6.8	1765.8	№83
91	9	SK2			磨製石斧	砂岩	16.3	4.6	3.9	349.6	
92	9	SE1	西 G	埋 2	凹石	安山石	9.6	8.6	5.5	568.8	
93	9	SB1579		埋 1	石臼	砂岩	高さ 6.3	底径 32.6	6.3	760.7	
94	9	SK13		埋 2	台石	輝石安山岩	21.7	16.7	8.1	4356.3	№17
95	9	SP1560		埋 1	浮子	軽石	6.3	5.7	3.3	30.6	
96	9	SP240		埋 1	石錘	滑石	6.2	2.0	2.4	59.4	
97	9	SK1845		埋 1	敲石	輝石安山岩	10.0	4.3	3.9	229.1	
98	9	SP1211		埋 1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	16.5	12.0	6.7	962.5	Pit44
99	9	SP1774		埋 1	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	10.2	6.9	4.8	143.1	
100	9		1390	包 3	石鏃	頁岩	2.2	2.5	0.3	1.8	
101	9		2322	包 3,4	砥石	ﾘｿｲﾀﾞｲﾄ（天草陶石）	5.5	1.6	0.7	15.0	
102	9		2311	1	二次加工品	滑石	5.7	3.2		29.5	穿孔（径 1.0~1.21）cm

4 分析

本章には、木簡、井戸側などの木製品（RW）、鉄製品、銭貨などの金属製品（RM）、及び業務委託により実施した自然科学分析の報告を収めた。

4-1　花岡木崎遺跡の自然科学分析
(1)　放射性炭素年代測定
(2)　種実同定
(3)　重軽鉱物分析

4-2　金属製品（RM）について

4-3　木製品（RW）について

4-4　花岡木崎遺跡の調査成果

なお、本章において、図表は各節を単位として作成し、図は Figure（Fig.）、表は Table（Tab.）と記述し、掲載している。他章との混同を避ける措置であり、諒とされたい。

4-1　花岡木崎遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

熊本県葦北郡芦北町花岡木崎遺跡は、佐敷川を挟んだ両側の低地部に立地する平安時代～中世の集落跡とされている。

今回の分析調査では、本遺跡内の各層準より採取された木材・炭化材を対象に、地層や遺構の年代観に関する情報を得ることを目的として、放射性炭素年代測定を実施する。また、遺構覆土より洗い出された種実遺体を対象に、古植生や植物利用状況に関する情報を得ることを目的として、種実同定を実施する。さらに、遺構内より検出された埋土の由来に関する情報を得ることを目的として、重軽鉱物分析を実施する。

4-1-1　試料

放射性炭素年代測定に用いる試料は、古町２区、木崎３区、木崎４区の各遺構・地点より採取された木材・炭化材 (炭 1-8) の、計８点である。

種実同定に用いる試料は、同じく古町２区、木崎３区、木崎４区の各地点より採取された土壌の、洗い出しで検出された種実遺体 No.1-27 の、計 27 点である。

重軽鉱物分析を実施する試料は、木崎３区の D1 グリッドで検出された S101 遺構内の埋土１点である。発掘調査所見によれば、埋土は周囲の土壌と色調の異なる黄褐色を呈し、直径 60-70cm 程度の広がりを持ち、厚さは 5cm 程度とされている。採取された試料の外見は、褐色系の色調を有し、砂混じりのシルト質粘土を示す土壌である。

分析試料の詳細については、各分析結果とともに表に示す。

4-1-2　分析方法

(1)　放射性炭素年代測定

土壌や根など目的物と異なる年代を持つものが付着している場合、これらをピンセット、超音波洗浄などにより物理的に除去する。その後 HCl により炭酸塩等酸可溶成分を除去、NaOH により腐植酸等アルカリ可溶成分を除去、HC l によりアルカリ処理時に生成した炭酸塩等酸可溶成分を除去を行う (酸・アルカリ・酸処理)。

試料をバイコール管に入れ、1g の酸化銅 (Ⅱ) と銀箔 (硫化物を除去するため) を加えて、管内を真空にして封じきり、500℃ (30 分)850℃ (2 時間) で加熱する。液体窒素と液体窒素＋エタノールの温度差を利用し、真空ラインにて CO2 を精製する。真空ラインにてバイコール管に精製した CO2 と鉄・水素を投入し封じ切る。鉄のあるバイコール管底部のみを 650℃で 10 時間以上加熱し、グラファイトを生成する。

化学処理後のグラファイト・鉄粉混合試料を内径 1mm の孔にプレスして、タンデム加速器のイオン源に装着し、測定する。測定機器は、3MV 小型タンデム加速器をベースとした 14C-AMS 専用装置 (NEC Pelletron 9SDH-2) を使用する。AMS 測定時に、標準試料である米国国立標準局 (NIST) から提供されるシュウ酸 (HOX- Ⅱ) とバックグラウンド試料の測定も行う。また、測定中同時に 13C/12C の測定も行うため、この値を用いて δ 13C を算出する。

放射性炭素の半減期は LIBBY の半減期 5,568 年を使用する。また、測定年代は 1,950 年を基点とした年代 (BP) であり、誤差は標準偏差 (One Sigma;68%) に相当する年代である。なお、暦年較正は、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.02(Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer) を用い、誤差として標準偏差 (One Sigma) を用いる。

(2)　種実同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な種実を抽出する。現生標本および原色日本植物種子写真図鑑 (石川 ,1994)、日本植物種子図鑑 (中山ほか ,2000) 等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を求めて Tab.3 に示す。分析後の種実遺体等は、種類毎に容器に入れ、70% 程度のエタノール溶液による液浸保存処理を施して保管する。

(3)　重軽鉱物分析

試料約 40g に水を加え超音波洗浄装置により分散、250 メッシュの分析篩を用いて水洗し、粒径 1/16mm 以下の粒子を除去する。乾燥の後、篩別し、得られた粒径 1/4mm-1/8mm の砂分をポリタングステン酸ナトリウム (比重約 2.96) により重液分離、重鉱物と軽鉱物をそれぞれ 250 粒に達するまで偏光顕微鏡下にて同定する。重鉱物の同定の際、不透明な粒

Tab.1　放射性炭素年代測定結果

試料名	地区名	地点名	層位名	試料の質	種類	補正年代 BP	δ 13C (‰)	測定年代 BP	Code No.	Measurement No.
炭1	古町2区	L-2	1溝埋土中	木材	ツブラジイ	1,330± 30	−27.56±0.90	1,380± 30	9199-1	IAAA-52739
炭2	木崎3区	S016内	pit中炭化物	炭化材	クスノキ科	360± 30	−24.97±0.99	360± 30	9199-2	IAAA-52740
炭3	木崎3区	S086	埋土中	炭化材	イネ科	350± 30	−20.84±0.88	280± 30	9199-3	IAAA-52741
炭4	木崎3区	F0グリッド	4層中	炭化材	クスノキ科	320± 30	−29.84±0.91	400± 30	9199-4	IAAA-52742
炭5	木崎3区	D1グリッド	5層中	炭化材	不明	410± 30	−29.06±0.93	480± 30	9199-5	IAAA-52743
炭6	木崎4区	M16グリッド	S055埋土中	炭化材	広葉樹	350± 40	−26.97±0.84	380± 30	9199-6	IAAA-52744
炭7	木崎4区	Q-16トレンチ内	6層	炭化材	不明	390± 40	−26.94±0.92	420± 40	9199-7	IAAA-52745
炭8	木崎4区	Q-16トレンチ内	え層	炭化材	広葉樹	370± 40	−24.20±0.96	350± 40	9199-8	IAAA-52746

1)年代値の算出には、Libbyの半減期5568年を使用。
2)BP年代値は、1950年を基点として何年前であるかを示す。
3)付記した誤差は、測定誤差σ（測定値の68%が入る範囲）を年代値に換算した値。

については、斜め上方からの落射光下で黒色金属光沢を呈するもののみを「不透明鉱物」とする。「不透明鉱物」以外の不透明粒および変質等で同定の不可能な粒子は、「その他」とする。「その他」は軽鉱物中においても同様である。また、火山ガラスは、便宜上軽鉱物組成に入れ、その形態によりバブル型・中間型・軽石型の３タイプに分類する。各型の形態は、バブル型は薄手平板状、中間型は厚手平板状あるいは比較的大きな気泡持つ塊状、軽石型は小気泡を非常に多く持つ塊状および繊維束状のものとする。

4-1-3　結果

(1)　放射性炭素年代測定

同位体効果による補正を行った測定結果を Tab.1 に、暦年較正結果を Tab.2 に示す。炭 1 が 1,330 ± 30BP、炭 2 が 360 ± 30BP、炭 3 が 350 ± 30BP、炭 4 が 320 ± 30BP、炭 5 が 410 ± 30BP、炭 6 が 350 ± 40BP、炭 7 が 390 ± 40BP、炭 8 が 370 ± 40BP を示す。なお、炭 1 は試料採取時に炭化材とされていたが、試料確認の結果木材 (生材) であった。また、生物顕微鏡および実体鏡による木材組織の観察を実施した結果、木材および炭化材はツブラジイ、ク

Tab.2　暦年較正結果

試料名	地区名	地点名	層位名	補正年代 (BP)		暦年較正年代(cal)		相対比	Code No.
炭1	古町2区	L-2	1溝埋土中	1,334± 30	σ	cal AD 653 − cal AD 688	cal BP 1,297 − 1,262	0.936	9199-1
						cal AD 754 − cal AD 759	cal BP 1,196 − 1,191	0.064	
					2σ	cal AD 646 − cal AD 719	cal BP 1,304 − 1,231	0.837	
						cal AD 742 − cal AD 769	cal BP 1,208 − 1,181	0.163	
炭2	木崎3区	S016内	pit中炭化物	359± 33	σ	cal AD 1,467 − cal AD 1,522	cal BP 483 − 428	0.546	9199-2
						cal AD 1,574 − cal AD 1,584	cal BP 376 − 366	0.083	
						cal AD 1,587 − cal AD 1,626	cal BP 363 − 324	0.371	
					2σ	cal AD 1,451 − cal AD 1,529	cal BP 499 − 421	0.485	
						cal AD 1,540 − cal AD 1,634	cal BP 410 − 316	0.515	
炭3	木崎3区	S086	埋土中	352± 32	σ	cal AD 1,475 − cal AD 1,523	cal BP 475 − 427	0.464	9199-3
						cal AD 1,572 − cal AD 1,629	cal BP 378 − 321	0.536	
					2σ	cal AD 1,455 − cal AD 1,531	cal BP 495 − 419	0.447	
						cal AD 1,537 − cal AD 1,635	cal BP 413 − 315	0.553	
炭4	木崎3区	F0グリッド	4層中	318± 33	σ	cal AD 1,517 − cal AD 1,594	cal BP 433 − 356	0.783	9199-4
						cal AD 1,618 − cal AD 1,641	cal BP 332 − 309	0.217	
					2σ	cal AD 1,480 − cal AD 1,647	cal BP 470 − 303	1.000	
炭5	木崎3区	D1グリッド	5層中	412± 33	σ	cal AD 1,439 − cal AD 1,488	cal BP 511 − 462	0.956	9199-5
						cal AD 1,604 − cal AD 1,608	cal BP 346 − 342	0.044	
					2σ	cal AD 1,428 − cal AD 1,522	cal BP 522 − 428	0.851	
						cal AD 1,574 − cal AD 1,584	cal BP 376 − 366	0.013	
						cal AD 1,590 − cal AD 1,624	cal BP 360 − 326	0.137	
炭6	木崎4区	M16グリッド	S055埋土中	348± 34	σ	cal AD 1,482 − cal AD 1,524	cal BP 468 − 426	0.381	9199-6
						cal AD 1,558 − cal AD 1,564	cal BP 392 − 386	0.049	
						cal AD 1,568 − cal AD 1,631	cal BP 382 − 319	0.570	
					2σ	cal AD 1,460 − cal AD 1,636	cal BP 490 − 314	1.000	
炭7	木崎4区	Q-16トレンチ内	6層	386± 43	σ	cal AD 1,446 − cal AD 1,519	cal BP 504 − 431	0.763	9199-7
						cal AD 1,593 − cal AD 1,619	cal BP 357 − 331	0.237	
					2σ	cal AD 1,439 − cal AD 1,529	cal BP 511 − 421	0.597	
						cal AD 1,542 − cal AD 1,634	cal BP 408 − 316	0.403	
炭8	木崎4区	Q-16トレンチ内	え層	366± 39	σ	cal AD 1,455 − cal AD 1,521	cal BP 495 − 429	0.631	9199-8
						cal AD 1,575 − cal AD 1,583	cal BP 375 − 367	0.061	
						cal AD 1,590 − cal AD 1,623	cal BP 360 − 327	0.309	
					2σ	cal AD 1,447 − cal AD 1,530	cal BP 503 − 420	0.509	
						cal AD 1,538 − cal AD 1,635	cal BP 412 − 315	0.491	

1)計算には、RADIOCARBON CALIBRATION PROGRAM CALIB REV5.01（Copyright 1986-2005 M Stuiver and PJ Reimer）を使用。
2)計算には表に示した丸める前の値を使用している。
3)1桁目を丸めるのが慣例だが、暦年較正曲線や暦年較正プログラムが改正された場合の再計算や比較が行いやすいように、1桁目を丸めていない。
4)統計的に真の値が入る確率はσ は68%、2σ は95%である。
5)相対比は、σ 、2σ のそれぞれを1とした場合、確率的に真の値が存在する比率を相対的に示したものである。

スノキ科、イネ科、不明広葉樹に同定された。

暦年較正とは、大気中の 14C 濃度が一定で半減期が 5,568 年として算出された年代値に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の 14C 濃度の変動、及び半減期の違い (14C の半減期 5,730 ± 40 年) を較正することである。暦年較正に関しては、本来 10 年単位で表すのが通例であるが、将来的に暦年較正プログラムや暦年較正曲線の改正があった場合の再計算、再検討に対応するため、1 年単位で表している。暦年較正については、北半球の大気中炭素に由来する較正曲線を用いる。

暦年較正は、測定誤差 σ、2 σ双方の値を計算する。σは統計的に真の値が 68% の確率で存在する範囲、2 σは真の値が 95% の確率で存在する範囲である。また、表中の相対比とは、σ、2 σの範囲をそれぞれ 1 とした場合、その範囲内で真の値が存在する確率を相対的に示したものである。

測定誤差をσとして計算させた結果、炭 1 が cal AD 653-759、炭 2 が cal AD 1,467-1,626、炭 3 が cal AD 1,475-1,629、 炭 4 が cal AD 1,517-1,641、炭 5 が cal AD 1,439-1,608、 炭 6 が cal AD 1,482-1,631、炭 7 が cal AD 1,446-1,619、炭 8 が cal AD 1,455-1,623 である。

(2) 種実同定

結果を Tab.3 に示す。裸子植物 2 分類群 5 個、被子植物 28 分類群 131 個、計 136 個の種実が検出され、栽培植物のモモ、イネ、メロン類、ヒョウタン類が確認された。その他に、種類不明の種実の破片 7 個 (No.16)、種実であるか不明の物質 4 個 (No.23,25,27)、土の塊など種実ではない物質 3 個 (No.9,16,20) が確認された。以下に、各地区における種実の検出状況を記す。

・古町 2 区の L-2 グリッド (No.1-14,17-27)

栽培植物は、モモ 5 個 (No.6)、メロン類 (マクワ・シロウリ型)1 個 (No.27)、ヒョウタン類 8 個 (No.7,17) が検出された。栽培植物を除いた分類群では、木本は、針葉樹のカヤ 1 個 (No.26)、イヌガヤ 4 個 (No.8) と、広葉樹のヤマモモ 12 個 (No.1,13,20)、アカガシ亜属 21 個 (No.2,3,10,21,22)、コナラ属 7 個 (No.3,22,27)、ツブラジイ近似種 3 個 (No.2,4)、シリブカガシ 1 個 (No.22)、エノキ 3 個 (No.13,20)、クスノキ科 4 個 (No.10,13)、イスノキ 5 個 (No.19)、ハスノハカズラ 2 個 (No.23)、アブラギリ 2 個 (No.3,11)、センダン 6 個 (No.5,22)、チャンチンモドキ 5 個 (No.1)、ノブドウ 2 個 (No.20)、コバンモチ 1 個 (No.4)、ホルトノキ 1 個 (No.24)、クマノミズキ 2 個 (No.20)、エゴノキ属 8 個 (No.14,27)、チシャノキ 6 個 (No.20,22)、ミミズバイ 3 個 (No.18)、ガマズミ属 1 個 (No.27) が検出された。草本は、キカラスウリ近似種 2 個 (No.12)、ウリ科 6 個 (No.7)、オナモミ属 1 個 (No.4) が検出された。

・木崎 4 区の M-16 グリッド (No.15)

草本のキカラスウリ近似種 8 個が検出された。

・木崎 3 区の北の炭集中部 埋土中 (No.16)

栽培植物のイネ 1 個が検出された他に草本のイネ科 3 個、種類不明 (スモモ ?) の炭化破片 7 個が検出された。

以下に、本分析にて確認された種実の形態的特徴を記す。

＜針葉樹＞

・カヤ (Torreya nucifera Sieb. et Zucc.)　イチイ科カヤ属

種子が検出された。灰褐色、倒卵状長楕円体。長さ 2.3cm、径 1.3cm 程度。頂部と基部は尖る。種皮は硬く骨質で、表面には 10 数本の縦隆条が配列する。

・イヌガヤ (Cephalotaxus harringtonia (Knight) K. Koch f. drupacea (Sieb. et Zucc.) Kitamura) イヌガヤ科イヌガヤ属

種子が検出された。灰褐色、倒狭卵体でやや偏平。長さ 1.7cm、幅 1cm、厚さ 7mm 程度。基部はやや尖る。基部から半ば付近の両側に稜がある。種皮は硬く木質で、表面は粗面。

＜広葉樹＞

・ヤマモモ (Myrica rubra Sieb. et Zucc.)　ヤマモモ科ヤマモモ属

核 (内果皮) が検出された。灰褐色、歪な広楕円形でやや偏平。径 7-8.5mm、厚さ 6mm 程度。内果皮

Tab.3　種実同定結果

			分類群	木本																											草本							不明種実	不明	種実ではない	
				カヤ	イヌガヤ	ヤマモモ		アカガシ亜属			コナラ属	ツブラジイ近似種		シリブカガシ	エノキ	クスノキ科	イスノキ	ハスノハカズラ	●モモ	アブラギリ	センダン	チャンチンモドキ	ノブドウ	コバンモチ	ホルトノキ	クマノミズキ	エゴノキ属	チシャノキ	ミミズバイ	ガマズミ属	●イネ	イネ科	●メロン類	●ヒョウタン類	キカラスウリ近似種	ウリ科	オナモミ属				
			部位・状態	種子	種子	核		果実・殻斗	果実	幼果	果実	果実・殻斗	果実	果実	核	種子	果実	核	核	種子	核	核	種子	核	核	核	種子	核	核	核	胚乳	果実	種子	種子	種子	種子	総苞				
番号	地区名	地点名	層位名			完形	破片				破片																				炭化							破片			備考
No.1	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.2	古町2区	L-2		-	-	1	-	-	-	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.3	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	1	-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.4	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	
No.5	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.6	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.7	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	6	-	-	-	-	
No.8	古町2区	L-2		-	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.9	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	土の塊
No.10	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.11	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.12	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	
No.13	古町2区	L-2		-	-	6	4	-	-	-	-	-	-	-	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.14	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1個食痕
No.17	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	
No.18	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.19	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.20	古町2区	L-2		-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	2	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	土の塊
No.21	古町2区	L-2		-	-	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.22	古町2区	L-2		-	-	-	-	3	-	-	2	-	-	2	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.23	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	
No.24	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.25	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	
No.26	古町2区	L-2		1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
No.27	古町2区	L-2		-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1	-	メロン類はマクワ·シロウリ型
No.15	木崎4区	M-16		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	8	-	-	-	-	-	
No.16	木崎3区	北の炭集中部	埋土中	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	3	-	-	-	-	-	7	-	1	イネ表面穎付着

●:栽培植物

は硬く、表面には微細な網目模様がありゴツゴツする。

・アカガシ亜属 (Quercus subgen. Cyclobalanopsis)　ブナ科コナラ属

果実、殻斗、幼果が検出された。灰褐色。果実や幼果は、頂部に輪状紋が認められるが、種の同定根拠となる柱頭が完全に残っていないため、アカガシ亜属としている。果実は長さ 1.3cm、径 1cm 程度の卵状楕円体。頂部には、殻斗の圧痕である輪状紋がみられ、短い花柱基部が 1-2mm 程度突出し、突起状に残る。基部はやや突出し、淡褐色、径 4-5mm 程度の円形で維管束の穴が輪状に並ぶ着点がある。果皮外面は平滑で、微細な縦筋が目立つ。なお、果実頂部を欠損し、輪状紋の有無が認められない破片を、コナラ属 (Quercus) としている。果実下部を包む殻斗は長さ 6-8mm、径 0.9-1.2cm 程度の椀状で、5-6 段の輪状紋をもつ。幼果は径 0.7-1cm 程度の椀状で、表面には 5-6 段の輪状紋が配列する。

・ツブラジイ近似種 (Castanopsis cf. cuspidata (Thunberg) Schottky)　ブナ科シイ属

果実、殻斗が検出された。果実は黒褐色、球状広卵体で径 5-6mm 程度。頂部は尖り、基部を占める着点は灰褐色、円状不定形。果皮は薄く、表面には光沢があり、細く浅い溝が縦列する。果実全体を包む殻斗は灰褐色、3 裂している。表面には数個の突起の横輪が同心円状に配列し、短毛が密生する。

・シリブカガシ (Pasania glabra (Thunberg) Oersted)　ブナ科マテバシイ属

果実が検出された。灰褐色、楕円体。長さ 1.7cm、径 1.2cm 程度。頂部はやや尖り、基部は切形で着点はマテバシイよりも径が小さく深い。着点は淡褐色、径 4mm 程度の円形で凹み、粗面。果皮外面はやや平滑で。ごく浅く微細な縦筋がある。

・エノキ (Celtis sinensis Persoon)　ニレ科エノキ属

核が検出された。淡灰褐色、歪な球体。径 5mm 程

度。基部は嘴状に尖る。基部から稜が一周する。核は骨質で堅く、表面には葉脈状模様がある。

・クスノキ科 (Lauraceae)

種子が検出された。灰褐色、球体。径 7mm 程度。基部にやや突出する臍から頂部に向かう低い稜があり、側面の途中で終わる。種皮は薄く硬く、表面はやや平滑。球状を呈する点や径の大きさから、クスノキ属クスノキかクロモジ属に由来するものと思われる。

・イスノキ (Distylium racemosum Sieb. et Zucc.)　マンサク科イスノキ属

果実が検出された。灰褐色、広卵体。径 8mm 程度。朔果で 2 裂した内部に長楕円 - 狭倒卵体の種子が入る室がみられる。果実表面は粗面。

・ハスノハカズラ (Stephania japonica (Thunb.) Miers)　ツヅラフジ科ハスノハカズラ属

核が検出された。淡灰褐色、馬蹄形状広倒卵形でやや偏平。長さ 6mm、幅 5mm、厚さ 2mm 程度。中心部は馬蹄形状に大きく凹む。基部は切形。基部を除く縁には、隆条が長軸に対し直角に列生する。核は硬く厚く、表面は粗面。

・モモ (Prunus persica Batsch)　バラ科サクラ属

核 (内果皮) が検出された。灰褐色、広楕円体でやや偏平。長さ 2-3cm、幅 2-2.5cm、厚さ 1.6cm 程度。頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1 本の明瞭な縦の縫合線がある。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

・アブラギリ (Aleurites cordata (Thunb.) R. Brown)　トウダイグサ科アブラギリ属

種子が検出された。灰黒褐色、倒広卵体でやや偏平。長さ 1.4cm、幅 1.6cm、厚さ 1.1cm 程度。背面は丸みがあり、腹面の正中線は鈍稜状。基部にはＹ字形の稜がある。種皮は硬く、表面は粗面。断面は柵状で、柵状組織が種皮内側に湾曲する。

・セ ン ダ ン (Melia Azedarach L. var. subtripinnata Miquel)　センダン科センダン属

核が検出された。核は灰褐色、楕円体。表面には浅く広い 5-6 個の縦溝と縦隆条が交互に配列し、上面観は星形。長さ 1.5cm、径 1cm 程度。核表面は粗面。縦隆条に沿って割れた内部に長楕円体の種子が入る。

・チャンチンモドキ (Choerospondias axillaris (Roxb.) B. L. Burtt et A. W. Hill)　ウルシ科チャンチンモドキ属

核が検出された。灰褐色、楕円体。長さ 2cm、径 1.7cm 程度。頂部や基部は切形。頂部には暗灰褐色の楕円形 (径 3mm 程度) の発芽孔 5 個が中心部から 5mm 程度のところに放射状に配列する。基部の着点周囲にも、暗灰褐色の長楕円形の凹点 5 個が放射状に配列する。核は骨質で硬く、小さな凹点が散在する。

・ノ ブ ド ウ (Ampelopsis brevipedunculata (Maxim.) Trautv.)　ブドウ科ノブドウ属

種子が検出された。灰褐色、広倒卵体で側面観は半広倒卵形、基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。径 3.5-4mm 程度。背面にはＵ字状に開いたさじ状の模様がある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は硬く、表面は粗面。種皮断面は柵状。

・コバンモチ (Elaeocarpus japonicus Sieb. et Zucc.)　ホルトノキ科ホルトノキ属

核が検出された。灰黄褐色、卵体。長さ 8mm、径 5mm。縦方向を一周する稜がある。表面には長楕円状の低い隆条が斜上する。

・ホルトノキ (Elaeocarpus sylvestris (Lour.) Poir. var. ellipticus(Thunb.))　ホルトノキ科ホルトノキ属

核が検出された。灰褐色、狭 - 長楕円体。長さ 1.5cm、径 6.5mm 程度。頂部と基部を結ぶ 3 本の溝が等間隔に配列する。核表面には線状の溝が散在する。散在する。

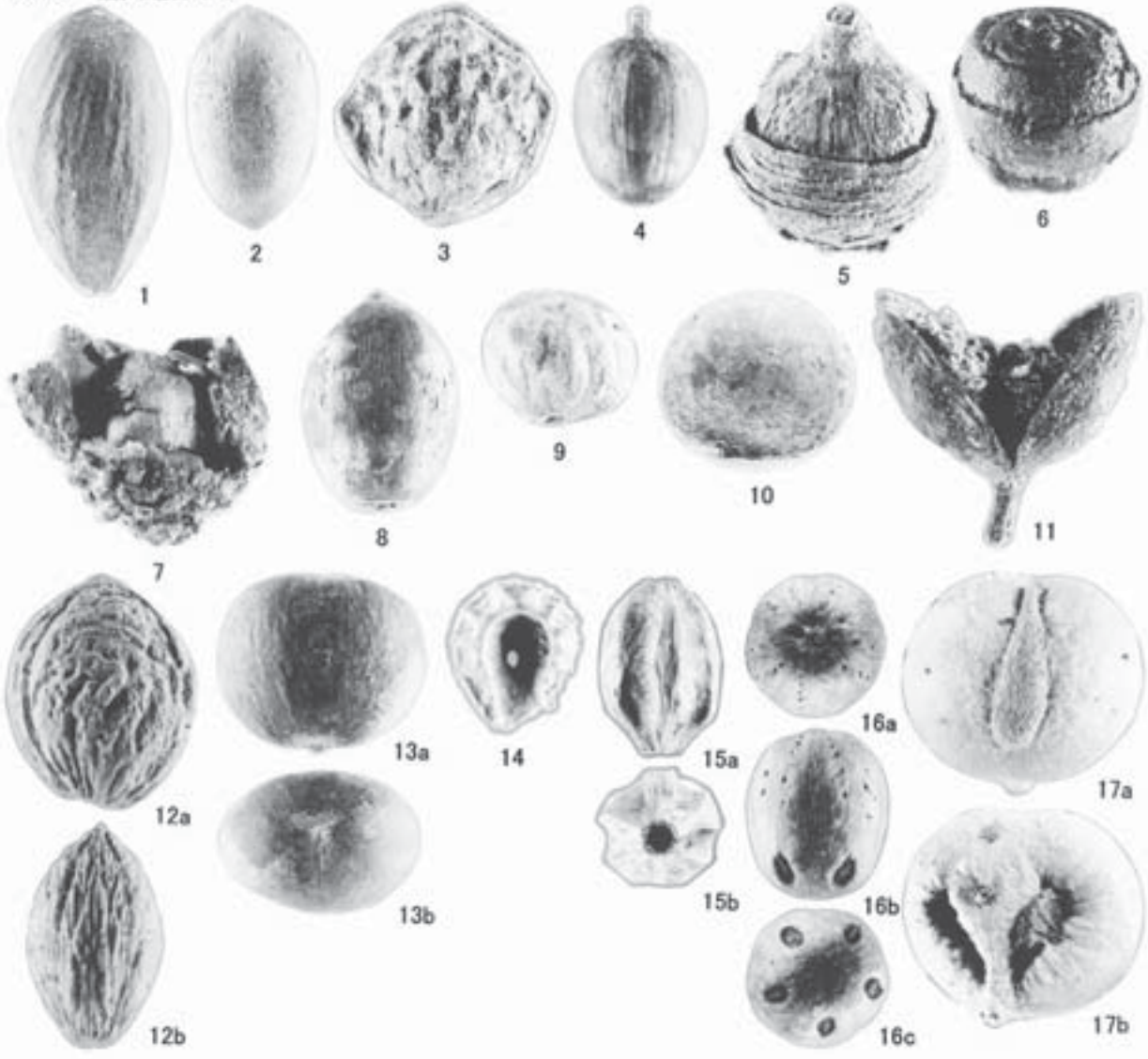
・クマノミズキ (Cornus macrophylla Wallich)　ミズキ科ミズキ属

核 (内果皮) が検出された。淡灰褐色、偏球体。径 4mm 程度。基部に小さく浅い凹みがあり、表面には一周する 1 本のやや幅広く浅い縦溝と、細く浅い縦溝数本が走る。

・エゴノキ属 (Styrax)　エゴノキ科

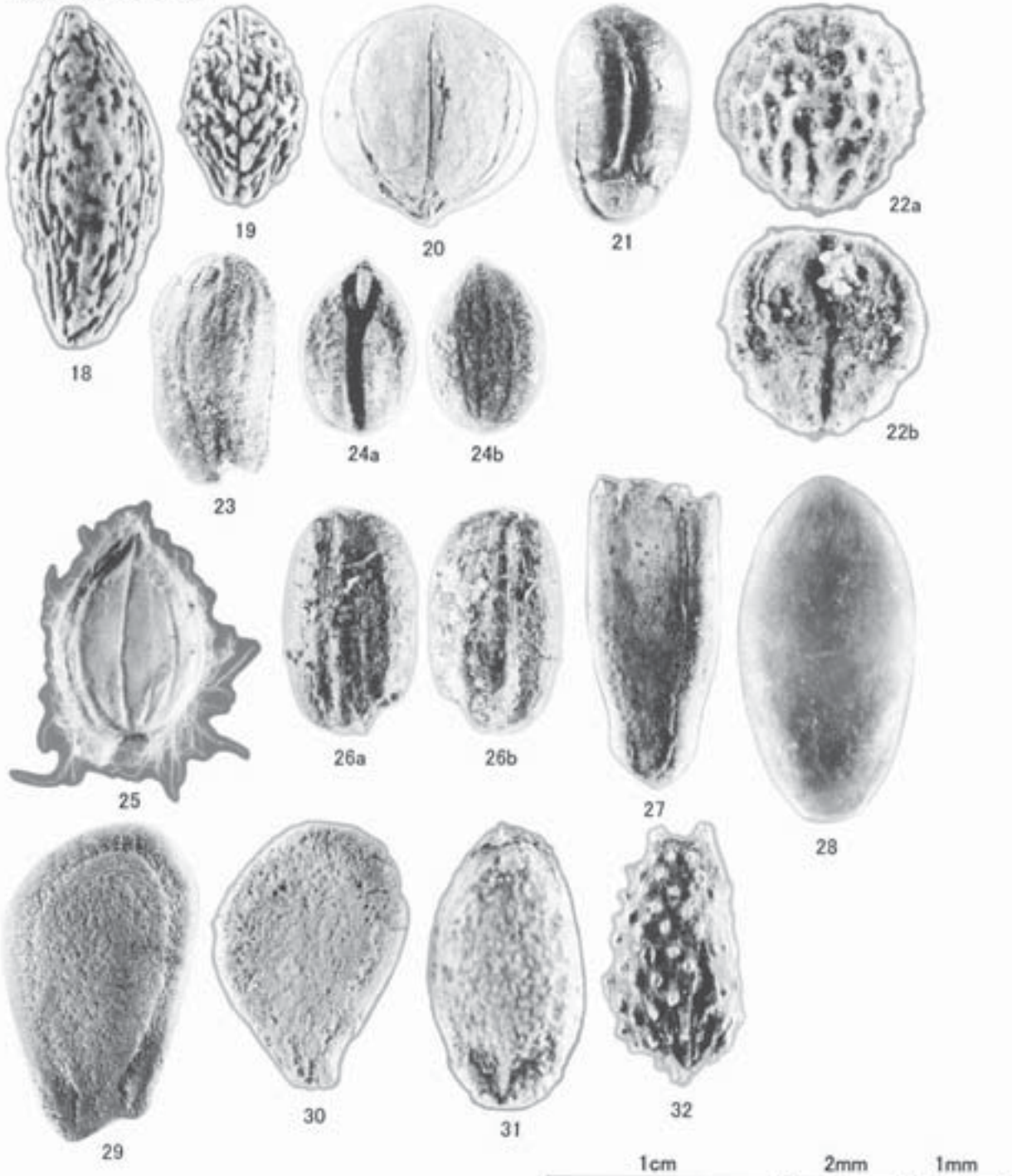
種子が検出された。黒褐色、卵体。長さ 9mm、径 5.5mm 程度。頂部から基部にかけて 3 本程度の太い縦溝が走る。基部は斜切形で、灰褐色の着点がある。種皮は厚く硬く、断面は柵状。表面には微細な粒状網目模様があり、ざらつく。1 個には食痕と思われる円

図版1　種実遺体(1)



1．カヤ 種子(No.26;古町2区 L-2)
2．イヌガヤ 種子(No.8;古町2区 L-2)
3．ヤマモモ 核(No.13;古町2区 L-2)
4．アカガシ亜属 果実(No.3;古町2区 L-2)
5．アカガシ亜属 果実･殻斗(No.2;古町2区 L-2)
6．アカガシ亜属 幼果(No.10;古町2区 L-2)
7．ツブラジイ近似種 果実･殻斗(No.4;古町2区 L-2)
8．シリブカガシ 果実(No.22;古町2区 L-2)
9．エノキ 核(No.13;古町2区 L-2)
10．クスノキ科 種子(No.10;古町2区 L-2)
11．イスノキ 果実(No.19;古町2区 L-2)
12．モモ 核(No.6;古町2区 L-2)
13．アブラギリ 種子(No.3;古町2区 L-2)
14．ハスノハカズラ 核(No.23;古町2区 L-2)
15．センダン 核(No.5;古町2区 L-2)
16．チャンチンモドキ 核(No.1;古町2区 L-2)
17．ノブドウ 種子(No.20;古町2区 L-2)

図版2　種実遺体(2)



18．ホルトノキ 核(No.24;古町2区 L-2)
19．コバンモチ 核(No.4;古町2区 L-2)
20．クマノミズキ 核(No.20;古町2区 L-2)
21．エゴノキ属 種子(No.14;古町2区 L-2)
22．チシャノキ 核(No.20;古町2区 L-2)
23．ミミズバイ 核(No.18;古町2区 L-2)
24．ガマズミ属 核(No.27;古町2区 L-2)
25．イネ科 果実(No.16;木崎3区 北の炭集中部 埋土中)
26．イネ 胚乳(No.16;木崎3区 北の炭集中部 埋土中)
27．ヒョウタン類 種子(No.17;古町2区 L-2)
28．メロン類 種子(No.27;古町2区 L-2)
29．キカラスウリ近似種 種子(No.12;古町2区 L-2)
30．キカラスウリ近似種 種子(No.15;木崎4区 M-16)
31．ウリ科 種子(No.7;古町2区 L-2)
32．オナモミ属 総苞(No.4;古町2区 L-2)

形の孔が認められる。

・チシャノキ (Ehretia ovalifolia Hassk.)　ムラサキ科チシャノキ属

核が検出された。淡灰褐色、円 - 広楕円状円形でやや偏平。径 2.5mm、厚さ 1mm 程度。背面は丸みがあり、腹面はほぼ平ら。側面観は半広楕円形。背面は縦方向の浅い凹みによる大型網目模様がある。腹面は正中線上に 1 本の溝と、基部から半ばまでの縁に沿った逆八の字状の太い隆条がある。

・ミミズバイ (Symplocos glauca (Thunb.) Koidz.)　ハイノキ科ハイノキ属

核が検出された。灰褐色、倒卵状長楕円体。長さ 1cm、径 5.5mm 程度。頂部は孔があり、3 室がみられる。内果皮は木質で表面には浅い縦隆条が配列する。

・ガマズミ属 (Viburnum)　スイカズラ科

核が検出された。灰褐色、楕円体でやや偏平、長さ 7mm、幅 5mm、厚さ 2.5mm 程度。腹面正中線上にへら形の深い縦溝があり、背面にも不規則な縦溝がある。核表面は粗面。ゴマギ (Viburnum sieboldii Miquel) に似る。

＜草本＞

・イネ (Oryza sativa L.)　イネ科イネ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色。焼き膨れるなど状態が悪い。長楕円形でやや偏平。長さ 4mm、幅 2.5mm、厚さ 1.5mm 程度。基部の一端に胚が脱落した斜切状凹部がある。表面には 2-3 本の隆条が縦列する。

また、表面には穎 (果) の破片が付着している。果皮は薄く、表面には顆粒状突起が規則的に縦列する。

・イネ科 (Gramineae)

果実が検出された。淡褐色、半挟卵体でやや偏平。長さ 2-3mm、径 0.5-1mm 程度。穎は薄く柔らかくて弾力がある。表面には微細な網目模様が縦列する。表面に毛が密生する個体がみられる。

・メロン類 (Cucumis melo L.)　ウリ科キュウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、狭倒皮針形で偏平。長さ 6.3mm、幅 3.2mm 程度と、藤下 (1984) の基準による中粒のマクワ・シロウリ型 (長さ 6.1-8.0mm) に該当する。種子の基部には倒「ハ」の字形の凹みがある。種皮表面は比較的平滑で、縦長の細胞が密に配列する。

・ヒョウタン類 (Lagenaria siceraria Standl.)　ウリ科ヒョウタン属

種子が検出された。淡灰褐色、長さ 1.3cm、幅 5.5mm、厚さ 1.5mm 程度の倒広皮針形でやや偏平。頂部は角張り、基部は切形で臍と発芽口がある。種子表面は粗面で、両面外縁部の幅広く低い稜にある 2 本の縫線がみられる。

・キカラスウリ近似種 (Trichosanthes cf. Kirilowii Maxim. var. japonica (Miq.) Kitam.)　ウリ科カラスウリ属

種子が検出された。淡灰褐色、左右非対称な倒卵状不定形でやや偏平。長さ 1-1.3cm、幅 7-8mm、厚さ 1.5mm 程度。基部は切形で、倒「ハ」の字状の臍と円形の発芽孔がある。縁を浅い帯状の溝が一周する。種皮表面は粗面。キカラスウリ、モミジカラスウリに似る。

・ウリ科 (Cucurbitaceae)

種子が検出された。淡灰褐色、倒卵 - 長楕円体でやや偏平。長さ 1-1.4cm、幅 7-8mm、厚さ 1.5mm 程度。基部に倒「ハ」の字状の臍と円形の発芽孔がある。縁を浅い帯状の溝が一周する。表面は粗面で、不定形の疣状突起が散在し、ざらつく。上述のキカラスウリと

Tab.4　重軽鉱物分析結果

地区名	地点名	層位名	カンラン石	斜方輝石	単斜輝石	角閃石	酸化角閃石	ジルコン	不透明鉱物	その他	合計	バブル型火山ガラス	中間型火山ガラス	軽石型火山ガラス	石英	長石	その他	合計
木崎3区	D1グリッド	S101埋土	1	128	57	18	1	1	31	13	250	8	0	1	6	84	151	250

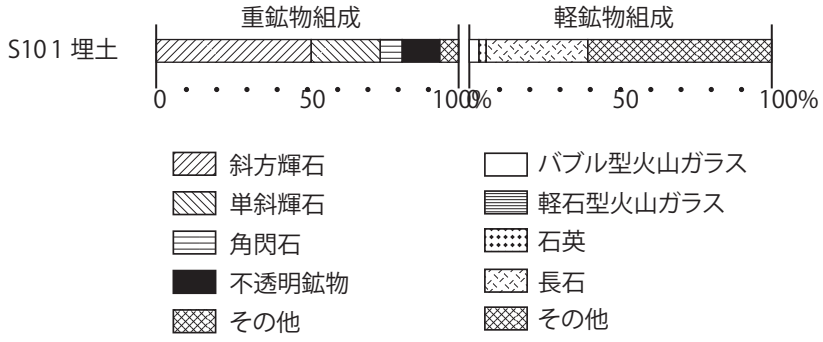


Fig.1　重軽鉱物組成

は種皮表面模様がやや異なることから区別し、ウリ科にとどめている。オオカラスウリに似る。

・オナモミ属 (Xanthium)　キク科

総苞が検出された。灰褐色、楕円体。長さ 1.1cm、径 6mm 程度。頂部はやや尖り、長さ 1mm 程度の太い嘴 2 個がある。表面には長さ 0.5-1mm 程度の刺が散在し、刺先端部の鉤状に曲がった部分を欠損する。

(3)　重軽鉱物分析

結果を Tab.4、Fig.1 に示す。重鉱物組成は、斜方輝石が最も多く、約 50% を占め、次いで単斜輝石が多く、約 20% を占める。他に 10% 程度の不透明鉱物と数 % の角閃石を含む。軽鉱物組成では、風化粒である「その他」が 60% 程を占めるが、それを除けば長石が多く、他に少量のバブル型火山ガラスと微量の石英を含む。

また、分析処理の段階で篩別された中粒砂以上の砕屑物 (通常の重軽鉱物分析では同定対象としない大きな岩石片) についても、肉眼および実体顕微鏡による観察を実施した結果、チャート、火山岩、泥岩などの岩石片が確認された。

4-1-4　考察

(1)　遺跡の年代観

放射性炭素年代測定の結果、古町 2 区 L-2 の 1 溝埋土中より検出された木材の年代は約 1,300 年前、木崎 3 区の各地点より検出された炭化材の年代は約 320-410 年前、木崎 4 区の各地点より検出された炭化材の年代は約 350-390 年前の年代値を示し、古町 2 区と木崎 3,4 区で測定年代に大きく差が認められる。また、木崎 3 区および木崎 4 区より検出された住居跡とされる S016,S086,S055 より採取された炭化材の結果を見ると、いずれも約 350 年前前後の値にまとまった。

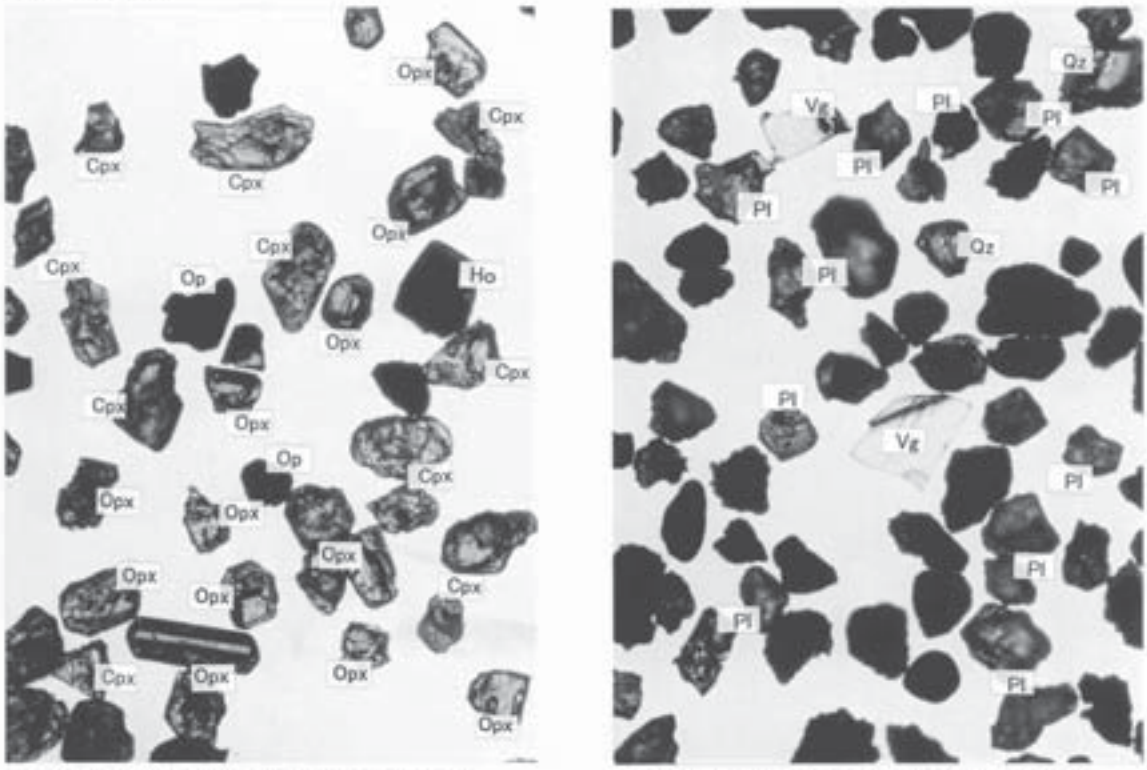
これらの年代値が、遺構の機能時や堆積層の堆積年代を示している可能性がある。ただし、各試料の出土状況や遺構覆土等の埋積状況、堆積層の層位関係、出土遺物の時代観など、発掘調査所見も含め慎重に検討することがのぞまれる。

(2)　植物資源利用と周辺植生

古町 2 区の L-2 グリッドから確認されたモモ、メロン類、ヒョウタン類と、木崎 3 区の北の炭集中部埋土中から確認されたイネは、確実に古くから栽培のために渡来した植物とされる (南木 ,1991)。モモは、観賞用の他、果実や核の中にある仁 (種子) などが食用、薬用等に広く利用される。穀類のイネは、炭化していることから火熱を受けたことが推定される。メロン類は果実が食用に、ヒョウタン類は果実が食用や容器に利用される。これらの栽培植物の可食部である種実が、遺構内から検出された状況を考慮すると、本遺跡周辺域における利用が推定される。

一方、自生していたと考えられる分類群は、針葉樹のカヤ、イヌガヤ、広葉樹のヤマモモ、アカガシ亜属を含むコナラ属、ツブラジイ近似種、シリブカガシ、エノキ、クスノキ科 (クスノキまたはクロモジ属の可能性がある)、イスノキ、ハスノハカズラ、アブラギリ、センダン、チャンチンモドキ、ノブドウ、コバンモチ、ホルトノキ、クマノミズキ、エゴノキ属、チシャノキ、ミミズバイ、ガマズミ属が古町 2 区の L-2

図版3　重軽鉱物



1. 重鉱物（木崎3区 D1グリッド S101埋土）　2. 軽鉱物（木崎3区 D1グリッド S101埋土）

Qz：石英　Pl：斜長石　Opx：斜方輝石　Cpx：単斜輝石　Ho：角閃石　Op：不透明鉱物
Vg：火山ガラス

0.5mm

グリッドから確認された。これらの樹種は、花岡木崎遺跡の位置する佐敷川の沖積低地や、佐敷川およびその水系である田川川の流域に生育していたものに由来するものと思われる。また、イネ科、キカラスウリ近似種、オナモミ属などの草本は、明るく開けた場所に生育する人里植物に属する分類群であることから、上述した樹木などが生育する森林内や林縁部、遺跡周辺の草地などに形成されていた草本群落に由来すると考えられる。

これらの自生していたと考えられる分類群のうち、カヤ、イヌガヤは、種子が食用や油料に利用可能である。ヤマモモは果実が生食可能である。アカガシ亜属を含むコナラ属やシリブカガシは、一部を除きアク抜きを要するが、食用・長期保存が可能で収量も多いため、古くから里山で保護、採取されてきた有用植物である。チャンチンモドキは、果実が食用可能であるほか、骨質の核が数珠に利用される民俗事例などがある。チャンチンモドキの核の検出例は、南木・粉川 (1990) に詳しく、長崎県伊木力遺跡 (南木・粉川 ,1990) の縄文時代、佐賀県坂の下遺跡 (森 ,1975) の縄文時代、長崎県今福遺跡の中世と層位不明 (粉川 ,1986)、鹿児島県藺牟田 (遠藤 ,1955) の更新世？が挙げられる。現生は中国南部からネパールにかけて分布し、日本では九州南端部や天草諸島などの分布が確認されているが、自生か中国より渡来したものなのか、議論の余地があるとの指摘もある (辻 ,2004)。

また、放射性炭素年代測定を実施した木材・炭化材においても、ツブラジイ、クスノキ科、イネ科が検出されている。特に木崎 3 区の S016 内 pit 中炭化物にクスノキ科の炭化材が認められたことから、周辺に生育

していた種実だけでなく木材も採取・利用していたことが推定できる。

(3)　黄褐色シルト質粘土の由来

花岡木崎遺跡の位置する佐敷川の沖積低地を構成する堆積物は、佐敷川流域の山地を構成する地質に由来する。九州地方土木地質図編纂委員会 (1985) および日本の地質「九州地方」編集委員会 (1992) などの記載によれば、佐敷川およびその水系である田川川の流域には、三宝山帯と呼ばれる中生代の泥岩、チャート、凝灰岩などからなる地質と主に第四紀前期更新世に噴出した輝石安山岩溶岩からなる肥薩火山岩類とが広く分布する。したがって、沖積低地を構成する砂層や泥層中には、これらの地質に由来する岩石片や鉱物片が含まれていると考えられる。

一方、その地理的位置から、花岡木崎遺跡の位置する佐敷川の沖積低地には、佐敷川によってもたらされた砕屑物とは別に、阿蘇カルデラまたは姶良カルデラを給源とする大規模な火砕流堆積物も堆積している可能性が高いと考えられる。町田・新井 (2003) に示されたテフラの分布図には、人吉盆地に Aso-4 火砕流堆積物および入戸火砕流堆積物が確認されている。両火砕流堆積物は、ともにバブル型火山ガラスを含むことが特徴の一つであるが、その重鉱物組成は、Aso-4 火砕流では角閃石が多く、斜方輝石を少量伴い、入戸火砕流では斜方輝石が多く、角閃石を少量伴うとされている (町田・新井 ,1976; 町田ほか ,1985)。

木崎 3 区 D1 グリッドの S101 埋土に認められた、周囲の土壌と色調の異なる黄褐色シルト質粘土の鉱物組成は、上述した地質のうち、肥薩火山岩類および入戸火砕流堆積物と整合する。また、分析処理の段階で篩別された中粒砂以上の砕屑物には、チャートなどの岩石片も認められた。これらのことから、試料の採取された遺構埋土は、本遺跡の位置する沖積低地の地質学的背景と異質な点は認められない。したがって、試料の外見も考慮すれば、この遺構埋土は、沖積低地内の微高地などに形成された、沖積低地の堆積物を母材とする土壌に由来すると考えられる。

〔引用文献〕

遠藤誠道 ,1955, 日本産化石植物図譜 . 産業図書 ,104p.

藤下典之 ,1984, 出土遺体よりみたウリ科植物の種類と変遷とその利用法 . 古文化財の自然科学的研究 , 古文化財編集委員会編 , 同朋舎 ,638-654.

石川茂雄 ,1994, 原色日本植物種子写真図鑑 . 石川茂雄図鑑刊行委員会 ,328p.

九州地方土木地質図編纂委員会 ,1985,20 万分の 1 九州地方土木地質図 . 国土開発技術研究センター .

粉川昭平 ,1986, 長崎県北有馬町今福遺跡の種子類 . 今福遺跡　Ⅲ , 長崎県文化財調査報告書第 84 集 , 長崎県教育委員会 ,313-316.

町田洋・新井房夫 ,1976, 広域に分布する火山灰－姶良 Tn 火山灰の発見とその意義－ . 科学 ,46,339-347.

町田洋・新井房夫 ,2003, 新編　火山灰アトラス . 東京大学出版会 ,336p.

町田洋・新井房夫・百瀬　貢 ,1985, 阿蘇 4 火山灰－分布の広域性と後期更新世示標層としての意義－ . 火山 ,30,49-70.

南木睦彦・粉川昭平 ,1990, 伊木力遺跡の大型植物化石群集 . 伊木力遺跡　長崎県大村湾沿岸における縄文時代低湿地遺跡の調査 , 同志社大学考古学研究室編 , 多良見町教育委員会 ,642-659.

南木睦彦 ,1991, 栽培植物 . 古墳時代の研究　4　生産と流通Ⅰ , 石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編 , 雄山閣 ,165-174.

森醇一朗 ,1975, 坂の下遺跡の研究 . 佐賀県立博物館調査研究書第 2 集 , 佐賀県立博物館 ,148p.

日本の地質「九州地方」編集委員会 ,1992, 日本の地質 9　九州地方 , 共立出版 ,371p.

辻誠一郎 ,2004, 自生か渡来か、チャンチンモドキ . 海を渡った華花－ヒョウタンからアサガオまで－ , 国立歴史民俗博物館 ,46-47.

4-2　金属製品（RM）について

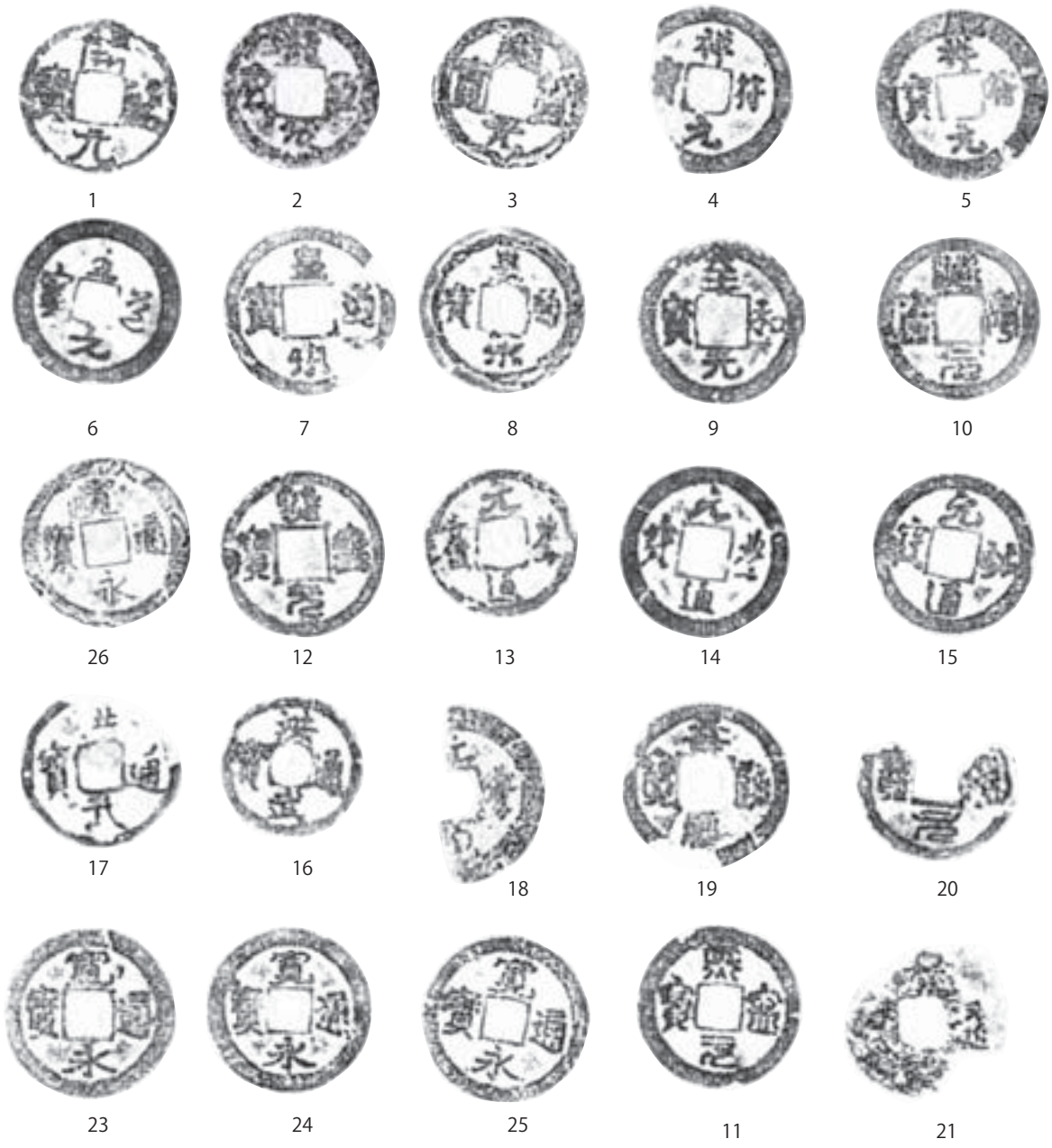


Fig.2　花岡木崎遺跡出土銭貨（RM）拓本

4-2-1　金属製品の概要

花岡木崎遺跡からは、銭貨、鉄器、青銅器が出土している。

銭貨は中世以降の銅貨であり、鉄器は鉄鏃、刀子、鉄片等、青銅器は笄他の装飾品である。

なお、芦北町教育委員会が調査した花岡木崎遺跡出土品には青銅製品に古代の鉤帯 1 点が含まれており、古代における遺跡の性格を示している。

4-2-2　銭貨（RM1 ～ 22）

銭貨は 22 点出土した（Fig.3、Tab.2）。

RM1 は開元通寶である。調査区 4 区 S809 から出土した。

RM2 は開元通寶である。調査区 4 区 P15 グリッドの攪乱層から出土した。

RM3 は開元通寶である。調査区 4 区 S1120 から出土した。

Tab.5　花岡木崎遺跡出土銭貨（RM）一覧

番号	名称	備考	調査区	遺構	層位
1	開元通寶	大字	4	S809	−
2	開元通寶	大字	4	P15グリッド	攪乱
3	開元通寶	小様	4	S1120	−
4	祥符元寶	−	4	O15グリッド	4層
5	祥符元寶	−	9	SP889	埋1層
6	至道元寶	草書	4	S382	埋1層
7	皇宋通寶	真書	2	B2グリッド	6層
8	皇宋通寶	真書	4	S1120	−
9	至和元寶	真書	4	S719	−
10	熙寧元寶	篆書	4	S440	−
11	熙寧元寶	篆書	9	SP954	埋1層
12	熙寧元寶	篆書	9	SP1076	埋1層
13	元豊通寶	行書	4	S1523	−
14	元豊通寶	行書	9	SP179	埋1層
15	元祐通寶	行書	9	SP1240	埋1層
16	洪武通寶	小様	3	D2グリッド	4層
17	洪武通寶	無背コ頭通	2	C2グリッド	5層
18	□□通寶	−	4	N15グリッド	4層
19	□□通寶	篆書	9	SP202	埋1層
20	□□元寶	篆書	2	S127	埋1層
23	寛永通寶	−	3	F2グリッド	4層
24	寛永通寶	−	4	S901	−
25	寛永通寶	−	4	S1103	−
26	寛永通寶	−	3	−	表土
21	不明	−	9	SE2	掘方
22	不明	−	5	−	6層

RM4 は祥符元寶である。調査区 4 区 O15 グリッドの 4 層から出土した。

RM5 は祥符元寶である。調査区 9 区 SP889 埋 1 層から出土した。

RM6 は至道元寶である。調査区 4 区 S382 埋 1 層から出土した。

RM7 は皇宋通寶である。調査区 2 区 B2 グリッドの 6 層から出土した。

RM8 は皇宋通寶である。調査区 4 区 S1120 から出土した。

RM9 は至和元寶である。調査区 4 区 S719 から出土した。

RM10 は熙寧元寶である。調査区 4 区 S440 から出土した。

RM11 は熙寧元寶である。調査区 9 区 SP954 埋 1 層から出土した。

RM12 は熙寧元寶である。調査区 9 区 SP1076 埋 1 層から出土した。

RM13 は元豊通寶である。調査区 4 区 S1523 から出土した。

RM14 は元豊通寶である。調査区 9 区 SP179 埋 1 層から出土した。

RM15 は元祐通寶である。調査区 9 区 SP1240 埋 1 層から出土した。

RM16 は洪武通寶である。調査区 3 区 D2 グリッドの 4 層から出土した。

RM17 は洪武通寶である。調査区 2 区 C2 グリッドの 5 層から出土した。

RM18 は銭貨名不明であるが、銭文は「□□通寶」である。調査区 4 区 N15 グリッドの 4 層から出土した。

RM19 は銭貨名不明であるが、銭文は「□□通寶」である。調査区 9 区 SP202 埋 1 層から出土した。

RM20 は銭貨名不明であるが、銭文は「□□元寶」である。調査区 2 区 S127 埋 1 層から出土した。

RM23 は寛永通寶である。調査区 3 区 F2 グリッドの 4 層から出土した。

RM24 は寛永通寶である。調査区 4 区 S901 から出土した。

RM25 は寛永通寶である。調査区 4 区 S1103 から出土した。

RM26 は寛永通寶である。調査区 3 区の表土から出土した。

RM21 は銭貨名不明である。調査区 9 区 SE2 掘方埋土から出土した。

RM22 は銭貨名不明である。調査区 5 区の 6 層から出土した。

4-2-3　鉄器（RM23 ～ 37）

鉄器は、有茎鉄鏃 14 点（RM23 ～ 36）、不明鉄器 1 点（RM37）を図示した（Tab.3、Fig.4）。

RM23 は有茎鉄鏃の変形雁股式である。調査区 1 区 D7 グリッドから出土した。長さ 4.0cm、幅 1.5cm、厚さ 1.5cm を測り、重さ 6.3g を量る。

RM24 は有茎鉄鏃の方頭広根斧箭式である。調査区 1 区 D6 グリッドから出土した。長さ 6.2cm、幅 1.3cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 7.3g を量る。

RM25 は有茎鉄鏃の方頭広根斧箭式である。調査区 1 区 D7 グリッドから出土した。長さ 5.3cm、幅 1.0cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 8.6g を量る。

RM26 は有茎鉄鏃の方頭広根斧箭式である。調査区 1 区 D7 グリッドから出土した。長さ 9.6cm、幅 3.2cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 17.7g を量る。

RM27 は有茎鉄鏃の変形広根定角式である。調査区 1 区 17 トレンチ - から出土した。長さ 7.8cm、幅 2.3cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 7.8g を量る。

RM28 は有茎鉄鏃の変形広根定角式である。調査区 1 区 C7 グリッドの 3 層から出土した。長さ 5.4cm、幅 3.6cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 12.6g を量る。

RM29 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B2 グリッドに位置する S059 から出土した。長さ 11.3cm、幅 0.8cm、厚さ 0.7cm を測り、重さ 12.4g を量る。

RM30 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B2 グリッドに位置する S059 から出土した。長さ 9.8cm、幅 0.9cm、厚さ 0.8cm を測り、重さ 11.7g を量る。

RM31 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B4 グリッドから出土した。長さ 7.2cm、幅 0.5cm、厚さ 0.5cm を測り、重さ 6.7g を量る。

RM32 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 2 区 B2 グリッドの 6 層から出土した。長さ 6.4cm、幅 0.5cm、厚さ 0.5 を測り、重さ 4.3g を量る。

RM33 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 1 区 C5 グリッドの 3 層から出土した。長さ 6.0cm、幅 0.4cm、厚さ 0.4 を測り、重さ 5.8g を量る。

RM34 は有茎鉄鏃の（茎）である。調査区 4 区 M15 グリッドの 8 層から出土した。長さ 4.9cm、幅 0.5cm、厚さ 0.5cm を測り、重さ 7.7g を量る。

RM35 は有茎鉄鏃の類柳葉三角形式である。調査区 1 区 D6 グリッドから出土した。長さ 4.3cm、幅 0.6cm、厚さ 0.2cm を測り、重さ 0.9g を量る。

RM36 は有茎鉄鏃の平造柳葉式である。調査区 1 区 C5 グリッドの 4 層から出土した。長さ 4.4cm、幅 1.2cm、厚さ 0.3cm を測り、重さ 4.8g を量る。

RM37 は不明の鉄器である。三角錐の形態を呈し先端は尖っている。調査区 1 ～ 4 区のいずれかに属する遺構番号 S041 から出土した。長さ 7.9cm、幅 0.9cm、

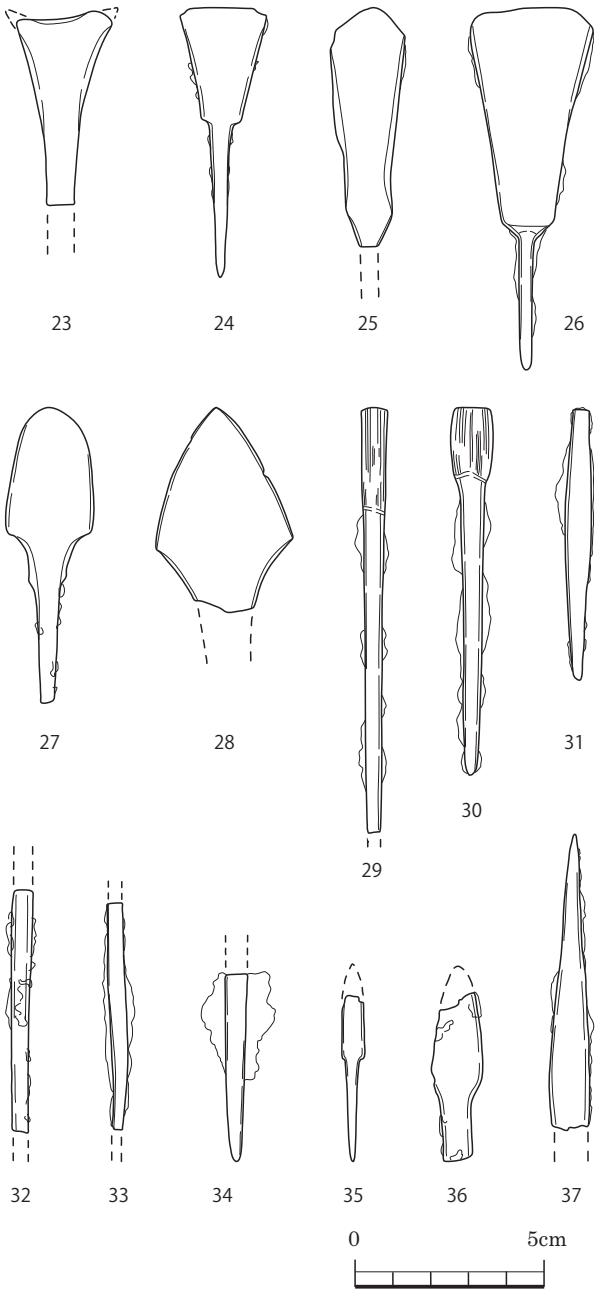


Fig.3　花岡木崎遺跡出土鉄器（RM）実測図

Tab.6　花岡木崎遺跡出土金属器（RM）一覧

番号	形式	型式	調査区	遺構	層位
23	有茎鉄鏃	変形雁股式	1	D7	−
24	有茎鉄鏃	方頭広根斧箭式	1	D6	−
25	有茎鉄鏃	方頭広根斧箭式	1	D7	−
26	有茎鉄鏃	方頭広根斧箭式	1	D7	−
27	有茎鉄鏃	変形広根定角式	1	17トレンチ	−
28	有茎鉄鏃	変形広根定角式	1	C7	3a層
29	有茎鉄鏃	（茎）	2	B2	S059
30	有茎鉄鏃	（茎）	2	B2	S059
31	有茎鉄鏃	（茎）	2	B4	−
32	有茎鉄鏃	（茎）	2	B2	6層
33	有茎鉄鏃	（茎）	1	C5	3b層
34	有茎鉄鏃	（茎）	4	M15	8層
35	有茎鉄鏃	類柳葉三角形式	1	D6	−
36	有茎鉄鏃	平造柳葉式	1	C5	4層
37	不明		−	−	S041
38	青銅笄		2	B2	S070
39	青銅飾具		4	−	4層

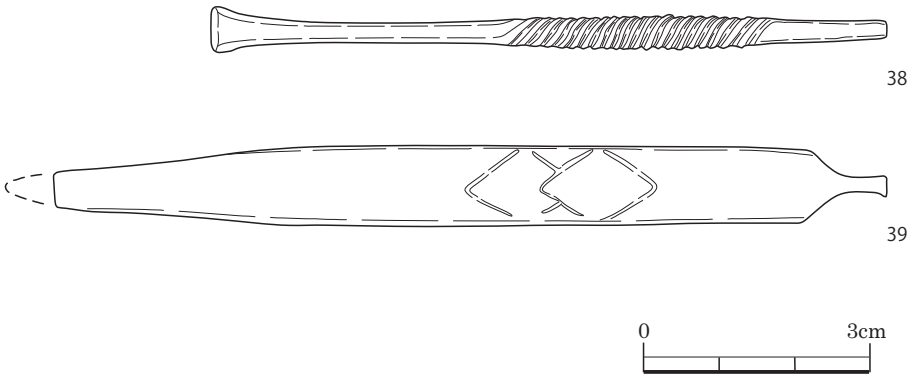


Fig.4　花岡木崎遺跡出土青銅製装飾品（RM）実測図

厚さ 0.9cm を測り、重さ 10.4g を量る。

この他、鉄器では刀子 5、鏃 3、錐 3、刀装具 2、槍鉋 1、鉄片 4 を写真図版に示した。

4-2-4　青銅器（RM38、39）

青銅器は、笄 1 点（RM38）、装飾品 1 点（RM39）が出土している。

RM38 は笄である。長さ 8.9cm、幅 0.5cm、篦状尖端部の厚さ 0.2cm を測り、重さ 6.6g を量る。軸部は断面正方形を呈し、一端は圧延され篦状に、もう一端は太さを減じながら欠失している。軸部中央は長さ 4.0㎝にわたる捩り細工が施されている。

RM39 は笄の可能性が高く、装飾品とすることができる青銅製品である。長さ 10.0cm、幅 1.1cm、厚さ 0.15㎝を測り、重さ 11.3g を量る。身の部分はレンズ状断面を呈し、表面には短冊形の表飾区画がありその中央に二連の菱が配されている。各菱は細刻線によって四菱となっているようにも観察されるが、錆化の影響により断言できない。尖端は丸みをおびた嘴状に収まり、他の一端は小軸が突きだしている。裏面には装飾はない。

4-3　木製品（RW）について

4-3-1　木製品の概要

花岡木崎遺跡では調査区 7 区の SE35（井戸）から木簡 2 点、櫛 3 点、井戸枠 1 点、棒、木端等が出土した他、多くの木製品（RW）が出土した（Tab.1）。

なお、古代の木製品は SE35 出土遺物に限られ、いずれも SE35 の廃止までに SE35 内に設置、遺棄された遺物である。

また、SE35 は、方形の掘方に、一木刳りぬきの井戸枠を設えた井戸であり、2302 グリッドに位置する。その法量は南北 1.6m、東西 2.3m、遺構確認面からの深さ 1.51m を測り、廃止に際して埋め戻された層序を示し、最下位の井戸枠内に木製品が残存していた。

なお、木簡は奈良文化財研究所により写真撮影、X 線透過撮影及び真空凍結乾燥法による保存処理を実施していただき、他の木製品は業務委託により真空凍結乾燥法による保存処理をおこなった。

Tab.7　花岡木崎遺跡出土木製品（RW）一覧

RW	名称	種別	調査区	遺構	層位	備考
1	横櫛	挽き物	7区	SE35	埋7層	
2	横櫛	挽き物	7区	SE35	埋7層	
3	横櫛	挽き物	7区	SE35	埋7層	
4	木簡	板製品	7区	SE35	埋5層	一号木簡
5	木簡	板製品	7区	SE35	埋5層	二号木簡
6	井戸枠	一木刳貫	7区	SE35	埋10層	
7	井戸枠	破片	7区	SE35	埋10層	
8	井戸枠	破片	7区	SE35	埋10層	
9	手桶	刳り物	7区	SE35	埋6層	
10	棒	棒製品	7区	SE35	埋6層	
11	棒	棒製品	7区	SE35	埋7層	
12	棒	棒製品	7区	SE35	埋7層	
13	棒	棒製品	7区	SE35	埋7層	
14	板	木片	7区	SE35	埋7層	
15	木端	木片	7区	SE35	埋6層	
16	樹皮等	木片	7区	SE35	埋7層	
17	板	木片	7区	SE35	埋7層	
18	板	木片	7区	SE35	埋7層	
19	木端	木片	7区	SE35	埋7層	
20	樹皮等	木片	7区	SE35	埋7層	
21	梅	種子	7区	SE35	埋7層	
22	樹皮等	木片	7区	SE35	埋5層	
23	柄	棒製品	2区	−	−	
24	棒	棒製品	2区	S12	−	
25	ワッパ	曲げ物	4区	O17G	10	
26	樹皮等	木片	9区	SD54	4A	
27	樹皮等	木片	9区	SE57	埋2層	
28	柱	柱製品	9区	SP1562	埋1層	
29	棒	棒製品	−	−	5	
30	割杭	柱製品	−	−	−	
31	割杭	柱製品	−	−	−	

4-3-2　SE35 の層序

SE35 の層序は、井戸穴内の堆積層である埋 1 ～ 7 層と掘方層である埋 8 ～ 10 層に大別することができる。

掘方層は、いずれも掘方を埋め、井戸枠を支持する層序である。最下層の埋 10 層は、井戸枠（RW6）を設置する際に突き固めた層であり、直径 1cm 程度の礫を裏込めしている。埋 9 層も同様の層であるが、混和された礫が直径 5cm 程度と大きくなる。埋 9、10 層は最下位の井戸枠（RW6）上端まで施工されており。その上位の井戸枠は埋 8 層が掘方を埋め、支持していた。

井戸穴内の堆積層は、井戸の廃止までに堆積していた埋 5 ～ 7 層、井戸枠の抜取り後に埋め戻された埋 1 ～ 4 層に大別される。井戸枠以外の木製品（RW）が包含されていた層は埋 5 ～ 7 層であり、これらは最下位の井戸枠内に堆積した一連の層序である。埋 7 層は小礫混じりの砂層で、5 ～ 10cm 大の木片を多く含んでいたことから、井戸の湧水点に形成される層序としてよい。埋 5 層は灰黄褐色シルト、6 層は黒褐色シルトの堆積層である。埋 5 ～ 7 層間の界面は、いずれも水平にちかい面となっている。対して、埋 1 ～ 4 層の界面は不整であり、埋 4、5 層の界面は凹面を形成している。埋 1、2 層は黒褐色シルト、埋 3、4 層は灰黄褐色シルトである。このことから、埋 5 層は上層の灰黄褐色シルトと埋 6 層とが混和して形成された層である可能性も考慮した。しかし、木端の多く包含された埋 5 層中位以下は、上層との混和は捨象してよいとの結論に至っている。

以上のとおり、SE35 はその廃止に際して最下位以外の井戸枠を抜き取り、埋め戻された井戸跡である。その層序は、井戸設置時（埋 8 ～ 10 層）、廃止まで（埋 5 ～ 7 層）及び埋戻し（埋 1 ～ 4 層）に区分される。

4-3-3　木製品と出土層位

木簡（RW4、5）

埋 5 層から木簡 2 点が出土し、それぞれ一号木簡（RW4）、二号木簡（RW5）としている。一号木簡と二号木簡は、ともに埋 5 層、埋 6 層の界面近くに位置し、片手桶（刳物）1 点等、他の木製品とともに井

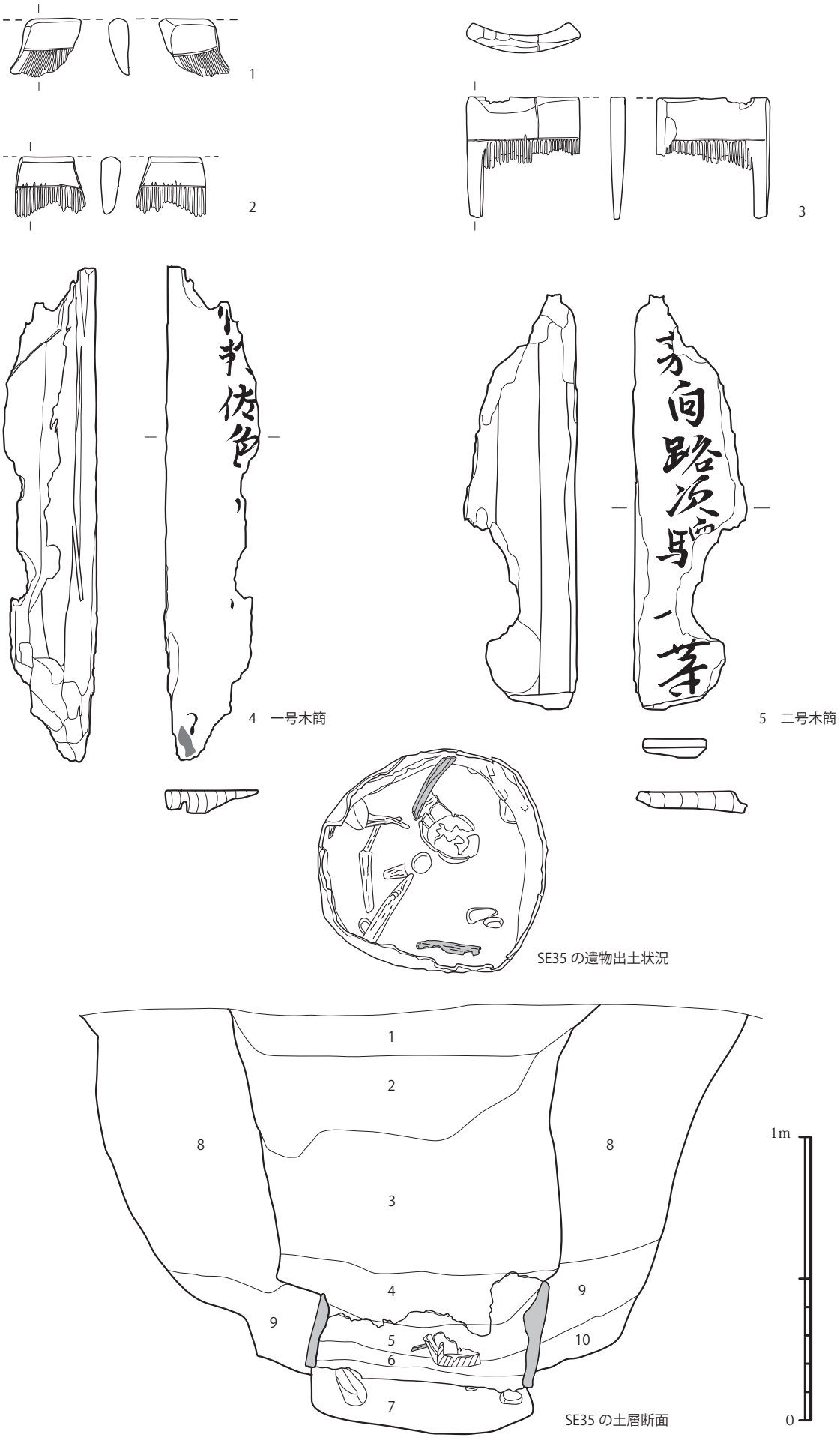


Fig.5 花岡木崎遺跡出土木製品（RW）

戸内に散在した状態で検出されている。なお、二号木簡は出土レベルでは埋６層と重なるが、井戸内側北半部では埋５層が沈降しており、二号木簡はこの部分的に沈降した埋５層に包含されていた。埋戻しによる上層の形成圧により、本来、同高にあった一号木簡と二号木簡の位置関係が乱されたものと理解している。

木簡の釈文・内容を以下に示す。

二号木簡（RW5）
（2）×発向路次駅□等×（146）×（39）×７　081
〔子カ〕

一号木簡（RW4）
（1）×□於佐敷□□□
□　（174）×（33）×８　081

一号木簡と二号木簡は、いずれも文書木簡である。

一号木簡（RW4）は左辺以外の三辺及び裏面の大部分が折損し、形態、法量とも不明である。裏面は丁寧に削られ、さらに折損後、左右両端の折損箇所に二次的な削りが縦方向に加えられている。

二号木簡（RW5）は下辺以外の三辺が折損し、形態、法量とも不明である。下辺は表裏両面から二次的な切断を受け、鋭利な切断痕が断面山形を呈している。裏面は丁寧に削られている。

なお、木簡２点は同一材が用いられ、厚みが近似し、筆の運びが相似しており、もとは同一木簡であった可能性が高い。

延喜式巻二十八は兵部省に係り、その中の諸国駅伝馬条には五畿七道の 402 ヶ所にのぼる宿駅の名称と備えるべき駅馬や伝馬の数が記載された。うち、熊本地方に該当する肥後国については、以下のとおり記されている。

〔延喜式　巻二十八　兵部省〕
肥後国駅馬
大水。江田。坂本。二重。蛟嶌。高原。蚕養。球磨。長崎。豊向。高屋。片野。朽網。佐職。水俣。仁主各五疋。
伝馬
大水。江田。高原。蚕養。球磨。豊向。片野。朽網。佐色。水俣駅各五疋。

朽網と水俣の間の駅は「佐職」または「佐色」と表記され、駅馬５匹、伝馬５匹が配されていた。「佐職」、「佐色」は（さしき）と発し、現代の佐敷（さしき）と同音である。その前後に位置する駅は、「朽網（くたみ）」は八代市二見（ふたみ）、「水俣（みなまた）」は水俣（みなまた）市を推定地とすることができる。

SE35 から出土した木簡２点は、地名の「佐色」、道路の「路」、駅家の「駅」が揃った文書木簡であり、花岡木崎遺跡が佐色（職）駅に関連した遺跡であることを示している。

木簡の釈読にあたっては、板楠和子、花岡興史、奈良文化財研究所史料研究室の方々の御教示を得た。また、芦北町、芦北町教育委員会にはその取扱いに関し特段の配慮をいただいた。記して感謝申し上げる。

横櫛（RW1 ～ 3）

SE35 埋７層からは横櫛３点（RW1 ～ 3）が出土している。いずれの横櫛も、板を成形し、鋸で櫛刃を形成した挽きものである。

RW1 は、幅 2.4cm、縦長 2.1cm、厚さ 0.7cm を測る横櫛中央部分の破片である。2cm 間に 16 本の櫛目がある。櫛の背幅は 1.0cm であり櫛歯部は欠失している。背と歯の境には、１条の直線が刻まれている。

RW2 は、幅 2.5cm、縦長 2.1cm、厚さ 0.7cm を測る横櫛端部の破片である。2cm 間に 15 本の櫛目がある。櫛の背幅は 1.1cm であり、櫛歯部は欠失している。

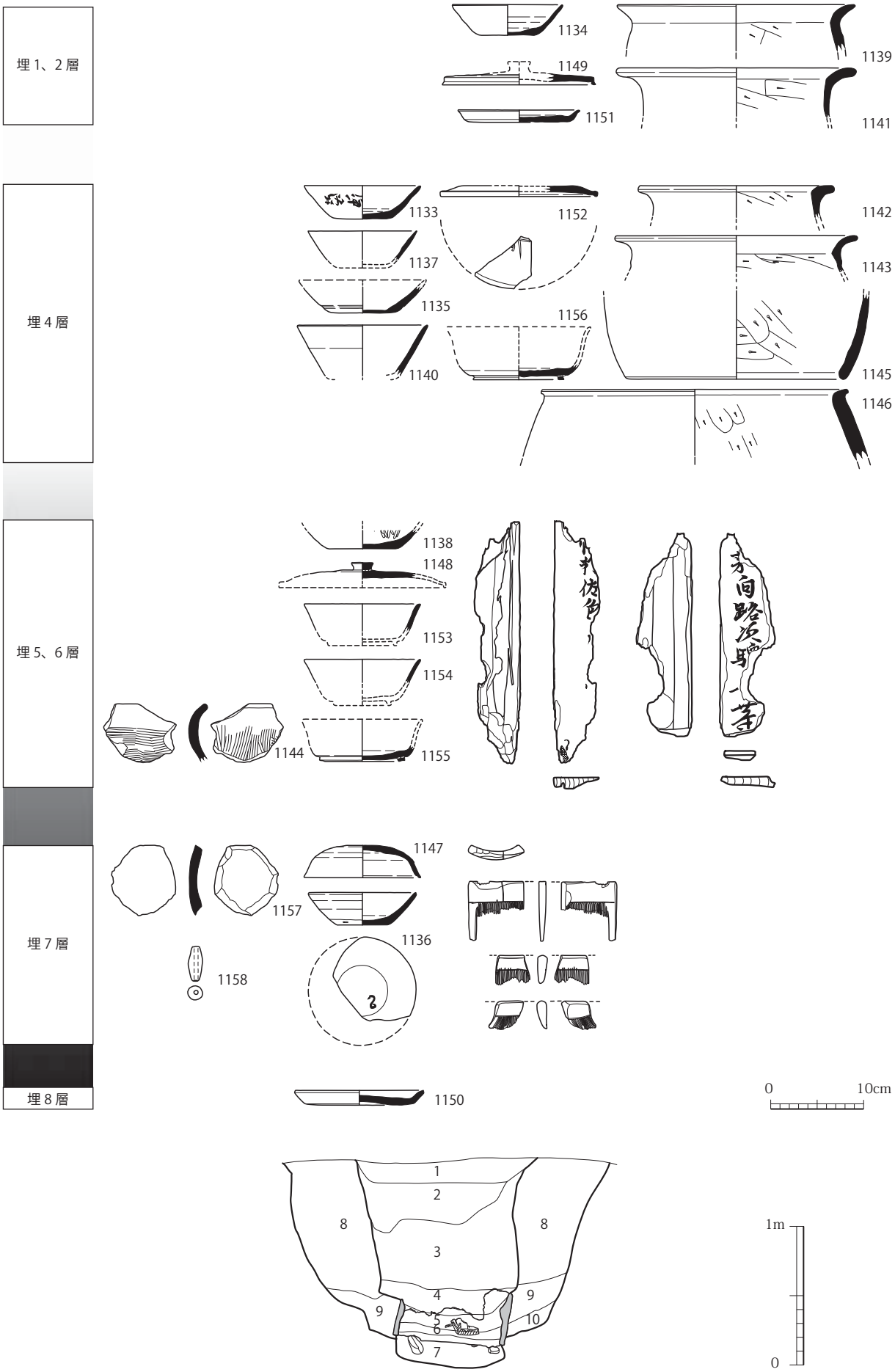


Fig.6　花岡木崎遺跡 SE35 出土遺物

法量は RW1 と近似しているが、背と歯の境の線刻は確認できない。

RW3 は、幅 4.0cm、縦長 4.3cm、厚さ 0.6cm を測る横櫛端部の破片である。2cm 間に 17 本の櫛目がある。櫛の背幅は 1.5cm であり、櫛歯は最長 3mm が残存している。背と歯の境には、1 条の直線が刻まれている。

井戸枠（RW6 ～ 8）

RW6 は一木刳り貫きの井戸枠である。井戸最下部に設置された井戸枠であり、井戸の廃止に際しても抜き取られることなく、底部は完形状態のまま出土した。RW7､8 は同じ井戸枠の上半部破片である。なお、発掘調査での取り上げ、搬出段階までは関係の状態を保てたが、整理段階で残存率が低い箇所が破損し、裂断した状態となった。

RW6 の法量は直径 1.6m を測り、丸太を刳り貫いた枠の最大高 60cm 程度までが残存し、その底面には鉈で斫った痕跡が明瞭に残っている。

なお、RW6 は写真図版を参照されたい。

SE35 出土の遺物

SE35 からは上記の主要な木製品（RW1 ～ 8）の他、土師器、須恵器、土錘、円盤形に打ち欠いた土器片といった土製品（RP）が出土している。これらの木製品、土製品の出土層位関係は Fig.2 のとおりである。

井戸穴内の堆積層は、井戸の廃止までに堆積していた埋 5 ～ 7 層、井戸枠の抜取り後に埋め戻された埋 1 ～ 4 層に大別され、木製品は井戸の廃止までの層位に包含されるという特徴があった。

土製品にも同様な特徴を見いだすことができる。

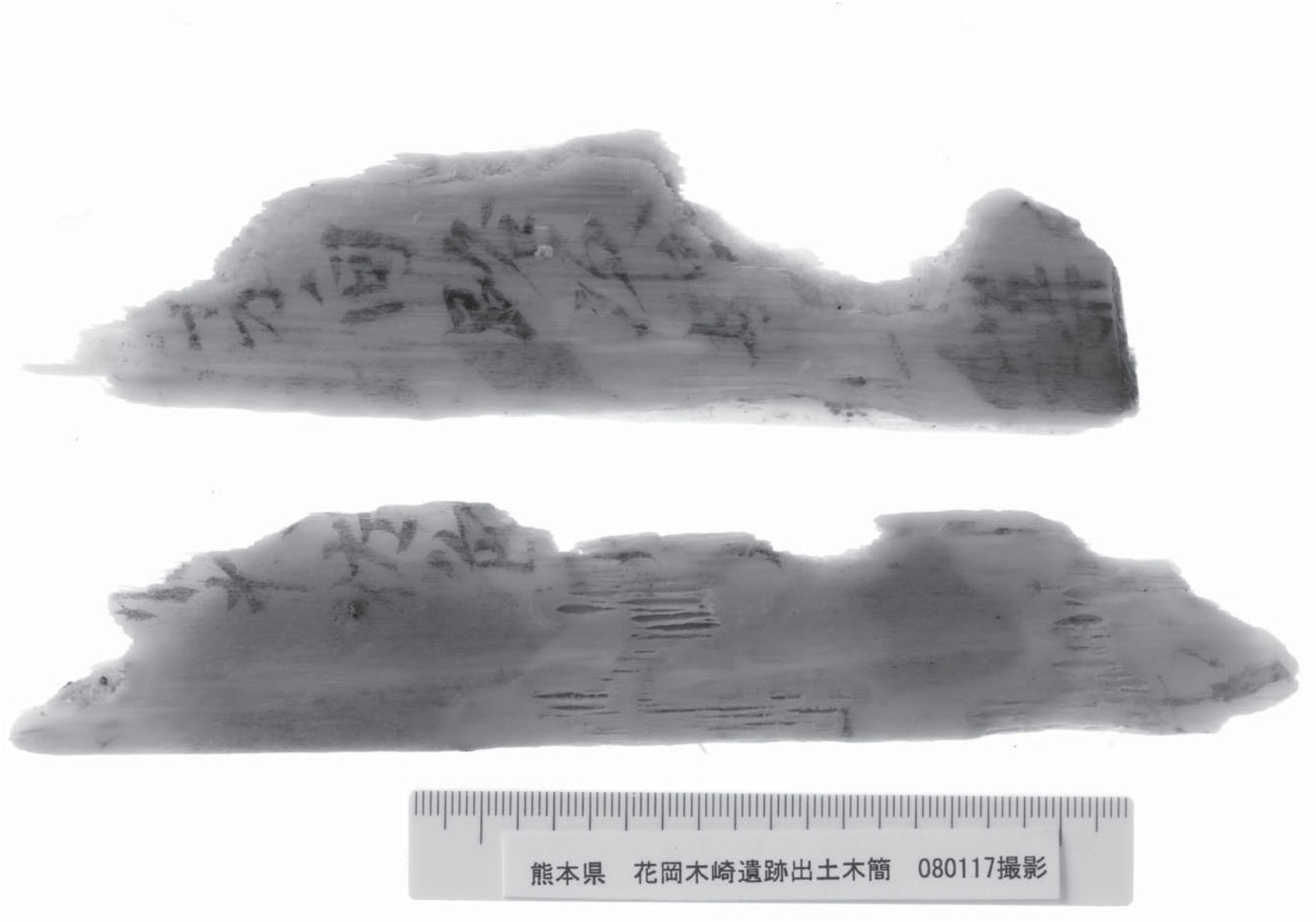
井戸枠の抜取り後に埋め戻された埋 1 ～ 4 層に包含された土製品は、すべて土師器、須恵器であり、その形式内容は、皿、坏、坏蓋という供献形態、甕、甑、竈という煮沸形態の土器群により構成されている。これら土器群は時期を違えた個体の集合であるが、いずれも常用の土器様式を構成するものである。

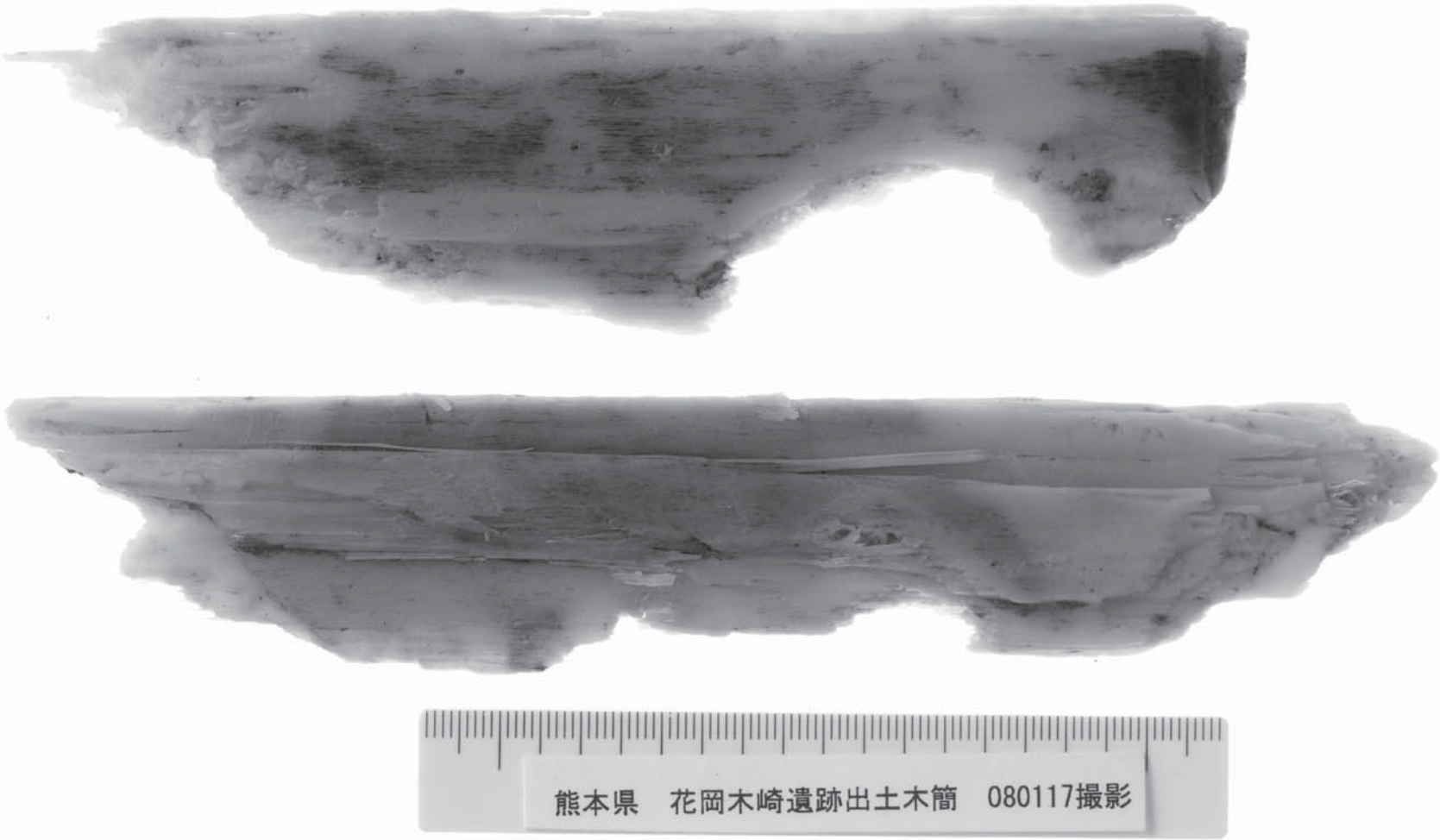
一方、井戸の廃止までに堆積していた埋 5 ～ 7 層には皿､坏､坏蓋といった供献形態の土師器､須恵器と、土錘 1 点、円盤形に打ち欠いた土器片 2 点（土師器、須恵器）が包含されていた。土錘は単体で出土しており、円盤形に打ち欠いた土器片は他の破片と接合しない。このことから、選抜または加工の経緯をもち、何らかの意図をもって井戸内に入れられた遺物である、としてよい。また、坏（RP1136）底部には「逆 S 字」形の墨書が認められるが、一号木簡にも「逆 S 字」上半部に近似した墨書が左下端部に確認できる。以上のように、埋 5 ～ 7 層には供献形態の土器に生業に係る土錘、二次加工された土器片といった常用の土器様式外の土製品が加わり､皿には記号が墨書されていた。

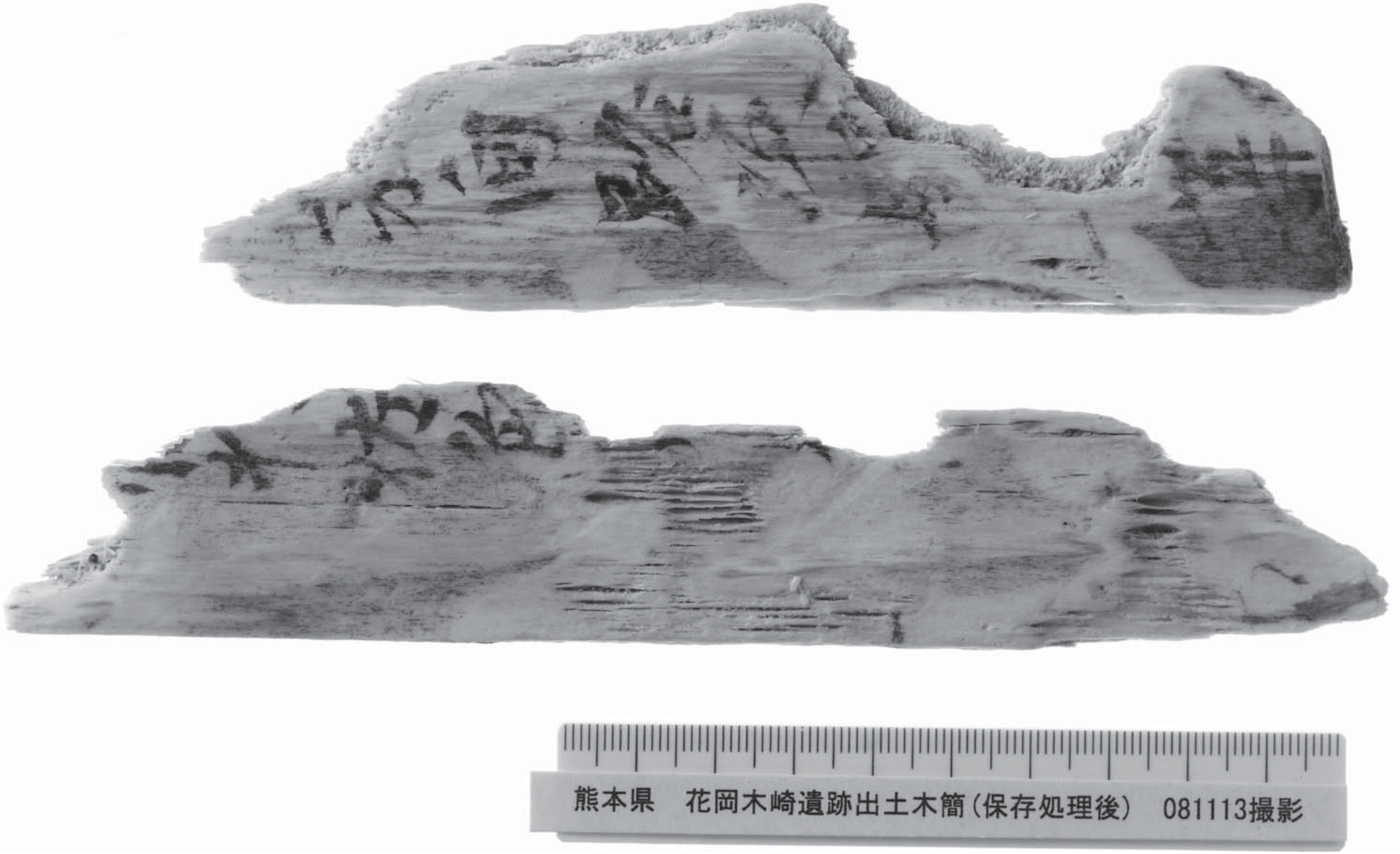
この埋 7 層には、選抜または加工の経緯をもつ遺物群がさらに存在する。それは横櫛（RW1 ～ 3）であり、いずれも欠損し、井戸内に最下層に包含されていた遺物である。

なお、土錘は管玉、二次加工土器片は鏡と近似した形態をとり、櫛と併せると化粧具のセットとなる。また、その点数も 1、2、3 点と調子が整っているが、現状では、これらは牽強付会に近い解釈であろう。おって､木簡と坏には近似した記号が墨書されていたが、同様事情により墨書がなされたかは判断することができない。

ついては、SE35 井戸内最下層には、生業に係る土製品、円形の二次加工土器片、欠損した櫛が、選抜または加工を経て有意に井戸内に入れられた遺物として包含されていた、と報告する。


熊本県　花岡木崎遺跡出土木簡　080117撮影


熊本県　花岡木崎遺跡出土木簡　080117撮影


熊本県　花岡木崎遺跡出土木簡（保存処理後）　081113撮影

熊本県　花岡木崎遺跡出土木簡（保存処理後）　081113撮影

4-4　花岡木崎遺跡の調査成果

4-4-1　遺構の整理

花岡木崎遺跡では、南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業の進捗状況に応じて、適時調査区を設定してきた。このことにより一つの遺構が複数の調査区に所属し、異なる時期に調査される例が生じている。ここでは、まず、そのような遺構を整理しておきたい。なお､本来は調査時に調整すべき事柄である。

一つの遺構が複数の調査区に所属し、異なる時期に調査された例は、以下の 4 例である。いずれも、調査区 5 区と調査区 7 区とにまたがって位置した遺構である。

(1)　調査区 5 区 SB84、85 と調査区 7 区 SB1

調査区 5 区 SB85 の北側壁と調査区 7 区 SB1 の北側壁が一直線に接合し、調査区 5 区 SB85 の東側壁の延長上に調査区 7 区 SB1 の南東隅が位置する。この竪穴住居（SB）の内に調査区 5 区 SB84 は位置し、調査区 5 区 SB85 と調査区 7 区 SB1 に欠いている炉を備え、出土土器も同様式である。これらのことから、調査区 5 区 SB84、85 と調査区 7 区 SB1 は単一の竪穴住居（SB）である、と結論する。

(2)　調査区 5 区 SK5 と調査区 7 区 SB4

調査区 5 区 SK5 の北長側辺と調査区 7 区 SB4 の北側壁が一直線に接合し、住居の側壁を形成している。なお、この竪穴住居（SB）は、調査区 5 区 SB6 を切っている。出土土器群には、土師器と須恵器が組成する。これらのことから、調査区 5 区 SK5 と調査区 7 区 SB4 は単一の竪穴住居（SB）である、と結論する。

(3)　調査区 5 区 SB83 と調査区 7 区 SB7

調査区 5 区 SB83 の北側壁と調査区 7 区 SB7 の北側壁とが一致する。なお、平面プランは方形を呈さないことから、調査区 7 区 SB7 の検出を誤っていた可能性が高い。これらのことから、調査区 5 区 SB83 と調査区 7 区 SB7 は単一の竪穴住居（SB）である、と結論する。

(4)　調査区 5 区 SB15 と調査区 7 区 SB38

調査区 5 区 SB15 の南側壁と調査区 7 区 SB38 の南側壁が一直線に接合し、調査区 5 区 SB15 の北西隅と調査区 7 区 SB38 の北東隅を結ぶと両 SB の南側壁に平行し、全体として方形のプランを描く。これらのことから、調査区 5 区 SB15 と調査区 7 区 SB38 は単一の竪穴住居（SB）である、と結論する。

4-4-2　花岡木崎遺跡の遺物群

花岡木崎遺跡の各遺構から出土したそれぞれの土器群は、次の 3 群に大別することができる。なお、既往の編年観により幾許かの細分も可能な資料であるが、時代区分に対応した段階にとどめた。これは資料数が僅少な土器群が存在するためである。

(1)　須恵器が組成しない土器群

A　縄紋土器（中、後、晩期）

B　弥生土器（中、後期）

C1　土師器（古墳時代中期）

(2)　須恵器が組成する土器群

C2　古墳時代（後期）

(3)　須恵器（皿）が組成する土器群

D1　古代

D2　中世

4-4-3　花岡木崎遺跡の変遷

上記のとおり大別した土器群 A ～ D は、その配列のまま時期として捉えてよい。以下では、土器群の変遷にしたがい、花岡木崎遺跡の変遷を記述する。

A 縄紋土器、B 弥生土器は、ともに資料数が僅少な土器群である。ただし、縄紋時代中期（阿高式）の土器片が花岡木崎遺跡の最古資料であること、弥生時代中期後半の土器片が包含され、いずれもが熊本北半の地域の土器様式であることには注意が必要である。両土器様式は当該様式の分布域が拡大する時期にあたり、佐敷平地が様式拡大の動きに含まれた理由を探ることは、佐敷平地の特徴を明らかにすることとなるであろう。

C1 古墳時代中期には、花岡木崎南東部に複数の住

居群が形成される。その特徴は、紡錘車を包含し、台石等、石器を備えることである。なかでも調査区7区SB1の出土資料に注目したい。SB1では、製塩土器（RP895）といった海浜部の生産道具に加え、石錘（RQ52）、切目石錘（RQ53）という漁撈具、紡錘車（RP917）、舟形槽（RQ60）といった紡績具が出土している。この紡績具は、漁網等、網の生産に用いる繊維材料の生産具と理解することができ、総体としてSB1の拠って立った生業を漁撈に限定することができる内容である。この調査区7区SB1を典型として、古墳時代の竪穴住居からは紡錘車の出土が複数認められる。

D1古代は、木簡2点が出土した調査区7区SE35（井戸）の時期である。SE35埋8層から出土した皿（RP1150）の存在により、SE35は8世紀以降に築造された井戸となる。さらに短い高台を有する坏（RP1155）が埋5層に包含されていたことから、SE35は8世紀後半に廃棄された、と考える。この時期の建物群は、その主軸方向から3群に大別することができる。

(1)　調査区5区SB34（3×2間）、SB50（2×2間）、SB52（3×2間）、SB55（2×2間）、SB62（3×2間）、SB148（3×2間）、調査区7区SB660（5×3間）が構成する、北北東に主軸をとる建物群。

(2)　調査区5区SB53（4×2間）、SB63（3×2間）、SB258（3×2間）が構成する、北に主軸をとる建物群。

(3)　その他の建物群。

調査区7区SE35は北北東に主軸をとる建物群と配置の整合性が高く、調査区4区においても調査区4区SB54（3×2間）、SB34（3×2間）、SB993（3×1間）が同方向に主軸をとる建物として検出されている。これらの建物、井戸に加え、主軸を同じくする竪穴建物、土壙も複数存在し、なかには掘立柱建物と複合する可能性のある遺構群も認められる。

したがって、調査区7区SE35を含んだ北北東に主軸をとる各遺構を単一の遺構群と捉えることとする。各遺構は桁行3×梁行2間程度の小規模であり、最大規模でも調査区7区SB660の桁行5×梁行3間にとどまっている。このように小規模な建物の集合ではあるが、木簡2点を含む文字資料の多さ、一定程度の建物数と範囲を固有の特徴としてそなえている。併せて、佐敷平地内に古代の佐色（職）駅が位置していたことは、木簡の出土とその内容により定まったと考えてよく、狭隘な佐敷平地内に当該遺構群以上の規模をそなえた遺構群を想定することは困難である。

ついては、D1古代の花岡木崎遺跡を、該期の佐色（職）駅に比定する、と結論する。

5 写真図版

5-1　遺構写真
5-2　遺物写真

5-1　遺構写真

1 区　SB1　完掘状況

1 区　SB1 ～ 3, 9, 10　完掘状況

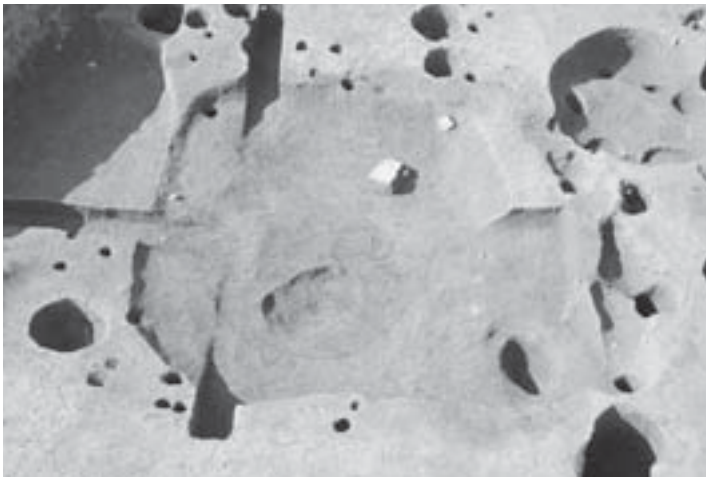
1 区　SB60　完掘状況

1 区　SK110　遺物出土状況

2 区　SB16, SB47　完掘状況（NE → SW）

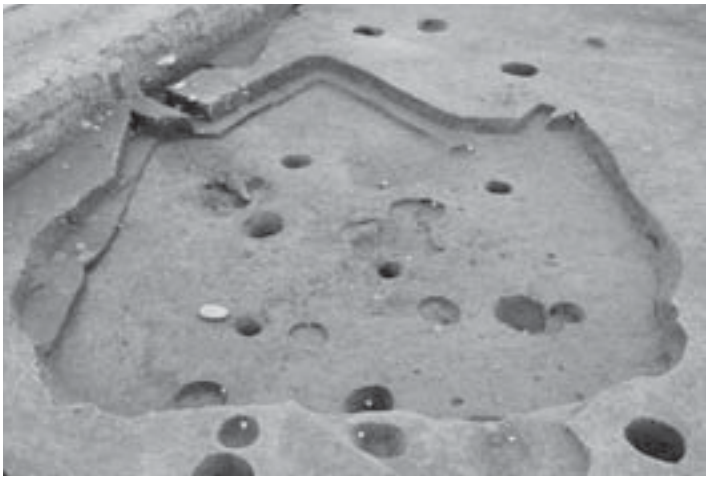
4 区　RP408　出土状況

5 区　SB4　床面検出状況

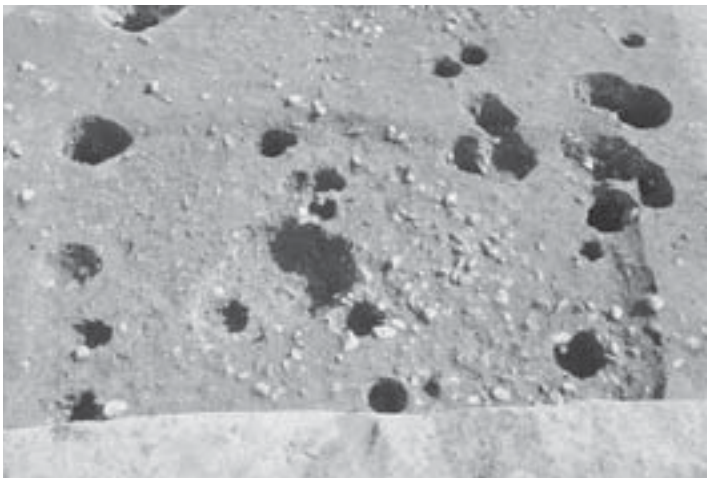


5 区　SB6　炉検出状況（S → N）

5 区　SB7　完掘状況（W → E）



5 区　SB16　床面検出状況（N → S）



5 区　SB83　完掘状況（W → E）

5 区　SB88　完掘状況（W → E）

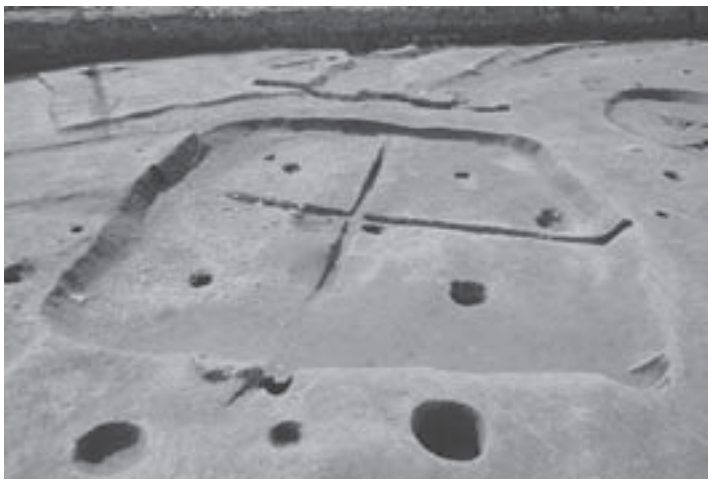
6区　SB1　完掘状況

6区　SB1　遺物出土状況

6区　SB2　完掘状況

6区　SB4　完掘状況（S → N）

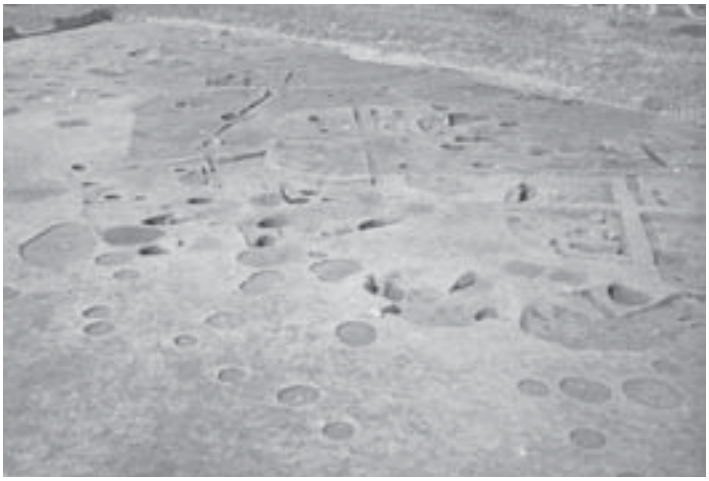
7区　SB1　完掘状況（N → S）



7区　SB3　完掘状況（N → S）

7区　SB4,SK5　完掘状況（W → E）

7区　SB9　完掘状況（W → E）



7 区　SB15 ～ 18,21,27　完掘状況（S → N）

7 区　SB19　焼土出土状況（N → S）

7 区　SB29 ～ 31　完掘状況（S → N）

7 区　SB49　完掘状況（N → S）

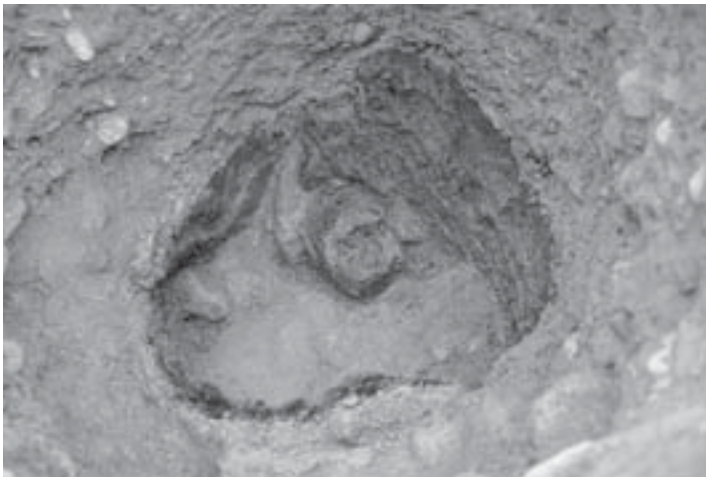
7区　SB93　遺物出土状況（S → N）

7区　SB93　完掘状況（E → W）

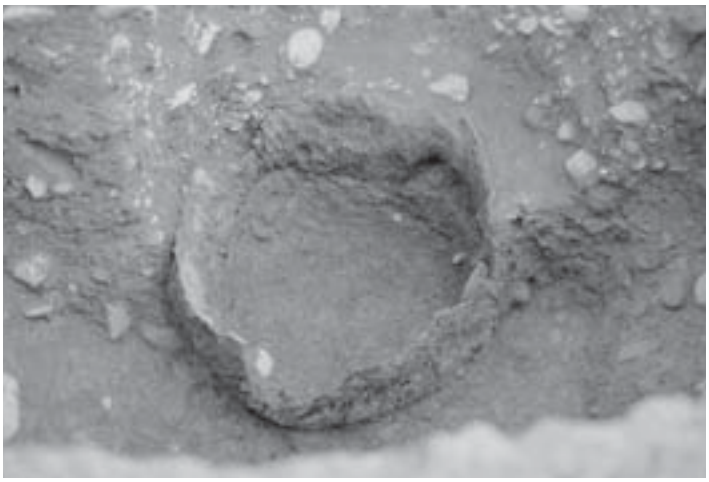
7区　SB75　遺物出土状況（W → E）

7区　SE35　西側古代住居群

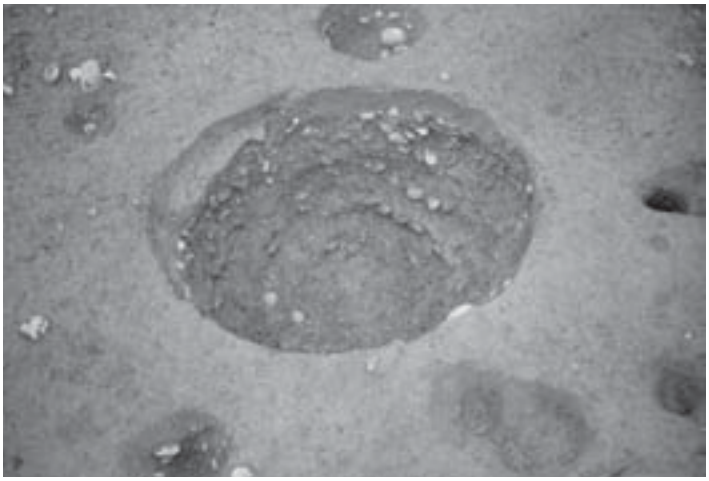
7 区　流路完掘状況（E → W）



7 区　SE35　井戸枠検出状況



7 区　SE35　出土状況

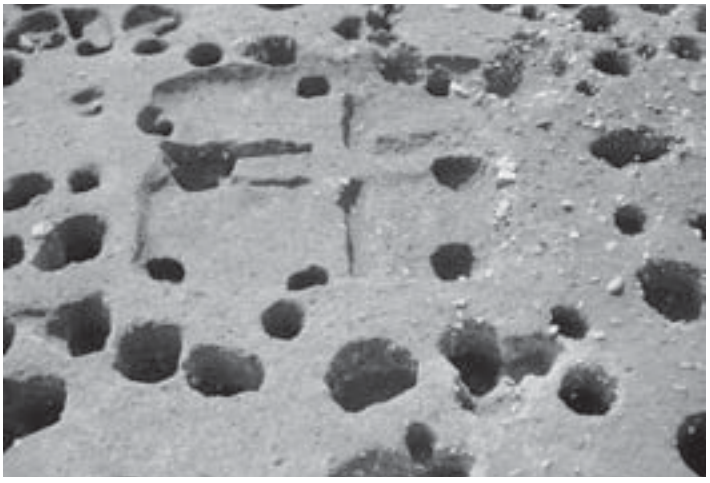


7 区　SE35　完掘状況

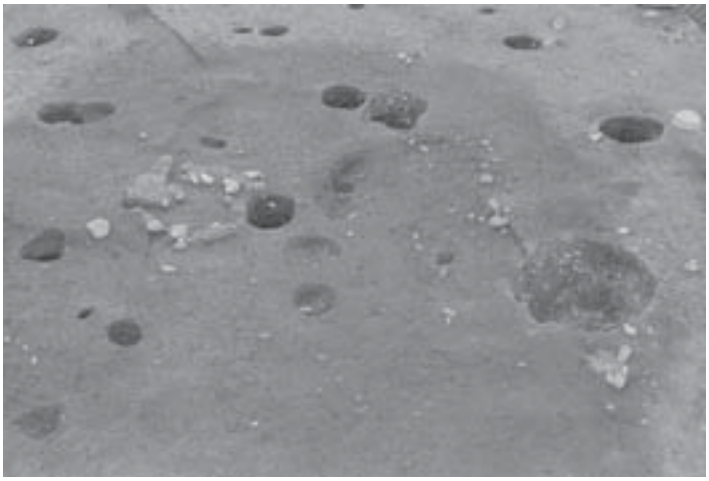
7区　SE35　井戸枠 1

7区　SE35　井戸枠 2

9区　SB53　完掘状況（N → S）



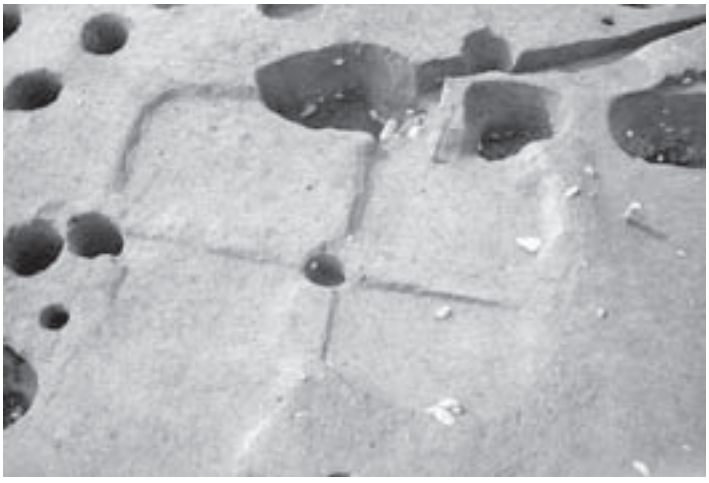
9区　SB56　完掘状況



9区　SB1183　完掘状況（S → N）

9区　SB1591　完掘状況（NE → SW）

9区　SB1745　完掘状況（N → S）

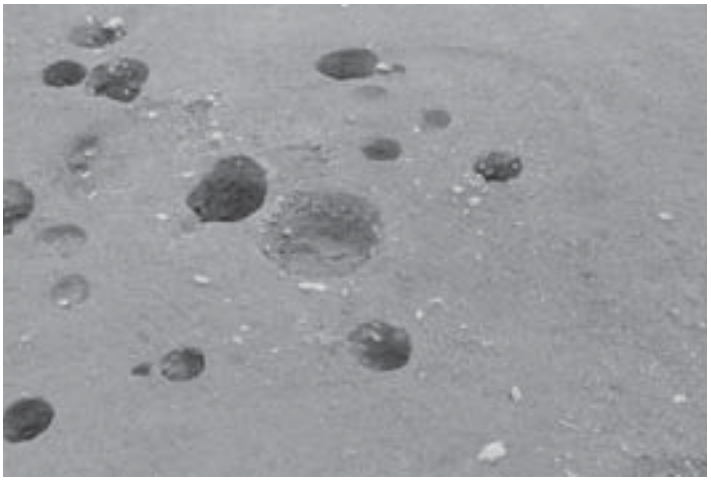


9区　SB1873　完掘状況（E → W）

9 区　SB1761　完掘状況（N → S）

9 区　SB1761　石組検出

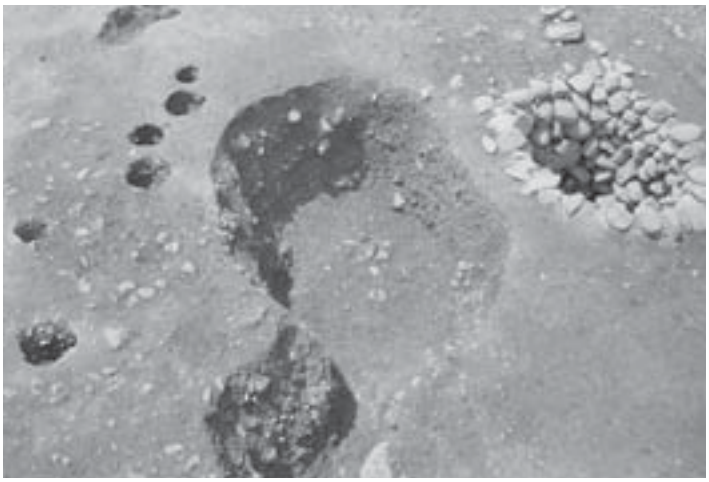
9 区　SB2030　完掘状況（W → E）



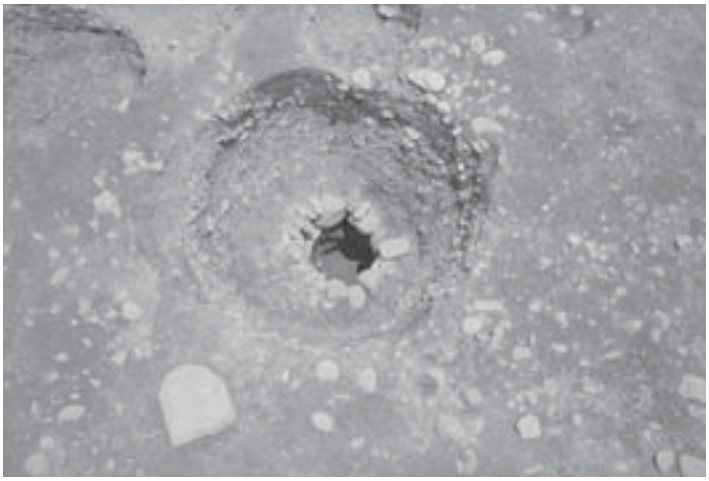
9 区　SB1900　完掘状況（W → E）

9 区　SB2060　完掘状況（S → N）

9 区 SB660　完掘状況（N → S）



9 区　SE2　完掘状況



9 区　SE58　完掘状況

1 区　SB1　出土土器

1 区　SB3　出土土器

1 区　SK55　出土土器

1 区　SK110　出土土器

1区　グリッド出土土器（土師器）

1区　グリッド出土土器（須恵器）

1区　グリッド出土土器（須恵器）

1区　グリッド出土土器（須恵器）

2 区　グリッド出土土器

4 区　SX4　出土土器 1

4 区　SX4　出土土器 2

4 区　グリッド出土土器（土師器）

4 区　グリッド出土遺物（須恵器）

4 区　RP408（表・内）

5 区　SB4　出土土器（土師器）

5 区　SB4　出土土器（須恵器）

5 区　SB4　出土石器 1

5 区　SB4　出土石器 2

5 区　SB6 出土土器

5 区　SB7 出土土器

5区 SB8 出土土器

5区 SB9 出土土器

5区 SB13 出土土器

5区 SB16 出土土器

5 区　SB84　出土土器

5 区　SB85　出土土器

5 区　SB87　出土土器

5 区　SK1　出土土器

5 区　SK63　出土土器

5 区　その他遺構出土土器

5 区　グリッド出土土器（須恵器）

6 区　SB2　出土土器

6区　グリッド出土土器

7区　SB1　出土土器

7区　SB1　出土石器

7区　SB1　出土石皿

7区 SB3 出土土器（土師器）

7区 SB3 出土土器（須恵器）

7区 SB3 出土石器

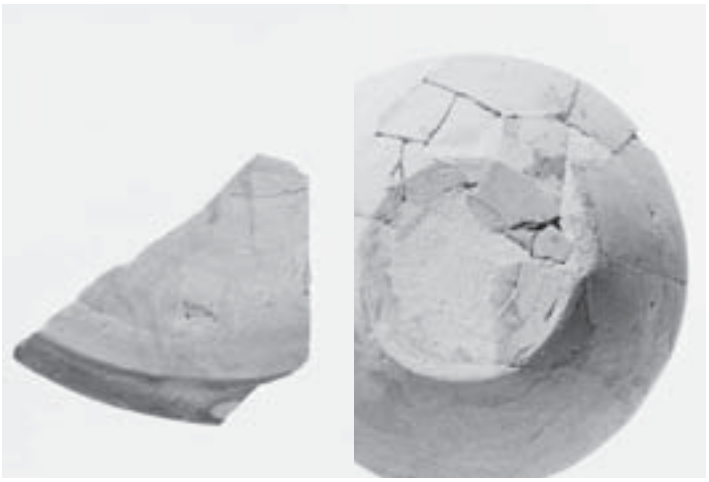
7区 SB15 出土土器

7区　SB21　出土土器

7区　SB49　出土土器

7区　SB93　出土土器

7区　SK5　出土土器



7区 SE35 出土土器（墨書）

7区 SK33 出土土器

7区 SK40 出土土器

7区 SP 出土土器

9 区　SB85 出土土器

9 区 SB1183,1900　出土土器

9 区　SB1591　出土土器

9 区　SB2030　出土土器

9区　SK1754　出土土器

9区　SP　出土土器 1

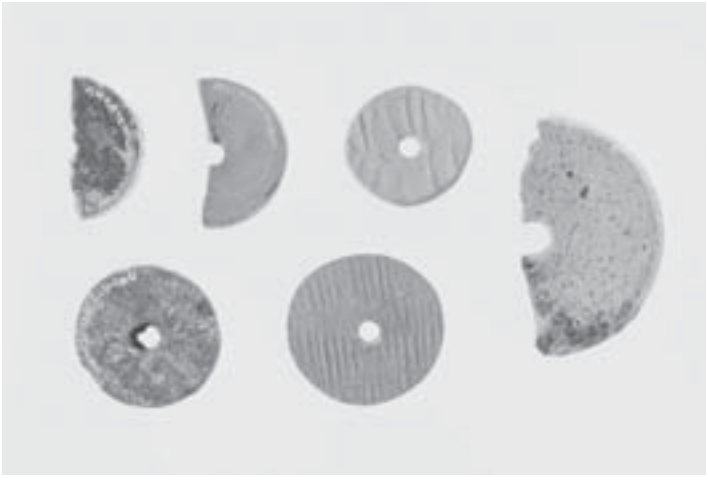
9区　SP　出土土器 2

石器（鏃・砥石）

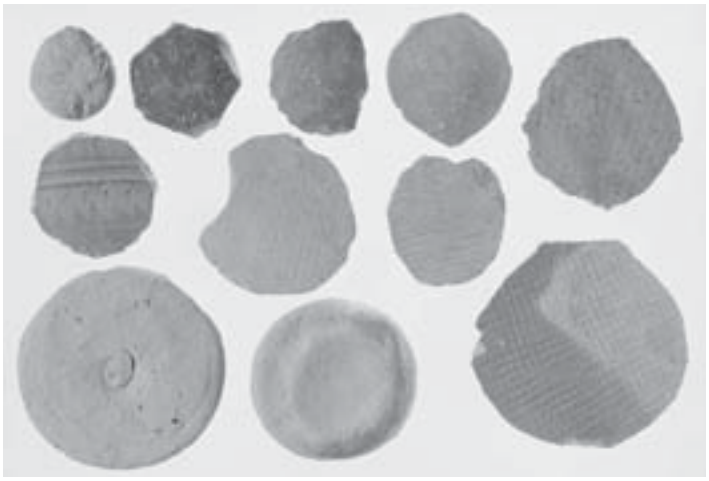
石器（砥石）

石器（凹石）

磨製石斧（表・裏）



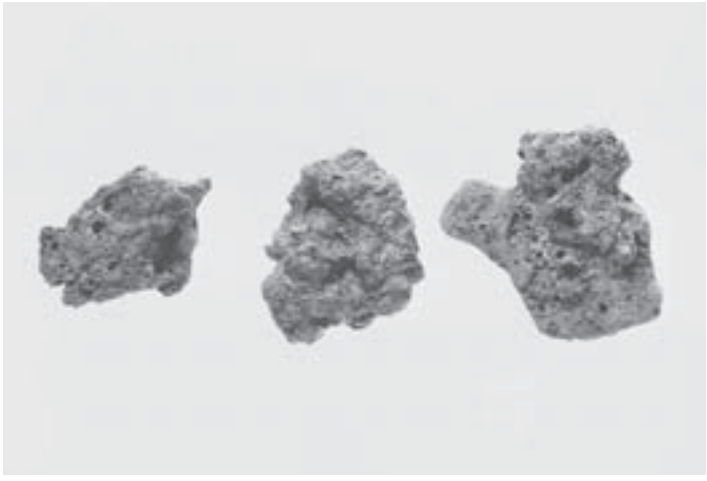
石製品と土製品（紡錘車）



円盤形土製品

土製品（鞴羽口）

石製品（硯）



鉄塊

鉄製品

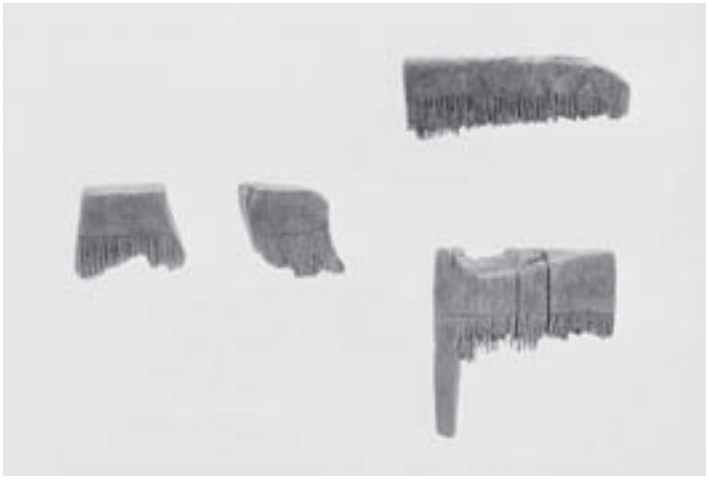
鉄製品

煙管

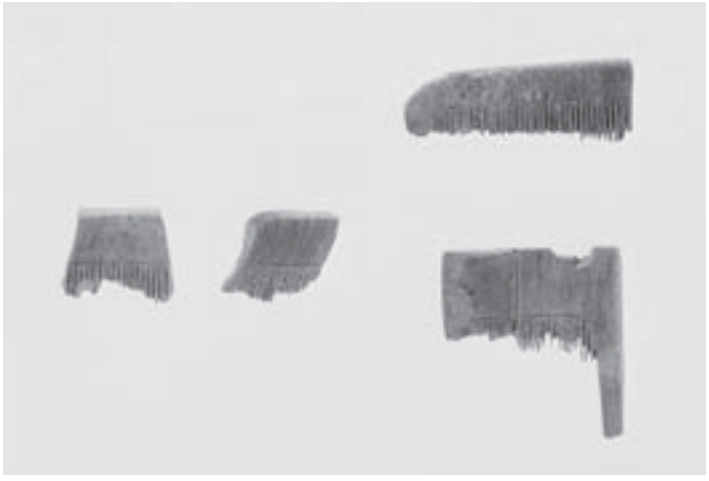
柱製品（角柱）

板製品（表）

板製品（裏）



挽き物（横櫛・表）



挽き物（横櫛・裏）

曲げ物（ワッパ）1

曲げ物（ワッパ）2

曲げ物（底板）

刳り物（手桶）

報告書抄録

ふりがな	はなおかきさきいせき
書名	花岡木崎遺跡
副書名	南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	熊本県文化財調査報告
シリーズ番号	第305集
編集者名	宮崎敬士
編集機関	熊本県教育委員会
所在地	〒 862－8609 熊本県熊本市中央区水前寺6丁目18番1号 TEL 096－383－1111（内線6716）
発行年月日	西暦 2014年 3月 31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積	調査原因
はなおかきさきいせき 花岡木崎遺跡	くまもとけんあしきたぐん あしきたまちおおあざはなおか 熊本県葦北郡 芦北町大字花岡	43482	037	32度 17分 41秒	130度 30分 46秒	20041108 ～ 20070208	17,450㎡	道路建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
花岡木崎遺跡	集落跡	中世以降	水田等	土師器、須恵器、瓦器、陶磁器、青磁等	
	駅家跡	古代	掘立柱建物 溝	土師器、須恵器 木簡、井戸枠、横櫛、	古代の集落 集落の中心部部に相当する地区を調査 木簡、墨書土器、篦書土器が出土 駅家佐色駅の可能性が高い
	集落跡	古墳時代 弥生時代	竪穴住居	須恵器、土師器、須恵器模倣土師器 弥生土器	移動式カマド 製塩土器、打欠石錘、切目石錘、紡錘車、舟形槽の共伴 最南端の白川型口縁壺を確認

要約	花岡木崎遺跡は、熊本県葦北郡芦北町大字花岡に所在する遺跡である。 花岡木崎遺跡は、佐敷川の下流域に沖積された幅500m程の狭隘な平野の中央部に在り、佐敷川に形成された自然堤防の上、標高4m程の微高地に位置する。当該地は、不知火海から東に遡上すること1Kmあまり、汽水域の上限にあたる。遺跡の近傍では、佐敷川は西流し、その左岸に花岡木崎遺跡、右岸に花岡古町遺跡が位置する。佐敷川は近世に流路変更がなされており、花岡木崎遺跡、花岡古町遺跡は、中世では一連の遺跡とみなすことも可能であり、この関係は古代にまで遡ることもできる可能性がある。 花岡木崎遺跡の調査区7区SE35（古代の井戸）から古代駅伝制に係る「佐色」、「駅」、「路」の文字が墨書された木簡が出土した。 古代の遺物は、「田舎」、「麻呂」等の篦書土器、鉄関連遺物等が出土しているが、該期の瓦は一片もない。また、SE35と同時期と考えられる建物群は、小規模な造りに過ぎない。しかし、木簡の出土とその内容から佐敷平地に古代駅伝制に係る佐色（職）駅が所在したことは確実であり、狭隘な佐敷平地内に当該建物群以上の規模をそなえた遺構群をもとめることは困難である。 したがって、花岡木崎遺跡を古代駅伝制に係る佐色（職）駅に比定した。

熊本県文化財調査報告　第３０５集

花岡木崎遺跡

南九州西回り自動車道（日奈久芦北道路）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査

発行年月日　平成 26 年 3 月 31 日

編集・発行　熊本県教育委員会

〒862-8609　熊本県熊本市中央区水前寺 6-18-1

印刷・製本　株式会社エヌユーエス九州

〒861-8035　熊本県熊本市東区御領 2-19-13

発 行 者：熊本県教育委員会
所　　属：教育総務局文化課
発行年度：平成２５年度

この電子書籍は、熊本県文化財調査報告第 305 集を底本として作成しました。閲覧を目的としていますので、精確な図版などが必要な場合には底本から引用してください。

底本は、熊本県内の市町村教育委員会と図書館、都道府県の教育委員会と図書館、考古学を教える大学、国立国会図書館などにあります。所蔵状況や利用方法は、直接、各施設にお問い合わせください。

書名： 花岡木崎遺跡
発行：熊本県教育委員会
〒862-8609　熊本市中央区水前寺 6 丁目 18 番 1 号
電話： 096-383-1111
URL：http://www.pref.kumamoto.jp/
電子書籍制作日：2015 年 12 月 8 日

なお、熊本県文化財保護協会が底本を頒布している場合があります。詳しくは熊本県文化財保護協会にお問い合わせください。

熊本県文化財保護協会
URL：http://www.kumamoto-bunho.jp/